九州横断自動車道関係
埋蔵文化財発掘調査報告書 (16)

切畑遺跡

1993年3月

佐賀県教育委員会

佐賀県文化財調査報告書　第116集
九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(16)

切畑遺跡

切畑遺跡
猿嶽A遺跡
猿嶽C・D遺跡
鈴熊遺跡
大久保三本松遺跡

1993年3月

佐賀県教育委員会

序

この報告書は，佐賀県教育委員会が日本道路公団の委託により，昭和54年～57年度に実施した神埼郡神埼町所在の切畑遺跡・猿嶽A遺跡・猿嶽C・D遺跡，佐賀市所在の鈴熊遺跡，昭和59・60年度に実施した佐賀郡大和町所在の大久保三本松遺跡の発掘調査の記録であります。

佐賀平野を臨む，脊振山南麓部一帯では，原始・古代以来の遺跡が大変多く発見されておりますが，今回対象となりました神埼町・佐賀市および大和町は，その分布密度が最も高い地域のひとつとして知られています。本書に報告しました遺跡におきましても，縄文・弥生・古墳時代および中世の集落や墓地に関する遺構が数多く確認されています。特に，切畑遺跡は，大きな集落跡として発掘の当初から注目されていました。また，鈴熊遺跡や猿嶽遺跡は，佐賀平野の典型的な古墳群を知るうえで貴重な調査であったと考えます。

今後，これらの発掘調査の結果が，関連する調査・研究等に大いに活用され，さらに地域の学術・文化の向上に少しでも役立つことを願う次第であります。

最後に，本書の発行にあたり，多難な発掘調査や整理作業に従事されました地元の方々をはじめ，多大なご尽力をいただきました日本道路公団並びに関係各位に対し，衷心から厚くお礼申し上げます。

平成５年３月31日

佐賀県教育委員会
教育長　堤　　清　行

例　　言

1．本書は，九州横断自動車道建設に伴い，昭和54～57・59・60年度に実施した神埼郡神埼町所在の切畑遺跡・猿嶽A遺跡・猿嶽C・D遺跡，佐賀市所在の鈴熊遺跡，佐賀郡大和町所在の大久保三本松遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は，日本道路公団の委託事業として佐賀県教育委員会が実施した。

3．本書の執筆者は，次のとおりである。

第１章　調査の概要…家田淳一

第２章　地理的・歴史的環境…家田淳一・川副麻理子

第３章　遺跡各説

切畑遺跡……田平徳栄

猿嶽Ａ遺跡……渋谷　格

猿嶽Ｃ・Ｄ遺跡……遺構　武谷和彦・遺物　川副麻理子

鈴熊遺跡……家田淳一

大久保三本松遺跡…田平徳栄・副島正道

4．報告書の作成および整理の分担は，次のとおりである。

遺物復元……村瀬邦子・土井マサ子・室岡勝代・江口友恵
野田美恵子・嬉野みつ代・瀬山由規子・新井久美・田村芳子・田中美穂子
山口カズヨ・陣内香代子・森崎和子

遺物実測……野口百合子・岩井祥子・藤田由紀・末吉由紀子・吉田雅子
鹿子知美・浜野里美・百田さつき・堤　章子・友田美和子・樋渡瑞枝
島　孝子・野口悦子・尾形郁子・藤原倫子・末次なぎさ・馬場理知
江副伸子・中山直子・野田典子・久保恭枝・宮島五月・村里育子
江副朋子・兵動美紀・森田孝志

製　　図……末吉由紀子・吉田雅子・兵動律子・村里育子・江副朋子・光石逸子
鶴田啓子

遺物写真撮影…松尾直子・古賀栄子・黒木優子・田平徳栄・高瀬哲郎・渋谷　格

写真現像焼付…古賀栄子・黒木優子

作成にあたって，各遺跡発掘調査担当者，県文化財調査研究資料室の協力を得た。

5．発掘調査にあたっては，神埼町・佐賀市・大和町の各教育委員会，および地元の方々のご協力・ご便宜を得た。

6．本書の編集は，家田淳一が行ない，百崎正子が協力した。

凡　　例

1．遺跡台帳（佐賀県教育委員会作成）に登録した各遺跡の略号は，次のとおりである。

切畑遺跡…KHA・KHB

猿嶽A遺跡…SDA

猿嶽C・D遺跡…SDC・SDD

鈴熊遺跡…SZK

大久保三本松遺跡…OKB

2．検出した各遺構の分類記号は，次のとおりに標記する。

SB：竪穴住居跡・掘立柱建物跡

SC：石棺墓

SD：溝跡

SE：井戸

SJ：甕棺墓

SK：土壙

ST：古墳

SX：その他の遺構

3．遺構の寸法はm単位，遺物の寸法はcm単位を原則とする。

4．遺構図に用いた方位は，切畑遺跡・猿嶽C・D遺跡・大久保三本松遺跡は真北，猿嶽A遺跡・鈴熊遺跡は磁北である。

5．本書に記載した各遺物は，遺物台帳（佐賀県教育委員会作成）に登録している。表にはその各登録番号を付記する。

目　　次

第１章　調査の概要

Ⅰ　調査の経過……2

Ⅱ　調査組織……10

第２章　地理的・歴史的環境

Ⅰ　地理的環境……14

Ⅱ　歴史的環境

１．切畑・猿嶽遺跡……16

２．鈴熊遺跡……20

第３章　遺跡各説

切畑遺跡

Ⅰ　遺跡の概要

１．遺跡の立地と歴史的環境……26

２．遺跡の変遷と特色……27

Ⅱ　遺構

１．弥生時代の遺構……36

(1)　竪穴住居跡……37　(2)　土壙……55

(3)　溝……66

２．古墳時代の遺構……67

(1)　古墳……68　(2)　竪穴住居跡……76

(3)　土壙……87　(4)　溝……89

３．奈良・平安時代以降の遺構……91

(1)　掘立柱建物跡……92　(2)　溝……94

Ⅲ　遺物

１．旧石器・縄文時代の遺物……95

(1)　石器……95　(2)　縄文土器……96

２．弥生時代の遺物……96

(1)　弥生土器……98　(2)　投弾……136

(3)　玉類……138　(4)　紡錘車……138

(5)　石器……139　(6)　鉄器……149

３．古墳時代の遺物……150

(1)　土師器・須恵器……150　(2)　角杯……189

(3)　紡錘車……189　(4)　砥石……190

(5)　鉄器……190

４．平安時代以降の遺物……192

(1) 平安時代の土師器・陶器 ……192
(2) 中世の土師器・瓦質土器 ……193

猿嶽A遺跡

Ⅰ 遺跡の概要 ……198
Ⅱ 遺構
1．弥生時代 ……202
(1) 土壙 ……202
2．古墳時代
(2) 古墳 ……203
Ⅲ 遺物
1．縄文時代 ……226
(1) 早・前期の土器 ……226　(2) 後・晩期の土器 ……227
(3) 土製品 ……232　(4) 石器 ……232
2．弥生時代 ……236
(1) SK009土壙出土遺物 ……236
(2) その他の遺物 ……237
3．古墳時代 ……239
(1) ST001古墳出土遺物 ……239　(2) ST002古墳出土遺物 ……239
(3) ST003古墳出土遺物 ……239　(4) ST006古墳出土遺物 ……241
(5) ST007古墳出土遺物 ……247
Ⅳ まとめ
1．縄文時代 ……249
2．弥生時代 ……249
3．古墳時代 ……249

猿嶽C・D遺跡

Ⅰ 遺跡の概要 ……254
Ⅱ 遺構
1．古墳時代
(1) 古墳 ……259　(2) 溝 ……299
(3) 不明遺構 ……299
2．中世・時期不明
(1) 溝 ……300　(2) 掘立柱建物 ……300
(3) 土壙 ……300　(4) 不明遺構 ……300
Ⅲ 遺物
1．縄文時代・弥生時代 ……301
2．古墳時代
(1) 古墳出土遺物 ……302　(2) 溝出土遺物 ……325
Ⅳ 小結 ……329

鈴熊遺跡

Ⅰ　遺跡の概要 ……352

Ⅱ　遺構

1．縄文時代の遺構 ……356

(1)　甕棺墓 ……356

2．古墳時代の遺構 ……356

(1)　古墳 ……356　(2)　箱式石棺墓 ……378

(3)　土壙 ……382　(4)　溝状遺構 ……384

3．時期不明の遺構 ……385

(1)　敷石遺構 ……385

Ⅲ　遺物

1．縄文時代の遺物 ……386

(1)　SJ013甕棺 ……386　(2)　3号集石出土土器 ……387

(3)　その他の土器 ……387　(4)　土製円盤 ……392

(5)　石器 ……394

2．古墳時代の遺物 ……398

(1)　ST001古墳出土遺物 ……398　(2)　ST002古墳出土遺物 ……405

(3)　ST003古墳出土遺物 ……406　(4)　ST004古墳出土遺物 ……409

(5)　ST006古墳出土遺物 ……409　(6)　SC008箱式石棺墓出土遺物 ……409

(7)　SC009石棺墓出土遺物 ……410　(8)　ST011古墳出土遺物 ……410

(9)　SK010土壙出土遺物 ……411　(10)　SK014土壙出土遺物 ……412

(11)　SK016土壙出土遺物 ……413　(12)　遺構に伴わない遺物 ……415

大久保三本松遺跡

Ⅰ　遺跡の立地と歴史的環境 ……422

Ⅱ　遺跡の概要 ……425

Ⅲ　遺構

1．奈良・平安時代の遺構 ……430

(1)　竪穴住居跡 ……430　(2)　掘立柱建物跡 ……444

(3)　土壙 ……455　(4)　井戸跡 ……455

(5)　溝跡 ……458

Ⅳ　遺物

1．縄文時代の遺物 ……460

(1)　縄文土器 ……460　(2)　石器 ……462

2．奈良・平安時代の遺物 ……466

(1)　須恵器・土師器 ……466　(2)　瓦 ……485

(3)　土錘 ……485　(4)　ふいご羽口 ……485

(5)　砥石 ……488　(6)　鉄器 ……489

挿図目次

調査の概要	Fig. 1	九州横断自動車道路線図（1/50,000）	3
	Fig. 2	切畑A・B遺跡発掘調査区位置図（1/4,000）	4
	Fig. 3	猿嶽A・C・D遺跡発掘調査区位置図（1/4,000）	5～6
	Fig. 4	鈴熊遺跡発掘調査区位置図（1/4,000）	7～8
	Fig. 5	大久保三本松遺跡発掘調査区位置図（1/4,000）	9
地理的・歴史的環境	Fig. 6	遺跡位置図	14
	Fig. 7	佐賀平野地形図（1/300,000）	15
	Fig. 8	切畑・猿嶽遺跡周辺遺跡分布図（1/100,000）	17
	Fig. 9	鈴熊遺跡周辺遺跡分布図（1/50,000）	21
切畑遺跡	Fig. 1	切畑遺跡周辺地形図（1/2,000）	26
	Fig. 2	切畑遺跡遺構分布図（1/400）	29～30
	Fig. 3	弥生時代遺構分布図（1/120）	36
	Fig. 4	SB015竪穴住居跡（1/60）	37
	Fig. 5	SB013・SB020竪穴住居跡（1/60）	38
	Fig. 6	SB022竪穴住居跡（1/60）	39
	Fig. 7	SB023・SB054・SB055竪穴住居跡（1/60）	40
	Fig. 8	SB024・SB030竪穴住居跡（1/60）	41
	Fig. 9	SB031・SB044竪穴住居跡（1/60）	42
	Fig.10	SB052竪穴住居跡（1/60）	43
	Fig.11	SB058竪穴住居跡（1/60）	44
	Fig.12	SB056・SB066竪穴住居跡（1/60）	45
	Fig.13	SB084・SB085竪穴住居跡（1/60）	46
	Fig.14	SB051竪穴住居跡（1/60）	47～48
	Fig.15	SB079竪穴住居跡（1/60）	49
	Fig.16	SB093・SB098竪穴住居跡（1/60）	50
	Fig.17	SB113竪穴住居跡（1/60）	51
	Fig.18	SB149・SB157竪穴住居跡（1/60）	52
	Fig.19	SB138・SB143竪穴住居跡（1/60）	53
	Fig.20	SB105・SB123竪穴住居跡（1/60）	54
	Fig.21	SK029・SK073・SK092土壙（1/50）	55
	Fig.22	SK081・SK083土壙（1/50）	56
	Fig.23	SK094土壙（1/50）	57
	Fig.24	SK009土壙（1/50）	57
	Fig.25	SK064・SK070・SK107・SK115土壙（1/50）	58
	Fig.26	SK131・SK148土壙（1/50）	59
	Fig.27	SK025・SK080・SK095土壙（1/50）	60

切畑遺跡
Fig.28 SK097・SK009・SK109土壙（1/50）……61
Fig.29 SK117・SK118・SK121・SK139土壙（1/50）……62
Fig.30 SK142・SK144・SK151・SK163土壙（1/50）……63
Fig.31 SK016・SK061・SK112土壙（1/50）……64
Fig.32 SK145・SK146・SK159土壙（1/50）……65
Fig.33 SD014溝（1/40）……66
Fig.34 古墳時代遺構分布図（1/120）……67
Fig.35 ST001古墳（1/100）……68
Fig.36 ST001古墳石室（1/50）……69
Fig.37 ST002古墳（1/100）……70
Fig.38 ST002古墳石室（1/50）……71
Fig.39 ST003古墳（1/100）……72
Fig.40 ST003古墳石室（1/50）……73
Fig.41 ST004古墳（1/100）……74
Fig.42 ST004古墳石室（1/50）……75
Fig.43 SB018竪穴住居跡（1/60）……77
Fig.44 SB019・SB021竪穴住居跡（1/60）……78
Fig.45 SB032・SB043竪穴住居跡（1/60）……79
Fig.46 SB055・SB063竪穴住居跡（1/60）……80
Fig.47 SB075・SB078竪穴住居跡（1/60）……81
Fig.48 SB103竪穴住居跡（1/60）……82
Fig.49 SB090・SB101竪穴住居跡（1/60）……83
Fig.50 SB106竪穴住居跡（1/60）……84
Fig.51 SB108・SB116竪穴住居跡（1/60）……85
Fig.52 SB119・SB124竪穴住居跡（1/60）……86
Fig.53 SB141竪穴住居跡（1/60）……87
Fig.54 SK008・SK026・SK057・SK077土壙（1/50）……88
Fig.55 SK153土壙（1/50）……89
Fig.56 SD126溝跡（1/50）……89
Fig.57 古墳時代の溝（1/40）……90
Fig.58 奈良・平安時代および中世遺構分布図（1/120）……91
Fig.59 SB113掘立柱建物跡（1/60）……92
Fig.60 SB171掘立柱建物跡（1/60）……93
Fig.61 奈良・平安時代および中世の溝（1/40）……94
Fig.62 旧石器（1/1）……95
Fig.63 縄文土器（1/3）……97
Fig.64 SB015出土弥生土器（1/4）……102
Fig.65 SB024・SB052出土弥生土器（1/4）……103
Fig.66 SB031出土弥生土器（1/4）……104

Fig.67　SB051出土弥生土器（1/4）……105
Fig.68　SB056出土弥生土器（1/4）……106
Fig.69　SB017・SB023出土弥生土器（1/4）……107
Fig.70　SB079出土弥生土器〈1〉（1/4）……108
Fig.71　SB079出土弥生土器〈2〉（1/4）……109
Fig.72　SB085出土弥生土器（1/4）……110
Fig.73　SB113出土弥生土器〈1〉（1/4）……111
Fig.74　SB113出土弥生土器〈2〉（1/4）……112
Fig.75　SB123出土弥生土器（1/4）……113
Fig.76　SK009出土弥生土器（1/4）……114
Fig.77　SK029出土弥生土器〈1〉（1/4）……115
Fig.78　SK029出土弥生土器〈2〉（1/4）……116
Fig.79　SK081出土弥生土器（1/4）……117
Fig.80　SK082出土弥生土器（1/4）……118
Fig.81　SK083・SK092出土弥生土器（1/4）……119
Fig.82　SK094出土弥生土器（1/4）……120
Fig.83　SK099・SK117出土弥生土器（1/4）……121
Fig.84　SK142・SK163出土弥生土器（1/4）……122
Fig.85　SK115出土弥生土器（1/4）……136
Fig.86　SK115出土投弾（1/2）……137
Fig.87　玉類（2/3）……138
Fig.88　紡錘車（1/2）……138
Fig.89　石器〈削器〉（2/3）……140
Fig.90　石器〈石匙・石錘〉（2/3）……141
Fig.91　石器〈石鏃〉（2/3）……143
Fig.92　石器〈石包丁・石剣・石戈〉（1/2）……144
Fig.93　石器〈磨製石斧〉（1/2）……145
Fig.94　石器〈打製石斧・砥石〉（1/2）……147
Fig.95　石器〈磨石〉（2/5）……148
Fig.96　鉄器（2/3）……149
Fig.97　古墳出土土師器・須恵器（1/4）……151
Fig.98　SB018出土土師器〈1〉（1/4）……156
Fig.99　SB018出土土師器〈2〉（1/4）……157
Fig.100　SB019出土土師器・須恵器（1/4）……158
Fig.101　SB021・SB032出土土師器・須恵器（1/4）……159
Fig.102　SB063出土土師器〈1〉（1/4）……160
Fig.103　SB063出土土師器〈2〉（1/4）……161
Fig.104　SB075出土土師器・須恵器〈1〉（1/4）……162
Fig.105　SB075出土土師器・須恵器〈2〉（1/4）……163

切畑遺跡
Fig.106 SB078出土土師器（1/4）……164
Fig.107 SB090出土土師器・須恵器（1/4）……165
Fig.108 SB103出土土師器・須恵器（1/4）……166
Fig.109 SB106出土土師器・須恵器（1/4）……167
Fig.110 SB116出土土師器（1/4）……168
Fig.111 SB119・SB124出土土師器・須恵器（1/4）……169
Fig.112 SK026・SK077出土土師器（1/4）……170
Fig.113 SD126出土土師器〈1〉（1/4）……171
Fig.114 SD126出土土師器〈2〉，SD125・SK077出土土師器（1/4）…172
Fig.115 SD140出土土師器（681は1/2，682は1/4）……189
Fig.116 紡錘車（1/2）……190
Fig.117 砥石（1/2）……190
Fig.118 鉄器（2/3）……191
Fig.119 溝出土土師器（1/4）……192
Fig.120 中世土器（1/4）……194

猿嶽A遺跡
Fig. 1 周辺地形測量図（1/600）……198
Fig. 2 遺構配置図（1/300）……199～200
Fig. 3 SK009土壙（1/60）……202
Fig. 4 ST001・ST002古墳墳丘測量図（1/200）……203
Fig. 5 ST001・ST002古墳地山整形面測量図（1/200）……203
Fig. 6 ST001古墳墳丘土層図（1/60）……204
Fig. 7 ST001古墳石室（1/40）……205
Fig. 8 ST002古墳墳丘土層図（1/60）……206
Fig. 9 ST002古墳石室平面（1/60）……207
Fig.10 ST002古墳石室閉塞状況（1/60）……208
Fig.11 ST002古墳石室（1/60）……208
Fig.12 ST003古墳墳丘測量図（1/200）……209
Fig.13 ST003古墳墳丘土層図（1/60）……210
Fig.14 ST003古墳葺石および石室（1/60）……211～212
Fig.15 ST003古墳石室（1/60）……213
Fig.16 ST003古墳石室閉塞状況（1/60）……214
Fig.17 ST005古墳墳丘測量図（1/100）・墳丘土層図（1/60）……215
Fig.18 ST006古墳墳丘測量図（1/200）……216
Fig.19 ST006古墳墳丘土層図（1/60）……217
Fig.20 ST006古墳石室平面（1/60）……217
Fig.21 ST006古墳石室（1/40）……218
Fig.22 ST006古墳遺物出土状況（1/20）……219
Fig.23 ST007・ST008古墳墳丘測量図（1/200）……220

猿嶽A遺跡
Fig.24 ST007古墳墳丘土層図（1/60）……221
Fig.25 ST007古墳石室平面（1/40）……221
Fig.26 ST007古墳石室（1/40）……222
Fig.27 ST007古墳石室閉塞状況（1/40）……222
Fig.28 ST008古墳石室（1/40）……223
Fig.29 ST008古墳石室閉塞状況（1/40）……224
Fig.30 縄文土器〈1〉（1/4）……227
Fig.31 縄文土器〈2〉（1/4）……228
Fig.32 縄文土器〈3〉（1/4）……229
Fig.33 土製品（1/2）……232
Fig.34 石器〈1〉（2/3）……233
Fig.35 石器〈2〉（1/2）……234
Fig.36 石器〈3〉（1/3）……235
Fig.37 SK009土壙出土遺物（1/4）……236
Fig.38 弥生土器（1/4）……237
Fig.39 ST001・ST002・ST003古墳出土遺物（1/4，96は1/8）……240
Fig.40 ST006古墳出土鉄器（1/2，98は1/4）……243～244
Fig.41 ST006古墳出土馬具〈1〉（1/2）……245
Fig.42 ST006古墳出土馬具〈2〉（1/2）……246
Fig.43 ST006・ST007古墳出土遺物(129～143は1/2,144～149は1/4)……247
Fig.44 ST006古墳出土馬具復原案……250

猿嶽C・D遺跡
Fig. 1 猿嶽C・D遺跡周辺地形測量図（1/3,000）……256
Fig. 2 猿嶽C・D遺跡遺構配置図（1/400）……257～258
Fig. 3 ST001古墳調査前地形測量図（1/200）……259
Fig. 4 ST001古墳調査後墳丘測量図（1/200）……260
Fig. 5 ST001古墳石室（1/60）……261～262
Fig. 6 ST001古墳墳丘土層図（1/60）……263
Fig. 7 ST002古墳石室（1/40）……264
Fig. 8 ST003古墳石室（1/40）……266
Fig. 9 ST003・ST004古墳周溝土層図（1/40）……267
Fig.10 ST004古墳石室（1/40）……268
Fig.11 ST003・ST005古墳石室（1/40）……269
Fig.12 ST003・ST005古墳周溝土層図（1/40）……269
Fig.13 ST006古墳石室（1/40）……270
Fig.14 ST007古墳石室（1/40）……272
Fig.15 ST007・ST008古墳周溝土層図（1/40）……272
Fig.16 ST008古墳石室（1/40）……273
Fig.17 ST009古墳石室（1/40）……275

猿嶽C・D遺跡
Fig.18 ST008・ST009古墳周溝土層図（1/40）……276
Fig.19 ST010古墳石室（1/40）……277
Fig.20 ST008・ST010古墳周溝土層図（1/40）……278
Fig.21 ST012古墳石室（1/40）……279
Fig.22 ST013古墳石室（1/40）……280
Fig.23 ST014古墳石室（1/40）……281
Fig.24 ST015古墳石室（1/40）……283
Fig.25 ST016古墳石室（1/60）……284
Fig.26 ST020古墳石室（1/40）……286
Fig.27 ST024古墳石室（1/40）……287
Fig.28 ST025古墳石室（1/40）……288
Fig.29 ST026古墳調査前地形測量図（1/200）……290
Fig.30 ST026古墳調査後墳丘測量図（1/200）……290
Fig.31 ST026古墳石室（1/60）……291～292
Fig.32 ST026古墳墳丘土層図（1/60）……293
Fig.33 ST027古墳調査前地形測量図（1/200）……295
Fig.34 ST027古墳調査後墳丘測量図（1/200）……295
Fig.35 ST027古墳墳丘土層図（1/60）……296
Fig.36 ST027古墳石室（1/60）……297～298
Fig.37 縄文時代・弥生時代の出土遺物（7・8は1/4，他は1/2）…301
Fig.38 ST001古墳出土遺物1〔須恵器〕（1/4）……302
Fig.39 ST001古墳出土遺物2〔須恵器〕（1/4）……303
Fig.40 ST001古墳出土遺物3〔須恵器〕（1/4）……304
Fig.41 ST001古墳出土遺物4〔須恵器〕（1/4）……305
Fig.42 ST001古墳出土遺物5〔須恵器〕（1/3）……306
Fig.43 ST001古墳出土遺物6〔土師器・鉄器・玉類〕(95～97は1/4,他は1/2) …307
Fig.44 ST002古墳出土遺物〔須恵器〕（1/4）……307
Fig.45 ST003古墳出土遺物1〔須恵器〕（1/4）……308
Fig.46 ST003古墳出土遺物2〔土師器〕（1/4）……308
Fig.47 ST003古墳出土遺物3〔鉄器〕（1/2）……309
Fig.48 ST005古墳出土遺物〔土師器〕（1/4）……309
Fig.49 ST007古墳出土遺物〔須恵器〕（1/4）……309
Fig.50 ST009古墳出土遺物〔鉄器〕（1/2）……310
Fig.51 ST009古墳出土遺物〔土師器〕（1/4）……311
Fig.52 ST010古墳出土遺物〔土師器・鉄器〕(149は1/4,150は1/2)…311
Fig.53 ST014古墳出土遺物〔土師器〕（1/4）……311
Fig.54 ST015古墳出土遺物〔鉄器〕（1/2）……311
Fig.55 ST016古墳出土遺物1〔須恵器〕（1/4）……312
Fig.56 ST016古墳出土遺物2〔須恵器〕（1/4）……313

猿嶽C・D遺跡

Fig.57　ST016古墳出土遺物３〔須恵器・土師器〕（１/４）……314
Fig.58　ST020古墳出土遺物１〔耳環〕（１/２）……314
Fig.59　ST020古墳出土遺物２〔須恵器・土師器〕（１/４）……315
Fig.60　ST024古墳出土遺物〔土師器〕（１/４）……315
Fig.61　ST026古墳出土遺物１〔須恵器〕（１/４）……316
Fig.62　ST026古墳出土遺物２〔須恵器〕（１/４）……317
Fig.63　ST026古墳出土遺物３〔須恵器〕（１/４）……318
Fig.64　ST026古墳出土遺物４〔須恵器〕（１/４）……319
Fig.65　ST026古墳出土遺物５〔土師器〕（１/４）……319
Fig.66　ST026古墳出土遺物６〔土師器〕（１/４）……320
Fig.67　ST026古墳出土遺物７〔鉄器・耳環・玉類〕（１/２）……321
Fig.68　ST027古墳出土遺物１〔須恵器・土師器〕（１/４）……322
Fig.69　ST027古墳出土遺物２〔鉄器〕（１/２）……323
Fig.70　ST027古墳出土遺物３〔鉄器〕（１/２）……324
Fig.71　SD017溝出土遺物〔須恵器・土師器〕（１/４）……325
Fig.72　SD018溝出土遺物〔須恵器・鉄器・玉類〕(430は1/4，431・432は1/2)…325
Fig.73　ヘラ記号１（１/２）……326
Fig.74　ヘラ記号２（１/２）……327
Fig.75　ヘラ記号３（１/２）……328

鈴熊遺跡

Fig. 1　鈴熊遺跡地形測量図（１/400）……354
Fig. 2　鈴熊遺跡遺構配置図（１/400）……355
Fig. 3　SJ013甕棺墓（１/20）……356
Fig. 4　ST001古墳墳丘測量図（１/200）……357
Fig. 5　ST001古墳地山整形面測量図（１/200）……357
Fig. 6　ST001古墳墳丘土層図（１/60）……358
Fig. 7　ST001古墳石室（１/60）……359
Fig. 8　ST001古墳石室鉄器出土状況（１/60，１/20）……360
Fig. 9　ST001古墳周溝内遺物出土状況（１/200，１/40）……361
Fig.10　ST002古墳墳丘測量図（１/200）……362
Fig.11　ST002古墳墳丘測量図（１/100）……362
Fig.12　ST002古墳墳丘土層図（１/60）……364
Fig.13　ST002古墳石室（１/60）……365
Fig.14　ST003古墳墳丘測量図（１/200）……366
Fig.15　ST003古墳地山整形面測量図（１/200）……366
Fig.16　ST003古墳墳丘土層図（１/60）……367
Fig.17　ST003古墳石室平面および閉塞状況（１/60）……368
Fig.18　ST003古墳石室（１/60）……369
Fig.19　ST003古墳石室内遺物出土状況（１/40）……370

鈴熊遺跡
Fig.20 ST004古墳墳丘測量図（1/200）……371
Fig.21 ST004古墳地山整形面測量図（1/200）……371
Fig.22 ST004古墳墳丘土層図（1/60）……372
Fig.23 ST004古墳石室（1/40）……373
Fig.24 ST006古墳（1/60）……374
Fig.25 ST011古墳墳丘測量図（1/80）……376
Fig.26 ST011古墳内部主体（1/30）……377
Fig.27 SC007箱式石棺墓（1/30）……378
Fig.28 SC008箱式石棺墓（1/30）……379
Fig.29 SC009箱式石棺墓（1/30）……380
Fig.30 SK010土壙（1/60）……381
Fig.31 SK014土壙（1/30）……382
Fig.32 SK016土壙（1/20）……383
Fig.33 SD012溝状遺構（1/40）……384
Fig.34 SX015敷石遺構（1/40）……385
Fig.35 SJ013甕棺墓出土土器（1/4）……386
Fig.36 3号集石出土遺物（1/4）……387
Fig.37 縄文土器1（1/3）……388
Fig.38 縄文土器2（1/3）……389
Fig.39 縄文土器3（1/3）……390
Fig.40 縄文土器4・土製品（1/3）……391
Fig.41 土製品（1/3）……392
Fig.42 石器1（1/2）……394
Fig.43 石器2（1/2）……395
Fig.44 石器3（1/3）……396
Fig.45 ST001古墳周溝内出土須恵器（1/4）……399
Fig.46 ST001古墳周溝内出土土師器（1/4）……400
Fig.47 ST001古墳周溝内(122～131)・周溝外遺構(132・133)
出土遺物(129は1/2,他は1/4)……401
Fig.48 ST001古墳周溝外出土土師器（1/4）……402
Fig.49 ST001古墳出土鉄器（145・146は1/5，他は1/3）……403
Fig.50 ST002古墳出土須恵器（1/4）……404
Fig.51 ST002古墳出土鉄鏃（1/2）……405
Fig.52 ST003古墳出土須恵器（1/4）……406
Fig.53 ST003古墳出土土師器（1/4）……407
Fig.54 ST003古墳出土鉄器（1/2）……408
Fig.55 ST004古墳出土遺物（212は1/4，213は1/2）……409
Fig.56 ST006古墳出土遺物（1/4，216・217は1/2）……409
Fig.57 SC008箱式石棺墓出土玉（1/2）……409

鈴熊遺跡

Fig.58　SC009箱式石棺墓・ST011古墳出土鉄鉇（1/2）……410
Fig.59　SK010土壙出土土師器（1/4）……411
Fig.60　SK014土壙出土土師器（1/4）……412
Fig.61　SK016土壙出土土師器（1/4）……413
Fig.62　遺構に伴わない遺物（1/4）……414

大久保三本松遺跡

Fig. 1　大久保三本松遺跡周辺遺跡分布図（1/50,000）……423
Fig. 2　大久保三本松遺跡周辺地形図（1/4,000）……424
Fig. 3　大久保三本松遺跡遺構配置図（1/500）……427
Fig. 4　SB001・SB002竪穴住居跡（1/60）……431
Fig. 5　SB003・SB007竪穴住居跡（1/60）……433
Fig. 6　SB008・SB010竪穴住居跡（1/60）……434
Fig. 7　SB011竪穴住居跡（1/60）……435
Fig. 8　SB013竪穴住居跡（1/60）……437
Fig. 9　SB014・SB015・SB016竪穴住居跡（1/60）……439
Fig.10　SB017・SB019竪穴住居跡（1/60）……440
Fig.11　SB020・SB021・SB024竪穴住居跡（1/60）……441
Fig.12　SB047・SB048竪穴住居跡（1/60）……443
Fig.13　SB004・SB005掘立柱建物跡（1/60）……445
Fig.14　SB023・SB006掘立柱建物跡（1/60）……446
Fig.15　SB022・SB018掘立柱建物跡（1/60）……448
Fig.16　SB025・SB026掘立柱建物跡（1/60）……449
Fig.17　SB050・SB051掘立柱建物跡（1/60）……450
Fig.18　SB052・SB053掘立柱建物跡（1/60）……452
Fig.19　SB054・SB055掘立柱建物跡（1/60）……453
Fig.20　SB056・SB057掘立柱建物跡（1/60）……454
Fig.21　SK027・SK029・SK036土壙（1/40）……456
Fig.22　SE033・SE034・SE038・SE040・SE039井戸跡（1/40）……457
Fig.23　溝跡断面図（1/20）……459
Fig.24　縄文土器（2/5）……461
Fig.25　石鏃（2/3）……463
Fig.26　打製石器（1/2）……464
Fig.27　磨製石器（1/2）……465
Fig.28　須恵器・土師器〈1〉（1/2）……469
Fig.29　須恵器・土師器〈2〉（1/2）……470
Fig.30　須恵器・土師器〈3〉（1/2）……471
Fig.31　須恵器・土師器〈4〉（1/2）……472
Fig.32　須恵器・土師器〈5〉（1/2）……473
Fig.33　須恵器・土師器〈6〉（1/2）……474

大久保三本松遺跡　Fig.34　須恵器・土師器〈7〉（1/2）……475
Fig.35　須恵器・土師器〈8〉（1/2）……476
Fig.36　瓦（1/2）……486
Fig.37　土錘（1/2）……487
Fig.38　ふいご羽口（1/2）……487
Fig.39　砥石（2/5）……488
Fig.40　鎌（1/1）……489

表　目　次

切畑遺跡　Tab.1　切畑遺跡遺構一覧表……32
Tab.2　弥生土器観察表……123
Tab.3　古墳時代の土師器・須恵器観察表……173
Tab.4　平安時代の土師器・陶器観察表……193
Tab.5　中世土器観察表……195

猿嶽A遺跡　Tab.1　猿嶽A遺跡遺構一覧表……201
Tab.2　縄文土器観察表……229
Tab.3　石器観察表……232
Tab.4　弥生土器観察表……238
Tab.5　土師器・須恵器観察表……248

猿嶽C・D遺跡　Tab.1　猿嶽C・D遺跡古墳一覧表……255
Tab.2　猿嶽C・D遺跡その他の遺構一覧表……256
Tab.3　古墳時代土師器・須恵器観察表……329

鈴熊遺跡　Tab.1　鈴熊遺跡遺構一覧表……353
Tab.2　縄文土器・土製品観察表……392
Tab.3　石器観察表……397
Tab.4　古墳時代土師器・須恵器観察表……415
Tab.5　古墳時代玉類観察表……418
Tab.6　古墳時代鉄器観察表……419

大久保三本松遺跡　Tab.1　大久保三本松遺跡遺構一覧表……428
Tab.2　須恵器・土師器観察表……477

図版目次

切畑遺跡

PL. 1　遺跡全景航空写真
PL. 2　a区西北北側全景，SB031付近，SD140付近
PL. 3　西側全景，SB090竪穴住居跡付近，東側全景
PL. 4　SB013竪穴住居跡，SB019・SB023竪穴住居跡
PL. 5　SB022竪穴住居跡，SB024竪穴住居跡
PL. 6　SB031竪穴住居跡，SB051竪穴住居跡
PL. 7　SB078・SB079竪穴住居跡，SB056竪穴住居跡，SB056竪穴住居跡床面土器除去後
PL. 8　SB084竪穴住居跡，SB085竪穴住居跡
PL. 9　SB113竪穴住居跡，SB123竪穴住居跡
PL.10　SB143竪穴住居跡，SB149・SB157竪穴住居跡
PL.11　SK009土壙，SK025土壙，SK067・SK068土壙
PL.12　SK029土壙，SK064土壙，SK072・SK073・SK092土壙
PL.13　SK082土壙，SK083土壙，SK094・SK095・SK096土壙
PL.14　SK115土壙，SK115土壙投弾出土状況，SK117土壙
PL.15　SK099土壙，SK118土壙，SK142土壙
PL.16　SK148土壙，SK159土壙，SK163土壙
PL.17　SD014溝，SD014溝土層断面，SD014溝内土器出土状況
PL.18　a区古墳群全景
PL.19　ST001古墳石室
PL.20　ST002古墳全景，ST002古墳石室
PL.21　ST003古墳全景
PL.22　ST004古墳石室
PL.23　SB018竪穴住居跡，SB018竪穴住居跡床面遺物除去後
PL.24　SB021竪穴住居跡，SB021竪穴住居跡カマド
PL.25　SB063竪穴住居跡，SB063竪穴住居跡カマド付近
PL.26　SB075竪穴住居跡，SB075竪穴住居跡北辺土器群
PL.27　SB078竪穴住居跡，SB101竪穴住居跡
PL.28　SB090竪穴住居跡，SB090竪穴住居跡カマド
PL.29　SB103竪穴住居跡，SB103竪穴住居跡カマド
PL.30　SB106竪穴住居跡，SB106竪穴住居跡カマド
PL.31　SB108竪穴住居跡，SB119竪穴住居跡
PL.32　SB116竪穴住居跡，SB116竪穴住居跡カマド
PL.33　SB124竪穴住居跡，SB124竪穴住居跡カマド
PL.34　SB078・SB079竪穴住居跡，SB141竪穴住居跡
PL.35　SK026土壙，SK077土壙，SK119土壙
PL.36　SD126溝，SD126溝東側
PL.37　c区SK001土壙，SK001土壙集石除去後，SJ004甕棺墓

切畑遺跡

PL.38　c区SK002土壙，SK003土壙
PL.39　縄文土器・石鏃
PL.40　打製石器
PL.41　弥生土器1
PL.42　弥生土器2
PL.43　弥生土器3
PL.44　弥生土器4
PL.45　弥生土器5
PL.46　石器〔石包丁・磨製石斧・打製石斧〕
PL.47　石器〔磨石・磨製石剣・磨製石戈〕
PL.48　弥生・古墳時代投弾・紡錘車・砥石・鉄器
PL.49　古墳出土須恵器・土師器
PL.50　土師器・須恵器1
PL.51　土師器・須恵器2
PL.52　土師器・須恵器3
PL.53　土師器・須恵器4
PL.54　土師器・須恵器5
PL.55　土師器・須恵器6
PL.56　土師器・須恵器7
PL.57　土師器・須恵器8
PL.58　土師器・須恵器9
PL.59　土師器・須恵器10
PL.60　土師器・須恵器11
PL.61　土師器・須恵器12
PL.62　土師器・須恵器13
PL.63　土師器・須恵器14
PL.64　土師器・須恵器15
PL.65　土師器・須恵器16
PL.66　古墳出土鉄器
PL.67　石器〔石鏃・石斧・石包丁〕
PL.68　SD140出土土師器角杯・碗

猿嶽A遺跡

PL. 1　遺跡全景
PL. 2　調査区近景，ST001～ST003古墳原景
PL. 3　ST001古墳原景，全景，墳丘土層
PL. 4　ST001古墳石室，玄門部
PL. 5　ST002古墳原景，全景，墳丘土層
PL. 6　ST002古墳石室楣石，石室閉塞
PL. 7　ST002古墳石室，土器出土状況
PL. 8　ST003古墳原景，全景
PL. 9　ST003古墳葺石，閉塞部土層，閉塞

猿嶽A遺跡

PL.10　ST003古墳石室，玄門部
PL.11　ST005古墳原景，周溝，全景
PL.12　ST006古墳遺物出土状況
PL.13　ST006古墳石室，玄門部
PL.14　ST007古墳全景，石室，閉塞
PL.15　ST008古墳全景，石室，閉塞
PL.16　SK009土壙，SK009土壙遺物出土状況
PL.17　縄文早・前期の土器
PL.18　縄文土器，土製品，石器
PL.19　SK009出土弥生土器，ST001出土土師器・須恵器，
ST002出土土師器・須恵器
PL.20　ST002出土須恵器，ST003出土須恵器，ST006出土鉄器鉄鏃・須恵器，
ST007出土土師器
PL.21　ST006出土玉類・馬具・鉄刀

猿嶽C・D遺跡

PL. 1　C・D遺跡全景，C遺跡近景
PL. 2　ST001古墳全景，近景，石室
PL. 3　ST001古墳土層，ST002古墳全景
PL. 4　ST003古墳全景，石室，西側周溝内遺物出土状況
PL. 5　ST004古墳全景，ST005古墳全景，石室
PL. 6　ST006古墳石室，ST007古墳全景，石室
PL. 7　ST008古墳全景，石室，ST009古墳全景
PL. 8　ST009古墳石室，ST010古墳石室，ST011古墳全景
PL. 9　ST012古墳石室，ST013古墳石室，ST014古墳石室
PL.10　ST016古墳石室，ST015古墳全景，ST020古墳全景
PL.11　ST020古墳石室，ST024古墳石室，ST025古墳石室
PL.12　ST025古墳石室，ST026古墳遠景，全景
PL.13　ST026古墳石室，墓道内遺物出土状況，墳丘遺物出土状況
PL.14　ST026古墳西側墳丘土層，東側墳丘土層近景，ST027古墳原景
PL.15　ST027古墳全景
PL.16　ST027古墳羨道部，奥壁
PL.17　ST027古墳墳丘南側土層，墳丘西側土層，墳丘北側土層
PL.18　SB023掘立柱建物，SD029溝
PL.19　ST001古墳出土遺物 1
PL.20　ST001古墳出土遺物 2
PL.21　ST002・003・004・005・007・009古墳出土遺物
PL.22　ST010・014・016古墳出土遺物
PL.23　ST020・026古墳出土遺物 1
PL.24　ST026古墳出土遺物 2
PL.25　ST026古墳出土遺物 3
PL.26　ST027古墳出土遺物

鈴熊遺跡

PL. 1　調査区遠景
PL. 2　遺跡調査前全景
PL. 3　遺跡全景，調査後全景
PL. 4　SJ013甕棺墓
PL. 5　ST001古墳調査前全景，盛土除去前全景，
　　ST001・002・003・004古墳盛土除去前全景
PL. 6　ST001古墳盛土除去後全景，石室全景，玄室奥壁
PL. 7　ST001古墳玄門部，石室右側壁・奥壁，玄室左側壁
PL. 8　ST001古墳石室内遺物出土状況，周溝B区土器出土状況
PL. 9　ST002古墳調査前全景，盛土除去前全景，石室全景
PL.10　ST002古墳石室全景，奥壁，玄室右側壁及び鉄器出土状況
PL.11　ST002古墳墳丘A区葺石状況，盛土除去後全景，ST003古墳調査前全景
PL.12　ST003古墳盛土除去前全景，石室全景，石室奥壁
PL.13　ST003古墳玄門部，周溝A区土器出土状況，盛土除去後全景
PL.14　ST004古墳盛土除去前全景，盛土除去後全景，墳丘盛土状況
PL.15　ST004古墳玄室内玄門側，墳丘土層，ST006古墳全景
PL.16　ST006古墳主体部検出状況，主体部落石状況，主体部
PL.17　ST011古墳石棺，全景，石棺蓋石除去後
PL.18　ST011古墳鉇出土状況，SC007箱式石棺墓，SC008箱式石棺墓
PL.19　SC008箱式石棺墓，SC009箱式石棺墓蓋石除去前，蓋石除去後
PL.20　SC009箱式石棺墓鉇出土状況，SK010土壙土器出土状況，土壙
PL.21　SK014土壙土器出土状況，SK016土壙土器出土状況
PL.22　SD012溝状遺構，SX015敷石遺構
PL.23　Aトレンチ全景，Bトレンチ全景
PL.24　縄文土器　SJ013，3号集石
PL.25　縄文早期の土器
PL.26　縄文早期の土器
PL.27　縄文前期の土器
PL.28　縄文晩期の土器
PL.29　縄文晩期の土器
PL.30　土製円盤，打製石器
PL.31　打製石器，黒曜石原石
PL.32　磨製石器〔磨製石斧・磨石〕
PL.33　ST001古墳出土須恵器・土師器
PL.34　ST001古墳出土土師器
PL.35　ST001古墳出土土師器
PL.36　ST001古墳出土鉄器
PL.37　ST002古墳出土須恵器・鉄器
PL.38　ST003古墳出土須恵器
PL.39　ST003古墳出土須恵器・土師器

鈴熊遺跡

PL.40　ST003古墳出土土師器・鉄器，ST004古墳出土土師器，
ST006古墳出土須恵器，SC009箱式石棺墓出土鉄器

PL.41　ST011古墳出土鉄器，SK010土壙出土土師器

PL.42　SK014土壙出土土師器，SK016土壙出土土師器

PL.43　SK016土壙出土土師器，遺構に伴わない遺物〔須恵器・土師器・土製品〕

大久保三本松遺跡

PL. 1　大久保三本松遺跡から船塚方向（北西）を望む

PL. 2　大久保三本松遺跡から東方を望む

PL. 3　遺跡全景，周辺地形

PL. 4　SB001住居跡，SB002住居跡，SB002住居跡北壁側カマド

PL. 5　SB002住居跡東壁側カマド，SB003住居跡，SB003住居跡カマド

PL. 6　SB007住居跡，SB008住居跡，SB010住居跡

PL. 7　SB011住居跡，SB013住居跡，SB013住居跡カマド

PL. 8　SB013住居跡カマド，SB014・SB015住居跡，SB016住居跡

PL. 9　SB016住居跡カマド，SB017住居跡，SE039井戸跡

PL.10　SB019・SB020・SB021住居跡，SB019住居跡，SB019住居跡カマド

PL.11　SB020住居跡，SB024住居跡，SB047住居跡

PL.12　SB047住居跡カマド，SB047住居跡土器出土状況，SB048住居跡

PL.13　SB048住居跡カマド，SB048住居跡カマド東側土器出土状況，
SB004掘立柱建物跡

PL.14　SB005掘立柱建物跡，SB006掘立柱建物跡，SB018掘立柱建物跡

PL.15　SB022掘立柱建物跡，SB023掘立柱建物跡，SB026掘立柱建物跡

PL.16　SB004掘立柱建物跡P-9土層断面，SB022掘立柱建物跡P-7土層断面，
SB002掘立柱建物跡P-5土層断面

PL.17　SK027土壙，SK027土壙土器出土状況，SK029土壙

PL.18　SK037土壙，SE033・SE034井戸跡，SE035井戸跡

PL.19　SE038井戸跡，SE039井戸跡土層断面，SE040井戸跡

PL.20　SD031溝跡土層断面，SD041溝跡土層断面，SD042溝跡土層断面

PL.21　縄文土器

PL.22　打製石器〔石鏃・石匙・削器・掻器ほか〕，磨製石器〔磨製石斧，石包丁〕

PL.23　土師器・須恵器 1

PL.24　土師器・須恵器 2

PL.25　土師器・須恵器 3

PL.26　土師器・須恵器 4

PL.27　土師器・須恵器 5

PL.28　土師器・須恵器 6

PL.29　瓦

PL.30　その他の出土品〔砥石・土錘・鉄鎌〕

報告書抄録

ふりがな	きりはたいせき
書名	切畑遺跡
副書名	九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	16
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書
シリーズ番号	第116集
編著者名	家田淳一・田平徳栄・渋谷格・武谷和彦・川副麻理子・副島正道
編集機関	佐賀県教育委員会
所在地	〒840-70　佐賀県佐賀市城内1丁目1－59
発行年月日	西暦1993年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
切畑	佐賀県神埼郡神埼町大字城原字上朝日	413216	－	33°20′26″ 130°21′50″	19820106～ 19821018	5,600	道路（九州横断自動車道）建設に伴う事前調査
猿嶽A	佐賀県神埼郡神埼町大字城原字湯原	413216	－	33°21′11″ 130°21′20″	19800908～ 19810114	1,500	
猿嶽C・D	佐賀県神埼郡神埼町大字城原字北外	413216	－	33°21′08″ 130°21′05″	19810817～ 19811210	3,900	
鈴熊	佐賀県佐賀市久保泉町大字川久保字鈴熊	412015	－	33°19′48″ 130°19′30″	19800215～ 19800912	700	
大久保三本松	佐賀県佐賀郡大和町大字川上字三本松	413054	－	33°18′26″ 130°15′04″	19840702～ 19860331	4,800	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
切畑	集落跡 墓地 集落跡 集落跡 集落跡	弥生 古墳 平安 中世	竪穴式住居26・溝1 古墳5 竪穴住居17・溝4 溝4・掘立柱建物4 溝3	弥生土器・石器・鉄器 土師器・須恵器・手捏土器・土製模造品 土師器・陶器 土師器・瓦器	未焼成投弾多数一括出土 朝鮮系無文土器・石戈 土師器角杯出土・土師器模倣坏が多い
猿嶽A	散布地 集落跡 墓地	縄文 弥生 古墳	 土壙1 古墳7（初期横穴式石室）	縄文土器・石器 弥生石器 須恵器・土師器・馬具 鉄刀・鉄鏃・勾玉・管玉	塞ノ神式土器出土 特異な剣菱形杏葉
猿嶽C・D	墓地	古墳	古墳22（竪穴系横口式石室・石棺系石室・横穴式石室）・箱式石棺墓3	須恵器・土師器・勾玉 管玉・小玉・鉄鏃・刀子 馬具	横穴式石室導入期の様相を示す
鈴熊	墓地 墓地	縄文 古墳	甕棺墓1 古墳6（竪穴式石室・竪穴系横口式石室・横穴式石室）・箱式石棺墓3	縄文土器 須恵器・土師器・鉄鏃・土製勾玉	塞ノ神式土器出土 古式土師器・初期須恵器の良好な資料
大久保三本松	集落跡	奈良 平安	竪穴住居19・掘立柱建物16・井戸6・溝11	須恵器・土師器・鞴羽口 瓦・土錘	竪穴住居から掘立柱建物へ変遷

第１章　調査の概要

I 調査の経過

九州横断自動車道（長崎道）建設に係る埋蔵文化財調査は，昭和44年６月の遺跡分布調査により開始された。これは佐賀県教育委員会が，建設省九州地方建設局の委託により路線予定地域全域を対象に実施したものである。その後，昭和48年９月の日本道路公団の路線発表を受けて，昭和51年12月まで詳細な分布調査を実施した。その結果，本調査の対象地域は路線総延長91.9kmのうち遺跡数209カ所，総面積約135万㎡に達した。

発掘調査はこの結果と工事計画に合わせて，鳥栖一佐賀大和間の遺跡から昭和52年１月に開始された。次いで佐賀大和一武雄北方間，武雄北方一嬉野間，大和ICと続き，発掘調査開始から13年次目（平成元年）の鳥栖IC（オフ・ランプ）を調査最終地点として，すべての発掘調査を終了している。

いま，それら多くの調査地点のなかで各地域の主な遺跡をあげると，東から鳥栖市本川原遺跡（古墳）・都谷遺跡（古墳），中原町香田遺跡（縄文），東脊振村下石動遺跡（弥生・古墳），西石動遺跡（弥生）・山古賀遺跡（旧石器・弥生・古墳）・西一本杉遺跡（古墳）・浦田遺跡（古墳・中世），神埼町志波屋六本松乙遺跡（弥生・古墳）・切畑遺跡（旧石器～中世）・朝日北遺跡（弥生・古墳・近世）・猿嶽遺跡（古墳・中世），佐賀市鈴熊遺跡（縄文・古墳）・西原遺跡（縄文～中世）・久保泉丸山遺跡（縄文～古墳）・藤附遺跡群（縄文・近世）・金立開拓遺跡（縄文～古墳・六本黒木遺跡（縄文～古墳）・大門西遺跡（縄文～古墳）・三郎山遺跡（古墳），大和町久池井遺跡群（弥生～平安）・礫石遺跡群（縄文～平安）・惣座遺跡（弥生～奈良）・東山田遺跡群（弥生～中世）・西山田遺跡群（弥生～中世），三日月町織島遺跡群（旧石器～近世）・老松山遺跡（旧石器），小城町寺浦瓦窯跡（縄文・奈良），寺浦前方後円墳（古墳），寄居遺跡（古墳・近世），多久市長尾開拓遺跡（旧石器）・撰分遺跡（旧石器～近世）・山王遺跡（旧石器・縄文），武雄市東福寺遺跡（弥生・古墳）・皿山窯跡（近代）・甕屋窯跡（近世），嬉野町内野山北窯跡（近世）などがある。

以上のように，旧石器から近世・近代までの遺跡が網羅され，改めて当調査に係わり記録保存された遺跡の質量に驚かされるのであるが，佐賀市久保泉丸山遺跡のみは唯一遺跡の全面保存（移設）が日本道路公団の協力により実施されたことは特筆され，現在，野外の歴史公園として活用されている。

これらの諸遺跡の調査成果については，その概要を『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報』第１～12集で報告しているが，正式報告としては昭和54年度以来，報告書の刊行を下記のとおり続けており，平成３年度までに計15集の刊行を終了しているが，さらに今回も含め５冊を加えた全20集の刊行により本事業の全てを終了する予定である。

第１集　大門西遺跡
第２集　香田遺跡
第３集　西原遺跡
第４集　金立開拓遺跡
第５集　久保泉丸山遺跡
第６集　下石動遺跡
第７集　撰分遺跡
第８集　長尾開拓遺跡
第９集　礫石遺跡
第10集　老松山遺跡
第11集　惣座遺跡
第12集　西石動遺跡
第13集　志波屋六本松乙遺跡
第14集　都谷遺跡
第15集　朝日北遺跡

さて，今回報告するのは，神埼町切畑遺跡，猿嶽A遺跡，猿嶽C・D遺跡，佐賀市鈴熊遺跡，大和町大久保三本松遺跡の計５遺跡である。鈴熊遺跡は昭和54・55年度，猿嶽A・C・D遺跡は昭和55・56年度，切畑遺跡は昭和56・57年度，大久保三本松遺跡は昭和59・60年度に調査され，すでに７～14年という時間が経過した今日に至ってようやく報告書が刊行されることになった。

切畑遺跡は，弥生時代と古墳時代の集落跡を中心とする遺跡で朝鮮半島系の土器などが出土している。また，猿嶽遺跡や鈴熊遺跡は古墳時代中期から後期までの墓地を中心とし，特徴的な墳墓や副葬品が出土している。したがって，本書はこうした時代の遺構と遺物が中心の構成となっている。

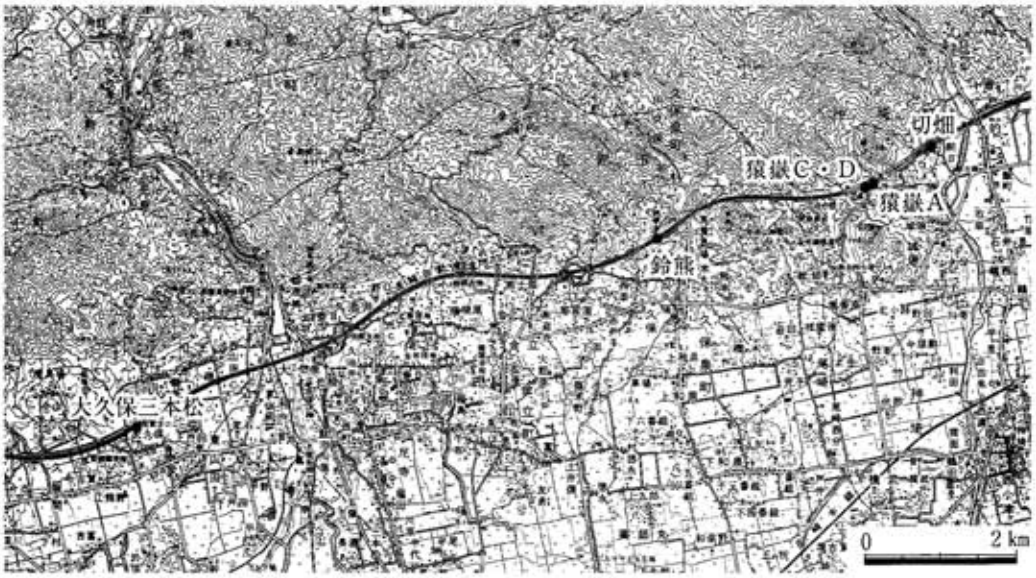


Fig. 1　九州横断自動車道路線図（1/50,000）

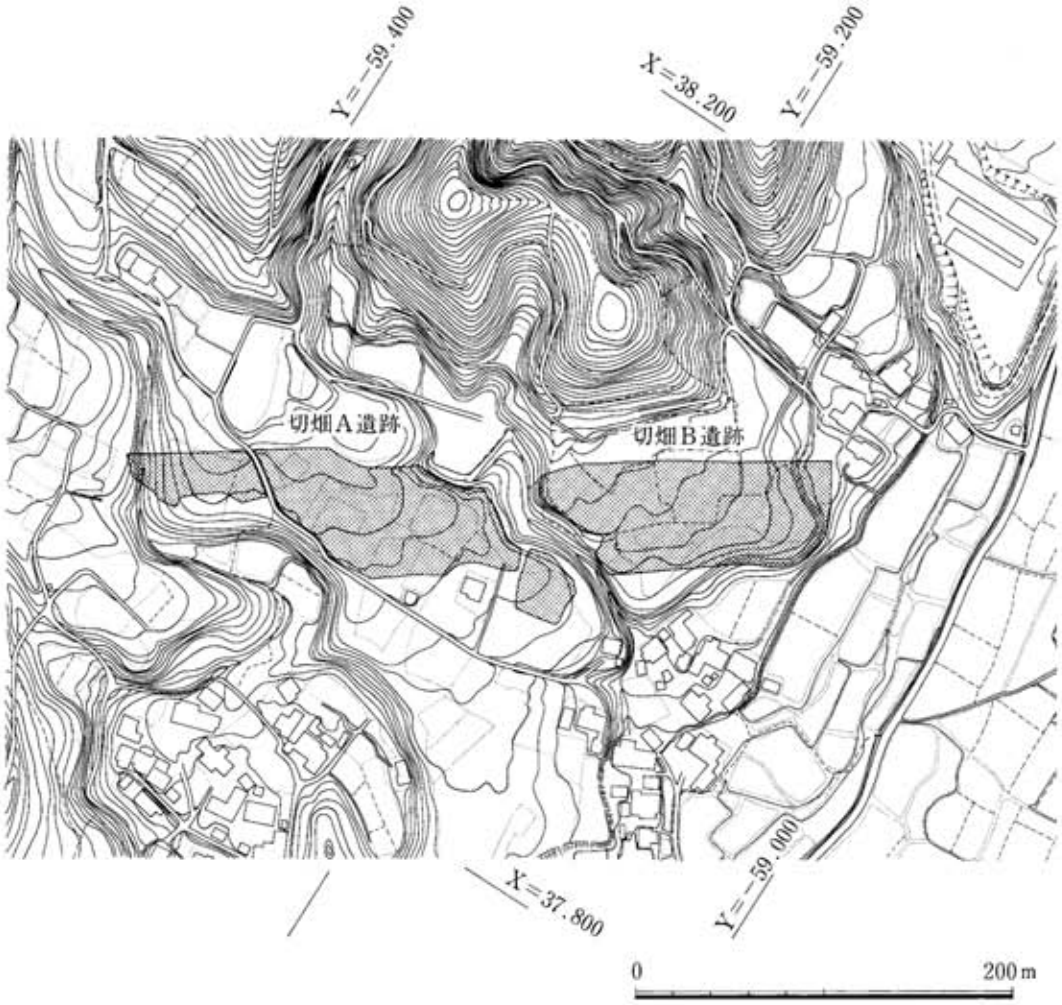


Fig. 2　切畑A・B遺跡発掘調査区位置図（1/4,000）

切畑A・B遺跡（KHA・KHB）

所 在 地　神埼郡神埼町大字城原字上朝日

調査面積　5,600㎡

調査期間　昭和57年1月6日～3月27日，57年4月1日～10月18日

調査担当　立石泰久・西田和已・種浦　修・坂井健二

報告担当　田平徳栄

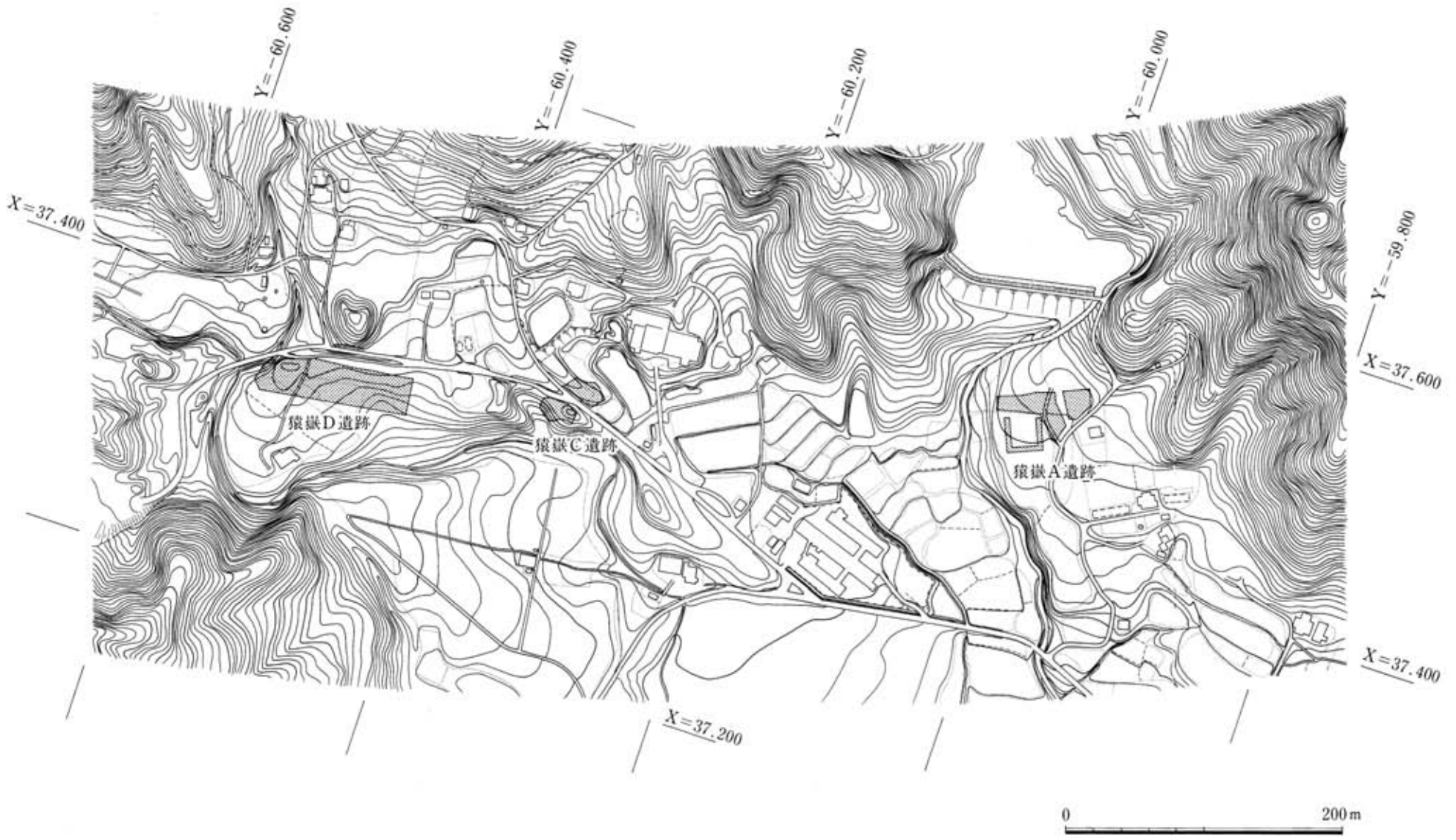


Fig. 3　猿嶽A・C・D遺跡発掘調査区位置図（1/4,000）

猿嶽A・C・D遺跡（SDA・SDC・SDD）

所 在 地　神埼郡神埼町大字城原字湯原・北外

調査面積　5,400㎡

調査期間　昭和55年9月8日～昭和56年1月14日，昭和56年8月17日～12月10日

調査担当　中牟田賢治・東中川忠美・蒲原宏行・堤　安信・種浦　修

報告担当　渋谷格・武谷和彦・川副麻理子

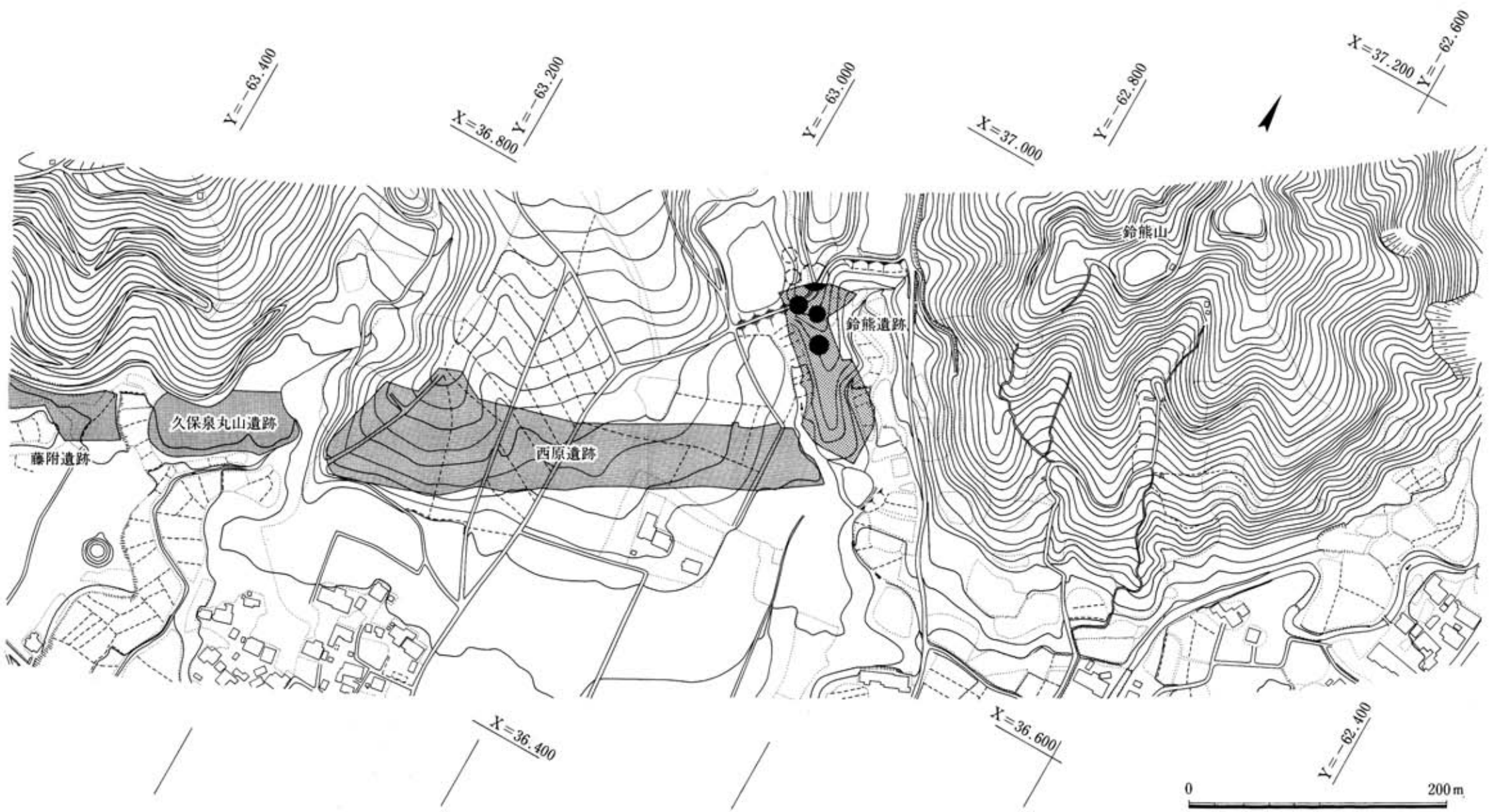


Fig. 4　鈴熊遺跡発掘調査区位置図（1/4,000）

鈴熊遺跡（SZK）

所 在 地　佐賀市久保泉町大字川久保字鈴熊

調査面積　700㎡

調査期間　昭和55年2月15日～3月12日，4月8日～9月12日

調査担当　中牟田賢治・蒲原宏行・福田義彦

報告担当　家田淳一

Fig. 5　大久保三本松遺跡発掘調査区位置図（1/4,000）

大久保三本松遺跡（OKB）

所 在 地　佐賀郡大和町大字川上字三本松

調査面積　4,800㎡

調査期間　昭和59年7月2日～21日，昭和60年9月18日～昭和61年3月31日

調査担当　天本洋一・田平徳栄・副島正道・舩底聡一・本田秀樹

調査報告　田平徳栄・副島正道

II 調 査 組 織

切畑A・B遺跡，猿嶽A・C・D遺跡，鈴熊遺跡の発掘調査は，いずれも佐賀県教育委員会が直営事業として実施した。その発掘調査および整理・報告に係る組織は，下記のとおりである。

発掘調査

総括	教育長	古藤　浩（昭和54～57年度）・志岐常文（昭和59・60年度）
	教育次長	小西　亘（昭和54年度）・野田綱明（昭和55年度）
		村岡　昭（昭和56年度）・宇田川勝之（昭和56・57年度）
		大塚正道（昭和57年度）・釈　憲正（昭和59年度）
		高橋一之（昭和59・60年度）・堤　清之（昭和60年度）
		古賀信夫（昭和60年度）
	文化課長	田中寿義雄（昭和54・55年度）・藤山　巌（昭和56・57年度）・
		北村一義（昭和59・60年度）
	文化課参事	古賀礼三（昭和54年度）・藤山　巌（昭和55年度）
		高島忠平（昭和60年度）
	文化課課長補佐	川久保広松（昭和55・56年度）
		高島忠平（昭和55～57・59年度）
		山田陸三（昭和57年度）
発掘調査総括	文化課参事	高島忠平（昭和60年度）
	文化課課長補佐	高島忠平（昭和55～57・59年度）
		宮原義幸・尾形善郎（昭和60年度）
	文化課専門員	高島忠平（昭和55年度）
	調査第1係長	高島忠平（昭和54・55年度）・樋渡敏暲（昭和56・57年度）
		中牟田賢治（昭和59・60年度）
＜切畑A遺跡＞		
	指導主事	坂井健二（昭和57年度）
	文化財保護主事	立石泰久（昭和56年度）・西田和巳（昭和57年度）
	嘱　託	種浦　修（昭和56年度）
＜切畑B遺跡＞		
	指導主事	坂井健二（昭和57年度）
	文化財保護主事	西田和巳（昭和57年度）
＜猿嶽A遺跡＞		
	文化財保護主事	中牟田賢治（昭和55年度）
	指導主事	蒲原宏行（昭和55・56年度）
＜猿嶽C・D遺跡＞		
	文化財保護主事	東中川忠美（昭和56年度）
	嘱　託	堤　安信・種浦　修（昭和56年度）

＜鈴熊遺跡＞

	文化財保護主事	中牟田賢治（昭和54年度）
	指導主事	蒲原宏行（昭和55年度）
	嘱　託	福田義彦（昭和54年度）・山田　正（昭和55年度）

＜大久保三本松遺跡＞

	文化財保護主事	田平徳栄（昭和59年度）・天本洋一（昭和60年度）
	指導主事	副島正道（昭和60年度）
	嘱　託	船底聡一（昭和59年度）・本田秀樹（昭和60年度）

庶　務

	文化課専門員	廣川　昇（昭和55年度）
	庶務係長	片渕正美（昭和54年度）・廣川　昇（昭和55年度）
		中野安正（昭和56・57年度）・菊池丈夫（昭和59・60年度）
	主　査	北島和男（昭和55年度）・山下行夫（昭和59・60年度）
	主　事	伊崎憲二（昭和54年度）・野口茂美（昭和54～56年度）
		森由紀子（昭和54～56 年度）山口　勝（昭和56・57年度）
		山下行夫（昭和57年度）・東　英明（昭和57・59・60年度）
		井原裕子（昭和57・59年度）・鶴田明美（昭和60年度）

整理・報告（平成４年度）

総　括

	教育長	堤　清行
	教育次長	土居　正・川久保善明
	文化財課長	高島忠平
	文化財課長補佐	中牟田賢治・瀬戸明廣
整　理	調査係長	高瀬哲郎
	主　査	立石泰久
	文化財保護主事	家田淳一・武谷和彦・渋谷　格・川副麻理子
	嘱　託	百崎正子
報　告	管理係長	田平徳栄（切畑A・B遺跡，大久保三本松遺跡担当）
	文化財保護主事	家田淳一（鈴熊遺跡担当）
		渋谷　格（猿嶽A遺跡担当）
		武谷和彦・川副麻理子（猿嶽C・D遺跡担当）
庶　務	文化課庶務係長	永松和久
	主　査	浜野清子・小林宣洋
	主　事	松瀬　弘
	嘱　託	岸川ヒサ子

第２章　地理的・歴史的環境

I　地理的環境

今回，報告する佐賀県神埼郡神埼町「切畑」，「猿嶽A・C・D」，佐賀市「鈴熊」，大和町「大久保三本松」遺跡は，広大な佐賀平野の北端の脊振山系南麓に位置している。

この脊振山系と嘉瀬川より西部の天山山系は，いずれも標高1,000m前後の山々からなり，佐賀県を地理的に北部と南部に折半するように佐賀平野の北端にそびえている。ここから派生する段丘は，主として神埼町の城原川以東の東部地域に発達し，これより以西は，嘉瀬川に代表される北部山地に源を発する大小の河川の扇状作用によって形成された標高5m前後の低平な平野が広がっている。

Fig. 6　遺跡位置図

前者の段丘は，脊振山麓より南側に向かって細長く延びるもので，代表的なものでも，吉野ケ里丘陵，二塚山丘陵，姫方丘陵などの弥生時代ないしそれ以降の大集落や墳墓などが形成された丘陵が見られる。

また，後者の扇状地形は，東部より寒水川，田手川，城原川，巨勢川，嘉瀬川，祇園川，晴気川，今出川，河川流域に見られるが，中でも嘉瀬川流域は比較的広大な面積を有し，弥生時代以降の重要な遺跡が多数形成されている。しかし，この扇状地も現況では有明海より少し離れた高位の地域になっている。すなわち，これよりさらに下流域では全国一の干満差(約6m)を誇る有明海の潮汐作用に因る土砂堆積作用と，江戸時代以降の人工的な干拓によって形成された低地がこれら扇状地の前面に広大に広がり，今日の佐賀平野独特の景観を形成しているのである。

Fig. 7　佐賀平野地形図（1/300,000）

II　歴史的環境

前項で概観した佐賀平野のうち，特にこの九州横断道の建設される山麓部は，ここから延びる丘陵地帯とともに遺跡のベルト地帯とも表現できる遺跡の集中分布地帯である。この山麓部のうち，神埼町の城原川流域でも先土器（旧石器）時代から江戸時代にかけての多くの遺跡が分布しており，切畑遺跡，猿嶽遺跡はこの城原川の右岸に位置している。一方，鈴熊遺跡は佐賀市の東北部，久保泉町川久保の鈴隈山（標高187m）の南麓の舌状に延びる丘陵上に立地しており，九州横断自動車道路線内においては隣り合う遺跡ではあるが，帯隈山や早稲隈山などによって隔てられてる，別の遺跡群である。したがって，本項では前者と後者の遺跡について別々に記述することにする。また，大久保三本松遺跡は，さらに西方の嘉瀬川右岸にあり，この遺跡については遺跡各説で個別に述べられる。

1．切畑・猿嶽遺跡

ここでは，神埼地域及びその周辺の遺跡の内容と各時代ごとの様子を概観していく。

旧石器時代の遺跡は，佐賀県全域を見渡してもその分布例は乏しく，また調査例も少ないため，この時期の様相なほとんど明らかではない。今回の対象地域である神埼町周辺でも，中原町姫方遺跡・町南遺跡，東脊振村山古賀遺跡，神埼町吉野ケ里遺跡・切畑遺跡等で，ナイフ形石器・マイクロコア等が採集されているだけである。遺構もほとんど検出されていないが，数少ない調査例のひとつとして，神埼町船塚遺跡が掲げられる。ここでは2層の文化層が確認されており，ナイフ形石器・台形石器・剥片尖頭器等が出土している。その石器の製作技法については，瀬戸内系とされている。

縄文時代遺跡は，やや増加の傾向がみられるが，その分布域については旧石器時代と同様に山麓部や低丘陵部にあり，立地条件的には前時代と大きく変わることはない。遺跡の例としては，東脊振村戦場ケ谷遺跡・夕ケ里遺跡，中原町香田遺跡，神埼町では城原川・三本松川を臨む地域に船塚遺跡・志波屋六本松遺跡が知られている。また，その他にも朝日北・北外・唐香原地区に舟塚遺跡・志波屋一の坪遺跡・志波屋六本松遺跡が知られている。また，その他にも朝日北・北外・唐香原地区において，良好な資料が採集されている。殊に，4軒の後期円形住居が確認された志波屋六本松遺跡については，平野部における縄文時代住居跡遺構としては稀少な例であり重要である。しかしながら，この時代の遺構・遺物の検出例は少なく，全体的な様相を窺うには資料が乏しい。

弥生時代になると遺跡は急増し，その分布域についても，前代までの丘陵部から下って平野部へと延びる。前期の遺跡は，中原町町南（ちょうなん）遺跡，東脊振村西石動（にしいしなり）遺跡，千代田町上黒井貝塚，神埼町吉野ケ里遺跡群・荒堅目貝塚・切畑遺跡等があり，前代の縄文時代に比べ遺跡の分布は

1．**猿嶽A・C・D遺跡**
2．天神尾古墳群
3．北外古墳
4．二子山前方後円墳
5．岩田丸山前方後円墳
6．城山遺跡
7．勢福寺城土塁
8．朝日遺跡
9．朝日古墳
10．朝日北遺跡
11．切畑遺跡
12．的遺跡
13．的五本黒木遺跡
14．志波屋六本松遺跡
15．花浦遺跡
16．船塚遺跡
17．戦場ケ谷遺跡
18．伊勢塚前方後円墳
19．下三津前方後円墳
20．三津永田遺跡
21．辛上廃寺
22．古野ケ里丘陵遺跡群
23．馬郡遺跡
24．田手一本黒木遺跡
25．浦田遺跡
26．山古賀遺跡
27．西一本杉遺跡
28．夕ケ里遺跡
29．西石動遺跡
30．下石動遺跡
31．松原遺跡
32．瀬ノ尾遺跡
33．日達原古墳群
34．下中杖遺跡
35．塔の塚廃寺
36．二塚山遺跡
37．五本谷遺跡
38．一本谷遺跡
39．切通遺跡
40．堤土塁
41．船石遺跡
42．原古賀三本谷遺跡
43．姫方遺跡
44．姫方原遺跡
45．町南遺跡
46．綾部城跡
47．香田遺跡
48．川寄遺跡群
49．利田柳遺跡
50．姉川城跡
51．本告城跡
52．横武城跡
53．直鳥城跡
54．上黒井貝塚
55．荒堅目貝塚
56．託田西分貝塚
57．姉貝塚
58．本分貝塚
59．勝尾城跡
60．葛籠城跡

Fig. 8　切畑・猿嶽遺跡周辺遺跡分布図（1/100,000）

大きく広がり，さらに南下していくという状況が見られる。しかし，規模的なものを考えた場合，集落あるいは墓としては未だに大きくないようである。中期は，上峰町切通遺跡・船石遺跡・一本谷遺跡・五本谷遺跡，東脊振村下石動遺跡・夕ケ里遺跡・三津永田遺跡，中原町姫方遺跡・姫方原遺跡，千代田町詫田西分貝塚・姉貝塚，三根町本分貝塚，神埼町的五本黒木遺跡・川寄遺跡群・利田柳遺跡・志波屋遺跡群・花浦遺跡等の遺跡が知られている。中期の特徴は，分布域の広がった前期の集落・墓域の規模がさらに飛躍的に拡大したこと，銅鏡・銅剣・銅矛等の青銅器や鉄剣・鉄斧等の鉄器，鋳型等のいわゆる金属器の広範な流布を示すものが出土遺物のなかに多くみられるようになったことである。これは，大陸伝来の稲作を基礎とする農耕社会が確実に定着し，さらにその大陸文化の影響を受けた諸様相が，大陸との窓口である玄界灘沿岸のみならず有明海沿岸でもかなり早くから導入され，受け入れられていったことを示している。この状況は，後期の段階でも続いており，遺跡の分布は中期の広がりとほぼ重複する。中原町原古賀三本谷遺跡，神埼町吉野ケ里遺跡等では，集落の周囲を濠で囲む環濠集落が見られるようになる。このうち吉野ケ里遺跡については，前代からの集落が大規模化していったことが知られている。

古墳時代になると，前期の遺跡は，前代に比べると一転して少なくなるが，その中で墳墓の例のみが多く発見されており，集落の例は非常に少ない状況にある。墳墓のタイプは，古墳と方形周溝墓に分けられる。前者の例としては，東脊振村西一本杉遺跡・山古賀遺跡，神埼町朝日古墳，佐賀市銚子塚古墳，後者の例は，中原町姫方遺跡，上峰町二塚山遺跡群である。この分布から見ると，古墳の例は少なく，丘陵頂部のみに点在しているが，方形周溝墓については，丘陵部から平野部にかけて広く造られている様子を窺うことができる。古墳と方形周溝墓については，朝日古墳（箱式石棺）からは変形四獣鏡・碧玉製石釧，西一本杉遺跡ST009古墳（木棺墓）からは舶載鏡片等が出土していることから，古墳の優位性が強く示されている。中期は，古墳の大型化と分布数の増加を特徴とする。まず，分布域の中心のひとつが嘉瀬川東部流域にあり，例として，佐賀市北方には熊本山古墳・山王山古墳・西原古墳・久保泉丸山古墳・前隈山古墳等が掲げられ，県内でも大型の前方後円墳や円墳が数多くみられる。更に，西部域にも大和町に県下最大の前方後円墳である船塚古墳が存在する。このことから，中期の段階では，佐賀平野での中心域のひとつが，この嘉瀬川一帯にあったことは明らかである。後期になると，前方後円墳からみた中心地域は，県東部の鳥栖地域あるいは三田川町目達原地域へと移っていくようである。前者の地域には岡寺・剣塚・庚申堂塚，後者の地域には稲荷塚・塚山・瓢塚などの前方後円墳群として存在している。

切畑遺跡や猿嶽遺跡の所在する城原流域では前期の朝日古墳以後は中期を通じて大型墳はなく後期になって北外，二子山（18m），岩田丸山（28m）などの前方後円墳が継続的に造営されるが，これらは全長30m以下の小型墳である。おそらく6世紀後半以降は城原川左岸の下三津

西（52m），伊勢塚（80m）などの大型前方後円墳との関連が強く想起されるのである。また古墳時代も中期から終末期にかけて山麓部から中腹などに数多くの群集墳の発達が見られるが，当切畑遺跡や猿嶽遺跡群もその例の一つである。

飛鳥～奈良時代の遺跡は，主として低丘陵部及び平野部において集落が分布している。この時期になるとそれまでの各地域間の関わり以上に，国家的な状況変化の中から以前とは異なる様相を示す遺跡がみられるようになる。それは，上峰町堤土塁跡等の城塁建造物，および東脊振村辛上廃寺跡，上峰町塔ノ塚廃寺跡等の寺跡，神埼町吉野ケ里遺跡等に見られる官衙跡である。このような状況は，弥生時代の伝統的基盤の上に勢力を保っていた各地域の古代豪族が，律令体制という国家の枠組みの中に組み込まれていく過程を探る上で重要な意味を持つものと考えられる。

平安時代以降については，さらに土地利用の範囲が拡大し，山上から海際に至る広範囲での遺跡の分布を追うことができる。これは，律令体制崩壊後の中世武士団の出現・活動に依るところが大きい。殊に，城館築造における土地利用形態は，極めて対照的な様相が見られる。一つはいわゆる中世山城といわれるもの，もう一つは濠をめぐらす城館（環濠集落）である。中世山城は各地域の高度な山頂部分を中心に配置される。居館は山麓部に造られるが，山頂部を多く利用する例は他に時期にはほとんど見られない。例として，鳥栖市勝尾城跡・葛籠城跡，中原町綾部城跡，神埼町勢福寺城跡等がある。また，城館は，平野部の低湿地帯において入り組んだ水濠を防御に有効利用したもので，佐賀平野独特のものであり，他地域にはあまり見られない。例として，千代田直鳥城跡，神埼町姉川城跡・本告城跡・横武城跡等がある。

以上のようなことから，神埼地域は佐賀平野一帯の歴史を探る上で，旧石器時代以来重要な資料を提示している。特に弥生時代から古墳時代にかけては極めて先進的な様相を長期に亘って保持し続けている。これは単なる一地域の問題にとどまらず，当時の西九州と大陸との交流を考えるうえでも重要であり，様々な問題に波及する内容も含んでいるといえよう。

参考文献

『神埼町史』神埼町史編さん委員会　1972
八尋　実『志波屋六本松遺跡』神埼町文化財報告書第９集　神埼町教育委員会　1983
八尋　実『船塚遺跡』神埼町文化財調査報告書第10集　神埼町教育委員会　1984
太田　睦『原古賀遺跡群(1)』中原町文化財調査報告書第９集　中原町教育委員会　1990
杠　一義編『香田遺跡』佐賀県文化財調査報告書第57集　佐賀県教育委員会　1981
東中川忠美編『西原遺跡』佐賀県文化財調査報告書第66集　佐賀県教育委員会　1983
高瀬哲郎編『志波屋六本松乙遺跡』佐賀県文化財調査報告書第103集　佐賀県教育委員会　1991
小松　譲編『都谷遺跡』佐賀県文化財調査報告書第104集　佐賀県教育委員会　1991
高瀬哲郎編『朝日北遺跡』佐賀県文化財調査報告書第110集　1992

2．鈴熊遺跡

本遺跡は，西は嘉瀬川，東は帯隈山，早稲隈山などによって区切られる佐賀郡大和町から佐賀市久保和泉町に広がる東西約5㎞の範囲に分布する先土器時代から中・近世におよぶ遺跡群のなかに位置している。

先土器時代については，佐賀市大門遺跡から尖頭器，藤附E遺跡から台形石器，細石刃，大和町久池井一本松遺跡と惣座遺跡からナイフ形石器などの諸遺物が出土しているが，今のところ明確な遺構を伴った遺跡はなく，この地域の当該期の様相は不明確な点が多い。

縄文時代になると，鈴熊遺跡の西方500ｍ～2㎞には，佐賀市西原遺跡（晩期），久保泉丸山遺跡（早～晩期），藤附A遺跡（後期），金立開拓遺跡（早・前，後期），六本黒木遺跡（前，後，晩期）などが分布する。さらに，西方の大和町には大門遺跡（前，後・晩期），大門西遺跡（後期）などが知られているが，現状では，中期が希薄である一方，後・晩期から遺跡の分布密度が高くなることが指摘されており，金立開拓遺跡では後期末の住居跡の他，後期後葉～晩期初頭，西原遺跡や鈴熊遺跡でも見られた晩期の甕棺墓が検出された。特に久保和泉丸山遺跡や大和町礫石A・B遺跡などで弥生時代まで続く支石墓は，この地域の特徴的な遺構の一つと言える。

続く弥生時代では，久保和泉丸山遺跡に代表されるように縄文晩期から継続する墓地を中心とした遺跡が急速な広がりを見せるようになる。金立開拓遺跡では前期末～中期前半を主体とする甕棺墓と後期前半の箱式石棺墓が2回の発掘調査で明らかにされている。また，三本黒木遺跡でも前期末～中期初め，大門遺跡では中期の甕棺墓が発見されている。また，六本黒木遺跡では，中期の甕棺墓と石蓋土壙墓が組み合わさった二列埋葬が検出された。

集落としては，大和町久池井C遺跡で前期の竪穴住居が発見されたものの，弥生時代の早い段階のまとまった規模の集落は発見されていない。中期以降になると佐賀市琵琶原遺跡の他，大和町惣座遺跡で環濠をもつ拠点集落が発見されるようになる。弥生時代の後半には，特に拠点集落を中心に社会的なまとまりが強化され，次の古墳時代の開始へとつながっていく。

古墳時代になると，この地域では県内でも有数の前方後円墳の集中地帯である。嘉瀬川左岸の大和町一帯には県下最大の船塚古墳や風楽寺・道善寺前方後円墳などの池ノ上古墳群が見られるが，当嘉瀬川右岸でも，4世紀後半の大形前方後円墳として有名な全長98ｍの佐賀市銚子塚古墳や，5世紀前半の大和町前隈山古墳，5世紀後半の佐賀市西原古墳や関行丸古墳，6世紀中頃の大和町の築山古墳などが見られる。また，前方後円墳ではないが，4世紀末～5世紀前半の熊本山古墳山王山古墳や5世紀後半の西原古墳などの大形円墳もみられる。いわゆる群集墳も佐賀市丸山遺跡などで，古墳時代前半期に造営されたものが確認されており，当鈴熊遺跡もその類例として重要なものである。また，後期群集墳も，大和町礫石古墳群，佐賀市黒土原古墳群，金立開拓遺跡，西原遺跡など大規模な古墳群を形成している。以上のうち，特に当

1．帯隈山神籠石
2．熊本山古墳
3．神籠池窯跡
4．小清兵衛山古墳
5．関行丸古墳
6．花納丸古墳
7．鈴熊遺跡
8．西原遺跡
9．丸山遺跡
10．琵琶原遺跡
11．藤附遺跡
12．山王山古墳
13．藤附K遺跡
14．藤附B・C遺跡
15．藤附A遺跡
16．金立開拓遺跡
17．三本黒木窯跡
18．黒土原古墳群
19．乱斗山古墳群
20．大門古墳群
21．六本黒木遺跡
22．大門西遺跡
23．長尾遺跡
24．三郎山遺跡
25．西隈古墳
26．権現原遺跡
27．銚子塚古墳
28．肥前国分寺跡
29．築山古墳
30．肥前国分尼寺跡
31．久池井一本松遺跡
32．礫石B遺跡
33．礫石A遺跡
34．久池井C遺跡
35．前隈山古墳
36．春日遺跡
37．惣座遺跡
38．肥前国府跡
39．友貞遺跡
40．高木城址

Fig. 9　鈴熊遺跡周辺遺跡分布図（1/50,000）

遺跡周辺では，阿蘇凝灰岩を加工した舟形石棺を納めた熊本山古墳が4世紀末の首長墓として注目される。また，久保泉丸山遺跡でも4世紀末～6世紀後半まで連続して造営された古墳群であるが，竪穴式石室から横穴式石室への変遷がわかる良好な遺跡として注目される。

古墳以外では，集落跡が佐賀市西原遺跡，琵琶原遺跡，友貞遺跡，大和町春日B遺跡などで検出されているが，詳細な動向の解明は今後の課題である。また，須恵器窯跡では，佐賀市神籠池窯跡が知られているが，5世紀代の古式の須恵器を焼成している注目すべき窯跡である。

またこの窯跡の背後で，当遺跡の東方約1kmにあたる帯隈山の南斜面には，国史跡の帯隈山神籠石が残っている。

奈良時代になると，大和町久池井地区には肥前国府跡がある。確認調査の結果，南北104.5m，東西72.2mの国庁跡が良好に残っていることが確認された。また，この南側の尼寺地区にも肥前国分寺跡，国分尼寺跡，そして国分寺瓦を焼成した窯跡などが存在する。国分寺跡は方二町の寺域をもつことが知られ，建物基壇跡，築地跡や原位置を動いた状態の礎石が往時の面影を残すのみであったが，発掘調査により，中門，金堂，講堂，小子房などが南北方向に並ぶ伽藍配置が推定された。

以上鈴熊遺跡の所在する，佐賀市北部の金立，久保泉地区と佐賀郡大和町の嘉瀬川左岸地域の歴史を先土器時代から古代まで概観してきたが，特に弥生時代から古代まで重要な遺跡が集中している。当鈴熊遺跡は，縄文時代と古墳時代の遺構遺物が確認されており，以上の諸遺跡と密接な関係をもった遺跡ということが考えられるのである。

参考文献

蒲原宏行他編『金立開拓遺跡』佐賀県文化財調査報告書第77集　佐賀県教育委員会　1984
東中川忠美編『久保泉丸山遺跡』佐賀県文化財調査報告書第84集　佐賀県教育委員会　1986
田平徳栄編『礫石遺跡』佐賀県文化財調査報告書第91集　佐賀県教育委員会　1989

第3章　遺跡各説

切　畑　遺　跡

遺跡名：切畑遺跡（略号　KHA・KHB）
所在地：神埼郡神埼町大字城原字上朝日

切　畑　遺　跡

Ⅰ　遺跡の概要

1．遺跡の立地と歴史的環境

切畑遺跡は，神埼町を南に流れる城原川が脊振山地を抜けて平野部に流れ出るあたり，渓口部西岸の丘陵上（標高約35m）に位置する。東側に拡がる谷部とは約20mの比高差をもつ。平坦部としては比較的狭く，西側には山が迫り，南北両側は深い小渓に抉られ，眼下に城原川を見下ろす地形にある。

切畑遺跡の時代に関係する周辺の遺跡を見ると，まず，旧石器時代では神埼町船塚遺跡で瀬戸内系の石器制作技法が認められることが注目されるほか，吉野ケ里遺跡や東脊振村山古賀遺跡などではナイフ形石器や礫器が採集されている。縄文時代になると遺跡の数はやや増加するが，遺跡の分布は旧石器時代と同様に山麓，丘陵部を中心とする。東脊振村戦場ケ谷遺跡は縄文早・前期を中心とする佐賀平野の代表的な縄文遺跡の一つとして知られ，また，近年の調査では神埼町志波屋六本松遺跡で後期の竪穴住居跡６棟が調査されており，佐賀平野においては縄文時代の竪穴住居跡の希少な例となっている。

弥生時代になって周辺の状況は一変する。最も顕著な出来事は切畑遺跡の東南方約２kmに吉野ケ里遺跡が出現したことである。吉野ケ里遺跡では前期から環壕集落の形成が始まり，中期前半には総延長４kmにも及ぶ外壕をもつ環壕集落へと変貌を遂げて大規模な墳丘墓を築き，

Fig. 1　切畑遺跡周辺地形図（1/2,000）

後期終末まで地域の核として順調な発展を示す。当然ながら，吉野ケ里遺跡の存在は周辺の集団にとっても無関係ではなく，同一の地域勢力としてその中に組み込まれていったものと考えられる。集落遺跡では切畑遺跡もその一つと理解されるであろうし，東脊振村瀬ノ尾遺跡，夕ケ里遺跡なども同様であろう。また，周辺の甕棺墓地では，吉野ケ里遺跡のほか，神埼町の朝日北遺跡，四本黒木遺跡，八子遺跡，志波屋六本松乙遺跡，東脊振村三津永田遺跡，下石動遺跡などが代表的な例である。県下でこれまで調査された甕棺墓の数では，実にその約半数がこれら吉野ケ里遺跡とその周辺の遺跡に集中しており，甕棺墓の最密集地域といえる。

古墳時代では，吉野ケ里遺跡の集落は既に“解体”し，丘陵部や山麓部では東脊振村夕ケ里遺跡と切畑遺跡以外には顕著な集落遺跡が見られなくなる。おそらく水田部の開発に伴って主体は平野部に下って拡がったものと考えられる。古墳の動向を追う限りでは，前期にまず東脊振村の西一本杉ST008号墳(円墳)が出現する。佐賀平野では最古式の土師器壷を供献し，割竹形木棺に銅鏃形式の鉄鏃多数や舶載鏡片を副葬していた。切畑遺跡に近接する神埼町朝日前方後円墳は全長27mの小形墳で2基の箱式石棺を内部主体とし，小形仿製鏡と石釧の副葬が知られ，吉野ケ里遺跡では小形前方後方墳が出現している。後期になっても前方後円墳の築造は続き，切畑遺跡南方に神埼町北外古墳，二子山古墳といった小形の前方後円墳が造られるが，この地域での主体はその東側にあって，神埼町伊勢塚前方後円墳が県下でも有数の巨石横穴をもつ全長78mの前方後円墳として登場，東脊振村下三津西前方後円墳は全長53mの規模を有する。しかしながら，佐賀平野全体を見渡すと，古墳時代後期になって有力な古墳群としては東南方の上峰町目達原古墳群や鳥栖市柚比古墳群が目立つようになり，地域勢力の浮沈に大きな変動が生じたことを窺わせる。周辺における後期の群集墳では丘陵の東南山麓部を中心に猿嶽古墳群，城山古墳群，朝日古墳群など20基前後からなる古墳群が優勢である。

奈良時代には吉野ケ里丘陵を断ち切って佐賀平野を東西一直線に西海道が通り，日の隈山に烽が置かれたと推定され，吉野ケ里遺跡には官衙的建物群が登場する。東脊振村辛上廃寺，上峰町塔の塚廃寺といった私寺が造られ，伝統的地域勢力の健在を示す。

その後，戦国時代には切畑遺跡の西方，通称城山(じょうやま)に小弐氏の居城である勢福寺城が築かれたが，大内氏に破れ，古い格式を誇った戦国大名としては早々と姿を消していった。

2．遺跡の変遷と特色

切畑遺跡は旧石器時代から中世にかかる複合遺跡である。但し，明確な遺構を残す集落等が形成されるのは弥生時代以降で，そのうち弥生時代と古墳時代を中心とする。弥生時代では前期末～中期初，中期末～後期前半の2時期にわたる集落が形成され，古墳時代では後期になってまず南側の谷筋に古墳群が，次いで集落が形成された。さらに平安時代から中世にかけても

土地利用がなされたが，長期の集落を形成するにまでは至らなかった。この間，各時期の集落は比較的短期間でしかも断続的である点に特徴がある。これは地形上の制約によるところが大きかったためであろう。

遺跡は小さな谷を挟んで西側の切畑A遺跡と東側の切畑B遺跡とに分かれる。その内，B遺跡は丘陵端の狭い平坦部にあり，弥生時代かと思われる土壙数基が認められたが，遺構としての性格が明らかでないので，本報告ではこれを省く。以下は，切畑A遺跡を切畑遺跡と呼び替えて報告することにする。

切畑遺跡の地形は丘陵先端のわずかな平端部を利用して営まれている。西南部は西側の北上方から流れる深い谷が南側に回り込んでいるため，自然の表土流失によって遺構が大きく削平されている。東南部は谷に向かって傾斜しながら遺構の分布が拡がること明らかであるが，調査区を外れるため，範囲については不明である。また，北側はB遺跡との間を分断する深い谷が回り込んでおり，調査区境界がほぼ遺跡北限にちかい。調査区の西側には谷筋に沿った山道があり，この山道を西北方に登って行くとなお数基の古墳が点在している。

今回の調査範囲は幅約50mの路線内に限られたため，遺跡の全容を明らかにすることは困難である。ただし，調査は比較的狭い丘陵平端部のほぼ中央を通過したことから，遺跡のおおよそを理解することはある程度可能である。調査区は便宜上，西側の山道を挟んでａ地区とｂ地区に分け，さらに路線が東端のわずかな平坦部をかすめるあたりをｃ地区と呼ぶことにしたが，本来，一連の遺跡であることにかわりはない。したがって，遺構番号もａ・ｂ・ｃ地区を通して呼ぶことにする。遺構の大部分はｂ地区に集中しており，ａ地区は遺跡の西外れにあって古墳５基が集中するほかは比較的まばらである。ｃ地区では弥生中期の甕棺１基と，やはり弥生時代と推定される長方形土壙１基及び方形土壙２基を検出するに止まった。

＜旧石器・縄文時代＞　旧石器時代では黒曜石のナイフ形石器と細石刃を各１点採集した。縄文時代では早期及び前期の土器片約20点が出土したが，器形を知り得るような資料には恵まれず，他に石鏃，削器等の石器を採集しただけで，遺構も不明である。旧石器から縄文時代においては，いわゆるキャンプサイトとして利用されるに止まったためであろう。

＜弥生時代＞　弥生時代では前期末から中期初頭，および中期末から後期前半の２時期に分かれて小規模な集落が営まれるようになる。

まず，前期末から中期初頭にかかる時期の遺構はｂ地区の竪穴住居跡８棟・土壙24基，ｃ地区の土壙３基である。ｂ調査区に限って見れば，竪穴住居跡の分布はほぼ東半に集中しており，円形竪穴３棟，方形竪穴４棟を数え，西側に１棟離れて円形竪穴のSB066がある。住居群としては調査区のさらに東南側に拡がると見られるが，全体の構成は不明である。注目されるのは大形の円形竪穴住居跡SB051で，径約10.4mは完全に他に抜きん出て際立っている。集落の中の集会場等，特殊な機能をもった建物と考えられる。土壙は全体として調査区の北側に偏って分布

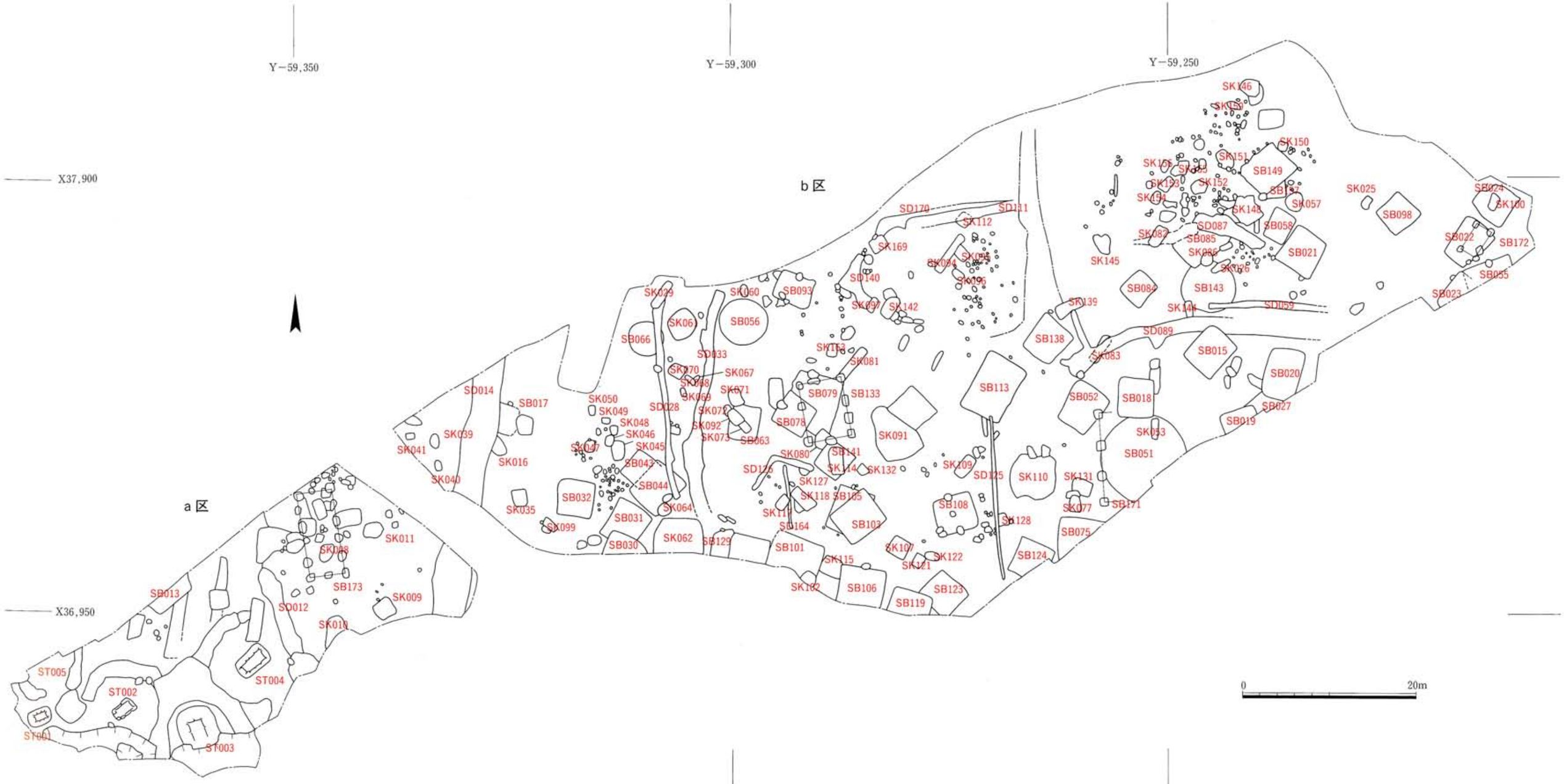


Fig. 2　切畑遺跡遺構分布図（1/400）

する。大部分は貯蔵穴かと考えられる。平面形態は様々で，方形３基，長方形が12基と最も一般的で，これに類して溝状３基，そのほかに楕円形４基，不整形２基がある。全体の配置はとくに規則性は見られないが，ただ，溝状土壙の場合は西南―東北方向に並ぶ傾向があるように思われる。

次いで，一定の空白期間を置いて中期末から後期前半には竪穴住居跡18棟，土壙14基，溝１条がある。竪穴住居跡はSB056が１棟のみ円形，他は全て基本的に長方形である。その内では西側の円形SB056と方形SB031・SB093の３棟が中期末に遡って他に先行する。群は明瞭でないが，SB013のみａ区に離れてあり，この時期の集落全体としては調査区の南側にまで拡がるようである。また，土壙は楕円形が２基，長方形６基，方形５基，不整形１基と様々で，とくに集中するような傾向は認められず，多くは貯蔵穴と考えられる。とくに注意すべきはSD014溝の存在である。ちょうど集落の西側を限るような形で南北一直線に伸びる断面Ｖ字溝で，幅は約3.5mとかなり広い。そもそも遺跡の立地が背後に山を背負い，南側から東側にかけて旧崖をなす高所にあることを思えば，防御的な機能をもつ溝であるとしても，異とするには当たらないであろう。この点は，弥生時代における切畑遺跡の性格を考えるに当たっても大いに関係するところである。遺物は，竪穴住居跡を中心に，前期末～中期初及び中期末～後期前半の土器群が多量に出土し，一部に朝鮮半島系の土器が含まれる。他に若干の石器，玉類，紡錘車，鉄器等が見られるほか，特殊な例としてはSK115土壙から未焼成の投弾110個以上が出土した。

＜古墳時代＞　古墳時代では前期に遡る遺構は見当たらず，後期になって，まず５世紀後半から６世紀前半にａ地区の丘陵西端で古墳が造られ，次いで６世紀にｂ地区で集落が形成される。

古墳は５基を調査した。調査区西北方の谷筋に沿ってさらに数基が分布するが離れており，一応，５基をもって一群としてよいであろう。５基のうちST005は北側半分が調査区外，ST001は墳形不明であるが，竪穴形横口式石室を内部主体とし最も古い様相をもつ。他３基はいずれも横穴式石室を内部主体とする径６～８m前後の小形円墳である。

集落関係では竪穴住居跡17棟，土壙９基，溝４条を検出した。竪穴住居跡は多くがｂ区の南側に偏って分布しており，調査区外にまでさらに拡がる形勢を見せる。いずれも平面は方形を基本とし，17棟の内，11棟がカマドを付設する。竪穴住居跡どうしが切り合うもの，あるいは接するものが２，３あることから，先の弥生時代の集落に比べてやや存続期間が長かったことを思わせる。土壙は円形または楕円形４基，長方形２基，方形１基の各形態が見られる。中には木棺土壙墓状の掘形もあるが，土器等の多量の出土状況からみてその可能性は考えにくく，いずれも性格は不明である。その他，溝は同じ東西方向２条，鍵形１条がある。

遺物は，竪穴住居跡を中心に，土師器が多量に出土した。とくに注目されるのは，須恵器の坏を模した豊富な土師器坏の出土で，供給不足を補足せざるを得なかった当時の須恵器の流通状況を表すものといえよう。SK146土壙から完形で出土した角杯も，土師器としては我が国で初

めての例であり，やはり須恵器に対するつよいあこがれを感じさせる。また，竪穴住居跡の多くから容器や鏡，勾玉等を模した手捏土器が出土しており，住居内で行なわれていた祭祀行為の一端を覗くことが出来る。その他，若干の紡錘車，鉄器等が出土している。

＜平安時代以降＞ 時期は明確でないが，平安時代と推定される溝4条，土壙4基，掘立柱建物跡4棟，および中世と推定される溝3条，土壙4基を検出した。

平安時代の溝は東西あるいは南北方向の区画溝である。掘立柱建物跡はいずれも出土遺物から時期を確定できないが，SB173のように明らかに古墳時代の遺構を切るものがあることから，ここでは平安時代としておく。

中世の溝はいずれも東西溝である。性格は不明であるが，時期は中世末と推定される。

Tab. 1　切畑遺跡遺構一覧表

遺構番号	種　別	形　態	法　量(m)	摘　　要	時　期
ST001	古墳	円墳か		墳丘不明，横口式石室	古墳後期
ST002	古墳	円墳	内径約7.8	横穴式石室，周溝はST003周溝に切られる	古墳後期
ST003	古墳	円墳	内径約7.5	横穴式石室	古墳後期
ST004	古墳	円墳	内径約8.5	横穴式石室，周溝はST003周溝に切られる	古墳後期
ST005	古墳	円墳	内径約6.4	横穴式石室か，主体部は調査区外	古墳後期
SK008	土壙	楕円形	2.24×1.5	平安期のSB173と重なる	古墳後期
SK009	土壙	方形	2.26×2.08		弥生中期末
SK010	土壙	楕円形		南側欠失	平安末か
SK011	土壙	楕円形			平安末か
SD012	溝	南北溝	幅約1.7		平安末
SB013	竪穴住居	長方形か	5.0×	a区の竪穴住居跡では単独	弥生後期か
SD014	溝	南北溝	幅約3.5	断面V字形の溝で集落の西辺を区画する	弥生後期前半
SB015	竪穴住居	長方形	5.04×4.24	SD089に切られる	弥生後期前半
SK016	土壙	楕円形	2.1×1.5	SD014に切られる	弥生中期初
SB017	竪穴住居	方形か		SD014と切り合う	弥生後期前半
SB018	竪穴住居	方形	4.42×4.20	土師器坏多数出土，SB051を切る	古墳後期
SB019	竪穴住居	方形か	4.22×	SB027を切る，南側は調査区外	古墳後期
SB020	竪穴住居	長方形	5.82×4.20	SB027を切る	弥生後期前半
SB021	竪穴住居	方形	4.76×4.64		古墳後期
SB022	竪穴住居	長方形	5.32×4.12	SB172掘立柱建物と重なる	弥生中期初
SB023	竪穴住居	長方形		SB055を切る，南側は調査区外	弥生後期前半
SB024	竪穴住居	長方形	4.50×	SK100と重なる	弥生後期前半
SK025	土壙	隅丸長方形	1.7×1.0	同時期のSB098に近接	弥生中期初
SK026	土壙	長楕円形	2.43×0.8	SB143を切る	古墳後期
SB027	竪穴住居	方形か		SB019・SB020に切られる，南側は調査区外	弥生中期初
SD028	溝	南北溝	幅約0.5～1.0	幅が狭くやや不整形な直線溝	平安末

遺構番号	種　別	形　態	法　量(m)	摘　　要	時　期
SK029	土壙	溝上長方形	3.60×1.05	埋土中から土器多数出土	弥生中期初
SB030	竪穴住居	方形か		南側欠失	弥生後期か
SB031	竪穴住居	長方形か	4.8×4.5	南側欠失，SB030に切られる	弥生中期末
SB032	竪穴住居	方形	4.24×4.11		古墳後期
SD033	溝	南北溝	幅約1.0～1.5	緩く蛇行する南北溝	平安か
SK035	土壙	方形	1.90×1.70		平安末
SK039	土壙	楕円形	1.7×1.1		不明
SK040	土壙	不整形	1.3×0.9		平安末
SK041	土壙	長方形	1.0×0.7		不明
SB043	竪穴住居	方形か	3.54×	SB044を切る	古墳後期
SB044	竪穴住居	長方形	5.40×4.44		弥生後期前半
SK045	土壙	長方形	2.2×1.5	SK046と切り合う	弥生後期か
SK046	土壙	楕円形	1.3×0.95		不明
SK047	土壙	楕円形	1.50×1.25		不明
SK048	土壙	方形	1.05×0.88		弥生後期前半
SK049	土壙	長方形	1.0×0.6		中世
SK050	土壙	長方形	1.06×0.78		不明
SB051	竪穴住居	円形	径約10.2	大形竪穴，SB018に切られる，南側調査区外	弥生中期初
SB052	竪穴住居	長台形	5.28×4.5		弥生中期末か
SK053	土壙	長方形	2.47×0.91	SB051と重なるが先後不明	不明
SB054	竪穴住居	方形か			弥生後期か
SB055	竪穴住居	方形か	5.94×α	SB023と切り合う，南側は調査区外	古墳後期か
SB056	竪穴住居	円形	径約2.8		弥生中期末
SK057	土壙	円形	2.2×2.1		古墳後期か
SB058	竪穴住居	長方形	3.52×2.82		弥生後期か
SD059	溝	東西溝	幅約1.0	幅の狭い直線溝	中世
SK060	土壙	楕円形	1.50×0.95		不明
SK061	土壙	方形	3.08×3.45	大形で掘込みは浅く鍋底状	弥生か
SK062	土壙	方形		竪穴住居の可能性もあるが掘形が浅く不明確	不明
SB063	竪穴住居	長方形	4.10×3.38	SK072土壙ほかを切る	古墳後期
SK064	土壙	方形	1.4×1.3	SB044に切られる	弥生中期初
SB066	竪穴住居	円形	径約2.1	SD028に切られる	弥生中期初か
SK067	土壙	楕円形	0.5×α	SK068に切られる	弥生中期末か
SK068	土壙	楕円形	0.7×α		弥生後期前半
SK069	土壙	長方形	1.05×0.6		弥生後期
SK070	土壙	方形	1.8×1.6		弥生中期初
SK071	土壙	長方形	2.0×1.5		中世
SK072	土壙	楕円形		SK073を切る	弥生中期初
SK073	土壙	溝状	3.48×0.9		弥生中期初
SB075	竪穴住居	方形か	1辺5m以上	土師器坏多数出土，南側は調査区外	古墳後期

遺構番号	種　別	形　態	法　量(m)	摘　　要	時　期
SK077	土壙	円	1.9×1.4	SK031を切る	古墳後期
SB078	竪穴住居	方形	4.17×4.08	SB079を切る	古墳後期
SB079	竪穴住居	長方形	6.72×5.72	土器多数出土	弥生後期前半
SK080	土壙	隅丸長方形	2.15×2.0	SB079に切られる	弥生中期初
SK081	土壙	溝状長方形	約4.2×1.1		弥生中期初
SK082	土壙	長方形	2.75×1.35		弥生中期初
SK083	土壙	長方形	3.48×1.6	SD089に切られる	弥生中期初
SB084	竪穴住居	方形	3.68×3.09		弥生後期前半
SB085	竪穴住居	方形	5.00×4.42	SK086に切られる	弥生後期前半
SK086	土壙	円形	1.6×1.4		古墳後期
SD087	溝	東西溝	幅約1.5～1.8	短くやや弧形	平安末
SD089	溝	東西溝	幅約0.8	SD059に並走	中世か
SB090	竪穴住居	方形	4.30×	手捏土器多数出土	古墳後期
SK091	土壙	不整形		大型掘り込み	不明
SK092	土壙	長方形	約1.7×1.4	SK072を切る	弥生中期初
SB093	竪穴住居	長方形	4.28×3.38	SK095と切り合う	弥生中期末
SK094	土壙	溝状	5.12×0.85		弥生中期初
SK095	土壙	長方形	2.1×1.25		弥生中期初
SK096	土壙	長方形	1.40×0.88		不明
SK097	土壙	隅丸長方形	1.8×0.85		弥生中期初か
SB098	竪穴住居	方形	3.87×3.82		弥生中期初
SK099	土壙	長方形	3.5×1.7		弥生中期初
SK100	土壙	長方形		SB024と切り合う	不明
SB101	竪穴住居	方形か	6.06×	南側欠失	古墳後期
SK102	土壙	方形		南側欠失	古墳後期
SB103	竪穴住居	方形	5.18×4.50	SB105を切る	古墳後期
SB105	竪穴住居	長方形	5.36×4.12		弥生後期か
SB106	竪穴住居	方形か		南側欠失	古墳後期
SK107	土壙	方形	2.3×2.1		弥生中期末
SB108	竪穴住居	方形	4.68×4.11		古墳後期
SK109	土壙	長方形	2.8×1.4		弥生中期初
SK110	土壙	円形		大型掘形	古墳後期
SD111	溝	東西溝	幅約1.4	鍵形に曲がる	平安前期
SK112	土壙	方形か	約1.6×1.5		弥生中期初
SB113	竪穴住居	長方形	7.28×4.98		弥生後期前半
SK114	土壙	長方形	3.2×1.6	SB141と重なる	古墳後期
SK115	土壙	方形か	2.1×α	投弾多数出土	弥生後期前半
SB116	竪穴住居	方形	4.55×	南側欠失	古墳後期
SK117	土壙	隅丸長方形	1.8×1.1		弥生中期初
SK118	土壙	長方形	2.9×1.6		弥生後期か

遺構番号	種　別	形　態	法　量(m)	摘　　要	時　期
SB119	竪穴住居	方形か	4.72×	SB123を切る，南側欠失	古墳後期
SK121	土壙	長方形	1.6×1.2		弥生か
SK122	土壙	楕円形	1.8×1.0		不明
SB123	竪穴住居	方形	4.38×4.10	南側は調査区外	弥生後期前半
SB124	竪穴住居	方形	4.23×4.23	直線溝	古墳後期
SD125	溝	南北溝	幅約0.3～0.5		古墳後期
SD126	溝	鍵状	4.4+4.6		古墳後期
SK127	土壙	円形か			中世か
SK128	土壙	不整形	1.5×α	SD125と切り合う	不明
SK129	土壙	方形か		SB116と切り合う，南側欠失	不明
SK131	土壙	方形	2.2×1.9		弥生か
SK132	土壙	方形	1.15×1.05		不明
SB133	掘立柱建物	南北棟	6.68×4.74	3間×2間	平安か
SB138	竪穴住居	長方形	4.27×α		弥生後期か
SK139	土壙	長方形	3.3×約1.3		弥生か
SD140	溝	不整弧状		角杯出土	古墳後期
SB141	竪穴住居	方形	3.62×3.50		古墳後期
SK142	土壙	隅丸長方形	2.6×1.5		弥生中期初
SB143	竪穴住居	円形	径約6.3		弥生中期初
SK144	土壙	長方形	1.75×0.9		弥生中期末か
SK145	土壙	不整形	2.1×α	3壙集合	弥生後期前半
SK146	土壙	隅丸方形	2.2×2.0		弥生中期初
SK148	土壙	長方形か	2.6×α	SB149に切られる	弥生中期初
SB149	竪穴住居	長方形	5.16×4.38	SB157を切る	弥生後期前半
SK150	土壙	方形	1.12×1.10		不明
SK151	土壙	隅丸長方形	2.45×約1.8		弥生後期か
SK152	土壙	楕円形	2.03×1.63		弥生中期初か
SK153	土壙	長方形	1.82×1.02		古墳後期か
SK154	土壙	不整形	1.57×0.98		弥生中期初か
SK155	土壙	不整形	1.9×1.7		不明
SK156	土壙	方形	1.35×1.00		中世
SB157	竪穴住居	方形か		SB149と切り合う	弥生中期末
SK159	土壙	不整楕円形	1.68×0.8		弥生中期初
SK163	土壙	隅丸長方形	1.85×1.1	磨製石鏃出土	弥生中期初
SD164	溝	南北溝	幅約0.3	幅の狭い直線溝	古墳後期か
SK169	土壙	長方形	1.8×1.4		弥生後期か
SD170	溝	東西溝	幅約1.1	SD111を切る	中世か
SB171	掘立柱建物	南北棟	10.04×(7.04)	桁行3間　東側柱列不明	平安か
SB172	掘立柱建物	東西棟	南北10.04	梁間1間	平安か
SB173	掘立柱建物	南北棟		5間×2間	平安か

II 遺　　構

1．弥生時代の遺構

＜概　要＞

前期末～中期初，及び中期末～後期前半の２時期に分かれて小規模な集落が営まれる。

まず，前期末～中期初ではｂ区の竪穴住居跡７棟・土壙25基がある。竪穴住居跡東側に偏って分布し，平面形では円形がSB051・SB066・SB143の３棟，方形がSB022・SB027・SB098の３棟を数える。住居群としては調査区のさらに東南側に拡がると見られる。注目されるのは径10.4mの大形円形竪穴住居跡SB051で，集落の中で特殊な機能をもつ建物かと考える。土壙は全体に調査区の北側，すなわち台地の縁辺部に偏って分布する。大部分は貯蔵穴であろう。但し平面形は様々で，方形がSK064・SK070・SK146の３基，長方形がSK025・SK080・SK081・SK082・SK092・SK095・SK097・SK099・SK109・SK117・SK142・SK148・SK163の12基と最も一般的で，これに類して溝状のSK029・SK073・SK083・SK094の３基，その他に楕円形のSK016・SK072・SK152・SK154の４基，不整形のSK112・SK154の２基がある。全体の配置はとくに規則性は見られないが，溝状土壙の場合は西南－東北方向に並ぶ傾向があるように観じられる。

次いで，一定の空白期間を置いて中期末から後期前半では竪穴住居跡22棟，土壙13基，溝１条がある。竪穴住居跡はSB056が１棟のみ円形，他は全て基本的に長方形で殆どは主軸が東に傾き，SB013・SB015・SB017・SB020・SB023・SB024・SB030・SB031・SB044・SB052・SB058・SB079・SB084・SB085・SB093・SB105・SB113・SB123・SB138・SB149・SB157の21棟を数え，その内では西側のSB056・SB031・SB052・SB093の４棟が中期末に遡ってやや先行する。

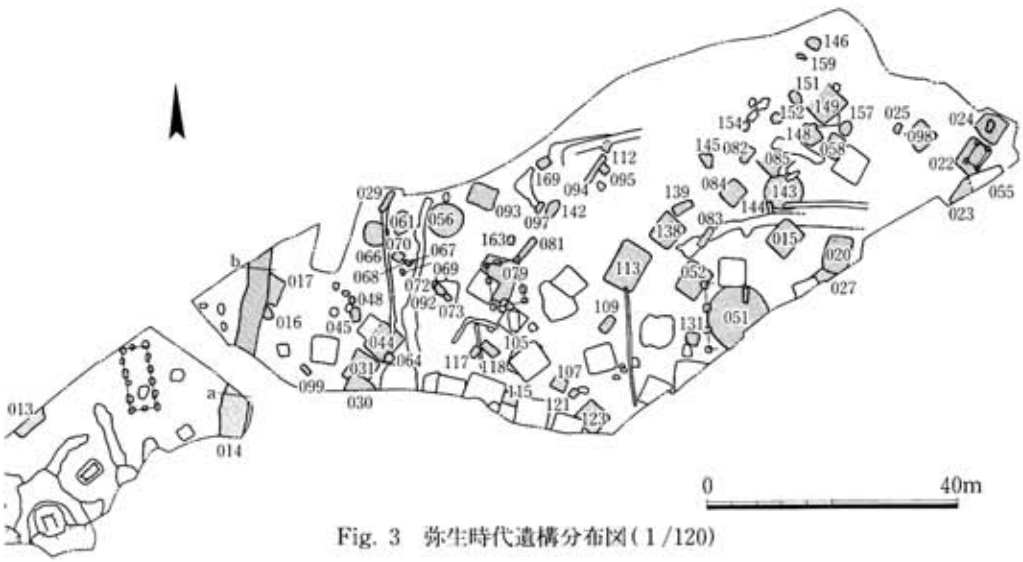


Fig. 3　弥生時代遺構分布図（１/120）

集落全体としては調査区の南側にまで拡がるようである。また，土壙は楕円形がSK067・SK068，長方形がSK045・SK069・SK118・SK144・SK151・SK169，方形がSK009・SK048・SK107・SK115，不整形がSK145と様々で，とくに集中するような傾向は認められない。注意すべきはほぼ集落の西側を限るSD014南北溝の存在で，遺跡の立地から見て，防御的な機能をもつ溝と考える。

(1) 竪穴住居跡

2時期にわたる計29棟について，原則として遺構番号順に図示する。

SB015竪穴住居跡　弥生後期前半
形態　長方形竪穴
法量　5.0m×4.2m
概要　南隅はSD089に削られて不明。四周に側溝を巡らす。中央に小さな炉跡があり，焼土が東側床面に広がる。P. 1とP. 2は主柱穴。P. 3柱穴状掘込みは炉に関わる施設に伴うものか。北隅の穴は床面－30cm。甕・壺・鉢・高坏・器台・手捏土器出土。

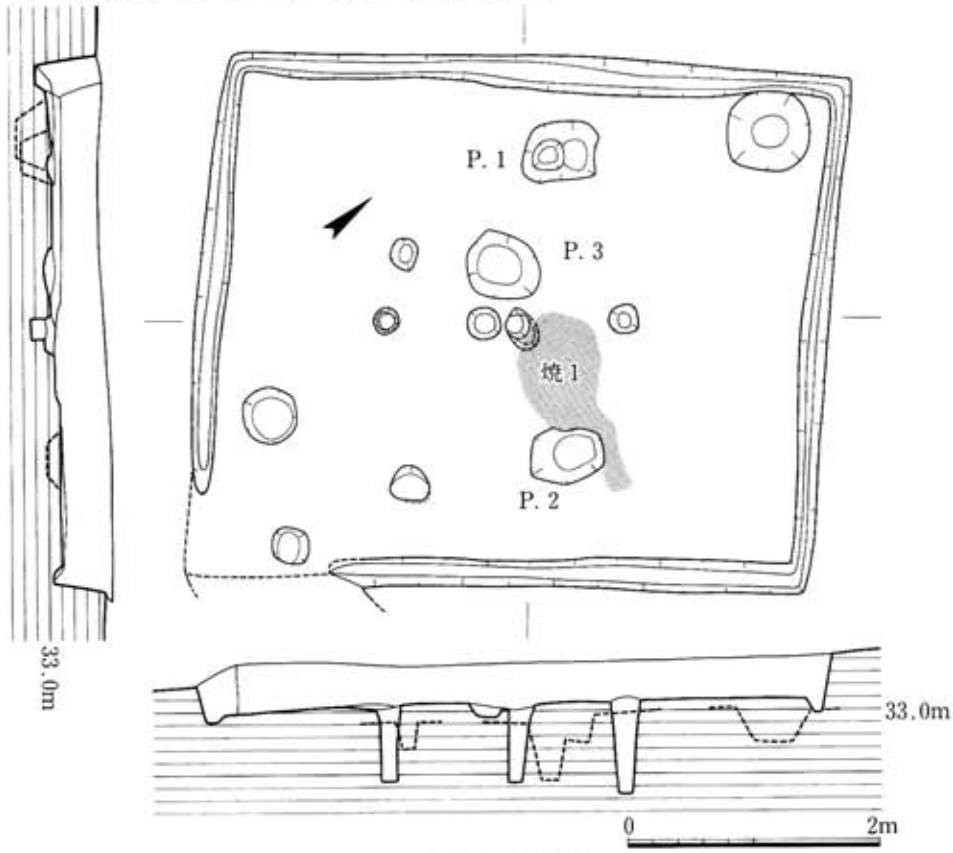


Fig. 4　SB015竪穴住居跡(1/60)

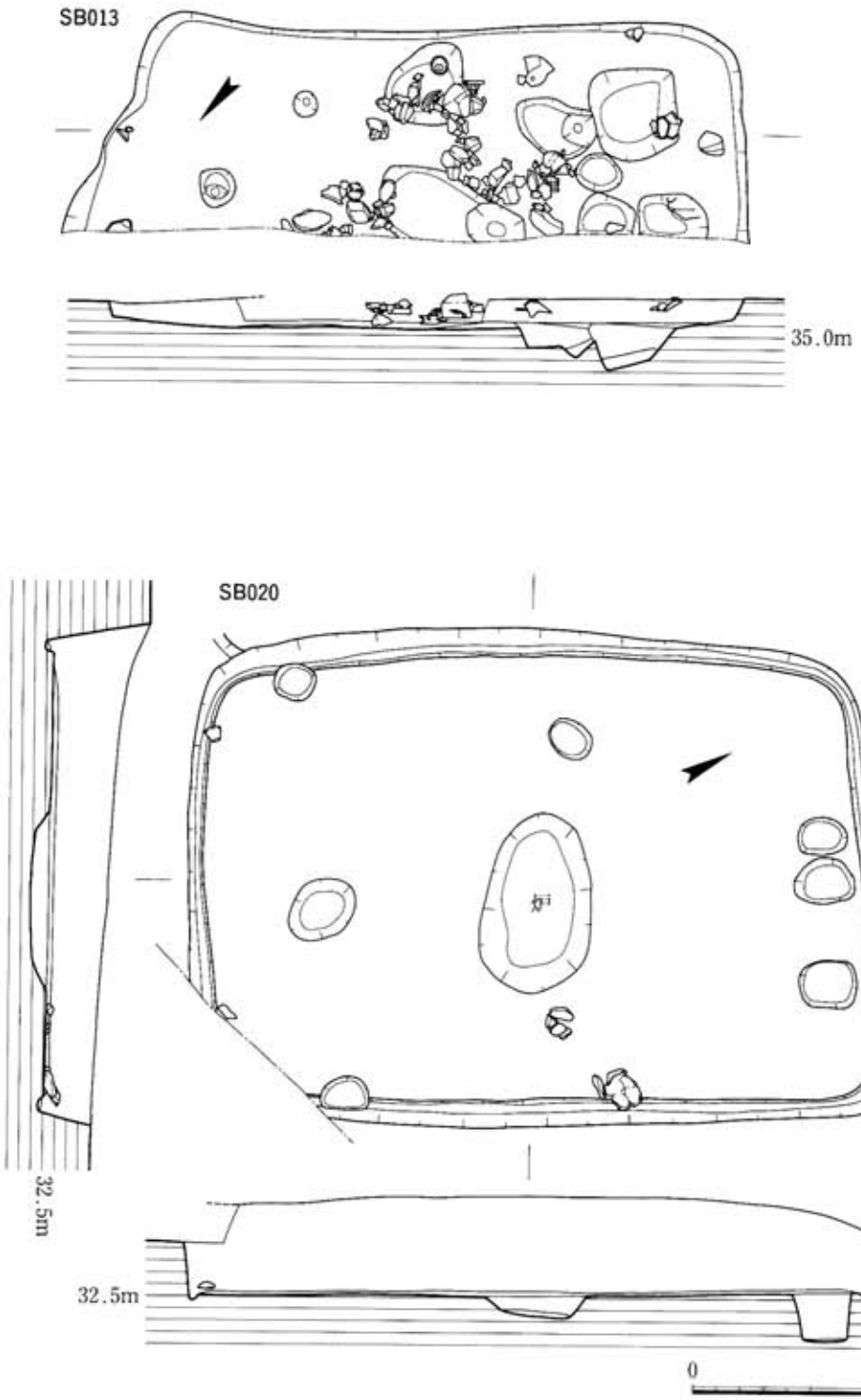
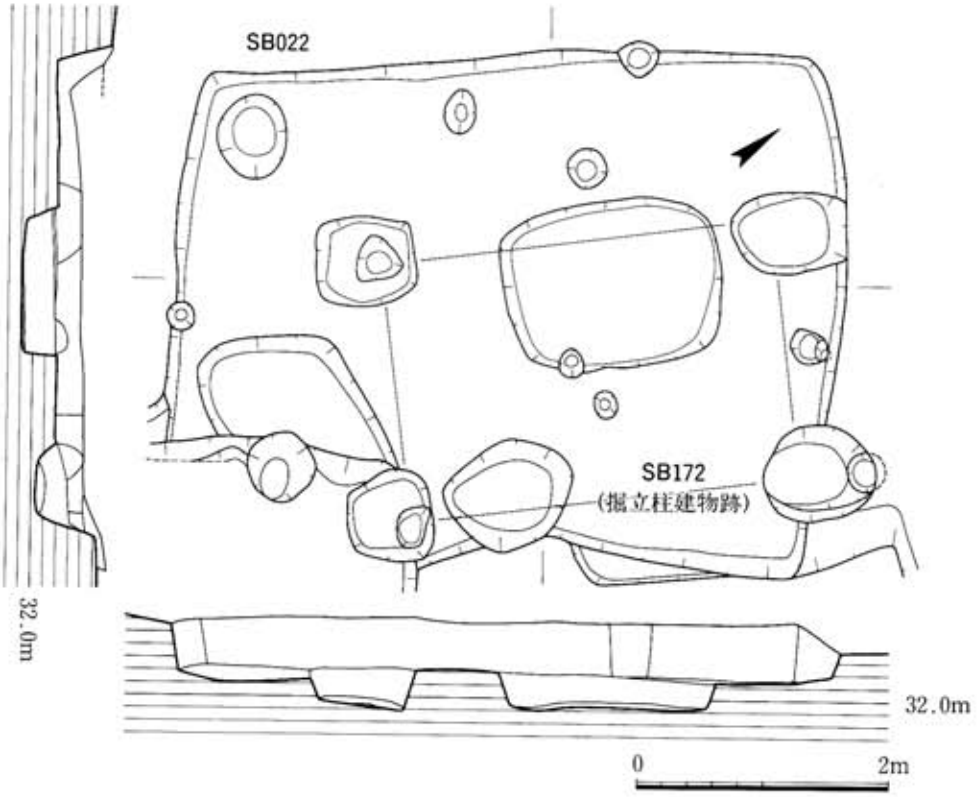


Fig. 5　SB013・SB020竪穴住居跡（1/60）



SB013竪穴住居跡　弥生後期か

形態　長方形竪穴

法量　東南壁長約5.0m

概要　調査区の西外れのａ区に離れて位置し，西北部２分の１以上は調査区外となって不明。上面を後世の掘り込みに荒らされている。発掘された部分の東南部を中心に，床面上に甕片と小礫が散らばる。

SB020竪穴住居跡　弥生後期前半

形態　隅丸長方形竪穴

法量　5.8m×4.2m

概要　南隅は調査区外。四周に側溝を巡らす。中央に大形の浅い楕円形の炉跡があり，炉の東南脇に礫群，東南壁際から甕，西隅際から鉢出土。

SB022竪穴住居跡　弥生中期初

形態　長方形竪穴

法量　5.3m×4.1m

概要　調査区東端に位置し，南隅はSB023と切り合う。上面をSB172掘立柱建物跡に切られるほか，中央のやや北側を長方形土壙，また南隅を不整長方形土壙に荒らされている。ただし時期は異なる。柱穴ならびに炉跡不明。甕・鉢出土。

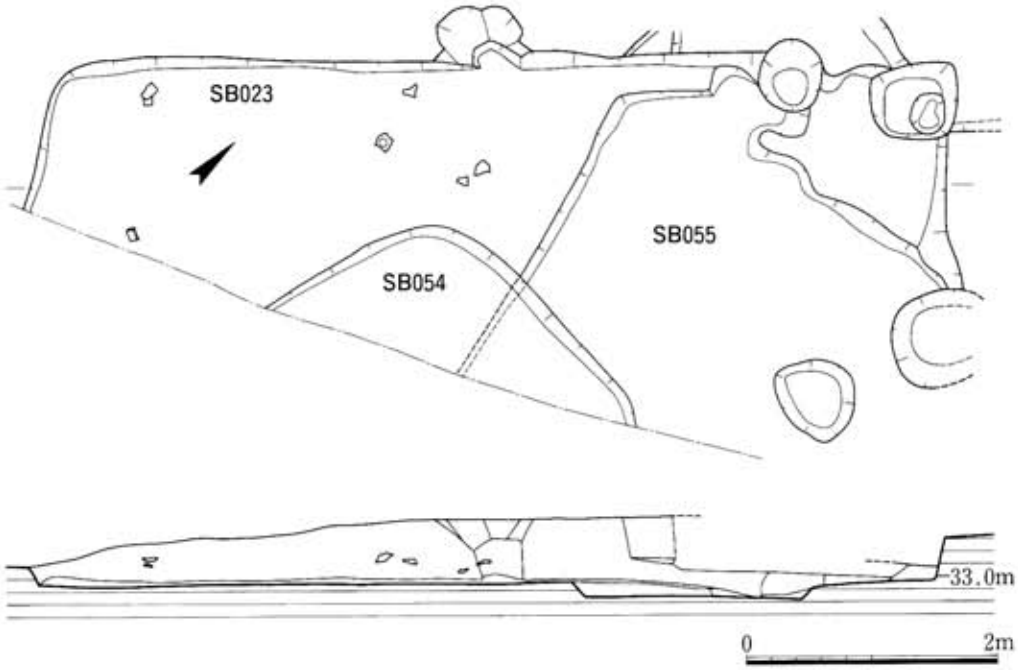
SB172掘立柱建物跡　平安時代か

形態　１間×１間東西棟，方位N30°E

法量　梁間2.1m×桁行3.1m

概要　柱掘形は方形または円形。柱痕不明。平安時代と推定する。

Fig. 6　SB022竪穴住居跡 (1/60)



SB023竪穴住居跡　弥生後期前半
形態　長方形竪穴
法量　西北辺長約7.0m
概要　調査区東端に位置し，北隅がSB022と，またSB054・SB055とも切り合う。新旧関係はSB023→SB054→SB055。東南部2分の1は調査区外。柱穴不明。挟入石斧1・石斧1出土。

SB024竪穴住居跡　弥生後期前半
形態　長方形竪穴か
法量　東南－西北長4.5m
概要　北側を削平される。また中央はSK100長方形土壙に荒らされている。東壁際は1段，帯状に高くなるようであるが，機能不明。段下に床面－約25cmの長方形掘り込みが付設されており，甕・壷・碗等が出土した。

SB054竪穴住居跡
形態　方形または長方形
法量　不明
概要　ともに調査区外となる部分が多く，また切り合いが著しいため，詳細不明。SB054は小形の隅丸竪穴となるか。

SB030竪穴住居跡　弥生後期か
形態　隅丸の長方形または方形
法量　不明
概要　北側のSB031竪穴住居跡を切る。また南側は調査区外。柱穴等の詳細不明。甕・碗・手捏土器出土。

Fig. 7　SB023・SB054・SB055竪穴住居跡（1/60）

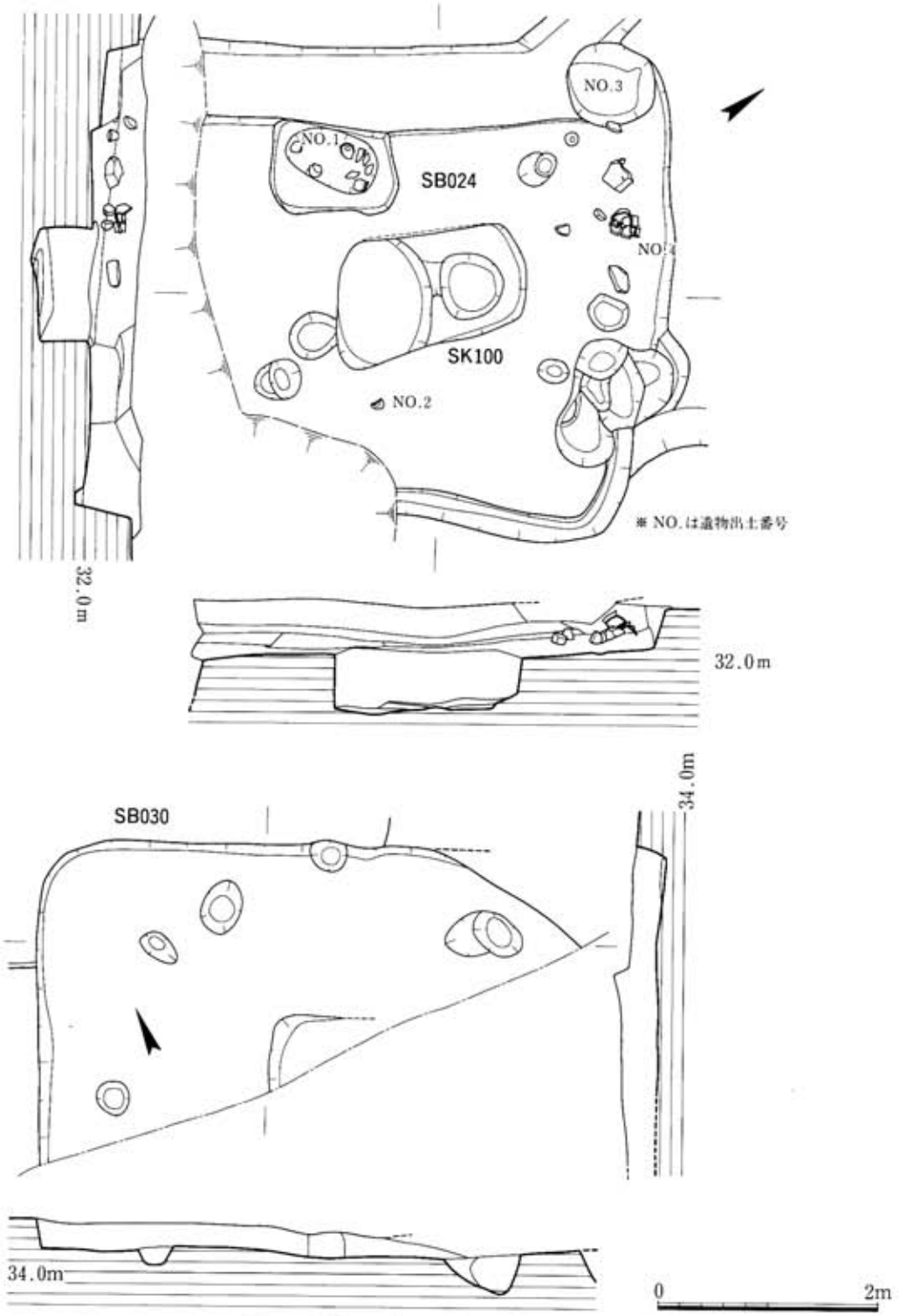


Fig. 8　SB024・SB030竪穴住居跡（1/60）

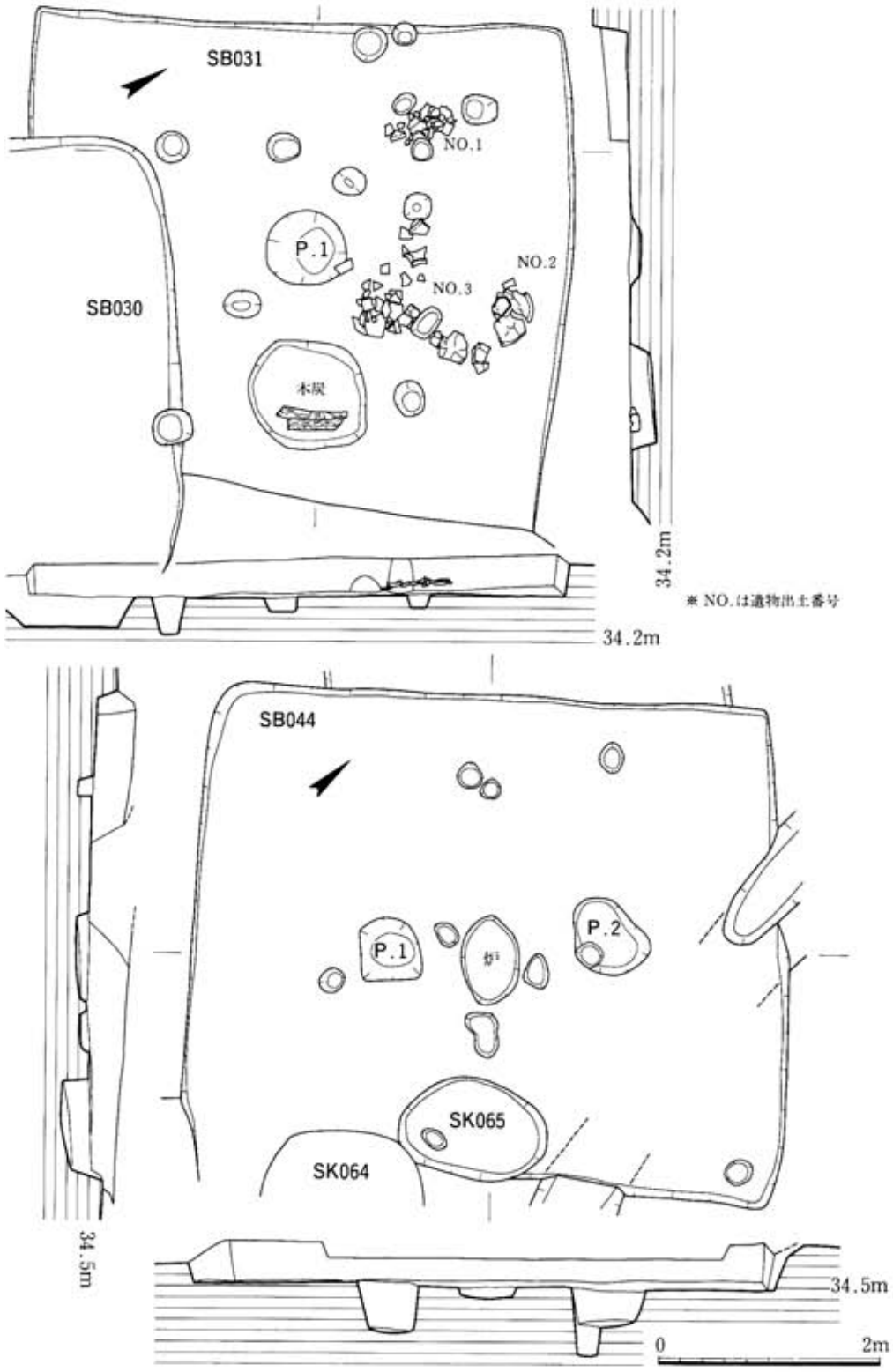
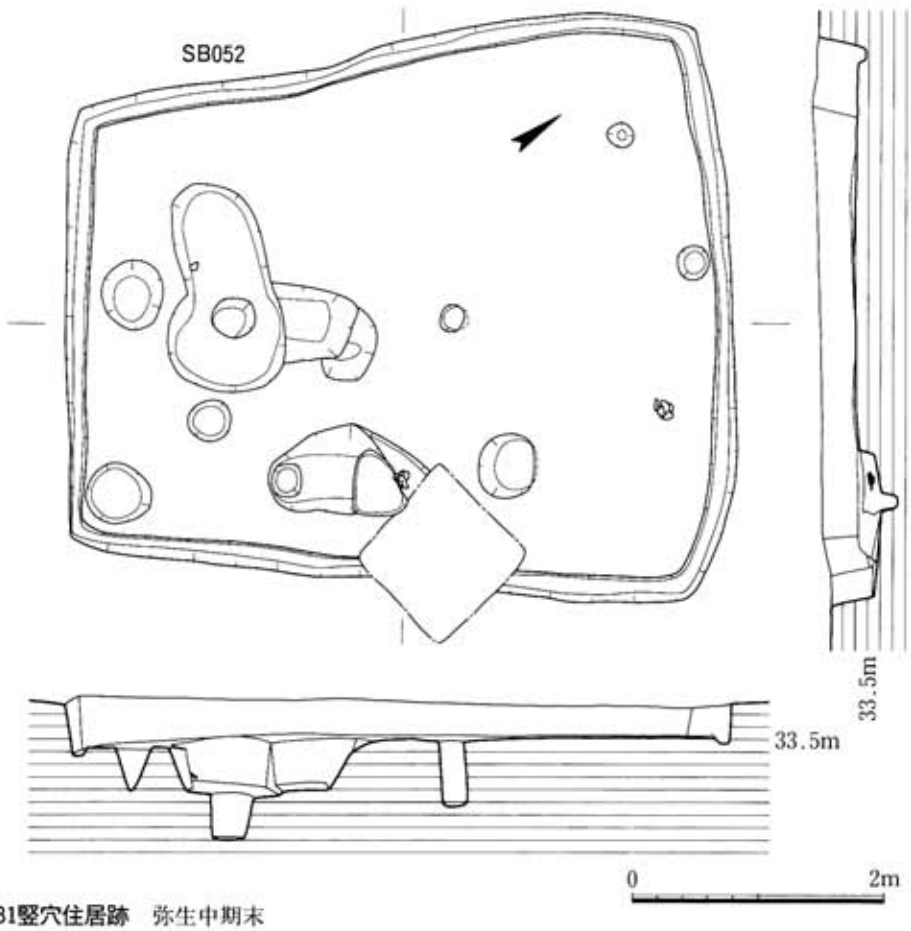


Fig. 9　SB031・SB044竪穴住居跡（1/60）



SB031竪穴住居跡　弥生中期末

形態　長方形竪穴か

法量　南北長4.8m

概要　南側を削平されている。東側の不整円形炉跡からは炭化材が出土し，焼土がその東側に散っていた。柱穴不明。床面北側を中心に甕・壷・器台のほか石包丁２点が出土した。

SB044竪穴住居跡　弥生後期前半

形態　長方形竪穴

法量　5.4m×4.4m

概要　西北側を古墳時代のSB043竪穴住居跡に切られる。また弥生中期のSK064土壙を切る。中央に楕円形炉跡，P.1・P.2は主柱穴。東南壁際の楕円形土壙は入口施設に伴う掘り込みと考えられる。甕・壷出土。

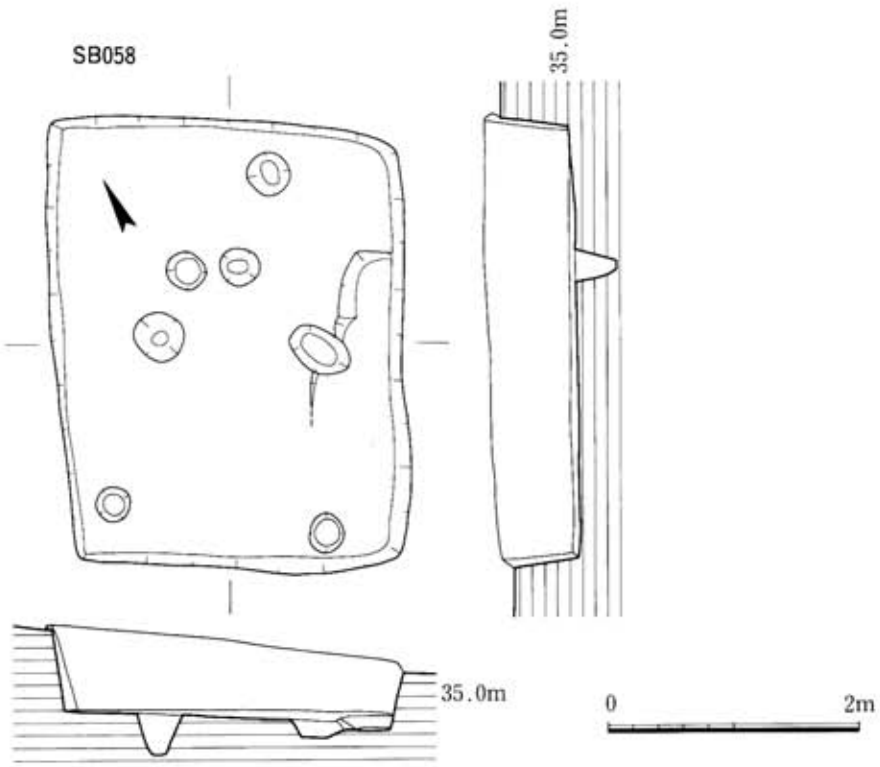
SB052竪穴住居跡　弥生中期末か

形態　長台形竪穴

法量　南北長5.3m，北壁長4.5m，南壁長3.4m

概要　四周に側溝が巡る。南側床面を多くの掘り込みに荒らされている。高坏・石包丁１点出土。

Fig. 10　SB052竪穴住居跡（1/60）



SB058竪穴住居跡　弥生後期か
形態　小形の長方形竪穴
法量　3.5m×2.8m
概要　床面は平坦。炉跡，柱穴不明。

SB056竪穴住居跡　弥生中期末
形態　円形竪穴
法量　径約2.8m
概要　中央に不整円形炉があり，東側床面に土器片が散在していた。P. 1・P. 2は主柱穴。P. 3は斜傾して掘込まれており，主柱穴には当たらないと思われる。甕・壷・蓋・碗・器台出土。

SB066竪穴住居跡　弥生中期初か
形態　円形竪穴
法量　径約2.1m
概要　東側上面を中世のSD028溝に切られる。中央に浅い楕円形炉があり，その両脇にいわゆる松菊里タイプの主柱穴P. 1・P. 2を配する。打製石斧出土。

Fig. 11　SB058竪穴住居跡（1/60）

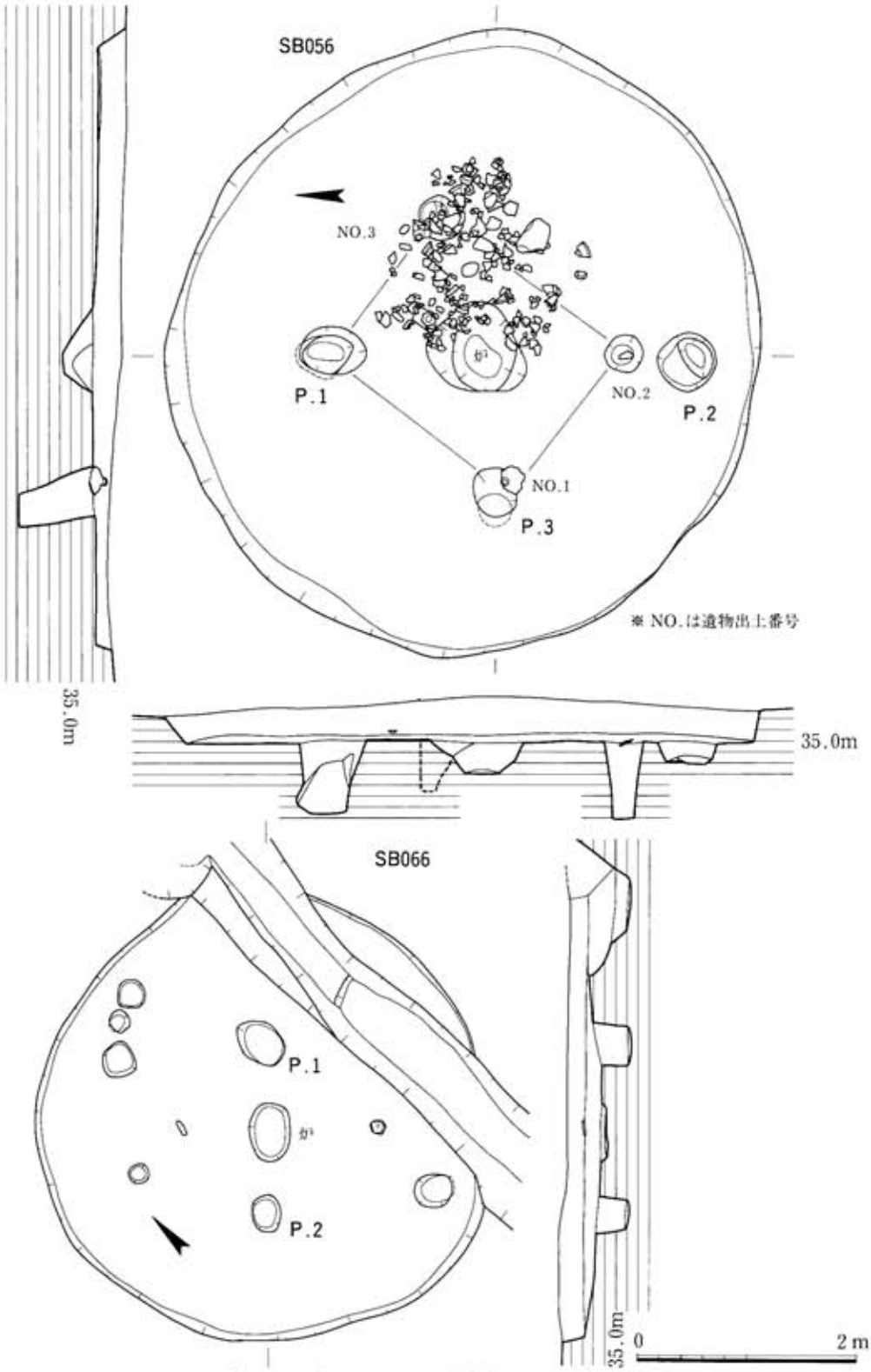


Fig. 12　SB056・SB066竪穴住居跡（1/60）

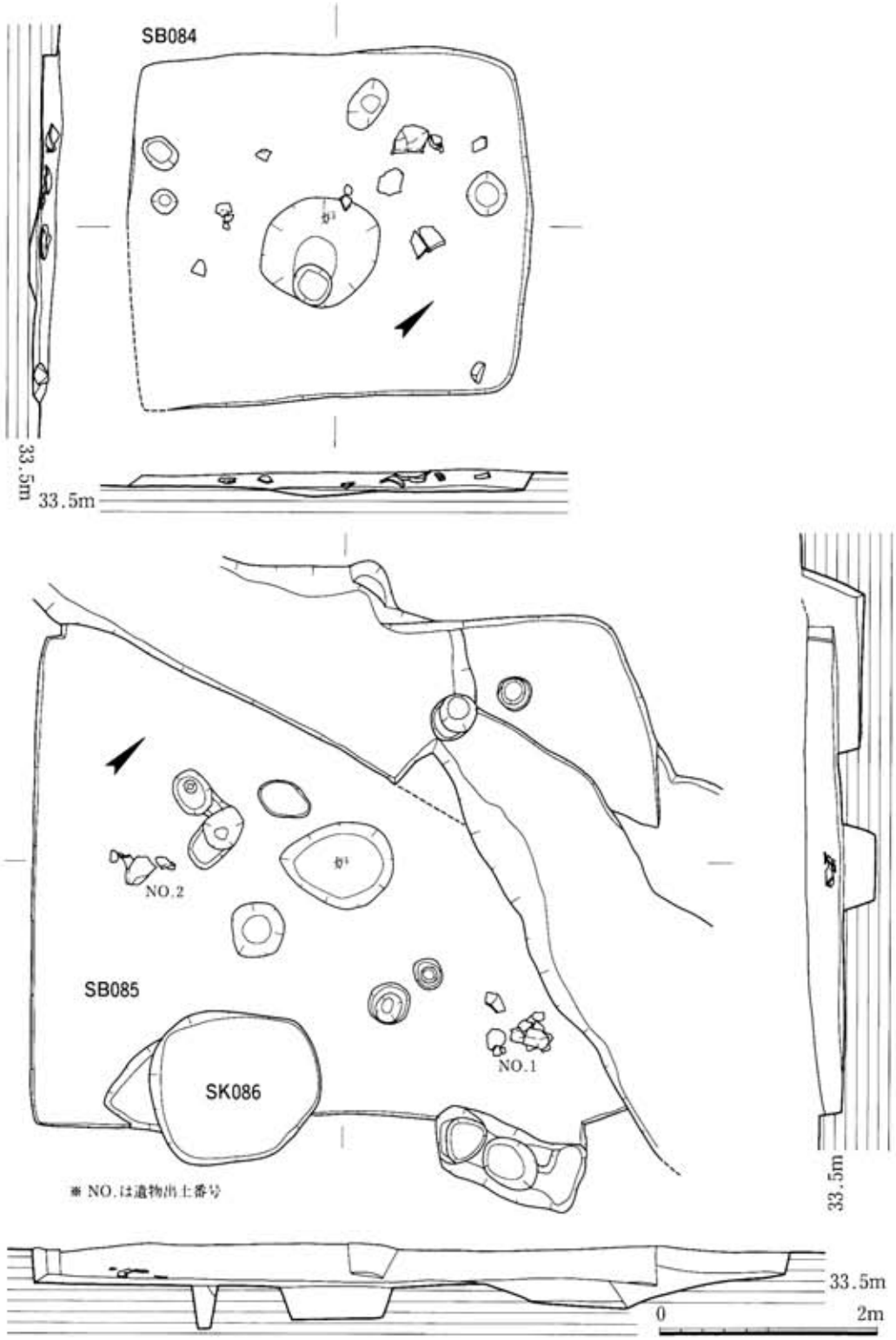
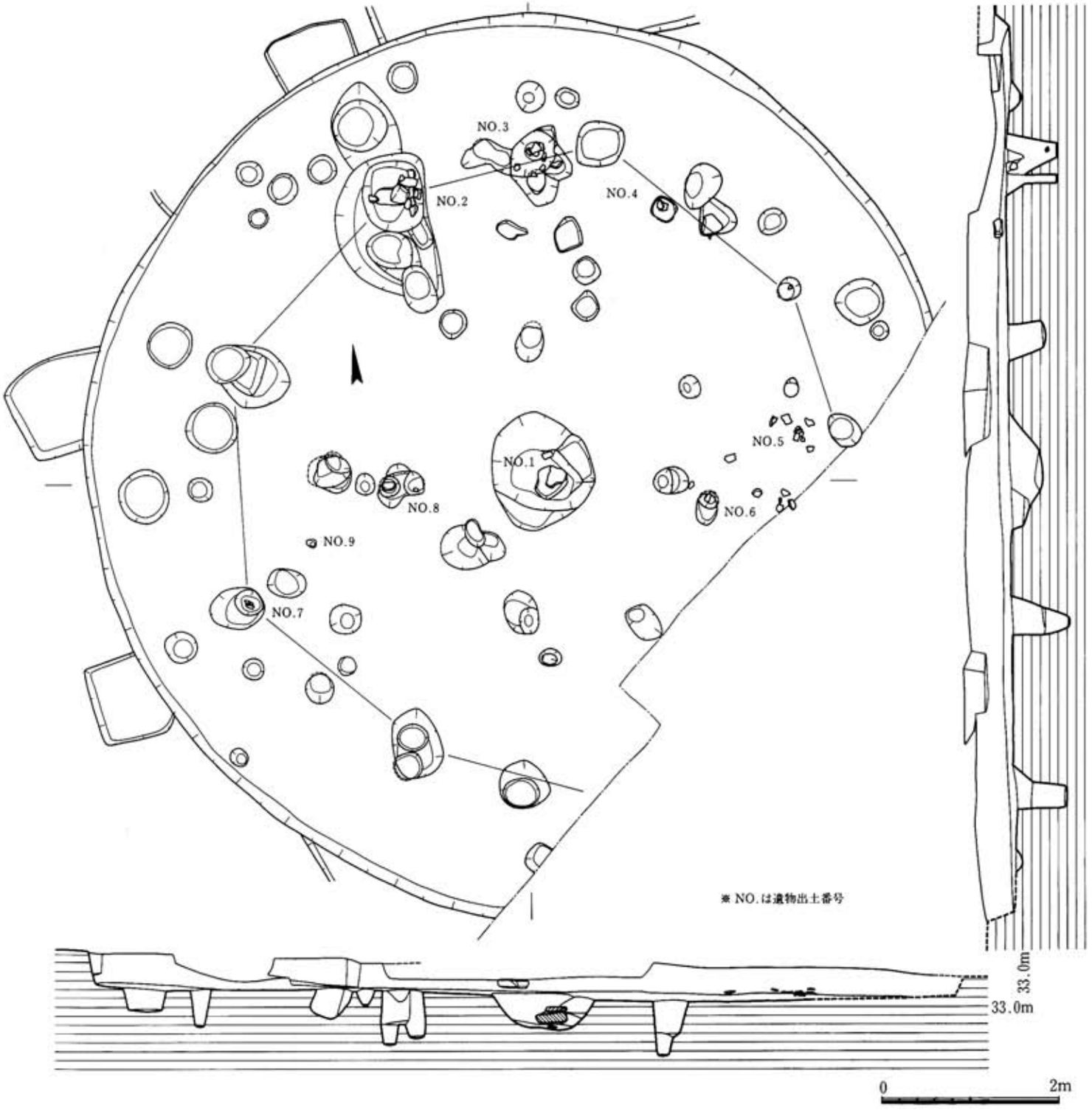


Fig. 13　SB084・SB085竪穴住居跡（1/60）

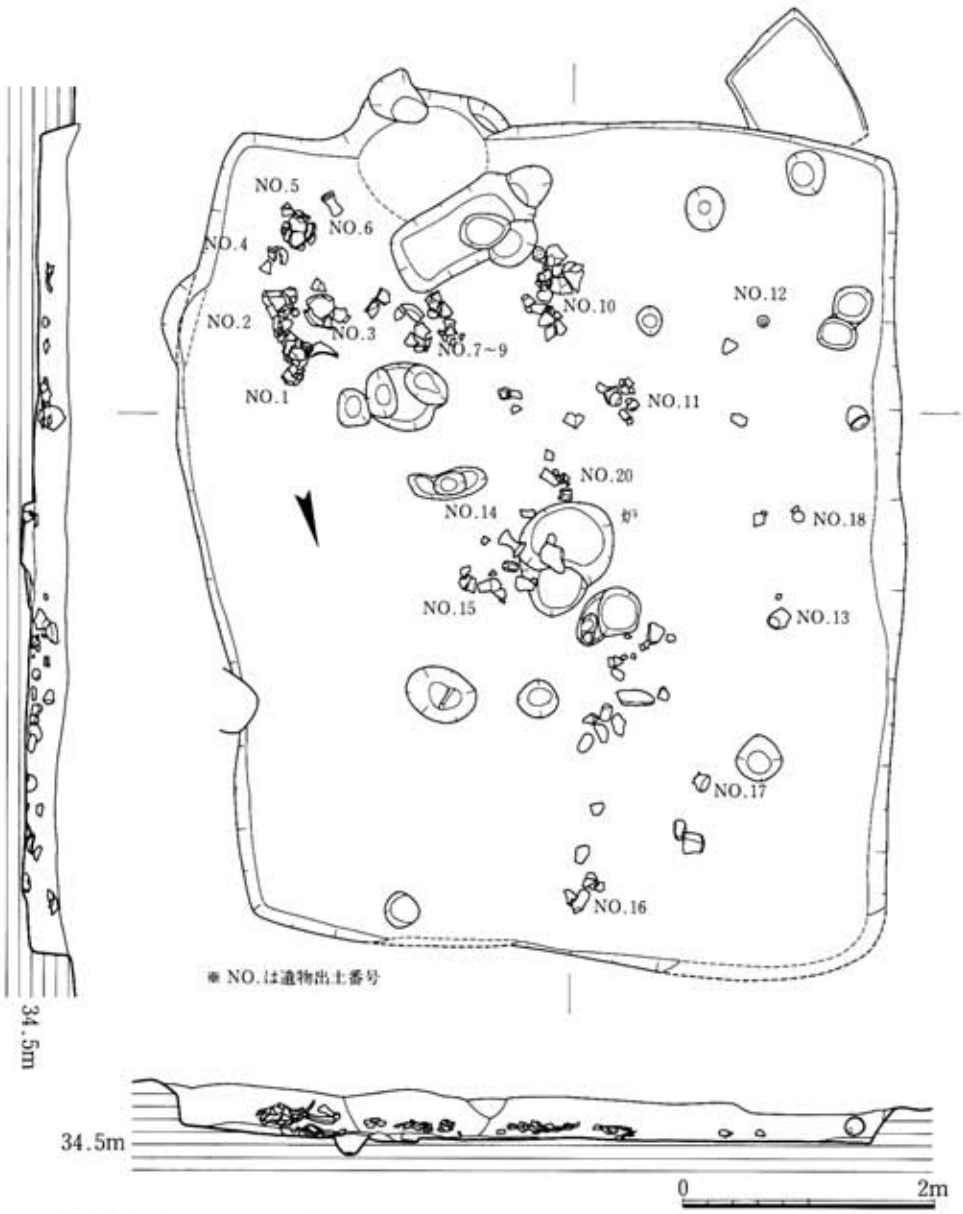


SB084竪穴住居跡　弥生後期前半
形態　小形の方形竪穴
法量　3.7m×3.1m
概要　上面の削平が著しく，南隅の壁立ち不明。中央に大形の炉をもつ。柱穴不明。東北側を中心に甕，器台が出土した。

SB085竪穴住居跡　弥生後期前半
形態　方形竪穴
法量　5.0m×4.4m
概要　北側を中世のSD087溝に切られ東北側壁不詳。また南隅付近を古墳時代のSK086土壙に切られている。中央に楕円形の炉を掘る。主柱穴不明。床面からは甕・壷・碗が出土した。

SB051竪穴住居跡　弥生中期初
形態　大形の円形竪穴
法量　径約10.2m
概要　上面を平安時代のSB171掘立柱建物跡に切られる。東南部は一部調査区外。中央に石敷きの円形炉があり，石斧1点が出土した。壁に沿って深さ60cm前後の柱穴が巡る。甕・壷・蓋・鉢・高坏・支脚のほか，石器は太形蛤刃石斧1点，削器・石匙・石錐・石鏃が出土した。

Fig. 14　SB051竪穴住居跡（2/60）



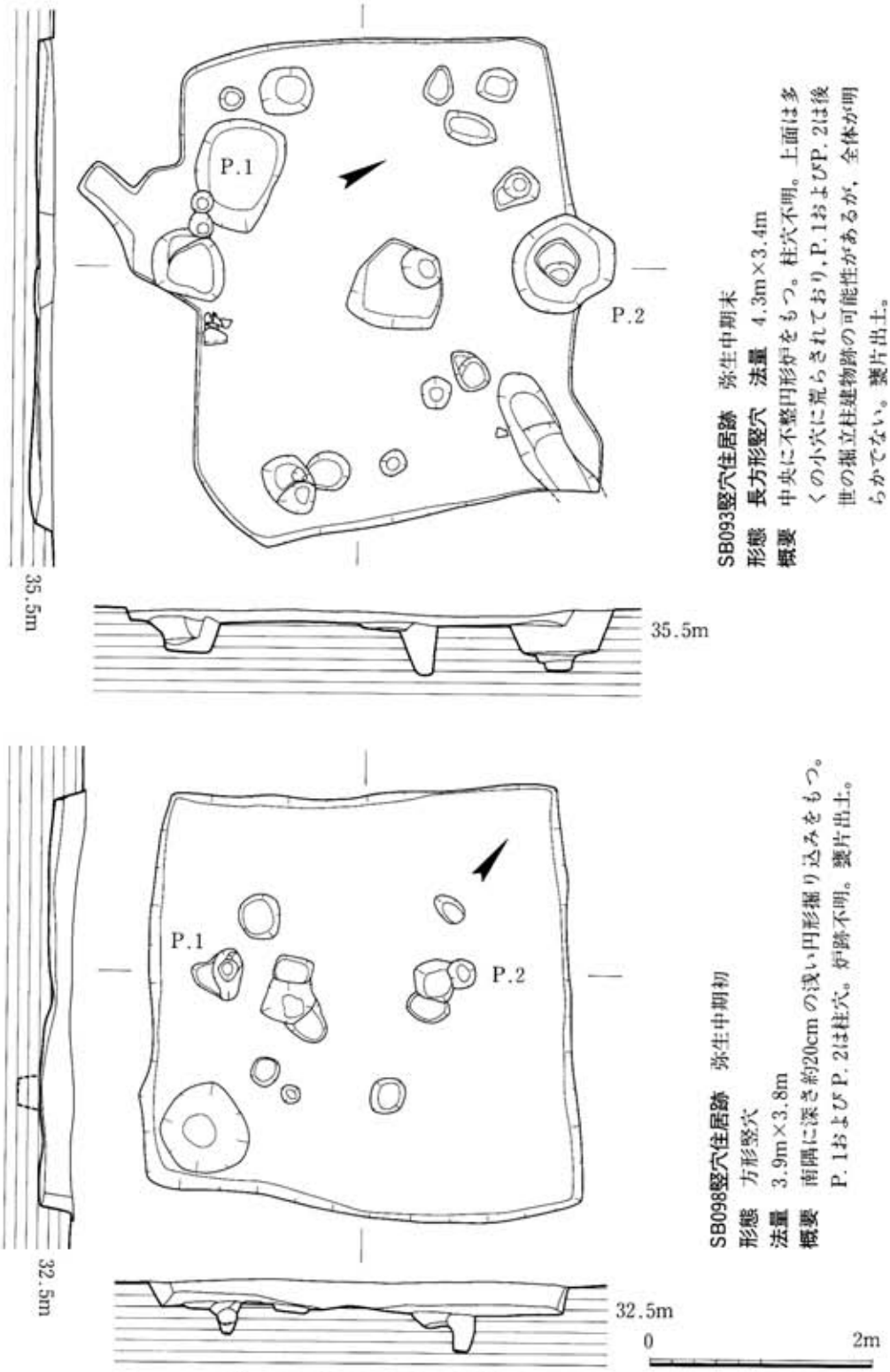
SB079竪穴住居跡　弥生後期前半

形態　長方形竪穴

法量　6.7m×5.7m

概要　中央に浅い円形炉をもつ。主柱穴不明。東南隅を別時期の掘込みによって荒らされる。炉脇および南側から甕・壷・器台・高坏・支脚・鉢・碗多数が出土した。

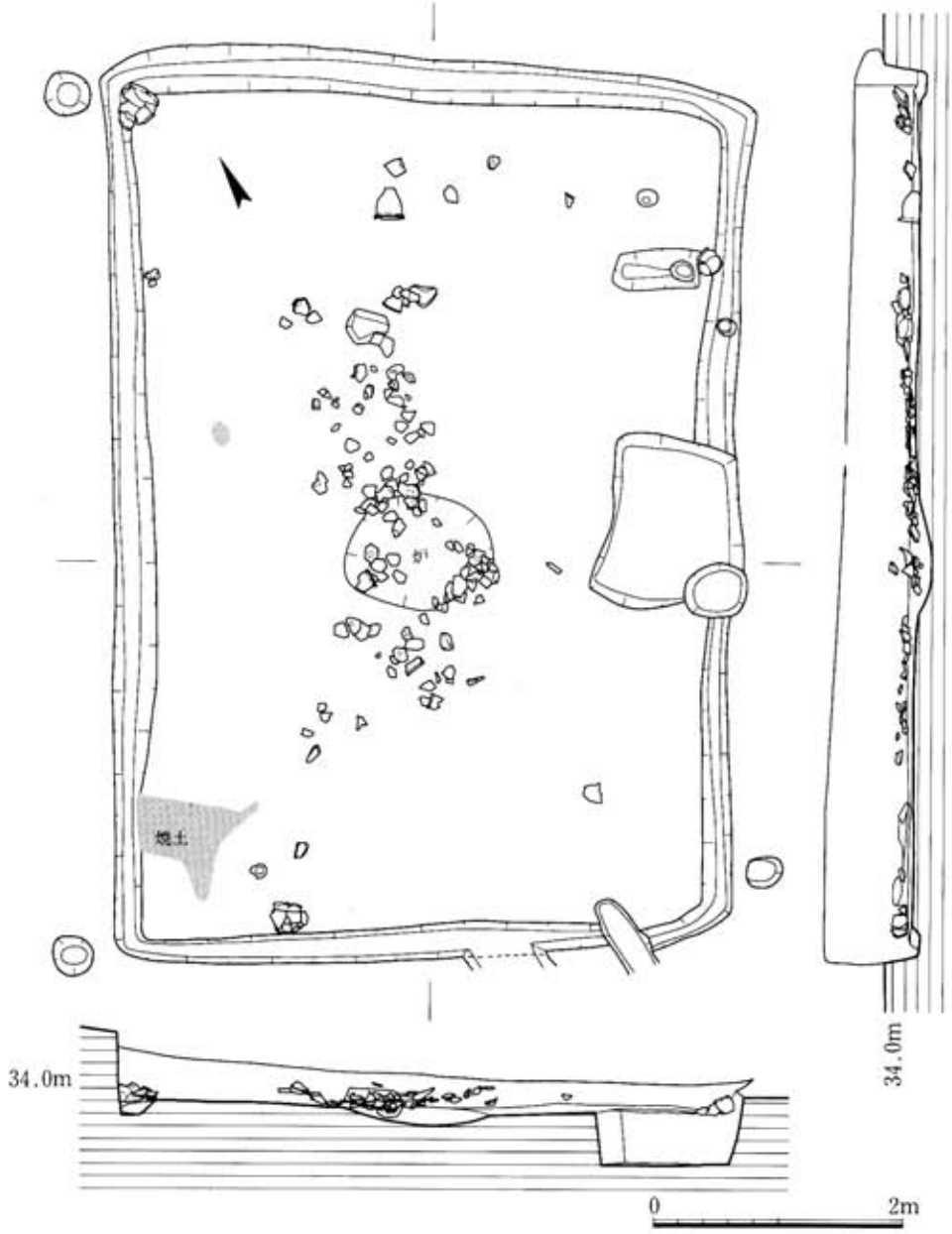
Fig. 15　SB079竪穴住居跡（1/60）



SB093竪穴住居跡　弥生中期末
形態　長方形竪穴　**法量**　4.3m×3.4m
概要　中央に不整円形炉をもつ。柱穴不明。上面は多くの小穴に荒らされており，P.1およびP.2は後世の掘立柱建物跡の可能性があるが，全体が明らかでない。甕片出土。

SB098竪穴住居跡　弥生中期初
形態　方形竪穴
法量　3.9m×3.8m
概要　南隅に深さ約20cmの浅い円形掘り込みをもつ。P.1およびP.2は柱穴。炉跡不明。甕片出土。

Fig. 16　SB093・SB098竪穴住居跡（1/60）



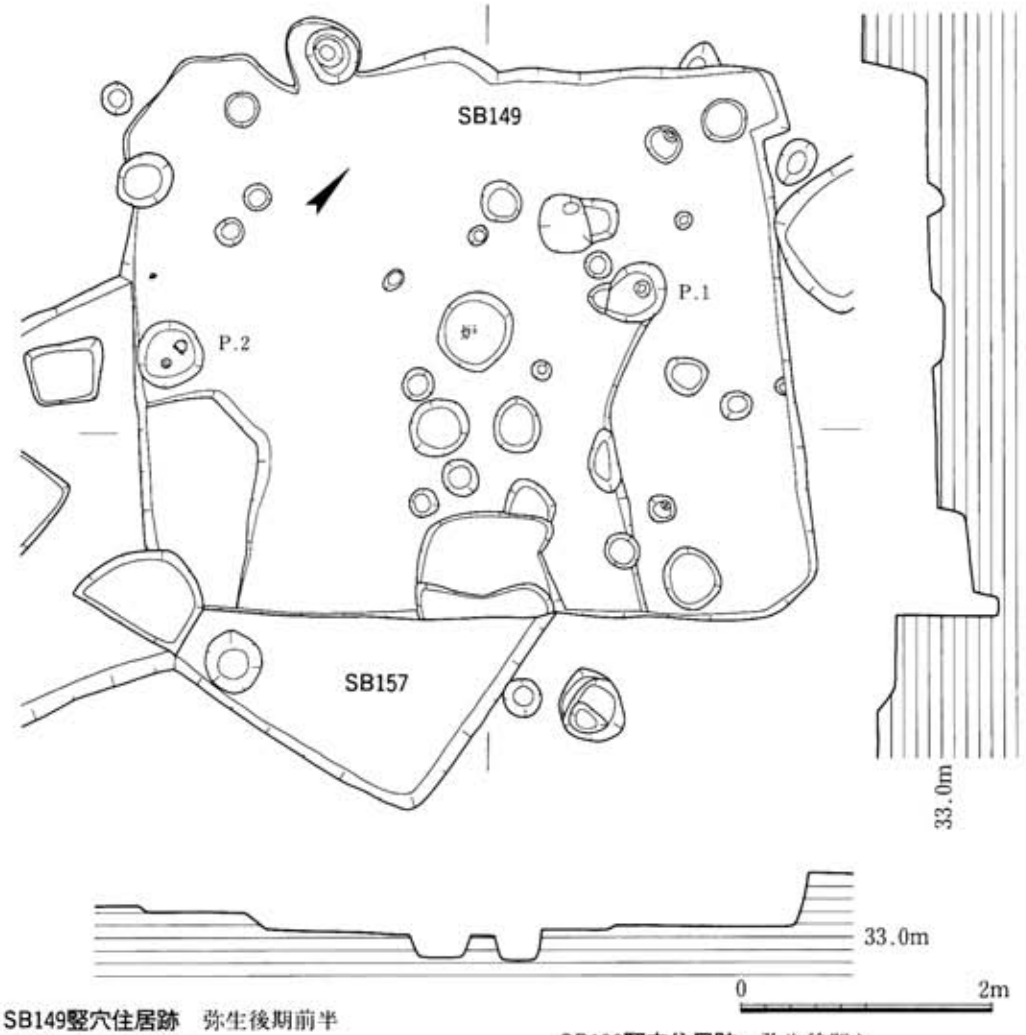
SB113竪穴住居跡　弥生後期前半

形態　長方形竪穴

法量　7.3m×5.0m

概要　四周に側溝を巡らす。中央に楕円形の炉があり，西隅に焼土が固まりをなす。東壁際中央の掘り込みは入口施設に関係するものと考えられる。壁際数カ所及び中央付近から甕・壺・碗・高坏・器台・支脚・手捏土器のほか砥石１点が出土した。

Fig. 17　SB113竪穴住居跡（1/60）



SB149竪穴住居跡　弥生後期前半
形態　長方形竪穴
法量　5.2m×4.4m
概要　SB157と切り合う。先後関係はSB157→SB159か。中央に円形炉をもち，南隅と東隅にそれぞれ5cm，10cm程度のベット状高まりが見られる。東南壁際中央の方形掘り込みは入口施設に関係するものと考えられる。

SB157竪穴住居跡　弥生中期末
形態　方形または長方形竪穴
法量　不明
概要　西南壁中央の半円形掘込みは入口施設に関係するものと考えられる。西南部の一部しか残存せず，詳細不明。甕出土。

SB138竪穴住居跡　弥生後期か
形態　長方形竪穴
法量　西北－東南長4.3m
概要　壁立ちが5cm程度しか残っておらず，詳細不明。床面上の小穴群もこれに伴うかどうか不明。碗出土。

SB143竪穴住居跡　弥生中期初
形態　円形竪穴
法量　径約6.3m
概要　北側壁は古墳時代のSK086に，また西南側は弥生後期のSK144に切られる。上面削平により東側の壁立ちがわずかに残る。柱穴P.1～P.6が壁に沿って一周する。炉跡不明。

Fig. 18　SB149・SB157竪穴住居跡（1/60）

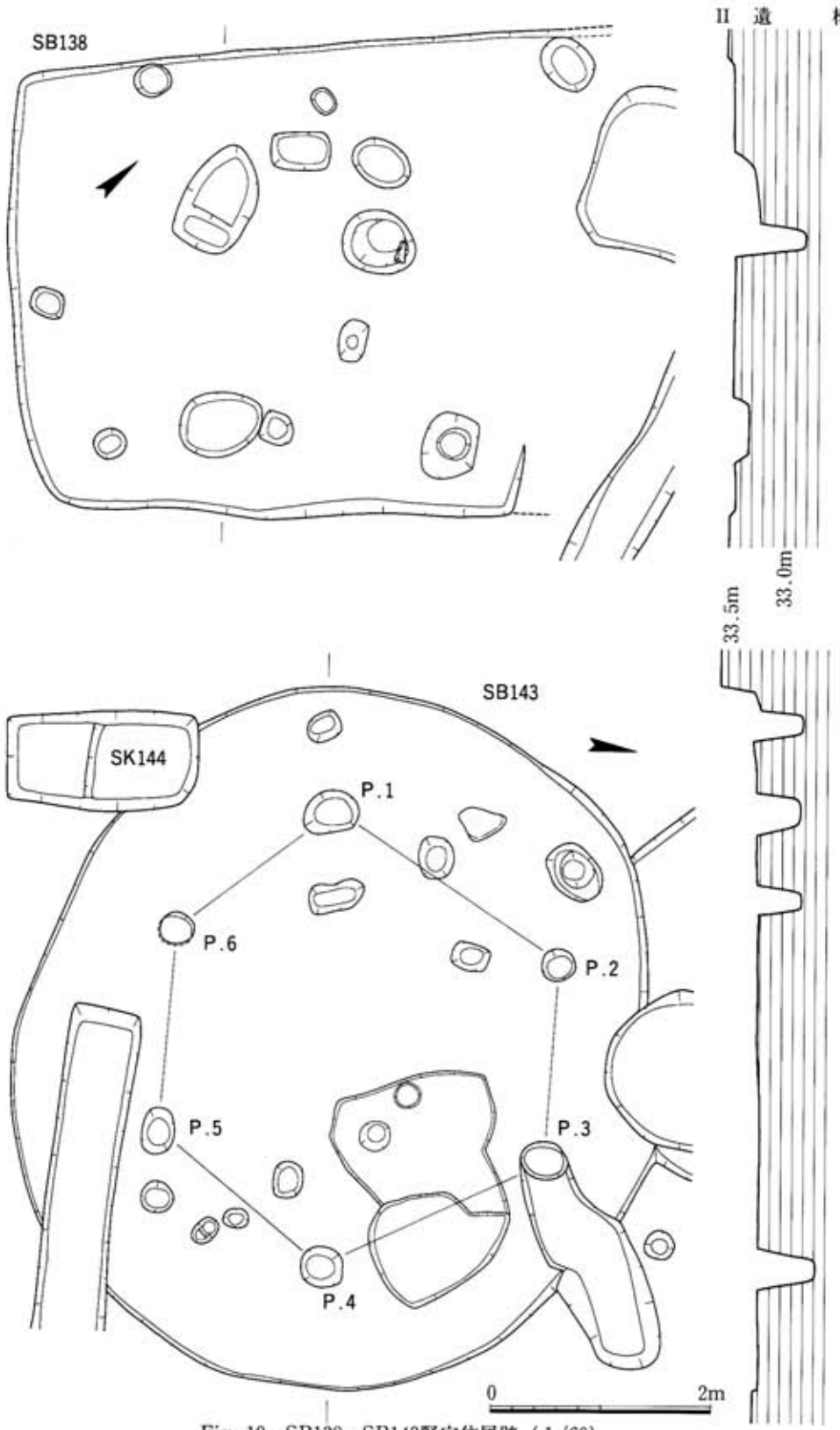


Fig. 19 SB138・SB143竪穴住居跡（1/60）

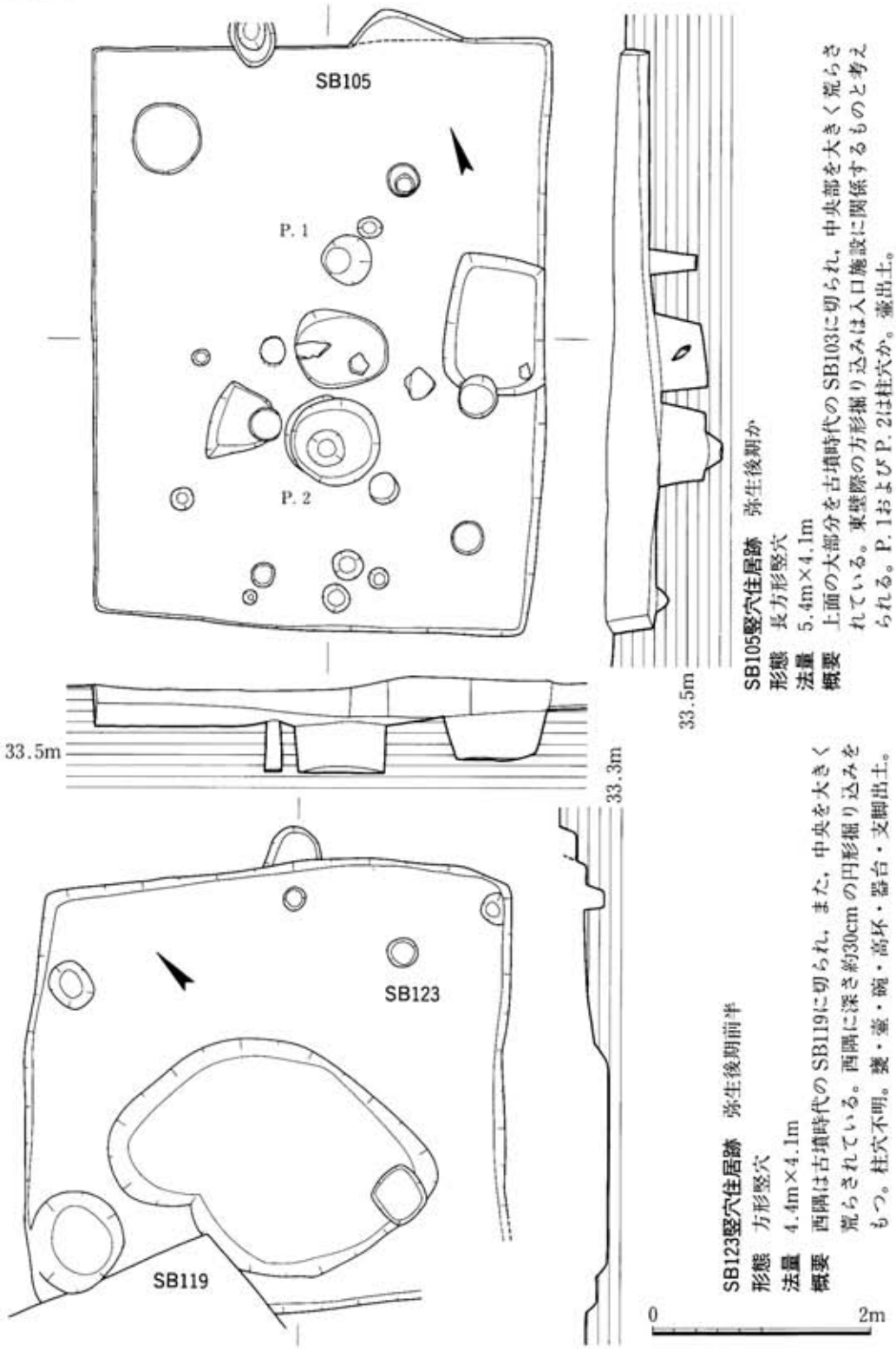
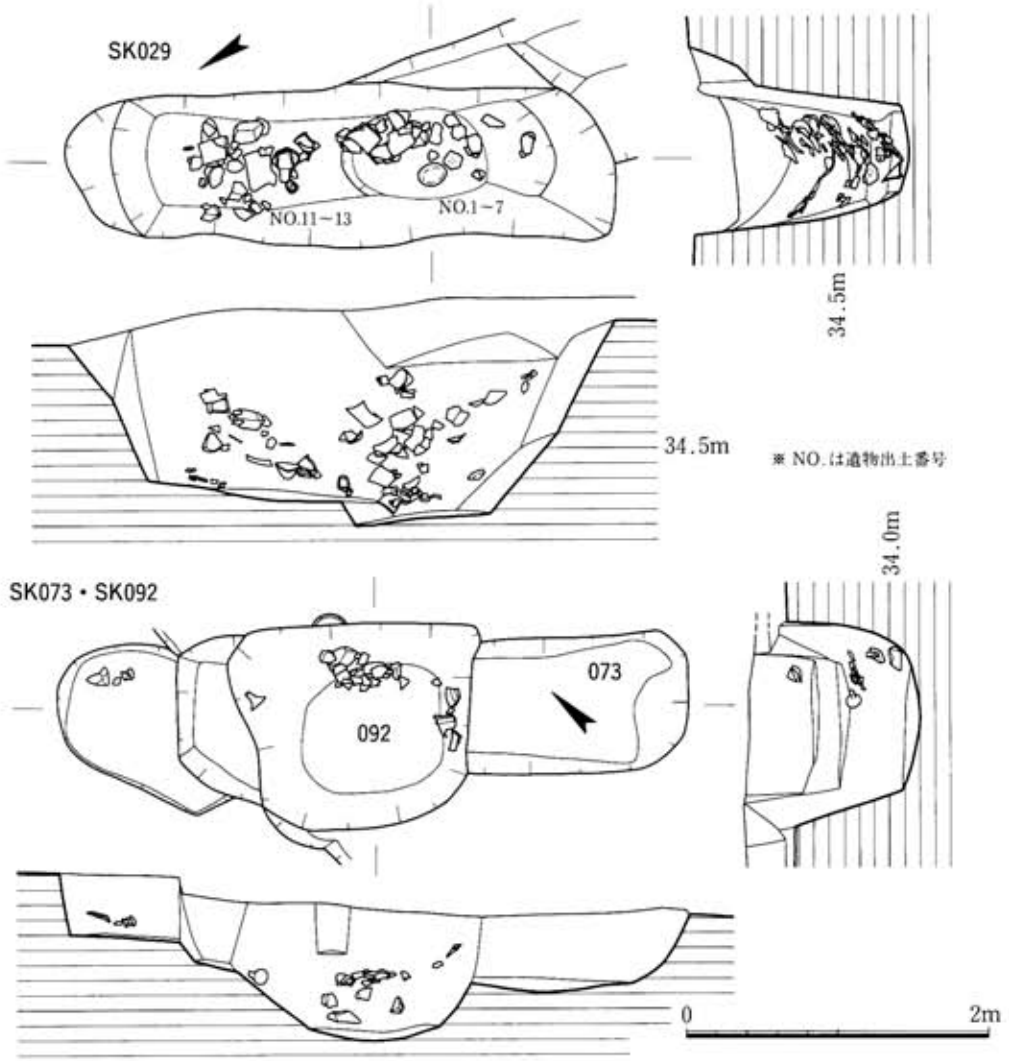


Fig. 20　SB105・SB123竪穴住居跡（1/60）

(2) 土　　壙

2時期にわたる計38基を平面形態によって，a溝状長方形，b方形，c長方形，d不整形他に区分し，原則として遺構番号順に図示する。大部分は貯蔵穴かと考えるが，土器の出土状況等からはその確証がないので，ここでは土壙として扱うことにする。

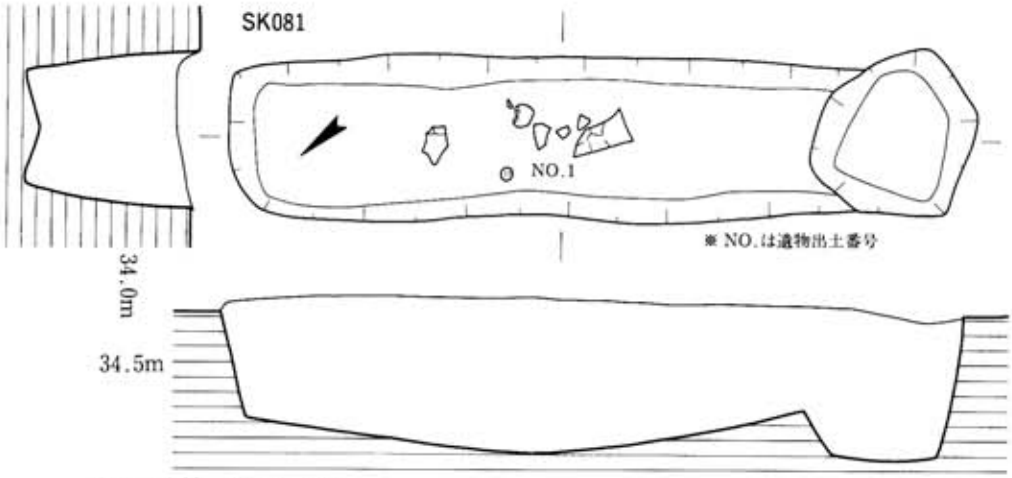
a　溝状長方形土壙



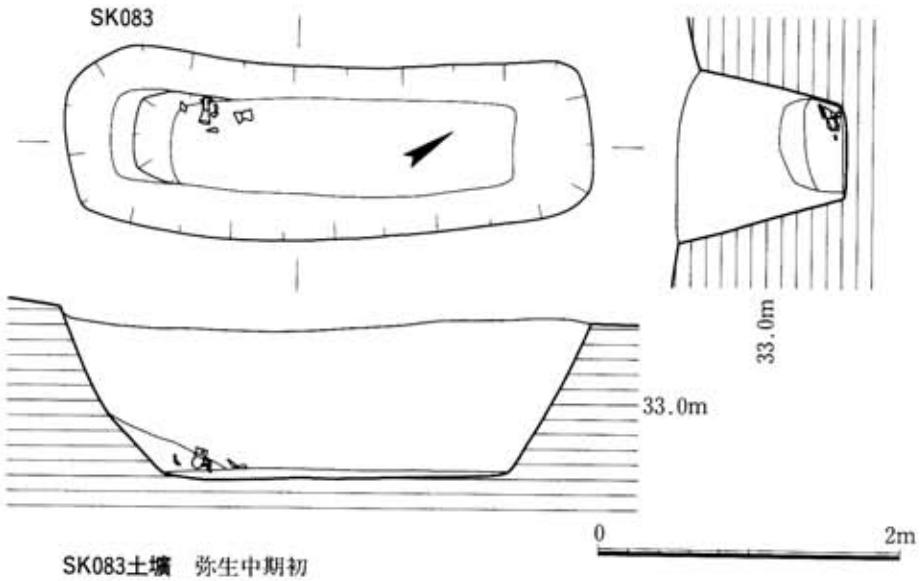
SK029土壙　弥生中期初
形態　溝状長方形　　**法量**　3.6m×1.1m
概要　埋土中から多量の土器が投げ込まれた状況で出土しており，埋葬壙とは考えにくい。甕・壷・鉢・碗・高坏・器台・支脚等の土器が多数出土。

SK073・092土壙　弥生中期初
形態　溝状長方形，長方形
法量　SK092 約1.7×1.4m
概要　3基。SK092は壙底が鍋底状で，東壁寄りの埋土中から甕・壷・高坏・支脚と小礫が若干出土。

Fig. 21　SK029・SK073・SK092土壙（1/50）

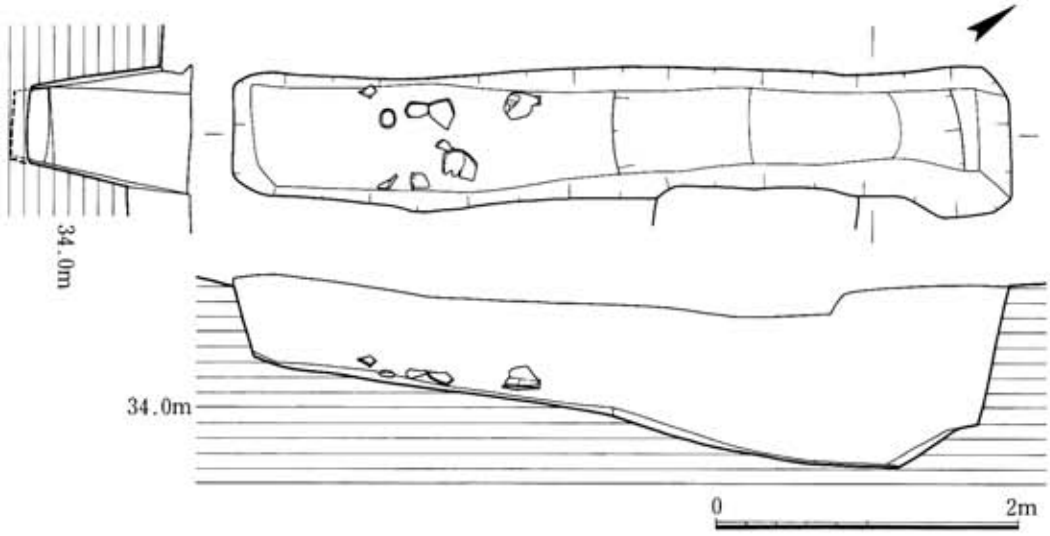


SK081土壙　弥生中期初
形態　溝状長方形
法量　約4.2m×1.1m
概要　両側壁は直にちかく急に深く掘込み，細長い溝状を呈す。壙底は中央がわずかに下がる。南端は弥生のSB079に切られ，また平安時代のSB133掘立柱建物跡の柱穴に荒らされている。土壙底中央から甕・壷・鉢が出土した。壷1点は朝鮮無文土器系の長頸壷。



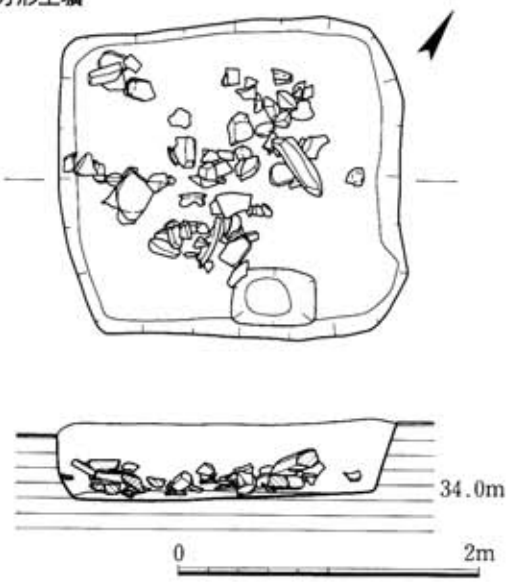
SK083土壙　弥生中期初
形態　溝状長方形
法量　3.5m×1.6m
概要　4壁とも急に深く掘込み，壙底は平坦。南側の西壁際壙底から高坏片等が出土したが，状況から見て副葬品とは考えにくく，土壙の性格についても埋葬壙とは断定できない。甕・壷出土。

Fig. 22　SK081・SK083土壙（1/50）



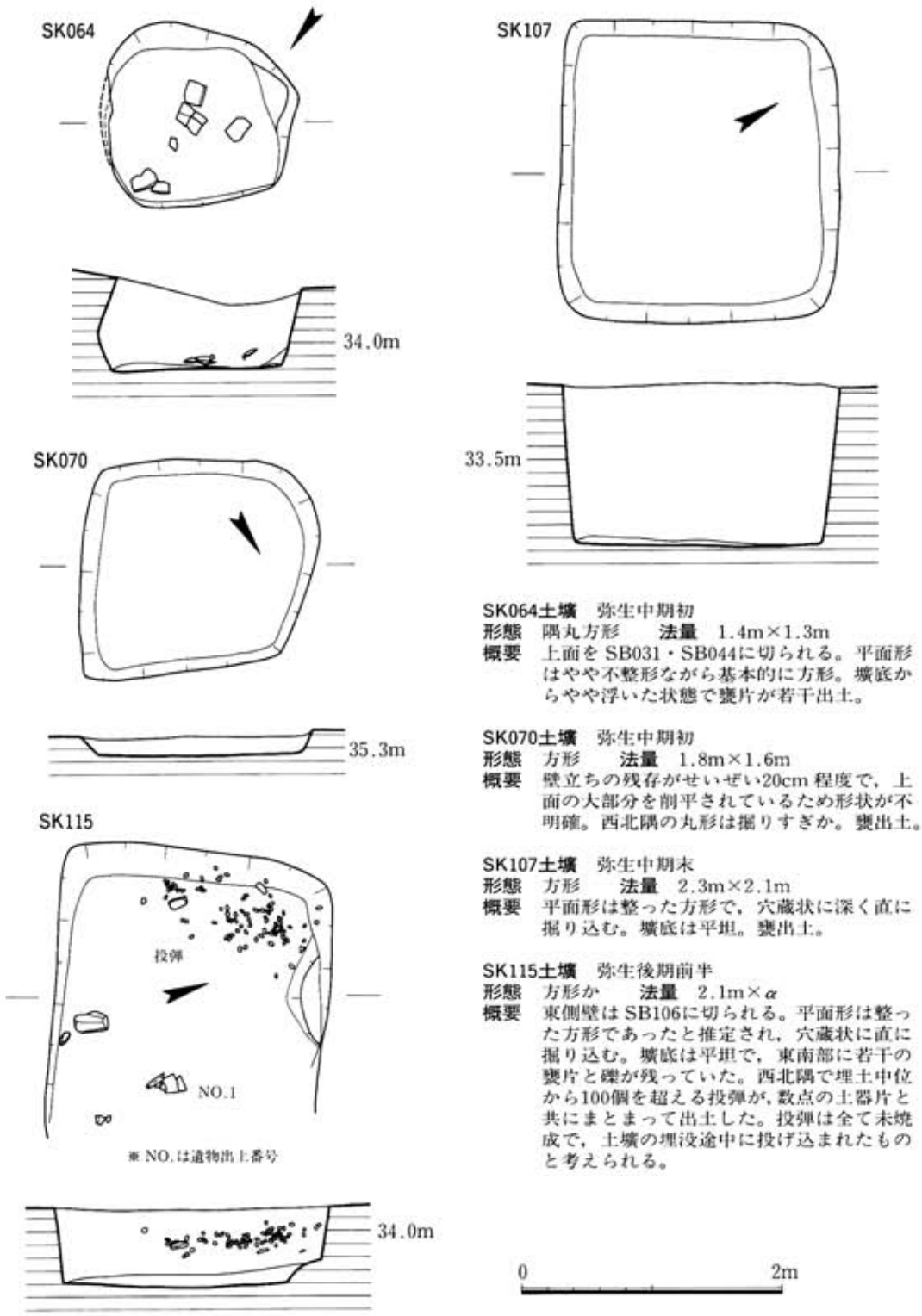
SK094土壙　弥生中期初　　Fig. 23　SK094土壙（1/50）
形態　溝状長方形
法量　5.1m×0.9m
概要　東北側の側壁一方をSK095と切り合う。4壁とも急に深く掘り込み，細長い溝状を呈す。壙底は東北側に向かってなだらかに下がる。西南側の壙底から甕・蓋・支脚が出土。

b　方形土壙



SK009土壙　弥生中期末
形態　方形
法量　2.3m×2.1m
概要　a区に離れて位置する。穴倉状に深く壙底は平坦で，壁際に深さ20cm弱の掘り込みをもつ。中央付近を中心に，壙底からやや浮いた状態で多くの礫が投げ込まれており，これに混じって甕棺片・甕・壺・鉢・碗・高坏・器台，石錐が出土。

Fig. 24　SK009土壙（1/50）



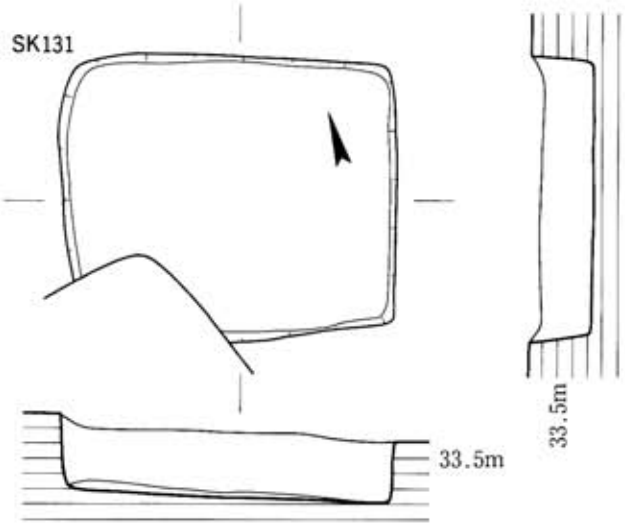
SK064土壙　弥生中期初
形態　隅丸方形　　**法量**　1.4m×1.3m
概要　上面をSB031・SB044に切られる。平面形はやや不整形ながら基本的に方形。壙底からやや浮いた状態で甕片が若干出土。

SK070土壙　弥生中期初
形態　方形　　**法量**　1.8m×1.6m
概要　壁立ちの残存がせいぜい20cm程度で，上面の大部分を削平されているため形状が不明確。西北隅の丸形は掘りすぎか。甕出土。

SK107土壙　弥生中期末
形態　方形　　**法量**　2.3m×2.1m
概要　平面形は整った方形で，穴蔵状に深く直に掘り込む。壙底は平坦。甕出土。

SK115土壙　弥生後期前半
形態　方形か　　**法量**　2.1m×α
概要　東側壁はSB106に切られる。平面形は整った方形であったと推定され，穴蔵状に直に掘り込む。壙底は平坦で，東南部に若干の甕片と礫が残っていた。西北隅で埋土中位から100個を超える投弾が，数点の土器片と共にまとまって出土した。投弾は全て未焼成で，土壙の埋没途中に投げ込まれたものと考えられる。

Fig. 25　SK064・SK070・SK107・SK115土壙（1/50）



SK131土壙　弥生か
形態　方形　　**法量**　2.2m×1.9m
概要　西南隅をSP077土壙と切り合う。平面形は比較的整った方形で，穴蔵状に直に掘り込む。壙底は平坦。時期は不詳であるが，弥生時代と推定する。

SK148土壙　弥生中期初
形態　長方形か　　**法量**　2.6m×α
概要　西南壁はSB149と切り合い，また西側は多くの掘り込みに荒らされているが，本来，方形の穴蔵状竪穴であったと考えられる。壁は直にちかく深く掘り込み，壙底はほぼ平坦。甕・壺出土。

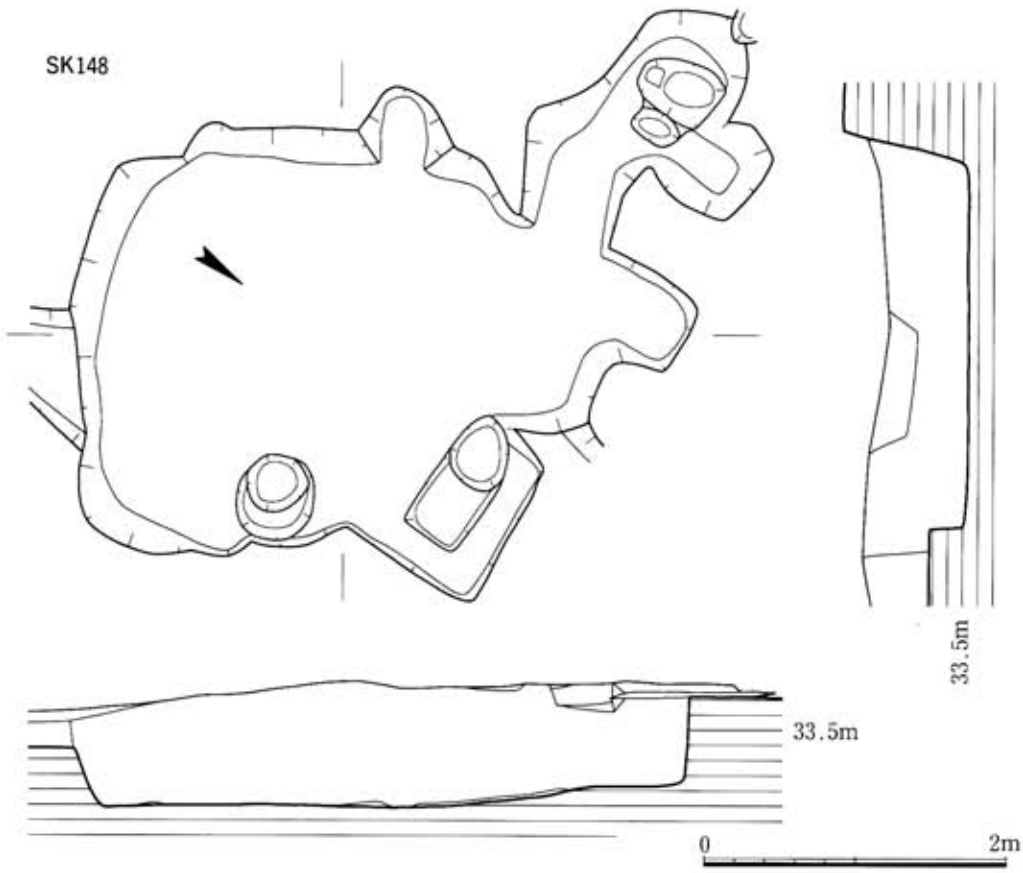
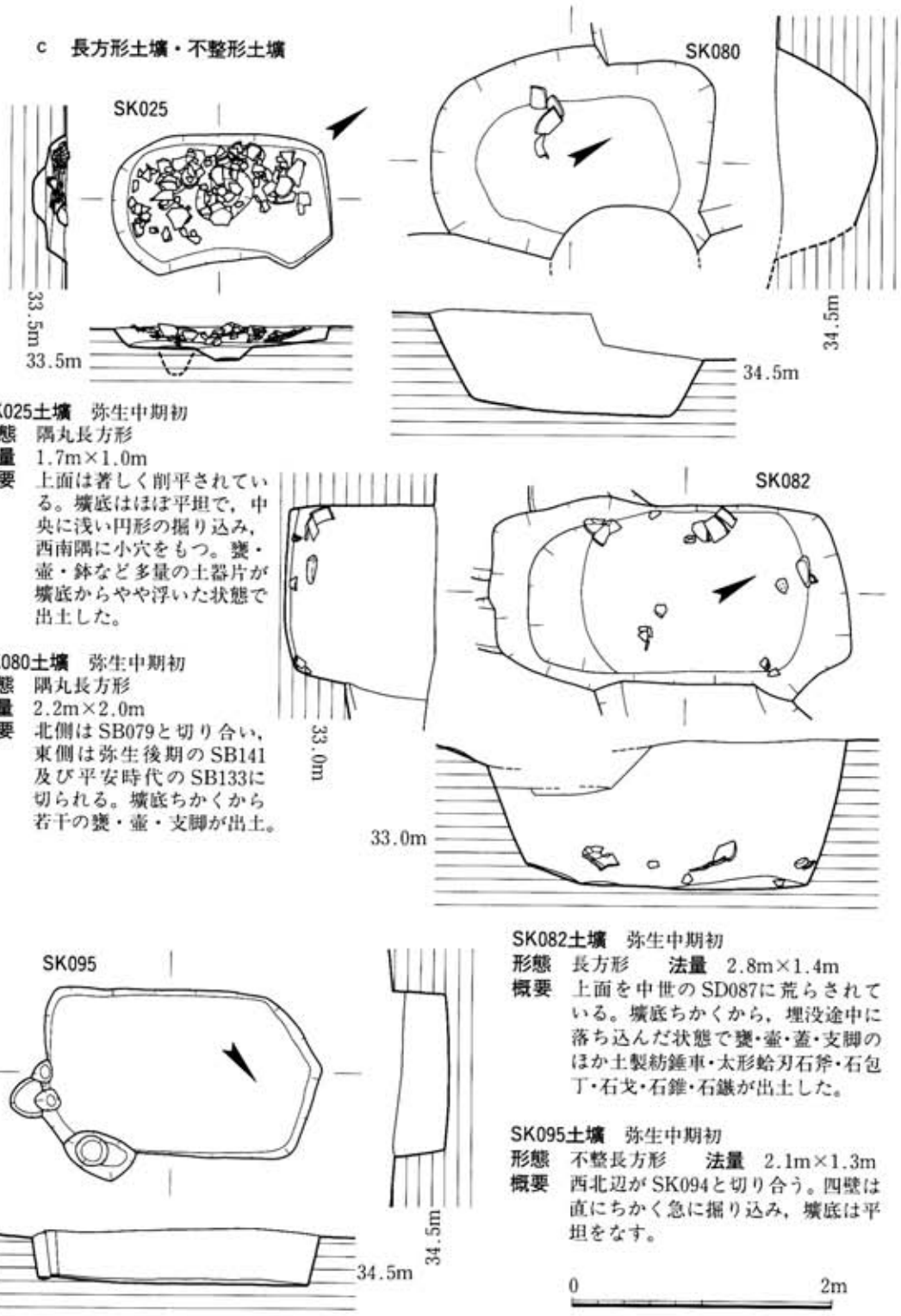


Fig. 26　SK131・SK148土壙（1/50）

c　長方形土壙・不整形土壙



SK025土壙　弥生中期初
形態　隅丸長方形
法量　1.7m×1.0m
概要　上面は著しく削平されている。壙底はほぼ平坦で，中央に浅い円形の掘り込み，西南隅に小穴をもつ。甕・壷・鉢など多量の土器片が壙底からやや浮いた状態で出土した。

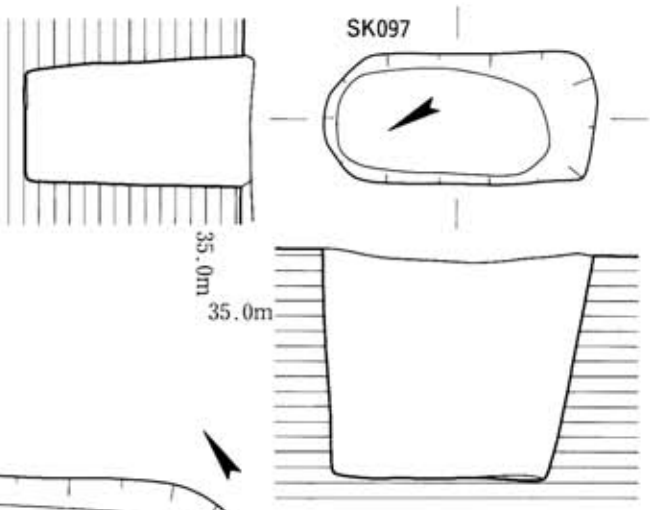
SK080土壙　弥生中期初
形態　隅丸長方形
法量　2.2m×2.0m
概要　北側はSB079と切り合い，東側は弥生後期のSB141及び平安時代のSB133に切られる。壙底ちかくから若干の甕・壷・支脚が出土。

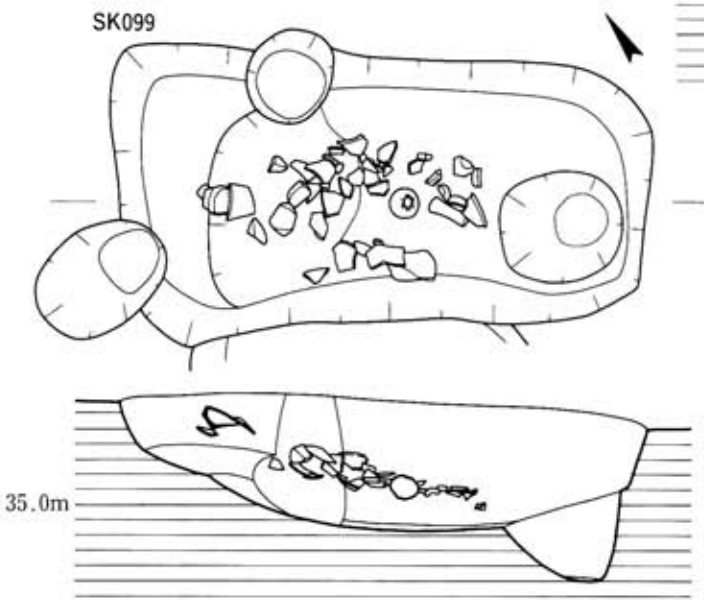
SK082土壙　弥生中期初
形態　長方形　　**法量**　2.8m×1.4m
概要　上面を中世のSD087に荒らされている。壙底ちかくから，埋没途中に落ち込んだ状態で甕・壷・蓋・支脚のほか土製紡錘車・太形蛤刃石斧・石包丁・石戈・石錐・石鏃が出土した。

SK095土壙　弥生中期初
形態　不整長方形　　**法量**　2.1m×1.3m
概要　西北辺がSK094と切り合う。四壁は直にちかく急に掘り込み，壙底は平坦をなす。

Fig. 27　SK025・SK080・SK082・SK095土壙（1/50）

SK097土壙　弥生中期初か
形態　隅丸長方形
法量　1.8m×0.9m
概要　四壁はほとんど直に深く掘り込み，壙底は平坦。土壙墓の可能性もあるが，断定できない。





SK099土壙　弥生中期初
形態　長方形
法量　3.5m×1.7m
概要　上面は西北側でやや幅が広く，壙底は西北側に向かって上がり気味に船底状を呈す。3カ所の小穴は後世の掘り込みか。埋土中位から甕・壷・鉢・支脚が出土。

SK109土壙　弥生中期初
形態　長方形
法量　2.8m×1.4m
概要　上面は大部分が荒らされていると見られる。壙底は東北側が一段高く削りだす。東南壁際の壙底ちかくから甕・支脚・磨石が出土した。

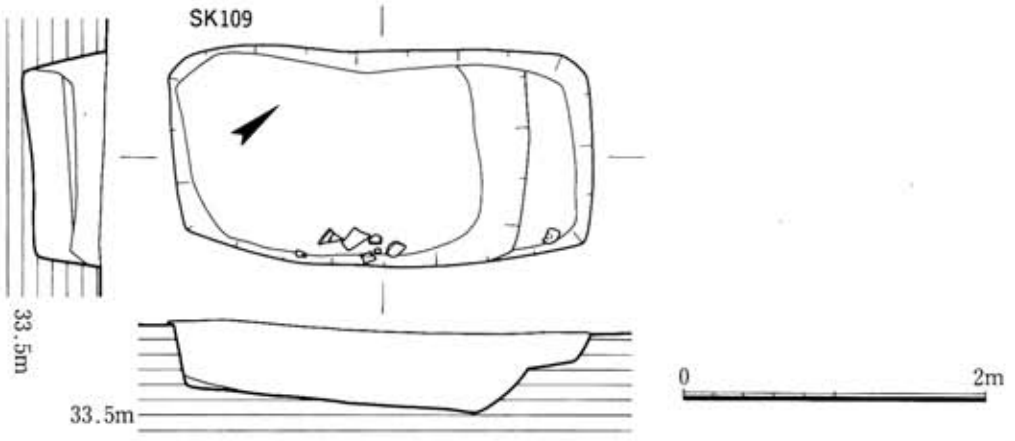
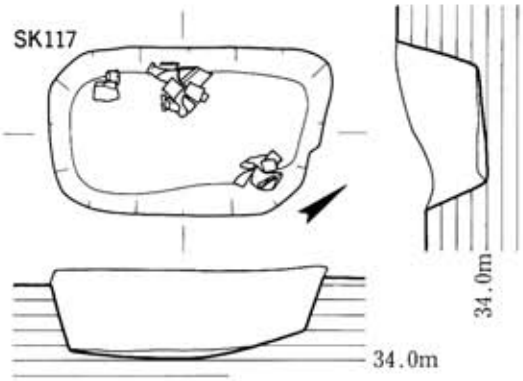
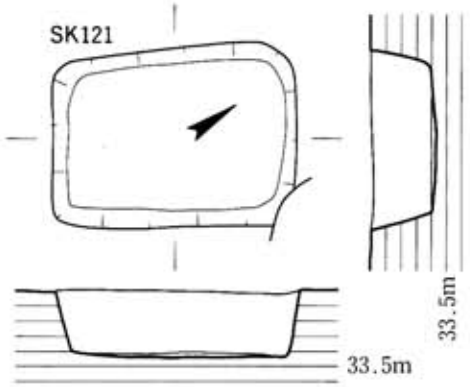


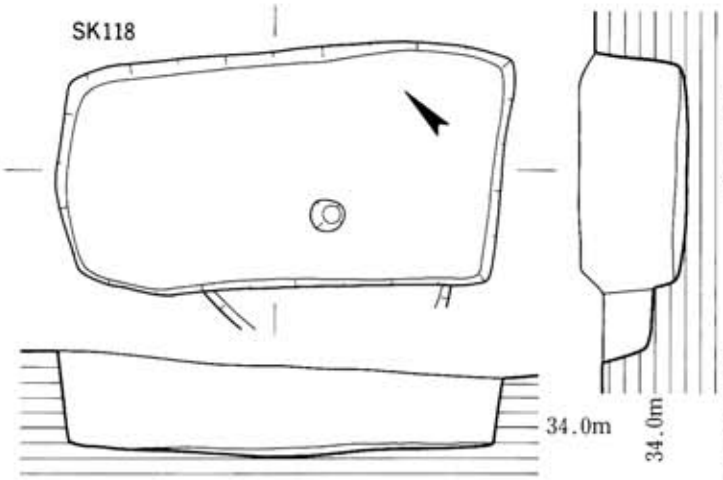
Fig. 28　SK097・SK099・SK109土壙（1/50）



SK117土壙　弥生中期初
形態　隅丸長方形
法量　1.8m×1.1m
概要　壙底からは2カ所に分かれて甕・壺・支脚および紡錘車1点が出土したが，副葬品といえるような状況ではなく，遺構についても埋葬壙とは考えにくい。



SK121土壙　弥生か
形態　長方形
法量　1.6m×1.2m
概要　四壁は急に掘り込まれ，壙底は平坦。時期を確定できる遺物がなく時期は不詳だが，弥生時代に含めておく。甕出土。



SK118土壙　弥生後期か
形態　長方形
法量　2.9m×1.6m
概要　平面形は基本的に長方形だがやや不整形で，幅は東南側がやや狭くなる。甕・碗出土。

SK139土壙　弥生か
形態　長方形
法量　3.3m×約1.3m
概要　平面形は基本的に長方形だがやや不整形で，幅は東南側がやや狭くなる。時期は不詳だが，弥生時代に含めておく。

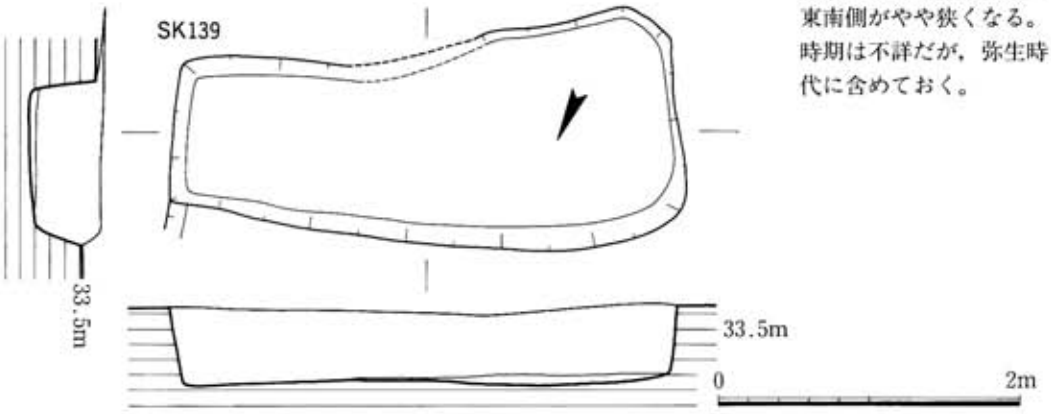
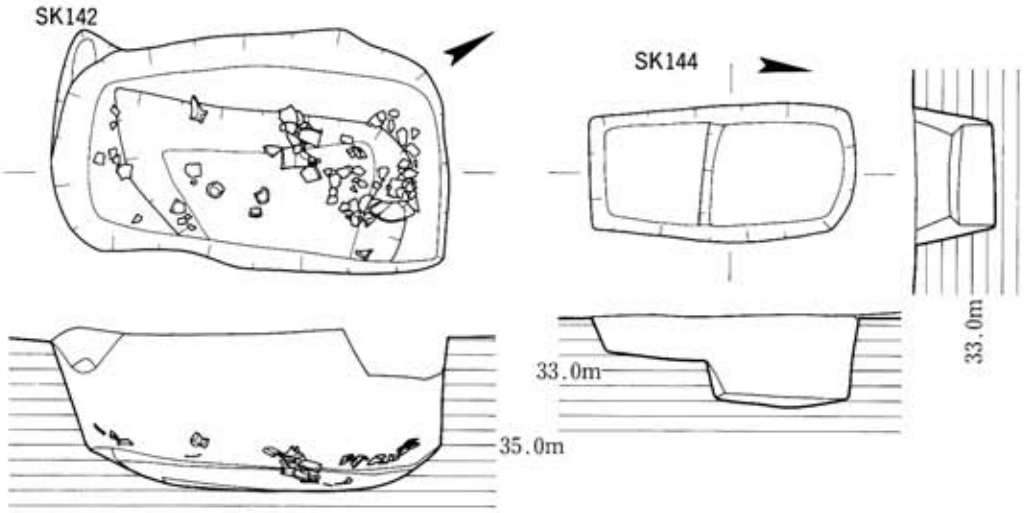
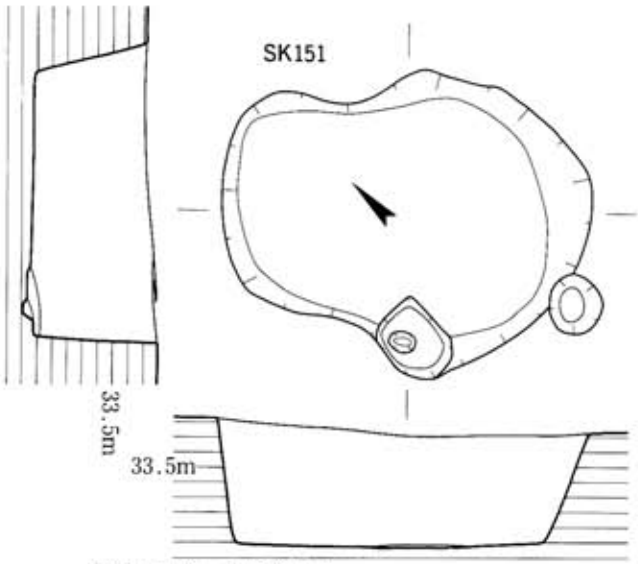


Fig. 29　SK117・SK118・SK121・SK139土壙（1/50）

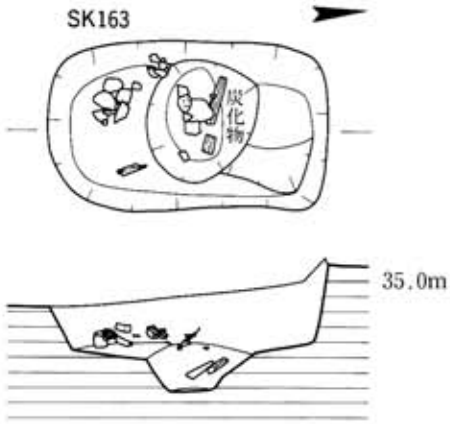


SK142土壙　弥生中期初
形態　隅丸長方形
法量　2.6m×1.5m
概要　四壁は比較的急に深く掘り込み，壙底は壁際が緩く立ち上がる。埋土下位から甕・壺等が比較的多く出土。

SK144土壙　弥生中期末か
形態　長方形
法量　1.8m×0.9m
概要　SB143を切る。壙底は北側が約25cmほど一段深く掘り込まれている。土壙墓の可能性も考えられるが，明確ではない。甕出土。

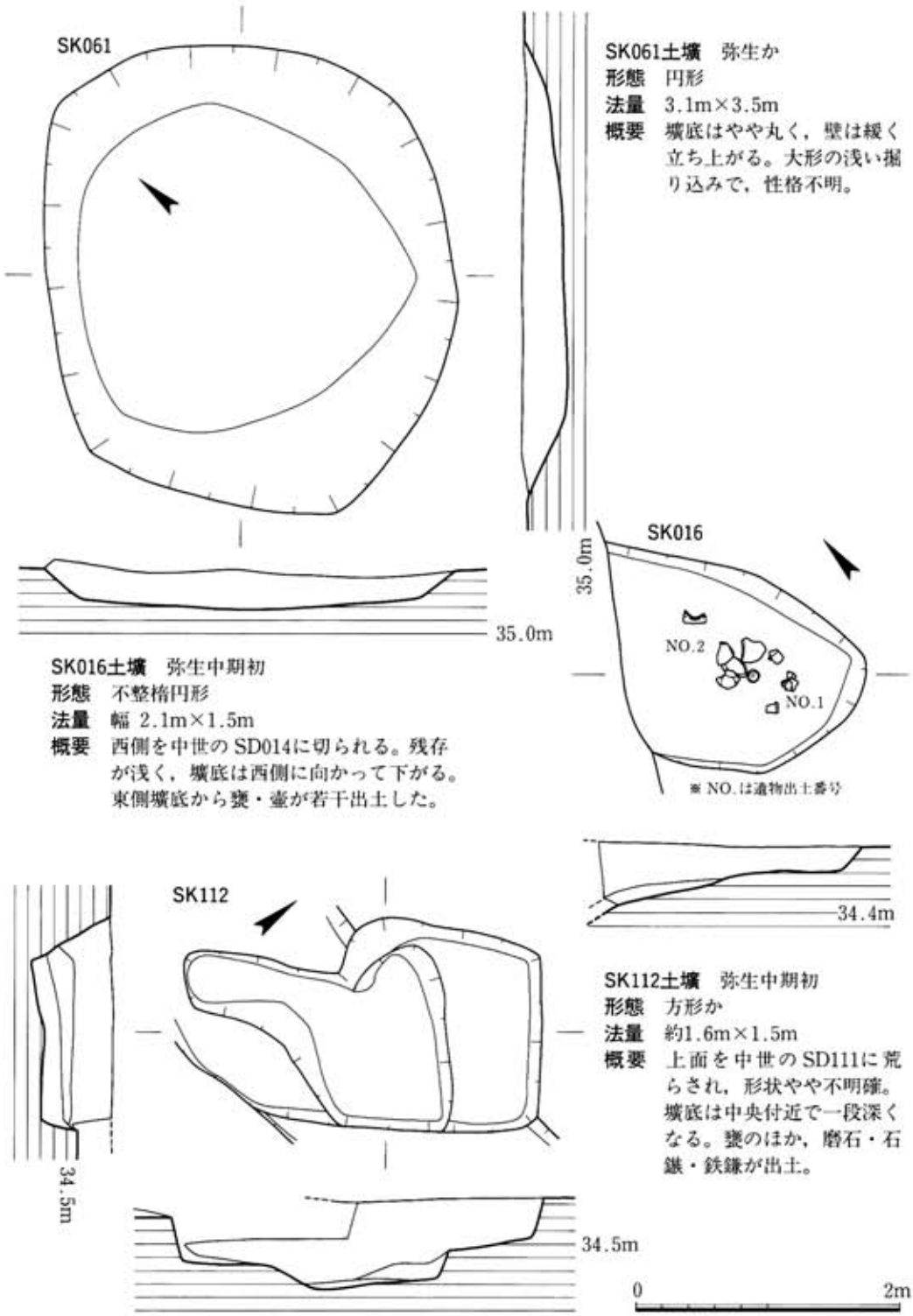


SK151土壙　弥生後期か
形態　隅丸長方形　　**法量**　2.5m×約1.8m
概要　平面形は基本的に長方形といえるが楕円形にちかい。壁は比較的急に掘り込まれ，壙底は平坦を呈す。甕等出土。



SK163土壙　弥生中期初
形態　隅丸長方形　　**法量**　1.9m×1.1m
概要　小形土壙。壙底の中央に円形の掘り込みをもつ。壙底ちかくから若干の土器片と甕・礫・磨製石鏃1点が出土した。

Fig. 30　SK142・SK144・SK151・SK163土壙（1/50）

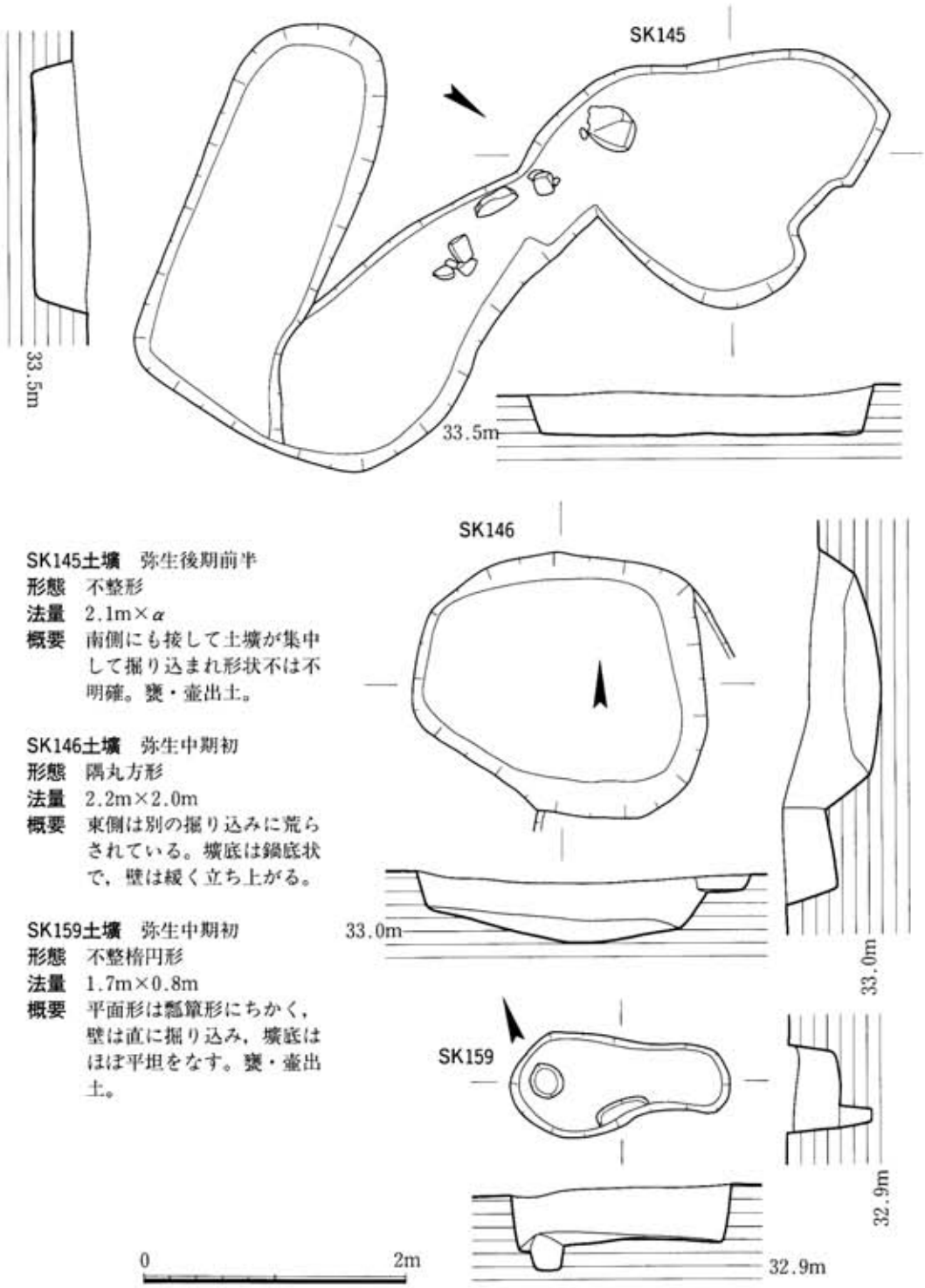


SK061土壙　弥生か
形態　円形
法量　3.1m×3.5m
概要　壙底はやや丸く，壁は緩く立ち上がる。大形の浅い掘り込みで，性格不明。

SK016土壙　弥生中期初
形態　不整楕円形
法量　幅 2.1m×1.5m
概要　西側を中世のSD014に切られる。残存が浅く，壙底は西側に向かって下がる。東側壙底から甕・壺が若干出土した。

SK112土壙　弥生中期初
形態　方形か
法量　約1.6m×1.5m
概要　上面を中世のSD111に荒らされ，形状やや不明確。壙底は中央付近で一段深くなる。甕のほか，磨石・石鏃・鉄鎌が出土。

Fig. 31　SK016・SK061・SK112土壙（1/50）



SK145土壙　弥生後期前半
形態　不整形
法量　2.1m×α
概要　南側にも接して土壙が集中して掘り込まれ形状不は不明確。甕・壷出土。

SK146土壙　弥生中期初
形態　隅丸方形
法量　2.2m×2.0m
概要　東側は別の掘り込みに荒らされている。壙底は鍋底状で，壁は緩く立ち上がる。

SK159土壙　弥生中期初
形態　不整楕円形
法量　1.7m×0.8m
概要　平面形は瓢箪形にちかく，壁は直に掘り込み，壙底はほぼ平坦をなす。甕・壷出土。

Fig. 32　SK145・SK146・SK159土壙（1/50）

(3) 溝

a地区とb地区とを限る南北溝である。断面はV字形に掘られ溝底が幅の狭い平坦をなす。規模は幅3.0～3.8m，深さ1.0～1.2m。北から南方向に溝底が下がるが，排水機能よりも丘陵を切断して集落を防御する機能をもつものと考える。埋土中からは遺物が殆ど出土しなかったが，a断面付近で溝底から弥生後期前半の壺等が出土している。

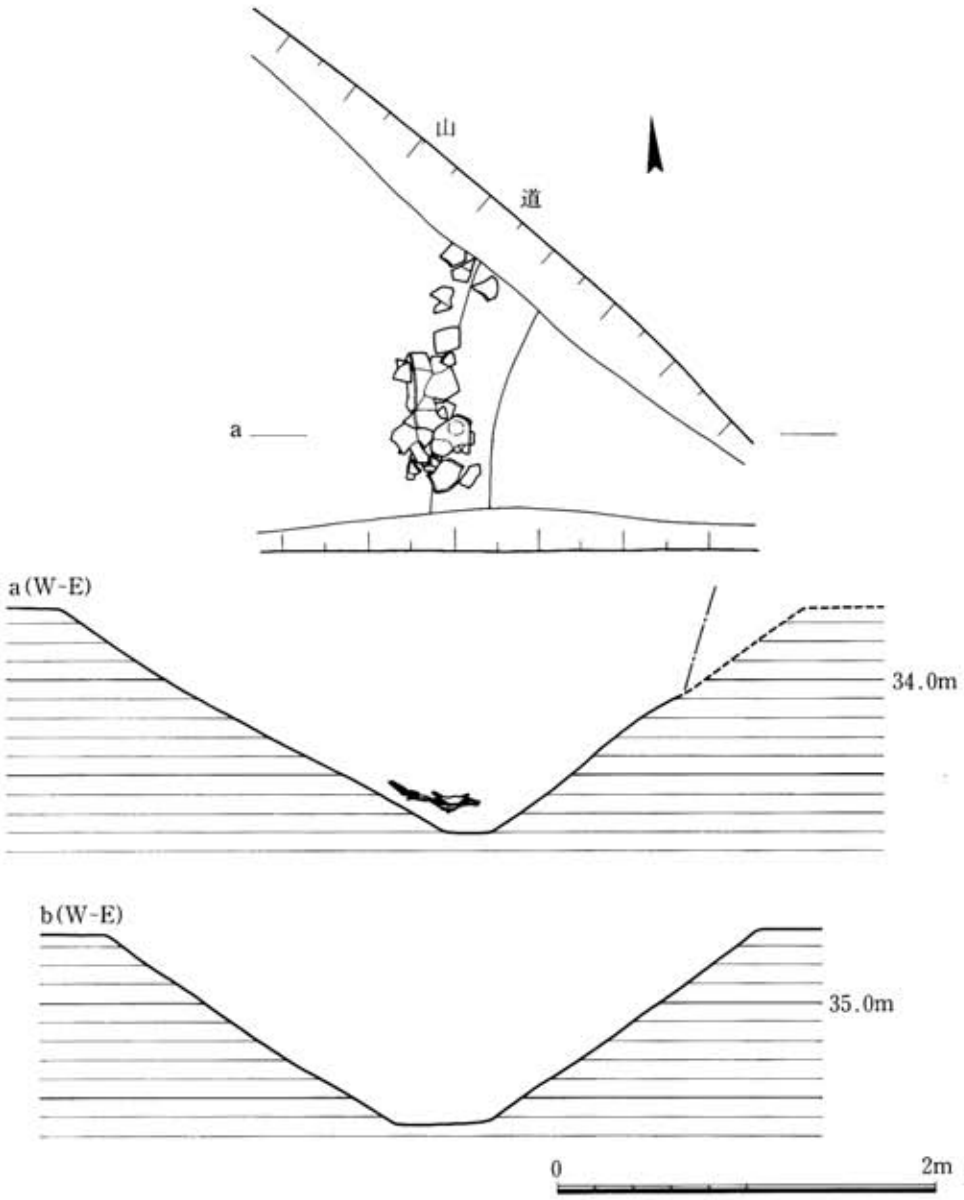


Fig. 33　SD014溝（1/40）

2．古墳時代の遺構

＜概　要＞

古墳時代では後期になってから，まず5世紀後半～6世紀前半にa地区の台地西端に古墳が造られ，次いで6世紀にb地区で集落が形成される。

古墳は5基を調査した。調査区外北側の谷筋沿いはさらに数基が分布し，合わせて一群をなす。いずれも削平によって墳丘は無く，主体部も基部程度しか残存していない。ST001は小形の竪穴形横口式石室を内部主体とするが，墳丘の規模，形状は不明。ST002・ST004の2基は径10m前後の円墳で，未発達な羨道を特徴とする横穴式石室をもつ。ST003は径約9mの円墳で，やや大きめの石材で横穴式石室を築く。ST005は径約8mの小円墳であるが，北側半分が調査区外で内部主体不明である。時期は，石室形態及び遺物等からみてST001・ST002・ST004・ST005が5世紀後半～6世紀初。中でもST001が最も古い石室形態をもつ。さらに，6世紀前半になってST003が築造されたと推定する。

6世紀後半を中心とする集落に関係する遺構では，竪穴住居跡17棟，土壙9基，溝4条を検出した。竪穴住居跡は，SB021だけがやや東に離れるが，他はb区南側に比較的まとまって分布し，さらに調査区外にまで拡がる勢いを見せている。いずれも平面形は方形または長方形で，17棟の内，11棟がカマドを付設する。互いに近接するものが2，3あるが切り合いは殆どみられず，集落としては比較的短期間であったと推定する。土壙は円形または楕円形のSK008・SK026・SK057・SK086・SK110，長方形または方形のSK077・SK102・SK114・SK153・の各形態が見られる。中には木棺土壙墓状の掘形もあるが，多量な土器の出土状況からみてその可能性は低く，多くは貯蔵穴であったと考える。その他，溝は同じ東西方位をもつSD125・SD164，及び鍵形に曲がるSD126がこの時期に属す。何らかの区画溝であろう。また，SD140からは土師器の角杯が出土した。

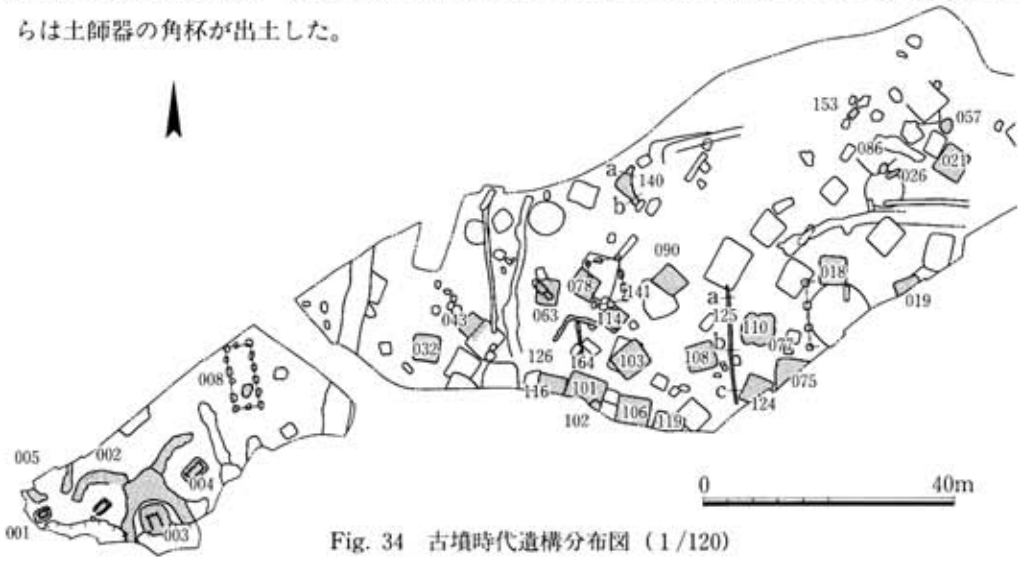


Fig. 34　古墳時代遺構分布図（1/120）

(1) 古　　墳

ST001古墳

調査区の西端に位置する。周溝が確認されず，墳丘の規模，構造は不明である。

石室も上面削平のため石積は２段程度しか残っていない。東北東が頭位に当たると見られ，N58°E。規模は床面内法で縦長1.38m，横幅0.55mである。石室の構築方法は，まず3.0×2.0m程度の楕円形墓壙を掘り込む。石材は花崗岩角礫を用いる。石積み基段は開口部に当たる南南

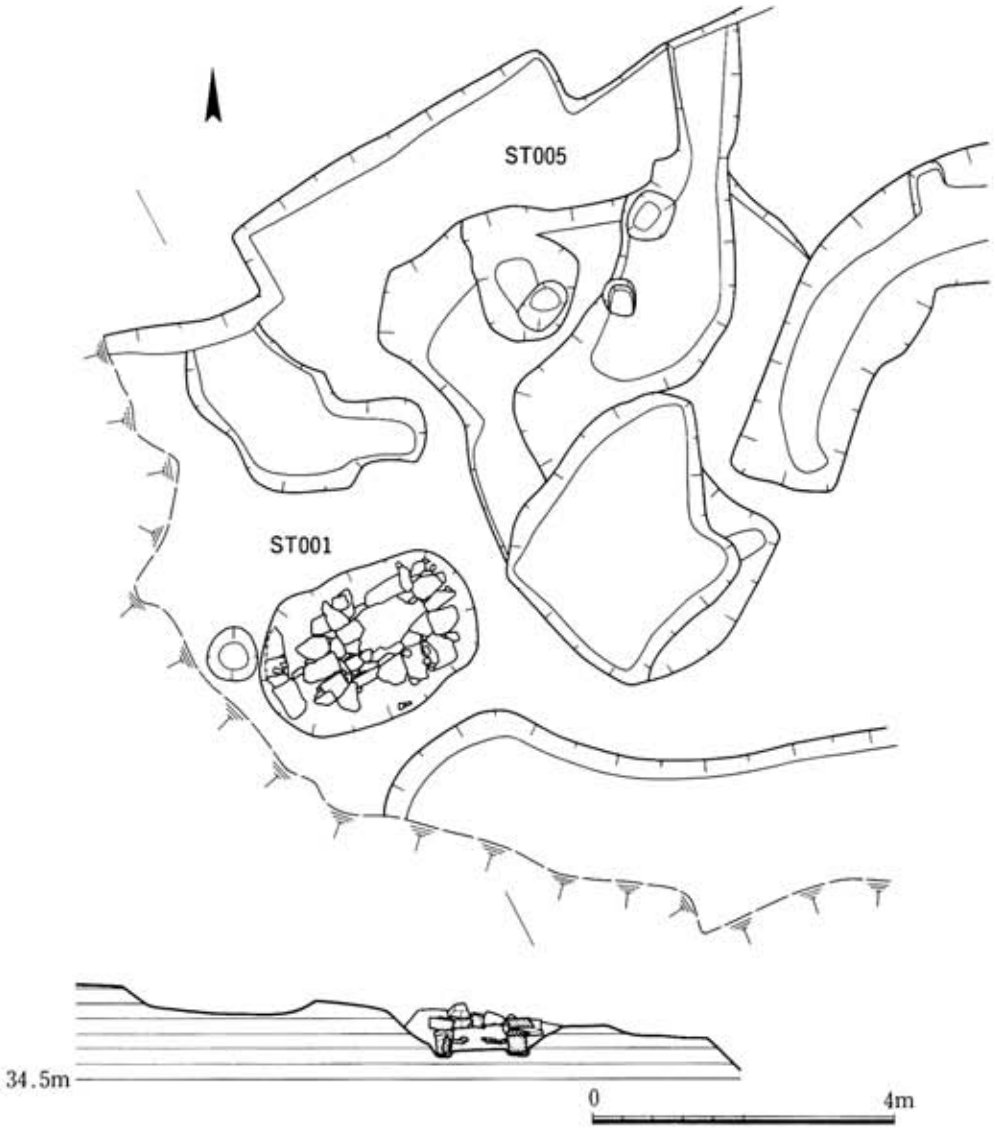


Fig. 35　ST001古墳（1/100）

西側の小口のみ壙底に直接石材を置く以外，他３辺はさらに基部を掘り込み，奥壁１石，両側石各３石を基本的に横長に並べ，石棺状に立てるようにして据え付けている。２段目以上は平石を平置きにして積み上げており，もともと３，４段程度ではなかったかと推測する。控え積みは行なわず，持ち送りも弱い。石室の幅から見て，数枚の板石で天井を塞いでいたであろう。床面は小礫を比較的丹念に敷き並べているが，東北東部分は破壊されている。

石室内から副葬品は検出されなかった。

築造時期については不詳ながら，石室の形態から，調査した５基の内では最も早く，５世紀後半と推定する。

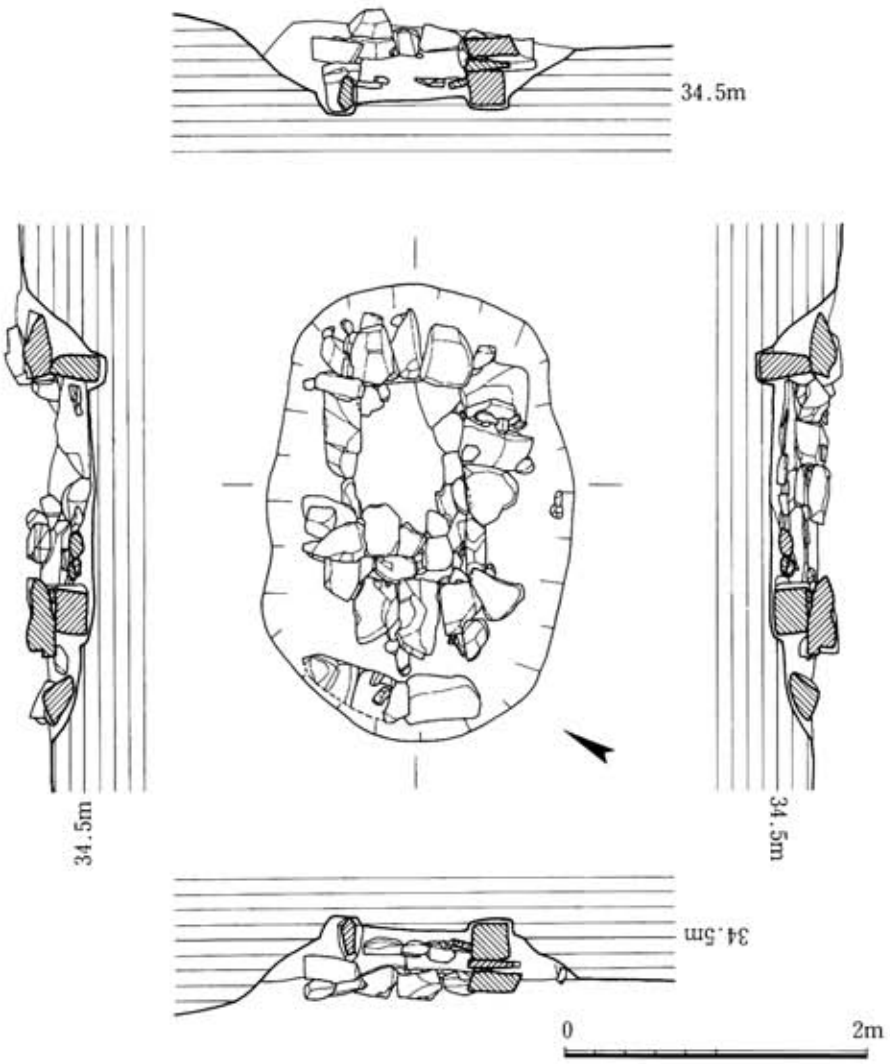


Fig. 36　ST001古墳石室（1/50）

ST002古墳

横穴式石室を内部主体とする径約7.8mの円墳である。

周溝は幅約1.4～2.0m。東側はST003古墳と周溝を共有し，西側は石前面付近で切れて一周しない。南側にある弧状の浅い溝は後世の溝である。ST003古墳の周溝の形状を制約していることから見て，それより先行すると考えられる。

石室はその中心が墳丘のほぼ中央に位置するよう造られている。削平のため，石積みは基段

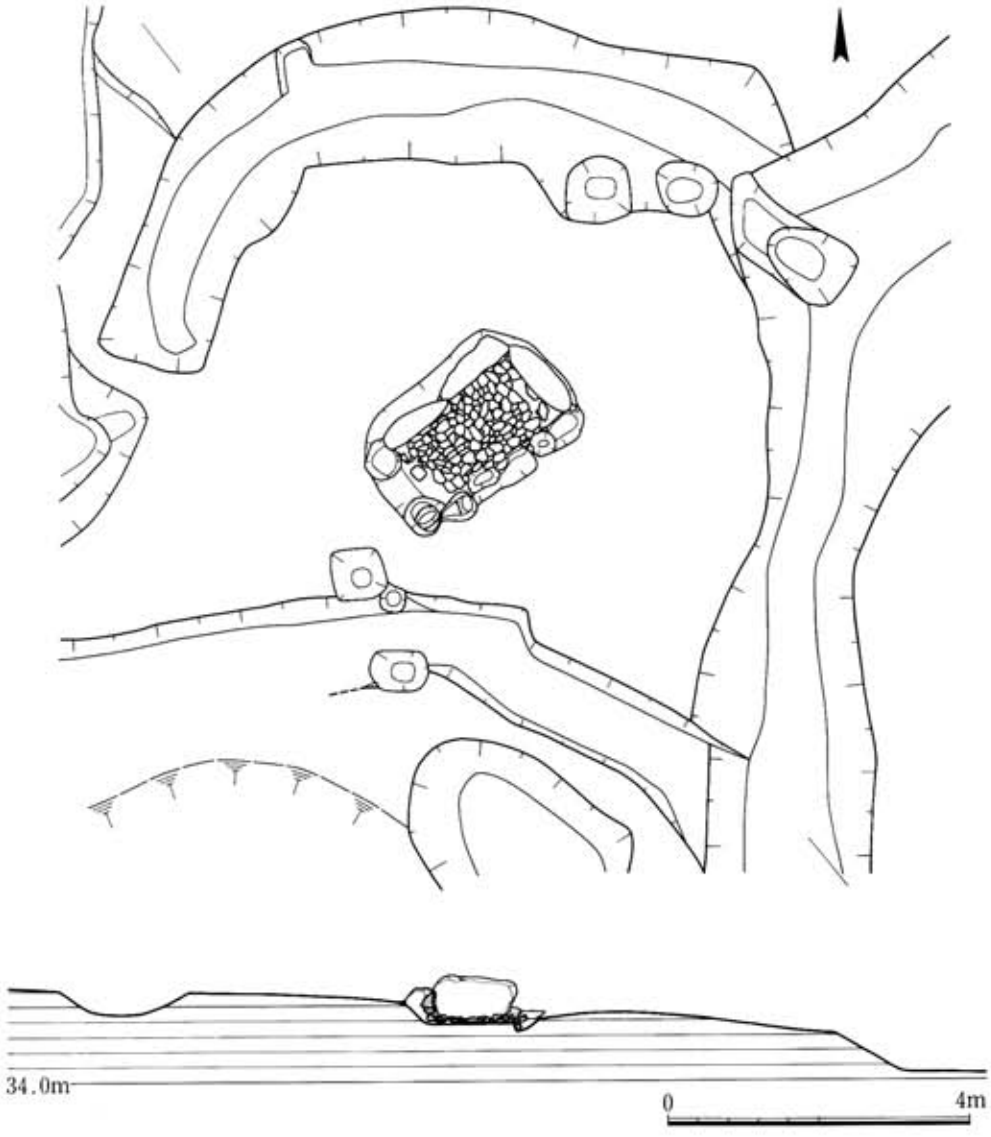


Fig. 37　ST002古墳（1/100）

の一部しか残っていない。両袖式の単室構造で，主軸方位N49°E。規模は玄室内法で測って縦長1.9m，横幅約1.0m。玄門部には袖石を立てた痕跡があり，幅約0.8mと推定できる。但し，羨道はもたなかったと考える。石室の構築方法は，まず2.8×1.8m程度の隅丸長方形の墓壙を掘り込み，基段で奥壁1石，西北側壁2石の花崗岩礫を基本的に横長に立て並べている。東南側壁は抜き跡から見て3石程度か。また，玄室床面には花崗岩小礫を敷き並べる。遺物は，周溝北東側から土師器壷が出土した。

築造時期は，石室の形態及び出土土器から5世紀後半と推定する。

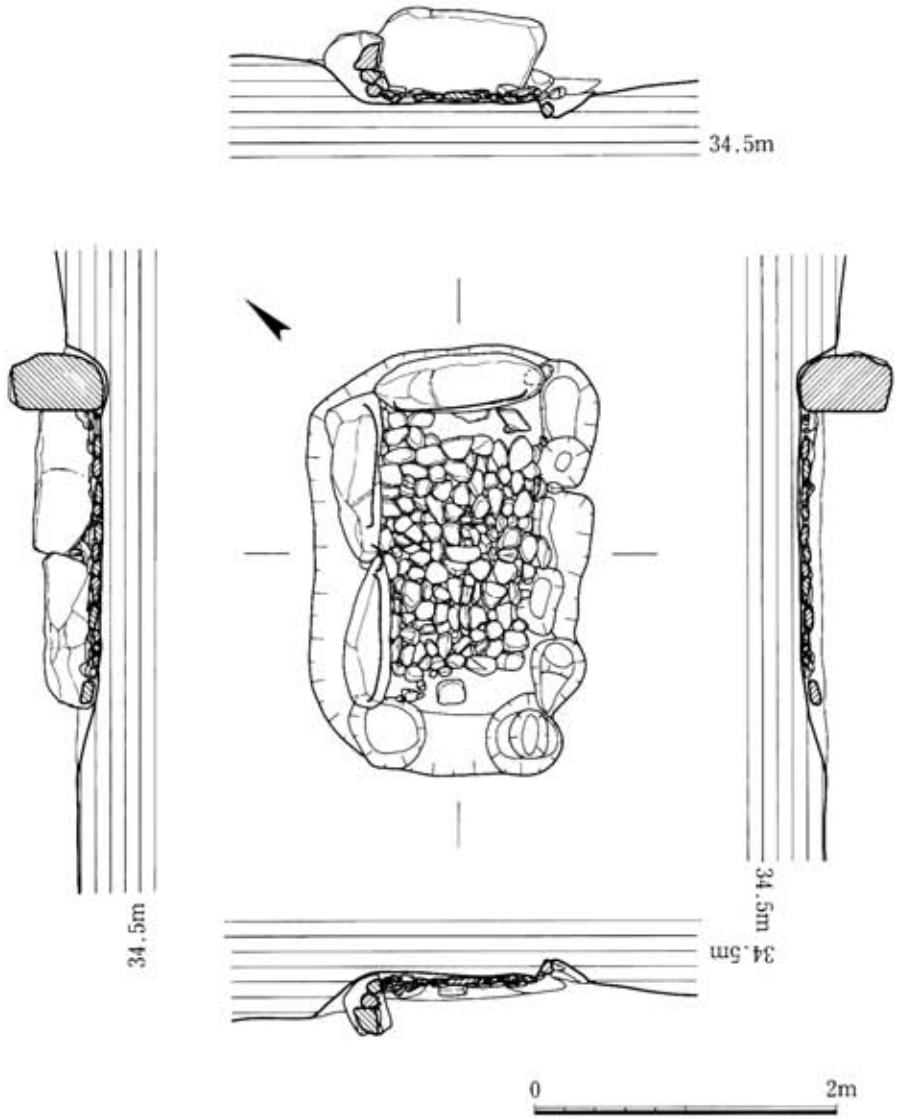


Fig. 38　ST002古墳石室（1/50）

ST003古墳

横穴式石室を内部主体とする径約7.5mの円墳である。前面を削られている。

周溝は幅２m前後であるが，北側は荒らされて広くなっている。西側はST002古墳，東側はST004古墳に制約された形で周溝を共有しており，両古墳より後に造られたと考えられる

石室は羨道部が破壊されているため明らかでないが，単室構造であろう。主軸方位はN25° W

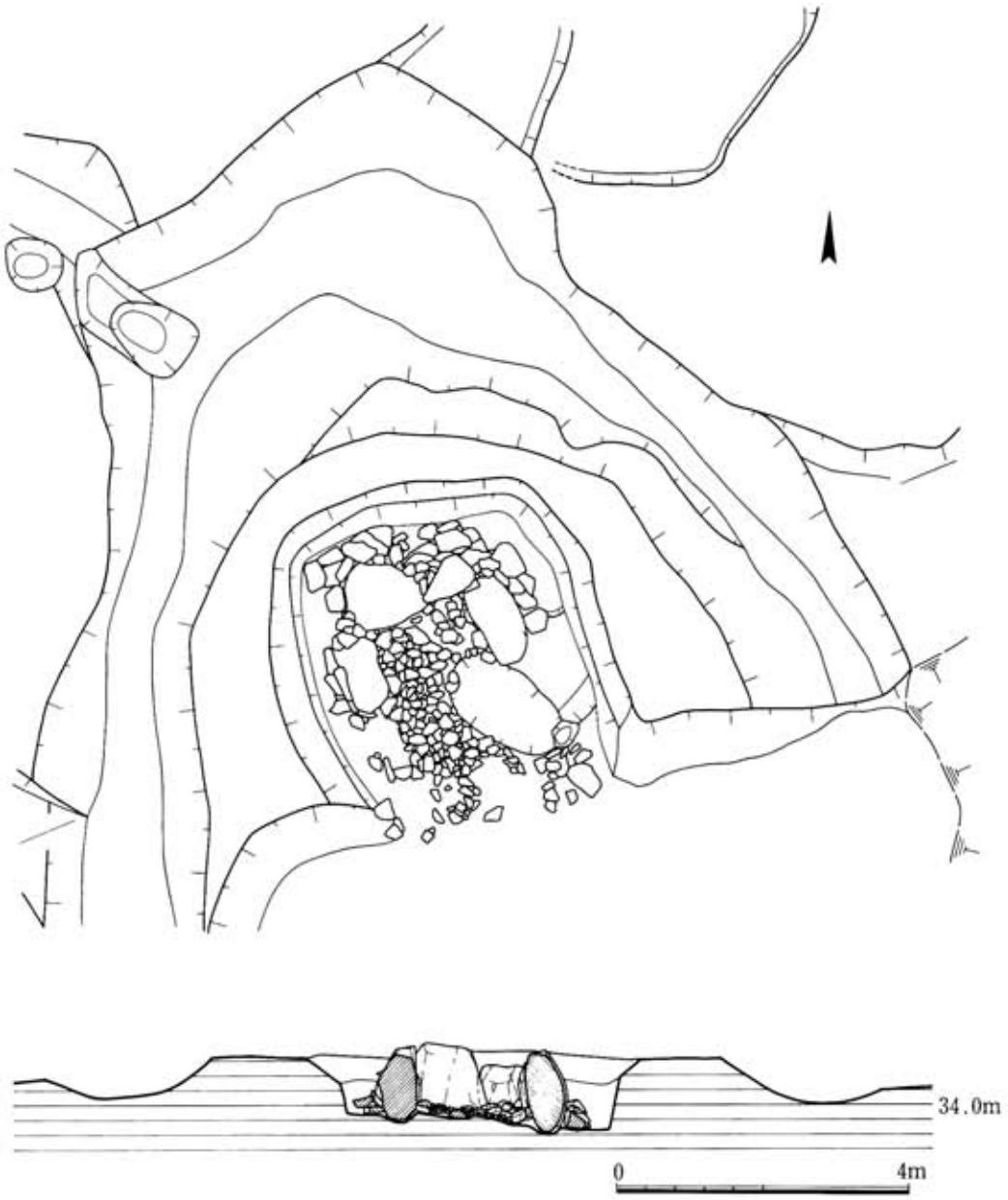


Fig. 39　ST003古墳（1/100）

である。石積みは基段の一部しか残っていない。規模は玄室が内法で横幅約1.5m，縦長は玄室内敷石の残存状況から2.3m程度と推定する。石室の構築は，幅約4.5mの隅丸長方形墓壙を掘り込み，基段の配石は奥壁２石を縦長に立てて据え付ける。両側壁は各１石しか残っていないが，もともと２石を基本的に縦長に立て並べていたと推測する。石材はすべて花崗岩で他の３基に比べて大き目である。また，玄室床面には花崗岩小礫を敷き並べている。遺物は，石室北隅から銜・金交具・刀子などの鉄器残欠，また，石室前面あたりから５世紀後半須恵器坏が出土したが，両脇の古墳から混入の可能性もある。築造時期は石室の形態，構造から見て６世紀前半に下ると推定する。

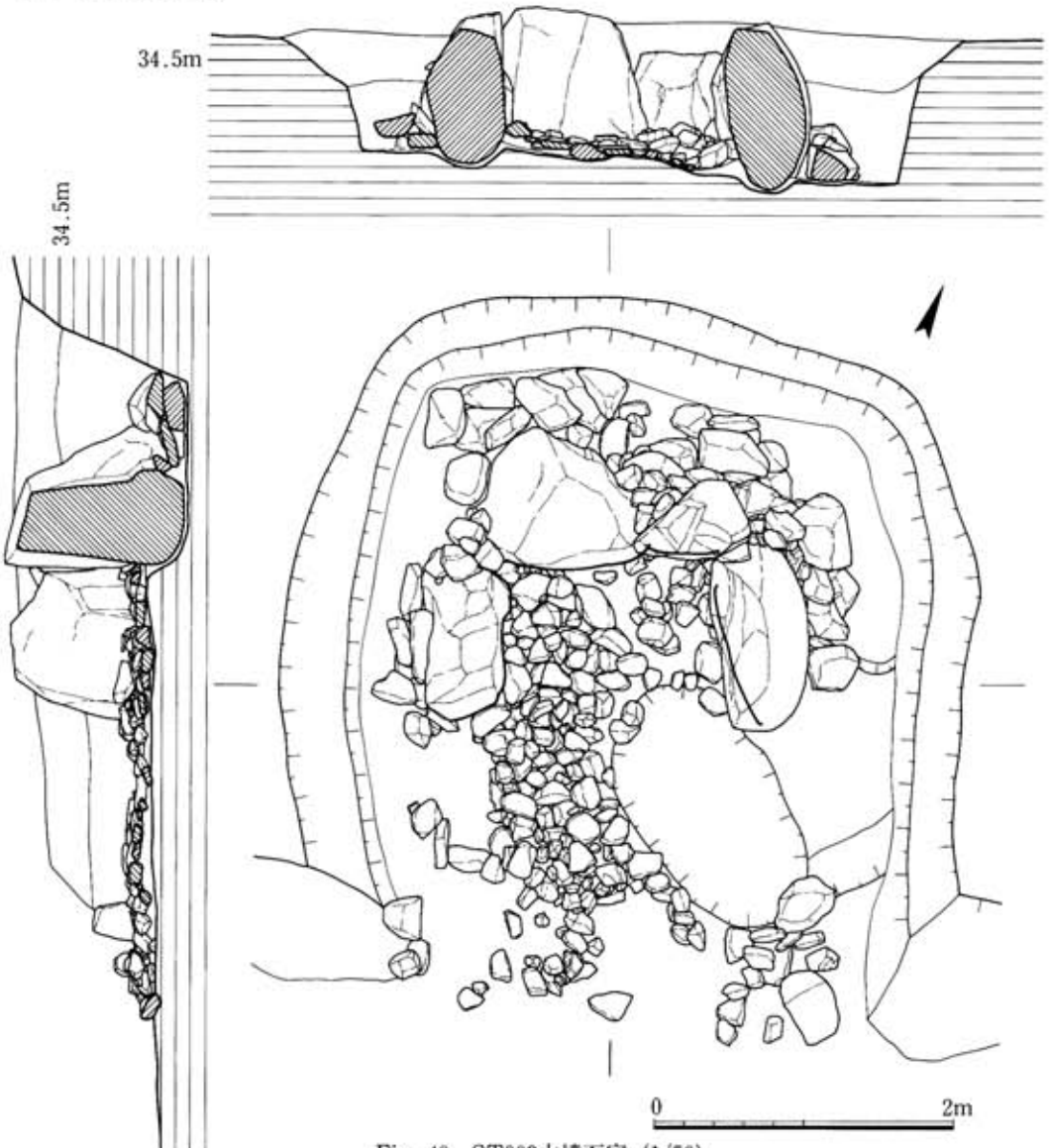


Fig. 40　ST003古墳石室（1/50）

ST004古墳

横穴式石室を内部主体とする径約8.5mの円墳である。

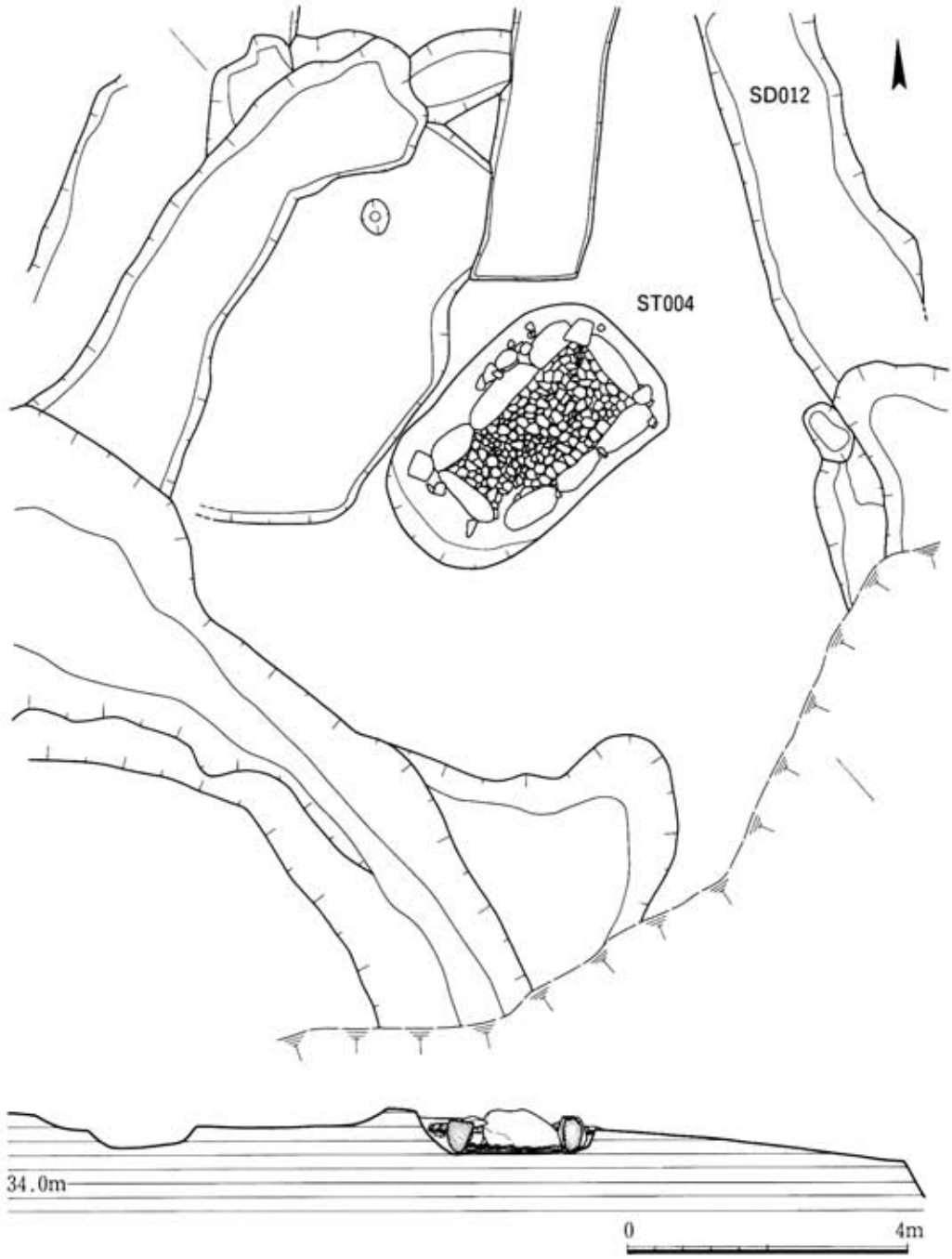


Fig. 41　ST004古墳（1/100）

周溝は幅約1.6mで，東南側はST003古墳の周溝に切られ，一部共有している。北東側約半分は途中で切れているが，おそらく削平によるものであろう。本来は一周していたと考えられる。北東側のSD012は平安時代の溝である。

石室はその中心が墳丘のほぼ中央に位置するよう造られている。５基の内では最もよく残っていたとはいえ削平のため，石積みは基段しか残っていない。単室構造で主軸方位N46°E。規

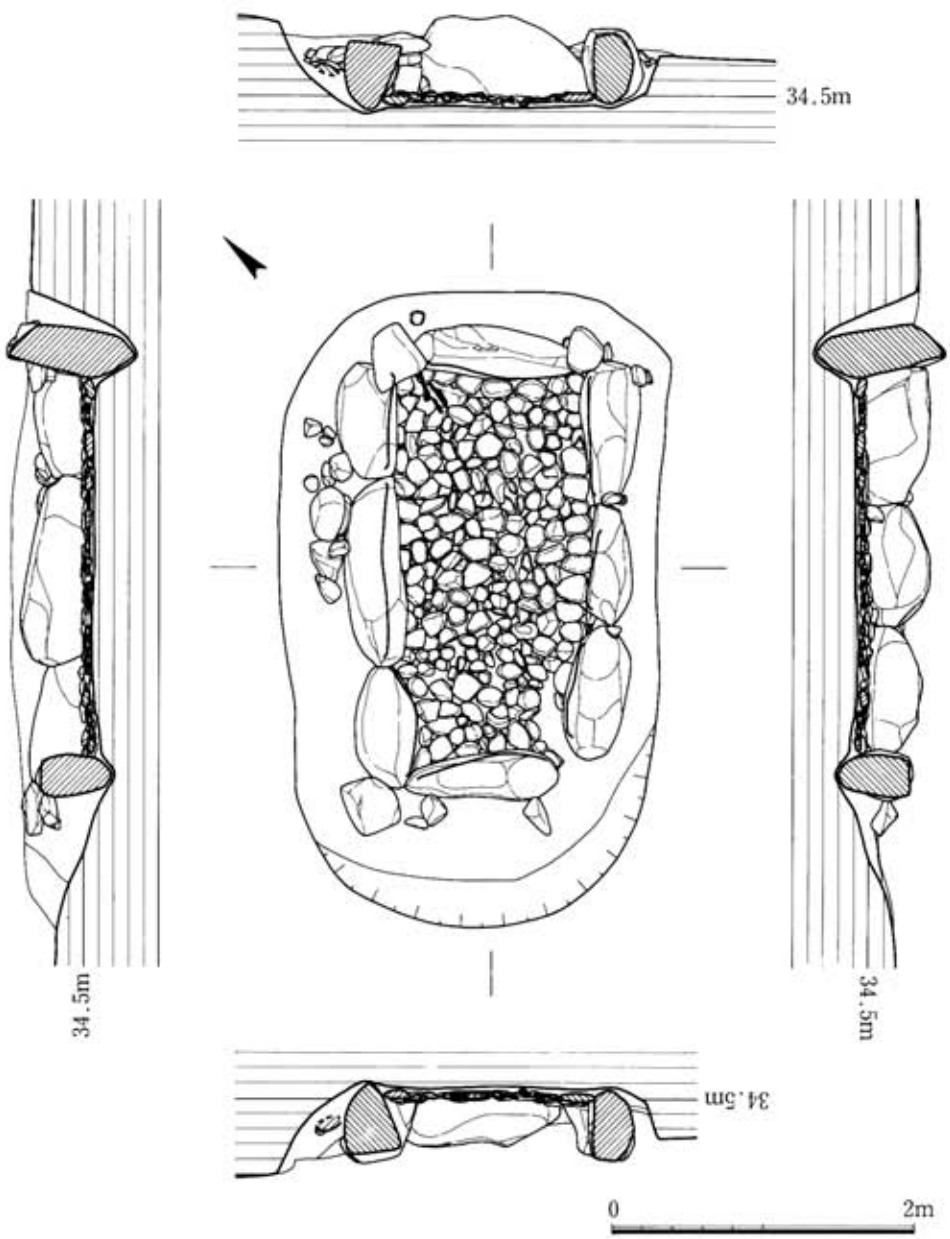


Fig. 42　ST004古墳石室（1/50）

模は玄室内法で測って縦長2.5m，横幅は奥壁際で1.4m，玄門際で1.0mである。玄門部には袖石を立てた痕跡が見られず，もともと無かった可能性がつよい。当然，羨道も無かったと考えられ，入口部では墓壙底が急に上がって終わっている。

石室の構築は，まず約4.2×2.5mの隅丸長方形の墓壙を掘り込み，さらに基部を掘り込んで基段の石材を据え付ける。壁体は1段しか残っていないが，全て花崗岩で，奥壁及び玄門に各1石，両側壁に各3石を，基本的に横長に立て並べる。また，玄室床面には比較的大きさの揃った花崗岩小礫を敷いている。

遺物は石室内及び周溝北側から須恵器坏片のほか、刀子または鎌の茎2点，砥石1点が出土したが，点数は少ない。その内，石室内出土の須恵器から，築造時期を5世紀後半と推定する。ただし，周溝内出土の須恵器によって6世紀前半まで下って追葬があったと考えられる。

ST005古墳

調査区の最西端にあって，墳丘の東南側半分のみ調査するに止まった。主体部は不明であるが，径約6.4mの円墳である。

周溝は幅1.5m前後で，東南側が切れていることから，石室の開口方位が推定できる。

遺物は周溝東側から須恵器の坏・把手付碗・甕・壷，及び土師器高坏が，破片ながら比較的まとまって出土した。その他，周溝南側から滑石製紡錘車1点が出土している。

須恵器等の時期は5世紀後半で，ST002及びST004と同時期に造られた古墳と推定する。

(2) 竪穴住居跡

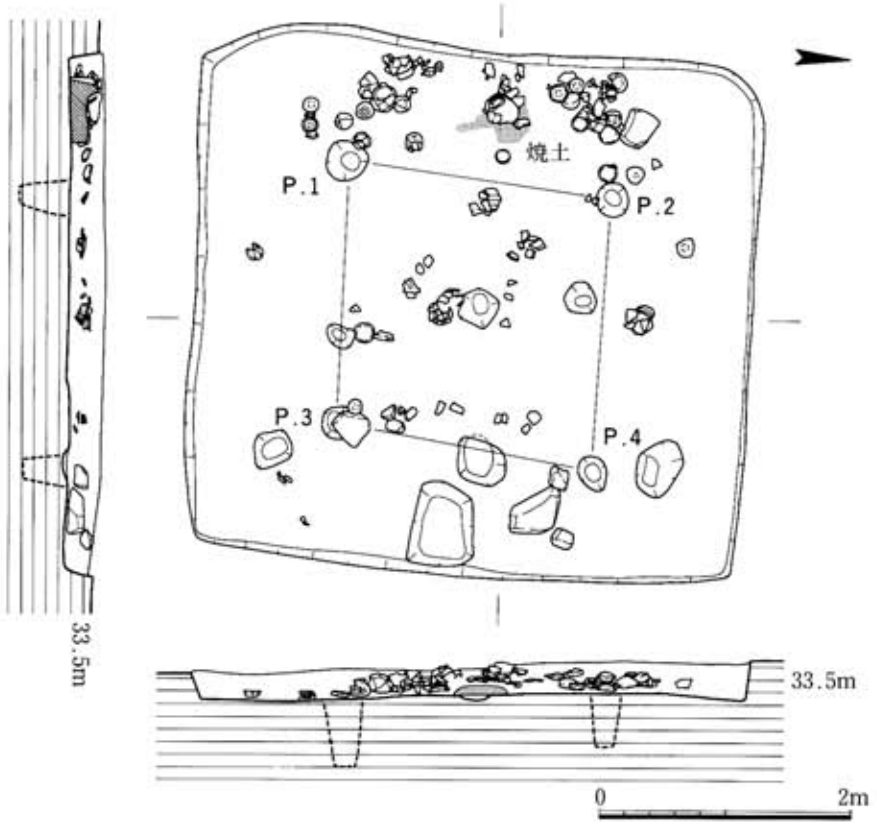
竪穴住居跡は，17棟を検出した。時期は6世紀でも後半を中心とする。いずれも平面形は方形または方形にちかい長方形で，規模建物方位は調査区南辺部のSB116・SB101・SB106・SB119・SB124・SB075では南北を基本とするが，以北の11棟は東側あるいは西側に傾く傾向があり，方位が乱れるように見受けられる。

規模は小型のSB141が3.6×3.5m，大型のSB101が1辺約6m，平均的には1辺4.5m前後で，床面積にして約20㎡である。主柱は4本を基本とする。17棟の内，11棟が竪穴の西壁際あるいは西北壁側の壁際中央にカマドを付設していた。このことから入口が南側あるいは東側を原則としていたことがわかる。カマドは削平のためいずれも上面不明であるが，構造は，SB021・SB043・SB103・SB116・SB124が壁際に粘土で両袖を造り，その内SB103では煙道が壁外に伸びて掘り込まれていた。また，SB106では両袖に石を3列ずつ立てており，1石だけ残存するSB090も同様な構造であったと推測する。その他，SB063・SB090は壁中央が奥に窪み，SB018・SB032・SB108についても明確なカマドの構造は検出できなかったが，いずれも壁際に焼土が認

められたことによって，カマドの位置がわかる。

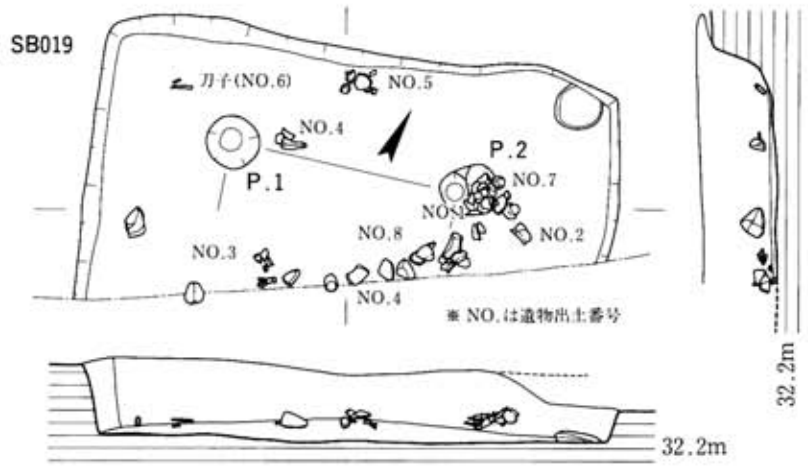
各竪穴住居跡からは比較的多量の土器等遺物が出土した。カマド及びその周辺からの出土が多く，とくにSB063・SB090・SB103・SB106などでは甕や坏が脇に置かれるなど，当時の食生活の一端を生々しくとどめていた。なお，出土遺物では土師器の甕・壺といった生活土器が主体を占めることは当然ながら，須恵器坏を模した土師器坏が殆どの竪穴住居跡から出土しており，しかも量が多い。また，手捏の模造土製品も多くの竪穴住居跡で見られ，住居内祭祀が広く行なわれていたことが窺われる。

以下，原則として遺構番号順に図示する。



SB018竪穴住居跡　古墳時代後期
形態　方形竪穴
法量　4.4m×4.2m
概要　壁側中央に竈跡があり，焼土が残る。柱穴はP. 1～P. 4の4本。東壁中央の方形土壙は入口施設に関係する掘り込みか。竈の周辺から土師器坏類が多数出土した。

Fig. 43　SB018竪穴住居跡（1/60）



SB019竪穴住居跡　古墳時代後期

形態　方形竪穴か　　**法量**　4.2m×α

概要　南側は調査区外となって不明。P. 1, P. 2は柱穴。西北隅から刀子が出土したほか，東側を中心に土師器の甕・壷・甑・支脚・碗・手捏土器，須恵器の坏1点が散らばっていた。

SB021竪穴住居跡　古墳時代後期

形態　方形竪穴　　**法量**　4.8m×4.6m

概要　西北壁の中央からやや東寄りに竈を付設。煙道が壁外に伸びていた痕跡が認められた。中央の浅い円形掘り込みは性格不明。西南側の2穴はいずれも浅く，柱穴不明。竈内から若干の土師器の甕・壷・坏・碗・高坏が出土した。

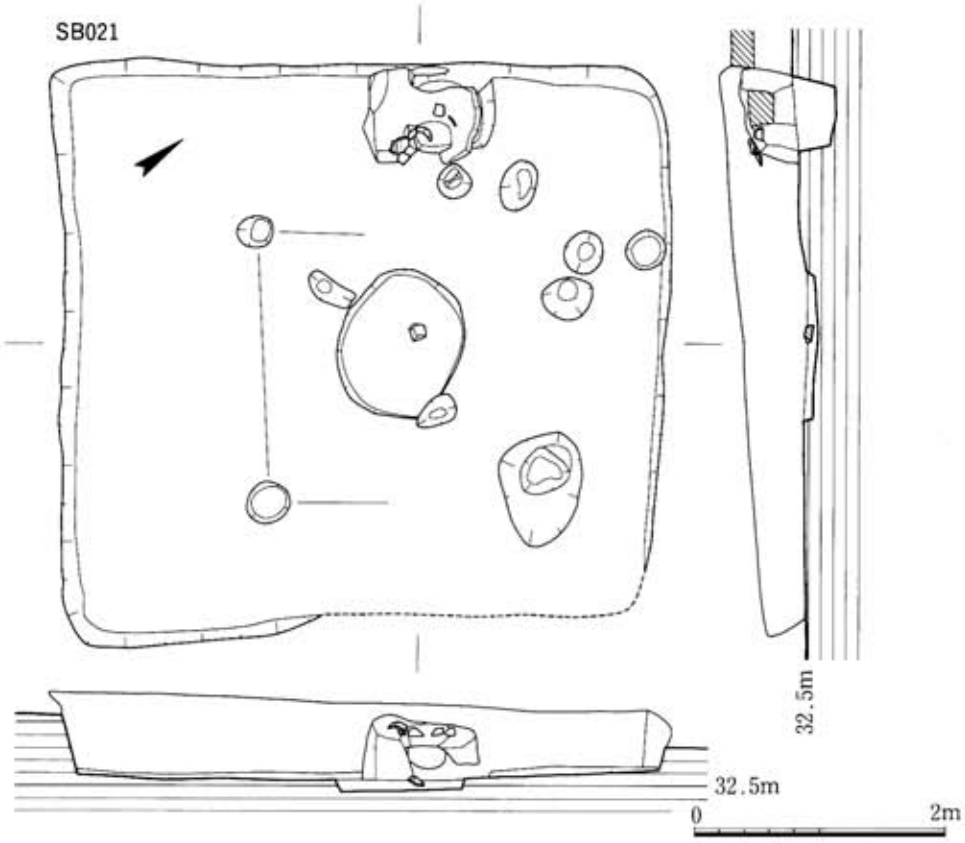
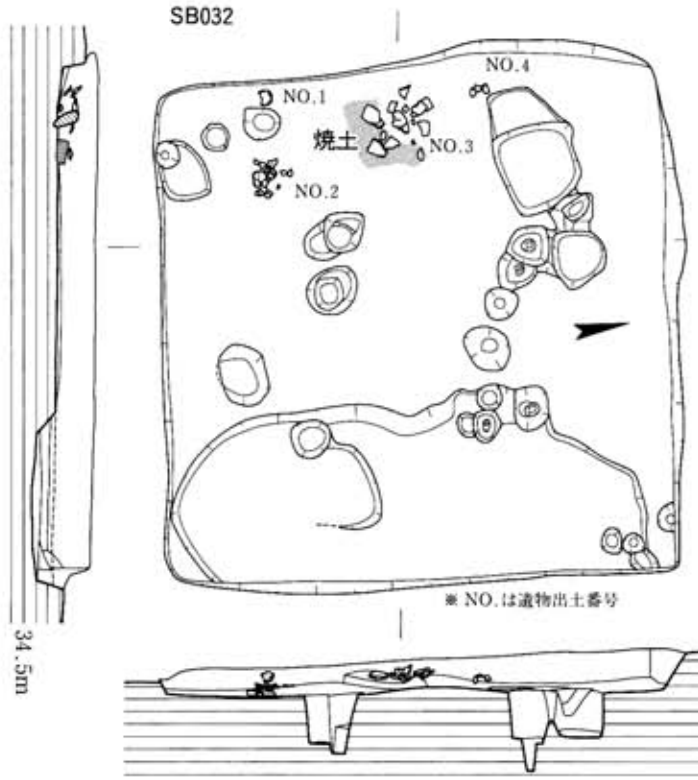
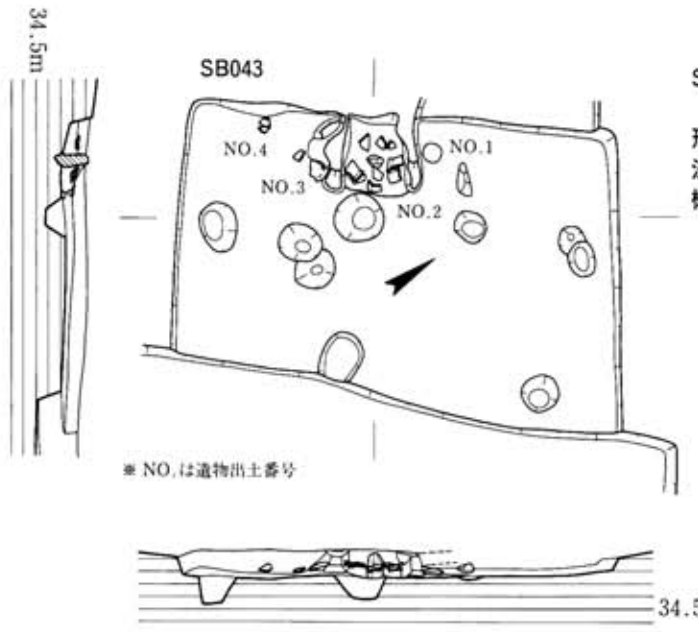


Fig. 44　SB019・SB021竪穴住居跡（1/60）

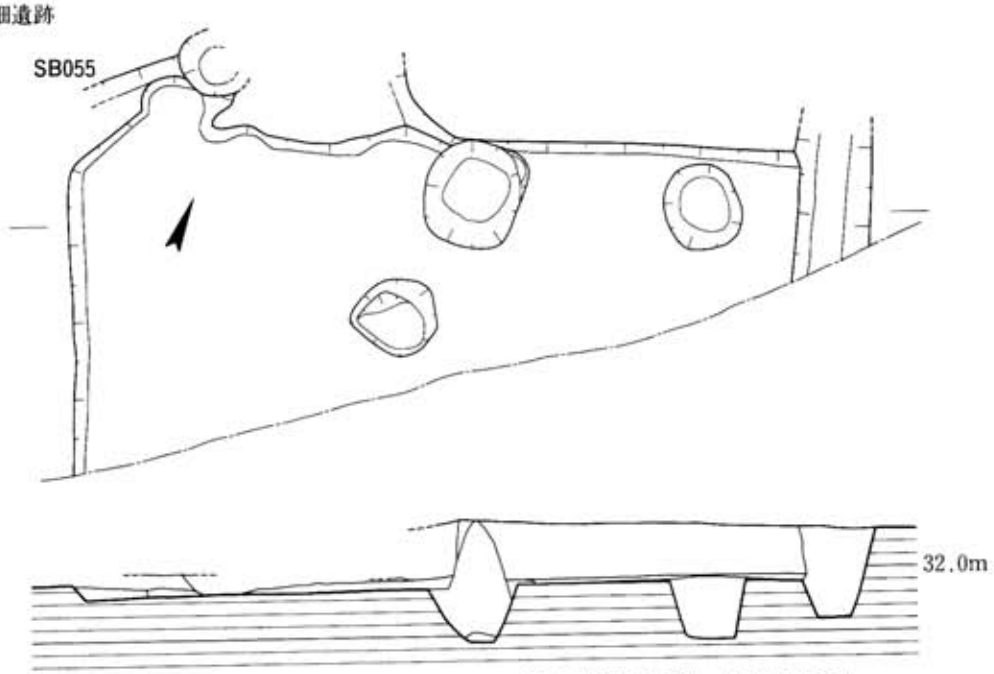


SB032竪穴住居跡　古墳時代後期
形態　方形竪穴
法量　4.2m×4.1m
概要　西壁際に竈跡が認められ，焼土が残る。東側の窪みは粘土を埋めて，平坦な床面をつくっている。柱穴不明。竈付近から甕・坏・甑・碗が出土した。



SB043竪穴住居跡　古墳時代後期
形態　方形竪穴か
法量　3.5m×α
概要　東南側は弥生後期のSB044を切るが，調査では床面を十分確認できなかった。西北壁の中央からやや西寄りに竈を付設する。柱穴不明。竈内から若干の土器片が出土した。

Fig. 45　SB032・SB043竪穴住居跡（1/60）



SB055竪穴住居跡　古墳時代後期か
形態　方形竪穴か　　**法量**　5.9m×α
概要　北側は弥生時代のSB022を切る。南側は調査区外となって不明。また東側は後世の溝で荒らされている。

SB063竪穴住居跡　古墳時代後期
形態　長方形竪穴　　**法量**　4.1m×3.4m
概要　西北隅を若干，中世のSK071土壙に切られる。平面形は南北にやや長く，西壁際中央に竈跡があり，焼土が残る。P.1～P.4は柱穴。竈内およびその周辺を中心に土師器の甕，壷・甑・坏・碗が多数出土した。

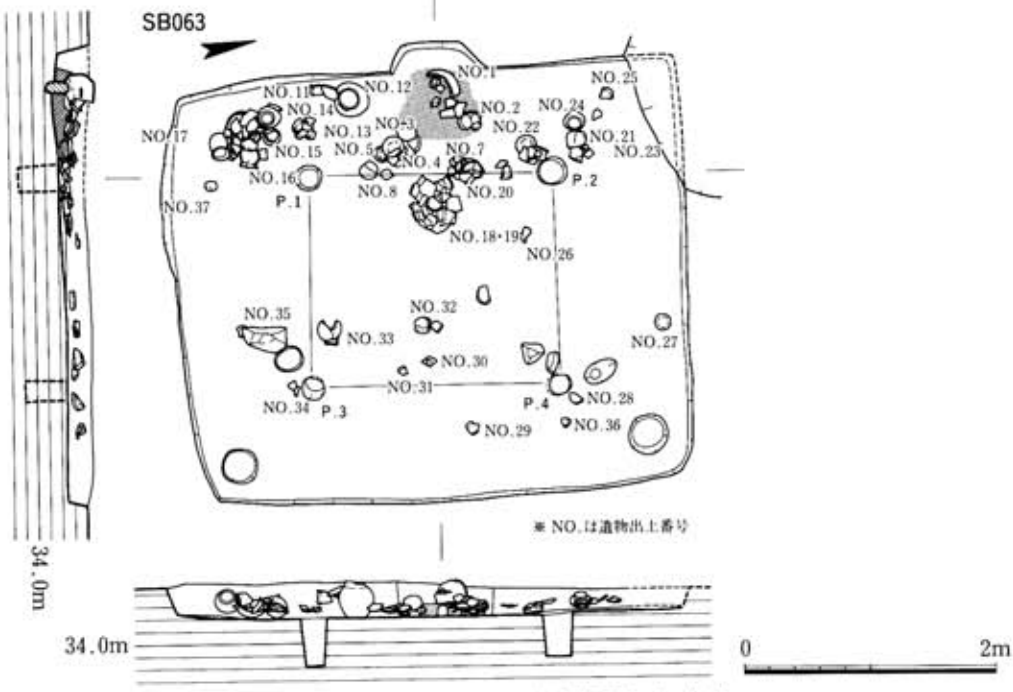


Fig. 46　SB055・SB063竪穴住居跡（1/60）

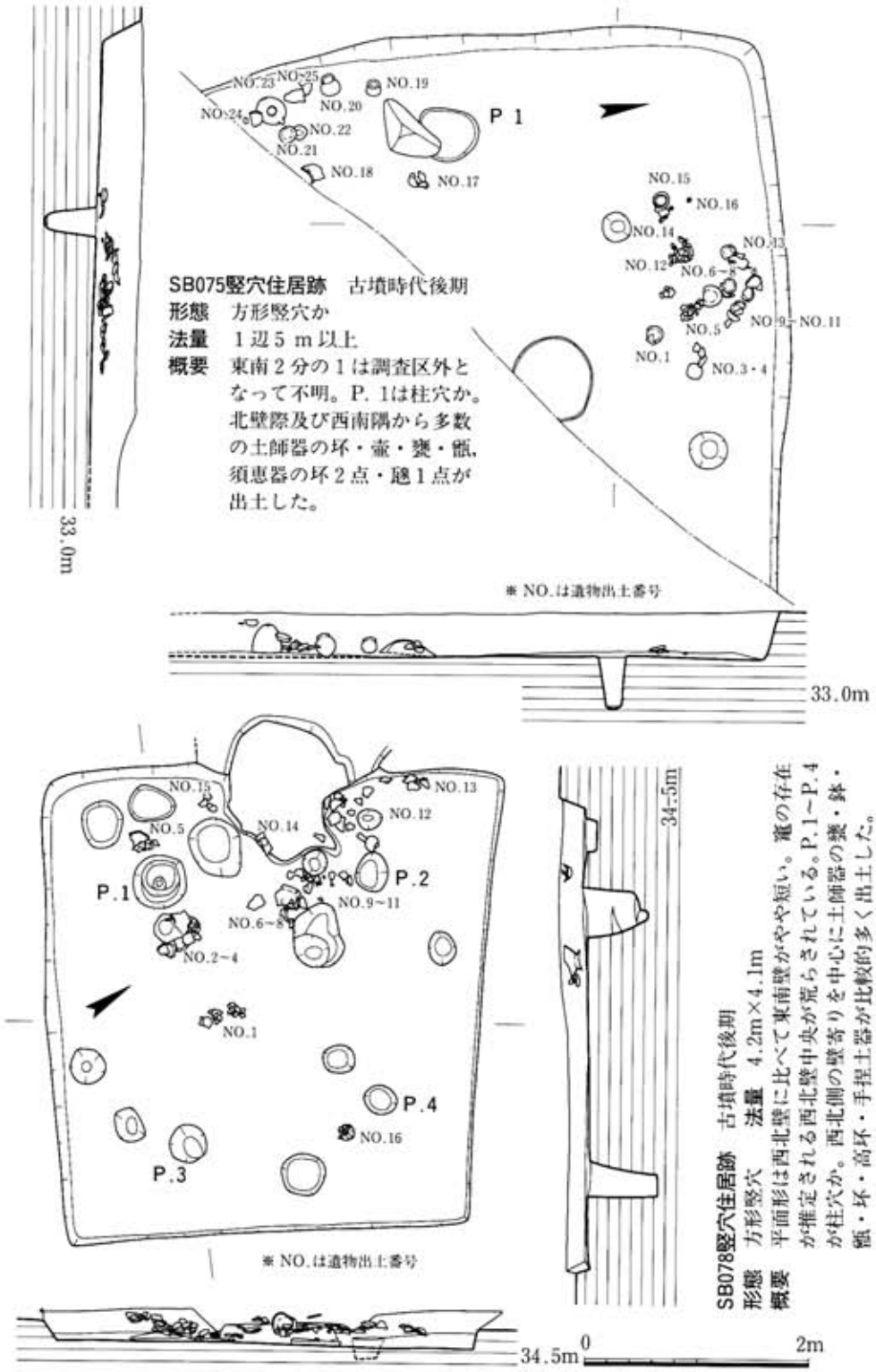
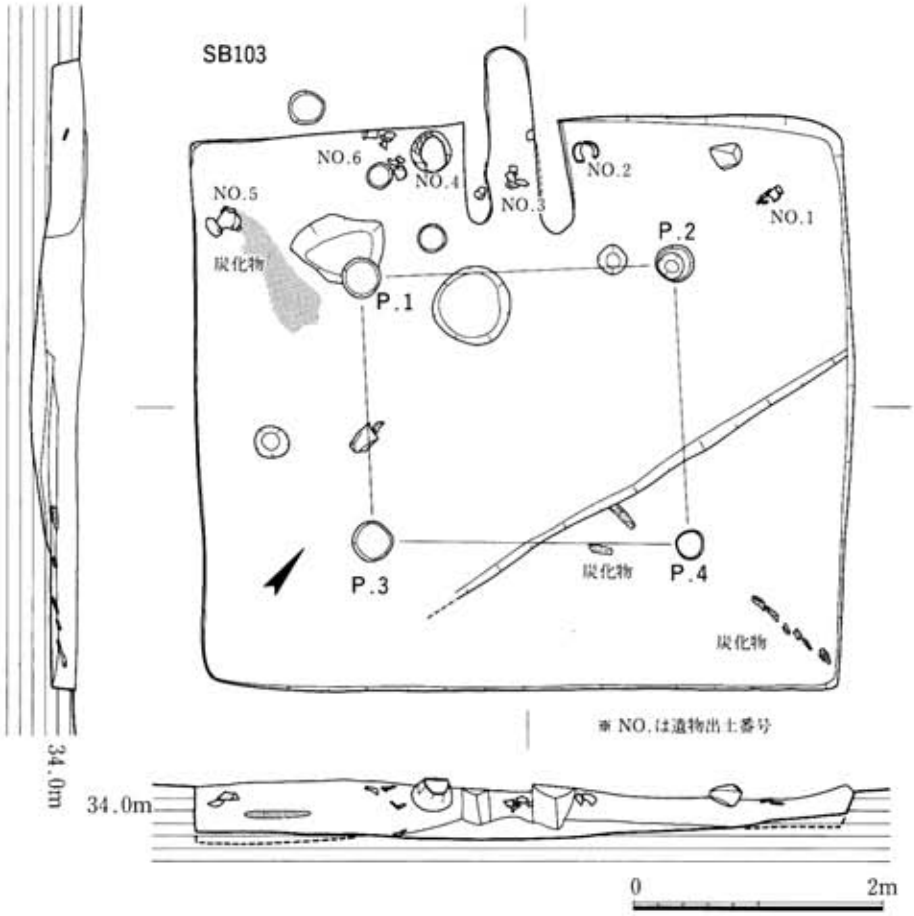


Fig. 47　SB075・SB078竪穴住居跡（1/60）



SB103竪穴住居跡　古墳時代後期

形態　方形竪穴　　**法量**　5.2m×4.5m

概要　西北壁際の中央に両袖が残る竈を付設し，煙道が壁外に伸びる。東西両隅に炭化物が認められた。P.1～P.4が柱穴。竈の両脇に甕が置かれ，その周辺に土師器の甕・甑・壷・坏・碗・高坏・手捏土器の破片が散らばっていた。他，石製紡錘車1点出土。

SB090竪穴住居跡　古墳時代後期

形態　方形竪穴　　**法量**　4.3m×α

概要　西南壁は平安時代の大形土壙SK091に荒らされている。西北壁際の中央に竈跡が認められ，火床を窪めて脇に柱状礫を置いていた。P.1～P.4が柱穴か。ただし，P.1は位置がずれる。竈内とその周辺から甕・壷・坏・東北隅から獣骨に伴って坏と手捏碗が，また，西南壁寄りで2群に分かれて刀子，坏類等が出土した。総じて，手捏の土製鏡2点・土製勾玉1点・碗等の祭祀品が多い。

SB101竪穴住居跡　古墳時代後期

形態　方形竪穴か　　**法量**　6.6m×α

概要　南側は調査区外。床面が著しく荒らされており，詳細不明。西壁ちかくには焼土が残っており，竈等の施設が付設されていた可能性がある。P.1が柱穴と考えられるが，他不明。焼土付近から甕，坏等が出土したほか，P.1・P.2付近及び東北隅から甕・坏・甑・高坏等が出土した。SK102は住居跡に伴うとみられ，土師器の壷・高坏・坏，須恵器坏出土。

Fig. 48　SB103竪穴住居跡（1/60）

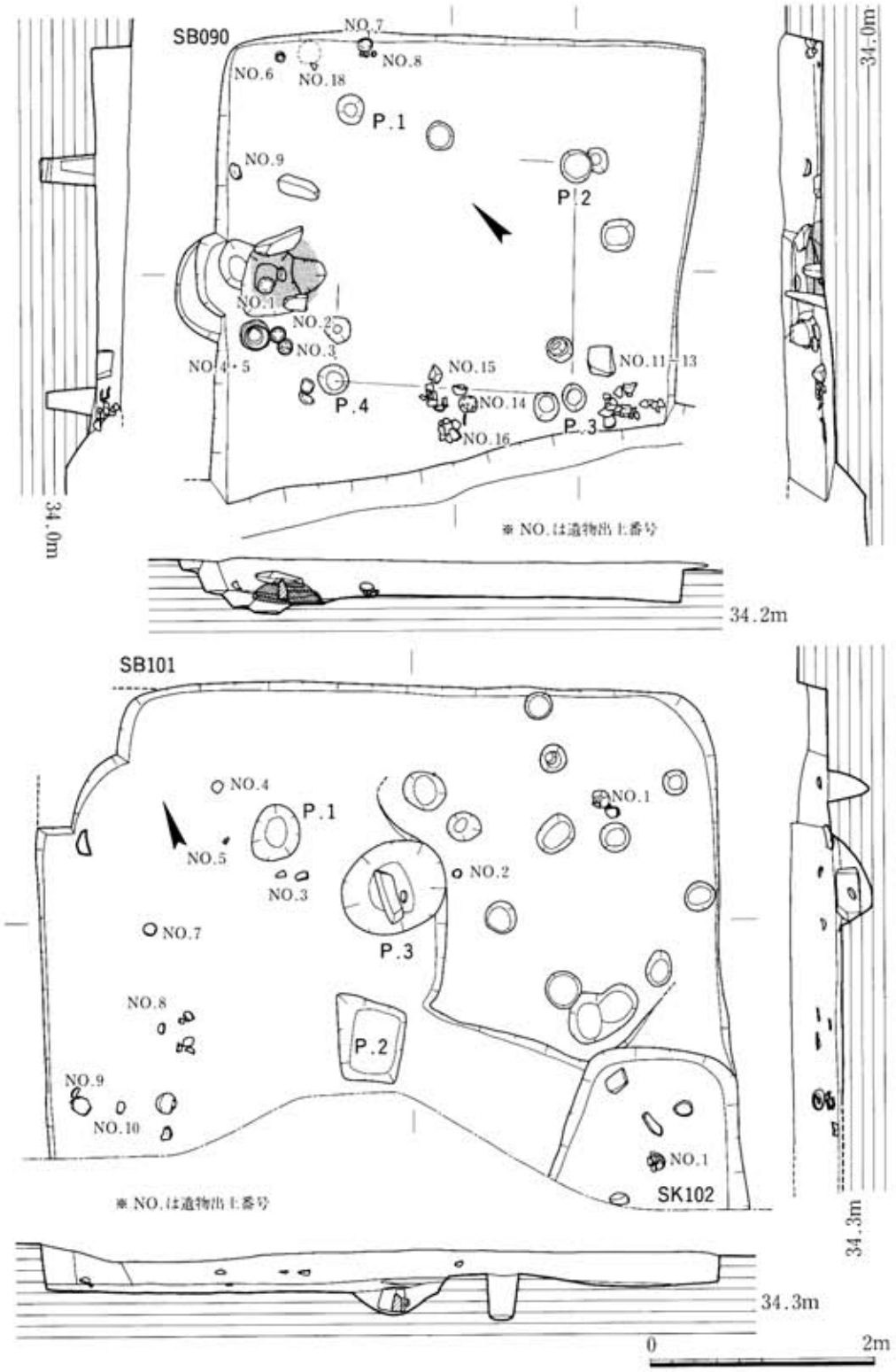
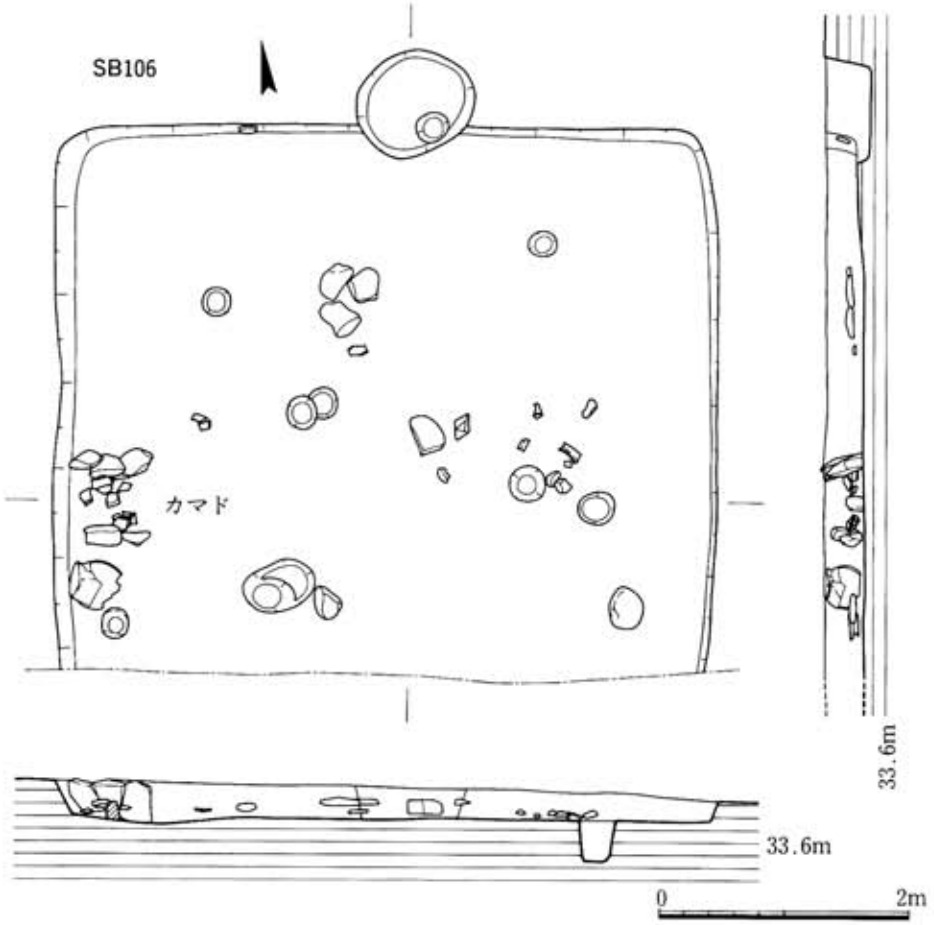


Fig. 49　SB090・SB101竪穴住居跡（1/60）



SB106竪穴住居跡　古墳時代後期
形態　方形竪穴か
法量　5.3m×4.4m＋α
概要　壁は浅く残存し，柱穴不明。西壁中央付近に礫を並べて袖とした竈を布設する。竈の南脇に甕が置かれており，また，住居内中央部から東側にかけて土器・礫が散在していた。南側は調査区外。

SB108竪穴住居跡　古墳時代後期
形態　方形竪穴
法量　4.7m×4.1m
概要　南壁際中央に竈を布設した跡が認められるが，P.7に荒らされ不明瞭。P.1～P.4は柱穴。P.5～P.7は後世の掘立柱建物跡の柱列と見られるが，全体のプラン及び時期不明。中央部を中心に甕・壺片が散らばっていた。

SB116竪穴住居跡　古墳時代後期
形態　方形竪穴
法量　4.6m×α
概要　南側3分の1は調査区外。西壁際に竈を布設し，焼土が残っていた。柱穴不明。竈の前面に炭化物及び土器片が散らばり，西北隅および東北隅を中心に土師器の甕・壺・高坏・坏・鉢・碗が破片も含め多く，他に刀子1点・金交具1点が出土。

Fig. 50　SB106竪穴住居跡（1/60）

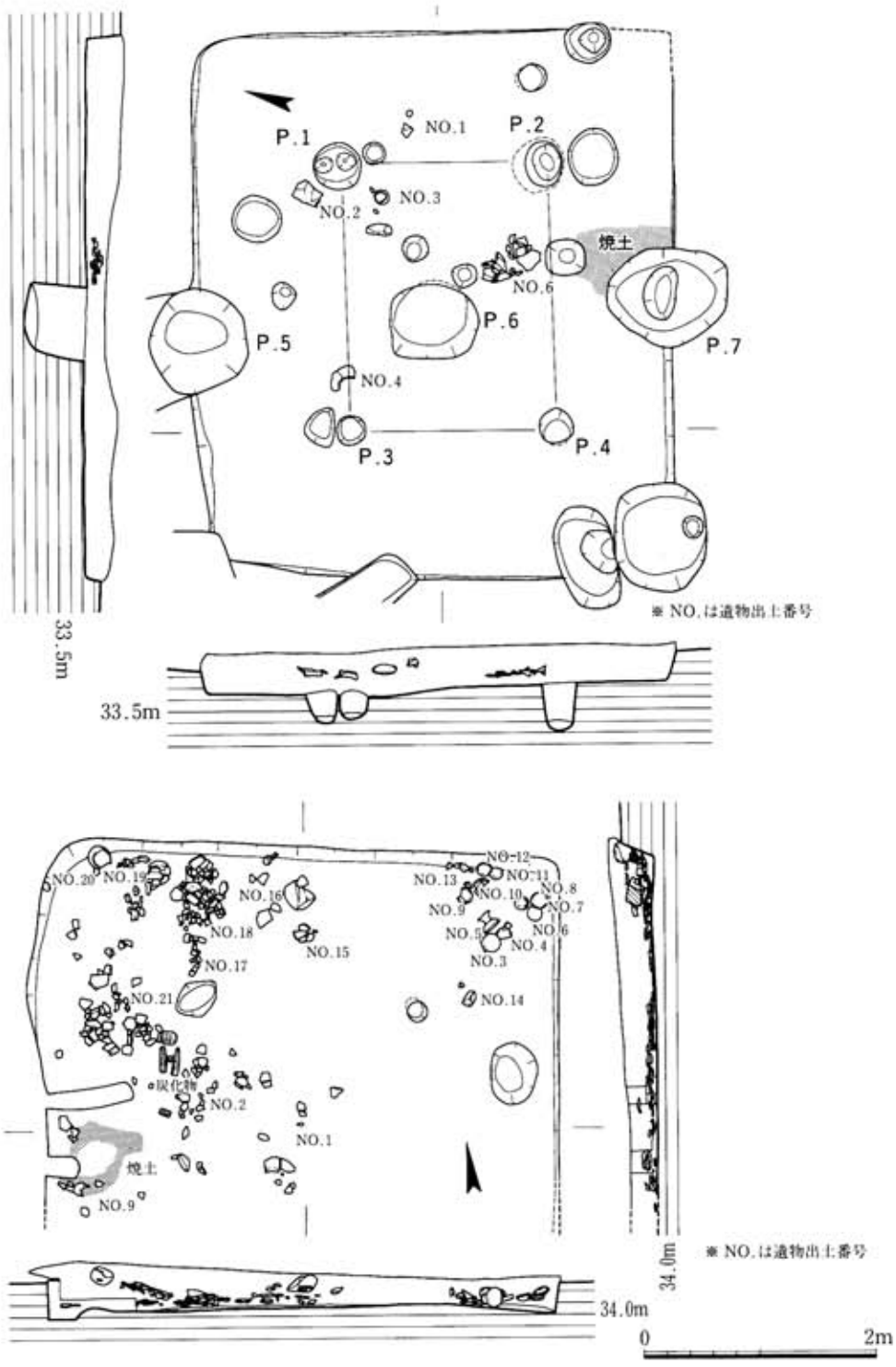
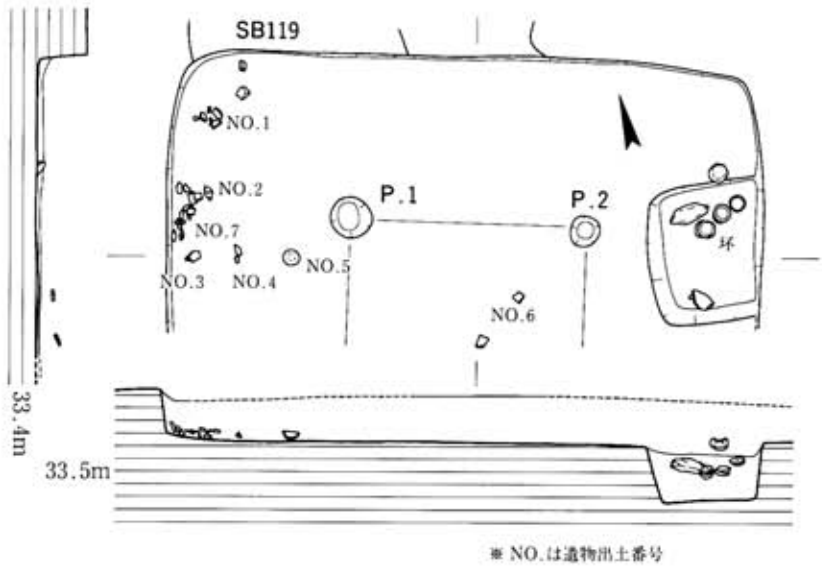


Fig. 51　SB108・SB116竪穴住居跡（1/60）



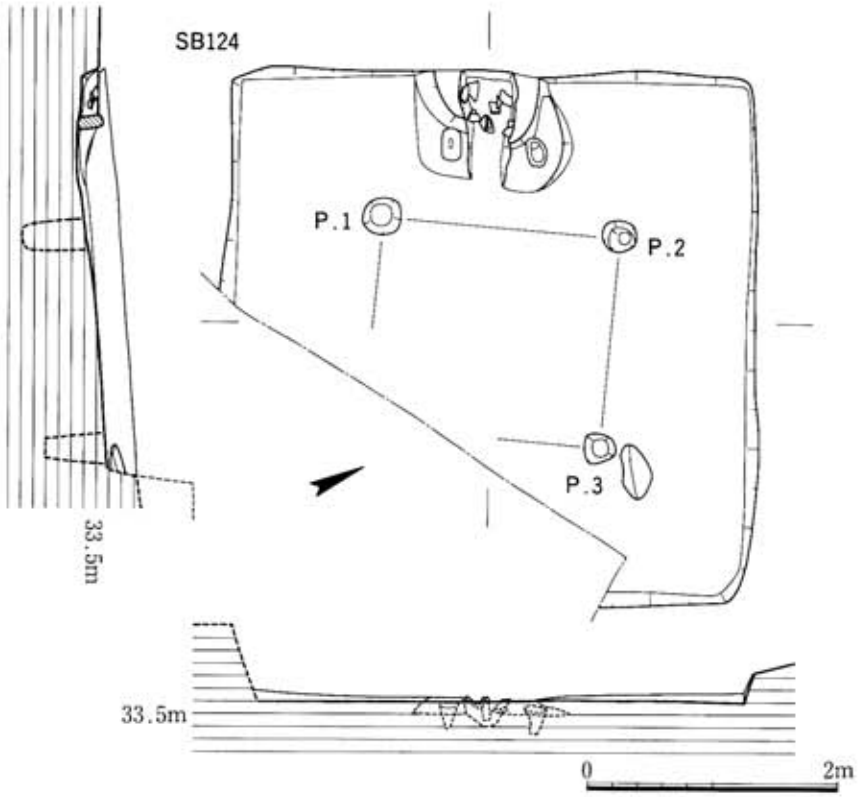
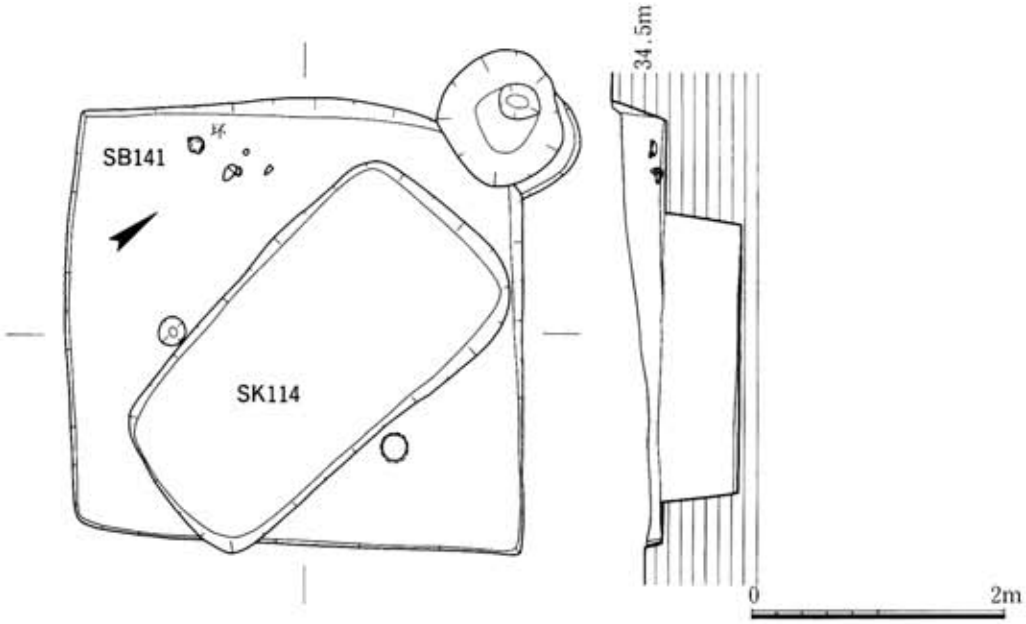


Fig. 52　SB119・SB124竪穴住居跡（1/60）



SB119竪穴住居跡　古墳時代後期
形態　方形竪穴か
法量　4.7m×α
概要　南側3分の1は調査区外となって不明。P. 1とP. 2は柱穴。東壁際に方形土壙があり，埋土上面から土師器坏類及び甕片が出土したほか，西北隅に土師器の甕・坏・碗および須恵器の坏片が散らばっていた。

SB124竪穴住居跡　古墳時代後期
形態　方形竪穴
法量　4.2m×4.2m
概要　南隅は調査区外となって不明。西北壁際の中央に竈を布設する。竈はそれぞれ礫を置いた両袖の焼土基部が残り，内部から若干の土師器甕・甑・鉢・坏・碗，須恵器坏が出土した。P. 1～P. 3は柱穴。

SB141竪穴住居跡　古墳時代後期
形態　方形竪穴
法量　3.6m×3.5m
概要　北隅はSB133掘立柱建物跡の柱穴に切られ，また，中央を古墳時代のSK114土壙に大きく切られている。柱穴不明。西隅付近から土師器の甕・甑・坏片が出土した土器片が若干出土した。

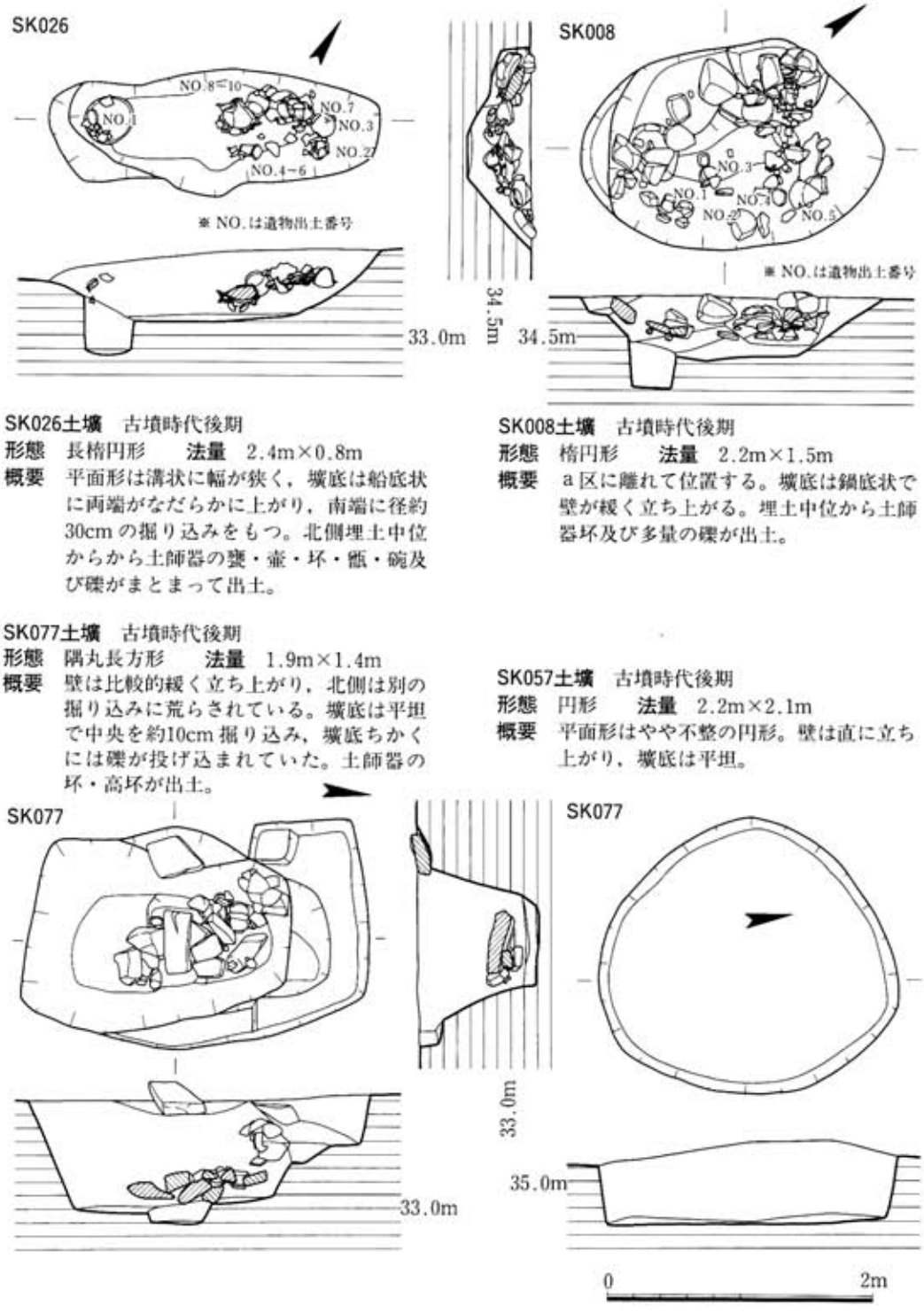
SK114土壙　古墳時代後期
形態　長方形
法量　3.2m×1.6m
概要　壁は直にちかく急に掘り込み，壙底は平坦。土壙墓状を呈するが，性格不明。土師器の坏・高坏出土。

Fig. 53　SB141竪穴住居跡（1/60）

(3) 土　　壙

土壙は9基を検出した。分布はSK008がa区にある以外は全てb区にあって，とくに集中するような状況は認められないが，竪穴住居跡に近接する傾向がつよいことから，多くは住居に付属する貯蔵穴等であったかと推測する。平面形は楕円形または円形のSK008・SK026・SK057・SK086，SK110，長方形または方形のSK077・SK102・SK114・SK153の各形態が見られる。SK008・SK026からは多量な土器が廃棄された状態で出土した。

以下，原則として遺構番号順に図示する。



SK026土壙　古墳時代後期
形態　長楕円形　　**法量**　2.4m×0.8m
概要　平面形は溝状に幅が狭く，壙底は船底状に両端がなだらかに上がり，南端に径約30cmの掘り込みをもつ。北側埋土中位からから土師器の甕・壺・坏・甑・碗及び礫がまとまって出土。

SK008土壙　古墳時代後期
形態　楕円形　　**法量**　2.2m×1.5m
概要　a区に離れて位置する。壙底は鍋底状で壁が緩く立ち上がる。埋土中位から土師器坏及び多量の礫が出土。

SK077土壙　古墳時代後期
形態　隅丸長方形　　**法量**　1.9m×1.4m
概要　壁は比較的緩く立ち上がり，北側は別の掘り込みに荒らされている。壙底は平坦で中央を約10cm掘り込み，壙底ちかくには礫が投げ込まれていた。土師器の坏・高坏が出土。

SK057土壙　古墳時代後期
形態　円形　　**法量**　2.2m×2.1m
概要　平面形はやや不整の円形。壁は直に立ち上がり，壙底は平坦。

Fig. 54　SK008・SK026・SK057・SK077土壙（1/50）

SK153土壙
形態　長方形
法量　1.8m×1.0m
概要　平面形は西隅がやや鋭角をなす長方形。壁は直にちかく急に立ち上がり，壙底は平坦。土師器坏出土。

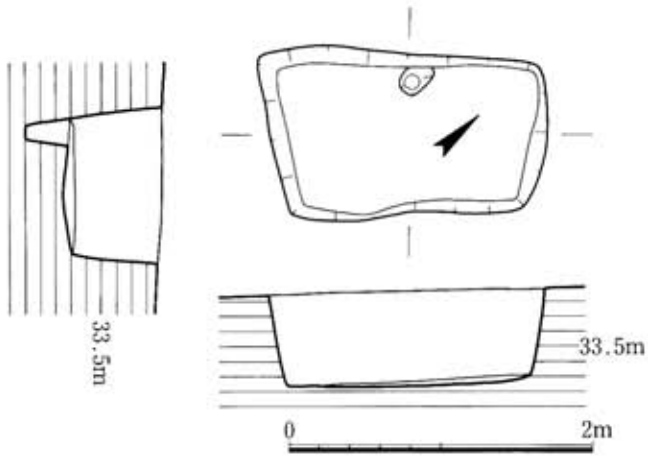


Fig. 55　SK153土壙（1/50）

(4) 溝

4条を検出した。SD125・SD164は南北小溝である。SD140からは角坏が出土した。ここでは，何らかの区画溝と見られ，土器が多量に出土したSD126のみ図示しておく。

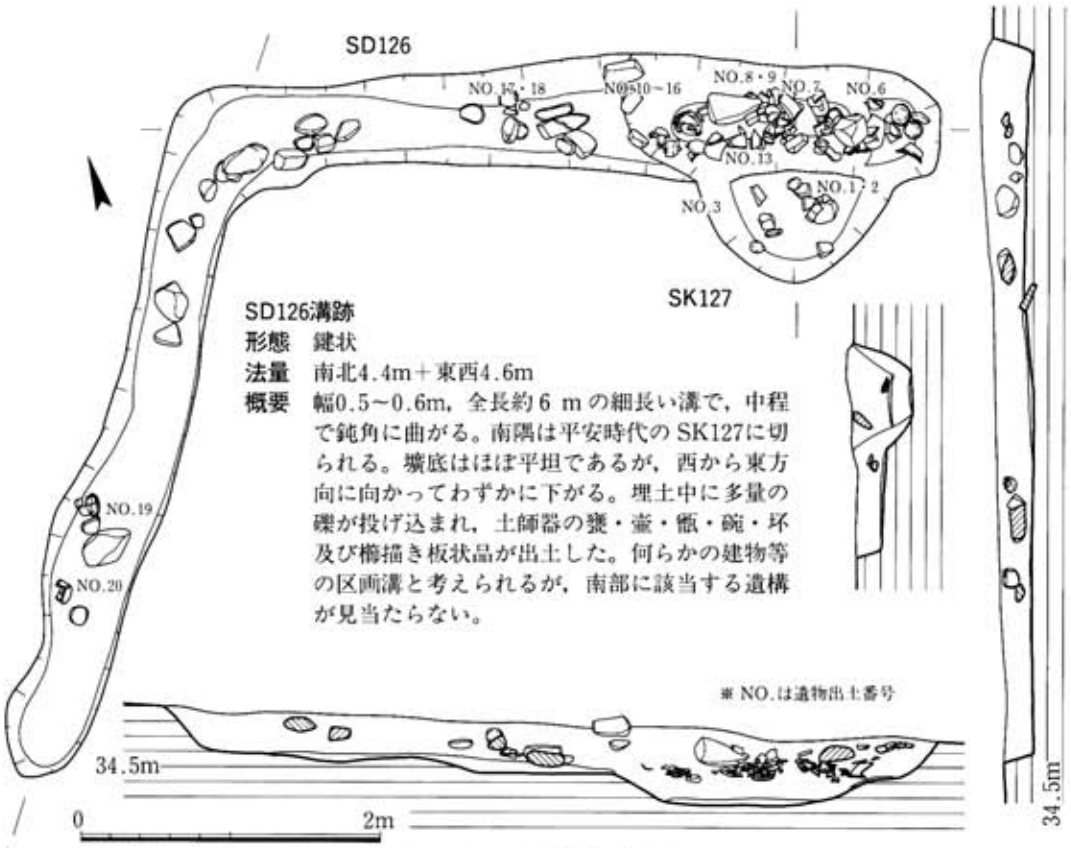


Fig. 56　SD126溝跡（1/50）

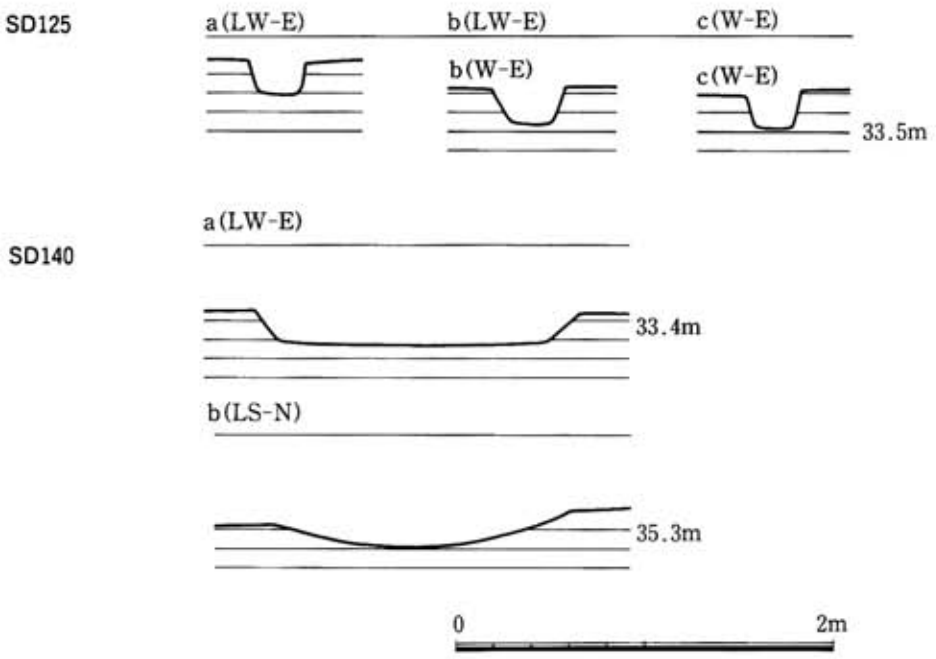


Fig. 57　古墳時代の溝（1/40）

3．奈良・平安時代以降の遺構

＜概　要＞

掘立柱建物跡4棟，溝8条，土壙6基以上を検出した。この内，掘立柱建物跡4棟はいずれも柱穴から明確に時期を示す遺物が出土しておらず，断定は出来ないが，弥生時代及び古墳時代後期の竪穴住居跡を切っていることから，ここでは一応，奈良・平安時代としておく。ただし，中世に下る可能性もある。

掘立柱建物跡はａ区で1棟，ｂ区で3棟が互いに離れて分布する。SB172を除く3棟のSB173・SB133・SB171はいずれも南北棟で，主軸方位がわずかに西に傾き，互いにちかい関係にある。規模はSB173が5×2間の長棟，SB133が3×2間，SB171は3×2間と見られ，柱掘形は大形の方形で，3棟の内では最も大型の掘立柱建物と見られる。SB172は主軸方位が大きく西に振れ，規模も小さい。

溝は，奈良・平安時代ではａ区で南北溝SD012，ｂ区で南北溝SD028・SD033及び東西溝SD087・SD111の5条を検出した。掘立柱建物跡等に関係する地割りに伴う溝と考えられるが，性格は明確でない。出土した若干の土師器から，時期は平安時代末を中心にすると推定する。

中世ではｂ区でSD059・SD089・SD170の3条を検出した。位置及び方向から見て，平安時代

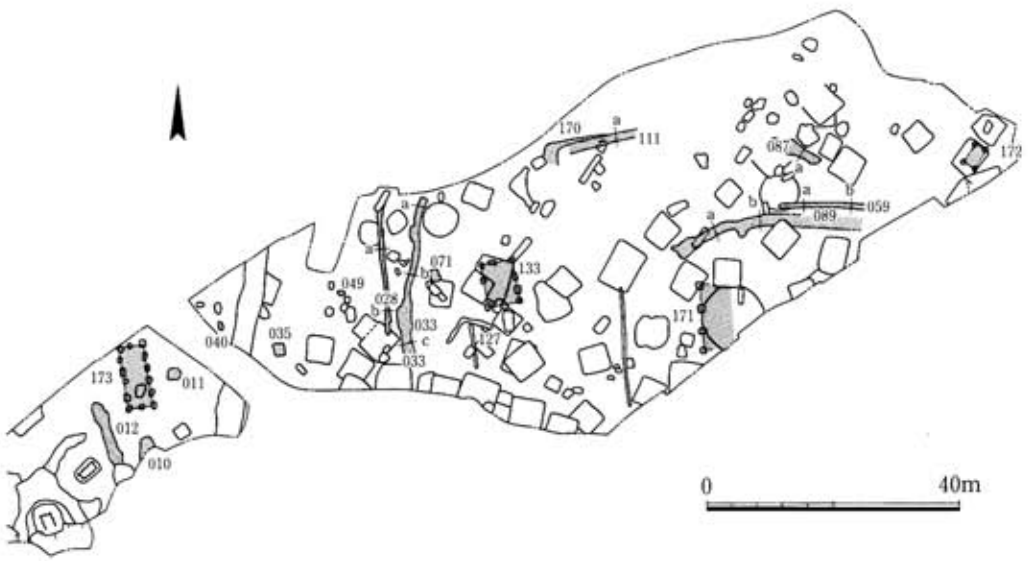


Fig. 58　奈良・平安時代および中世遺構分布図（1/120）

末の東西溝の機能を次ぐものであろう。土壙は，ある程度時期が推定できるものが少なく，平安時代ではSK010・SK011・SK035・SK040が調査区の西側に偏って分布しており，方形やたは楕円形を呈す。出土した遺物が少なく確定は困難であるが，平安時代末を中心とすると推定する。中世ではｂ区でSK049・SK071・SK127・SK156の長方形や円形の土壙が知られる程度である。

(1) 掘立柱建物跡

奈良・平安時代と推定した掘立柱建物跡のうち，２棟を遺構番号順に図示する。

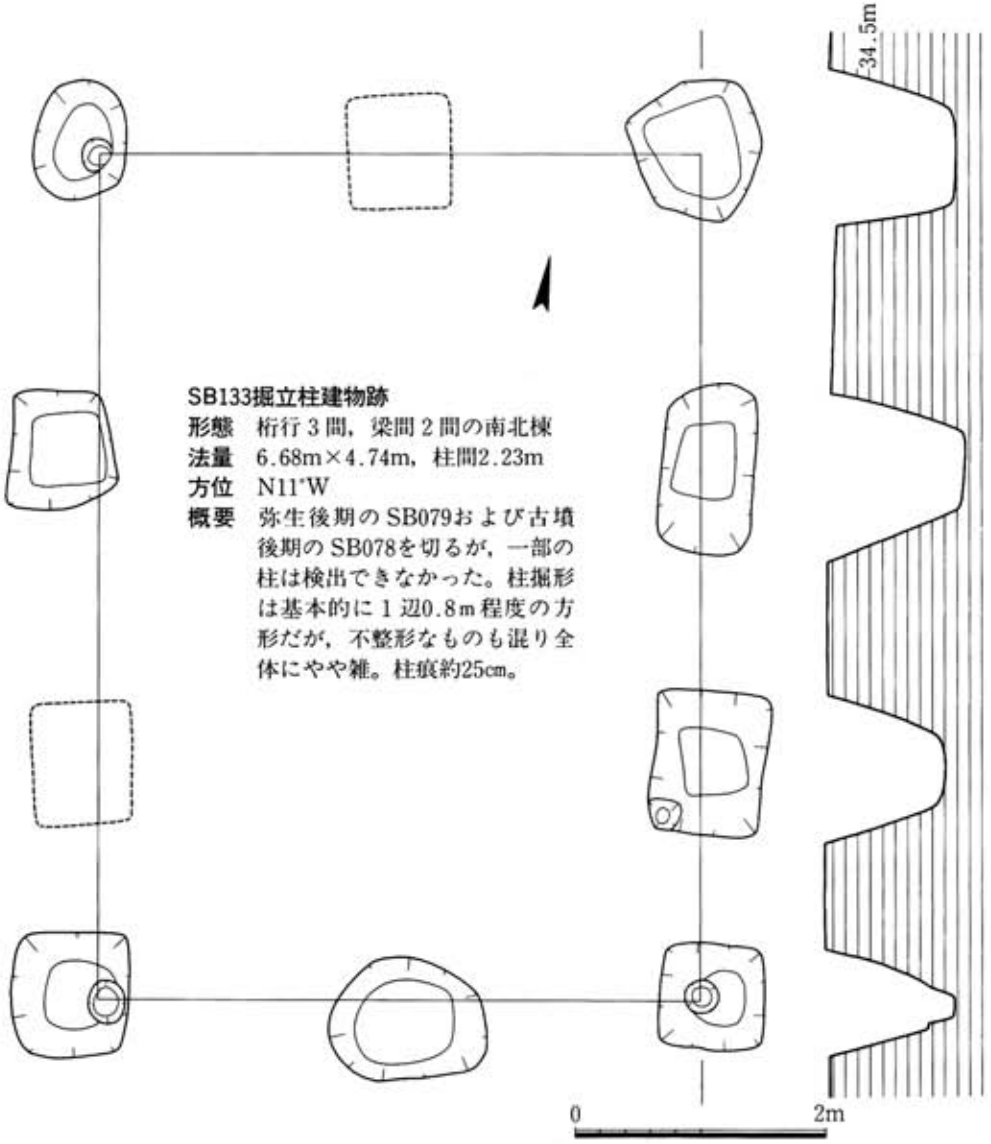
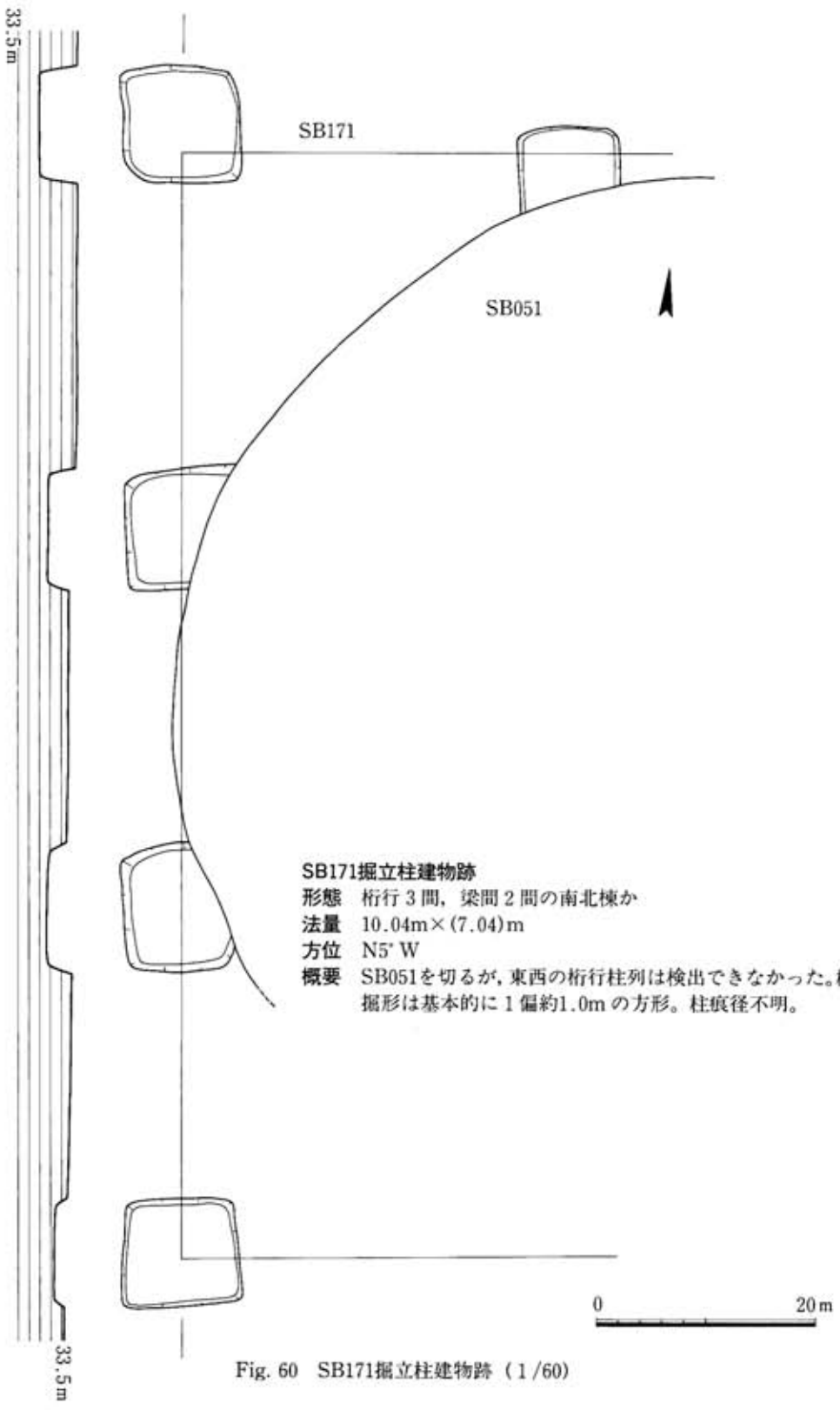


Fig. 59　SB113掘立柱建物跡（1/60）



SB171掘立柱建物跡

形態　桁行３間，梁間２間の南北棟か

法量　10.04m×(7.04)m

方位　N5° W

概要　SB051を切るが，東西の桁行柱列は検出できなかった。柱掘形は基本的に１偏約1.0mの方形。柱痕径不明。

Fig. 60　SB171掘立柱建物跡（1/60）

(2) 溝

奈良・平安時代ではａ区で南北溝SD012，ｂ区で南北溝SD028・SD033及び東西溝SD087・SD111の５条がある。SD012は幅約1.7mの南北溝で，SB173掘立柱建物跡やSK010土壙等の近接する同時期の遺構と関係するかと見られるが，性格不明。ST004古墳の東側をかすめる。SD028はSD033と南北方向に並走するが，前者がほぼ直線であるのに対して，後者は曲線を描く。その他，SD111は鍵形に曲がるかと考えられ，SD087はカーブし，いずれも東西溝が一部だけ残存するにする。SD111から平安時代前期の土師器が出土したが，混じり込みの可能性がつよく，時期はいずれも平安時代末と推定する。

中世ではｂ区でSD059・SD089・SD170の３条がある。いずれも直線または直線にちかい東西溝で，何らかの区画溝と考えられるが，性格は不明である。

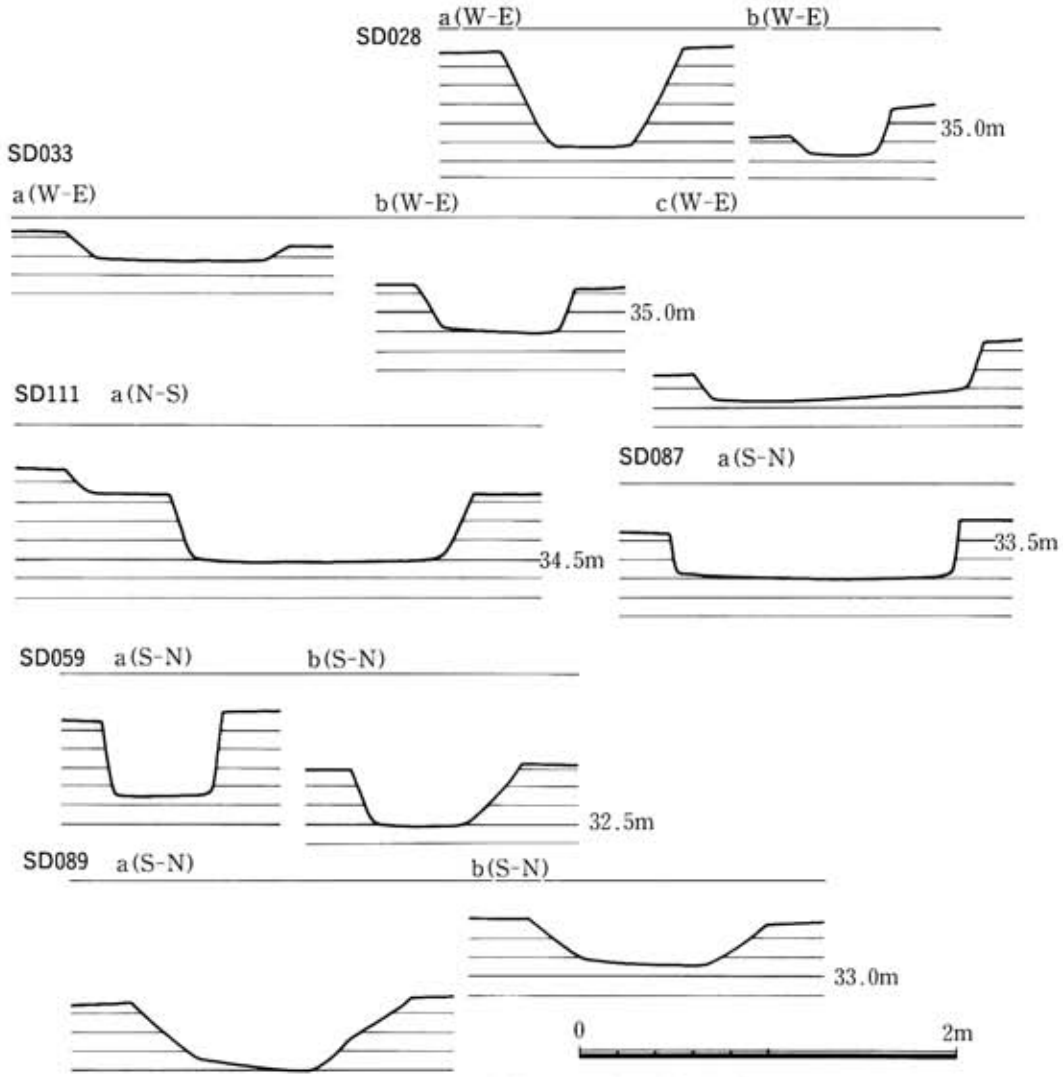


Fig. 61　奈良・平安時代および中世の溝（1/40）

III 遺　　物

1．旧石器・縄文時代の遺物

＜概　要＞

遺構検出面から旧石器時代の石器２点が出土した。また，遺構検出中に，あるいは弥生時代以降の埋土中から縄文土器片が約20点ほど出土した。ただし，当該する時期の遺構は検出されなかった。

(1) 石　　器

旧石器時代についてはナイフ形石器が１点と細石刃１点が出土した。１はサヌカイトのナイフ形石器で，わずかに一方の端を欠く。残存長3.5cm，最大幅1.1cm，最大厚0.5cm，重さ1.6gである。縦剝ぎの剝片の両側面に二次的調整を加え，鋭利な刃部をつくっている。２は黒曜石の細石刃。長さ1.15cm，幅0.6cm，厚さ0.15cm，重さ0.1gである。連続剝離痕を残す縦剝ぎの小剝片で，打面側に調整痕が見られる。

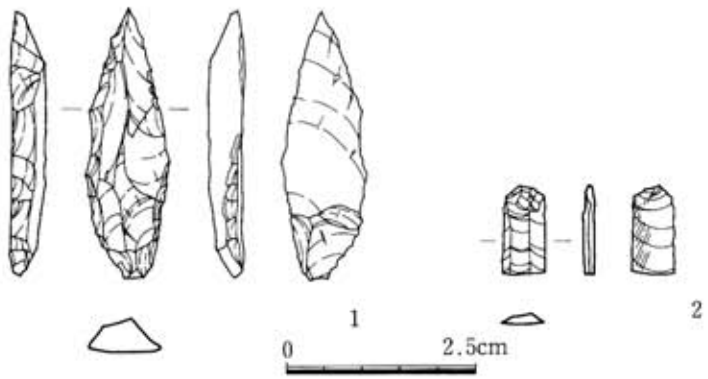


Fig. 62　旧石器（1/1）

縄文時代の石器については，石鏃・削器・石匙・石錐などがあるが，遺構を伴わず，また，弥生時代の石器と明確に区別できないものが含まれることから，後述する弥生時代の石器と一括して図示することにする。

(2) 縄文土器

縄文時代早・前期及び晩期の土器が出土している。但し，いずれも細片がほとんどで，器形まで判るものはすくない。

3～6は早前後葉～末葉にかかる押型文系の鉢形土器。3は口縁部がわずかに外反し，外面に押型文，内面の上端には縦方向2段の条痕文を飾る。4は口縁部が体部からつよく屈曲して大きく外反るタイプの屈曲部にあたるか。内面ナデ，外面に比較的目の細やかな押型文を施す。5は外面を目の粗い押型文で調整し，内面はナデ。6は塞ノ神式鉢。体部から屈曲して外に開く口縁部にあたると見られる。口唇部に刺突文，外面に2段の刺突文を施し，内面はナデて仕上げる。接合部で割れているのが観察できる。7は円筒形か。口縁部は内面ナデ，外面には簾状に4段の刺突文を丹念に施し，やはり接合部で割れている。

次に，7～12は晩期前葉の条痕文系の深鉢および浅鉢。8は口縁部がほぼ直行する深鉢で，外面は条痕文のあとナデ，内面はヘラミガキにちかく丁寧にナデて調整する。9は口縁部がほぼ直行する粗製の深鉢または鉢で，内外面とも条痕文のあとナデ。口縁下に焼成後の穿孔が見られる。10は口縁部が屈曲して内傾する粗製深鉢で，外面は条痕文のあとナデ，内面ナデ。11も口縁部が屈曲して外反する粗製深鉢で，内外面とも条痕文のあとでナデ。

12は口唇部に山形文を飾る粗成浅鉢で，口縁部は2段に屈曲し，内外面ともヘラミガキを施す。復元33.3cm。13も同様なつくりの浅鉢であるが，12よりは深い。復元体径28.2cm。ともにやや砂粒を含み，褐色を呈す。

(図番号－実測番号)

3－87000846　4－90001638　5－90001872　6－90002668　7－87000840　8－90002724
9－90002989　10－90001873　11－90002725　12－90001666　13－90002720

2．弥生時代の遺物

<概　要>

竪穴住居跡及び土壙を中心に生活土器が豊富に出土した。他に石器・玉類・紡錘車・鉄器がある。また，特殊なものとして，SK115土壙から未焼成の投弾が大量に出土している。

土器については，ある程度まとまった量の出土を見た遺構を中心に図示する。時期は弥生前期末から中期初にかかる一群と，中期末から後期前半にかかる一群との2時期に分かれる。石器は磨製石器と打製石器とがあるが，縄文時代のものと明確に区分しにくい一部の打製石器については，ここで併せて図示することにする。その他，玉類・紡錘車等は点数が少ない。

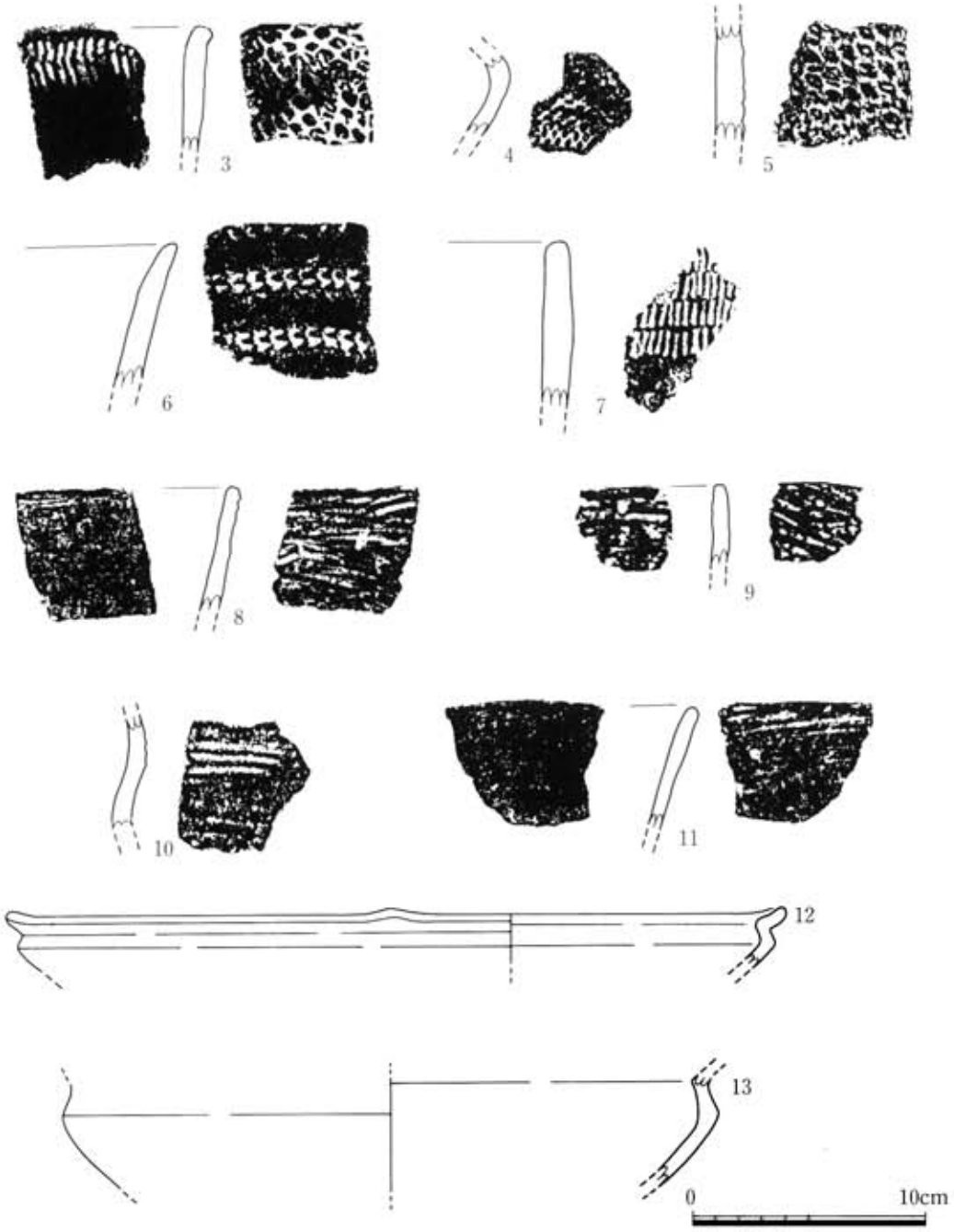


Fig. 63　縄文土器（1/3）

(1) 弥生土器

まず，前期末から中期初にかかる土器群の主なものについて，竪穴住居跡と土壙とに分け，原則として図示した遺構順に概略を説明する。床面あるいは壙底からの出土品を中心とするが，混入の可能性のあるものも含め一括遺物として取り扱うことにする。

図示した各資料の詳細はTab. 2による。

SB015（Fig. 64）

甕・壷・高坏・鉢・器台が出土した。甕14～21には大・中・小があり，底部は比較的安定した平底ながら，台付き甕17が出現する。口縁部は「く」字形に屈曲するが，15のように中期的な様相を残すものも見られる。壷は22が下膨み胴部をもち，27は異形の小形品である。高坏23は鋤先状口縁で坏部が浅い。鉢24～26・28には大・中・小がある。器台29・30は裾が大きく開き後期の形態をもつ。中期末～後期前半。

SB024（Fig. 65）

甕・壷・鉢が出土した。甕は安定した平底で，口縁部は中期的な平坦口縁の名残を止めながら，31のような「く」字形口縁も見られる。壷35は広い平底で，球状胴部の中位に突帯を巡らす。鉢36・37は小形で，深鉢と浅鉢とがある。中期末～後期前半。

SB052（Fig. 65）

祭祀高坏38は丹塗りの精製品。鋤先状口縁は上面を暗文で飾り，坏部が比較的深い。中期末～後期前半。

SB031（Fig. 66）

甕・壷・器台・甕棺片が出土した。甕は安定した平底で，口縁部は平坦ながら内側にわずかに突出する39と，体部から屈曲して端部がやや上向する40とがある。41は立岩式の甕棺片で，生活土器に混入していた。体部は上位がつよく締まって口縁部は平坦面が内傾する。器台45は体部が筒状に伸び，46はやや大形。中期末～後期前半。

SB051（Fig. 67）

甕・蓋・壷・鉢・高坏・支脚が出土した。甕48・49・51～55は口縁部が断面三角で，口縁下に突帯または沈線を巡らせ，底部は脚台状のものと平底の２様が見られる。握り位置の高い山笠形蓋47を伴う。壷50は口頸部が一体となって胴部から大きく外反する。鉢56・57は断面三角の浅鉢と小形深鉢とがある。ただし，56は底部に焼成後の穿孔をもつ。高坏58は脚の筒部が高く裾が大きく開く。前期末～中期初。

SB056（Fig. 68）

甕・蓋・壷・鉢・器台・甕棺片が出土した。甕棺片61・72・73は立岩式。生活土器では，甕

62～64は口縁が体部から折れて端部がやや上向する。壷65は頸部が大きく外反して開き，鋤先状口縁をのせる。器台は70が上位で締まる後期の様相を示しており，混入の可能性もあるが，床面からの一括遺物として図示しておく。中期末～後期前半。

SB017（Fig. 69）

甕・鉢・器台が出土した。甕74～77は口縁端部が平坦から上向する傾向がつよく示すようになる。中期末～後期前半。

SB023（Fig. 69）

甕・壷が出土した。甕80・82・83は「く」字形口縁で平底，壷81は頸部あまり開かずに外反して立ち上がり，鋤先状口縁をのせる。中期末～後期前半。

SB079（Fig. 70・71）

甕棺片・甕・壷・高坏・鉢・器台ほかが出土した。甕棺片84は立岩式で，生活土器に混入して床面から出土した。甕85～91には大・中・小があり，安定した平底であるが，台付甕が混じる。口縁部はほぼ「く」字形にちかくなる。壷92～95には大・中がある中で口縁部に鋤先状，朝顔形，袋状の各形態が見られる。高坏96・97は鋤先状口縁をもつ浅い坏部に大きく裾が開いた高い脚をもつ。鉢98～101は98がL字形口縁の大形品，99は台付き鉢。器台102～105は中位あるいはやや上で締まる。104のみ支脚に似た小形品である。その他，土製勾玉1点が出土している。中期末～後期前半。

SB085（Fig. 72）

甕・壷・鉢が出土した。甕107・108は同一固体かと見られ，口縁部F字形の平底である。小形甕棺に使用可能な法量をもつ。埋土中から出土した。甕109～112は平底で，口縁部は屈曲して「く」字形にちかくなる。壷113・114は口縁部が胴部から折れて外反しながら開き，平底。115は直口の小形鉢である。中期末～後期前半。

SB113（Fig. 73・74）

甕・壷・高坏・鉢・碗・器台・支脚ほかが出土した。甕116～126には中形・小形が見られ，安定した平底で，口縁部は平坦口縁にちかい116を含むが，「く」字形を主体とし，口唇部に稜をもつ場合はつよく屈曲する。壷127～130では，127が直立した頸部から口縁部が短く外に開き，129は袋状口縁の特徴を残す。130は無頸壷。高坏131は坏部がやや深く鋤先状平坦口縁をのせる。高坏139は手捏品。鉢132は体部が急に立ち上がり深い。鉢133・134には粗製品が含まれる。器台のうち135は脚裾部が短く屈曲して開き小形，137・138は上位でしぼる。支脚136は裾部が外反気味に開き，二次的加熱を受けている。中期末～後期前半。

SB123（Fig. 74）

甕・壷・高坏・碗・器台・支脚が出土した。甕140～146は口縁部がややあまく屈曲するようになるが，中期の特徴を残す140が混じる。底部にはやや不安定な146が含まれる。151・152は

小形台付き甕の底部。壷147は袋状口縁と見られ，148は丸く張る胴部に外反気味の直口縁が付く。碗149は不安定な平底で口縁部が短く立つ。高坏150は裾が大きく開く。器台154・155は未だ裾の開きが少ない。中期末～後期前半。

SK009（Fig. 76）

甕・壷・高坏・器台が出土した。甕156～160には大・中・小があり，口縁部は基本的に平坦ながら「く」字にちかいものが含まれる。鉢161～163では163がとくに大形である。高坏は鋤先状口縁で，164は体部が丸みをもち棒状脚が付く。165は大形で開きが大きい。器台166・167は同一固体の可能性もある。最小径上位に置くが，裾の開きは未だ少ない。中期末。

SK029（Fig. 77・78）

甕・蓋・壷・鉢・高坏・器台・支脚が出土した。168は1点のみ小形甕棺の破片かと見られ口縁部は外反気味に開いて端部に未発達な平坦口縁をつくる。甕169～176は断面三角形または未発達な平坦口縁で，口縁下に突帯または沈線を巡らせるものを主体とするが，175のように如意形口縁をもつものも含まれる。蓋177は握りが大きく，位置が高い。壷178～182は口頸部が一体となって胴部から大きく外反する。大小があり，180は胴部との境を沈線で段状に見せる。図示しないが，高坏は先の58と同形である。鉢183～186は体部が内湾気味に立ち上がり，太い大小鉢と断面三角の口縁部をもつものとの2様がある。支脚187～189は断面四角と筒状の2様，器台190は鼓形を呈す。中期初。

SK081（Fig. 79）

甕・壷・鉢が出土した。甕191～195は口縁部が断面三角または未発達な平坦口縁で，口縁下に突帯または沈線を巡らせる。甕197は体部上位が壷状に締まり，未発達な平坦口縁をつくる。とくに注意されるのは黒色磨研の長頸壷196である。胴部は平底で球状に張り，沈線2状をおいて頸部が直立し，口縁部が緩く外反する。朝鮮半島の無文土器の系譜に繋がるものであろう。前期末～中期初。

SK082（Fig. 80）

甕・蓋・壷・支脚が出土した。甕199～201・203・204は口縁部が断面三角または未発達な平坦口縁で，口縁下に突帯又は沈線を巡らせるものを主体とするが，如意形口縁の203も見られる。壷205～209は多様で，205・206は頸胴間を沈線による段あるいは突帯で区切り，口頸部が一体に大きく外反する大型壷。208が球状を思わせる胴部から頸部が急に直立し口縁部が外反するのに対し，209は頸部が不明瞭に折れて短く立ち上がり口唇部が外にめくれる。207は低くつぶれた張りのつよい胴部から口縁部が短く立ち，紐孔をもつ三角突帯をめぐらせる。前期末～中期初。

SK083（Fig. 81）

甕・壷・高坏・支脚が出土した。甕211～213は口縁部が断面三角または未発達な平坦口縁で

口縁下に突帯を巡らせるものを主体とする。壷は214が沈線をおいて口頸部が外反，215は頸部がつよく締まって短く立ち，未発達な平坦口縁をつくる。

SK092（Fig. 81）

甕・壷・高坏・支脚が出土した。甕は216が口縁部を外方に曲げてやや厚く，突帯文系の特徴を脱して平坦口縁にちかくなる。217は直口縁で口唇部はナデ，口縁下に突帯を巡らす。218は接地面が小さくやや不安定な平底。壷221はやや肩が張る胴部から頸部が締まり，口縁部は急に弧を描いて開く。高坏220は筒状脚で裾が大きく開き，ヘラミガキを施した精製品。219は上面を窪めた筒状支脚。中期初。

SK094（Fig. 82）

甕・蓋・鉢・支脚が出土した。甕222～225は口縁部が未発達な平坦口縁で，口縁下に突帯を巡らせる。蓋には甕蓋226と壷蓋227とがある。鉢は228が復元径では極めて大型となる。前期末～中期初。

SK099（Fig. 83）

甕・壷・鉢・支脚が出土した。甕231～234は口縁部が断面三角で，底部は脚台状と平底との2様が見られる。口縁下に突帯を巡らす。小形壷236は胴部がつよく張り，突帯をおいて頸部が急に立ち上がる。浅鉢235は口唇部をナデて小さな平坦面をつくる。237は筒状支脚。前期末～中期初。

SK117（Fig. 83）

甕・壷・支脚が出土した。甕238～241は口縁部が未発達な平坦口縁で，口縁下に突帯を巡らす。壷242は胴部肩位がつよく張り，無頸。紐孔が一対残る。支脚は筒状で，244は上下端とも外に張り出す。前期末～中期初。

SK142（Fig. 84）

甕・壷・鉢が出土した。245は1点のみ小型甕棺の破片かと見られ，口縁部は外反しながら開いて端部に未発達な平坦口縁をつくる。甕246～249のうち，246は口縁部が断面三角で口縁下に突帯を巡らせる。底部は脚台状と平底とがある。壷は250が口縁部を大きく外反させる大形壷，251は球状胴部から頸部が直に長く伸びるかと思われる。前期末～中期初。

SK163（Fig. 84）

甕と壷が出土した。壷254～256は胴部が丸みをもち最大径を中位からやや上に置き平底。頸部はつよく締まって胴部からS字形描いて立ち上がり，口縁部は外反して口唇部をナデて肥厚させる。254は頸胴間に沈線2条を巡らす。いずれも外面ヘラミガキ。精製品である。前期末～中期初。

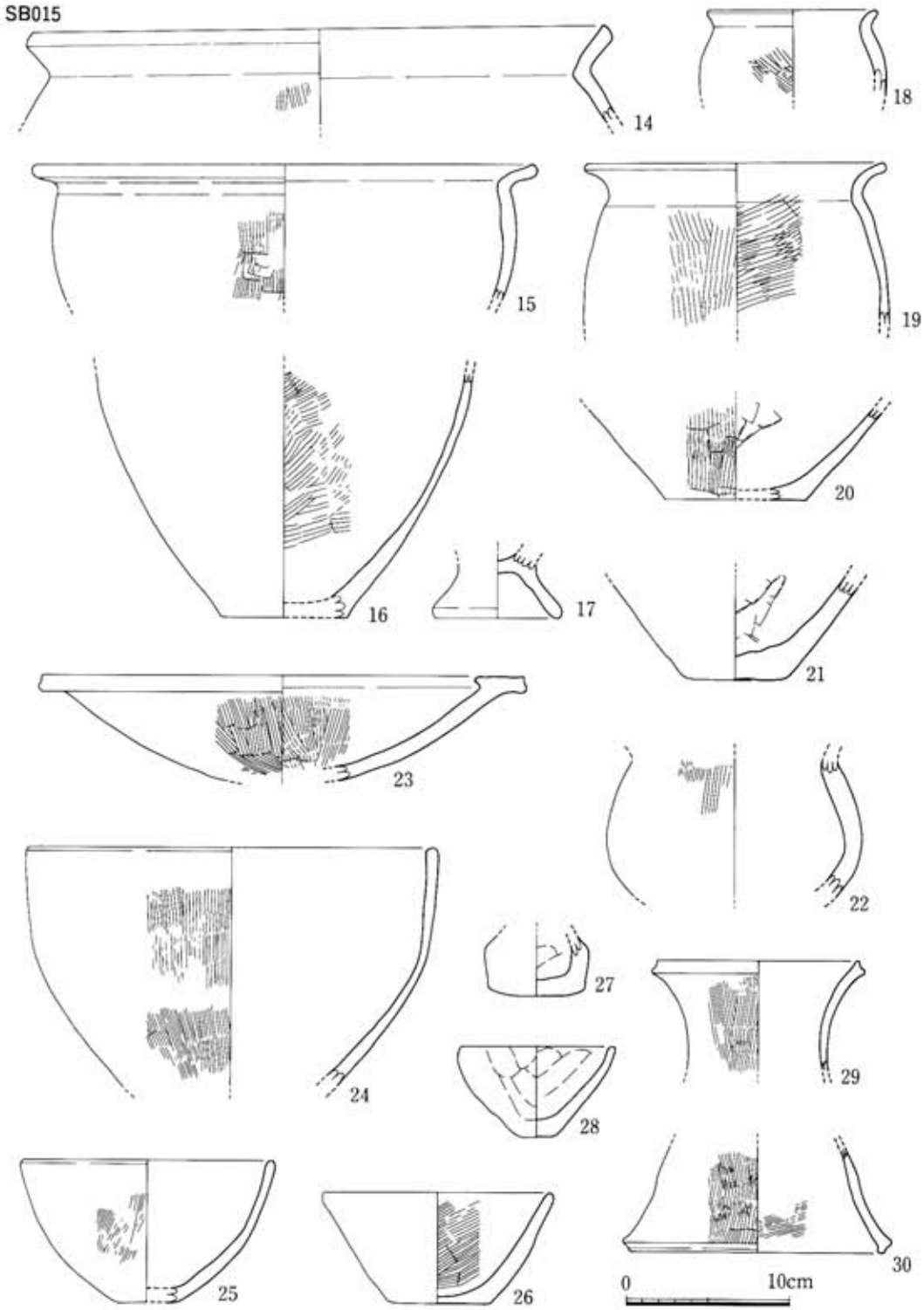


Fig. 64　SB015出土弥生土器（1/4）

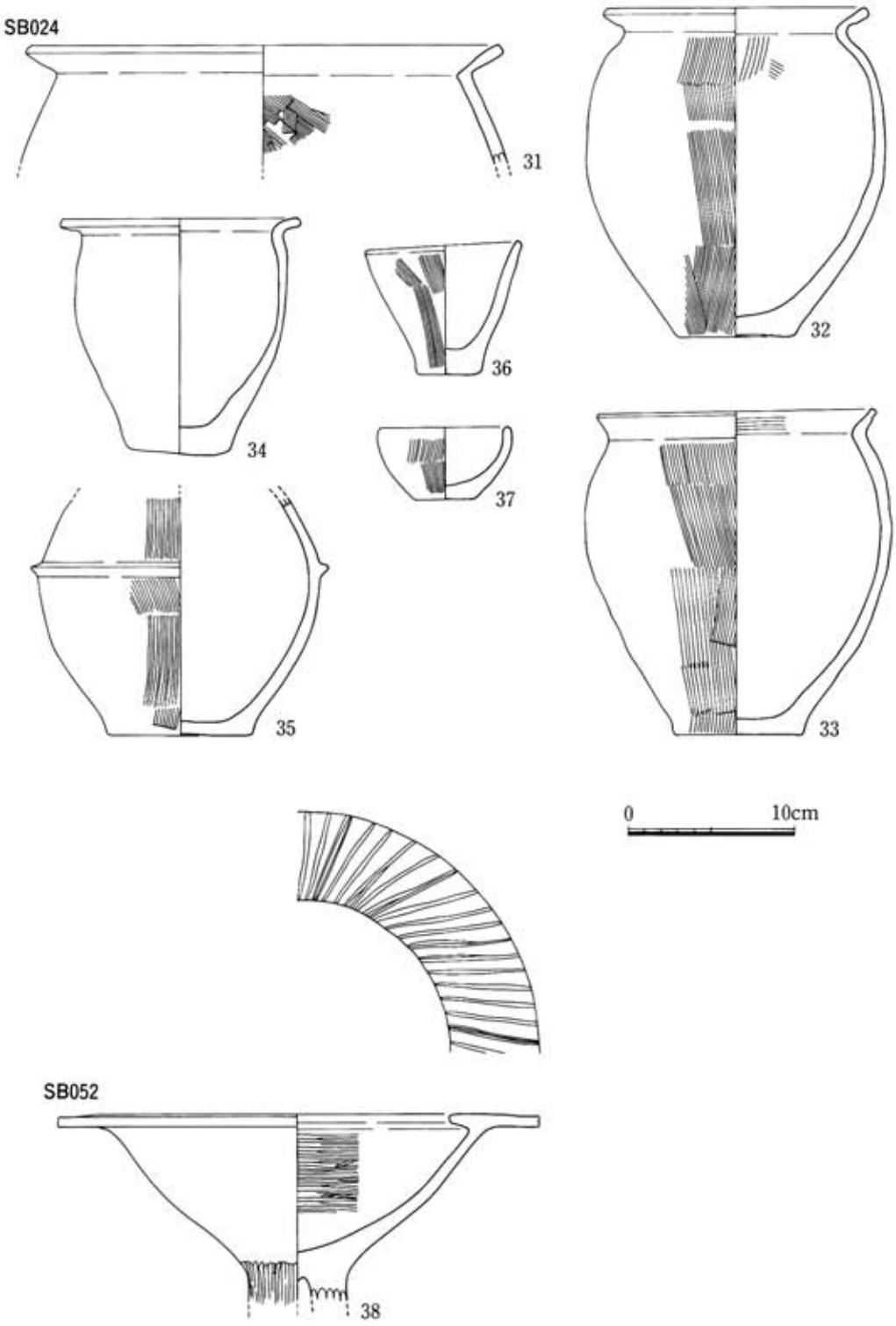


Fig. 65　SB024・SB052出土弥生土器（1/4）

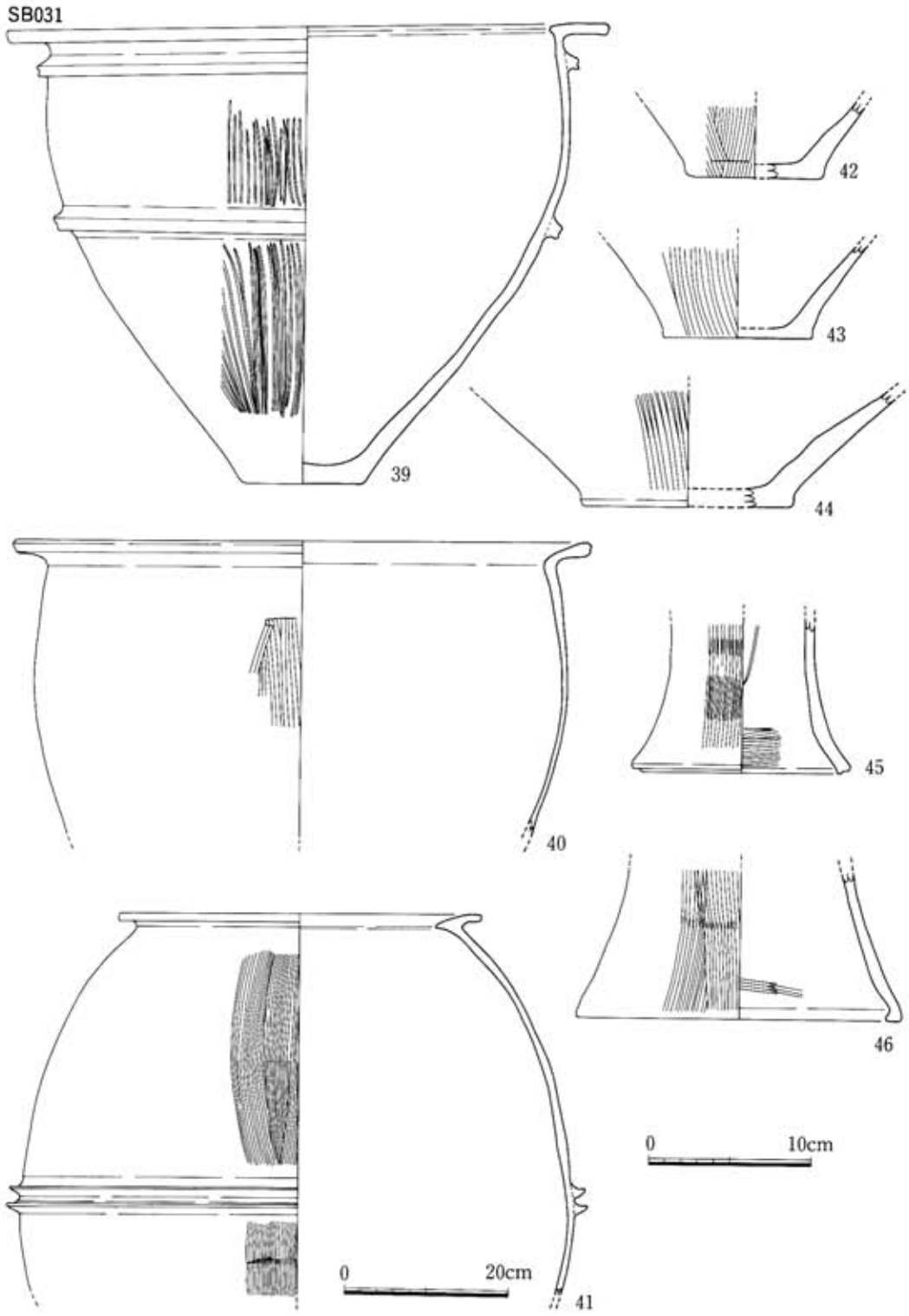


Fig. 66　SB031出土弥生土器（1/4）

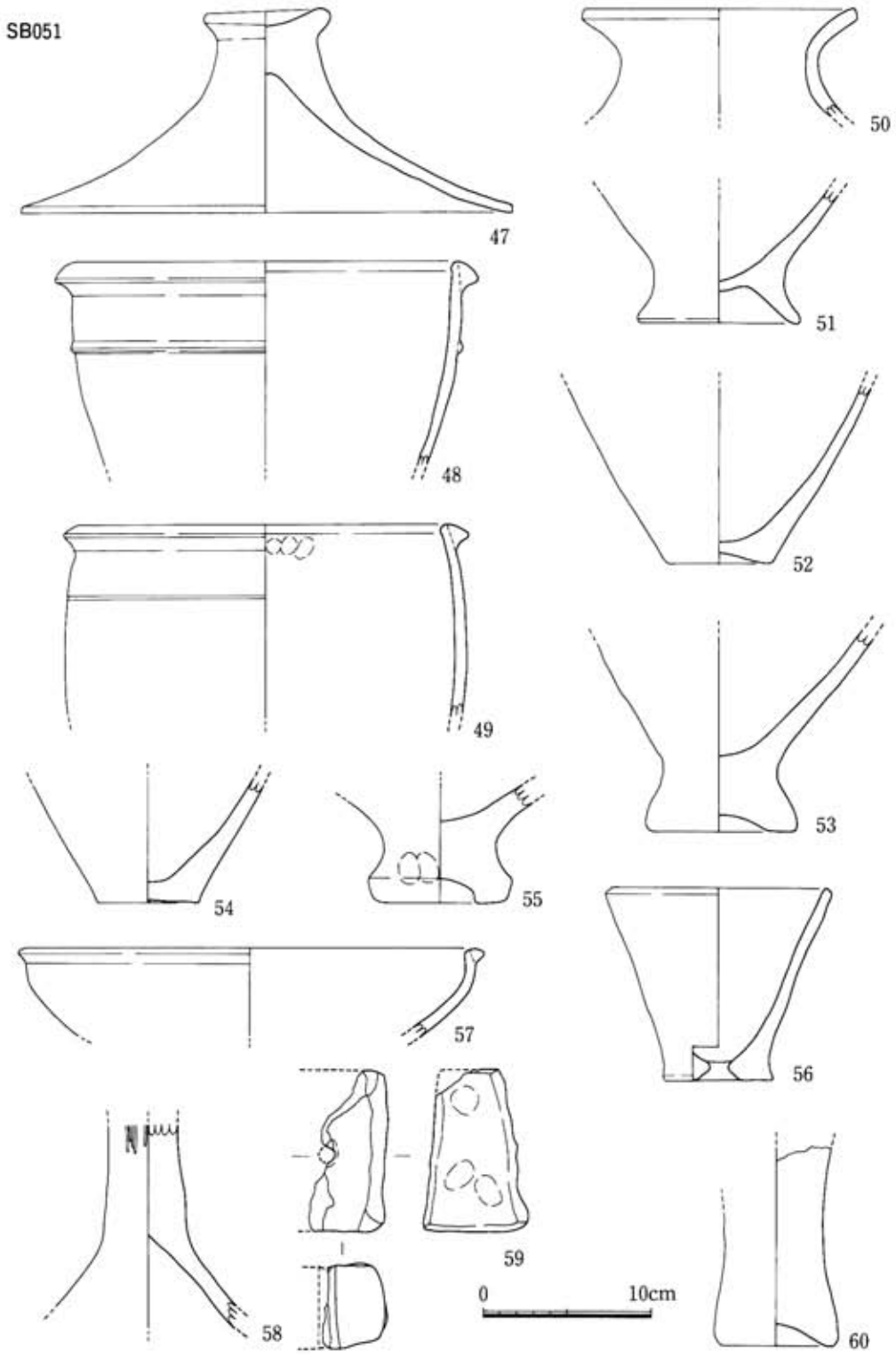


Fig. 67　SB051出土弥生土器（1/4）

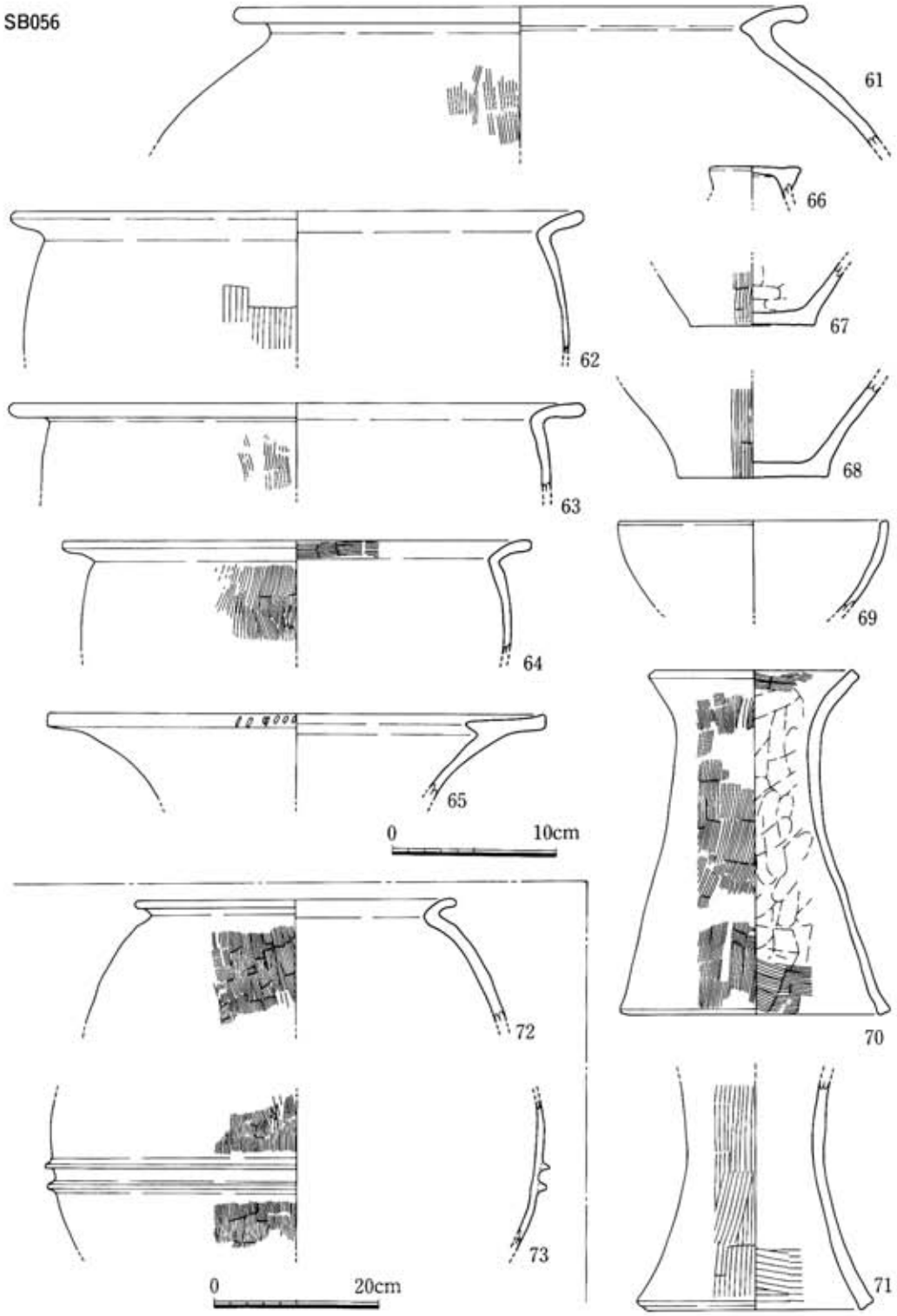


Fig. 68　SB056出土弥生土器（1/4）

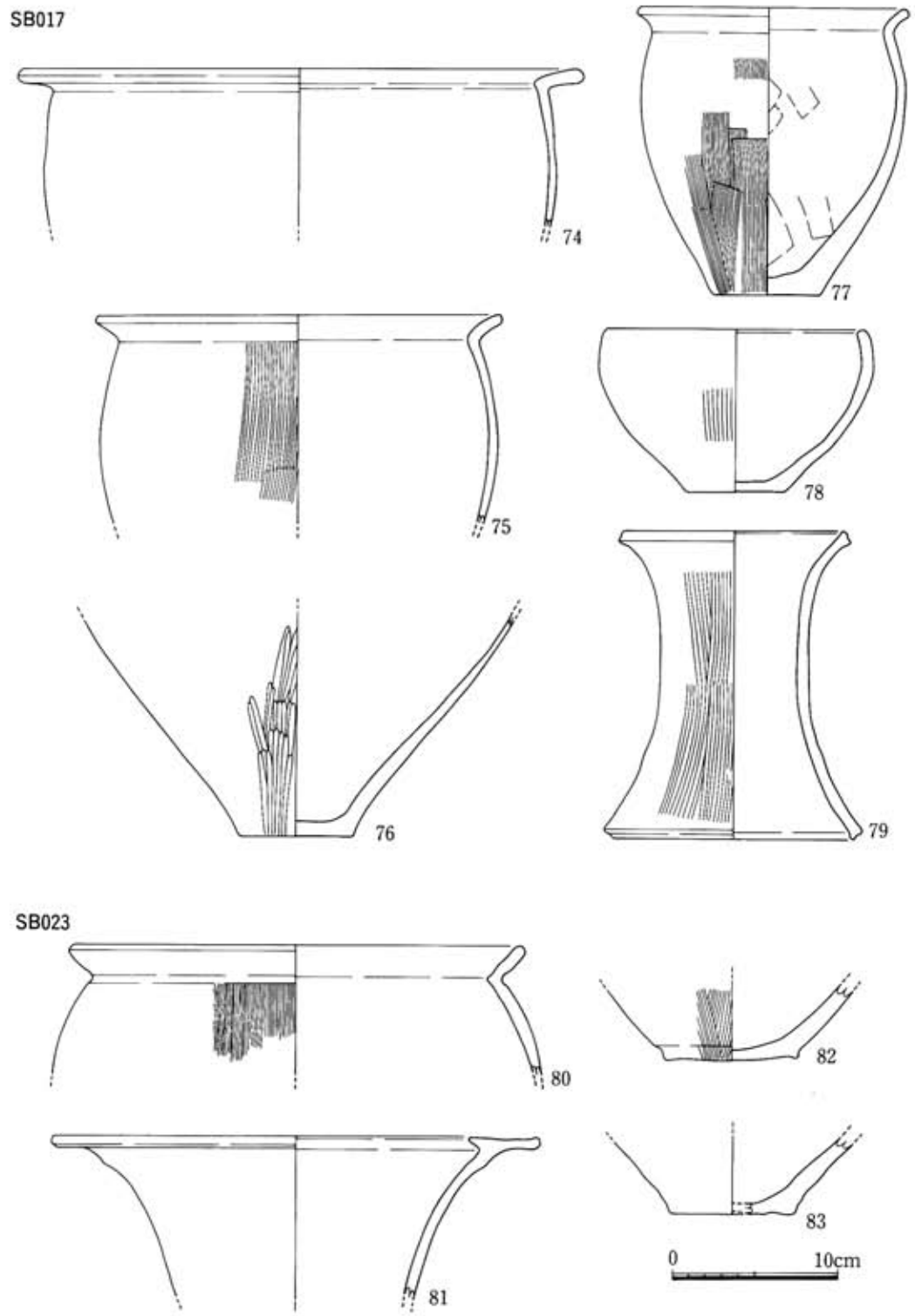


Fig. 69　SB017・SB023出土弥生土器（1/4）

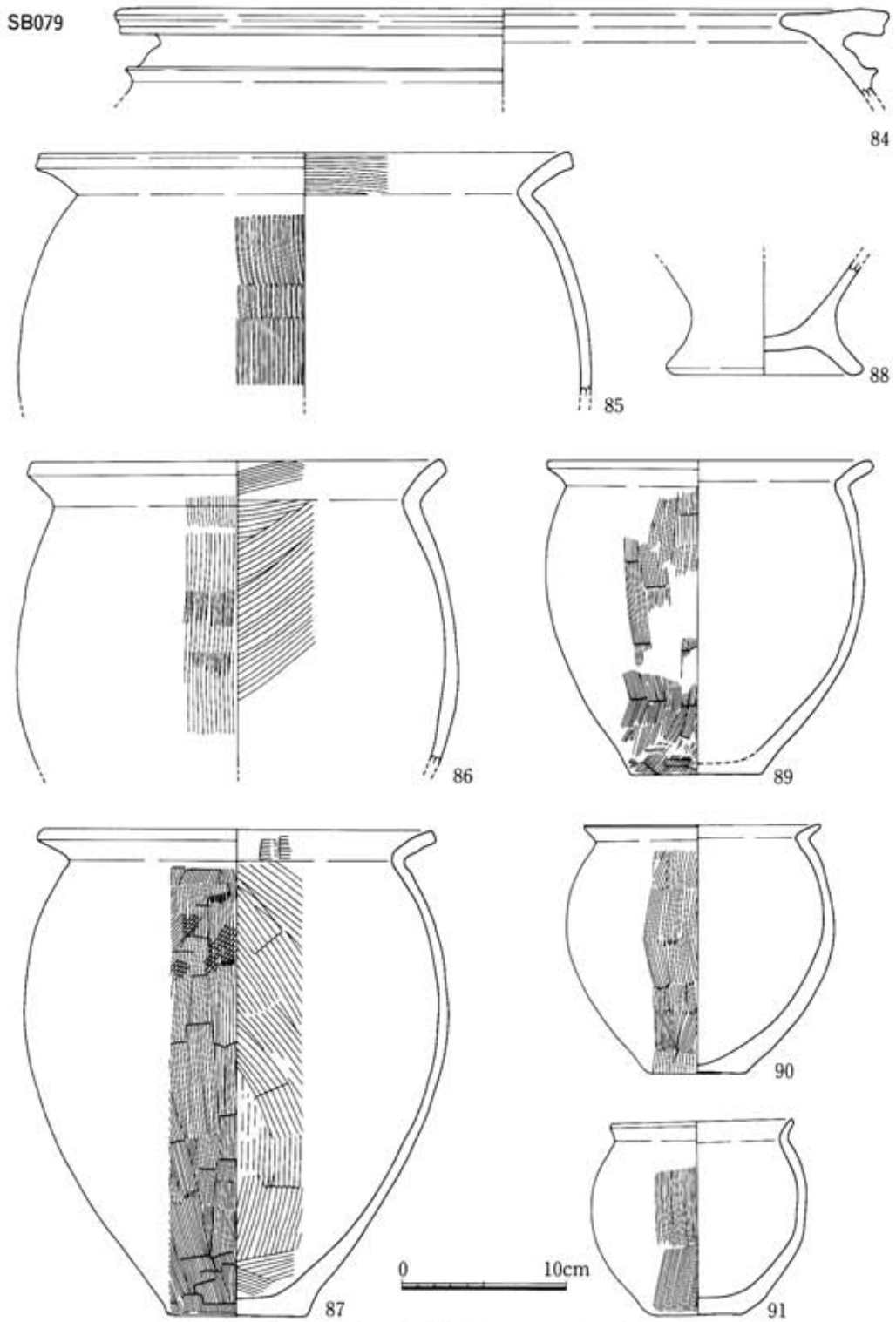


Fig. 70　SB079出土弥生土器〈1〉(1/4)

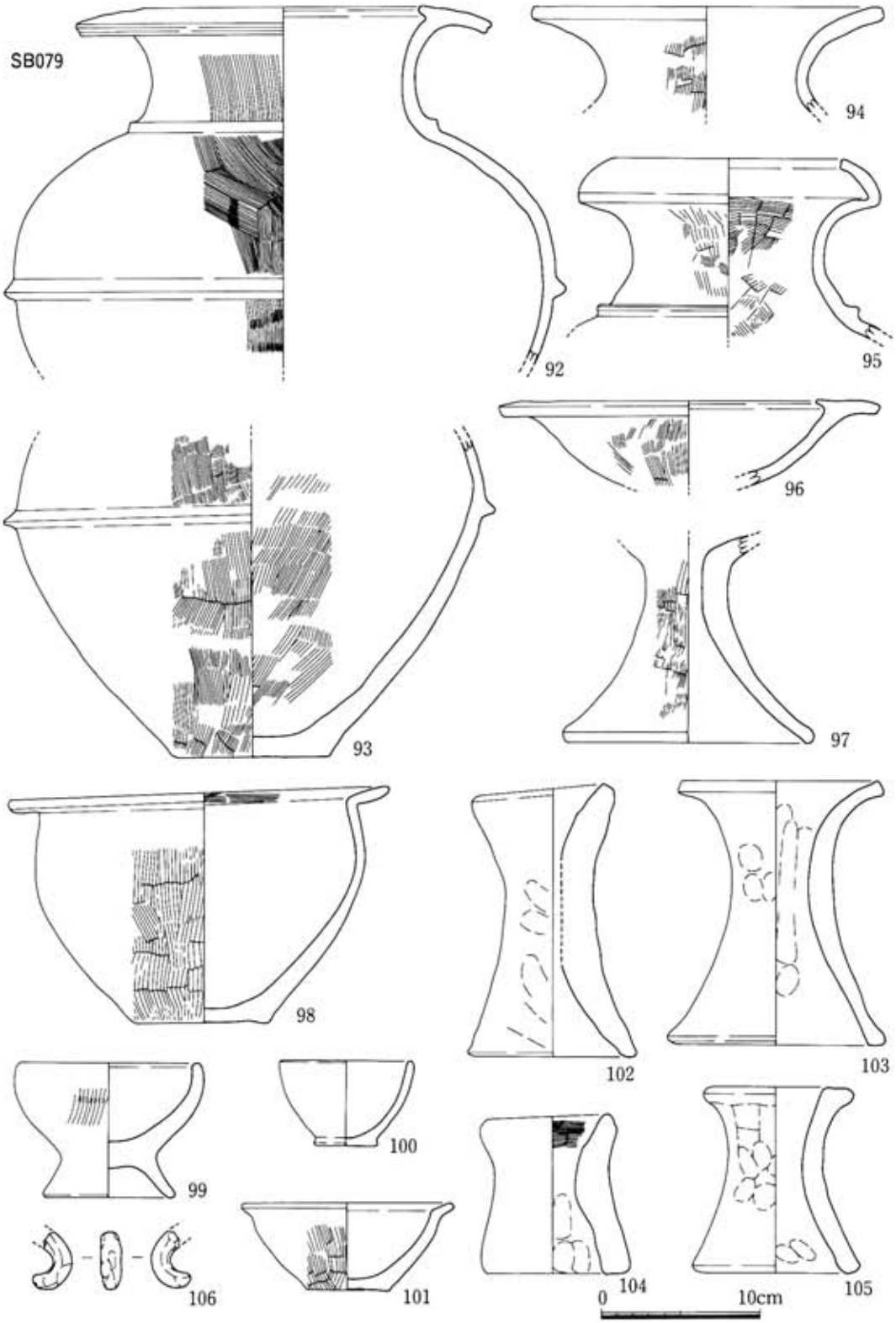


Fig. 71　SB079出土弥生土器〈2〉(1/4)

SB085

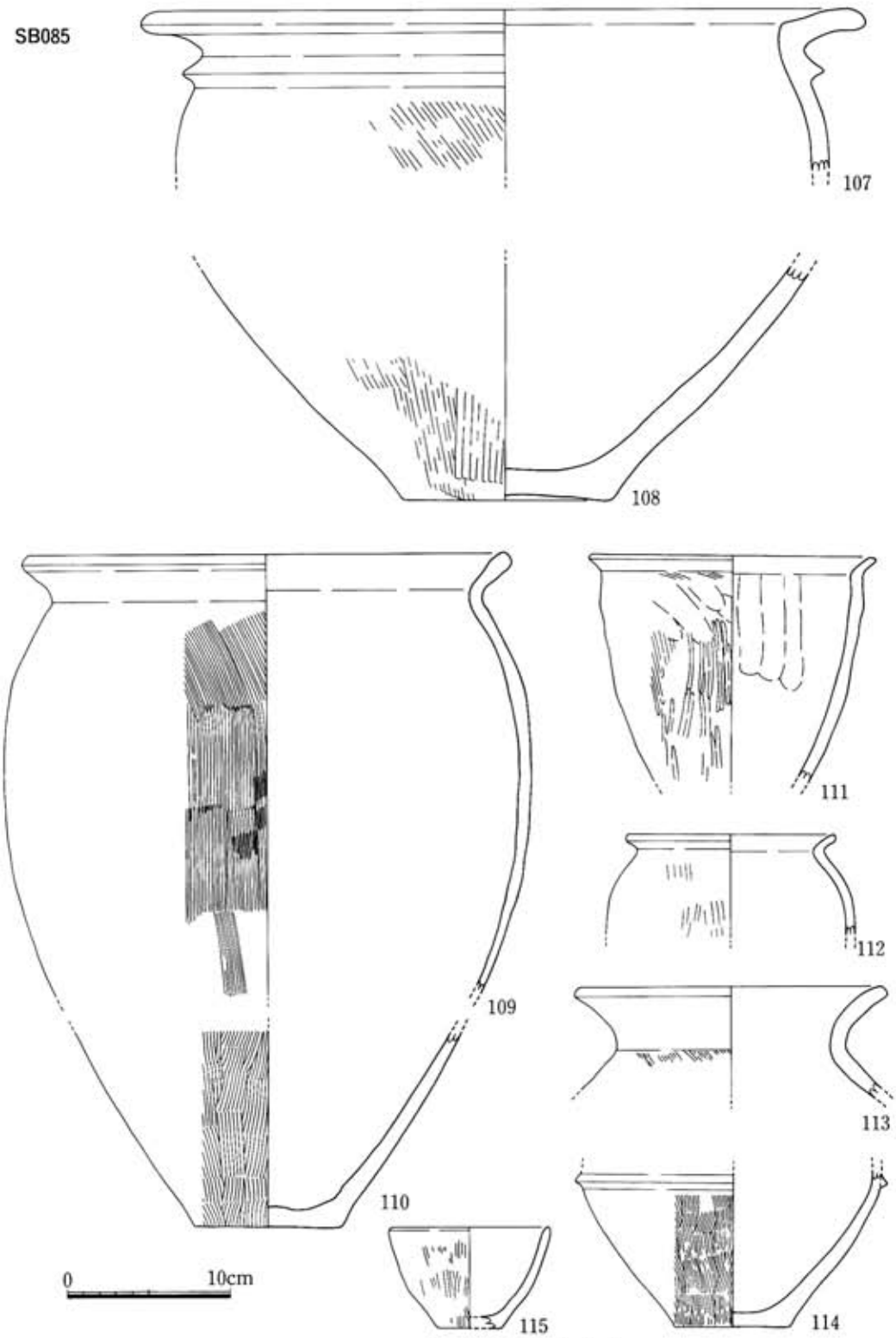


Fig. 72　SB085出土弥生土器（1/4）

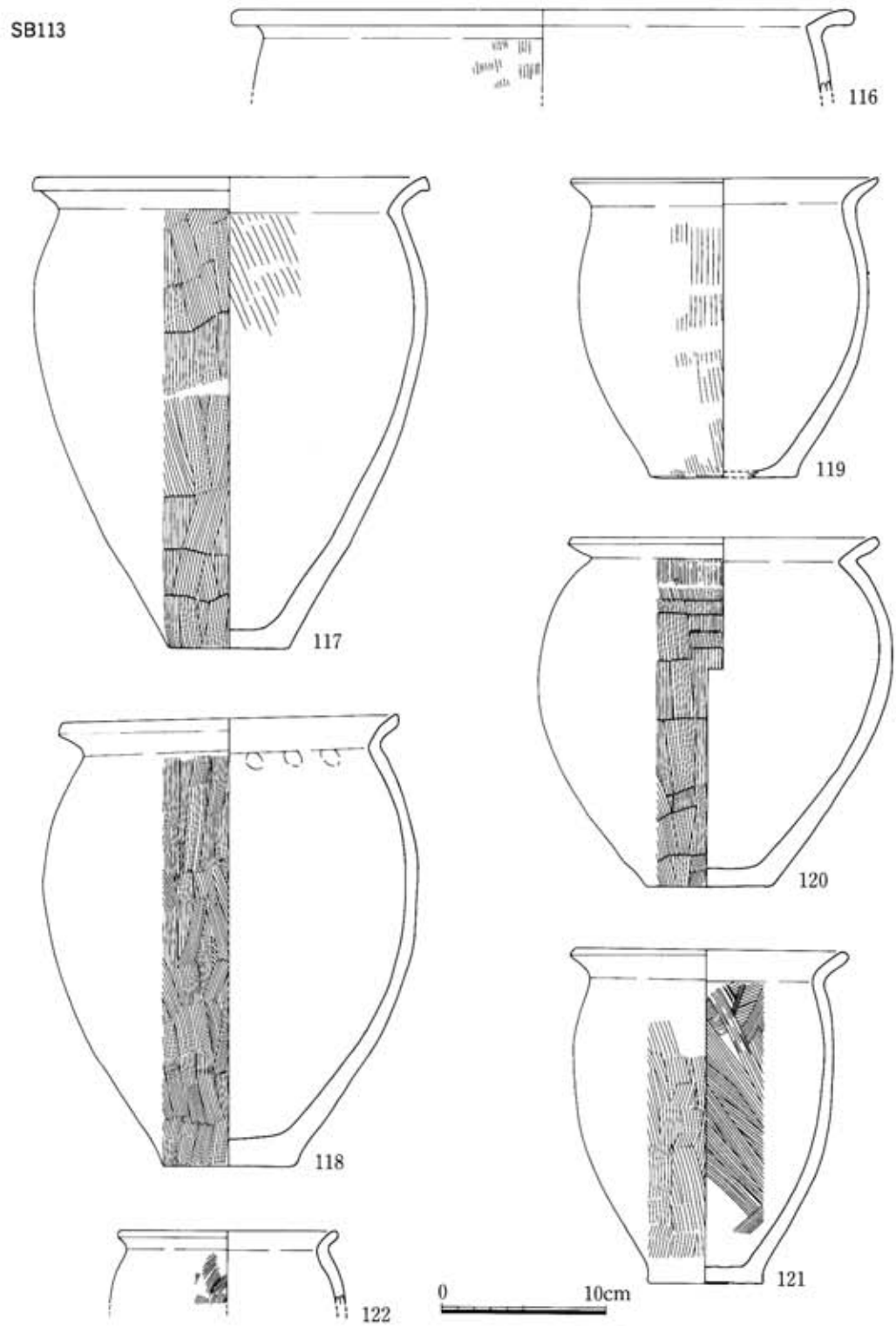


Fig. 73　SB113出土弥生土器〈1〉(1/4)

SB113

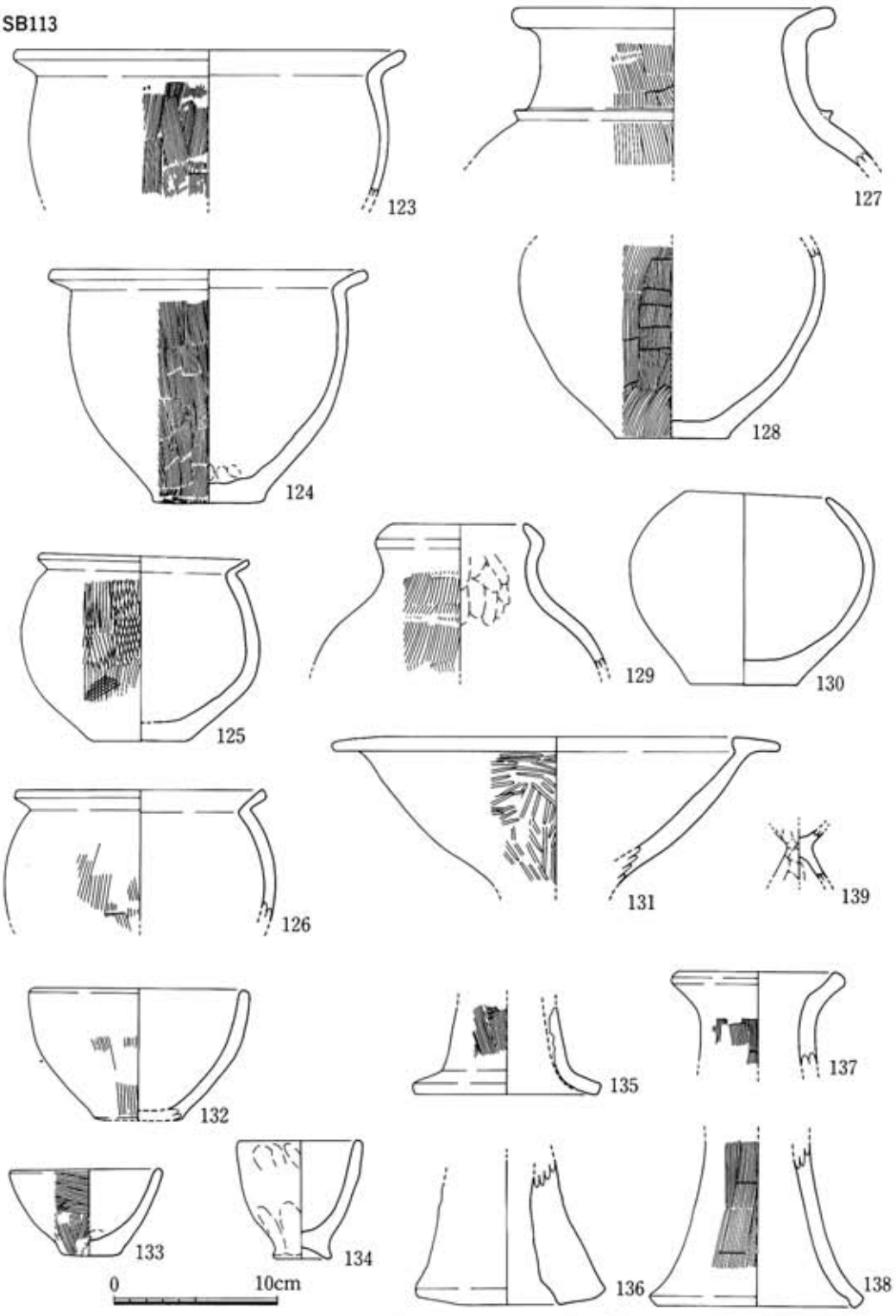


Fig. 74　SB113出土弥生土器〈2〉(1/4)

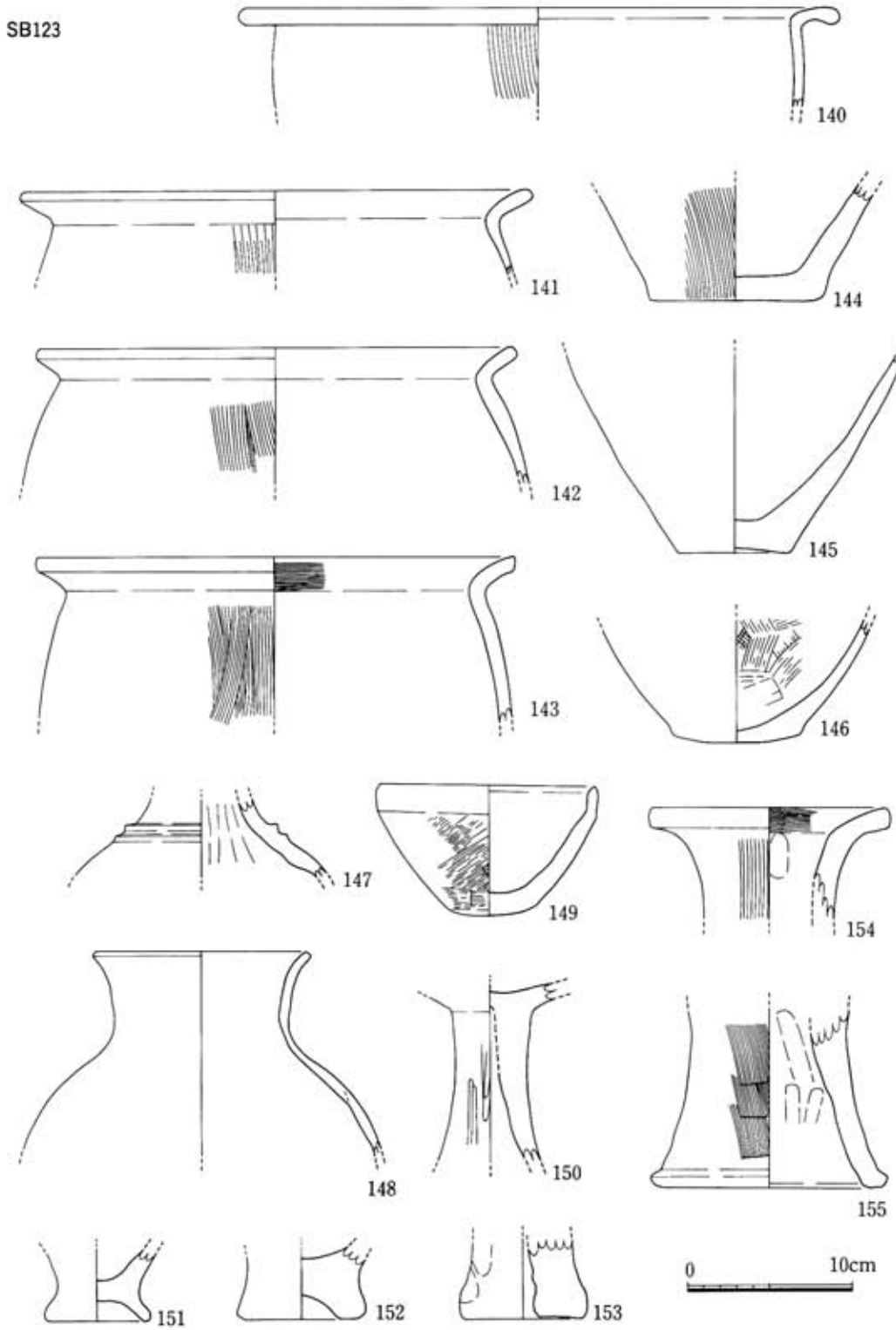


Fig. 75 SB123出土弥生土器（1/4）

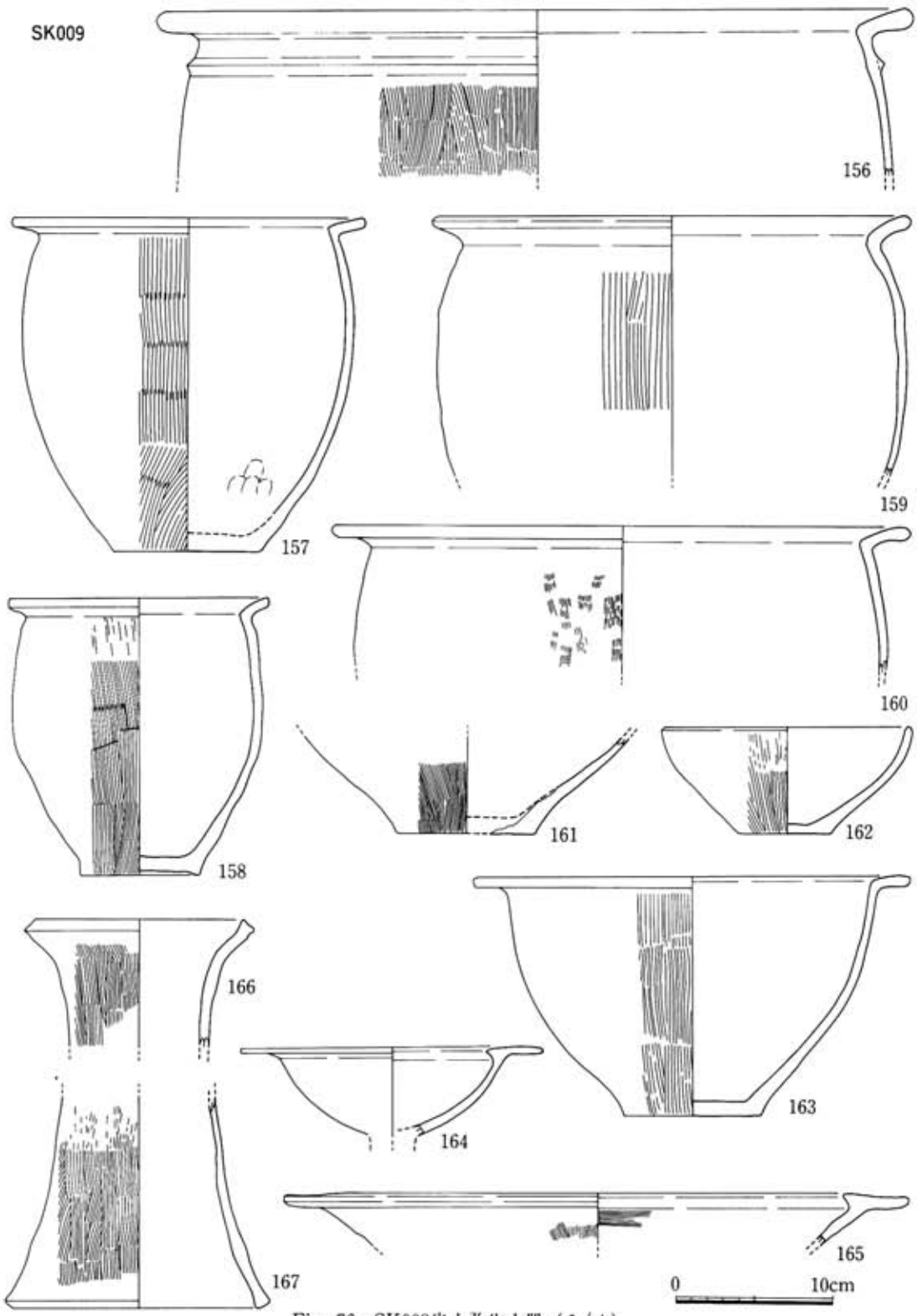


Fig. 76　SK009出土弥生土器（1/4）

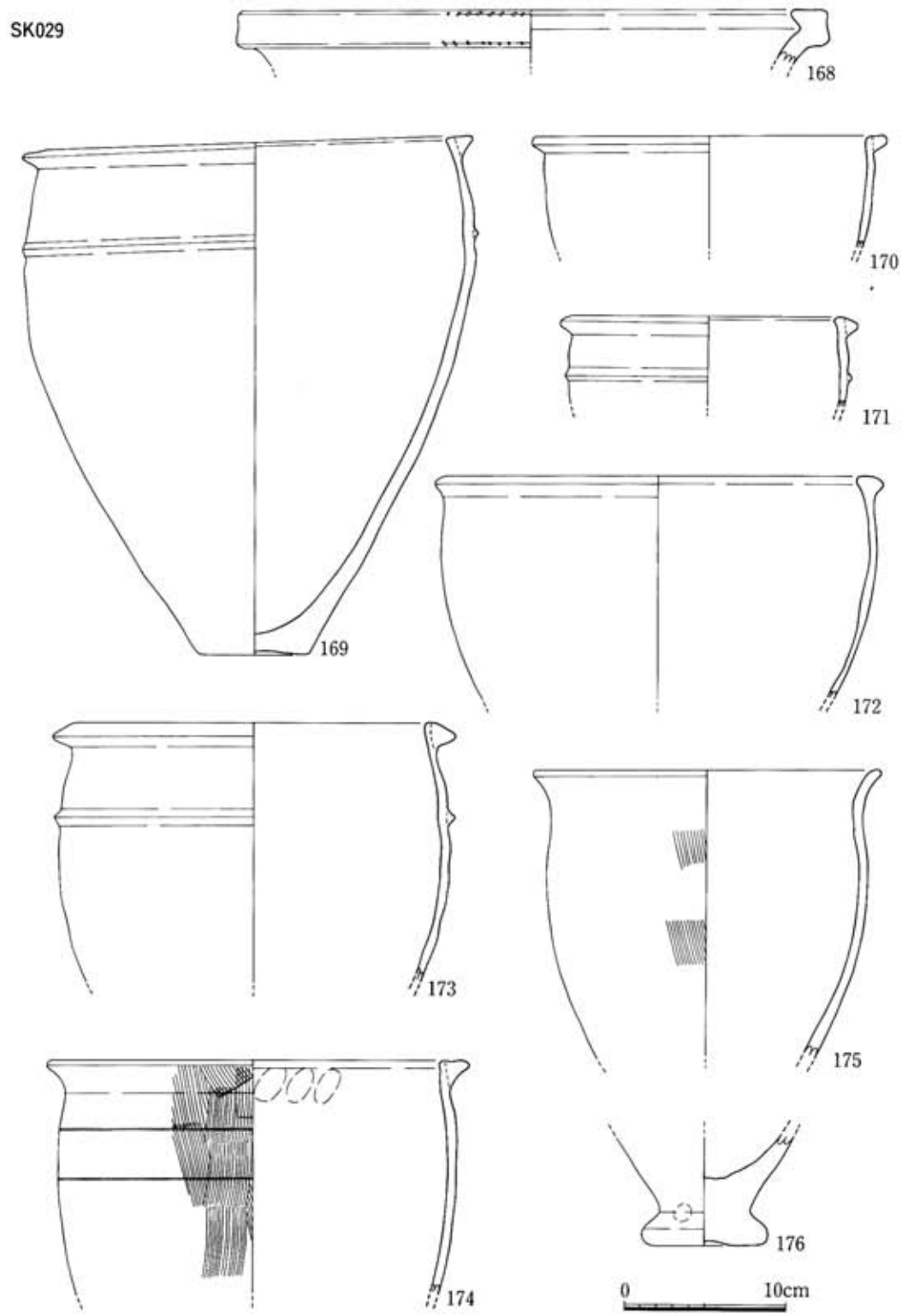


Fig. 77　SK029出土弥生土器〈1〉(1/4)

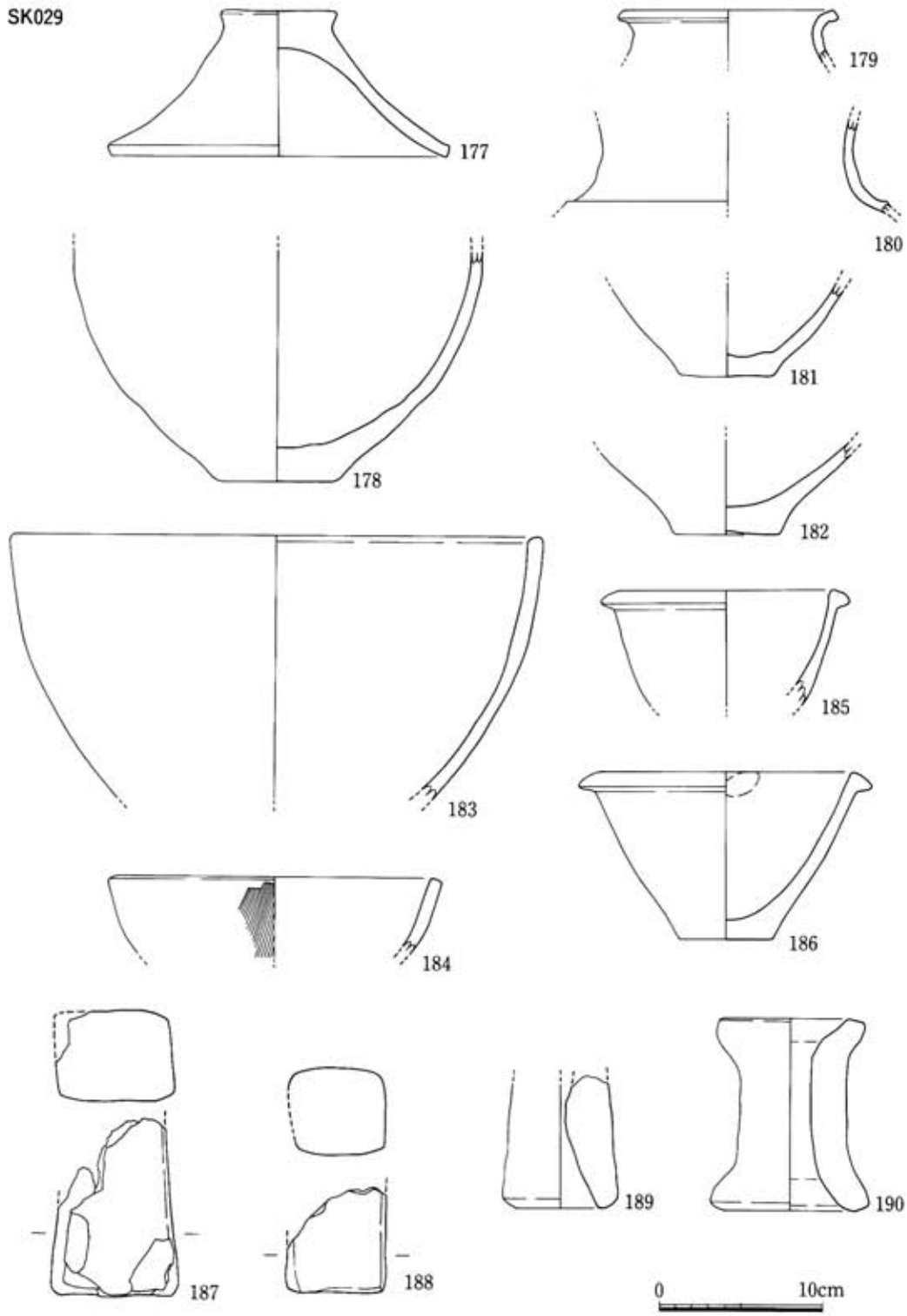


Fig. 78　SK029出土弥生土器〈2〉(1/4)

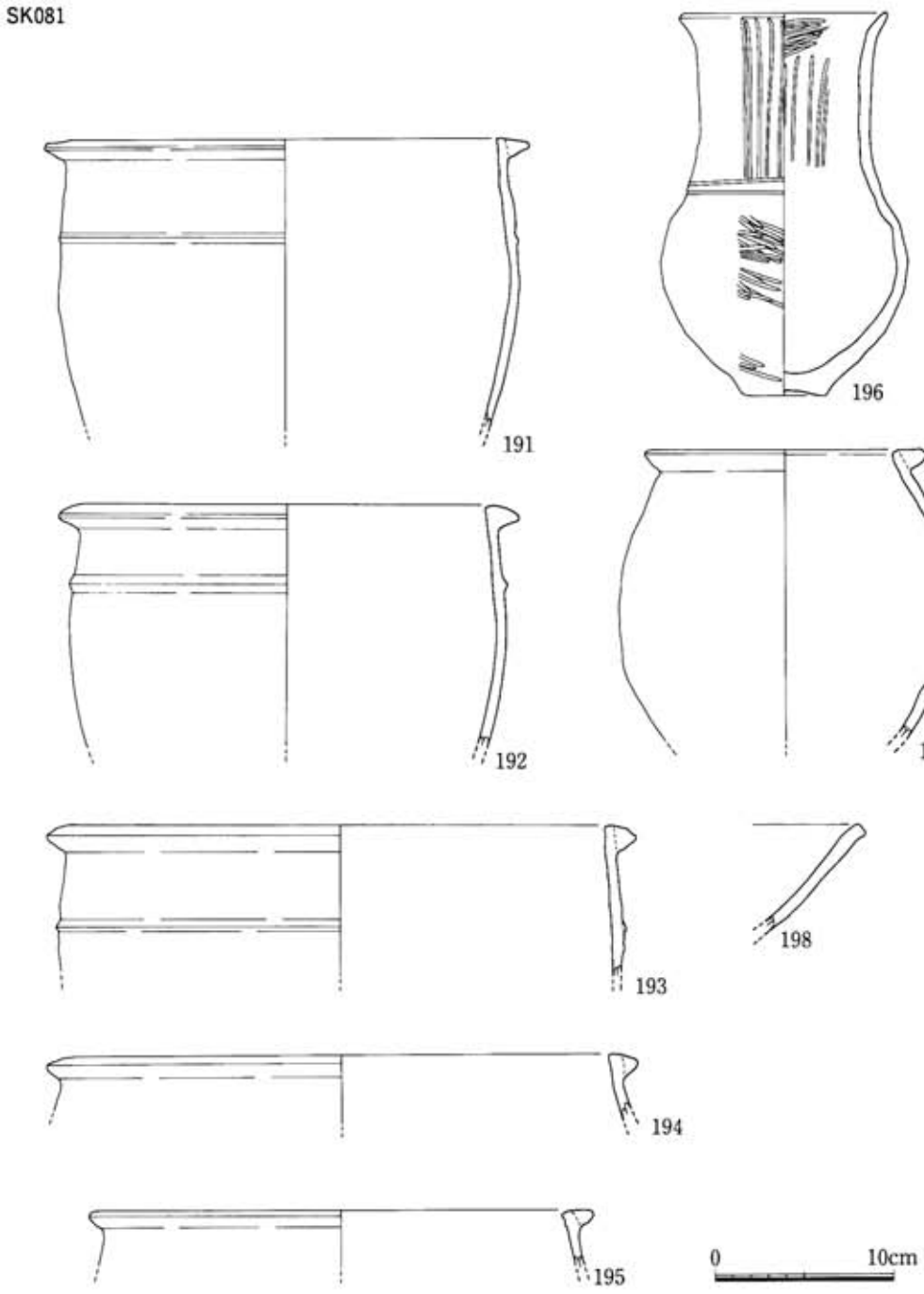


Fig. 79　SK081出土弥生土器（1/4）

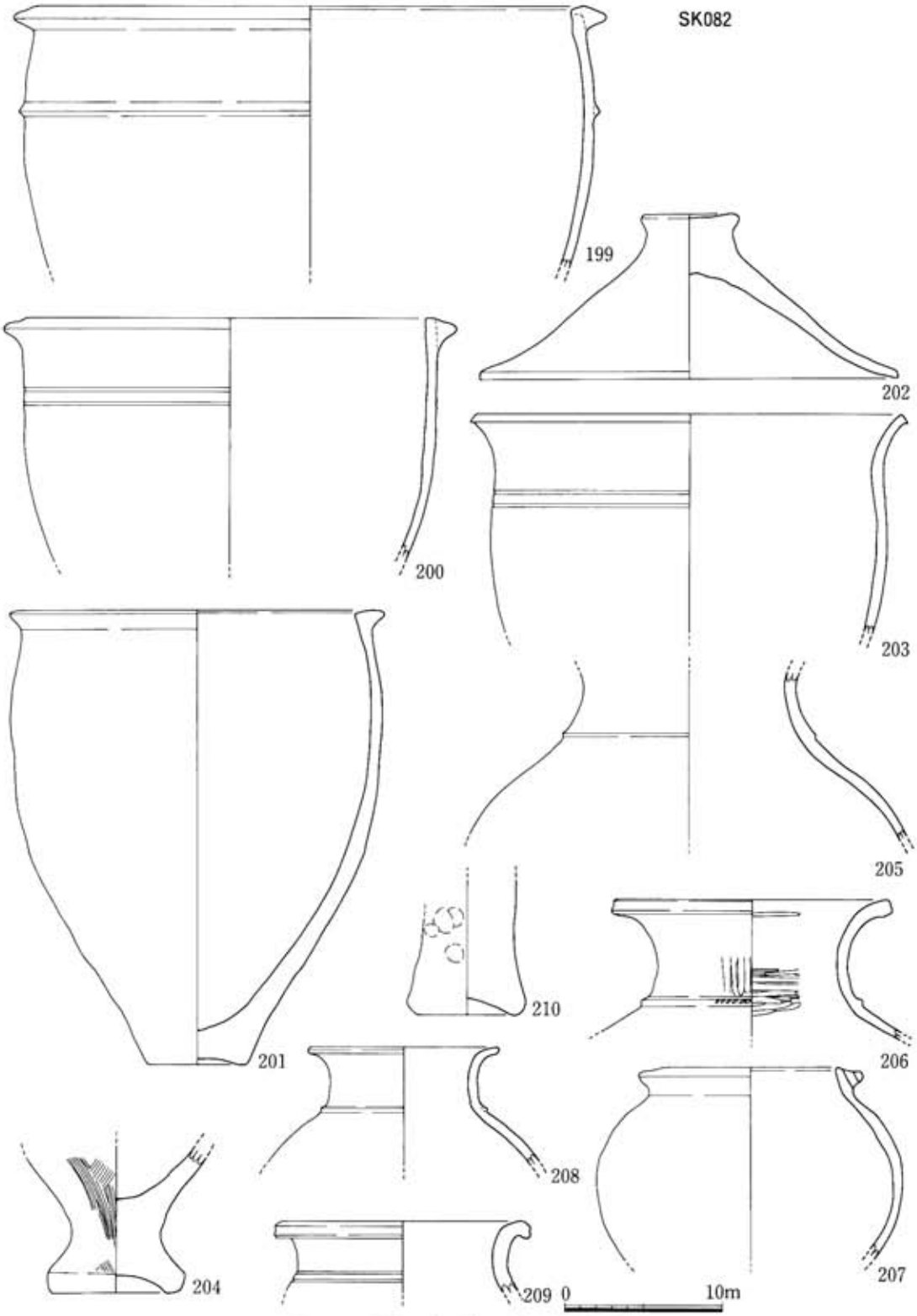


Fig. 80　SK082出土弥生土器（1/4）

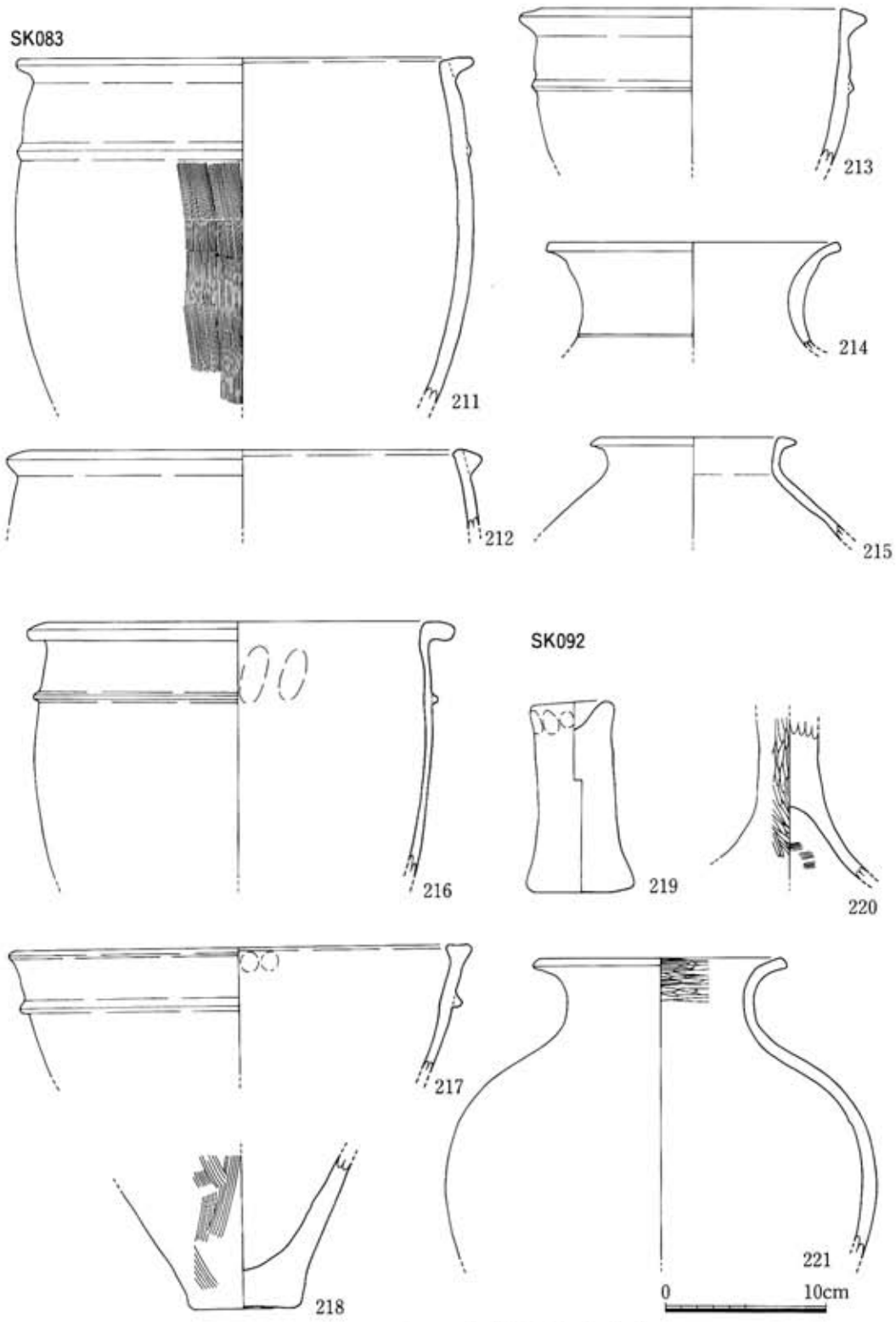


Fig. 81　SK083・SK092出土弥生土器（1/4）

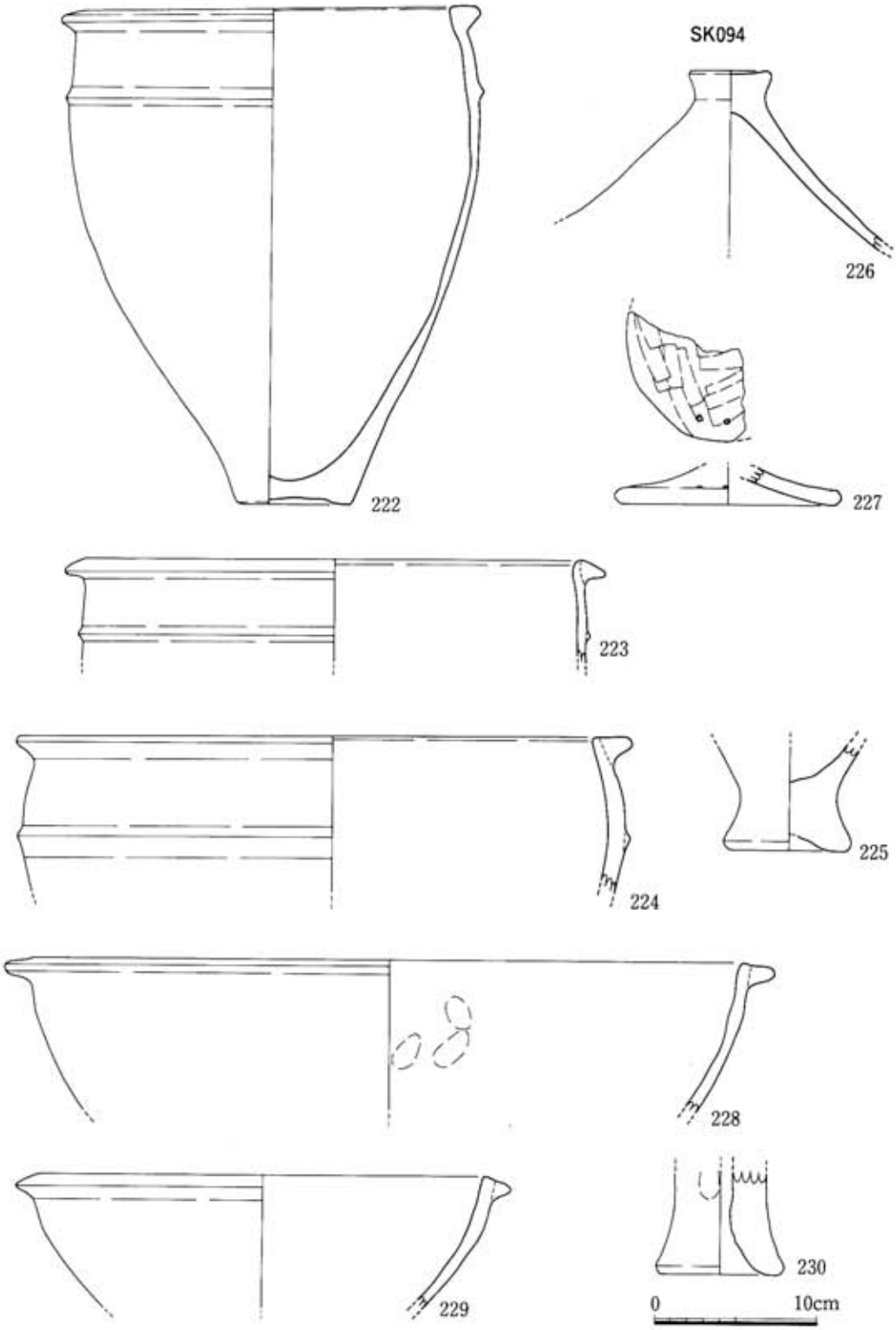


Fig. 82　SK094出土弥生土器（1/4）

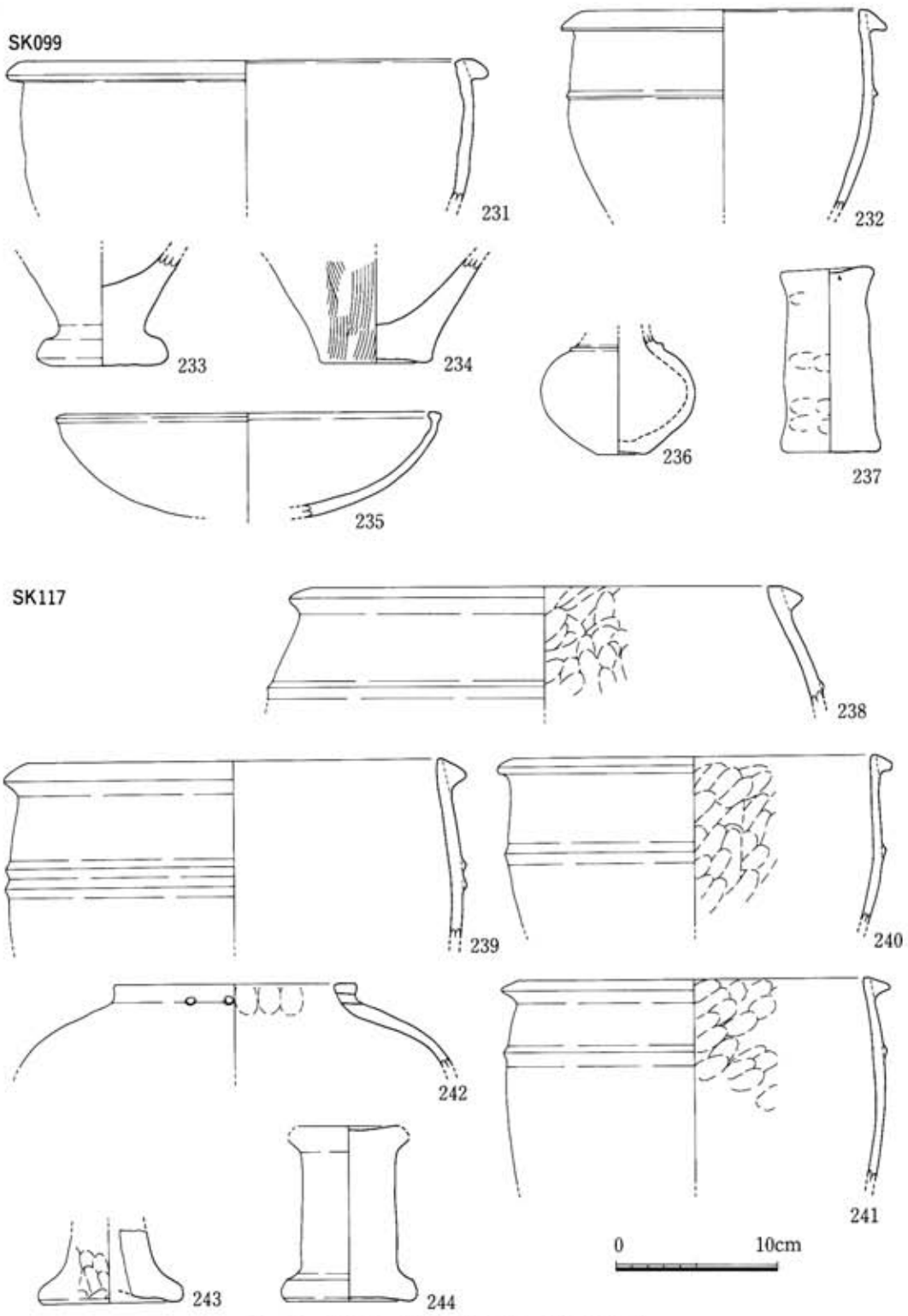


Fig. 83　SK099・SK117出土弥生土器（1/4）

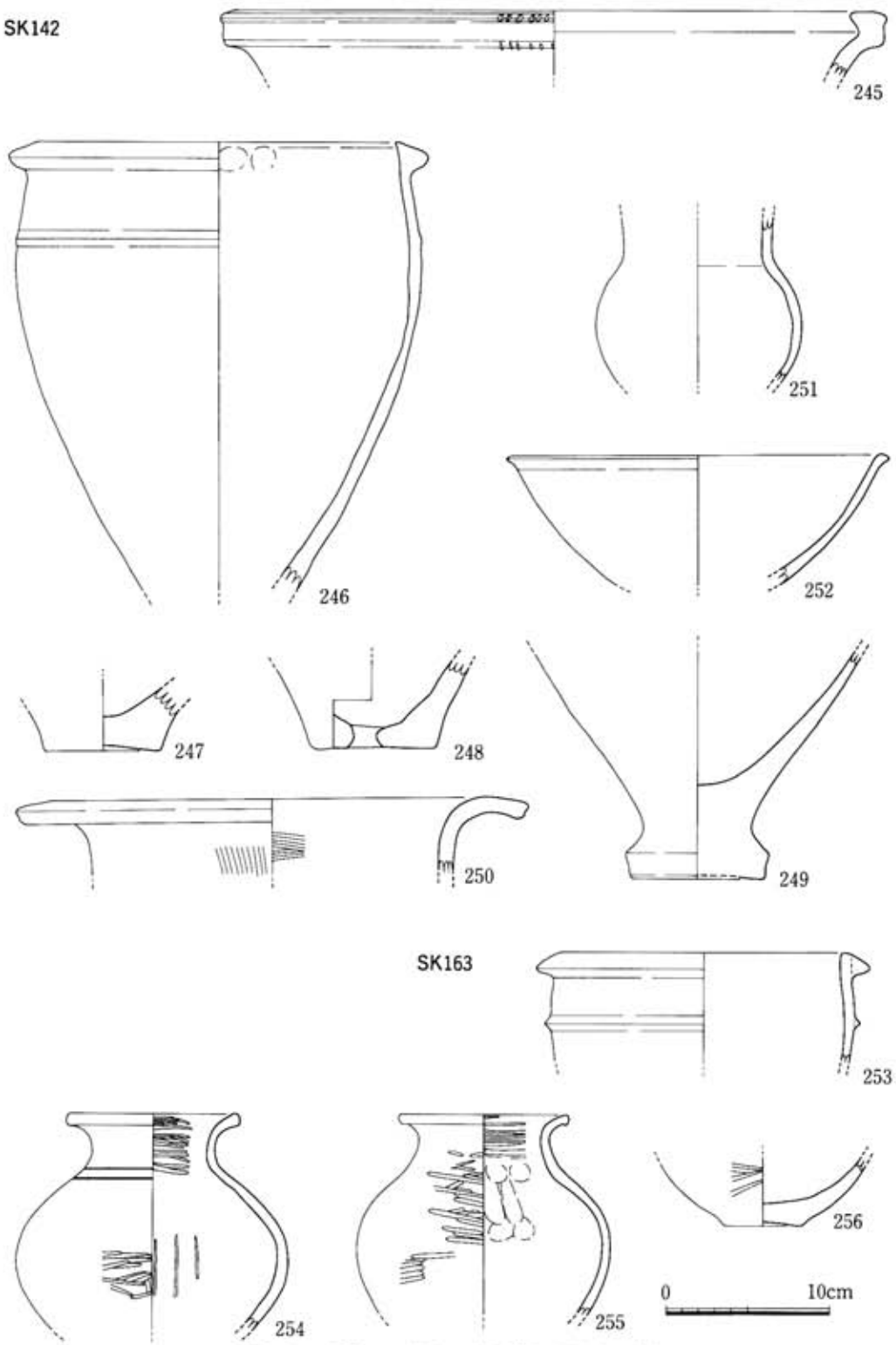


Fig. 84　SK142・SK163出土弥生土器（1/4）

Tab. 2　弥生土器観察表

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
14 90001071	SB015 埋土	甕	口径34.6	「く」字口縁。口縁部は内外面ナデ。黄褐色。
15 90001070	SB015 埋土	甕	口径30.0	口縁部は不明瞭に屈曲し，外方開く。胴部は下方がやや急にすぼまるか。体部外面ハケメ後ナデ，他ナデ。明茶褐色。
16 90001048	SB015 埋土	甕	器高14.8 底径 7.4	胴部下半は底部から膨らみをもって立ち上がる。胴部は外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
17 90001064	SB015 埋土	台付甕	底径 7.4	小形台付甕の底部。台部は高く，つよく外方に張る。内外面ナデ。褐色。
18 90001068	SB015 埋土	甕	口径10.2	小形甕。口縁部は緩く短く外方に折れて，端部を丸める。口縁部および胴部外面ハケメ後ナデ，他ナデ。褐色。
19 90001055	SB015 埋土	甕	口径18.0	口縁部は不明瞭に屈曲し，外反気味に開く。胴部は肩が張らずに長胴気味。胴部内外面ハケメ，口縁部ナデ。褐色。
20 90001062	SB015 埋土	甕	底径 8.6	胴部下半は底部から直線的に大きく開いて立ち上がる。胴部下半部は外面ハケメ，内面ヘラナデ。褐色。
21 90001063	SB015 埋土	甕	底径 6.2	底部は小さく平坦さを失いはじめ，胴部下半は底部と不明瞭な稜をなして立ち上がる。胴部下半外面は外面ナデ，内面ヘラナデ。暗褐色。
22 90001056	SB015 埋土	壺	胴径15.9	小形壺。胴部は下半がつよく張る。胴部外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。器壁が厚い。褐色。
23 90001080	SB015 埋土	高坏	口径29.0 器高 6.3	坏部は比較的浅く，鋤先状の平坦口縁をもつ。坏部内外面ハケメ後，内面をかるくナデ。明茶褐色。
24 90001054	SB015 埋土	鉢	口径24.4	体部は下半がやや急にすぼまり，口縁部付近が直立気味に立つ。外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。褐色。
25 90001050	SB015 埋土	鉢	口径12.8 器高 8.5	体部は小さく，やや不安定。胴部は内湾しながら立ち上がる。体部は外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。明茶褐色。
26 90001057	SB015 埋土	鉢	口径13.6 器高 6.7	底部は大きく安定した平底で，体部は直線的に立ち上がる。体部は外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。褐色。
27 90001065	SB015 埋土	小形壺	底径 5.2	小形壺。底部はやや丸味をもち，胴部は直立した後に肩部が急に折れて立ち上がる。胴部内外面ナデ。褐色。
28 90001052	SB015 埋土	鉢	口径 9.1 器高 5.4	底部は小さく不安定。体部は直線的に開き，口縁部付近で立つ。内外面ともやや粗く指ナデ。褐色。
29 90001075	SB015 埋土	器台	口径10.2	体部は口縁部に向かって緩く外反しながら開く。外面ハケメ，内面ナデ。褐色。30はその下半か。
30 90001076	SB015 埋土	器台	底径15.4	体部は裾が大きく開いて安定し，端部を外方に向ける。内外面ハケメ後，内面ナデ。暗褐色。
31 90002446	SB024 埋土	甕	口径 7.2	「く」字口縁。口縁部はナデ，胴部は外面ナデ，内面ハケメを残す。胴部外面に煤付着。褐色。
32 90000567	SB024 床直No. 1	甕	口径15.2 器高19.7	口縁部は急に屈曲して外方に開き，胴部は上位でつよく張る。口縁部ナデ，胴部は外面ハケメ，内面ハケメ後ナデ。胴部外面に煤付着。褐色。
33 90000565	SB024 床直No. 4	甕	口径16.3 器高19.3	口縁部はやや不明瞭に屈曲して端部が薄く，胴部は上位に最大径を置き，安定した平底。口縁部ハケメ後ナデ，胴部は外面ハケメ，内面ナデ。茶褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
34 90000566	SB024	甕	口径14.2 器高14.1	小形甕。口縁部はやや不明瞭に折れて平坦にちかく開く。体部はやや不安定で厚い。口縁部ナデ，胴部内外面ハケメ後ナデ。黒褐色。
35 90000560	SB024 床直No.1	壺	胴径18.2 底径 8.5	球状胴部をもち中位やや上に突帯1条を巡らす。底部は広く安定。胴部は外面ハケメ，内面ハケメ後ナデ。褐色。
36 90000563	SB024 床直No.3	鉢	口径 9.0 器高 8.0	体部は直線的に立ち上がり，底部が厚い。外面ハケメ，内面ナデ。淡褐色。
37 90000561	SB024 埋土	鉢	口径 7.7 器高 4.3	体部はつよく内湾しながら立ち上がる。外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
38 87000624	SB052 床直上	高坏	口径23.7	丹塗り精製土器。坏部は比較的深く鋤先状平坦口縁。坏部および筒部の外面全体にヘラミガキを施し，口縁上面をヘラ暗文で飾る。素地は明褐色。
39 90001859	SB031 床直No.2	甕	口径36.1 器高28.0	丹塗り精製土器。F字形平坦口縁で，口縁下と胴部に断面台形の突帯を巡らす。口縁部から胴部外面に暗文風ヘラミガキ，内面ナデ。茶褐色。
40 90000798	SB031 埋土	甕	口径34.6	口縁部はよわく屈曲して平坦にちかく開く。胴部は張りが少なく，器壁が薄い。胴部は外面ハケメ，内面ナデ。胴部外面に煤付着。明茶褐色。
41 90002797	SB031 床直No.3	甕棺片	口径43.4 胴径35.2	口径部はつよく締まって胴部が大きく膨らむ。口縁部は上面内傾，胴部中位に突帯を2条巡らす。胴部は外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
42 90001750	SB031 埋土	甕	底径 7.5	底部は安定した平底。胴底部付近は外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
43 90001854	SB031 埋土	甕	残存 5.6	底部は安定した平底。胴底部付近は外面ハケメ，内面ナデ。暗褐色。
44 90001852	SB031 埋土	壺	底径12.8	底部は安定した平底で，胴部が大きく開く。胴底部付近は外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
45 90001856	SB031 埋土	器台	底径12.0	体部中位は直立気味で，裾は小さく開き，端部をわずかに外に向ける。外面ハケメ，内面は筒部ヘラナデ，裾部ハケメ。褐色。
46 90001855	SB031 埋土	器台	底径19.6	裾は大きく開き，端部は平坦に接地する。外面ハケメ，内面は裾部ハケメ後ナデ。褐色。
47 90000894	SB051	甕蓋	口径29.2 器高12.0	体部は緩く大きく開き，天井部を窪める。内外面ナデ。褐色。
48 90003017	SB051 床直No.3	甕	口径22.6	口縁部を厚い断面三角突帯でつくり，胴部は張りがなく，口縁下に未発達な突帯1条を巡らす。内外面ナデ。褐色。
49 90003016	SB051 床直No.5	甕	口径22.2	口縁部を厚い断面三角突帯でつくり，口縁下に太い沈線を1条巡らす。内外面ナデ。黒褐色。
50 90001857	SB051 床直	壺	口径15.9	口頸部は胴部から続いて弧状に大きく外反。内外面ナデ。褐色。
51 90000893	SB051	台付甕	底径 9.2	底部は外方につよく開く脚台付き。胴底部付近は内外面ナデ。明褐色。
52 90003018	SB051 床直No.2	甕	底径 5.8	底部は中央が窪む不安定な平底。内外面ナデ。褐色。
53 90000889	SB051 床直No.3	甕	底径 8.2	底部は中央が窪む分厚い脚台付き。内外面ナデ。明茶褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
54 90003019	SB051 床直No.5	甕	底径 6.0	底部は小さく安定した平底。胴底部付近は内外面ナデ。褐色。
55 90003020	SB051 床直No.5	甕	底径 6.2	底部は中央が窪む分厚い脚台付き。胴底部付近は内面ヘラナデ，外面ナデ。明褐色。
56 90000892	SB051 床直No.4	鉢	口径12.6 器高 6.3	小形鉢の底部に外側から焼成後穿孔を施し，甑として使用。体部は直線的に立ち上がる。内外面ナデ。暗褐色。
57 90003027	SB051 床直No.3	鉢	口径26.8	体部は浅く，口縁部は小さな断面三角突帯を玉縁状に巡らす。内外面ナデ。褐色。
58 90003026	SB051	高坏	残高12.1	柱状筒部から裾部が大きく開く。外面ヘラナデ，裾部内面ナデ。明褐色。
59 90003025	SB051	支脚	器高 9.6 底径 4.5	方柱状で中位に1孔を通す。ナデ仕上げで粗製。明褐色。
60 90000890	SB051 床直No.6	支脚	底径 6.5	円柱状で，中位がやや締まる。ナデ仕上げ。褐色。
61 90001626	SB056 床直No.5	甕棺片	口径53.2	口頸部はつよく締まり，外反気味の平坦口縁をつくる。胴部が大きく張る。胴部は外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。明褐色。
62 00002420	SB056 床直No.12	甕	口存34.2	口縁部は「く」字気味に屈曲。胴部は張りがよわく，器壁が薄い。胴部は外面ハケメ，内面ナデ。明茶褐色。
63 90001621	SB056 床直No.12	甕	口径34.0	口縁部は平坦にちかくやや不明瞭に屈曲。胴部は外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。褐色。
64 90001620	SB056 床直No.2	甕	口径28.2	口縁部は「く」字気味に屈曲。胴部はあまり張らない。口縁部上面ハケメ，胴部は外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
65 90002416	SB056 床直No.4	壺	口径29.8	丹塗り精製土器。頸部は緩く大きく外反しながら開き，内側に突出部をもつ平坦口縁をのせる。口頸部内外面ナデ。胎土は黄褐色。
66 90002403	SB056 床直No.8	蓋	上径 5.0	天井部わずかに残。上面平坦。内外面ナデ。明茶褐色。
67 90002408	SB056 床直No.4	甕	底径 7.5	底部は安定した平底。胴底部付近は外面ハケメ，内面ナデ。明褐色。
68 90002419	SB056 床直No.10	甕	底径 9.1	底部は安定した平底。胴底部付近は外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
69 90001612	SB056 床直No.5	鉢	口径14.4	体部上半が緩く弧状に立ち上がる。内外面ナデ。褐色。
70 90001627	SB056 床直No.2	器台	口径12.2 器高20.8	体部は口縁部ちかくで締まり，中位から裾にかけて直線的に開く。外面ハケメ，内面は口縁部と裾部付近ハケメ，他ナデ付け。褐色。
71 90001799	SB056 床直No.1	器台	底径13.2	体部は鼓形にちかく，裾部はあまり開かず，端部を外方に向ける。外面ハケメ，内面は裾部付近ハケメ，他ナデ。
72 90001628	SB056 床直No.5	甕棺片	口径38.0	口縁部はつよく屈曲して外反気味に短く開く。胴部は上位が球状に張る。胴部外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
73 90001629	SB056 床直No.5	甕棺片	胴径60.8	胴部は中位がつよく張り，突帯2条を巡らす。器壁が薄い。胴部は外面ハケメ，内面ナデ。褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
74 90001674	SB017 床直No.4	甕	口径33.4	口縁部はやや上向する平坦口縁で，端部を丸める。胴部は張りがよわい。胴部内外面ハケメ。褐色。
75 90001679	SB017 床直No.9	甕	口径24.3	口縁部はやや不明瞭な「く」字形に屈曲。胴部上位がやや張る。胴部は外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
76 90001681	SB017 床直No.6	甕	口径13.0	丹塗りの精製土器。胴部は下位がつよく締まり，小さく不安定な平底をつくる。胴部外面ヘラミガキ，内面ナデ。胎土は茶褐色。
77 90001672	SB017	甕	口径15.6 器高17.3	小形甕。口縁部は不明瞭な「く」字形に屈曲。胴部は上位で張り，下半から底部にかけて厚くつくる。胴部は外面ハケメ，内面ヘラナデ。褐色。
78 90001670	SB017 床直No.7	鉢	口径15.3 器高 9.8	体部は口縁部付近で内湾気味に立ち上がる。外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。褐色。
79 90001677	SB017 床直No.9	器台	口径13.1 器高18.5	体部は裾がやや大きく開くが，鼓形の形勢を残す。外面ハケメ，内面は口縁部と下半をハケメ後ナデ，他ナデ。褐色。
80 87001700	SB023 埋土	甕	口径27.9	明瞭に屈曲する「く」字形口縁。胴部は肩位が張るか。胴部外面ハケメ，内面ナデ。赤褐色。
81 87001697	SB023 埋土	壺	口径29.8	丹塗り精製土器。頸部は緩く外反気味に開き，内側に突出部をもつ平坦口縁をのせる。口頸部内外面ナデ。胎土は淡褐色。
82 89000616	SB023	甕	底径 8.0	底部はやや不安定な平底。胴底部付近は外面ハケメ，内面ナデ。淡明褐色。
83 87002904	SB023	甕	底径 7.4	底部は安定した平底。胴底部付近は外面ハケメ，内面ナデ。暗褐色。
84 90001026	SB079 床直No20	甕棺	口径33.6	小形甕棺。口径部はつよく締まり，鋤先状平坦口縁をつくる。口縁部下に突帯1条を巡らす。口縁部ナデ。褐色。
85 90000545	SB079	甕	口径31.9	口縁部は「く」字形に屈曲し，外反気味に開く。胴部は肩位でややつよく張る。胴部外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
86 90001667	SB079	甕	口径24.4	口縁部は立ち気味に「く」字形に屈曲。胴部は中位付近で張る。胴部外面ハケメ，内面ナデ。明褐色。
87 90000896	SB079 床直No.10	甕	口径23.2 器高29.3	口縁部は「く」字形に屈曲して開く。胴部は上位で張り，安定した平底をつくる。口縁部内面ハケメ後ナデ。胴部内外面ハケメ。明褐色。
88 90000556	SB079 床直No.10	台付甕	底径10.8	脚台は外方につよく張って立つ。脚台部付近は内外面ハケメ。褐色。
89 90001036	SB079	甕	口径19.4 器高18.9	口縁部は「く」字形に屈曲して開く。胴部はあまり張らず短く，安定した平底をつくる。胴部外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
90 90000646	SB079 床直No.12	甕	口径14.2 器高15.0	小形甕。口縁部は「く」字形に短く屈曲。胴部は中位やや上でつよく張り，安定した平底をつくる。胴部外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
91 90000647	SB079 床直No.1	甕	口径10.9 器高11.7	小形甕。口縁部はやや不明瞭に短く立ち気味に屈曲。胴部は低くつぶれ，底部との稜はややあまい。胴部外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
92 90001668	SB079	壺	口径26.0 器高35.3	頸部は外反気味に立ち上がり，端部下傾の平坦口縁が乗る。胴部は肩位がつよく張り，中位と頸胴間に突帯。頸胴部は外面ハケメ，内面ナデ。茶褐色。
93 90001037	SB079 床直No.5	壺	口径 9.6 器高31.0	胴部は中位やや上で張り突帯1条を巡らせ，安定した平底をつくる。胴部内外面ハケメ。褐色。

図番号	出土地点	器種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
94 90001017	SB079	壺	口径21.6	口縁部はつよく締まった頸部から続いて大きく外反しながら開く。口頸部は外面ハケメ，内面ハケメ後ナデ。褐色。
95 90001019	SB079	壺	口径14.2	口縁部は頸部と稜をなして内湾気味に折り返す袋状口縁。頸胴部は一体化してなだらかに下り，突帯で仕切る。頸胴部は内外面ハケメ後ナデ。茶褐色。
96 90001025	SB079 床直No.9	高坏	口径23.8	坏部は比較的浅く，内側に突出した平坦口縁を乗せる。口縁部上面と坏部外面はハケメ後ナデ，坏部内面ナデ。明茶褐色。
97 90001041	SB079 床直No.11	高坏	口径15.2	脚部は大きく外反しながら「ハ」字形に開く。脚部外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。褐色。
98 90001045	SB079 床直No.3	鉢	口径23.7 器高14.7	口縁部は平坦ながら上向気味で端部を丸める。胴部は，安定した広い底部をつくる。胴部は外面ハケメ，内面ナデ。明茶褐色。
99 90000510	SB079 床直No.19	台付鉢	口径11.6 器高 8.3	底体部は一体化して丸味をもち，高く外方に張った脚台が付く。体部外面ハケメ後ナデ，他ナデ。明褐色。
100 90001011	SB079	鉢	口径 8.0 器高 5.3	小形鉢。体部はやや急に立ち上がり，安定した平底。内外面ナデ。明褐色。
101 90001042	SB079	鉢	口径13.0 器高 5.5	口縁部は短く折れて開き，体部は比較的浅く，安定した平底。体部外面ハケメ，内面ナデ。明茶褐色。
102 90000641	SB079	器台	口径10.6 器高17.0	細身の鼓形で中位が締まる。外面は粗く指ナデ付け，内面ナデ。褐色。
103 90000509	SB079 床直No.14	器台	口径12.2 器高16.5	口頸部と裾部は大きく開くが，体部は中位のやや上で締まり，鼓形の形勢を残す。内外面とも粗くナデ。褐色。
104 90000531	SB079	器台	口径 7.5 器高 9.9	小形器台。体部は上位でわずかに締まり，全体に器壁が厚い。内外面とも粗く指ナデ付け，内面上端のみハケメ。褐色。
105 90000644	SB079 床直No.8	器台	口径 7.3 器高11.6	小形器台。体部は中位のやや上で締まり，上端をナデて平坦につくる。外面はヘラナデ後指ナデ，内面ナデ。褐色。
106 90003507	SB079	勾玉	残長 3.5	手捏ねの土製勾玉。身は弧状で断面円形。頭部欠失。褐色。
107 87005052	SB085 埋土中	甕	口径42.6 器高10.0	大型甕。口縁部は胴部と明瞭な稜をなさずに上向気味に屈曲するF字形口縁で，端部を丸める。胴部は外面ハケメ，内面ナデ。茶褐色。108は底部か。
108 87005049	SB085 埋土中	甕	口径10.0 器高11.7	大型甕。胴部は底部から大きく開いて立ち上がる。胴部外面ハケメ，内面ナデ。茶褐色。
109 87001694	SB085 床直No.2	甕	口径30.0 器高27.0	口縁部はやや不明瞭に「く」字形に屈曲。胴部は肩位で張る。110はその底部か。胴部外面ハケメ，内面ナデ。外面に煤付着。明褐色。
110 87000804	SB085	甕	底径 9.0	甕底部。胴部外面ハケメ，内面ナデ。明褐色。
111 87000886	SB085 埋土中	甕	口径17.0	粗製の小形甕。口縁部は短く屈曲。胴部は底部に向かって一気にすぼまる。胴部外面は粗くナデの後ハケメ，内面ナデ付け。外面に煤付着。黒褐色。
112 87000884	SB085 埋土中	甕	口径12.8	口縁部はやや外反気味の「く」字形口縁。胴部は肩位で張る。胴部外面ハケメ，内面ナデ。茶褐色。
113 87000882	SB085 埋土中	壺	口径18.7	口縁部は胴部から不明瞭に折れて，外反気味に大きく開く。胴部は外面ハケメ，内面ナデ。茶褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
114 87000803	SB085 埋土中	壺	底径 7.2	胴部は中位で張り，突帯1条をを巡らす。胴部外面ハケメ，内面ナデ。淡褐色。
115 87000883	SB085 埋土中	鉢	口径 9.7 器高 6.2	体部はやや急に立ち上がる。体部外面ハケメ，内面ナデ。黄淡褐色。
116 90001816	SB113	甕	口径36.6	口縁部は上向気味に屈曲するL字形口縁で端部は丸める。胴部外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
117 87000611	SB113 埋土中	甕	口径23.8 器高28.8	やや外反気味の「く」字形口縁で，口唇部は平坦にナデる。胴部はやや肩が張る。胴部外面ハケメ，内面はハケメ後ナデ。外面に煤付着。褐色。
118 87000801	SB113 床直No.13	甕	口径20.3 器高27.6	やや外反気味に開く「く」字形口縁。胴部は中位で張り，安定した平底をつくる。胴部外面ハケメ，内面は上半板ナデ，下半指ナデ。明褐色。
119 90002817	SB113 床直No.6	甕	口径18.4 器高18.0	口縁部は不明瞭に屈曲して外方に大きく開く。胴部は中位で張り，大きめの安定した平底をつくる。外面ハケメ，内面ナデ。明褐色。
120 87000609	SB113 床直No.8	甕	口径18.4 器高21.2	つよく屈曲する「く」字形口縁で，口唇部は平坦にナデる。胴部は肩がつよく張る。胴部外面ハケメ，内面は上半ヘラナデ，下半指ナデ。暗褐色。
121 87000799	SB113 床直No.15	甕	口径16.2 器高20.4	口縁部はやや不明瞭に屈曲する「く」字形口縁。胴部は細身のわりに安定した平底をつくる。胴部内外面ハケメ。明褐色。
122 90001809	SB113	甕	口径12.8	小形甕。口縁部は短く「く」字形に屈曲する。胴部外面ハケメ，内面ナデ。暗褐色。
123 90001808	SB113 床直No.12	甕	口径23.4	口縁部はあまく「く」字形に屈曲。胴部は比較的浅く，上位で張る。胴部外面ハケメ，内面ナデ。明茶褐色。
124 87000798	SB113 床直No.18	甕	口径19.0 器高14.4	口縁部は外方に大きく開く「く」字形口縁。胴部は比較的浅く，安定した平底をつくる。胴部外面ハケメ，内面板ナデ。褐色。
125 87000800	SB113 床直No.2	甕	口径12.4 器高11.5	口縁部は器壁が薄く，「く」字形に短く屈曲。胴部は低くつぶれて下位で張り，安定した平底をつくる。胴部外面ハケメ，内面ナデ。明褐色。
126 90001843	SB113 床直No.6	甕	口径15.0	小形甕。口縁部は器壁が薄く，「く」字形に屈曲する。胴部は丸く張る。胴部外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
127 90002814	SB113	壺	器高 9.5	口縁部は頸部から屈曲気味に大きく外方に開く。頸胴部は一体化してなだらかに下る。頸胴間に突帯1条。頸胴部外面ハケメ，内面ナデ。茶褐色。
128 87000608	SB113 床直No.7	壺	底径 7.0	胴部は上位でつよく張る。外面ハケメ，内面ナデ。明茶褐色。
129 90002802	SB113 床直No.13	壺	口径 8.0	口頸部は短くつよく締まり，不明瞭に屈曲して内傾のつよい袋状口縁。頸胴部は一体化してS字形を描く。頸胴部外面ハケメ，内面ナデ。明茶褐色。
130 90000627	SB113 床直No.11	壺	口径 8.8 器高11.8	無頸壺。胴部は中位やや上で張り，上半がつよく内傾する。内外面ナデ。茶褐色。
131 90001850	SB113 床直No.7	高坏	口径27.4	坏部はやや直線的に開き，平坦口縁を乗せる。外面ヘラミガキ，内面ナデ。明褐色。
132 90001841	SB113 床直No.6	鉢	口径12.4 器高 8.0	体部は深く，やや急に立ち上がる。外面はハケメ後，口縁部付近ナデ，内面ナデ。明褐色。
133 87000802	SB113	鉢	口径 9.0 器高 5.4	体部はやや急に立ち上がる。外面はハケメ，内面ナデ。黄褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
134 87000607	SB113	鉢	口径 7.5 器高 8.2	体部は急に立ち上がり，脚台状底部をつくる。内外面粗くナデ。黒褐色。
135 90002803	SB113	器台	底径10.4	脚部は裾が急に屈曲して短く開く。外面ハケメ，内面ナデ。明褐色。
136 86006278	SB113 床直No.5	支脚	底径11.6	裾部が緩く開き，厚い。内外面ナデ。灰褐色。
137 90001842	SB113 床直No.6	器台	口径15.4	口縁部が体部から続いて外反気味に開く。体部外面ハケメ，内面ナデ。口縁部ナデ。明褐色。
138 90001846	SB113 床直No.7	器台	底径12.4	裾部は中位から外反気味に開いて端部を外に向ける。体部外面ハケメ，内面ナデ。裾部付近ナデ。明褐色。
139 90002812	SB113	高坏	残高 5.1	粗製手捏土器。褐色。
140 90001862	SB123	甕	口径36.2 器高 6.0	口縁部はあまく屈曲するL字形口縁で，端部は下垂して口唇部を丸める。胴部外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
141 90002978	SB123	甕	口径30.7 器高 5.0	「く」字形口縁で，口唇部は丸める。胴部外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
142 90001860	SB123	甕	口径28.7 器高 8.3	「く」字形口縁で，口唇部は丸める。胴部外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
143 90001861	SB123	甕	口径29.1 器高 9.7	あまく屈曲する「く」字形口縁。胴部外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
144 90001863	SB123	甕	口径 6.4 器高 9.6	安定した平底。胴部外面ハケメ，内面ナデ。赤褐色。
145 87000620	SB123	甕	口径不明 器高12.1	小さくやや不安定な平底。胴部下半は内外面ナデ。褐色。器高12.1
146 87000876	SB123	甕	口径 7.5 器高 7.5	丸底気味の不安定な平底。胴部下半は外面ハケメ後ナデ，内面ハケメ。明褐色。
147 87000880	SB123	壺	器高 5.0	頸部は撫で肩気味の胴部から続いて細く立ち上がる。頸胴間に突帯２条を巡らす。内外面ナデ。暗褐色。
148 87000874	SB123	壺	口径12.9	口頸部は胴部から不明瞭に屈曲して立ち上がり，口縁部外反。胴部は肩位で丸く膨らむ。内外面ナデ。褐色。
149 86006279	SB123	碗	口径13.1 器高 8.0	底部は丸底気味で不安定。口縁部は体部からかすかに折れて立ち上がり，口唇部を粗くナデる。体部外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。褐色
150 90001871	SB123	高坏	筒径 4.3	丹塗り精製土器。脚部は上位から裾にかけて一気に大きく開く。外面ヘラミガキ。胎土は茶褐色。
151 90001865	SB123	甕	底径 6.4	小形甕底部か。脚台は短く外方に張る。底部付近内外面ナデ。赤褐色。
152 87000877	SB123	甕	底径 7.8	分厚い脚台状底部。内外面ナデ。茶褐色。
153 87000878	SB123	支脚	底径 7.3	裾開きの柱状。粗いナデ仕上げ。茶褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
154 90001868	SB123	器台	口径14.0	口縁部は体部から続いて大きく外反気味に開く。口縁部内面ハケメ。体部は外面ハケメ，内面指ナデ付け。褐色。
155 90001870	SK123	器台	底径12.2	体部は下半であまり開かず，裾端部が玉縁状に外方に反ねる。外面ハケメ，内面指ナデ付け。褐色。
156 87000826	SK009	甕	口径48.0	大形甕。口縁部は上向気味に屈曲するF字形口縁で，端部を丸める。口縁下突帯1条を巡らす。胴部外面ハケメ，内面ナデ。明褐色。
157 87000605	SK009	甕	口径22.0 器高21.0	口縁部はやや上向するL字形口縁。胴部下半は締まりがなく，底部が広い。口縁部上面ハケメ。胴部外面ハケメ，内面ナデ。内面に有機物付着。褐色。
148 87000604	SK009	甕	口径16.2 器高17.5	口縁部はあまく「く」字形に屈曲して外反気味に開く。胴部はあまり張らず安定した底部をもつ。胴部外面はハケメ後上位ナデ，内面ナデ。褐色。
159 87002817	SK009	甕	口径30.4	口縁部は稜をなさずにつよく屈曲して外反気味に開き，端部を丸める。胴部は上位で張る。胴部外面ハケメ，内面ナデ。明茶褐色。
160 87000827	SK009	甕	口径36.8	口縁部は上向するL字形口縁。胴部外面ハケメ，内面ナデ。赤褐色。
161 87002816	SK009	鉢	底径 8.4	底部は安定した平底で，胴部は外方に大きく開いて立ち上がる。胴部外面ハケメ，内面ナデ。黄褐色。
162 86006234	SK009	鉢	口径15.5 器高 6.7	体部は外方に大きく開いて立ち上がり，比較的浅い。内外面ハケメの後，口縁部付近と体部内面ナデ。赤褐色。
163 87000606	SK009	鉢	口径27.8 器高15.1	口縁部はややあまく屈曲する平坦口縁。体部は安定した平底から外方に大きく開いて立ち上がる。胴部外面ハケメ，内面ナデ。赤褐色。
164 86006257	SK009	高杯	口径19.0	坏部は浅く丸味をもち，内側に突出した平坦口縁を乗せる。坏部内外面に丹塗りの痕跡あり。胎土は淡褐色。
165 87002812	SK009	高坏	口径39.6	口縁部は内側に突出した平坦口縁。内外面に丹塗りの痕跡あり。胎土は明黄褐色。
166 87000831	SK009	器台	口径13.1 器高8.05	口縁部はあまり大きく開かずに，端部やや内湾。外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
167 87000829	SK009	器台	口径15.4 器高13.4	体部は上位からそのまま裾に向かって開き，端部を外方に向ける。外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
168 90003190	SK029	甕	口径34.4	口縁部は如意形に開いた端部上面に粘土帯を乗せて未発達な平坦口縁をつくり，上下稜部にヘラキザミを施す。口縁部内外面ナデ。明褐色。
169 87000550	SK029 床直No.10	甕	口径27.9 器高32.1	口縁端に上面平坦な断面三角突帯を巡らす。胴部は上意で張り，口縁下に未発達な2条突帯。底部は小さく不安定。外面に煤付着。内外面ナデ。褐色。
170 90003181	SK029	甕	口径21.3	口縁端部はつよく突起した突帯を巡らせ，未発達な平坦口縁をつくる。外面に煤付着。内外面ナデ。褐色。
171 90003183	SK029 床直No.11	甕	口径16.6	小形甕。口縁端部に断面三角突帯を貼り付け，口縁下に突帯を巡らす。内外面ナデ。褐色。
172 90003174	SK029 床直No. 8	甕	口径26.0	口縁部はやや内傾して断面三角突帯を巡らす。胴部は下方に向かって急にすぼまる。外面に煤付着。内外面ナデ。明褐色。
173 90003172	SK029 床直No. 7	甕	口径26.0	口縁端部に厚い断面三角突帯を巡らす。胴部は張りがよわく，口縁下に突帯1条。内外面ナデ。明褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
174 90003057	SK029 床直No.11	甕	口径25.5	口縁端に上面平坦な断面三角突帯を巡らす。胴部の張りは少ない。口縁下に間隔の広い2条沈線を巡らす。胴部外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
175 90003055	SK029 床直No.9	甕	口径21.0	胴部は上位でわずかに締まった後，口縁部が如意形に外反して開く。口縁部ナデ，胴部内外面ハケメ。明茶褐色。
176 90003053	SK029	甕	底径 6.8	厚く外方に張り出した脚台状底部。底部付近は内外面ナデ。褐色。
177 92002338	SK029 床直No.1	蓋	口径20.2 器高 8.8	上面は広く平坦で，裾部が大きく外反気味に開く。内外面ナデ。黒褐色。
178 90003068	SK029	壺	底径 6.4	胴部は球状に張り，やや小さめの平底をつくる。内外面ナデ。明褐色。
179 90003189	SK029	壺	口径12.8	口縁部は頸部から続いて外反。内外面ナデ。褐色。
180 90003179	SK029 床直No.12	壺	頸径15.3	頸部は胴部から急に外反気味に立ち上がる。頸胴間に低い突帯を1条巡らせ段をつくる。頸部内外面ナデ。茶褐色。
181 92002332	SK029 床直No.12	壺	底径 5.6	壺底部か。内外面ナデ。褐色。
182 92002335	SK029 床直No.2	壺	底径 6.4	底部は突出気味で，胴部が大きく開いて立ち上がる。内外面ナデ。黄褐色。
183 90003176	SK029 床直No.7	鉢	口径31.6	大型鉢。体部は内湾しながらやや急に立ち上がる。内外面ナデ。褐色。
184 90003180	SK029	鉢	口径19.0	口縁部のみ。外面ハケメ，内面ナデ。茶褐色。
185 90003170	SK029	鉢	口径13.0	口縁端部に断面三角突帯を巡らす。体部はやや急に立ち上がる。内外面ともナデ。明茶褐色。
186 92002337	SK029	鉢	口径15.4 器高10.1	口縁端部に断面三角突帯を巡らす。体部は直線的に立ち上がる。内外面ともナデ。黄褐色。
187 92002343	SK029	支脚	底径 7.8	方柱状支脚。ナデ仕上げ。明茶褐色。
188 92002342	SK029	支脚	底径 6.1	方柱状支脚。ナデ仕上げ。明黄褐色。
189 90003191	SK029 床直No.6	支脚	底径 7.6	体部は筒状で下端でやや広くなる。内外面ナデ。明褐色。
190 92002340	SK029 床直No.8	器台	口径 7.7 器高11.6	全体が鼓形で，上下端がやや急に開く。内外面ナデ。明茶褐色。
191 84000178	SK081 床直No.1	甕	口径27.3	口縁部はつよく突起した断面三角突帯を巡らせ，上面平坦。胴部はあまり張らず，口縁下に低い突帯1条を巡らす。胴部内外面ナデ。黄褐色。
192 90002798	SK081	甕	口径23.0	口縁端部は断面三角突帯でつくり，口縁下に低い突帯を1条巡らせる。胴部上位内外面ナデ。黄褐色。
193 84000175	SK081	甕	口径33.2	口縁端部は断面三角突帯を巡らせる。胴部上位内外面ナデ。黄褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
194 84000174	SK081	甕	口径28.5	口縁端部は断面三角突帯を巡らせる。胴部上位内外面ナデ。黄褐色。
195 84000172	SK081	甕	口径28.5	口縁部はつよく突出した断面三角突帯を巡らせ，上面平坦。口縁部付近は内外面ナデ。黄褐色。
196 84000166	SK081	長頸壺	口径11.6 器高21.4	黒色磨研土器。胴部は球状平底で，沈線２条を置いて頸部が高く伸び，口縁部外反。口頸部内外面と胴部外面ヘラミガキ，胴部内面ナデ。胎土黄褐色。
197 84000177	SK081	甕	口径15.6	口縁部はつよく突出した断面三角突帯を巡らせ，上面平坦。胴部は球条に中位が張る。胴部内外面ナデ。黄褐色。
198 84000176	SK081	鉢	残高 6.4	体部は比較的浅く，上半は直線的に伸びるか。内外面ナデ。黄褐色。
199 87002857	SK081	甕	口径37.2	大形甕。口縁部は断面三角突帯，胴部は口縁下に低い突帯１条を巡らせる。胴部はあまり張らず，急にすぼまる。内外面ナデ。灰褐色。
200 87002845	SK082	甕	口径28.6	口縁部は断面三角突帯，口縁下に沈線２条を巡らせる。胴部はほとんど張らない。内外面ナデ。淡褐色。
201 87002830	SK082	甕	口径23.4 器高28.7	口縁部は断面三角突帯で，上面平坦。胴部は胴部はあまり張らず，小さめの上げ底気味の底部をつくる。内外面ナデ。褐色。
202 87000853	SK082	蓋	口径26.3 器高10.4	体部は直線的に大きく開き，裾がさらに外反する。内外面ナデ。褐色。
203 87002850	SK082	甕	口径27.6	胴部は上位でわずかに締まり，口縁部は如意形に外反して開く。口縁下に沈線２条を巡らす。明茶褐色。
204 87002826	SK082	甕	底径 8.1	脚台状の甕底部。胴底部付近は外面ハケメ，内面ナデ。明茶褐色。
205 87002854	SK082	壺	頸径13.6	胴部は頸部からS字形を描いてなだらかに下る。頸胴間はヘラでかすかな段をつくる。頸部外面ナデ，胴部は外面ヨコヘラミガキ，内面ナデ。淡褐色。
206 87001691	SK082	壺	口径17.8	口頸部は胴部から続いて大きく弧を描いて外反。頸胴間に刻目突帯。口頸部は外面タテ，内面ヨコ方向のヘラミガキ。胴部外面ヘラミガキ。淡赤褐色。
207 87002834	SK082	壺	口径14.2	口縁部は短く直に伸びて三角突帯を巡らせ，紐孔を穿ける。胴部は低くつぶれて中位がつよく張る。調整不明瞭ながら外面にハケメ痕あり。淡褐色。
208 87002849	SK082	壺	口径12.0	頸部は撫で肩の胴部から不明瞭に屈曲して直立した後，口縁部外反。口頸縁と胴部上位は内外面ナデ。淡褐色。
209 87002848	SK082	壺	口径16.0	頸部は短く外反気味に立ち，口縁端部が外方にめくれる。頸胴間に沈線２条巡らす。口頸部内外面ナデ。淡褐色。
210 87000859	SK082	支脚	底径 7.4	柱状支脚。下端は上げ底気味。ナデ仕上げ。明褐色。
211 90001711	SK083	甕	口径28.0	口縁部は未発達な平坦口縁。胴部は中位やや上で張り，口縁下に低い突帯１条を巡らす。口縁部付近ナデ，胴部外面ハケメ，内面ナデ。褐色。
212 90001712	SK083	甕	口径26.7	口縁部はややつよく内傾して厚い三角突帯を巡らす。口縁部付近は内外面ナデ。明茶褐色。
213 90001707	SK083	甕	口径21.4	口縁部は厚い三角突帯を巡らす。胴部は下位に向かって急にすぼまり，口縁下に低い突帯を１条巡らす。胴部内外面ナデ。褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
214 90001705	SK083	壺	口径17.8	口頸部は胴部から一気に外反して大きく開き，頸胴間に沈線1条を巡らす。内外面ナデ。褐色。
215 90001706	SK083	壺	口径11.0	口頸部はつよく締まって撫で肩の胴部から頸部が短く立ち上がり，未発達な平坦口縁をつくる。内外面ナデ。褐色。
216 90003007	SK092	甕	口径24.1	口縁部は厚く未発達な平坦口縁をつくる。胴部は張りが少なく，口縁下に小さな断面台形突帯1条を巡らす。内外面ナデ。明褐色。
217 90003008	SK092	甕	口径28.1	口縁部は端部上面をナデて肥厚させる。体部は上位から急にすぼまり，口縁下に突帯1条を巡らす。内外面ナデ。褐色。
218 87000789	SK092	甕	底径 6.2	甕底部。外面ハケメ，内面ナデ。茶褐色。
219 87000791	SK092	支脚	口径 6.7 器高11.9	柱状支脚。上面を窪ませ，下端がわずかに広がる。ナデ仕上げ。茶褐色。
220 87000792	SK092	高坏	残高11.1	筒部は柱状で，裾部が大きく外反して開く。外面ヘラミガキ，脚部内面はハケメ後ナデ。淡茶褐色。
221 87000788	SK092	壺	口径15.0 胴径26.8	胴部は肩がつよく張って丸味をもち，口頸部は胴部からS字形を描いて大きく外反する。口頸部内面ヘラミガキ，外面ナデ。胴部内外面ナデ。茶褐色。
222 86006168	SK094	甕	口径25.2 器高30.0	口縁部は厚い断面三角突帯を巡らせて上面を平坦につくる。胴部は下位で急にすぼまり底部は上げ底状。口縁下に突帯1条。内外面ナデ。黄灰色。
223 90002949	SK094	甕	口径30.2	口縁部は厚い断面三角突帯を巡らせ，胴部は口縁下に突帯1条を巡らす。内外面ナデ。褐色。
224 90002947	SK094	甕	口径36.9	口縁部はややつよく内傾し，厚い断面三角突帯を巡らせて上面を平坦につくる。胴部は口縁下に突帯1条を巡らす。内外面ナデ。褐色。
225 90002939	SK094	甕	底径 7.5	分厚い脚台状底部。内外面ナデ。褐色。
226 90002938	SK094	蓋	残高10.2	天井部は高く平坦で，体部は外反気味に大きく開く。内外面ナデ。内面に煤付着。明褐色。
227 90002951	SK094	蓋	口径13.8	天井部は低く，周縁やや不整形。紐孔2個が残る。上面ヘラナデ，内面指ナデ。褐色。
228 90002950	SK094	鉢	口径42.8	大形鉢。口縁部は未発達な平坦口縁をつくる。内外面ナデ。褐色。
229 90002945	SK094	鉢	口径27.0	口縁部は断面三角突帯を巡らす。体部は比較的浅く立ち上がる。内外面ナデか。暗褐色。
230 90002940	SK094	支脚	口径 7.4	小形支脚。体部は厚く，下端がわずかに開く。内外面ナデ。明褐色。
231 87001684	SK099	甕	口径30.0	口縁部はつよく突出した突帯を巡らせる。胴部内外面ナデ。明褐色。
232 87001682	SK099	甕	口径20.0	口縁部はつよく突出した断面三角突帯でつくる。胴部はあまり張らず，口縁下に低い突帯1条を巡らせる。胴部内外面ナデ。淡茶褐色。
233 87001688	SK099	甕	底径 8.2	底部は分厚く，外方につよく張り出した脚台状。内外面ナデ。淡赤褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
234 87000793	SK099	甕	底径 6.9	甕底部。外面ハケメ，内面ナデ。淡茶褐色。
235 87001685	SK099	鉢	口径24.0	体部は浅く，口縁は端部上面をナデて小さな平坦をつくる。底部不明。体部内外面ナデ。明茶褐色。
236 86006169	SK099	壺	底径 3.2 胴径 9.6	小形壺。胴部は低くつぶれて中位がつよく張り，小さな平底をつくる。頸部は突帯を置いて内傾しながら急に立ち上がる。内外面ナデ。淡褐色。
237 90000630	SK099	支脚	口径 5.7 器高11.3	柱状支脚。上下両端がかすかに外方に開く。外面粗くナデ付け。明褐色。
238 90002663	SK117	甕	口径31.6	口縁部はつよく内傾して厚い断面三角突帯を巡らす。口縁下に突帯1条。口縁部付近は内外面ナデ。明褐色。
239 90002926	SK117	甕	口径25.8	口縁部は厚い断面三角突帯を巡らす。胴部はあまり張らず，口縁下に突帯2条。胴部内外面ナデ。明褐色。
240 90002660	SK117	甕	口径24.2	口縁部に断面三角突帯を巡らす。胴部はあまり張らず，口縁下に突帯1条。胴部内外面ナデ。褐色。
241 90002661	SK117	甕	口径23.8	口縁部は断面三角突帯を巡らす。胴部はあまり張らず，口縁下に突帯1条。胴部内外面ナデ。明褐色。
242 90002919	SK117	壺	口径14.8	無頸壺。胴部は肩が丸味をもってつよく張り，口縁部は短く立って上面を平坦にナデる。胴部内外面ナデ。褐色。
243 90002162	SK117	支脚	底径 8.4	体部は筒状に立ち，裾部が低く外方に開く。外面は指ナデ付け。明褐色。
244 86006165	SK117	支脚	底径 7.8 器高10.8	柱状支脚。上下両端が短く外方に開く。外面ナデ。淡褐色。
245 90001689	SK142	甕	口径40.3	口縁部は外反気味に開き，端部上面に粘土帯を乗せて平坦状口縁をつくる。外端部上下に刻目。口縁部付近ナデ。褐色。
246 89009496	SK142 床直No.8	甕	口径25.2	口縁部は厚い断面三角突帯を巡らせてつくる。胴部は上位でやや張り，口縁下に低い突帯を巡らす。内外面ナデ。明褐色。
247 90001683	SK142 床直No.2	甕	底径 6.8	やや上げ底気味。底部付近内外面ナデ。褐色。
248 90001697	SK142 床直No.8	甕	底径 7.0	甕底部。焼成後に穿孔し甑に利用している。内外面ナデ。褐色。
249 90001698	SK142 床直No.3	甕	底径 7.9	体部は分厚く，外に張り出した脚台状。胴部内外面ナデ。褐色。
250 90001693	SK142	壺	口径30.9	口縁部は直立気味の頸部から急に大きく外反して端部下垂。口頸部内外面ハケメ後，口縁部付近ナデ。茶褐色。
251 90001684	SK142 床直No.1	壺	頸径 9.0 胴径12.6	球状胴部から頸部がやや不明瞭に屈曲して直立気味に立ち上がる。胴頸部内外面ナデ。褐色。
252 90001687	SK142 床直No.2	鉢	口径22.2	体部は比較的浅く，緩くカーブしながら開いて立ち上がり，口縁部が外方にめくれる。内外面ナデ。褐色。
253 90002766	SK163	甕	口径17.5	口縁部は厚い断面三角突帯を巡らせてつくる。胴部は上位でやや張り，口縁下に低い突帯を巡らす。内外面ナデ。明褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
254 90002780	SK163	壺	口径10.1 胴径16.5	胴部は丸く中位でつよく張り，口頸部はS字形を描いて大きく外反する。頸胴間に2条沈線。胴部外面と口頸部内面ヘラミガキ，他ナデ。褐灰色。
255 90002777	SK163	壺	口径10.0 胴径14.8	胴部は丸く中位でつよく張り，口頸部はS字形を描いて大きく外反する。外面ヘラミガキ。内面は口縁部ヘラミガキ，胴部ナデ。暗褐色。
256 90002778	SK163	壺	底径 4.2	胴部は小さめの平底からゆるく立ち上がる。胴部は外面粗いヘラミガキ，内面ナデ。暗褐色。

(2) 投　　弾

SK115土壙の西北隅を中心に，埋土中位から投げ込まれた状態で多量の投弾が出土した。いずれも未焼成であるため崩れやすい保存状態にあり，制作途中で何らかの事情により廃棄されたものである。全部で123点以上を数えるが，ここではその内の39点を図示しておく。

つくりはいずれも一定しており，あまり砂粒を含まない粘土を適量，手捏で紡錘形にまるめたものである。両端が鈍く尖る。法量もあまりばらつきがなく，図示した39点で見ると，平均で長さ4.2cm，最大径2.5cm。重さは平均18.9gである。

通常，弥生時代の集落跡では竪穴住居跡や溝から投弾がしばしば出土するが，多量である例は少ない。しかも未焼成であることから，制作状況を窺うことのできる貴重な例といえる。

時期は後期前半である。共伴した土器を図示しておくが，甕257は口縁部が「く」字形に屈曲し，口唇部はナデてまるめる。口縁部内面及び体部外面にハケメを残しながらナデて仕上げる。復元口径34.5cm。明褐色。258は甕底部。安定した平底で，外面ハケメ，内面ナデ。底径9.0cm。明褐色。

（図番号－実測番号）

259-93001451 260-93001452 261-93001453 262-93001454 263-93001455 264-93001456
265-93001457 266-93001458 267-93001459 268-93001460 269-93001461 270-93001462
271-93001463 272-93001464 273-93001465 274-93001466 275-93001467 276-93001468
277-93001469 278-93001470 279-93001471 280-93001472 281-93001473 282-93001474
283-93001481 284-93001482 285-93001483 286-93001484 287-93001485 288-93001486
289-93001487 290-93001488 291-93001489

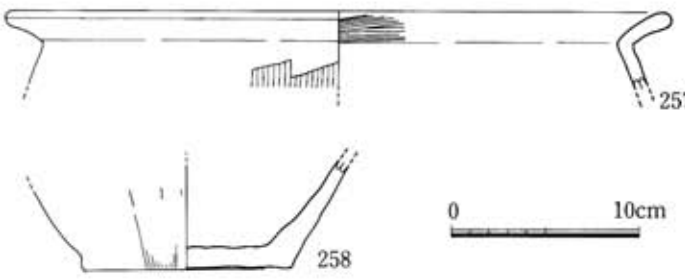


Fig. 85　SK115出土弥生土器（1/4）

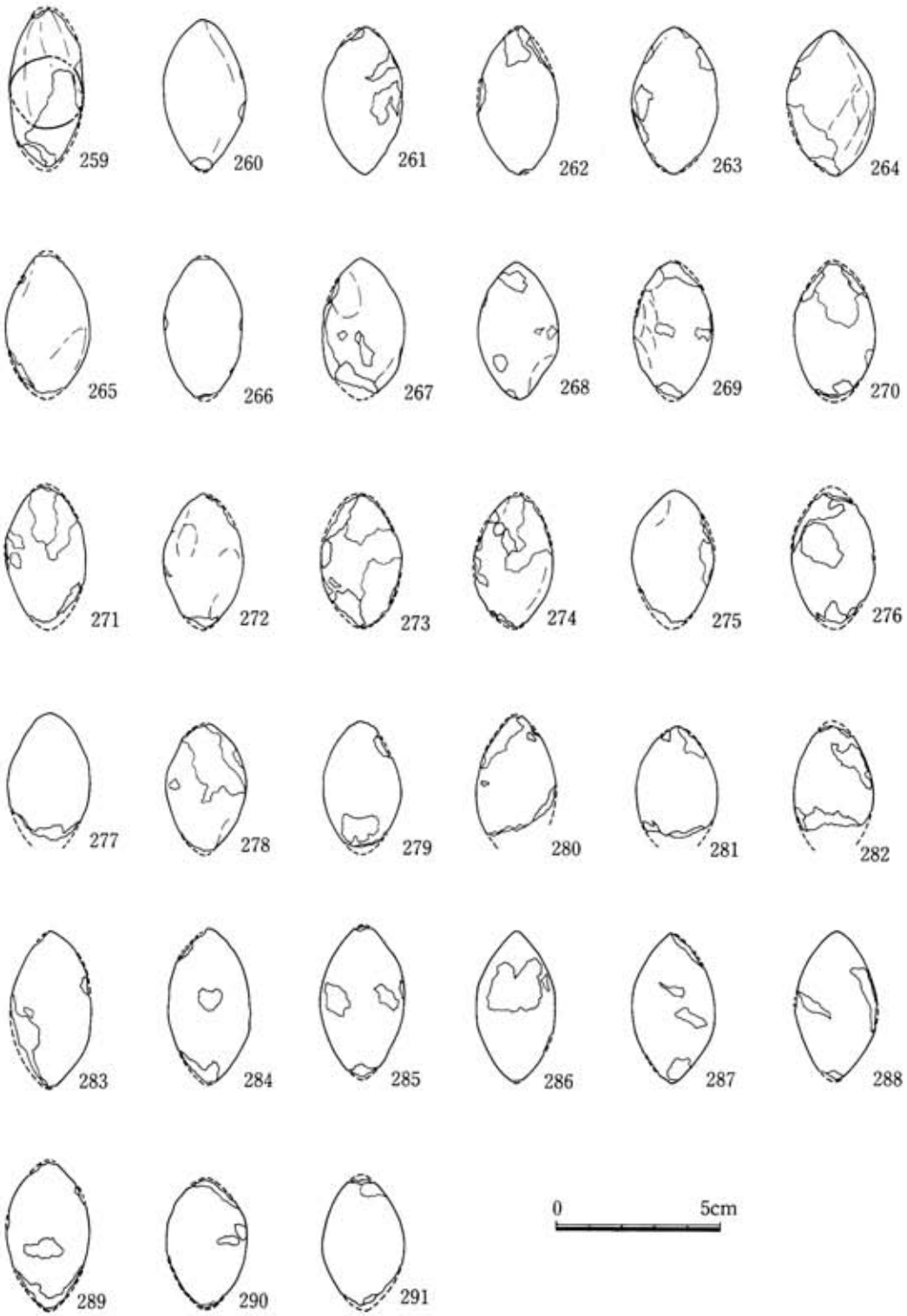


Fig. 86　SK115出土投弾（1/2）

(3) 玉　　類

採集品も含めて4点が出土した。292は採集品の土製管玉。長さ2.3cm。一方がやや太く幅0.9cm。明褐色で砂粒を少し含む。端部をわずかに欠く。293は土製丸玉。SB124竪穴住居跡埋土中から出土した。長さ1.3cm，径1.5cm。暗褐色で細砂粒を少し含む。294は滑石製小玉。SD033溝埋土中から出土した。径0.7cm。灰色を呈す。295も同じく滑石製小玉。SK077竪穴住居跡床面から出土した。径0.5cm。灰色を呈す。

（図番号－実測番号）　292-90002841 293-90003505 294-90003511 295-90003510

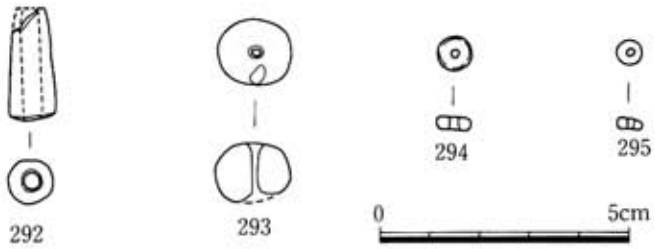


Fig. 87　玉類（2/3）

(4) 紡　錘　車

採集品も含めて土製品3点が出土した。296はSK117土壙出土。径5.1cmと大形で，厚さ1.4cm，片側から径0.6cmの軸孔を穿ける。周縁はナデて丸く仕上げる。明黄褐色で砂粒を多く含む。半分を欠失する。297はSK082土壙出土。径4.0cm，厚さ1.1cm，片側から径0.5cmの軸孔を穿ける。全体に丁寧なつくりで，周縁はナデて稜をなす。橙褐色で細砂粒を少し含む。298は採集品で時期は不明であるが，ここに図示しておく。径3.8cm，厚さ0.9cmで，片側から径0.4cmの孔を穿ける。周縁は粗くナデて仕上げる。明褐色で砂粒を少し含む。

（図番号－実測番号）　296-86006163 297-87002858 298-90002694

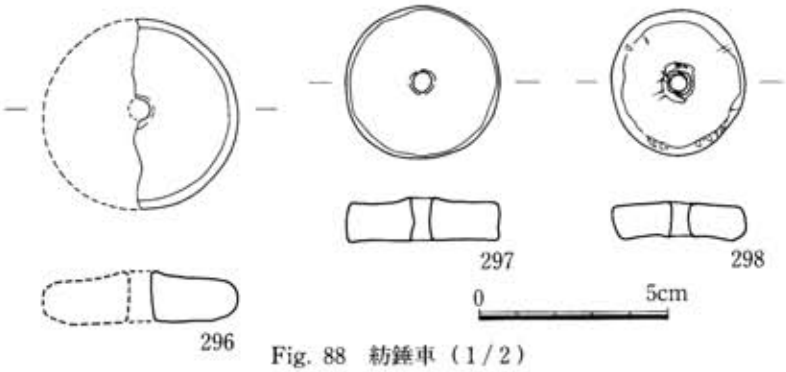


Fig. 88　紡錘車（1/2）

(5) 石　　器

打製石器では削器・石匙・石錐，また，磨製石器では石鏃・石戈・石包丁・石斧・砥石が出土した。ただし，縄文時代の遺物の項でことわったように，打製石器では縄文と弥生との区別が困難なものも含まれることから，ここでは改めて縄文時代の打製石器も併せて図示する。

a　打製石器

削　器（Fig. 89）

299～304はサヌカイトを使用した削器。不定形な剝片に調整を加え，刃部をつくりだしている。299は縦長剝片の片面に一次調整で刃部を成形した後，さらに反対面に細かな刃部調整を加えている。最大長5.5cm。SD126埋土出土。300は縦長剝片の片面側方に粗く刃部調整を行なっている。最大長4.8cm。SB051出土。301は横長剝片の一方の片に両面から粗く剝離を加えて刃部をつくる。最大長8.4cm。SB015埋土出土。302は横長剝片を長方形状に成形し，側面片面の両側辺に粗く刃部調整を行なう。最大長6.4cm。検出面出土。303は分厚い断面三角の剝片に両面から剝離を施す。最大長5.6cm。SB110埋土出土。304は三角形の不整形剝片に片面のみ細かな剝離を施して刃部をつくる。最大長5.6cm。検出面出土。

（図番号－実測番号）

299-93003571 300-93003575 301-93003577 302-93003572 303-93003576 304-93003578

石　匙（Fig. 90）

305～308はサヌカイトを使用した石匙。305・306は薄い縦長剝片の基部を台形状につくり，長辺の片側から先端にかけて片面のみ刃部調整を行う。共に検出面採集で最大長は前者が6.4cm，後者が6.3cm。307は横長剝片の弧状舌状基部の付近と側辺片側に両面から刃部調整を行なっている。SB051埋土出土，最大長7.5cm。308は横長剝片の一方を尖らせ，折損と見られる一端を除いて全周囲を両面から刃部調整を施している。SB149埋土出土，最大長5.6cm。

（図番号－実測番号）　305-93003568 306-93003567 307-93003570 308-93003569

石　錐（Fig. 90）

309～315はサヌカイトを使用した石錐。311と314以外は先端を欠失している。313が棒状，他は剝片の基部を基本的に三角形に成形し，先端を細長く鋭利に剝離調整している。309は残存長3.3cm，検出面出土。310は残存長2.7cm，SB051床面出土。311は長さ4.1cm，SK082埋土出土。312は残存長3.3cm，SB018埋土出土。313は残存長4.7cm，検出面出土。314は長さ3.9cm，SB013埋土出土。315は残存長3.7cm，SK009埋土出土。

（図番号－実測番号）　309-93003573 310-93003566 311-93003583 312-93003565
313-93003574 314-93003582 315-93003584

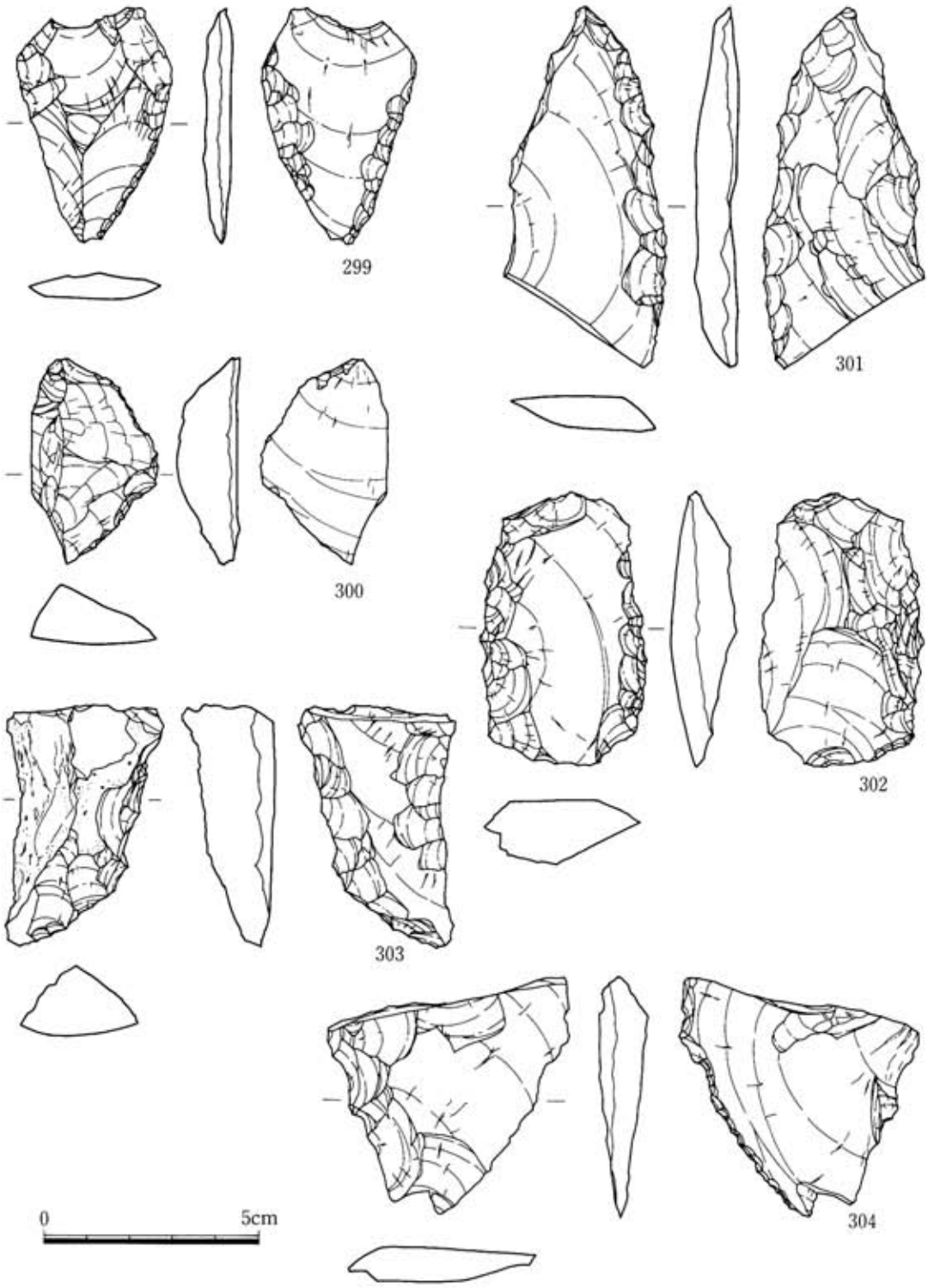


Fig. 89　石器〈削器〉(2/3)

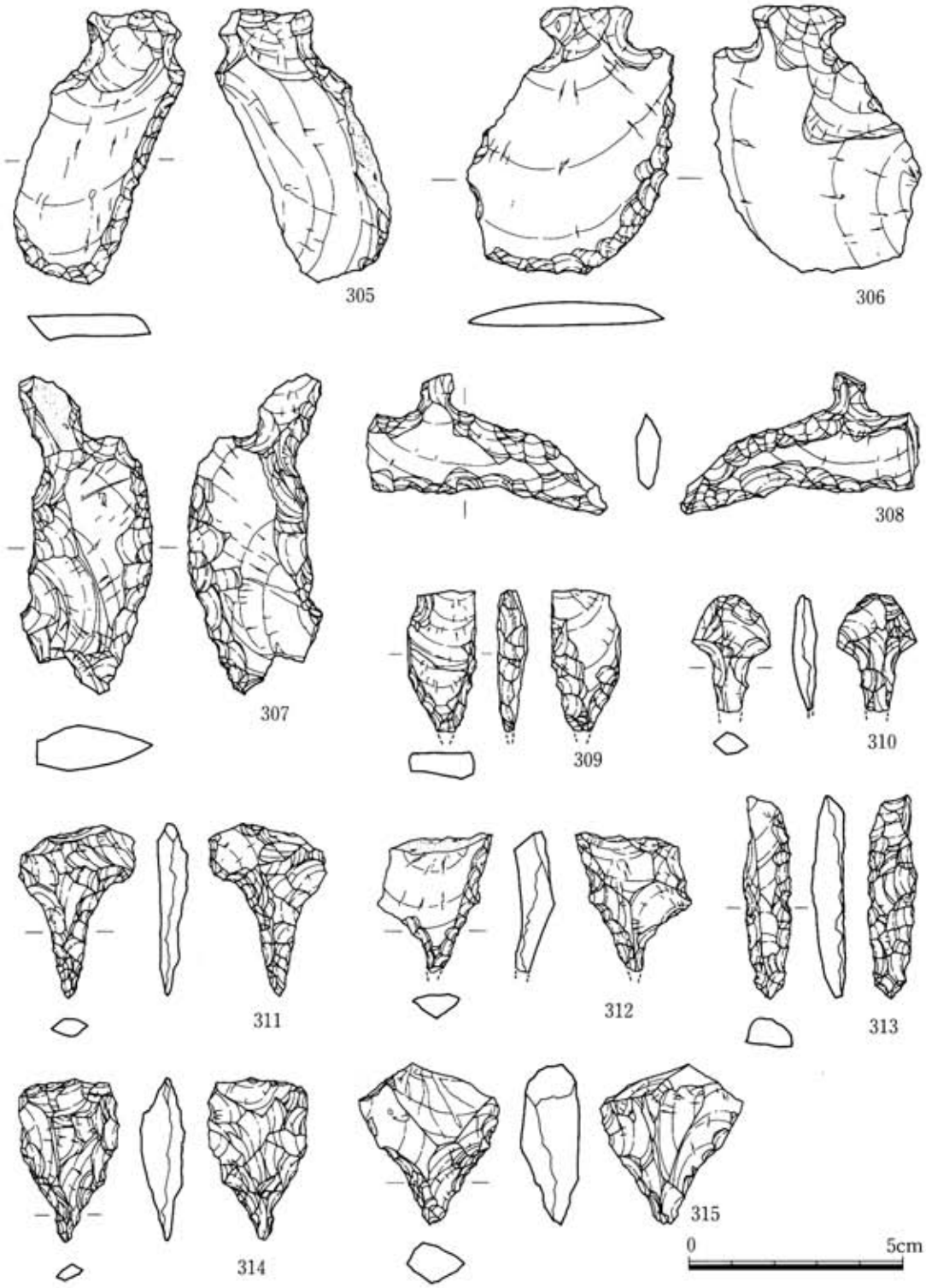


Fig. 90　石器〈石匙・石錐〉(2/3)

石　鏃（Fig. 90）

316～334はサヌカイトあるいは黒曜石を使用した打製石鏃。基部の特徴から基本的に，平基式316，基部の抉りが少ない317～323，抉りの大きい324～329，三角形で平基式にちかい小形鏃330・331，三角形で抉りの大きい332，平坦な基部に大きな抉りをもつ大形鏃333，舌状基部の334に分かれる。329は粗製の剝片鏃である。このうち，324・328のように抉りが深く縄文時代後・晩期の特徴をもつものや，334のように明らかな弥生時代の鏃はあるが，多くは時期を明分しがたいので，ここでは一括して図示しておく。

出土遺構別には，316はSB056，320はSK040，322はSB032，324・334はSB051，325はSK082，326はSK047，327はSK112，332はSK008，333はSK045，その他は検出面出土あるいは混入品である。

弥生時代の磨製石鏃335・336は薄い褐色の粘板岩製。共に平基式で，鋭い先端をもつ両刃を付けている。長さ4.0～4.1cm，前者はSB103埋土中出土，後者はSK163出土である。

（図番号－実測番号）

316-93003548 317-93003542 318-93003545 319-93003553 320-93003540 321-93003538
322-93003549 323-93003552 324-93003544 325-93003539 326-93003557 327-93003549
328-93003559 329-93003551 330-93003554 331-93003541 332-93003550 333-93003547
334-93003558 335-90003502 336-91002222

b　磨製石器

石包丁（Fig. 92）

337～342の6点を図示しておく。337は立岩産の輝緑凝灰岩でほぼ完形にちかい。SB052出土。全長13.8cm，幅4.2cm。338はSB101出土。暗灰色の凝灰岩系石材を使用する。339は薄いあずき色の凝灰岩製で，破損した石鏃の転用であろう。SB031出土，残存長13.8cm，最大幅3.8cm。340は片成岩製で，折損後の補修によるものか，紐孔が一方に寄る。SK082出土。341は検出面出土，342はSB116出土で，共に片成岩製の大形石包丁である。

（図番号－実測番号）

337-90003504 338-90003503 339-90003098 340-91003503 341-90002496 342-90003100

石剣・石戈（Fig. 92）

343は石剣の先と見られる。SK082埋土の比較的上面から出土。全体に風化と刃こぼれが進み，刃部の途中で折損している。黒灰色の火成岩を使用し，両面を研磨しているが，石材の目が粗く節理面が表れている。鎬を造り出そうとした意図は認められるが，明瞭でない。残存長10.1cm，幅5.9cm，厚さ1.6cm。

344はST004付近で遺構検出面から出土した。石戈の基部にあたり，先方約3分の2を欠失す

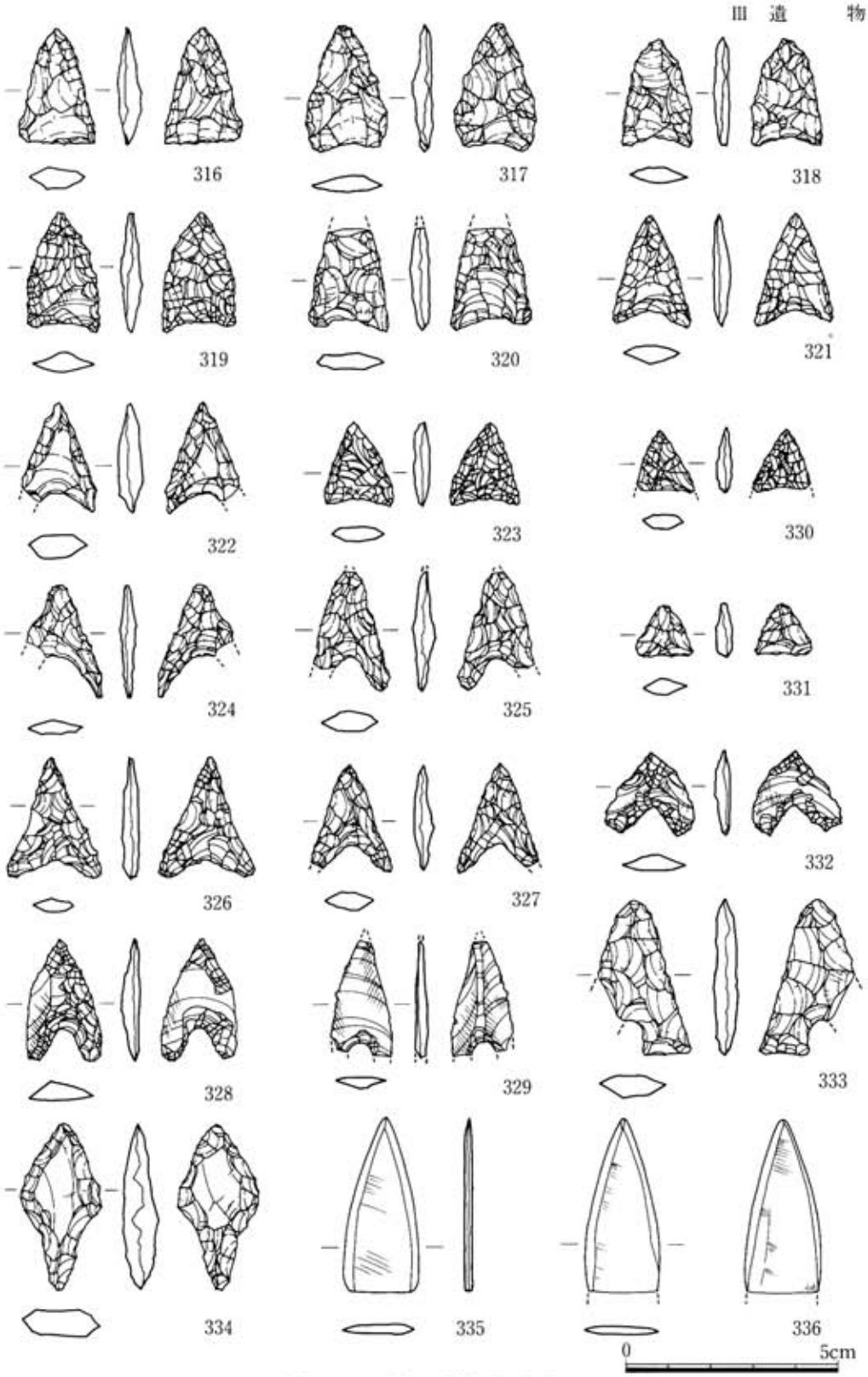


Fig. 91　石器〈石鏃〉（2／3）

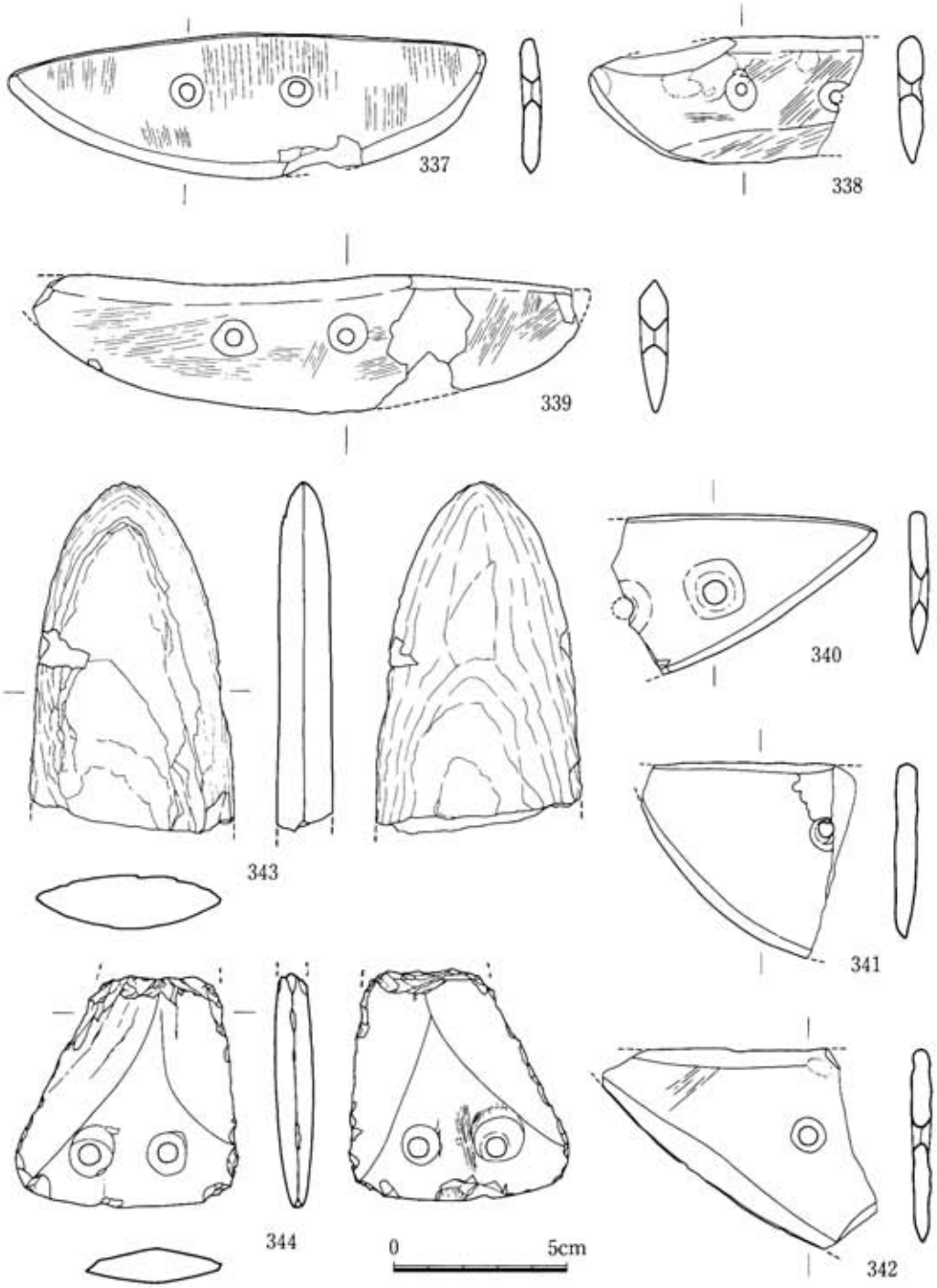


Fig. 92　石器〈石包丁・石剣・石戈〉(1/2)

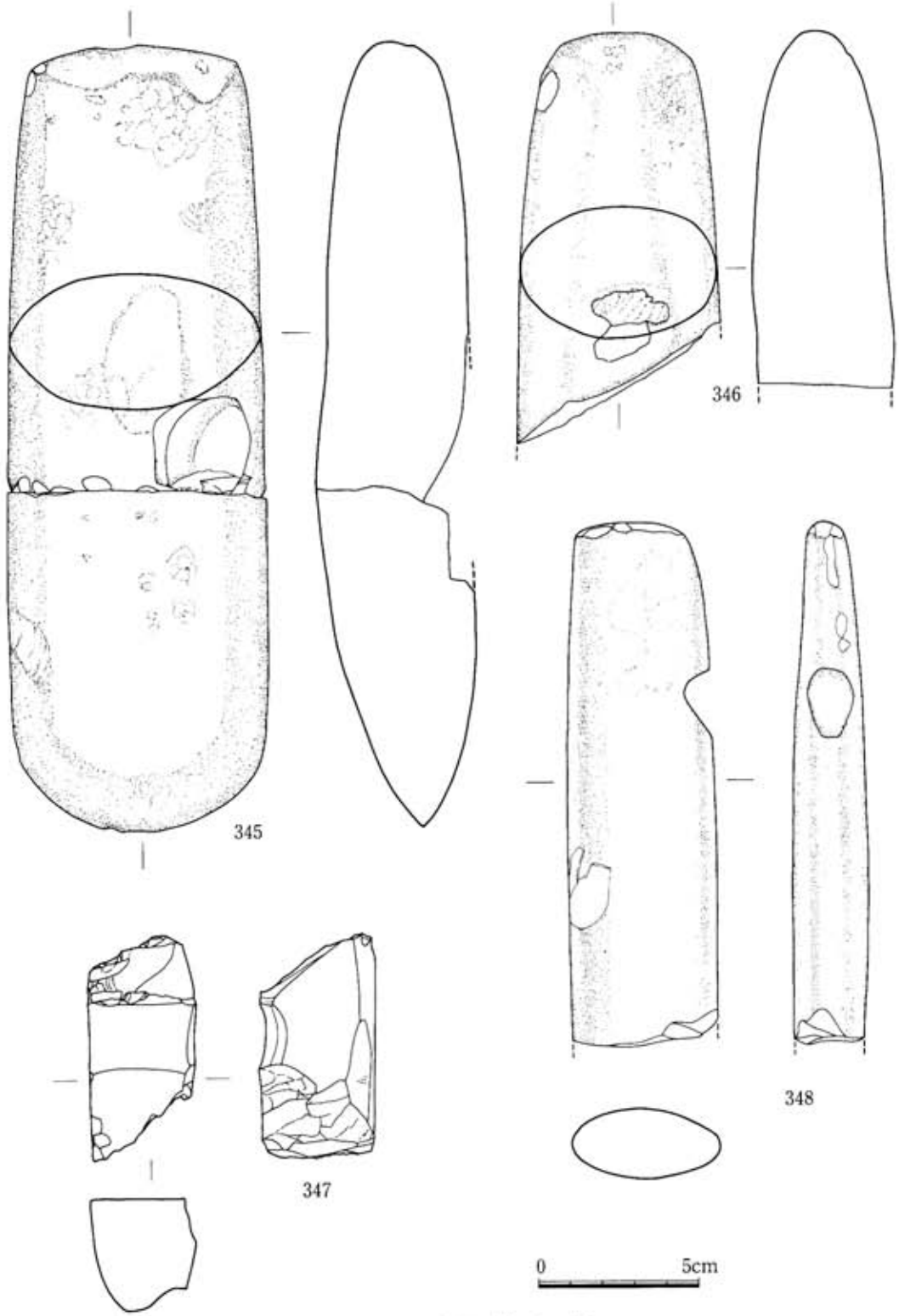


Fig. 93　石器〈磨製石斧〉(1/2)

る。身は両面を断面菱形に研磨して刃部をつくり，基部も両面を刃部状に磨り下す。紐通しの2孔及び基部の一方が突出する特徴から，比較的忠実に銅戈を忠実に真似ようとした意図が看取できる。石材は暗緑色の蛇紋岩を使用する。残存長は6.7cm，基部幅6.4cm。

（実測番号－実測番号）　343-97000925 344-91002113

石　斧（Fig. 93・94）

太形蛤刃石斧345・346は共に今山産の玄武岩を使用する。345は2つに折れているが，ほぼ完形にちかい。全周囲を丹念に研磨成形し横断面は紡錘形，刃部は鋭利に研がれており刃こぼれは殆ど認められない。全長24.4cm，刃部幅8.1cm，厚さ約5.0cm。SB051床面出土。346は刃部を欠失する。残存長12.8cm。SK082埋土出土。347は抉入片刃石斧で，中位の抉り部付近がわずかに残存する。石材は黒灰色の頁岩。横断面は方形で，幅3.4cm。SB023出土。348は断面が扁平にちかい石刀状で，先を折損するが一定の幅で細長く伸びる。基部に抉りをもつことから，柄を付ける石斧状の使用が想定されるが，正確な用途は不明である。石材は今山産玄武岩で，残存長16.2cm，幅4.6cm，最大厚2.15cm。表採。349は打製石斧で，剥離性のある火成岩の両側辺に両側から刃部調整を行ない，先端をヘラ状に薄く仕上げている。長さ17.0cm，最大幅4.6cm，厚さ1.3cm。SB066出土。

（図番号－実測番号）

345-91002209 346-91002220 347-91002218 348-97000924 349-87008407

砥　石（Fig. 94）

砂岩の置砥と提砥が出土した。時期不詳なものも含め3点を図示しておく。

置砥350は両面を使用し，薄く研ぎ減りして廃棄されている。元々の厚さは6cm程度と見られる。SK129出土。提砥351は残存長10.4cmで裏面は剥落している。SK129出土。352は3面に使用痕を残す残欠で出面出土。

（図番号－実測番号）　350-91002223 351-91002224 352-90002497

磨　石（Fig. 95）

時期不詳なものも含め4点を図示しておく。大形と小形の2種類がある。唯一完形品の357は両面が扁平にちかい石材を使用し，周囲はわずかに角張るがほぼ丸く整形されている。とくに決まった敲打面はなく，全周が使用されたと見られる。最大径9.8cm。検出面出土。他はいずれも破損品で，厚みのある石材を使用している。355はSK112，357はSK109，他は検出面からの出土である。いずれも火成岩を使用する。

（図番号－実測番号）

353-91002219 354-91002225 355-91002221 356-91002214 357-90002558 358-92000002

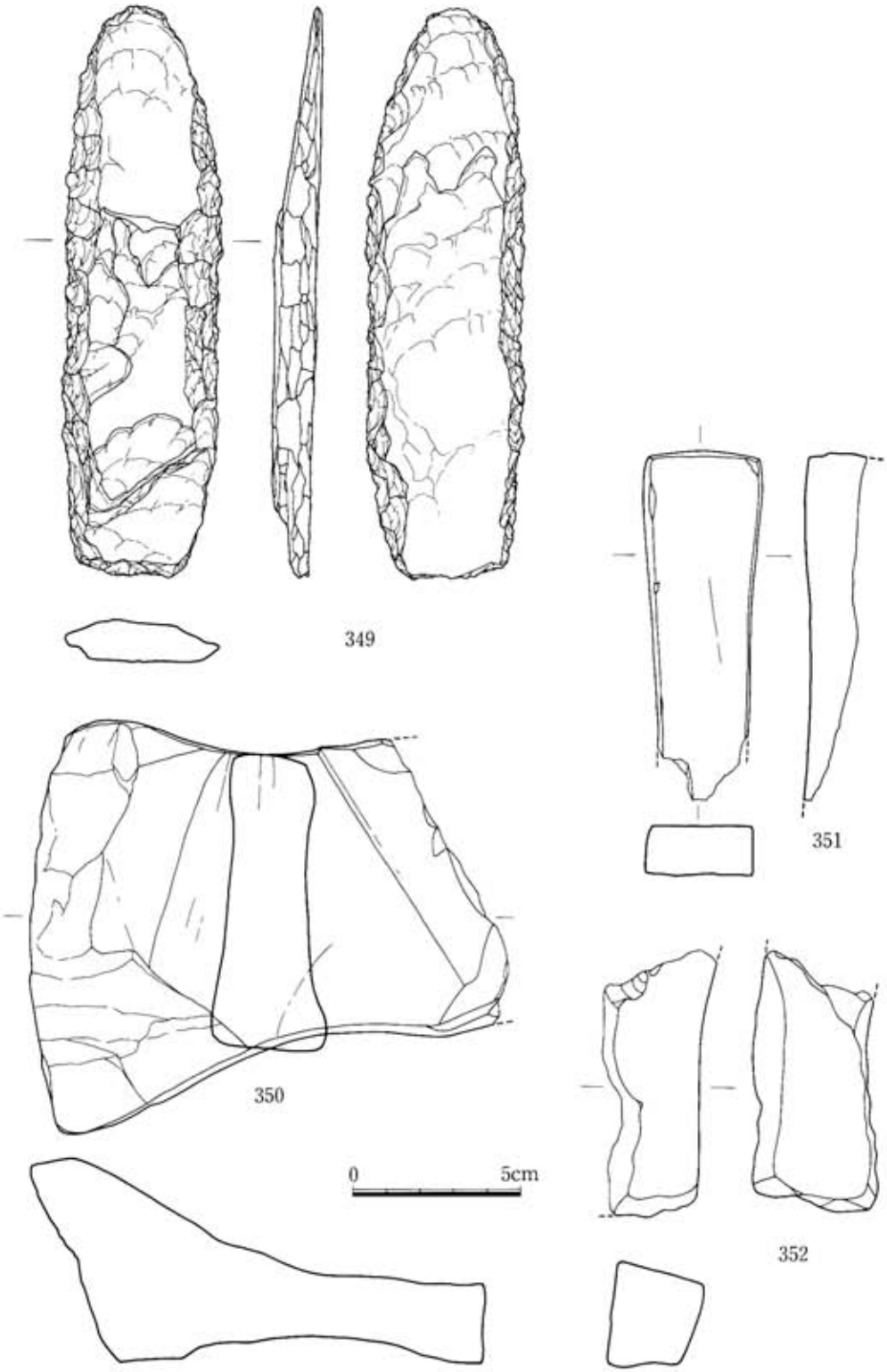


Fig. 94　石器〈打製石斧・砥石〉（1/2）

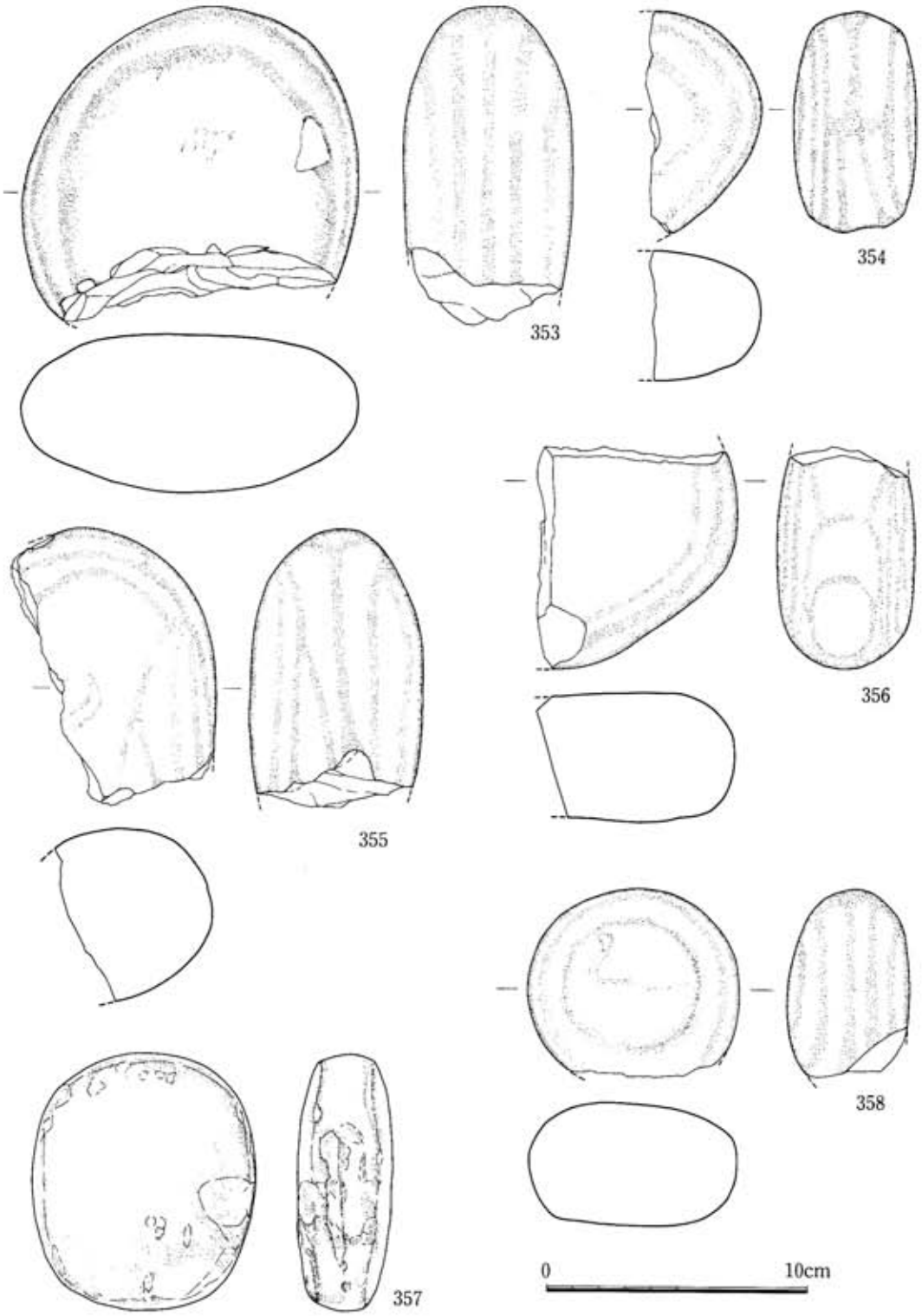


Fig. 95　石器〈磨石〉(2/5)

(6) 鉄　　器

わずかにSK112土壙埋土中から鉄器２点が出土した。

359は先を欠失した曲刃鎌で，基部上端を折り曲げて柄を付ける。両面にこれを包んでいた麻布と見られる目の粗い布が付着している。残存長10.9cm，刃幅2.5cm。360は断面形が中央の厚いレンズ状で剣先のように見えるが，銹化が著しく確証はない。やはり両面に麻布を巻いた跡が認められることから，359と同一固体かとも考えられるが，刃幅や錆の違いから別固体とじておく。残存長6.1cm，2.9cm。

（図番号－実測番号）　359-97000918 360-97000919

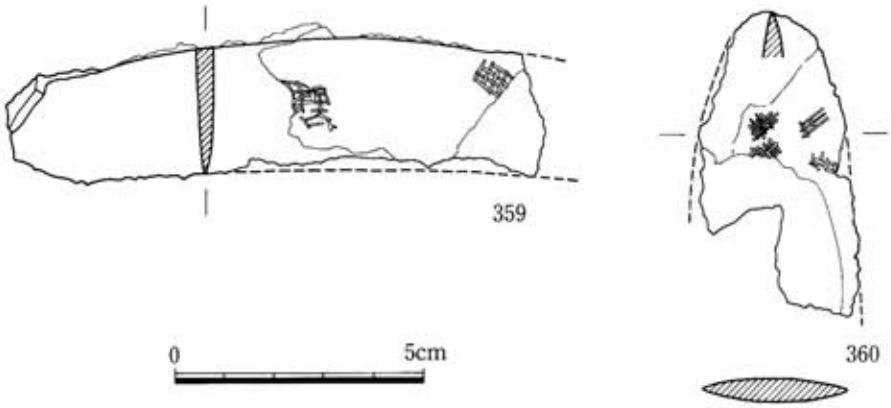


Fig. 96　鉄器（2/3）

3．古墳時代の遺物

＜概　要＞

a地区の古墳から若干の土師器・須恵器が出土，また，b地区を中心とする集落跡では竪穴住居跡や土壙から土師器が豊富に出土した。他に紡錘車と鉄器が数点ある。

古墳出土の土師器・須恵器は5世紀後半から6世紀前半に限られ，b地区に集落が形成される以前の様相を示すものである。竪穴住居跡及び土壙，溝からの出土土器は6世紀後半を中心とし，多量の土師器に須恵器が数点混じる。とくに須恵器の坏を模倣した土師器坏が多く，当時の須恵器に対する渇望と普及状況の程度を窺うことができる。特殊なものとして，やはり須恵器を模した土師器の角杯が1点出土した。また竪穴住居跡の多くから出土した手捏のミニチュア土器等は，住居内でこのような土器を用いた祭祀が普遍的に行なわれていたことを示す興味ある資料といえる。

(1)　土師器・須恵器

土師器・須恵器については，古墳と集落跡関係とに分ける。集落跡関係では竪穴住居跡，土壙及び溝の順に，ある程度まとまった量の出土を見た遺構を中心として，原則的に遺構番号に従って概略を説明する。

図示した各資料の詳細はTab. 3による。

ST002・003・004・005（Fig. 97）

出土点数は少なく，いずれも周溝からの出土であるため混入の可能性もあるが，築造時期の一端に関わるものとして個々に挙げておく。但し，ST005は周溝が検出されておらず，石室からも出土品はなかった。

ST002からは土師器丸底壺361で布留式の名残を留める。

ST003出土の須恵器坏362はたちあがりが短くやや内傾する。

ST004からは須恵器坏363～365が出土した。蓋364は大形化して天井部が丸く，口縁部がやや短く立つのに対し，蓋363・身365は5世紀後半に遡る古式須恵器の範疇に含められる特徴を示している。

ST005からは須恵器の甕366・367，把手付碗369，坏370～373，土師器の高坏374・375が出土した。須恵器坏及び甕の特徴は築造時期がST004とほぼ同時期であることを示す。369は丸底気味の浅い底体部から短く薄い口縁部が立ち上がり，渦文を飾った把手が付く。初期須恵器に見られる把手付碗で，県内では他に礫石B遺跡南方古墳，千塔山遺跡などからも出土しているが，

例は少ない。土師器高坏は口縁部が体部からそのまま内湾して立ち上がり低く開いた脚部をもっており，共伴した須恵器よりは新しい追葬の時期を示すものであろう。

これらの遺物の時期は5世紀後半から6世紀前半を中心とするものとしてよいであろう。

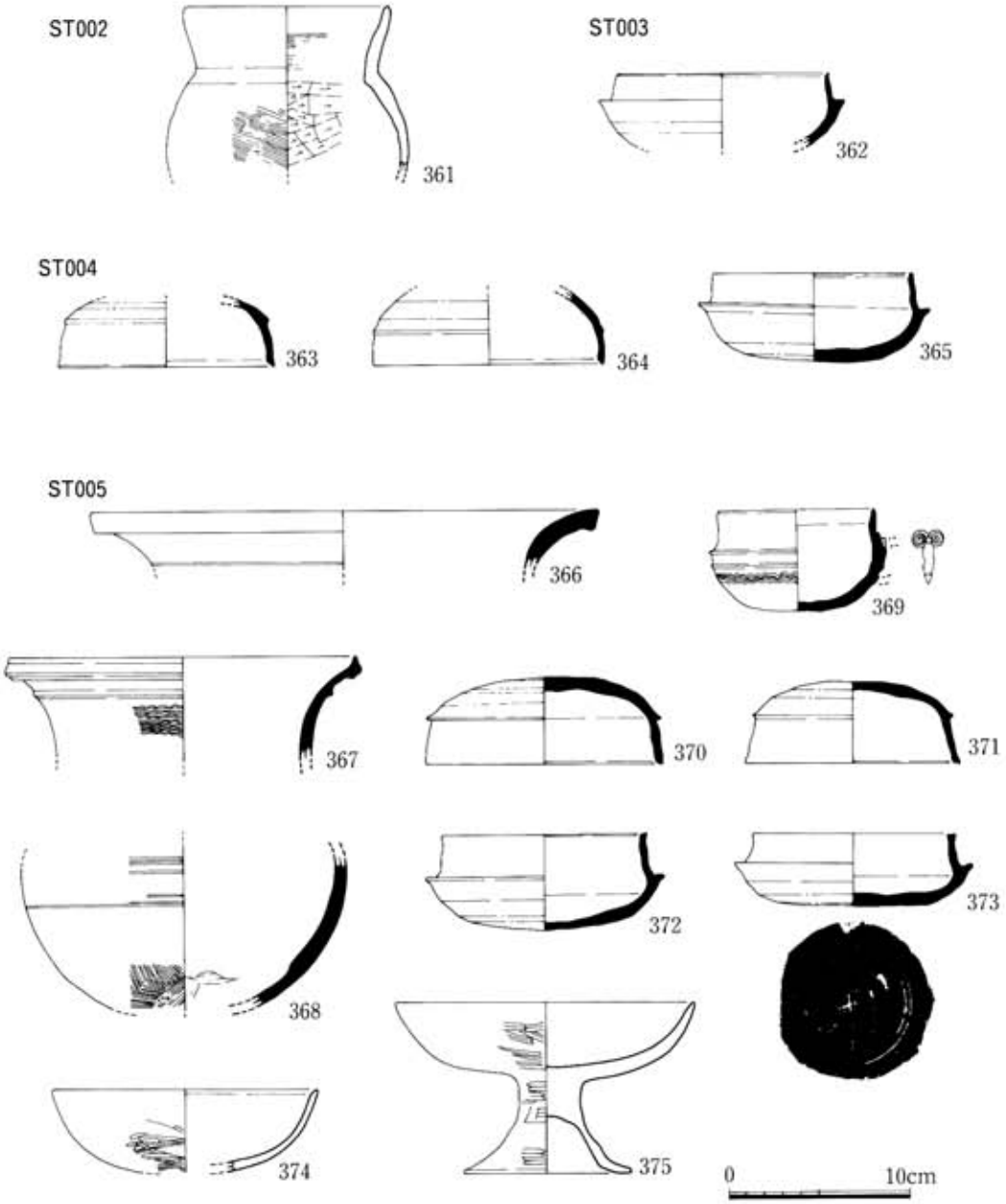


Fig. 97　古墳出土土師器・須恵器（1/4）

SB018（Fig. 98・99）

土師器の甕・壷・甑・坏，及び手捏土器が出土した。甕は口縁部が体部から明瞭に屈曲するものとしないものとがあり，底部は376のようにわずかに平底風のものも見られる。壷383は小形丸底で頸部が直に立ってから口縁部が外反する特徴をもつ。甑384は口縁部直行。385・386は壷を模した手捏品である。

坏は，須恵器を模したものが多く出土した。蓋と身は分けがたい点もあるが，口縁部が直に下るかやや外に開くものを蓋として区別する。身に比べて全体に口径が大きい。蓋は天井部外面ヘラケズリ，口縁部から内面にヘラミガキ。身は底体部外面ヘラケズリ，たちあがりから内面にヘラミガキを施す。共に黒色磨研が多い。なお，これらの須恵器を模した土師器坏については，他の竪穴住居跡等の場合も同様に，次のように形式を分類して説明することにする。

坏蓋A…口縁部は直立気味に比較的長く，稜が明瞭で天井部が低い。

B…口縁部は比較的短く，直に立つａと外に開くｂがある。稜は明瞭で天井部が丸く高いものが多い。口径が14cmを越える大形品Ⅰ類と12cm前後の小形品Ⅱ類とがある。

C…口縁部は短く外に開く。稜は比較的明瞭で，天井部が丸く高いものが多い。口径が14cmを越える大形品Ⅰ類と12cm前後の小形品Ⅱ類とがある。

D…稜をほぼ消失し，口縁部が天井部と一体化する。

坏身A…たちあがりは直立気味に比較的長く，受部が明瞭で底体部が低い。

B…たちあがりは比較的短く，直に立つａとやや内傾するｂがある。受部は明瞭で底体部が丸味をもつ。口径13cmを越える大形品Ⅰ類と11cm前後の小形品Ⅱ類とがある。

C…たちあがりは短く内傾し，受部は比較的明瞭で，底体部が丸味をもつ。口径13cmを越える大形品Ⅰ類と11cm前後の小形品Ⅱ類とがある。

D…受部をほぼ消失し，口縁部が底体部と一体化する。口径が13cmを超える大形品Ⅰ類と11cm前後の小形品Ⅱ類とがある。

そのような分類に従うと，蓋は，387・388が蓋A。389～394は蓋Aa，395～398は蓋Abで共にⅠ類とⅡ類とがある。399も蓋Abに類するが，大形で天井部がとくに高い。401・402は蓋Cで，大形のⅠ類に属す。なお，400は身の可能性もあるが，口径の大きさ等から蓋Baに類する蓋としておく。一方，身は，404が身A，405～407は身BaのⅡ類，408～410は身BbのⅡ類，411～415が身DでⅠ類とⅡ類とがある。

SB019（Fig. 100）

土師器の甕・壷・甑・坏・碗，及び手捏土器に混じって須恵器坏が出土した。甕は口縁部が体部から明瞭に屈曲するものとしないものとがあり，442では頸部が壷といってもよいほどつよく締まる。小形甕423・424は丸底で布留式系統の古い形式を追うものであろう。小形壷425～427も同様に古式土師器の系譜に連なる。坏には須恵器の蓋428が見られる。返りは退化しているが

口縁部は高く口唇部にシャープさを残す6世紀初の特徴を示しており，他の土師器坏の時期を示唆するものである。土師器坏は蓋と身が数点出土した。蓋には蓋A（428），蓋Bb（429），身には身Bb（430）・身C（431）・身D（433）がある。432は身Baに含められるが，とくに薄くヘラケズリされている。434は広口の碗。436～438は手捏土器。

SB021（Fig. 101）

土師器の甕・壷・坏・碗・高坏が出土した。甕439は口縁部が短く外反しながら立つ。壷440は口縁部を欠くが丸底で須恵器の𤭯に類す。441・442は坏の蓋Baタイプ。碗には大形と小形とがある。高坏445は脚部裾が短く開く。

SB032（Fig. 101）

土師器の甑・甕・坏・碗，及び須恵器坏が出土した。土師器では，甑446は体部がわずかに内湾しながら直線的に立ち上がる。甕は小形で口縁部が緩く屈曲する447と短く外反しながら立つ448とがある。坏蓋449・450は蓋Baで，450はとくに小形である。坏身は453が身Ba，451が身Ba，452が身Cに含められる。須恵器の坏身455は口径が大きく立ち上がりがつよく内傾する6世紀前半の形態をもつ。

SB063（Fig. 102・103）

土師器の甑・甕・坏・碗が出土した。甑456・457は体部が湾曲しながら立ち上がり，口縁部が緩く外反する。把手は鍵形に長いタイプと短いタイプとがある。甕は大，中，小があり，大形では458が広口短胴，464が頸部がつよく締まって直立し不安定な平底，465は口縁部がつよく締まって長胴丸底と違いがある。中形，小形では丸底で口縁部が緩く屈曲して外反が，462は広口直口の短胴。坏蓋466～472には蓋Baと蓋Bb，坏身473～476には身Ba・身Bb・身Cがある。碗には丸底で深い477と浅い478とがある。

SB075（Fig. 104・105）

土師器の甑・甕・壷・坏ほか，及び須恵器の𤭯・坏が出土した。土師器のうち甑488は体高が比較的低く，口縁部は直口にちかく，曲がりの少ない把手が付く。甕は大形の479は口縁部がつよく締まり，481は短く直口気味に立つ。中形482・483は口縁部が体部から緩く外反し，小形484・485は球胴で口縁部は内面に稜をなして開く。壷は小形丸底である。坏は点数が多い。490・491は格別大形で，セットになる可能性がつよい。蓋は492～496が蓋C，497～499が蓋Ba，身500～511には503のように蓋Baに含められるものもあるが，主体を占めるのは蓋Cである。須恵器は𤭯489と坏513～515がある。516・517は鏡を模した土師器の祭祀器である。

SB078（Fig. 106）

土師器の甑・甕・碗・鉢・高坏・坏等が出土した。甕は中形・小形があるが，それぞれ口縁部の変化が大きい。碗524は体部が丸く深い。高坏526は坏部が深く口縁部が稜をなして立ち上がり脚部は裾が短く開く。坏蓋は，527が口径の大きさから蓋と見られ蓋A，他528～530はBa，

531は蓋Dである。532は身Bb，533は身Ba，534は身Dでとくに口径が小さい。535・536は土師器のミニチュア容器。

SB090（Fig. 107）

土師器の甑・甕・壷・碗・坏ほかが出土した。甑537・538は比較的小形で直口にちかく，鍵形の長い把手をもつ。543の尖り気味の鉢形容器の底部に焼成前穿孔を施している。甕540は球状体部に屈曲して短く外反する口縁部が付く。壷は口の広い小形丸底壷である。坏蓋は蓋544～547は蓋Ba，546は口縁部が内傾気味であるが口径の大きさから蓋としておく。坏身548・549は蓋Ba及び蓋Bbである。祭祀土器は比較的多く，容器形551～559，勾玉形560，鏡形561・562が出土した。

SB103（Fig. 108）

土師器の甑・甕・壷・鉢・碗・高坏・坏ほか，及び須恵器の坏が出土した。土師器では，甑569・570は口縁部がわずかに外反し，鍵型に長い把手が付く。甕563はやや縦長の球状体部から口縁部が折れて外反する。壷567は小形丸底壷，564は大形鉢。高坏568は高い脚に須恵器を模した坏が載る。同形のものがSB031からも出土している。土師器の坏蓋574～578は蓋Baで大小があり，578はとくに大形，坏身は578が身Aaである。ミニチュア容器566が混じる。須恵器の坏蓋571～573は口縁部が高くシャープさを失っていないが，返りを消失しかけている。

SB106（Fig. 109）

土師器の甑・甕・高坏・坏ほか，及び須恵器の鉢・坏が出土した。土師器は，甑587は口縁部が緩く外反。甕は580がやや下膨らみ体部から口縁部が折れて外反気味に開き，他の中型，小形甕も基本的に同様な口縁部の特徴をもつ。589はミニチュアの祭祀土器としてよいであろう。土師器の坏蓋は基本的に蓋Baであるが，592は口径が大きく返りを消失しかけている。595は身Bb。須恵器では，鉢590は口縁部が二段に折れて大きく開く。591と同一固体であろう。596は大形の坏身である。

SB116（Fig. 110）

土師器の甕・壷・高坏・鉢・坏が出土した。甕597・599～602は大形，小形に分かれるがいずれも体部は球状に張り，口縁部が屈曲して外反しながらが開く特徴をもつ。壷は丸底で口頸部が直行し，598は大形である。高坏604は坏体部が湾曲しながら開き脚部裾が外に反ねる。鉢は丸底605と深めで不安定な平底の606とがある。坏蓋は607・608が蓋A，609～612は蓋Baで，612はとくに大形。身は613～615が身Ba，616は数少ない身Cである。また，617・618は須恵器坏の形態を離れている。

SB119（Fig. 112）

土師器の甕・碗，及び須恵器の坏が出土した。土師器では，623は碗としておくが，須恵器坏に似た口縁部の特徴をもち，底部あるいは天井部のケズリが不十分なものとも言える。土師

器坏蓋は619が蓋Ba，620・621が蓋C，坏身は身Cである。須恵器坏では，蓋625・626が未だ口縁部は高いが返りを消失している。身627は体部が浅く，たちあがりが短く立つ。

SB124（Fig. 111）

土師器の甕・甑・高坏・碗，及び須恵器の坏が出土した。土師器では，甕628は口縁部がほぼ直行し，中位に曲がりの少ない把手をもつ。高坏633は口縁部が体部から続いて大きく外反し，脚部を欠く。坏では634が蓋Bb，坏635は須恵器の形態を離れている。636は須恵器坏身である。

SK026（Fig. 112）

土師器の甑・壺・甕・坏が出土した。甑637は完全な球状で，口縁部は明瞭に屈曲せず緩く外反しながら立ち，638は口縁部が大きく開く。壺640は口縁部が下膨れ気味の胴部から屈曲して外反しながら伸びる。甕639は深鉢状の器形をもち，底部は焼成前に穴を穿けている。坏蓋は641・642は口径の大小はあるが，口縁部が比較的高く立つAタイプ。643は口縁部が内湾して浅い，薄手の碗である。

SK077（Fig. 112）

土師器の高坏・坏が出土した。坏蓋644～650は蓋Ba及び蓋Bb，坏身651・652は身Cである。高坏653は坏部が緩く湾曲しながら比較的深く立ち上がる。

SD126（Fig. 113・114）

土師器の甕・甑・壺・鉢・坏ほかが出土した。甕654は口縁部が緩く大きく外反し，中位に上向する長い把手をもつ。甑655・657～661には大形，小形の別があり，いずれも丸底で，口縁部は体部から屈曲するものと不明瞭に折れて開くものとがある。662は丸底壺で，口頸部が長く伸びる。坏では，蓋663～672が基本的に蓋Baまたは蓋BbA，身673～675が基本的にBaである。676は直口縁の坏である。677は，全体の器形は不明ながら，円頭の土板で両面に櫛描き文様をもつ。用途は不明であるが，共伴遺物として挙げておく。

SD125（Fig. 114）

土師器甑678のみ図示しておく。長胴丸底で口縁部が締まる。

SK077（Fig. 114）

祭祀土器が出土した。ミニチュアの容器形679及び勾玉形680である。

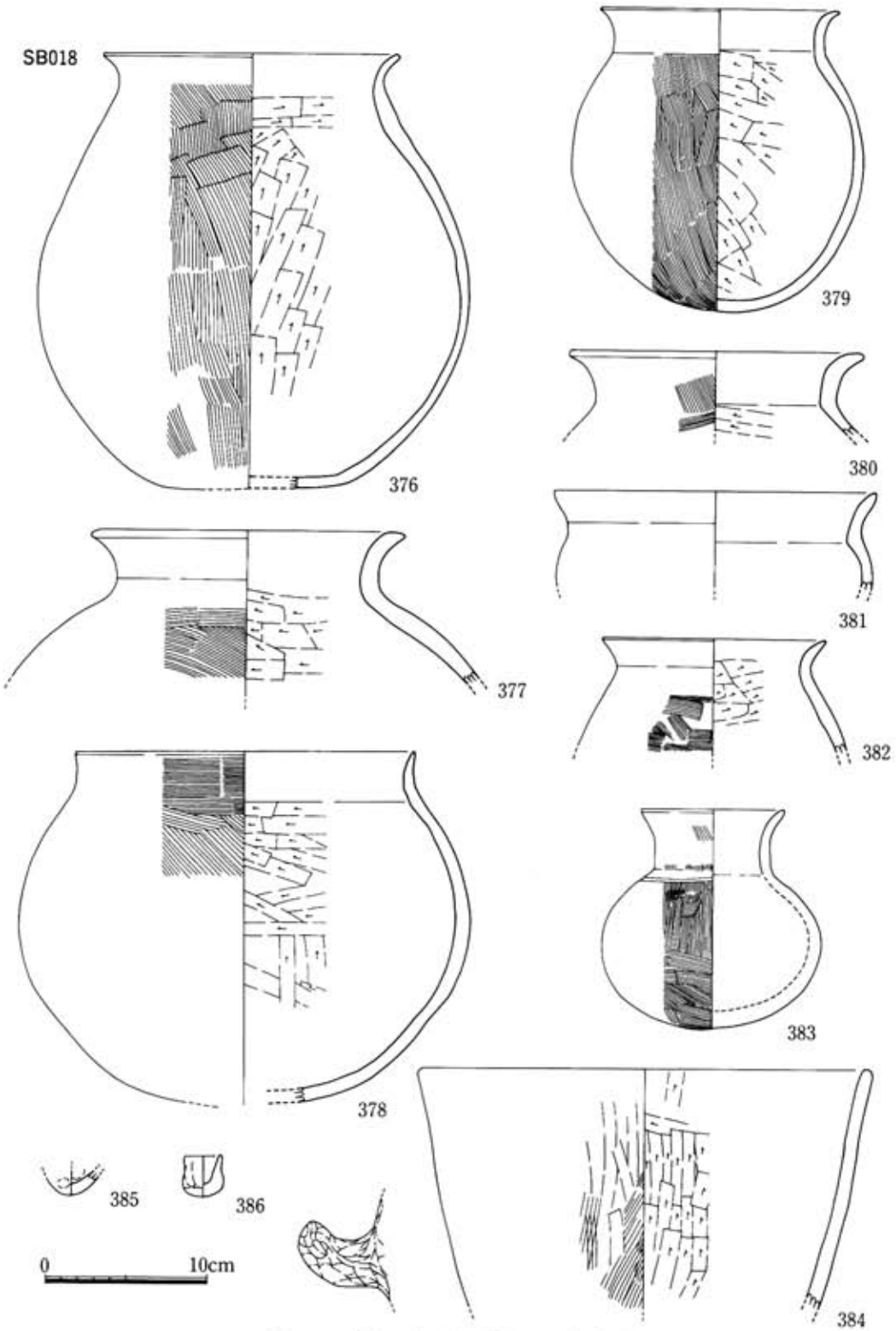


Fig. 98　SB018出土土師器〈1〉(1/4)

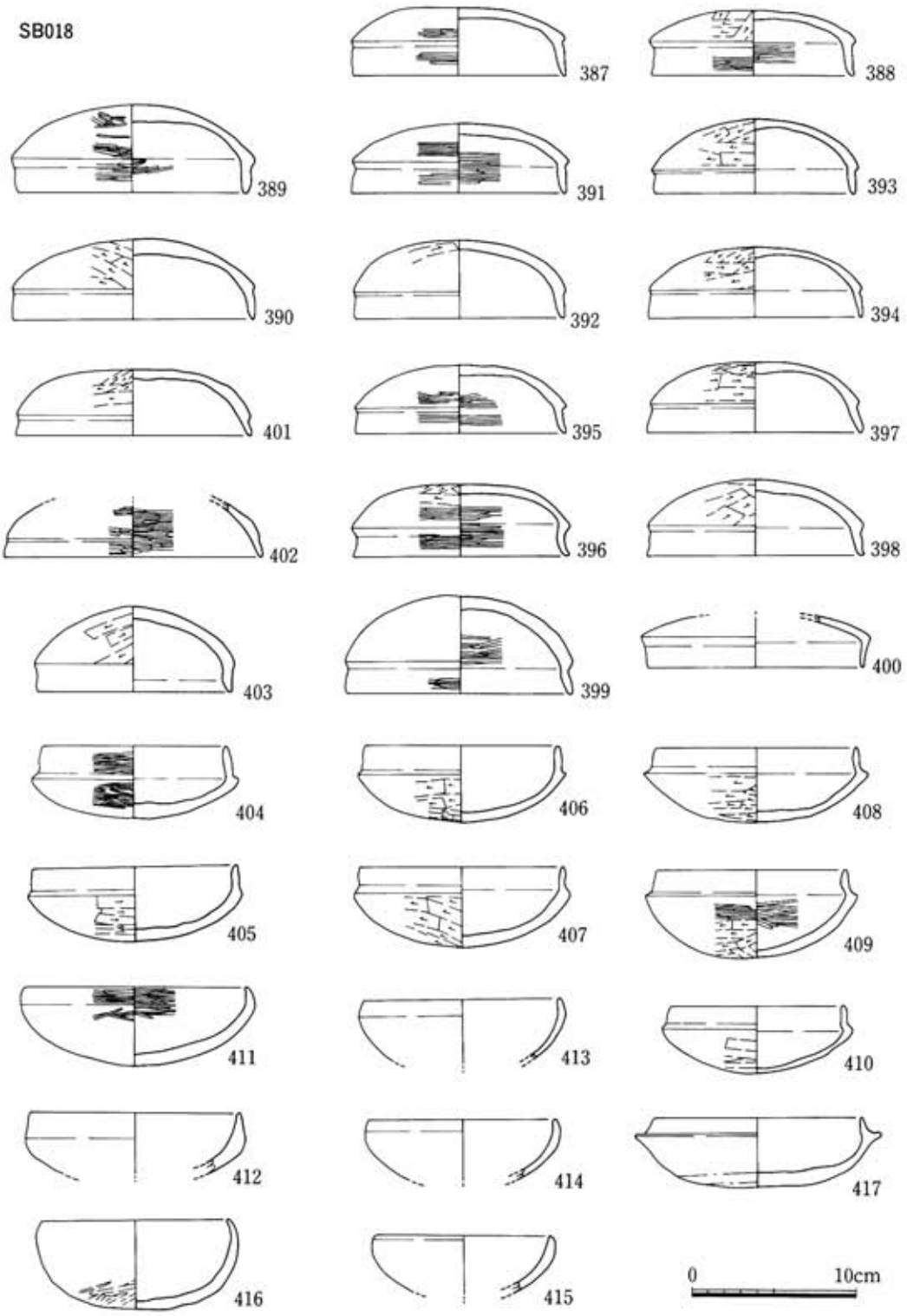


Fig. 99　SB018出土土師器〈2〉(1/4)

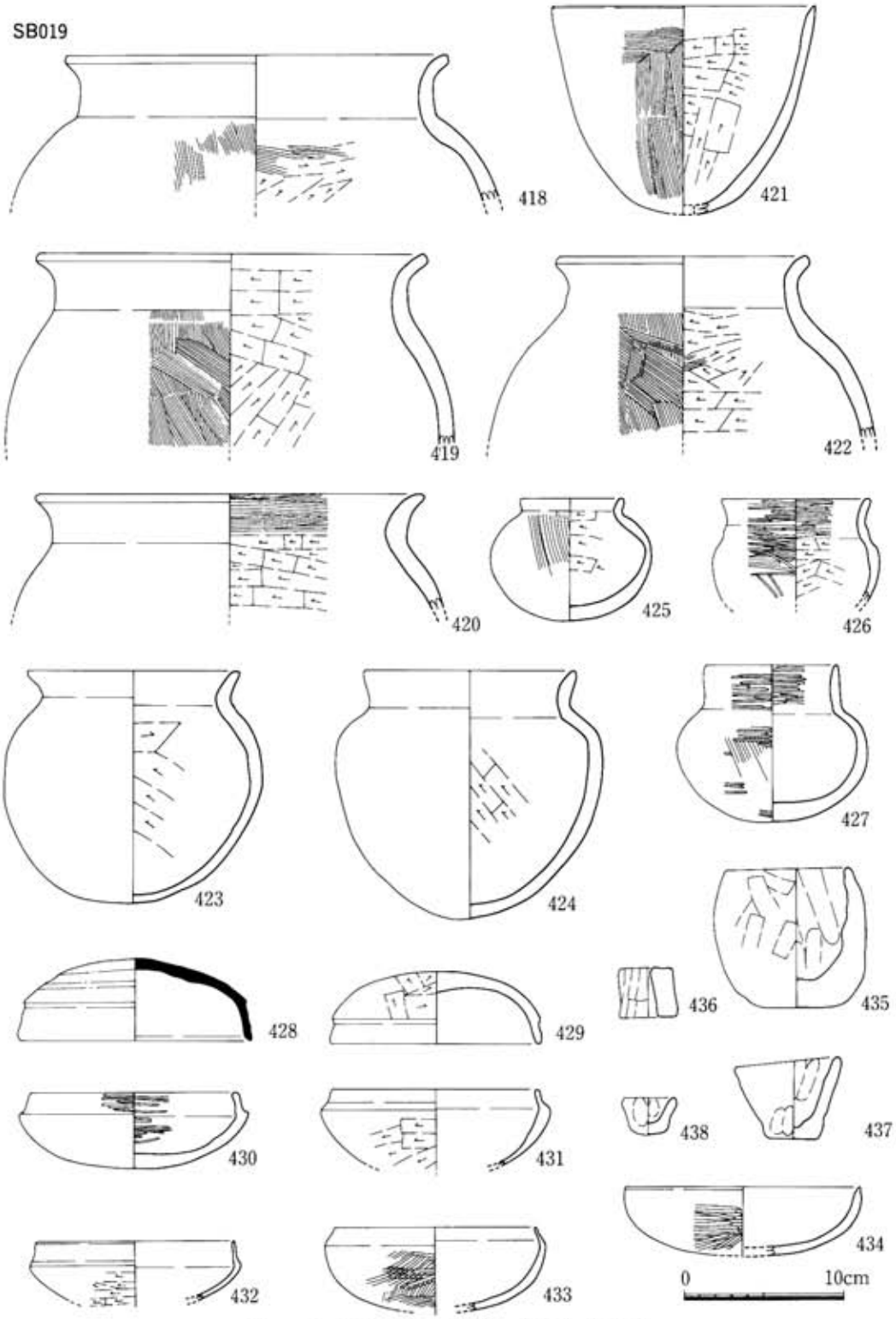


Fig. 100　SB019出土土師器・須恵器（1/4）

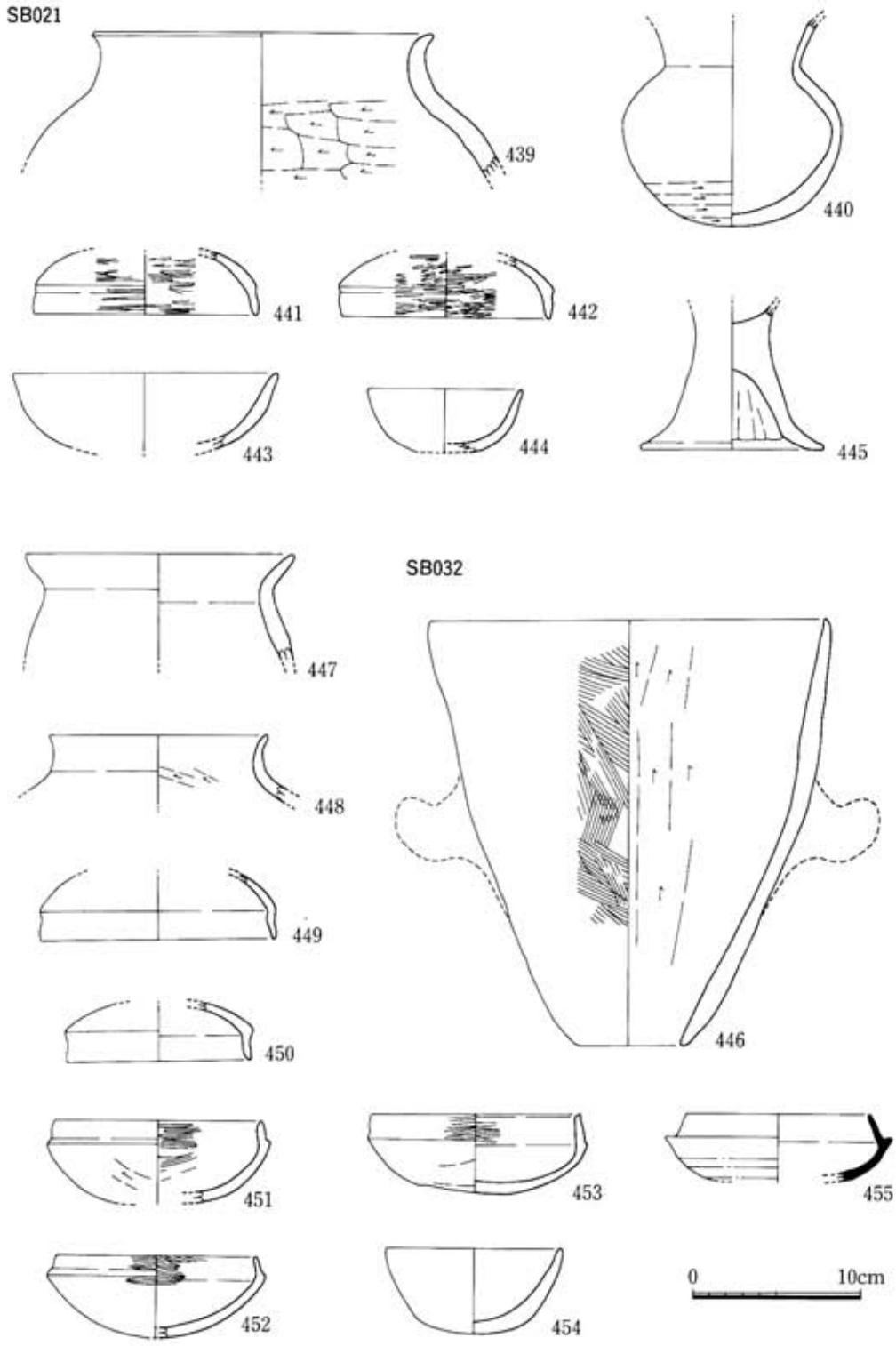


Fig. 101　SB021・SB032出土土師器・須恵器（1/4）

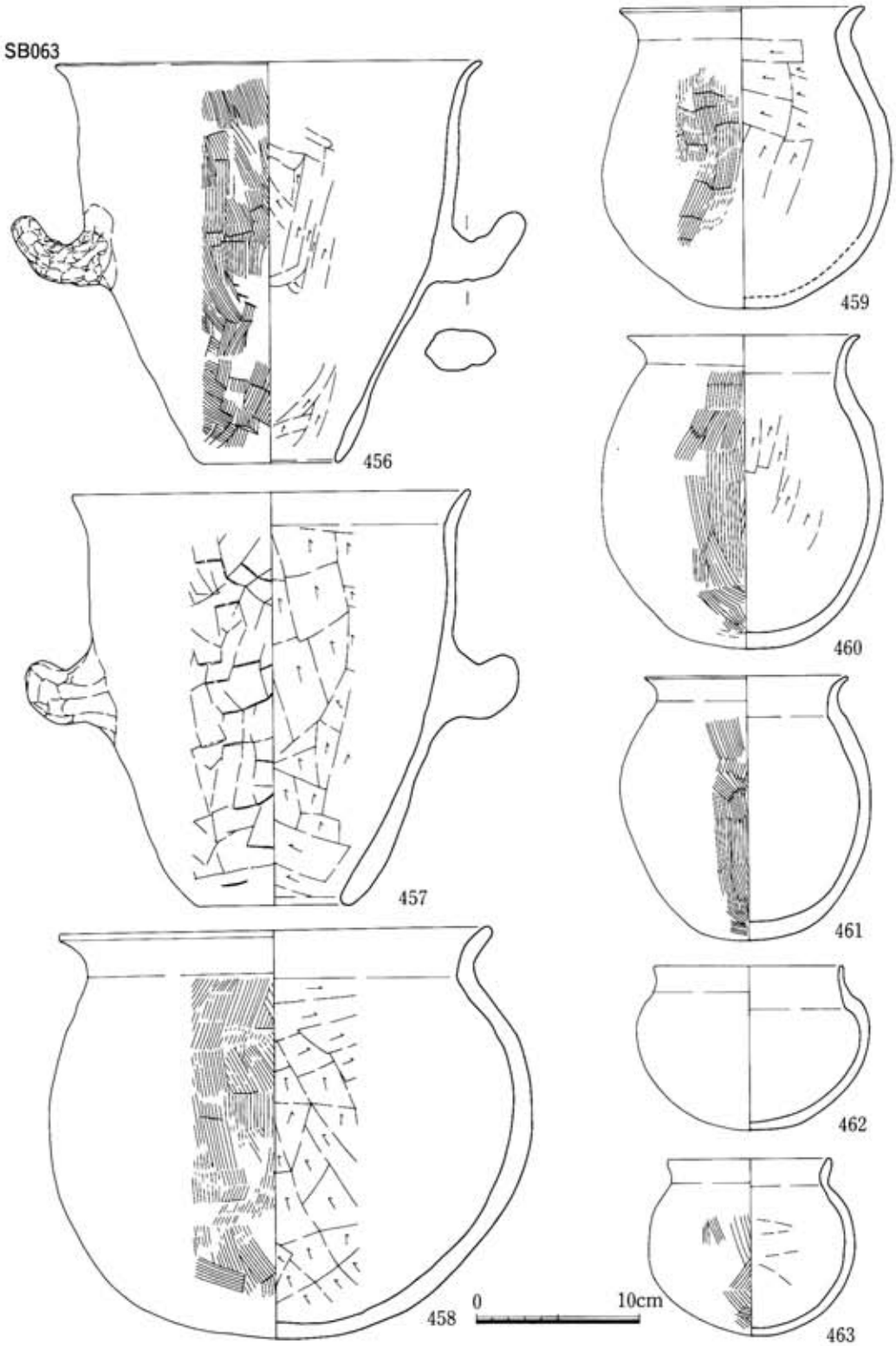


Fig. 102　SB063出土土師器〈1〉(1/4)

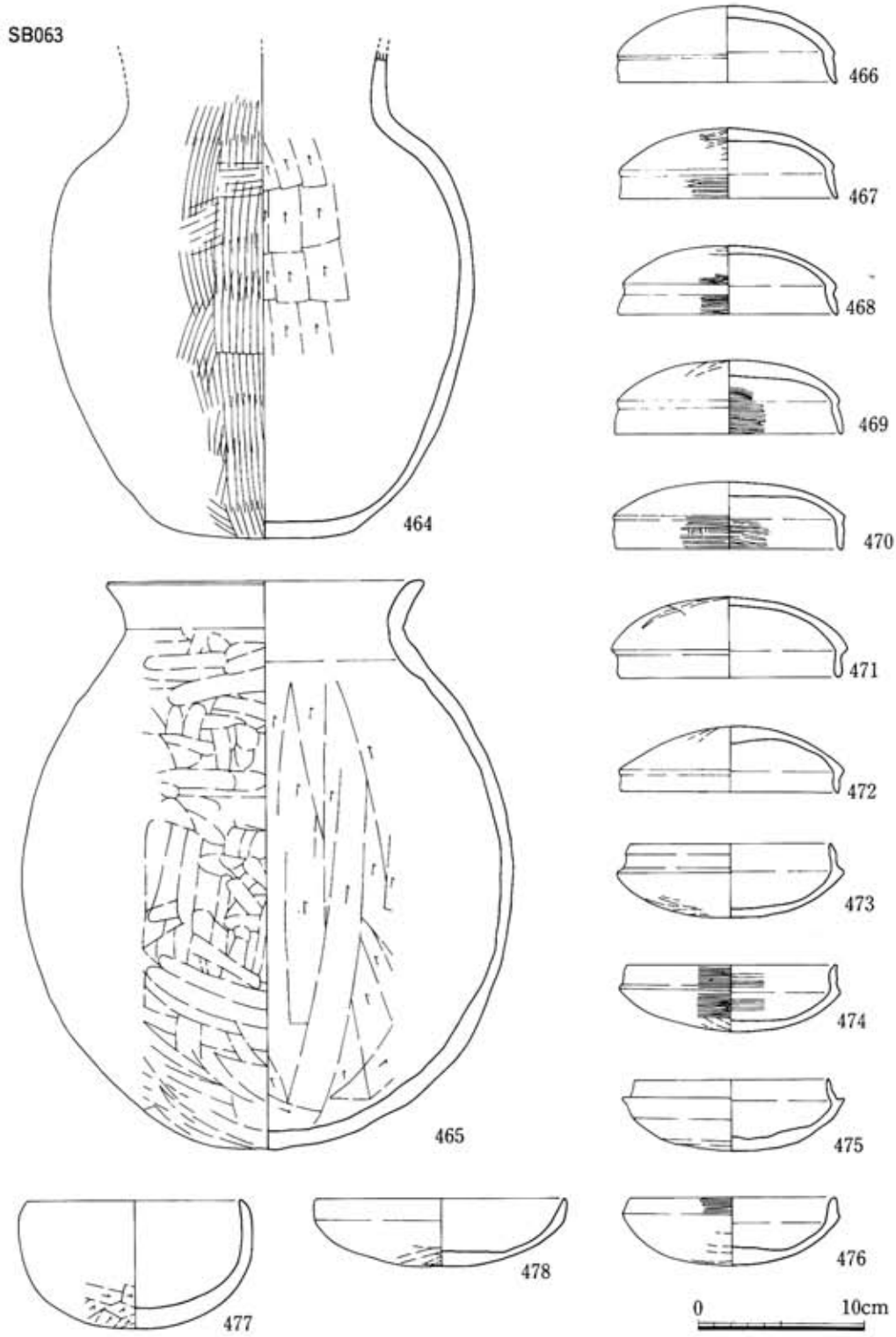


Fig. 103　SB063出土土師器〈2〉(1/4)

SB075

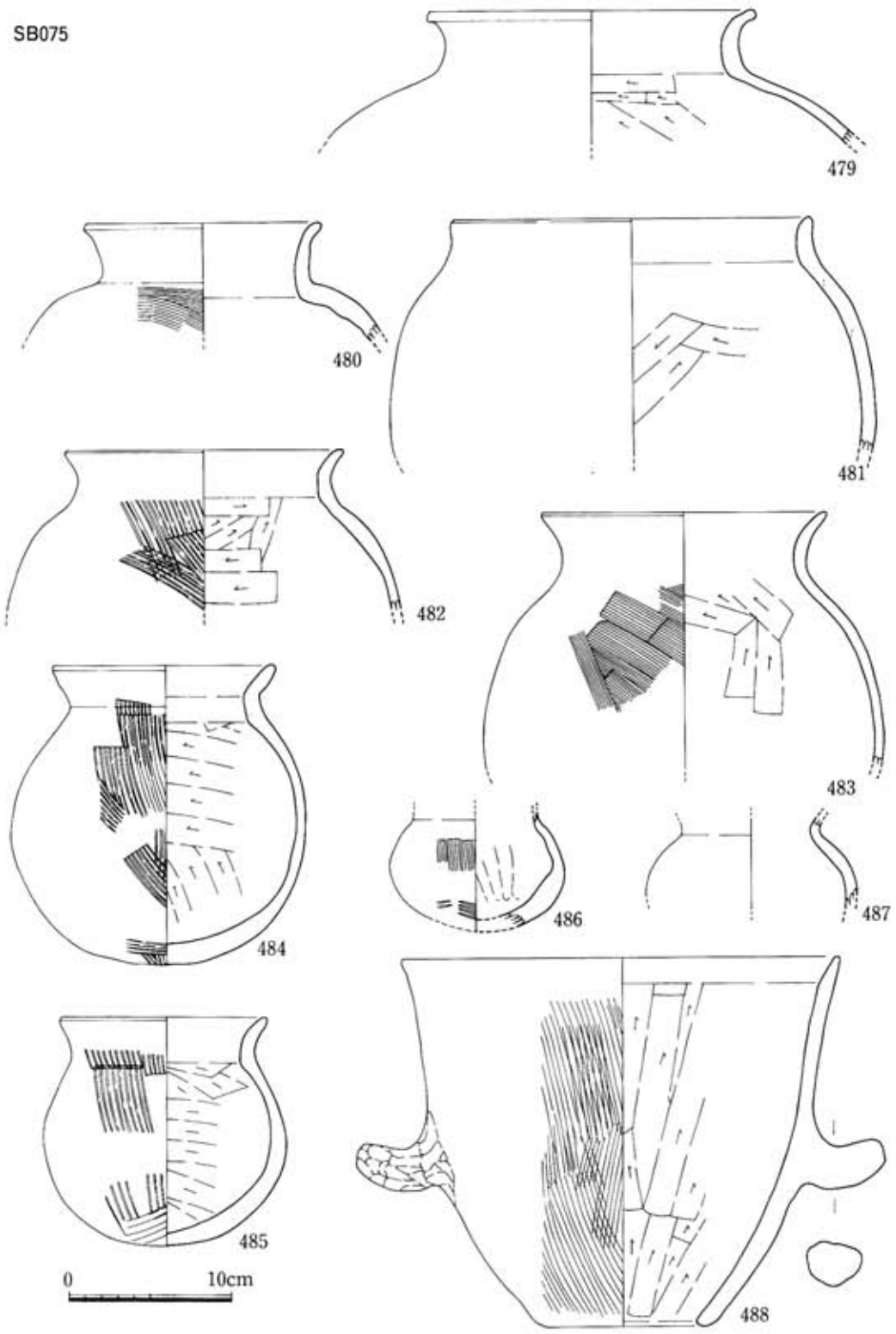


Fig. 104　SB075出土土師器・須恵器〈1〉(1/4)

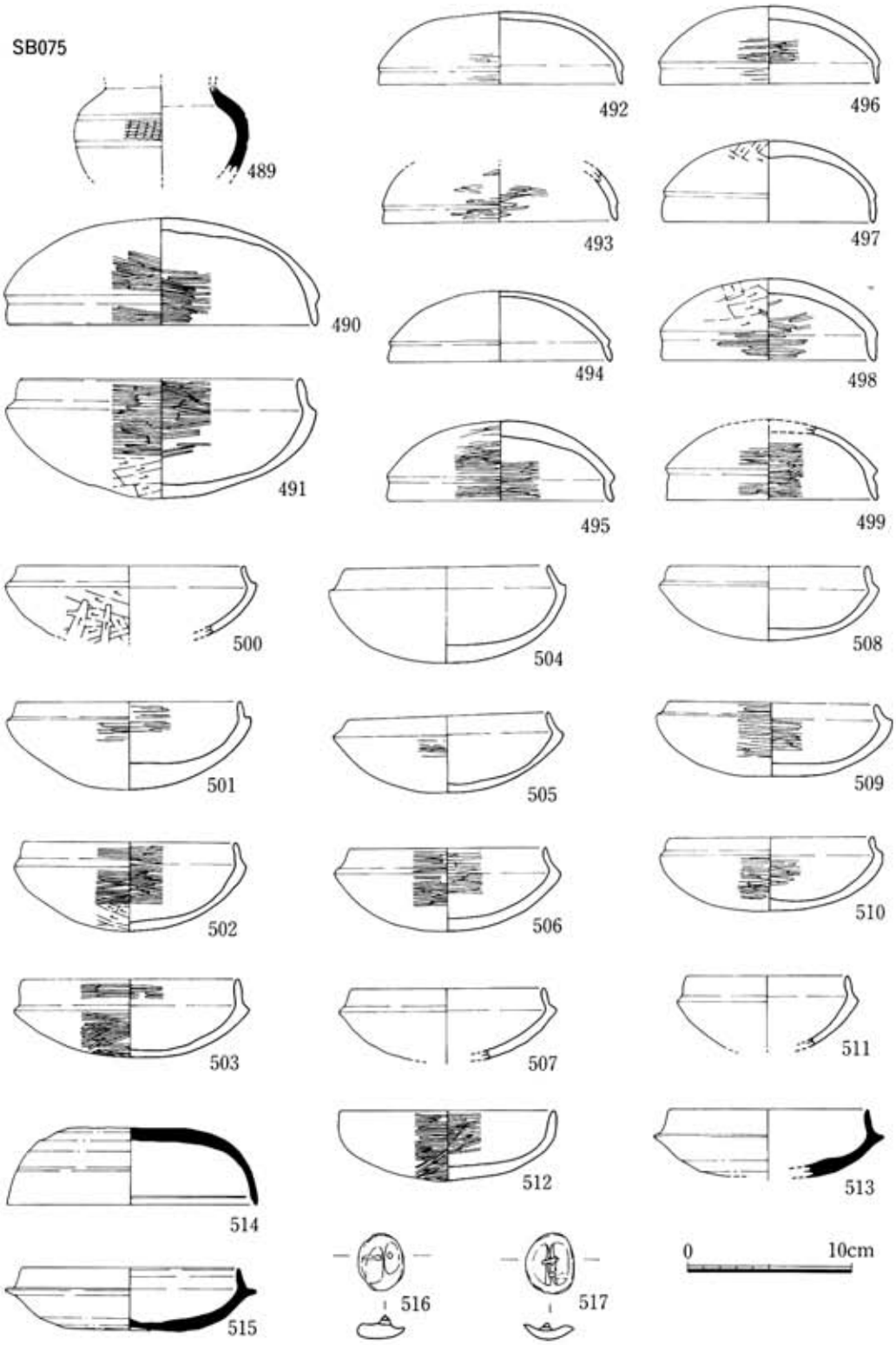


Fig. 105　SB075出土土師器・須恵器〈2〉(1/4)

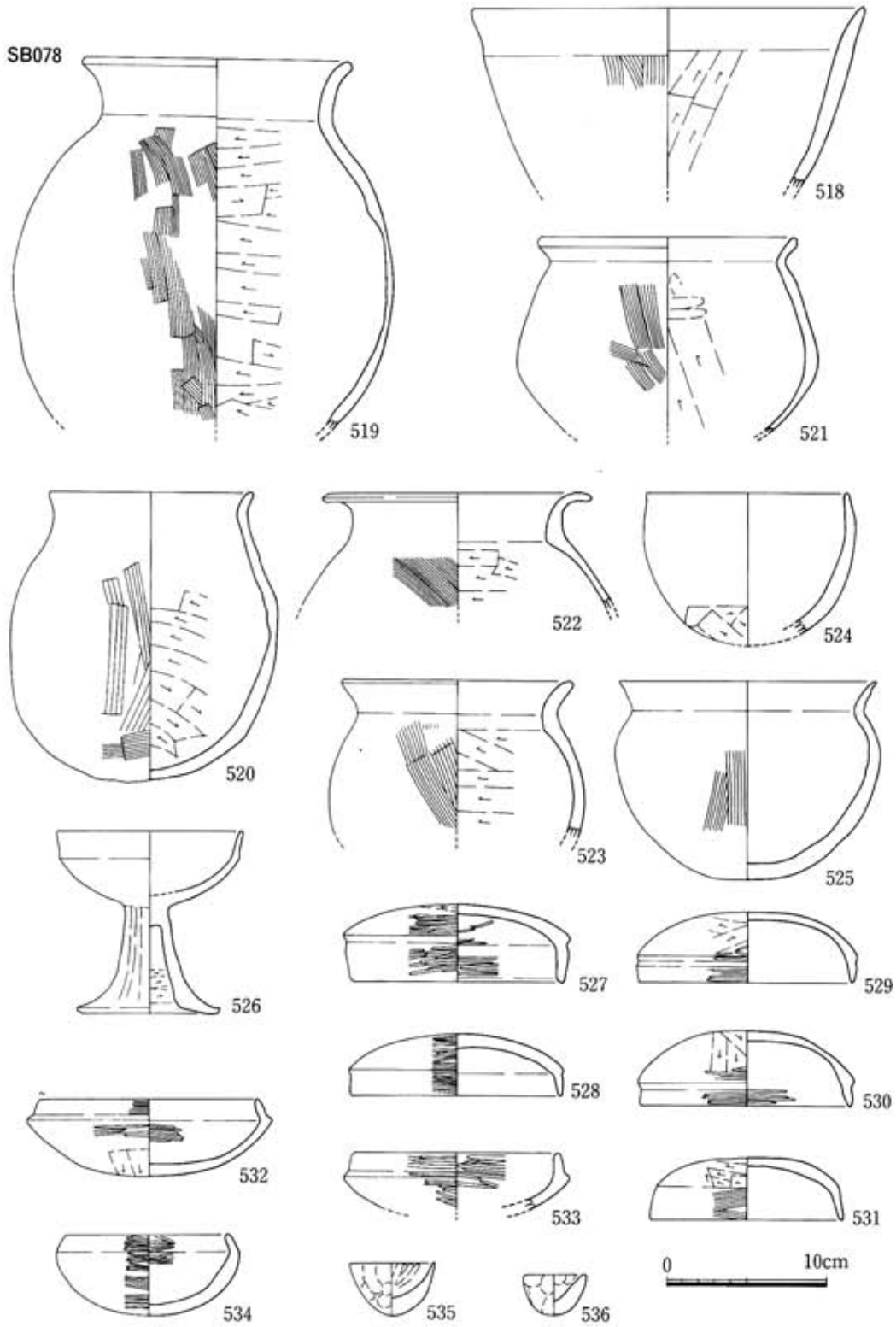


Fig. 106　SB078出土土師器（1/4）

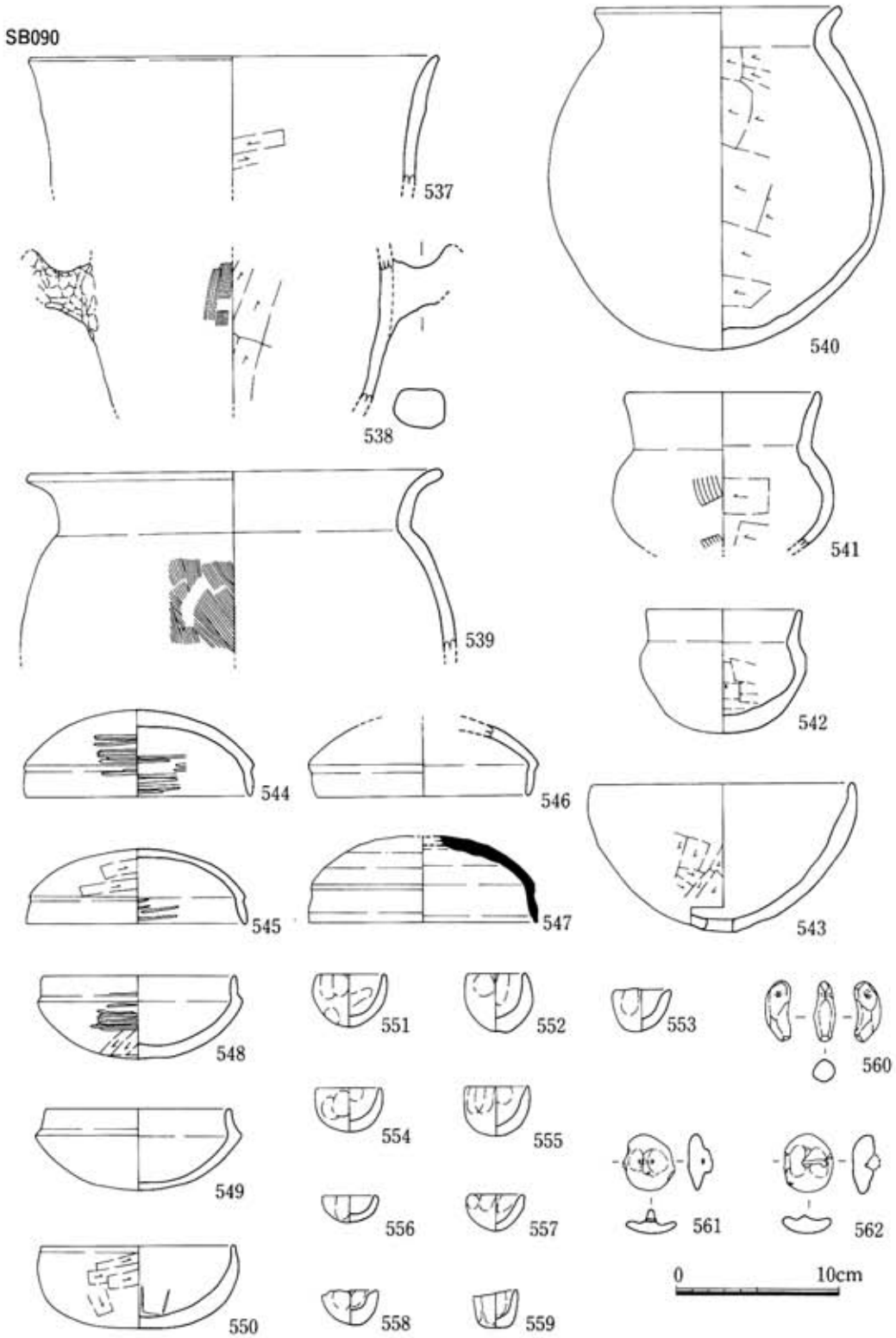


Fig. 107　SB090出土土師器・須恵器（1/4）

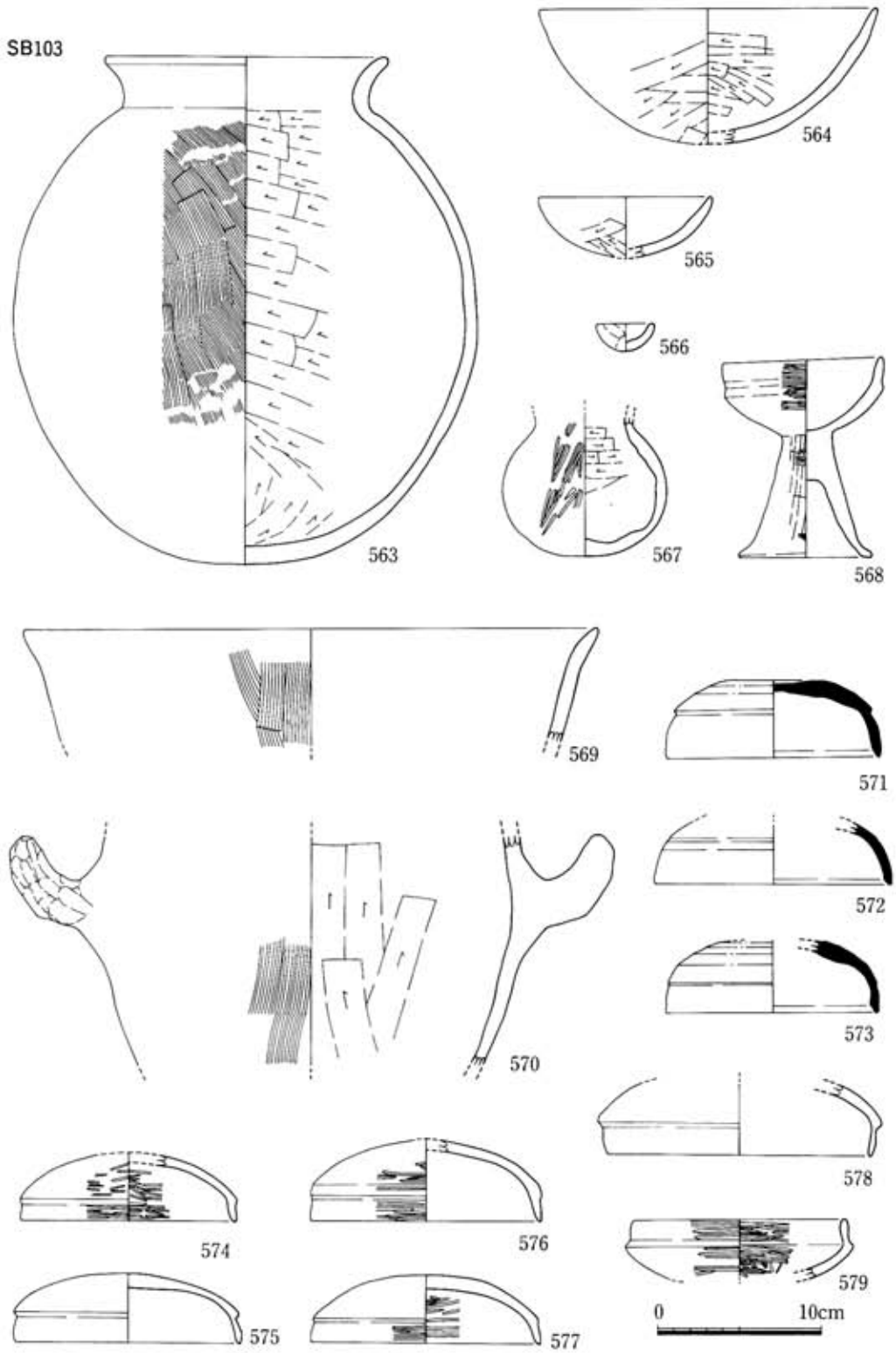


Fig. 108　SB103出土土師器・須恵器（1/4）

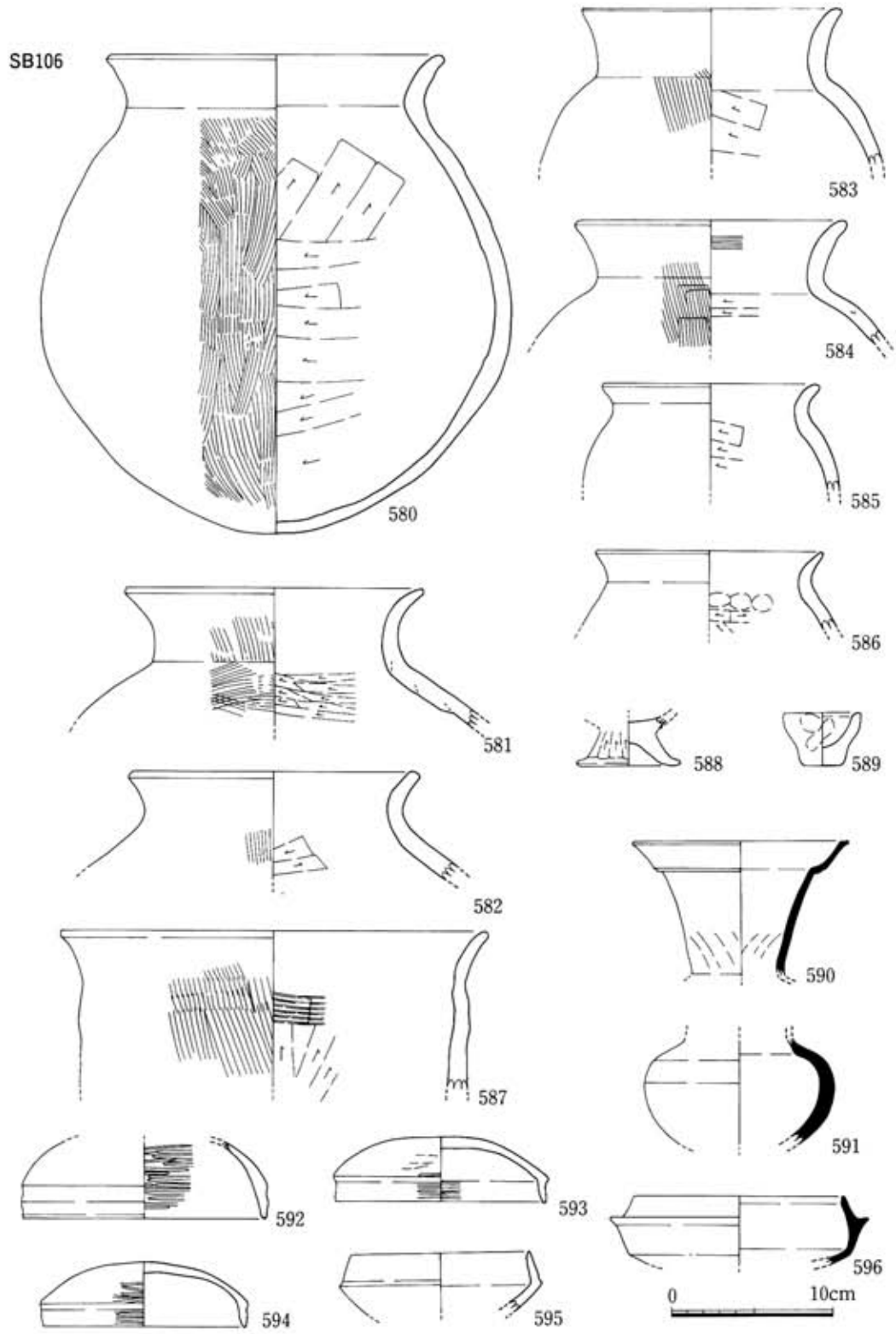


Fig. 109　SB106出土土師器・須恵器（1/4）

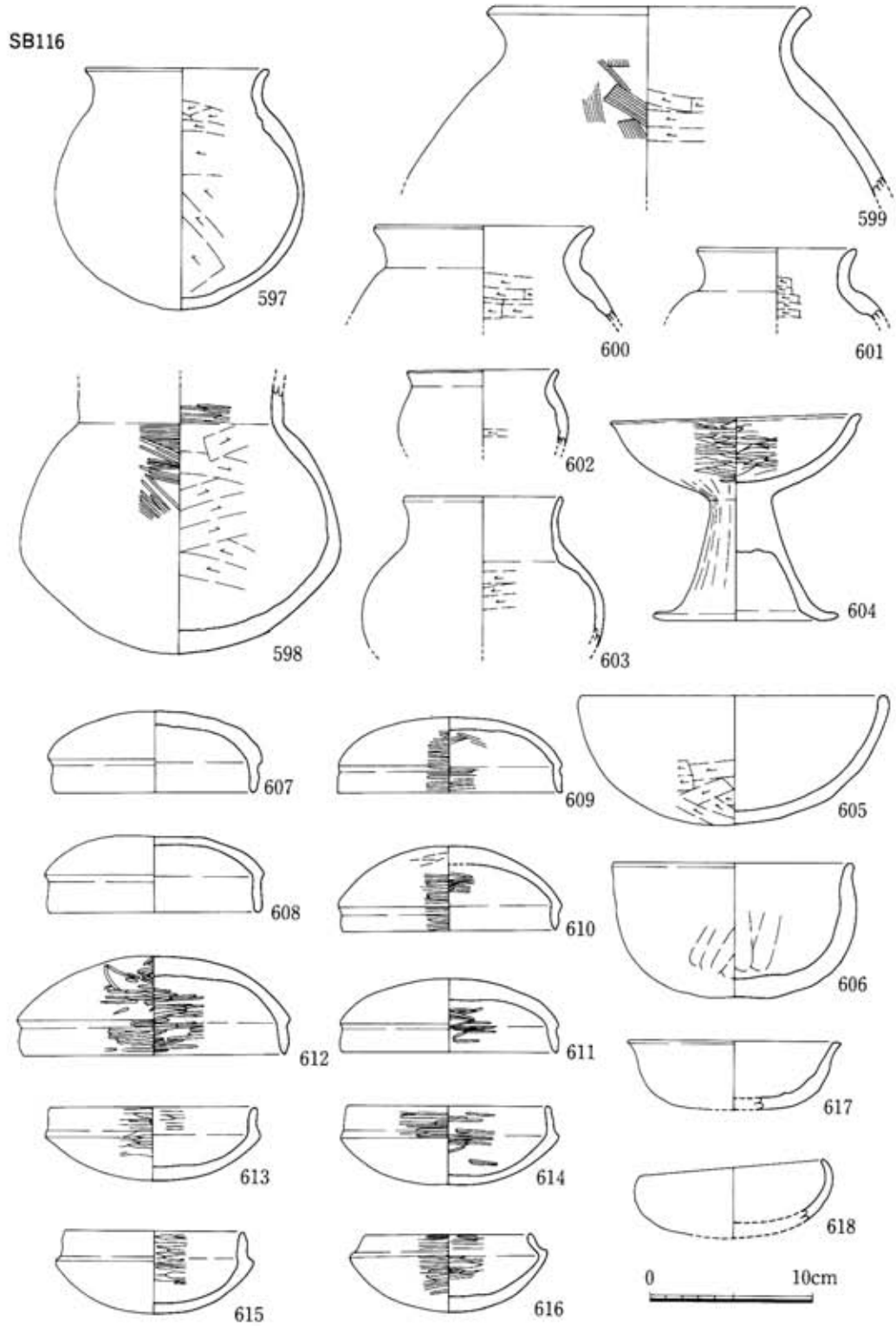


Fig. 110　SB116出土土師器（1/4）

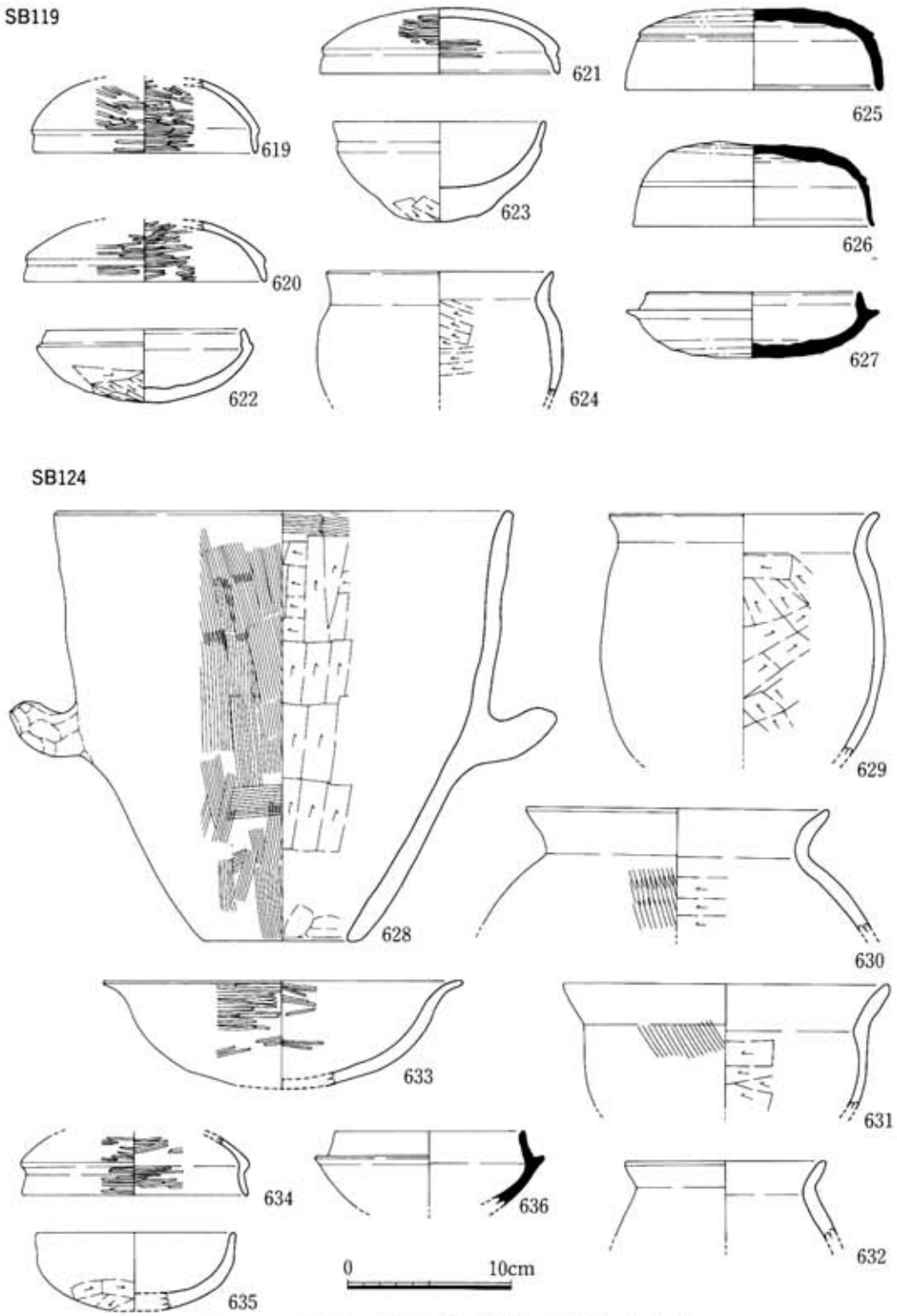


Fig. 111　SB119・SB124出土土師器・須恵器（1/4）

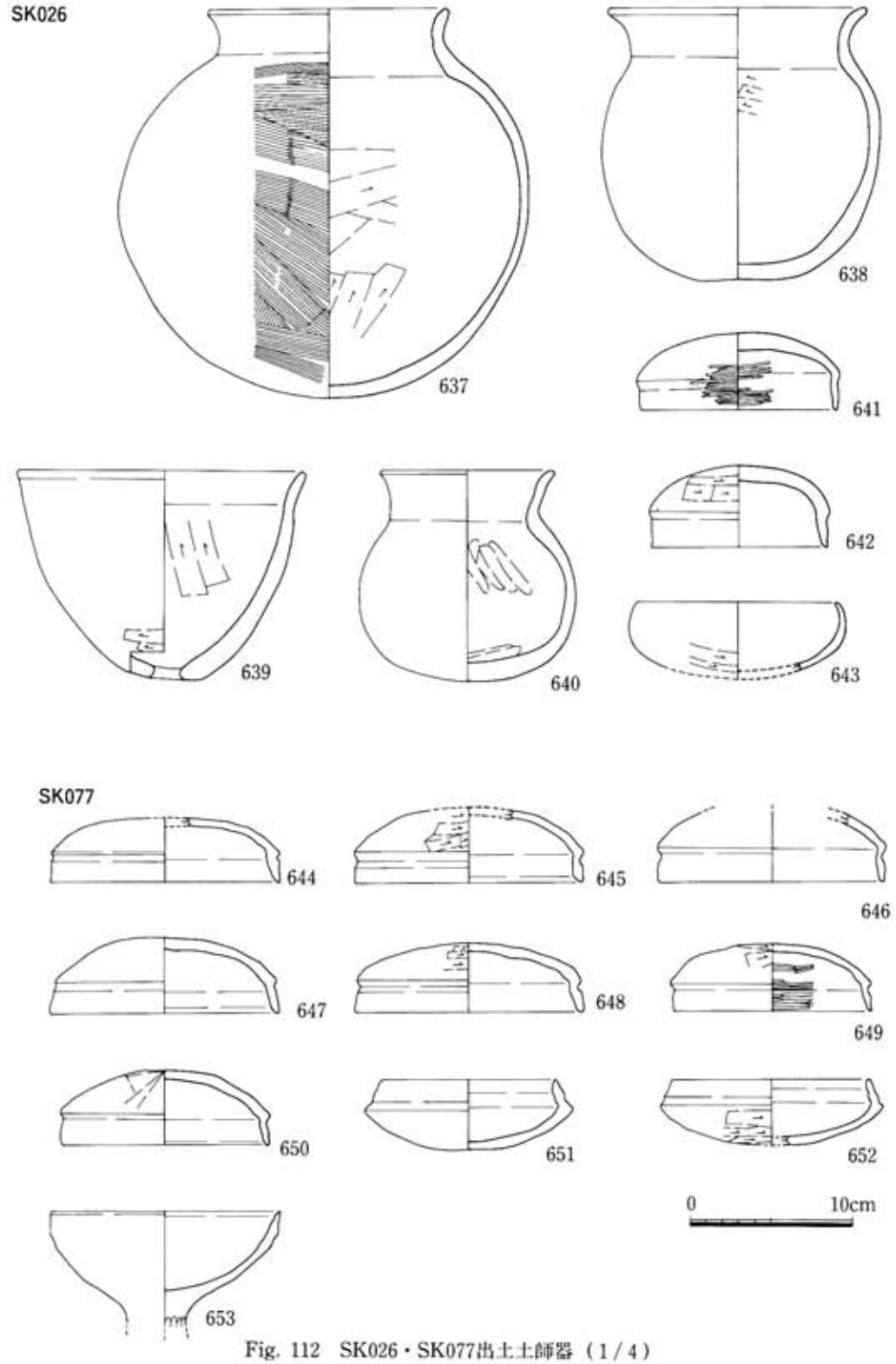


Fig. 112　SK026・SK077出土土師器（1/4）

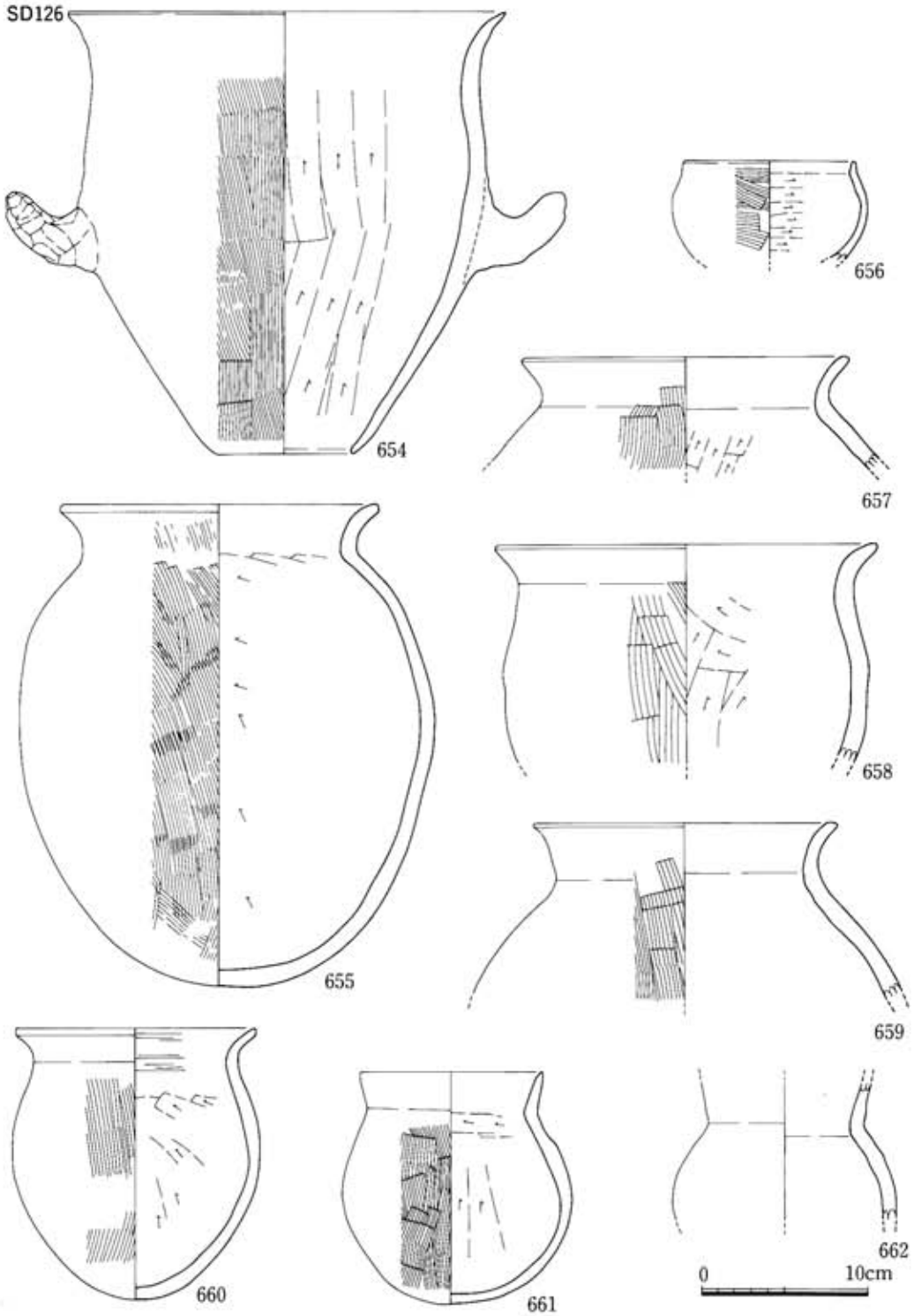


Fig. 113　SD126出土土師器〈1〉(1/4)

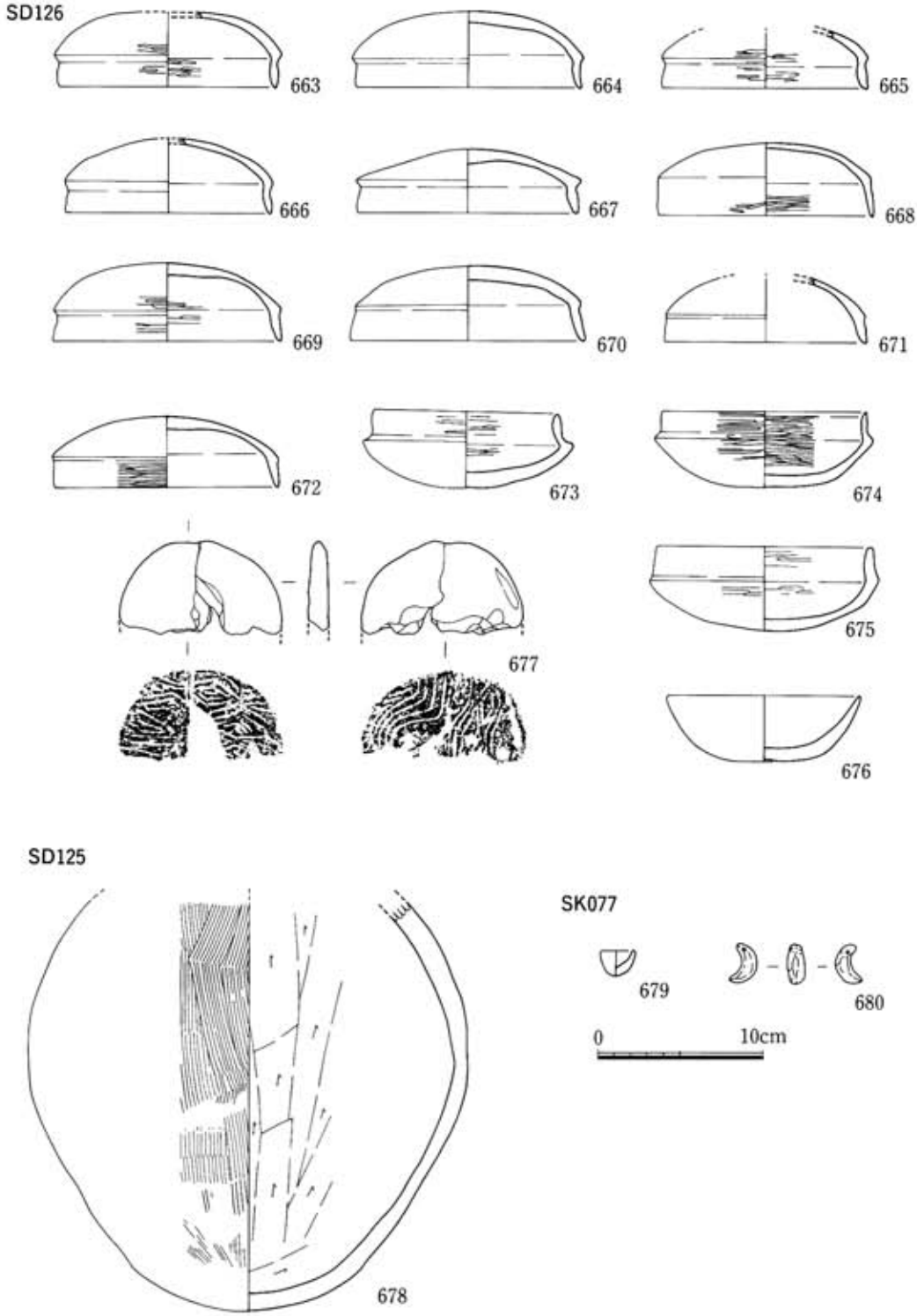


Fig. 114　SD126出土土師器（2），SD125・SK077出土土師器（1/4）

Tab. 3　古墳時代の土師器・須恵器観察表

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
361 90001635	ST002 周溝北東	土師器 壺	口径11.0 胴径13.5	小形丸底壺。球状胴部から口縁部が外向して伸びる。胴部は内面ヘラケズリ外面ナデ。口縁部は内外面ハケメ後ナデ。明褐色。
362 87005031	ST003 前庭	須恵器 坏身	口径11.6	体部は全体に丸味をもち，たちあがりは薄くやや内向して伸び，口唇部は斜めにナデて稜をつくる。体部外面ヘラケズリ。外面灰色，内面茶灰色。
363 90001648	ST004 周溝北	須恵器 坏蓋	口径11.8	天井部は比較的平坦で，鈍い稜をつくる。口縁部は高く，口唇部を斜めにナデて鋭く仕上げる。天井部全体ヘラケズリ。灰色。
364 90001649	ST004 周溝北	須恵器 坏蓋	口径12.6	天井部は丸く高く，鈍い稜をつくる。口縁部は短く下り，口唇部を斜めにナデて鋭く仕上げる。天井部全体ヘラケズリ。灰色。
365 90000656	ST004 周溝底	須恵器 坏身	口径11.0 器高 4.8	体部は比較的浅く，受部は外方につよく突出。たちあがりは内傾気味に直行して高く，口唇部は斜めにナデて鋭く仕上げる。底部ヘラケズリ。灰色。
366 90002606	ST005 周溝東	須恵器 甕	口径27.8	口縁部は外反しながら大きく開き，口唇部は外方に向けてやや肥厚。口縁下に沈線1条巡らす。灰色。
367 90000659	ST005 周溝東	須恵器 甕	口径19.1 器高 5.7	口縁部は緩く外反気味しながら開き，端部は1段肥厚させて稜を鋭くナデ上げる。口縁下に突帯1条，頸部に波状文。灰色。
368 90002610	ST005 周溝東	須恵器 壺	胴径18.0	球状胴部。中位やや下に沈線1条を巡らす。胴部は上半にカキメ，底部付近にタタキメを残す。灰色。
369 90000660	ST005 周溝東	須恵器 碗	口径 9.6 器高 5.5	底体部は一体に丸味をもち，口縁部は外反気味に立ち上がる。体部に突帯2条と波状文で飾る。把手は渦文を残して欠失。底部ヘラケズリ。灰色。
370 90000658	ST005 周溝東	須恵器 坏蓋	口径13.9 器高 4.8	天井部は平坦な上面からなだらかに下り，鋭い稜をつくる。口縁部はやや外向しながら直に伸びる。天井部全体ヘラケズリ。灰色。
371 90002603	ST005 周溝東	須恵器 坏蓋	口径11.8 器高 4.5	稜は短いながら鋭く，口縁部はつよく外向しながら長く直に伸び，口唇部は斜めにナデて鋭く仕上げる。天井部ヘラケズリ。灰色。
372 90000655	ST005 周溝東	須恵器 坏身	口径11.2 器高 5.2	底体部は全体に丸味をもち，受部が外方につよく突出する。立ち上がりはやや内傾しながら外反気味に高く伸びる。底体部ヘラケズリ。灰色。
373 90000657	ST005 周溝東	須恵器 坏身	口径11.0 器高 3.9	底部は平坦で体部が浅く，受部がつよく突出。たちあがりはやや内傾して伸び，口唇部を鋭く仕上げる。底体部ヘラケズリ。灰色。底面にヘラ記号。
374 90002604	ST005 周溝東	土師器 高坏	口径14.6	坏部は体部から口縁部まで緩くカーブを描いて立ち上がる。坏部は口縁部ナデ，体部は外面ヘラケズリ後，内外面ヘラミガキ。明茶褐色。
375 90000664	ST005 周溝東	土師器 高坏	口径16.2 器高 9.3	坏部は比較的浅く，口縁部が開く。脚部は短い筒部から裾部低く安定して大きく外方に開く。外面ヘラミガキ，内面は坏部ナデ。明茶褐色。
376 90000806	SB018	土師器 甕	口径18.0 器高26.7	胴部は下膨れに丸底気味の底部から大きく弧を描き上位で急に締まる。口縁部短く外反。口縁部ナデ，胴部は外面ハケメ，内面ヘラケズリ。茶褐色。
377 90000837	SB018	土師器 甕	口径18.4	口径部はつよく締まって短く外反する。口縁部ナデ，胴部は外面ハケメ，内面ヘラケズリ。明褐色。
378 90000808	SB018 床直No25	土師器 甕	口径20.8 器高21.5	丸底で，胴部はつよく横に張り出し，口縁部はやや外反気味に短く直行して広口。胴部は外面ハケメ後下半ナデ，内面ヘラケズリ後下半ナデ。明褐色。
379 90000870	SB018	土師器 甕	口径14.4 器高18.6	胴部は球状丸底。口縁部は胴部から不明瞭に屈曲して立ち上がり，端部が短く外反。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。褐色。
380 90000517	SB018 床直No28	土師器 甕	口径17.8	口縁部は内面に胴部から稜をなして立ち上がり，端部が短く外反。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。褐色。

図番号	出土地点	器種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
381 90002454	SB018 床直No.28	土師器 甕	口径 6.0	口縁部は内面に稜をなし外反気味に屈曲して開く。胴部外面ナデ，内面ヘラケズリ。褐色。
382 90000833	SB018 床直No.14	土師器 甕	口径13.6	胴部は肩がなだらかに下り，口縁部は急に短く外反。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。明褐色。
383 90000823	SB018 床直No.38	土師器 壺	口径 8.8 器高13.5	丸底。胴部は横につよく張って低く，直立頸部から口縁部外反。口縁部外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。胴部外面ハケメ，内面上半ヘラケズリ。明褐色。
384 90000807	SB018 床直No.13	土師器 甑	口径27.4	上半はかすかに内湾気味ながら直に伸びる。外面ハケメ後ヘラナデ，内面ヘラケズリ。明褐色。
385 90000543	SB018	土師器 手捏壺	残高 1.2	粗製の手捏壺。褐色。
386 90000544	SB018	土師器 手捏壺	口径 2.3 器高 2.5	粗製の手捏壺。褐色。
387 90000511	SB018 床直No.18	土師器 坏蓋	口径14.0 器高 5.3	天井部は丸味をもち，稜は段をなして口縁部直立。内外面ヘラミガキ。外面茶褐色，内面黒褐色。
388 90000811	SB018 床直No.10	土師器 坏蓋	口径14.6 器高 4.9	天井部は丸味をもち，稜は段をなして口縁部がやや内湾気味に立つ。天井部ヘラケズリ，口縁部と内面ナデ。明褐色，内面暗褐色。
389 90000815	SB018 床直No.11	土師器 坏蓋	口径14.4 器高 4.0	天井部は上面が平坦で稜は段をなし，口縁部が短く直に開く。天井部ヘラケズリ，口縁部と内面ナデ。明茶褐色。
390 90002472	SB018	土師器 坏蓋	口径15.8 器高 3.3	口径が大きく，稜はかすかな段をなして口縁部が短く開く，内外面ヘラケズリ，明褐色で，黒色塗布の痕跡あり。
391 90000813	SB018 床直No.16	土師器 坏蓋	口径12.7 器高 4.2	天井部は上面が平坦で稜は段をなくし，口縁部が直に立つ。外面ヘラケズリ，内面ナデ。褐色。
392 90000513	SB018 床直No. 6	土師器 坏蓋	口径12.6 器高 4.8	天井部は丸味をもち，稜は鈍い段をなして口縁部直立。天井部外面ヘラケズリ，内面ナデ。口縁部ナデ。褐色。
393 90000814	SB018 床直No.42	土師器 坏蓋	口径12.1 器高 4.0	天井部は丸味をもちながら比較的低く，稜は段をなして口縁部は直立気味。天井部外面ヘラケズリ，内面ナデ。口縁部ヘラミガキ。茶褐色。
394 90000512	SB018 床直No.10	土師器 坏蓋	口径13.0 器高 4.6	天井部は丸く，稜は鈍い段をなして口縁部がやや外反気味に立つ。天井部外面ヘラケズリ，内面ナデ。口縁部ナデ。褐色。
395 90000877	SB018 床直No.13	土師器 坏蓋	口径12.8 器高 4.3	天井部は丸味をもち，稜は段をなして口縁部がやや開く。天井部外面ヘラケズリ，内面ナデ。口縁部ナデ。暗褐色。
396 90000809	SB018 床直No.19	土師器 坏蓋	口径12.4 器高 4.5	天井部は丸味をもち，稜は段をなして口縁部直立。天井部外面ヘラケズリ，内面ナデ。口縁部ナデ。明茶褐色。
397 90000876	SB018 床直No.37	土師器 坏蓋	口径12.8 器高 4.2	天井部は丸味をもち，稜は段をなして口縁部直立。天井部外面ヘラケズリ，内面ナデ。口縁部ナデ。暗褐色。
398 90000514	SB018 床直No.31	土師器 坏蓋	口径11.8 器高 5.2	天井部は丸く高く，稜は消失，口縁直立。部が短く開く。天井外面ヘラケズリ，内面ナデ。口縁部ナデ。褐色。
399 90000812	SB018 床直No.35	土師器 坏蓋	口径12.6 器高 4.1	天井部は上面が平坦で稜は段をなし，口縁部がやや外に開く。天井部外面ヘラケズリ，内面ヘラミガキ。口縁部ヘラミガキ。褐色。
400 90000878	SB018 床直No.39	土師器 坏蓋	口径12.7 器高 4.3	天井部は丸味をもち，稜は段をなして口縁部がやや開く。天井部外面ヘラケズリ，内面ナデ。口縁部ナデ。明褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
401 90000810	SB018 床直No.4	土師器 坏蓋	口径13.6 器高 5.9	天井部は丸く高く，稜は段をなして口縁部が短く外に開く。天井部外面ヘラケズリ後に内外面ヘラミガキ。口縁部ヘラミガキ。明褐色。
402 90000827	SB018	土師器 坏蓋	口径13.0 器高 4.3	天井部は上面が平坦で稜は段をなし，口縁部は外反しながら立つ。内外面黒色磨研。天井部外面ヘラケズリ，内面と口縁部ヘラミガキ。暗褐色。
403 90002476	SB018	土師器 坏蓋	口径13.0	天井部は低く，稜は消失して口縁部が内向気味に屈曲し立つ。天井部外面ヘラケズリ後に内面ナデ。褐色。
404 90000816	SB018 床直No.32	土師器 坏身	口径12.5 器高 4.2	底部は比較的平坦で，受部はつよく外方に開き，たちあがりは内傾して伸びる。底部外面ヘラケズリ，他ナデ。白褐色。
405 90000874	SB018 床直No.15	土師器 坏身	口径12.4 器高 4.9	底体部は丸く，受部は段をなし，たちあがりは薄く直立。底体部外面ヘラケズリ，内面ナデ。口縁部ナデ。明褐色。
406 90000818	SB018 床直No.3	土師器 坏身	口径11.1 器高 5.4	底体部は丸く，受部は段をなし，たちあがりは外反しながら立つ。底部外面ヘラケズリ。体部から口縁部および内面ヘラミガキ。茶褐色。
407 90000873	SB018 床直No.5	土師器 坏身	口径12.0 器高 4.5	底体部は丸く，受部は段をなし，たちあがりはやや外傾気味に立つ，底体部外面ヘラケズリ。口縁部と内面ヘラミガキ。明茶褐色。
408 90000871	SB018 床直No.8	土師器 坏身	口径12.1 器高 4.5	底体部は丸く，受部は段をなし，たちあがりはやや内向気味に立つ。底体部外面ヘラケズリ。口縁部と内面ヘラミガキ。明茶褐色。
409 90000817	SB018 床直No.41	土師器 坏身	口径11.3 器高 4.3	底体部は低く丸味をもち，受部は段をなし，たちあがりは内傾しながら直に立つ。外面ヘラミガキ，内面ナデ。外面明褐色，内面褐色。
410 90000820	SB018 床直No.49	土師器 坏身	口径10.4 器高 4.1	底体部は尖り気味の丸底で，受部は段をなし，たちあがりは外傾しながら立つ。底体部外面ヘラケズリ，他ナデ。明茶褐色。
411 90000872	SB018 床直No.36	土師器 坏身	口径11.6 器高 4.7	底体部は丸く，受部は段をなし，たちあがり直立。底体部外面ヘラケズリ，他ナデ。口縁部と内面ヘラミガキ。明褐色。
412 90000821	SB018 床直No.9	土師器 坏身	口径11.4 器高 5.4	底体部は丸底で深く，口縁部内傾。底部外面ヘラナデ，他指ナデ。明褐色。
413 90000819	SB018 床直No.24	土師器 坏身	口径13.6 器高 4.8	底体部は丸底で浅く，口縁部は短く内湾。底体外面ヘラケズリ後，内外面ヘラミガキ。内外面黒色磨研。胎土褐色。
414 90002477	SB018	土師器 坏身	口径12.8	底体部は尖り気味を思わせ，口縁部は薄く短く直立。底体部外面ヘラナデ，他ナデ。明褐色。
415 90002474	SB018 床直No.50	土師器 坏身	口径11.8	底体部は丸底で尖り気味に深く，口縁部は短く内湾。底体部外面ヘラナデ，他ナデ。褐色。
416 90002475	SB018	土師器 碗	口径11.6	底体部は丸底で尖り気味に深く，口縁部は短く内湾。底体部外面ヘラナデ，他ナデ。明褐色。
417 90002473	SB018 床直No.50	土師器 坏身	口径10.5	底体部は丸底で尖り気味に深く，口縁部は短く立つ。底体部外面ヘラナデ，他ナデ。明褐色。
418 90000862	SB019 床直No.1	土師器 甕	口径23.2	胴部は肩が丸く張り，口縁部は急に屈曲して立ち上がった後外反。口縁部ナデ，胴部外面ハケメ，内面はハケメ後ヘラケズリ。明褐色。
419 90000861	SB019	土師器 甕	口径23.4	胴部は肩があまり張らず，口縁部は緩くS字形に外反。口縁部外面ナデ，内面ヘラケズリ。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。明褐色。
420 90000855	SB019 床直No.1	土師器 甕	口径23.6	口縁部は「く」字形に屈曲して外反気味に開く。口縁部外面ナデ，内面ハケメ。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。明褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
421 90000859	SB019 床直No.1	土師器 甕	口径16.2 器高12.7	鉢形甕。体部は丸底で，体部は深く湾曲しながら立ち上がる。体部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。口縁部ナデ。明褐色。
422 90000860	SB019 床直No.1	土師器 甕	口径15.4	胴部は中位で球状に張り，口縁部は急に屈曲して立ち上がった後外反。口縁部ナデ，胴部外面ハケメ，内面は一部ハケメを残しヘラケズリ。明褐色。
423 90000584	SB019	土師器 甕	口径13.0 器高14.3	胴部は上位で張り丸底球状。口縁部はややあまく「く」字形に屈曲して直に開く。口縁部ナデ。胴部外面ナデ，内面ヘラケズリ。褐色。
424 90000587	SB019	土師器 壺	口径13.0 器高15.3	胴部は肩が張り，実底気味の丸底。口縁部は急に屈曲して立ち上がり外反。口縁部ナデ＞胴部外面ナデ，内面ヘラケズリ。褐色。
425 90000586	SB019	土師器 壺	口径 6.3 器高 7.6	小形丸底壺。胴部は中位で横につよく張り，口縁部は「く」字形に屈曲して短く開く。口縁部ナデ。胴部外面ナデ，内面ヘラケズリ。褐色。
426 90000588	SB019	土師器 壺	口径 9.0	胴部はあまり張らず，口縁部はS字形を描いて緩く外反気味に立ち上がる。外面ヘラミガキ，内面は口縁部ヘラミガキ，胴部ヘラケズリ。茶褐色。
427 90000585	SB019 床直No.2	土師器 壺	口径 8.1 器高 9.7	胴部は中位で横につよく張り丸底で，口縁部直立。口縁部内外面ナデ。胴部は外面ハケメ後ヘラケズリ，内面ナデ。明茶褐色。
428 90000593	SB019	須恵器 坏蓋	口径14.2 器高 5.0	天井部は丸く，稜はあまり張らず段をなす。口縁部は高く開き気味に立ち，口唇部は斜めにナデる。天井部外面ヘラケズリ，他ナデ。褐灰色。
429 90000595	SB019	土師器 坏蓋	口径12.8 器高 4.4	天井部は丸味をもち，稜は段をなして口縁部口縁部が短く開く。天井部外面ヘラケズリ，他ナデ。褐色。
430 90000594	SB019	土師器 坏身	口径12.5 器高 4.6	底体部は丸味をもって浅く立ち上がり，受部は段をなし，たちあがりが短く内傾。底体部外面ヘラケズリ後，内外面黒色磨研。
431 90000840	SB019	土師器 坏身	口径12.6	底体部は丸く，受部は段をなし，たちあがりが薄く短く内傾。底体部外面ヘラケズリ後，内外面ヘラミガキ。褐色。
432 90000847	SB019	土師器 坏身	口径12.2	底体部は丸味をもって浅く立ち上がり，受部は段をなし，たちあがりがやや内傾気味に直立。体部外面ヘラケズリ後，他ナデ。外面赤色顔料塗布。
433 90000850	SB019	土師器 坏身	口径12.4	底体部は丸く深く，口縁部は屈曲してつよく内傾。底体部外面ハケメ，他ヘラミガキ。明茶褐色。
434 90000853	SB019	土師器 碗	口径14.6 器高 4.2	底体部は丸味をもって浅く立ち上がる。底体部外面ヘラミガキ，内面ナデ。口縁部ナデ。明褐色。
435 90000589	SB019 床直No.7	土師器 碗	口径 7.6 器高 8.6	厚手の粗製碗。体部は直に立ち上がり，口縁部でやや内湾。外面ヘラナデの後，内外面指ナデ付け。褐色。
436 90000591	SB019	土師器 筒状	口径 3.1 器高 3.1	粗製の小形筒状土器。外面ヘラケズリ。褐色。
437 90000592	SB019	土師器 碗	口径 6.3 器高 4.8	粗製の小形碗。体部は「ハ」字形に開く。内外面ナデ付け。褐色。
438 90000590	SB019 床直No.9	土師器 手捏碗	口径 3.1 器高 2.2	底部が不安定な平底の手捏土器。褐色。
439 87000873	SB021	土師器 甕	口径20.2	口縁部は胴部からS字形を描いて内傾し，端部外反。口縁部ナデ。胴部外面ナデ，内面ヘラケズリ。明褐色。
440 90000596	SB021	土師器 壺	胴径12.9	胴部は球状の丸底壺。口縁部はつよく屈曲し，開きながら高く立ち上がる。底部外面ヘラケズリ，他ナデ。茶褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
441 87000868	SB021	土師器 坏蓋	口径13.4	稜は段をなし，口縁部がやや開き気味に立つ。内外面とも黒色ヘラミガキ。胎土褐色。
442 87000869	SB021	土師器 坏蓋	口径12.0	稜は段をなし，口縁部直立。内外面とも黒色ヘラミガキ。胎土明赤褐色。
443 3002906	SB021 カマド内	土師器 碗	口径15.9	丸底で，体部は比較的浅く大きく開いて立ち上がる。調整不明瞭。褐色。
444 87000621	SB021	土師器 碗	口径 9.1 器高 3.8	底部は不安定な平底で，体部はまるく湾曲しながら立ち上がる。底部付近外面ヘラケズリ，他ナデ。褐色。
445 87000622	SB021	土師器 高坏	底径10.8	坏部欠失。脚部は開きが少なく，裾がかすかに折れて短く外反気味に開く。脚部外面ナデ，内面ヘラケズリ後裾部ナデ。褐色。
446 90000681	SB032	土師器 甕	口径23.4 器高25.1	体部は下半が直に開いて伸び，中位から急に立ち上がる。把手不明。外面ハケメ後下位ナデ，内面ヘラケズリ。
447 90000677	SB032	土師器 甕	口径16.0	口縁部は胴部から不明瞭に屈曲して開く。口縁部ナテ。胴部は内面ヘラケズリ，外面調整不明瞭。茶褐色。
448 90000688	SB032	土師器 甕	口径13.0	口縁部は胴部から急に外反味しながら立ち上がる。口縁部ナデ，胴部内面ヘラケズリ後ナデ。褐色。
449 90000685	SB032	土師器 坏蓋	口径14.0	天井部は丸く，稜は屈曲と化して口縁部直立。内外面ナデ。褐色。
450 90000684	SB032	土師器 坏蓋	口径11.0	小形坏蓋。天井部は丸味をもち，稜は突出して口縁部直立。内外面ナデ。褐色。
451 90000670	SB032	土師器 坏身	口径12.6	底体部は丸く，受部は段をなす。口縁部は短く直立。内外面とも黒色ヘラミガキ。胎土褐色。
452 90000671	SB032 床直No.4	土師器 坏身	口径12.0 器高 4.9	底体部は尖り気味の丸底で，受部は段をなして口縁部が短くつよく内傾。底体部外面ナデ，内面ヘラミガキ。口縁部ヘラミガキ。明褐色。
453 90000650	SB032 床直No.1	土師器 坏身	口径12.4 器高 4.7	底体部は比較的浅く，受部はかすかな段をなして口縁部はやや内傾気味に直立。底体部外面ヘラケズリ，内面ナデ。口縁部ヘラミガキ。褐色。
454 90000676	SB032 床直No.9	土師器 坏身	口径10.4 器高 5.0	底体部は湾曲しながらやや急に立ち上がる。外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ。褐色。
455 90000674	SB032	須恵器 坏身	口径10.4	底部は平坦で体部は比較的浅く，受部は外方に張り出し，口縁部がつよく内傾して直に伸びる。底体部外面ヘラケズリ，他ナデ。灰白色。
456 89009492	SB063 床直No.11	土師器 甕	口径25.6 器高24.3	体部下半は直に開き，中位で急に立ち上がり口縁部緩く外反。把手は鍵形に曲がる。体部外面ハケメ後ナデ，内面ヘラケズリ。把手ヘラケズリ。褐色。
457 90001984	SB063 床直No.21	土師器 甕	口径24.2 器高25.0	体部は湾曲しながら立ち上がり，口縁部はかすかに屈曲して開く。体部内外面ヘラケズリ後外面ナデ。口縁部ナデ。把手ヘラケズリ。褐色。
458 90001083	SB063 床直No.16	土師器 甕	口径26.0 器高24.8	胴部は丸底球状で横に張り，口縁部は不明瞭に屈曲して外反しながら開く。口縁部ナデ。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。明褐色。
459 90001082	SB063 床直No.20	土師器 甕	口径14.6 器高18.2	胴部は丸底下膨れ気味で，口縁部は不明瞭に屈曲して外反しながら開く。口縁部と底部ナデ。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。赤褐色。
460 90000668	SB063 床直No.17	土師器 甕	口径14.2 器高19.0	胴部は丸底長胴気味で，口縁部は不明瞭に屈曲して外反しながら開く。口縁部と底部ナデ。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。茶褐色。外面煤付着。

図番号	出土地点	器種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
461 90000638	SB063 床直No.14	土師器 甕	口径12.4 器高16.0	胴部は丸底で中位やや上が張り，口縁部は不明瞭に屈曲して外反しながら立ち上がる。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。口縁部と底部ナデ。茶褐色。
462 90000637	SB063 床直No.24	土師器 甕	口径11.4 器高10.0	胴部は肩が張り，低くつぶれて平底。口縁部は不明瞭に屈曲して直立気味にに立つ。内外面ナデ。外面に赤色顔料塗布。胎土褐色。
463 90000636	SB063 床直No.3	土師器 甕	口径10.0 器高10.7	胴部は丸底球状で，口縁部はややあまく「く」字形に屈曲。胴部は外面ハケメ，内面ヘラケズリ。口縁部と底部ナデ。茶褐色。
464 90000669	SB063 床直No.12	土師器 壺	口径29.0 器高25.4	胴部は肩が張り不安定な平底。口頸部は不明瞭に屈曲してやや外傾しながら立つ。頸部ナデ。胴部外面ハケメ，内面はヘラケズリ後下半ナデ。褐色。
465 89009493	SB063 床直No.16	土師器 甕	口径18.7 器高34.0	胴部は下膨れ気味丸底で上位がつよく締まる。口縁部はややあまく「く」字形に屈曲。口縁部ナデ。胴部は外面指ナデ付け，内面ヘラケズリ。明褐色。
466 90000602	SB063 床直No.15	土師器 坏蓋	口径12.8 器高 4.6	黒色磨研土器。稜はわずかに段を残して口縁部が直立。天井部外面にヘラケズリ痕を残し，内外面ヘラミガキ。胎土茶褐色。
467 90000605	SB063 床直No.6	土師器 坏蓋	口径13.1 器高 4.3	黒色磨研土器。稜はわずかに段を残して口縁部ほぼ直立。天井部外面にヘラケズリ痕を残し，内外面ヘラミガキ。胎土茶褐色。
468 90000604	SB063 床直No.14	土師器 坏蓋	口径13.1 器高 4.1	黒色磨研土器。稜は段をなして口縁部がやや外反気味に立つ。天井部外面にヘラケズリ痕を残し，内外面ヘラミガキ。胎土茶褐色。
469 90000639	SB063 床直No.2	土師器 坏蓋	口径13.6 器高 4.4	黒色磨研土器。稜は段をなして口縁部がやや外反気味に立つ。天井部外面にヘラケズリ痕を残し，内外面ヘラミガキ。胎土褐色。
470 90000635	SB063 床直No.5	土師器 坏蓋	口径13.0 器高 3.9	天井部は丸く，稜は段をなして口縁部が短く直立する。天井部に外面ヘラケズリ痕を残し，内面ナデ。口縁部ナデ。褐色。
471 90000606	SB063 床直No.28	土師器 坏蓋	口径13.6 器高 4.0	天井部は比較的平坦で，稜はわずかに段を残して口縁部直立。天井部外面にヘラケズリ痕を残し，内外面ナデ。明褐色。
472 89009490	SB063 床直No.23	土師器 坏蓋	口径12.9 器高 4.8	黒色磨研土器。稜は段を残して口縁部が直立。天井部外面にヘラケズリ痕を残し，内外面ヘラミガキ。明褐色。
473 89009489	SB063 床直No.7	土師器 坏身	口径12.0 器高 4.4	底体部は丸く，受部は鈍く張り出し，たちあがりはやや内傾。底体部外面にヘラケズリ痕，内外面ヘラミガキか。外面に黒色痕あり。胎土明褐色。
474 90000633	SB063 床直No.18	土師器 坏身	口径12.4 器高 3.1	底体部は丸く，受部は段をなして，たちあがりが直立。底体外面にヘラケズリ痕を残し，内外面ヘラミガキ。茶褐色。
475 90000634	SB063 床直No.22	土師器 坏身	口径11.4 器高 4.3	器形，調整は須恵器に似てシャープに仕上げる。底体部は丸く，たちあがりは薄く内傾し，受部が鋭く開く。底体部外面ヘラケズリ，他ナデ。褐色。
476 90000603	SB063 床直No.32	土師器 坏身	口径12.2 器高 4.0	黒色磨研土器。底体部は丸く，受部は屈曲と化して口縁部が短く直立。外面は底体部ヘラケズリ，口縁部ヘラミガキ。内面ナデ。胎土褐色。
477 90000610	SB063 床直No.13	土師器 碗	口径13.0 器高 7.6	体部は深く，丸底から湾曲して上位で直に立ち上がる。底体部外面にヘラケズリ痕を残し，内外面ナデ。茶褐色。
478 90000601	SB063 床直No.4	土師器 碗	口径14.8 器高 4.0	体部は浅く，丸底から緩く立ち上がり，口縁部でやや急に短く立つ。底体部外面にヘラケズリ痕を残し，内外面ナデ。褐色。
479 90000571	SB075 床直No.18	土師器 甕	口径19.9	胴部は張りがつよく，口縁部は内傾気味に立ち上がって急に外反。口縁部ナデ，胴部外面ナデ，内面ヘラケズリ。明茶褐色。
480 87000512	SB075	土師器 甕	口径12.3	胴部は肩が張り，口縁部は胴部から屈曲して外反気味に急に立ち上がる。口縁部ナデ，胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。明褐色。

図番号	出土地点	器種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
481 87005047	SB075	土師器 甕	口径21.8	胴部は緩く張り，広口で口縁部が短く直立して端部外反。口縁部ナデ，胴部外面ナデ，内面ヘラケズリ。明黄褐色。
482 90000572	SB075 床直No.25	土師器 甕	口径16.9	口縁部は胴部から緩く屈曲して外反しながら開く。口縁部ナデ，胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。褐色。
483 87005037	SB075	土師器 甕	口径17.5	口縁部は胴部からS字形を描いて大きく外反。口縁部ナデ，胴部は外面ハケメ，内面ヘラケズリ。明茶褐色。
484 90000569	SB075 床直No.20	土師器 甕	口径13.2 器高18.3	胴部は球状丸底。口縁部は胴部と稜をなし屈曲して開く。口縁部ナデ，胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。褐色。
485 90000568	SB075 床直No.19	土師器 甕	口径12.3 器高14.0	胴部は球状丸底。口縁部は胴部と稜をなし屈曲して外反気味に開く。口縁部ナデ，胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。茶褐色。
486 86000252	SB075	土師器 壺	胴径10.8	小形壺。胴部は丸底で低くつぶれ，口縁部は直立気味で広口。外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。明茶褐色。
487 87005043	SB075	土師器 壺	胴径13.3	胴部は上位でつよく締まり，口縁部は「く」字形に屈曲して開く。胴部内外面ナデ。明茶褐色。
488 90000879	SB075 床直No.23	土師器 甕	口径26.8 器高22.5	底部は緩く湾曲しながら立ち上がり，口縁部は内面をナデて薄く仕上げる。中位に把手。体部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。茶褐色。
489 87005048	SB075	須恵器 甕	胴径10.7	胴部は肩が張り，沈線に区画されて櫛描き波状文を巡らす。内外面ナデ。暗灰色で一部自然釉が掛かる。
490 90000888	SB075 床直No.3	土師器 坏蓋	口径18.8 器高 6.6	天井内外面とも黒色磨研の大形坏蓋。天井部は丸く，稜は段をなして口縁部が短く開き気味に立つ。内外面ヘラミガキ。胎土茶褐色。491と対をなすか。
491 90000887	SB075 床直No.6	土師器 坏身	口径17.0 器高 7.2	内外面とも黒色磨研の大形坏身。底体部はまるく，受部は段をなし，たちあがり内傾。底部外面にヘラケズリ痕を残し，内外ヘラミガキ。胎土茶褐色。
492 86006242	SB075	土師器 坏蓋	口径15.0 器高 4.4	天井部は丸く，稜は段をなして口縁部が短く立つ。天井部外面にヘラケズリを残し，内外面ヘラミガキ。外面に丹塗り痕あり。胎土茶褐色。
493 87000892	SB075	土師器 坏蓋	口径14.2	天井部は丸く，稜は段をなして口縁部が短く立つ。口縁部付近は内外面ヘラミガキ。明茶褐色。
494 86006251	SB075	土師器 坏蓋	口径13.9 器高 4.3	天井部は丸く，稜は段をなして口縁部が短く開く。内外面ともヘラナデの後かるくヘラミガキ。褐色。
495 86006249	SB075 床直No.9	土師器 坏蓋	口径13.5 器高 4.8	黒色磨研土器。天井部は丸く，稜は明瞭な段をなして口縁部が短く外反気味に立つ。内外面ヘラミガキ。胎土茶褐色。
496 86006243	SB075	土師器 坏蓋	口径13.0 器高 4.7	天井部は丸く，稜はかすかな段をなして口縁部が短く立つ。天井部外面にヘラケズリ痕を残し，内外面ヘラミガキ。外面一部に丹塗り痕。明茶褐色。
497 90000883	SB075 床直No.13	土師器 坏蓋	口径12.6 器高 4.9	天井部は丸く，稜は段をなして口縁部が立つ。天井部外面上位にヘラケズリ痕を残し，内外面ヘラミガキ。明褐色。
498 90000570	SB075 床直No.20	土師器 坏蓋	口径12.7 器高 4.9	天井部は丸く，稜はかすかに段をなして口縁部直立。天井部外面にヘラケズリ痕を残し，内外面ヘラミガキ。内面黒色痕あり。胎土褐色。
499 86006241	SB075	土師器 坏蓋	口径12.7	天井部は丸く，稜は明瞭な段をなして口縁部が開く。天井部外面上位にヘラケズリ痕を残し，内外面ヘラミガキ。赤褐色。
500 87000895	SB075	土師器 坏身	口径13.9	内外面黒塗り。底体部は丸く，受部は段をなしてたちあがりが短く内傾。底体部外面ヘラケズリ，他ナデ。胎土明褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
501 86006244	SB075	土師器 坏身	口径13.8 器高 4.6	底体部は丸く，受部は段をなしてたちあがりが短く立つ。底部外面ヘラナデ，他ヘラミガキ。ヘラケズリを省き器壁が厚い。茶褐色。
502 90000885	SB075 床直No.10	土師器 坏身	口径13.0 器高 5.4	内外面黒塗り。底体部は丸く，受部は段をなしてたちあがりが短く内傾。底体部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。胎土褐色。
503 90000884	SB075	土師器 坏身	口径13.3 器高 4.7	底体部は丸く，受部は段をなしてたちあがり直立。内外面ヘラミガキ。胎土褐色。
504 86006246	SB075	土師器 坏身	口径12.3 器高 5.9	底体部は丸く深く，受部は段をなしてたちあがりがつよく内傾。底体部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。胎土褐色。
505 86006245	SB075 床直No.9	土師器 坏身	口径12.1 器高 4.7	底体部は丸く，受部はかすかに段をなしてたちあがりがつよく内傾。底部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。明茶褐色。
506 86006250	SB075 床直No.11	土師器 坏身	口径11.9 器高 5.0	内外面黒塗り。底体部は丸く，受部はかすかに段をなしてたちあがりがつよく内傾。底部外面ヘラケズリデ，他ヘラミガキ。明茶褐色。
507 87000894	SB075	土師器 坏身	口径11.8	底体部は丸く，受部は段をなしてたちあがりが内傾。底部外面ヘラケズリ，他ナデ。外面暗褐色，内面明茶褐色。
508 87000509	SB075	土師器 坏身	口径12.2 器高 4.5	底体部は丸く，受部は段をなしてたちあがりが内傾する。底部外面ヘラケズリか，他ナデ。暗褐色。
509 86006248	SB075	土師器 坏身	口径12.6 器高 4.5	内外面黒塗り。底部は小さな平坦をつくり，受部は段をなしてたちあがりが短くつよく内傾する。底部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。茶褐色。
510 86006247	SB075	土師器 坏身	口径12.4 器高 4.5	底体部は丸く，受部は段をなしてたちあがりが短く内傾。底部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。暗茶褐色。
511 87000891	SB075	土師器 坏身	口径 9.8	小形坏。底体部は丸く，受部は段をなしてたちあがりがやや内傾して立つ。底体部外面ヘラケズリ，他ナデ。内面黒塗りか，外面暗褐色。
512 90000881	SB075 床直No.8	土師器 坏	口径13.0 器高 4.3	内外面黒塗り。体部は丸味をもった底部から急に立ち上がり，口縁部はほぼ直立。底部内面ヘラナデ，他ヘラミガキ。胎土暗褐色。
513 87005040	SB075 床直No.4	須恵器 坏身	口径12.0	底体部は比較的浅く，受部はつよく横に張り，たちあがりが内傾しながら伸びてシャープに仕上げる。底部から体部2分の1までヘラケズリ。灰褐色。
514 90000880	SB075 床直No.21	須恵器 坏蓋	口径15.3 器高 4.6	天井部は平坦で，口縁部はやや急に下り，口辞部は斜めにナデてシャープに仕上げる。灰色。
515 90000886	SB075 床直No.1	須恵器 坏身	口径13.4 器高 3.8	底体部は浅く，受部はつよく横に張り，たちあがりが内傾しながら伸びる。底部から体部2分の1までヘラケズリ。灰色。
516 87005045	SB075 床直No.16	土師器 手捏鏡	長径 3.5 器高 1.4	鏡面に当たる表は凸面。鍔は摘んでつくり，刺突孔1を穿ける。褐色。
517 87005046	SB075 床直No.16	土師器 手捏鏡	長径 3.7 器高 1.1	鏡面に当たる表は凸面。鍔は摘んでつくり，刺突孔1を穿ける。褐色。
518 90001657	SB078	土師器 甑	口径24.0	体部上半はわずかに湾曲しながら立ち上がる。体部は外面ハケメ後ナデ，内面ヘラケズリ。口縁部ナデ。褐色。
519 90000763	SB078 床直No.7	土師器 甕	口径22.3	胴部は中位で緩く張り，口縁部はかすかに稜をなして外反しながら立ち上がる。口縁部ナデ。胴部は外面ハケメ後ナデ，内面ヘラケズリ。明茶褐色。
520 90000764	SB078	土師器 甕	口径12.4	胴部は張りが少なく丸底。口縁部は不明瞭に屈曲して短く開く。口縁部付近ナデ。胴部は外面ハケメ，内面ヘラケズリ。茶褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
521 90000620	SB078 床直No.4	土師器 甕	口径16.0 器高	胴部は中位で算盤玉状に膨らみ，口縁部は「く」字形に屈曲。胴部は外面ハケメ後ナデ，内面ヘラケズリ後口縁部付近ナデ。褐色。
522 90001653	SB078	土師器 甕	口径15.7 器高	口縁部は内面に明瞭な稜をなして屈曲し，大きく外反。口縁部ナデ。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。褐色。
523 90001652	SB078 床直No.14	土師器 甕	口径14.0 器高	胴部は中位で張り，口縁部は不明瞭に屈曲して外反。口縁部ナデ。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。胴部内面に有機物付着。茶褐色。
524 90000615	SB078 床直No.3	土師器 鉢	口径12.6 器高	体部は丸底から急に立ち上がり，口縁部やや内湾。底部外面ヘラケズリ，他ナデ。褐色。
525 90000597	SB078 床直No.13	土師器 甕	口径16.0 器高12.2	底部はかすかに平底をつくり，胴部は肩が張る。口縁部は「く」字形に屈曲して端部を薄く仕上げる。胴部外面ハケメ後ナデ，内面ヘラナデ。褐色。
526 90000767	SB078 床直No.8	土師器 高坏	口径11.4 器高11.2	坏部は口縁がかすかに段をなして立ち上がる。脚部は裾が緩く開く。坏部外面ヘラケズリ後ナデ，内面ナデ。脚部外面ヘラナデ。明褐色。
527 90000598	SB078 床直No.12	土師器 坏蓋	口径13.0 器高 3.8	天井部は比較的低く，稜は鈍く張って口縁部がやや内傾気味に高く立つ。天井部外面3分の2ヘラケズリ後内外面ヘラケズリ。明茶褐色。
528 90000613	SB078 床直No.11	土師器 坏蓋	口径13.0 器高 3.8	内外面黒塗り。天井部は比較的低く，稜は段をなし口縁部が短く立つ。内外面ヘラケズリ。褐色。
529 90000599	SB078	土師器 坏蓋	口径13.3 器高 4.3	天井部は丸く，稜はかすかな段をなして口縁部が短く立つ。天井部外面ヘラケズリ後内外面ヘラミガキ。褐色。
530 90000600	SB078 床直No.15	土師器 坏蓋	口径13.0 器高 4.6	天井部は丸く，稜は段をなして口縁部が短く開く。天井部外面2分の1ヘラケズリ，他ヘラミガキ。暗褐色。
531 90000612	SB078 床直No.16	土師器 坏蓋	口径12.0 器高 3.8	外面赤色顔料塗布。天井部上面は比較的平坦で，口縁部が開き気味に立つ。天井部外面ヘラケズリ，内面ナデ。口縁部外面ハケメ，内面ナデ。茶褐色。
532 90001651	SB078	土師器 坏身	口径13.4 器高 4.7	内外面黒塗りの大形坏身。底体部は丸く，受部は段をなして口縁部が短く内傾。底部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。胎土褐色。
533 90001659	SB078	土師器 坏身	口径12.6	底体部は比較的浅く，受部は段をなして口縁部がやや内傾して立つ。底体部外面ヘラケズリ後，内外面ヘラミガキ。褐色。
534 90000614	SB078	土師器 坏身	口径10.0 器高 5.0	小形坏身。底体部は丸く，口縁部はかすかに屈曲して短く内傾。内外面ヘラミガキ。褐色。
535 90000616	SB078	土師器 手捏碗	口径 5.3 器高 3.3	尖底気味の丸底。手捏。茶褐色。
536 90000618	SB078	土師器 手捏碗	口径 4.0 器高 2.6	丸底，手捏。茶褐色。
537 90000797	SB090	土師器 甑	口径25.0	体部上半から口縁部が外反気味に開く。体部外面ナデ，内面ヘラケズリ。口縁部ナデ。明褐色。
538 90000790	SB090	土師器 甑	残高 8.9	体部中位はわずかに内湾気味に立ち上がる。鍵形把手。体部外面ハケメ後ナデ，内面ヘラケズリ。明褐色。
539 90001603	SB090 床直No.4	土師器 甕	口径25.1	胴部上位は張りがよわく，口縁部がややあまく屈曲して立ち上がり，端部外反。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ後ナデ。明褐色。
540 90001604	SB090 床直No.5	土師器 甕	口径14.6 器高20.9	胴部は丸底球状で中位が張り，口縁部はややあまく屈曲して外反。胴部外面ハケメ後ナデ，内面ヘラケズリ。明褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
541 90000769	SB090	土師器 壺	口径12.0	胴部は上位で丸く張り，口縁部が屈曲して直線的に長く開いて伸びる。胴部外面ハケメ後ナデ，内面ヘラケズリ。明茶褐色。
542 90000788	SB090	土師器 壺	口径 9.6 器高 7.6	小形丸底壺。口縁部はややあまく屈曲して直線的に開く。胴部外面ナデ，内面ヘラケズリ後ナデ。明褐色。
543 90001601	SB090 床直No.9	土師器 甑	口径15.7 器高 9.1	鉢形。体部は尖底気味の丸底から湾曲しながらやや急に立ち上がる。底部に焼成前穿孔。底体部内外面ヘラケズリ後，内面と口縁部ナデ。明褐色。
544 90000525	SB090 床直No.14	土師器 坏蓋	口径13.8 器高 5.3	外面黒塗り。天井部は丸く，稜は段をなして口縁部が直立。内外面ヘラミガキ。暗褐色。
545 90000528	SB090 床直No.10	土師器 坏蓋	口径13.5 器高 4.5	天井部は丸く，稜は段をなして口縁部が開き気味に立つ。外面は天井部ヘラケズリ，口縁部ナデ。内面ヘラミガキ。褐色。
546 90000793	SB090 床直No.17	土師器 坏蓋	口径12.9	稜は段をなし，口縁部が内傾して立つ。外面は天井部ヘラケズリ，口縁部ナデ。内面ナデ。明褐色。
547 90000795	SB090	須恵器 坏蓋	口径13.9 器高 5.3	天井部は丸く，稜はかすかに段をなし，口縁部が開き気味に長く伸びて端部を薄く仕上げる。天井部３分の２ヘラケズリ。灰色。
548 90000523	SB090	土師器 坏身	口径11.8 器高 5.0	底体部は丸く，たちあがりは段をなして口縁部直立。底部外面ヘラケズリ，底体部内面ヘラナデ，他ヘラミガキ。褐色。
549 90000529	SB090 床直No.15	土師器 坏身	口径11.3 器高 5.0	底体部は丸く，たちあがりはかすかに段をなして口縁部内傾。内外面ナデ仕上げ。明茶褐色。
550 90000518	SB090 床直No.7	土師器 坏	口径11.9 器高 5.0	体部は小さな平担をつくり，体部は湾曲しながら立ち上がって口縁部が薄く直行。底体部外面ヘラケズリ，内面ヘラナデ。褐色。
551 90000532	SB090 床直No.8	土師器 手捏碗	口径 4.0 器高 3.2	手捏丸底碗。褐色。
552 90000531	SB090 床直No.8	土師器 手捏碗	口径 3.6 器高 3.5	手捏丸底碗。褐色。
553 90000533	SB090 床直No.8	土師器 手捏碗	口径 3.2 器高 2.5	手捏丸底碗。褐色。
554 90000535	SB090	土師器 手捏碗	口径 3.9 器高 2.7	手捏丸底碗。褐色。
555 90000534	SB090	土師器 手捏碗	口径 3.8 器高 3.0	手捏丸底碗。褐色。
556 90000538	SB090	土師器 手捏碗	口径 3.5 器高 1.6	手捏丸底碗。褐色。
557 90000536	SB090	土師器 手捏碗	口径 3.3 器高 2.2	手捏丸底碗。褐色。
558 90000537	SB090	土師器 手捏碗	口径 3.7 器高 2.1	手捏丸底碗。褐色。
559 90000539	SB090	土師器 手捏碗	口径 2.7 器高 2.0	手捏平底碗。褐色。
560 90001606	SB090	土師器 勾玉	全長 3.7	指ナデ付けによる粗製勾玉。明褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
561 90000540	SB090	土師器 手捏鏡	長径 3.4 器高 1.5	粗製模造鏡。鏡面に当たる表を凸面をつくり，つまみ上げの鈕に刺突孔1を穿ける。暗褐色。
562 90000541	SB090	土師器 手捏鏡	長径 3.6 残高 1.1	粗製模造鏡。鏡面に当たる表を凸面をつくり，つまみ上げの鈕に刺突孔1を穿ける。暗褐色。鈕端部欠失。
563 90001795	SB103 カマド内	土師器 甕	口径16.8 器高30.5	胴部はやや縦長の球状に膨らみ丸底。口縁部は不明瞭に屈曲して外反。胴部は外面ハケメ後，底部ナデ，内面ヘラケズリ。口縁部ナデ。明茶褐色。
564 90002986	SB103	土師器 鉢	口径20.6 器高 8.1	底体部は比較的浅く，緩く湾曲して立ち上がる。底体部内外面ヘラケズリ，口縁部ナデ。明茶褐色。
565 90002983	SB103	土師器 碗	口径10.5	底体部は浅く，緩く湾曲して立ち上がる。底体部外面ヘラケズリ，内面ハケメ後ナデ。口縁部ナデ。明褐色。
566 90002976	SB103	土師器 手捏碗	口径 3.4 器高 1.7	手捏丸底碗。明褐色。
567 90003080	SB103 床直No.7	土師器 壺	胴径10.0	胴部は球状ながらわずかな平坦をつくる。胴部は外面粗くヘラミガキ，内面上半ヘラケズリ。茶褐色。
568 90003207	SB103 床直No.3	土師器 高坏	口径 9.7 器高12.0	坏部は受部が段をつくり，脚部は直線的に高く開き裾は短く外反。坏外面ヘラミガキ，内面ナデ。脚外面ヘラケズリ後粗くヘラミガキ。明茶褐色。
569 90003082	SB103 カマド内	土師器 甑	口径34.4	口縁部が短く外反して開く。体部外面ハケメ，内面ナデ。口縁部ナデ。暗褐色。
570 90003081	SB103	土師器 甑	残高13.7	体部は上半でやや急に内湾し，鍵形把手をもつ。体部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。茶褐色。
571 90003096	SB103	須恵器 坏蓋	口径12.9 器高 4.6	天井部は上面ほぼ平坦で稜は段をなし，口縁部は内湾しながら高く伸び，口唇部を斜めにナデて仕上げる。天井部ヘラケズリ。灰色。
572 90002975	SB103	須恵器 坏蓋	口径14.3	稜はかすかに痕跡を残し，口縁部は内湾しながら開き口唇部を斜めにナデて仕上げる。天井部ヘラケズリ。灰色。
573 90002974	SB103 カマド付近	須恵器 坏蓋	口径12.9	稜はかすかに痕跡を残し，口縁部はほぼ直に立って口唇部を斜めにナデて仕上げる。天井部ヘラケズリ。灰色。
574 90001796	SB103	土師器 坏蓋	口径12.8	内外面黒塗り。天井部は丸く，稜はわずかに段をなして口縁部が短く直立。内外面ヘラミガキ。胎土褐色。
575 90003197	SB103 床直No.1	土師器 坏蓋	口径13.4 器高 4.2	内外面黒塗り。天井部は丸く，稜は段をなして口縁部が外向気味に立つ。内外面ヘラミガキ。胎土褐色。
576 90003077	SB103	土師器 坏蓋	口径13.8	内外面黒塗り。天井部は丸く，稜は段をなし口縁部がやや外向気味に立つ。内外面ヘラミガキ。胎土暗褐色。
577 90003079	SB103	土師器 坏蓋	口径13.7 器高 4.1	内外面黒塗り。天井部は丸く，稜はかすかに段をなして口縁部が外向気味に立つ。内外面ヘラミガキ。胎土褐色。
578 90003196	SB103	土師器 坏身	口径16.1	大形坏。底体部は比較的浅く，受部は段をなし，たちあがりはやや内湾気味に立つ。内外面ナデ。褐色。
579 90003078	SB103	土師器 坏身	口径11.8 器高 3.5	外面に赤色顔料塗布。底体部は浅く，受部は段をなし，たちあがりはやや内傾気味に立つ。内外面ヘラミガキ。褐色。
580 86006170	SB106	土師器 甕	口径20.2 器高29.7	胴部は中位で張り，尖底気味。口縁部はややあまく「く」字形に屈曲して外反。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。淡褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
581 87000507	SB106 カマド内	土師器 甕	口径18.3	胴部は上位でつよく締まり，口縁部は不明瞭に屈曲して大きく外反。外面ハケメ後口縁部ナデ。胴部内面へラケズリ。明赤褐色。
582 90001875	SB106	土師器 甕	口径17.2	胴部は上位でつよく締まり，口縁部は大きく外反。胴部外面ハケメ，内面へラケズリ。後口縁部ナデ。胴部内面へラケズリ。明茶褐色。
583 90001874	SB106 床直	土師器 甕	口径15.9	口縁部は胴部から不明瞭に屈曲して直立気味に外反。胴部外面ハケメ，内面へラケズリ。褐色。
584 90003084	SB106	土師器 甕	口径16.2	口縁部は胴部から不明瞭に屈曲して直立気味に外反。胴部外面ハケメ，内面へラケズリ。褐色。
585 90003085	SB106	土師器 甕	口径13.0	口縁部は胴部からややあまく屈曲して外反しながら開く。胴部外面ハケメ，内面へラケズリ。褐色。
586 90003083	SB106	土師器 甕	口径13.9	口縁部は胴部から屈曲気味に外反し，端部を薄く仕上げる。胴部外面ナデ，内面へラケズリ。暗褐色。
587 90001894	SB106	土師器 甑	口径26.4	体部上位は直線的に立ち上がり，口縁部外反。体部外面ハケメ，内面はへラケズリ後口縁部付近ハケメ，さらに口縁部ナデ。褐色。
588 87000506	SB106	土師器 高坏	底径 6.4	小形高坏。脚部は低く，裾が短く開く。脚部外面へラケズリ，内面ナデ。黒褐色。
589 90003088	SB106	土師器 碗	口径 4.7 器高 3.3	手捏風の粗製平底碗。褐色。
590 87000505	SB106	須恵器 甕	口径13.3	口縁部は頸部から段をなして開き，口唇部をナデて平坦に仕上げる。口頸部内外面ナデ。全体に薄手でシャープ。灰褐色。591と同一個体か。
591 90001898	SB106	須恵器 甕	残高 6.6	胴部は肩がつよく張る。胴部肩位へラケズリ，他ナデ。明灰色。
592 90001877	SB106 床直	土師器 坏蓋	口径15.0	大形坏。天井部は丸く，稜はかすかに段をなして口縁部直立。内外面へラミガキ。茶褐色。
593 90000623	SB106	土師器 坏蓋	口径13.0 器高 4.0	内外面黒塗り。天井部は比較的低く，稜は段をなして口縁部が短く立つ。天井部外面へラケズリ，口縁部と内面へラミガキ。胎土褐色。
594 90000632	SB106 床直	土師器 坏蓋	口径12.6 器高 4.0	天井部は低く，稜はわずかに段をなして口縁部が短く立つ。天井部外面4分の3へラケズリ，他へラミガキ。褐色。
595 90001897	SB106	土師器 坏身	口径11.0	受部はかすかに段を残し，たちあがりはつよく屈曲して伸び，端部を薄く仕上げる。褐色。
596 90003087	SB106	須恵器 坏身	口径12.7	底体部は浅く，受部はつよく外方に張る。たちあがりはつよく内傾し，端部は斜めにナデてシャープに仕上げる。底部外面へラケズリ。灰色。
597 86006050	SB116 床直No.3	土師器 甕	口径11.1 器高14.6	胴部は球状丸底で，口縁部は屈曲せずに緩く外反。胴部外面は底部付近へラケズリ，他ナデ。胴部内面へラケズリ。赤褐色。
598 90003051	SB116 床直No.20	土師器 壺	頸径12.5 胴高19.5	胴部は中位で突出気味に張り丸底。口頸部はやや不明瞭に屈曲して直立。胴部は外面上半へラミガキ，下半ナデ，内面へラケズリ。赤褐色。
599 90001741	SB116 床直No.1	土師器 甕	口径18.7	胴部は上位でつよく締まり，口縁部は屈曲せずに外反。胴部は外面ハケメ，内面へラケズリ。明褐色。
600 90003213	SB116 床直No.19	土師器 甕	口径13.0	口縁部は不明瞭に屈曲して外反気味に開く。胴部肩位は外面ナデ，内面へラケズリ。明茶褐色。

図番号	出土地点	器種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
601 90003209	SB116 床直No.17	土師器 甕	口径 9.4	胴部は肩が張り，口縁部は不明瞭に屈曲して外反気味に立ち上がる。胴部肩位は外面ナデ，内面ヘラケズリ。褐色。
602 90003201	SB116 床直No.16	土師器 甕	口径 9.0	小形甕。口縁部は不明瞭に屈曲して外反気味に立ち上がる。胴部外面ナデ，内面は下半ヘラケズリ，上半ナデ。褐色。
603 90003202	SB116 床直No.22	土師器 壷	口径 9.4	胴部は肩が張り，口頸部は不明瞭に屈曲して直に立ち上がり，端部外反。胴部外面ナデ，内面は上半ヘラケズリ，下半ナデ。口頸部ナデ。茶褐色。
604 86006051	SB116 床直No. 5	土師器 高坏	口径15.2 器高12.6	坏部は浅く湾曲しながら開く。脚部は直線的に開き裾部で短く外に反ねる。坏部内外面ヘラミガキ，脚部外面縦ヘラナデ後粗く横ヘラミガキ。茶褐色。
605 90003204	SB116 床直No.19	土師器 鉢	口径18.6 器高 7.9	底体部は丸く，湾曲しながら立ち上がる。底体部の外面下半ヘラケズリ，他ナデ。褐色。
606 90003049	SB116 床直No.18	土師器 鉢	口径14.6 器高 8.0	体部は小さな平坦をつくり，体部は急に立ち上がって口縁端部は丸くナデてかすかに外反。体部外面ヘラケズリ，他ナデ付け。外面黒褐色，内面褐色。
607 86006032	SB116 床直No. 9	土師器 坏蓋	口径13.0 器高 5.0	天井部は器壁が厚く，丸味をもち，稜は段をなして口縁部直立。天井部外面ヘラケズリ，他ナデ。赤褐色。
608 86006044	SB116 床直No. 4	土師器 坏蓋	口径13.4 器高 4.8	内外面黒塗り。天井部は上面に平坦をつくり，稜は段をなして口縁部直立。天井部外面ヘラケズリ，他ナデ。胎土茶褐色。
609 90000622	SB116 床直No.12	土師器 坏蓋	口径13.6 器高 4.6	天井部は丸味をもちながら上面に平坦をつくり，稜はわずかに段をなして口縁部直立。天井部外面２分の１ヘラケズリ，他ヘラミガキ。褐色。
610 90000621	SB116 床直No.17	土師器 坏蓋	口径13.0 器高 5.1	天井部は丸く，稜はわずかに段をなして口縁部が内向気味に立つ。天井部外面３分の２ヘラケズリ，他ヘラミガキ。茶褐色。
611 90003092	SB116 床直No.21	土師器 坏蓋	口径13.1 器高 4.4	天井部は丸味をもち，稜は段をなして口縁部が直立。天井部外面ヘラケズリか，内面ヘラミガキ。明茶褐色。
612 90003091	SB116 床直No.21	土師器 坏蓋	口径15.8 器高 6.0	内外面黒塗りの大形坏蓋。天井部は丸く，稜は段をなして口縁部直立。内外面ヘラミガキ。胎土暗褐色。
613 86006035	SB116 床直No. 6	土師器 坏身	口径13.0 器高 4.5	底体部は丸く，受部は段をなし，たちあがりが直立する。底体部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。赤褐色。
614 90003074	SB116 床直No.15	土師器 坏身	口径12.2 器高 4.8	内外面黒塗り。底体部は丸く，受部は段をなし，たちあがりがやや内傾。底体部外面ヘラケズリか，他ヘラミガキ。胎土茶褐色。
615 86006045	SB116	土師器 坏身	口径12.0 器高 5.0	底体部は丸く，受部は段をなし，たちあがりが直立する。底体部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。明黄褐色。
616 86006034	SB116	土師器 坏身	口径12.0 器高 4.8	底体部は丸く，受部は段をなし，たちあがりがつよく内傾する。底体部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。赤褐色。
617 86006036	SB116 床直No.13	土師器 坏	口径13.0 器高 4.2	底部は不安定な平坦をつくり，体部は急に立ち上がって口縁部上面を平坦にナデる。底体部外面ヘラケズリ後ナデ，他ナデ。赤褐色。
618 86006031	SB116	土師器 坏	口径12.2	体部は急に内湾して口縁部内向。体部外面ヘラケズリ，内面ナデ。赤褐色。
619 90003093	SB119 床直No. 1	土師器 坏蓋	口径13.6	天井部は丸く，稜はわずかに段をなして口縁部直立。内外面ヘラミガキ。赤褐色。
620 90003094	SB119 床直No. 2	土師器 坏蓋	口径14.8	天井部は丸味をもち，稜は段をなして口縁部が外向気味に立つ。内外面ヘラミガキ。褐色。

図番号	出土地点	器種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
621 86005950	SB119	土師器 坏蓋	口径14.6 器高 4.0	天井部は丸味をもち，稜は段をなして口縁部が外向気味に立つ。内外面ヘラミガキ。褐色。
622 86005952	SB119	土師器 坏身	口径12.2 器高 4.4	底体部は丸く，受部は段をなし，たちあがりが短く内傾する。底体部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。赤褐色。
623 90003199	SB119 床直No.5	土師器 碗	口径12.7 器高 6.1	底部は厚く体部が急に立ち，受部はわずかに段をなし，たちあがりが薄く外傾。底部外面はヘラケズリ不十分，他ヘラミガキ。明褐色。
624 90003195	SB119 床直No.7	土師器 甕	口径13.6	胴部は張りが少なく，口縁部は不明瞭に屈曲して短く開き，端部を薄く仕上げる。胴部外面ナデ，内面ヘラケズリ。茶褐色。
625 86005947	SB119	須恵器 坏蓋	口径15.6 器高 4.9	大形坏身。天井部上面は平坦で，稜は張りがよわく，口縁部は外向しながら高く立ち，口唇部を斜めにナデる。天井部外面ヘラケズリ。灰色。
626 86005949	SB119	須恵器 坏蓋	口径14.6 器高 5.1	天井部上面は平坦で，稜はかすかに痕跡を残し，口唇部は外向しながら高く立ち，口唇部を斜めにナデる。天井部外面ヘラケズリ。灰色。
627 86005951	SB119	須恵器 坏身	口径12.9 器高 4.0	底部は比較的平坦で，受部はつよく外方に張り，たちあがりが内傾する。底体部３分の２ヘラケズリ。黄灰色
628 92002599	SB124 西側	土師器 甕	口径27.5 器高25.9	体部は下半が直線的に伸び，上半で内湾気味に立ち上がる。鍵形把手。体部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。口縁部内面にハケメ残る。全体に茶褐色。
629 90001625	SB124	土師器 甕	口径16.2	胴部はあまり張らず，口縁部は胴部から緩く反転して外反気味に開く。胴部外面ヘラナデ，内面ヘラケズリ。明褐色。
630 90001899	SB124 西側	土師器 甕	口径18.0	胴部はつよく張り，口縁部は不明瞭に屈曲して外反気味に開く。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。茶褐色。
631 90001880	SB124 西側	土師器 鉢	口径19.4	胴部は張りがなく，口縁部はわずかに屈曲して直線的に開く。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。暗褐色。
632 90001885	SB124 東側	土師器 甕	口径12.0	口縁部は「く」字形に屈曲して開く。口縁部から胴部上位にかけて内外面ナデ。褐色。
633 90001879	SB124 西側	土師器 高坏	口径21.8	坏部のみ残。体部は急に立ち上がり，口縁部が外方に大きく外反する。内外面ヘラミガキ。外面黒塗り。胎土褐色。
634 90001888	SB124 東側	土師器 坏蓋	口径13.8	内外面黒塗り。稜は明瞭な段をつくり，口縁部が外向気味に立つ。内外面ヘラミガキ。胎土褐色。
635 90001882	SB124 西側	土師器 坏	口径17.0 器高 4.7	底体部は丸く，口縁部が直立気味に立ち上がる。底部外面にヘラケズリを残して，他ナデ。褐色。
636 90001890	SB124 東側	須恵器 坏身	口径11.4	底体部は丸く，受部は上向気味に張り出し，口縁部派内傾し口唇部を斜めにナデる。体部から口縁部にかけて内外面ナデ。黄灰色。
637 92002346	SK026 床直No.8	土師器 甕	口径14.2 器高23.5	胴部は球状丸底で，口縁部が屈曲せず外反しながら立ち上がる。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。明茶褐色。
638 90000502	SK026 床直No.9	土師器 甕	口径15.3 器高16.3	底部は不安定な平坦をつくり，口縁部が屈曲せず大きく外反する。胴部外面ナデ，内面ヘラケズリ後ナデ。赤褐色。
639 90000503	SK026 床直No.4	土師器 甕	口径17.0 器高12.7	体部は湾曲気味に立ち上がり，口縁部わずかに外反。尖り気味の底部に焼成前穿孔。体部内外面ヘラケズリ後，外面上半ヘラナデ。口縁部ナデ。褐色。
640 90000501	SK026 床直No.2	土師器 壺	口径10.3 器高12.8	胴部は低くつぶれて丸く，口縁部はやや不明瞭に屈曲して直線的に開き端部がかすかに外反。外面ヘラナデ，内面指ナデ。褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
641 90000506	SK026 床直No.26	土師器 坏蓋	口径12.0 器高 8.6	天井部は丸く，稜は段をなして口縁部直立。天井部外面の3分の2ヘラケズリ，他ヘラミガキ。褐色。
642 90000505	SK026 床直No.10	土師器 坏蓋	口径10.8 器高 4.9	天井部は丸く，稜は段をなして口縁部が高く直立。天井部ヘラケズリ，他ナデ。褐色。
643 90000504	SK026 床直No.10	土師器 坏	口径12.1	底部は丸味をもち，体部から口縁部まで急に内湾しながら立ち上がる。底体部外面ヘラケズリ，内面ナデ。口縁部ナデ。茶褐色。
644 86005996	SK077	土師器 坏蓋	口径14.0 器高 3.9	内外面黒塗りか。天井部は低くつぶれ，稜は段をなして口縁部がやや外向気味に立つ。天井部外面ヘラケズリ後，内外面ヘラミガキ。胎土褐色。
645 86005991	SK077	土師器 坏蓋	口径14.0	天井部は丸く，稜は段をなして口縁部直立。天井部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。明黄褐色。
646 86005992	SK077	土師器 坏蓋	口径14.0	天井部は丸く，稜は段をなして口縁部直立。天井部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。明茶褐色。
647 86005997	SK077	土師器 坏蓋	口径14.0 器高 4.6	天井部は丸く，稜は段をなして口縁部が外向しながら立つ。内外面ヘラミガキ。赤褐色。
648 86005993	SK077	土師器 坏蓋	口径14.0 器高 4.2	天井部は丸く，稜は段をなして口縁部が外向しながら立つ。天井部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。赤褐色。
649 86005995	SK077	土師器 坏蓋	口径12.2 器高 4.3	天井部は丸く，稜は段をなして口縁部が外向しながら立つ。天井部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。赤褐色。
650 86005988	SK077	土師器 坏蓋	口径12.7 器高 4.5	天井部は丸く，稜は段をなして口縁部が外向しながら立つ。天井部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。暗褐色。
651 86005989	SK077	土師器 坏身	口径10.8 器高 5.3	内外面黒塗りか。底体部は丸く，受部は段をなす。たちあがりはつよく内傾し，口唇部はナデて鋭く仕上げる。内外面ヘラミガキ。胎土明褐色。
652 86005994	SK077	土師器 坏身	口径12.4 器高 4.0	底体部は丸味をもち，受部はかすかに段をなし，たちあがりが内傾する。天井部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。赤褐色。
653 86005990	SK077	土師器 高坏	口径14.0	坏部は緩く湾曲しながらたちあがり，口唇部はナデて鋭く仕上げる。内外面ヘラミガキ。坏部外面明褐色，内面淡褐色。
654 87000603	SD126	土師器 甑	口径26.2 器高26.5	体部は中位でやや急に内湾して立ち上がり，口縁部が大きく外反して端部を薄く仕上げる。鍵形把手。体部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。褐色。
655 87000551	SD126 床直No.2	土師器 甕	口径18.7 器高29.1	胴部は長胴気味丸底。口縁部はやや不明瞭に屈曲して外反。胴部は外面ハケメ，内面ヘラケズリ。口縁部外面ハケメ後ナデ。茶褐色。胴下半に煤付着。
656 90003165	SD126 床直No.10	土師器 鉢	口径10.0	胴部は低くつぶれて上位で張り，口縁部が短く立つ。胴部は外面ハケメ，内面ヘラケズリ。明茶褐色。
657 90003159	SD126	土師器 甕	口径19.0	口縁部はややあまく「く」字形に屈曲して外反気味に開く。胴部は外面ハケメ，内面ヘラケズリ。明茶褐色。
658 90003161	SD126 床直No.13	土師器 甕	口径22.4	胴部は張りが少なく，口縁部は胴部から屈曲せずに大きく外反して開く。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。茶褐色。
659 90003158	SD126 床直No.5	土師器 甕	口径17.8	胴部は中位でつよく締まり，口縁部は胴部から不明瞭に屈曲して外反気味に立ち上がる。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ後，一部ナデ。明茶褐色。
660 86005690	SD126 床直No.16	土師器 甕	口径14.5 器高16.2	胴部は中位で張り，口縁部は胴部から不明瞭に屈曲して開く。胴部外面ハケメ後ナデ，内面ヘラケズリ。口縁部内面ヘラケズリ後ナデ。黒褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
661 86005689	SD126	土師器 甕	口径10.8 器高13.9	胴部は不整形な球状丸底で，口縁部はよわく屈曲して直線的に立ち上がる。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。外面から口縁部内面まで煤付着。褐色。
662 86006135	SD126 床直№16	土師器 壺	胴径13.5	胴部は球状を思わせ，口縁部はよわく屈曲して直線的に長く立ち上がる。胴部外面ナデか，内面ヘラケズリ。口縁部ナデ。暗褐色。
663 86006126	SD126 床直№23	土師器 坏蓋	口径12.9 器高 4.6	天井部は上面平坦をつくり，稜は段をなして口縁部直立。天井部外面ヘラケズリ，内面ナデ。口縁部内外面ヘラミガキ。明茶褐色。
664 86006129	SD126 床直№19	土師器 坏蓋	口径13.5 器高 4.6	天井部は丸味をもち，稜は段をなして口縁部がやや外反気味に直立。天井部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。黄褐色。
665 86006132	SD126 床直№20	土師器 坏蓋	口径12.4	天井部は丸味をもち，稜は段をなして口縁部直立。内外面ヘラケズリ，淡褐色。
666 86006128	SD126	土師器 坏蓋	口径12.2 器高 4.4	天井部は丸く，稜はかすかに段をなして口縁部がやや外反気味に直立。天井部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。明茶褐色。
667 86006130	SD126 床直№12	土師器 坏蓋	口径13.1 器高 3.9	天井部は山形で低く，稜は外方につよく張り出し口縁部が外向気味に立つ。天井部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。明褐色。口縁部外面に煤付着。
668 86005688	SD126 床直№20	土師器 坏蓋	口径12.4 器高 4.4	天井部は丸く，稜はかすかに段をなして口縁部がやや外向して高く立つ。天井部外面ヘラケズリ後ナデ，他ヘラミガキ。褐色。
669 86006124	SD126 床直№20	土師器 坏蓋	口径13.6 器高 4.7	天井部は丸味をもち，稜は段をなして口縁部がやや外向気味に立つ。天井部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。明茶褐色。
670 86006127	SD126 床直№17	土師器 坏蓋	口径14.0 器高 4.6	天井部は丸味をもち，稜は段をなして口縁部が外向して立つ。天井部外面ヘラケズリ，他ナデ。黄褐色。
671 90003163	SD126 床直№ 7	土師器 坏蓋	口径12.2	内外面黒塗り。天井部は丸く，稜はかすかに段をなして口縁部が直立。内外面ヘラミガキ。褐色。
672 86005686	SD126 床直№ 2	土師器 坏蓋	口径11.0 器高 4.6	天井部は丸く，稜はかすかに段をなして口縁部が直立。天井部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。明茶褐色。
673 86006125	SD126 床直№ 2	土師器 坏身	口径11.0 器高 4.6	底体部は丸く，受部はつよく外方に張り出し，たちあがりが外反気味に直立する。底体部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。内面黒灰色，外面黄灰色。
674 86005685	SD126	土師器 坏身	口径12.4 器高 4.5	内外面黒塗り。底部は不安定な平坦をつくり，受部は段をなし，たちあがりが直立する。内外面ヘラミガキ。胎土褐色。
675 86006131	SD126 床直№19	土師器 坏身	口径13.0 器高 5.1	底体部は丸く，受部はかすかに段をなし，たちあがりが直立。底体部外面ヘラケズリ，他ヘラミガキ。胎土明茶褐色。
676 86005684	SD126	土師器 坏	口径11.5 器高 4.0	底部は不安定な平坦をつくり，体部はやや内湾気味に開いて立ち上がる。内外面ナデ。褐色。
677 90003166	SD126	土師器 板状品	残径 5.4 残厚 1.2	板状土製品の残欠，あるいは何らかの飾耳の類か。外周，両面を粗くナデて仕上げる。両面を不規則な櫛描文で飾る。微砂粒少し含む。茶褐色。
678 87000625	SD125	土師器 甕	胴径26.3	胴部は中位やや上で張り，丸底。外面ハケメ，内面ヘラケズリ。褐色。胴部外面下半に煤付着。
679 90003509	SK077	土師器 手捏碗	口径 2.0 器高 1.5	極小の手捏粗製品。茶褐色。
680 90003508	SK077	土師器 勾玉	全長 2.4	手捏の粗製勾玉。頭部に穿孔。明褐色。

(2) 角　杯

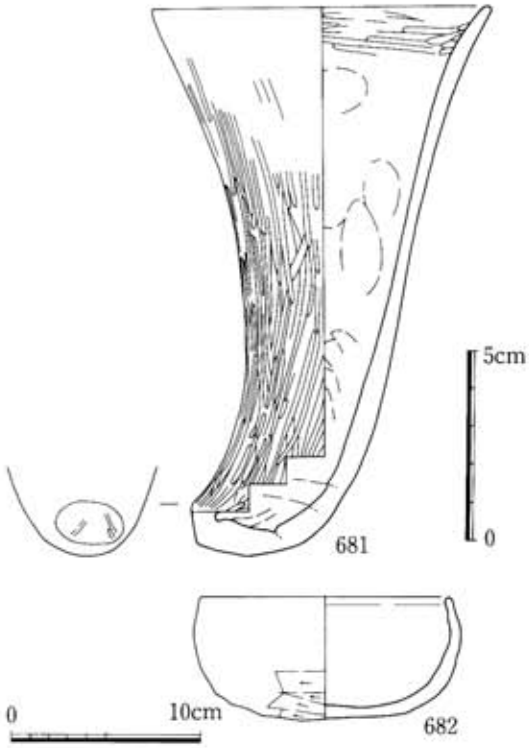


Fig. 115　SD140出土土師器(681は1/2，682は1/4)

SD140埋土上面から須恵器を模した完形の土師器の角杯681が1点出土した。器高14.4cm，口径8.8cm，内容積は約200ccである。器形はまさに角杯そのもので，体部から口縁部にかけてはラッパ状に大きく開き，体部下半は徐々に曲げて先端部に小さな平坦面をつくる。成形はまず体部を筒状につくり，下端部は外側から粘土を充てて塞いでいる。調整は外面全体に縦方向のヘラミガキを丹念に施し，内面では口縁部付近に横方のヘラミガキが及ぶ。胎土は微砂粒を含み，よく精選されている，焼成良好で明褐色。口縁部付近の内外面には黒塗りの痕跡が認められ，もともと黒色磨研であった可能性がつよい。なお，682は同じSD140から出土した碗。厳密な意味で共伴といえるかどうか問題はあるが，一応，参考資料として挙げておく。底外面ヘラケズリで，内面及び体部ヘラミガキの黒色土器である。口径10.7cm，器高5.3cm。

須恵器の角杯は国内でもでわずかながら出土例が知られるが，土師器の角杯は国内では唯一の出土例である。時期はおそらく6世紀前半かと推定する。土師器の坏と同様に，須恵器に対する在地の人々のつよい憧れを感じさせると共に，その手慣れた手法から，これら模擬須恵器が専門工人の手で組織的に生産される状況にあったことを窺わせる。

(図番号－実測図番号)　681-93001478 682-87001629

(3) 紡　錘　車

検出面出土等も含め，紡錘車5点を図示しておく。

683はST003石室前庭部出土。一方から穿孔した土製でぶ厚い。径4.8cm，厚さ1.6cm。明褐色。684は検出面出土。半分を欠失する。復元径4.6cm，厚さ1.6cm。明褐色。685はSB103出土。滑石製で扁平な特徴をもつ。径5.6cm，厚さ0.5cm。686はST005の南側から出土した。滑石製で断面台形に粗く研磨している。径3.8cm，厚さ1.8cm。687はSK110出土。滑石製で断面台形。2分の1以上を欠失する。復元径4.6cm，厚さ1.4cm。

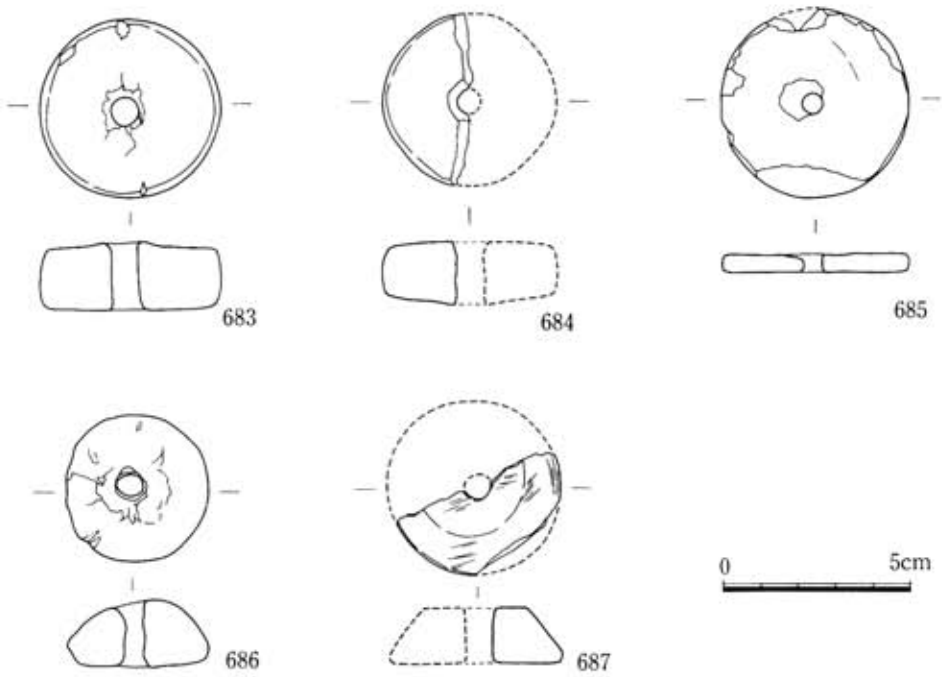


Fig. 116　紡錘車（1/2）

（図番号－実測図番号）683-8700525 684-90002842 685-90003501 686-90002611 687-3003580

(4) 砥　　石

ST004古墳の石室から688が1点のみ出土した。きめの細かい灰色の頁岩を使用した提砥石である。全体が短冊型に細長く，先に向かってやや幅が開く。両面は使用によって薄く減っている。基部と先端をわずかに欠く。残存長11.3cm，先幅3.2cm。（図番号－実測図番号）　688-91002212

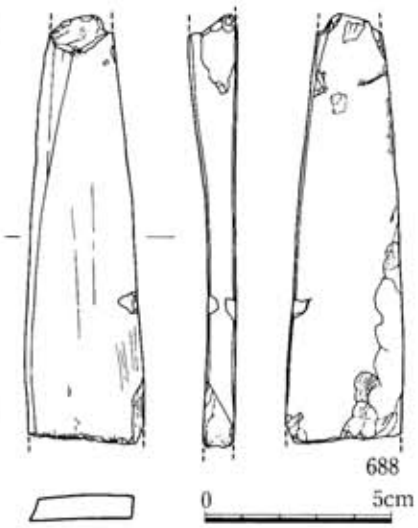


Fig. 117　砥石（1/2）

(5) 鉄　　器

鉄器は古墳を中心に若干出土した。689・690はST004石室出土。689は刀子の茎，あるいは鉇の基部か。断面長方形で，柄の木質が残る。残存長8.5cm。690は断面が板状で，鉇の基部と見られる。残存長8.5cm，幅1.2cm，厚さ0.3cm。691・692はST003石室出土。691は刀子で，研ぎ減りにより刃が短く幅狭になっている。茎端をわずかに欠失し，残存長9.0cm。692は金交具の残欠で，断面円形の鉄線を曲げて作っている。残存長5.2cm，最大幅3.4cm。693は小形のノ

ミの茎かと見られ，刃部を欠失する。SB116出土。刃部近くは断面方形で，ソケット状の茎をもつ。残存長4.2cm。茎径1.1cm。694はノミ。刃部は断面が板状で，切先がわずかに開く。片刃かどうかは確認できない。茎はソケット状で柄の木質が残存する。SD087付近の検出面から出土。全長15.4cm，茎径2.4cm。（図番号－実測図番号）　689-97000212 690-97000923 691-97000916 692-97000920 693-90002563 694-90002562

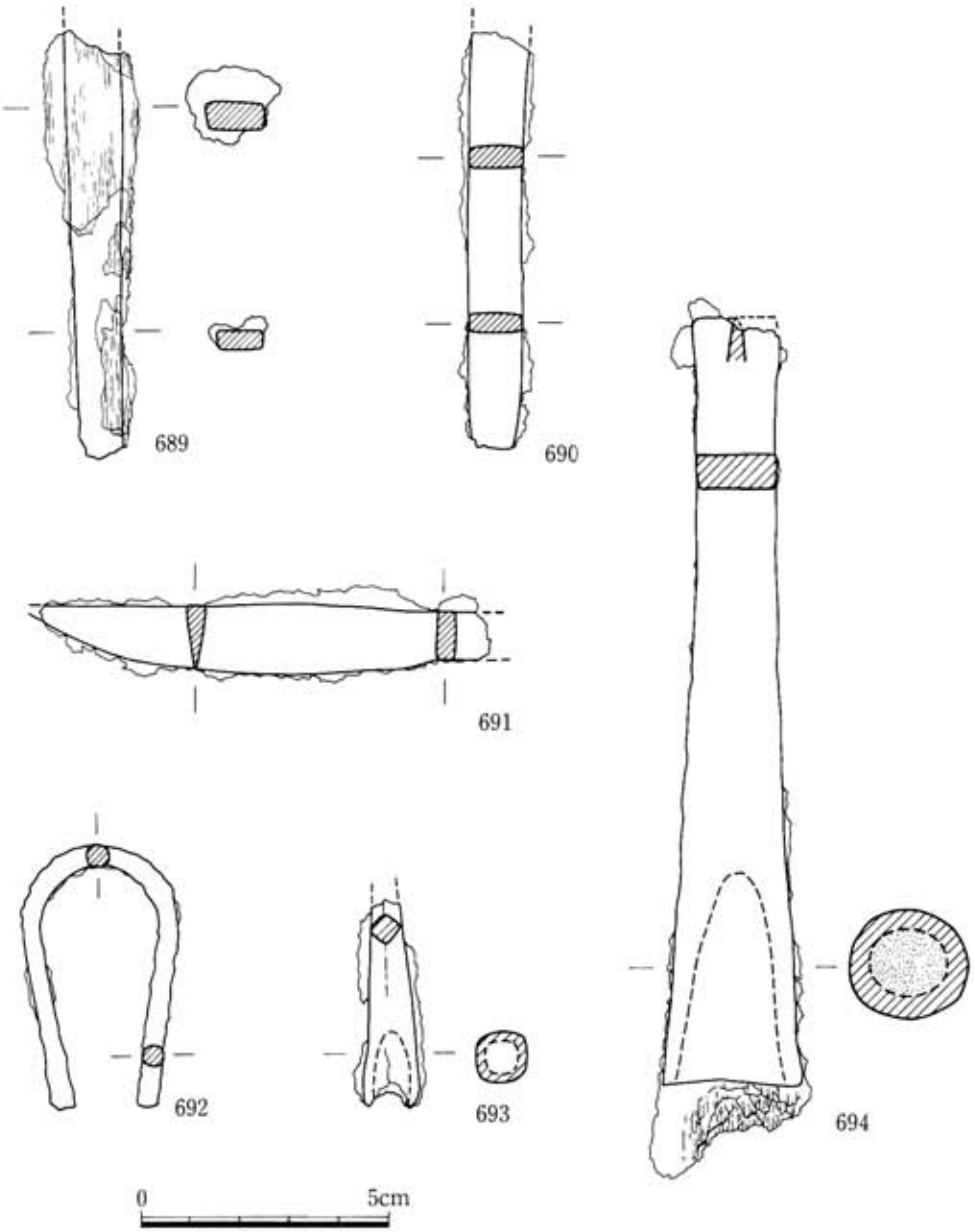


Fig. 118　鉄器（2/3）

4．平安時代以降の遺物

＜概　要＞

奈良時代以降では，平安時代後期の土師器及び陶器と，中世の土師器及び瓦質土器が若干出土した。平安時代の土師器については，溝の埋土から小量ながら出土した土師器を図示する。

また，中世土器は，SD012及びSD014からある程度まとまって出土した。

(1)　平安時代の土師器・陶器

SD028から土師器坏が出土した。695は体部が湾曲しながら立ち上がる大形坏で糸切り底。小形坏は体部が直線的に開き，口縁部やや外反。696・697は糸切り底，698・699はヘラ切り離しである。SD087からは陶器及び土師器坏・皿が出土した。700は褐釉の長胴壷，701・702は糸切り底の浅い大形坏，703は糸切り底の小皿。

SD111からは高い高台が付く坏704・705，及び高台が退化した大形坏706が出土している。

これらの遺物は，SD111の土師器が11世紀後半，SD028・SD087の土師器・陶器は12世紀の時期を示しており，掘立柱建物跡の時期をも示唆するものであろう。

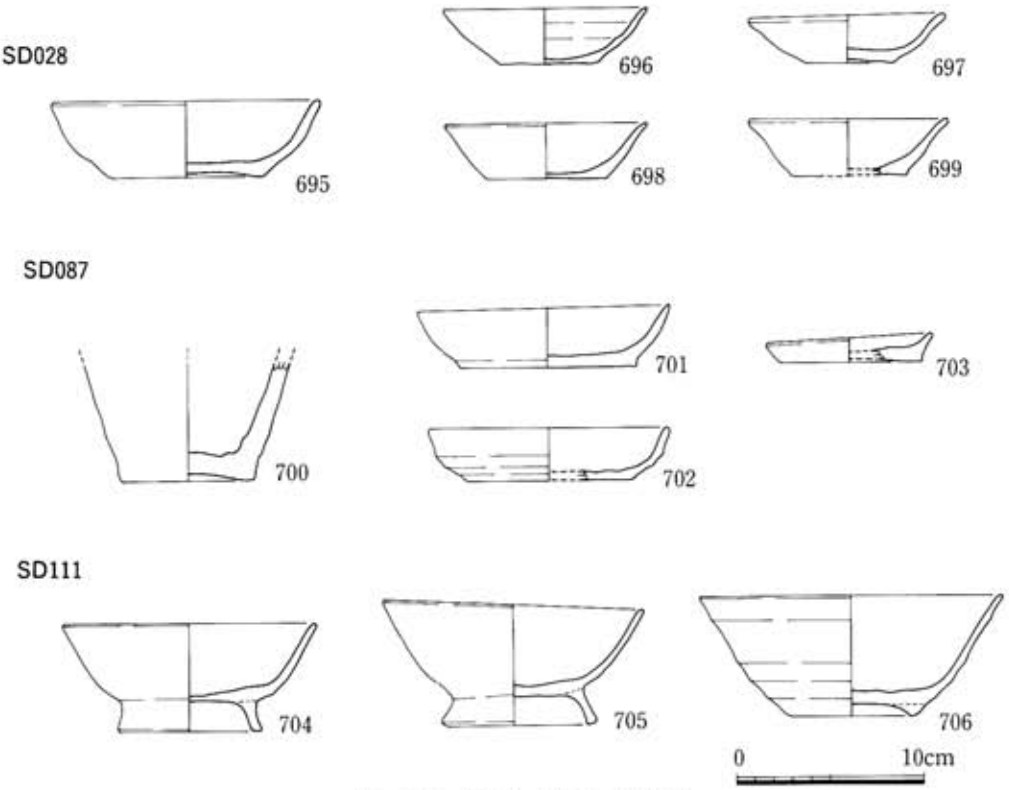


Fig. 119　溝出土土師器（1/4）

Tab. 4　平安時代の土師器・陶器観察表

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
695 86003997	SD028	土師器 坏	口径14.0 器高 4.1	底部はやや上げ底で広く，体部は湾曲しながらやや急に立ち上がる。底部に糸切り痕を残し，体部回転ナデ。茶褐色。
696 86003995	SD028	土師器 坏	口径10.7 器高 3.1	体部はやや湾曲しながら緩く立ち上がる。底部に糸切り痕を残し，体部回転ナデ。茶褐色。
697 90002652	SD028	土師器 坏	口径10.4 器高 2.9	体部は直線的に緩く立ち上がる。底部にヘラ切り離し痕を残し，体部回転ナデ。明褐色。
698 86003996	SD028	土師器 坏	口径10.4 器高 2.7	体部はやや湾曲しながら緩く立ち上がり，口縁部やや外反気。底部に糸切り痕を残し，体部回転ナデ。淡茶褐色。
699 90003653	SD028	土師器 坏	口径10.4 器高 3.0	体部は直線的に緩く立ち上がる。底部にヘラ切り離し痕を残し，体部回転ナデ。明褐色。
700 86005898	SD087	陶器 長胴壺	底径 6.9	褐釉長胴壺。底部付近のみ残。底部ヘラケズリ，体部はロクロナデ仕上げ。外面は赤みを帯びた灰色。
701 86005897	SD087	土師器 坏	口径13.3 器高 3.3	底部は安定した広い平底で，体部は浅く，内湾気味に立ち上がる。底部にヘラ切り離し痕を残し，体部回転ナデ。茶褐色。
702 86005896	SD087	土師器 坏	口径12.6 器高 2.8	底部は安定した広い平底で，体部は浅く，内湾しなから急に立ち上がる。底部にヘラ切り離し痕を残し，体部回転ナデ。淡茶褐色。
703 86005895	SD087	土師器 小皿	口径 8.8 器高 1.6	底部は広く，体部が短く立つ。底部にヘラ切り離し痕を残し，体部は回転ナデ。茶褐色。
704 86003994	SD111	土師器 坏	口径13.2 器高 5.8	体部は底部から緩く屈曲して直線的に立ち上がり，高台は底部のやや内側に入る。底部外面にヘラケズリ痕を残し，体部と高台ロクロナデ。淡褐色。
705 86003993	SD111	土師器 坏	口径13.7 器高 6.7	底体部は緩く湾曲しながら立ち上がり，高台がつよく外に張る。底部外面にヘラケズリ痕を残し，体部と高台ロクロナデ。赤褐色。
706 87000508	SD111	土師器 坏	口径16.0 器高 6.4	体部は深く，底部から緩く屈曲して直線的に立ち上がり，ごく低い高台が底部外端に付く。底にヘラ切り離し痕を残し，体部ロクロナデ。明赤褐色。

(2)　中世の土師器・瓦質土器

SD012から土師器及び瓦質土器がある程度まとまって出土した。

707～710は瓦質で，707・708は鍋，709は浅鉢，710は双耳付きの直口鍋である。土師器坏は全て糸切り底で，口径に大小２種が見られる。711～715は口径約10～11cmで，体部は直線的に開くものが多い。716～721は口径７cm前後で，体部は直線的に開くものが多い。

その他，SD014から出土した瓦質鍋722，瓦質鉢723・724，及び土師器坏725～730を挙げておく。様相はSD012とよく似ている。

これらの土師器は14世紀に位置付けられよう。

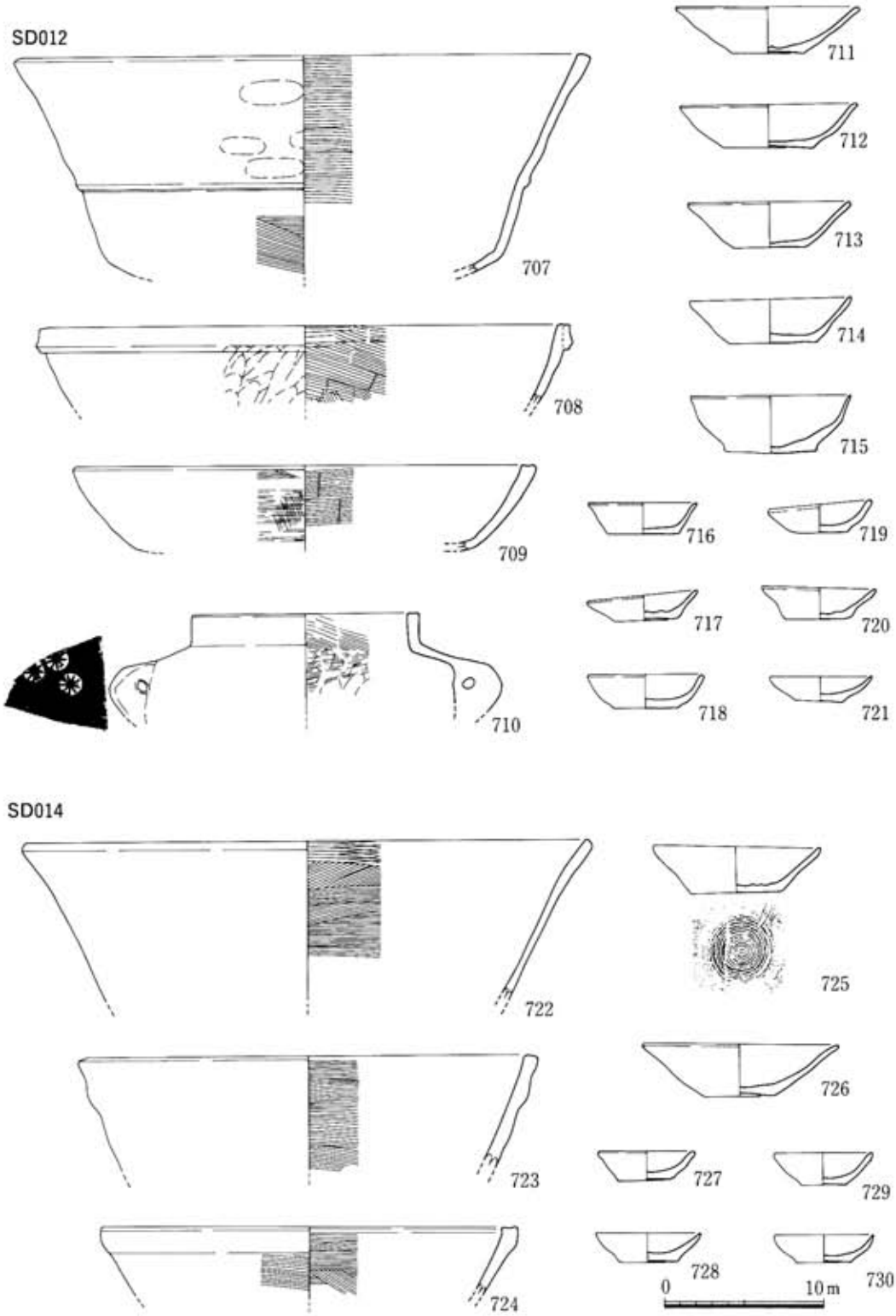


Fig. 120　中世土器（1/4）

Tab. 5　中世土器観察表

図番号	出土地点	器　種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
707 90002719	SD012	瓦器 鍋	口径35.6	底部は不安定で体部が緩く屈曲して外反気味に立ち上がり，突帯を巡らす。体部外面は下位ハケメ，上位ナデ。内面は上位ハケメ，下位ナデ。褐灰色。
708 90002628	SD012	瓦器	口径31.4	体部上位は内湾し，口縁部に帯状突帯を巡らす。外面指ナデ付け，内面ハケメ。褐色。外面に煤付着。
709 90002720	SD012	瓦器 浅鉢	口径28.2	体部は浅く，底部から緩く屈曲して立ち上がる。内外面ハケメ。暗灰色。
710 90002630	SD012	瓦器 鍋	口径12.8	体部は肩が張り，口縁部直行。肩位に有孔把手1対をもつ。外面ナデ，内面ハケメ後ナデ。胴部肩位に花柄刻文が残る。暗褐色。
711 86005886	SD012	土師器 坏	口径11.3 器高 2.9	体部はわずかに内湾しながら緩く開いて立ち上がる。底部に糸切り離し痕を残し，ロクロナデ仕上げ。茶褐色。
712 86005877	SD012	土師器 坏	口径11.1 器高 2.9	体部は内湾しながら緩く開いて立ち上がる。底部に糸切り離し痕を残し，ロクロナデ仕上げ。薄茶色。
713 86005878	SD012	土師器 坏	口径10.0 器高 2.8	体部は直線的に開いて立ち上がり，口縁部やや外反。底部に糸切り離し痕を残し，ロクロナデ仕上げ。薄茶色。
714 86005879	SD012	土師器 坏	口径10.1 器高 2.8	体部は直線的に開いて立ち上がる。底部に糸切り離し痕を残し，ロクロナデ仕上げ。薄茶色。
715 86005876	SD012	土師器 坏	口径 9.9 器高 3.6	体部は緩く内湾し，口縁部がやや急に立ち上がる。底部に糸切り離し痕を残し，ロクロナデ仕上げ。茶褐色。
716 86003998	SD012	土師器 坏	口径 6.7 器高 2.0	体部は安定した平底から直線的に開いて立ち上がる。底部に糸切り離し痕を残し，ロクロナデ仕上げ。茶色。
717 86003999	SD012	土師器 坏	口径 6.3 器高 2.1	体部は内湾して立ち上る。器形が全体に歪む。底部に糸切り離し痕を残し，ロクロナデ仕上げ。薄茶色。
718 86005882	SD012	土師器 坏	口径 6.8 器高 1.8	体部は直線的に開いて立ち上がる。器形が全体に歪む。底部に糸切り離し痕を残し，ロクロナデ仕上げ。茶褐色。
719 86005881	SD012	土師器 坏	口径 7.1 器高 2.2	体部は直線的に開いて立ち上がる。器形が全体に歪む。底部に糸切り離し痕を残し，ロクロナデ仕上げ。茶褐色。
720 86005880	SD012	土師器 坏	口径 7.0 器高 2.1	体部は内湾してやや急に立ち上がる。底部に糸切り離し痕を残し，ロクロナデ仕上げ。茶褐色。
721 90002721	SD012	土師器 小皿	口径 6.4 器高 1.6	体部は浅く，内湾しながら大きく開いて立ち上る。底部に糸切り離し痕を残し，ロクロナデ仕上げ。明褐色。
722 90002705	SD014	瓦器 鍋	口径34.8	体部上半は直線的に開いて立ち上がり，口縁部わずかに外反。外面ナデ，内面ハケメ。外面全体に煤付着。暗褐色。
723 90002711	SD014	瓦器 鍋	口径27.0	体部上半は直線的に開いて立ち上がる。外面ナデ，内面ハケメ。外面全体に煤付着。褐灰色。
724 90002736	SD014	瓦器 鍋	口径25.6	体部上半は直線的に開いて立ち上がり，口縁部肥厚。内外面ハケメ。外面全体に煤付着。暗褐色。
725 87000544	SD014	土師器 坏	口径10.4 器高 3.1	体部は直線的に開いて立ち上がり，口縁部やや外反。底部に糸切り離し痕を残し，ロクロナデ仕上げ。明茶褐色。
726 87000545	SD014	土師器 坏	口径12.1 器高 4.5	体部はわずかに内湾しながら緩く開いて立ち上がる。底部に糸切り離し痕を残し，ロクロナデ仕上げ。明褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
727 87000532	SD014	土師器 坏	口径 5.8 器高 1.9	体部はやや内湾気味に立ち上がる。底部に糸切り離し痕を残し，ロクロナデ仕上げ。明褐色。
728 87000531	SD014	土師器 坏	口径 6.6 器高 1.7	体部はやや内湾気味に立ち上がる。底部に糸切り離し痕を残し，ロクロナデ仕上げ。褐色。
729 87000528	SD014	土師器 坏	口径 6.2 器高 2.0	体部はやや内湾気味に立ち上がる。底部に糸切り離し痕を残し，ロクロナデ仕上げ。明褐色。
730 87000530	SD014	土師器 坏	口径 6.2 器高 1.7	体部は内湾して立ち上がる。底部に糸切り離し痕を残し，ロクロナデ仕上げ。白褐色。

猿嶽（さるだけ）A 遺跡

遺跡名：猿嶽A遺跡（略号　SDA）
所在地：神埼郡神埼町大字城原字湯原

猿嶽A遺跡

I 遺跡の概要

猿嶽A遺跡は，神埼郡神埼町大字城原字湯原に所在する。脊振山系南麓の城山(標高156.1m)からほぼ南に延びる丘陵のテラス状縁辺部(標高約40m)に位置する。谷をはさんで西側に所在する猿岳（標高256m）南麓部の古墳群を含めて猿嶽古墳群（猿嶽百塚）と総称されるが，そのもっとも東側に位置する一支群である。

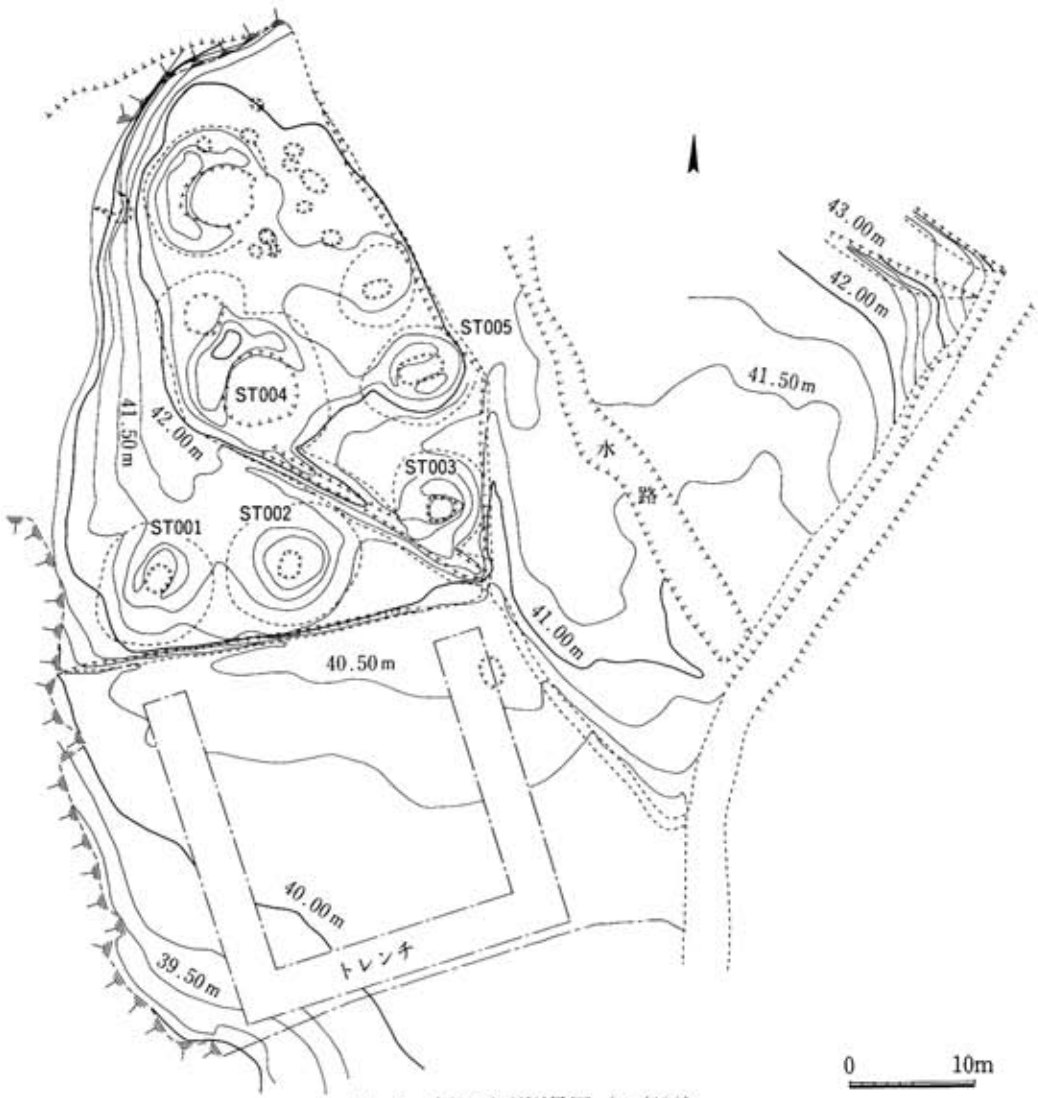


Fig. 1 周辺地形測量図（1/600）

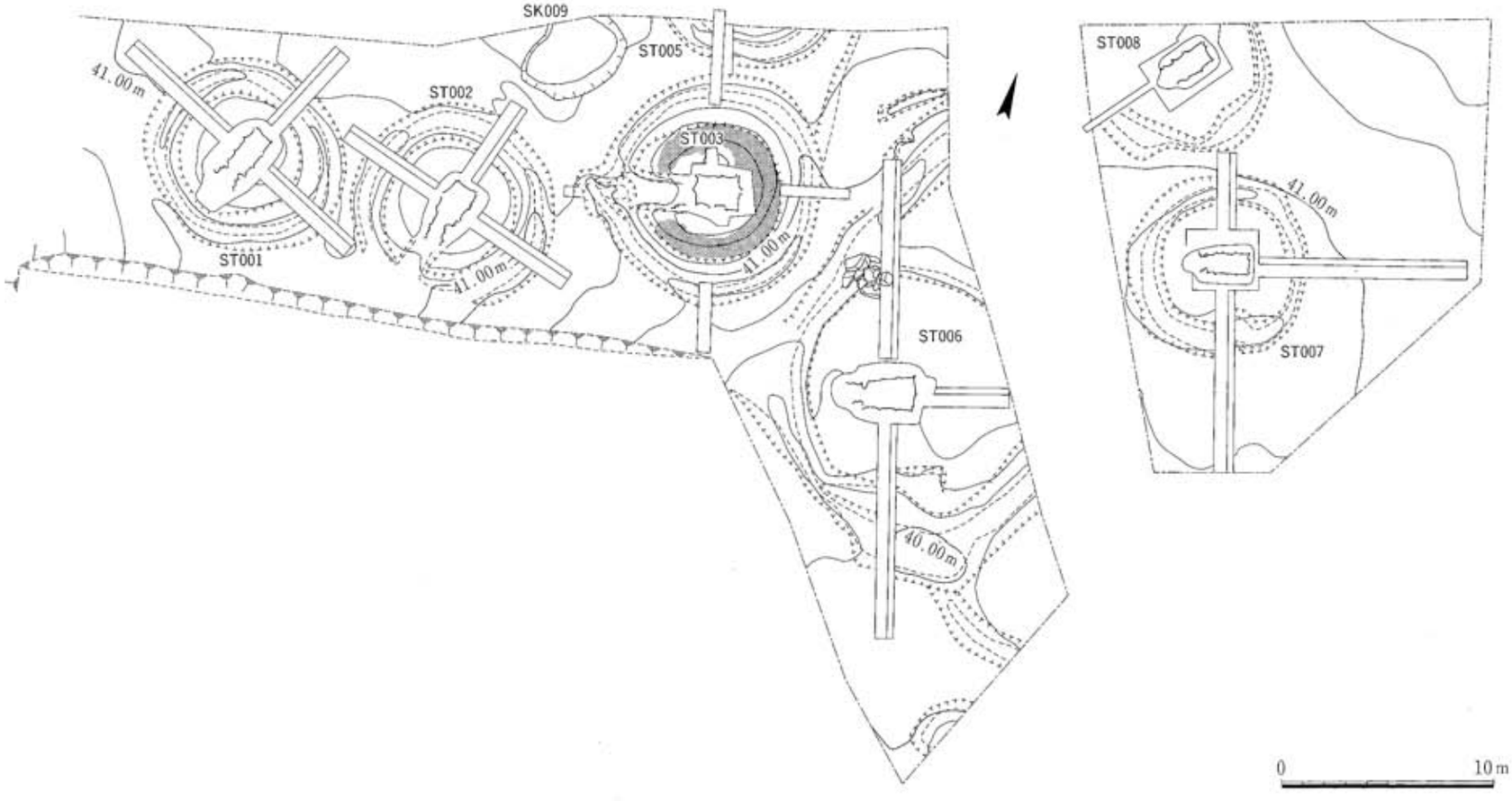


Fig. 2　遺構配置図（1/300）（トーンは葺石の範囲を示す）

本遺跡は本来20基以上からなる古墳群であったというが，現在確認されるものは10基程である。調査前にすでに墳丘がかなり削平されており，特に調査された古墳のうち３基は調査前の段階では古墳と認められなかった。また，いずれも盗掘された痕跡が認められた。

検出された遺構は，弥生時代中期の土壙１基と古墳７基である。古墳はすべて周溝をもつ円墳で，規模は周溝外径10m程である。ST003古墳は葺石を有する。内部主体まで調査を実施したのは６基で，すべて単室両袖型横穴式石室である。そのうち，明確な羨道をもたず，玄室床面と前庭部に段差があるなどの古式の特徴を示すものが５基あり，さらにその３基がいわゆる竪穴系横口式石室に属する。いずれも遺存状況は悪く，腰石およびその上方の壁石数段が残存するのみで，楣石が残っていたものが１基のみある。

出土遺物としては，石室内から出土したのはST006古墳のみであったが，鉄刀・剣菱形杏葉・鉄鏃・刀子・勾玉・管玉・小玉などがほぼ原位置から出土している。各古墳の墳丘及び溝から土師器，須恵器が出土しているが，量的には多くない。

また，墳丘などから縄文土器，弥生土器が相当量出土している。縄文土器は早期（押型文土器）から晩期（刻目突帯文土器）まで中期を除いて時期的に幅広く出土しているが，主体となるのは曽畑式土器である。この中で塞ノ神式土器が出土したことは注目される。弥生土器はほとんどが中期に属する。

Tab. 1　猿嶽A遺跡遺構一覧表

遺構名	種　別 (石室形式)	規　模 (m) (玄室:中央長×奥壁幅)	時　期 (田辺編年)	備　考
ST001	横穴式石室	2.04×1.06	TK208	竪穴系横口式石室
ST002	横穴式石室	1.88×1.14	(MT15)～TK10	
ST003	横穴式石室	2.0×1.56	TK208	
ST005				墳丘・周溝一部のみ調査
ST006	横穴式石室	2.28×1.56	(TK47)～MT15	
ST007	横穴式石室	1.92×0.95		竪穴系横口式石室
ST008	横穴式石室	2.14×0.95		竪穴系横口式石室
SK009	土　壙	0.51×0.33	弥生時代中期	

II 遺　　構

1．弥生時代

弥生時代の遺構は土壙が1基検出されたのみであるが，古墳墳丘などから相当量の弥生土器が出土したので，古墳造営などにより遺構が削平された可能性が高い。

(1) 土　　壙

SK009 (Fig. 3)

調査区の北側に位置し，遺構北側が一部調査区外にかかる。南にST002古墳，南東にST003古墳がある。楕円形に近い不整形のプランで，長径51cm，短径33cm，深さ34cmを測る。埋土は上層が薄い黒色砂質粘土，下層が粘性の少ない灰褐色砂質土である。壙底は平坦で，緩やかに掘り込まれている。遺物は弥生時代中期の土器が埋土および壙底直上から出土した。

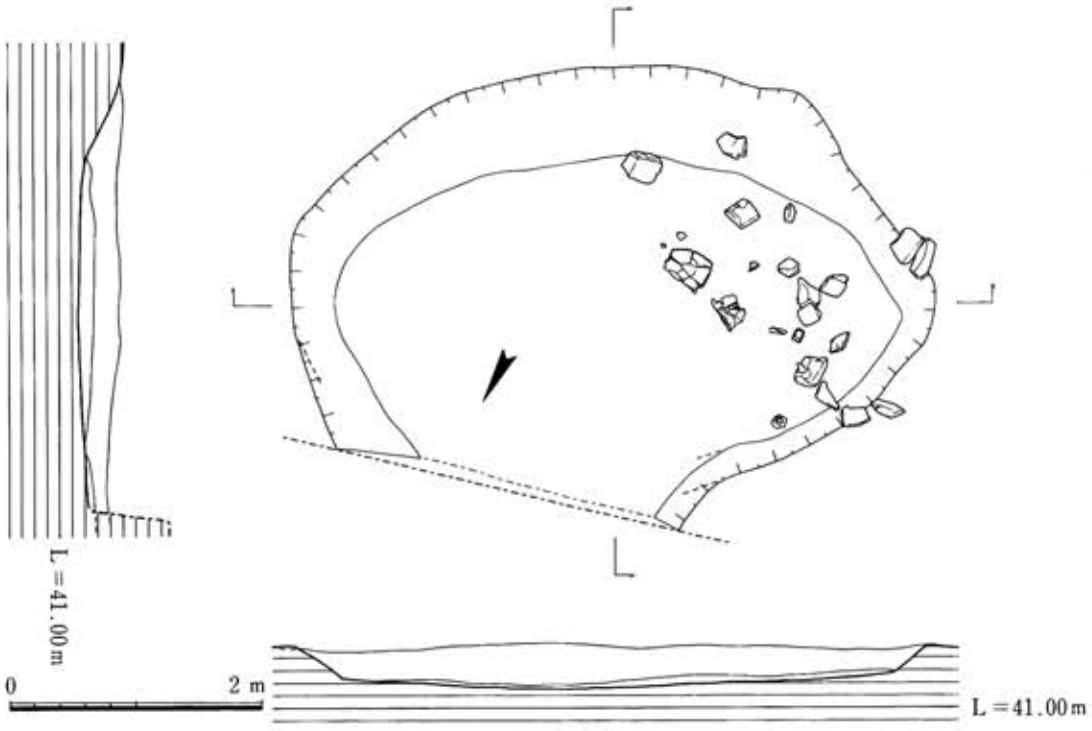


Fig. 3　SK009土壙（1/60）

2．古墳時代

(1) 古　　墳

ST001古墳（Fig. 4～7）

概要

調査区の西端に位置し，本古墳群の中で最も西南に築造される。東にST002古墳が隣接する。墳丘盛土と石室の上半部は削平を受ける。内部主体は単室両袖型の横穴式石室で，いわゆる竪穴系横口式石室に属する。墳丘，周溝などから土師器，弥生土器，縄文土器が出土した。

墳丘・周溝

周溝外径約9.3mの円墳である。墳丘盛土は上半部が削平される。古墳構築前に地山整形しており，地山を削り出し，平坦面をつくる。その墳丘基底面から約55cm盛土が残存する。盛土に旧表土と考えられる茶褐色土と黒褐色土を用いる。周溝断面は逆台形で，周溝幅約1.5m，深さ40～50cmを測る。周溝底レベルは北側で標高41.07mと最も高く，西側で40.7mと最も低く，ほぼ地形の傾斜に沿っている。南側で40.83m，東側で41mである。

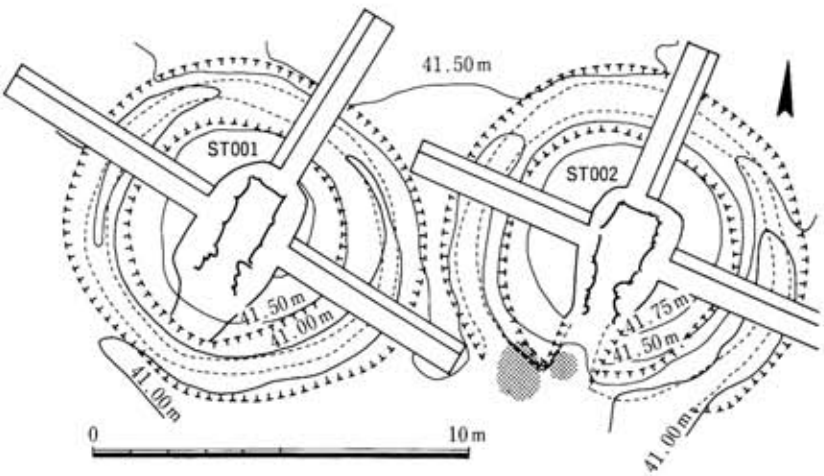


Fig. 4　ST001・ST002古墳墳丘測量図（1/200）
（トーンは須恵器・土師器の出土範囲）

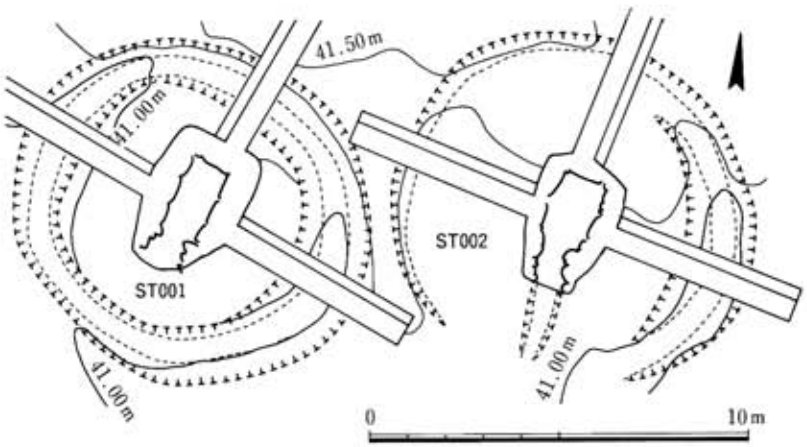


Fig. 5　ST001・ST002古墳地山整形面測量図（1/200）

内部主体

単室両袖型の横穴式石室で，いわゆる竪穴系横口式石室に属する。ほぼ南に向って開口し，

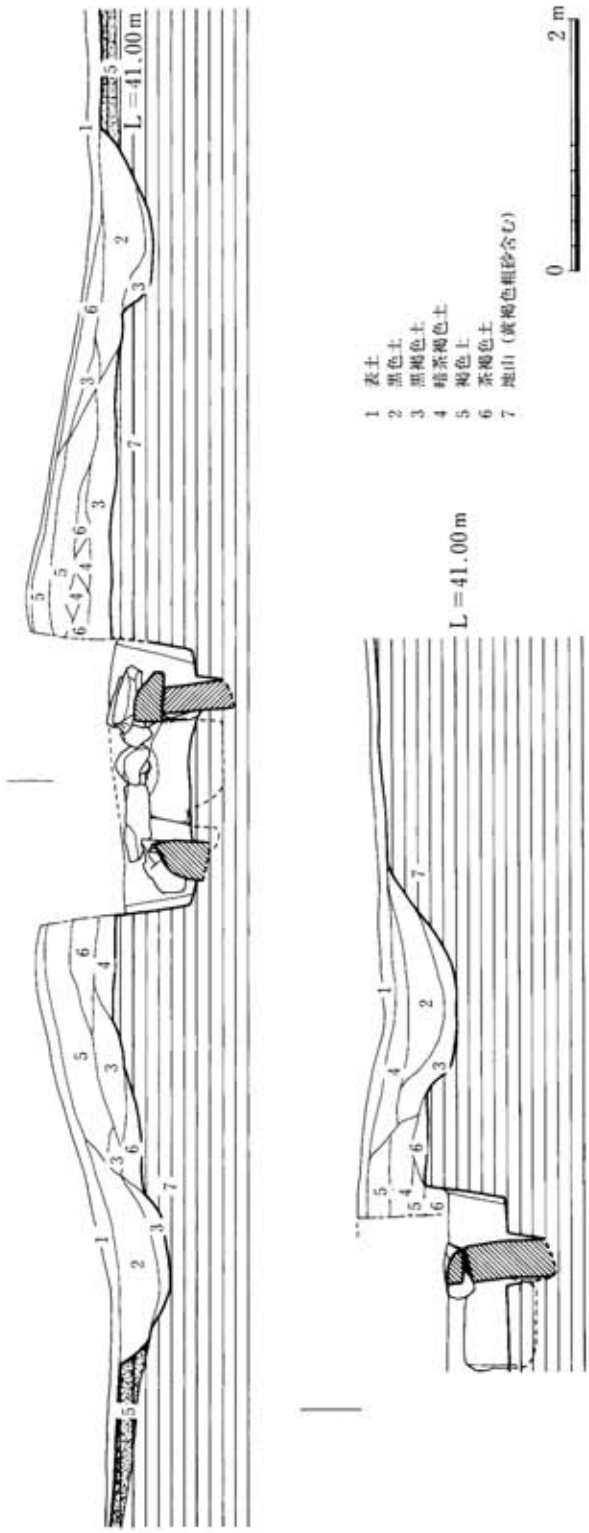


Fig. 6 ST001古墳墳丘土層図（1/60）

主軸をN30°Eにとる。石室上部構造を欠失する。石室掘り方はほぼ長方形で，規模は残存する墓道を含めた長さ3.8m，幅2.16mを測る。深さは0.5～0.56mで，石室腰石から二段目の石材上端にほぼ一致する。

玄室平面プランは長方形で，規模は玄室中央長2.04m，奥壁幅1.06m，中央幅1.04m，前幅0.94mを測る。石材は花崗岩であるが，石室内に転落していた石材の中に一つだけ緑泥片岩がある。

奥壁は腰石に66×80cm，60×38cm程の石材2石を地山に約30cm掘り込んで配する。右側壁は腰石に70×62cm，72×46cm，50×40cm程の横長石材を3石を地山に約20～35cm掘り込んで横位に配し，その上に径20～40cm程の柱状石材を1～2段積み上げているところまで遺存する。左側壁は腰石に76×46cm，72×44cm，56×44cm程の横長石材3石を地山に約20～30cm掘り込んで横位に配する。奥壁と側壁の隅角は腰石の直上から奥壁と側壁にまたがるように石材を積んでおり，腰石直上から三角持ち送りが始まっていると考えられる。

玄門部は右袖石に66×36cm程，左袖右に80×36cmの柱状石材を立て，床面には地山を約10cm掘り込

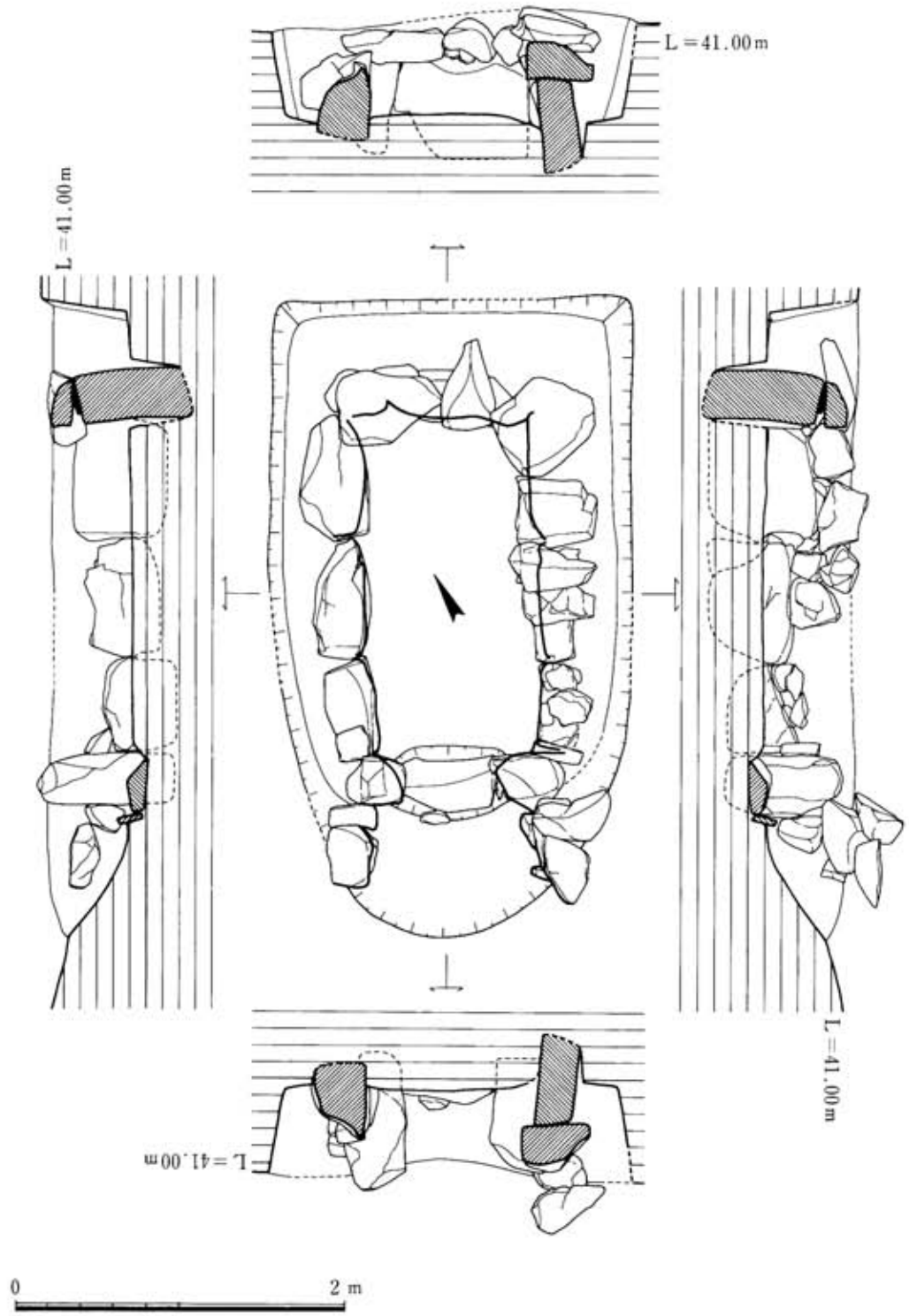


Fig. 7　ST001古墳石室（1/40）

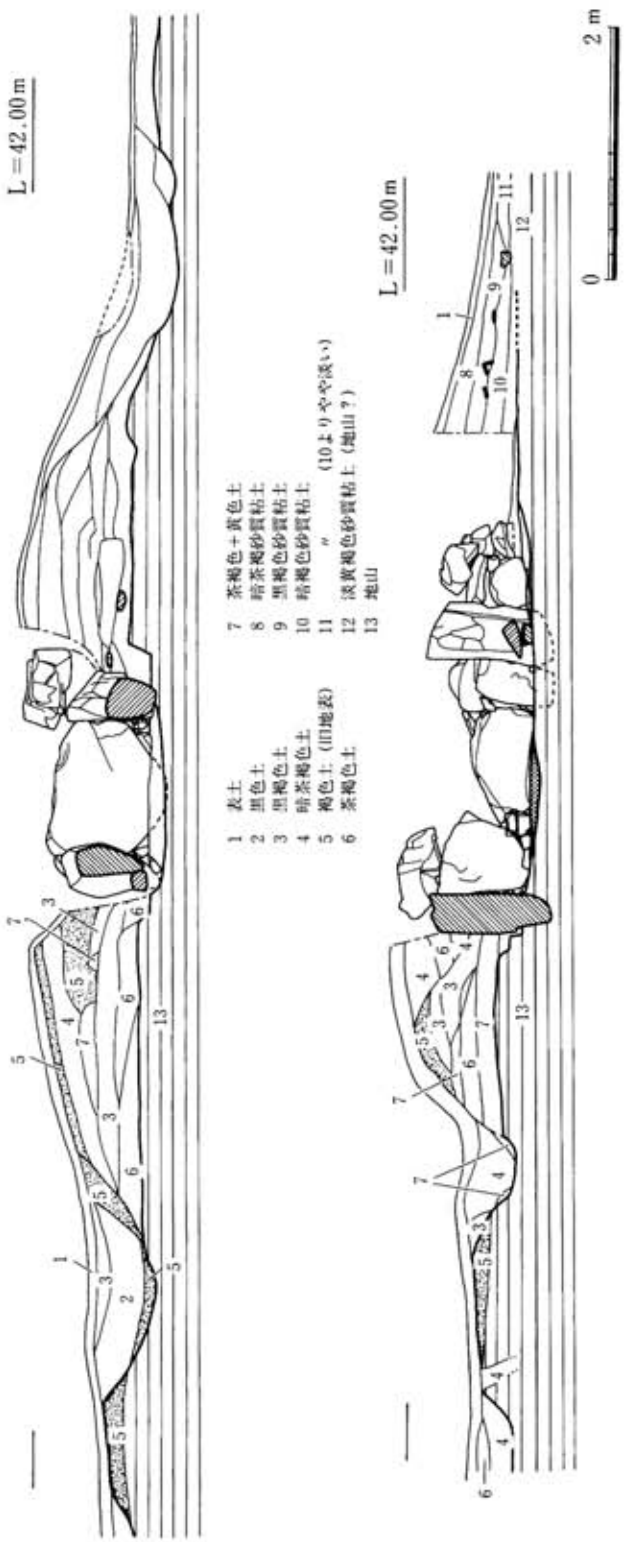


Fig. 8 ST002古墳墳丘土層図（1/60）

んで仕切石を配する。玄門部幅は56cmを測る。

前庭部はハ字形に開く状態で，側壁は大きさ，形状ともに異なる石材を乱雑に地山と盛土の上に配する。墓道は墳丘から斜面になって玄門部へ接続する形態で，平面形態は短い舌状のものである。

遺物出土状況

石室内からは古墳に伴う遺物は出土していない。墳丘，周溝などから土師器，弥生土器，縄文土器が出土した。

ST002古墳（Fig. 8～11）

概要

調査区西側に位置しており，西にST001古墳が隣接し，東にST003古墳，また北調査区外にST004古墳がある。墳丘盛土と石室の上半部は削平を受ける。内部主体は単室両袖型の横穴式石室で，楣石，閉塞施設は残存していた。墓道および墓道周辺の墳丘裾部から須恵器，土師器が出土しており，また墳丘，周溝からは弥生土器，縄文土器が出土した。

墳丘・周溝

周溝外径9.7m程の古墳であ

る。墳丘上半部および周溝南側は削平を受ける。古墳構築前に地山整形しており，地山を削り出し，平坦面をつくる。その墳丘基底面から約80cm盛土が残存する。盛土には旧表土と考えられる褐色系統の土と黒褐色土を用いる。石室腰石上面とほぼ同じ高さに一作業面をとらえることも可能なようである。周溝断面は緩やかなU字形で，周溝幅1.2～2m，深さ40～50mを測る。周溝底のレベルは北側が標高41.442mで最も高く，南側が40.96mで最も低く，ほぼ地形の傾斜に沿っている。東側で40.997m，西側で41.107mである。

内部主体

単室両袖型の横穴式石室である。ほぼ南に向かって開口し，主軸をN18°Eにとる。石室上部構造を欠失する。石室掘り方は玄室平面と同じく羽子板形で，規模は長さ3.04m，幅2.2m，深さ0.1～0.2mで，地山はあまり深く掘り込んでいない。

玄室平面プランは石材の関係で左側壁がやや乱れているが，羽子板形を意図していると考えられる。前庭部は石室主軸に対して若干東にふれる。規模は玄室中央長1.88m，奥壁幅1.14m，中央幅1.24m，前幅0.82mを測る。

奥壁は腰石に120×88cm程の横長石材1石を地山に20cm程掘り込んで横位に配する。右側壁は腰石に70×70cm，90×50cm，34×60cm程の石材3石を地山に5～20cm程掘り込んで配し，その上に径40～70cmの石材を積んでいる。左側壁は腰石に114×70cm，66×56cm程の横長石材2石をほとんど地山に掘り込まずに横位に配するが，玄門部の間には明確に腰石といえるものはなく，隙間を埋めるように板状石材を配する。玄室床面には貼り床が一部認められる。

玄門部は右袖石に98×44cm程，左袖石に68×36cm程の柱状石材を立て，床面には2石からなる仕切石を配する。

楣石は70×94cm程の石材で，右側は袖石に直接，左側は袖石の上に板状石材を2石積んだその上に架構する。玄門幅54cm，高さ50cmを測る。

前庭部は側壁と楣石の状況から天井石はなかったと判断されるので，羨道とみなすことはできないだろう。左右側壁とも大きさ，形状の異なる石材を積み上げており，長さ約0.75mを測る。

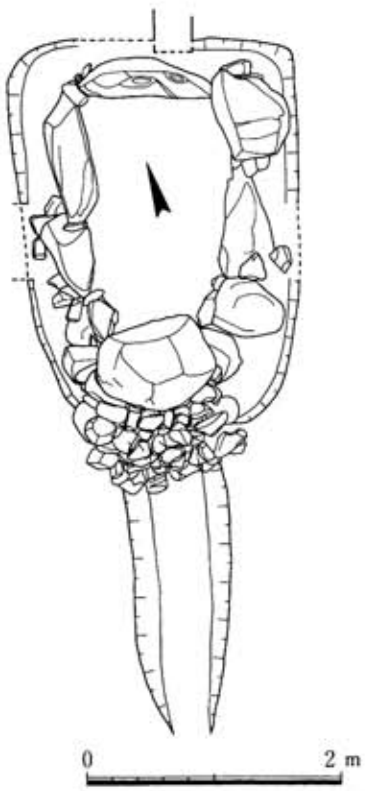


Fig. 9　ST002古墳石室平面（1/60）

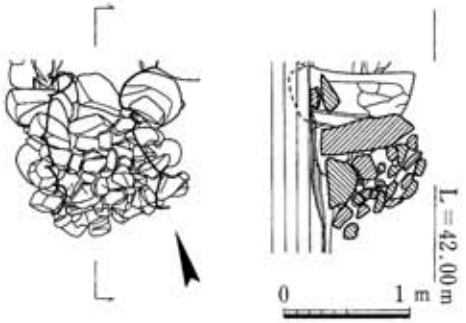


Fig. 10　ST002古墳石室閉塞状況（1/60）

玄門部から前庭部にかけて閉塞施設がほぼ完存していた。まず74×45cm程の板石を左右両袖石にかかるように配し，その後ろに径10～20cmの転石数十個を雑に積み上げている。

遺物出土状況

玄室内から古墳に伴う遺物は出土していない。墓道と墓道西側周溝内から須恵器大甕や土師器などが出土した。出土状況図はあるが，正確な位置，

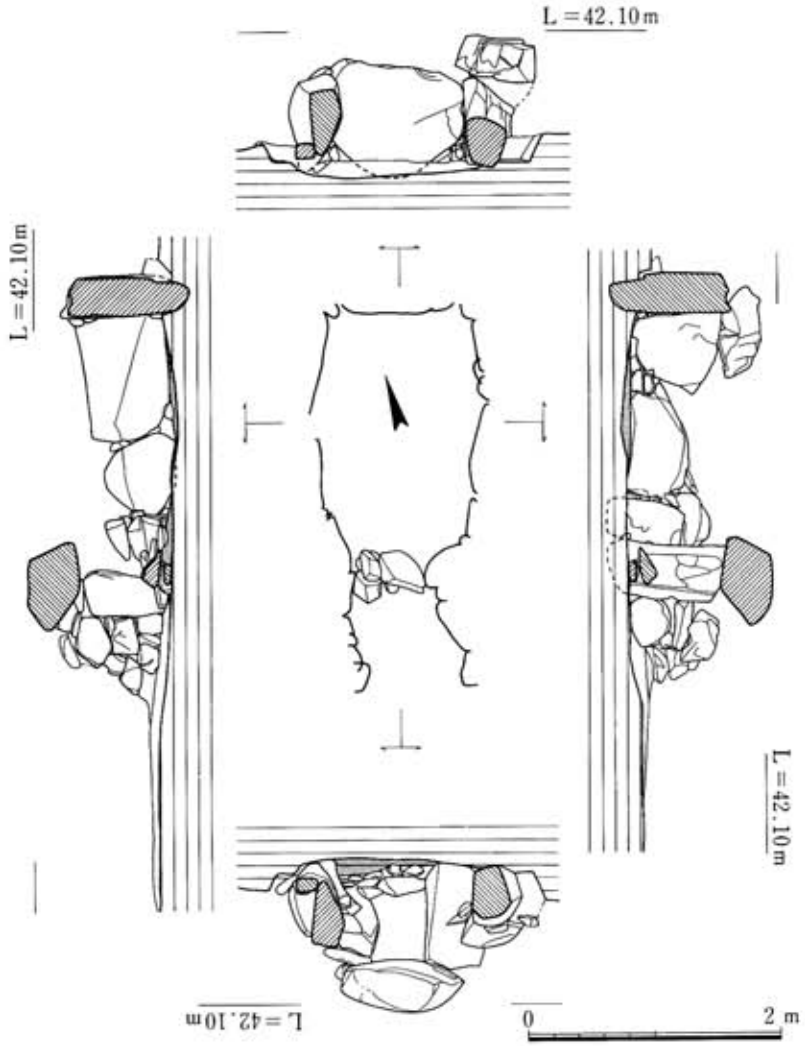


Fig. 11　ST002古墳石室（1/60）

レベルなど不明のため掲載していない。ただ，写真や土層断面図から判断すると，墓道床面よりかなり浮いた状態で出土しているので，追葬時の祭祀に関係すると推測される。また，墳丘内や周溝などから須恵器，土師器，弥生土器，縄文土器が出土した。

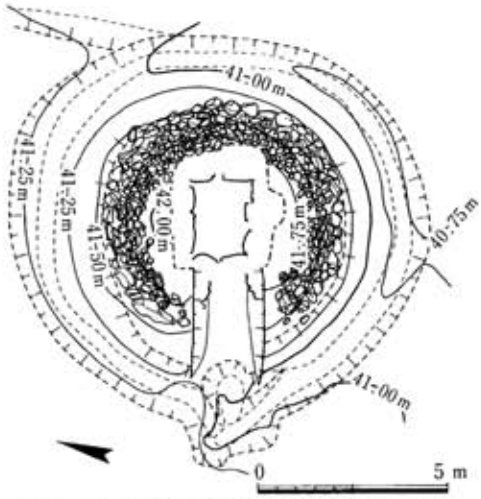


Fig. 12　ST003古墳墳丘測量図（1/200）

ST003古墳（Fig. 12～16）

概要

調査区はほぼ中央に位置しており，西にST002古墳，北にST005古墳，南東にST006古墳がある。葺石を有する。石室は上半部が削平を受ける。内部主体は単室両袖型の横穴式石室で，玄室床面と前庭部に段差がある。墳丘内および周溝などから須恵器，土師器，弥生土器，縄文土器が出土した。

墳丘・周溝・葺石

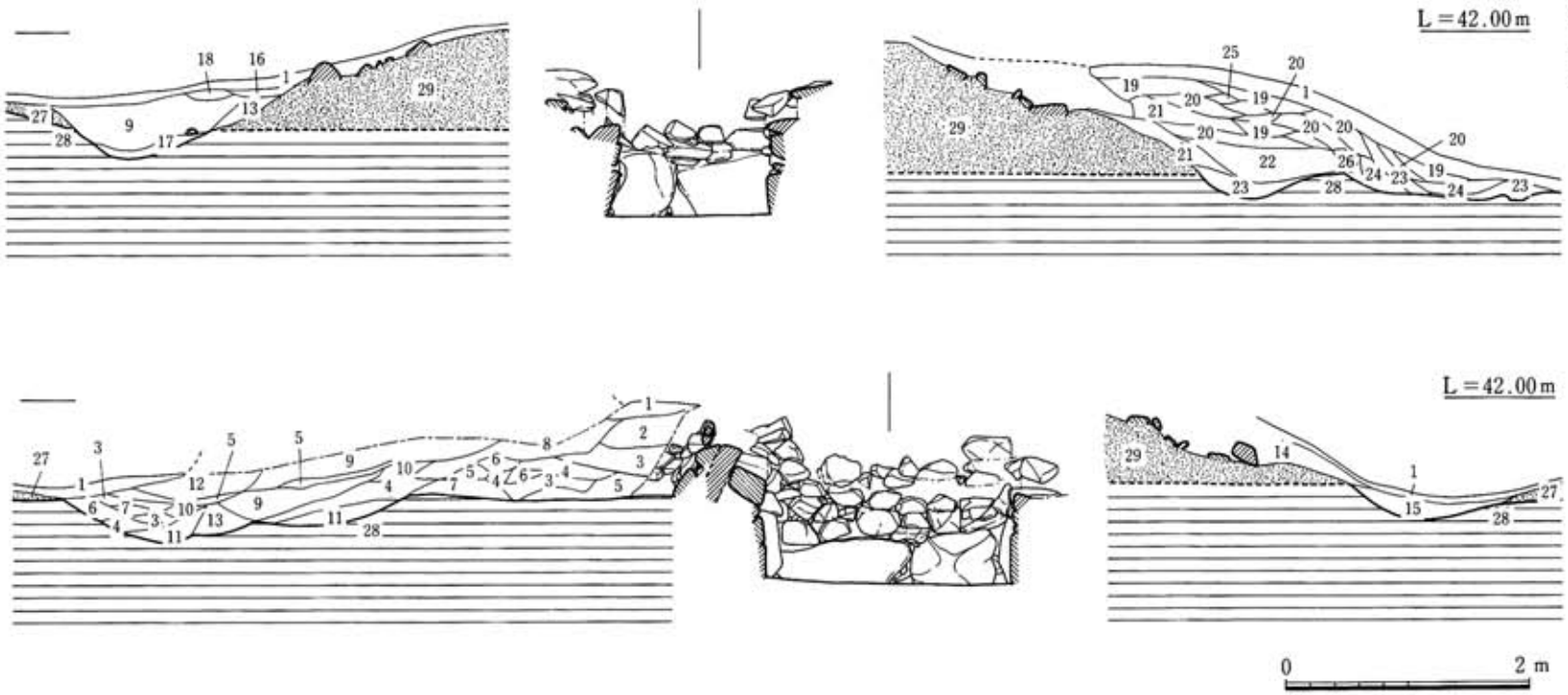
周溝外径約10.6～11mの円墳である。トレンチを墳丘基底面まで掘り下げていないので墳丘についての詳細は不明である。墳丘盛土は岩干上部が削平されるが，ほぼ残存する。盛土の高さは約1.2mと推測される。周溝は西側，即ち墓道前面が後世の撹乱を受けているが，他の部分はよく残っている。断面は緩やかなU字形で，周溝幅1.5～1.9m，深さ22～44cmを測る。周溝底のレベルは西側が標高41.139mで最も高く，南側が40.654mで最も低い。北側は41.079mで，南北方向はほぼ地形に沿っている。しかし，東側は40.858mで，西側に比べ低くなっており，発掘調査時に地形に沿っていないため不自然であるという所見が得られている。

葺石は墳丘裾部に根石として径30～50cmの石材を墳丘に斜めに立てて，葺石の流出を防ぐようにしている。葺石として10～20cmの塊石を用いる。石を葺く際の受け持ち範囲を示すと考えられる縦方向の石列は明確ではないが，葺石の状況からある程度単位を抽出することができそうである。

内部主体

単室両袖型の横穴式石室である。ほぼ西に向かって開口し，主軸をN76° Eにとる。石室上部構造を欠失する。石室の掘り方は確認していない。

玄室平面プランは長方形である。規模は玄室中央長2.0m，奥壁幅1.56m，中央幅1.34m，前幅1.4mを測る。石材には花崗岩を用いる。



1 表土
2 淡黄褐色砂質粘土
3 暗褐色砂質粘土
4 淡褐色砂質粘土
5 褐色砂質粘土
6 灰褐色砂質粘土
7 やや明るい暗褐色砂質粘土
8 暗茶褐色砂質粘土
9 黒色粘質土
10 暗灰褐色砂質粘土
11 やや暗い暗茶褐色粘質土
12 茶褐色砂質粘土
13 黒褐色粘質土
14 黒褐色砂質粘土
15 黒色砂質粘土
16 淡褐色砂質土
17 灰黒色砂質土
18 黄褐色粘質土（地山土のブロック）
19 淡褐色土
20 褐色土
21 暗褐色土
22 黒褐色土
23 茶褐色土
24 暗茶褐色土
25 黄褐色土
26 暗茶褐色土（黄色土ブロック混入）
27 旧表土（暗褐色砂質粘土）
28 地山（明茶褐色粘質土）
29 盛土（推定）

Fig. 13 ST003古墳墳丘土層図（1/60）

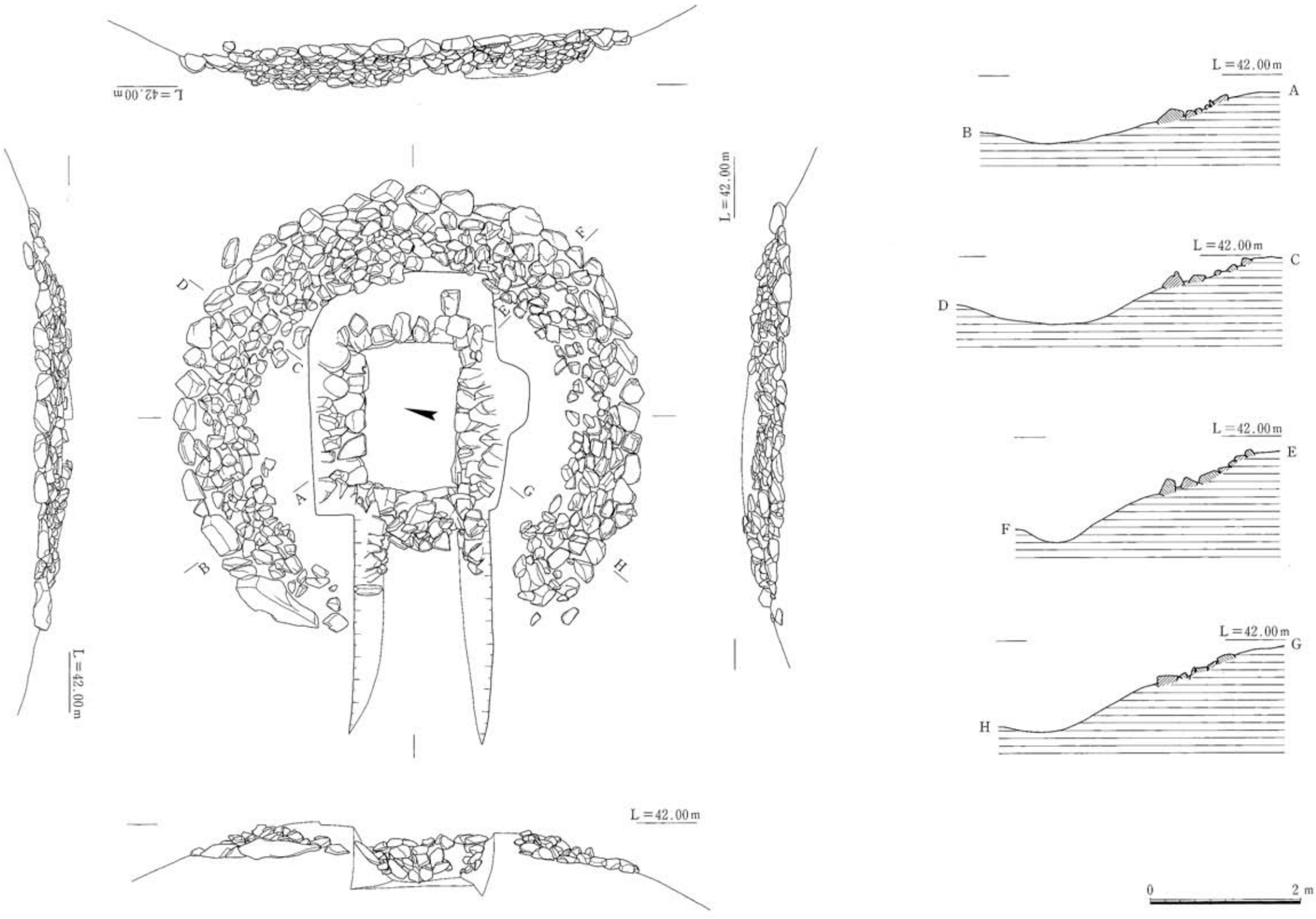


Fig. 14　ST003古墳葺石および石室（1/60）

奥壁は腰石に80×50cm，60×55cm程の横長石材２石を横位に配する。その上に１～２段の石積みが残り，大きさ，形状とも異なる石材を用いる。右側壁は腰石に50×50cm，70×40cm，76×50cm程の石材を３石配し，その上に径20～30cmの柱状石材を２～３段積んでいる。左側壁は腰石に60×50cm，110×40cmの横長石材２石を横位に配し，その上に径20～30cmの柱状石材を２～３段積み上げている。奥壁，側壁とも明瞭な横目地は通らず，現状では持ち送りはみられない。側壁については控え積みが認められる。玄室壁には赤色顔料が塗布されている。

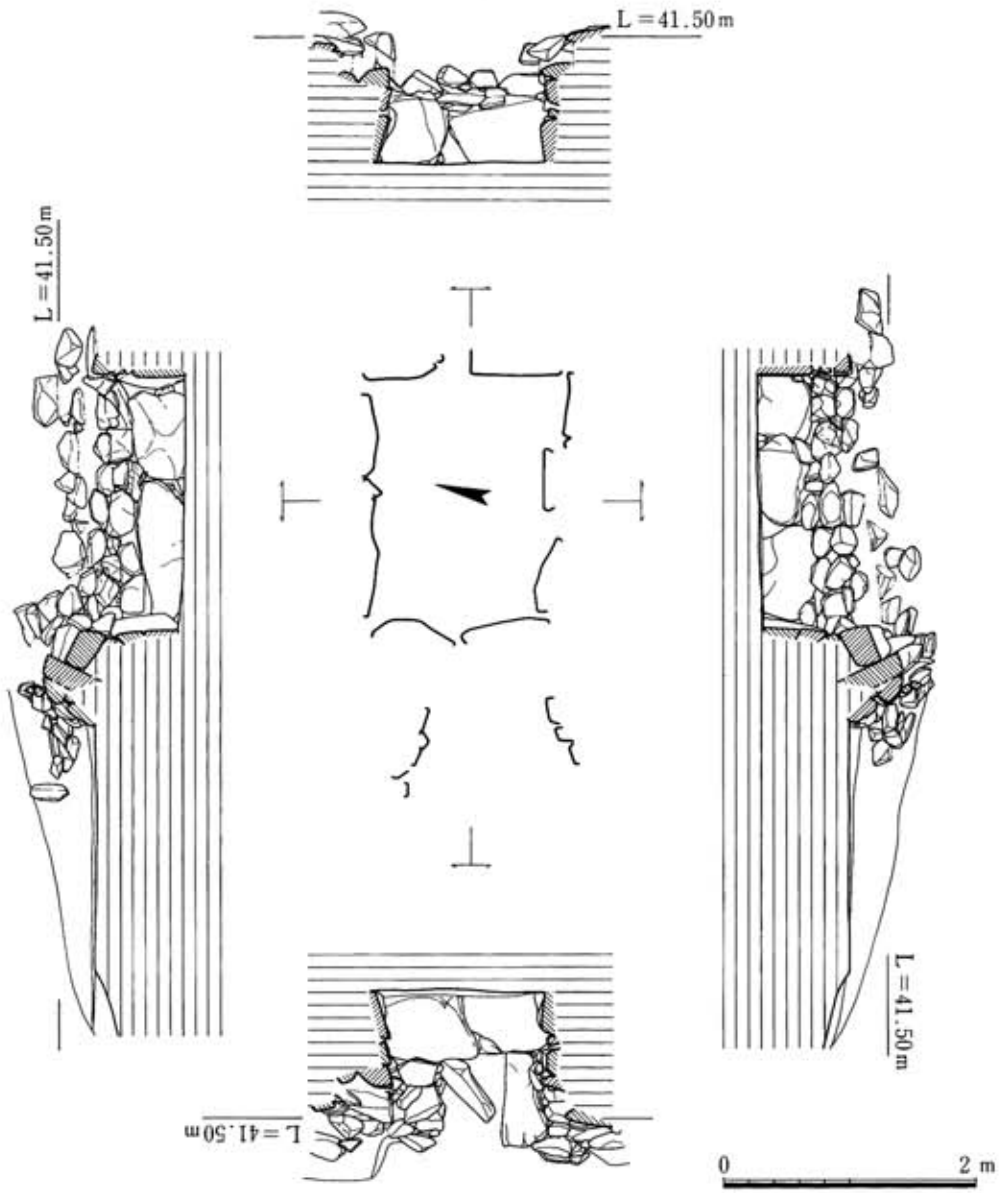


Fig. 15　ST003古墳石室（1/60）

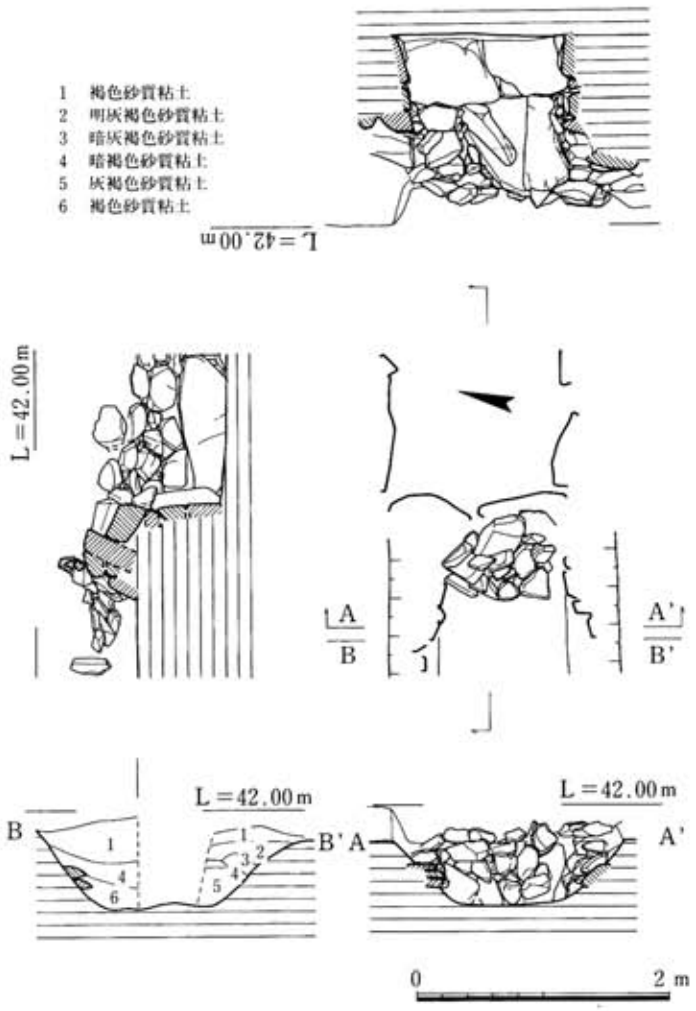


Fig. 16　ST003古墳石室閉塞状況（1/60）

玄門部・前庭部は閉塞石を取り除いていないので詳細は不明である。玄門部は70×50cm，90×60cm程の横長石材2石を横位に配することによって，玄室床面と前庭部に段差を設けている。袖石はその腰石の上に配されていると思われる。右袖石は70×40cm程の石材を立て，その上に板状石材を2石積み上げている。楣石はこの上に架構されたものと推測される。左袖部は径30cm程の石材を腰石の上に積み上げ，その横に現位置は保っていないが60×30cmの板状石材を立ててて袖とする特異な形態である。このため石室主軸と前庭部および墓道の中心が約10cm程南にずれている。

前庭部は若干ハ字形に開く形態である。側壁は20cm程の板状石材を雑に積み上げているようである。前庭部床面は玄室床面より約70cm高くなっている。

閉塞施設は左右両側壁にかかるように80×40cm程の板状石材を配し，その後ろに径約20～30cmの転石を積み上げている。また，墓道土層断面には閉塞施設に向かって斜めに切り込むラインが確認されており，追葬面であろう。

遺物出土状況

石室内からは古墳に伴う遺物は出土していない。墳丘内，周溝などから須恵器，弥生土器，縄文土器が出土した。

ST004古墳

概要

発掘調査当初は調査区に周溝がかかる可能性があったが，調査の結果周溝など検出されなかったので，調査区外に位置することが明らかになった。

ST005古墳（Fig. 17）

概要

調査区の中央北側に位置して，南にST003古墳がある。調査区内の周溝と墳丘を調査した。したがって，内部主体など不明である。墳丘内，周溝から土師器，弥生土器，縄文土器が出土した。

墳丘・周溝

墳丘盛土は土層観察からかなり残存していることが推測される。墳丘盛土構築前に地山整形をしているようであり，地山を削り出し，平坦面をつくっていると考えられる。この墳丘基底面に暗褐色砂質土と褐色砂質粘土を盛り上げる。周溝断面は緩やかなU字形であり，周溝幅1.56m，深さ30cmを測る。径約9mの円墳であると推測される。

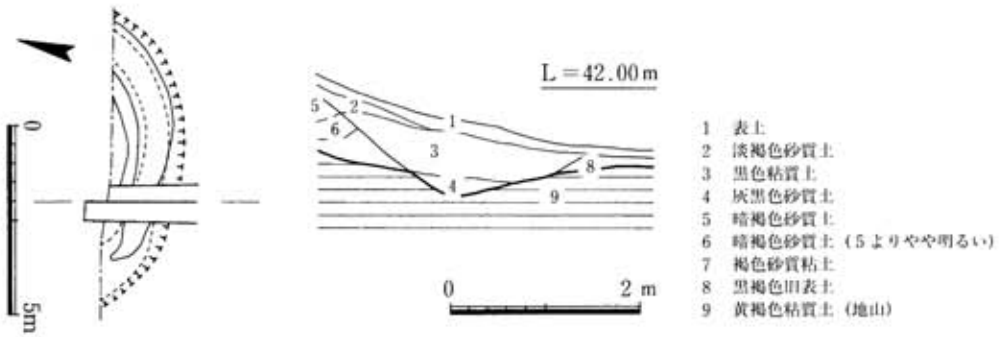


Fig. 17　ST005古墳墳丘測量図（1/100）・墳丘土層図（1/60）

ST006古墳（Fig. 18～22）

概要

調査区ほぼ中央に位置しており，北西にST003古墳，東北にST007古墳がある。墳丘盛土，石室上半部は削平を受ける。内部主体は単室両袖型の横穴式石室である。玄室からは鉄刀，馬具

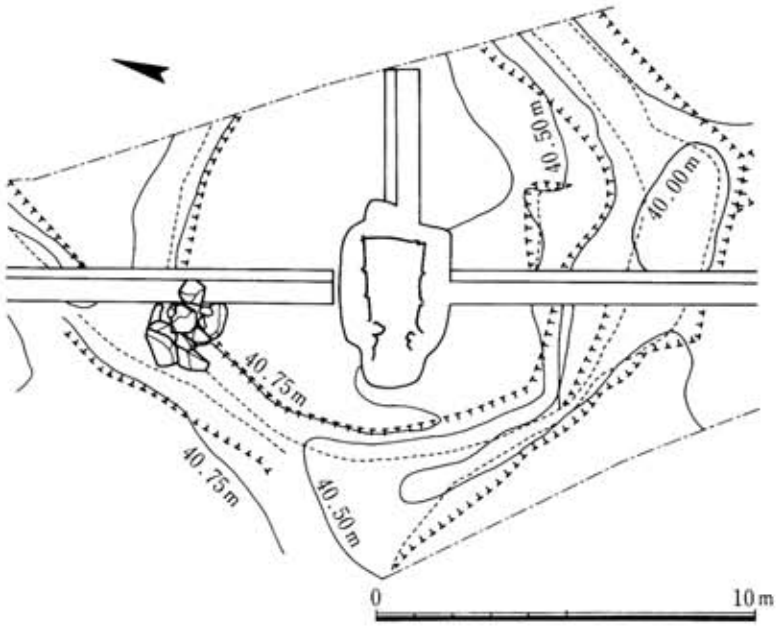


Fig. 18　ST006古墳墳丘測量図（1/200）

などが原位置を保って出土した。周溝などから須恵器，土師器，弥生土器，縄文土器が出土した。

墳丘・周溝

墳丘盛土は削平され残存していない。古墳構築前の地山整形は墳丘基底面で旧表土層が確認されているので，地山を削り出さずに平坦面をつくっていると推測される。周溝もかなり削平を受け変形している。残存部分からみて，周溝外径13.5mの円墳であろう。周溝断面は緩やかなU字形で，現状で周溝幅約1.7m，深さ10cm程を測る。

内部主体

単室両袖型の横穴式石室である。ほぼ西に向かって開口し，主軸をN72°Eにとる。石室上部構造を欠失する。石室掘り方は長方形であるが，奥壁の部分は石材の関係で大きく張り出している。規模は残存する墓道を含めた長さ4.65m，幅2.64mを測る。深さは約0.75mで，腰石から一段目の石材上端にほぼ一致する。

玄室平面プランは羽子板形であり，わずかにハ字形に開く前庭部が接続する。規模は玄室中央長2.28m，奥壁幅1.56m，中央幅1.38m，前幅1.16mを測る。石材は花崗岩である。

奥壁は腰石に100×75cm，86×76cm程の横長石材2石を地山に約30cm掘り込んで横位に配する。右側壁は腰石に90×60cm，80×64cm，86×54cm程の横長石材を地山に30cm程掘り込んで横位に配し，その上に径約40～50cmの柱状石材を積んでいる。左側壁は80×55cm，70×48cm，90×40cm程の横長石材を地山に約20～30cm掘り込んで横位に配し，その上に径30～50cm程の柱状石

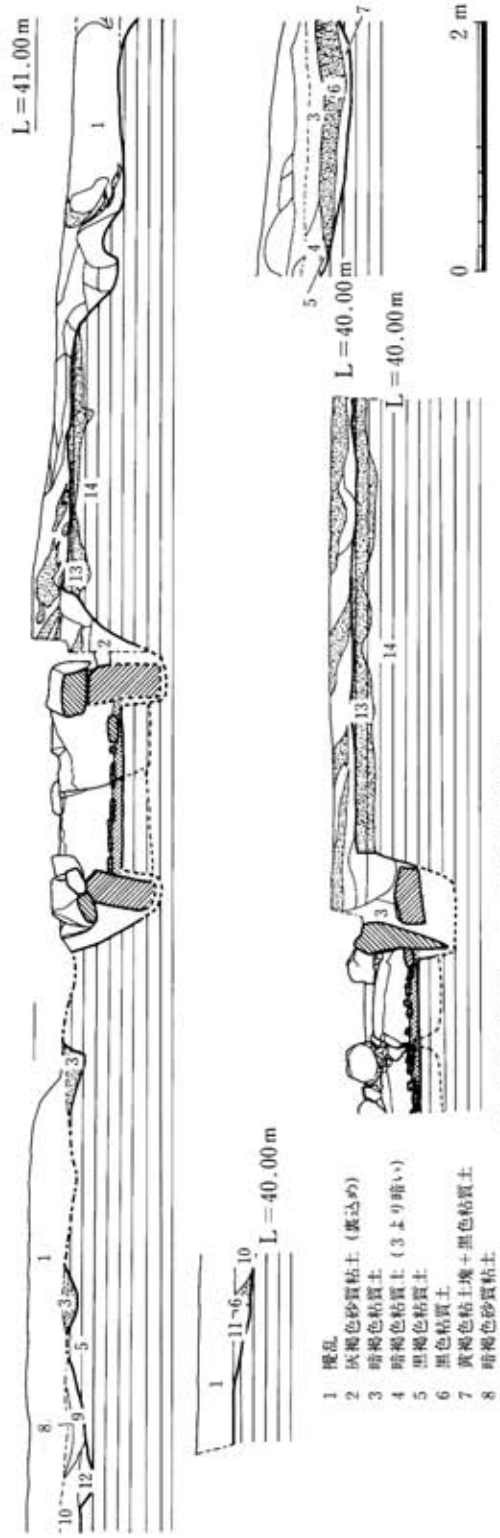


Fig. 19　ST006古墳墳丘土層図（1/60）

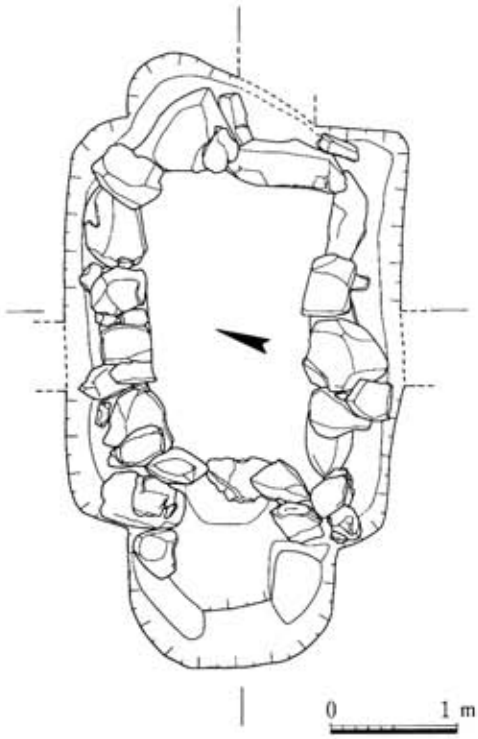


Fig. 20　ST006古墳石室平面（1/60）

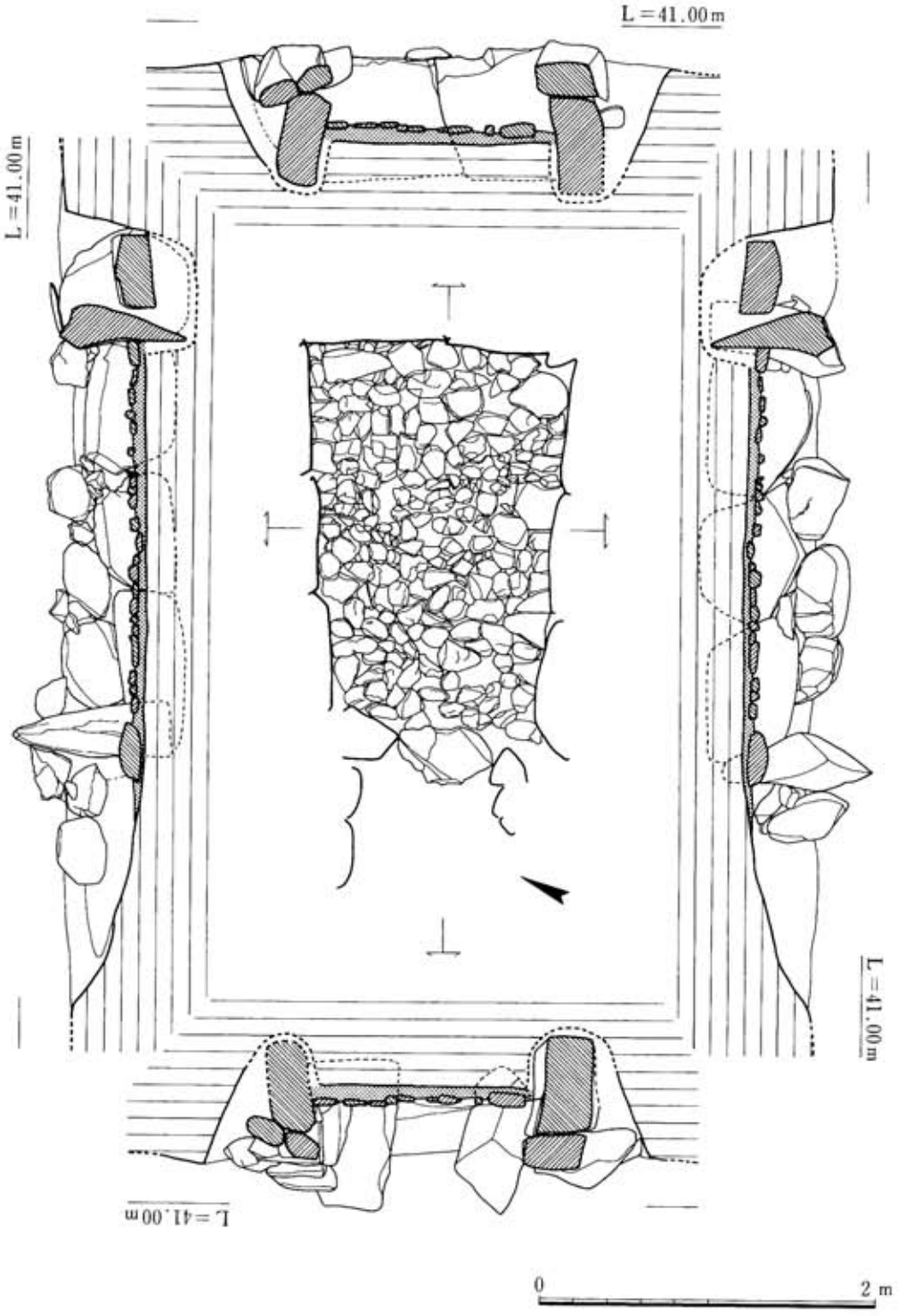


Fig. 21　ST006古墳石室（1/40）

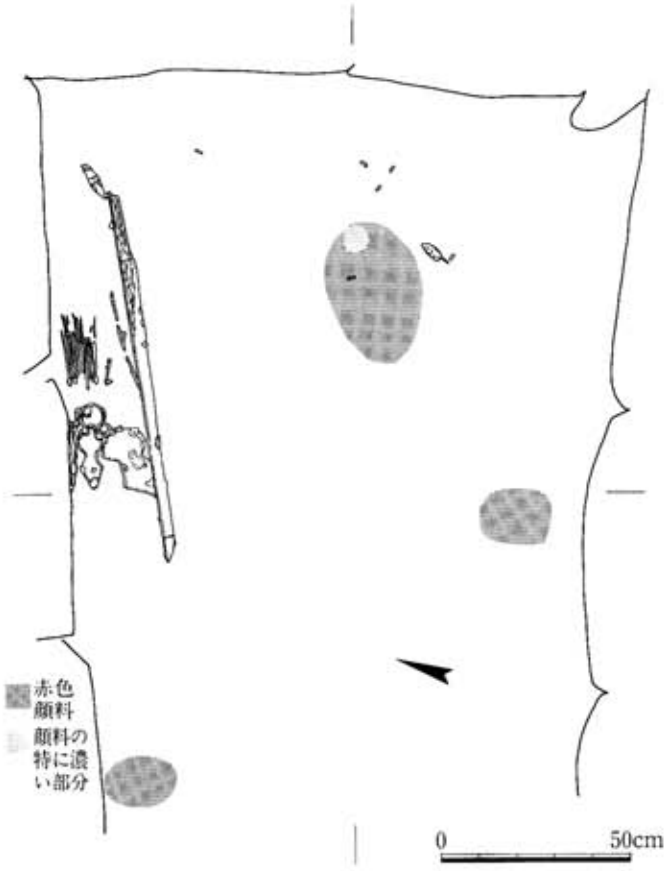


Fig. 22　ST006古墳遺物出土状況（1/20）

材を積んでいる。左側壁と奥壁の隅角では腰石の上から三角持ち送りを行っているようである。右側壁でも腰石の上から持ち送りが始まっているようである。玄室床面には貼り床が認められ，径10～20cm程の花崗岩の礫を敷き詰めている。また，赤色顔料が玄室床面の数カ所に検出されており，この状況から2体以上埋葬されているものと思われる。

玄門部は右袖石に90×45cm程，左袖石に90×50cm程の柱状石材を立て，床面には貼り床に埋め込んで仕切石を配する。玄門部幅は58cmを測る。

前庭部は平面プランがわずかにハ字形に開く状態である。側壁には径30～40cm程の石材を用いる。墓道は墳丘から斜面になって玄門部へ接続する形態で，平面形態は短い舌状のものである。

閉塞施設は原位置を離れていたために実測はされていない。閉塞石として65×50×20cm程の板石と径20cm大の塊石5～6石を用いる。

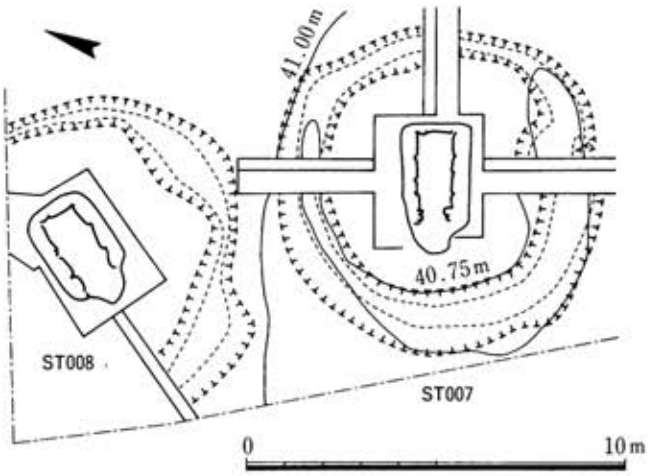


Fig. 23　ST007・ST008古墳墳丘測量図（1/200）

遺物出土状況

玄室左側壁にそって鉄刀，鉄鏃，刀子，剣菱形杏葉，環状雲珠，革金具が原位置から出土した。革金具の一部に布が付着しており，馬具全体を布でくるんでいた可能性がある。ほぼ1セット分出土したが，出土状況では馬装の復原は困難である。鉄鏃は矢筒に入ったままの状態で副葬されたような出土状況を示している。他に奥壁から22cm，左側壁から41cmの場所から管玉，奥壁から40cm，右側壁から65cm程の位置に管玉，刀子がある程度まとまって出土した。その他埋土から管玉，ガラス小玉が出土した。また，撹乱土から須恵器が出土し，他に周溝などから須恵器，土師器，弥生土器，縄文土器が出土した。

ST007古墳（Fig. 23～27）

概要

調査区東側に位置して，北にST008古墳が隣接する。墳丘盛土，石室上半部は削平を受ける。内部主体は単室両袖型の横穴式石室があり，いわゆる竪穴系横口式石室に属する。周溝などから土師器，弥生土器，縄文土器が出土した。

墳丘・周溝

周溝外径約8.6～9.0mの円墳である。墳丘盛土はほとんど削平されている。黄褐色系統の粘質土を盛土に使用している。墳丘基底面も削平され，地山整形については不明であるが，盛土が残存する部分では旧表土はみられない。周溝も削平を受け，かなり変形しており明確でない部分がある。明確な部分で周溝断面はU字形であり，周溝幅1.1m，深さ30cmを測る。

内部主体

単室両袖型の横穴式石室で，いわゆる竪穴系横口式石室に属する。ほぼ西に向かって開口し，主軸をN70°Eにとる。石室上部構造を欠失する。石室掘り方は長方形で，残存する墓道を含めた長さ3.42m，幅1.78mを測る。深さは0.38～0.4mで，腰石上端から一段目石材上端にほぼ一致する。

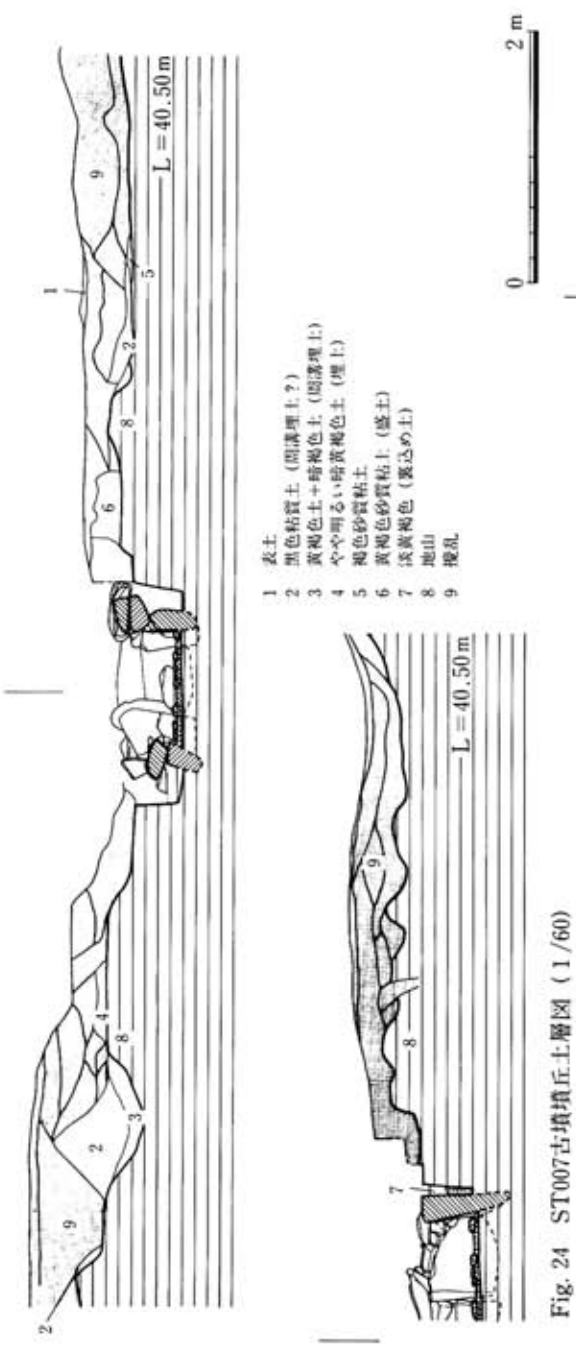


Fig. 24　ST007古墳墳丘土層図（1/60）

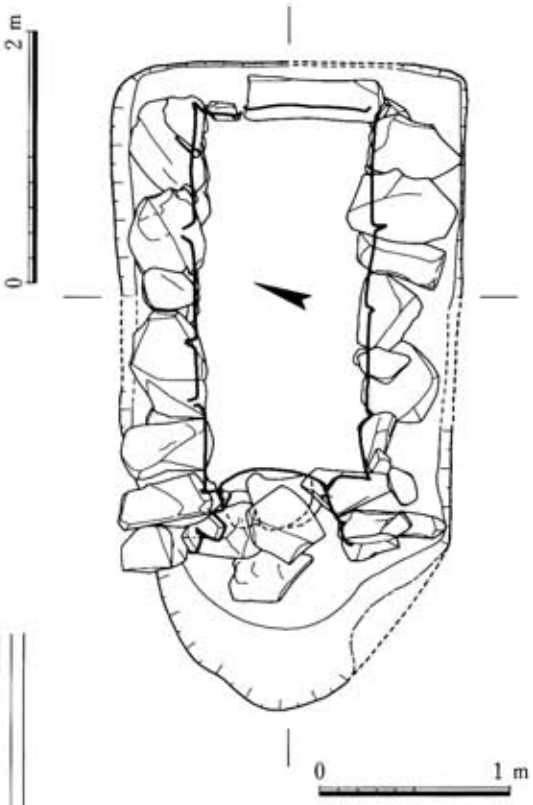


Fig. 25　ST007古墳石室平面（1/40）

玄室平面プランは長方形で，ハ字形に開く前庭部，舌状墓道が接続する。規模は玄室中央長1.92m，奥壁幅0.95m，中央幅0.9m，前幅0.84mを測る。石材は花崗岩である。

奥壁は腰石に70×70cm，20×46cm程の石材2石を地山に約5～20cm掘り込んで配する。右側壁は腰石に60×44cm，44×16cm，54×30cm，32×42cm程の横長石材4石を地山に5～20cm程掘

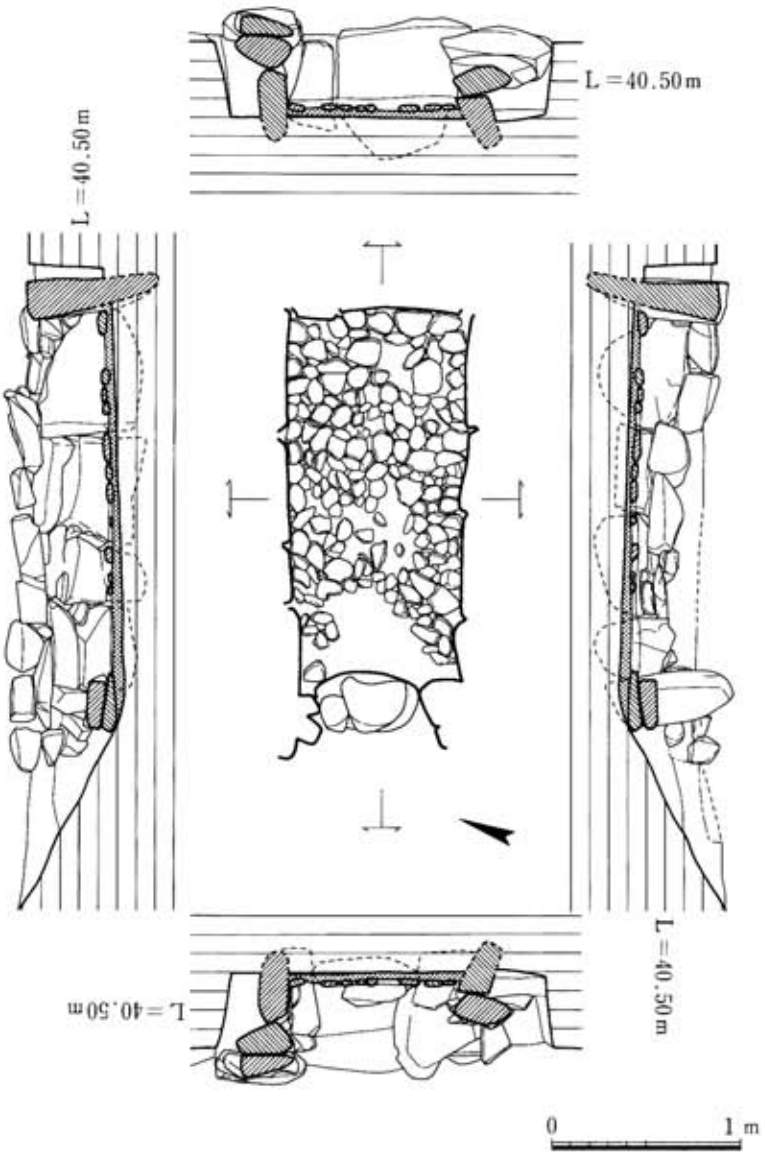


Fig. 26　ST007古墳石室（1/40）

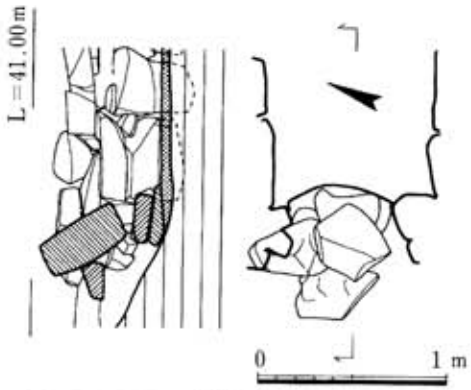


Fig. 27　ST007古墳石室閉塞状況（1/40）

り込んで横位に配する。その上に径約30～40cmの板状石材を１段積んでいるところまで残る。左側壁は腰石に64×52cm，54×50cm，34×44cm，44×30cm程の石材を地山に約10cm程掘り込んで配する。その上に径約30～60cmの板状石材を１～２段積み上げたところまで残存する。左右側壁とも残存部では持ち送りはみられない。玄室床面には貼り床が認められ，その上に径10～20cm程の花崗岩の礫で敷石を敷き詰めている。

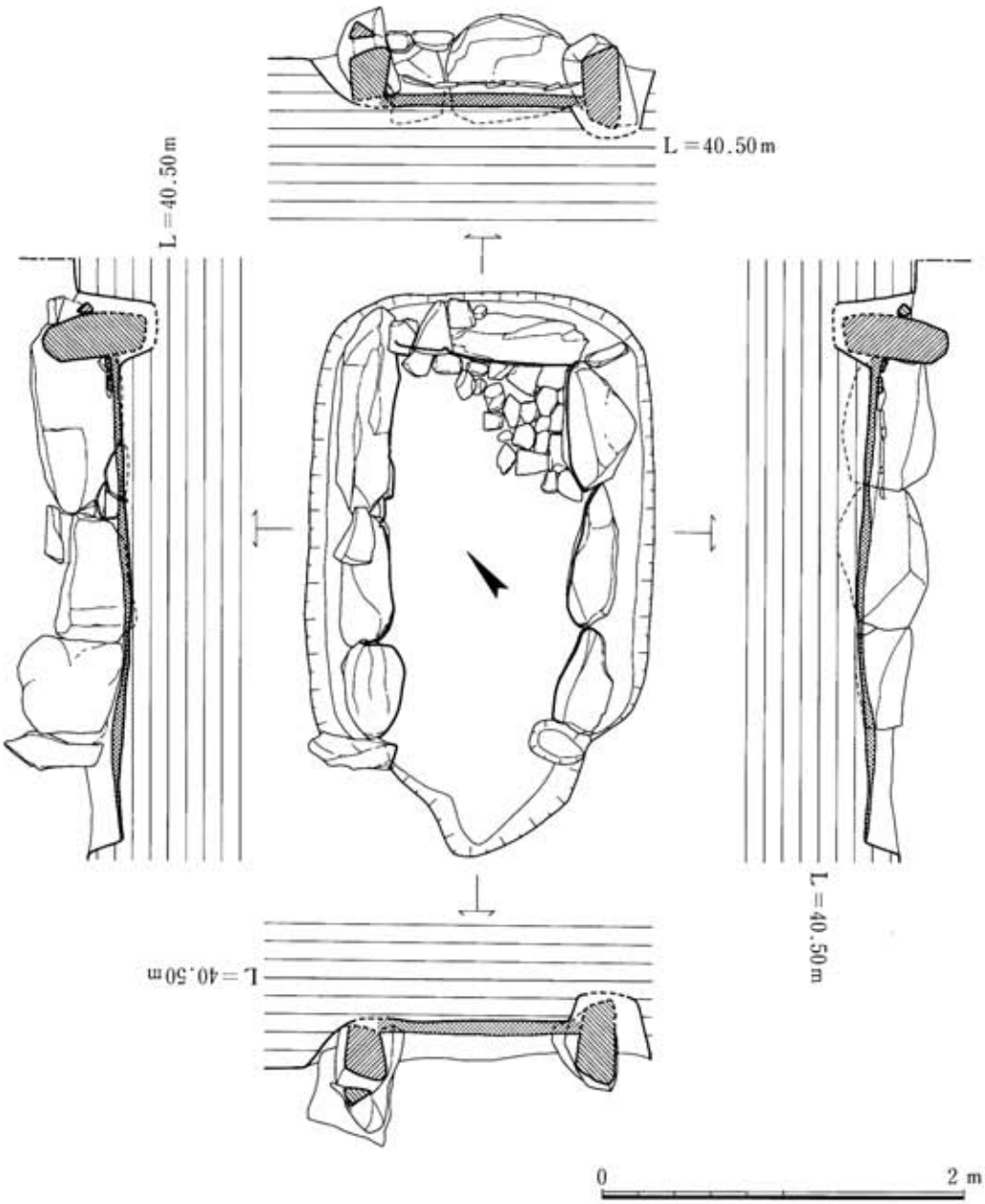


Fig. 28　ST008古墳石室（1/40）

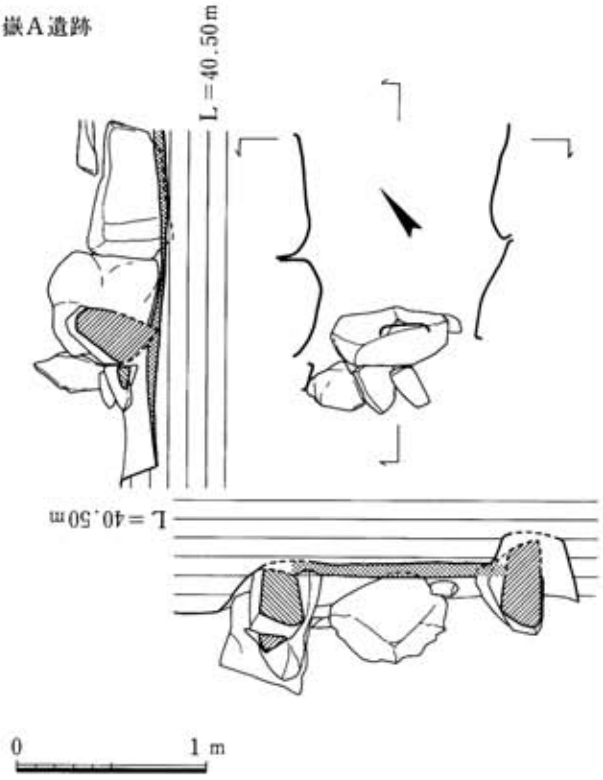


Fig. 29　ST008古墳石室閉塞状況（1/40）

玄門部右袖部に66×50cm程の板状石材を立てて袖石とする。左袖部はまず46×25cm程の板状石材を立て，その上に径約50cmの板状石材を左側壁にもかかるように配し，さらにその上に径約25cmの板状石材を配する。床面には床面上に2石からなる仕切石を配し，玄門部幅は54cmを測る。

前庭部は平面プランがハ字形に開く形態で，側壁は径20cm程の柱状石材を積み上げる。墓道は墳丘から斜面になって玄門部に接続する形態で，平面形態は短い舌状のものである。

閉塞施設には45×40cm程の板状石材1石と柱状石材2石を閉塞石として用いる。

遺物出土状況

石室内から古墳に伴う遺物は出土していない。周溝などから土師器，弥生土器，縄文土器が出土した。

ST008古墳（Fig. 28・29）

概要

調査区東側に位置し，墳丘と周溝の一部が調査区外にある。南にST007古墳が隣接する。墳丘盛土，石室上半部は削平を受ける。内部主体は単室両袖型の横穴式石室で，いわゆる竪穴系横口式石室に属する。周溝などから土師器，弥生土器，縄文土器が出土した。

墳丘・周溝

トレンチを設定していないため，詳細は不明である。墳丘盛土は削平され，失われている。周溝も削平を受け，原形をとどめていない。径約9mの円墳と推測される。

内部主体

単室両袖型の横穴式石室で，いわゆる竪穴系横口式石室に属する。ほぼ南西に向かって開口し，主軸をN41°Eにとる。右袖石，石室上部構造を欠失する。石室掘り方は長方形で，規模は残存する墓道を含めた長さ3.15m，幅1.9mを測る。深さは0.24～0.42mで，腰石中間の高さにほぼ一致する。

玄室平面プランは長方形で，前庭部は見られず，舌状墓道が接続する。規模は玄室中央長約2.14m，奥壁幅0.95m，中央幅1.02m，前幅0.88mを測る。石材は花崗岩である。

奥壁は腰石に80×60cm，40×45cm程の石材２石を地山に約20cm掘り込んで配する。右側壁は腰石に72×50cm，82×48cm，56×30cm程の横長石材３石を地山に約５～20cm掘り込んで横位に配する。左側壁は腰石に116×52cm，72×44cm，54×58cm程の横長石材３石を地山にほとんど掘り込まずに横位に配する。玄室床面には貼り床が認められ，奥壁右側付近に径10～30cm程の礫を敷いている。

玄門部は左袖石に54×48cm程の板状石材を立てているが，右袖石は抜かれて失われている。

前庭部は削平を受けたか，または本来なかったか不明であるが，前庭側壁はない。墓道は墳丘から竪坑状に降りて玄門部にいたる形態と思われ，平面形態は短い舌状のものである。

閉塞施設は62×46cm程のやや厚い板状石材を玄門部より内側に玄室貼り床を掘り込み，周辺を土で埋めて立て，その後ろに24～30cm程の板状石材３石を用いる。これが原位置とすると，位置的に不自然だが，倒れていないことから原位置を大きく動いたとは考えにくい。墓道を掘りすぎ，本来玄室床面と段差がある形態の墓道であるとすると，仕切石とみなすこともできなくはないが，位置的，形態的にも不自然なので，ここでは変則的な閉塞施設としておく。

遺物出土状況

石室内から古墳に伴う遺物の出土はない。周溝などから土師器，弥生土器，縄文土器が出土した。

III 遺　　物

猿嶽A遺跡から出土した遺物は，土器，土製品，石器，鉄器，馬具，装身具である。そのうち土器がもっとも多く，時期も縄文時代から古墳時代にまで及ぶ。

縄文時代の遺物は土器と土製品，石器であるが，この時代の遺構，包含層は確認されていない。いずれも，古墳墳丘などからの出土である。土器は早期，前期，後晩期のものがみられ，前期に属するものが主体を占める。

弥生時代の遺物は，ほとんどが中期に属する土器である。このうち，遺構に伴うものはSK009土壙から出土したもののみで，他は古墳墳丘などからの出土である。

古墳時代の遺物は，土師器，須恵器，鉄器（鉄刀・鉄鏃・刀子），馬具，装身具（勾玉・管玉・小玉）である。古墳の副葬品としてはST006古墳のみから出土し，土器はすべて墳丘，周溝などからの出土である。

以下，時代を追ってみていく。

1．縄文時代

縄文時代に属するものでは，土器，土製品と石器があげられる。時期幅も早期から晩期と幅広く，出土量もかなりまとまっている。このことから，当時期の遺構は古墳築造などにより後世に削平されたものと考えられる。

(1) 早・前期の土器（Fig. 30・31）

早・前期に属するものとしては，押型文土器，条痕文土器，無文土器，貝殻文土器，隆帯文土器，沈線・刺突文土器があげられる。

押型文土器

調査区西側から主に出土した。古墳墳丘などから出土し，出土量はあまり多くない。外面に山形文をもつものは2点のみで，楕円文をもつものがほとんどである。口縁部が残存するものはすべて内面に施文している。1と5は「原体条痕」を施している。6は他の楕円文とは異なり，やや細かい楕円文を施している。

無文土器

1点出土した。13は内外面とも調整はナデである。

条痕文土器

1点出土した。14は内外面とも横方向の条痕で，口縁端部に刻みをもつ。

貝殻文土器

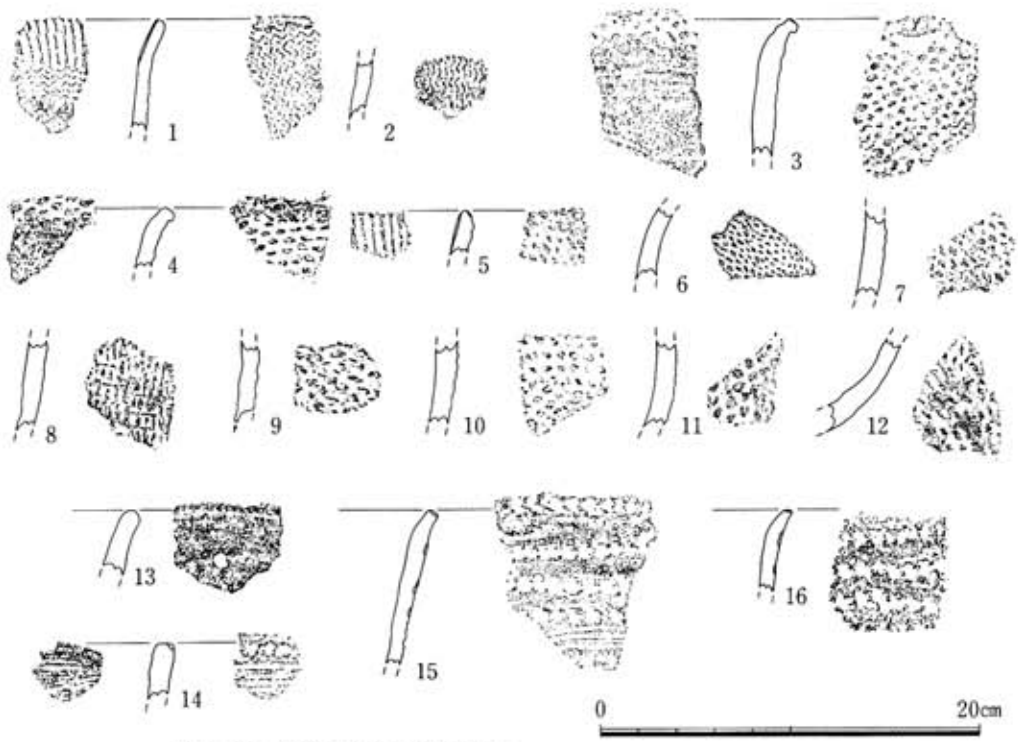


Fig. 30　縄文土器〈1〉(1/4)

2点出土した。いずれも口唇部及び口縁外面に3列貝殻による刺突を行っている。その下位には沈線文がめぐる。塞ノ神式B類に当たる。

沈線・刺突文土器

今回の調査で出土した縄文土器の主体を占める。口縁部を中心に19点図化した。このうち，口縁部内面を横位の沈線・短沈線で，口縁部から胴部外面を横位の沈線で施文するものが多数を占める。幅1㎜程の細い沈線のものは少なく，3～5㎜のやや太い沈線で施文するものが多い。このほかには，外面を斜格子で施文するもの(17～18)，口縁部外面を縦位の沈線で，内面を横位の沈線で施文するもの (20)，外面を組帯文で施文するもの (21・22)，口縁部外面，あるいは内面も横位の沈線の間に連続刺突文や刻みを施すもの (23～25) などがある。いずれも口縁端部に刻みが施される。また，胎土に滑石が混入するものは全体に少なく，図示したものの内では22・26の2点である。

(2)　後・晩期の土器 (Fig. 32)

出土量は少ない。36は坂の下II式の深鉢で，胎土中に滑石を混入させている。37は精製深鉢の把手と考えられ，胎土中に滑石を混入させている。坂の下遺跡から出土したものに類例がある。38は粗製深鉢。39～42は三万田～御領式の精製浅鉢ないしは鉢である。43は晩期の底部。44は刻目突帯文土器で，胴部で屈曲する深鉢である。

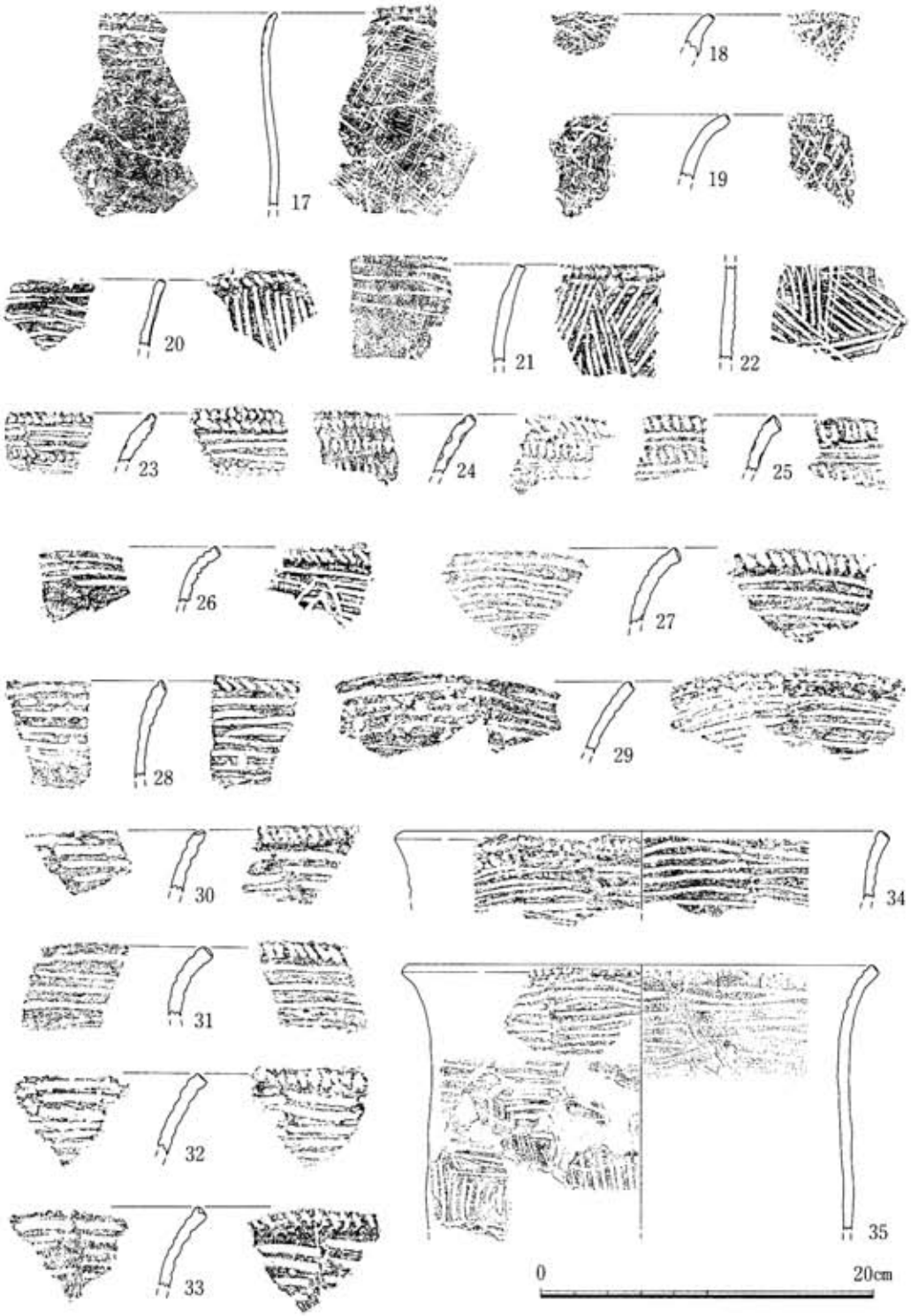


Fig. 31　縄文土器〈2〉(1/4)

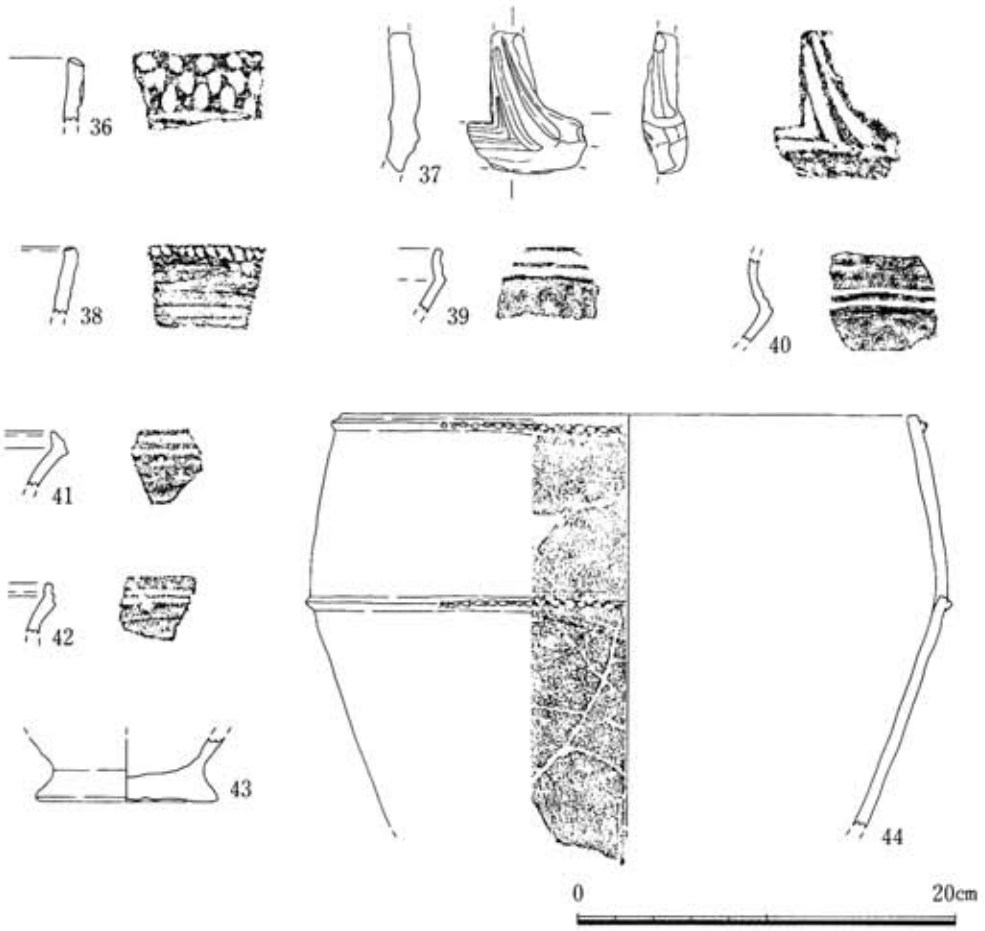


Fig. 32　縄文土器〈3〉(1/4)

Tab. 2　縄文土器観察表　　法量の単位はcm，(　) は復原値

Fig.番号	出土地点	器種	法　量cm	形態・文様・調整の特徴	色調	焼成	遺物登録番号
30-1	ST001 墳丘	深鉢		内面は縦位の原体条痕と横走する山形文。外面は口頸部が横走，下位は縦走する山形文。1波長7㎜，1波幅4㎜。	褐　色	良	92003590
-2	ST002 墳丘	深鉢		外面は縦走する山形文。1波長7㎜。1波幅3㎜。内面はナデ。	明褐色	良	93001508
-3	ST002 表土	深鉢		口縁部内面と外面は横走する6～8×5㎜の楕円文。口頸部に刻みを施す。	茶褐色	良	93001503
-4	ST002 表土	深鉢		外面は7×5㎜，内面は8×5㎜の横走する楕円文。	明褐色	良	93001504
-5	ST002 表土	深鉢		外面は斜走する6×4㎜の楕円文。内面は縦位の原体条痕。口頸部に刻みを施す。	褐　色	良	93001505

Fig.番号	出土地点	器種	法　量cm	形態・文様・調整の特徴	色調	焼成	遺物登録番号
30 -6	ST001 主体部	深鉢		外面は4×2㎜の左上がりの斜走する楕円文。内面はナデ。	明褐色	良	93001516
-7	ST002 表土	深鉢		外面は斜走すると思われる6×4㎜の楕円文。内面はナデ。	明褐色	良	93001507
-8	ST001 トレンチ	深鉢		外面は縦走する6×3㎜の楕円文。内面はナデ。	明褐色	良	93001501
-9	ST002 表土	深鉢		外面は横走する9×5㎜の楕円文。内面はナデ。	褐　色	良	93001519
-10	ST008 攪乱	深鉢		外面は径約5㎜の円形文。1回転2個。内面はナデ。	褐　色	良	93001520
-11	ST003 周溝	深鉢		外面は径5～7㎜の円形文。内面はナデ。	明褐色	良	93001517
-12	ST003 周溝	深鉢		底部付近か。外面は7×4㎜の楕円文であるが，不明瞭である。内面はユビオサエ後ナデ。	褐　色	良	93001518
-13	ST002 表土	深鉢		内外面ともナデ。	褐　色	良	93001506
-14	ST002 トレンチ	深鉢		口頸部外面に刻みを施す。内外面とも横方向の条痕。	明褐色	良	92003580
-15	ST001 トレンチ	深鉢		口頸部と外面に3条連続刺突文を，その下位に3条の沈線を施す。内面は横位のケズリのちナデ。	褐　色	良	92003571
-16	ST007 攪乱	深鉢		口頸部と外面に3条連続刺突文を施す。内面調整は不明。	褐　色	良	92003572
31 -17	ST008 攪乱	深鉢		外面に雑な斜格子文，口縁内面に横位の沈線とランダムな刺突文を施す。沈線の幅は約1㎜。口頸部に刻みを施す。	暗褐色	良	92003590
-18	ST003 墳丘	深鉢		外面，口縁部内面に幅約2㎜の沈線で斜格子文を施す。口頸部に刻みを施す。	褐　色	良	92003592
-19	ST002 表土	深鉢		外面，口縁部内面に幅約1.5㎜の沈線で斜格子文を施す。口頸部に刻みを施す。	褐　色	良	92003585
-20	ST003 周溝	深鉢		外面に縦位の沈線（幅約3㎜），内面に横位の沈線（幅約2㎜）を施す。口頸部に刻みを施す。	褐　色	良	92003587
-21	ST007 攪乱	深鉢		外面に組帯文，口縁部内面に横位の沈線を施す。沈線の幅は約3㎜。口頸部に刻みを施す。	暗褐色	良	92003600
-22	ST007 攪乱	深鉢		外面に幅約2㎜の沈線で組帯文を施す。胎土に滑石を含む。	暗褐色	良	92004501
-23	表土	深鉢		内外面とも連続刺突文の間に3条の沈線（幅3～4㎜）を施す。口頸部に刻みを施す。	褐　色	良	92003581
-24	ST008 攪乱	深鉢		外面は刻みの間に沈線文を施す。内面及び口頸部に刻みを施す。	明褐色	良	92003597
-25	ST007 攪乱	深鉢		内外面とも横位の沈線（幅約2㎜）の間に刻みを施す。口頸部はやや肥厚し，刻みが施される。	暗褐色	良	92003591

Fig.番号	出土地点	器種	法　量(cm)	形態・文様・調整の特徴	色調	焼成	遺物登録番号
31 -26	ST008 攪乱	深鉢		外面に横位と斜位の沈線，口縁内面に横位の沈線，口脇部に刻みを施す。沈線の幅は約2.5mm。胎土に滑石を含む。	暗褐色	良	92003598
-27	ST008 攪乱	深鉢		外面に横位の沈線4条，その下に連続刺突文，内面に横位の沈線を施す。沈線の幅は約3mm。口脇部に刻みを施す。	褐　色	良	92003593
-28	ST008 攪乱	深鉢		外面に横位の沈線，口縁部内面に横位の短沈線2列と沈線4条を施す。沈線の幅は約4mm。口脇部に刻みを施す。	褐　色	良	92003583
-29	ST008 攪乱	深鉢		内外面に横位の沈線を施す。沈線の幅は約3mm。口脇部に刻みを施す。	暗褐色	良	92003582
-30	ST008 攪乱	深鉢		外面に横位の沈線，内面に横位の短沈線を施す。沈線の幅は約4.5mm。口脇部に刻みを施す。	暗褐色	良	92003596
-31	ST001 墳丘	深鉢		内外面に横位の沈線を施す。沈線の幅は約3mm。口脇部に刻みを施す。	明褐色	良	92003578
-32	ST008 攪乱	深鉢		内外面に横位の短沈線を施す。沈線の幅は4～5mm。口脇部に刻みを施す。	褐　色	良	92003589
-33	ST008 攪乱	深鉢		内外面に横位の沈線を施す。沈線の幅は4～5mm。口脇部に刻みを施す。	褐　色	良	92003595
-34	ST008 攪乱	深鉢	口径(28.6)	外面に横位に短沈線，内面に横位の沈線を施す。沈線の幅は約3mm。口脇部に刻みを施す。	褐　色	良	92003586
-35	ST001	深鉢	口径(27.9)	外面上半を横位の沈線，下半を縦位の沈線，内面を横位の沈線を施す。沈線の幅は約3mm。口脇部に刻みを施す。	黒褐色	良	87000821
32 -36	ST003 表土	深鉢		胎土に滑石を含む。	茶褐色	良	92004787
-37	ST007 攪乱	深鉢 把手		胎土に滑石を含む。	赤褐色	良	92004792
-38	ST007	深鉢		粗製の深鉢。外面はヘラ状工具による横方向の調整と思われる。内面はナデ。口脇部に刻みを施す。	明褐色	良	92004502
-39	ST001 墳丘	浅鉢		口縁部外面に凹線を2条施す。内外面とも横方向のミガキ。	明褐色	良	92004506
-40	ST005 周溝	浅鉢		屈曲部の外面に沈線を2条施す。内外面とも横方向のミガキ。	明褐色	良	92004505
-41	ST003 表土	浅鉢		口縁端部を上方に拡張し，外面は2条の凹線状になる。内外面とも横方向のナデ。	明褐色	良	92004785
-42	ST003 墓道埋土	浅鉢		口縁部外面に沈線を2条施す。外面は横方向の条痕ののち横方向のナデ，内面は横方向のナデ。	明褐色	良	92004786
-43	ST007	深鉢	底径(9.7)	内外面ともナデ。	茶褐色	良	87000808
-44	表土	深鉢	口径(30.3)	口縁端部からやや下がった部分と屈曲部に刻目突帯を施す。刻みは浅い。内外面ともナデ，外面下半部はケズリ。	明褐色	良	92003570

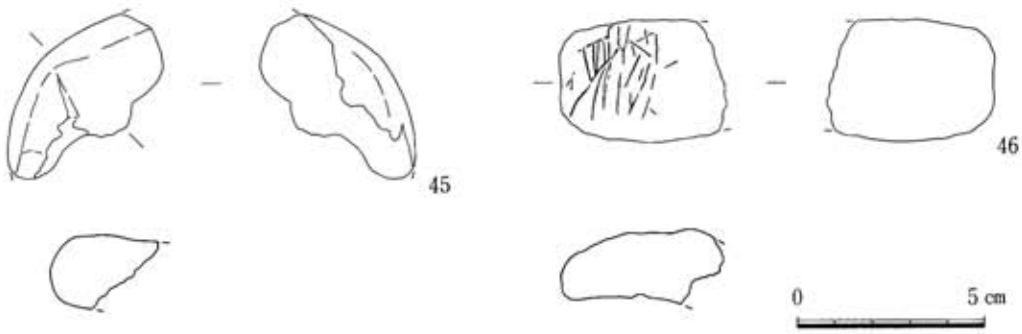


Fig. 33　土製品（1/2）

(3) 土　製　品 (Fig. 33)

2点出土している。45は土製円盤と思われる。厚さ2.0cmで，色調は茶褐色である。46は不明土製品である。やや湾曲する板状のもので，表面に細沈線が10数条ランダムに施されている。色調は褐色である。

(4) 石　　器 (Fig. 34～36)

石鏃（47～55）は9点出土した。47～53は基部に抉りがある。49は平面が五角形に近い。石材は47～49は黒曜石で，それ以外はサヌカイトである。

削器（56～64）は9点図示した。56～60はいわゆる石匙で，57～59は縦長剥片を素材とする。石材は64のみチャートで，他はサヌカイトである。

磨製石斧（65～70）は6点図示した。69はいわゆる蛇紋岩製である。

Tab. 3　石器観察表　　法量の単位はcm・g，（　）は復原値

Fig.番号	出土地点	種　別	長さ	幅	厚　さ	重　量	石　　材	遺物登録番号
34-47	ST007攪乱	石鏃	1.7	1.5	0.5	0.7	黒曜石	91000853
-48	ST001墳丘	石鏃	2.0	1.55	0.35	0.8	黒曜石	91000852
-49	ST001墳丘	石鏃	2.5	1.65	0.35	1.3	黒曜石	91000851
-50	表　採	石鏃	2.7	1.65	0.55	1.2	サヌカイト	91000855
-51	ST001墳丘	石鏃	2.75	1.8	0.5		サヌカイト	91000856
-52	ST001墳丘	石鏃	2.65	2.35	0.85	3.3	サヌカイト	91000857
-53	ST003墓道	石鏃	3.9	1.9	0.55	2.7	サヌカイト	91000854
-54	ST007攪乱	石鏃	4.7	2.0	1.05	7.4	サヌカイト	91000859
-55	ST008攪乱	石鏃	5.1	2.0	0.9		サヌカイト	91000858
-56	表　土	削器	3.4	5.3	0.85	12.2	サヌカイト	91000728
-57	表　採	削器	6.9	4.3	0.65	21.2	サヌカイト	91000731
-58	ST008攪乱	削器	6.4	6.9	1.05	38.0	サヌカイト	91000726
-59	ST007攪乱	削器		3.3	0.85	10.7	サヌカイト	91000732

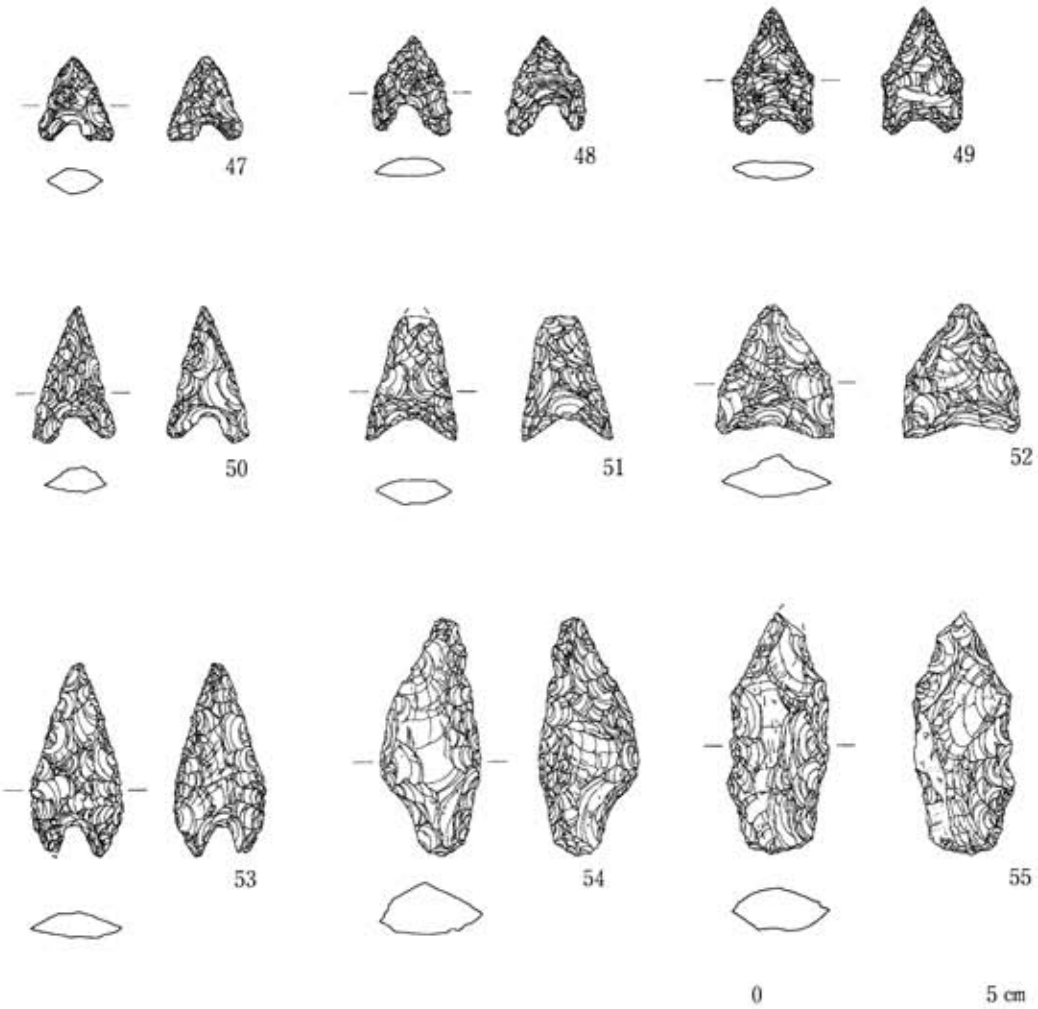


Fig. 34　石器〈1〉(2/3)

Fig.番号	出土地点	種　別	長さ	幅	厚さ	重量	石　材	遺物登録番号
35-60	ST002墳丘	削　器	5.4	6.9	0.9	24.9	サヌカイト	91000727
-61	ST001墳丘	削　器	3.15	2.4	0.65	4.8	サヌカイト	91000860
-62	ST007tr	削　器	2.95	3.35	1.15	9.5	サヌカイト	91000863
-63	ST005周溝	削　器	4.5	4.8	1.2	25.1	サヌカイト	91000744
-64	ST006攪乱	削　器	3.5	4.2	1.15	18.8	チャート	91000725
36-65	ST008主体部	磨製石斧	10.9	4.0	2.95	202.5		93001358
-66	表　採	磨製石斧		4.45	2.9			93001355
-67	表　採	磨製石斧		4.0	2.8			93001354
-68	ST008攪乱	磨製石斧		5.05	2.2			93001359
-69	ST007攪乱	磨製石斧		5.85	3.3			93001357
-70	ST007周溝	磨製石斧	9.6	4.45	1.8	104.7		93001356

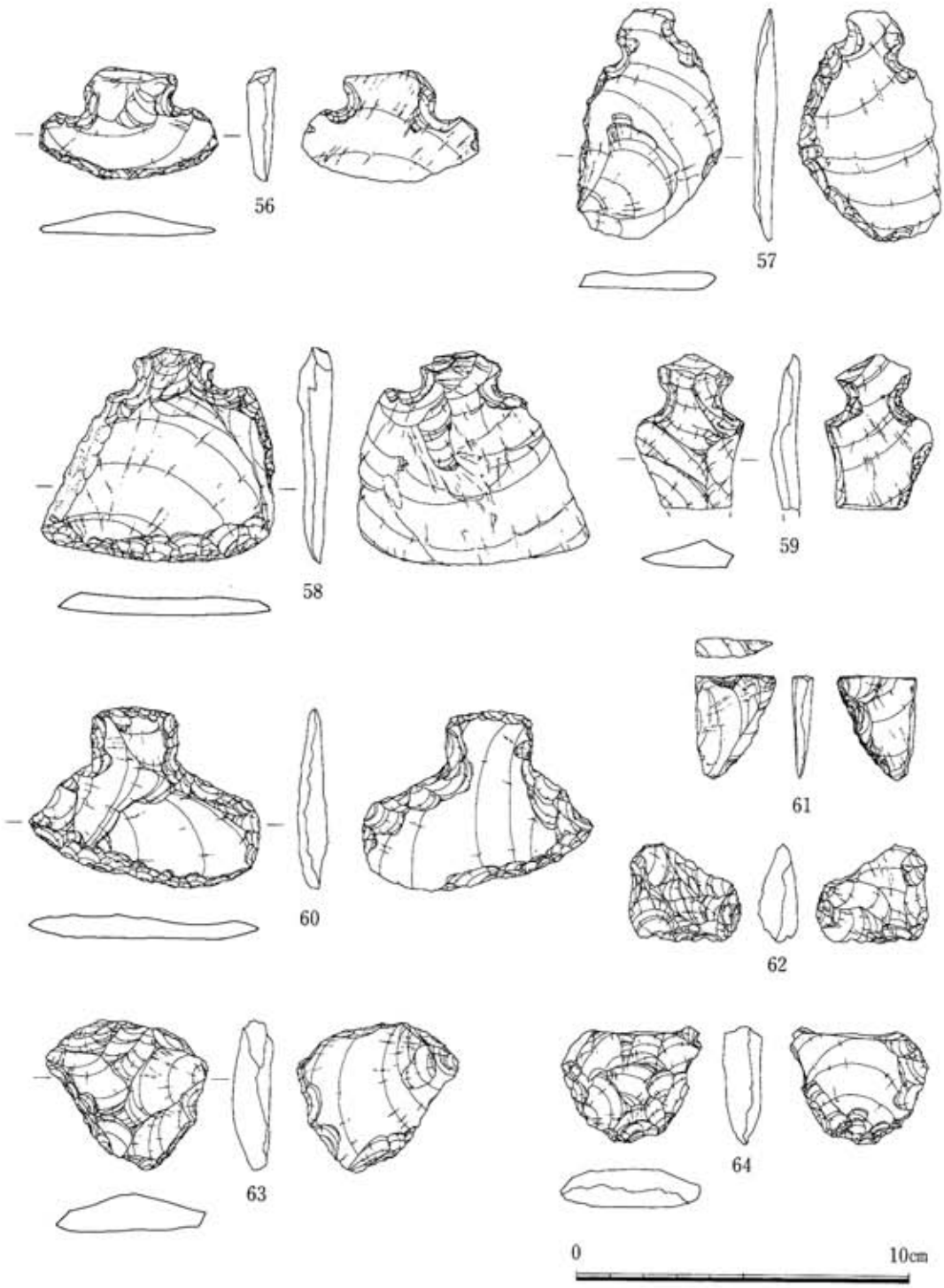


Fig. 35　石器〈2〉(1/2)

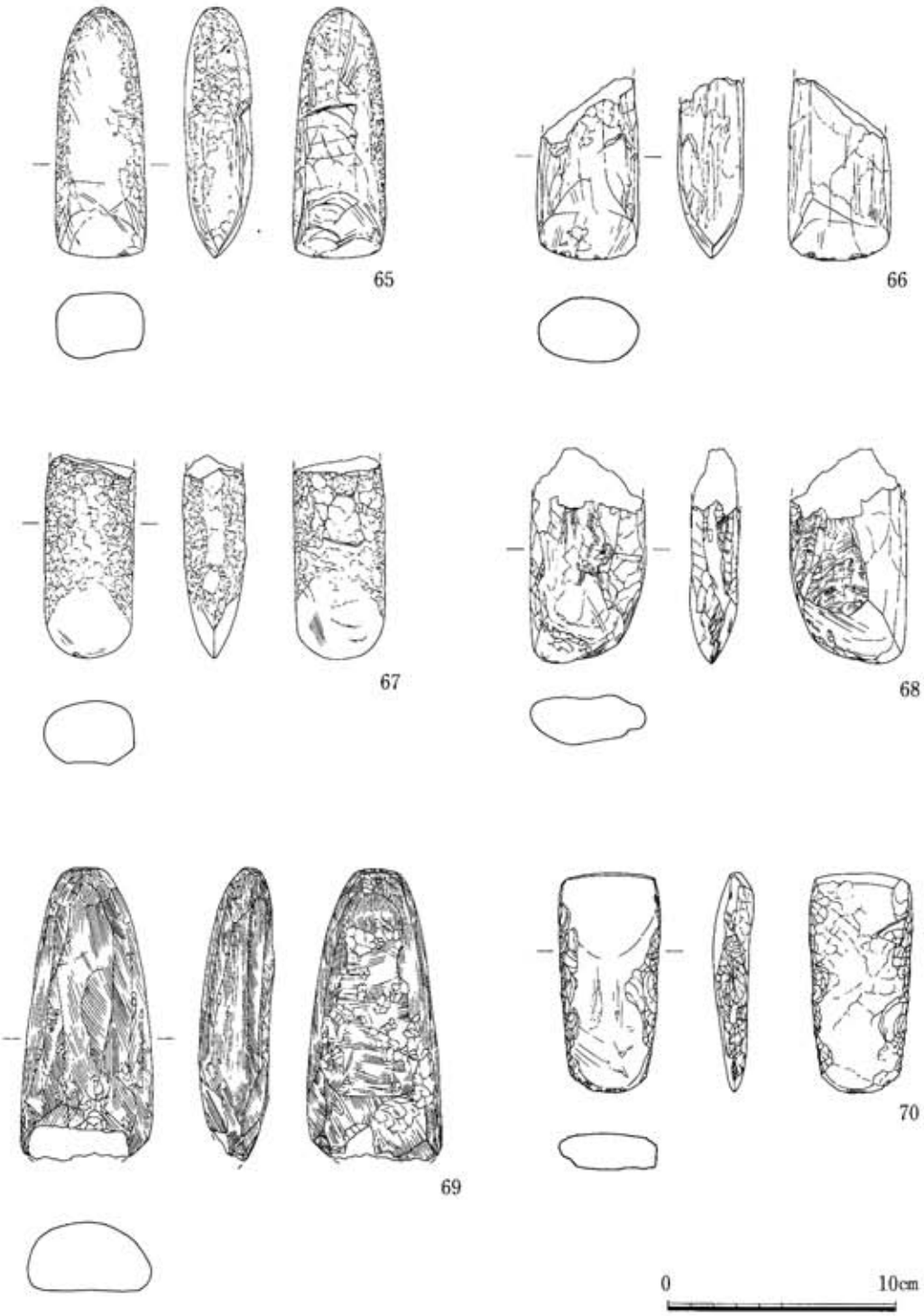


Fig. 36　石器〈3〉(1/3)

2．弥生時代

弥生時代に属する出土遺物としては，土器と石器があげられる。土器は1点のみ前期の可能性のあるものがあるが，そのほかはすべて中期のものである。日常土器が大部分を占めるが，丹塗磨研土器も数点みられる。遺構としては，調査区北端中央のSK009土壙のみが確認されているが，墳丘盛土などから出土した遺物の量は弥生土器がもっとも多い。本来多数の中期の生活遺構が存在したものと思われる。また，石器は図示しなかったが，蛤刃石斧片が1点出土している。

(1) SK009土壙出土遺物（Fig. 37）

71と72は屈折口縁の甕である。71は復原口径25.9cmで，口縁部外面にススの付着が観察される。72は床面直上からの出土で，ほぼ完形に復原できる。口径29.9cm，器高31.6cmである。外面口縁部から胴部中位にかけてススの付着がみられる。

73～75は直口縁の鉢で，底部は平底である。73は復原口径16.0cmである。74は口径17.7cm，

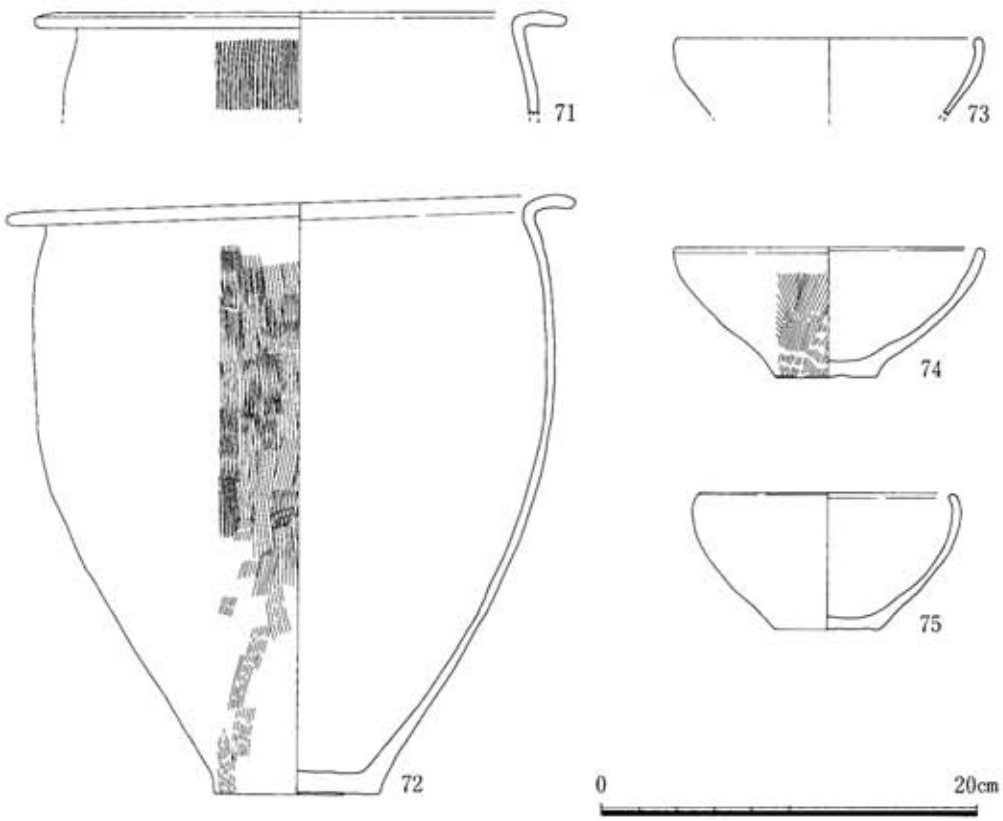


Fig. 37　SK009土壙出土遺物（1/4）

器高6.8cmである。75は口径13.4cm，器高7.2cmで，口縁部がややすぼまる。

出土遺物から，遺構の時期は中期後半である。

(2) その他の遺物（Fig. 38）

ここでは，古墳墳丘盛土などから出土した遺構に伴わないものを取りあげる。

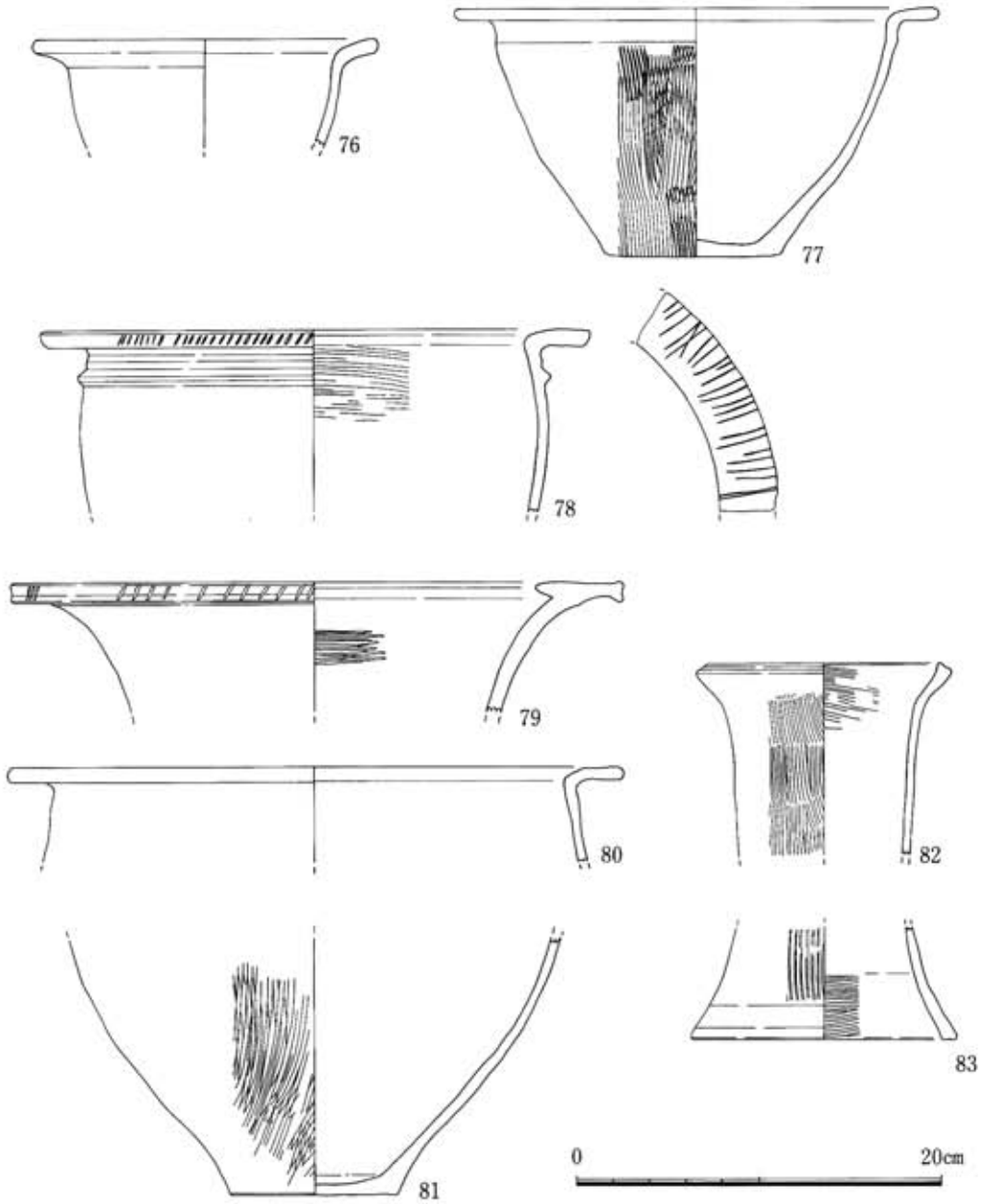


Fig. 38　弥生土器（1/4）

76は如意状口縁の鉢と思われ，前期の土器の可能性が高い。胎土，色調とも他の中期の土器とは異なる。

77は屈折口縁の鉢で，ほぼ完形に復元できる。外面の一部にススの付着が観察される。

78は外面と内面の一部に丹塗磨研を施した屈折口縁の甕で，口縁下に断面コ字形の突帯を1条めぐらせる。口縁部上面に暗文を施文し，口縁端部には刻みを施す。

79は鋤先状口縁の広口壺で，内外面に丹塗磨研が施され，口縁端部に刻みが施される。80は屈折口縁の甕である。81は底部，82・83は器台である。

これらの土器は中期中頃から後半の時期のものである。

Tab. 4　弥生土器観察表　　法量の単位はcm，（　）は復原値

Fig.番号	出土地点	器種	法　量cm	形態・文様・調整の特徴	色調	焼成	遺物登録番号
37 -71	SK009 埋土	甕	口径(25.9)	屈折口縁。口縁部上面はほぼ水平である。外面にススが付着する。口縁部ヨコナデ，外面ハケメ，内面ナデ。	明褐色	良	86006187
-72	SK009	甕	口径 29.9 器高 31.6	屈折口縁。口縁部はわずかに垂れ下がる。外面にススが付着する。口縁部ヨコナデ，外面ハケメ，内面ナデ。	茶褐色	良	87000824
-73	SK009	鉢	口径(16.0)	直口縁で，口縁部がわずかにすぼまる。口縁部ヨコナデ，内面ナデ，外面は磨耗により調整不明。	明茶褐色	良	92003561
-74	SK009 埋土	鉢	口径 17.7 器高 6.8	直口縁で，底部平底。口縁部ヨコナデ，外面ハケメ，内面ナデ。	明褐色	良	86006186
-75	SK009 埋土	鉢	口径 13.4 器高 7.2	直口縁で，口縁部がすぼまる。底部平底。口縁部ヨコナデ，内外面ナデ。	明褐色	良	86006185
38 -76	ST002 墳丘A区	鉢	口径(18.6)	如意状口縁の小型の鉢。口縁部ヨコナデ，外面縦方向のハケメ後ナデ，内面ナデ。	褐　色	良	92003574
-77	ST001 周溝C区	鉢	口径 26.6 器高 13.6	屈折口縁で，底部平底。外面一部にススが付着する。口縁部ヨコナデ，外面ハケメ，内面ナデ。	茶褐色	良	87000817
-78	表採	甕	口径(30.1)	外面から内面一部にかけて丹塗磨研を施す。口縁部上面に暗文がある。口縁下にコ字状突帯を1条めぐらす。	赤褐色	良	87000811
-79	ST002 墳丘D区	壺	口径(33.5)	鋤先状口縁。全面に丹塗磨研を施す。口縁端部に刻みを施す。口縁部ヨコナデ，外面ナデ，内面ヘラミガキ。	褐色～淡褐色	良	86006188
-80	ST001	甕	口径(34.0)	屈折口縁。上面はほぼ水平である。口縁部ヨコナデ，内外面ナデ。	茶褐色	良	87000822
-81	ST001 墳丘A区	甕	底径(9.2)	底部平底。外面ハケメ，内面ナデ。	茶褐色	良	86006178
-82	表採	器台	口径(12.7)	受け部端部は沈線状をなす。口縁部ヨコナデ，内外面ハケメ，内面下部ナデ。	淡茶褐色	良	87000810
-83	表採	器台	裾径(14.3)	裾部ヨコナデ，内外面ハケメ，内面上部ナデ。	淡茶褐色	良	86006183

3．古墳時代

古墳時代の遺物で，副葬品が石室内から原位置を保って出土したのは，ST006古墳のみである。その他の古墳では墳丘，周溝，墓道及び撹乱土から出土している。土器については概要を観察表にまとめた。

なお，ST005・008古墳には，古墳に伴うと考えられるもので図示できる遺物はなかった。

(1) ST001古墳出土遺物（Fig. 39）

須恵器，土師器が墳丘，周溝から出土した。

土師器

84は鉢である。胴部は偏球形で，口縁部はやや外反する。かなり器壁が厚い。85は坏で，丸底から内湾しながら立ち上がる。かなり器壁が厚く，砂粒を多く含む。内外面ともナデで，口縁部はヨコナデを施す。

須恵器

86は壺で，ほぼ完形に復原できる。頸部には精緻な2条の櫛描波状文を施している。内面は丁寧にナデにより同心円文が消されている。なお，胎土分析の結果小隈窯産とされる。(1)

(2) ST002古墳出土遺物（Fig. 39）

土師器，須恵器が墳丘，周溝から出土した。

土師器

87・88は須恵器模倣の坏蓋である。ともに天井部と体部の境に段があり，内外面ともヘラミガキを施す。87には外面に黒塗りの痕跡が残る。89・90は須恵器模倣の坏身である。89は口縁部が内傾する。内外面はヘラミガキで，黒塗りの痕跡が残る。90は口縁部が直立し，口縁端部内面に段をもつ。

須恵器

91は短頸壺の蓋で，92は短頸壺である。ともに，周溝から出土しており，セットになる可能性が高い。93～95は甕である。93は胴部上半に櫛描列点文が2列施される。94は平底に近い。頸部上半に櫛描波状文を1条，胴部には櫛描列点文を2列施される。頸部上半と胴部にかけてカキメを施す。96は甕で，ほぼ完形に復原できる。

(3) ST003古墳出土遺物（Fig. 39）

須恵器が周溝から出土した。

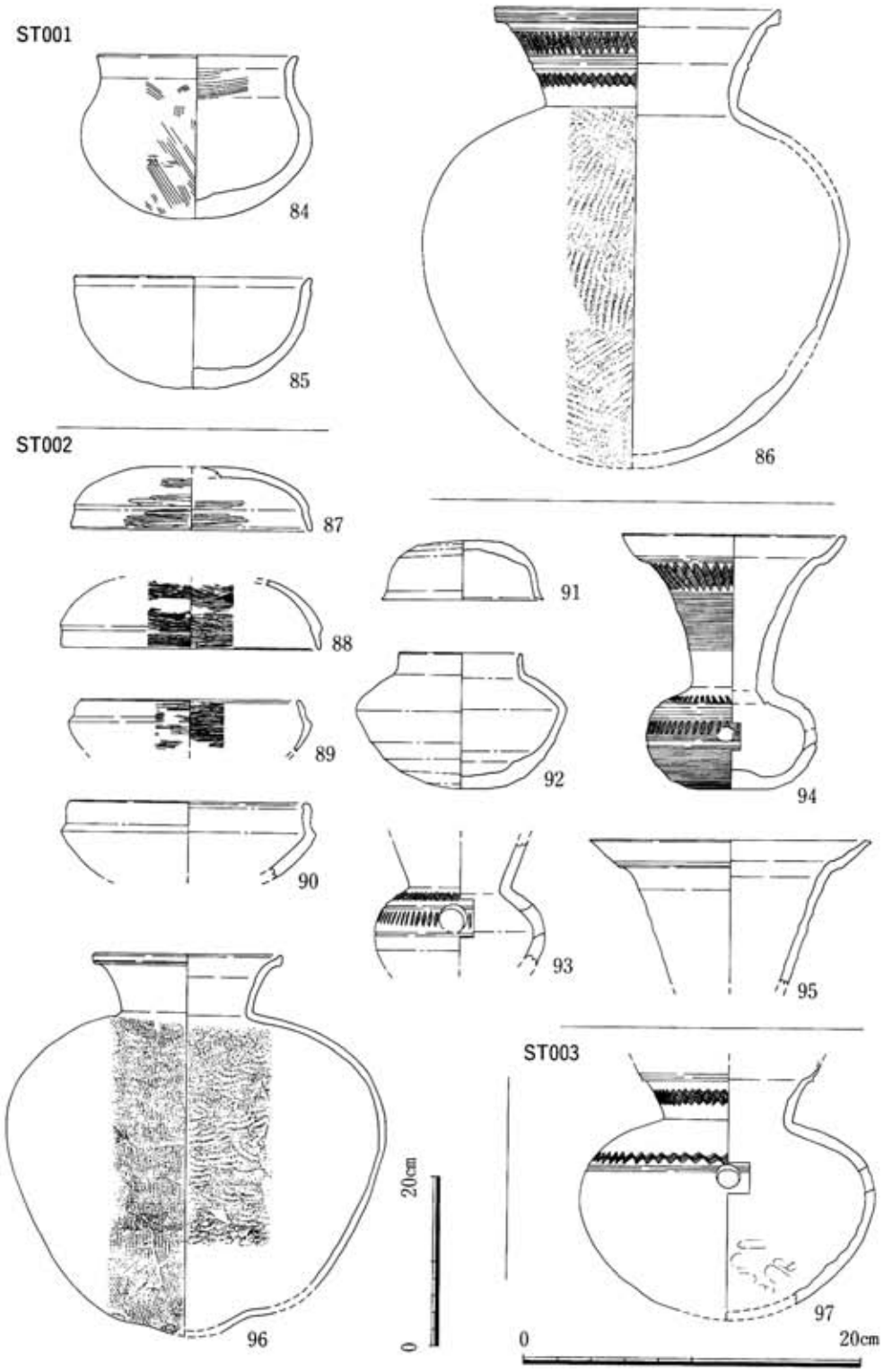


Fig. 39　ST001・ST002・ST003古墳出土遺物（1/4，96は1/8）

須恵器

97は大型の甕で，口縁部と底部を欠失する。頸部と胴部上半に精緻な櫛描波状文をそれぞれに1条施す。胴部上半と内面の一部に自然釉がかかる。内面下部にユビオサエの痕跡が残る。なお，胎土分析の結果，小隈窯産の可能性が強いとされる(2)。

(4) ST006古墳出土遺物 (Fig. 40～43)

石室内から鉄刀，鉄鏃，刀子，馬具，勾玉，管玉，ガラス小玉が出土した。これらは今回の調査の中で，ほぼ原位置を保って石室内から出土した唯一の副葬品である。また，攪乱土中から須恵器が出土した。

鉄器

98は鉄刀である。錆，ひび割れがひどく，遺存状態はよくない。切先と茎先端がわずかに欠失している。残存長98.8cm，刀身残存長79.4cm，刀身幅3.8cm，茎残存長19.4cmを測る。関部から4.5cmと16.3cmの2カ所に径0.6cm程の目釘穴があり，目釘がつまっている。刀身に鞘木，茎に把の木質がかなり遺存している。

鉄鏃（99～116）は玄室埋土中から出土した圭頭式の110を除き，すべて柳葉式長頸鏃である。鏃身は平面三角，両刃で，篦被の断面は方形である。規格はほぼ同一で，鏃身長1.9～2.3cm，鏃身幅1.0～1.2cm，篦被長7.6～8.8cmであるが，102は篦被長が5.5cmと短い。110は鏃身長5.2cm，鏃身幅2.0cmを測る。茎部にはいずれも木質や樹皮が残存している。

117は鹿角装刀子。把元金具が残り，その上に糸状のものが付着している。

＜鉄器遺物登録番号＞

98－92000738　99－89009096　100－89009113　101－89009094　102－89009106　103－89009103
104－89009112　105－89009104　106－89009110・89009111　107－89009109　108－89009097・89009098
109－89009099　110－89009115　111－89009095　112－89009116　113－89009100・89009101・89009102
114－89009107　115－89009108　116－89009105　117－89009114

馬具

118～120は剣菱形杏葉である。いずれも錆などがひどく，遺存状況はよくない。3枚1セットと考えられるが，大きさ，形態とも異なっている。

118は厚さ約2㎜の鉄板でつくられている。鉄製にみえるが，鍍金あるいは金張りの可能性もある。杏葉の周囲に径0.5cmほどの打ち出しの珠点により鋲を表現しており，その数は35個ほどと推測される。立聞孔には釣舌金具が差し込まれている。復原的に図化している。釣舌金具は5個の鉄製の鋲を打つ鉄製と思われ，裏面に革帯の痕跡が残存する。杏葉全長20.3cm，立聞高2.3cm，楕円部幅10.2cm，剣菱部長10.8cm，剣菱部幅7.3cm，釣舌金具の全長4.4cm，幅2.1cmを

測る。

119は118と同様の製作法であるが，形態，サイズがやや異なる。やはり径３～５cmほどの打ち出しの珠点により鋲を表現しており，35個ほどと推測される。全長17.3cm，立聞高2.0cm，偏円部幅6.65cm，剣菱部長9.6cm，剣菱部幅5.8cmを測る。釣舌金具の痕跡はみられない。

120は前述の２点とは形態，製作法などがかなり異なっている。厚さ約３mmの鉄板でつくられている。鉄製にみえるが，金銅板の痕跡がわずかに残っており，金銅張りと思われる。杏葉の周囲に縁金はなく，鉄製の鋲を打っており，その数は27個ほどと推測される。遺存状態が悪いため金銅板をどのようにして留めていたかは判断できない。立聞孔には釣舌金具が差し込まれている。復原的に図化している。釣舌金具は４個の鉄製の鋲を打つ鉄製と思われ，裏面に革帯の痕跡が残存する。杏葉全長20.3cm，立聞高1.5cm，楕円部幅10.2cm，剣菱部長12.7cm，剣菱部幅10.5cm，釣舌金具の全長4.7cm，幅2.3cmを測る。

121は環状雲珠を構成する鉄環で，長径7.4cm，短径6.8cmのやや楕円形を呈する。断面形は長方形である。

122～128は革金具である。いずれも鉄製にみえるが，金銅張りの可能性もある。出土状況から121につながり，雲珠を構成する金具であると考えられる。122～126は爪形金具に１条責金具を組み合うもので，鉄製の鋲を３個打つ。一部には裏面に革帯が付着している。その状況から厚さ約2.5cmの革が二重になっていると推定される。127は長方形金具に１条責金具が組み合うもので，鉄製の鋲を５個打っている。形態，サイズが118の釣舌金具に近く，119に差し込まれる釣舌金具の可能性がある。128は責金具である。爪形金具につくものも含めすべて１条で，観察することが難しいが，刻みがある可能性がある。

＜馬具遺物登録番号＞

118－93001326　119－93001025　120－93001327　121－89009088　122－93001330　123－93001331
124－93001328　125－93001329　126－93001332　127－93001339　128－93001338

装身具

129～138は碧玉製管玉である。130・132～134・136は床面直上，他は玄室埋土から出土した。129は長さ1.9cm，径0.58～0.63cm，孔径0.2～0.27cm，130は長さ1.9cm，径0.5cm，孔径0.07～0.2cm，131は長さ1.85cm，径0.6cm，孔径0.2cm，132は長さ1.8cm，径0.6cm，孔径0.1～0.2cm，133は長さ1.8cm，径0.55cm，孔径0.1～0.2cm，134は長さ1.7cm，径0.55cm，孔径0.07～0.2cm，135は長さ1.6cm，径0.6cm，孔径0.1～0.25cm，136は長さ1.55cm，径0.6cm，孔径0.07～0.2cm，137は長さ1.45cm，径0.55～0.6cm，孔径0.2～0.3cm，138は長さ1.35cm，径0.55cm，孔径0.1～0.22cmを測る。すべて深緑色で，片面穿孔であるが，131・134・137・138にはむかえ穴を穿つ。

139～142はガラス製小玉である。139は幅0.4cm，厚さ0.33cm，孔径0.15cmを測る。青緑色で

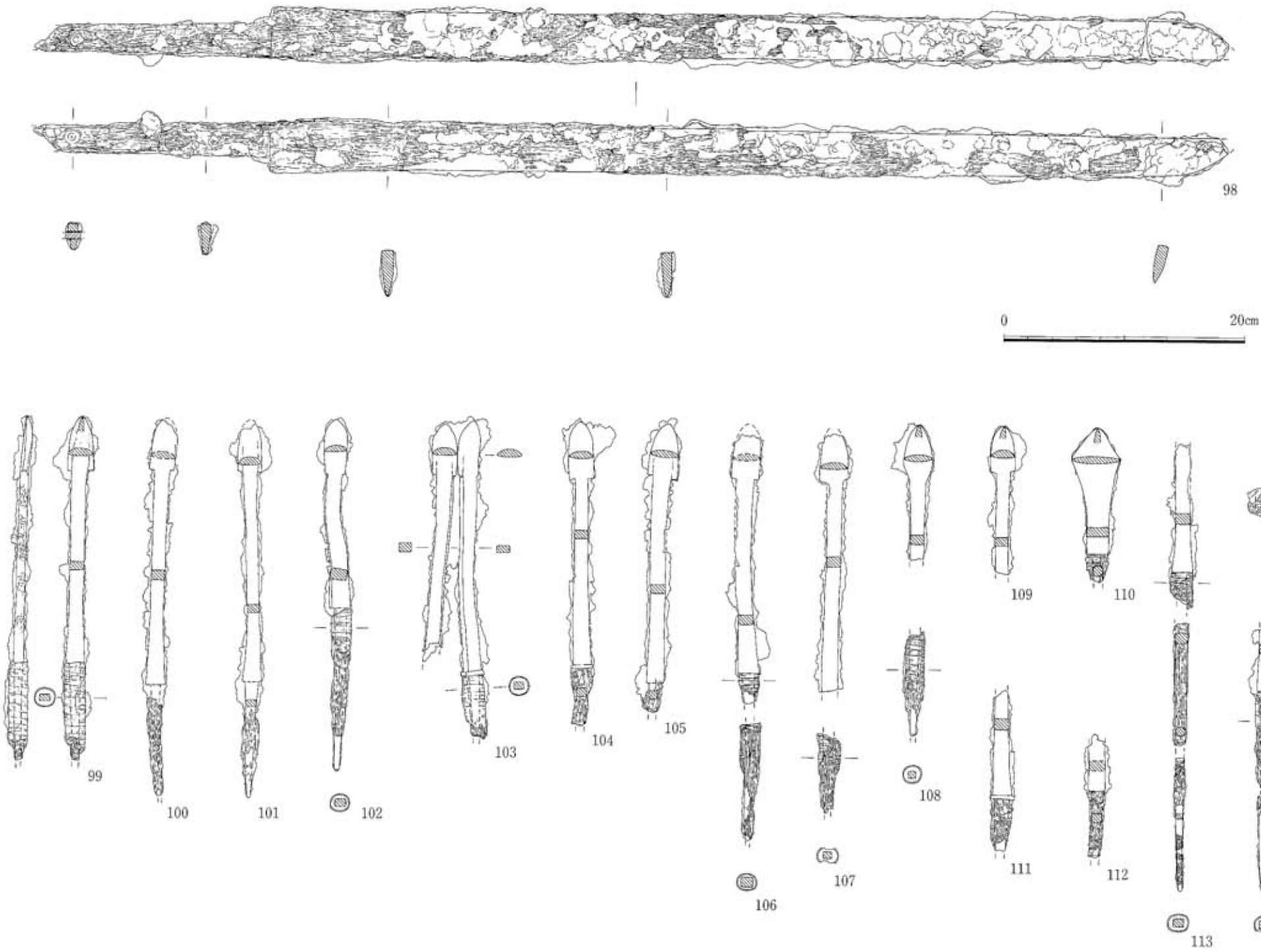


Fig. 40　ST006古墳出土鉄器（1/2，98は1/4）

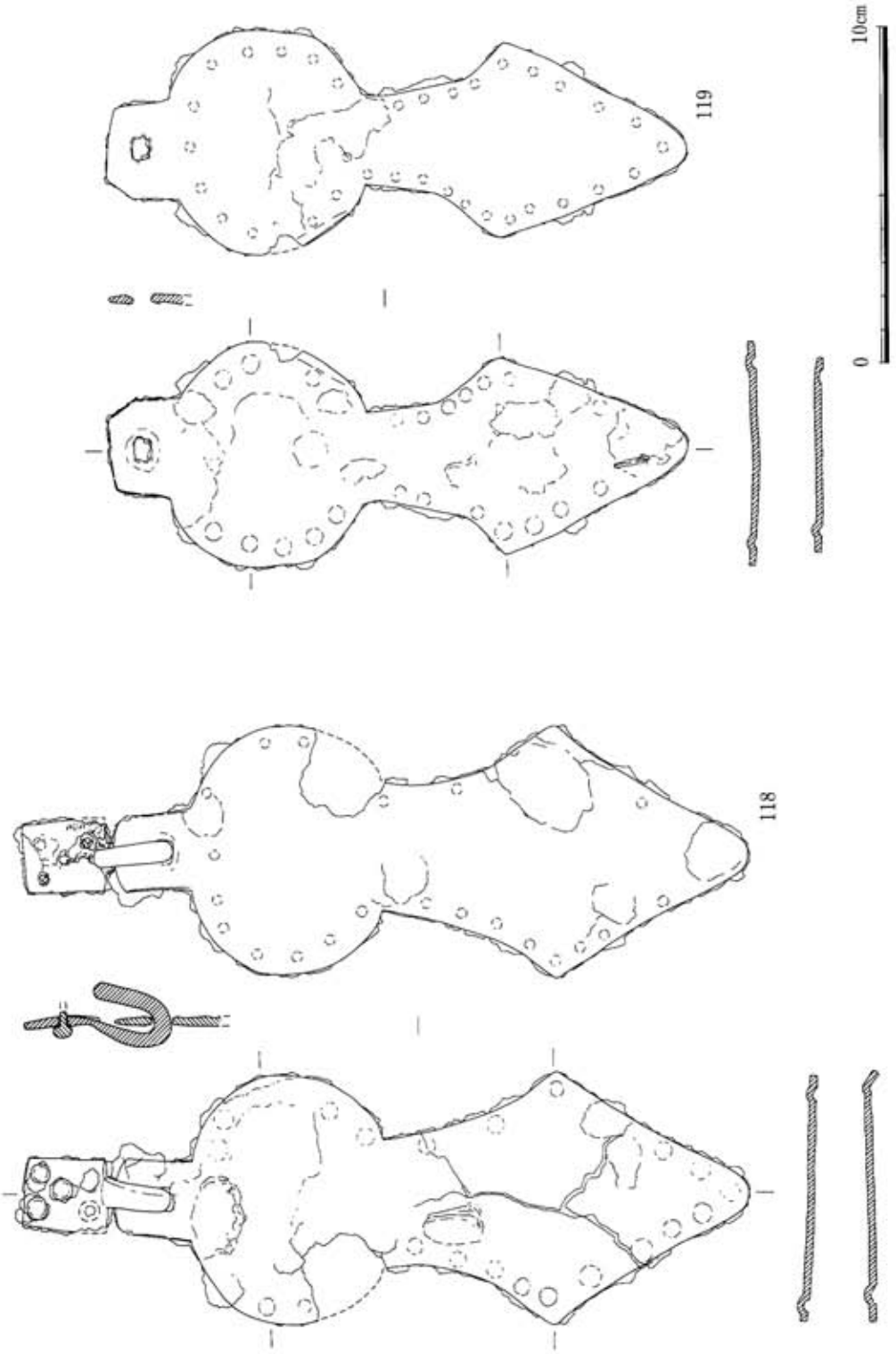


Fig. 41　ST006古墳出土馬具〈1〉(1/2)

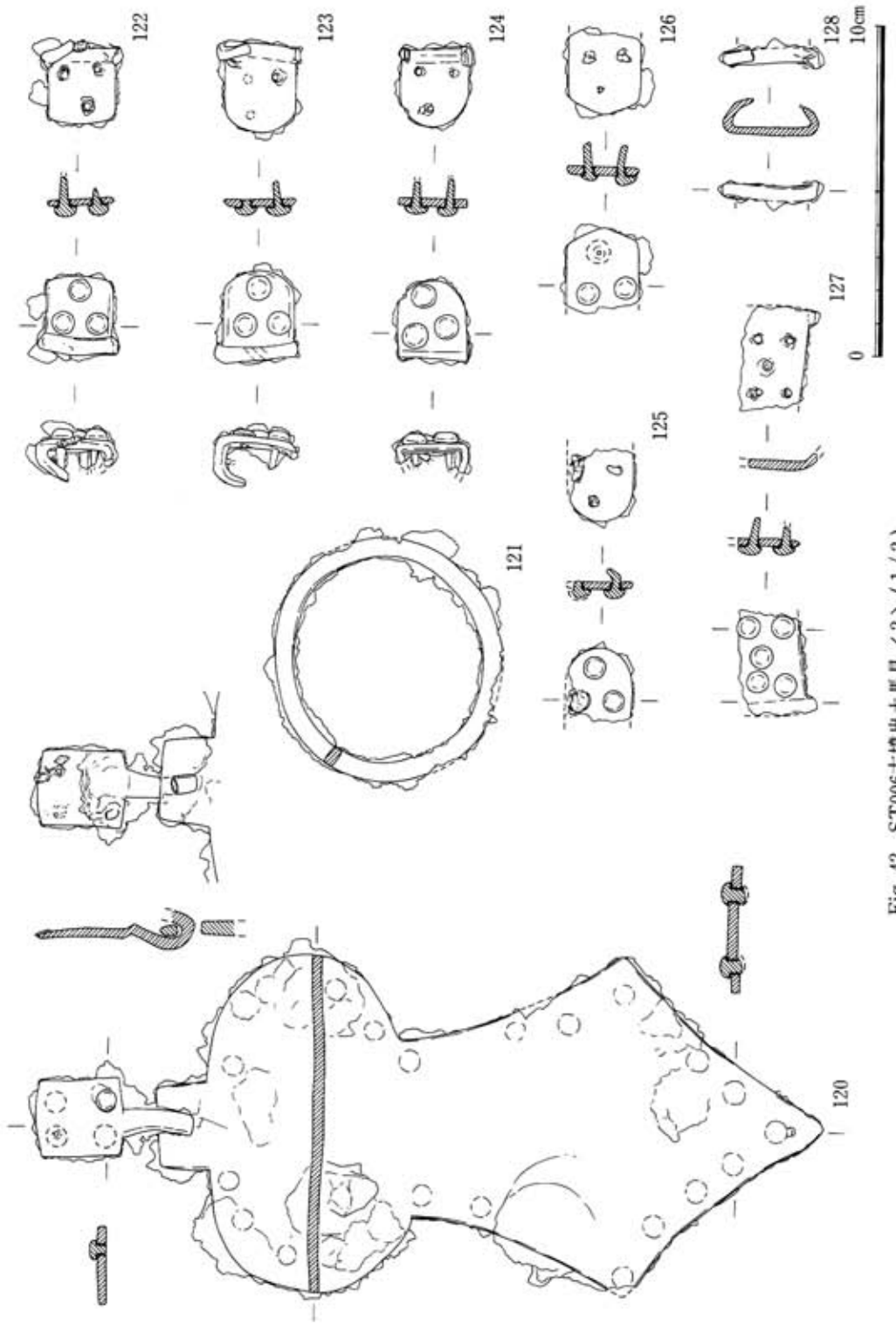


Fig. 42　ST006古墳出土馬具〈2〉(1/2)

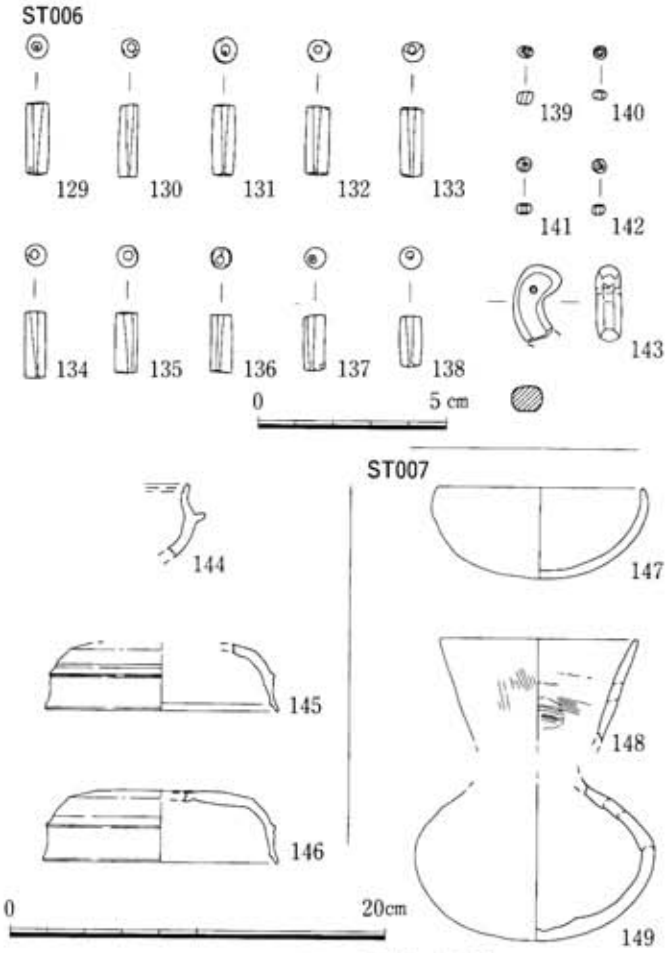


Fig. 43 ST006・ST007古墳出土遺物
(129～143は1/2，144～149は1/4)

気泡が散在する。140は幅0.35cm，厚さ0.22cm，孔径0.15cmを測り，青色を呈する。141は幅0.4cm，厚さ0.3cm，孔径0.15cmを測り，青色を呈す。142は幅0.35cm，厚さ0.25cm，孔径0.15cmを測り，青色を呈す。

143はガラス製勾玉で，下半部を欠失する。幅1.1cm，厚さ0.65cm，孔径0.15cmを測る。深緑色を呈す。

＜装身具遺物登録番号＞

129－92004793　130－92003172
131－87000818　132－92003174
133－92003173　134－92003176
135－92003178　136－92003175
137－92004794　138－92004795
139－92003179　140－92003180
141－92004796　142－92004797
143－92003177

須恵器

144は坏身である。小破片のため径は復原できない。145・146は坏蓋で，同一個体の可能性が高いが，色調が異なるため別個体とした。145は径12.4cmに復原でき，器高は8.6cm程である。146は径12.4cmに復原できるが，ややゆがんでいるようである。器高は3.8cmを測る。ともに体部と天井部の境の稜は明瞭であるが，短く鋭さはない。

(5) ST007古墳出土遺物 (Fig. 43)

土師器が周溝，撹乱土から出土した。

土師器

147は坏である。丸底で内湾しながら立ち上がる。内外面ナデで，口縁部はヨコナデを施す。148は直口壺の口縁部，149は壺胴部で，同一個体の可能性がある。

Tab. 5　土師器・須恵器観察表　　法量の単位はcm，（　）は復原値

Fig.番号	出土地点	器種	法　量(cm)	形態・文様・調整の特徴	色調	焼成	遺物登録番号
39 -84	ST001 周溝C区	土師器 壺	口径 11.5 器高 9.6	口縁部はわずかに外反する。口縁部ヨコナデ，口縁内面ハケメ。胴部外面ヘラケズリ後雑なハケメ，内面ナデ。	赤褐色	良	87000820
-85	ST001	土師器 鉢	口径(13.8) 器高 6.6	口縁部外面はややヨコナデによりややくぼむ。坏部内外面ナデ。胎土に砂レキを多く含む。	茶褐色	良	87000819
-86	ST001 周溝D区他	須恵器 甕	口径 16.7 器高 26.8	頸部に櫛描波状文，口縁端部に沈線２条を施す。内面は丁寧なナデ消し。	暗灰色	良	87000815
-87	ST002 墳丘A区	土師器 坏蓋	口径(14.1) 器高 3.7	天井部と口縁部の境は段状をなす。内外面ヘラミガキ。外面に黒塗りの痕跡がみられる。	淡茶褐色	良	86006174
-88	ST002 墓道南	土師器 坏蓋	口径(15.1)	天井部と口縁部の境は段状をなす。内外面ヘラミガキ。	明茶褐色	良	92003565
-89	ST002 墳丘C区	土師器 坏身	口径 12.7	口縁部は内傾する。内外面ヘラミガキ。全面に黒塗りを施す。	褐　色	良	92003566
-90	ST002 墳丘A区	土師器 坏身	口径 13.6	口縁端部内面は段をなす。口縁部ヨコナデ，坏部内外面ナデ。全面にヘラミガキを施すと思われる。	淡茶褐色	良	86006173
-91	ST002 墳丘A区	須恵器 蓋	口径 9.5 器高 3.6	口縁部はやや開く。口縁端部はくぼむ。口縁部ヨコナデ，天井部回転ヘラケズリ。	暗灰色	良	87000814
-92	ST002 墳丘A区	須恵器 短頸壺	口径 7.2 器高 7.9	口縁部は短く直立する。口縁部から胴部上半部ヨコナデ，胴部外面回転ヘラケズリ。	青灰色	良	86006176
-93	ST002 周溝A区	須恵器 甕	胴径(10.0)	胴部に櫛描列点文を施す。穿孔時の粘土塊が内外面に残る胴部上半部ヨコナデ，胴部下半部ナデ。	灰　色	良	86006180
-94	ST002 D区表土	須恵器 甕	口径 13.1 器高 15.0	底部は平底気味。頸部に櫛描波状文，胴部に櫛描列点文を施す。口縁部から頸部ヨコナデ，胴部下半部カキ目。	青灰色	良	86006184
-95	ST002 墳丘A区	須恵器 甕	口径(16.6)	口縁部は大きく開く。口縁部と頸部の境に沈線を１条めぐらす。口縁部から頸部ヨコナデ。	暗青灰色	良	86006179
-96	ST002	須恵器 甕	口径 21.4 残高 44.4	口縁端部に沈線を２条めぐらす。胴部外面平行タタキ後横方向のスリ消し，内面タタキ後半スリ消し。	青灰色	良	87000825
-97	ST003	須恵器 甕	胴径 17.5	頸部，胴部に櫛描波状文を施す。底部内面に指頭圧痕がある。内外面ヨコナデ。胴部外面の一部に自然釉がかかる。	暗灰色	良	87000813
43 -144	ST006 D区撹乱	須恵器 坏身		口縁端部がやや外反する。口縁内面は段をなす。口縁部ヨコナデ。	明灰色	良	92003558
-145	ST006 D区撹乱	須恵器 坏蓋	口径 器高	口縁内面は段状をなす。口縁部と天井部の境の稜は丸みを帯びる。口縁部ヨコナデ，天井部回転ヘラケズリ。	暗灰色	良	92003557
-146	ST006 D区撹乱	須恵器 坏蓋	口径(13.0)	口縁内面は段状をなす。口縁部と天井部の境の稜は丸みを帯びる。口縁部ヨコナデ，天井部回転ヘラケズリ。	明灰色	良	92003559
-147	ST007	土師器 鉢	口径 10.8 器高 4.8	口縁部はややすぼまる。口縁部ヨコナデ，坏部内外面ナデ。	茶褐色	良	87000806
-148	ST007 A区撹乱	土師器 壺	口径(10.4)	直口縁。口縁部ヨコナデ，頸部内外面ハケメ。内面に接合痕が観察される。	明茶褐色	良	92003564
-149	ST007	土師器 壺	胴径12.8	胴部内外面ナデ。内面に接合痕が観察される。	赤褐色	良	87000809

Ⅳ　ま　と　め

1．縄文時代

縄文時代については，遺構は検出されなかったが，相当量の土器が出土している。時期的にも早期から前期，後期から晩期とかなり幅広く出土している。量的には曽畑式がもっとも多い。南九州に分布する塞ノ神式土器が出土したことは，早期段階での地域間交流を考える上で貴重な資料である。

2．弥生時代

弥生時代では，中期の土壙が1基検出されている。出土土器のほとんどが中期に属する。土器の出土量からみて，本来多くの遺構が存在していたが，古墳築造などで削平されたものと考えられる。

3．古墳時代

猿嶽A遺跡の古墳群は内部主体が初期の横穴式石室で，横穴式石室を採用する階層が大型古墳から小円墳へ拡大する時期に当たり，横穴式石室の普及，初期群集墳の性格を考える上で良好な資料となる。また，遺物は少ないものの，ST006古墳からはほぼ原位置を保って，特徴的な馬具が出土している。

古墳の時期は墳丘内から出土したものがほとんどないため，詳細は判断できない。ST001・003・006・007・008古墳は北部九州型の初期横穴式石室であり，ＴＫ47型式併行期までには築造されたものであろう。ST001古墳出土須恵器壺，ST003古墳出土須恵器甕はTK208型式併行期で矛盾はしない。ST006古墳出土須恵器坏蓋はMT15型式に近い形態的特徴をもっており，ST006古墳が5基の古墳の中では新しい時期のものであることを示していると考えられる。ST002古墳は通有の単室横穴式石室で，出土須恵器・土師器模倣坏はMT15型式併行期のものを若干含み，多くはTK10型式併行期のものであり，石室形態と矛盾はない。

以下，ST006古墳出土馬具とこの古墳群の特徴について若干ふれることにする。

ST006古墳出土馬具

この馬具はかなり特異で，また，出土状況からある程度馬装が復原できそうである。

出土した3枚の剣菱形杏葉は形態やサイズ，製作法が異なる特異なセットである。このうち，118・119と120は大きく異なっている。

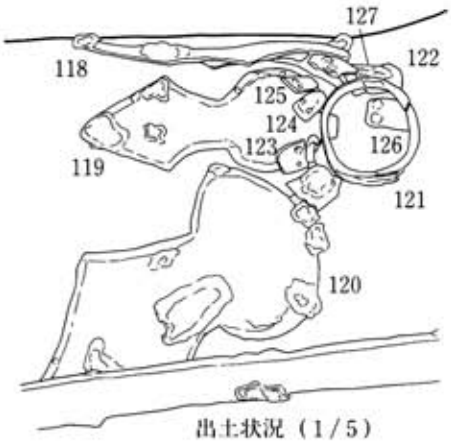
118・119には縁金・鋲がなく，打ち出しの珠点による鋲の表現がみられることが特徴的である。鍍金などの可能性はあるが，現状では鉄製にみえる。鉄製と考えられている剣菱形杏葉は，

大阪府長持山古墳[3]，京都府宇治二子山古墳南墳[4]，山形県大之越古墳[5]などから出土している。二子山古墳出土のものは，上部が楕円形というよりはむしろ円形に近いことが，118・119と類似している。

120は鋲があるが，縁金はなく，金銅板の痕跡と思われるものがみられる。平面形態が類似するものとしては，大阪府南塚古墳[6]，福岡県番塚古墳[7]出土例などがある。120は剣菱形の形態や鋲の数などから，南塚例と番塚例の中間に位置するものと考えられる。

いずれにせよ，以上3枚の杏葉は1セットにすると不揃いの感は否めない。特に118・119と120では製作場所などが異なり，寄せ集めのものである可能性も考えられる。

また，杏葉や鉄環，革金具などがほぼ原位置を保って出土しており，ある程度馬装を復原することができる。出土状況から剣菱形杏葉のうち118・120は釣舌金具と鉄環が直接的につながっているようである。119は釣舌金具がなく，革のみで鉄環とつながっていた可能性もあるが，革金具127は118の釣舌金具と同じ5個の鋲を打っており，確実ではないが，釣舌金具の可能性がある。他の革金具は鋲が3個と統一されていることからも，127がこれらのものとは異なる性



出土状況（1/5）

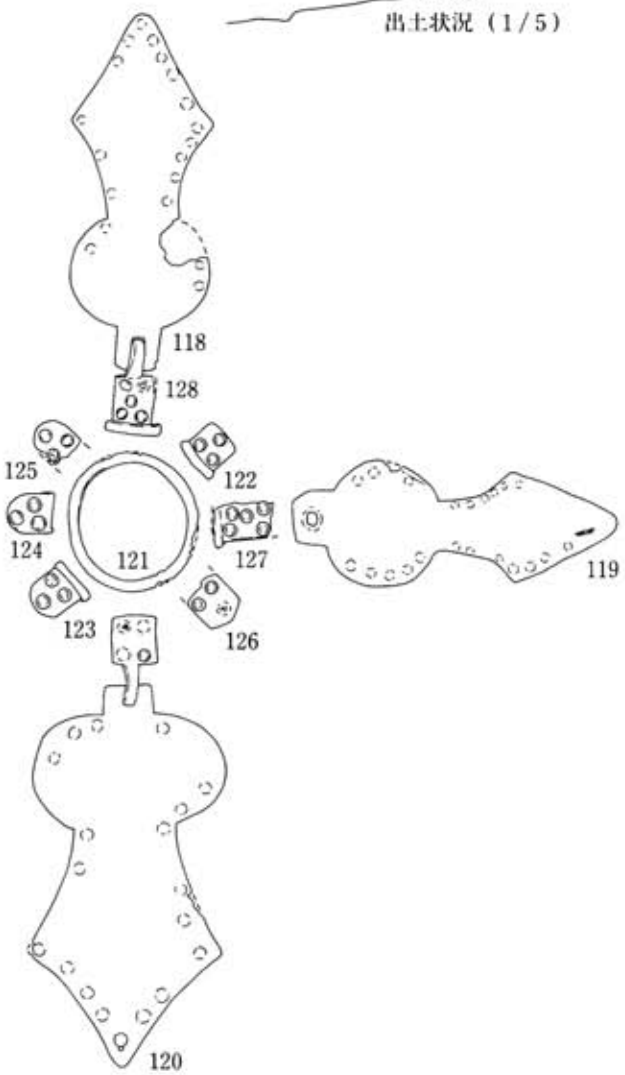


Fig. 44　ST006古墳出土馬具復原案

格であったと思われる。使用時に破損したことも考えられる。

以上のことを考慮して，８脚の環状雲珠を復原案として提示しておく。

猿嶽Ａ古墳群の特徴

完掘された６基の円墳について諸要素をあわせてみてみると，ST003・006古墳とそれ以外という二つのランクに分けられると考えられる。つまり，ST003・006古墳は玄室奥壁幅が1.56mと他のものに比べ大きく，石室規模で差がみられる。また，ST003古墳には唯一葺石帯があり，ST006古墳は墳丘規模が約13.5mとやや大型で，馬具，鉄刀などこのクラスの円墳としては豊富な副葬品をもっている。

このように，ST003・006古墳は古墳群の中ではランクの高いものといえる。そこで，古墳の位置的関係をみてみると，このランクの高い古墳が中央にあり，その東西に２基ずつ古墳が存在している。古墳群全体を検討する必要があるが，意味のある造墓単位を抽出できる可能性がある。

また，位置的関係ではST002古墳が築造されたスペースが興味深い。ST002古墳は他の古墳より遅れて築造されているにもかかわらず，ちょうど径10mの円墳が入るだけの空間が空いていたといえる。偶然とも考えられるが，後で築造される予定の古墳のスペースが計画的に空けられていた可能性がある。

以上のように，猿嶽Ａ古墳群は初期群集墳の性格や社会的背景を考える上で貴重な資料となるものと思われる。

《註》

(1)　三辻利一「佐賀県内の遺跡出土初期須恵器の胎土分析」『久保泉丸山遺跡』佐賀県文化財調査報告書第84集　1986。

(2)　三辻利一「佐賀県内の遺跡出土初期須恵器の胎土分析」『久保泉丸山遺跡』佐賀県文化財調査報告書第84集　1986。

(3)　小林行雄「長持山古墳の調査」『大阪府の文化財』　1962。『日本馬具大鑑』第１巻古代上　日本中央競馬会　1990。

(4)　宇治市教育委員会『宇治二子山古墳』宇治市文化財調査報告書第２冊　1991。

(5)　山形県教育委員会『大之越古墳』山形県埋蔵文化財調査報告書第18集　1979。

(6)　川端真治・金関恕「摂津豊川村南塚古墳調査概報」『史林』第38巻第５号　1955。

(7)　九州大学文学部考古学研究室『番塚古墳』　1993。

猿嶽（さるだけ）Ｃ・Ｄ遺跡

遺跡名：猿嶽C・D遺跡（略号　SDC・SDD）
所在地：神埼郡神埼町大字城原字北外

猿嶽C・D遺跡

I 遺跡の概要

猿嶽C・D遺跡は，神埼郡神埼町大字城原字北外に所在する。従来，神埼町北部に在る脊振山地南麓部の丘陵中，広く猿岳・早稲隈山・帯隈山一帯の古墳群を「猿嶽古墳群」或いは「猿嶽百塚」と総称していた。猿嶽C遺跡と猿嶽D遺跡は，それらのうち日の隈山(標高163m)北方の猿嶽（標高256m）南麓のやや緩やかな傾斜面上に立地する。猿嶽C・D遺跡の大半の遺構が古墳であり，城山西南麓の猿嶽A遺跡と同じく，猿嶽C・D遺跡も猿嶽古墳群を形成する一支群である。本報告では猿嶽C遺跡と猿嶽D遺跡を同時に「猿嶽C・D遺跡」として報告する。

猿嶽C遺跡では，古墳時代のものとして6世紀末の横穴式石室を内部主体とする円墳2基，不明遺構1基，その他時期不明の溝1条を検出している（Tab. 1・2)。

猿嶽D遺跡はC遺跡の西側約120mに位置する。D遺跡で検出した遺構は，古墳時代のものとして石棺系石室を内部主体とする古墳3基(可能性のあるものを含む)，竪穴系横口式石室を内部主体とする古墳5基，石棺系石室もしくは竪穴系横口式石室を内部主体とする古墳6基，横穴式石室を内部主体とする古墳4基，内部主体不明の古墳2基，溝2条，不明遺構1基，時期不明のものとして掘立柱建物1棟，土壙1基，不明遺構2基がある（Tab. 1・2)。D遺跡の遺構の大半を占める古墳の築造時期については，明瞭に時期的把握の可能な出土遺物に乏しいが石棺系石室・竪穴系横口式石室を内部主体とする古墳群の5世紀代（～6世紀前半）を主体とする時期と，横穴式石室を内部主体とする古墳群の6世紀末（～7世紀初頭）の大きく2時期が存在する。遺跡は，全体的に現代に於ける開墾等による削平・破壊が著しく，遺構の殆どは何らかの影響を受けている。特に古墳墳丘・周溝等は全体を確認できなかったものが殆どであるため，特に記さない限り周溝規模・石室掘り方等の規模は残存値を示し，石室掘り方平面形態等は検出面に於けるものである。

出土遺物については，主に横穴式石室を内部主体とする古墳から管玉・勾玉等の玉類，鉄鏃・刀子・馬具等の鉄器類，土師器・須恵器等が出土している。遺構は伴わないが，一部古墳墳丘等から弥生土器・石斧等が出土している。

以上が本遺跡に於ける調査成果を概観したものであるが，特に猿嶽D遺跡における石棺系石室と竪穴系横口式石室という古墳時代前期の埋葬主体部については，初期横穴式石室の系譜等を考えるうえで重要なものである。

Tab. 1　猿嶽C・D遺跡古墳一覧表

遺構検図番号 遺物検図番号	遺構番号 調査区	墳丘平面形 墳丘径(m)	内部主体 型式	主軸	玄室規模中央長×幅m	出土遺物	備考
3～6 38～43	ST001 D遺跡	円 11	横穴式石室	N26°E	2.44×2.18 天井高2.72	須恵器杯蓋　杯身　高杯　鼓 壺　提瓶　甕・土師器高杯　壺	SX022より旧。
7 44	ST002 D遺跡	円？	横穴式石室？	－	－×－	須恵器杯蓋　杯身　提瓶	閉溝・敷石一部残。
8・9・12 45～47	ST003 D遺跡	円 7.5	竪穴系横口式石室	N47°E	2.02×0.66	須恵器平瓶　鼓　壺　甕 土師器杯　高杯	ST004より新。 ST005より旧。
9・10 48	ST004 D遺跡	円 6	石棺系・竪穴系？	－	－×－	土師器杯	ST003・005より旧。
11・12 48	ST005 D遺跡	円 6	石棺系石室？	N51°W	1.63×0.70		ST003・004より新。
13	ST006 D遺跡	円？ 6～7	石棺系・竪穴系？	N63°E	約2.0×約0.4		ST007より旧。
14・15 49	ST007 D遺跡	円 6	竪穴系横口式石室	N79°W	1.80×0.85	須恵器杯蓋　杯身　杯　鼓　甕	ST008より新。 ST006と重複。
15・16・18	ST008 D遺跡	円 5	竪穴系横口式石室	N29°E	1.65×0.67		ST025より新。 ST007・009より旧。
17・18 50・51	ST009 D遺跡	円 7	竪穴系横口式石室	N79°E	2.05×1.07	土師器壺 鉄鏃	ST008・011・025より新。
19 52	ST010 D遺跡	円？ 5～6	石棺系石室	N61°E	1.71×1.32	土師器壺 刀子	ST011・025より旧。
	ST011 D遺跡	円？ 5～6	－	－	－×－		ST010より新。 ST009より旧。
21	ST012 D遺跡	－	石棺系・竪穴系？	N85°W	約0.9×約0.4		
22	ST013 D遺跡	－	石棺系・竪穴系？	N74°W	約1.0×0.45		
23 53	ST014 D遺跡	－	竪穴系横口式石室	N61°E	1.87×0.61	土師器甕	
24 54	ST015 D遺跡	－	石棺系・竪穴系？	N65°W	1.41×0.39	鉄鏃	
25 55～57	ST016 D遺跡	円？	横穴式石室	N74°W	－×－	須恵器杯蓋　杯身　高杯　壺蓋 壺　鼓　平瓶　提瓶・土師器高杯	
	ST019 D遺跡	円？ 8～10	－	－	－×－		SB023より旧。 閉溝のみ一部確認。
26 58・59	ST020 D遺跡	円 8	横穴式石室	N37°W	－×－	須恵器杯蓋　杯身　高杯　壺蓋　壺 土師器杯蓋　杯　耳環	
27 60	ST024 D遺跡	－	石棺系・竪穴系？	N75°W	－×－	土師器杯身	
28	ST025 D遺跡	－	石棺系石室	N68°W	1.06×0.30		ST008より旧。
29～32 62～67	ST026 C遺跡	－ 20	横穴式石室	N11°E	－×－	須恵器杯蓋　杯身　高杯　杯　壺蓋　壺　提瓶 鼓　土師器高杯　壺　鼓　耳環　刀子　玉類	
33～36 68～70	ST027 C遺跡	円 15	横穴式石室	N58°W	2.30×2.20 天井高2.50	須恵器杯蓋　杯身　高杯　甕 土師器杯蓋　杯身　高杯　鉄鏃　刀子　馬具	

Tab. 2　猿嶽C・D遺跡その他の遺構一覧表

挿図番号	遺構番号	調査区	規　模m	出土遺物	時　期	備　考
71	SD017 溝	D遺跡	最大幅1.7×深さ0.2 断面U字形	土師器高杯・壺 須恵器杯	古墳時代	SX021より旧。
72	SD018 溝	D遺跡	最大幅0.7×深さ0.2 断面U字形	須恵器杯	古墳時代	SB023より旧。
	SX021 不明遺構	D遺跡	長径3.7×短径3.5 深さ0.5	無し	不　明	SD017より新。
	SX022 不明遺構	D遺跡	長径8.9×短径6.4 深さ0.5	須恵器甕	古墳時代	
	SB023 掘立柱建物	D遺跡	2間＋α×4間 6.4＋α×10.4	無し	不　明	ST019・SD018より新。
	SX028 不明遺構	C遺跡	長径1.2×短径0.9 深さ不明	須恵器甕	古墳時代	
	SD029 溝	C遺跡	最大幅2.1×深さ0.25 断面U字形	無し	不　明	
	SK030 土壙	D遺跡	長径2.8×短径2.6 深さ不明	無し	不　明	

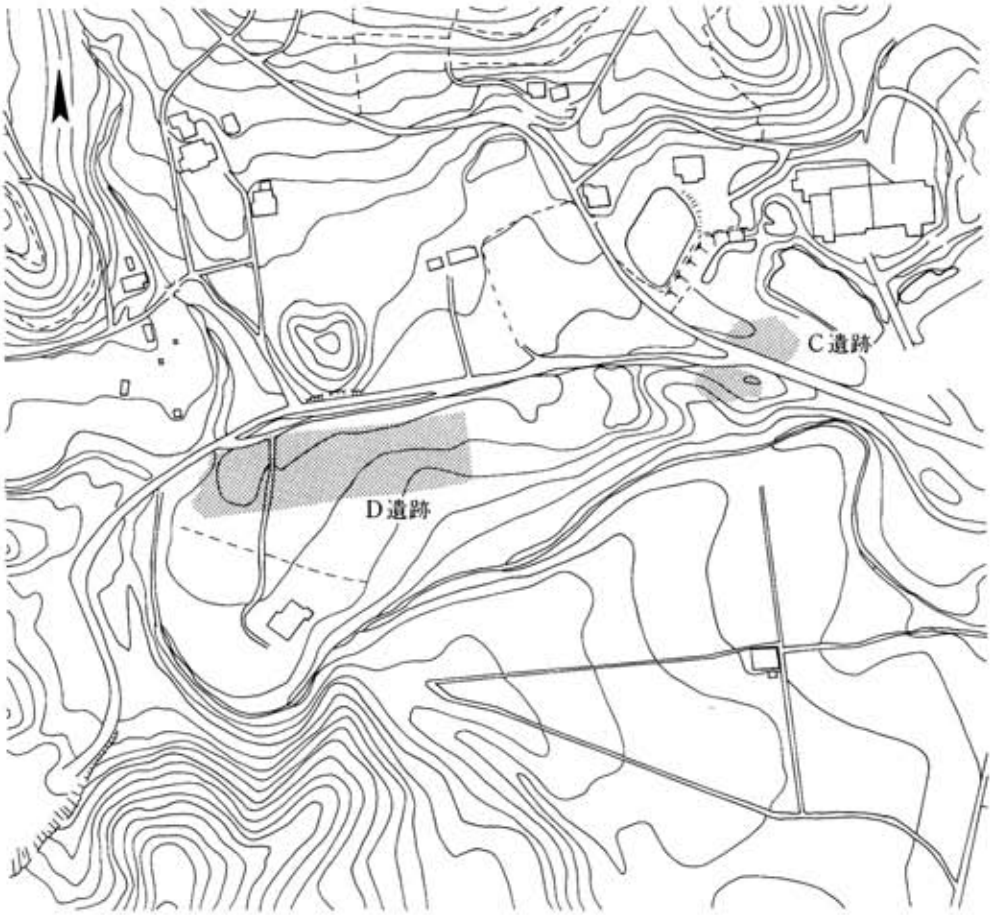
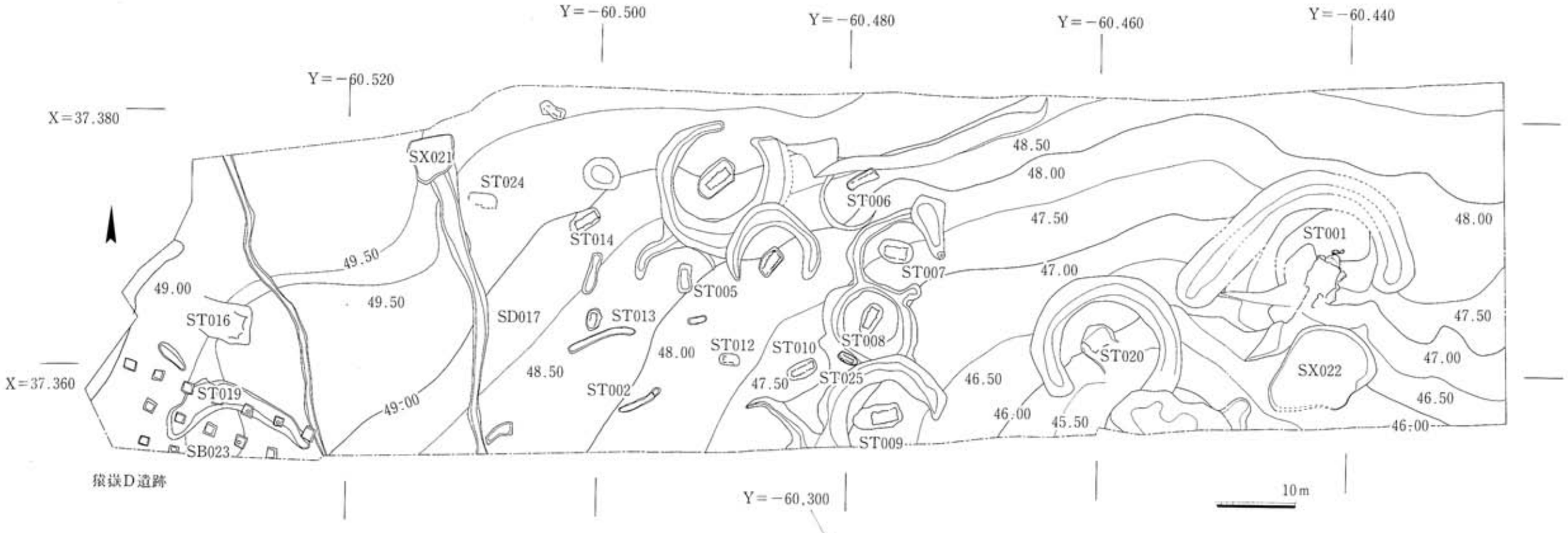


Fig. 1　猿嶽C・D遺跡周辺地形測量図（1/3,000）



猿嶌D遺跡

猿嶌C遺跡

Fig. 2　猿嶌C・D遺跡遺構配置図（1/400）

II　遺　　構

1．古墳時代

（1）古墳

ST001古墳（Fig. 3・4・5・6，PL. 2・3）

概要

猿嶽D遺跡調査区東端近くに位置する円墳である。西側には隣接してST020古墳が，南側には本古墳南側周溝を切るSX022が存在する。墳丘は若干残存しているが開墾時に大半が削平されている。内部主体は単室の横穴式石室であり，前庭部を一部破壊されているが天井部までほぼ遺存している。築造時期は6世紀末と考えられる。

墳丘・周溝

墳丘は全体的に削平を受けており遺存状況は良くないが，西側に一部遺存している。墳丘長径約11ｍのやや楕円形状を呈する円墳と考えられる。

周溝は南側部分をSX022に大きく切られており，一部南側部分で確認されていないが外径約15ｍの楕円形状もしくは馬蹄形状と考えられる。周溝幅は3.7ｍ，深さ約0.5ｍを測り，断面形は逆台形である。

内部主体

単室両袖型の横穴式石室である。南西方向に向かって開口し，主軸をN26°Wにとる。石室は

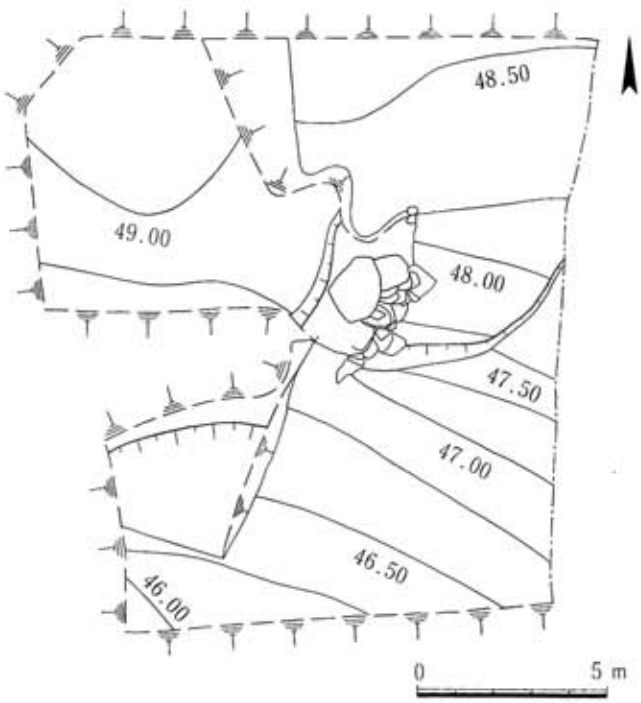


Fig. 3　ST001古墳調査前地形測量図（1/200）

前庭部を一部破壊されているほかは天井部までほぼ残存しており遺存状況は良好な方である。石室の規模は，前庭側壁を一部欠くが残存規模で全長6.43m，玄室は中央長2.44m，中央幅2.18m，天井高2.72mを測る。

玄室平面形態は長方形である。奥壁は腰石に1.2×0.9m程の石材2石を縦位に配し，上方には1.4×0.8m程の石材1石を横位に配しさらに0.4×0.3m～0.3×0.2m程の石材を3段程積み上げて持ち送る。右側壁は腰石に1.4×1.0m程の石材2石を横位に配し，上方には1.1×0.4m～0.5×0.15m程の石材を横位に5段程横積みする。左側壁は腰石に1.7×1.1m，1.0×0.9m程の石材2石を横位に配し，上方には0.8×0.4m程の横長の石材を5段程横位に積み上げ持ち送る。天井石には1.7×1.1mの石材1石を用いている。

玄門部は右袖石に1.1×0.4m，左袖石に1.3×0.6m程の柱状石材を立て床面には0.8×0.3m程の柱状石材を配し框石とする。玄門幅は0.8mを測る。

前庭部は西側先端部及び東側部分を破壊されているが，先端部に行くに従い外側へ広がるものである。天井部も一部前庭部に存在したものと思われる。前庭右側壁は大半が破壊されている。前庭左側壁は先端部が破壊されており，残存長で約3.6mを測る。0.8×0.7m～1.1×0.6m程の石材を横位に積み上げているが，先端部に行くに従い張石状にしてある。

遺物の出土状況

遺物は主に前庭部及び墓道から須恵器杯蓋・杯身・高杯・壺・甕・提瓶等，土師器杯蓋・杯身・高杯が出土した。玄室内からの出土はない。

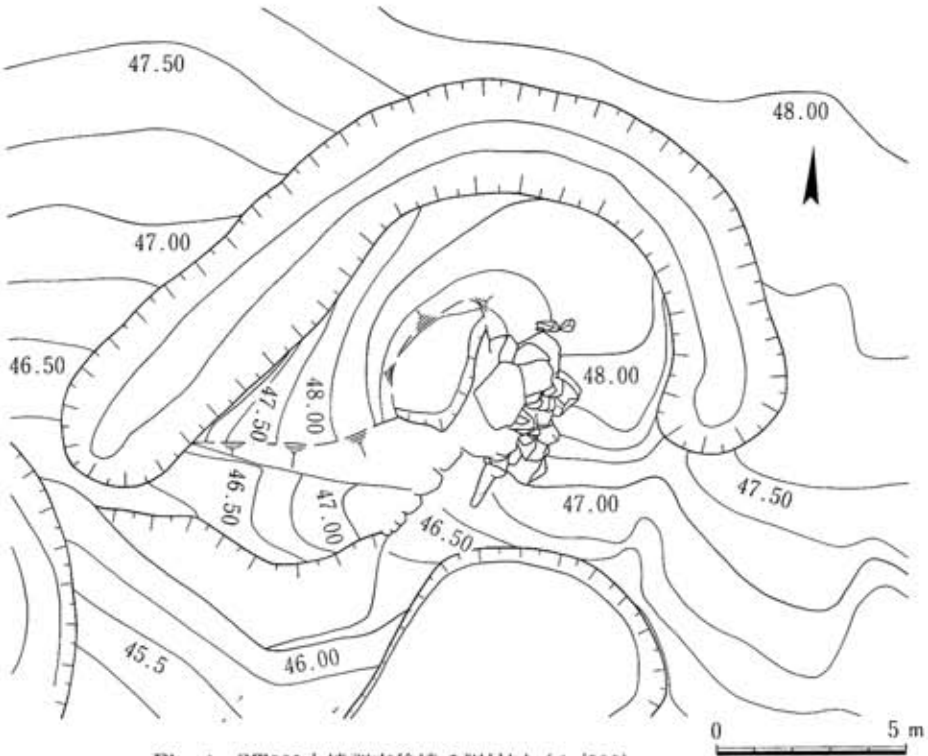


Fig. 4　ST001古墳調査後墳丘測量図（1/200）

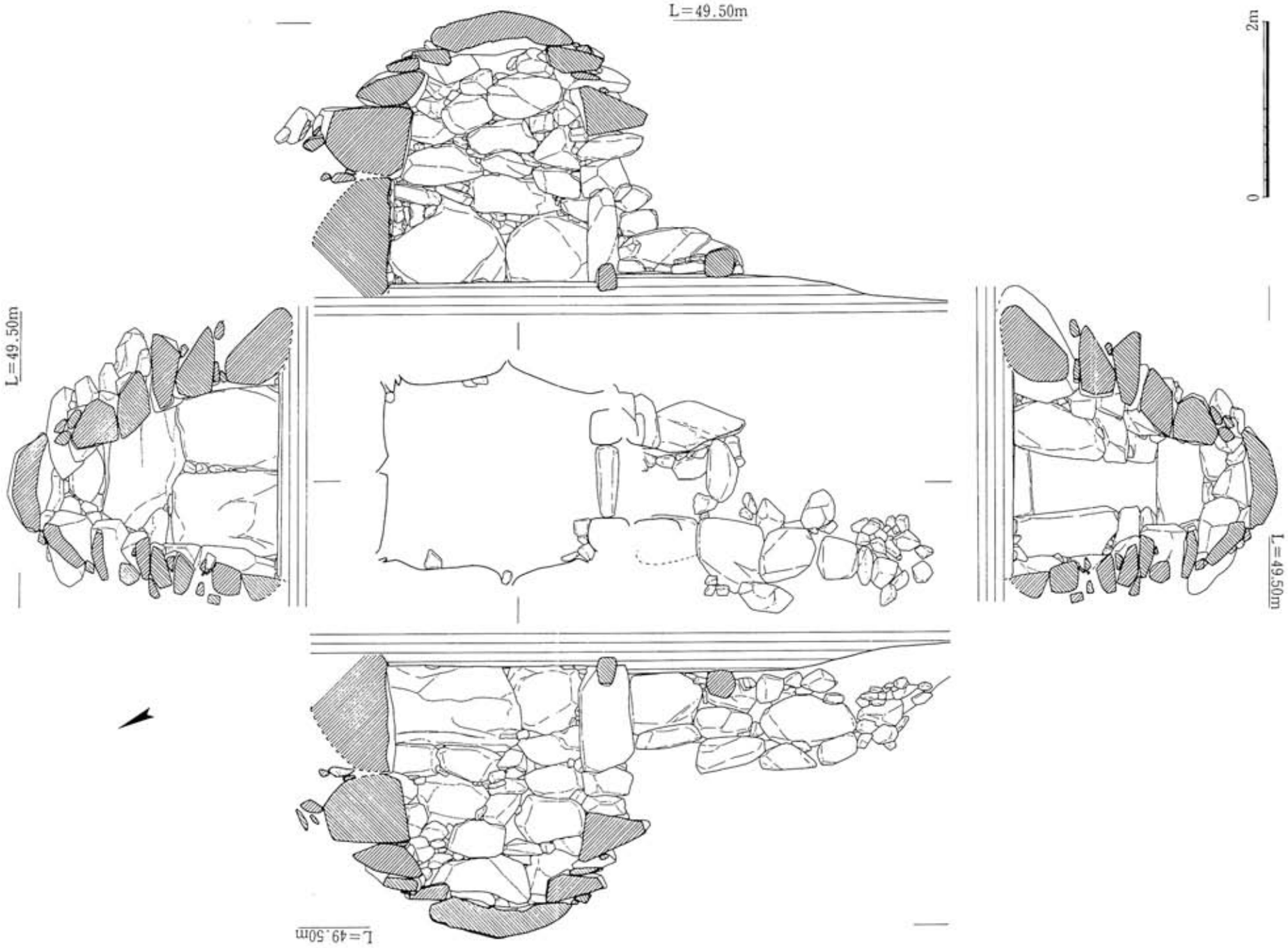


Fig. 5　ST001古墳石室（1/60）

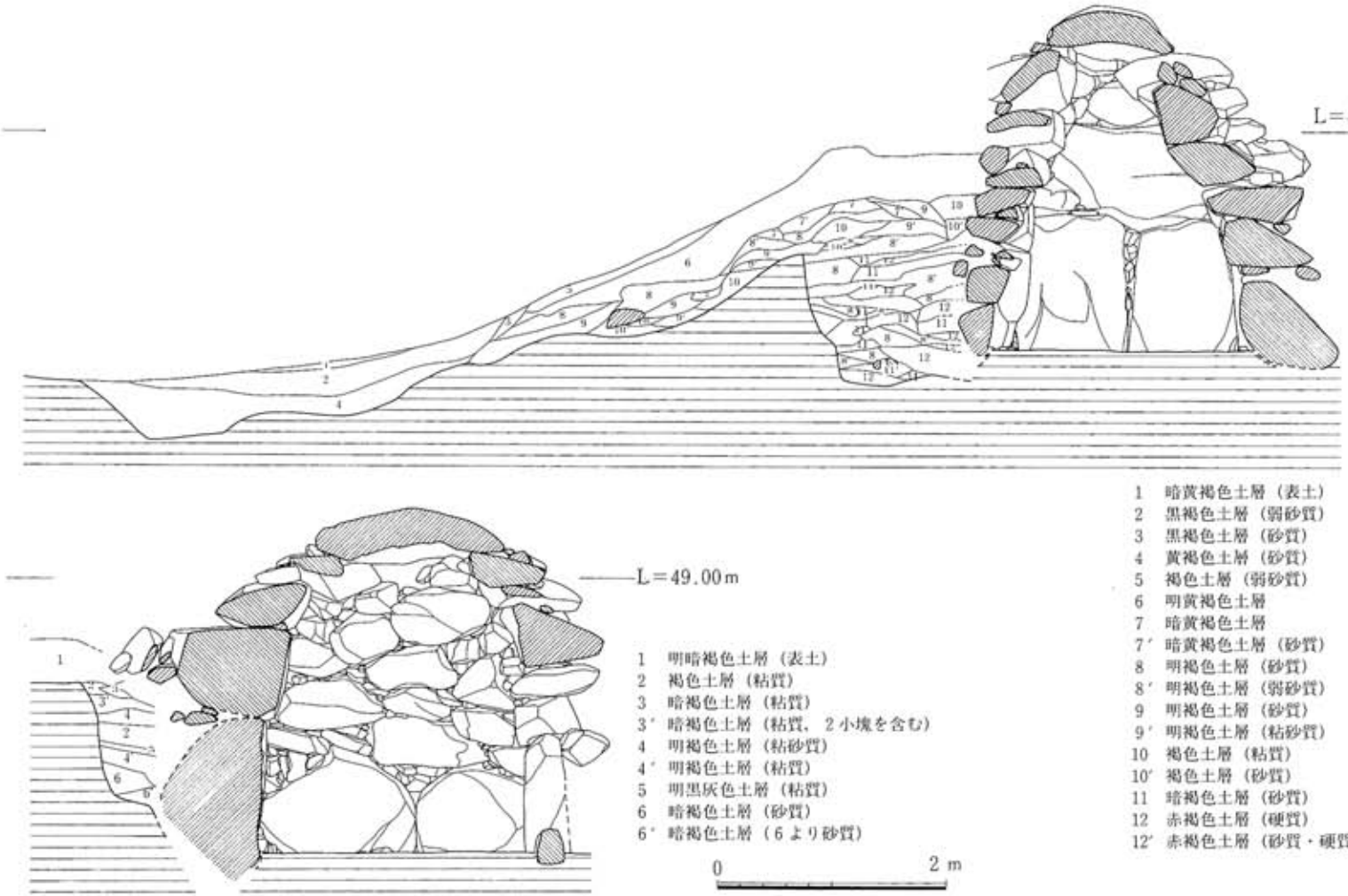


Fig. 6　ST001古墳墳丘土層図（1/60）

ST002古墳 (Fig. 7, PL. 3)

猿嶽D遺跡調査区中央よりやや西側に位置する。隣接して北側にST013古墳が存在する。開墾時に大きく削平されており遺存状況は悪く墳形・墳丘・石室・周溝等は不明であるが，南北の溝状遺構は古墳の周溝の可能性が高いものと考えられる。周溝状遺構のほぼ中央には，0.3×

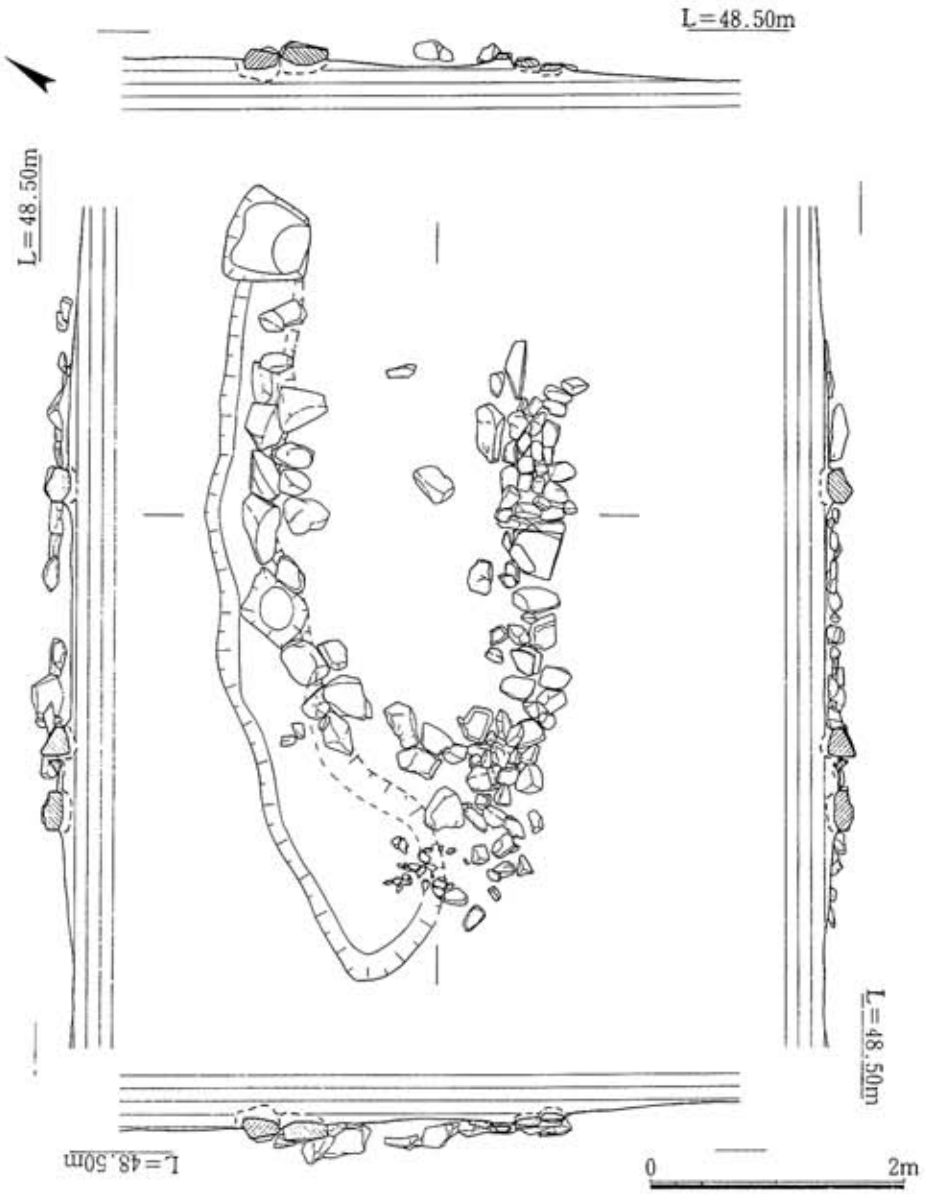


Fig. 7　ST002古墳石室（1/40）

0.3m～0.15×0.12m程の敷石もしくは根石と考えられるものが若干存在する。内部主体については，残存する石材の抜き取られ痕等の状況より横穴式石室と考えられる。築造時期は6世紀後半頃と思われる。

遺物は，須恵器杯身・杯蓋・提瓶が出土している。

ST003古墳（Fig. 8・9，PL. 4）

概要

猿嶽D遺跡調査区の中央よりやや西側に位置する墳丘径約7.5mの円墳である。南側でST004古墳を切り，東側でST005古墳に切られる。開墾時に大きく削平されている。内部主体は上部を破壊されているが竪穴系横口式石室である。築造時期は5世紀後半代と思われる。

墳丘・周溝

墳丘は殆ど削平されているが，墳丘径約7.5mを測るやや楕円形状を呈する円墳と考えられる。

周溝は南西側でST004古墳周溝を切り，南東側をST005古墳周溝に切られる。北側は削平のため周溝は確認できなかったが外径約10.5mのやや楕円形である。周溝幅は0.8～2.5m，深さ約0.4mを測り断面形は逆台形である。

内部主体

竪穴系横口式石室である。主軸をN47°Eにとる。上部及び東側を破壊されているが，玄室壁体基底部に腰石を用い，袖石・前庭側壁を有さない型式のものと思われる。規模は残存規模で石室全長2.02m，中央幅0.66mである。

玄室平面形態は長方形である。奥壁は0.9×0.8mの板状石材1石を縦位に立てる。横口部は0.5×0.2m程の板状石材1石を横位に配し框石とする。両側壁は0.7×0.3m～0.5×0.15m程の板状石材を横口部側1石を縦位に他の3石を横位に立てる。上方には0.5×0.15m～0.3×0.15m程の石材を積み上げる。残存しているもので2段程度が認められる。

石室掘り方はやや不整な隅丸長方形である。掘り方規模は3.6×1.98m，深さ約0.65mを測る。掘り方上面は削平を受けているが，奥壁側の掘り方は直に近く立ち上がり奥壁との隙間も狭いが，横口部から0.7m程はほぼ平坦な面が造られている。

遺物の出土状況

遺物はすべて周溝埋土中よりの出土である。土師器杯・碗・高杯，須恵器壺・甕・平瓶等が出土している。

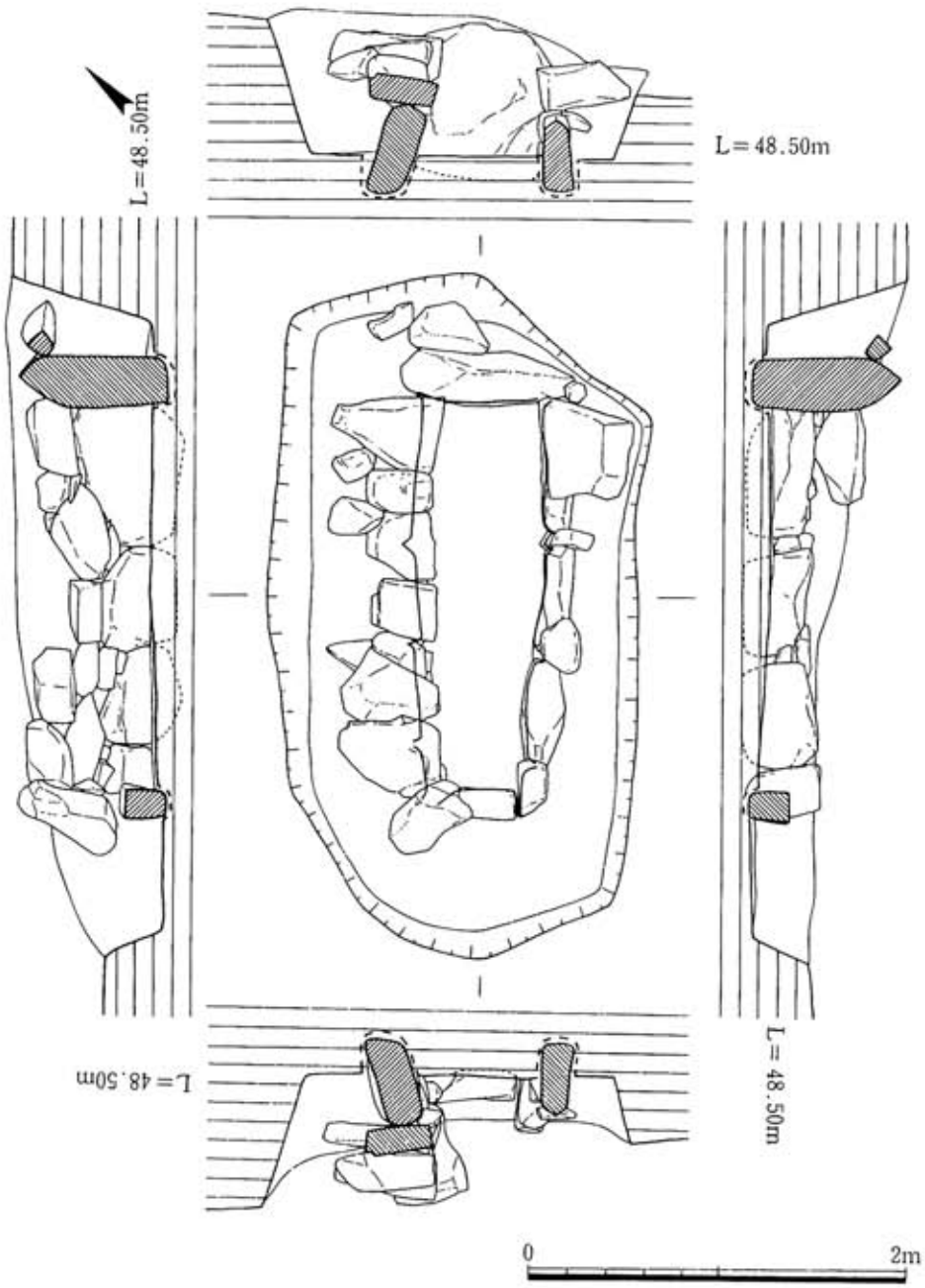


Fig. 8　ST003古墳石室（1/40）

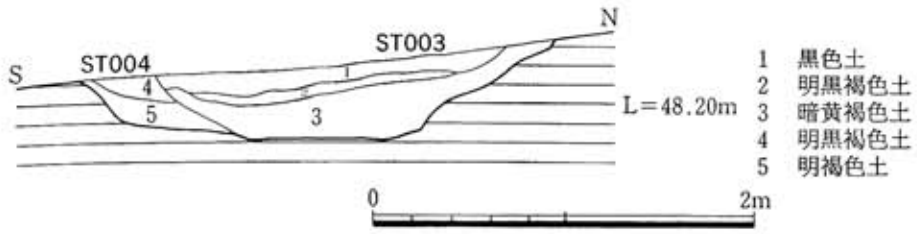


Fig. 9　ST003・ST004古墳周溝土層図（1/40）

ST004古墳（Fig. 9・10，PL. 5）

概要

猿嶽D遺跡調査区の中央よりやや西側に位置する円墳である。北側でST003古墳，東側でST005古墳に切られる。墳丘は殆ど削平されている。内部主体も殆ど抜き取られているが，石棺系石室もしくは竪穴系横口式石室と考えられる。築造時期は5世紀後半～6世紀前半代と思われる。

墳丘・周溝

墳丘は殆ど削平されているが墳径約6mを測る円墳と考えられる。

周溝は北側でST003古墳に切られ，東側でST005に切られる。西側及び南西側周溝は確認できなかったが，外径約8m程であったものと思われる。周溝幅0.8～1.1m，深さ0.3mを測り，断面形は逆台形である。

内部主体

内部主体は殆ど抜き取られており遺存状況は良くないが，石棺系石室もしくは竪穴系横口式石室と思われる。

石室掘り方は主軸をN 2°Wにとる。掘り方は隅丸方形で，規模は1.54×0.59mを測る。

遺物の出土状況

遺物はすべて周溝埋土中よりの出土である。土師器杯・碗が出土している。

ST005古墳（Fig. 11・12，PL. 5）

概要

猿嶽D遺跡調査区ほぼ中央に位置する円墳である。北側でST003古墳，西側でST004古墳を切る。墳丘は殆ど削平されている。内部主体は，石棺系石室と考えられる。築造時期は5世紀代と思われる。

墳丘・周溝

墳丘は殆ど削平されているが，墳径約6mを測る円墳と考えられる。

周溝は北側でST003古墳を切り，西側でST004古墳を切る。ほぼ南半分には周溝の巡らない

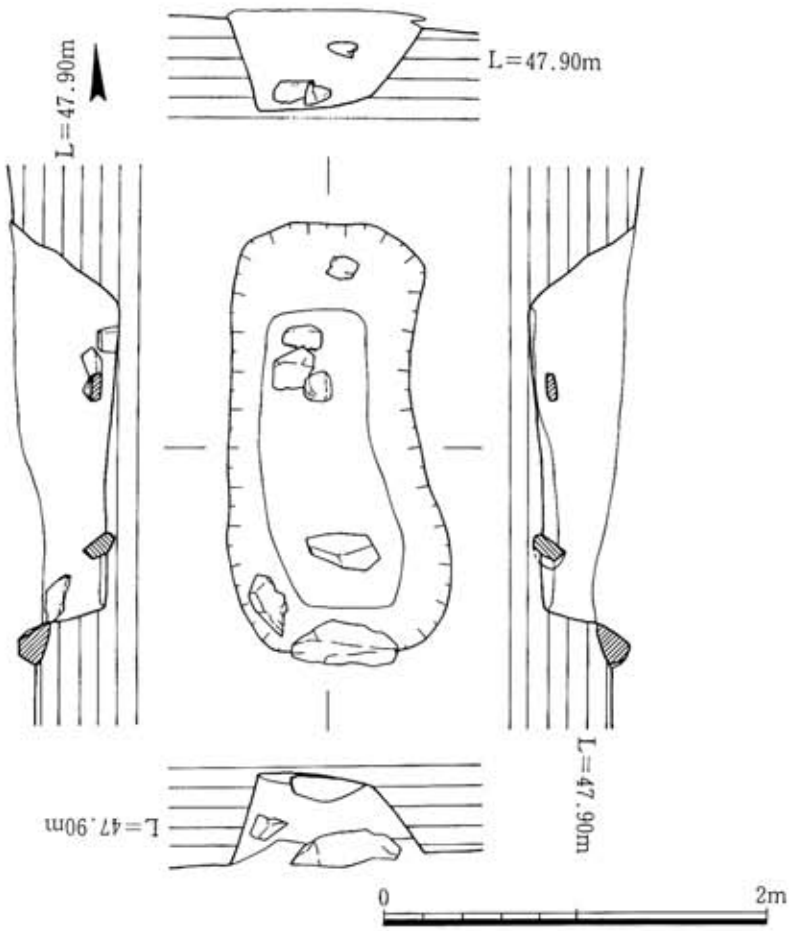


Fig. 10　ST004古墳石室（1/40）

外径7.5mの円形である。周溝幅は1.8m，深さ0.6mを測り，断面形は逆台形状及び擂鉢状を呈する。

内部主体

敷石を持つ石棺系石室と考えられる。主軸をN51°Wにとる。上部及び南側部分を破壊されているが，石室全長1.63m，中央幅0.7mを測る。

石室平面形態は長方形である。北側小口は0.4×0.4mの板状石材2石を縦位に立てる。両側壁は0.4×0.4m～0.3×0.3m程の板石を東側壁で6石を縦位に立て，西側壁で4石を縦位に立て腰石とする。上方には0.4×0.2m程の角状の石材を横位に積み上げる。残存しているもので2段程度が認められる。石室内床面にはほぼ全面に0.2×0.2m前後の偏平な石材を敷く。

石室掘り方は不整な隅丸長方形である。掘り方規模は2.26×1.38m，深さ約0.4mを測る。

遺物の出土状況

遺物は出土していない。

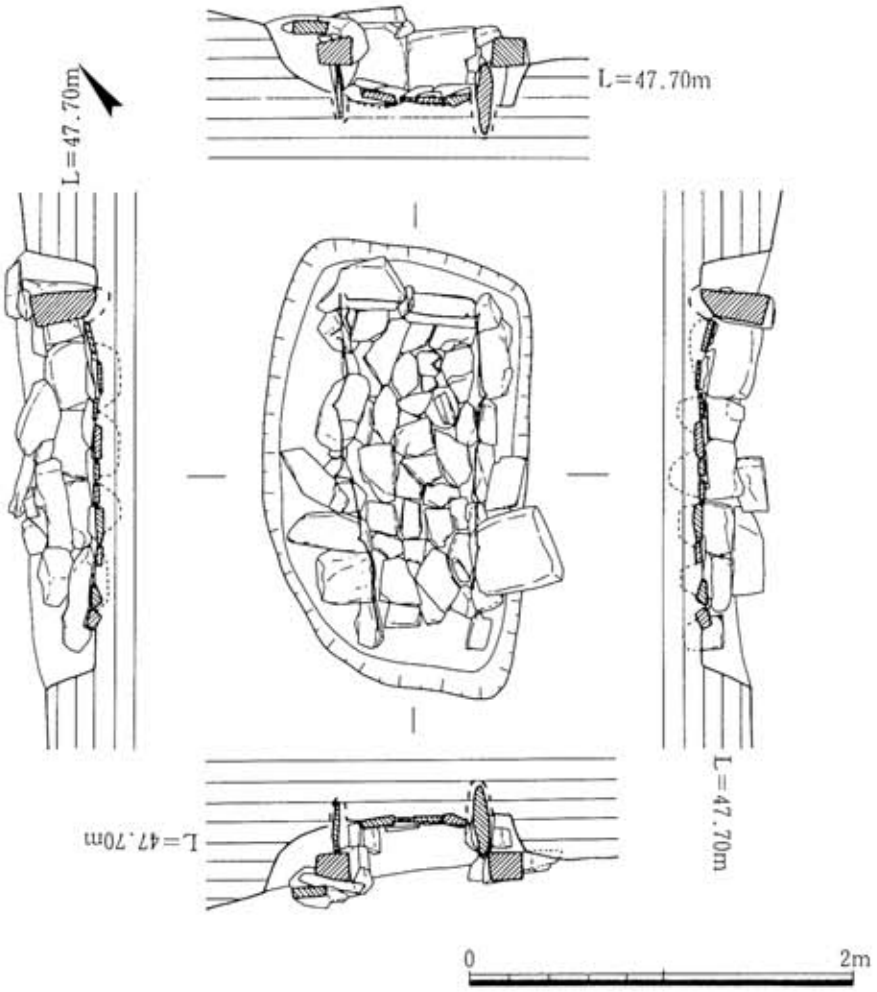


Fig. 11　ST003・ST005古墳石室（1/40）

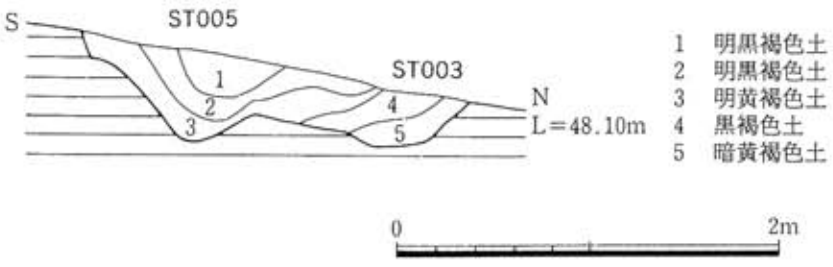


Fig. 12　ST003・ST005古墳周溝土層図（1/40）

ST006古墳（Fig. 13，PL. 6）

概要

猿嶽D遺跡調査区中央よりやや東側に位置する円墳と考えられる。南側でST007古墳に切られる。隣接して西方にST003古墳，南西にST005古墳が存在する。墳丘は殆ど削平されている。内部主体は石棺系石室もしくは竪穴系横口式石室と考えられる。

墳丘・周溝

墳丘は殆ど削平されているが，墳丘径約6～7mを測る円墳と考えられる。

周溝は確認されていないが，楕円状に西側から東南側にかけて落ち込みが認められ周溝の痕跡の可能性がある。

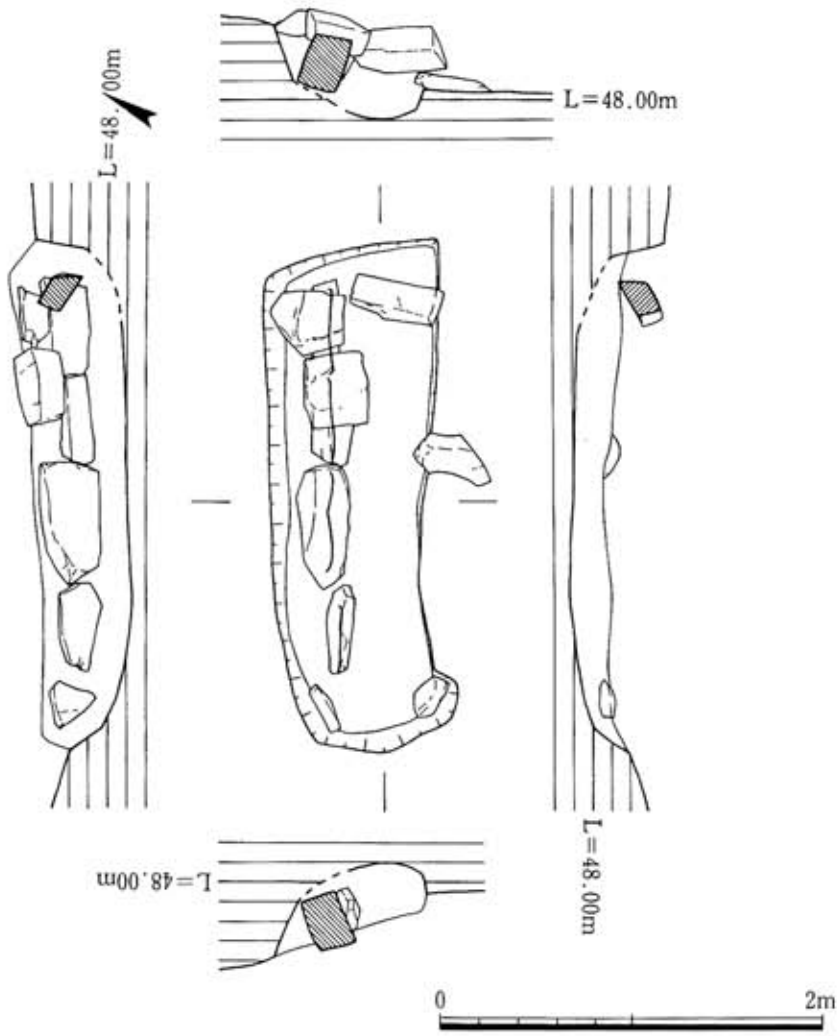


Fig. 13　ST006古墳石室（1/40）

内部主体

内部主体は石棺系石室もしくは竪穴系横口式石室と考えられる。主軸をN63°Eにとる。上部及び両小口・南側側壁部分を大きく破壊されている。推定で石室全長約2m，中央幅約0.4mを測るやや狭長な石室と思われる。石室平面形態は長方形である。

両小口及び南側側壁部分の構造は不明である。北側側壁は腰石として0.6×0.3m～0.4×0.2m程の板状石材を4石横位に立てる。

石室掘り方はやや不整な隅丸長方形である。掘り方規模は2.64×0.8m，深さ約0.5mを測る。

遺物の出土状況

遺物は出土していない。

ST007古墳（Fig. 14・15，PL. 6）

概要

猿嶽D遺跡調査区中央よりやや東側に位置する円墳である。北側でST006古墳と重複し，南側でST008古墳を切る。隣接して西方にST005古墳が存在する。墳丘は殆ど削平され，北東部は広範囲に深く掘削されている。内部主体は竪穴系横口式石室である。築造時期は5世紀代と思われる。

墳丘・周溝

墳丘は殆ど削平されているが，墳丘径約6mを測る円墳である。

周溝は南側でST008古墳周溝を切る。北東側から東側にかけて削平されており，南東側は確認できなかったが，外径8mのほぼ円形と思われる。周溝幅0.8m～1.5m，深さ約0.3mを測り，断面形は浅いU字状である。

内部主体

竪穴系横口式石室である。主軸をN79°Wにとる。石室は上部を破壊されている。石室全長1.8m，中央幅0.85mを測る。石室平面形態は長方形である。

西側小口は0.5×0.2m前後の石材を横位に積み上げる。残存しているもので3段を数える。東側小口は0.7×0.5m程の板状石材1石と0.3×0.2m程の石材1石を横位に立てる。両側壁は0.7×0.5m～0.3×0.2m程の石材4石を横位に配し腰石とする。上方には0.5×0.2m～0.3×0.15m程の石材を横位に積み上げる。残存しているもので2段程度が認められる。

石室掘り方はやや不整な隅丸長方形である。掘り方規模は2.8m×0.8m，深さ0.6mを測る。

遺物の出土状況

遺物は，玄室埋土から須恵器杯蓋・杯身・杯・鏃・甕が出土している。

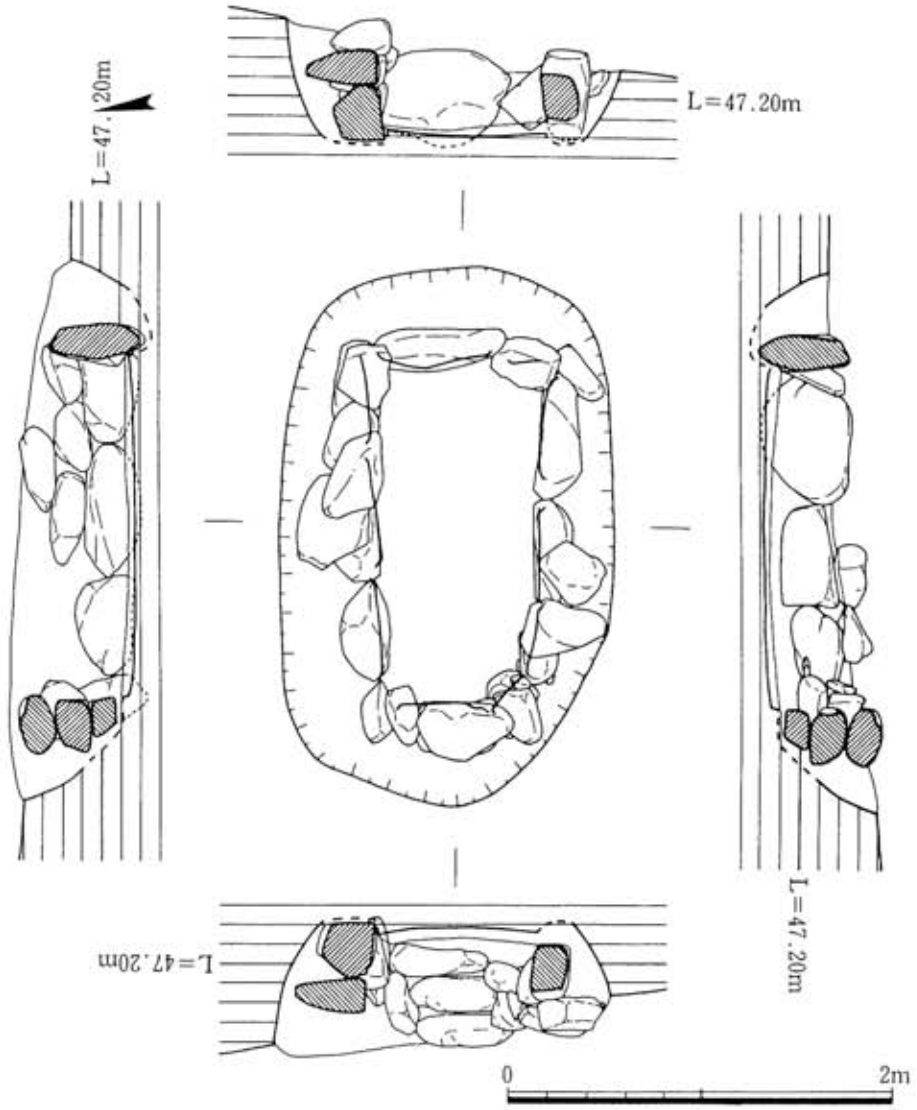


Fig. 14　ST007古墳石室（1/40）

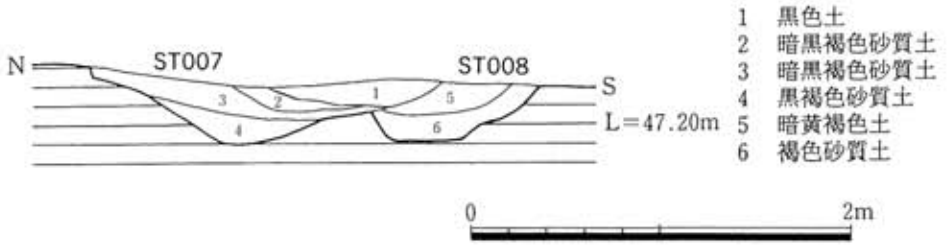


Fig. 15　ST007・ST008古墳周溝土層図（1/40）

ST008古墳（Fig. 15・16・18，PL. 7）

概要

猿嶽D遺跡調査区中央よりやや東側に位置する円墳である。南側でST025古墳を切り，北側でST007古墳に，南側でST009古墳に切られる。墳丘は殆ど削平されている。内部主体は竪穴系横口式石室である。築造時期は5世紀代と思われる。

墳丘・周溝

墳丘は殆ど削平されているが，墳丘径約5ｍを測る円墳であったものと思われる。

周溝は北側でST007古墳周溝に，南側でST009古墳周溝に切られる。周溝外径8ｍの楕円形

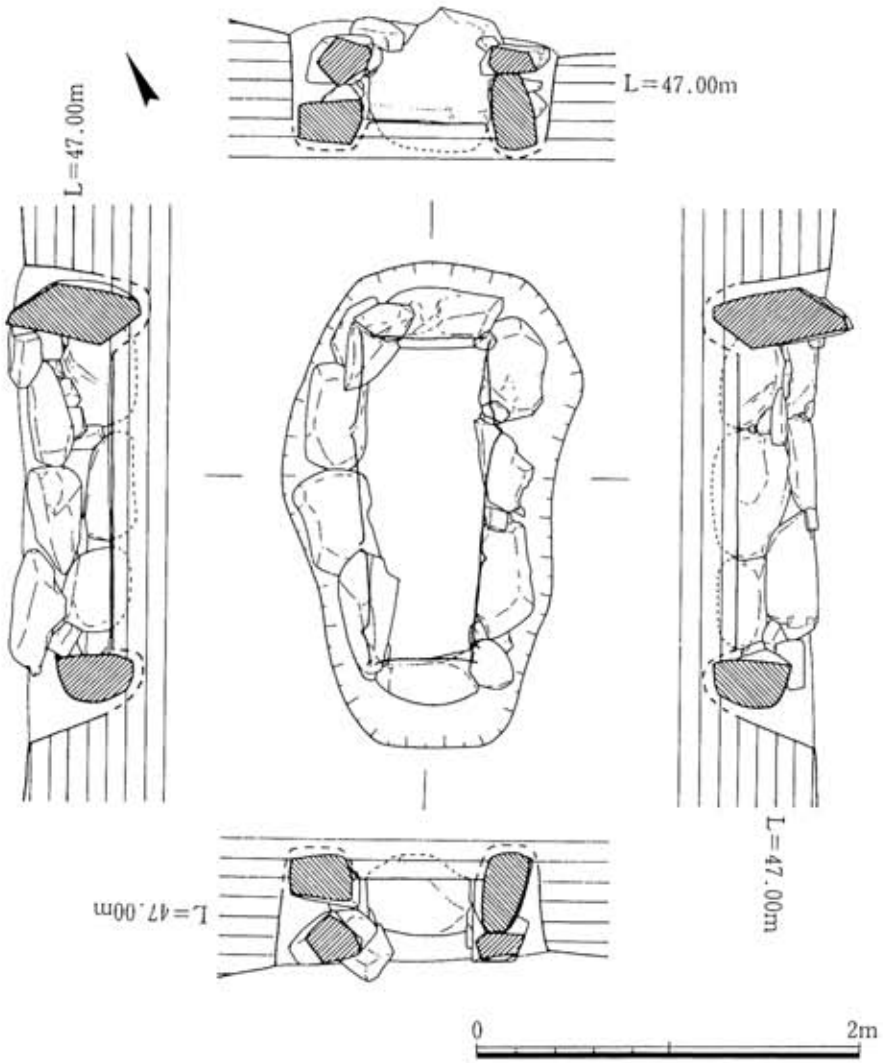


Fig. 16　ST008古墳石室（1/40）

である。周溝幅1.6m～1.8m，深さ0.2mを測る。断面形は逆台形である。

内部主体

竪穴系横口式石室である。主軸をN29°Eにとる。上部を破壊されているが，石室全長1.65m，中央幅0.67mを測る。石室平面形態は長方形である。

北側小口は0.7×0.7m程の石材を配し腰石とする。南側小口は0.6×0.4mの石材1石を横位に立て腰石とする。両側壁は腰石に3石ずつ配する。西側側壁中央を除き，0.7×0.4m～0.5×0.3mの板状石材を横位に配し腰石とする。上方にはそれぞれ0.6×0.3m前後の石材を横位に積み上げる。残存しているもので2段程度が認められる。

掘り方は不整な隅丸長方形である。掘り方規模は2.52×1.42m，深さ約0.5mを測る。

遺物の出土状況

遺物は出土していない。

ST009古墳（Fig. 17・18，PL. 8）

概要

猿嶽D遺跡調査区中央よりやや東側に位置する円墳である。北側でST025古墳，ST008古墳を，西側でST011古墳を切る。墳丘は殆ど削平されている。内部主体は竪穴系横口式石室である。築造時期は5世紀後半代ないしは6世紀初頭と考えられる。

墳丘・周溝

墳丘は殆ど削平されているが，墳丘径約7mを測る円墳であったものと思われる。

周溝は北側でST008古墳周溝及びST025古墳を切り，西側でST011古墳周溝を切る。南東側では周溝は確認されていないが，外径約10mの円形と思われる。周溝幅2.3m，深さ約0.5mを測る。断面形はU字形である。

内部主体

竪穴系横口式石室である。主軸をN79°Eにとる。上部及び西側部分を破壊されているが，袖石・前庭側壁を有する型式のものである。残存規模で玄室全長2.05m，中央幅1.07mである。石室平面形態は長方形である。

奥壁は0.7×0.5mの石材を横位に，北側には0.5×0.3m程の石材を縦位に配し腰石とする。左右側壁はそれぞれ0.5×0.4m～0.3×0.3m程の石材4石を横位に配する。上方は破壊されており不明である。

玄門部は，左右袖石にそれぞれ0.6×0.2m程の石材1石を縦位に配する。西小口面に0.7×0.3m程の横長の板状石材を横位に立て框石とする。框石の西側には0.2×0.2m前後の小礫が遺存しており，これらは本来閉塞石であったものと思われる。

前庭側壁は破壊が著しいが，前庭左側壁で3石，前庭右側壁で1石原位置を保ち残存している。

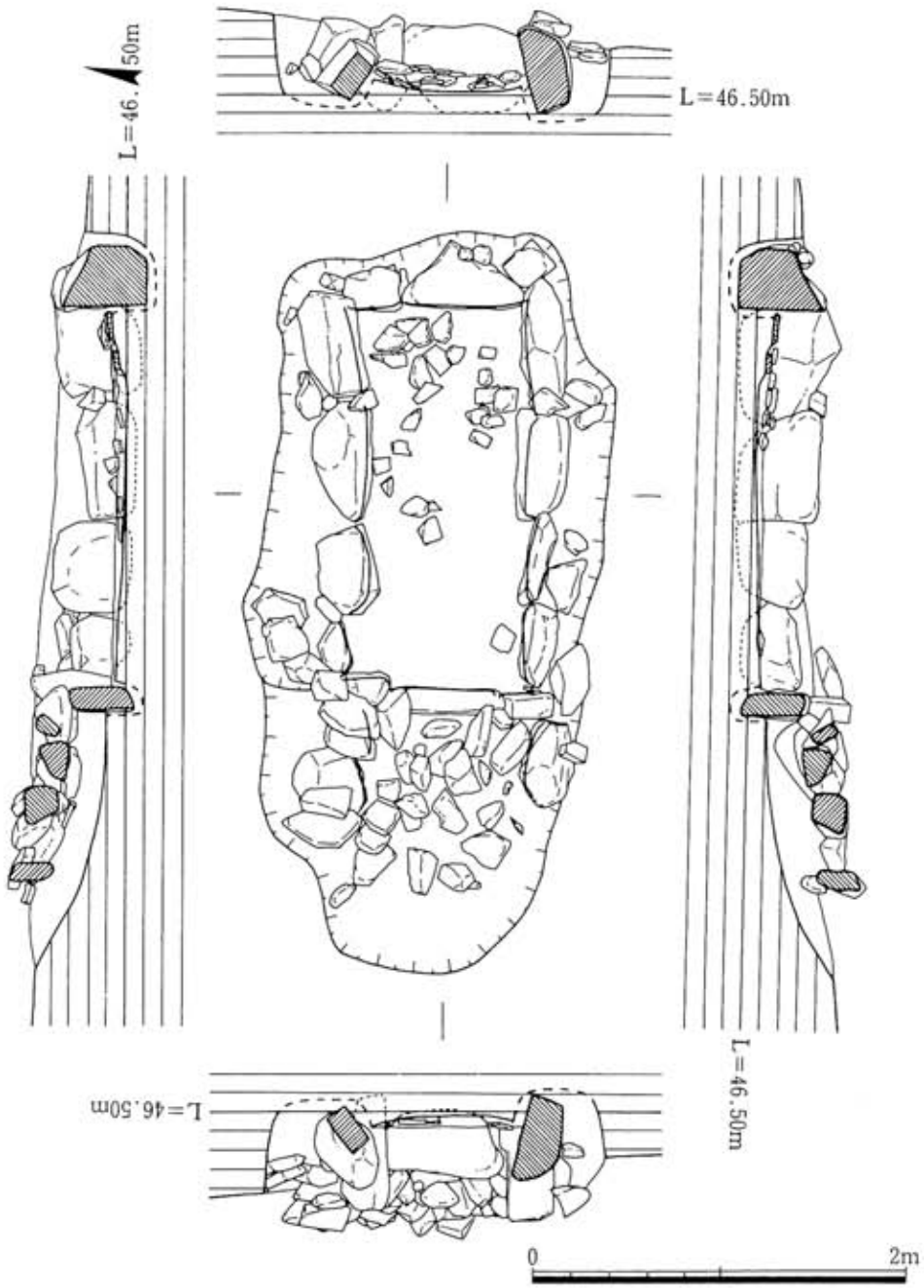


Fig. 17　ST009古墳石室（1/40）

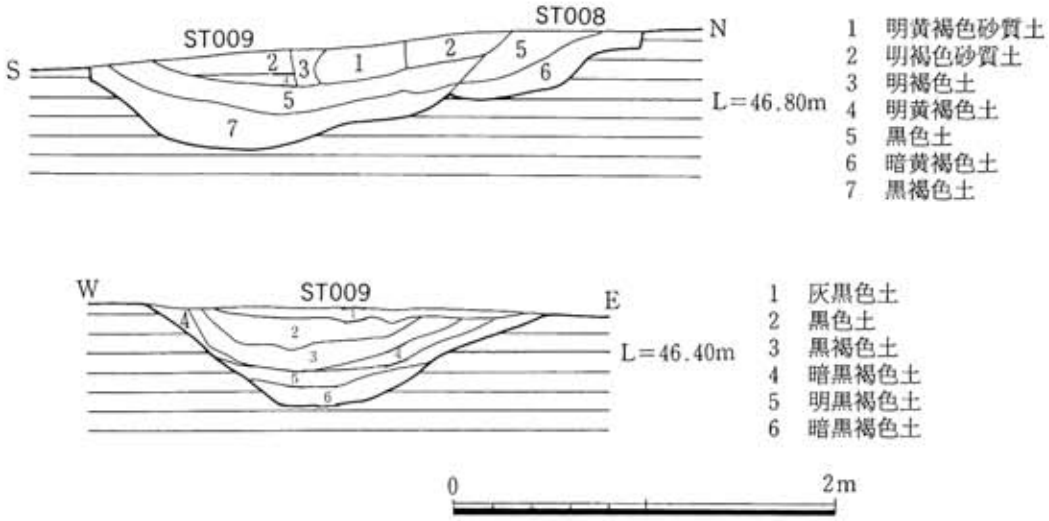


Fig. 18 ST008・ST009古墳周溝土層図（1/40）

石室床面には0.15×0.1m前後の偏平な石が散在しておりこれらは敷石と思われ，本来石室床面全体に敷き詰められていたものと思われる。

石室掘り方は不整な隅丸長方形である。掘り方規模は3.96×1.82m，深さ約0.5mを測る。奥壁側は垂直に近く立ち上がり，前庭部側は緩やかに立ち上がる。

遺物の出土状況

周溝埋土中より土師器壺が出土している。石室内よりの出土は無い。

ST010古墳（Fig. 19・20，PL. 8）

概要

猿渡D遺跡調査区の中央よりやや南側に位置する円墳と考えられる。東側でST025古墳に，南側でST011古墳に切られる。隣接して西側にST012古墳，東側にST025古墳が存在する。内部主体は石棺系石室である。築造時期は5世紀代と思われる。

墳丘・周溝

墳丘は殆ど削平されているが墳丘径約5～6mを測る円墳と考えられる。

周溝は確認されていないが，楕円状に南側から東側にかけて落ち込みが認められ，周溝の痕跡と考えられる。

内部主体

石棺系石室である。主軸をN61°Eにとる。上部を破壊されているが，石室全長1.71m，中央幅1.32mを測る。石室平面形態は長方形である。

北側小口は0.4×0.35ｍの石材を横位に配し腰石とする。上方には0.45×0.2ｍの石材を横位に積み上げる。残存しているもので１段が認められる。南側小口は0.5×0.45ｍの石材を横位に配し腰石とする。両側壁はそれぞれ0.8×0.25ｍ～0.3×0.2ｍ程の板状石材４石を横位に立てる。上方には0.3×0.15m 前後の石材を横位に積み上げる。残存しているもので２段程度が認められる。

石室掘り方は不整な長方形である。掘り方規模は2.48×1.3ｍ，深さ約0.4ｍを測る。

遺物の出土状況

玄室内埋土中から刀子，周溝埋土中から土師器壺が出土している。

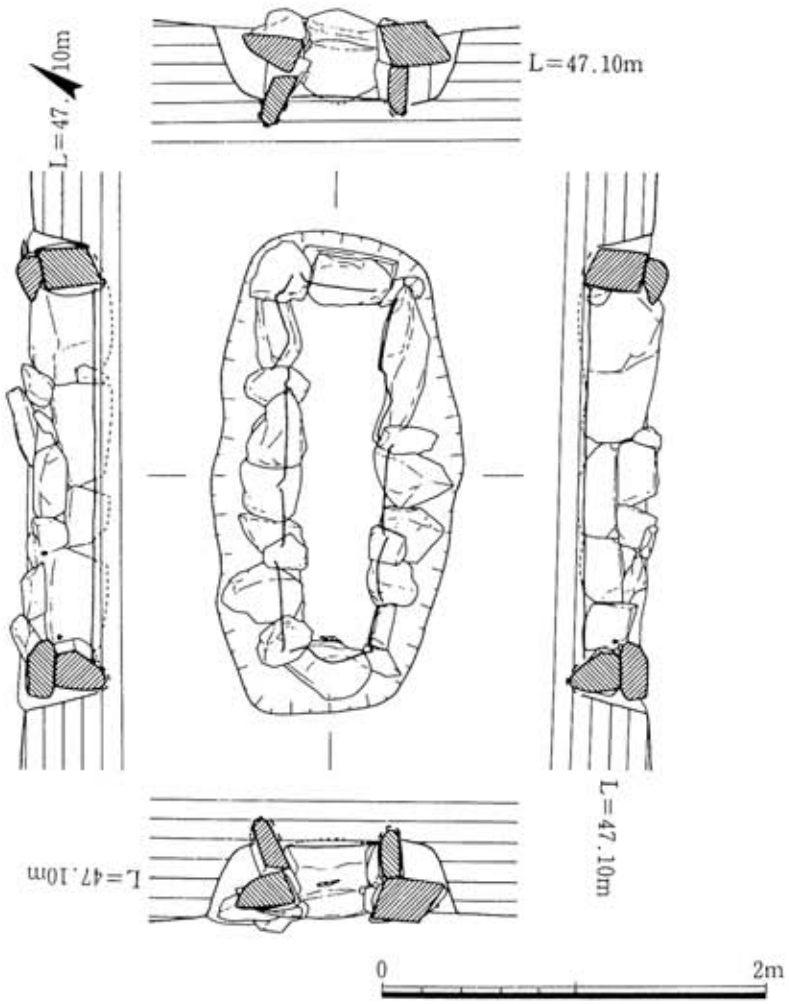


Fig. 19　ST010古墳石室（1/40）

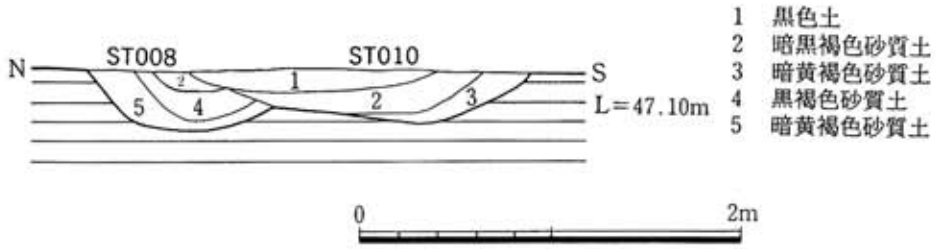


Fig. 20 ST008・ST010古墳周溝土層図（1/40）

ST011古墳（PL. 8）

概要

猿嶽D遺跡調査区中央より南側に位置する円墳と思われる。周溝の一部のみ確認されている。北側でST010古墳を切り，東側でST009古墳に切られる。隣接して北側にST012古墳が存在する。内部主体については不明である。

墳丘・周溝

墳丘は殆ど削平されているが，墳丘径約5～6mを測る円墳と考えられる。

周溝は東側から北側にかけての一部のみ確認している。北側でST010古墳を切り，東側でST009古墳周溝に切られる。西側では周溝は確認していない。周溝は，円形ないしは楕円形のものと考えられる。周溝幅1.2m，深さ約0.3mを測る。断面形はU字形である。

内部主体

不明である。

遺物の出土状況

遺物は出土していない。

ST012古墳（Fig. 21，PL. 9）

概要

猿嶽D遺跡調査区中央やや南西側に位置する。隣接して東側にST010古墳，南東側にST011古墳が存在する。内部主体は石棺系石室もしくは竪穴系横口式石室と考えられる。築造時期は5世紀代と思われる。

墳丘・周溝

墳丘は削平されており詳細は不明である。

周溝は確認されていない。

内部主体

石棺系石室もしくは竪穴系横口式石室と考えられる。石材等から見る限り，竪穴系横口式石室の可能性が高い。主軸をN85°Wにとる。石室は南側壁と西側小口及び北側壁の一部に腰石が

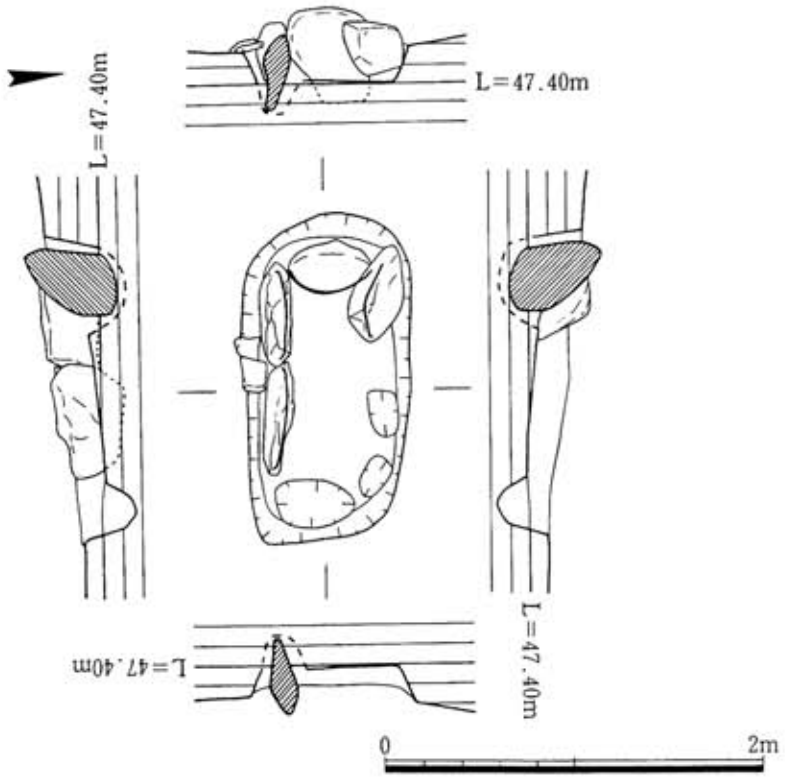


Fig. 21　ST012古墳石室（1/40）

残存するのみである。腰石の抜き取られ痕等より推定して石室全長約0.9m，中央幅0.4mを測るものと考えられる。石室平面形態は長方形である。

西側小口は0.5×0.4m程の石材1石を立て腰石とする。東側小口は抜き取られているが，西側小口と同等な腰石1石を配していたものと思われる。南側壁は0.5×0.4m程の板状石材2石を横位に立て腰石とする。北側壁は詳細は破壊を受けており不明であるが，3～4石をもって腰石となしていたものと思われる。壁体上部については詳細は不明である。

石室掘り方は不整な隅丸長方形である。掘り方規模は1.66×0.86m，深さ約0.2mを測る。

遺物の出土状況

遺物は出土していない。

ST013古墳（Fig. 22，PL. 9）

概要

猿渡D遺跡調査区中央より西側に位置する。隣接して北側にST014古墳，北東側にST004古

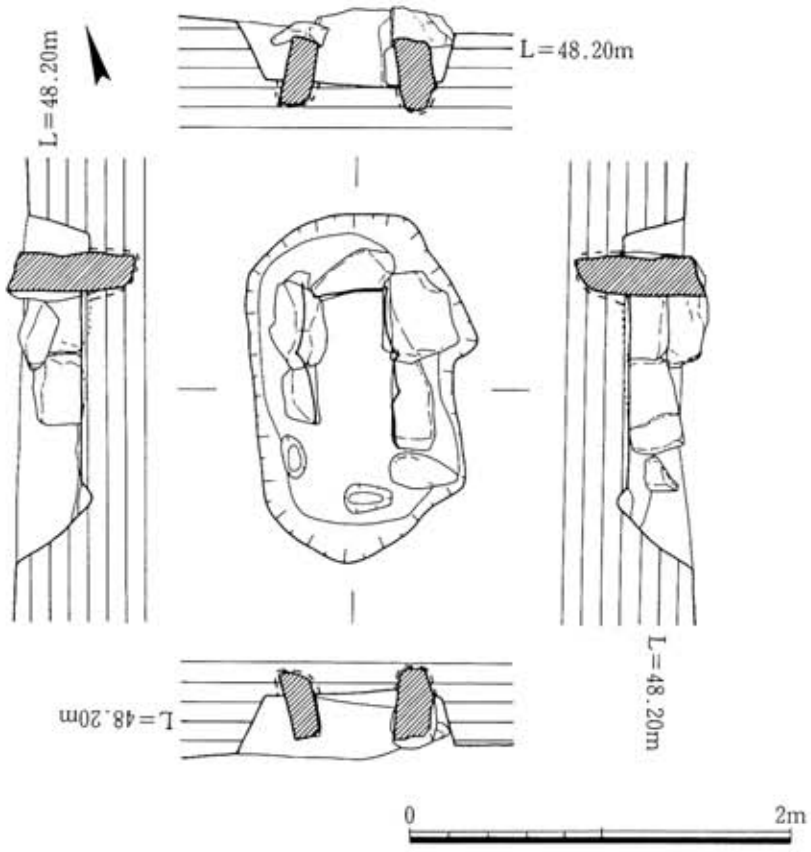


Fig. 22　ST013古墳石室（1/40）

墳，南側にST002古墳が存在する。内部主体は石棺系石室もしくは竪穴系横口式石室と考えられる。築造時期は5世紀代と思われる。

墳丘・周溝

墳丘は削平されており詳細は不明である。

周溝は確認されていない。

内部主体

石棺系石室もしくは竪穴系横口式石室と考えられる。主軸をN74°Wにとる。上部及び南側・西側部分を破壊されている。石材の抜き取られ痕等より推定して，石室全長1.0m，中央幅0.45mを測るものと思われる。石室平面形態は長方形である。

北側小口は0.4×0.4m程の板状石材1石を立て腰石とする。南側小口は抜き取られており詳細は捉え難いが，北側小口よりもやや小振りの腰石を用いていたものと思われる。東側壁・西

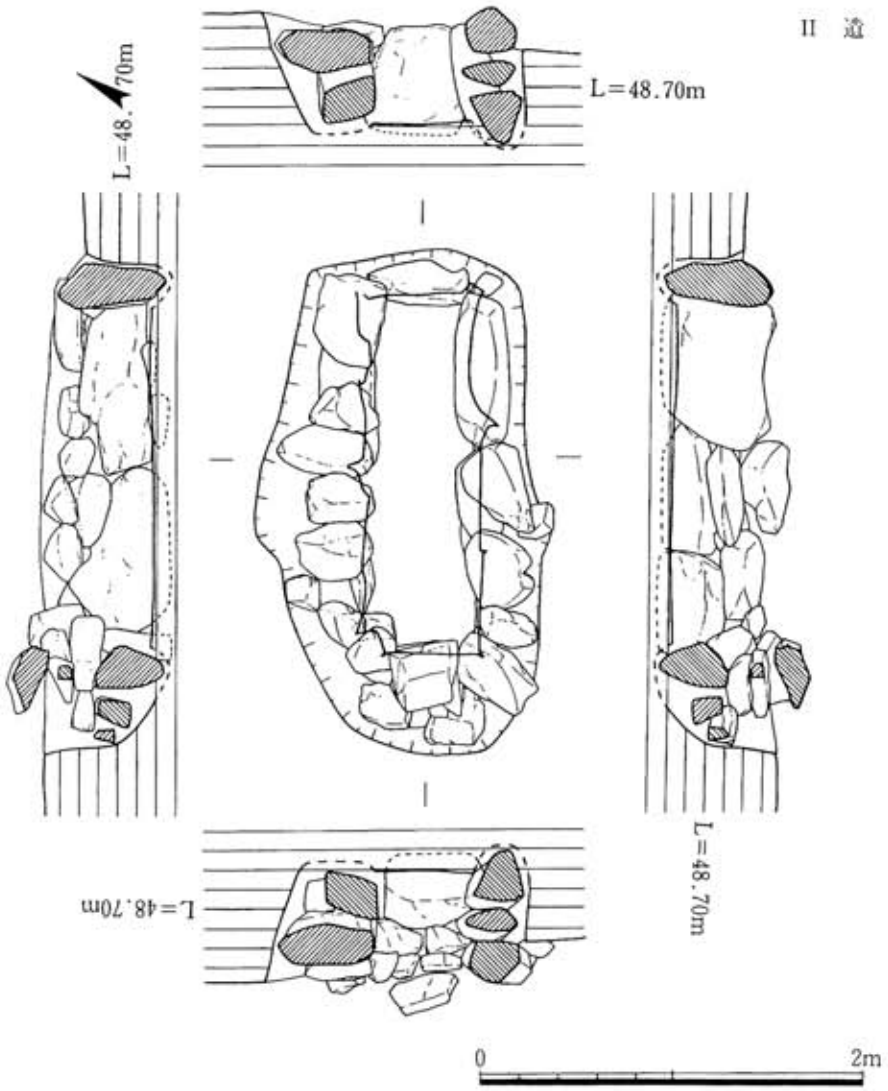


Fig. 23　ST014古墳石室（1/40）

側壁は残存しているもので2石の腰石が確認でき，本来側壁は3石の腰石で構成されていたものと考えられる。腰石は0.5×0.3m程の板状石材2石を横位に立てる。東側壁の北側腰石上方には0.5×0.3m程の石材を横位に積み上げる。残存しているもので1段が認められる。

石室掘り方は不整な隅丸長方形である。掘り方規模は1.8×1.05m，深さ約0.3mを測る。

遺物の出土状況

遺物は出土していない。

ST014古墳（Fig. 23，PL. 9）

概要

猿渡D遺跡調査区中央より北西に位置する。隣接して北側にはSK030が存在する。墳丘は削平されている。内部主体は竪穴系横口式石室である。築造時期は5世紀代と思われる。

墳丘・周溝

墳丘は削平されており詳細は不明である。

周溝は確認されていない。

内部主体

竪穴系横口式石室である。主軸をN61°Eにとる。上部を破壊されている。石室全長1.87m，中央幅0.61mを測る。石室平面形態は長方形である。

東側小口は0.6×0.55mの板状石材1石を縦位に立てる。西側小口は0.5×0.4mの石材1石を横位に配し，上方には0.2×0.15mの石材を横位に積み上げる。残存しているもので3段程度が認められる。南側壁は東側部分で0.8×0.6mのやや大きめの石材1石と0.7×0.4m程の石材2石を横位に配し腰石とする。上方には0.5×0.2m前後の石材を横位に積み上げる。残存しているもので2段が認められる。北側壁は0.9×0.4m前後の石材2石を横位に配し腰石とし，西側小口との隙間を埋めるようにやや小振りの石材1石を配する。上方には0.2×0.2m～0.4×0.2m程の石材を横位に積み上げる。残存しているもので2段程度が認められる。

石室掘り方は不整な隅丸長方形である。掘り方規模は2.62×1.39m，深さ約0.6mを測る。

遺物の出土状況

墳丘盛土から土師器甕が出土している。石室内よりの出土は無い。

ST015古墳（Fig. 24，PL. 10）

概要

猿嶽D遺跡調査区中央より西側の北端に位置する。墳丘は削平されている。内部主体は石棺系石室もしくは竪穴系横口式石室と考えられる。築造時期は5世紀代と思われる。

墳丘・周溝

墳丘は削平されており詳細は不明である。

周溝は確認されていない。

内部主体

石棺系石室もしくは竪穴系横口式石室と考えられる。腰石の石材等から竪穴系横口式石室の可能性が高い。主軸をN65°Wにとる。基底部まで大きく破壊されている。石室全長1.41m，中央幅0.39mを測る。石室平面形態は長方形である。

東側小口は0.6×0.2mの石材1石を横位に配し腰石とする。西側小口は0.4×0.2mの石材2石を横位に配し腰石とする。側壁は基本的に0.5×0.2m～0.3×0.15m程の石材4石を配し腰石としていたものと思われる。

石室掘り方の平面形は削平のため検出面ではかなり不整なものであり，詳細は知り難い。残存規模は2.24×0.96～0.74m，深さ約0.2mを測る。

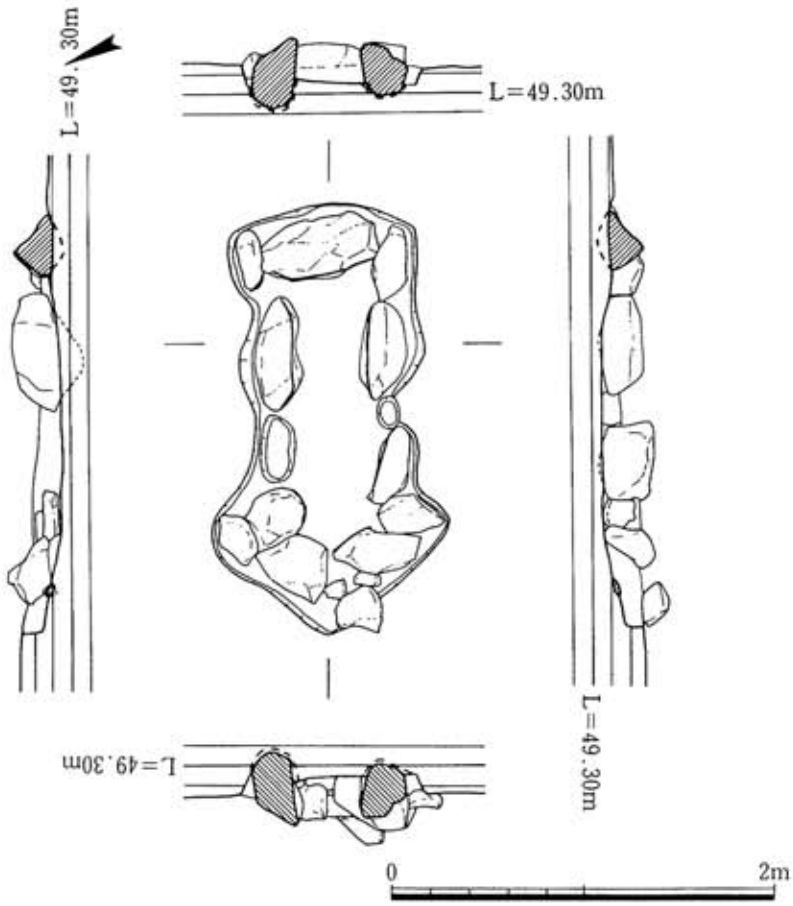


Fig. 24　ST015古墳石室（1/40）

遺物の出土状況

遺物は玄室内埋土中から鉄鏃が出土している。

ST016古墳（Fig. 25，PL. 10）

概要

猿猴D遺跡調査区西端に位置する円墳と思われる。南側には隣接してST019古墳が存在する。墳丘及び内部主体は開墾時に著しく削平・破壊されており遺存状況は極めて悪い。内部主体は横穴式石室である。築造時期は6世紀末頃と考えられる。

Fig. 25　ST016古墳石室（1/60）

墳丘・周溝

墳丘は殆ど削平されており詳細は不明である。

周溝は西側に一部確認される。円形もしくは楕円形であったものと考えられる。周溝幅は1.7m，深さ約0.3mを測る。断面形はU字形である。周溝内及びその周辺には小礫が密集しており，葺石等の可能性がある。

内部主体

横穴式石室である。西方向に向かって開口し，主軸をN74°Wにとる。開墾時に殆ど破壊されており腰石と裏込め石の一部が残存するのみである。石室幅は東側部分で1.9mを測る。奥壁は原位置を留めるものは北側の腰石だけであるが，石材2石を配し腰石としていたものと考えられる。奥壁北側の腰石には1.23×0.64mの石材を横位に配している。

掘り方平面形態は隅丸長方形と考えられる。掘り方残存規模で4.7×2.9mを測る。

遺物の出土状況

遺物は前庭部付近から土師器高杯，須恵器杯身・杯蓋・高杯・壷・甕・平瓶・提瓶が出土している。

ST019古墳

概要

猿渡D遺跡調査区西端南側に位置する円墳と思われる。周溝を一部確認したのみであり内部主体等は不明である。SB023に切られる。北側には隣接してST016古墳が存在する。

墳丘・周溝

墳丘は殆ど削平されているが，墳丘径8～10m程度の円墳と考えられる。

周溝は北側部分を一部確認したのみであるが，円形もしくは楕円形であるものと思われる。周溝幅1.5～2.5m，深さ約0.3mを測る。断面形はU字形である。

内部主体・遺物の出土状況

内部主体は不明である。遺物は出土していない。

ST020古墳（Fig. 26，PL. 10・11）

概要

猿渡D遺跡調査区東側に位置する円墳である。隣接して東側にST001古墳が存在する。開墾時に大きく削平・破壊されており遺存状況は悪い。内部主体は横穴式石室である。

墳丘・周溝

墳丘は殆ど削平されているが墳丘径約8mを測る円墳と考えられる。

周溝は南側部分を一部削平されているが，南側部分には周溝の巡らない周溝外径11.6mの円

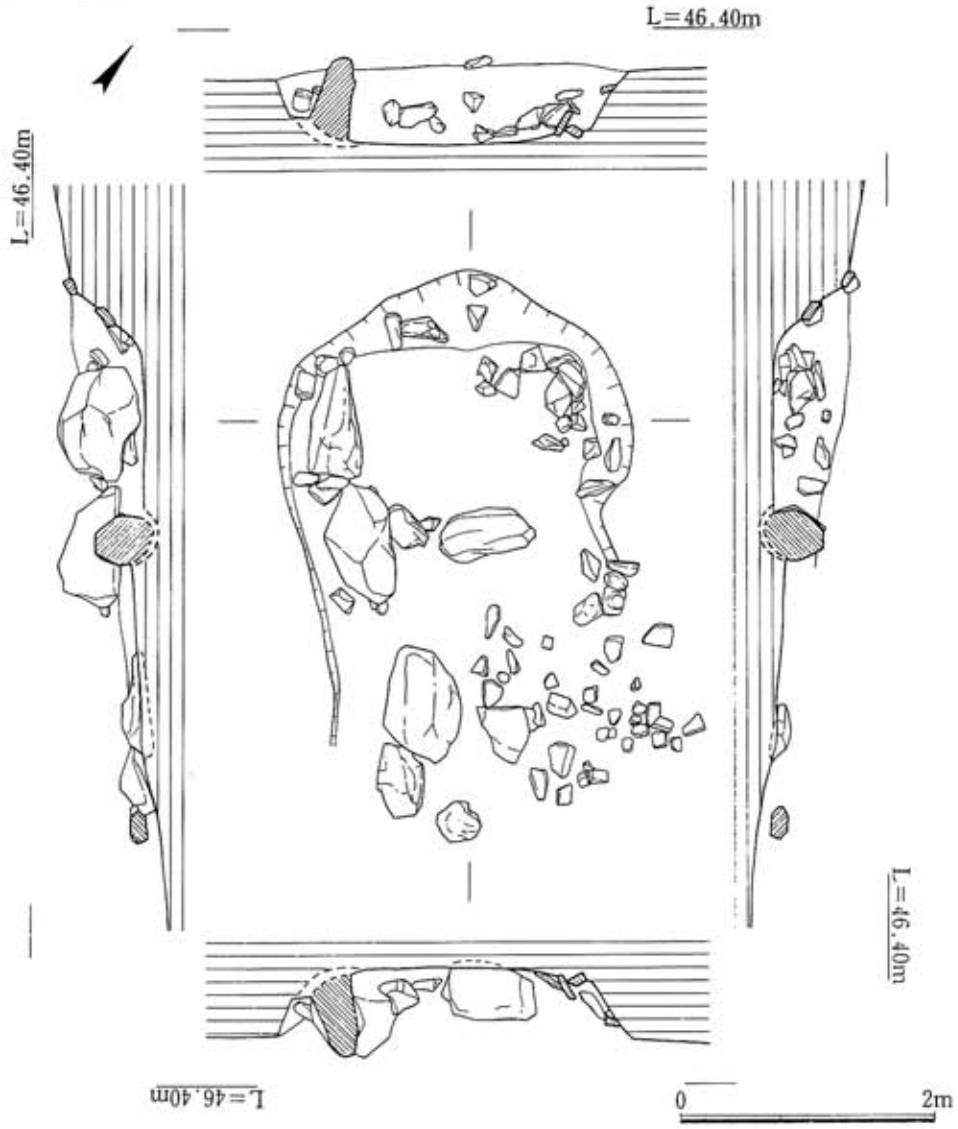


Fig. 26　ST020古墳石室（1/40）

形である。周溝幅約2.5m，深さ約0.3mを測る。断面形はU字形である。

内部主体

横穴式石室と思われる。南東方向に向かって開口し，主軸をN37°Wにとる。開墾時に大きく破壊されており玄室の西側側壁腰石の一部が原位置を保つのみで，他には根石等と思われる小礫が散在する程度である。玄室平面形は長方形と思われる。左側壁の北側には0.85×0.65mの石材2石を横位に配し腰石としている。

遺物の出土状況

遺物は主に前庭部から土師器杯蓋・高台付杯，須恵器杯身・杯蓋・高杯・壺等が出土している。

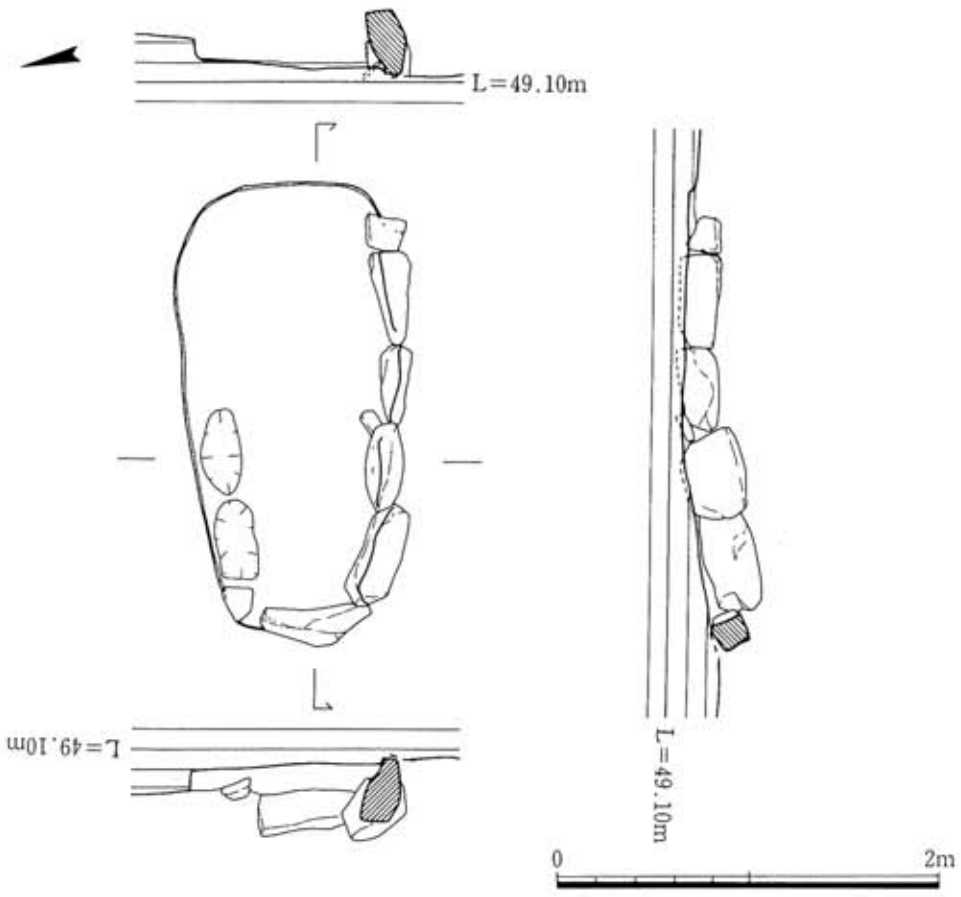


Fig. 27　ST024古墳石室（1/40）

ST024古墳（Fig. 27, PL. 11）

概要

猿猴D遺跡調査区西側に位置する。開墾時に大きく破壊されており遺存状況は悪い。内部主体は石棺系石室もしくは竪穴系横口式石室と考えられる。築造時期は5世紀代と思われる。

墳丘・周溝

墳丘は削平されており詳細は不明である。

周溝は確認されていない。

内部主体

石棺系石室もしくは竪穴系横口式石室である。主軸をN75°Wにとる。基底部まで大きく破壊されている。石室平面形態は長方形であると思われる。

西側小口は0.6×0.2mの石材1石を横位に配する。南側壁は0.5×0.3m程の板状石材4石を

横位に立てる。北側壁は2石の腰石の存在が抜き取られ痕より推定できるのみである。

石室掘り方は著しく削平されているため，詳細は不明な点が多い。掘り方規模は残存値で2.4×1.2m，深さ約0.2mを測る。

遺物の出土状況

周溝埋土中より土師器杯が出土している。

ST025古墳（Fig. 28，PL. 12）

概要

猿嶽D遺跡調査区中央よりやや南側に位置する。北側でST008古墳に切られる。隣接して南側にST009古墳，西側にST010古墳が存在する。開墾時に削平されており墳丘は残っていない。内部主体は石棺系石室であり，本調査区内の石棺系石室において唯一蓋石まで遺存するも

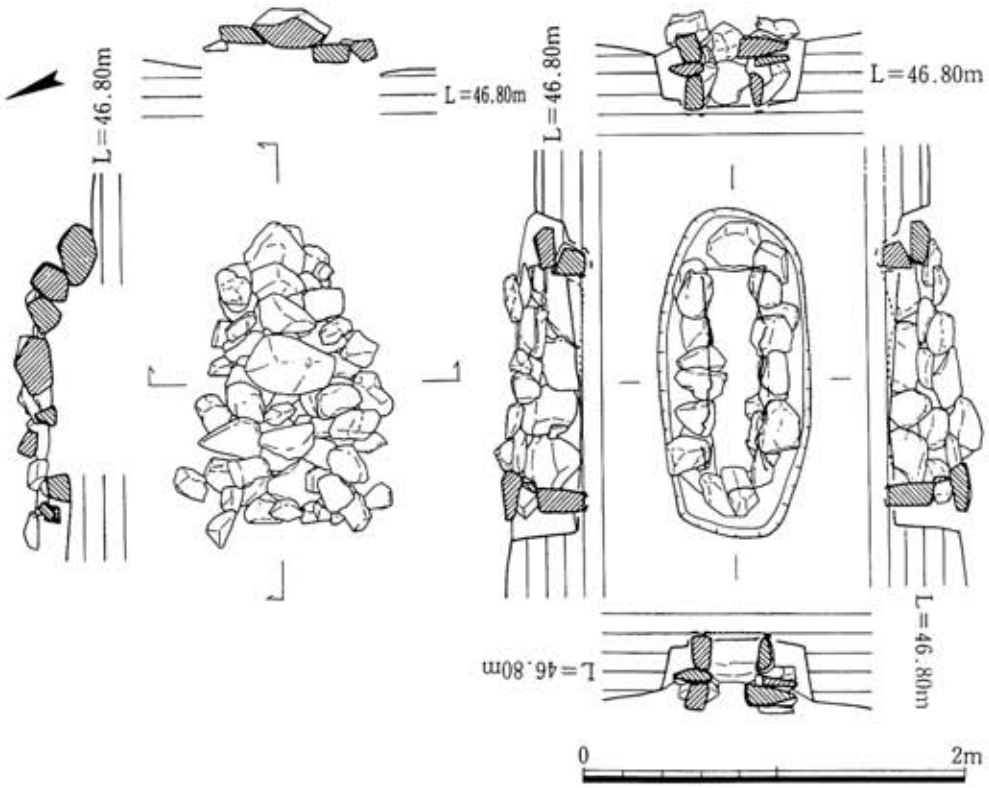


Fig. 28　ST025古墳石室（1/40）

のである。

墳丘・周溝

墳丘は削平されており詳細は不明である。

周溝は確認されていない。

内部主体

石棺系石室である。主軸をN68°Wにとる。石室全長1.06m，中央幅0.3mを測る狭長な石室である。石室平面形態は長方形である。

西側小口は0.2×0.2m程の板状石材1石を立て腰石とし，その上方にさらに2段を石積みする。東側小口は0.4×0.2m程の石材1石を横位に配し腰石とし，上方にさらに0.3×0.1m程の石材1石を横位に積み上げる。両側壁は0.4×0.15m～0.3×0.3m前後の板状石材4石を横位に立て腰石とする。上方には基本的に0.3×0.15m～0.2×0.1m前後の石材を横位に2段程積み上げる。石室掘り方はやや不整な隅丸長方形である。掘り方規模は1.5×0.8m，深さ約0.3mを測る。

遺物の出土状況

遺物は出土していない。

ST026古墳（Fig. 29・30・31・32，PL. 12・13・14）

概要

猿嶽C遺跡調査区南西に位置する円墳である。北東側には隣接してST027古墳が存在する。石室は大半が破壊されている。内部主体は単室の横穴式石室である。築造時期は6世紀末である。

墳丘・周溝

墳丘は遺存しているが，かなり削平されている。墳丘径約20mを測る円墳である。

周溝は確認されていない。

内部主体

単室両袖型の横穴式石室である。南方向に向かって開口し，主軸をN11°Eにとる。前庭側壁に一部原位置を保つものがある他は奥壁，側壁等の石材は抜き取られ痕をとどめるのみである。石室は推定で全長約6.0m，玄室は中央長約2.0m，中央幅約2.5m程を測るものと思われる。

遺物の出土状況

墓道・前庭部より土師器杯・高杯，須恵器杯身・杯蓋・高杯・壺，石室内より須恵器高杯・壺蓋・鉄鏃・管玉・勾玉・耳環等が出土している。

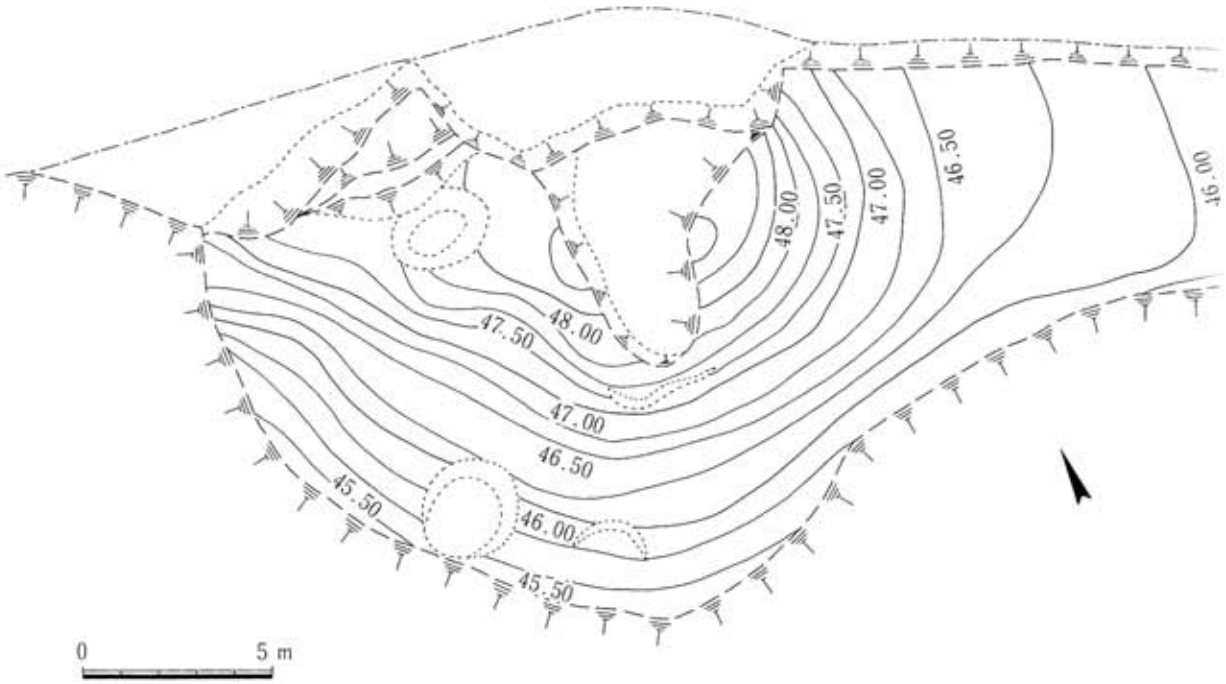


Fig. 29　ST026古墳調査前地形測量図（1/200）

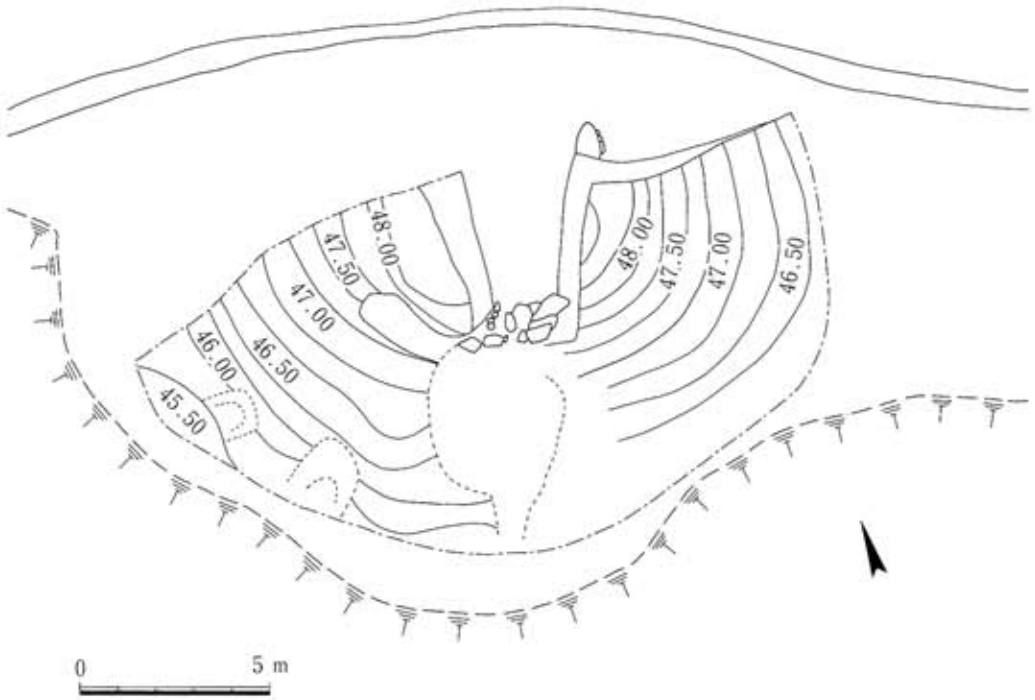


Fig. 30　ST026古墳調査後墳丘測量図（1/200）

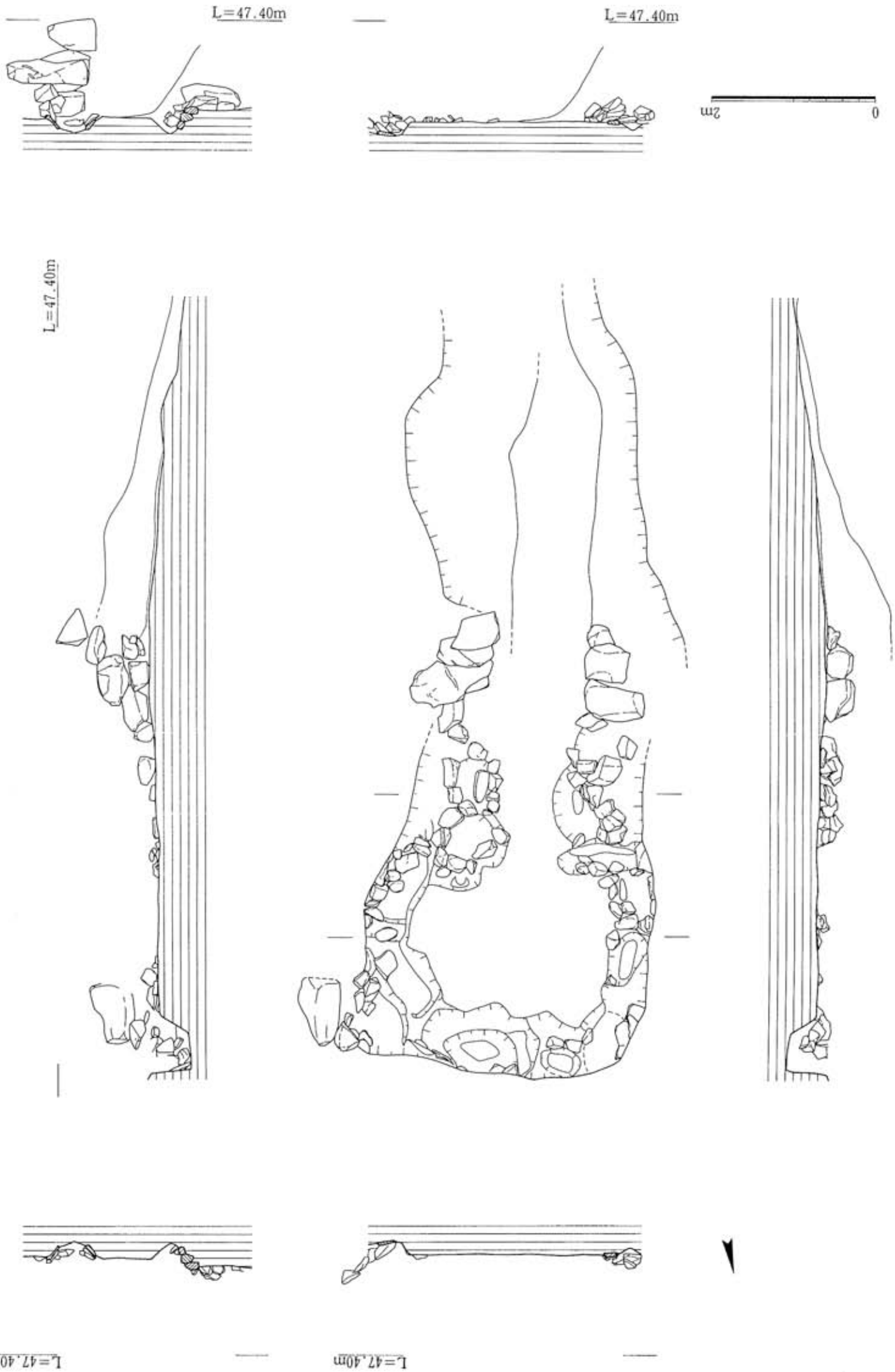


Fig. 31 ST026住居跡実測図 (1/60)

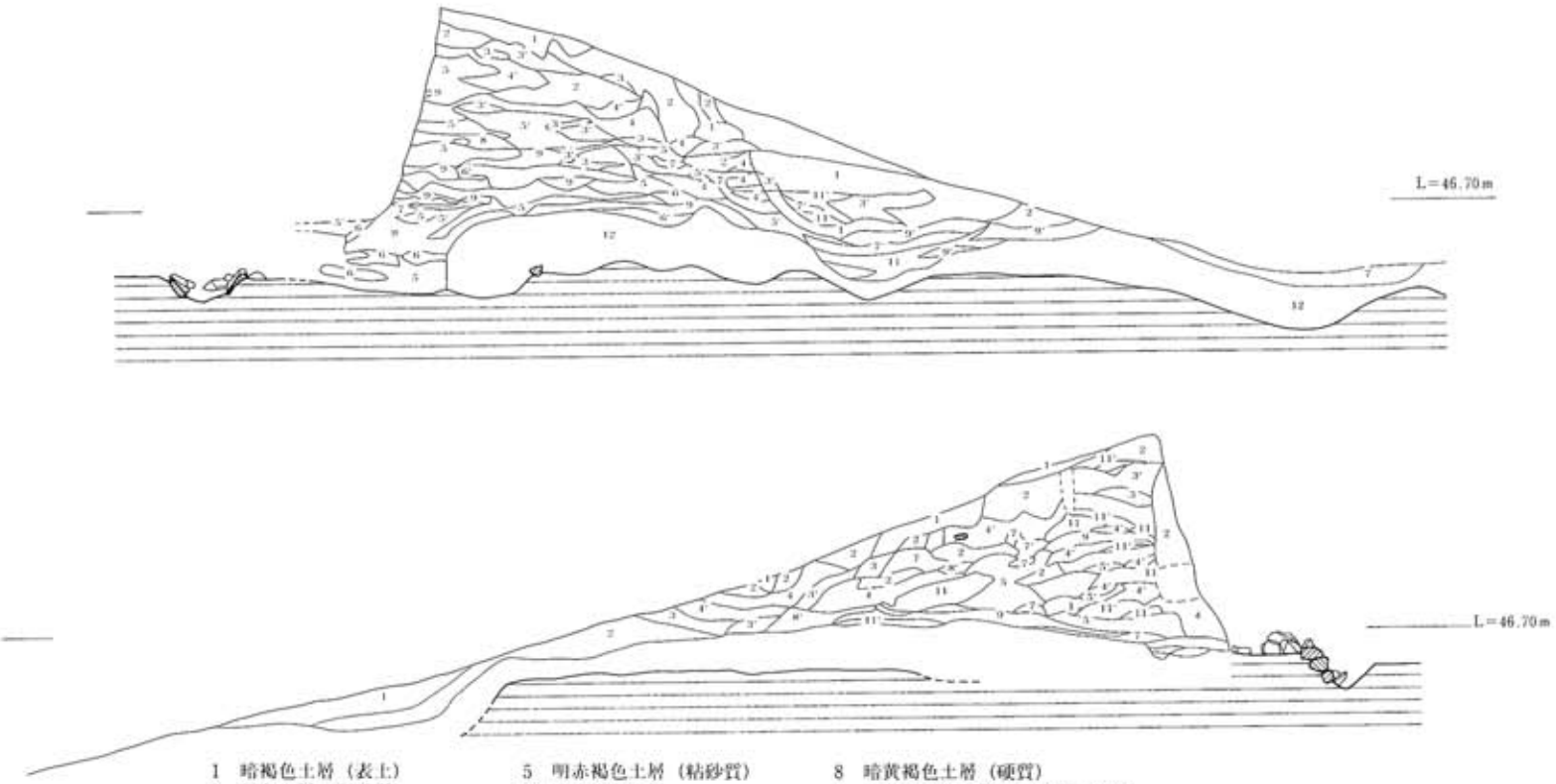


Fig. 32 ST026古墳墳丘土層図（1/60）

ST027古墳（Fig. 33・34・35・36，PL. 14・15・16・17）

概要

猿渡C遺跡調査区北側に位置する円墳である。南側には隣接してST026古墳が存在する。墳丘は開墾時にかなり削平されている。石室は前庭側壁を一部欠くものの比較的遺存状況は良い方である。調査時には既に開口していた。内部主体は単室の横穴式石室である。

墳丘・周溝

墳丘は全体的に本来の面よりもかなり削平されているものと思われる。特に墳丘下部で著しく削平されている。墳丘径約15mを測る円墳である。

周溝は一部西側で確認できた。外径約20m前後の円形であったものと思われる。残存値で周溝幅は2.5～3.0m，深さ約0.3mを測る。断面形はU字形である。

内部主体

複室両袖型の横穴式石室である。南方向に向かって開口し，主軸をN58°Wにとる。前庭側壁を一部欠くが，石室全長は残存規模で5.3mを測る。

玄室平面形態は長方形である。中央長2.3m，中央幅2.2m，天井高2.5mを測る。奥壁は，2.5×1.7mの石材1石を横位に配し，上方には1.2×0.9m～0.6×0.4m程の石材を積み上げる。右側壁は腰石に2.2×1.2mの石材1石を横位に配し，上方には1.2×0.5m～0.7×0.6m程の石材を積み上げる。隙間にはやや小振りの石を埋め込む。左側壁は腰石に2石を用い，奥壁に近い方で1.8×1.5mの石材1石を横位に，南側で1.0×0.5mの石材1石を縦位に配している。上方には1.6×0.8m～1.4×0.6m程の石材を横位に積み上げる。隙間にはやや小振りの石を埋め込む。両側壁は，腰石より上方は基本的に3段程度を積み上げる。玄門部は，両袖石に2.0×0.5m程のやや角ばった石材を立てる。床面には0.9×0.3mの框石を配する。玄門幅は0.95mを測る。石室内には本来敷石が存在していた様であるが詳細は不明である。玄室天井石には2.0×1.8mの石材1石を架構する。

前室平面形態は1.3×1.1m程の長方形と考えられる。前門部には袖石を有せず，框石を配していたものと思われる。前室左右側壁は1.6×1.0m程の石材1石を横位に配し腰石とする。上方には右側壁で1.1×0.8mの石材1石を横位に積み上げ，左側壁は0.8×0.5m～0.5×0.4m程の石材を2段程横位に積み上げる。床全面には敷石を配する。前室天井石には2.6×0.8mの石材1石を架構する。

前庭側壁は，右側壁で腰石が1石，左側壁で腰石が2石残存するのみで上方及び先端部構造の詳細は不明である。側壁はやや外側へ広がり，幅1.3m程を測る。

遺物の出土状況

遺物は，前室から鉄鏃・鉄器片，墓道から須恵器杯身・杯蓋，周溝埋土中から土師器高杯・壺・鉢，須恵器杯・甕等が出土している。

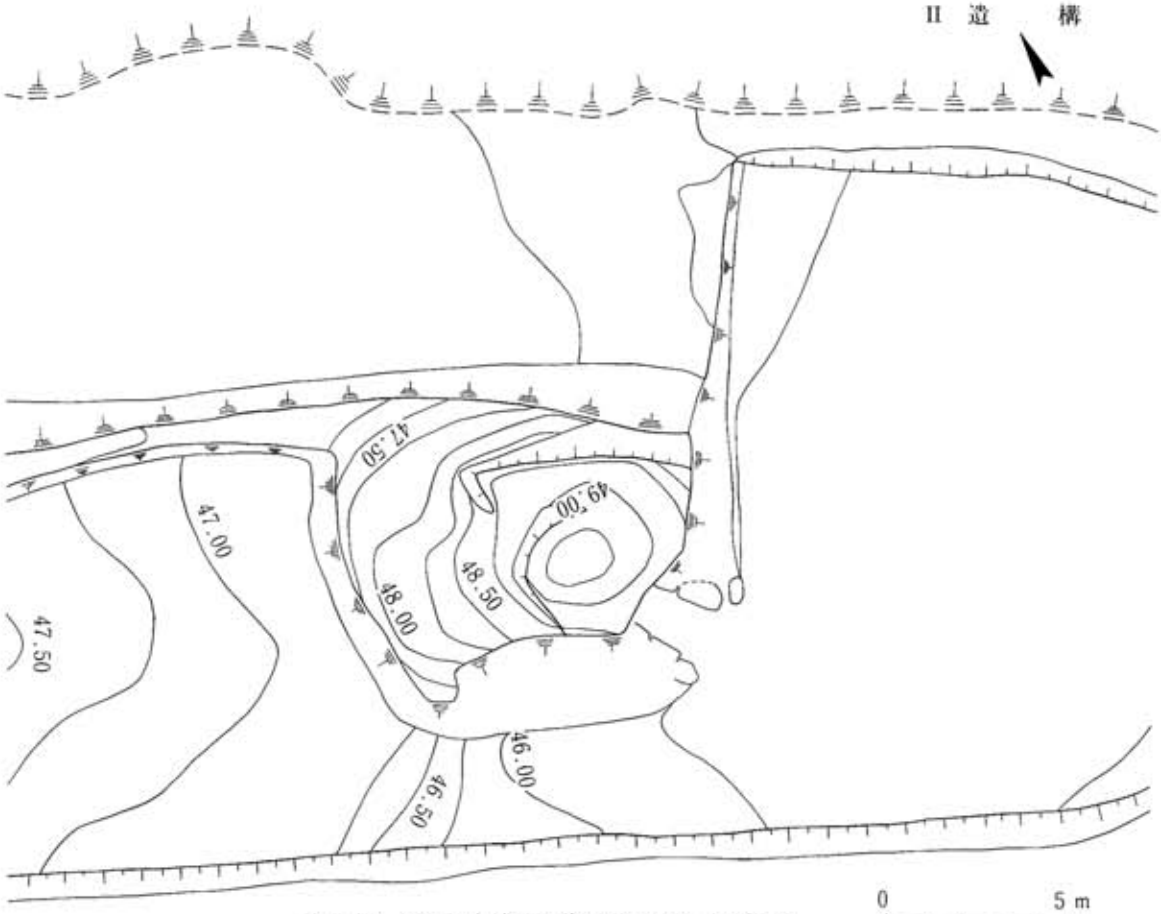


Fig. 33　ST027古墳調査前地形測量図（1/200）

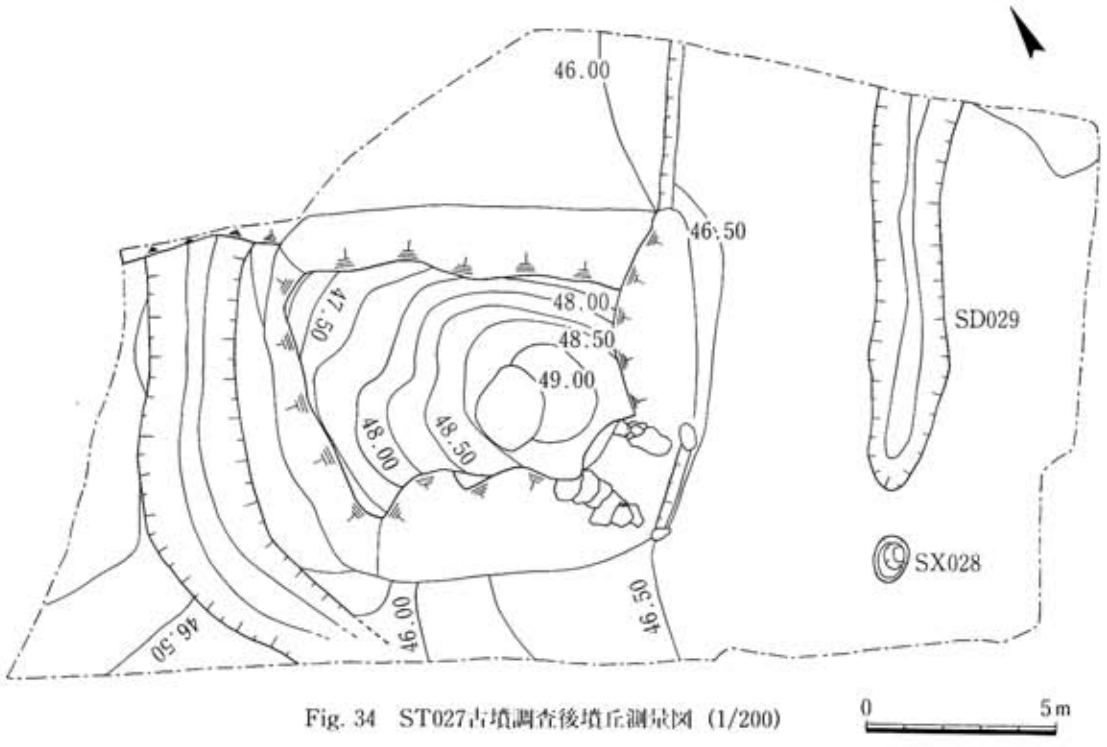


Fig. 34　ST027古墳調査後墳丘測量図（1/200）

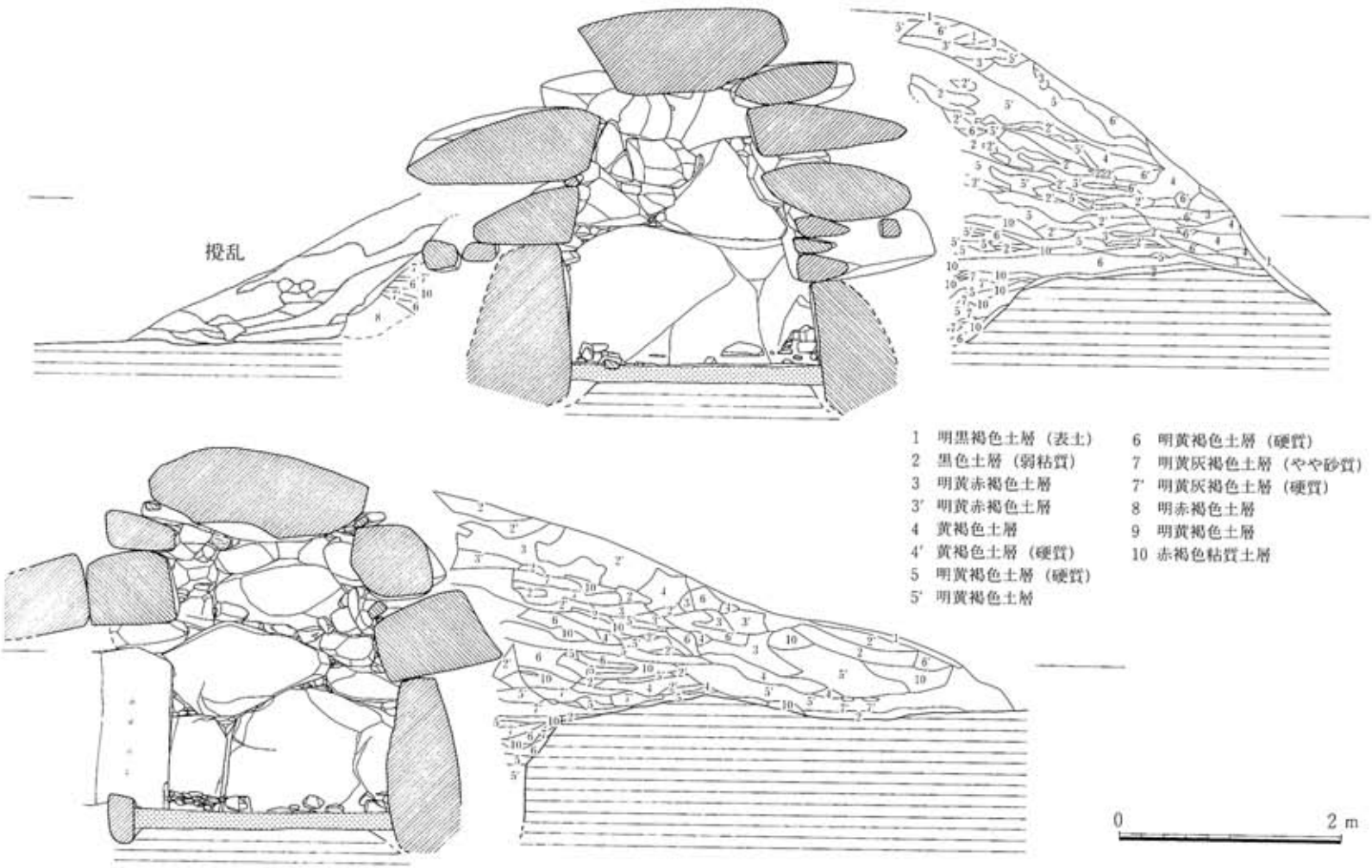


Fig. 35 ST027古墳墳丘土層図 (1/60)

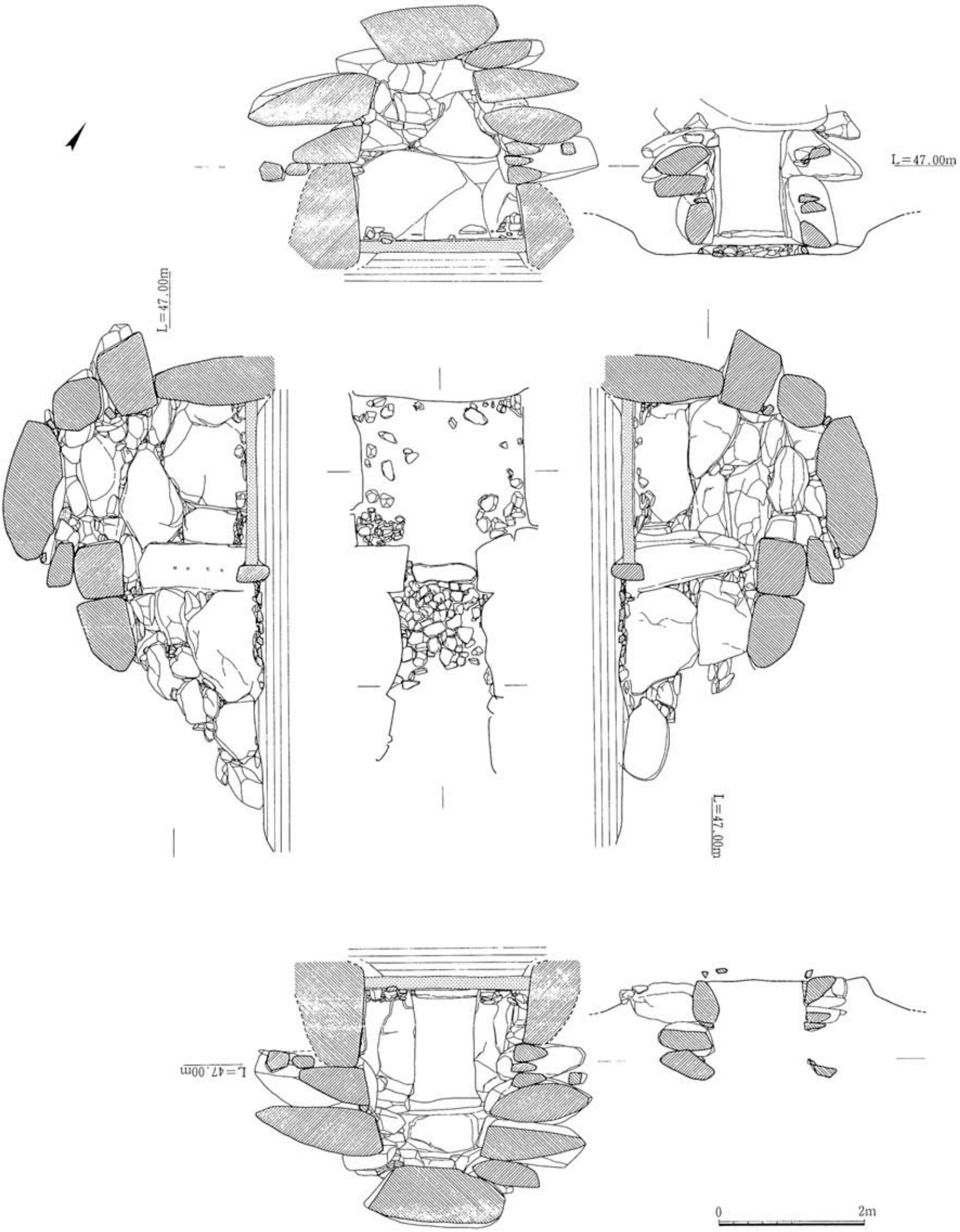


Fig. 36　ST027 古墳石室（1/60）

（2）溝

SD017

猿嶽D遺跡調査区西南端に位置し，やや蛇行しながら北から南へ向かう溝である。北側でSX021に切られており，またSX021より北側では確認されていない。上面はかなり削平されているものと考えられる。幅0.7～1.7m，深さ0.2mを測る。断面形はU字形である。

遺物は埋土中から土師器高杯・壺，須恵器杯・甕等が出土している。

SD018

猿嶽D遺跡調査区西側に位置し，やや蛇行しながら北から南東へ向かう溝である。南側でSB023に切られる。上面はかなり削平されているものと考えられる。幅0.5～0.7m，深さ0.2mを測る。断面形はU字形である。

遺物は埋土中から須恵器杯，鉄鏃，玉類が出土している。

（3）不明遺構

SX028

猿嶽C遺跡調査区東側に位置する。詳細遺構実測図，調査時の詳細な所見等がなく，不明な点が多い。平面形は楕円形を呈し，長径1.2m，短径0.9mを測る。深さ不明。

遺物は須恵器甕が出土している。

SX022

猿嶽D遺跡調査区東側に位置する。詳細遺構実測図，調査時の詳細な所見等がなく，不明な点が多い。平面形は不整な楕円形状を呈し，長径8.9m，短径6.4m，深さ0.5mを測る。

遺物は須恵器鉢が出土している。

2．中世・時期不明

（1）溝

SD029（PL. 18）

猿嶽C遺跡調査区東側を，直線的に北東から南西へ向う溝である。幅1.7～2.1m，深さ0.25mを測る。断面形はU字形である。

遺物は出土していない。

（2）掘立柱建物

SB023（PL. 18）

猿嶽D遺跡調査区西南端に位置する。詳細遺構実測図，調査時の詳細な所見等がなく，不明な点が多い。SD018及びST019古墳を切る。梁行2間＋α，桁行4間で，梁行柱間2.7m，桁行柱間2.5mを測る。東側・西側には庇が付くものと考えられる。柱穴掘り方は一辺が0.7×1.0mの方形を呈する。主軸はN70°Wをとる。

時期は，調査時の所見では中世以後の遺構としているが，出土遺物等が無く詳細は不明である。

（3）土　　壙

SK030

猿嶽D遺跡調査区中央より西側に位置する。詳細遺構実測図，調査時の詳細な所見等がなく，不明な点が多い。平面形は楕円形を呈し，長径2.8m，短径2.6mを測る。深さ不明。

出土遺物はない。

（4）不明遺構

SX021

猿嶽D遺跡調査区西側に位置する。SD017を切る。詳細遺構実測図，調査時の詳細な所見等がなく，不明な点が多い。平面形は不整な方形状を呈し，長径3.7m，短径3.5m，深さ0.5mを測る。

出土遺物はない。

Ⅲ．遺　　物

1．縄文時代・弥生時代 (Fig. 37)

猿嶽C・D遺跡においては，古墳時代より前時代の遺構は明瞭に確認していないが，古墳墳丘・周溝等から，縄文時代の石器類，弥生時代の土器・石器類が若干出土している。土器類は，弥生時代後期の甕（7・8）が出土している。石器類は，打製のものでは石鏃（1～3），扁平打製石斧（5），磨製のもでは太型蛤刃石斧（6），石包丁（4）等が出土している。

出土遺物のうち土器類の調整等については観察表を参照されたい。

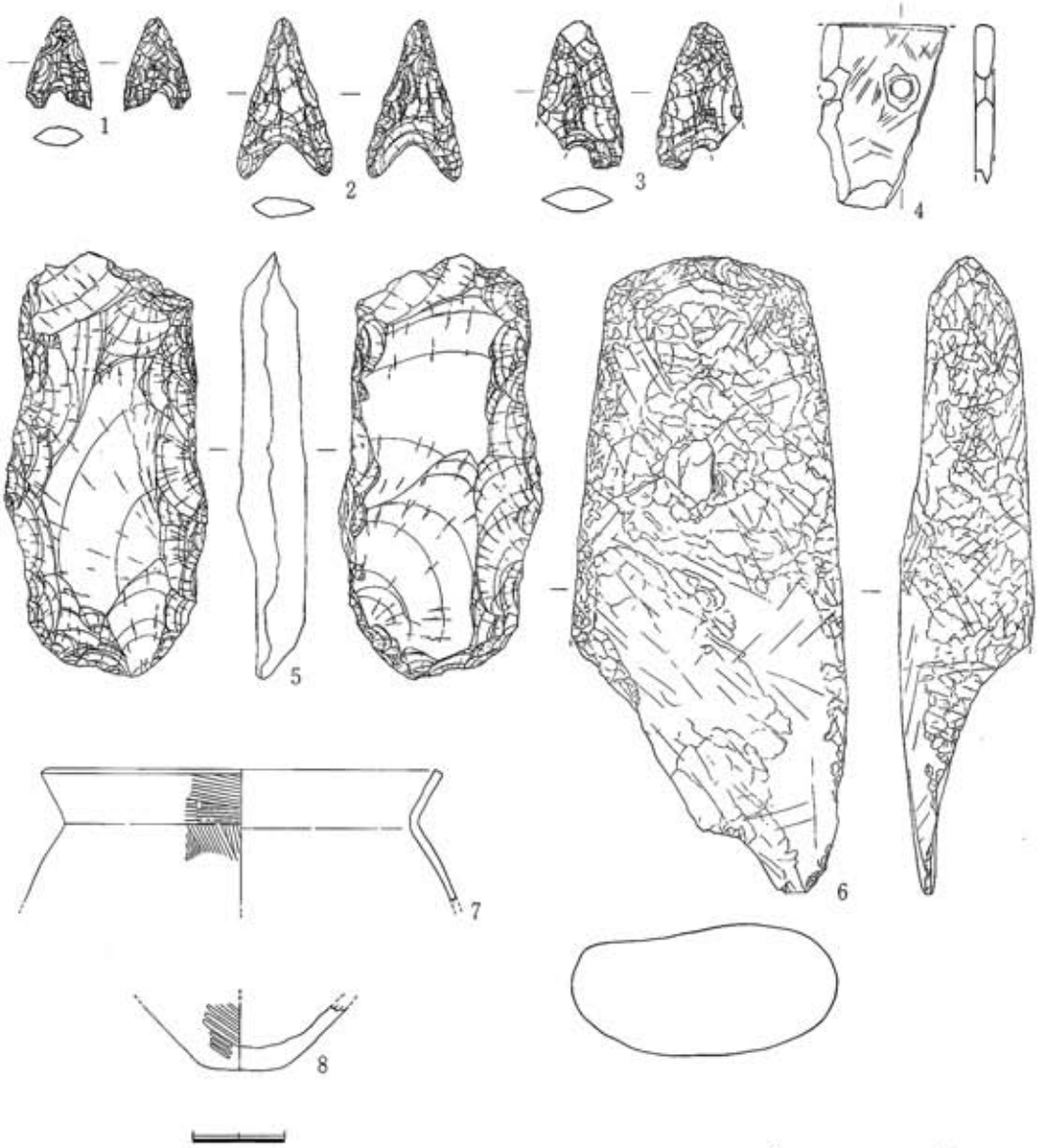


Fig. 37　縄文時代・弥生時代の出土遺物（7・8は1/4，他は1/2）

2．古墳時代

（1）古墳出土遺物

ST001古墳出土遺物（Fig. 38～43）

遺物は，主に前庭部及び墓道からの出土であり玄室内からの出土はない。

須恵器は杯蓋（9～16・46～55・87・88），杯身（17～31・56～75・89～92），高台付杯

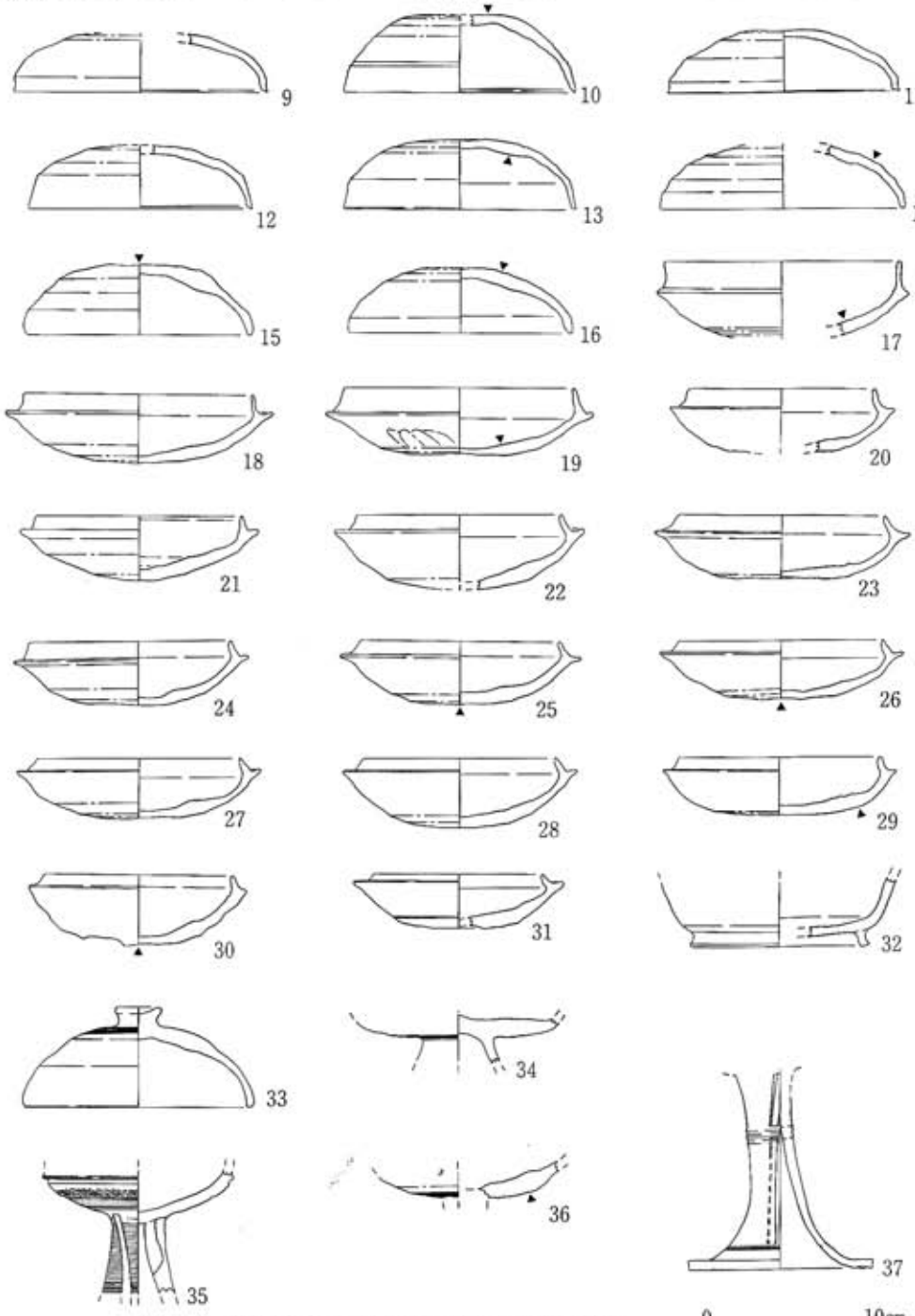


Fig. 38　ST001古墳出土遺物1〔須恵器〕（1/4）

(32)，高杯蓋 (40)，高杯 (34～40・76～82)，甕 (41・42・83)，提瓶 (44・85・86)，甕 (45・93・94) 等が出土した。土師器は高杯 (95・96)，壷 (97) が出土した。鉄器類は，鉄鏃 (98～100)，留金具 (101) が出土した。玉類は管玉 (102) が出土した。

実測出土遺物の法量等については，一覧表を参照されたい。

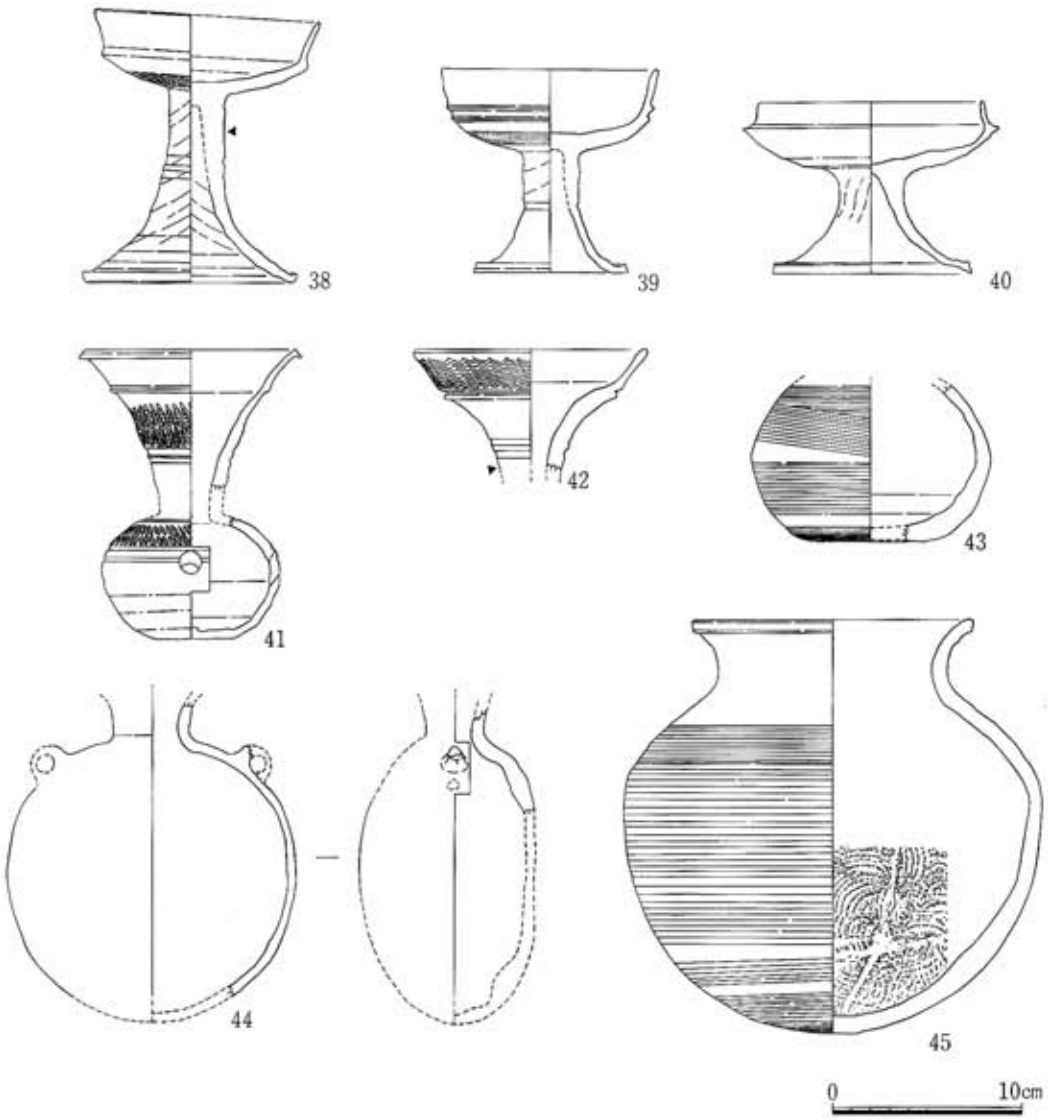


Fig. 39　ST001古墳出土遺物2〔須恵器〕(1/4)

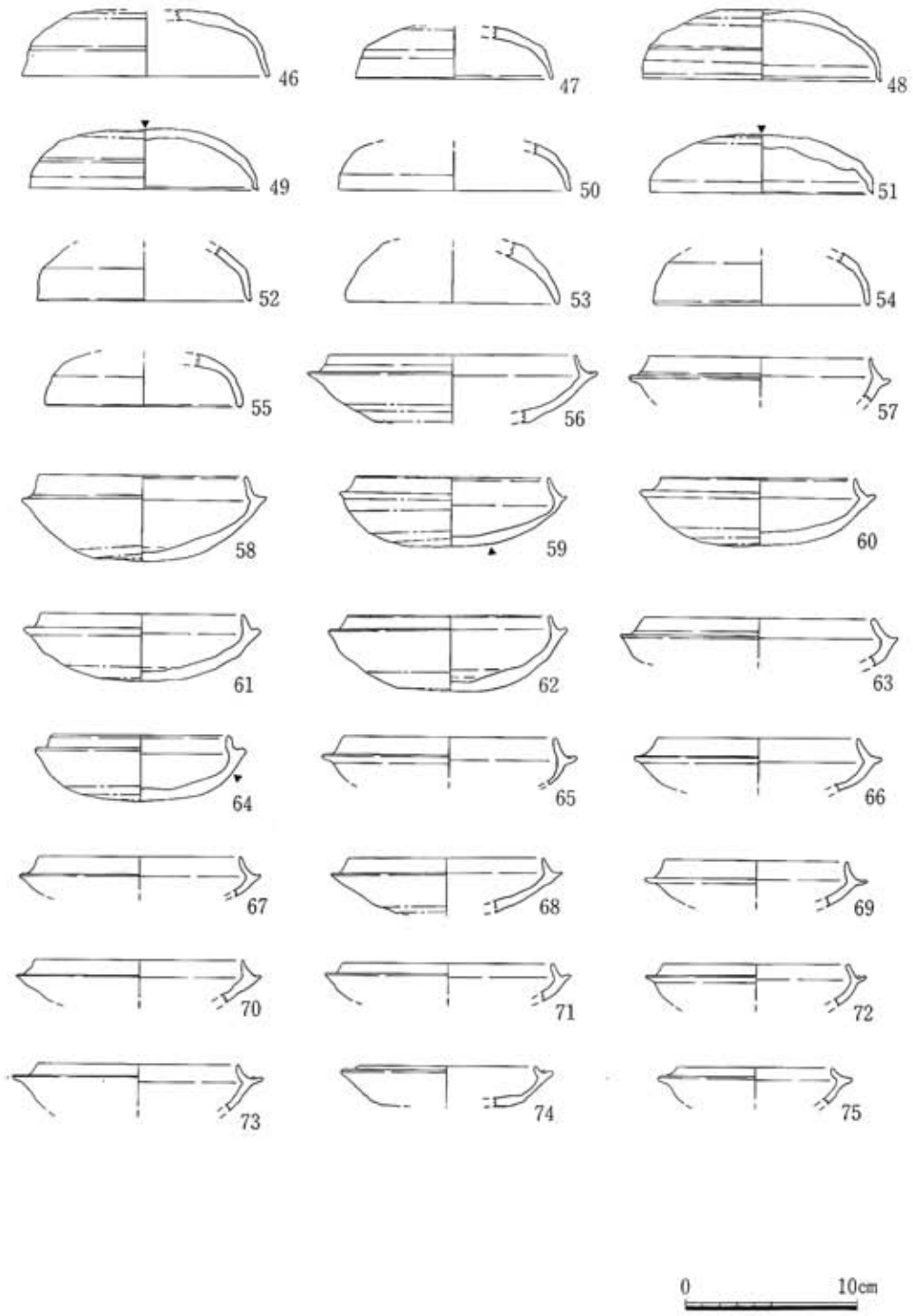


Fig. 40　ST001古墳出土遺物３〔須恵器〕（１/４）

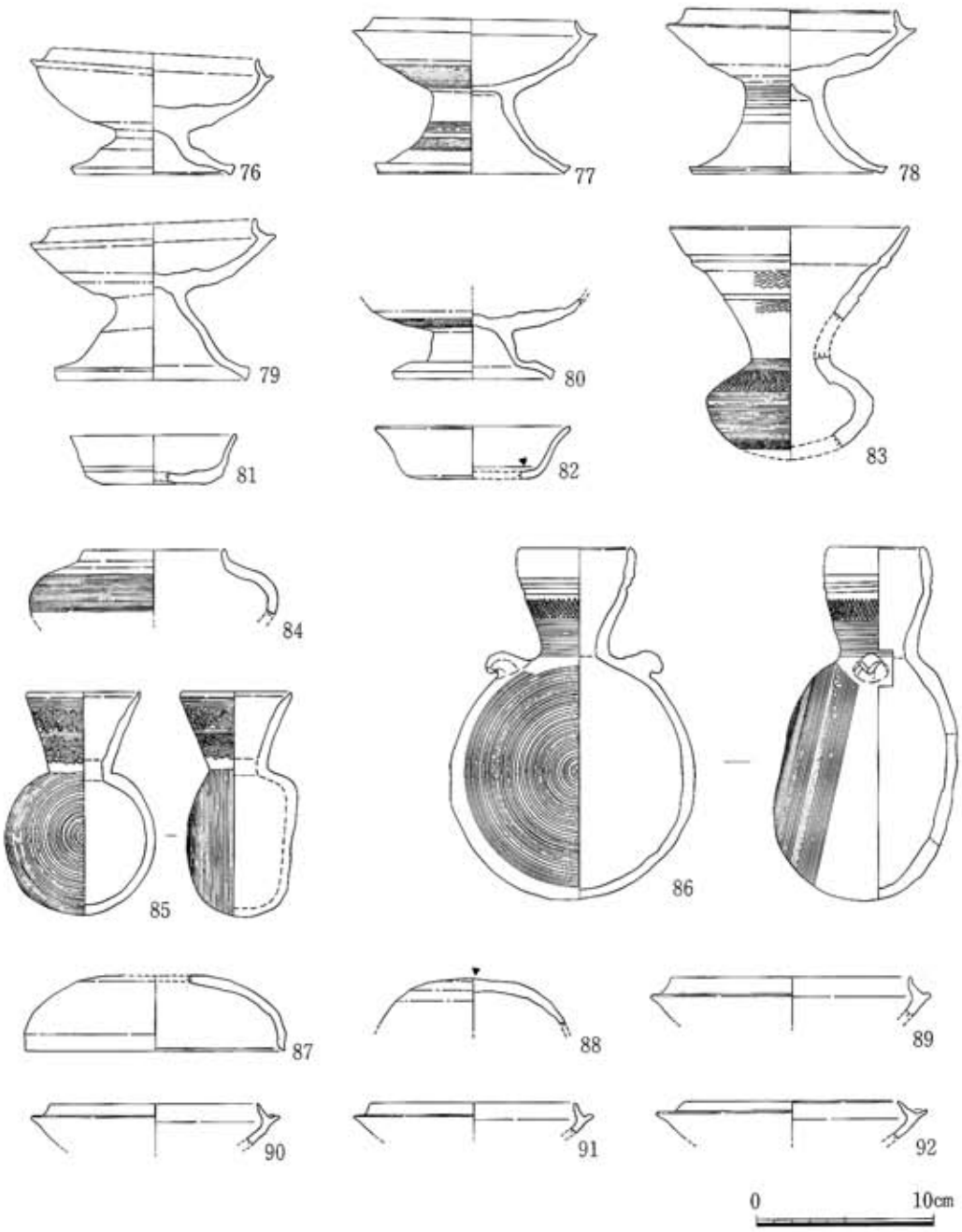


Fig. 41　ST001古墳出土遺物4〔須恵器〕(1/4)

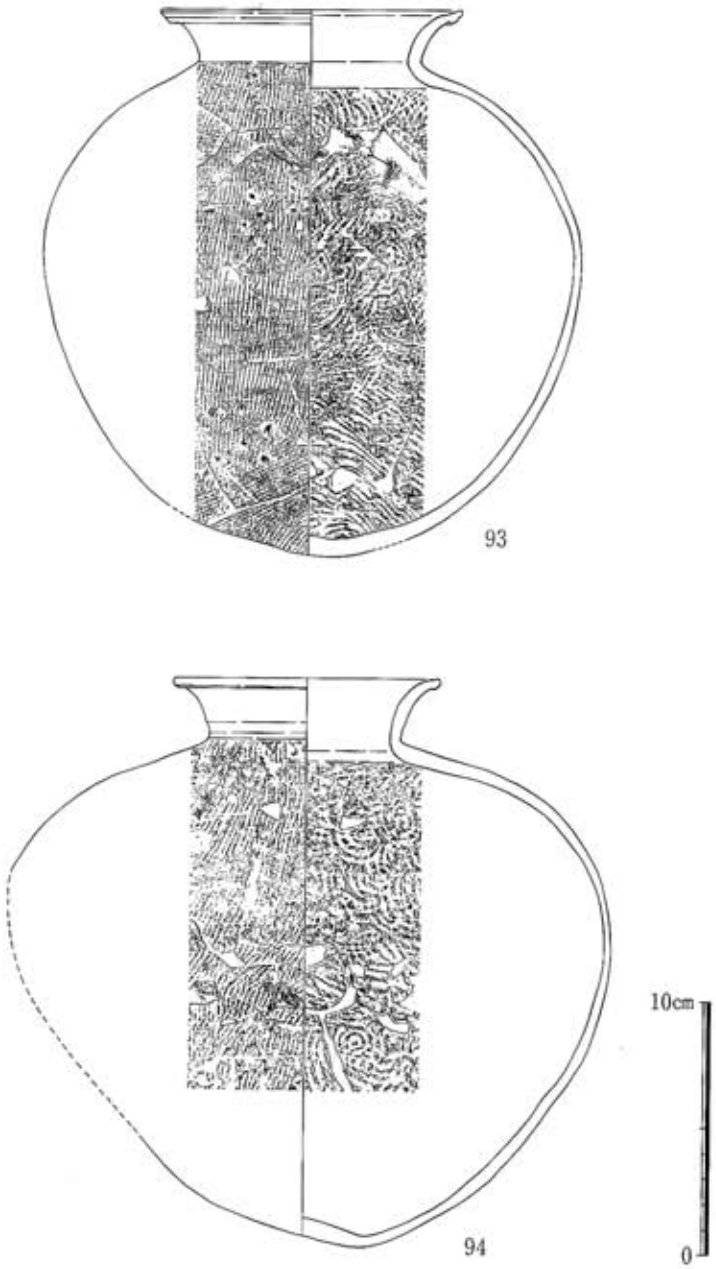


Fig. 42　ST001古墳出土遺物5〔須恵器〕(1/3)

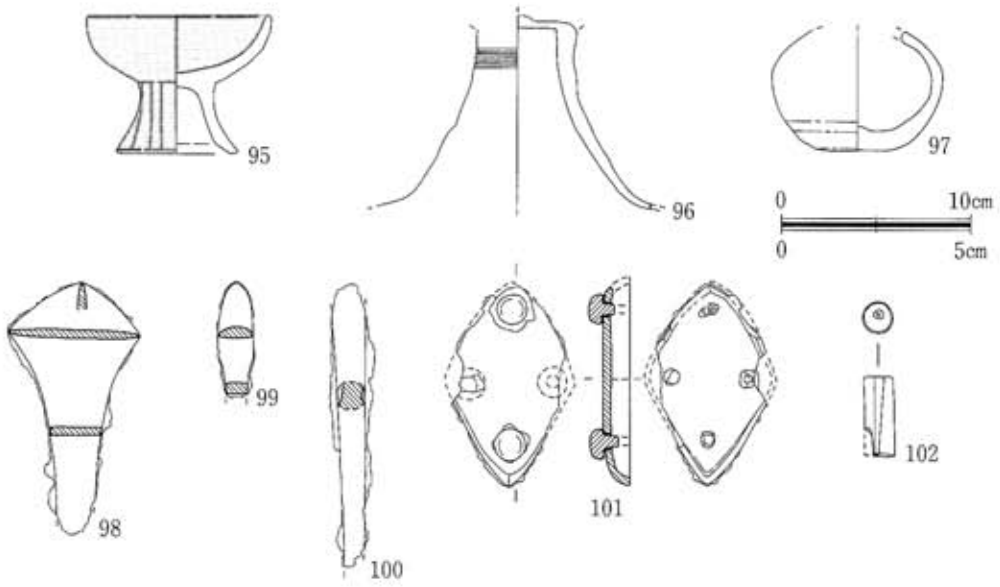


Fig. 43　ST001古墳出土遺物６〔土師器・鉄器・玉類〕(95～97は１/４，他は１/２)

ST002古墳出土遺物（Fig. 44）

古墳の遺存状況が悪く，遺物は散在的に出土している。

出土した遺物は全て須恵器で，杯蓋（103～105），杯身（106～108），提瓶（109）が出土した。

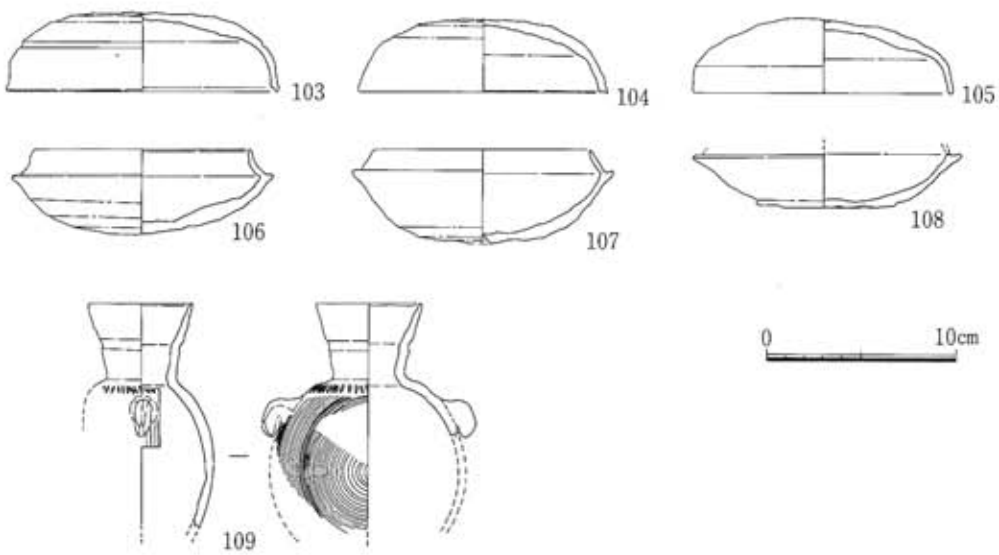


Fig. 44　ST002古墳出土遺物〔須恵器〕(１/４)

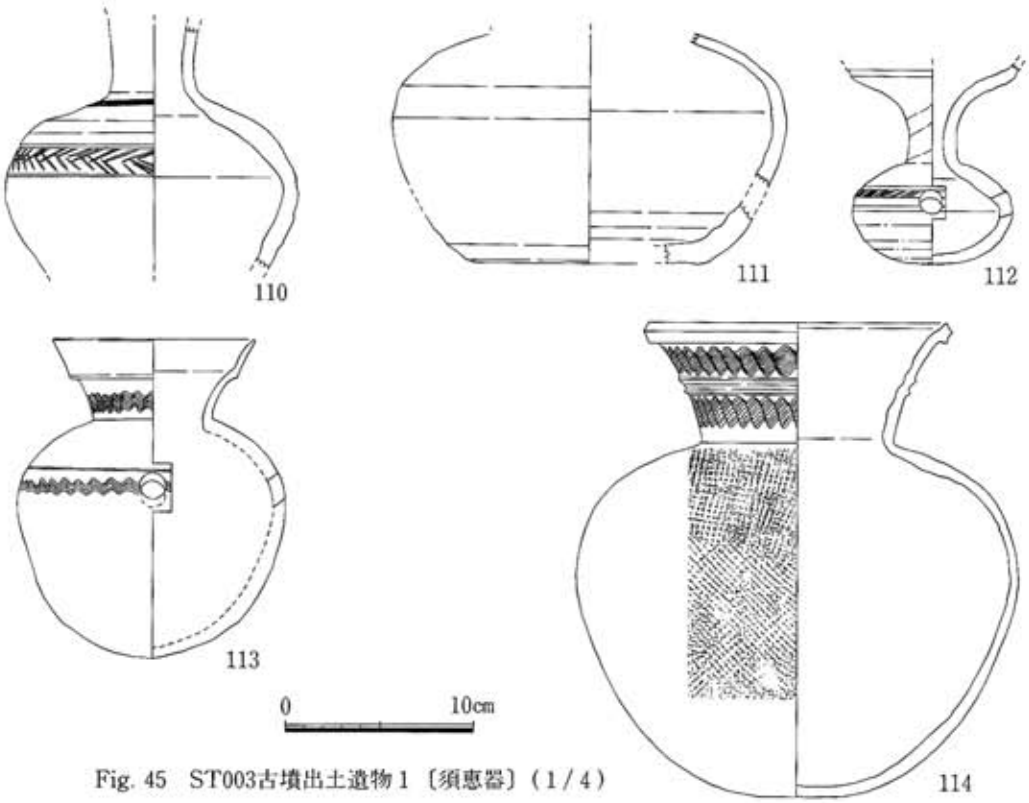


Fig. 45　ST003古墳出土遺物1〔須恵器〕(1/4)

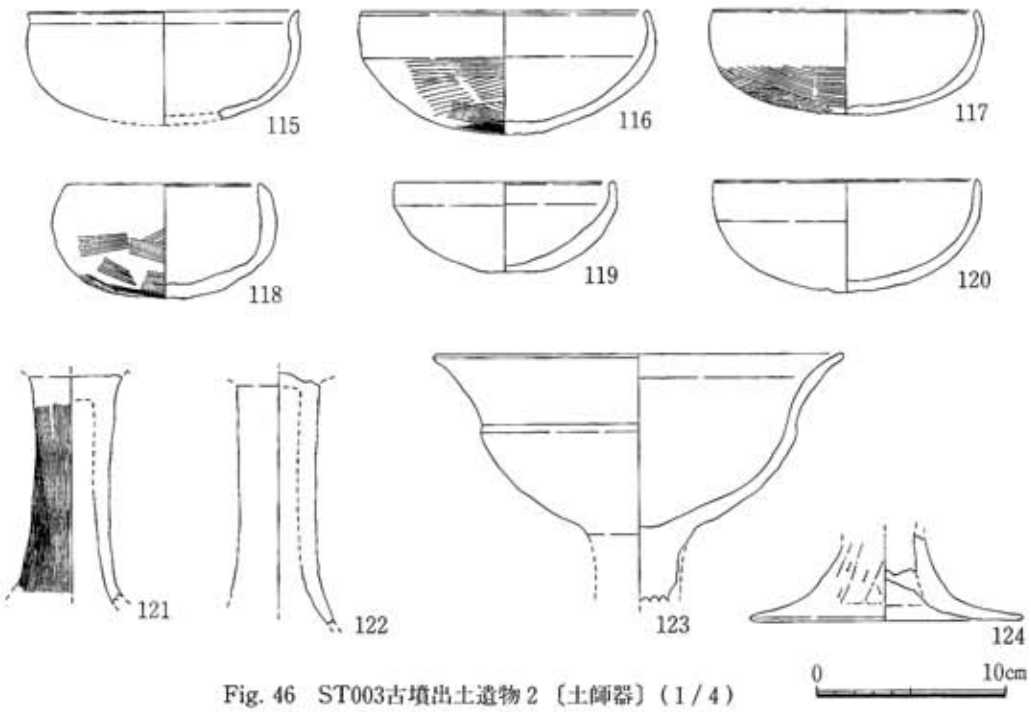


Fig. 46　ST003古墳出土遺物2〔土師器〕(1/4)

ST003古墳出土遺物（Fig. 45・46・47）

遺物は，全て周溝内からの出土であり，玄室からの出土はない。

須恵器は鼈(112)，平瓶(111)，長頸壺(110)，甕(113・114)が出土した。土師器は杯(115～120)，高杯(121～124)が出土した。鉄器類は，鉄鏃（125）が出土した。

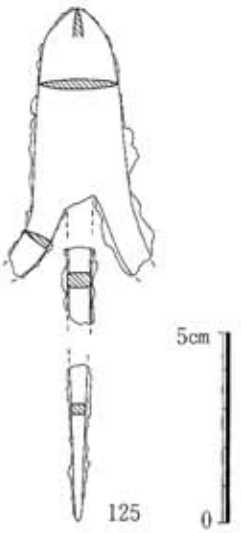


Fig. 47 ST003古墳出土遺物3〔鉄器〕（1/2）

ST004・005古墳出土遺物（Fig. 48）

遺物は，全て周溝内からの出土であり，玄室からの出土はない。

出土した遺物は全て土師器で杯（126～128）が出土した。

ST007古墳出土遺物（Fig. 49）

遺物は，玄室内埋土及び周溝内埋土から出土している。

出土した遺物は全て須恵器で杯蓋(129・130)，杯身(131)，高台付杯(132)，鼈(133)甕(134)が出土した。

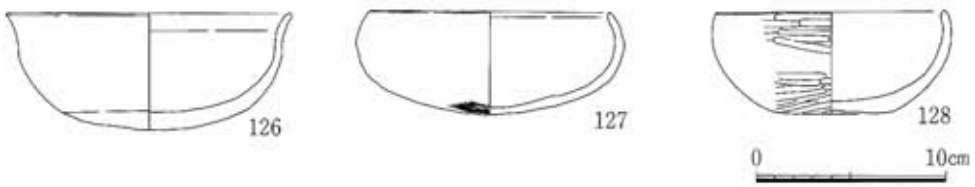


Fig. 48 ST005古墳出土遺物〔土師器〕（1/4）

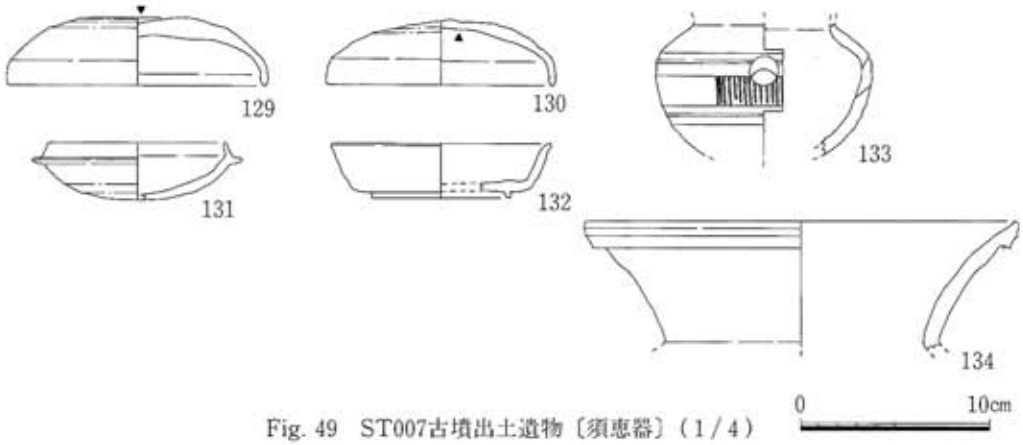


Fig. 49 ST007古墳出土遺物〔須恵器〕（1/4）

ST009古墳出土遺物 (Fig. 50・51)

遺物は，土器類が周溝内埋土，鉄器類が玄室内埋土からの出土である。

土器類は土師器壷（148），鉄器類は鉄鏃（135～147）が出土した。

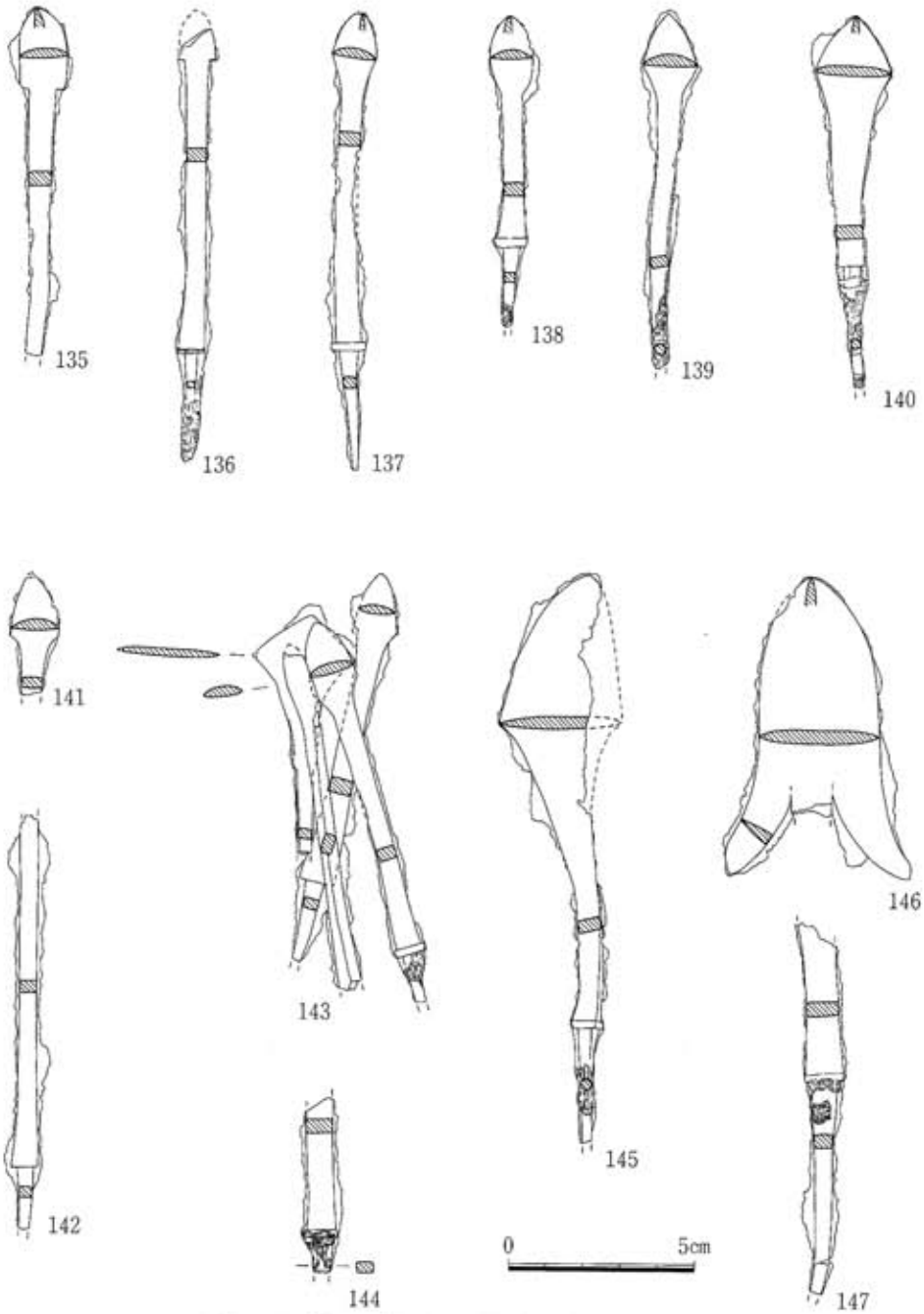


Fig. 50　ST009古墳出土遺物〔鉄器〕（1/2）

ST010古墳出土遺物 (Fig. 52)

遺物は，全て玄室内埋土からの出土である。

土器類は土師器壷 (149)，鉄器類は刀子 (150) が出土した。

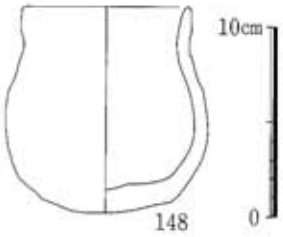


Fig. 51 ST009古墳出土遺物
〔土師器〕(1/4)

ST014古墳出土遺物 (Fig. 53)

遺物は，墳丘盛土内からの出土である。

出土した遺物は全て土師器で，壷 (151) が出土した。

ST015古墳出土遺物 (Fig. 54)

出土した遺物は，鉄鏃 (152) のみで玄室内埋土からの出土である。

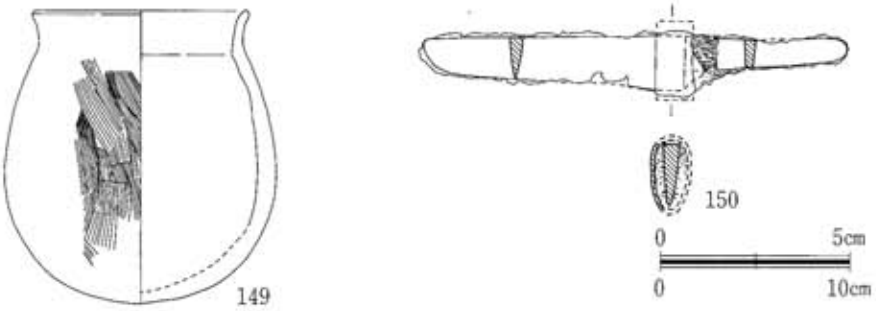


Fig. 52　ST010古墳出土遺物〔土師器・鉄器〕(149は1/4，150は1/2)

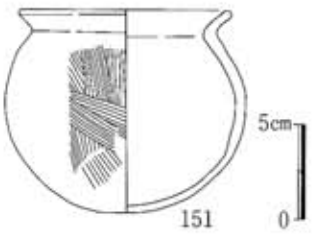


Fig. 53　ST014古墳出土遺物
〔土師器〕(1/4)

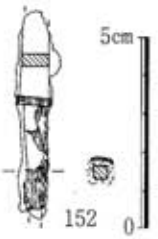


Fig. 54　ST015古墳出土遺物
〔鉄器〕(1/2)

ST016古墳出土遺物 (Fig. 57)

古墳の遺存状況が悪く，遺物の大半が二次的な影響を受けているものと考えられる。

須恵器は杯蓋(153～168)，杯身(169～181)，高杯(182～188)，甕(195)，平瓶(196)，提瓶(197)，壷蓋(189・190)，壷(191・192)，甕(193・194)，土師器は高杯(198～202)が出土した。

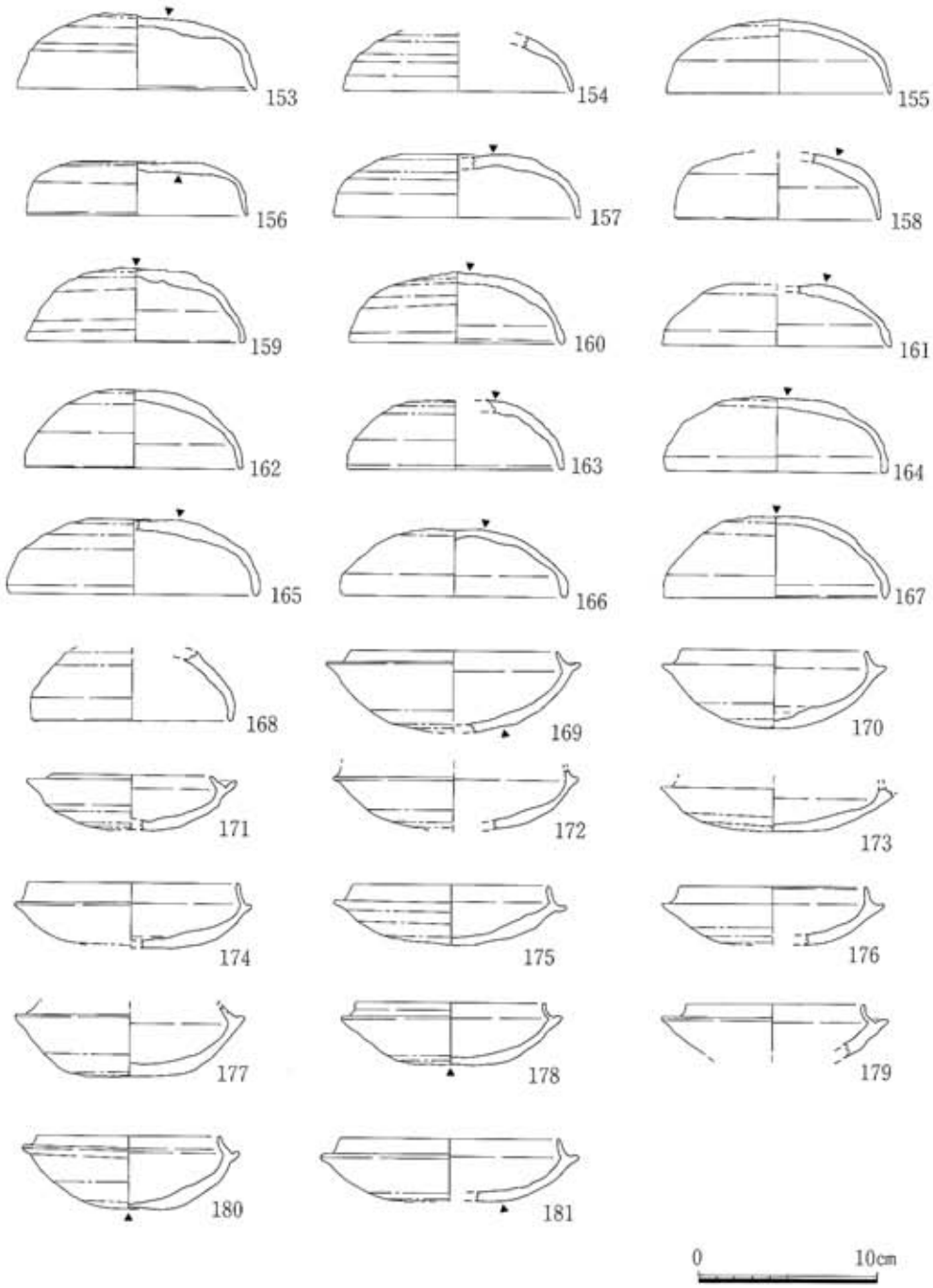


Fig. 55　ST016古墳出土遺物1〔須恵器〕(1/4)

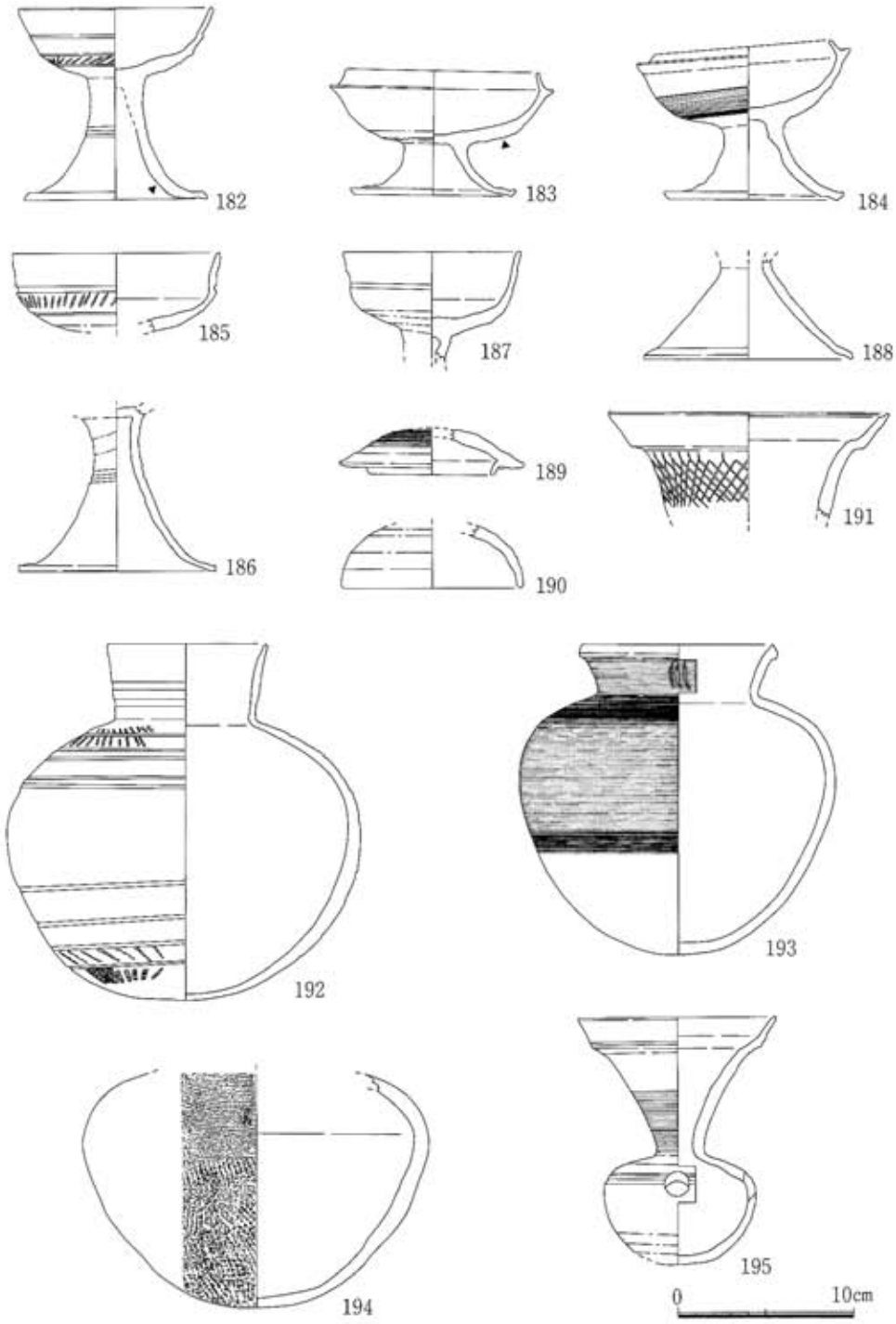


Fig. 56　ST016古墳出土遺物２〔須恵器〕（１/４）

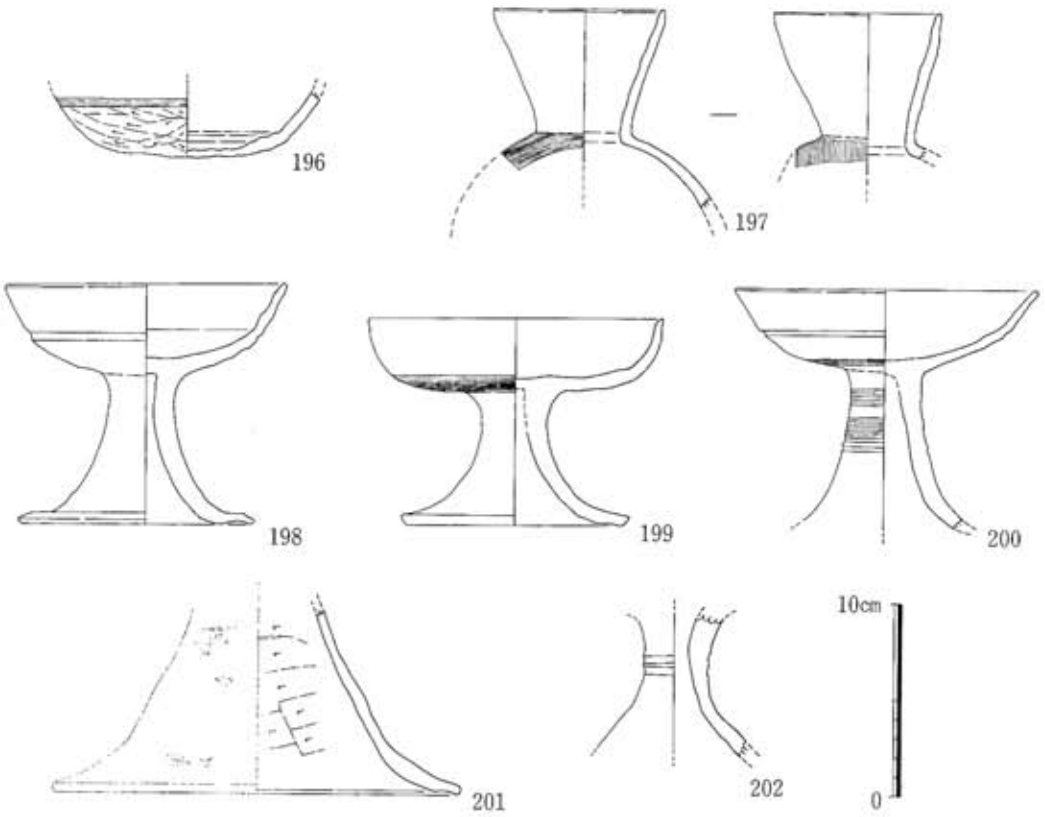


Fig. 57　ST016古墳出土遺物3〔須恵器・土師器〕(1/4)

ST020古墳出土遺物 (Fig. 58・59)

古墳の遺存状況が悪く，遺物の大半が二次的な影響を受けているものと考えられる。

須恵器は杯蓋(204～210・218)，杯身(211～215・217)，高杯(216)，壷蓋(221)，壷(222)，土師器蓋(219・220)，高台付杯(223)が出土した。その他，耳環(203)が出土した。

ST024古墳出土遺物 (Fig. 60)

出土した遺物は，土師器杯(224)のみで玄室内埋土から出土している。

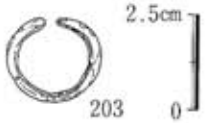


Fig. 58 ST020古墳出土遺物1
〔耳環〕(1/2)

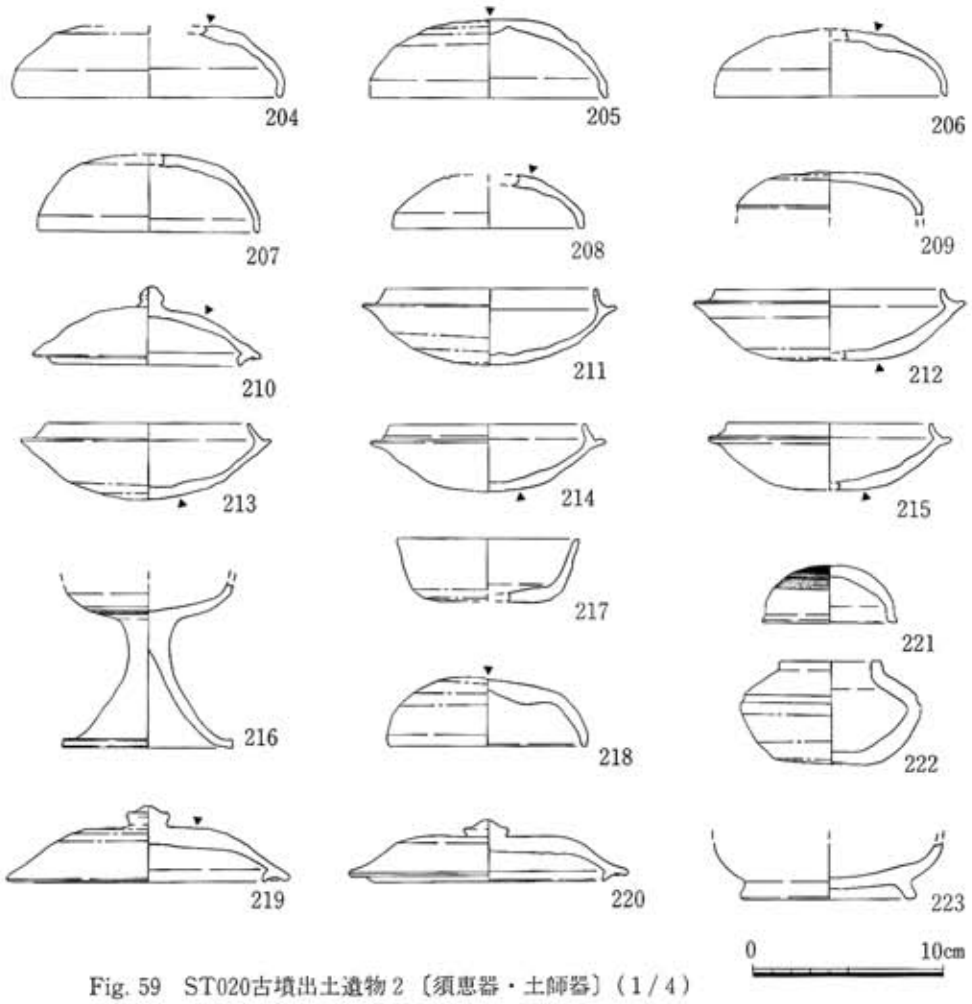


Fig. 59　ST020古墳出土遺物２〔須恵器・土師器〕（１/４）

Fig. 60　ST024古墳出土遺物〔土師器〕（１/４）

ST026古墳出土遺物（Fig. 61～67）

遺物は，大半が墓道からの出土である。

須恵器は杯蓋(225～241・281～284)，杯身(242～258・280・285・286)，高台付杯(259)，高杯(260～265・287～289)，壷蓋(266・278)，壷(267～270・273・279)，甕(271・272・274・275・290・291)，平瓶(276・277)，提瓶(292～294)，土師器は，高杯(295・296・298～305・309・311・312)，壷(307)，脚付壷(308)，甕(306・310)，提瓶(297)が出土した。鉄器類は鉄鏃(313)，耳環(314)，玉類(315～375)は勾玉(315・316)，切子玉(317)等が出土した。

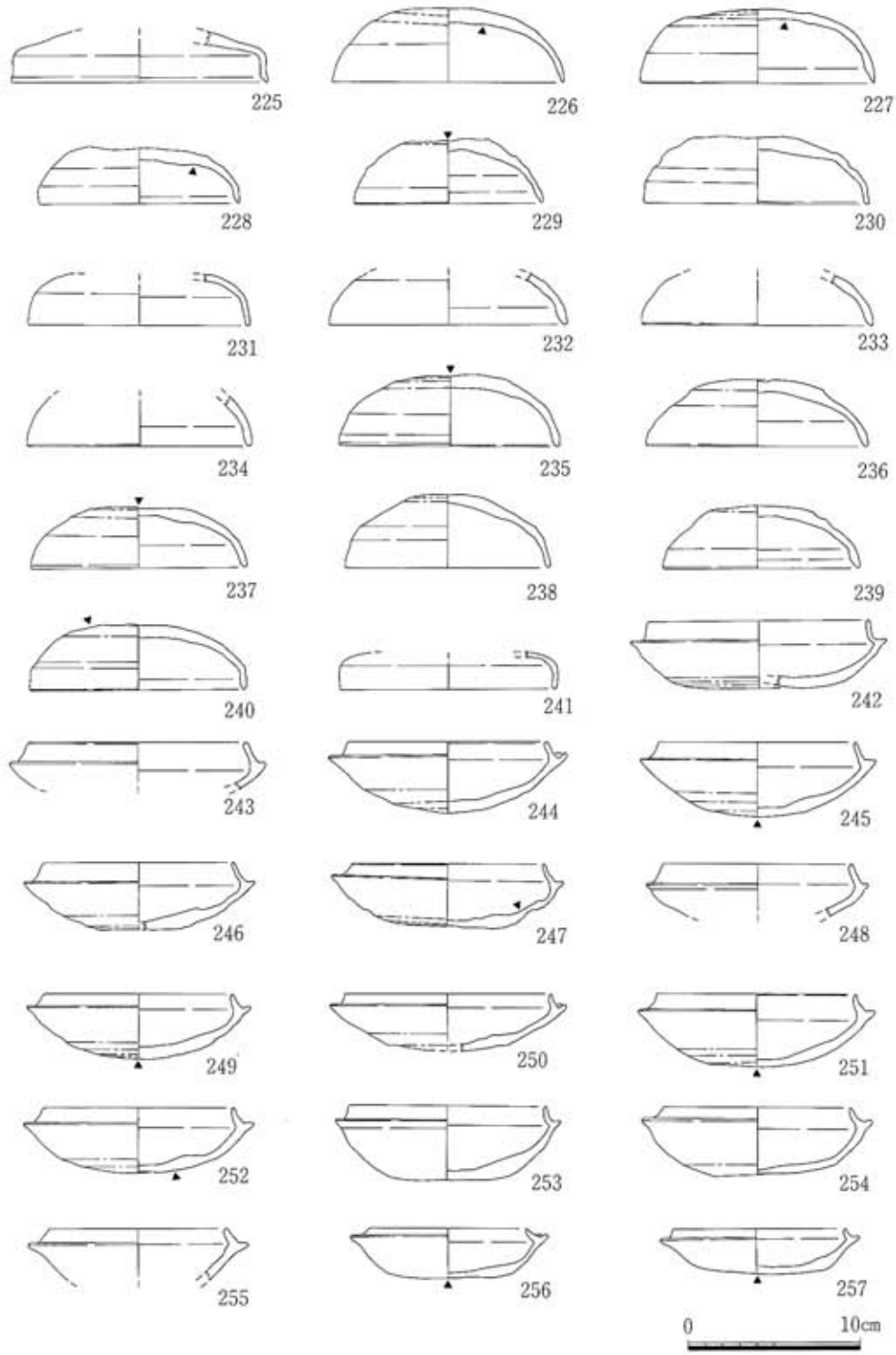


Fig. 61　ST026古墳出土遺物1〔須恵器〕(1/4)

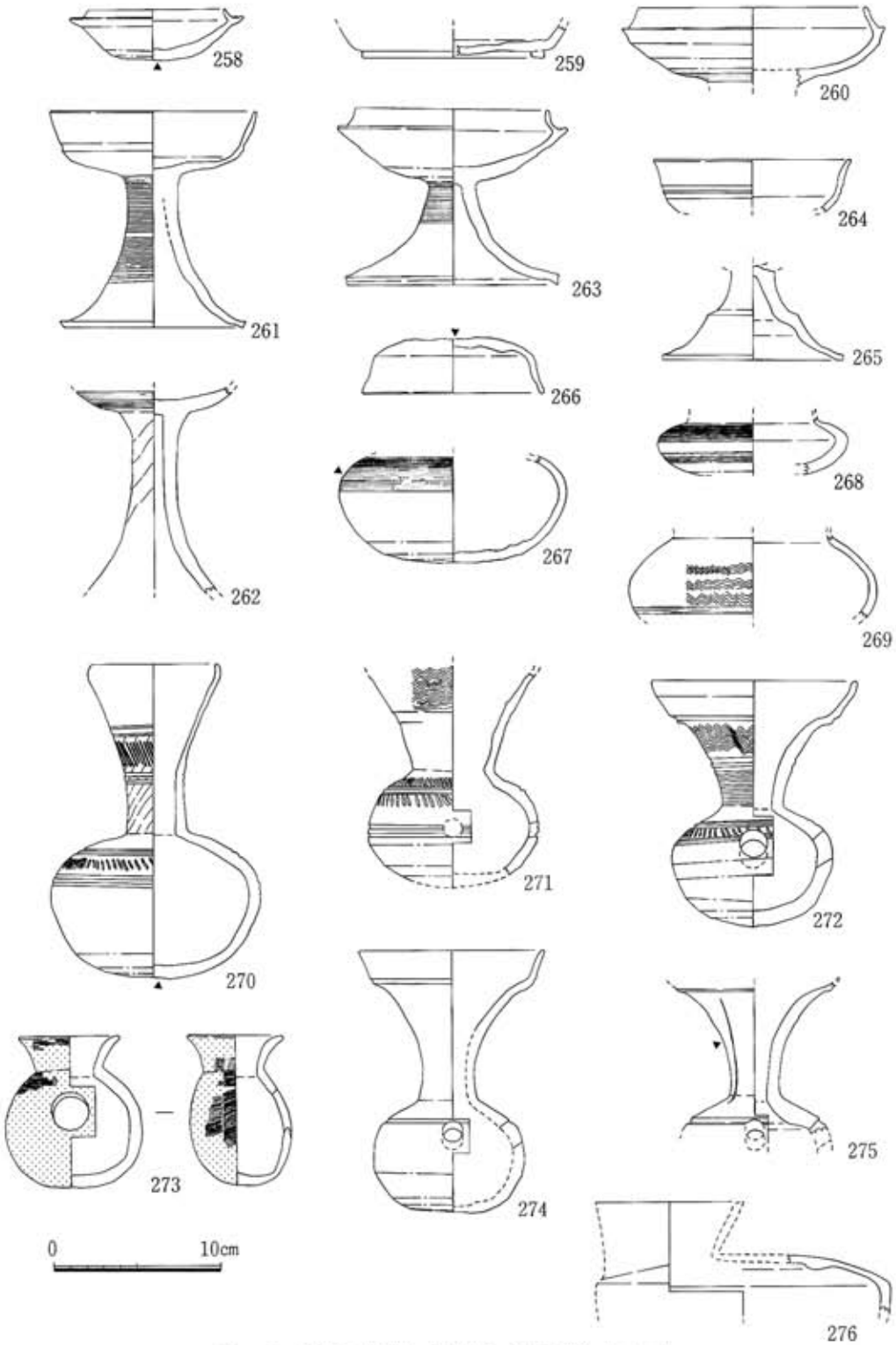


Fig. 62　ST026古墳出土遺物2〔須恵器〕(1/4)

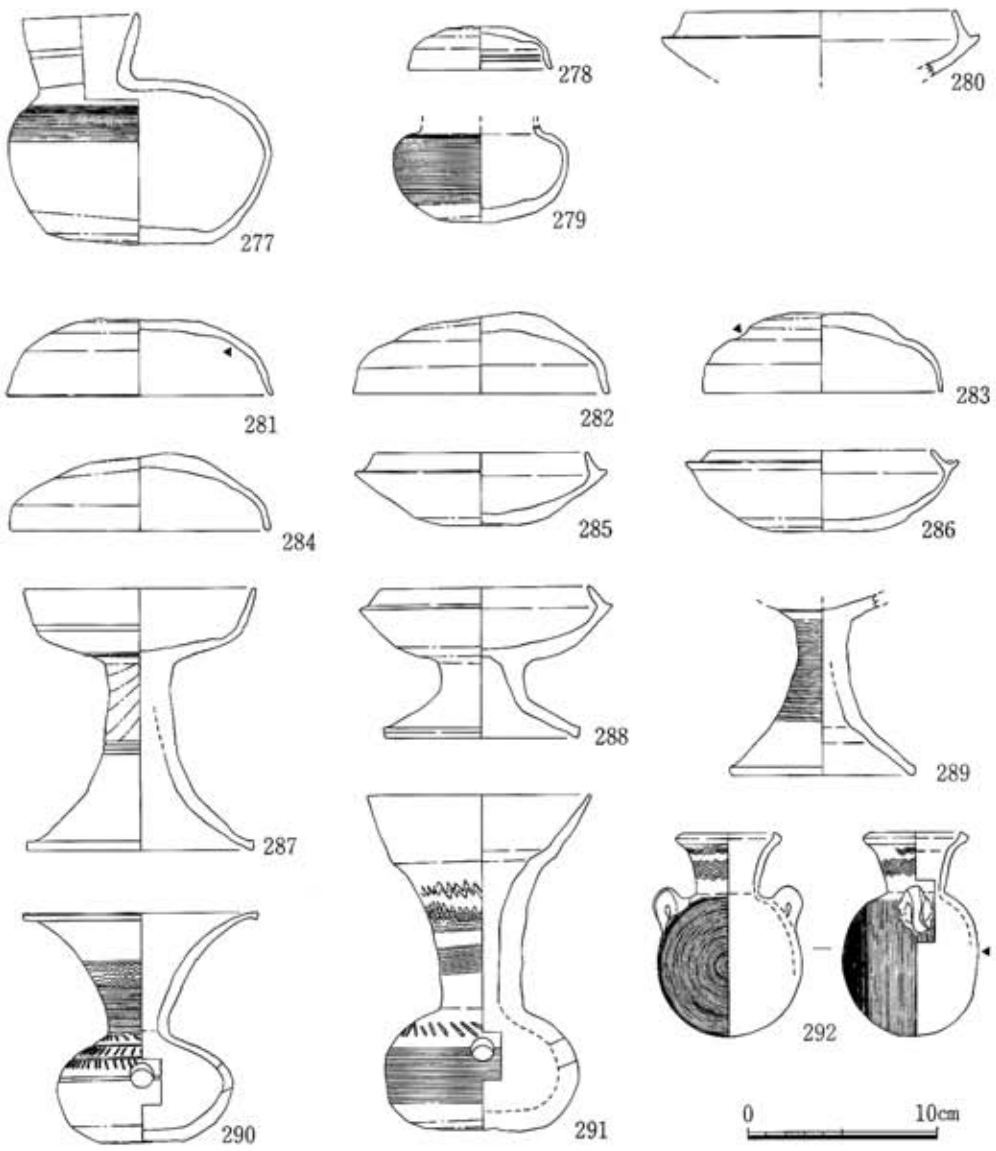
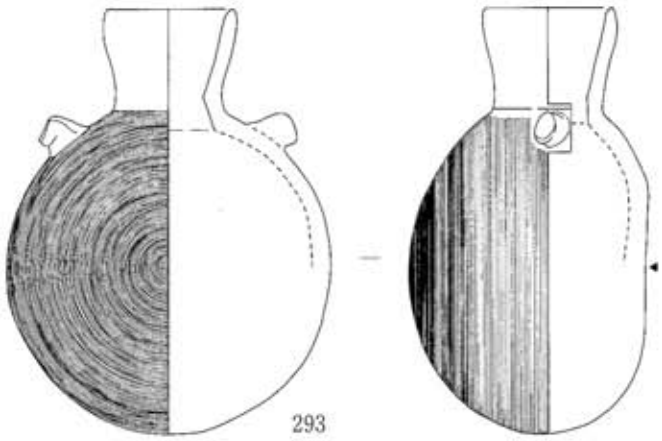


Fig. 63　ST026古墳出土遺物3〔須恵器〕(1/4)



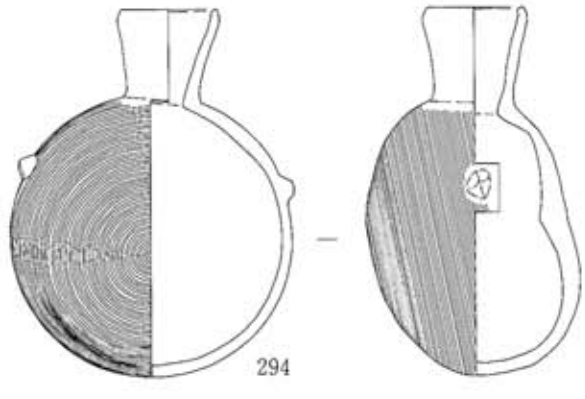


Fig. 64　ST026古墳出土遺物4〔須恵器〕(1/4)

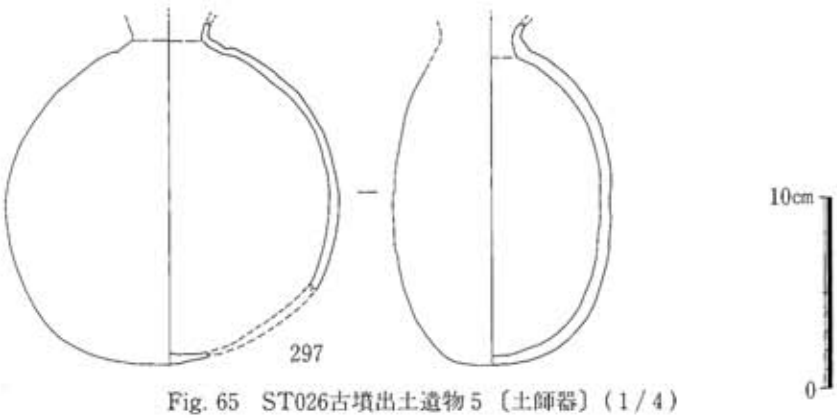


Fig. 65　ST026古墳出土遺物5〔土師器〕(1/4)

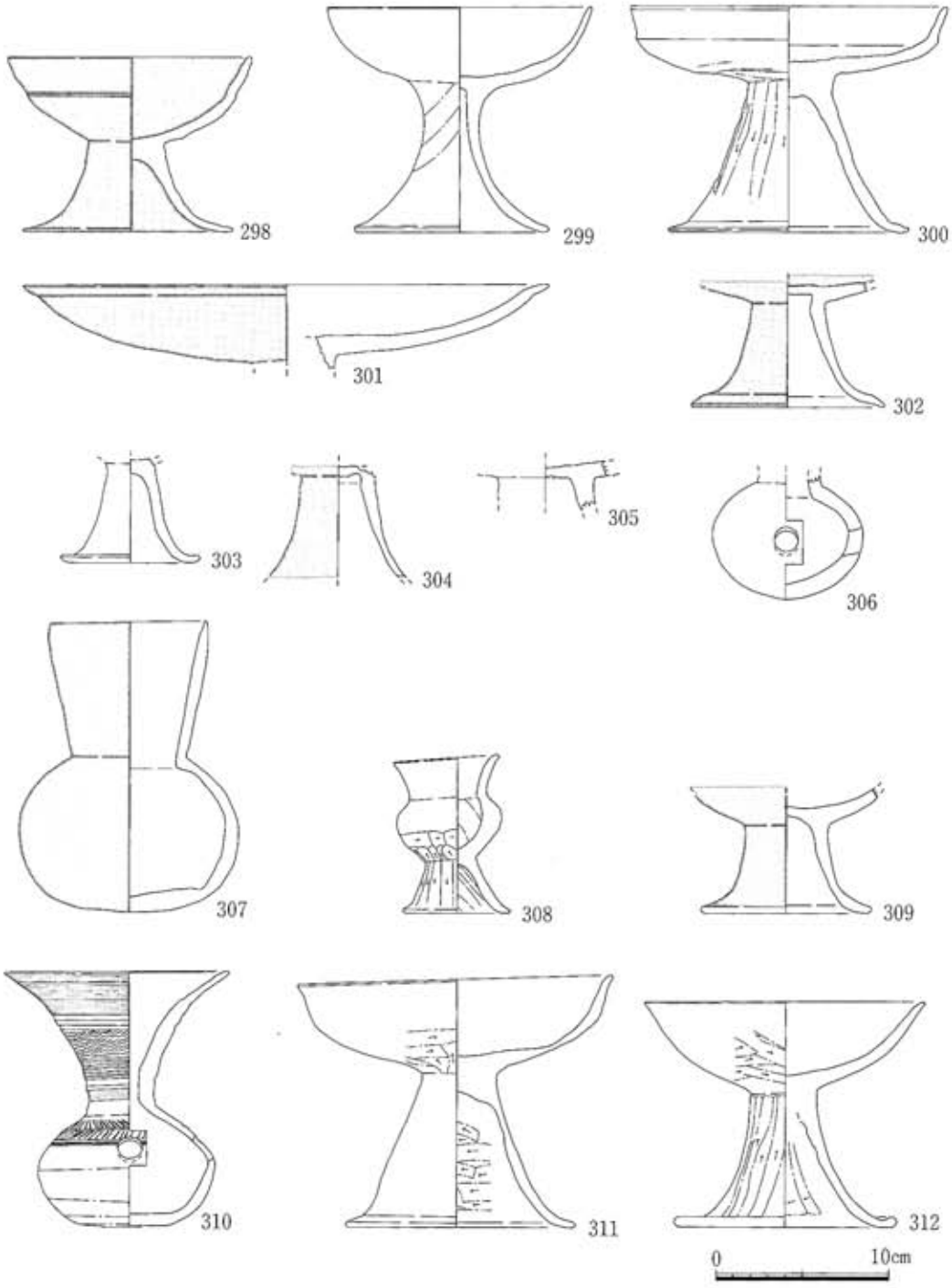


Fig. 66　ST026古墳出土遺物6〔土師器〕(1/4)

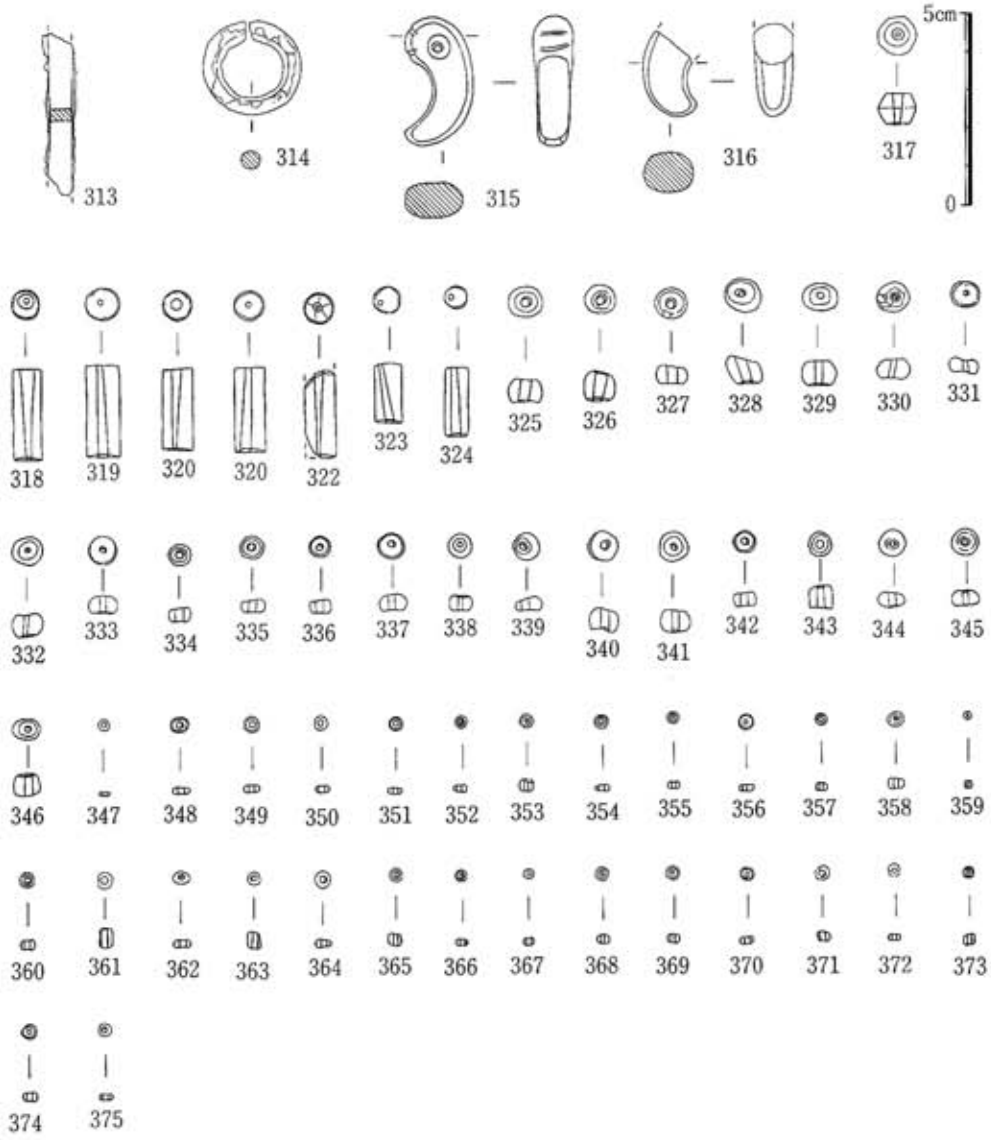


Fig. 67　ST026古墳出土遺物 7 〔鉄器・耳環・玉類〕(1/2)

ST027古墳出土遺物（Fig. 68～70）

遺物は，墓道および周溝内埋土から出土している。

須恵器は，杯蓋（376～377），杯身（378～381），高杯（382～384），甕（385），土師器は高杯（386），鉢（387），壷？（388）が出土した。鉄器類は鉄鏃（389～400），刀子（401～405），馬具類（407～413）が出土した。

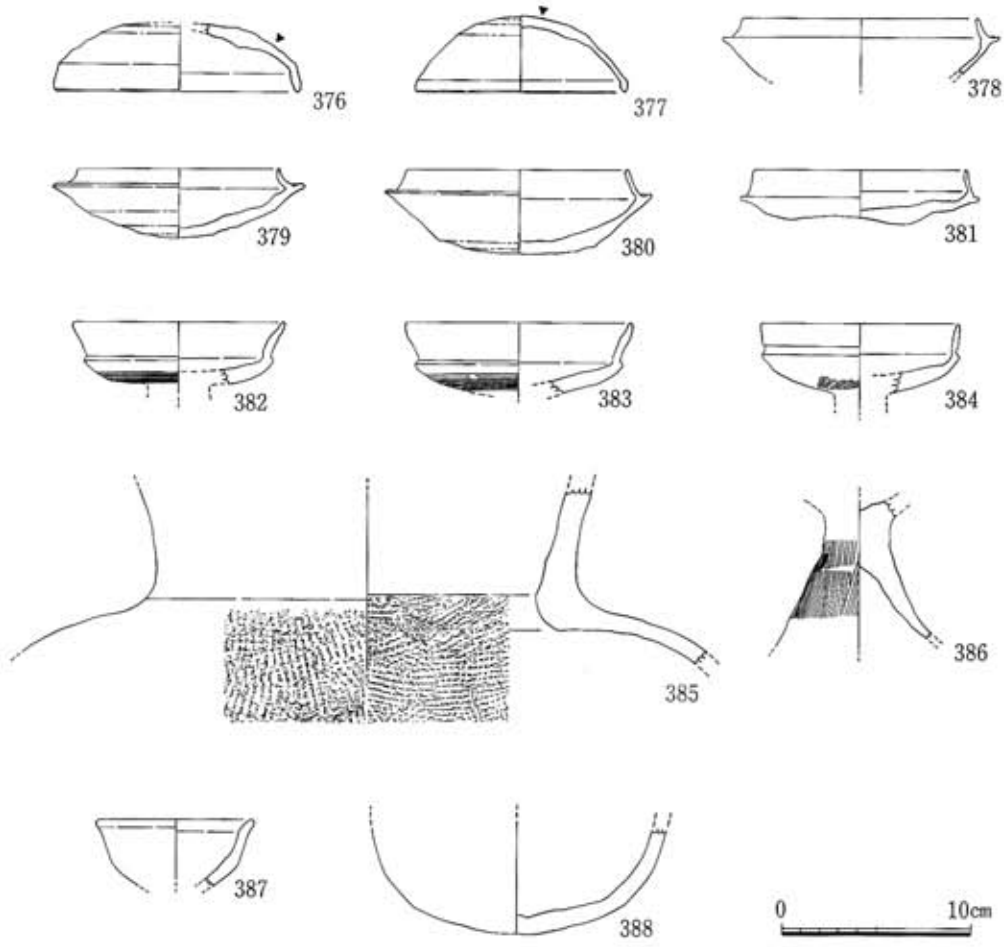


Fig. 68　ST027古墳出土遺物1〔須恵器・土師器〕（1/4）

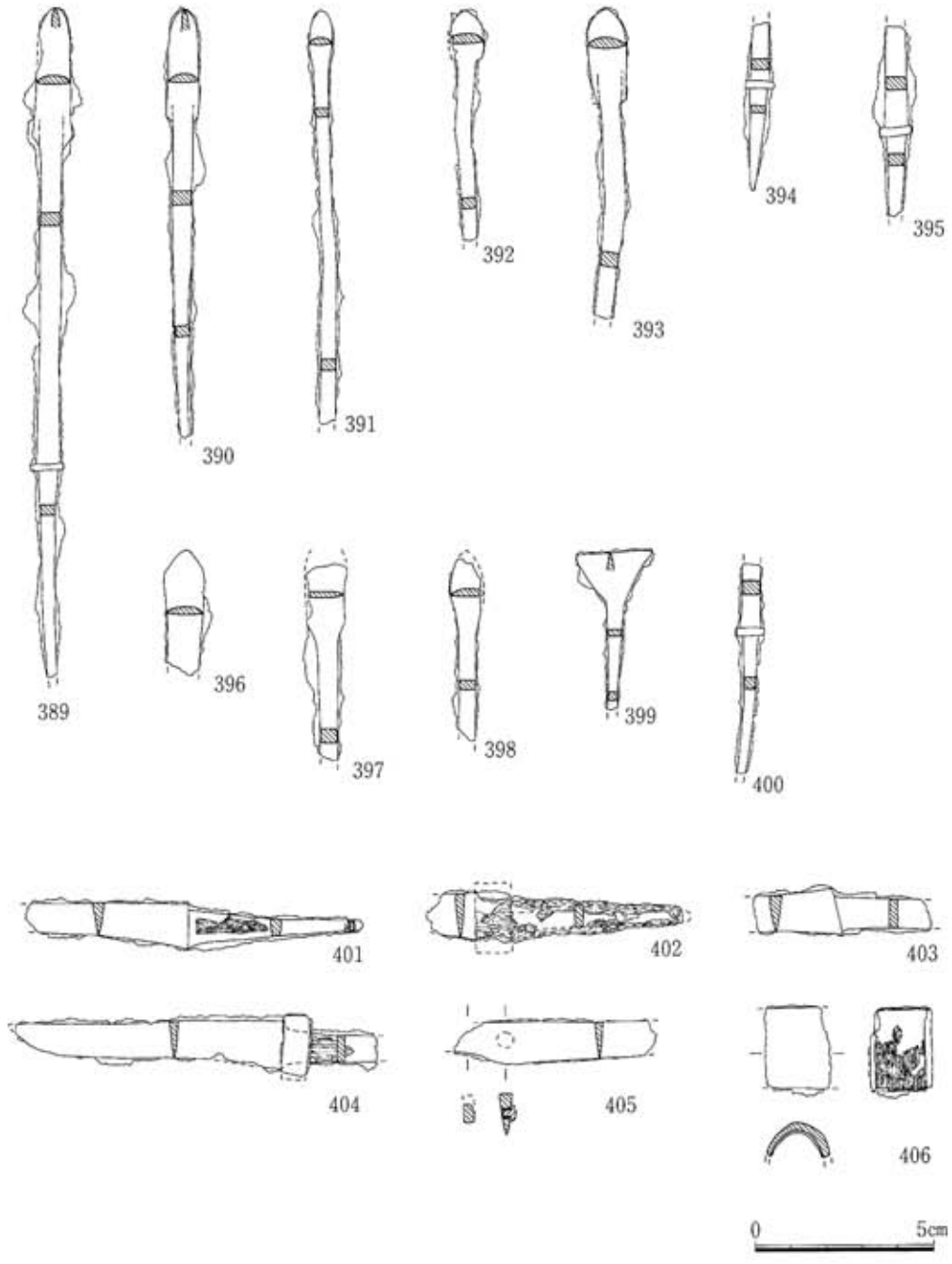


Fig. 69　ST027古墳出土遺物２〔鉄器〕（１/２）

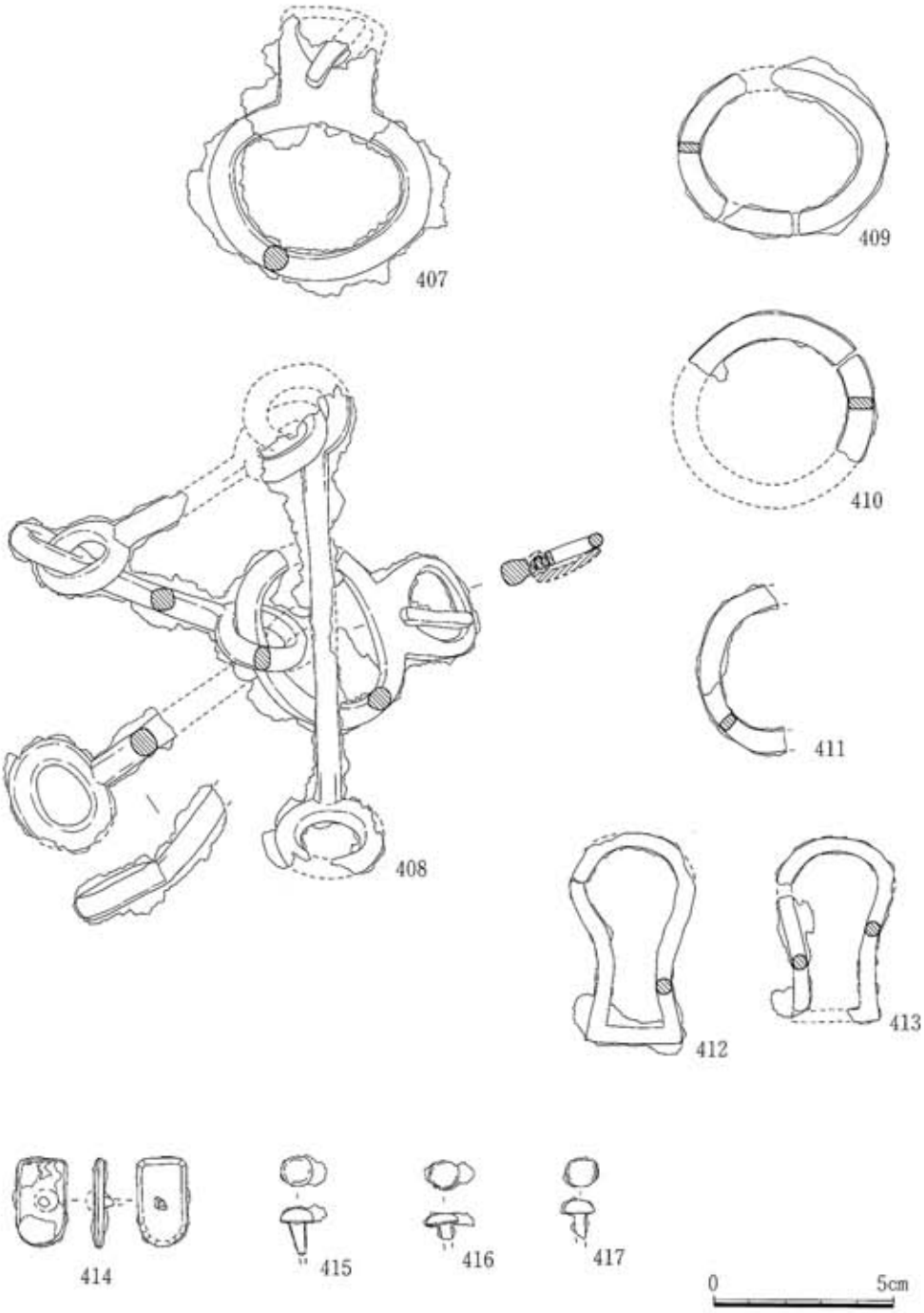


Fig. 70　ST027古墳出土遺物３〔鉄器〕（１/２）

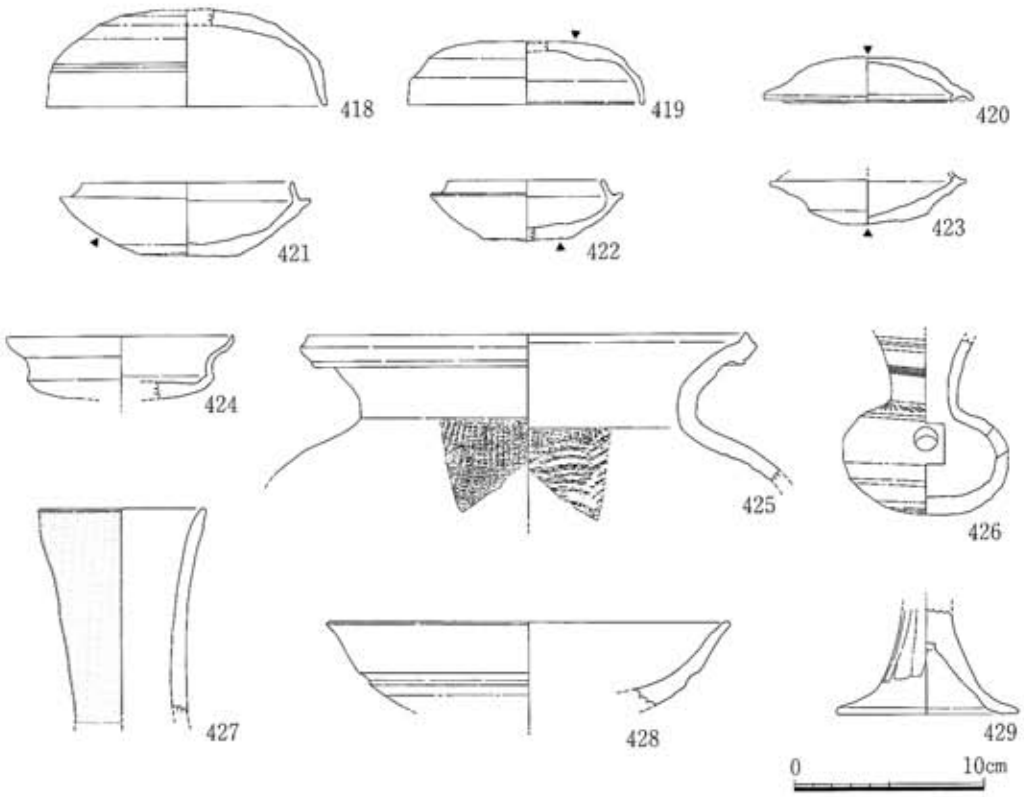


Fig. 71　SD017溝出土遺物〔須恵器・土師器〕(1/4)

(2) 溝出土遺物

SD017溝出土遺物 (Fig. 71)

遺物は，溝埋土の主に上層から出土している。

須恵器は杯蓋 (418～420)，杯身 (421～423)，高杯 (424)，甕 (426)，甕 (425)，壷 (427)，土師器は高杯 (428・429) が出土した。

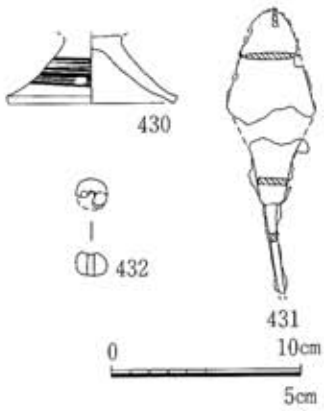


Fig. 72　SD018溝出土遺物
〔須恵器・鉄器・玉類〕
(430は1/4, 431・432は1/2)

SD018溝出土遺物 (Fig. 72)

遺物は，須恵器高杯 (430)，鉄鏃 (431)，玉類 (432) が出土した。

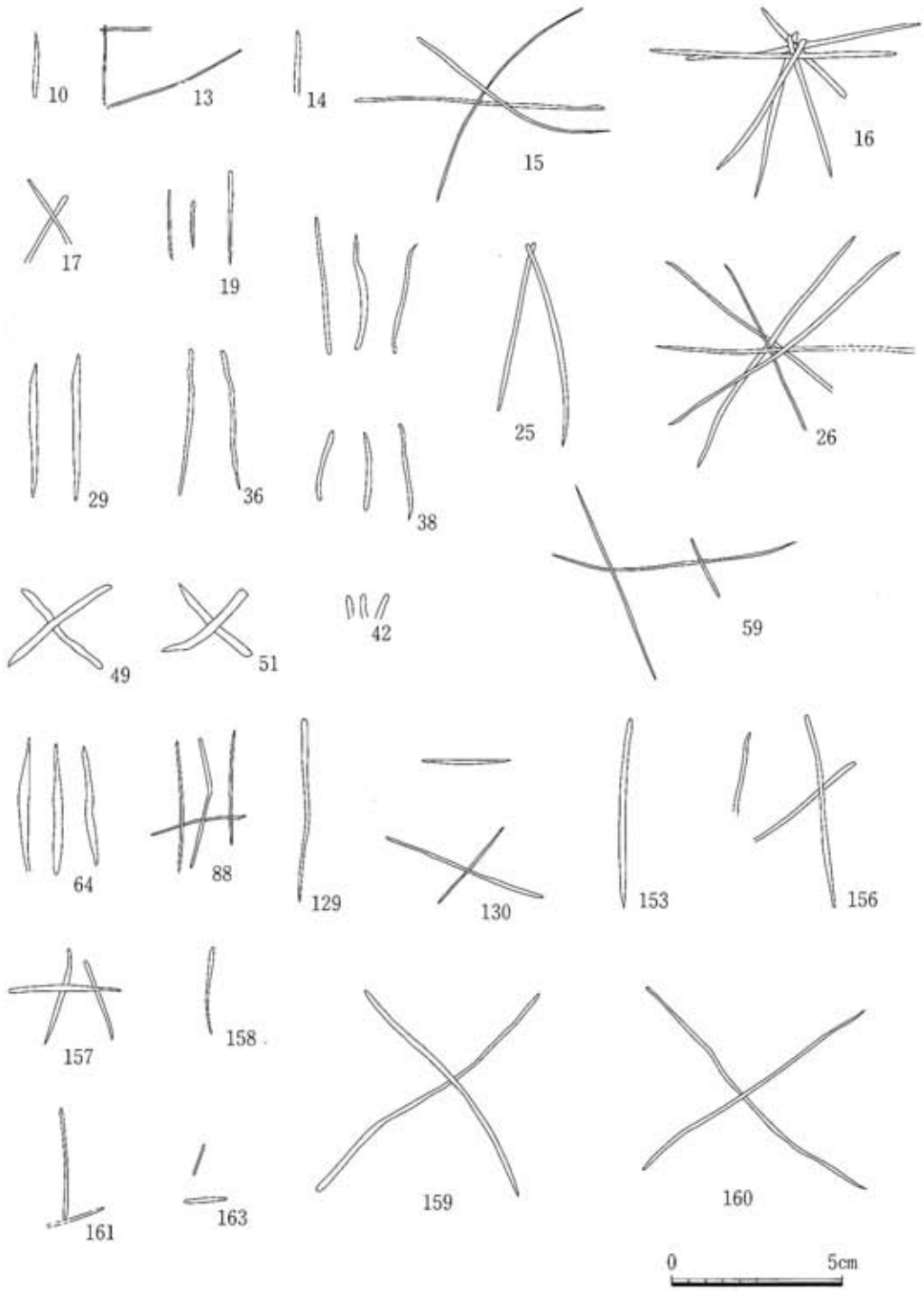


Fig. 73　ヘラ記号 1　(1/2)

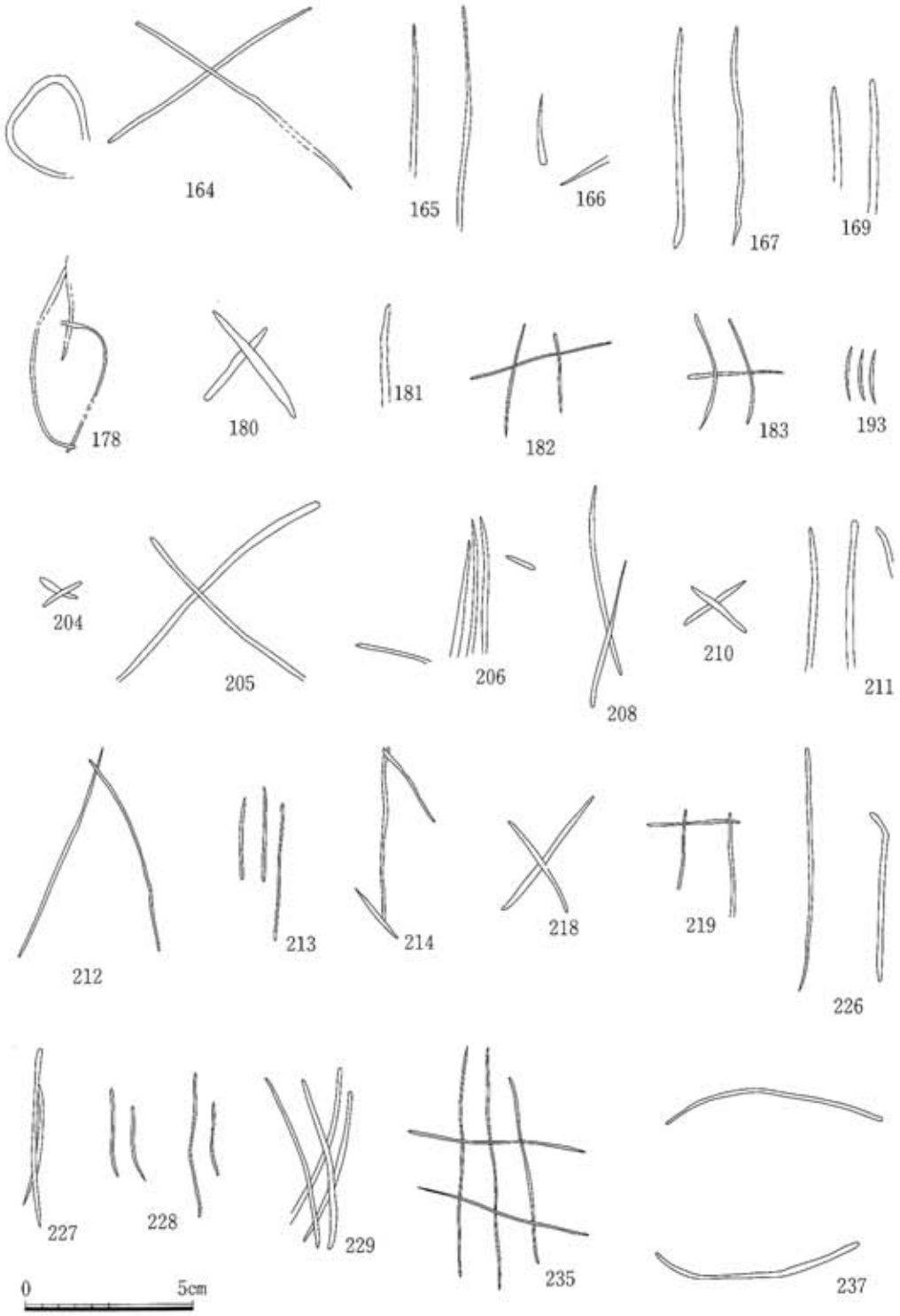


Fig. 74　ヘラ記号 2 （1 / 2）

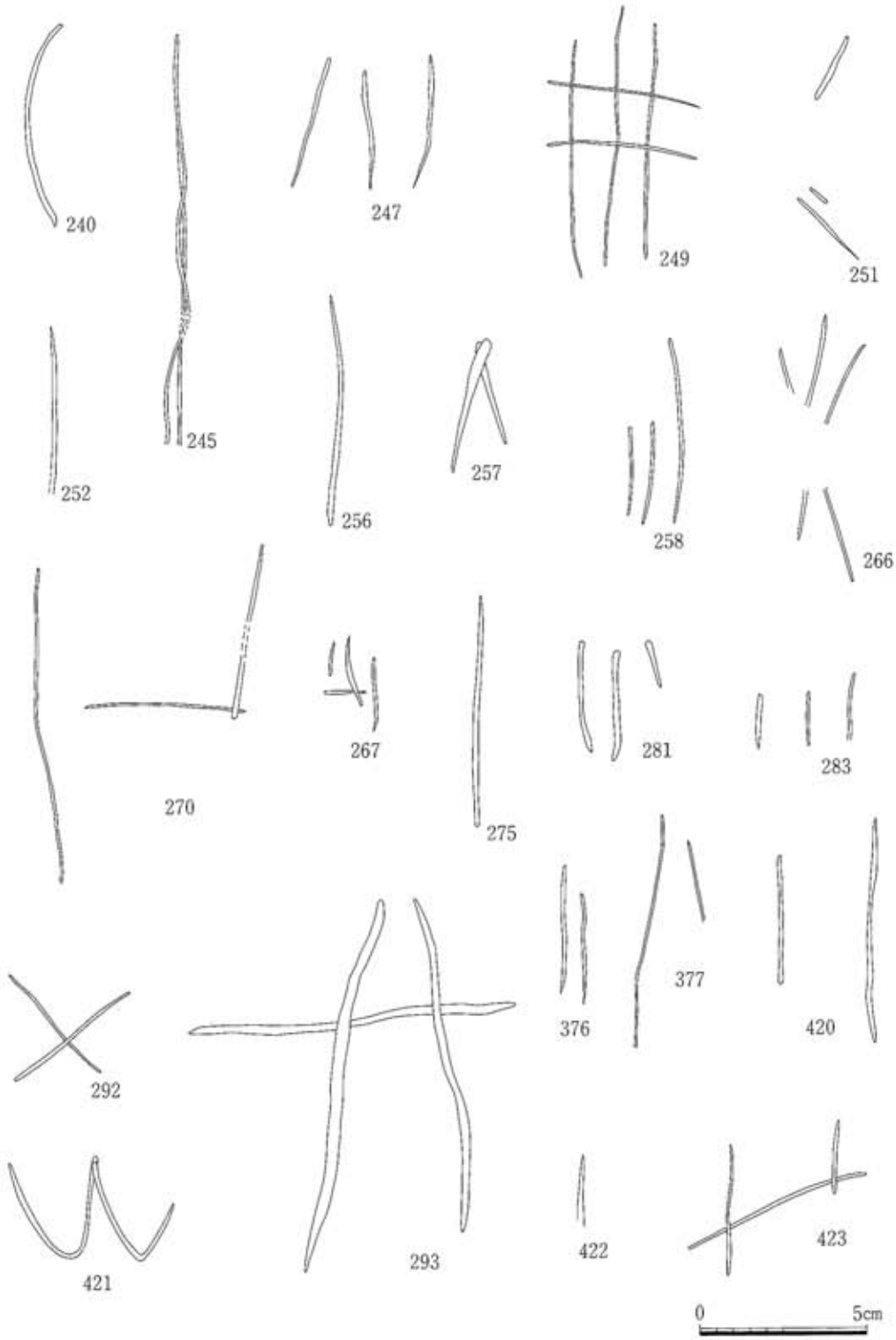


Fig. 75　ヘラ記号３（1/2）

Ⅳ 小　結

猿嶽C･D遺跡では総数22基の古墳を検出した。これら古墳群の内部主体の多くは，石棺系石室と竪穴系横口式石室である。全体的に遺存状況が悪く，判別の困難なものが多く存在しており，また，出土遺物も少なく課題が残るが，5世紀前半から6世紀中頃まで比較的継続して構築されたものと考えられる。殆どの古墳が大きく破壊を受けており，全体的に種々の要素を把握できたものは無く，特に石室のうちその上部構造の全体的把握が可能なものは極めて少ないために石室の形態分類，変遷過程等は詳細に検討していないが，これらは猿嶽古墳群中においてその初期的形成段階をよく示すものであり，多くの面において重要な位置を占めるものと考えられる。今後良好な類例の増加を待って検討を加えていきたい。

Tab. 3　古墳時代土師器・須恵器観察表

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	埋蔵物登録番号 写真登録番号
38 9	ST001 墓道	須恵器 杯蓋	復元口径：14.2 残存器高：3.1	天井部は，回転ヘラケズリを施す。 口唇部内面に沈線有り。	茶灰色	普通	87-11518 92-2038
10	ST001 墓道	須恵器 杯蓋	復元口径：13.1 残存器高：4.3	天井部から体部上半部にかけて，回転ヘラケズリを施す。 体部と口縁部の境および口唇部内面にかけて沈線を有す。 砂粒を含む。	灰白色	普通	87-11513 92-2036
11	ST001 墓道	須恵器 杯蓋	口径：12.85 器高：3.4	天井部から体部にかけて回転ヘラケズリを施す。 口唇部内面に沈線を有する。径3㎜前後の砂粒を含む。	黄灰色	良好	87-11343 92-2020
12	ST001 墓道	須恵器 杯蓋	復元口径：12.6 残存器高：3.5	天井部から体部上半部にかけて回転ヘラケズリを施す。 径2～3㎜の砂粒を多く含む。	灰色	良好	87-11344
13	ST001 墓道	須恵器 杯蓋	復元口径：13.0 器高：3.9	天井部はヘラ切離し後回転ヘラケズリを施す。 内面にヘラ記号有り。径1～2㎜の砂粒を含む。	灰色	普通	87-11639 92-2049
14	ST001 墓道	須恵器 杯蓋	復元口径：13.5 器高：3.5	天井部は回転ヘラケズリを施す。ヘラ記号有り。 砂粒を含む。	灰黒色	普通	87-11512 92-2035
15	ST001 墓道	須恵器 杯蓋	口径：12.55 器高：3.9	天井部は，回転ヘラケズリ後ナデ調整を施す。 ヘラ記号有り。砂粒をわずかに含む。	灰色	良好	87-11341 92-2018
16	ST001 墓道	須恵器 杯蓋	口径：12.5 器高：3.6	天井部は回転ヘラケズリを施し，ヘラ記号を有す。	灰色	良好	87-11342 92-2019
17	ST001 墓道	須恵器 杯身	復元口径：13.1 残存器高：4.1 立上り部高：1.3	底部は回転ヘラケズリ後ハケメ，内面にヘラ記号有り。	灰色	良好	87-11564 92-2047
18	ST001 墓道	須恵器 杯身	復元口径：12.8 器高：3.9 立上り部高：1.65	底部は回転ヘラケズリ。立上り部はほぼ垂直に立ちあがる。 1/4欠損。径1㎜前後の砂粒を含む。	灰白色	良好	87-11348 92-2023
19	ST001 墓道	須恵器 杯身	復元口径：12.9 器高：3.7 立上り部高：1.35	底部は回転ヘラケズリ。体部はユビナデ。胎土中に径1㎜程度の砂粒を多く含む。	内面： 灰白色 外面： 灰色	良好	87-11349 92-2024

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	県遺物登録番号 写真登録番号
38 20	ST001 墓道	須恵器 杯身	復元口径：10.1 残存器高：3.5 立入り部高：1.1	全体にナデ調整がみられる。 一部残存。	灰白色	普通	87-11531 92-2040
21	ST001 墓道	須恵器 杯身	口径：11.6 器高：3.6 立上り部高：0.8	底部～体部にかけて回転ヘラケズリ。1～3㎜の砂粒を含む。 1/2欠損。立ち上り部はほぼ垂直に立ち上がる。	内面： 灰色 外面： 灰白色	普通	87-11406 92-2030
22	ST001 墓道	須恵器 杯身	復元口径：11.5 残存器高：4.1 立上り部高：0.9	底部は回転ヘラケズリを施す。 一部欠損。	明灰色	普通	87-11542
23	ST001 墓道	須恵器 杯身	口径：11.4 器高：3.6 立上り部高：0.9	底部は回転ヘラケズリを施す。	茶褐色	普通	87-11543 92-2042
24	ST001 墓道	須恵器 杯身	口径：11.3 器高：3.6 立入り部高：0.85	底部は回転ヘラケズリを施す。	灰色	良好	87-11555 92-2046
25	ST001 墓道	須恵器 杯身	復元口径：11.2 器高：3.6 立上り部高：0.8	底部は回転ヘラケズリを施し，ヘラ記号有り。 砂粒を多く含む。	暗灰色	良好	87-11554 92-2045
26	ST001 墓道	須恵器 杯身	口径：11.4 器高：3.35 立上り部高：0.7	底部は回転ヘラケズリを施す。ヘラ記号有り。 径2～3㎜の砂粒を多く含む。 ※87-11524と接合。	内面： 灰色 外面： 灰白色	良好	87-11347 92-2015
27	ST001 墓道	須恵器 杯身	口径：11.5 器高：3.35 立入り部高：0.7	底部～体部下半部にかけて回転ヘラケズリ。 1/4欠損。径1～3㎜の砂粒を含む。	内面： 灰黄色 外面： 灰白色	良好	87-11346 92-2022
28	ST001 墓道	須恵器 杯身	復元口径：10.8 器高：3.7 立上り部高：0.7	底部は回転ヘラケズリを施す。砂粒を含む。	灰白色	普通	87-11541
29	ST001 墓道	須恵器 杯身	口径：11.25 器高：3.2 立上り部高：0.7	底部は回転ヘラケズリを施す。 底部から体部の一部にかけて，ヘラ記号有り。砂粒を多く含む。	灰色	良好	87-11553 92-2044
30	ST001 墓道	須恵器 杯身	口径：10.6 器高：3.95 立上り部高：0.5	全体にナデ調整がみられる。 底部にヘラ記号有り。	明灰色	良好	87-11567 92-2048
31	ST001 墓道	須恵器 杯身	口復元径：9.5 器残存高：3.0 立上り部高：0.5	底部はヘラ切り離し未調整。	黄灰色	良好	87-11551 92-2043
32	ST001 墓道	須恵器 高台杯	残存器高：3.7 復元高台径：10.1	杯底部ヘラケズリ。 径1～2㎜の砂粒を含む。	灰色	普通	87-11415
33	ST001 墓道	須恵器 高杯蓋	復元口径：12.6 器高：3.5	つまみ付き，天井部にカキメ。 口縁部は，やや内湾する。	灰白色	不良	87-11345 92-2021
34	ST001 墓道	須恵器 高杯	残存器高：2.2	杯底部～脚上位にかけてカキメ。 全体にヨコナデ。	灰褐色	良好	87-11552

掲図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	照遺物登録番号 写真登録番号
38 35	ST001 墓道	須恵器 高杯	残存器高：6.8	体部に2条の沈線および楕円文。 杯底部および脚部にカキメ，脚部に一段三方の透し。 径1～3㎜の砂粒を含む。	灰　色	普通	87-11418
36	ST001 墓道	高杯 須恵器	残存器高：1.9	杯底部のみ3/4残存。 ヘラケズリ，カキメ，ヘラ記号あり。	灰　色	普通	87-11643
37	ST001 墓道	高杯 須恵器	残存器高：11.1 脚裾部径：10.3	杯部欠損，脚部は長脚2段2方透し。 脚体部中央と脚裾部に各2条ずつの沈線。 径1㎜程度の砂粒を含む。	灰　色	良好	87-11550
39 38	ST001 墓道	須恵器 高杯	口径：12.0 器高：14.1 脚裾部径：11.0	杯部の口縁部と体部の境に沈線，杯底部にカキメ後櫛歯文。 脚中央部に3条の沈線，脚部にヘラ記号あり。 径2～3㎜の砂粒を含む。	灰　色	良好	87-11352 87-11416 92-2116
39	ST001 墓道	須恵器 高杯	復元口径：11.5 器高：10.6 脚裾部径：8.2	杯底部にカキメ，脚体部中央に沈線1条，上半分にシボリ痕。	灰　色	良好	87-11549 92-2117
40	ST001 墓道	須恵器 高杯	復元口径：11.8 器高：9.0 立上り高：1.3 脚裾部径：10.8	杯底部はヘラケズリ，脚部にシボリ痕，立上り部は内傾気味に立ち上がる。砂粒を含む。	灰褐色	良好	87-11556 92-2128
41	ST001 墓道	須恵器 甕	復元口径：11.2 器高：15.35	頸部に櫛描波状文，胴部に櫛歯文あり。底部から胴下半部にかけて回転ヘラケズリ。穿孔あり。	暗灰色	良好	87-11355
42	ST001 墓道	須恵器 甕	口径：12.2 残存器高：6.3	口縁部には櫛描波状文，沈線1条。 頸部には沈線2条とヘラ記号あり。 径1㎜前後の砂粒を多く含む。	内面： 灰　色 外面： 灰黒色	良好	87-11353
43	ST001 墓道	須恵器 壺	残存器高：8.2	口縁部～頸部欠損，胴部のほぼ全面にカキメ。 底部は，ヘラケズリ後カキメ，径1㎜前後の砂粒を含む。	灰褐色	良好	87-11354
44	ST001 墓道	須恵器 提瓶	残存器高：15.45	口縁部欠損。約1/4が残存する。径1～2㎜の砂粒を含む。	灰　色	良好	87-11356
45	ST001 墓道	須恵器 短頸壺	復元口径：14.9 器高：21.6	全体の約2/3が残存，胴部上半分はカキメ，下半分～底部にかけては，格子目文タタキ後カキメ，胴部内面下半分～底部は同心円文のタタキ。 砂粒を含む。	灰白色	良好	87-11559 92-2051
40 46	ST001 前庭部	須恵器 杯蓋	復元口径：14.4 残存器高：3.7	天井部は回転ヘラケズリを施す。体部と口縁部の境に沈線あり。口縁部は，外反気味に下方へ延びる。 砂粒を含む。	灰　色	普通	87-11514 92-2037
47	ST001 前庭部	須恵器 杯蓋	復元口径：11.5 残存器高：3.0	天井部は，欠損のため調整不明。体部上半部に回転ヘラケズリを施す。 体部と口縁部の境に沈線あり。砂粒を含む。 口縁部は外反気味に下方へ延びる。	灰黒色	普通	87-11515
48	ST001 前庭部	須恵器 杯蓋	口径：14.0 器高：4.0	天井部は，回転ヘラケズリを施す。 口唇部内面に沈線あり，径1～3㎜の砂粒を含む。	内面： 灰　色 外面： 灰褐色	普通	87-11410 92-2034
49	ST001 前庭部	須恵器 杯蓋	口径：13.3 器高：3.5	天井部は，回転ヘラケズリを施し，ヘラ記号あり。 口唇部内面に浅い沈線あり。 径1～4㎜の砂粒を多く含み，内面に気泡あり。	灰黒色	普通	87-11409 92-2033

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	遺物登録番号 写真登録番号
40 50	ST001 前庭部	須恵器 杯蓋	復元口径：13.6 残存器高：2.7	天井部欠損。ヨコナデを施す。 砂粒を含む。	内面： 茶灰色 外面： 灰白色	普通	87-11516
51	ST001 前庭部	須恵器 杯蓋	口径：13.0 器高：3.35	天井部は回転ヘラケズリを施し，ヘラ記号あり。 口唇部内面に浅い沈線あり。 径1～4㎜の砂粒を多く含む。気泡あり。	灰黒色	普通	87-11408 92-2032
52	ST001 前庭部	須恵器 杯蓋	復元口径：12.4 残存器高：3.1	天井部から，体部上半部を欠損。調整不明。 体部下半部は，回転ヘラケズリを施す。 口縁部はほぼ垂直に下方へ延びる。	灰褐色	普通	87-11540
53	ST001 前庭部	須恵器 杯蓋	復元口径：12.4 残存器高：3.5	全体にヨコナデを施す。砂粒を含む。	茶白色	普通	87-11563
54	ST001 前庭部	須恵器 杯蓋	復元口径：12.4 残存器高：3.0	全体にヨコナデを施す。砂粒を含む。	薄灰白色	普通	87-11544
55	ST001 前庭部	須恵器 杯蓋	復元口径：11.3 残存器高：3.0	全体にヨコナデを施す。径2㎜前後の砂粒を含む。	灰褐色	普通	87-11545
56	ST001 前庭部	須恵器 杯身	復元口径：14.4 残存器高：3.9 立上り部高：1.6	底部欠損（一部残）－体部下半部に回転ヘラケズリ。 立上り部はやや内傾して立上がる。	灰白色	普通	87-11528
57	ST001 前庭部	須恵器 杯身	復元口径：13.0 残存器高：2.5 立上り部高：1.2	体部下半分～底部にかけて欠損。受け部に沈線？ 立上り部は内傾気味に立上がる。	灰白色	普通	87-11525
58	ST001 前庭部	須恵器 杯身	口径：12.0 器高：4.9 立上り部高：1.1	底部～体部下半分にかけて回転ヘラケズリ。 立上り部は内傾気味に立上がる。 径1～5㎜の砂粒を含む。	灰　色	普通	87-11402
59	ST001 前庭部	須恵器 杯身	口径：11.2 器高：4.0 立上り部高：1.0	底部～体部にかけて回転ヘラケズリ，内面にヘラ記号あり。 立上り部は，やや内傾する。内傾気味に立上がる。 径1～3㎜の砂粒を含む。	灰　色	普通	87-11401 92-2025
60	ST001 前庭部	須恵器 杯身	口径：11.3 器高：3.9 立上り部高：1.0	底部は回転ヘラケズリ。受け部に沈線？ 立上り部は内傾して，垂直に立ち上る。 径1～3㎜の砂粒を含む。	灰白色	普通	87-11403 92-2027
61	ST001 前庭部	須恵器 杯身	口径：11.8 器高：3.9 立上り部高：0.9	底部～体部下半分にかけて回転ヘラケズリ。 立上り部は，ほぼ垂直に立ち上る。 径1～3㎜の砂粒を含む。	灰褐色	普通	87-11404 92-2028
62	ST001 前庭部	須恵器 杯身	口径：11.8 器高：4.3 立上り部高：0.8	底部は回転ヘラケズリ（一体部下半分），受け部に沈線？ 立上り部は内傾気味に立ち上る。 径1～3㎜の砂粒を含む。	灰褐色	普通	87-11405 92-2029
63	ST001 前庭部	須恵器 杯身	復元口径：13.3 残存器高：2.5 立上り部高：1.4	底部欠損。立上り部はほぼ垂直。 全体にヨコナデ。	灰黒色	普通	87-11527
64	ST001 前庭部	須恵器 杯身	口径：10.3 器高：3.8 立上り部高：0.75	底部～体部下半分にかけて回転ヘラケズリ。 体部にヘラ記号あり。焼成時の熱により歪み。（熱変形） 径1～3㎜の砂粒を含む。完形品。	灰　色	普通	87-11407 92-2031
65	ST001 前庭部	須恵器 杯身	復元口径：12.4 残存器高：2.7 立上り部高：1.1	底部欠損。受け部に沈線？ 立上り部は，内傾気味に立ち上る。	灰　色	普通	87-11522

遺構番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	原色物登録番号 写真登録番号
40 66	ST001 前庭部	須恵器 杯身	復元口径：11.8 残存器高：3.0 立上り部高：1.0	底部欠損。 立上り部はやや内傾する。	灰黒色	普通	87-11521
67	ST001 前庭部	須恵器 杯身	復元口径：11.8 残存器高：2.2 立上り部高：1.0	底部欠損，全体にナデ及びヨコナデ。 立上り部は内傾後に立ち上る。	灰　色	普通	87-11538
68	ST001 前庭部	須恵器 杯身	復元口径：11.4 残存器高：2.5 立上り部高：0.9	底部は回転ヘラケズリ。体部外面～内面にかけてヨコナデ。 立上り部は垂直に立ち上る。	茶灰色	普通	87-11519 92-2039
69	ST001 前庭部	須恵器 杯身	復元口径：10.7 残存器高：2.5 立上り部高：1.1	底部欠損。全体にヨコナデ。 立上り部は，内傾後垂直に立ち上る。	灰　色	普通	87-11526
70	ST001 前庭部	須恵器 杯身	復元口径：10.6 残存器高：2.5 立上り部高：0.9	底部欠損。全体にヨコナデ。 立上り部は，ほぼ垂直に立ち上る。	茶灰色	普通	87-11536
71	ST001 前庭部	須恵器 杯身	復元口径：12.3 残存器高：2.0 立上り部高：0.7	底部欠損。全体にヨコナデ。受け部に沈線？ 立上り部はやや内傾する。	灰白色	普通	87-11520
72	ST001 前庭部	須恵器 杯身	復元口径：10.8 残存器高：2.4 立上り部高：0.8	底部欠損。全体にヨコナデ。受け部に沈線？あり。 立上り部は内傾する。	灰褐色	普通	87-11537
73	ST001 前庭部	須恵器 杯身	復元口径：11.6 残存器高：2.6 立上り部高：0.8	底部欠損。全体にヨコナデ。 立上り部は内傾して立ち上る。	灰　色	普通	87-11530
74	ST001 前庭部	須恵器 杯身	復元口径：10.3 残存器高：2.3 立上り部高：0.3	立上り部は内傾して外反する。	茶灰色	普通	87-11535
75	ST001 前庭部	須恵器 杯身	復元口径：9.05 残存器高：1.2 立上り部高：0.5	体部外面～内面にかけてヨコナデ。 立上り部は，内傾する。	灰茶色	普通	87-11523
41 76	ST001 前庭部	須恵器 高杯	復元口径：11.7 器高：7.0 立上り部高：0.95 脚底部径：8.9	完形であるが，焼成時の熱による歪み大。 胎土中に径１～３㎜の砂粒を含む。	灰褐色	普通	87-11411 92-2125
77	ST001 前庭部	須恵器 高杯	復元口径：11.5 器高：8.65 立上り部高：0.75 脚底部径：10.65	杯部下半分および脚中央部にカキメ。 立上り部は，内傾後立ち上る。 径２～３㎜の砂粒を含む。	灰　色	良好	87-11351 92-2142
78	ST001 前庭部	須恵器 高杯	口径：11.9 器高：9.25 立上り部高：1.0 脚底部径：11.3	杯底部ヘラケズリ，脚頚部にカキメ。 立上り部は内傾後垂直に立ち上る。 径１－５㎜の砂粒を含む。	灰黒色 灰白色	普通	87-11413 92-2127
79	ST001 前庭部	須恵器 高杯	口径：11.7 器高：9.5 立上り部高：0.95 脚底部径：9.9	杯底部ヘラケズリ，脚部は焼成時の熱による歪み大。 立上り部は，内傾後垂直に立ち上る。 径１－３㎜の砂粒を含む。	灰　色	普通	87-11412 92-2126

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	原図物登録番号 写真登録番号
41 80	ST001 前庭部	須恵器 高杯	残存器高：4.5 脚裾部径：8.9	杯体部ヘラケズリ，底部カキメ。 杯部内面および脚部内外面ヨコナデ。	灰茶色	良好	87-11350
81	ST001 前庭部	須恵器 高杯	復元口径：9.5 残存器高：2.7	脚部欠損。体部に沈線。 口縁部は外反しながら上方へのびる。	灰　色	普通	87-11539 92-2041
82	ST001 前庭部	須恵器 高杯	復元口径：11.0 残存器高：2.9	全体ヨコナデ，脚部欠損。底部内面にヘラ記号あり。 口縁部は外反しながら上方へのびる。 径2㎜前後の砂粒を含む。	明灰色	良好	87-11546
83	ST001 前庭部	須恵器 甕	復元口径：13.1 残存器高：10.5 胴部最大径：9.5	頸部欠損。口縁部には1条の沈線頸部は1条の沈線と2帯の櫛描波状文。胴部全体にカキメ，（底部欠損）頸部と胴部の境には，カキメ後櫛歯列点文。	灰　色	良好	87-11548
84	ST001 前庭部	須恵器 短頸壺	復元口径：8.0 残存器高：3.7	胴部下半分～底部にかけて欠損。胴部カキメ。 口縁～頸部外面，胴部内面ヨコナデ。 径1㎜程度の砂粒を含む。	灰　色	良好	87-11547
85	ST001 前庭部	須恵器 提瓶	口径：6.4 器高：12.5	口縁部はやや外反して上方に延びる。口縁部はカキメと櫛描波状文を2度施す。 体部全面にカキメを施し，焼成後中央部を抉ぬく。	灰黒色	普通	87-11414 92-2115
86	ST001 前庭部	須恵器 提瓶	口径：6.4 器高：19.9	口縁部には，2条の沈線および櫛描波状文。 把手の一方は，欠損。体部前面にカキメ。 径1～2㎜の砂粒をわずかに含む。	灰黒色	普通	87-11644 92-2118
87	ST001 墳丘	須恵器 杯蓋	口径：14.6 器高：4.2	天井部は回転ヘラケズリを施す。 口唇部に浅い沈線をもつ。砂粒を含む。	内面： 薄茶色 外面： 灰白色	普通	87-11208 92-2016
88	ST001 墳丘	須恵器 杯蓋	―― 残存器高：2.9	回転ヘラケズリ。口縁部欠損。 頂部にヘラ記号あり。径1－3㎜の砂粒を含む。	内面： 赤茶色 外面： 薄茶色	普通	87-11221
89	ST001 墳丘	須恵器 杯身	復元口径：13.3 残存器高：2.2 立上り部高：1.0	口縁部のみ残存。胎土中にわずかに砂粒を含む。	灰白色	普通	87-11534
90	ST001 墳丘	須恵器 杯身	復元口径：11.8 残存器高：2.3 立上り部高：0.7	底部欠損。全体にヨコナデ。 受け部に沈線？　立上り部は，内傾して立ち上る。	灰　色	普通	87-11532
91	ST001 墳丘	須恵器 杯身	復元口径：11.6 残存器高：1.7 立上り部高：0.7	体部～底部にかけて欠損。全体にヨコナデ。 受け部に沈線？　立上り部は内傾気味に立ち上る。	灰黒色	普通	87-11533
92	ST001 墳丘	須恵器 杯身	復元口径：12.0 残存器高：2.2 立上り部高：0.7	体部下半分～底部にかけて欠損。全体にヨコナデ。 立上り部は，内傾する。	薄灰色	普通	87-11529
42 93	ST001 周溝南西	須恵器 甕	口径：23.6 器高：42.9 胴部最大径：42.6	口縁部1/3，胴部1/6を欠損。胎土中に径1～4㎜の粗砂を含む。 外面は格子目タタキ後カキメ，内面は同心円文のタタキ調整を施す。	灰　色	良好	92-759
94	ST001 周溝南西	須恵器 甕	口径：20.8 器高：44.5 胴部最大径：47.1	口縁部1/3，胴部1/2を欠損。胎土中に径1～4㎜の砂粒を含む。 外面は格子目タタキ後カキメ，内面は同心円文タタキを施す。	灰　色	良好	92-761

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	遺物登録番号 写真登録番号
43 95	ST001 墳丘表採	土師器 高杯	口径：9.55 器高：7.2 脚端部径：6.2	杯部および脚部外面はヘラミガキ。 脚端部内面はヨコナデ，脚部内面はヘラケズリ。 杯部および脚部外面には，赤色顔料。	薄茶色 赤色顔料	普通	87-11214 92-2119
96	ST001 墳丘	土師器 高杯	残存器高：10.1	脚頸部にカキメ。 杯部，脚端部欠損。	橙茶色	普通	87-11217 92-2057
97	ST001 墳丘	土師器 壺	残存器高：6.2	底部はヘラケズリ。 頸部に粘土接合部あり。	褐　色	良好	87-11558
44 103	ST002 (No. 4)	須恵器 杯蓋	復元口径：14.2 器高：4.1	天井部は回転ヘラケズリ。体部と口縁部の境，および口唇部内面に沈線をもつ。 径1－2㎜の砂粒を含む。	内面： 茶褐色 外面： 暗灰色	普通	87-11628 92-2003
104	ST002 (No. 4)	須恵器 杯蓋	復元口径：13.15 器高：3.8	天井部は回転ヘラケズリ。口唇部内面に浅い沈線をもつ。 径1－2㎜の砂粒を含む。 口縁部は，外反気味に下方へ延びる。	灰　色	普通	87-11629 92-2005
105	ST002 (No. 3)	須恵器 杯蓋	口径：13.6 器高：3.9	天井部は，ヘラケズリ後指オサエ。	内面： 明灰色 外面： 暗灰色	普通	87-11237 92-2004
106	ST002 西側	須恵器 杯身	口径：11.5 器高：4.4 立上り部高：1.3	底部は回転ヘラケズリ。立上り部は内傾後立ち上がる。 径1－3㎜の砂粒を含む。	茶褐色	普通	87-11632 92-2006
107	ST002 (No. 1)	須恵器 杯身	復元口径：11.4 器高：4.9 立上り部高：1.15	底部は回転ヘラケズリ。立上り部は内傾する。 径1－2㎜の砂粒を含む。	灰　色	普通	87-11630
108	ST002 (No. 1)	須恵器 杯身	残存器高：2.9	底部は，ヘラ切離し，未調整。 立上り部欠損。	内面： 淡灰色 外面： 薄茶色	やや 不良	87-11227
109	ST002 周辺表土	須恵器 提瓶	口径：5.6 残存器高：11.8	体部前面に同心円のカキメを施す。 頸部には，櫛歯文。	灰　色	普通	87-11631
45 110	ST003 東側周溝	須恵器 長頸壺	残存器高：13.2	口縁部および底部を欠損。胴部に櫛歯文。	灰白色	普通	87-11653
111	ST003 東側周溝	須恵器 平瓶	復元器高：12.0	胴部上半部1/4，底部1/3のみが残存。全体にヨコナデ調整。 胎土中に細砂を含む。	内面： 黒茶色 外面： 灰　色	普通	87-11654
112	ST003 東側周溝	須恵器 𤭯	残存器高：10.3	口縁部欠損。	内面： 肌　色 外面： 薄茶褐色	普通	87-11652
113	ST003 周溝西側 No. 2	須恵器 𤭯	口径：10.75 器高：16.65	口縁部一部欠損。頸部と胴部に櫛描波状文。肩部と胴部の境に沈線一条。	灰　色	普通	87-11324 92-2120
114	ST003 周溝南側 黒褐色土	須恵器 甕	復元口径：15.8 器高：24.85	胴部外面は格子目タタキ，内面は同心円文のタタキ調整。頸部には櫛描波状文を施す。約1/2が残存。	灰　色	普通	87-11655

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	原遺物登録番号 写真登録番号
46 115	ST003 周溝西側 No. 1	土師器 杯	復元口径：14.3 残存器高：5.6	径1～2㎜の砂粒を多量に含み，やや脆い。	薄茶色	普通	87-11651
116	ST003 周溝西側 No. 3	土師器 杯	口径：15.1 器高：6.4	径1～2㎜砂粒を多量に含み，やや脆い。	薄茶褐色	普通	87-11650
117	ST003 周溝西側 No. 3	土師器 杯	口径：14.0 器高：5.5	ほぼ完形。 径1～2㎜の砂粒を多量に含み，やや脆い。	茶褐色	普通	87-11636 92-2008
118	ST003 周溝西側 No. 5	土師器 杯	口径：10.1 器高：6.0	ほぼ完形。外面はハケ目，口縁部～内面体部はヨコナデ，底部は不定方向のナデ調整。径1～2㎜の砂粒を多く含む。	薄茶色	普通	87-11637 92-2009
119	ST003 周溝西側 No. 6	土師器 杯	復元口径：11.5 器高：4.65	約1/2が残存しており，胎土中に1～2㎜の砂粒を含む。内外面ともやや磨耗しているが，内面ヘラミガキ，外面ヘラケズリ後ヘラミガキ，外面底部はナデ後ヘラミガキ調整を行う。	灰黒色	不良	87-11648 92-2007
120	ST003 周溝西側 No. 6	土師器 杯	口径：14.0 器高：5.9	径1～2㎜の砂粒を多量に含みやや脆い。全体の約4/5が残存する。外面はヘラケズリ，口縁部～内面体部にかけてヨコナデし，底部は不定方向のナデ調整を行う。	茶褐色	普通	87-11649 92-2010
121	ST003 周溝	土師器 高杯	残存器高：12.1	杯部および脚裾部を欠損し，脚体部の約1/2が残存する。杯部との接合痕が明瞭に残る。外面はハケメ調整を行い，内面にはシボリ痕あり。	茶褐色	普通	87-11633
122	ST003 周溝	土師器 高杯	残存器高：13.25	杯部および脚裾部を欠損し，脚体部の約1/2が残存する。外面はハケメ後ナデ，内面はヘラケズリである。胎土中に径1～2㎜の砂粒を含む。	薄茶色	普通	87-11634
123	ST003 周溝西側 No. 8	土師器 高杯	復元口径：21.4 残存器高：12.9	脚部を欠損，杯部のみ1/2が残存する。胎土中に径1～3㎜の砂粒を含む。外面ヘラミガキ，内面口縁部ナデ，体部から底部にかけてナデ調整を行う。	茶色	普通	87-11332
124	ST003 周溝西側 No. 4	土師器 高杯	残存器高：4.5 脚裾部径：14.3	杯部および脚裾部の一部を欠損する。胎土中に径1～2㎜の砂粒を含む。脚部内外面ともヘラケズリ，脚裾部は内外面ともにヨコナデ調整を行う。	茶褐色	普通	87-11635 92-2058
48 126	ST004 西側周溝	土師器 杯	口径：15.2 器高：6.0	約1/3を欠損し，胎土中に径1～3㎜の砂粒を含む。内面～外面体部はナデ，外面底部はヘラケズリ調整を行う。	薄茶色	普通	87-11305
127	ST004 周溝内西側 黒色土中	土師器 杯	復元口径：12.7 器高：5.4	約1/5が残存し，胎土中に細砂を含む。内面～外面口縁部にかけてナデ後ヘラミガキ，外面体部はヘラケズリ後ヘラミガキ，底部はヘラミガキ後ハケメ調整を行う。	茶褐色	普通	87-11638
128	ST005 表採	土師器 杯	口径：12.0 器高：5.3	約1/3を欠損し，胎土中に1～3㎜の砂粒を含む。 外面ヘラミガキ，内面は磨耗により不明瞭。	内面： 薄茶色 外面： 赤茶色	普通	87-11304
49 129	ST007 玄室西側 埋土	須恵器 杯蓋	復元口径：13.6 器高：3.5	天井部は回転ヘラケズリで，頂部にヘラ記号あり。胎土中に1㎜程度の砂粒をわずかに含む。体部～口縁部にかけては内外面ともヨコナデ，天井部内面は不定方向のナデ調整を行う。約1/4が残存。	明灰色	普通	87-11233
130	ST007 玄室西側 埋土	須恵器 杯蓋	復元口径：12.0 器高：3.35	ヘラ切離し痕，天井部内面にヘラ記号あり，内面は不定方向のナデ，口縁部は内外面ともヨコナデ調整を行う。胎土中に砂粒を含む。約1/2が残存する。	内面： 明灰色 外面： 明灰色	普通	87-11234

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	遺物登録番号 写真登録番号
49 131	ST007 玄室西側 埋土	須恵器 杯身	復元口径：9.4 器高：3.0 立上り高：0.8	約1/2が残存し，胎土中に1㎜程度の砂粒を含む。外面底部は回転ヘラケズリ，口縁部は内外面ともヨコナデ，内面底部は不定方向のナデ調整を行う。	内面： 灰白色 外面： 灰黒色	普通	87-11225
132	ST007 玄室埋土	須恵器 高台付椀	復元口径：11.6 器高：28.5 高台径：7.4	約1/2が残存し，胎土中に微細砂を含む。内面底部は不定方向ナデ，内面体部～外面底部にかけてヨコナデ調整を行う。	白茶色	良好	87-11316
133	ST007 玄室西側 埋土	須恵器 甕	残存器高：6.95 胴部最大径：11.4	胴部のみ約1/6が残存し，胎土中に砂粒を含む。胴部最大径は上半部にある。一部不明な部分もあるが，全体にナデ調整を行う。	灰黒色	普通	87-11248
134	ST007 玄室埋土	須恵器 甕	復元口径：22.6 残存器高：6.8	口縁部～頸部にかけての約1/5が残存する。胎土中に径1～4㎜の砂粒を含む。	灰黒色	普通	87-11323
51 148	ST009 西側周溝	土師器 壺	復元口径：8.4 器高：10.8	全体にナデ調整を行うが，内面底部にはヘラ状工具によるナデがみられる。胎土中に径1～2㎜の砂粒を含む。約2/3残存。	茶色	普通	87-11307 92-2052
52 149	ST010 黒色土	土師器 壺	復元口径：11.2 器高：15.3	胴部外面はハケ目，内面は不定方向のナデ調整。 胎土中に径1～2㎜の砂粒を含む。約1/2残存。	茶色	普通	87-11306 92-2035
53 151	ST014 墳丘北東	土師器 壺	口径：11.0 器高：10.65	胴部は全体に丸味を帯びる。胴部最大径は中位にくる。 肩部～底部の外面はハケ目による調整。胎土中に粗砂を含む。 約1/5を欠損。	茶褐色	普通	87-11325 92-2054
55 153	ST016 黒褐色土	須恵器 杯蓋	口径：13.4 器高：4.15	天井部は回転ヘラケズリ，口縁部と体部および口唇部内面に浅い沈線をもつ。口縁部は外反気味に下方へのびる。 径1～4㎜の砂粒を多量に含む。天井部にヘラ記号あり。	内面： 暗灰色 外面： 灰黒色	普通	87-11604 92-2071
154	ST016	須恵器 杯蓋	復元口径：12.95 残存器高：3.1	天井部欠損。体部上半分回転ヘラケズリ。 口縁部は，下方へ開き気味に延びる。	灰黒色	普通	87-11610
155	ST016	須恵器 杯蓋	口径：12.6 器高：4.1	天井部は回転ヘラケズリ。口唇部内面に浅い沈線をもつ。 口縁部は下方にやや開きながらのびる。 径1～2㎜の砂粒を含む。	灰色	普通	87-11603 92-2070
156	ST016	須恵器 杯蓋	復元口径：12.4 器高：3.0	天井部は回転ヘラケズリ。内面天井部にヘラ記号あり。 口縁部は外反気味に下方へのびる。 径1～3㎜の砂粒を含む。	灰色	普通	87-11606
157	ST016	須恵器 杯蓋	復元口径：13.7 残存器高：3.5	天井部は回転ヘラケズリ。口縁部はほぼ垂直に下方へのびる。 細砂を含む。	灰白色	普通	87-11607
158	ST016	須恵器 杯蓋	復元口径：11.4 残存器高：3.8	天井頂部が欠損。ヘラ記号あり。 ヘラ切り離し痕あり。径1～2㎜の砂粒を含む。	茶褐色	普通	87-11619
159	ST016	須恵器 杯蓋	口径：12.2 器高：4.1	天井部はヘラ切り離し後，ヘラケズリ。 天井部から体部上半分にヘラ記号あり。 径1～2㎜の砂粒を含む。	暗灰色	普通	87-11605 92-2072
160	ST016	須恵器 杯蓋	口径：12.0 器高：3.9	天井部は回転ヘラケズリ。天井部から体部上半分にかけてヘラ記号。径1～2㎜の砂粒を含む。 口縁部は，下方にやや開く。ほぼ完形。	灰色	普通	87-11601 92-2068
161	ST016	須恵器 杯蓋	復元口径：12.8 残存器高：3.4	天井部は回転ヘラケズリ。頂部欠損。ヘラ記号あり。 口縁部は開きぎみに下方へのびる。	灰褐色	普通	87-11433
162	ST016	須恵器 杯蓋	復元口径：12.2 器高：4.3	天井部は回転ヘラケズリ。約3/5残存。 口縁部は，ほぼ垂直に下方へ延びる。砂粒を含む。	灰色	良好	87-11432

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	遺物登録番号 写真登録番号
55 163	ST016	須恵器 杯蓋	復元口径：12.0 残存器高：3.8	天井部は回転ヘラケズリ。ヘラ記号を一部のこす。 天井頂部は欠損。径1～2㎜の砂粒を含む。	灰白色	普通	87-11609
164	ST016	須恵器 杯蓋	口径：12.3 器高：4.1	天井部は回転ヘラケズリ。天井部にはヘラ記号あり。 口縁部は内湾気味に下方へ延びる。 口唇部は丸味をおびる。砂粒を含む。	黄灰色	良好	87-11431 92-2066
165	ST016	須恵器 杯蓋	復元口径：13.8 残存器高：4.15	天井部～体部上半分にかけて回転ヘラケズリ。 ヘラ記号あり。	暗灰色	普通	87-11608
166	ST016	須恵器 杯蓋	復元口径：12.5 器高：3.7	天井部は，回転ヘラケズリ。ヘラ記号あり。 口縁部は外反気味に下方へのびる。 砂粒を含む。	暗灰色	良好	87-11434 92-2067
167	ST016	須恵器 杯蓋	口径：12.4 器高：4.55	天井部は回転ヘラケズリ。ヘラ記号あり。 口縁部は，ほぼ垂直に下方へのびる。 径1～3㎜の砂粒を含む。ほぼ完形。	内面： 灰色 外面： 灰褐色	普通	87-11602 92-2069
168	ST016	須恵器 杯蓋	復元口径：11.2 残存器高：3.8	天井部欠損。ヘラケズリ。 口縁部は，内湾気味に下方に延びる。	灰白色	普通	87-11626
169	ST016	須恵器 杯身	復元口径：11.5 残存器高：4.5 立上り部高：0.6	底部は回転ヘラケズリ。ヘラ記号あり。 立上り部は，内傾気味に延びる。 径1～3㎜の砂粒を含む。	内面： 灰褐色 外面： 暗灰色	普通	87-11439
170	ST016	須恵器 杯身	復元口径：10.4 器高：4.3 立上り部高：0.8	底部～体部上半分にかけて回転ヘラケズリ。 立上り部は，内傾気味に上方へのびる。 径2～3㎜程度の砂粒を多く含む。	灰色	良好	87-11440
171	ST016	須恵器 杯身	復元口径：9.0 残存器高：3.0 立上り部高：0.65	底部は回転ヘラケズリ。立上り部は内傾する。 受け部に沈線？あり。 径1～2㎜の砂粒を含む。	内面： 灰色 外面： 灰白色	普通	87-11618
172	ST016	須恵器 杯身	残存器高：3.4	底部～体部下半分にかけて回転ヘラケズリ。 立上り部を欠損。 径7㎜前後の砂粒を含む。	黄灰色	不良	87-11436
173	ST016	須恵器 杯身	残存器高：2.6	底部～体部下半分にかけて回転ヘラケズリ。 立上り部および受け部の先端を欠損。 砂粒をわずかに含む。約1/2残存。	白灰色	やや 不良	87-11286
174	ST016	須恵器 杯身	復元口径：11.8 器高：3.6 立上り部高：1.2	底部～体部下半分にかけて回転ヘラケズリ。 立上り部は，内傾気味に外反する。 径1㎜前後の砂粒を含む。	灰白色	不良	87-11438
175	ST016	須恵器 杯身	復元口径：11.0 器高：3.4 立上り部高：1.05	底部は，ヘラ切り離し後，ナデ成形。体部にはヘラケズリを行う。立上り部は，内傾気味にほぼ垂直に上方へのびる。	暗灰色	普通	87-11613 92-2073
176	ST016	須恵器 杯身	復元口径：10.45 残存器高：3.2 立上り部高：0.95	底部～体部下半分にかけて回転ヘラケズリ。 立上り部は，ほぼ垂直に上方へ立上がる。 径1～2㎜の砂粒をわずかに含む。	内面： 暗灰色 外面： 灰色	普通	87-11617
177	ST016	須恵器 杯身	残存器高：4.1	底部は回転ヘラケズリ。 砂粒を含む。	灰白色	やや 不良	87-11284 92-2065

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	遺物登録番号 写真登録番号
55 178	ST016	須恵器 杯身	口径：10.6 器高：3.45 立上り部高：0.8	底部は，回転ヘラケズリ。ヘラ記号あり。 立上り部は，内傾後ほぼ垂直に上方へのびる。受け部に沈線？ 径1～2㎜の砂粒を含む。	暗灰色	普通	87-11614 92-2074
179	ST016	須恵器 杯身	復元口径：9.9 残存器高：2.9 立上り部高：1.0	底部～体部下半分にかけて欠損。 立上り部は，内傾後，ほぼ垂直に立上る。受け部には沈線？ 径1㎜前後の砂粒を含む。	灰色	良好	87-11437
180	ST016	須恵器 杯身	口径：10.2 器高：4.0 立上り部高：1.0	底部は，回転ヘラケズリ。 立上り部は内湾して，ほぼ垂直に上方へのびる。 受け部に沈線？	暗灰色	普通	87-11615 92-2075
181	ST016	須恵器 杯身	復元口径：12.3 残存器高：3.6 立上り部高：0.8	底部は回転ヘラケズリ。ヘラ記号あり。 立上り部は，ほぼ垂直に上方へのびる。 径1～2㎜の砂粒を含む。	暗灰色	普通	87-11616
56 182	ST016	須恵器 高杯	復元口径：10.9 器高：10.8 脚端部径：10.4	脚部内面にヘラ記号あり。杯体部下方に櫛描文。 体部に3条の沈線。脚部中央に3条の沈線。 全体に熱による変形。砂粒を含む。	暗灰色	良好	87-11291 92-2129
183	ST016	須恵器 高杯	口径：11.0 器高：7.1 脚端部径：9.0	杯底部は回転ヘラケズリ。ヘラ記号あり。 立上り部は内傾気味に立上る。焼成時の熱により歪みが生じる。 径1～2㎜の砂粒を含む。	灰色	普通	87-11620 92-2131
184	ST016	須恵器 高杯	復元口径：10.1 器高：9.1 立上り部高：0.6	杯体部下半分にカキメ。焼成時の熱により，歪みが生じる。 立上り部は内傾する。 径3～5㎜の砂粒を多く含む。	灰色	良好	87-11442 92-2130
185	ST016	須恵器 高杯	復元口径：11.8 残存器高：4.4	杯部のみ約1/3が残存。杯部底面は回転ヘラケズリ。 胎土中わずかに砂粒を含む。	内面： 濃灰色 外面： 明灰色	普通	87-11285
186	ST016	須恵器 高杯	残存器高：9.3 脚裾部径：11.2	杯部を欠損。脚頸部にシボリ痕。 体部中央に3条の沈線を施す。 径1～2㎜の砂粒を含む。	灰黒色	普通	87-11622
187	ST016	須恵器 高杯	口径：10.1 残存器高：6.1	杯部底面は回転ヘラケズリ。 体部中央に沈線を施す。 脚部は一部のみ残存。	灰色	普通	87-11621
188	ST016	須恵器 高杯	残存器高：5.5 脚端部径：12.0	杯部を欠損する。全体ナデ成形。 径1～2㎜の砂粒を含む。	暗灰色	良好	87-11441
189	ST016	須恵器 壺蓋	復元口径：7.0 残存器高：2.5	天井部はカキメを施す。頂部は欠損。胎土中に細砂をわずかに含む。約1/2が残存する。口縁部は内外面ともヨコナデ，天井部内面は不定方向ナデを行う。	暗灰色	普通	87-11611
190	ST016	須恵器 壺蓋	復元口径：10.2 残存器高：3.5	天井部は回転ヘラケズリ。 口縁部は内湾気味に下方へのびる。 細かな砂粒を含む。約1/4が残存する。	灰白色	普通	87-11612
191	ST016	須恵器 壺	残存復元口径： 16.0 残存器高：6.0	口縁部～頸部にかけて残存。口縁部に沈線をもつ。 全体にヨコナデ。頸部に櫛描文をもつ。 径1～2㎜の砂粒を含む。約1/3が残存する。	灰色	普通	87-11624
192	ST016	須恵器 壺	口径：9.0 器高：20.4	頸部～胴部にかけて9条の沈線。頸部と底部に櫛描（重）文。胴部全体にカキメ。胴部内面上半部はヨコナデ。下半部～底部にかけては，同心円文のタタキを施す。径3～5㎜の砂粒を多く含む。	灰色	良好	87-11289 92-2055

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	遺物登録番号 写真登録番号
56 193	ST016	須恵器 甕	口径：11.0 器高：17.2	頸部～胴部上半分はカキメ。下半分～底部にかけては，格子目文のタタキ。頸部にヘラ記号あり。内面は，口縁部～胴部上半分にかけてはヨコナデ。下半分はタタキ。底部は不定方向のナデを施す。	暗灰色	良好	87-11290 92-2056
194	ST016	須恵器 甕	残存器高：13.1 胴部最大径：19.7	口縁部～頸部にかけてを欠損。胴部上半分はカキメ。 下半分～底部にかけては，格子目文のタタキ。内面はナデ。 径1～2㎜の砂粒を含む。約1/3が残存する。	灰色	良好	87-11446
195	ST016	須恵器 甕	口径：11.3 器高：13.8	頸部にカキメを施す。胴部最大径は上半部にくる。底部は回転ヘラケズリ。径1～2㎜の砂粒を含む。約1/4を欠損する。	灰黒色	普通	87-11623
57 196	ST016	須恵器 平瓶	残存器高：3.6	胴部下半部～底部にかけて残存。胴部にカキメ，底部には右から左方向へのケズリがみられる。径1～2㎜の砂粒を含む。	内面： 茶褐色 外面： 灰黒色	普通	87-11625
197	ST016	須恵器 提瓶	復元口径：8.8 残存器高：7.5	口縁部～肩部にかけての約1/3が残存し，径1～2㎜の砂粒を含む。	灰色	良好	87-11443
198	ST016	土師器 高杯	口径：14.8 器高：12.7 脚端部径：12.4	杯部に1条の沈線を持ち，全体にナデ調整を行う。 脚部の一部を欠損。径1～2㎜の砂粒を含む。	褐色	良好	87-11445 92-2123
199	ST016	土師器 高杯	復元口径：15.4 器高：10.8 脚裾部径：11.3	全体にナデ調整を行うが，杯部底面にカキメを施す。 径1～2㎜の砂粒を含む。約1/3欠損。	褐色	良好	87-11444 92-2122
200	ST016	土師器 高杯	口径：16.1 残存器高：12.1	外面全体及び杯部内面上半部にかけてヨコナデ，底部内面は不定方向のナデを行う。杯部に1条，脚部に2条の沈線を持ち，杯部底面及び脚部にカキメを施す。口縁部1/3，脚裾部を欠損。	薄茶色	良好	87-11287 92-2121
201	ST016	土師器 高杯	残存器高：9.6 脚裾部径：21.6	脚部のみ約3/4残存する。外面はヘラケズリ後ミガキを行い赤色顔料を塗布。内面は右から左方向へのヘラケズリを行う。 脚裾部内面～端部はヨコナデ。	内面： 橙茶色 外面： 赤茶色	普通	87-11288 92-2059
202	ST016	土師器 高杯	残存器高：7.3	杯部及び脚部を欠損。内外面ともにヨコナデ調整を行うが，内面の一部にシボリ痕がみられる。脚体部に2条の沈線を持つ。	薄茶色	普通	87-11627
59 204	ST020 美道南側	須恵器 杯蓋	復元口径：12.8 残存器高：3.75	天井部を欠損し，約1/5が残存する。天井部は回転ヘラケズリでヘラ記号あり。体部～口縁部は内外面ともヨコナデ調整を行う。径1～2㎜の砂粒を含む。	内面： 灰色 外面： 茶色	普通	87-11321
205	ST020 美道南側 黒色土	須恵器 杯蓋	口径：12.6 器高：4.1	ほぼ完形。天井部は回転ヘラケズリでヘラ記号あり。径1～2㎜の砂粒を多く含む。外面体部から内面にかけてヨコナデ調整を行う。	薄茶色	普通	87-11240 92-2080
206	ST020 美道南側 黒色土	須恵器 杯蓋	復元口径：12.2 残存器高：3.5	約1/4が残存し，径1～3㎜の砂粒を含む。天井部はヘラ切離し後ナデ調整を行う。ヘラ記号あり。体部～口縁部にかけては内外面ともヨコナデ調整を行う。	灰茶色	普通	87-11230
207	ST020 美道南側 黒色土	須恵器 杯蓋	復元口径：11.6 残存器高：4.0	約1/6が残存。天井部はヘラ切離し後ナデ，体部～口縁部にかけては内外面ともヨコナデ調整を行う。	灰黒色	普通	87-11229
208	ST020 美道南側 黒色土	須恵器 杯蓋	復元口径：10.0 残存器高：2.8	天井頂部を欠損し，約1/4が残存する。胎土中には砂粒を含む。天井部は内外面とも不定方向ナデ，体部～口縁部は内外面ともヨコナデ調整を行う。天井部にヘラ記号あり。	明灰色	普通	87-11235

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	遺物登録番号 写真登録番号
59 209	ST020 渓道南側 黒色土	須恵器 杯蓋	残存器高：2.4	口縁部を欠損し，約4/5が残存する。天井部はヘラ切痕は残るが回転ヘラケズリ，体部は内外面ともヨコナデ調整を行う。	内面： 濃灰色 外面： 灰黒色	普通	87-11232
210	ST020 渓道南側 黒色土	須恵器 杯蓋	復元口径：9.8 器高：4.1	宝珠つまみを持ち約1/3が残存する。外面および口縁部内面はヨコナデ調整を行う。天井部と体部の境にヘラ記号あり。	明灰色	普通	87-11236
211	ST020 渓道南側 黒色土	須恵器 杯身	口径：11.1 器高：4.0 立上り部高：1.0	約1/4を欠損し，径1～2㎜の砂粒を含む。底部は回転ヘラケズリ，体部～口縁部にかけてはヨコナデ調整を行う。	灰茶色	普通	87-11318 92-2083
212	ST020 渓道南側 黒色土	須恵器 杯身	復元口径：11.9 残存器高：3.7 立上り部高：0.65	約1/4が残存し，胎土中に砂粒をわずかに含む。底部は回転ヘラケズリでヘラ記号あり。体部～口縁部にかけてはヨコナデ調整を行う。	灰白色	普通	87-11224
60 213	ST020 渓道南側 黒色土	須恵器 杯身	口径：10.6 器高：4.05 立上り部高：0.9	約1/4を欠損し，径1～3㎜の砂粒を含む。底部は回転ヘラケズリ，ヘラ記号あり。体部～口縁部にかけての内外面はヨコナデ調整を行う。	灰黒色	良好	87-11317 92-2082
214	ST020 渓道南側 黒色土	須恵器 杯身	復元口径：10.4 器高：3.5 立上り部高：0.65	約1/3が残存し，径1～5㎜の砂粒を含む。底部はヘラ切離し後ナデ調整，ヘラ記号あり。口縁部～体部にかけての内外面ともヨコナデ調整を行う。	内面： 灰茶色 外面： 暗灰色	普通	87-11222
215	ST020 渓道南側 黒色土	須恵器 杯身	復元口径：10.8 器高：3.5 立上り部高：0.8	約1/4が残存し，径1～3㎜の砂粒を含む。底部はヘラ切離し後ナデ調整，ヘラ記号あり。口縁部～体部にかけて内外面ともヨコナデ調整を行う。	内面： 灰茶色 外面： 暗灰色	普通	87-11223
216	ST020 渓道南側 黒色土	須恵器 高杯	残存器高：8.6 脚柱部径：9.0	杯部の約3/4を欠損し，径1㎜程度の砂粒を含む。 杯部の外面及び脚部内外面はヨコナデ調整を行う。	濃灰色	普通	87-11247
217	ST020 渓道南側 黒色土	須恵器 高杯	復元口径：9.6 残存器高：3.3	杯部の約1/3が残存。胎土中に砂粒をわずかに含む。底部は回転ヘラケズリ。体部～口縁部は内外面ともにヨコナデ調整を行う。	灰白色	普通	87-11231 92-2078
218	ST020 渓道南側 黒色土	須恵器 杯蓋	口径：10.4 器高：3.6	口縁部の約1/4を欠損し，胎土中に砂粒をわずかに含む。 天井部にはヘラ切離し痕が残り回転ヘラケズリ，ヘラ記号あり。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を行う。	内面： 青灰色 外面： 暗灰色	普通	87-11228 92-2077
219	ST020 渓道南側 黒色土	土師器 杯蓋	復元口径：12.1 器高：4.0	約2/5が残存，胎土中に砂粒を含む。天井部はヨコナデ，一部回転ヘラケズリ調整で宝珠つまみを持つ。ヘラ記号あり。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を行う。	赤茶色	普通	87-11241 92-2081
220	ST020 渓道南側 黒色土	土師器 杯蓋	復元口径：12.2 器高：3.2	約1/5が残存，胎土中に砂粒を含む。天井部はヨコナデ，一部回転ヘラケズリで宝珠つまみを持つ。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を行う。	内面： 薄茶色 外面： 赤茶色	普通	87-11242
221	ST020 渓道南側 黒色土	須恵器 壺蓋	復元口径：7.2 器高：3.0	約1/3を欠損，径1～4㎜の砂粒を含む。天井部はカキメ，口縁部はヨコナデ調整を行う。天井部の内面は不定方向のナデである。	灰黒色	普通	87-11239 92-2079
222	ST020 渓道南側 黒色土	須恵器 壺	復元口径：5.2 器高：5.4	約1/3を欠損，径1～2㎜の砂粒を含む。肩部に沈線を持つ。胴部最大径はほぼ中央にくる。底部～胴部にかけて回転ヘラケズリ，肩部～底部内面にかけてヨコナデ調整を行う。	灰色	普通	87-11322 92-2178

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	遺物登録番号 写真登録番号
60 223	ST020 表道南側 黒色土	土師器 高台杯	残存器高：2.9 高台径：8.4	底部及び高台約4/5が残存，胎土中には少量の砂粒を含む。高台は「ハ」の字につく張付高台。底部はヘラ切離し後ナデ調整を行う。	赤茶色	普通	87-11244
224	ST024	土師器 杯身	口径：14.0 器高：5.3	約1/5が残存。径1～2㎜の砂粒を含む。底部はヘラケズリ，口縁部は内外面ともヨコナデ後ヘラミガキ，底部内面は不定方向のナデ調整を行う。	橙色	良好	87-11329
61 225	ST026 墓道	須恵器 杯蓋	復元口径：14.9 残存器高：2.9	天井部を欠損。1/8残存する。 口唇部内面に沈線？ 砂粒を含む。	灰白色	普通	87-11257
226	ST026 墓道 黒色土	須恵器 杯蓋	口径：13.6 器高：4.2	天井部は回転ヘラケズリ，天井部内面にヘラ記号あり。 砂粒を含む。一部欠損。	灰褐色	普通	87-11504 92-2105
227	ST026 墓道 黒色土	須恵器 杯蓋	口径：13.6 器高：4.2	天井部は回転ヘラケズリ。天井部内面にヘラ記号あり。 口唇部に浅い沈線あり？1/3残存。 砂粒を含む。	灰褐色	普通	87-11501 92-2102
228	ST026 墓道 黒色土	須恵器 杯蓋	口径：11.75 器高：3.3	天井部は不定方向のヘラケズリ。天井部～体部内面にかけてヘラ記号，口唇部内面は，斜に面取りされている。 少量の砂粒を含む。一部欠損。	薄灰色	普通	87-11505 92-2106
229	ST026 墓道 黒色土	須恵器 杯蓋	口径：11.0 器高：3.65	天井部にヘラ切離し痕。天井部にヘラ記号あり。 砂粒を含む。2/3残存する。	灰褐色	普通	87-11502 92-2103
230	ST026 墓道	須恵器 杯蓋	口径：13.2 器高：3.9	天井部は，回転ヘラケズリ。約1/2が残存する。 胎土に砂粒を含む。	明灰色	普通	87-11210 92-2092
231	ST026 墓道	須恵器 杯蓋	復元口径：12.9 残存器高：2.9	天井部欠損。1/3残存。 全体にナデ，径1～2㎜の砂粒を含む。	濃灰色	良好	87-11262
232	ST026 墓道	須恵器 杯蓋	復元口径：13.8 残存器高：3.0	天井部を欠損。 径2㎜程度の砂粒を含む。	濃灰色	良好	87-11263
233	ST026 墓道	須恵器 杯蓋	復元口径：13.4 残存器高：2.9	天井部を欠損。口縁部の内外面はヨコナデ調整を行う。	明灰色	普通	87-11266
234	ST026 墓道	須恵器 杯蓋	復元口径：13.0 残存器高：2.85	天井部を欠損。ヨコナデ。 径1～4㎜の砂粒を含む。	濃灰色	普通	87-11265
235	ST026 墓道	須恵器 杯蓋	口径：12.8 器高：4.1	天井部は回転ヘラケズリ，ヘラ記号あり。体部から天井部内面はヨコナデ調整を行う。胎土中に砂粒をわずかに含む。約2/3が残存する。	明灰色	普通	87-11206 92-2089
236	ST026 墓道	須恵器 杯蓋	復元口径：12.8 器高：3.8	天井部に切離し痕あり。1/5残存。 砂粒を含む。	薄灰色	普通	87-11264
237	ST026 墓道 黒色土	須恵器 杯蓋	口径：12.6 器高：3.5	天井部は回転ヘラケズリ。ヘラ記号あり。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を行う。口縁部を約1/3欠損。径1～4㎜の砂粒を含む。	内面： 青灰色 外面： 灰黒色	やや 不良	87-11267
238	ST026 墓道	須恵器 杯蓋	復元口径：11.8 器高：4.2	天井部は回転ヘラケズリ。砂粒を含む。体部～口縁部内面はヨコナデ調整を行う。約1/4が残存する。	内面： 灰褐色 外面： 明灰色	普通	87-11209 92-2091

調査番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	遺物登録番号 写真登録番号
61 239	ST026 墓道	須恵器 杯蓋	口径：11.35 器高：3.6	天井部は回転ヘラケズリ。 口縁部は外反気味に下方へのびる。 径1～4㎜の砂粒を含む。約1/2が残存する。	灰白色	普通	87-11207 92-2090
240	ST026 墓道 No. 14	須恵器 杯蓋	口径：12.5 器高：3.8	天井部は回転ヘラケズリで平坦。天井部にヘラ記号あり。 砂粒を含む。4/5残存。	灰褐色	普通	87-11503 92-2104
241	ST026 墓道	須恵器 杯蓋	復元口径：12.6 残存器高：2.1	口縁部約1/8が残存。胎土中に砂粒を含む。内外面ともヨコナデ調整を行う。	灰黒色	良好	87-11258
242	ST026 墓道 黒色土	須恵器 杯身	口径：12.9 器高：3.9 立上り部高：1.1	底部は回転ヘラケズリ。立上り部はほぼ垂直に立上る。 砂粒をわずかに含む。1/3残存。	内面： 灰白色 外面： 灰黒色	普通	87-11204 92-2087
243	ST026 墓道	須恵器 杯身	復元口径：12.5 残存器高：2.7 立上り部高：1.1	底部を欠損。内外面ともヨコナデ調整を行う。	灰白色	普通	87-11254
244	ST026 墓道 黒色土	須恵器 杯身	口径：11.55 器高：4.1 立上り部高：0.9	底部は回転ヘラケズリ。受け部はやや内傾する。 細砂を含む。受け部に沈線。 受け部の1/6，体部の一部を欠損。	内面： 青灰色 外面： 明灰色	普通	87-11252 92-2093
245	ST026 墓道	須恵器 杯身	口径：11.4 器高：4.3 立上り部高：1.0	底部は回転ヘラケズリ。ヘラ記号あり。 立上り部はやや内傾する。受け部に2条の沈線をもつ。 径1～2㎜の砂粒を含む。1/2残存。	灰色	良好	87-11292 92-2096
246	ST026 墓道 黒色土	須恵器 杯身	復元口径：11.0 器高：3.85 立上り部高：1.1	底部は回転ヘラケズリ。立上り部はやや内傾する。 砂粒を含む。1/4残存。	薄灰色	やや 不良	87-11251
247	ST026 墓道 黒色土	須恵器 杯身	口径：11.1 器高：3.75 立上り部高：1.0	約1/6を欠損，径1～3㎜の砂粒を含む。底部はヘラ切離し痕の残る回転ヘラケズリ，体部～口縁部の内面はヨコナデ，内面にヘラ記号あり。	灰色	普通	87-11642
248	ST026 墓道 黒色土	須恵器 杯身	復元口径：10.8 残存器高：3.0 立上り部高：1.15	底部を欠損。全体にヨコナデ。 砂粒を含む。	明灰色	やや 不良	87-11256
249	ST026 墓道	須恵器 杯身	口径：11.0 器高：3.7 立上り部高：0.7	底部は回転ヘラケズリ。ヘラ記号あり。 少量の砂粒を含む。1/3残存。	灰白色	普通	87-11509 92-2110
250	ST026 墓道 黒色土	須恵器 杯身	復元口径：12.0 残存器高：3.2 立上り部高：0.8	底部は回転ヘラケズリ。口縁部～体部内面にかけてヨコナデ調整。砂粒を含む。1/4残存。	濃灰色	普通	87-11250
251	ST026 墓道 黒色土	須恵器 杯身	口径：11.5 器高：4.15 立上り部高：0.95	底部は回転ヘラケズリで，ヘラ記号を持つ。 立上り部は，内傾後，垂直に立上る。 1/5欠損。	青灰色	普通	87-11201 92-2085
252	ST026 墓道	須恵器 杯身	復元口径：11.1 器高：3.7 立上り部高：0.9	底部は回転ヘラケズリ。ヘラ記号あり。 砂粒を含む。1/5残存。	明灰色	普通	87-11253 92-2094
253	ST026 墓道 黒色土	須恵器 杯身	復元口径：11.5 器高：4.2 立上り部高：0.85	底部はナデ調整で平坦。 1/3残存。砂粒を含む。	灰褐色	普通	87-11506 92-2107

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	遺遺物登録番号 写真登録番号
61 254	ST026 竈道 No. 10	須恵器 杯身	口径：10.8 器高：3.95 立上り部高：0.7	底部は回転ヘラケズリ。径2～3㎜の砂粒を含む。 ほぼ完形。	灰色	良好	87-11293 92-2097
255	ST026 竈道	須恵器 杯身	復元口径：10.4 残存器高：2.9 立上り部高：0.8	底部を欠損。砂粒を含む。 全体にヨコナデ，一部ヘラケズリ。 1/8残存。	濃灰色	普通	87-11255
256	ST026 竈道 黒色土	須恵器 杯身	口径：9.1 器高：2.9 立上り部高：0.45	底部はヘラ切離し後ナデ，ヘラ記号あり。 径1～2㎜の砂粒を含む。 口縁部1/8欠損。	内面： 灰色 外面： 灰白色	普通	87-11202 92-2076
257	ST026 竈道 黒色土	須恵器 杯身	復元口径：10.1 器高：2.6 立上り部高：0.45	底部は切離し後未調整。ヘラ記号あり。 径1～3㎜の砂粒を含む。 1/2残存。	内面： 茶褐色 外面： 灰黒色	普通	87-11205 92-2088
62 258	ST026 竈道 黒色土	須恵器 杯身	口径：8.2 器高：3.0 立上り部高：0.55	底部は回転ヘラケズリ。ヘラ記号あり。 径1～2㎜の砂粒を含む。	内面： 茶褐色 外面： 濃灰色	普通	87-11203 92-2089
259	ST026 竈道	須恵器 高台付杯	残存器高：1.9 復元底径：11.0	底部のみ約1/4が残存。胎土中に砂粒を含む。 高台は低く，貼付である。底部は不定方向のナデ調整。	灰白色	普通	87-11260
260	ST026 竈道	須恵器 高杯	復元脚端径：13.5 残存器高：4.7 立上り部高：1.2	杯部のみ約1/3が残存。胎土中に砂粒を含む。 底部は回転ヘラケズリ，一部カキメ，体部～口縁部の内外面ともヨコナデ調整を行う。	濃灰色	普通	87-11508 92-2109
261	ST026 竈道 黒色土	須恵器 高杯	口径：12.3 器高：12.9 底径：10.8	口縁部1/2，脚裾部の一部を欠損。 脚部に3条の沈線をもつ。砂粒を含む。 焼成時の熱により全体にゆがみ。	濃灰色	普通	87-11211 92-2132
262	ST026 竈道	須恵器 高杯	残存器高：12.3	杯底部にカキメ，脚部はシボリ後ナデ。 砂粒を含む。口縁部・脚裾部欠損。	暗灰色	普通	87-11273
263	ST026 竈道 No. 3	須恵器 高杯	口径：11.6 器高：10.5 立上り部高：1.15 底径：12.6	有蓋高杯。脚部にカキメ。胎土中に径1～2㎜の砂粒を含む。 杯底部は回転ヘラズリ。 ほぼ完形。	内面： 暗灰色 外面： 明灰色 (一部黒色)	良好	87-11298
264	ST026 竈道	須恵器 高杯	復元口径：11.6 残存器高：3.15	口縁部約1/8が残存。胎土中に径1㎜程度の砂粒を含む。 体部に二重の沈線を持つ。内外面ともヨコナデ調整を行う。	内面： 灰色 外面： 灰黒色 (一部茶色)	普通	87-11259
265	ST026 竈道	須恵器 高杯	残存器高：5.5 復元底径：10.7	脚部のみ残存。径1～2㎜の砂粒を含む。 1/6残存。ロクロ回転左。	内面： 明灰色 外面： 灰黒色	普通	87-11268 92-2136
266	ST026 竈道 黒色土	須恵器 壺蓋	復元口径：10.9 器高：3.3	底部はヘラ切離し痕あり，未調整。 ヘラ記号あり。 砂粒を含む。1/3残存。	薄灰色	普通	87-11507 92-2108

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	県遺物登録番号 写真登録番号
62 267	ST026 墓道 黒色土	須恵器 壺	残存器高：6.3	胴部～底部にかけて約1/4が残存．胎土中に砂粒を含む．胴部最大径は上半部にある．底部はヘラケズリ，上半部カキメは調整．ヘラ記号あり．	内面： 明灰色 外面： 濃灰色	普通	87-11219
268	ST026 墓道	須恵器 (短頸壺	残存器高：3.4	口縁部及び底部を欠損．胎土中に砂粒を含む． 胴部は扁平で最大径は上半部にある．	薄灰色	普通	87-11275
269	ST026 墓道	須恵器 壺	残存器高：4.6	胴部のみ約1/3が残存し，内外面ともにヨコナデ調整を行う．胴部最大径はほぼ中央にある．	内面： 茶色 外面： 灰白色 (一部茶色)	普通	87-11212
270	ST026 墓道 黒色土	須恵器 壺	口径：7.5 器高：18.6	約1/6を欠損する．底部は回転ヘラケズリを行う．ヘラ記号あり．胴部最大径は上半部にくる．胴部外内および底部内面にヨコナデ調整を行う．頸部にシボリ痕が残る．	灰色 一部濃灰色	普通	87-11278 92-2135
271	ST026 西側墳丘 黒色土	須恵器 甕	残存器高：12.6	口縁端部及び全体の約2/3を欠損する．胎土中に径1～2mmの砂粒を含む．底部～胴部下半部にかけて回転ヘラケズリ，胴部上半部外面～内面全面にかけてヨコナデ調整を行う．	灰色	普通	87-11511 92-2144
272	ST026 西側墳丘 No. 4	須恵器 甕	復元口径：12.4 器高：14.5	口縁部の約3/4を欠損する．胎土中に砂粒はほとんど含まない．底部～胴部にかけて回転ヘラケズリ，肩部～胴部内面はヨコナデ，底部内面はタタキ調整を行う．	明灰色	良好	87-12401 92-2147
273	ST026 墓道 No. 1	須恵器 壺	口径：3.9 器高：9.65	口縁部の一部を欠損する．胎土中に砂粒をほとんど含まない．外面全体は細かいヘラミガキ，口縁部内面はヨコナデ，胴部内面は指ナデ調整を行う．胴部の穿孔は焼成後に行っている．	内面： 暗灰色 外面： 灰黒色	不良	87-12405 92-2149
274	ST026 墓道 No. 2	須恵器 甕	復元口径：11.2 器高：15.6	口縁部の約3/4を欠損する．胎土中に砂粒を含む．底部～胴下半部は回転ヘラケズリ，胴上半部～口縁部にヨコナデ調整を行う．胴部最大径はほぼ中央部にあり，穿孔は上半分にくる．	灰白色	普通	87-11276 92-2134
275	ST026 墓道 No. 15	須恵器 甕	残存器高：9.0	肩部～頸部にかけて約1/3が残存する．胎土中に砂粒をほとんど含まない．内外面ともヨコナデ調整を行う．頸部の3カ所にヘラ記号あり．	灰白色	良好	87-12402
276	ST026 墓道	須恵器 平瓶	残存器高：3.5	肩部～胴部にかけて約1/5が残存する．胎土中に砂粒はほとんど含まない．内外面ともヨコナデ調整を行う．	灰色	良好	87-11279
63 277	ST026 石室 (墓道 か) 黒色土	須恵器 平瓶	口径：6.1 器高：10.7	約1/3を欠損する．胎土中に径1mm程度の砂粒を含む．底部は回転ヘラケズリ，肩部に粘土接合痕が残り内面はナデ，胴部～口縁部内面及び，胴部～底部の内面はヨコナデ調整を行う．	茶褐色	普通	87-11510 92-2143
278	ST026 石室内	須恵器 壺蓋	口径：7.45 器高：2.2	約1/2が残存する．胎土中に砂粒を少量含む．天井部は回転ヘラケズリ，口縁部の内外面はともにヨコナデ，天井部内面は不定方向のナデ調整を行う．	内面： 濃灰色 外面： 灰白色 (一部黒灰色)	普通	87-11274 92-2095
279	ST026 墓道 黒色土	須恵器 (短頸壺	残存器高：5.1	胴部のみ残存する．胴部最大径は中央よりやや上にくる．	内面： 青灰色 外面： 灰黒色	普通	87-11213

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	県遺物登録番号 写真登録番号
63 280	ST026 石室	須恵器 杯身	復元口径：14.4 残存器高：3.5 立上り部高：1.4	口縁部の約1/4が残存する。内外面ともヨコナデ調整を行う。 胎土中には径1～5㎜の砂粒を含む。	明灰色	良好	87-11272
281	ST026 西側墳丘 No. 13	須恵器 杯蓋	口径：14.0 器高：4.0	天井は回転ヘラケズリ，体部内面にヘラ記号。 砂粒を含む。一部欠損。 ロクロ回転左。	褐色	良好	87-11560 92-2101
282	ST026 墳丘 No. 6	須恵器 杯蓋	口径：13.4 器高：4.3	天井部は回転ヘラケズリ，体部内面～天井部内面にナデを施す。口縁部は外反気味に下方へのびる。 径1～2㎜の砂粒を含む。ほぼ完形。	内面： 灰褐色 外面： 暗灰色	良好	87-11296 92-2002
283	ST026 墳丘	須恵器 杯蓋	口径：12.6 器高：4.1	天井部は雑な回転ヘラケズリ，体部内面にヘラ記号あり。 径1～2㎜の砂粒を含む。1/4欠損。 焼成不良で軟質。	灰白色 (一部薄茶色)	不良 軟質	87-11640 92-2111
284	ST026 西側墳丘 No. 11	須恵器 杯蓋	口径：13.6 器高：4.0	天井部は回転ヘラケズリ，体部外面～天井部内面にかけてナデを施す。口縁部は，外反気味に下方へのびる。 径2～3㎜の砂粒を含む。熱変形，完形。	灰褐色	良好	87-11297 92-2100
285	ST026 西側墳丘 No. 10	須恵器 杯身	口径：11.2 器高：3.8 立上り部高：0.9	底部は回転ヘラケズリ。ヘラ切離し痕あり。 径2～3㎜の砂粒を含む。ほぼ完形。 焼成時に熱変形。	明灰色	良好	87-11295 92-2099
286	ST026 西側墳丘 No. 7	須恵器 杯身	口径：11.6 器高：4.2 立上り部高：0.7	底部は回転ヘラケズリ，ヘラ切り痕あり。 径2～3㎜の砂粒を含む。ほぼ完形。 立上り部は内傾する。焼成時に熱変形。	内面： 灰褐色 外面： 灰色	良好	87-11294 92-2098
287	ST026 西側墳丘 No. 1	須恵器 高杯	復元口径：11.8 器高：13.7 底径：12.2	脚部にシボリ痕と2条の沈線あり。杯体部に沈線あり。 径1～4㎜の砂粒を多く含む。杯部1/4，脚部1/2残存。	灰：茶褐色 脚部 内面：茶褐色 外面：暗灰色	普通	87-11269 92-2133
288	ST026 西側墳丘 No. 4	須恵器 高杯	口径：11.0 器高：7.9 立上り部高：0.8 底径：10.2	有蓋高杯。脚部はシボリ後ヨコナデ。 杯底部は回転ヘラケズリ。 径2～3㎜の砂粒を含む。	内面： 茶褐色 外面： 暗灰色	良好	87-11299 92-2137
289	ST026 西側墳丘 No. 16	須恵器 高杯	残存器高：11.9 底径：9.6	杯底部～脚部にかけて残存。 脚部にカキメ，杯底部に1条の沈線。 径1～3㎜の砂粒を含む。	内面： 灰白色 外面： 暗灰色	普通	87-11270
290	ST026 西側墳丘 No. 12	須恵器 甕	口径：12.5 器高：12.0	口縁部を約1/3欠損する。胎土中に径2～3㎜の砂粒を含む。 底部はヘラ切離し後ナデ，一部回転ヘラケズリ，胴部～底部内面にかけてヨコナデ調整を行う。	灰色	良好	87-11300 92-2138
291	ST026 西側墳丘 No. 18	須恵器 甕	口径：11.9 器高：17.6	口縁部を約1/4欠損する。胎土中に2～3㎜の砂粒を含む。 底部はヘラ切離し後ナデ，一部回転ヘラケズリ，胴部から頸部内面にかけてヨコナデ調整を行う。	内面： 濃灰色 外面： 灰黒色 (体部灰色)	不良	87-12403
292	ST026 西側墳丘 No. 2	須恵器 提瓶	口径：4.8 器高：10.6	把手の一部を欠損する。胎土中に径1～2㎜の砂粒を含む。 胴部の前面及び背面に同心円状のカキメ，口縁部は内外面ともヨコナデ調整を行う。背面にヘラ記号あり。	灰色	良好	87-12404 92-2148

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	遺物整理番号 写真登録番号
64 293	ST026 西側墳丘 No. 17	須恵器 提瓶	口径：6.5 器高：22.2	ほぼ完形。胎土中に径3～4㎜の砂粒を含む。胴部は前面・背面ともカキメ，口縁部は内外面ともヨコナデ調整を行う。背面のほぼ中央にヘラ記号あり。	灰黒色 一部明灰色	良好	87-12406 92-2150
294	ST026 西側墳丘 No. 5	須恵器 提瓶	口径：5.0 器高：19.5	完形。胎土中にはほとんど砂粒を含まない。胴部は前面・背面ともカキメ，口縁部内外面及び胴部内面はヨコナデ調整を行う。	灰褐色	不良	87-12407 92-2151
65 295	ST026 西側墳丘 No. 3	土師器 高杯	残存器高：10.5 脚裾部径：19.0	杯部の一部および脚部が残存。脚部はほぼ完形。外面には，赤色顔料を施す。脚部外面～内面2/3にかけてヘラケズリ。 脚部外面はその後ナデを施し，内面1/3はユビナデ。	内面： 薄茶色 外面： 濃茶色	普通	87-11334 92-2139
296	ST026 西側墳丘 No. 8	土師器 高杯	残存器高：8.4 脚裾部径：12.9	脚部はシボリ後ヨコナデ。 径1～4㎜の砂粒を含む。 杯部および脚裾部の一部を欠損。	薄茶色	普通	87-11333 92-2063
297	ST026 西側墳丘 No. 13	土師器 提瓶	残存器高：17.8	胴部の約4/5が残存する。粘土輪積み痕が残る。胎土中に径1～3㎜の砂粒を含む。	内面： 灰黒色 外面： 茶色 (一部黒)	普通	87-11647
66 298	ST026 墓道南口	土師器 高杯	復元口径：14.0 器高：10.1 底径：12.15	口縁部を一部欠損する。胎土中に砂粒を含む。全体にナデ調整を行い，全面に赤色顔料を塗布。	褐色	良好	87-11561 92-2145
299	ST026 墓道 No. 4	土師器 高杯	杯部径：15.2 器高：12.9 脚裾部径：10.0	口縁部を約1/4，脚裾部を約1/4欠損する。磨耗が大きいため外面の調整はほとんど不明，脚部にシボリ痕が残る。胎土中に径1～2㎜の砂粒を含む。	明褐色	不良	87-12413 92-2155
300	ST026 墓道	土師器 高杯	口径：18.2 器高：12.9 脚裾部径：13.8	口縁部を約1/3，脚裾部の一部を欠損する。胎土中に径1～2㎜の砂粒をわずかに含む。杯底部～脚部にかけてヘラケズリ，口縁部は内外面ともヨコナデ，底部内面は不定方向ナデ，脚部内面はナデ調整を行う。	茶色	普通	87-11646 92-2146
66 301	ST026 墓道 No. 8	土師器 高杯	杯部径：30.5 器高：4.8	脚部を欠損し，杯部の約3/4が残存する。胎土中に砂粒を含む。底部～体部にかけてヘラ状工具になるナデ，口縁部は内外面ともヨコナデ，内面はナデ調整を行う。全面に赤色顔料を塗布。	褐色	良好	87-11562 92-2084
302	ST026 墓道 No. 18	土師器 高杯	残存器高：7.1 脚裾部径：11.1	杯部及び脚部の約1/4を欠損する。脚部外面はヘラケズリ後ヘラミガキ，脚裾部内面はヨコナデ，脚部内面はヘラケズリ調整を行う。胎土中に砂粒はほとんど含まない。全面に赤色顔料塗布。	内面： 黄褐色 外面： 赤褐色	良好	87-12409 92-2061
303	ST026 墓道 No. 6	土師器 高杯	残存器高：5.9 脚裾部径：8.1	脚部のみ1/4残存。剥離により調整不明。 径1～2㎜の砂粒を多く含む。	内面： 薄褐色 外面： 茶色	普通	87-11335 92-2060
304	ST026 墓道 No. 19	土師器 高杯	残存器高：6.3	杯底部内面および脚部外面には，赤色顔料を施す。 調整は剥離のため不明。 脚部1/3と杯底部の一部残存。	明褐色	不良	87-11338
305	ST026 墓道 No. 16	土師器 高杯	残存器高：2.7	杯底部及び脚部の一部が残存する。胎土中に径1～2㎜の砂粒を含む。外面は磨耗のため調整不明。脚部内面はヘラケズリ調整を行っている。	茶褐色	良好	87-11340

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	照合物登録番号 写真登録番号
66 306	ST026 墓道 No. 5	土師器 甕	残存器高：7.1	口縁部等か頸部，胴部の一部を欠損する。胎土中に径1～2㎜の砂粒を含む。内外面ともナデ調整を行う。胴部最大径はほぼ中央にくる。	明褐色	良好	87-12408 92-2152
307	ST026 墓道 No. 9	土師器 壺	口径：9.05 器高：16.55	ほぼ完形。外面全体に赤色顔料を塗布する。胴部内面に粘土輪積痕が残る。胎土中に径1～3㎜の砂粒を含む。	明褐色	不良	87-11337 92-2141
308	ST026 墓道 No. 13?	土師器 壺	復元口径：6.1 器高：9.05 脚端部径：6.2	脚付壺。口縁部約2/3，脚部約1/3を欠損する。胎土中に細砂を含む。	薄こげ茶色	普通	87-11336 92-2140
309	ST026 溝道	土師器 高杯	残存器高：7.1 脚端部径：9.8	杯底部及び脚部の約1/8が残存する。脚部外面はヘラケズリ後ヘラミガキ，脚裾部は内外面ともヨコナデ，脚部内面はナデ調整を行う。胎土中に砂粒はほとんど含まない。全体に赤色顔料を塗布。	内面(脚)：暗褐色 外面 脚端：赤褐色	良好	87-12410 92-2062
310	ST026 西側墳丘 No. 9	土師器 甕	復元口径：13.0 器高：14.6	口縁部を約3/4欠損する。胎土中に径1～2㎜の砂粒を含む。底部～胴部にかけて回転ヘラケズリを行っている。	明褐色	不良	87-11339 92-2142
311	ST026 西側墳丘 No. 15	土師器 高杯	杯部径：18.3 器高：14.4 脚端部径：13.2	口縁部を約1/3，脚裾部を約1/3欠損する。胎土中に砂粒をほとんど含まない。	赤褐色	良好	87-12411 92-2153
312	ST026 西側墳丘 No. 14	土師器 高杯	杯部径：16.2 器高：12.9 脚端部径：13.0	杯部を約1/2，脚裾部を約1/3欠損する。胎土中に砂粒をほとんど含まない。	赤褐色	良好	87-12412 92-2154
68 376	ST027 墓道	須恵器 杯蓋	復元口径：13.0 器高：3.5	天井頂部を欠損し，約1/4が残存する。天井部は回転ヘラケズリ，口縁部～天井部内面にかけてヨコナデ調整を行う。ヘラ記号あり。胎土中に径1～2㎜の砂粒を含む。	茶がかった灰色	普通	87-11422
377	ST027 墓道	須恵器 杯蓋	復元口径：11.2 器高：3.9	約1/4が残存する。胎土中に径1～3㎜の砂粒を含む。天井部は回転ヘラケズリを行う。ヘラ記号あり。	灰白色	普通	87-11423
378	ST027 墓道	須恵器 杯身	復元口径：12.4 残存器高：3.0 立上り部高：1.0	口縁部の約1/5が残存する。胎土中に径1～2㎜の砂粒を含む。 内外面ともヨコナデ調整を行う。	茶白色	普通	87-11420
379	ST027 墓道	須恵器 杯身	口径：10.6 器高：3.6 立上り部高：0.85	約1/2が残存する。胎土中に径1～3㎜の砂粒を含む。底部は回転ヘラケズリ。	灰色	普通	87-11641
380	ST027 西側周溝	須恵器 杯身	口径：11.7 器高：4.4 立上り部高：1.35	口縁部の一部を欠損する。胎土中に径1～3㎜の砂粒を含む。底部は回転ヘラケズリ。	灰色	普通	87-11419
381	ST027 西側周溝	須恵器 杯身	口径：11.2 器高：2.4 立上り部高：1.4	約3/5が残存するが，焼成時における歪みが大きい。胎土中に径1～2㎜の砂粒を含む。底部は回転ヘラケズリ。	灰色	普通	87-11421
382	ST027 東側表土層	須恵器 高杯	復元口径：11.3 残存器高：3.2	脚部を欠損する。胎土中に径1㎜前後の砂粒を含む。	灰色	普通	87-11429
383	ST027 東側表土層	須恵器 高杯	口径：11.9 残存器高：3.7	脚部を欠損する。胎土中に径1㎜前後の砂粒を含む。	黄灰色	良好	87-11427
384	ST027 東側表土層	須恵器 高杯	口径：10.4 残存器高：3.6	脚部を欠損する。胎土中に径1㎜前後の砂粒を含む。	内面：灰色 外面：暗灰色	良好	87-11428

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	遺遺物登録番号 写真登録番号
68 385	ST027 周溝内 No. 10	須恵器 甕	残存器高：9.1	頸部～肩部の一部が残存する。胎土中に径2－3㎜の砂粒を含む。肩部外面は格子目タタキ，内面は平行タタキ。	灰褐色	良好	87-11430
386	ST027 周溝	土師器 高杯	残存器高：7.2	脚部上部，杯部下位が残存する。胎土中に径1－3㎜の砂粒を含む。脚部上位にハケメ調整を行う。	薄茶色	普通	87-11645
387	ST027 周溝	土師器 鉢	復元口径：6.4 残存器高：3.2	底部を欠損し，約1/6が残存する。胎土中に径1㎜前後の砂粒を含む。口縁部内外面ともヨコナデ，体部内外面ともナデ調整を行なう。	茶褐色	良好	87-11425
388	ST027 周溝内 No. 9	土師器 壷	復元口径：15.1 残存器高：5.5	胴下半部～底部にかけて約1/8が残存する。胎土中に径1－2㎜の砂粒を含む。内外面ともナデ調整を行なう。	茶白色	普通	87-11424
71 418	SD017 黒色埋土	須恵器 杯蓋	口径：15.0 器高：5.0	天井頂部を欠損し，約1/3が残存する。胎土中に径1－3㎜の砂粒を含む。口縁部と体部の境に沈線を持つ。天井部は回転ヘラケズリ。	灰白色	良好	87-11309
419	SD017 黒色埋土	須恵器 杯蓋	口径：12.4 器高：3.3	天井頂部を欠損し，約1/3が残存する。天井部は不定方向のナデ調整を行ない，ヘラ記号をもつ。胎土中に径1－3㎜の砂粒を含む。	灰黒色	普通	87-11308
420	SD017 黒色埋土	須恵器 杯蓋	口径：11.2 器高：2.3	ほぼ完形。天井部はナデ調整を行ない，ヘラ記号をもつ。 胎土中に径1－5㎜の砂粒を含む。	灰色	普通	87-11310 92-2012
421	SD017 黒色埋土	須恵器 杯身	口径：11.0 器高：3.85 立上り器高：0.9	約2/3が残存する。底部は回転ヘラケズリ。体部にヘラ記号あり。胎土中に径1－3㎜の砂粒を含む。	内面： 灰色 外面： 灰黄色 灰白色	普通	87-11311 92-2013
422	SD017 黒色埋土	須恵器 杯身	復元口径：8.2 器高：3.2 立上り器高：0.8	約1/4が残存する。底部はヘラ切り離し痕が残る回転ヘラケズリ，ヘラ記号あり。	内面： 灰茶色 外面： 濃灰色	普通	87-11226
423	SD017 黒色埋土	須恵器 杯身	残存器高：2.6	立上り部を欠損し，約2/3が残存する。底部はヘラ切離しで回転ヘラケズリを行なう。ヘラ記号あり。胎土中に径1－2㎜の砂粒をわずかに含む。	灰白色	普通	87-11320
424	SD017 黒色埋土	須恵器 高杯	復元口径：12.0 残存器高：3.3	脚部を欠損し杯部が約1/4残存する。胎土中に少量の砂粒を含む。	暗灰色	普通	87-11246
425	SD017 黒色埋土	須恵器 甕	復元口径：23.2 残存器高：7.7	口縁部～肩部にかけて約1/6が残存する。胎土中に径1－2㎜の砂粒を少量含む。肩部の外面はタタキ後カキメ，内面は同心円文のタタキを行なっている。	黒灰色 一部明灰色	普通	87-11249
426	SD017 黒色埋土	須恵器 甕	残存器高：9.0 胴部最大径：8.8	口縁部を欠損し，約2/3が残存する。胎土中に径1－2㎜の砂粒を含む。底部は回転ヘラケズリ。	灰色	普通	87-11314
427	SD017 黒色埋土	土師器 壷 (仮称壷)	口径：8.8 残存器高：10.8	口縁部～頸部にかけての約1/2が残存する。外面はヘラミガキで赤色顔料を塗布する。胎土中に径1－2㎜の砂粒を含む。	薄茶色	普通	87-11331
428	SD017 黒色埋土	土師器 高杯	復元口径：21.1 残存器高：4.5	脚部を欠損し，杯部の約1/4が残存する。胎土中に径1－5㎜の砂粒を含む。底部はヘラケズリを行ない，体部との境に沈線をもつ。	薄茶色	普通	87-11330

挿図番号 遺物番号	出土地点	種類 器種	法量cm	形態・調整等の特徴	色調	焼成	遺物登録番号 写真登録番号
71 429	SD017 黒色埋土	土師器 高杯	器高：5.5 脚裾部径：9.45	脚部の約3/4が残存する。胎土中に径1㎜前後の砂粒を含む。脚体部は内外面ともヘラケズリ，裾部は内外面ともヨコナデ調整を行う。	茶白色	普通	87-11328 92-2014
72 430	SD018	須恵器 高杯	脚裾部径：8.8 脚部高：3.55	脚部の約3/4が残存する。胎土中に径1㎜前後の砂粒を含む。	内面： 黄灰色 外面： 灰黒色	普通	87-11313

鈴熊（すずくま）遺跡

遺跡名：鈴熊遺跡（略号　SZK）
所在地：佐賀市久保泉町大字川久保字鈴熊

鈴　熊　遺　跡

Ⅰ　遺跡の概要

第２章で述べたように，当遺跡は肥前七隈の一つ鈴隈山西麓の標高40m前後の舌状丘陵上に立地している。南は佐賀平野が開け，西側も背後の金立山南麓が連なる以外は平野が広がり，西原遺跡，久保泉丸山遺跡などが隣接する。東側は，関行丸前方後円墳などのある若干の平野を挟んで神籠石で有名な帯隈山の他，早稲隈山や日の隈山が林立している。

調査の結果，当遺跡は縄文時代早～前期，晩期と古墳時代前～中期の遺跡であることがわかった。縄文時代早～前期は明確な遺構は検出されておらず押型文土器や曽畑式土器などが包含層や古墳の墳丘盛土などから出土したが，これらに加え南九州の塞ノ神式土器などが出土し注目される。一方，晩期では甕棺墓が唯一検出されており，貴重な例として重要である。なお，その他に調査中「３号集石」として命名されたものの残存状況が悪く実測図等の記録が取られず，出土遺物のみが報告される遺構もある。

古墳時代では，竪穴式石室，竪穴系横口式石室，横穴式石室，環状配石墓，石棺墓，土壙などが検出されたがいずれも古墳時代初頭から後期までまたがるもので貴重な遺構と言える。この中でSK010・014・016の土壙は古式土師器を出土し佐賀平野の基準資料として重要である。また，ST001古墳出土の須恵器や土師器も同じく初期須恵器段階の基準資料となるものである。遺構では，箱式石棺墓や環状配石墓，方墳（方形周溝墓），竪穴系横口式石室，横穴式石室などが，その他に調査区外まで分布するものがあるが，時代順に造営されており一単位の古墳群の成立展開を見るうえで貴重な例である。以上のうち古墳時代については，既に発掘調査担当者の蒲原宏行氏等により一部が紹介されている。すなわち，SK010・014の土師器は布留式古段階並行期の基準資料[注1]，ST001・002古墳出土須恵器は，陶邑産と福岡の朝倉産が共伴し概ね陶邑編年TK216～OK46段階とされる[注2]。また，古墳の中では，ST006環状配石墓を古墳時代初頭のものとして最古と考えられているが[注3]，ST001・002古墳などは横穴式石室に先行する５世紀後半代の竪穴系横口式石室として早くから紹介されている[注4]。

このように，正式な報告書の刊行以前から多くの資料が紹介されているが，それは，小遺跡とはいえ，当遺跡が佐賀平野の特に古墳時代の重要な資料を有していたためと考えられる。

(注)

1．蒲原宏行「佐賀県土器編年基準資料」『古墳時代前半期の古墳出土土器の検討』第Ⅱ分冊　埋蔵文化財研究会　1989年１月

同　「古墳時代初頭前後の土器編年－佐賀平野の場合－」『調査研究書』第16集　佐賀県立

博物館・佐賀県立美術館　1991年３月
2．蒲原宏行他「佐賀平野の初期須恵器・陶質土器」『古文化談叢』第15集　九州古文化研究会　1985年
3．蒲原宏行「鈴熊遺跡」『定型化する以前の墓制』第Ⅰ分冊　埋蔵文化財研究会　1988年８月
4．蒲原宏行「竪穴系横口式石室考」『古墳文化の新視角』雄山閣　1983年

Tab. 1　鈴熊遺跡遺構一覧表

No.	遺構名	遺構種別	形態	規模(m)	出土遺物	時代
1	ST001	古　墳	円　墳	径約10m	須恵器・土師器・ミニチュア土器・土製勾玉	古墳
2	ST002	〃	〃	径約10m	須恵器・鉄鏃	〃
3	ST003	〃	〃	径約10m	須恵器・土師器・鉄鏃	〃
4	ST004	〃	〃	径約13m	須恵器・土師器・鉄鏃	〃
5	ST005	〃	〃	径約８m		〃
6	ST006	〃 (環状配石墓)	〃	径約４～4.5m	須恵器・鉄器片	〃
7	SC007	箱式石棺墓				〃
8	SC008	〃				〃
9	SC009	〃				〃
10	SK010	土　壙	隅丸方形	2.2×2.3m	土師器	〃
11	ST011	古　墳	方　墳	一辺約4.4m	土師器・鉄鉾	〃
12	SD012	溝状遺構	弧　状	4.2×0.6m		〃
13	SJ013	甕棺墓		0.75×0.9m	縄文土器	縄文
14	SK014	土　壙	不整円形	(2.3)×2.9m	土師器	古墳
15	SX015	敷石遺構		１×1.5m		
16	SK016	土　壙	楕円形	１×0.7m	土師器・ミニチュア土器	古墳
17	ST017	古　墳	円　墳	径約８m		〃

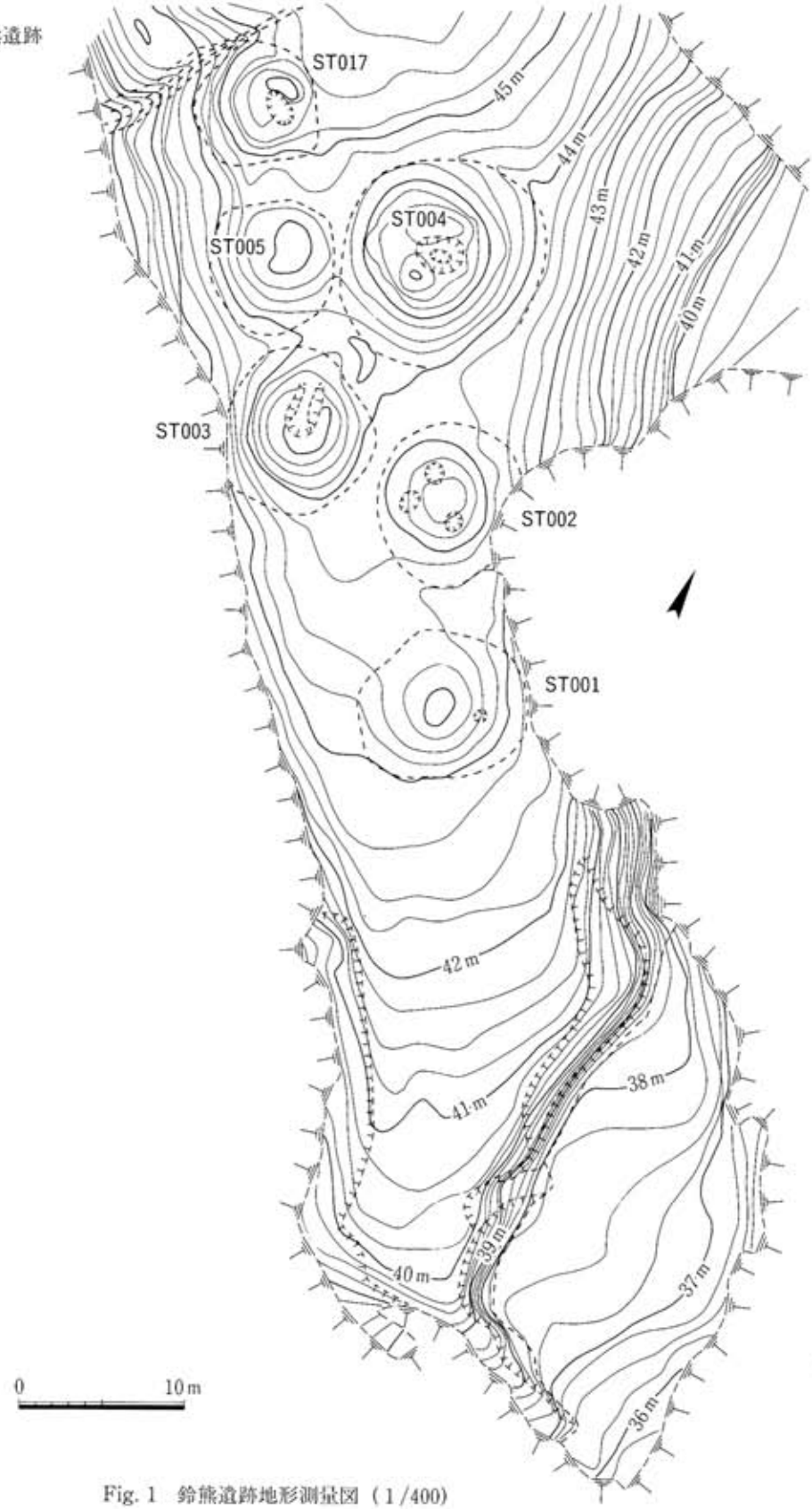


Fig. 1　鈴熊遺跡地形測量図（1/400）

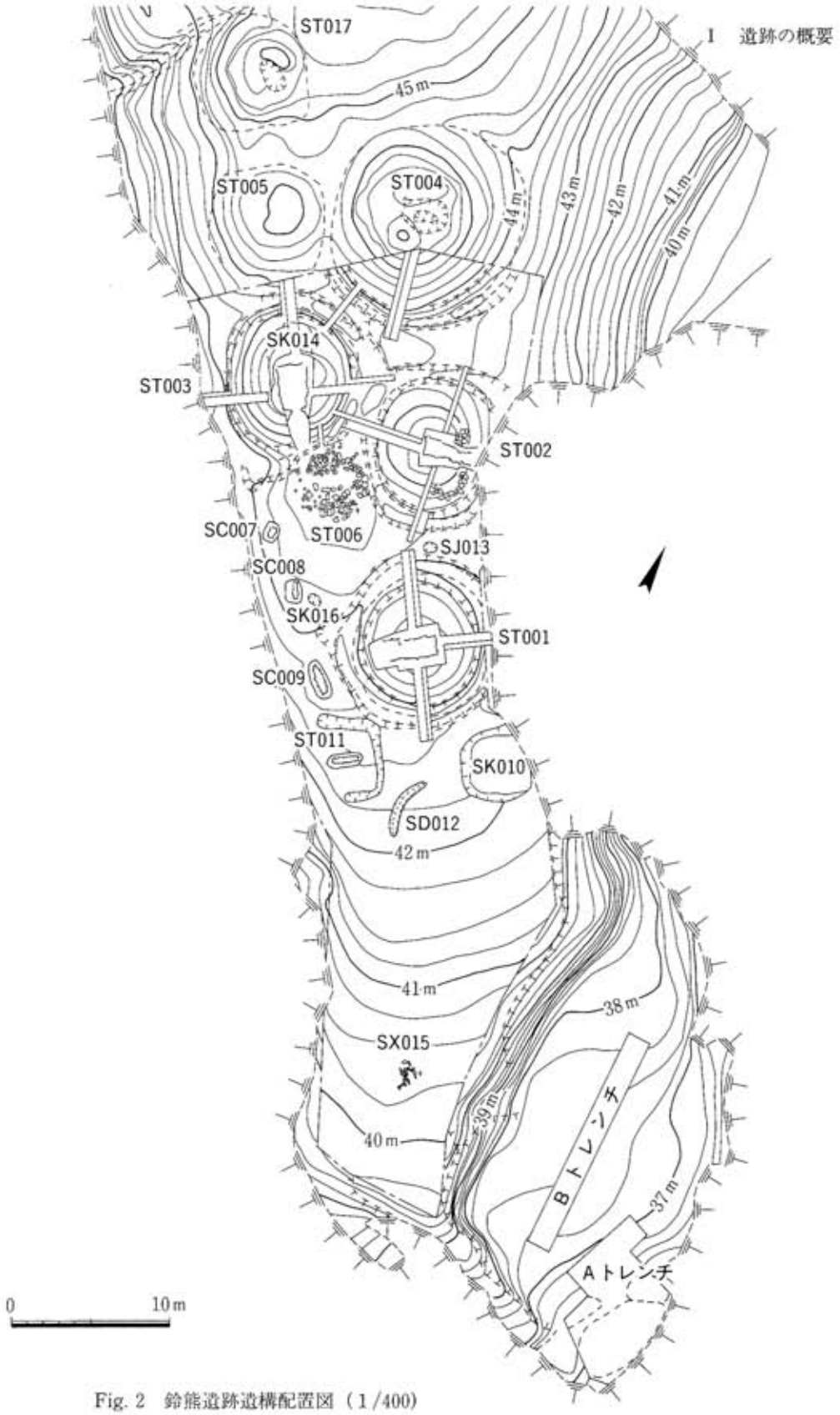


Fig. 2　鈴熊遺跡遺構配置図（1/400）

II 遺　　構

1．縄文時代の遺構

(1) 甕 棺 墓

SJ013甕棺墓（Fig. 3）

長径0.75m，短径0.9m，残存する深さ0.3mを測る平面楕円形の土壙に甕形土器が倒置した状況で検出された。土器は既にかなり削平された状況であり，残存高が20cmしかないが，土器自体は器高が約45cmに復元されるので土壙の深さは元来は少なくとも0.6mはあったと想定される。

縄文時代の明確な遺構はこれ1基だけであった。

また，「3号集石」と命名されたものの，残存状況が悪く遺構の記録がなされていないものもあるが，後述されるように，出土土器は，当遺構と類似しており，甕棺墓であった可能性が高い。

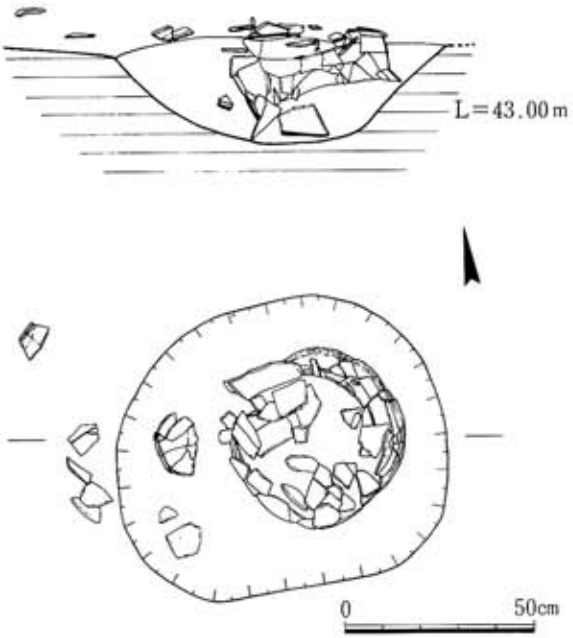


Fig. 3　SJ013甕棺墓（1/20）

2．古墳時代の遺構

(1) 古　　墳

ST001古墳（Fig. 4～9）

概要

調査区のほぼ中央に位置し，当遺跡の古墳群中最南端にあたる。北側にはST002古墳が隣接し，その間には縄文時代のSJ013甕棺墓が位置している。また，西側から南側にかけてもSK016，SC009，ST011，SD012，SK010等の古墳時代の墳墓や土壙が接して分布している。

墳丘・周溝

墳丘の東北側は崖の崩落により失われているが，その他は残っており，墳丘径約10mの円墳で，残存高は0.7～1.2mである。周溝は幅1.3～1.8m，深さ0.2～0.3mを測り概ね平面形が正円形を呈する。地山整形面の測量図と墳丘土層図によれば，まず地山面を水平に近く削平し次に墓壙を掘り，さらに石室を構築するとともに盛土を行い，そしてその後周溝を掘削して墳丘を整えていることがわかる。

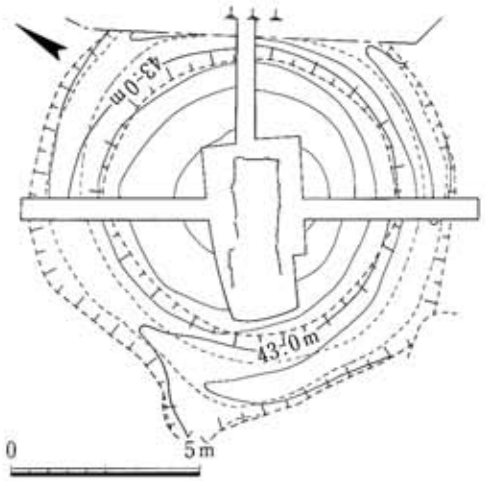


Fig. 4　ST001古墳墳丘測量図（1/200）

内部主体

南西に開口する竪穴系横口式石室である。主軸方位はS58°Wである。墓壙は平面形が2.95m×2.2mで，深さは0.1～0.2mと浅く，これに腰石を設置するために0.2m程度さらに掘り込んでいる。また，玄門側には短い墓道が付けられる。全長は3.4mである。天井石は0.7～0.8m×0.8mで厚さ0.3m程の ほぼ同規模の板石が2石残っていたが，玄室内に大きく落ち込んでおり，今回の実測図では省略した。

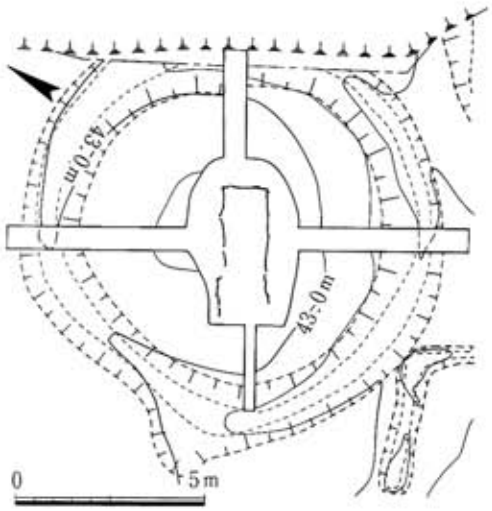
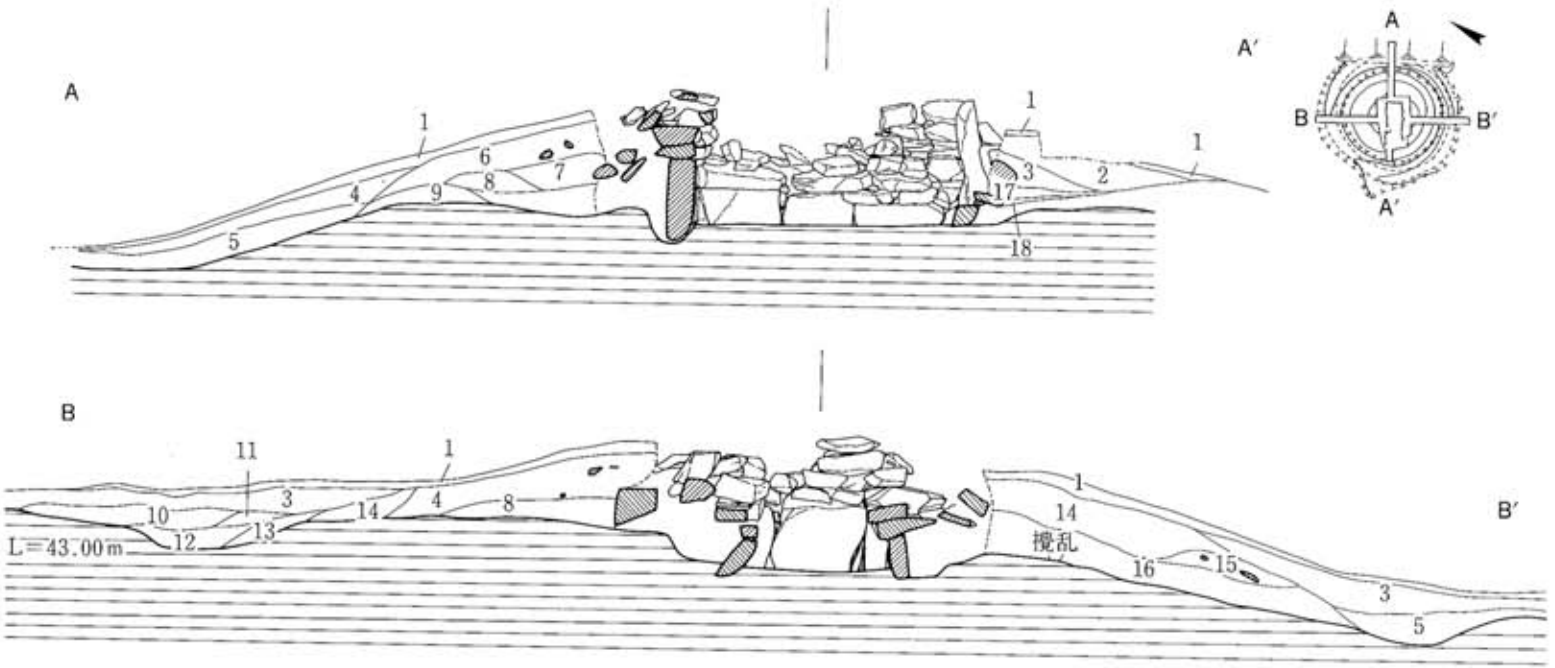


Fig. 5　ST001古墳地山整形面測量図（1/200）

玄室は長さ2.04m，前幅1.04m，奥幅1.12mを測り，ほぼ長方形の平面形を呈する。天井石が落ち込み側壁が破壊されていたものの，側壁の残存高は0.94mで，後述する玄門立石よりそれ程高くはならないと想定されるので天井部の高さは1mを若干越える程度と考えられる。両側壁は最下段に幅0.4～0.9m，高さ0.3～0.6m程度の比較的偏平な石を腰石として3石ずつ用い，それより上位には幅0.2～0.5m，高さ0.1～0.2m程度の石を平積みする。奥壁もほぼ同様であるが，最下段に高さ0.6m程度の偏平な石を3石立て，その上に側壁と同程度の規模の石を平積みする。

玄門部は左右1石ずつの玄門立石と框石から構成される。玄門立石のうち右側は高さ1m弱程度，左側は高さ0.7m程の偏平な石である。框石は長さ0.2～0.3mの角礫を3石横に並べて作られているが，この部分が玄室床面より約0.2m高くなり，いわゆる段構造をなす。前庭側壁は



1 表土
2 茶褐色砂質粘土
3 淡褐色砂質粘土
4 淡黄褐色砂質粘土
5 黒褐色砂質粘土
6 黄褐色砂質粘土
7 黄褐色砂質粘土(6よりやや暗い)
8 褐色砂質粘土
9 明黄褐色砂質土
10 黒色粘土
11 灰褐色砂質粘土
12 暗灰褐色砂質粘土
13 淡褐色砂質粘土(3より明るい)
14 明褐色砂質粘土
15 暗褐色砂質粘土
16 14+15
17 赤褐色砂質粘土
18 赤褐色粘質土

0 2m

Fig. 6 ST001古墳墳丘土層図 (1/60)

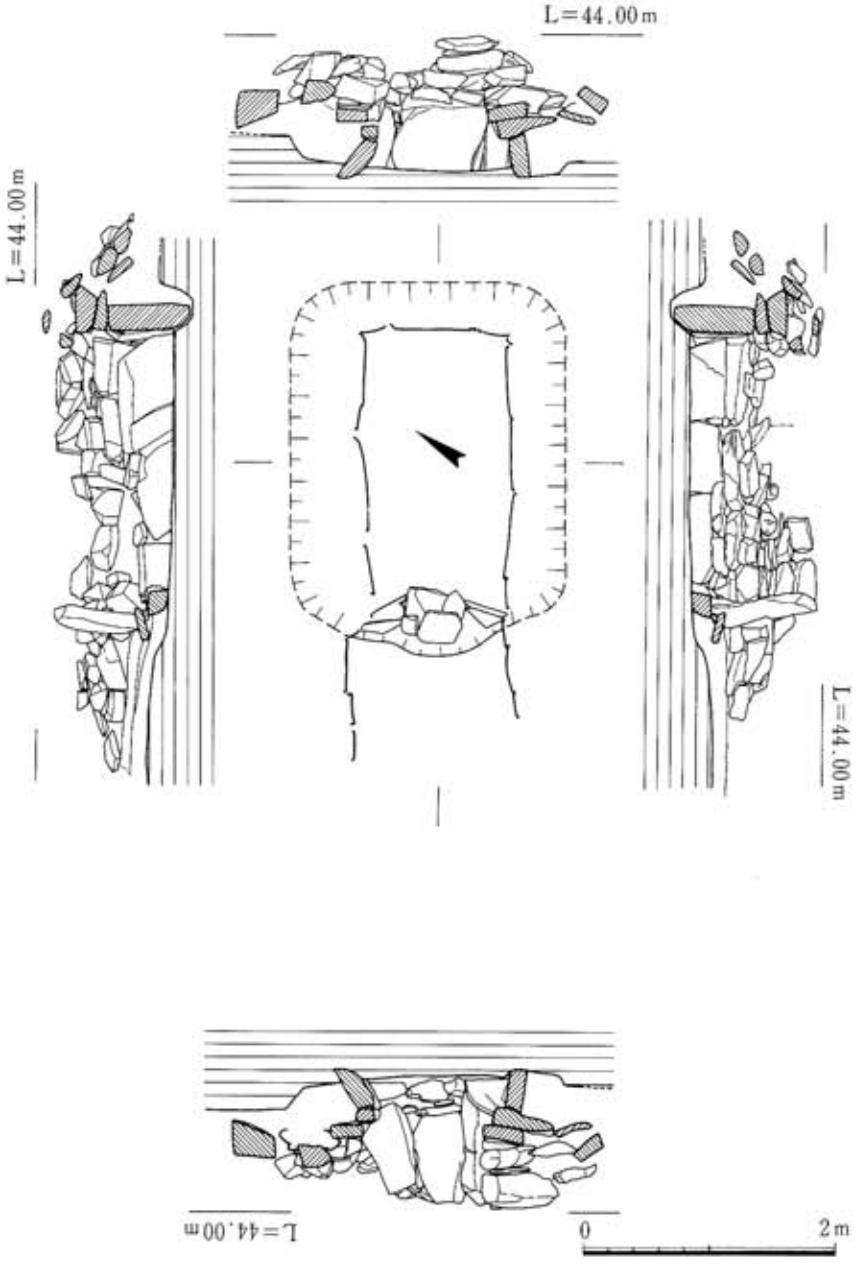


Fig. 7　ST001古墳石室（1/60）

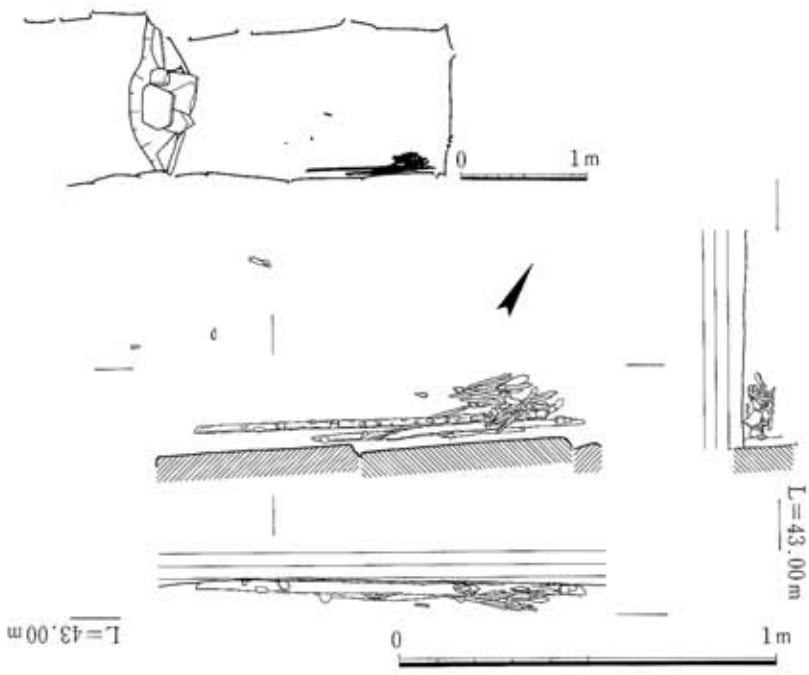


Fig. 8　ST001古墳石室鉄器出土状況（1/60, 1/20）

長さが左側が1.0m, 右側が0.8mで後者が玄室側壁からまっすぐつながるのに対して, 前者は約0.1m外部に広がる形態である。石材は両前庭側壁とも最下段に0.2×0.4m程の比較的大形の角礫を使用し, その上にはそれより小形の石を用いているが, 玄門立石に接する部分は3段に積み前方に行くにしたがい次第に上部が省略され低くなり前端部は1段だけになる。床面は地山上に0.2m程の置土をして床面を作るが, 前面に行くにしたがい高くなるものの傾斜はきわめて緩い。

玄門部には閉塞石が残っていた。閉塞石は最も玄室に近い部分に0.4×0.7mの板石を左右の玄門立石に立てかけ, それより前面には0.1×0.2m程の角礫を積んでいる。

遺物の出土状況

玄室の東南部隅の床面上より鉄剣と直刀が1口ずつと鉄鏃がまとまって出土した。また, 墳丘上や周溝中からも須恵器や土師器が出土したが, 周溝からは玄室の右側にあたる周溝A区, 左側にあたる周溝B区, 玄室左奥側の周溝C区より須恵器・土師器がまとまって出土した。この中ではB区が最も遺物量が多く周溝のほぼ4分の1の範囲に分布しており, 須恵器甕, 甑等が出土した。これらは周溝底より約0.1m高い位置に集中しており周溝がある程度埋った段階の所産と考えられる。

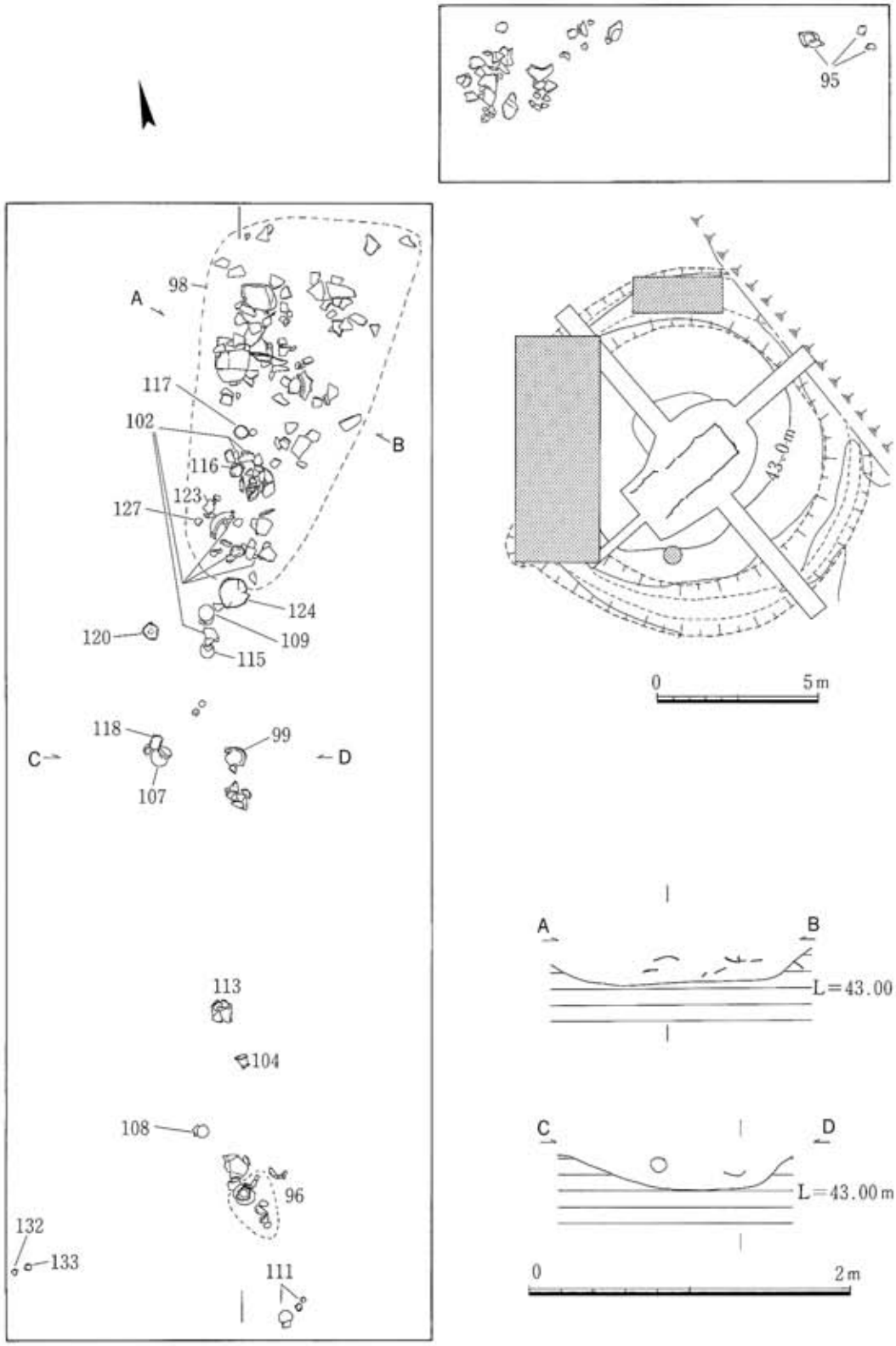


Fig. 9　ST001古墳周溝内遺物出土状況（1/200，1/40）

ST002古墳（Fig. 10～13）

概要

ST001古墳の北側に位置し，西側にはST003古墳が隣接する。また，本墳とST003古墳との中間にはST006環状配石墓が両者に挟まれるように隣接する。周溝の調査および出土遺物からST003古墳より古いことがわかったが，ST006古墳よりは新しいと考えられる。

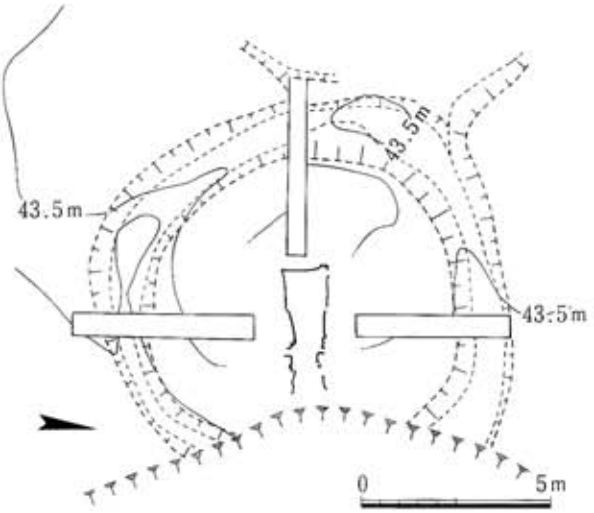


Fig. 10　ST002古墳墳丘測量図（1/200）

墳丘・周溝

墳丘は既に陥没した状況であり，天井石は石室内に落ち込んでいた1石のみであった。墳丘径約10m，残存する墳丘高約0.8mの円墳である。周溝は幅1.7～2.4mで，深さが0.3～0.7mを測る。

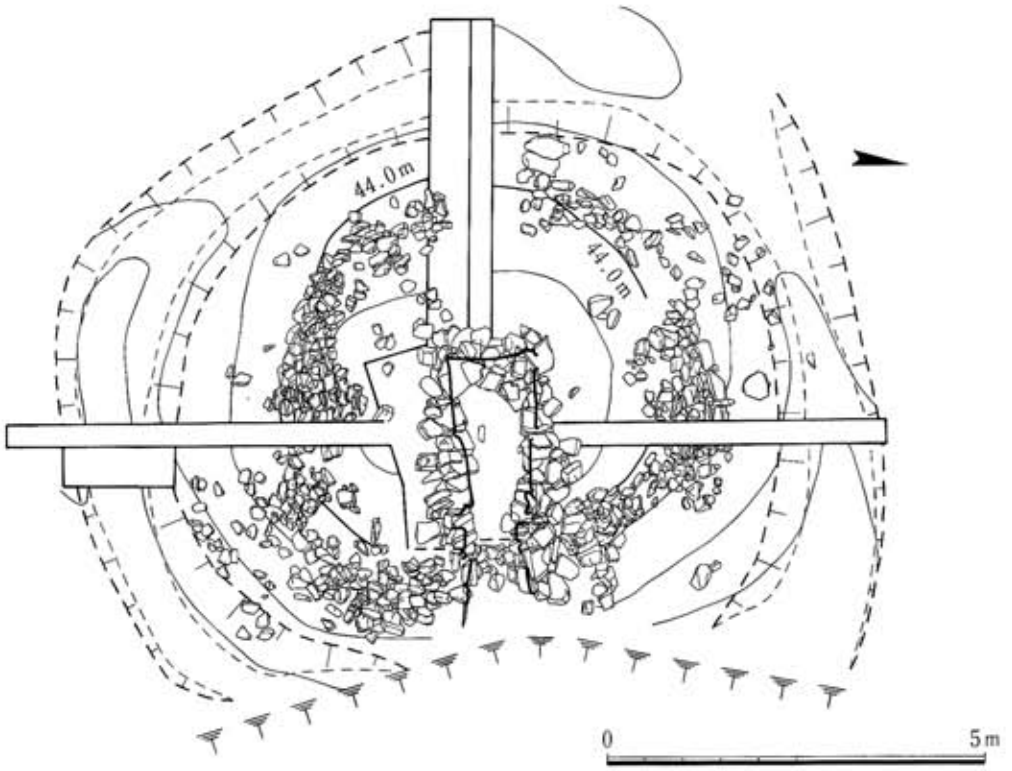


Fig. 11　ST002古墳墳丘測量図（1/100）

また，墳丘外表には葺石が検出された。葺石は墳丘のほぼ全域に残っていたものの残存状況は良好とはいえず，特に裾部についてはほとんどが流失していた。しかしながらその中でも墓道に向かって左側の墳丘A区，石室左奥の墳丘B区および石室右側の墳丘C区とD区の中間部の3カ所が比較的良好に残存していた。これらの部分にはいわゆる「界石列」[(1)]が観察されるがそれぞれの幅は，計測できるA区で1.0m，D区で1.2mである。墳丘の土層調査によれば，旧地表面を削平して墓壙を穿つのに適当な平坦面をまず作り，その後砂質の粘土を主体に墳丘を作っている。

周溝は崖に迫られた墓道前面は消失していた。また，ST003古墳と重複する西側部分はST003古墳の周溝構築時に一部破壊されていた。その他はほぼ円形の平面形で残存していた。

内部主体

東に開口する無袖の竪穴系横口式石室である。主軸の方位はN85°Eである。墓壙は丘陵尾根頂部側にあたる奥壁側で深さ約0.4m程掘削しているが，墓道側は掘り切って作っている。規模は幅約2.85m，長さ約4mを測る。天井石は玄門側の1石のみがずれ落ちる直前で残っていたが他は消失していた。

玄室の規模は，玄室長2.36m，玄室幅は前部で0.7m，奥壁側で1.14mを測る。玄室高は，玄室前部で約1m，奥壁付近で約1.2mと推定される。両側壁は，最下段は幅0.9～1.0m，高さ0.4～0.6m程の腰石を置き，それより上2段は幅0.4～0.8m，高さ0.1～0.2m程の石を平積みするが，それより上位は人頭大の塊石積みである。奥壁は最下段に幅1m，高さ0.6mの1石を置き，それより上位には幅0.2～0.4mの側壁より小形の石を選び積み上げている。側壁との両隅には「力石」が用いられていた。床面は，敷石や置土等は確認されず直接地山面が利用されていた。

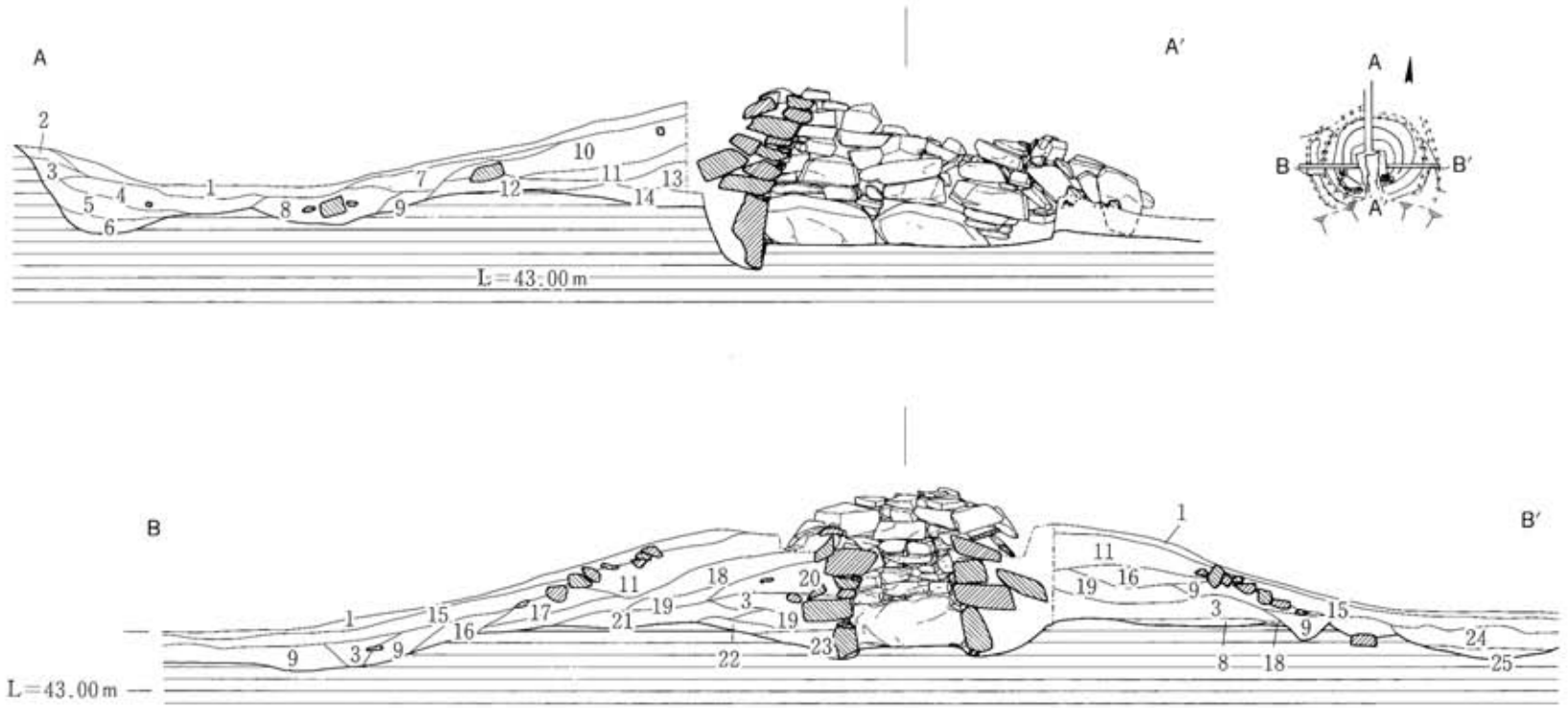
横口部は無袖である。また框石がなく，地山上に約0.4mの厚さの置土を施して墓道床面とし段上構造を作るが，墓道の先端はそのまま下降していた。前庭側壁は左壁で長さ約1m，右壁で約0.6mを測り先端に向かって開いている。いずれも0.3×0.6m程度の板石を縦置きして一段積んでいるが，それ以上にも積んであったかは不明確である。

遺物の出土状況

玄室内からは右壁に沿って鉄鏃4本が床面から出土した。

周溝内からは須恵器𤭯，壺等が出土した。

註(1)　「久保泉丸山遺跡」佐賀県教育委員会　1986年



1 表土
2 明茶褐色砂質土
3 暗褐色砂質粘土
4 黒色砂質粘土
5 暗褐色砂質粘土(3よりやや暗い)
6 灰褐色砂質土
7 暗黄褐色砂質土
8 黒褐色砂質粘土
9 褐色砂質粘土
10 黄褐色砂質粘土(やや赤味をおびる)
11 淡茶褐色砂質粘土
12 淡褐色砂質粘土
13 11＋5
14 暗褐色砂質粘土(5よりやや暗い。旧表土)
15 淡褐色砂質土
16 明褐色砂質粘土
17 明褐色砂質粘土(16より明るい)
18 茶褐色砂質粘土
19 暗茶褐色砂質粘土
20 暗茶褐色砂質粘土(19よりやや暗い)
21 褐色砂質粘土(9よりやや明るい)
22 淡褐色砂質粘土(15より暗く砂粒を多く含む)
23 淡褐色砂質粘土(22より暗い)
24 黒色粘質土
25 暗灰褐色砂質土

Fig. 12 ST002古墳墳丘土層図 (1/60)

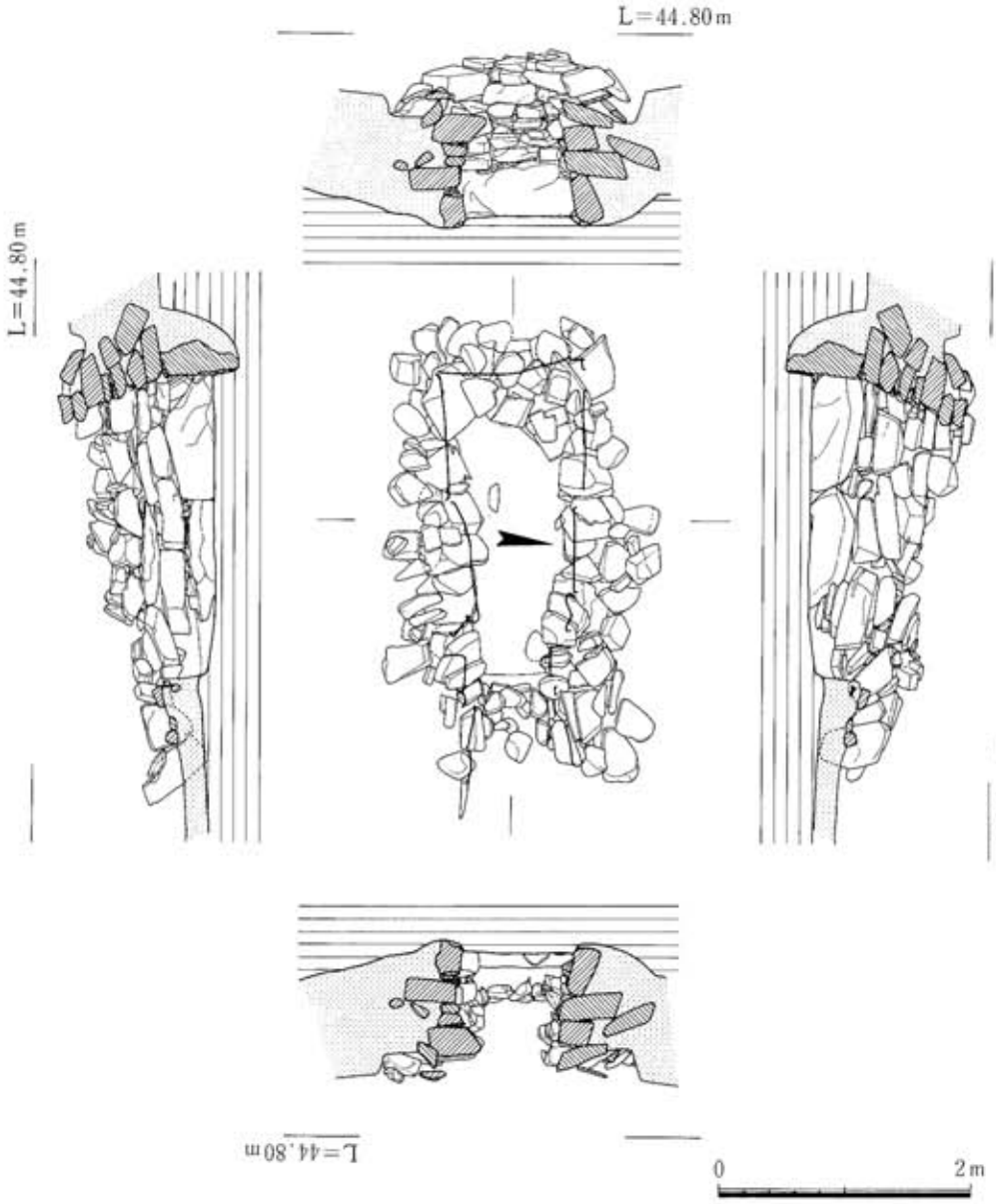


Fig. 13　ST002古墳石室（1/60）

ST003古墳（Fig. 14～19）

概要

調査区の北西側に位置し，東側のST002古墳，北側のST004古墳および北西側のST005古墳等と周溝が接している。周溝の調査により，これら３基のいずれよりも新しく構築されていることが判明した。また，石室奥壁付近の墳丘内より古式土師器を出土する土壙SK014が検出された。

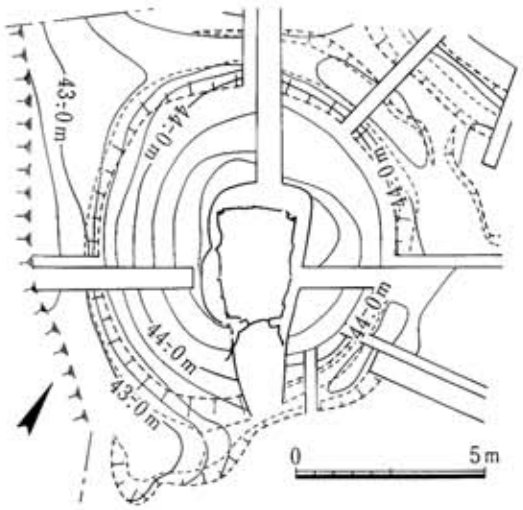


Fig. 14　ST003古墳墳丘測量図（1/200）

墳丘・周溝

墳丘は径約10mを測る円墳で，残存する高さは1.0mである。周溝は崩壊した崖に面する西側は明確でないがその他は比較的良好に残存する。最も状況の良い北側では幅1.7m，深さ0.4mを測る。地山整形面の状況を見ると石室の両脇，すなわち東西側には墓壙から１～２mの範囲で旧表土が残っているので墳丘の中心付近はそれほど手を加えていない。盛土は石室構築にともなう一次盛土と，その後墳丘を整えた二次盛土が観察される。周溝は二次盛土を積んだ後に作られている。

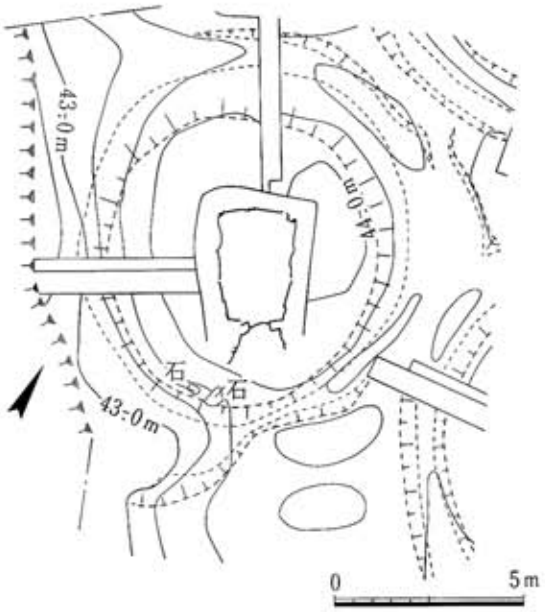
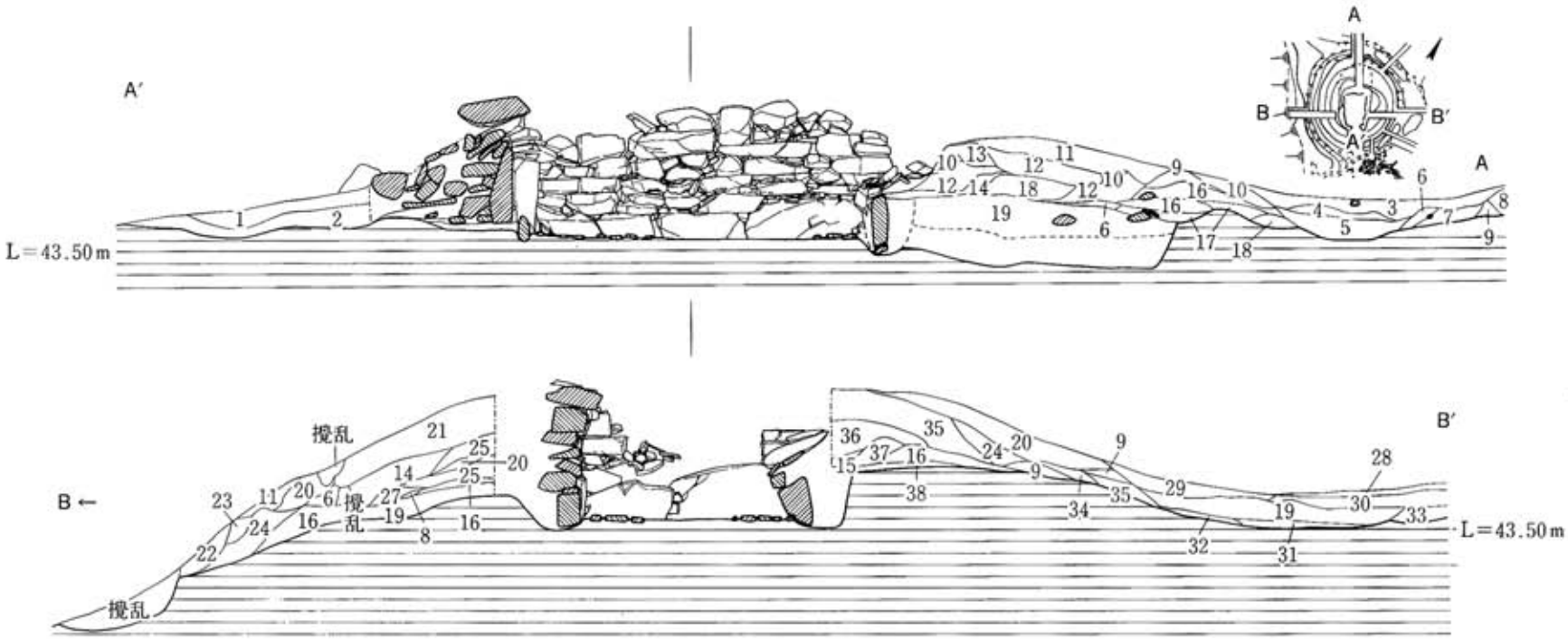


Fig. 15　ST003古墳地山整形面測量図（1/200）

内部主体

南東に開口する横穴式石室である。天井部は既に崩壊し天井石および玄室壁体の上部については失われていた。主軸方位はS29°Eである。全長は4.0mを測り，やや胴張りの羽子板形の平面形の玄室に短い「ハ」の字形に開く前庭側壁が付設される。

玄室は長さ2.98m，前幅1.42m，奥幅2.4mを測る。比較的残存良好な玄室左壁が高さ1.2mであるが，最下段には幅0.5～1.0m，高さ0.3～0.4m程の腰石を配置しその上に幅0.2～0.8m，高



1 黒褐色砂質土
2 暗褐色砂質土
3 暗茶褐色砂質土
4 1＋3
5 黒色粘質土
6 灰褐色砂質粘土
7 灰茶褐色砂質粘土
8 褐色砂質粘土
9 淡褐色砂質粘土
10 褐色砂質粘土(8よりやや暗い)
11 黄褐色砂質土
12 明褐色砂質土
13 赤褐色砂質土
14 茶褐色砂質土
15 暗茶褐色砂質粘土
16 暗褐色砂質粘土
17 暗褐色砂質粘土(16よりやや茶味を帯びる)
18 黒褐色砂質粘土
19 黒褐色粘質土
20 明褐色砂質粘土
21 明茶褐色砂質粘土
22 暗黄褐色砂質土
23 淡褐色砂質土
24 褐色砂質土
25 茶褐色砂質粘土(14よりやや明るい)
26 淡暗褐色砂質粘土
27 明赤茶褐色砂質粘土
28 表土
29 暗黄褐色砂質粘土
30 暗褐色土＋褐色土(砂質)
31 灰褐色砂質土(黄褐色混)
32 淡灰褐色砂質粘土
33 灰黒色砂質粘土
34 淡褐色砂質粘土(9よりやや暗い)
35 黄褐色砂質土(砂流礫を多く含む)
36 淡褐色砂質粘土(9より砂流礫を多く含む)
37 褐色砂質粘土(8よりやや赤味を帯びる)
38 黒色粘質土(旧表土)
39 淡黄褐色砂質粘土
40 黄褐色砂質粘土
41 黒色砂質粘土(暗褐色土混)

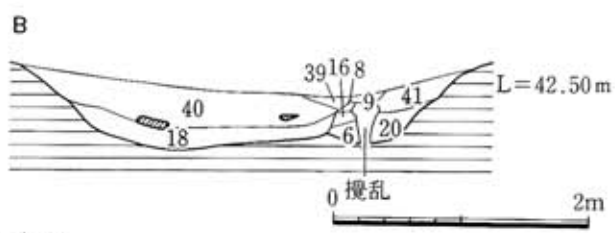


Fig. 16 ST003古墳墳丘土層図 (1/60)

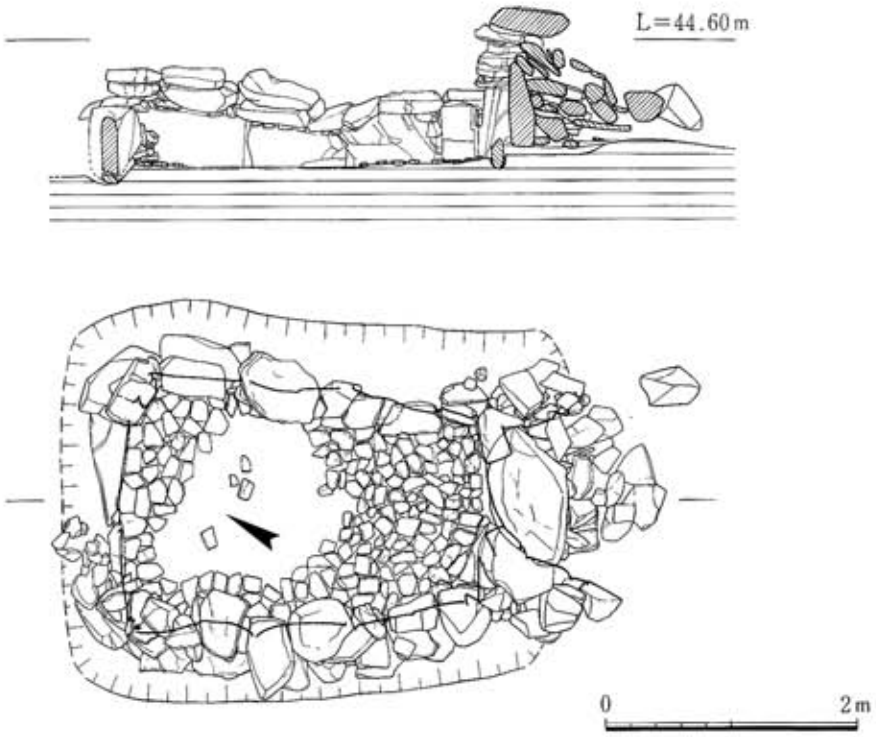


Fig. 17　ST003古墳石室平面および閉塞状況（1/60）

さ0.1～0.2m程度の石を平積みする。残存状況は悪いが右壁もほぼ同様と考えられる。奥壁も側壁の腰石と同程度の石を2石最下段に配置するがそれ以上はほぼ崩壊していた。ただ，左隅にいわゆる「力石」が3段残っていた。床面には径0.1m前後の偏平な板石によって敷石が施されるが，一部は撹乱により失われていた。

玄門部は幅0.4m，高さ0.7～0.8mの偏平な板石を左右に立てて玄門立石をつくるが，いずれも偏平な小形の板石を4～5段積み上げた上に楣石を置き玄門部の拡大を計っているものの前壁の存在は不明である。また，床面には框石を配置する。玄門部は幅0.5m，高さ0.86mである。

前庭部は長さ1.2mを測るが，幅は玄門側が0.9m，前方側が1.4mと前方に短く開いている。前庭側石は玄室側壁の石材よりやや小形の幅0.2～0.5m，高さ0.1～0.15m程の塊石を用いてつくるが，前方に行くにしたがい上縁部が下がる。また，床面は前庭部の入口から奥に向かって約0.1m下がるが，ST001，002古墳同様に床面との落差は小さい。

玄門部から前庭部にかけて閉塞施設が残っていた。閉塞は幅0.6m，高さ0.7mの板石1枚を玄門立石に外方向から立てかけ，さらにその後外部方向に数10cm大の塊石ないし板石を積上げることにより行っている。残存状況は楣石の下面まで石が詰まっており，良好である。

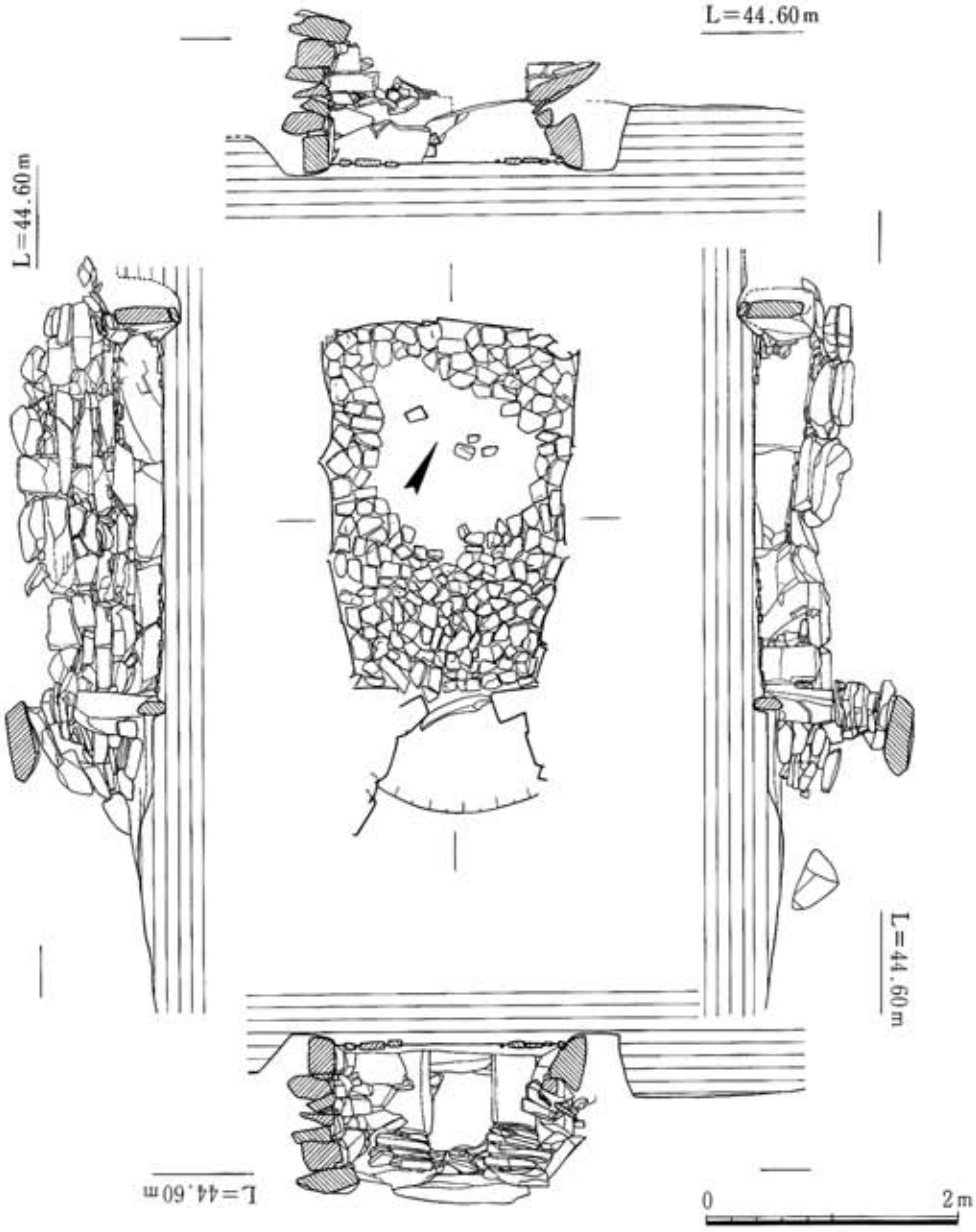


Fig. 18　ST003古墳石室（1/60）

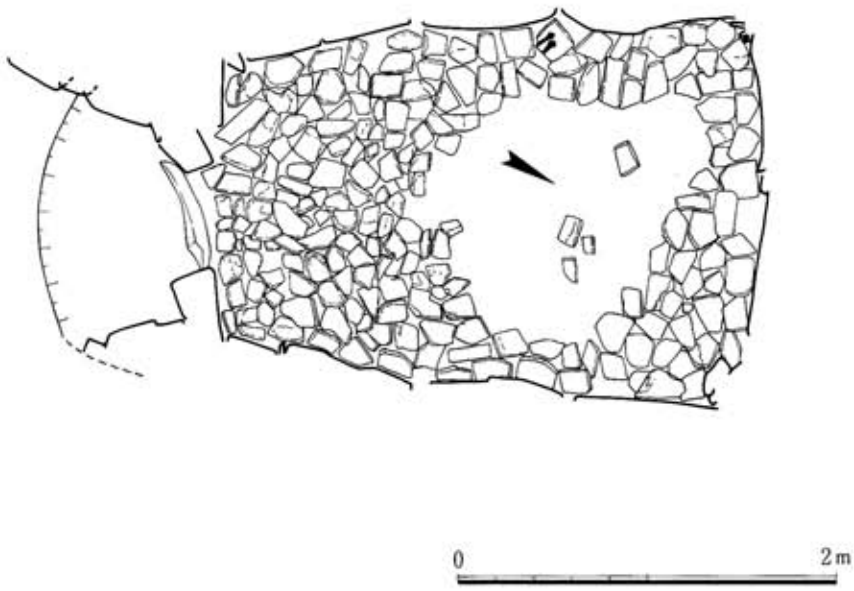


Fig. 19　ST003古墳石室内遺物出土状況（1/40）

遺物の出土状況

遺物は玄室内，周溝内，墳丘中から出土した。玄室内は大きく攪乱されていたこともあって遺物の出土は少量であった。玄室左側壁下の床面敷石上より鉄鏃2本が先端を奥壁側に向け原位置で出土した。また，玄室埋土中より土師器鉢，小形甕等が検出された。このうち，土師器については元来玄室にあったものか否かは不明である。

一方周溝では，墓道の左右に集中し，墓道左側の周溝A区からは鉄鏃，須恵器坏蓋，身，甕等が，右側の周溝D区からは須恵器短頸壺やその他の土器が出土したが石室の背後にあたる周溝B･C区からまとまった出土はなかった。墳丘からは本古墳に係わる遺物というよりも，墳丘下部より検出された土壙SK014に関連する壺，甕，高坏，器台等，古式の土師器が出土した。また、墳丘北西部の盛土最下層より鋳造鉄斧1個がほぼ水平を保って出土したが、これも本来SK014土壙に伴う可能性がある。

ST004古墳（Fig. 20～23）

概要

調査区の北端に位置するが，墳丘の約３分の２は調査区外にあたり，この部分については石室の実測と現状での墳丘測量のみを実施した。先述のST002，003古墳と南側で近接するが，調査区外の西側にもST005，017の墳丘径約10mを測る２基の円墳が隣接している。

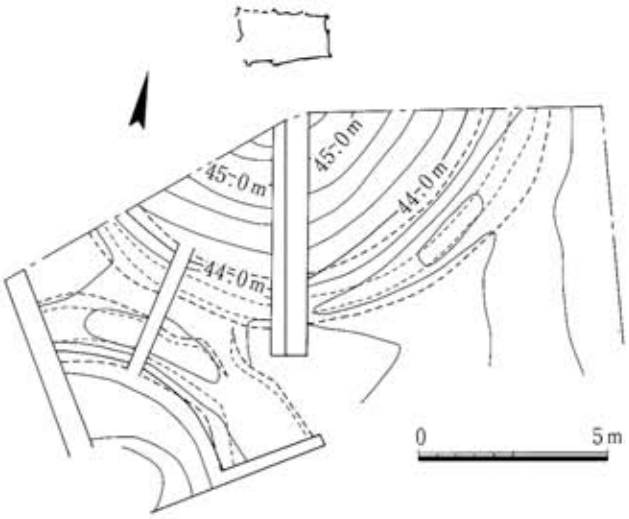


Fig. 20　ST004古墳墳丘測量図（１/200）

墳丘・周溝

墳丘は径約13m，残存の高さ約２mの円墳である。当古墳群中では最も墳丘規模が大きい。周溝は調査区内にあたる南側部分で判断すると幅2.0m，深さ0.6mである。周溝の調査により南側のST003古墳より古いことがわかった。

Fig. 21　ST004古墳地山整形面測量図（１/200）

内部主体

東に開口する竪穴系横口式石室である。主軸の方位はN70°Eである。石室は調査区外であるため，発掘は実施せず，開口した奥壁から進入して玄室部分の実測のみの調査を実施した。したがって前庭および墓道については未調査である。玄室は，右側壁と奥壁の腰石１枚ずつが倒れていた。玄室長2.8m，玄室幅は前部で1.04m，奥壁側で1.36mを測る。玄室高は，側壁が相当はらんでおり，天井部までの計測が不能であったが前部での高さは1.38mである。側壁は，最下段は幅0.5～0.75m，高さ0.4～0.8m程の腰石を置き，それ以上は幅0.2～0.7m，高さ0.1～0.2m程の石を平積みするが，上位に比較的大形の石を配置する傾向がある。奥壁も基本的には側壁の積み方と同様である。側壁，奥壁ともに床面から70～71°程の傾斜をもって立ち上がり，持ち送りを行っている。

床面は，既に地山面まで攪乱されていたが，框石の高さなどから0.1m程度の置土乃至敷石が

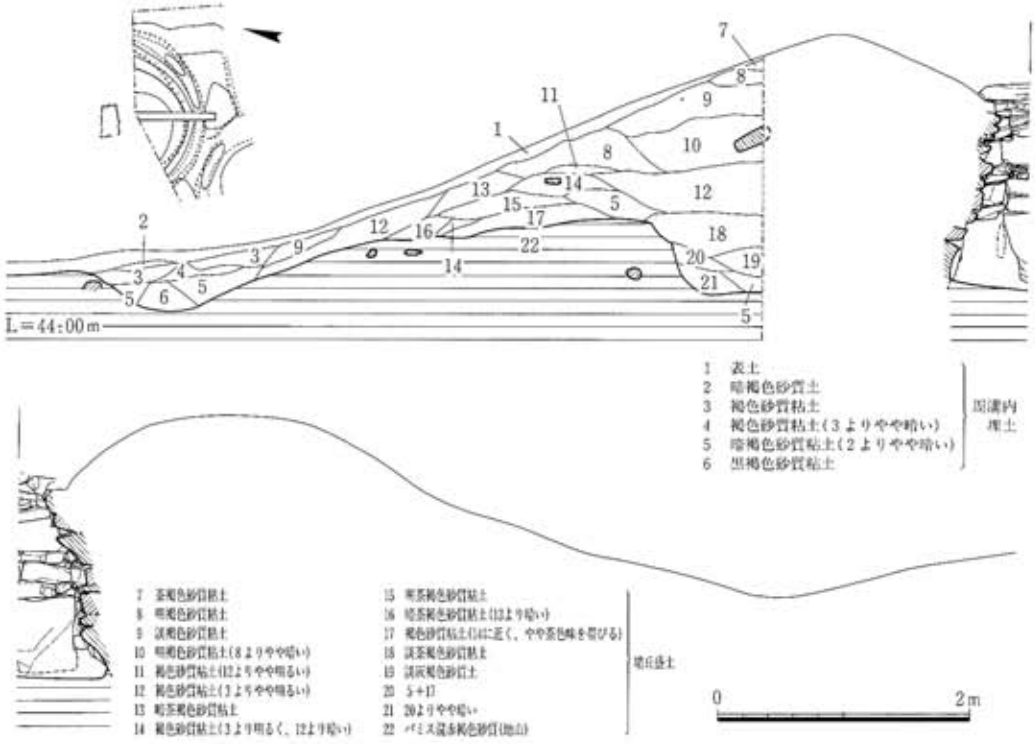


Fig. 22　ST004古墳墳丘土層図（1/60）

施されていたと考えられる。

横口部は，まず2石からなる框石を玄室側に置き，それよりひとつ前方両側に玄門立石を配置する。閉塞は下方に偏平な小形の石を高さ0.4m程平積みするが，それ以上は高さ0.5m程度の偏平な板石3枚を立てかけることによって行っている。これより前方については未調査であり，前庭側壁や墓道については不明である。

遺物の出土状況

墳丘盛土中から土師器の小形壷1，鉄鏃1が出土しているが，小形壷は地山整形面からの出土である。

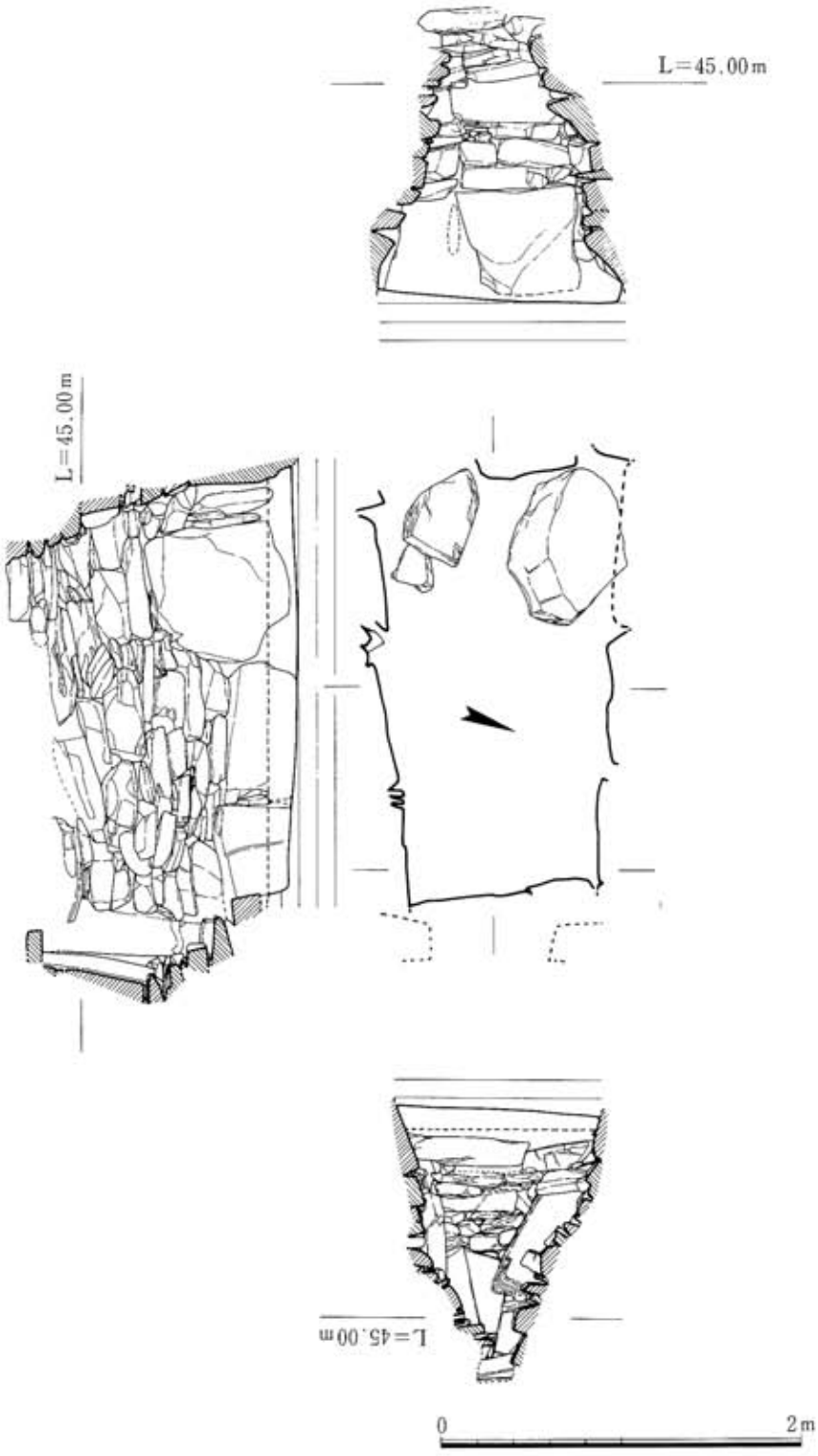


Fig. 23　ST004古墳石室（1/40）

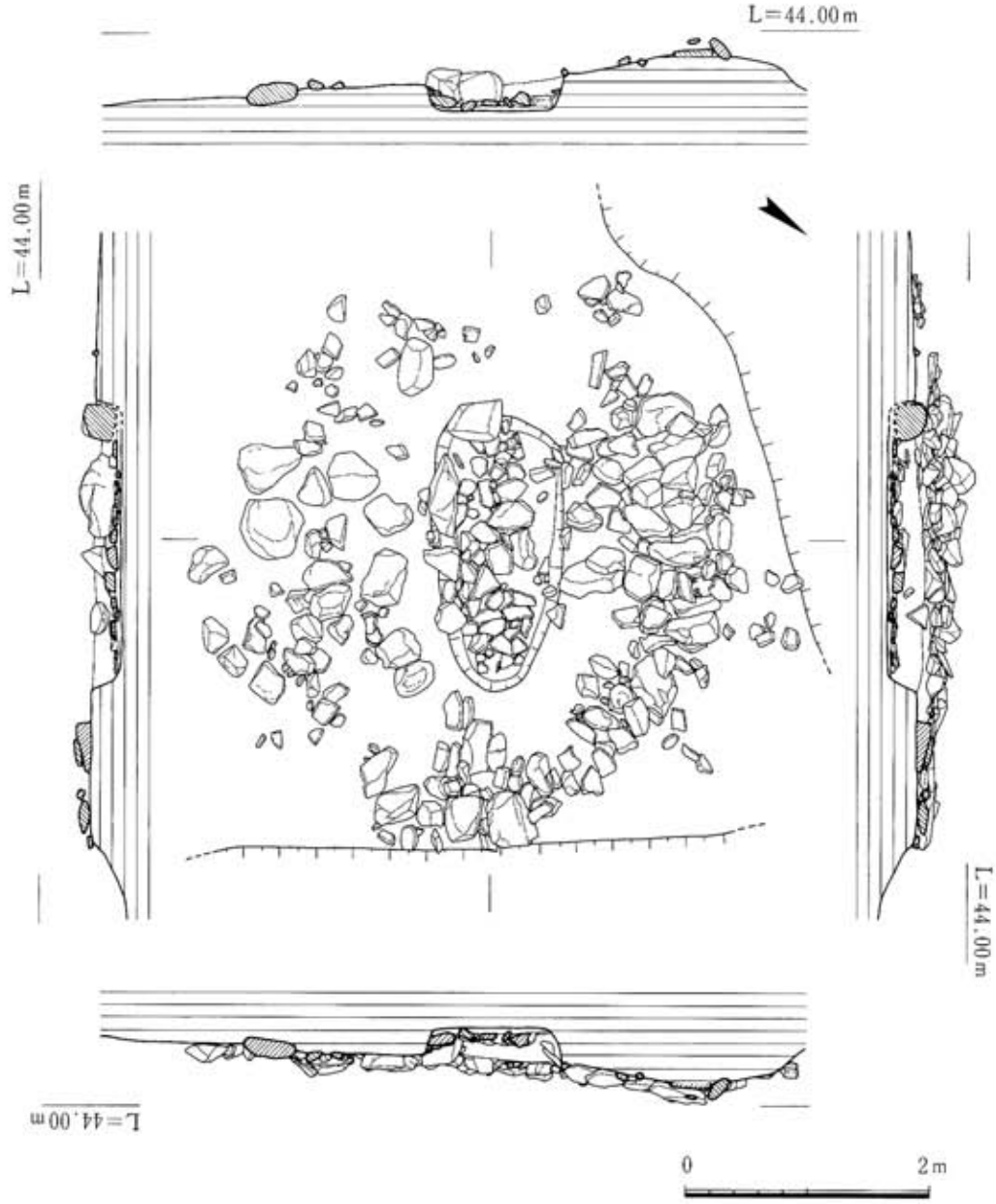


Fig. 24　ST006古墳（1/60）

ST006古墳（Fig. 24）

概要

土壙墓を内部主体にし，その周囲に礫を環状に配置する墳墓である。ST003古墳の南，ST002古墳の西に接しており，南西から南側にかけてSC007・008の箱式石棺墓が分布する。

墳丘・周溝

盛土によってつくられた墳丘ではなく，土壙墓の堀方のレベルとほぼ同高の地山上に径約4mで環状に0.2～0.3m大の礫を配置する。この配石の残存状況は良好ではなく，北側の約3分の1だけが裾石を含めて残っているが，他の部分は礫が散在するのみである。ただし，土壙墓の中にも若干礫が落ち込んでいるので，環状の配石ではなく墓全体が礫で覆われていた可能性がある。周溝は確認されていない。

内部主体

長径2.2m，短径1.1m，深さ0.2mを測り，土壙墓と考えられる。平面形は南西側の小口が広く，北東側小口が狭い隅丸長方形である。ただし，墓壙の南隅と南東側の壁に接して置かれた塊石は原位置とも考えられ，単純に土壙墓とは断定できない部分もある。床面は地山上に置土をした上に比較的小形の板石を主体に用いて敷石をつくっている。

遺物の出土状況

土壙墓内の敷石上面より鉄製刀子1が，また北西側の敷石が薄くなった部分から坏身・短頸壷などの須恵器が出土したが，ST003古墳の周溝に接する環状配石やST004古墳墳丘より出土した破片と接合関係にあり，これらの遺物が本来ST003古墳にともなうものかどうか不明である。

ST011古墳（Fig. 25・26）

概要

調査区の中央部に位置し，北西方向から連続するSC007・008・009箱式石棺墓と並んでいる。また，ST001古墳の南にあたり，両者の周溝は接している。

墳丘・周溝

表土の直下より周溝および石棺蓋石が検出された状況であり，墳丘に盛土は確認されなかった。周溝は現状では平面形が西に開く「コ」の字形を呈するが，西側は崖に面しており，元来の平面形は方形を呈していた可能性もある。現状で墳丘の規模を計測すれば一辺が約4.6m，周溝の幅0.4～1.0m，周溝の深さ0.2mを測る。

内部主体

墓壙は隅丸長方形の平面形で長径2.2m，短径0.87m，深さ0.25mを測る。

内部主体は箱式石棺墓で，周溝のほぼ中央に位置し，主軸方位はN55°Eである。棺の規模は

長径1.63m，深さ0.2mであるが，幅は北西側が0.29m，南東側が0.21mで，北西側が広いものの中央部は0.33mを測り，胴張りの平面形を呈する。

棺材は偏平な板石であるが，両側石で小口石を挟み込む形態である。側石は0.2～0.4m×0.3～0.6m程度の板石を北西側が7枚，南東側が5枚で構成されるが，石材を縦位に用いている。床面は地山上に0.05m程度の置土をした上に板石で敷石を施している。

遺物の出土状況

棺内の北角床面上から，鉇が出土した。頭の右脇に位置すると考えられ，V字形に折り曲げられていた。

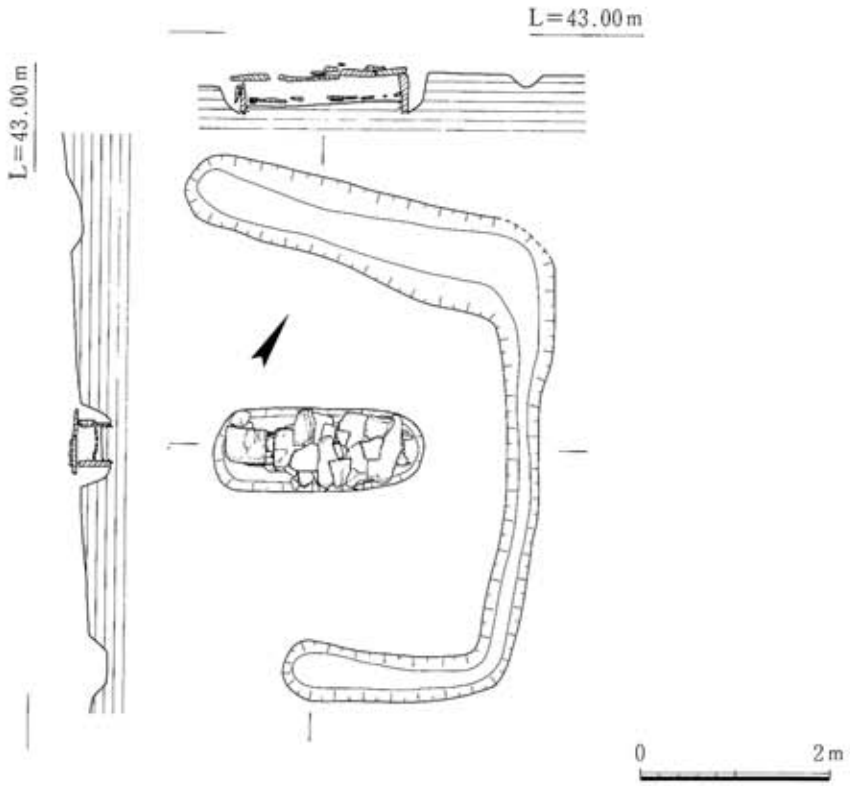


Fig. 25　ST011古墳墳丘測量図（1/80）

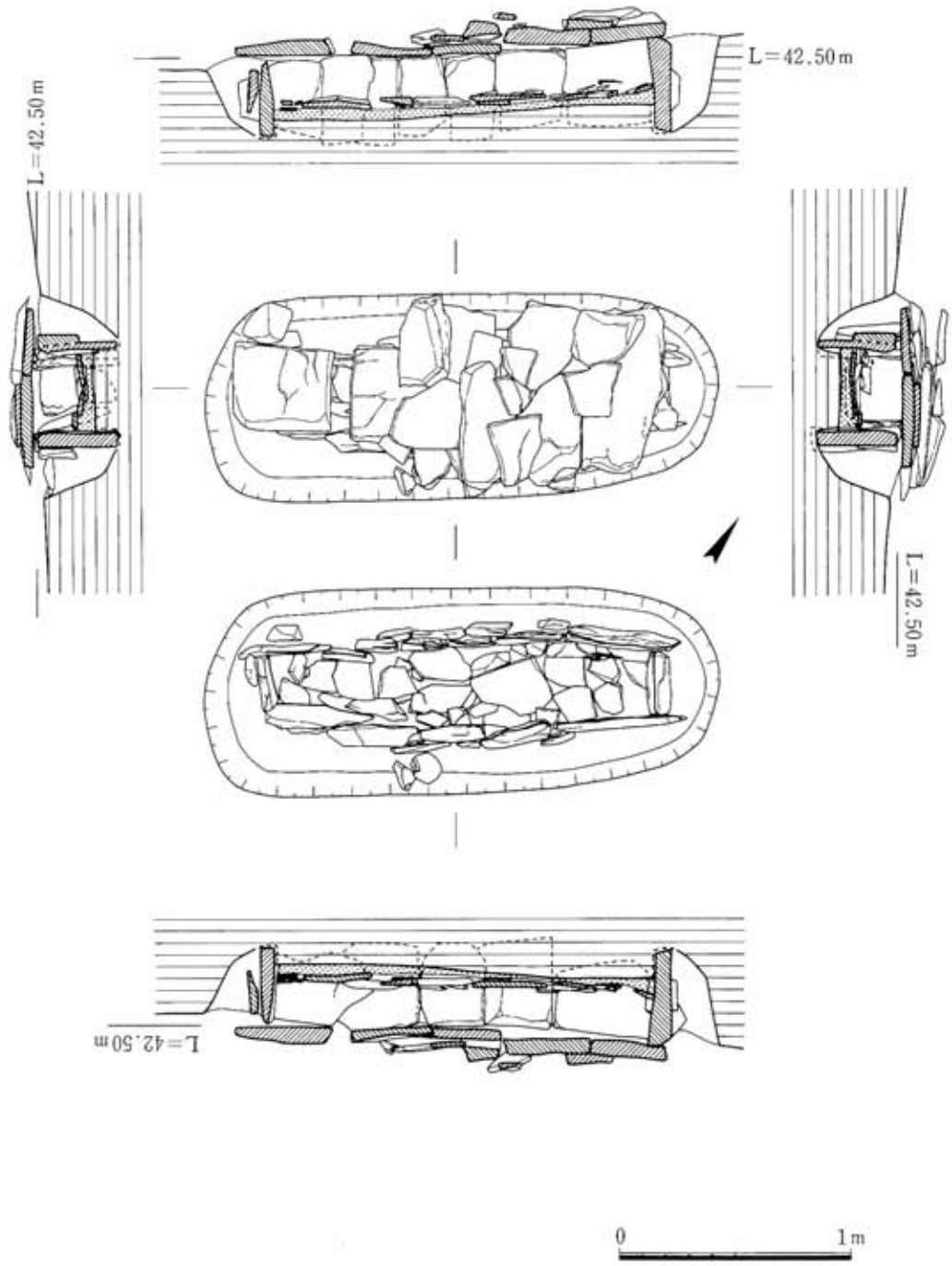


Fig. 26　ST011古墳内部主体（1/30）

(2) 箱式石棺墓

SC007箱式石棺墓 (Fig. 27)

調査区北側の西崖線に面して位置している小形の箱式石棺墓である。北側にはST003・006古墳が，南側には同形態の箱式石棺墓であるSC008およびSK016土壙等が近接している。

本古墳は撹乱のため蓋石は消失していたが，小形の組合せ式の箱式石棺である。墓壙は長径1.26m，短径1.0mの寸詰まりの隅丸長方形の平面形を呈し，現状での深さは0.3mを測る。石棺の規模は長さ0.77m，幅0.43mで小形のやや胴張り形の長方形の平面形を呈し，小口石で側石を挟む形態である。主軸方位は北側小口を基準にしてN19°30′Wである。両側石とも0.2～0.35m×0.3～0.6m程の石材を用いているが，厚さが0.16mを測り，ST011古墳の内部主体およびSC009等の比較的大形の箱式石棺が厚さが0.1mを超えない薄手の石材を選択している点と対称的である。また，南側の小口では最下段の小口石の上に平積みした小形の板石が一石確認されたが，これは他の側石や小口石の上端に高さを合わせるために壁を足した痕跡と考えられる。床面は直接地山面を利用してあり，置土や敷石等は確認されていない。

遺物の出土状況

本石棺からは特に遺物は出土しなかった。

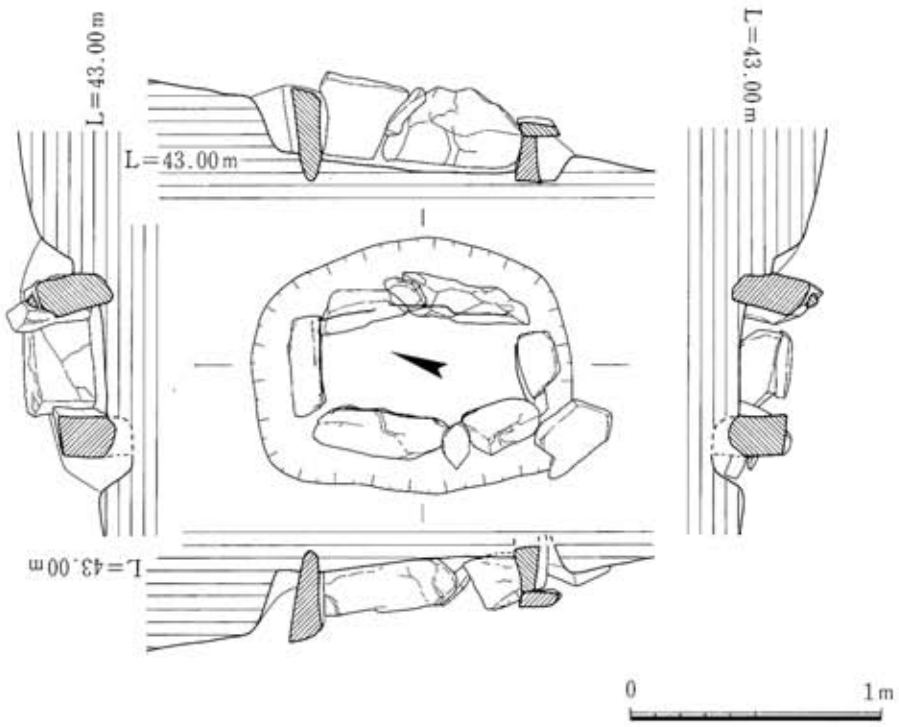


Fig. 27 SC007箱式石棺墓 (1/30)

SC008箱式石棺墓 (Fig. 28)

SC007箱式石棺墓の南東に位置し，東隣にはSK016土壙がある。検出時には北側小口上に蓋石1石が残っていたのみで他の蓋石は失われていた。石棺は長径1.43m，短径0.92m，深さ0.4mを測る隅丸方形の墓壙に作られている。石棺の規模は長さ1.04m，高さ0.23mを測るが，幅は北側小口が0.25m，南側小口が0.3mと後者が若干広くなっている。側石が両小口で挟まれる形態のものである。方位は南側を基準にするとS27°30′Eである。側石は両側とも2石で構成されており，北側に位置する石が長さ0.7～0.75m，高さ0.55m，厚さ0.15～0.2m程の大形で全体の3分の2強を占めるのに対し南側の石は小形のものが選ばれている。また，南側の小口石が薄い他はいずれも厚さ0.2～0.3m程度のがっちりした石を使用する。一石残った蓋石から，上端は両側石の大形の石の上端に合わせてあったと考えられるが，高さの足りない両小口や東側の側石のうちの南側の小形の石の上については石を平積みにして足した痕跡がある。したがって本石棺墓は最下段に大形の板石を立て，その上に部分的には小形の板石や塊石で壁体を構築したものと考えられ，この点でも先述のSC007箱式石棺墓との共通性がみられる。床面は地山上に

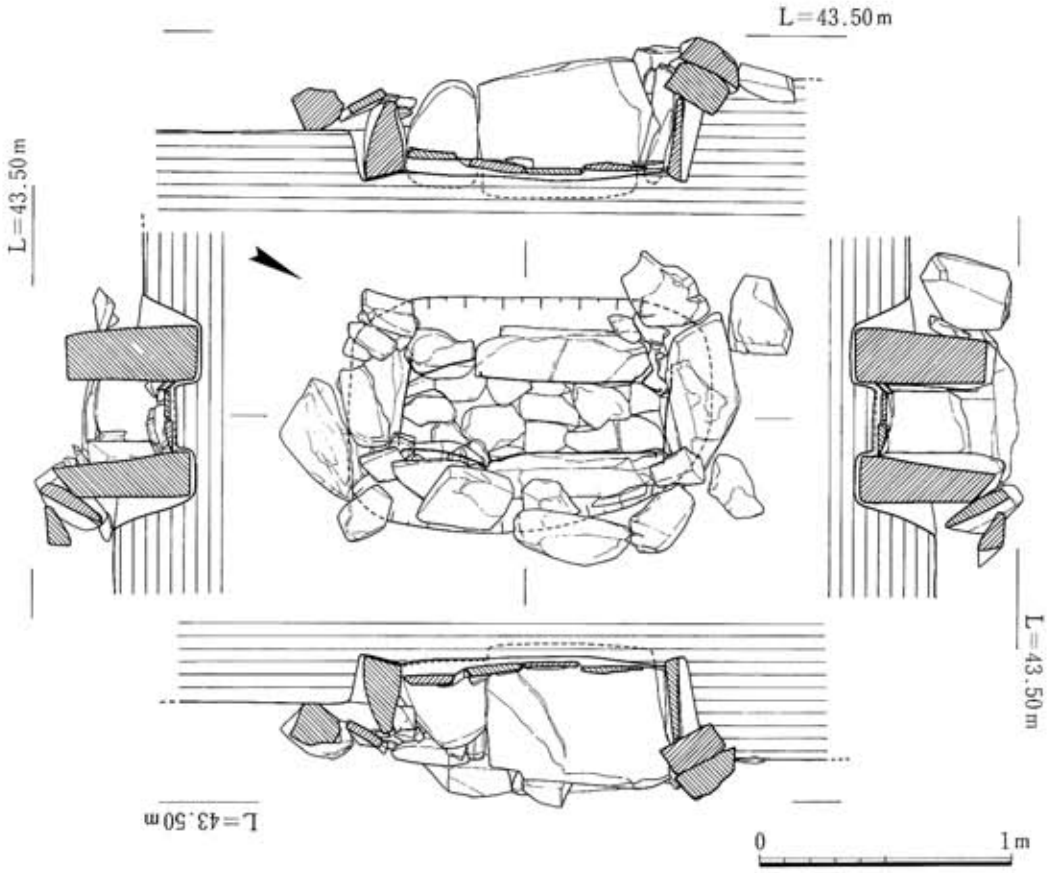


Fig. 28　SC008箱式石棺墓（1/30）

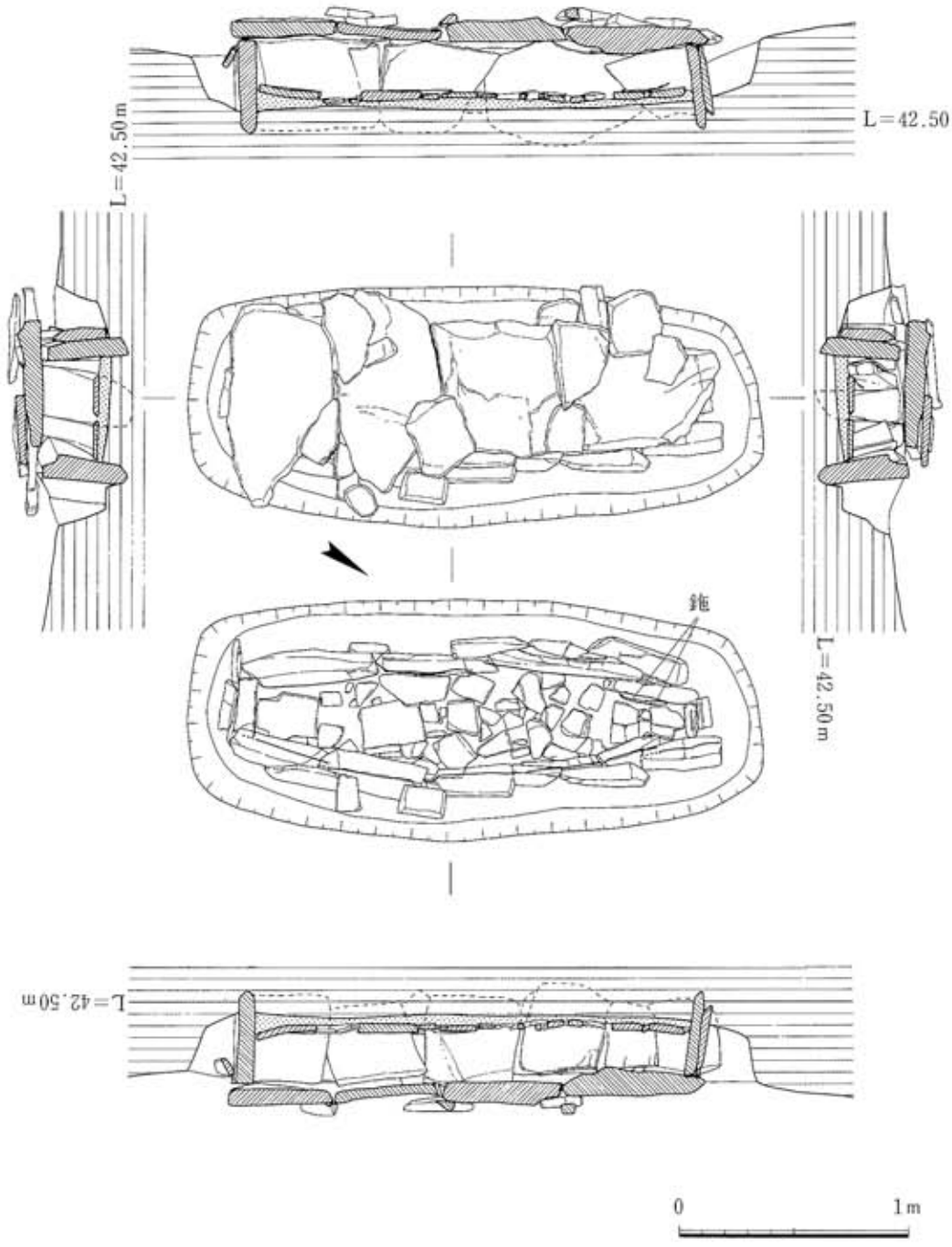


Fig. 29　SC009箱式石棺墓（1/30）

0.02～0.05m程度の置土を施した後に偏平な板石で敷石をつくっている。

遺物の出土状況

本石棺墓からはガラス玉２個が出土した。

SC009箱式石棺墓（Fig. 29）

SC008箱式石棺墓の東南約４mに位置し，北東約１mにはST001古墳，東南約１mにはST011古墳の周溝が接している。石棺の方位はS31°Eであり，SC008箱式石棺墓とほぼ同一の主軸方位であり，SC007箱式石棺墓とは反対の主軸方位である。

墓壙は2.48×1.03mの規模を測り，平面形は胴張りの隅丸長方形を呈する。石棺もまた長さ1.92m，高さ0.25m，中央部幅0.45m，南東部小口幅0.23m，北西部小口幅0.19mを測る胴張りの平面形態である。蓋石は0.8×0.5m程度の薄目の板石４枚で構成され，それぞれの継ぎ目はそれより小形の板石で補足される。側石は北東側６枚，南西側４枚の板石で構成されるが，前者は石材を立位に用いているのに対し，後者は横位に置いている。床面は墓壙底面上に0.05m程度の置土をしてから幅0.5～0.4m程の板石を全面に敷いている。

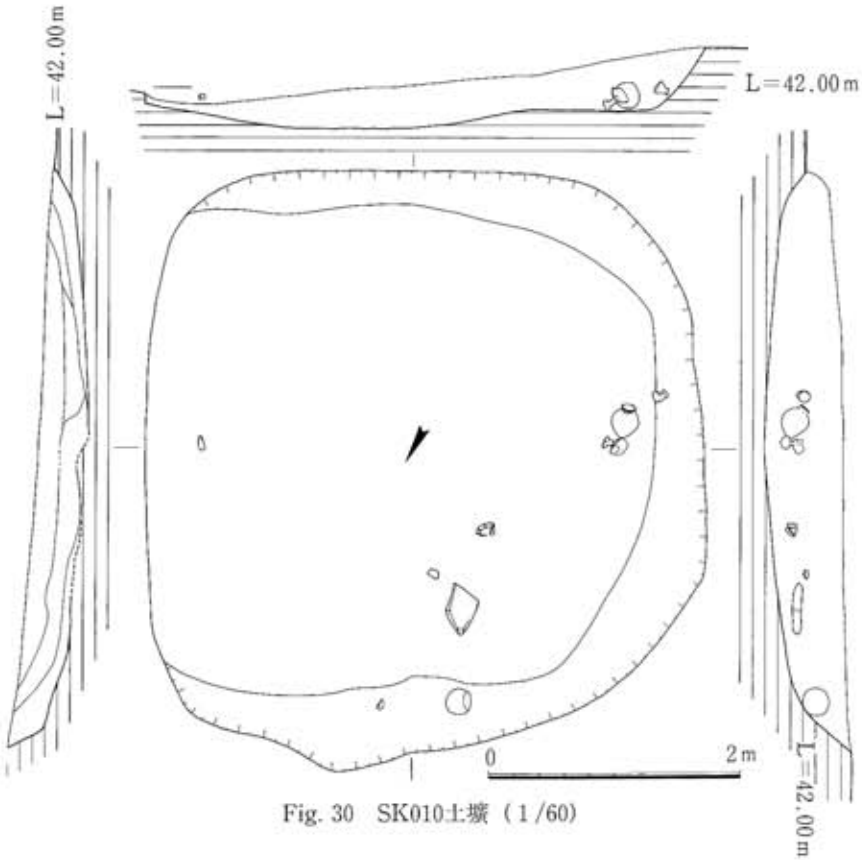


Fig. 30　SK010土壙（1/60）

遺物の出土状況

遺物は棺内北西小口床面上より主軸に並行して鉄製鉇が１点出土した。

(3) 土　　壙

SK010土壙（Fig. 30）

調査区のほぼ中央部に位置するが，遺構の密集する北半分では最南端部にあたる。北西約１mにはST001古墳の周溝が，南西約２mにはSD012溝状遺構が接している。

規模は2.3×2.2mで平面形は円みがかった正方形を呈する。北側の隅付近が崖の崩落により失われている。深さは約0.4mを測る。土層は２層に大別されているが，基本的には砂質の黒色土が堆積していた。

遺物の出土状況

主として下層の第２層中より古式の土師器が人頭大の礫などとともに，比較的まとまって出土した。これらの平面形は，幅0.84m，長さ1.68mの略長方形である。

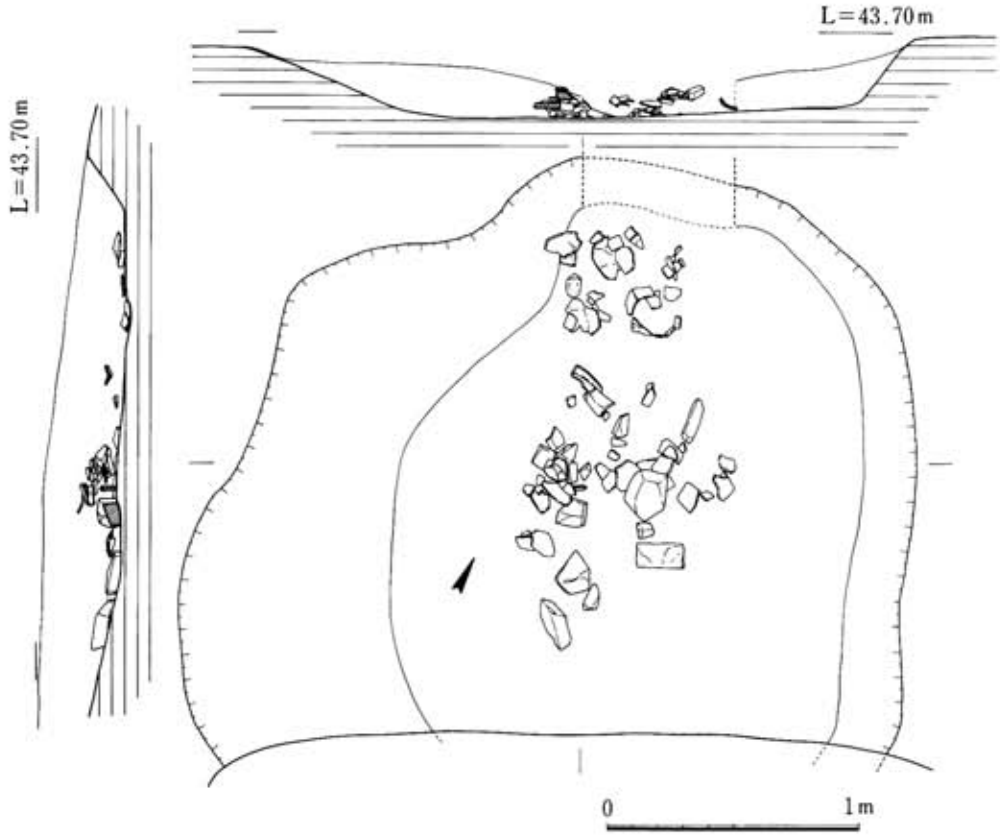


Fig. 31　SK014土壙（1/30）

SK014土壙（Fig. 31）

ST003古墳の北西，すなわち奥壁の背後付近の盛土の下面に重複して検出された土壙である。東西方向の長さは2.9mであるが，南北方向はST003古墳の墓壙によって掘削されており，残存する長さは2.3mであり，平面形は不整形な方形を呈する。深さは0.31mを測る。遺構内の埋土は黒褐色の粘質土層であった。

遺物の出土状況

土壙の底部付近より古式土師器の壺形土器，甕形土器等が出土した。

SK016土壙（Fig. 32）

SC008箱式石棺墓の東に隣接する。1.0×0.7mの規模で，平面形は楕円形を呈する。深さは0.25mであるが，東端部の底面はさらに小穴状に深くなり0.45mを測る。

遺物の出土状況

底面より0.2m程高い位置で，2個の壺形土器が土壙の東西に並んで置かれ，そのうちの西側の土器の中にはさらに2個の小型の壺形土器が入れられていた。また，土構内や周辺部からは，ミニチュア土器や，土製勾玉等が出土している。

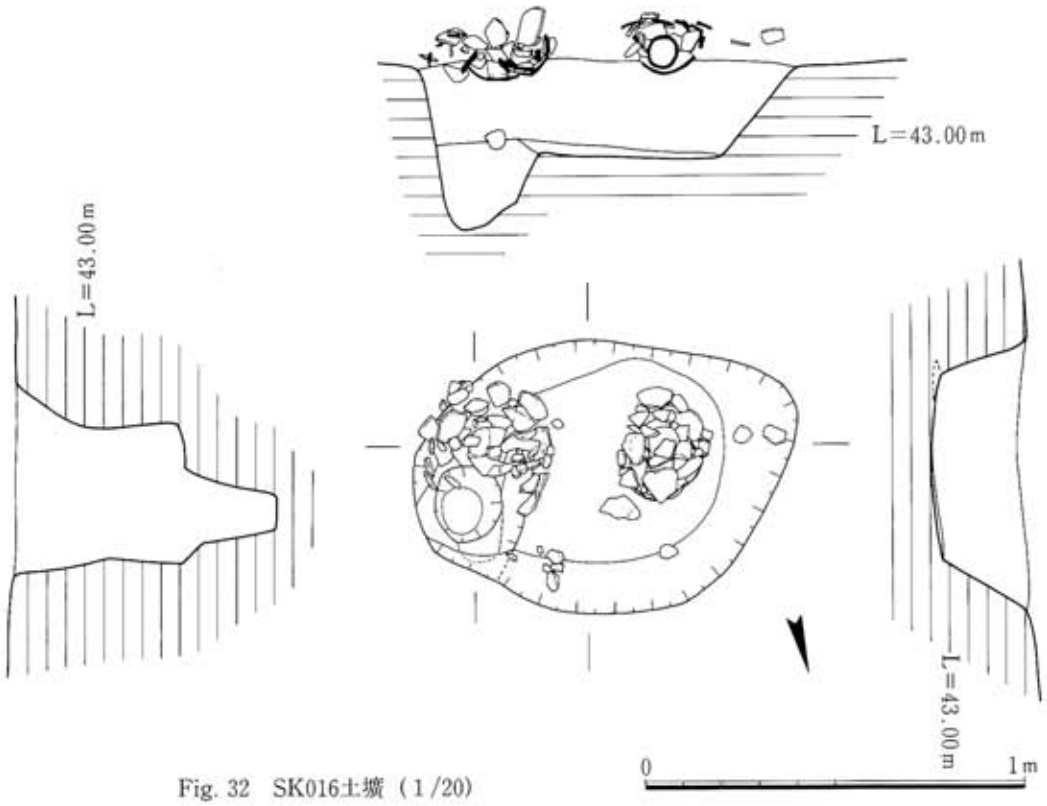


Fig. 32　SK016土壙（1/20）

(4) 溝状遺構

SD012溝状遺構 (Fig. 33)

調査区のほぼ中央に位置し，古墳時代の遺構群では最南端にあたる。長さ4.2m，幅0.6m，深さ0.1mで現状の平面形は弧状または三日月形を呈する。円形周溝墓の可能性もある。

遺物の出土状況

遺物は土師器などが出土したが少量小片であった。

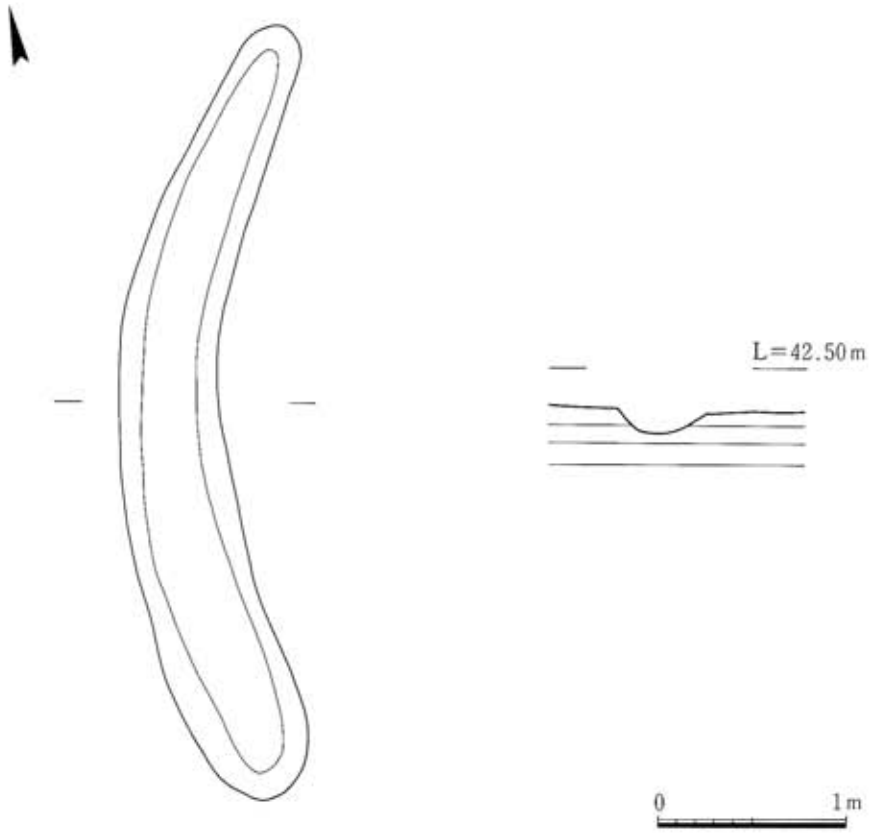


Fig. 33　SD012溝状遺構（1/40）

3．時期不明の遺構

(1) 敷石遺構

SX015敷石遺構（Fig. 34）

調査区の南端部に位置し，他の古墳時代の遺構群とは離れている。1.5×1.0mの範囲に偏平な石や塊石を敷いたような状態で検出された。ただし，この範囲全体に敷き詰められた状況ではなく，抜けている部分も広い。

遺物の出土状況

明確な遺物の出土はない。したがってこの遺構の時期も不明である。

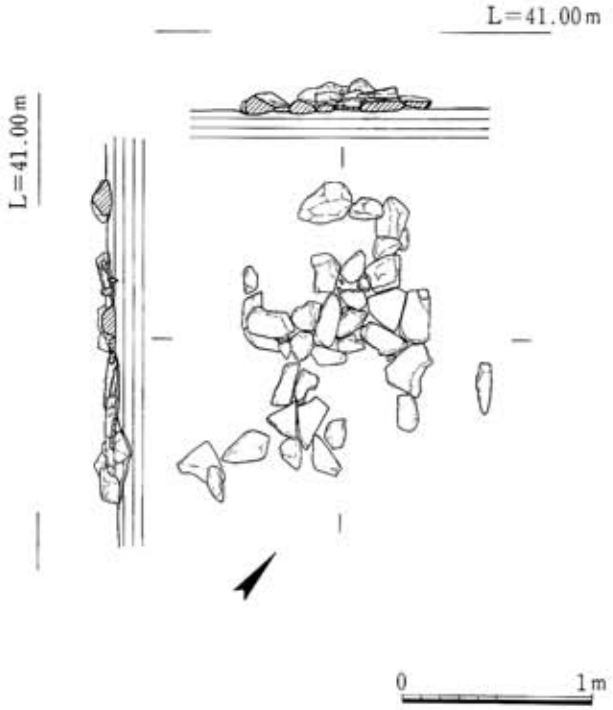


Fig. 34　SX015敷石遺構（1/40）

Ⅲ 遺　　物

1．縄文時代の遺物

(1) SJ013甕棺（Fig. 35）

2個体があり1は甕棺墓として使用された土器で，口径41cm，残存器高41～42cmを測る大形の甕である。底部は打ち欠きにより無くなっている。底部側から外方向に立ち上がり，胴部中位付近で逆「く」の字形に屈曲し，頸部に至る。口縁部は頸部で短く屈曲して外反するが，外面から口唇部にかけて条痕が施されている。最大径は口縁部にある。2は供献用のものと考えられる浅鉢である。復元口径15.2cm，器高4.8cmを測る。丸底で，口縁部には内外に沈線を1条ずつ施し，丸味のある口唇部を作る。内外ともヘラミガキなどで丁寧に器面調整されている。いずれも，晩期前半に位置づけられる。

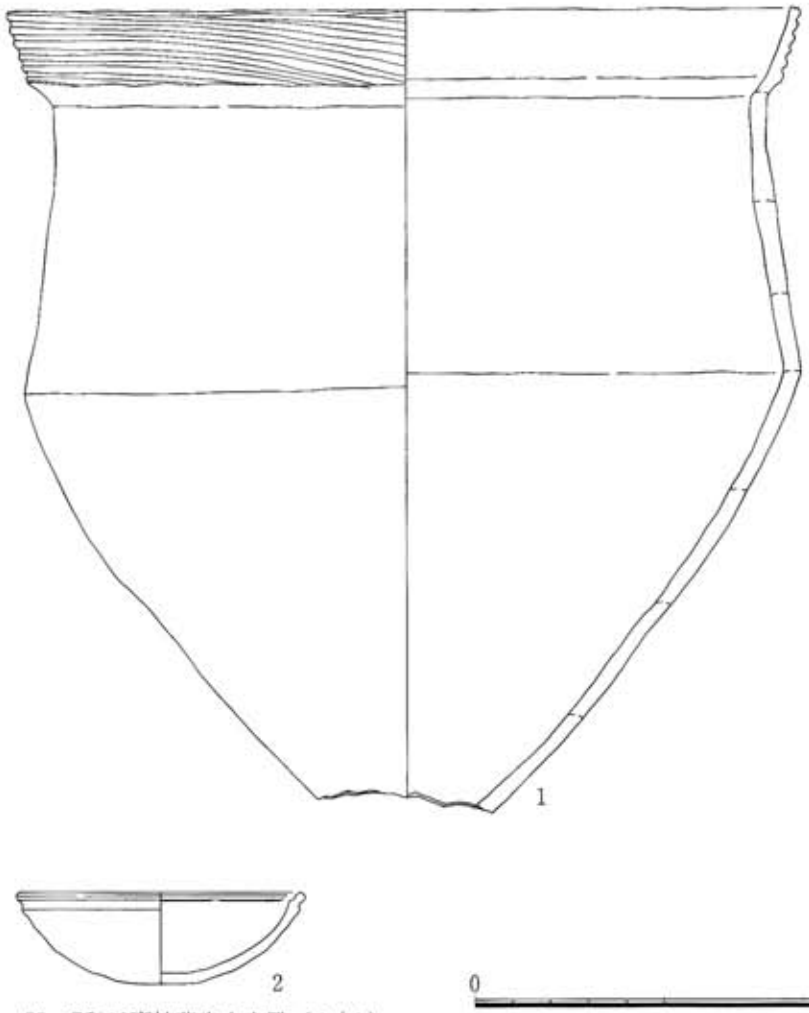


Fig. 35　SJ013甕棺墓出土土器（1/4）

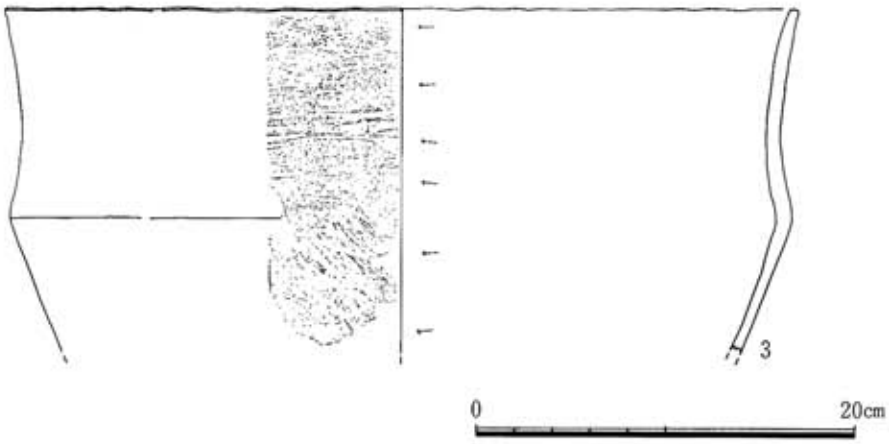


Fig. 36　3号集石出土遺物（1/4）

(2)　3号集石出土土器（Fig. 36）

復元口径41.8cm，残存器高18cmを測る粗製の鉢形土器3である。胴部上半から口縁部にかけて残る破片である。胴部上半で逆「く」の字形に屈曲し，口縁部は外反してたちあがる。外面は荒い条痕が施され，口縁下には煤が残っている。時期は，晩期前半である。

(3)　その他の土器

ここでは，古墳墳丘など縄文時代のオリジナルな遺構から出土しなかった土器をまとめて説明する。

早期の土器（Fig. 37）

4～22は，押型文土器。4～20は楕円形の押型文であるが，総じて大形の押型である。このうち，4～7は口縁部で，内面にいわゆる原体条痕が施されている。4・6は，外反するもの。5・7は，直口である。21は方形，22は格子目形の押型文の胴部であるが，出土数は少ない。

23は肉厚の胴部片で，貝殻の腹縁部で押された圧痕が垂直方向に施されている。24は口唇部を欠失するが，頸部で「く」の字形に外反する口縁部で，外面には押し引き文が水平方向に施される。塞ノ神式土器である。

前期の土器（Fig. 38）

25～28は，口縁部である。25は，口唇部に刺突文，外面に横位，縦位，斜位の沈線が施される。26は，口唇部に刺突文，内外面に横位の沈線文が施される。27も，口唇部に刺突文が施されるが，内面のみに横位の押し引き文が施される。28は，口唇部に刺突文，内面は横位の刺突文，外面は横位の沈線と刺突文の組み合わせである。29～34は胴部片，29は外面が横位，斜位

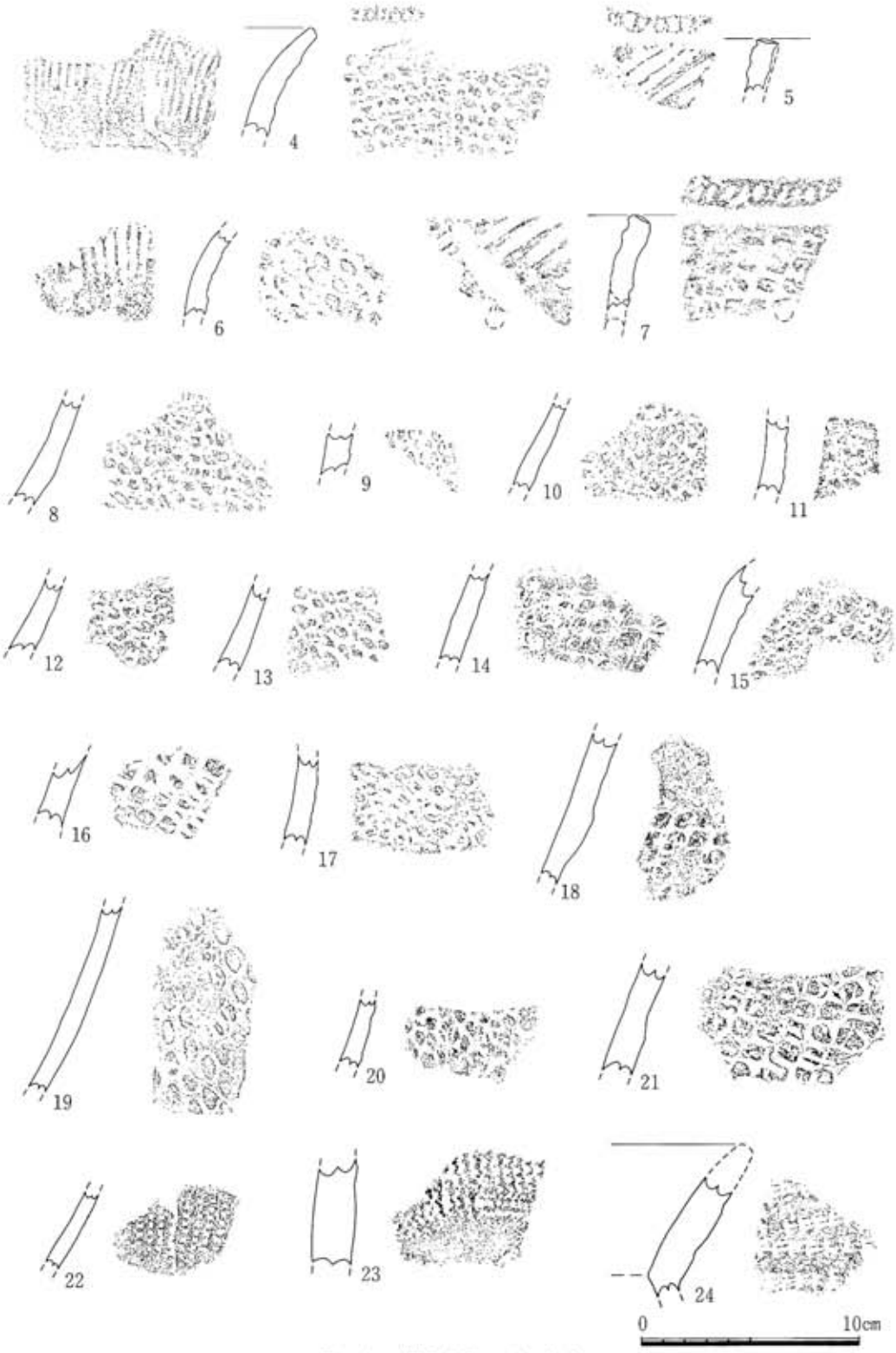


Fig. 37　縄文土器1（1/3）

の沈線と刺突文の組み合わせである。30～33は外面に縦位，斜位の沈線が施されるもの。30は胎土に滑石が混入されている。また，31・32は内面に条痕の痕跡がある。34は，外面に浅い曲線の沈線が施される。35は，口縁部に１条の貼り付け凸帯をしたあと，その凸帯上と下に横位の幅広の刺突文を施す口縁部である。

晩期の土器（Fig. 39・40）

36～51は，精製土器。器高の高低はあるが，いわゆる浅鉢～鉢形土器である。36は，もっとも残存状況の良いもので，復元口径38.4cm，残存器高13.8cmを測る。37は，復元口径27.6cm，残存器高5.7cmを測る浅鉢である。38は，口縁部の内面への張り出しが突出する。46～50は，張り出しが矮小あるいは消失したものである。51は，胴部で外部に張り出す形態のものである。

52～62は，粗製のいわゆる深鉢形土器である。52～56は口縁部で，いずれもSJ013甕棺と同様，頸部から短く外に屈曲し横位の沈線が施されるものである。57～62は底部であるが，58～61のようにくびれるものと，くびれないものがある。59以外は上げ底である。

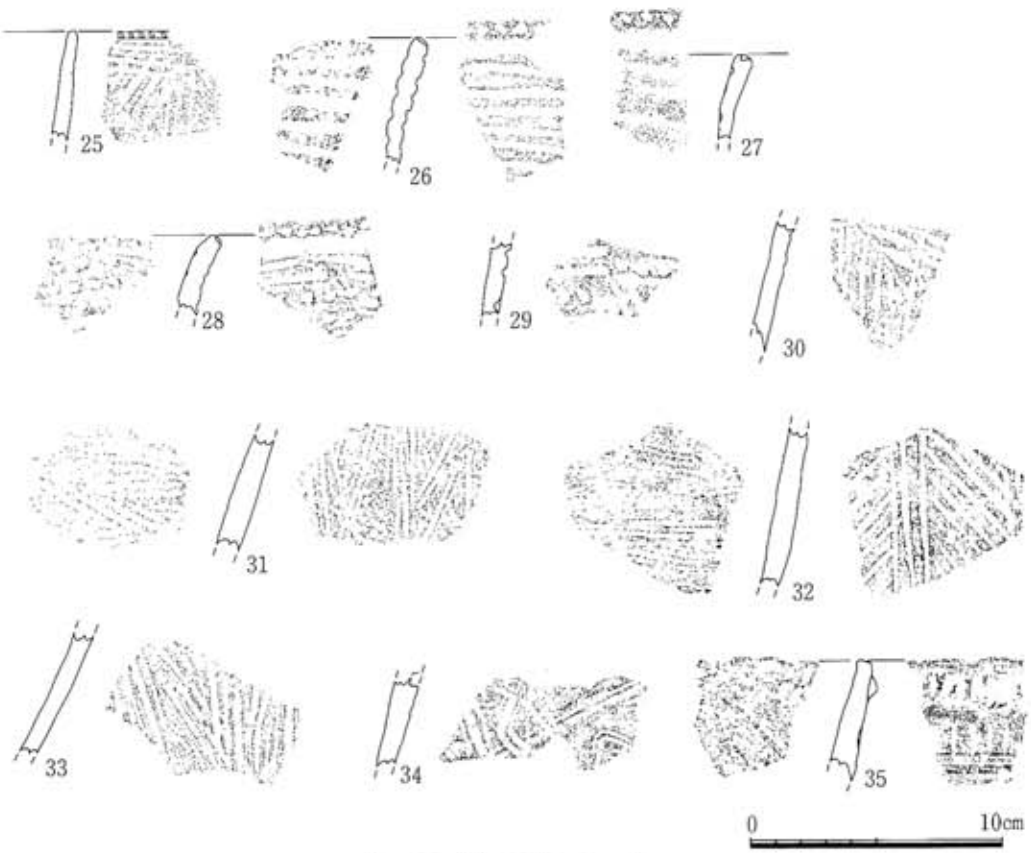


Fig. 38　縄文土器２（1/3）

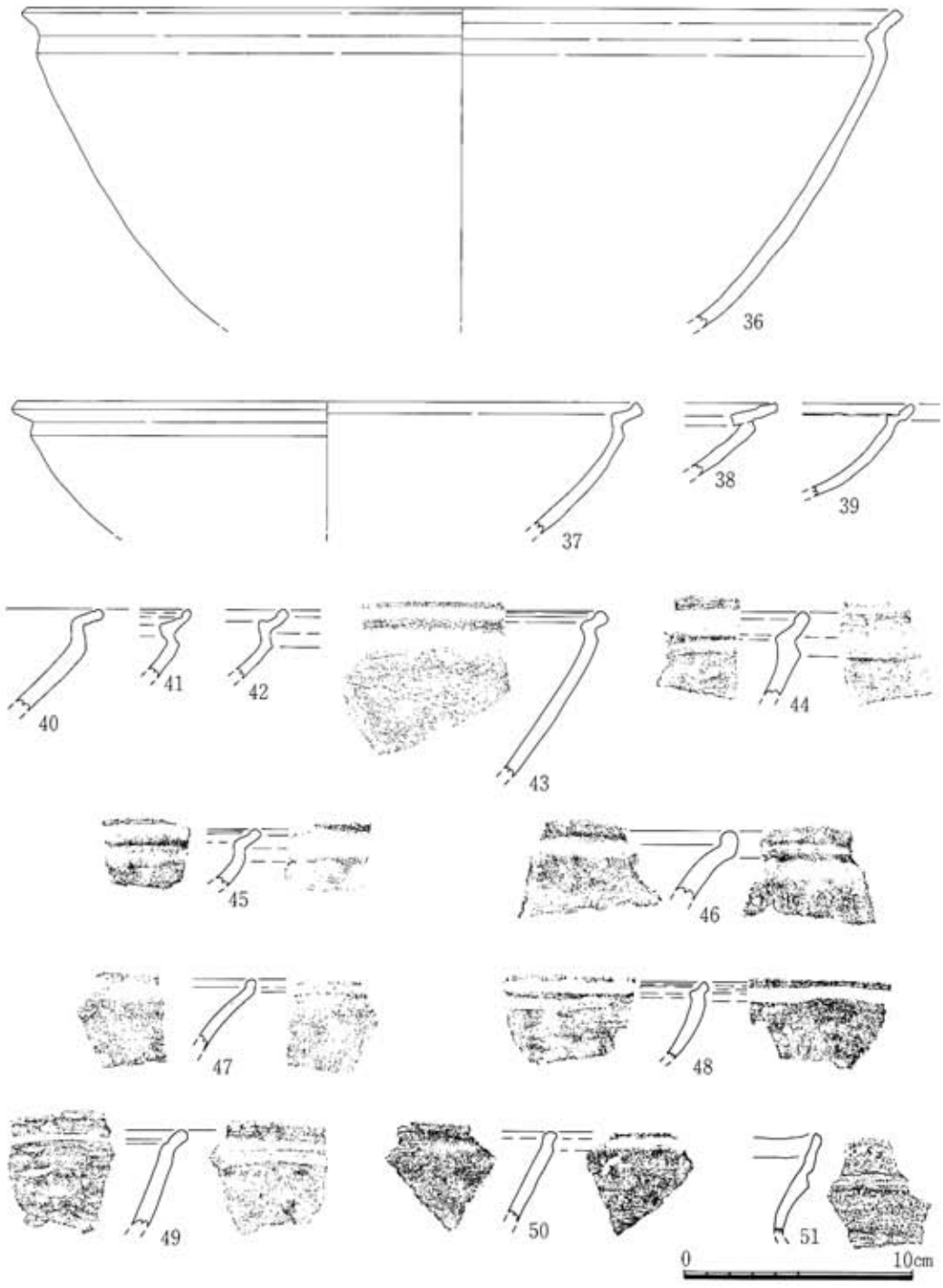


Fig. 39　縄文土器3（1/3）

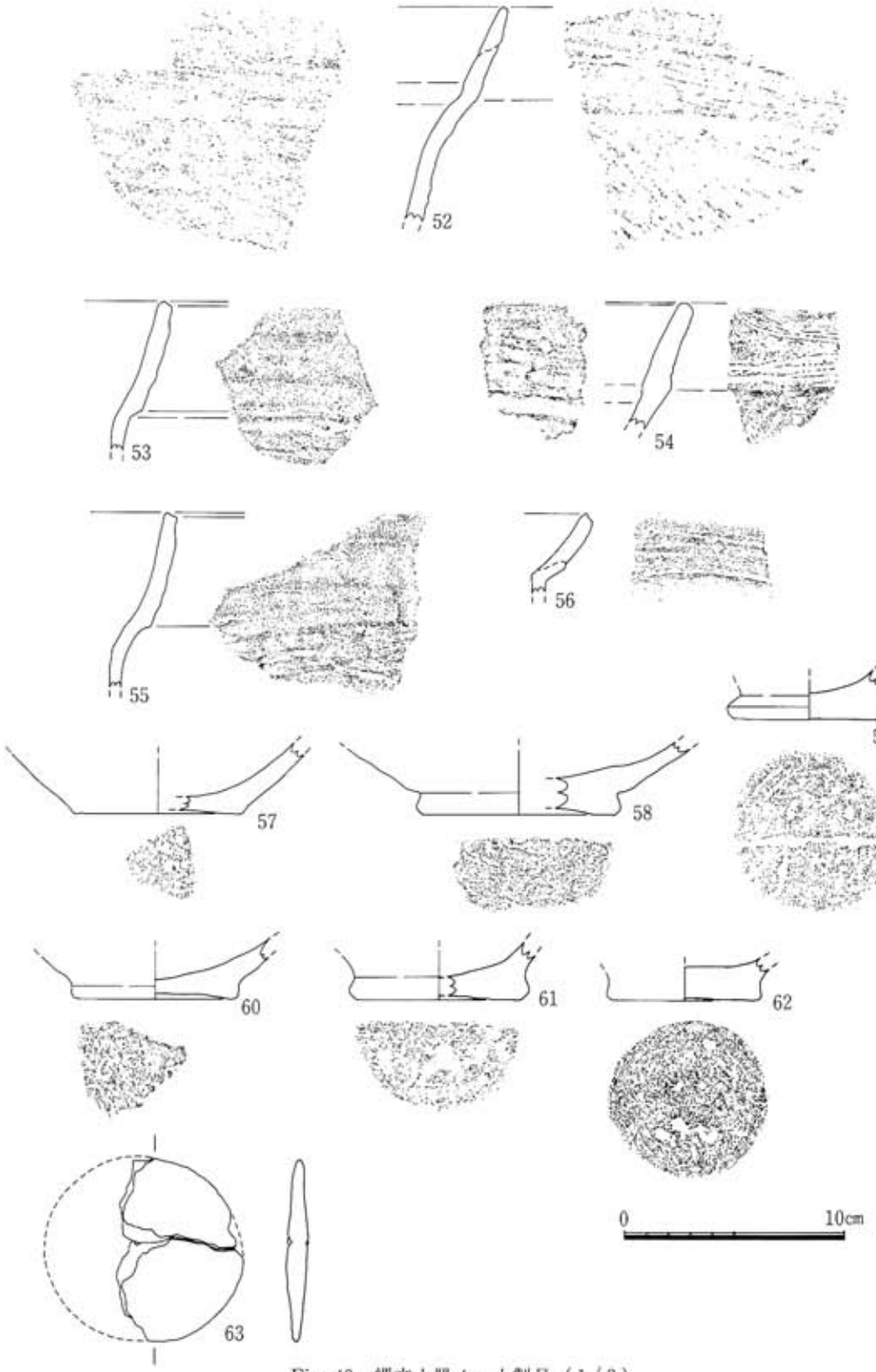


Fig. 40　縄文土器 4・土製品（1/3）

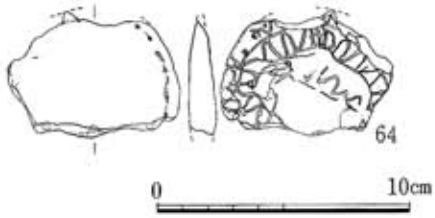


Fig. 41　土製品（1/3）

(4) 土製円盤 (Fig. 40・41)

63は全体の1/2強が残る径8.2cm，最大厚0.9cmの土製円盤である。表面は，撫でにより比較的平滑であるが文様や孔などの痕跡は見られない。一面がやや平坦で他面がやや突出しており，あるいは表裏の区別があるのかもしれない。64は復元径7.4cm，最大厚1.1cmを測る土製円盤である。断面形は63同様一面がやや平坦で他面がやや突出する。縁辺には0.7～0.9cm間隔で径1㎜の小孔が穿たれているが，紐が通されていた痕跡が見られる。また，やや突出した面には細い沈線文が施されている。文様は周縁と並行する2条の沈線の間に鋸歯文を埋めている。さらに，この内外にも鋸歯状の沈線が見られる。63はST001古墳周溝，64はST003古墳墳丘の出土でもあり文様などからも古墳時代の土製模造鏡の可能性もあるが，ここで取り上げた。

Tab.2　縄文土器・土製品観察表　　(法量　a:口径，b:器高，c:底径，d:残存高，e:頸径)

Fig.No	出土地点	器種	法量cm	色調	残存	埋蔵文化財登録番号	Fig.No	出土地点	器種	法量cm	色調	残存	埋蔵文化財登録番号
35-1	SJ013	甕	a：41.0 d：42.0	明黄褐色 ↓ 暗黄褐色	良	81002094	37-13	ST002 周溝B 埋土中	深鉢	(b：3.6)	明茶褐色	良	82000595
-2	SJ013 No.4	浅鉢	a：15.2 b：4.8	暗褐色 褐色	良	81003273	-14	ST002 墳丘A 盛土中	深鉢	(b：4.0)	明褐色	良	82002109
36-3	3号集石	鉢形土器	a：41.8 b：18.0	褐色 赤褐色 暗褐色	良	81003274	-15	ST003 墳丘C 盛土中	深鉢	(b：4.9)	淡褐色	良	81003281
37-4	ST002 石室埋土	深鉢	(b：4.9)	橙f1色	普	82002133	-16	ST002 周溝B 埋中土	深鉢	(b：3.3)	明茶褐色	良	82000597
-5	ST002 石室埋土	深鉢	(b：2.4)	茶色	普	82002130	-17	ST003 墳丘C 盛土中	深鉢	(b：4.0)	明茶褐色	良	81003282
-6	C-5 表土	深鉢	(b：3.75)	褐色	良	93001002	-18	ST002 墳丘D 盛土中	深鉢	(b：6.9)	明褐色	良	82002123
-7	ST003 玄室内床 直上	深鉢	(b：4.3)	うすい褐色	良	93001001	-19	ST002 周溝B 埋土中	深鉢	(b：8.4)	茶色	良	82000598
-8	ST002 墳丘 盛土中② トレンチ	深鉢	(b：4.8)	明褐色	良	82002126	-20	ST002 石室埋土	深鉢	(b：3.1)	明黄褐色	良	82002132
-9	SK010 埋土中	深鉢	(b：1.85)	明褐色	良	93001004	-21	ST002 周B No.5	深鉢	(b：5.1)	茶橙色	良	82000593
-10	ST002 墳丘D 盛土中	深鉢	(b：4.0)	外面-明褐色 内面-淡黄 褐色	良	82002124	-22	ST002 墳丘C 盛土中	深鉢	(b：3.5)	明褐色	良	82002119
-11	ST003 墳丘D 盛土中	深鉢	(b：2.75)	明褐色	良	93001003	-23	C-9 トレンチ内	深鉢	(b：4.8)	明褐色	良	93001013
-12	ST002 周溝B 埋土中	深鉢	(b：3.2)	明茶褐色	良	82000596	-24	ST003 墳丘B 盛土中	深鉢	(b：5.3)	明褐色	良	81003280

Fig.No	出土地点	器　種	法量cm	色　調	残成	遺物登録番号
38-25	ST002 墳丘B 盛土中	深　鉢	(b：4.3)	茶色	良	82002102
-26	ST003 墳丘C 盛土中	深　鉢	(b：4.95)	外面-暗褐色 内面-褐色	良	93001006
-27	ST004 墳丘A 盛土内	深　鉢	(b：3.35)	うすい褐色	良	93001008
-28	SK016	深　鉢	(b：3.15)	うすい灰褐色	良	93001012
-29	ST003 墳丘D 盛土中	深　鉢	(b：2.925)	褐色	良	93001007
-30	ST004 墳丘D 盛土内	深　鉢	(b：5.15)	うすい 茶褐色	良	93001009
-31	ST003 墳丘B 盛土中	深　鉢	(b：4.5)	外面-赤褐色 内面-褐色	良	81003279
-32	ST004 墳丘D	深　鉢	(b：6.25)	褐色	良	93001010
-33	ST002 墳丘B 盛土中	深　鉢	(b：4.8)	外面-明橙色 内面-黄褐色	良	82002112
-34	表土層 (褐色土)	深　鉢	(b：3.45)	明褐色	良	93001005
-35	D-2 表土下	深　鉢	(b：4.725)	灰褐色	良	93001011
39-36	ST001 周溝B No.2-5 No.047	浅　鉢	a：38.4 (b：13.8)	赤褐色 暗褐色	良	81003839
-37	ST002 墳丘B 盛土中	浅　鉢	a：27.6 b：5.7	外面- 褐色・橙白色 内面-黒褐色	良	82000600
-38	ST002 墳丘A 盛土中	浅　鉢	(b：3.1)	外面-茶色 黒色(スス) 内面-茶黄色 黒色(黒斑)	良	82002110
-39	ST002 墳丘C 盛土中	浅　鉢	(b：4.0)	橙色 淡黄土色	良	82002117
-40	ST003 墳丘C 盛土中	浅　鉢	(b：4.4)	黒褐色	良	81003284
-41	ST002 周溝B 埋土中	浅　鉢	(b：3.0)	黒褐色	良	82000594
-42	ST002 墳丘B 表土下	浅　鉢	(b：3.0)	茶橙色	良	82002115
-43	SK016周辺	浅　鉢	a：44.3 (b：7.2)	外面- うすい茶褐色 内面-灰褐色	良	93001021
-44	ST003 墳丘A 盛土中	浅　鉢	(b：3.6)	外面-褐色 内面- うすい褐色	良	93001016
39-45	ST004 墳丘D 盛土内	浅　鉢	(b：2.5)	褐色	良	93001018
-46	ST004 墳丘D 盛土内	浅　鉢	(b：2.95)	外面- うすい褐色 内面-灰褐色	良	93001019
-47	ST003 墳丘D 盛土中	浅　鉢	(b：3.125)	明褐色	良	93001017
-48	ST004 墳丘D 盛土内	浅　鉢	(b：3.35)	外面- うすい褐色 内面-灰褐色	良	93001020
-49	ST003 墓壙	浅　鉢	(b：4.2)	うすい茶褐色	良	93001015
-50	ST003	浅　鉢	(b：3.95)	うすい茶褐色	良	93001014
-51	ST002 周溝A	浅　鉢	(b：4.3)	黄土色	良	82000591
40-52	ST004 周溝D	深　鉢	(b：9.675)	外面-明褐色 内面-褐色	良	93001023
-53	ST002 墳丘B 盛土	深　鉢	(b：6.0)	明橙褐色	良	82002107
-54	ST004 周溝D	深　鉢	(b：5.7)	うすい褐色	良	93001022
-55	ST002 墳丘B 盛土中	深　鉢	(b：7.8)	外面-茶橙色 内面- 黄褐色 黒褐色	良	82002108
-56	ST002 墳丘C 盛土中	深　鉢	(b：3.6)	茶褐色	良	82002134
-57	ST002 墳丘C 盛土中	深　鉢	(b：3.2) C：7.6	外面-茶褐色 内面-明褐色	良	82002118
-58	ST002 墳丘D 盛土中	深　鉢	(b：3.3) C：8.7	茶色	良	82002121
-59	ST002 墳丘B 盛土中	深　鉢	(b：2.2) C：7.1	外面-茶橙色 内面-黄橙色	良	82000599
-60	ST002 墳丘B 盛土中	深　鉢	(b：2.7) C：7.4	橙色	良	82002106
-61	ST002 石室埋土	深　鉢	(b：2.6) C：8.2	明褐色	良	82002129
-62	ST002	深　鉢	(b：1.9) C：7.0	明褐色	良	82002128
40-63	ST001 周溝B No.056	土製円盤	最大径8.2 最大厚0.9	褐色	良	81003840
-64	ST003 墳丘C 盛土中	土製円盤	推定径7.4 最大厚1.1	茶褐色	良	89009195

(5) 石　　器

石器は，打製と磨製があるが，92の抉り入り柱状片刃石斧が弥生時代の初期に含まれる可能性があるのを除けば，いずれも縄文時代として良いものである。

打製石器（Fig. 42・43）

65・66は打製の石槍である。65は先端を，66は基部を欠く。いずれも安山岩製である。

67～83は打製石鏃である。基部の形態で見れば67～82は凹基式であるが，79～82は抉りが浅い。83は平基式である。また，72は両面に磨いた痕跡が見られる。67～70・74～76・82・83が安山岩製，71～73・77～80が黒耀石製である。

84～87はスクレイパーである。84・85は，横長の剥片の長辺の一端に刃部を作り，その反対側につまみを作る，いわゆる石匙である。いずれも安山岩製である。86・87は，つまみを作らないもので，安山岩製である。88は石錐。握部の一部を欠損するものの他は良く残っている。

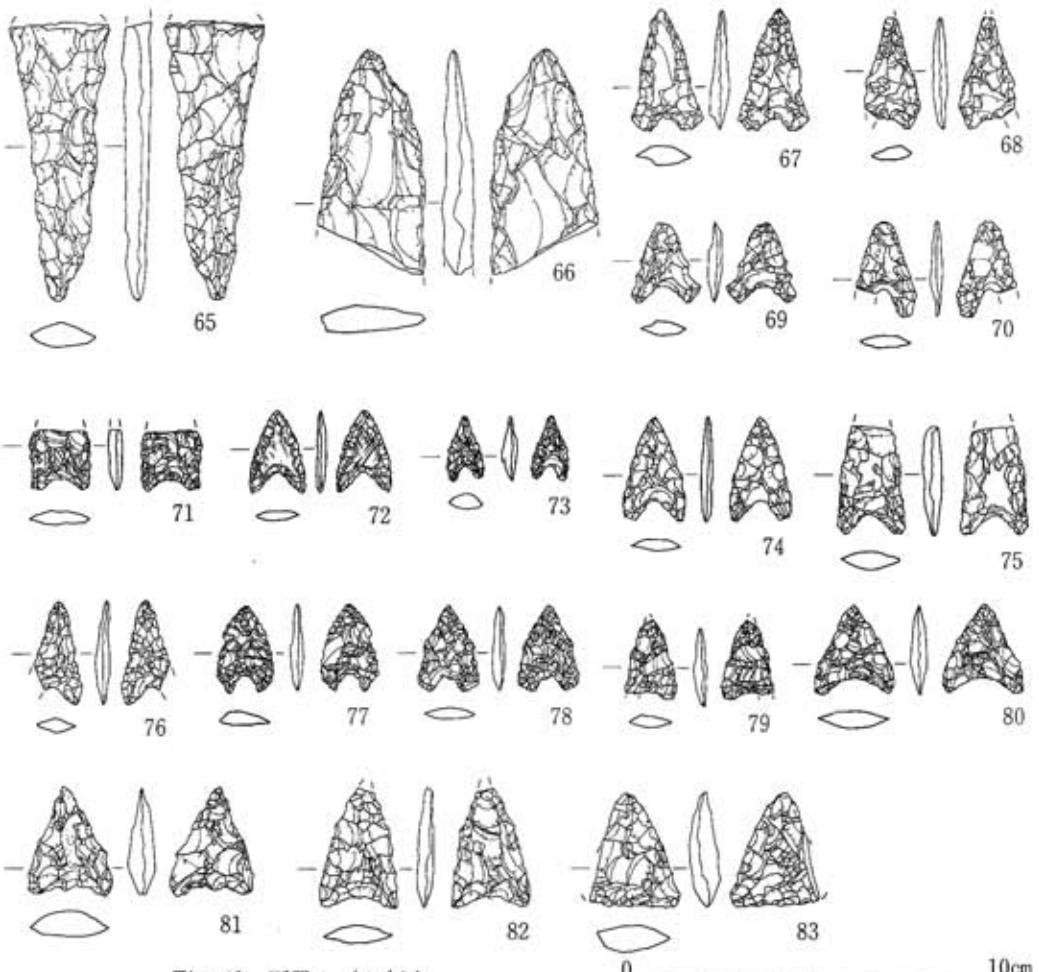


Fig. 42　石器1（1/2）

磨製石器 (Fig. 44)

89・90は偏平な磨製石斧である。両面とも良く磨かれるが自然面の痕跡が残る。いずれも両刃であるが，90は欠損している。91は，平面長方形の磨製石斧である。これも偏平であるが，89・90に比べると厚い。両刃だが，一方の刃が他方より長く作られ，片刃的である。92は，抉り入り柱状片刃石斧であるが，全体に磨耗が進んでいる。

93・94は，磨石。93は両面とも磨り減るが，側面は敲打痕が目立つ。94は，全面磨滅するが，半分しか残らない。

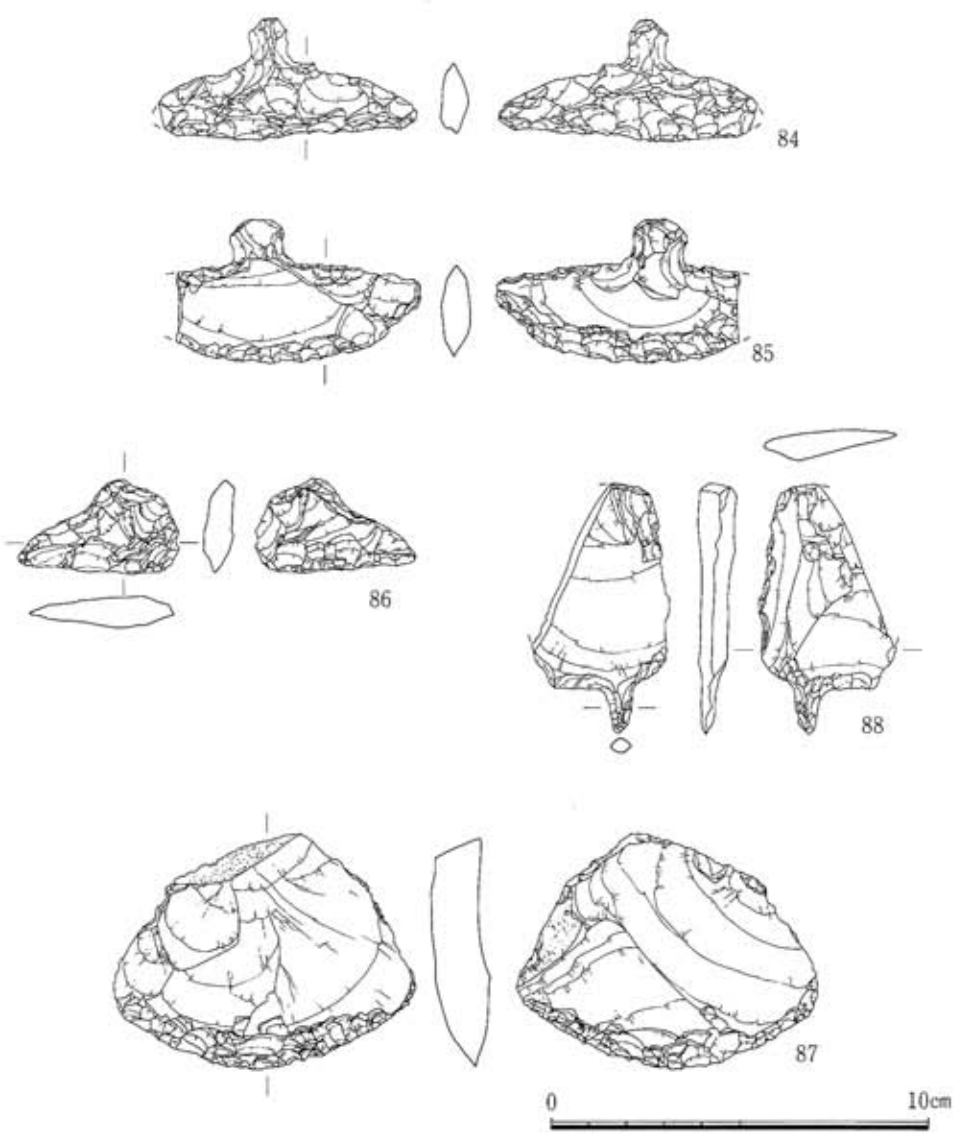


Fig. 43　石器2（1/2）

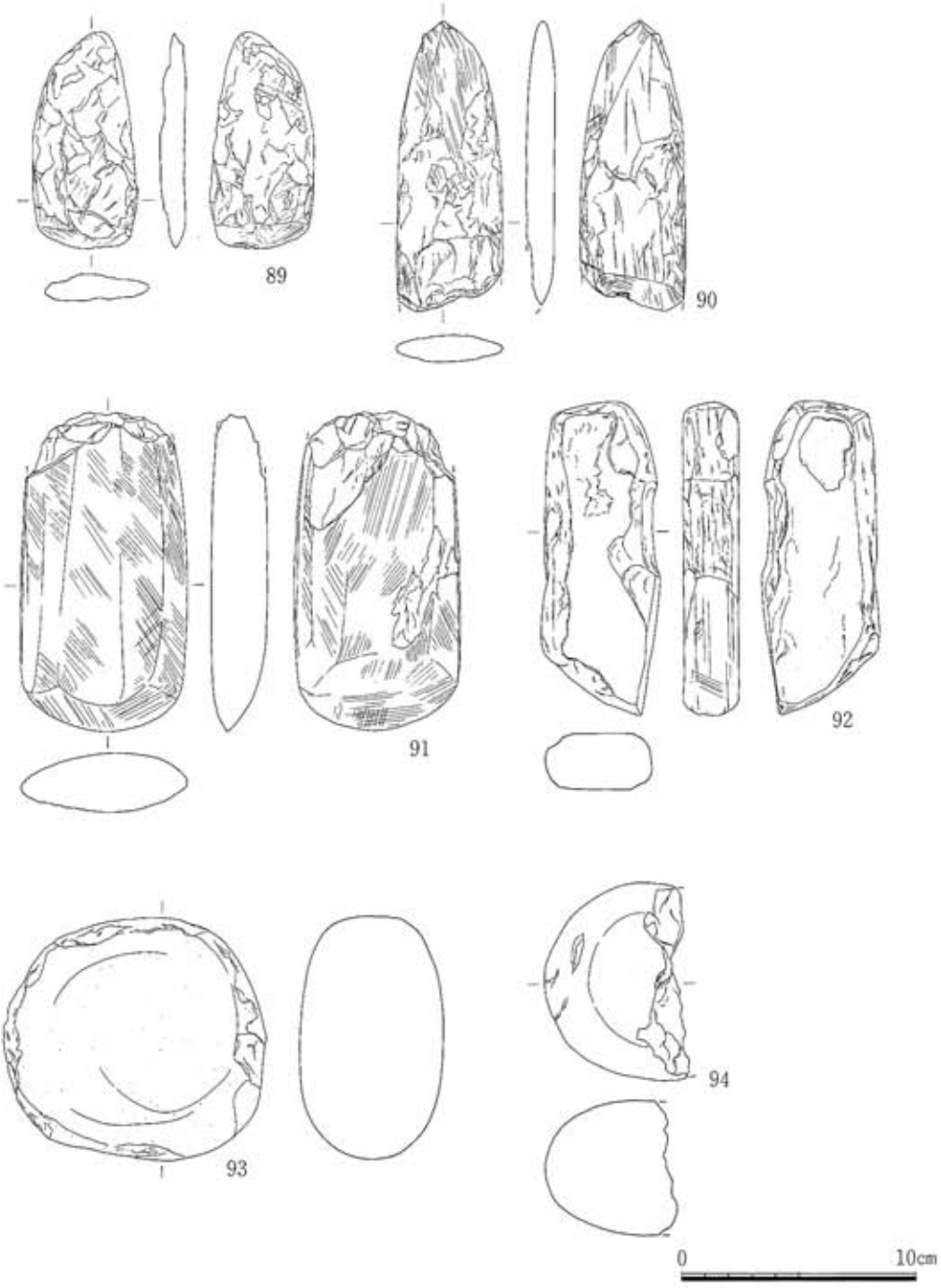


Fig. 44　石器３（１/３）

原石（PL. 31）

黒曜石の原石で４個ともST002古墳墳丘下より出土したもので，集積されていた可能性が高い。

Tab.3　石器観察表

Fig.No	出土地点	器　種	法量cm	色　調	出土物登録番号	Fig.No	出土地点	器　種	法量cm	色　調	出土物登録番号
42-65	D-11 表土下層	打製石器 石　槍	長 7.2 幅 2.7 厚 0.75	灰　色	82002340	42-80	ST003 周溝A	打製石器 石　鏃	長 2.3 幅 2.1 厚 0.45	灰黒色	82002302
-66	D-5 土器集中No.1	打製石器 実測不能	長 5.9 幅 2.7 厚 0.9	灰　色	82002339	-81	1号墳 墳頂部 撹乱土中	打製石器 石　鏃	長 2.8 幅 2.2 厚 0.7	灰　色	82002307
-67	ST001 石室内埋土中	打製石器 石　鏃	長 3.2 幅 1.8 厚 0.5	灰　色	82001794	-82	P_2・P_3付近	打製石器 石　鏃	長 3.1 幅 2.0 厚 0.5	灰黒色	82002309
-68	ST001 墳丘B盛土中	打製石器 石　鏃	長 2.9 幅 1.5 厚 0.4	灰黒色	82001796	-83	SK016 北側	打製石器 石　鏃	長 3.0 幅 2.4 厚 0.8	灰黒色	82002310
-69	ST001 墳丘B盛土中	打製石器 石　鏃	長 2.1 幅 1.8 厚 0.4	灰　色	82001795	43-84	P_3・P_4付近	打製石器 石　匙	長 3.2 幅 6.8 厚 0.85	灰　色	82002313
-70	ST002 墳丘B盛土中	打製石器 石　鏃	長 2.5 幅 1.6 厚 0.3	灰　色	82001798	-85	C-7 石直上	打製石器 石　匙	長 3.75 幅 6.4 厚 1.2	灰　色	82002314
-71	ST002 周溝C	打製石器 石　鏃	長 1.6 幅 1.4 厚 0.4	黒　色	82001797	-86	ST004 墳丘A 盛土中	打製石器 スクレイパー	長 2.45 幅 4.3 厚 0.8	灰黒色	82002311
-72	ST003 墳丘C盛土中	打製石器 (局部磨製) 石　鏃	長 2.1 幅 1.9 厚 0.25	灰黒色	82002301	-87	P_2・P_3付近	打製石器 スクレーパー	長 6.0 幅 7.9 厚 1.7	灰　色	82002315
-73	SC009	打製石器 石　鏃	長 1.7 幅 1.0 厚 0.4	黒　色	82002306	-88	ST001 ①トレンチ	打製石器 石　錐	長 6.5 幅 3.5 厚 0.9	灰黒色	82002312
-74	ST003 周溝A	打製石器 石　鏃	長 2.7 幅 1.6 厚 0.3	灰黒色	82002316	44-89	C-5 (S-1)	磨製石器 石　斧	長 9.1 幅 4.4 厚 1.0	黄白色	82002320
-75	ST003 墳丘B盛土中	打製石器 (局部磨製) 石　鏃	長 2.8 幅 1.8 厚 0.45	灰黒色	82001800	-90	ST003 周溝A	磨製石器 石　斧	長12.2 幅 4.45 厚 1.2	灰黒色及び灰白色	82002318
-76	SC008 祠内	打製石器 石　鏃	長 2.75 幅 1.1 厚 0.35	灰　色	82002304	-91	ST004 周溝A 墳土中	磨製石器 石　斧	長13.4 幅 7.0 厚 2.5	緑白色と黄白色の斑	82002319
-77	ST004 墳丘D盛土中	打製石器 石　鏃	長 2.3 幅 1.5 厚 3.5	黒　色	82002303	-92	北東部 表土層	磨製石器 抉り入り石斧	長12.7 幅 4.8 厚 2.4	黄灰色	82002317
-78	C-5 表土下	打製石器 石　鏃	長 2.2 幅 1.6 厚 0.3	黒　色	82002308	-93	ST003 墳丘B	磨製石器 磨　石	長10.2 幅11.1 厚 6.1	黄灰色	82002321
-79	ST003 墳丘B盛土中	打製石器 石　鏃	長 2.1 幅 1.4 厚 0.35	黒　色	82001799	-94	ST004 墳丘D 盛土中	磨製石器 磨　石	長 8.2 幅 5.6 厚 5.6	黄灰色	82002322

2．古墳時代の遺物

古墳時代の出土遺物についても，基本的に遺構ごとにまとめて記述する。

(1) ST001古墳出土遺物（Fig. 45～49）

周溝内および周辺と墳丘より，須恵器・土師器・土製勾玉・鉄器が出土している。

周溝内出土遺物

95～129は周溝内B区，130・131は周溝内A区から出土した。

須恵器

95～97は甕。95は，底部は尖り気味の丸底で，頸部は強くくびれ，口縁部は外反して口唇を丸くおさめる。頸部と口縁部の境の稜は鋭い。96は大形で，丸みのある体部に頸部は強くくびれ，口縁部は外反して立ち上がる。頸部と口縁部の境の稜は鋭い。体部のやや上半に穿孔されているが，これを挟む位置に二条の沈線が施される。また，この位置と頸部には櫛描き波状文が施される。97は，約1/3を欠失するが甕と考えられる。底は平底で，体部は肩が張る。頸部から口縁部にかけては比較的ゆるく外反して立ち上がる。頸部と口縁部の境の稜は鋭い。

98は，底部と口縁部の一部を欠くが，ほぼ完形の須恵器中形甕。球形の体部に短く外反する口縁部がつく。底部はややつぶれ気味。口縁下に一条の鋭い三角凸帯がつく。

土師器

99～102は坏。丸底であるが，99の口縁部は短く外反，100・101の口縁は直口，102は内湾する。99は器高が高い。103は小型鉢。胴部下側にはタタキが見られる。104～106は高坏。完形に復元できるものはないが，104・106の脚裾部はやや強く折れて広がる。107～121は，小型の壺。107は球形の体部にくびれた頸部がつき，口縁部は短く屈曲してから外反して立ち上がるもの。108・109は，体部上半にその最大径のある器形で尖り底である。口縁部は頸部から「く」の字形に屈曲して立ち上がる。110～113は，球形の体部に頸部はそれほどくびれず直口気味に立ち上がる。このうち，110～112は口縁部が器高の1/3，113・114は1/4程度のものである。

122～124は壺形土器。122は，最大径が体部下半にあり撫で肩の器形である。口縁部も比較的長い。内面は，底部から頸部直下までヘラケズリ。123は最大径が体部中位にある。肩は比較的張り，底部は丸底で，口縁部は外反気味に立ち上がる。124は頸部がやや広く比較的肩部も張る。

125～128は，ミニチュア土器。125が壺形，126～128は鉢形である。

130・131は，周溝A区で出土した土師器。130は刻み目凸帯のある壺ないし甕の肩部片である。131は高坏の脚部片。

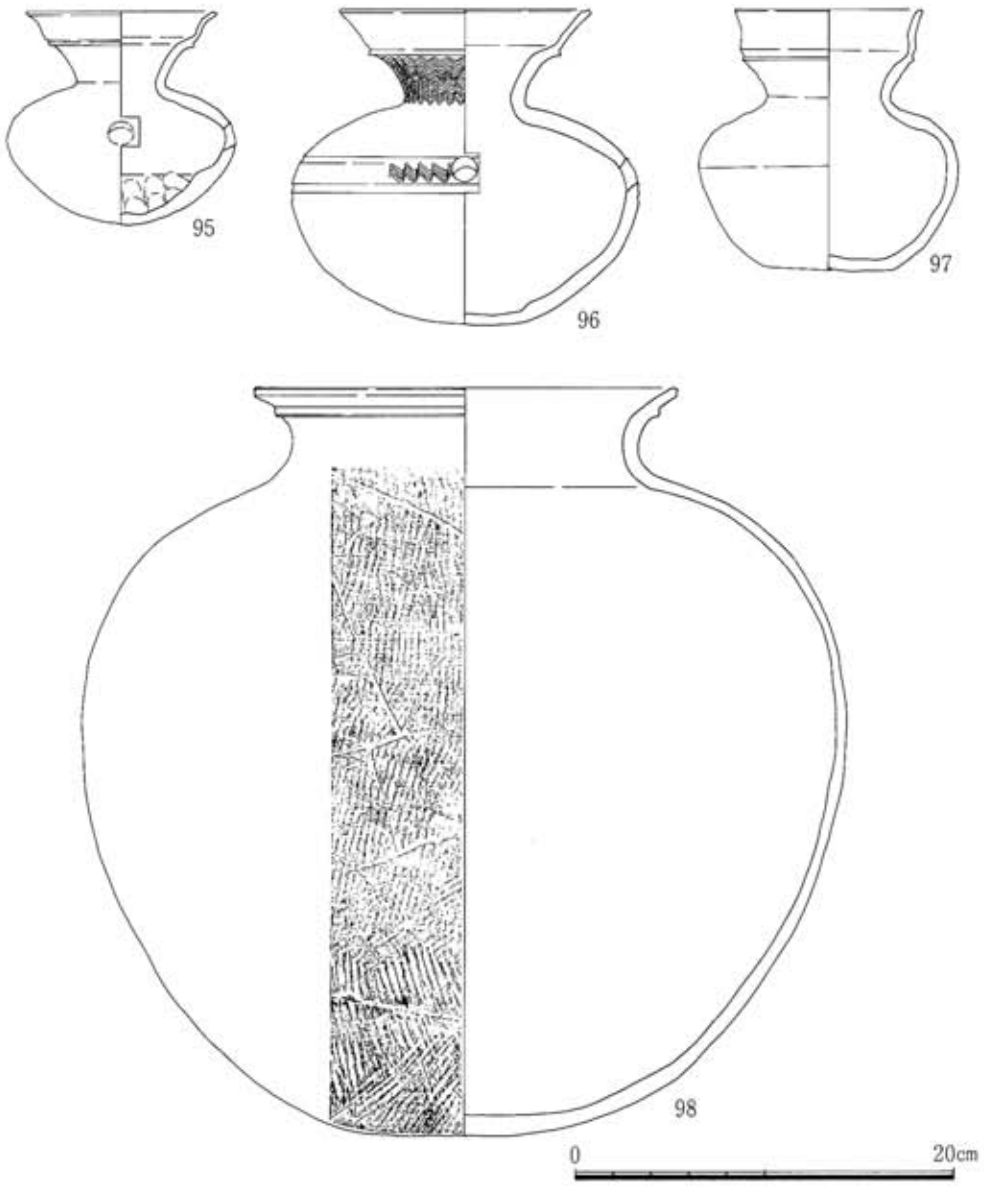


Fig. 45　ST001古墳周溝内出土須恵器（1/4）

土製勾玉

129は，土製の勾玉。頭部を欠くが，かろうじて孔が半分ほど残存し，以下尾部まで残っている。残存高4.2cm，幅1.8cmを測る。

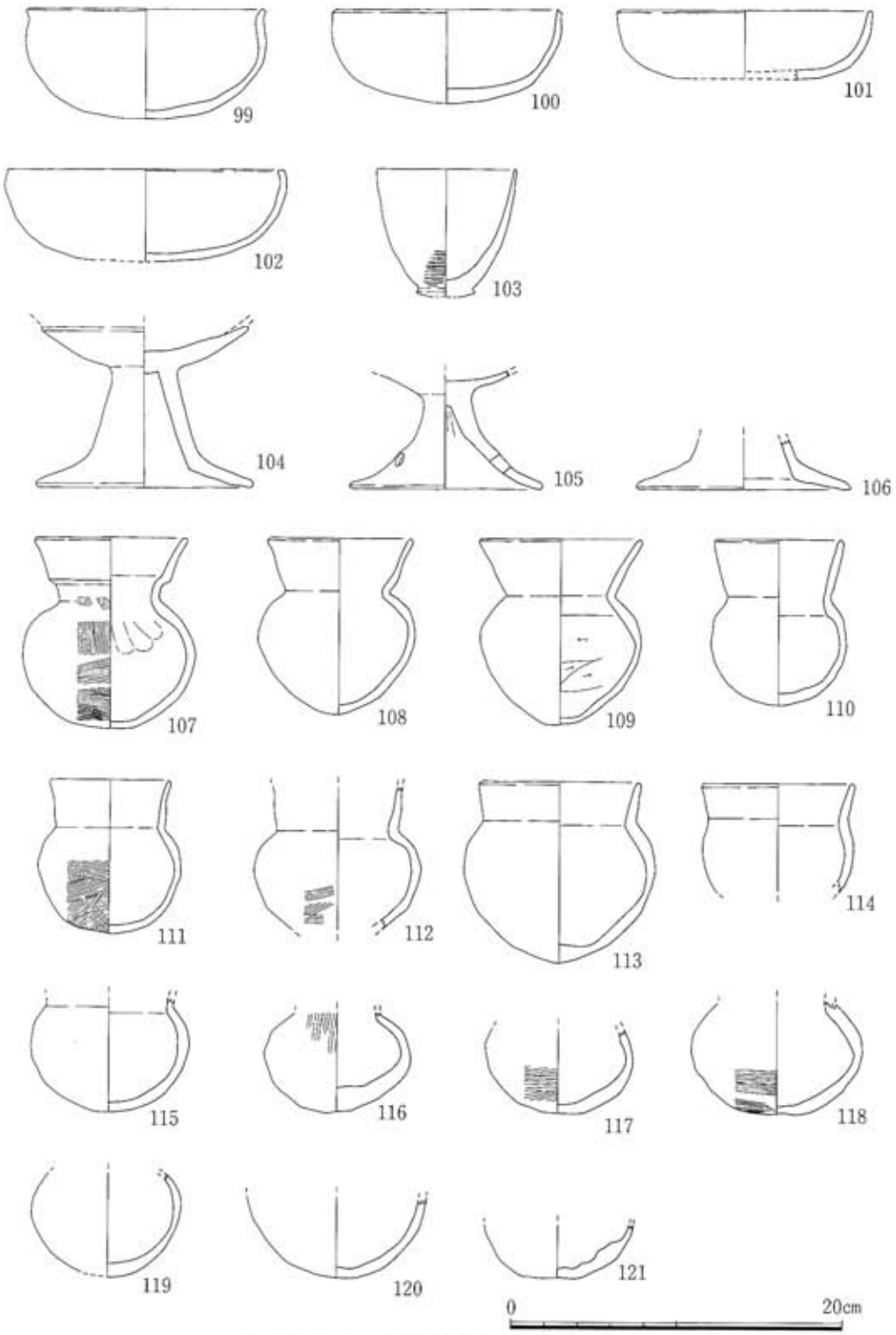


Fig. 46　ST001古墳周溝内出土土師器（1/4）

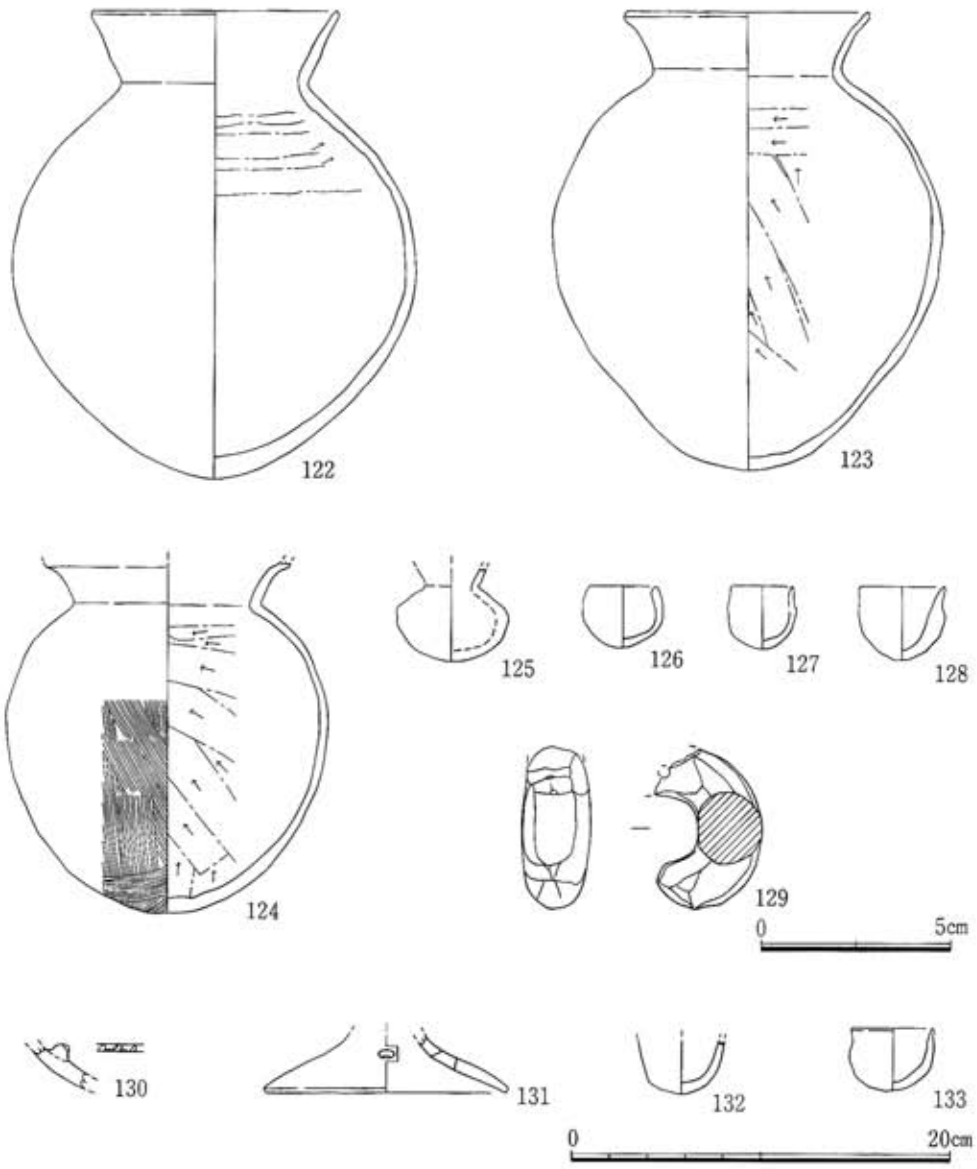


Fig. 47　ST001古墳周溝内(122～131)・周溝外遺構(132・133)出土遺物(129は1/2，他は1/4)

周溝外出土遺物

土師器

132・133は周溝外遺構から出土したミニチュア土器。134～144は，140が玄室内埋土中（墳丘からの紛れ込みの可能性あり）の出土であるのを除いて，墳丘盛土ないし表土から出土した。134・135は，坏。口縁部が短く外反し丸底である。95と同器形であるが，器高が低い。136は高坏の脚部片。くびれ部からそのままひらく形態のもの。137は二重口縁壺の口縁部片。外面から

内面上部にかけてヘラミガキ調整。138～141は，甕形土器。138は破片であるが，短く強く外反するもの。139～141は，これより小形のものであるが，139は肩の張る体部と短めの外反する口縁部が特徴で，口縁部から肩部にかけてタタキ痕が残る。140・141は撫で肩の体部に長めの口縁部がつく。142～144はミニチュア土器。142は坏形，143・144は器台形である。

鉄器

145は，鉄剣。茎先端を一部欠くが，残存状況は良好で，柄や鞘の木質が付着する。残存長73cm。146は，鉄刀。茎は目釘孔が２つあり，柄の木質が付着する。また，刃部にも鞘の木質が残っている。147～167は，鉄鏃。このうち147～156-2は錆びて一固まりになっており，３点のみを図上で別に示している。いずれも鏃身部は小形柳葉式ないし長三角形式であるが，頸部の一方に逆刺がつく有片逆刺式と呼ばれるものである。鏃身部の断面形は両丸ないし片丸作りの両刃であるが，頸部のうち鏃身部と逆刺の間は片刃状につくる。157～161も同型式である。また，162・163は逆刺が観察されないが，同型式の可能性が強い。164～167は平根式。164・165は柳葉式に逆刺のつく腸抉柳葉式。166は，圭頭式。167は先端を欠くが，圭頭ないし方頭式。

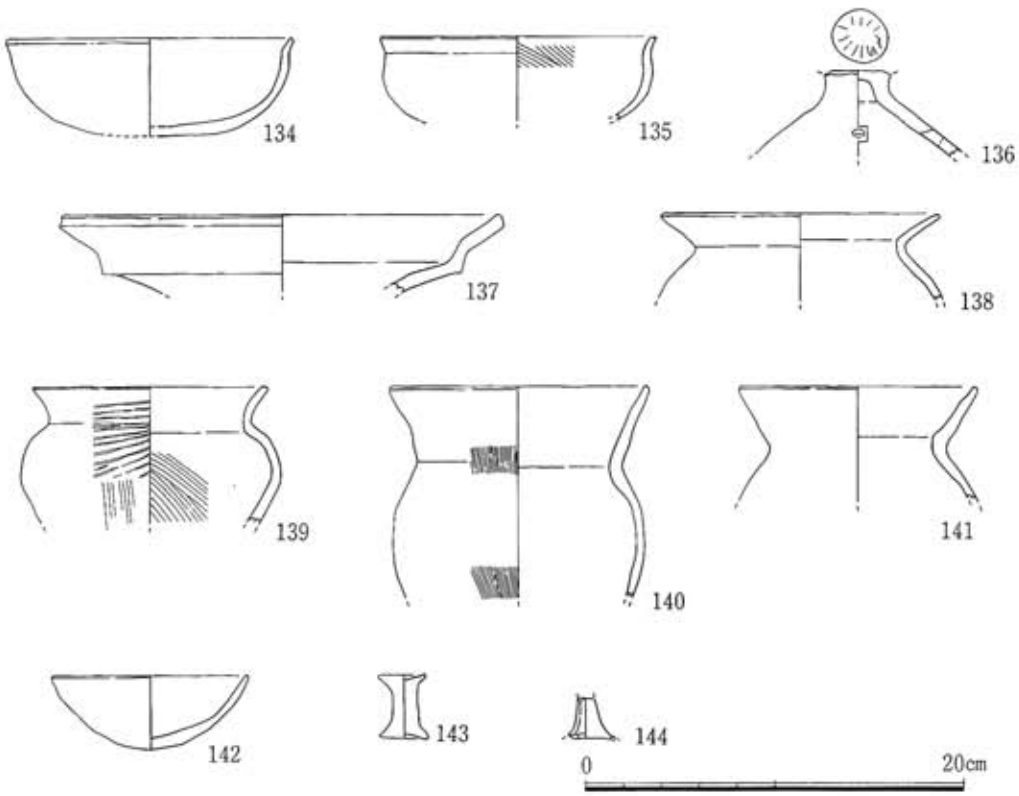


Fig. 48　ST001古墳周溝外出土土師器（1/4）

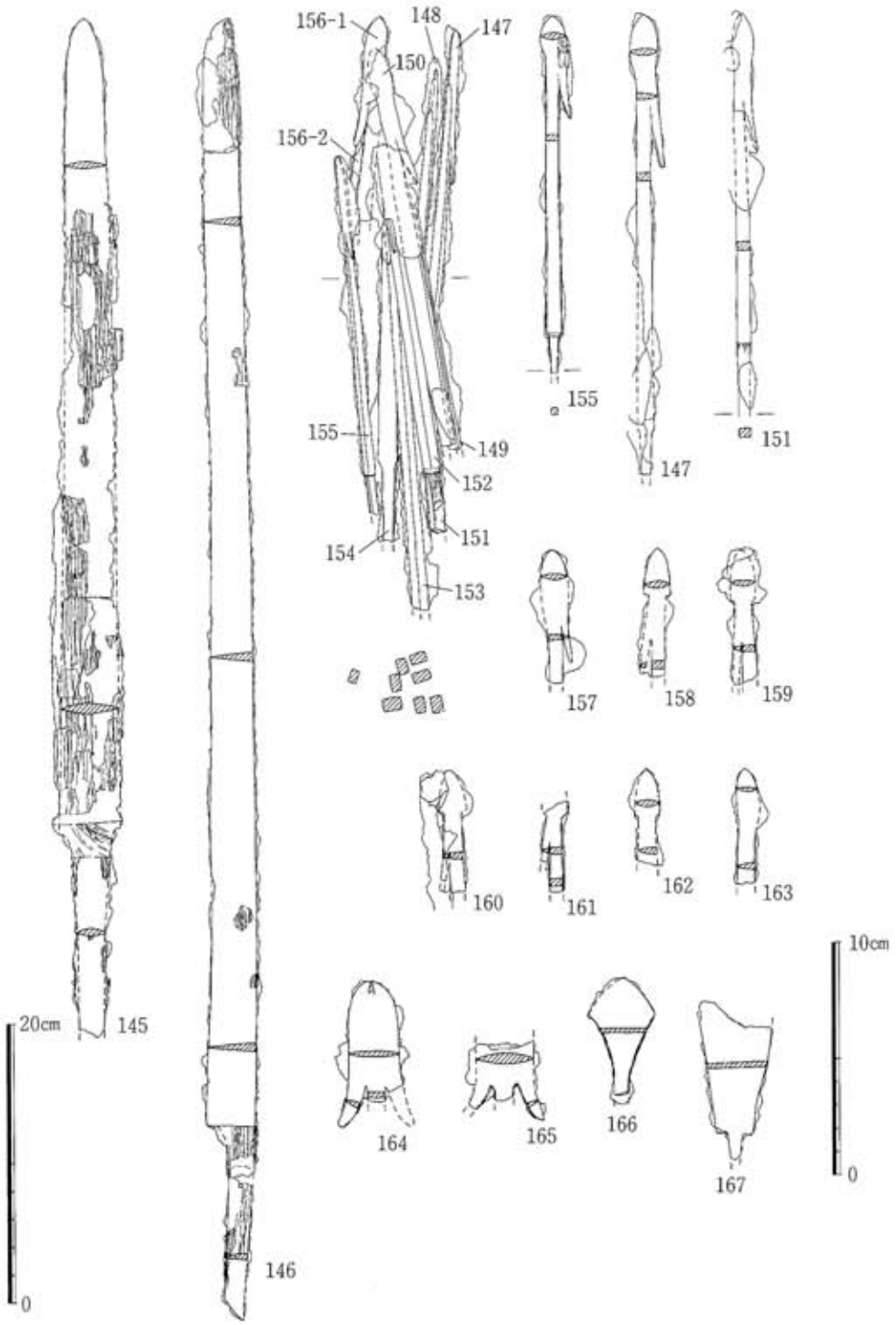


Fig. 49　ST001古墳出土鉄器（145・146は1/5，他は1/3）

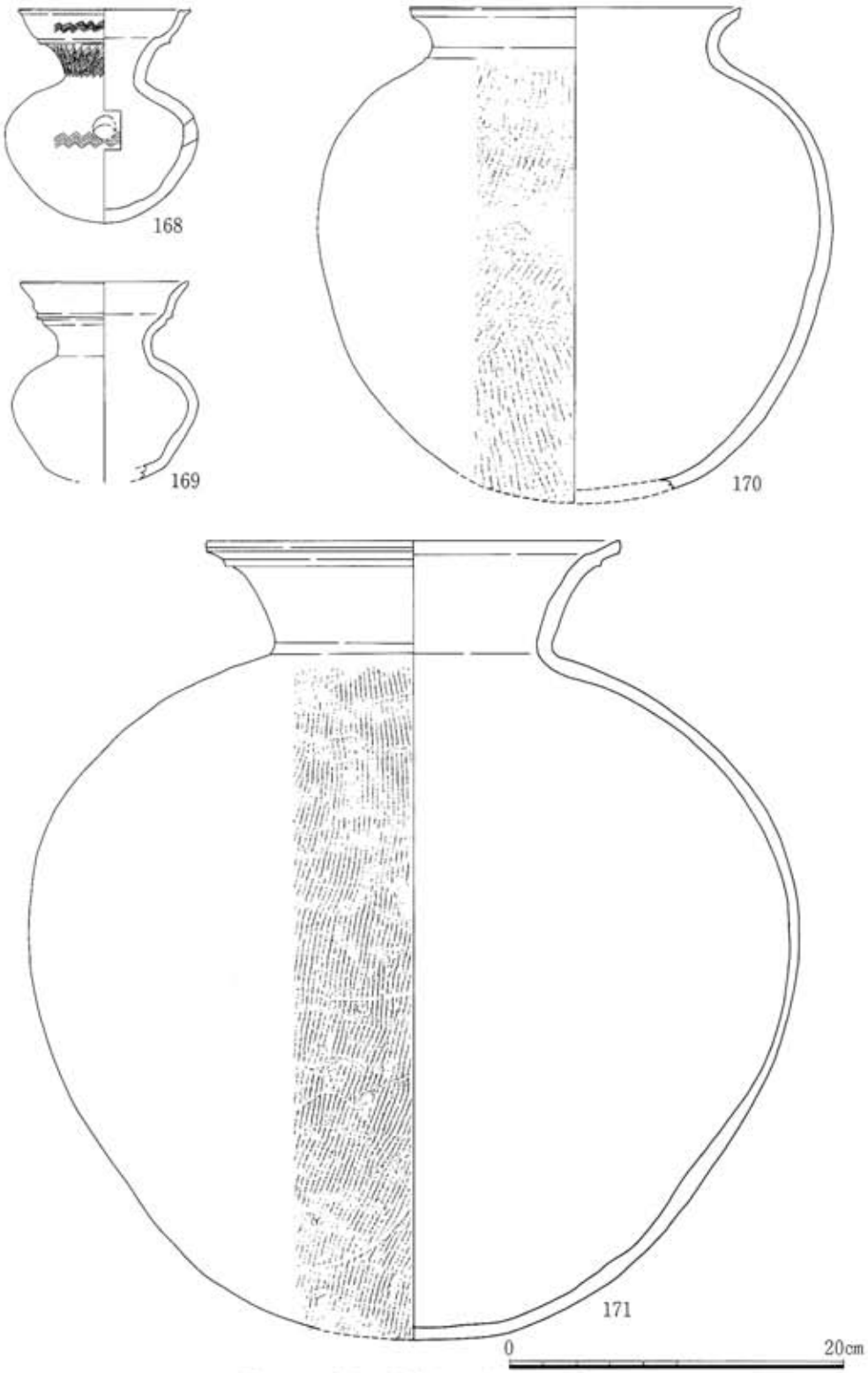


Fig. 50　ST002古墳出土須恵器（1/4）

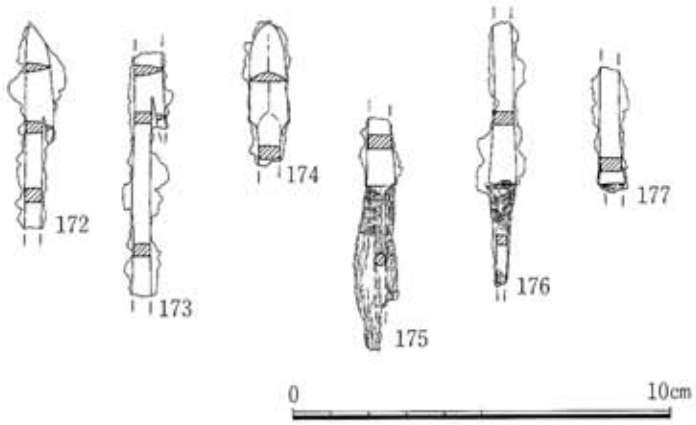


Fig. 51　ST002古墳出土鉄鏃（1/2）

(2)　ST002古墳出土遺物（Fig. 50・51）

須恵器

168・169は甕。168は，やや肩の張りの弱い体部に頸部は比較的強くくびれ，頸部から口縁部は外反して立ち上がり，その境は段をなす。口縁端部は凹面をなす。口縁部，頸部，体部中央に櫛描波状文が施されている。体部は平行タタキ後回転ヨコナデで消されている。また，底部も平行タタキ後ナデられている。169は，口縁部と体部の破片から図上復元したもの。底部は欠失し，体部は肩の張る器形を呈する。頸部のくびれはややゆるく，カーブしながら頸部へとつながる。境界に稜をもち口縁部へと移行する。口縁部は先端をさらに外反させ丸くおさめる。170は小形の甕。球形の体部に短く外反する口縁部が付く。口縁端部はつまみ上げられる。体部は外部が平行タタキで部分的にカキ目状のナデ痕が回る。内部は同心円タタキを撫で消している。171は，中形の甕。球形の体部に外反する口縁部がつく。外面口縁下には三角凸帯が一条めぐらされる。口縁端部はやや角張って仕上げられている。体部は外部が平行タタキ，内部は同心円タタキを撫で消している。

鉄器

若干の鉄鏃片が玄室内から出土している。172・173は，片刃箭式。逆刺が発達している。174は小形柳葉式。175～177は頸部から茎の破片。頸部の関に近い部分が広がる特徴がある。

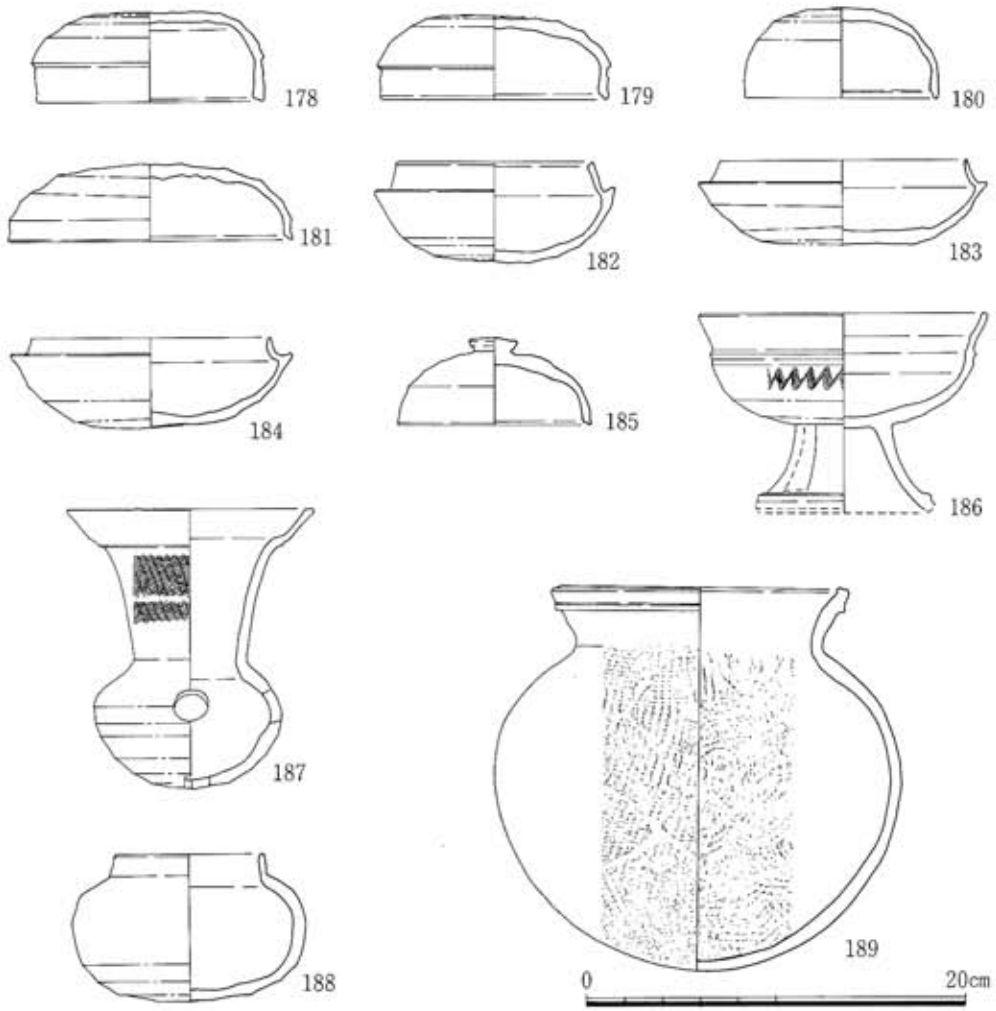


Fig. 52　ST003古墳出土須恵器（1/4）

(3)　ST003古墳出土遺物（Fig. 52～54）

須恵器

178～181は杯蓋。178は天井部と口縁部の境は段をなし，口縁端部は若干内側に傾斜するものの水平に近い。口縁部も長い。外面のヘラケズリは，天井部の2/3程度施される。179は天井部と口縁部の境は段をなすが，178に比べ段がゆるい。天井部はやや丸みを持ち，口縁部も短い。口縁端部は内部に傾斜する。外面のヘラケズリは，天井部の1/2強である。180は，天井部と口縁部の境の稜，段，沈線などがないもの。口径の割に器高が高く丸みをおびた器形である。口縁端部は内傾する。外面ヘラケズリは全体の約1/2である。181は，同様の器形だが，器高が低く口縁端部は若干外反する。外面ヘラケズリは全体の約1/3である。

182～184は坏身。182は比較的体部および口縁部の高さが高く，受け部もしっかりしている。口縁部は内傾気味に立ち上がり端部は内部に傾斜する。体部外面のヘラケズリは1/2強である。

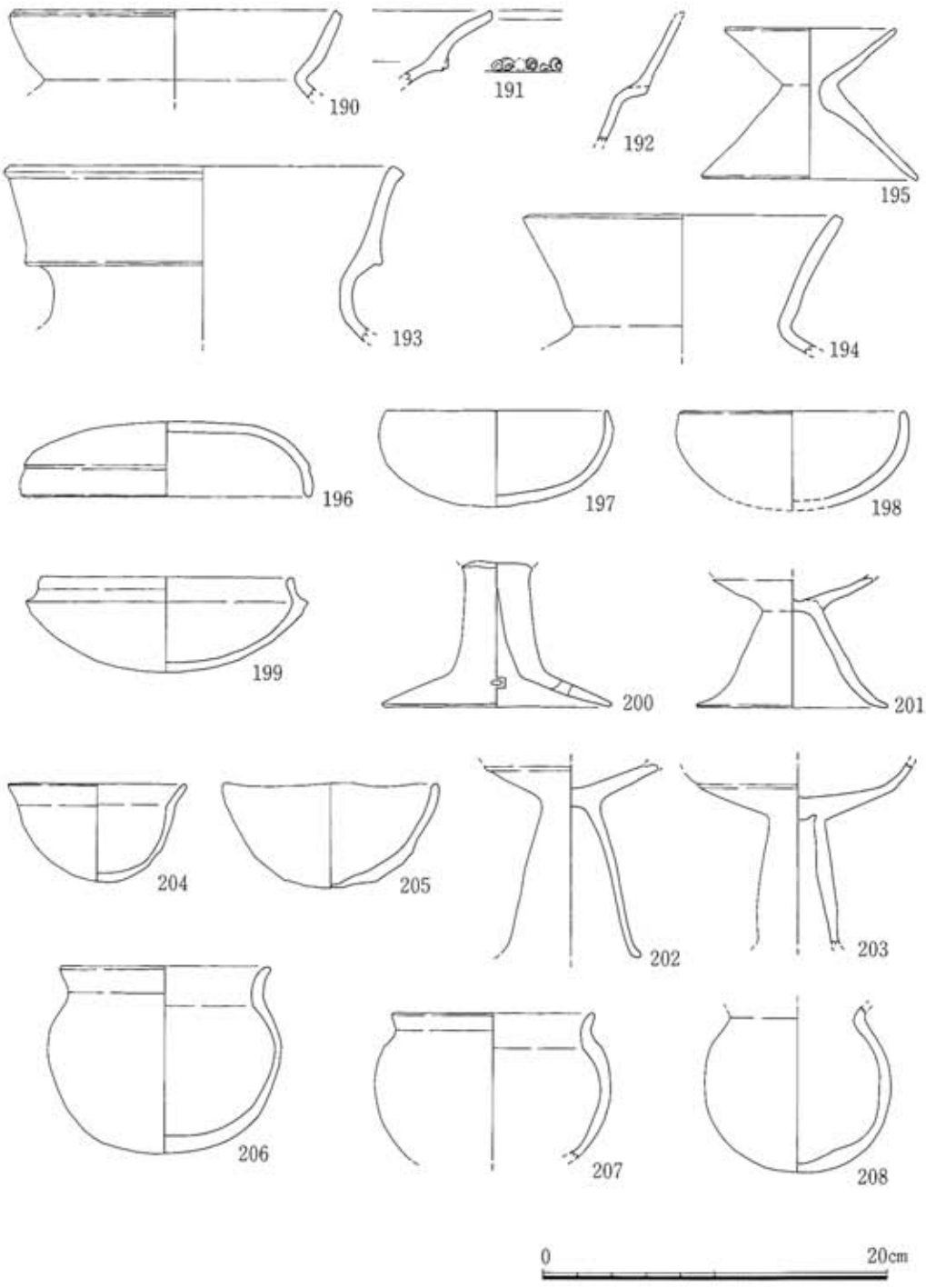


Fig. 53　ST003古墳出土土師器（1/4）

183は口径が大きく，器高の低い器形で，口縁部が短く端部は薄く尖っている。体部外面のヘラケズリは1/3程である。184も同様の器形であるが，口縁部はさらに短く，端部は丸い。

185は高坏の蓋。釦状の摘み付き，体部は丸みをおびる。口縁端部はゆるく内傾する。186は無蓋の高坏。口縁部を1/2，脚部を1/3程度欠損し，脚端部の形態は不明である。口縁部はやや外反し，端部は丸い。体部との境には小さな三角凸帯があり，体部は丸みがあり深い。体部に櫛描き波状文が一条施されている。187は，甕。小さい体部に長い頸部が付き，口縁部は外反し，最大径は口縁部にある。頸部に櫛描き波状文が施されている。188は，短頸壷。偏平な球形の体部に短い直口の口縁部が付く。189は小形の甕。球形の体部に短い口縁部がつく。口縁部は厚く，端部は凹む。口縁下に凸帯が一条めぐる。体部内面は，同心円タタキ，外面は格子目タタキである。

土師器

190は，甕形土器口縁部。口縁部は内湾気味に立ち上がり，端部は凹む。191～193は二重口縁壷。191は外面の屈曲部に円形浮文が連続して付けられ，外湾して広く立ち上がる。193は，短く頸部が外反し二次口縁は若干外反して立ち上がる。194は口縁部の立ち上がりの長い広口壷で，口縁端部は明確な面を持つ。195は器台。X字形の器形を呈する。196は坏蓋。口縁部と天井部の境に低い段を有する。197・198は無蓋の坏。底部は丸く，口縁部は内湾する。199は受け部を有する有蓋の坏。200は高坏の脚部。脚柱部は細く裾部は開く形態である。201は短脚の高坏であるが，脚部は外開きで裾部が短く外反するが，坏部の上半は欠損している。202・203は坏部に沈線を施された長脚の高坏。脚部はいずれも中空であるが，前者が外開きである。204は口縁部の短い小形丸底鉢。205は小形鉢。206・207は小形の甕。いずれも外面には煤が付着する。208は体部が球形の壷。190～194，200は墳丘盛土中およびトレンチ出土である。

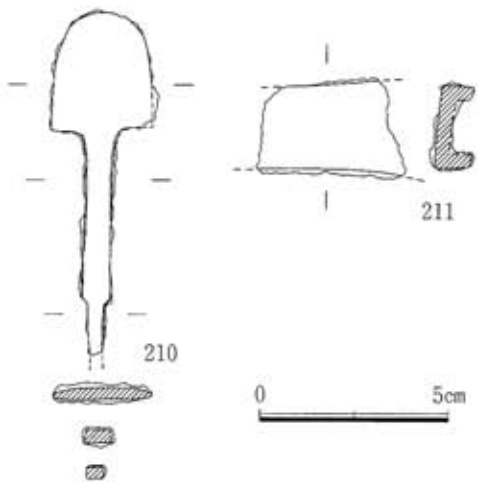


Fig. 54　ST003古墳出土鉄器（1/2）

鉄器

210は，広根三角形式の鉄鏃。鋒部は丸く，茎先端部を欠損。211は，墳丘北西部の盛土最下層より出土した鍛造鉄斧である。出土時には全長20cmほどでほぼ完形を保っていたが，取上げ後自然崩壊し，細片となっている。横断面台形で，平面形は中程でややくびれるバチ形を呈していた。

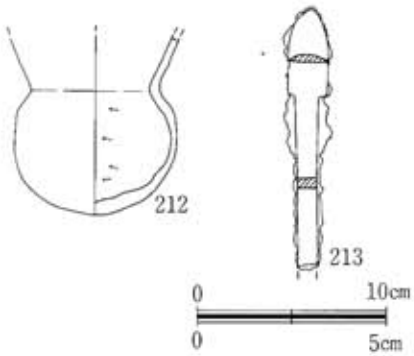


Fig. 55　ST004古墳出土遺物
（212は1/4，213は1/2）

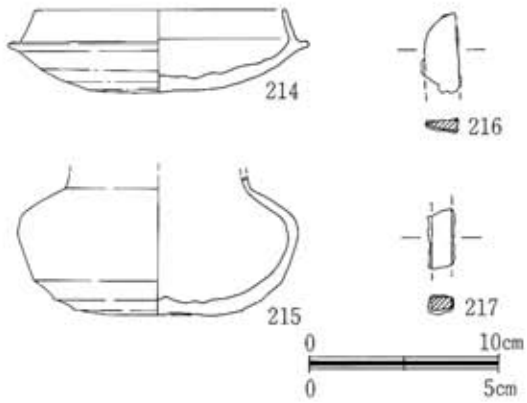


Fig. 56　ST006古墳出土遺物
（1/4，216・217は1/2）

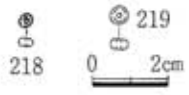


Fig. 57　SC008箱式石棺墓出土玉（1/2）

(4)　ST004古墳出土遺物（Fig. 55）

土師器

212は，小形壺。球形の体部に外反する口縁部がつく。口縁部は欠損。体部は外面がハケメ及びナデ，内面はヘラケズリ。口縁部は内外面ともヨコナデで調整される。

鉄器

213は，鏃身部が片丸造りの小形長三角形式鉄鏃。頸部の下半および茎部が欠損する。

(5)　ST006古墳出土遺物（Fig. 56）

須恵器

214は，杯身。体部は比較的浅いが，口縁部の立ち上がりは内傾しながら高く立ち上がる。端部は丸い。体部のヘラケズリは全体の約2/3である。215は短頸壺。口縁部は欠損するが，偏平な体部に短い口縁部が付く。外面底部はヘラケズリ。その他はヨコナデである。214の一部はST003古墳周溝外縁，215の一部はST004古墳墳丘より出土いている。

鉄器

216は，刀子または，片刃箭式鉄鏃の鋒部破片。217は鉄鏃の頸部破片。

(6)　SC008箱式石棺墓出土遺物（Fig. 57）

ガラス玉

218は，黄色の小玉。径0.38cmを測る。219は緑色の小玉。径0.48cmを測る。

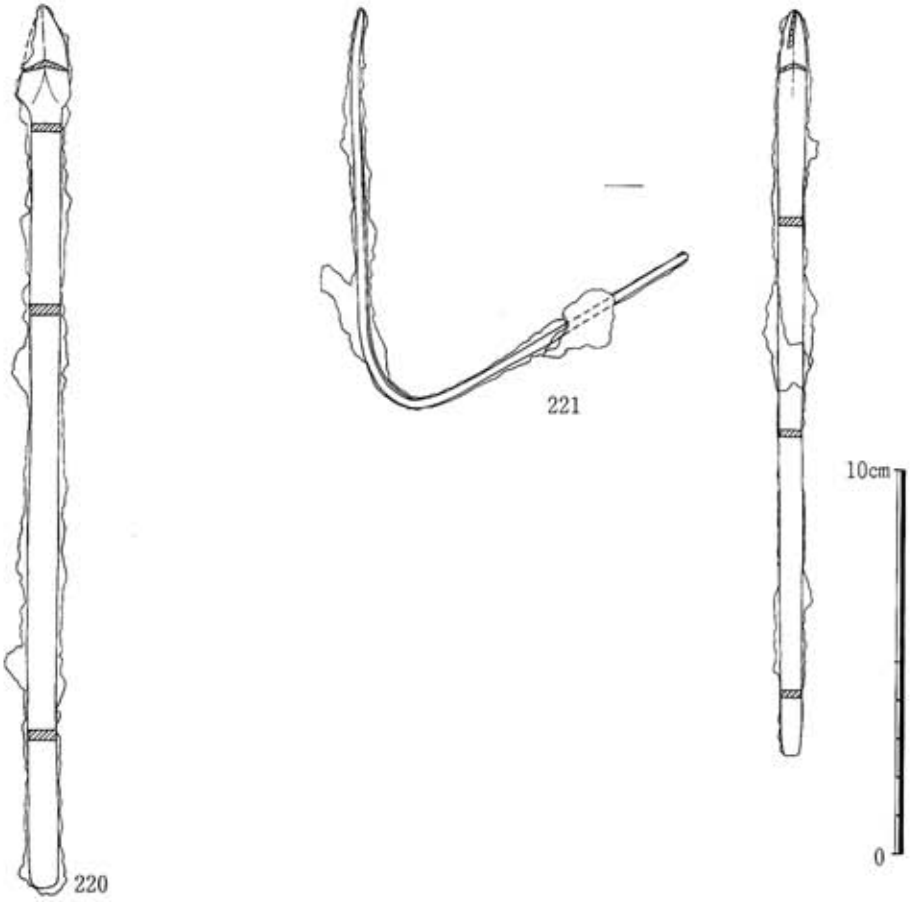


Fig. 58　SC009箱式石棺墓・ST011古墳出土鉄鉇（1/2）

(7)　SC009石棺墓出土遺物（Fig. 58）

鉄器

220は，鉄鉇。刃部と茎部は，槍先などでいう両関で分けられる。刃部長2.7cm，茎長20.3cmで全長23.0cmを測る。

(8)　ST011古墳出土遺物（Fig. 58）

鉄器

221は，鉄鉇。茎先端をわずかに欠損するが，ほぼ完形。中央より折り曲げられV字形を呈する。全長19.3cm，最大幅は刃部で0.65cmを測る。

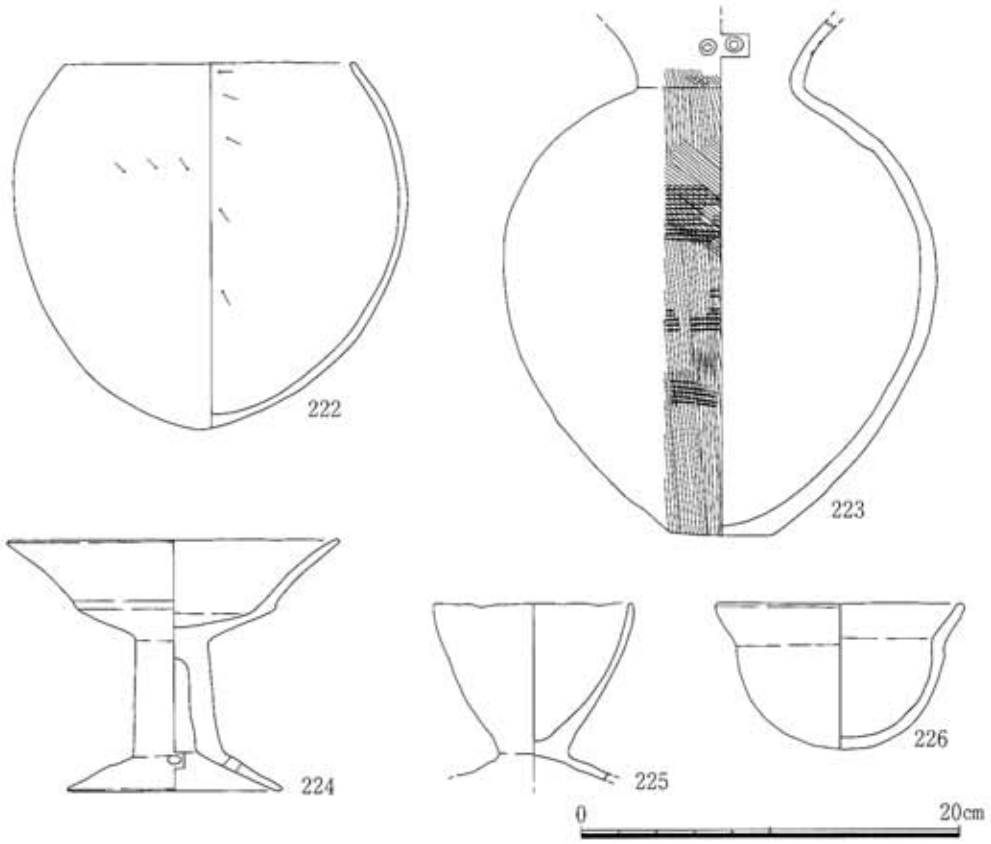


Fig. 59　SK010土壙出土土師器（1/4）

(9) SK010土壙出土遺物（Fig. 59）

土器

222は，甕ないし壷形土器の頸部より上部を打ち欠いたもの。倒卵形の器形を呈し，外面下部はナデ，中位はヘラケズリ，上部はヘラミガキで煤が付着している。内面はヘラケズリである。底部は，やや厚く尖り気味である。223は，平底で体部中位に最大径があり，くびれた頸部に外開きの口縁部の付く壷形土器である。口縁端部は欠損している。外面はタタキの後ハケメを施し，内面はヘラケズリであるが，器壁は比較的厚い。口縁部に竹管により2個の刺突文が施されている。224は高坏。坏部は底部と体部の境が屈曲し，口縁部が外反する。脚柱部は円柱状を呈し，中空である。脚部は外開きで，穿孔された孔がある。脚柱部はヘラミガキが見られるが，他の器面調整は不明瞭。225は，小型台付鉢。脚部は欠損している。鉢部は底部から単純に立ち上がるもので，口縁部はやや内湾して終わる。226は，小型丸底鉢。半球形の体部に短く外反する口縁がつく。

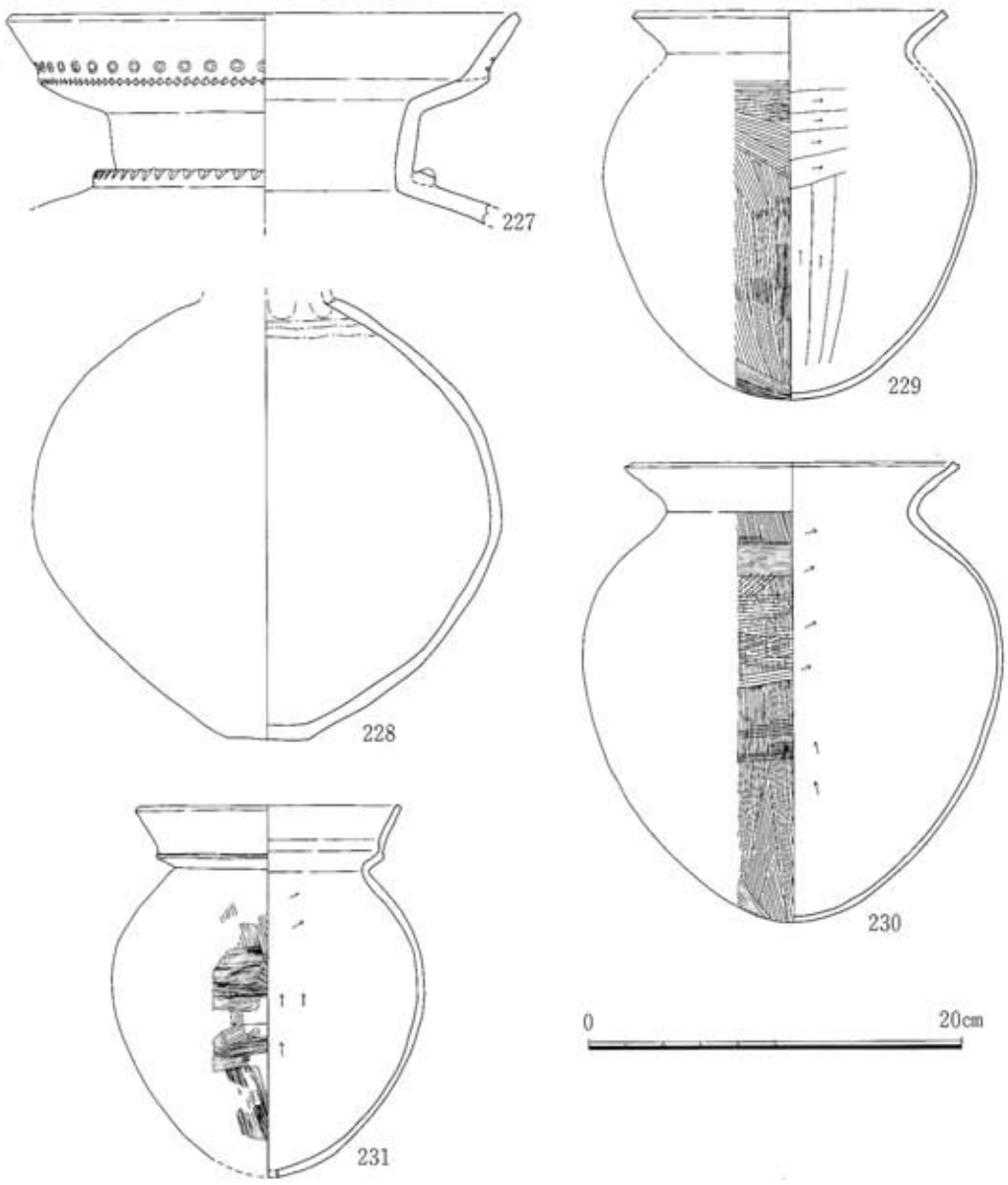


Fig. 60　SK014土壙出土土師器（1/4）

⑽　SK014土壙出土遺物（Fig. 60）

土師器

227は，肩部から口縁部まで残る二重口縁壺。肩部は，不明確ながら比較的張る形態と思われ，頸部は筒状を呈する。頸部と肩部の境に帯状の貼り付けに刻目文が施されている。また二

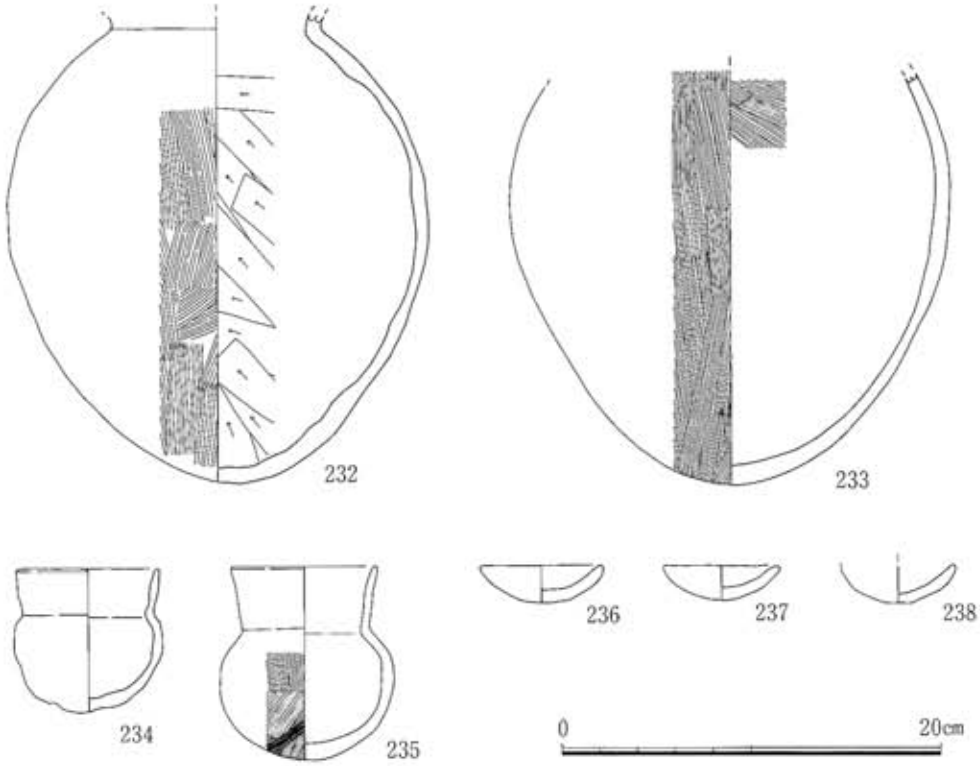


Fig. 61　SK016土壙出土土師器（1/4）

次口縁の下部には，竹管による円形刺突文と刻目文が施されている。228は，頸部より上が欠損する壺形土器。撫で肩の器形で，最大径は体部中位にある。底部は小さな平底である。229は，甕形土器。倒卵形の体部をもち，口縁部はやや内湾して外側に開いて立ち上がり，端部はつまみ上げられる。内面は下部が縦方向，上部が横方向のヘラケズリ，外面は下部が縦方向，上部が横ないし斜め方向のハケメである。230も甕形土器。上位に最大径のある，やや肩の張った体部に直線的に外反する口縁部がつく。口縁端部はつまみ上げられる。内面は下部が縦方向，上部が横方向のヘラケズリ，外面は縦方向のハケメの後，体部中位から肩部にかけて横方向のハケメが施される。231は，二重口縁の甕形土器。最大径が体部中位にあり，底部は尖り気味の丸底である。頸部は短く外反し，二次口縁は直線的に若干外反する。内面は下部が縦方向，上部が横方向のヘラケズリ，外面は縦方向のハケメの後，体部中位に横方向のハケメが施される。

(11)　SK016土壙出土遺物（Fig. 61）

土師器

232は，肩部より上を欠損する壺形土器。外面は縦方向のハケメ，内面は上半がハケメ，下半

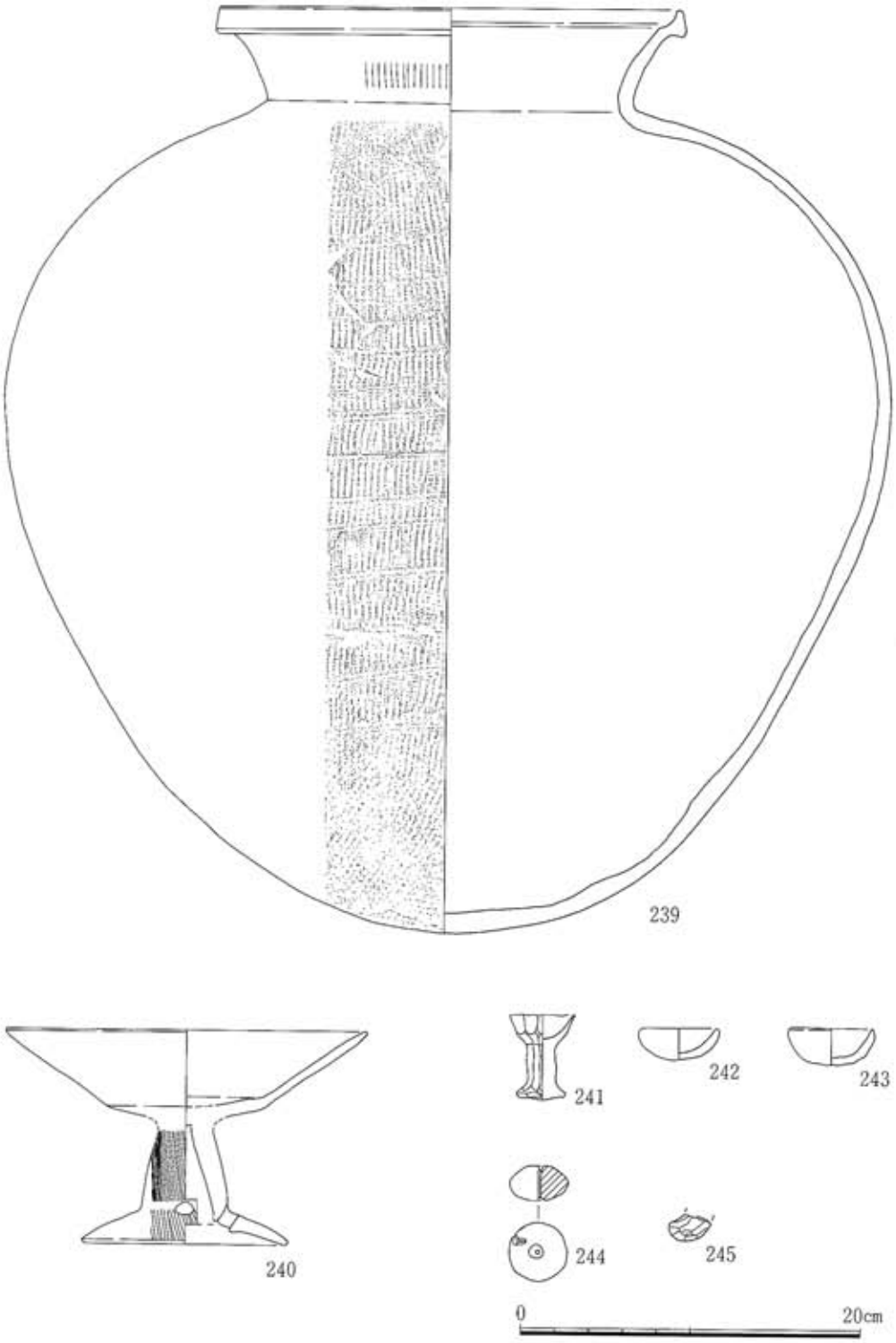


Fig. 62　遺構に伴わない遺物（1/4）

がヘラケズリである。233は，壺形土器。口縁部は欠失する。最大径が体部中位にあり，底部は尖り気味で，肩も張らない。外面は縦方向のハケメ，内面は斜め方向のヘラケズリであるが，頸基部までは達していない。234・235は，半球形の体部に直口の口縁部がつく小型の壺形土器。236～238は，鉢形のミニチュア土器。3点とも同形である。

(12) 遺構に伴わない遺物 (Fig. 62)

須恵器

239は，甕。やや肩の張る球形の体部に短く外反する口縁部がつく。口縁端部は肥厚する。外面は平行タタキの後カキメ状のナデを施してある。

土師器

241～243はミニチュア土器で，241は高坏ないし器台形，242・243は鉢形である。240は高坏。坏部は底部と体部の境が屈曲し直線的に開く。脚柱部はややふくらんだ円柱状で，裾部は外開きし屈曲部に穿孔がある。

土製品

242は土製の丸玉。中央に一孔があり，最大径3.4cm，最大厚2.0cmを測る。243は，勾玉の破片で，尾部のみが残る。

Tab.4　古墳時代土師器・須恵器観察表　　(法量　a:口径，b:器高，c:底径，d:残存高，e:頸径)

Fig.No	出土地点	器種	法量cm	色調	焼成	県遺物登録番号	Fig.No	出土地点	器種	法量cm	色調	焼成	県遺物登録番号
45-95	ST001	須恵器 甕	(a：10.0) b：11.1	灰色 淡黄茶色まじりの灰色部分あり	良	81003847	-103	ST001 周溝B	土師器 鉢	(a：8.4) b：7.6 (c：3.5)	淡褐色	良	81003816
-96	ST001 周溝B	須恵器 甕	a：13.1 b：16.4	灰色 茶緑色(灰釉)	良	81003848	-104	ST001 周溝B	土師器 高坏	c：13.0 d：9.6 e：4.0	淡橙褐色	良	81003817
-97	ST001 周溝B	須恵器 甕	a：9.8 b：13.6	暗灰色	良	81003849	-105	ST001 周溝B	土師器 高坏	c：11.6 d：7.0	橙色	良	81002099
-98	ST001	須恵器 甕	a：22.4 b：39.0	灰色 黄灰色	良	81003290	-106	ST001 周溝B	土師器 高坏	(c：13.0) d：3.0	橙色 一部黒色	良	81003829
46-99	ST001 周溝B	土師器 坏	(a：14.4) b：6.5	橙色	良	81003801	-107	ST001 周溝B	土師器 小形壺	a：9.2 b：11.4	黄褐色	良	81003842
-100	ST001	土師器 坏	a：13.8 b：5.6	橙色 外面一部黒褐色	良	81002100	-108	ST001 周溝	土師器 小形壺	a：8.8 b：10.5 e：6.3	淡褐色 外面一部黒褐色	良	81003811
-101	ST001 周溝B	土師器 坏	a：15.4 d：4.1	淡橙色 橙色	良	81003802	-109	ST001 周溝内	土師器 小形壺	(a：9.8) b：11.0 e：6.6	淡橙褐色 黒褐色	良	81003806
-102	ST001 周溝B	土師器 坏	a：16.6 d：5.5	橙色 外面一部黒色	良	81003803	-110	ST001 周溝B	土師器 小形壺	(a：7.8) b：9.9 e：6.2	橙色	良	81003809

Fig.No.	出土地点	器種	法量cm	色調	焼成	県遺物登録番号	Fig.No.	出土地点	器種	法量cm	色調	焼成	県遺物登録番号
46-111	ST001 周溝	土師器 小形壺	(a：7.2) b：9.2 c：6.6	淡褐色 内面一部黒褐色	良	81003807	-132	ST001 周溝外遺構	土師器 ミニチュア土器	d：2.8	橙褐色 黒褐色	良	81003835
-112	ST001 周溝B	土師器 小形壺	d：8.5 (e：7.2)	内面-橙褐色 外面-淡褐色 褐色	良	81003813	-133	ST001 周溝外遺構	土師器 ミニチュア土器	(a：4.2) b：3.3	橙色	良	81003837
-113	ST001 周溝B	土師器 小形壺	(a：9.8) b：10.8 c：9.2	淡褐色 黒褐色	良	81003836	48-134	ST001 墳丘B 周溝B	土師器 坏	a：15.2 d：5.1	橙褐色	良	81002095
-114	ST001 周溝B	土師器 小形壺	(a：9.2) d：6.5 (e：8.4)	黄褐色	良	81002096	-135	ST001 墳丘B 周溝B	土師器 坏	(a：14.6) d：4.4	橙褐色	良	81003841
-115	ST001 周溝B	土師器 小形壺	d：6.7 e：7.7	淡橙褐色	良	81003819	-136	ST001 石室石組中	土師器 高坏	d：4.3	淡褐色	良	81003830
-116	ST001	土師器 小形壺	d：5.9	茶褐色 黒褐色	良	81003823	-137	ST001 墳丘D	土師器 壺	(a：23.0) d：4.1	橙色 内外面とも赤褐色	良	81003826
-117	ST001	土師器 小形壺	d：5.1	淡褐色	良	81003827	-138	ST001 墳丘A 盛土中	土師器 甕	(a：14.6) d：4.5 (e：11.0)	橙色 褐色	良	81003812
-118	ST001 周溝B	土師器 小形壺	d：6.8 (脚径：10.2)	橙色	良	81003808	-139	ST001 墳丘A・D	土師器 甕	(a：12.4) d：7.1 e：10.6	淡褐色	良	81003820
-119	ST001 周溝B	土師器 小形壺	d：6.2	灰褐色	良	81003844	-140	ST001 玄室内	土師器 甕	a：13.7 d：11.0 e：10.8	淡橙色 褐色 黒褐色	良	81003805
-120	ST001	土師器 小形壺	d：4.8	淡褐色	良	81003822	-141	ST001 墳丘B・C 周溝B・C	土師器 甕	(a：12.6) d：6.0 (e：9.4)	橙褐色	良	81003804
-121	ST001 周溝B	土師器 小形壺	d：3.2	外面-黒色淡褐色 内面-淡褐色	良	81003845	-142	ST001 墳丘D	土師器 ミニチュア土器	(a：10.4) b：3.8	淡褐色	良	81003838
47-122	ST001 周溝B	土師器 壺	(a：13.0) b：24.5	黄褐色 黒褐色	良	81003843	-143	ST001 墳丘A	土師器 ミニチュア土器	d：3.3	橙色	良	81003825
-123	ST001 周溝B	土師器 壺	(a：13.0) b：23.9 (e：9.9)	淡茶橙色	良	81003815	-144	ST001 玄室内	土師器 ミニチュア土器	d：2.1	淡橙褐色	良	81003846
-124	ST-001 周溝B	土師器 壺	d：18.3 e：9.8	淡褐色	良	81003818	50-168	ST002 周溝A	須恵器 蓋	a：10.3 b：12.6	灰色	良	81003850
-125	ST001 周溝B	土師器 ミニチュア土器	d：4.9 e：2.8	褐色	良	81003821	-169	ST002 周溝B 墳丘B	須恵器 蓋	(a：10.2) b：11.7	暗灰色	良	81003851
-126	ST001 周溝B	土師器 ミニチュア土器	(a：3.5) b：3.2	淡橙褐色	良	81003832	-170	ST002	須恵器 甕	(a：19.8) d：28.5	灰色	良	81003852
-127	ST001 周溝B	土師器 ミニチュア土器	a：3.2 b：3.3	橙褐色	良	81002097	-171	ST002	須恵器 甕	a：24.7 b：47.0	灰色 暗灰色	良	81003291
-128	ST001 周溝	土師器 ミニチュア器	a：4.4 b：3.8	淡褐色 黒褐色	良	81003831	52-178	ST003	須恵器 坏蓋	a：12.0 b：4.7	灰色	良	81003854
-130	ST001 周溝A	土師器 壺か	d：2.3	淡褐色	良	81003834	-179	ST003	須恵器 坏蓋	(a：12.0) b：4.4	灰色	良	81003857
-131	ST001 周溝A	土師器 高坏	(c：12.8) d：3.0	淡橙色	良	81003833	-180	ST003	須恵器 坏蓋	a：10.1 b：4.7	灰色	良	81003856

Fig.No.	出土地点	器種	法量cm	色調	残存	県遺物登録番号	Fig.No.	出土地点	器種	法量cm	色調	残存	県遺物登録番号
52-181	ST003 周溝A	須恵器 坏蓋	(a：15.0) b：4.0	暗灰色	良	81003860	-201	ST003	土師器 高坏	(c：11.1) d：7.4	明褐色	良	81003872
-182	ST003	須恵器 坏身	a：10.4 b：5.3 受部径：12.6 たちあがり高：1.7	灰色	良	81003855	-202	ST003	土師器 高坏	d：11.0	橙褐色	やや不良	81003877
-183	ST003	須恵器 坏身	a：13.0 b：4.4 受部径：15.2 たちあがり高：1.5	外面底部にやや赤紫色 内面~灰色	良	81003862	-203	ST003	土師器 高坏	d：10.5	黄褐色	良	81003879
-184	ST003	須恵器 坏身	(a：12.6) b：4.7 (受部径：14.8) たちあがり高：1.2	灰色	良	81003864	-204	ST003	土師器 鉢	a：10.3 b：5.6	明褐色	良	81003867
-185	ST003	須恵器 蓋	a：10.2 b：4.6 つまみ径：2.6	灰色	良	81003859	53-205	ST003 石室内	土師器 鉢	a：12.5 b：6.0	淡橙褐色	良	81003871
-186	ST003	須恵器 高坏	a：15.2 d：10.3	暗灰色	良	81003861	-206	ST003	土師器 甕	a：12.2 b：10.7	黄褐色	良	81003865
-187	ST003	須恵器 壺	a：13.0 b：14.6	灰色	良	81003858	-207	ST003 玄室内 周溝C	土師器 甕	(a：11.8) d：8.4	橙褐色 暗褐色	良	81003876
-188	ST003 周溝D	須恵器 短頸壺	a：7.9 b：7.6	暗灰色	良	81003853	-208	ST003	土師器 壺	d：9.5 e：7.8	淡褐色 橙褐色	良	81003880
-189	ST003	須恵器 甕	(a：15.7) b：20.0	淡灰色	やや不良	81003863	55-212	ST004 墳丘A	土師器 壺	d：9.4 e：6.8	橙褐色	良	81003882
53-190	ST003 墳丘B	土師器 甕	(a：19.2) d：5.1	灰褐色	良	81003276	56-214	ST006 内部主体床面 集中	須恵器 坏身	a：13.2 b：4.3 受部径：15.8 たちあがり高：1.9	灰色	良	81003883
-191	ST003 墳丘B	土師器 壺	d：4.3	黄橙色	良	82002113	-215	ST006 内部主体床面 集中 ST004墳丘A	須恵器 短頸壺	d：7.3 (e：9.8)	灰色	良	81003884
-192	ST002 墳丘B	土師器 壺	口部の推定 径：19.2 d：7.1	灰褐色	良	82002114	59-222	SK010	土師器 甕か	a：15.3 b：19.2	褐色 赤褐色	良	81003894
-193	ST003 周溝B 墳丘D	土師器 壺	a：23.2 d：10.0	橙褐色 暗赤褐色	良	81003875	-223	SK010	土師器 壺	c：5.5 d：27.0 e：8.8	橙褐色	良	81003890
-194	ST003 墳丘	土師器 壺	(a：18.5) d：8.0	外面~褐色 内面~黒褐色	良	81003275	-224	SK010	土師器 高坏	a：17.5 b：13.1 c：11.3	橙褐色	良	81003892
-195	ST003 墳丘D	土師器 器台	(a：10.0) b：8.7 (c：12.6)	内面~赤橙色 橙褐色	良	81003874	-225	SK010	土師器 古付鉢	a：10.5 d：9.3	淡褐色	良	81003891
-196	ST003 周溝D	土師器 坏蓋	a：16.8 b：4.3	外面~淡褐色 黒色 内面~褐色	良	81003870	-226	SK010	土師器 鉢	a：13.1 b：7.6	淡橙褐色	良	81003893
-197	ST003 墳丘D 周溝A	土師器 坏	a：12.8 b：5.5	赤褐色	良	81003869	60-227	SK014	土師器 壺	(a：27.4) d：11.2	明褐色	良	81003899
-198	ST003	土師器 坏	a：13.3 d：5.5	橙褐色	良	81003881	-228	SK014	土師器 壺	c：4.3 d：23.4	明褐色	良	81003897
-199	ST003 周溝D	土師器 坏身	(a：14.7) b：5.4 (受部径：16.0 たちあがり高：1.4	外面~黒色部分あり 内面~褐色	良	81003286	-229	SK014	土師器 甕	(a：16.8) b：20.7	外面~黒褐色 内面~灰褐色	良	81003898
-200	ST003 墳丘A	土師器 高坏	(c：13.4) d：8.3	淡褐色 赤褐色	良	81003873	-230	SK014	土師器 甕	(a：18.0) b：24.3 (e：13.5)	褐色	良	81003896

Fig.No	出土地点	器種	法量cm	色調	残存	遺物登録番号
60-231	SK014	土師器甕	a：14.2 b：19.6 e：10.4	暗褐色 褐色 赤褐色	良	81003895
61-232	SK016	土師器壺	d：21.5	明褐色 橙褐色	良	81003271
-233	SK016	土師器壺	d：24.5 (e：11.0)	茶橙色 黄橙色	良	81003814
-234	SK016	土師器壺	(a： 7.5) b： 7.6 (e： 6.9)	橙色 外面一部黒色	良	81003810
-235	SK016	土師器ミニチュア土器	(a： 7.7) b：10.1	明褐色	良	81003287
-236	SK016 北側	土師器ミニチュア土器	a： 6.5 b： 2.0	橙褐色	良	81003887
-237	SK016 北側	土師器ミニチュア土器	a： 6.1 b： 1.8	橙褐色	良	81003888

Fig.No	出土地点	器種	法量cm	色調	残存	遺物登録番号
61-238	SK016 北側	土師器ミニチュア土器	(a： 6.0) d： 2.0	褐色 橙褐色	良	81003889
62-239		須恵器甕	a：27.5 b：53.8	灰色 黒灰色	良	81003292
-240	D-8	土師器高坏	a：21.3 b：12.5 c：12.1	橙褐色	良	81003272
-241	C-5	土師器ミニチュア土器	a： 3.8 b： 5.0	褐色	良	81003878
-242	C-5	土師器ミニチュア土器	a： 4.8 b： 1.9	内面-暗褐色 褐色	良	81003288
-243	C-6	土師器ミニチュア土器	a： 5.0 b： 2.1	暗褐色	良	81002098

Tab.5　古墳時代玉類観察表

Fig.No	出土地点	器種	法量cm	色調	残存	遺物登録番号
47-129	ST001 周溝B	土製勾玉	残存長4.2 巾 1.8	褐色	良	82000127
57-218	SC008	ガラス小玉	径 0.38 孔 径0.08 長 0.22	黄色		89009196
-219	SC008	ガラス小玉	径 0.48 孔 径0.12 長 0.25	緑色		89009197
-242	D-9 トレンチ	土製丸玉	径 3.4 孔 径0.25 長 2.0	明褐色	良	81003289
-243	C-5	土製勾玉	残存長1.5	褐色	良	82000128

Tab.6　古墳時代鉄器観察表

Fig.No.	出土地点	器　種	法量cm	埋蔵物登録番号
49-145	ST001	鉄　剣	残存長 73.0 刃部長 58.0 刃部巾 3.7	83001508
-146	ST001	鉄　刀	全　長 93.4 刃部長 79.4 茎　長 14.0	83001507
-147	ST001	鉄　鏃	残存長 20.1 鋒部長 2.7 〃 巾 1.2	83001509
-148	ST001	鉄　鏃	残存長 16.1 鋒部長 2.3 〃 巾 1.35	83001510
-149	ST001	鉄　鏃	残存長 17.5	83001511
-150	ST001	鉄　鏃	残存長 17.3 鋒部長 2.2 〃 巾 1.0	83001512
-151	ST001	鉄　鏃	残存長 8.1	83001513
-152	ST001	鉄　鏃	残存長 15.8	83001514
-153	ST001	鉄　鏃	残存長 16.5	83001515
-154	ST001	鉄　鏃	残存長 16.8 鋒部長 2.9	83001516
-155	ST001	鉄　鏃	残存長 15.1 鋒部長 2.8 〃 巾 1.1	83001517
-156 -1	ST001	鉄　鏃	残存長 8.75 鋒部長 2.45 〃 巾 1.1	83001518
-156 -2	ST001	鉄　鏃	残存長 7.65 鋒部巾 0.9	83001519
-157	ST001 T-16	鉄　鏃	残存長 5.7 鋒部長 3.2 〃 巾 1.4	83001572
-158	ST001 T-23	鉄　鏃	残存長 5.5 鋒部長 2.0 〃 巾 1.1	83001582
49-159	ST001 T-13	鉄　鏃	残存長 5.75 鋒部長 2.2 〃 巾 1.1	83001571
-160	ST001	鉄　鏃	残存長 5.2 鋒部長 1.85 〃 巾 1.2	83001586
-161	ST001 T-17	鉄　鏃	残存長 3.9	83001573
-162	ST001 T-12	鉄　鏃	残存長 4.1 鋒部長 2.0 〃 巾 1.1	83001570
49-163	ST001 T-21	鉄　鏃	残存長 4.95 鋒部長 2.7 〃 巾 1.0	83001574
-164	ST001 石室内	鉄　鏃	鏃身長 6.3 (返し長 1.8) 〃 巾 2.4	89009174
-165	ST001	鉄　鏃	残存長 2.5 〃 巾 2.5	83001577
-166	ST001	鉄　鏃	残存長 5.0 〃 巾 2.9	83001578
-167	ST001	鉄　鏃	残存長 6.8 鋒部最大巾 3.1	83001587
51-172	ST002 T-3	鉄　鏃	残存長 5.35 鏃身長 3.2 (復元) 〃 巾 0.75	89009182
-173	ST002 T-2	鉄　鏃	残存長 6.4 鏃身巾 0.8	89009179
-174	ST002 T-3	鉄　鏃	残存長 3.7 鏃身長 2.7 〃 巾 1.0	89009183
-175	ST002 T-3	鉄　鏃	残存長 4.9	89009184
-176	ST002 T-1	鉄　鏃	残存長 6.9	89009178
-177	ST002 T-2	鉄　鏃	残存長 3.3	89009180
54-210	ST003 周溝A T-3	鉄　鏃	残存長 9.0 鋒部長 3.1 〃最大巾2.7	83001588
-211	ST003 T-4	鉄　斧	残存長 4.0 最大巾 2.35	83001589
55-213	ST004 墳丘A	鉄　鏃	残存長 6.8 鏃身長 2.3 鏃身巾 1.05	89009192
56-216	ST006	鉄　鏃	残存長 2.1 巾 0.9	83001592
-217	ST006	鉄　鏃	残存長 1.55 巾 0.55	83001591
58-220	ST009 石室	鉄　鉇	残存長 23.0 刃部長 2.7 〃 巾 1.4	89009193
-221	SC001 T-1 T-2	鉄　鉇	全　長 19.3 巾0.55～0.65 刃部最大巾7.2	83001590

大久保三本松遺跡

遺跡名：大久保三本松遺跡（略号ＯＫＢ）
所在地：佐賀郡大和町大字川上字三本松

大久保三本松遺跡

Ⅰ　遺跡の立地と歴史的環境

遺跡は山麓部の舌状低丘陵先端に位置する。標高約18m。南側はそのまま扇状地に移行するため，傾斜はわずかで，丘陵端とは気付かない程である。遺跡の東端は約２mの段差をもつ急崖となって水田がしばらく続く。東方約2.3kmには佐賀平野の中央部を潤す嘉瀬川が佐賀市街地に向かって流れる。佐賀平野では山麓部一帯にとくに弥生時代以降の遺跡が濃密に分布するが，この大和町周辺が佐賀平野の歴史の中で際立った特徴をもつのは嘉瀬川東岸にあたる久地井地区に肥前国府が出現する時期である。しかしながら，それ以前，とくに弥生時代から古墳時代にかけても順調な地域の発展を示しており，国府出現の前史にふさわしい社会的，政治的状況が整いつつあった重要な地域として知られている。大久保三本松遺跡の立地環境，性格との関連で，初めに周辺の遺跡の分布状況を簡単に触れておくことにする。

まず，旧石器から縄文時代にかけては山麓部を中心に遺跡そのものの分布が希薄であり，明確な遺構が知られず安定した集落を形成した跡が殆ど窺えない。ところが弥生時代になると前期初頭から他にさきがけて地域の活動が始まり，礫石遺跡における支石墓系の埋葬40基以上や南小路支石墓が知られる。前期末には東山田一本杉遺跡で佐賀平野では最古期の銅剣先が出土している。中期にはまだ，大規模な集落は登場していないが，後期になると嘉瀬川東岸に惣座遺跡が出現する。惣座遺跡は二重の壕を巡らせる環壕集落で，吉野ケ里遺跡から西に約10km離れて位置する地域の拠点集落として重要な位置を占め，同時期には嘉瀬川の西岸地域にも東山田一本杉遺跡や西山田二本杉遺跡などが拡がる。古墳時代になると，前期においては池ノ上地区の風楽寺古墳などが前期に遡る可能性がある以外，有力な前方後円墳は未だ確認されていないが，中期以降に山麓部を中心に，小隈山古墳，築山古墳などが前方後円墳が安定的に築造され，佐賀平野の中でも代表的な古墳群を形成する。中でも陪塚を巡らせる全長119mの船塚古墳は県下で最大の規模を誇り，現在の大和町から佐賀市にかけて勢力を張った「佐嘉君」の政治的力量をまざまざと見せ付けている。

そして奈良時代には，嘉瀬川東岸に当たる久地井地区に最大で方８町と推定される肥前国府が置かれ，その中枢となる国庁が弥生時代の環壕集落であった惣座遺跡と重なるように設置される。国庁跡から南600mには佐賀平野を東西一直線に西海道が走る。また，国庁跡の周囲には，関連する正倉群跡や役所群，あるいは邸宅跡と推定される遺構などが調査で見つかっており，さらに東方には肥前国分寺跡，肥前国分尼寺跡がある。これまでの調査結果から，現在惣座地区で確認されている国庁跡は８世紀前半の内に出現し，９世紀あるいは10世紀まで下って存続，併せて西海道の整備が進んだと考えられる。肥前国分寺跡，肥前国分尼寺跡は遅れて８

①今山古墳群
②船塚古墳
③大願寺二本松遺跡
④今山八幡原遺跡
⑤大久保三本松遺跡
⑥大願寺廃寺
⑦大願寺一本松遺跡
⑧小隈古墳
⑨七ヶ瀬遺跡
⑩西山田二本松・三本松遺跡
⑪東山田一本杉遺跡
⑫水上古墳群
⑬星隈古墳群
⑭東山田三本松遺跡
⑮高畠古墳
⑯玉林寺古墳群
⑰惣座六本杉遺跡
⑱惣座遺跡
⑲肥前国庁跡
⑳春日山城跡
㉑前隈山前方後円墳
㉒前隈山古墳群
㉓春日遺跡
㉔久池井C遺跡
㉕磔石A遺跡
㉖磔石B遺跡
㉗久池井一本松遺跡
㉘久池井遺跡
㉙北原遺跡
㉚宝満遺跡
㉛春日丘遺跡
㉜国分寺跡
㉝築山前方後円墳
㉞於保三本松B遺跡
㉟池上二本松B遺跡
㊱風楽寺古墳
㊲佐保遺跡
㊳本村籠遺跡
㊴鍋島本村南遺跡
㊵増田遺跡群

Fig. 1　大久保三本松遺跡周辺遺跡分布図（1/50,000）

世紀後半以降に建てられたと推定される。周辺の条里は，当初は約７度前後西に傾いていたが，後に正方位に改変された可能性がつよい。

ところでこの時期，嘉瀬川西岸での動向はこれまで不詳であったが，高速道関連の調査で次第に状況が明らかになってきた。例えば東山田一本杉遺跡・西山田二本松遺跡・西山田三本松遺跡では元々，一連の遺跡であるが，整然と並ぶ倉庫群を含む掘立柱建物跡群が広範に見つかっている。東山田一本杉遺跡では一辺60m以上の区画をもつ築地と溝を巡らす建物群，あるいは西山田三本松遺跡では方１町の区画溝に囲まれた建物群の存在が確認されている。また，東山田一本杉遺跡では「郡厩」のヘラ描き土器，その他周辺でも石帯や硯，緑釉陶器などが出土している。このような様相から，国府の出現が嘉瀬川西岸地域にも大きな変化を与える要因となり，官衙的施設の拡散あるいは邸館の整備などを契機として在地の伝統的勢力の再編が進んだことが十分窺われる。

大久保三本松遺跡は，これら奈良時代を中心とする一連の遺跡群の中では最も西辺に位置している。調査路線内に限って言えば，東側は西山田三本松遺跡までは約1.8km離れてその間に目立った遺跡はなく，また，西側は奈良・平安時代の小規模な集落である今山八幡原遺跡を越えるとしばらくは遺跡空白地が続いており，遺跡としては孤立した感がある。遺構の在り方からは，他に比べて官衙的性格は薄れており，むしろ国府の出現期における在地集団の一形態を示すものとして注目すべきものと言えよう。

Fig. 2　大久保三本松遺跡周辺地形図（1/4,000）

II　遺跡の概要

遺跡は奈良・平安時代を中心とする集落遺跡である。他に縄文時代の土器片や石器がやや多く分布することから若干広げて掘り下げたが，同時期の明確な遺構は認められなかった。奈良・平安時代では溝11条，竪穴住居跡19棟，掘立柱建物跡16棟，井戸跡６基，土壙３基を検出した。

溝11条のうち，地割り等の区画に関係すると見られるものでは，SD042が西傾25°の南北溝で幅約0.8m，SD041は西傾約18°の南北溝で浅く残存して北側に続くと見られる。また，調査区西北隅のSD031は西傾13°ほぼ直角に折れ曲がり，幅約1.4mとやや広い。屋敷地割り等の可能性が考えられるが，西側は調査区外となって全体は不明である。SD043もこれに繋がる溝であろう。これらの溝の時期は，出土遺物が少ないため明確にしがたいが，およそ９，10世紀の内と推定しておく。その他，調査区西部に幅の狭い溝SD030・SD032・SD046等があるが，中世以降の比較的新しい溝かと考えられる。

竪穴住居跡は，調査区の東北部を除いて一定のまとまりある分布を示す。全てが方形プランで，規模はSB013のみ１辺６m前後と大型であるが，拡張によるものである。他は１辺4,5m前後が一般的で，少数ながら１辺３m前後の小型竪穴住居跡も見られる。19棟のうち10棟が明らかなカマドをもち，原則として北側に，一部東側にそれを付設する。削平のため明らかではないが，カマドの存在を推定させる焼土が床面壁際に見られるものを含めると全体で13棟に及び，約７割がカマドをもつことになる。カマドを付設するもののうち，SB002・SB003・SB013・SB016・SB019には壁面を掘り込んだ煙道が残存しており，また，SB003・SB016では火床に甕が残っていた。特異な例ではSB013が拡張に合わせてカマドも造り替えていることが観察でき，SB002の場合は北壁際とは別に東壁際にもカマドをもつが，これも造り替えの結果かと考えられる。これら竪穴住居跡の時期は全体として８世紀前半～中頃を中心としている。遺構の切り合いも少なく，比較的短期間に形成された，一定のまとまりのある集団の姿を示すものである。

掘立柱建物跡16棟は全体として竪穴住居跡の分布と重なる形で分布し，明らかな例では竪穴住居跡を切って造られている。したがって，全体の傾向としては，竪穴住居群から掘立柱建物群への変遷が考えられる。時期は明らかえはないが，おそらく８世紀後半を中心とするものではないかと推測する。柱掘形は円形を基本とする。目立って大形のものはない。構造は３間×２間が11棟と最も多く，他に２間×２間が４棟，２間×１間が１棟である。２間×２間の４棟はいずれも総柱で，そのうち中央付近のSB004・SB005・SB006の３棟は西面をほぼ揃えて南北に並ぶことから，同時期あるいは近接した時期の群倉と見られる。全体として，建物方位は真北に近いグループと大きく西に傾くグループとがあるようであり，先後は不明ながら，あるいは，それぞれの方位に近い溝との時期的な関係によるものかもしれない。規模は，３間×２間のうちでも特に大型のものは見当らず，最大のSB022でも桁行6.0m程度である。配置も企画性

に乏しい。この点は肥前国庁周辺の建物跡とは明らかに様相が違い，また東山田一本杉遺跡や西山田二本松遺跡などで見られたような官衙的性格のつよい建物群とも異なるところである。

井戸跡はSE033・SE034・SE035が調査区の西辺に集中して掘られ，SE038・SE039・SE040が調査区の東半にやや分散する。時期は8世紀後半から10世紀まで幅があるようである。そのうちのSE039からは9世紀前半を中心とする比較的豊富な遺物の出土をみた。

その他，土壙はSK027・SK029・SK036がある。SK027は数次にわたって集中的に掘り込まれた結果，不整形をなす。SK029は竪穴状の方形，SK036は円形で形が整っている。いずれも性格は不明で時期も明らかでないが，周辺の状況から奈良・平安時代としておく。

出土遺物は，縄文時代，弥生時代が若干で，ほぼ奈良・平安時代に限られる。

縄文時代では早・前期の土器，石器を採集した。土器の多くは細片であるが，そのうち曽畑式の深鉢1点をほぼ完形に復元できた。佐賀平野では希少な例である。石器は黒曜石およびサヌカイトの石鏃，削器，掻器等の打製石器のほか，石斧等の磨製石器が数点出土した。弥生時代では，若干の土器片のほかにガラス小玉数点，石包丁の未製品片が1点出土した程度で，量はごく少ない。

奈良・平安時代では竪穴住居跡及び井戸跡を中心に出土した土師器，須恵器が大部分で，他に瓦，土錘，砥石が若干と，SB002竪穴住居跡からは鉄鏃片とふいご羽口片が出土している。土師器・須恵器は大部分の遺構上面が著しく削平されていることもあって，まとまって出土したものは少なく，時期が推定できる竪穴住居跡，溝，井戸跡等で見るかぎりでは8～9世紀を中心とする。

以上のように，本遺跡は奈良時代から平安時代，とくに8世紀代にかけての集落跡を中心とする遺跡である。掘立柱建物跡の時期は今一つ明確でないが，竪穴住居跡との切り合い関係から見ると，全体の傾向としては8世紀前半に竪穴住居跡を中心に集落形成が始まり，掘立柱建物跡に暫時変わっていった様相が推定される。集落の性格としては，遺構の性格や出土遺物にはとくに官衙的な様相は窺えないが，むしろ嘉瀬川東岸に肥前国庁が出現し，この地域が肥前国の中心地として発展する時期に当たり，縁辺部にあった在地の一般的集団がどのように集落を営んでいたか，歴史の大きな変換期における地域の動向を窺う一資料という点に注目すべきであろう。

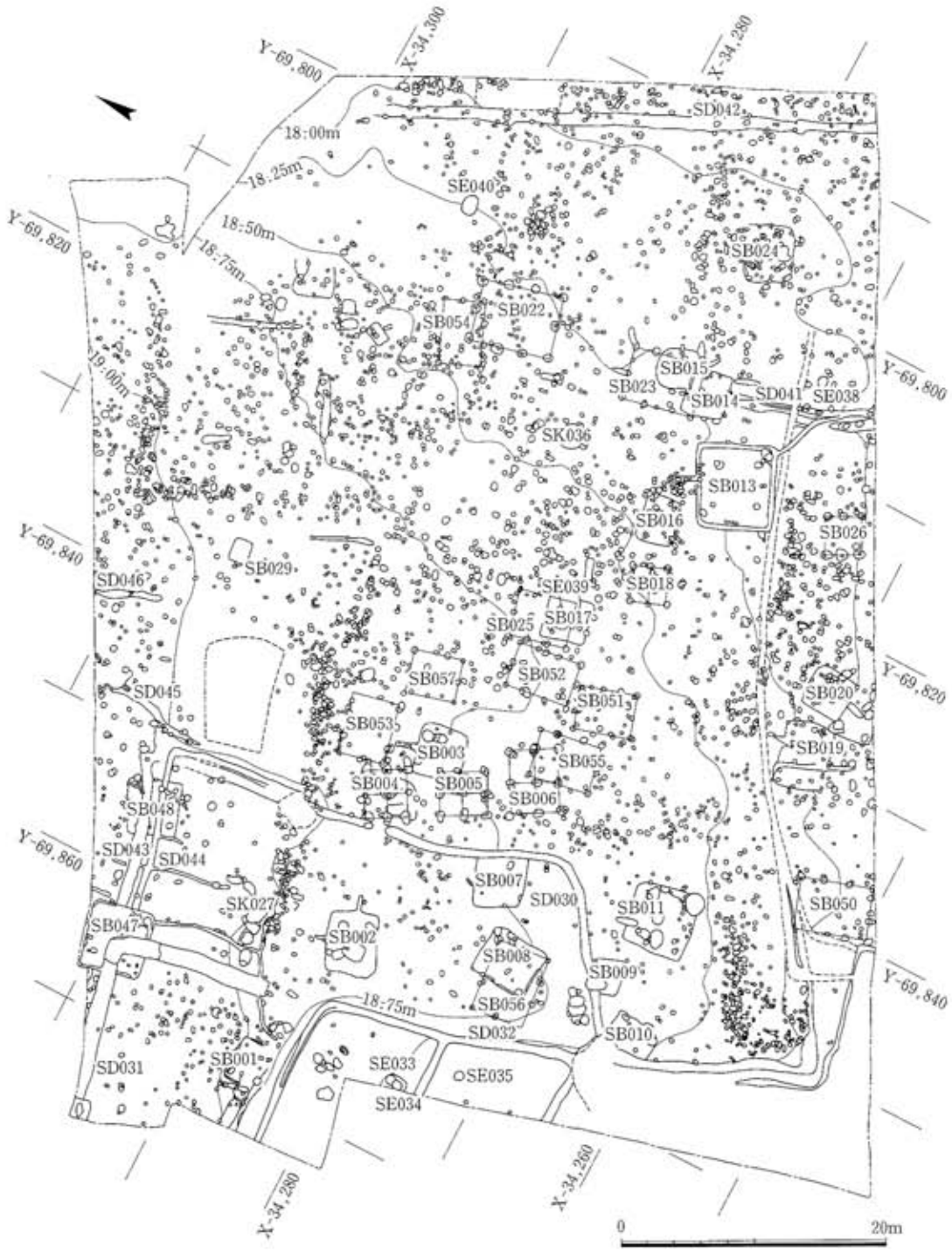


Fig. 3　大久保三本松遺跡遺構配置図（1／500）

Tab. 1　大久保三本松遺跡遺構一覧表

遺構番号	種　別	形　態	規　模(m)	特　　徴	備　　考
SB001	竪穴住居	方形	3.7×2.6−	焼土（カマドか）	
SB002	竪穴住居	長方形	4.8×3.8	カマド２付	ふいご，鍾
SB003	竪穴住居	方形	3.9×3.6	カマド付	
SB004	掘立柱建物		3.6×3.0	東西棟（２間×２間），方位N62°E	建替１回，SB053が切る
SB005	掘立柱建物		3.3×3.3	東西棟（２間×２間），方位 N61°E	建替１回
SB006	掘立柱建物		4.8×3.6	東西棟（２間×２間），方位N60°E	SB055に切られる
SB007	竪穴住居	方形	3.8×3.7−		SD030に切られる，焼土
SB008	竪穴住居	長方形	4.4×3.8	焼土（カマドか）	B056が切る，砥石
SB009	竪穴住居	不整方形	2.7×2.4	小形	溝に切られる
SB010	竪穴住居	方形か	3.6×2.4−	カマド付	西壁削平，土師，須恵
SB011	竪穴住居	方形	5.0×4.8		
SB013	竪穴住居	方形	6.4×6.0	拡張・カマド付	砥石，鉄滓
SB014	竪穴住居	方形	3.4×3.1	カマド付	SB015を切る
SB015	竪穴住居	楕円形	2.9×2.9−		SB014･023に切られる
SB016	竪穴住居	長方形	3.6×2.8	カマド付	
SB017	竪穴住居	方形	3.5×3.4	焼土，カマドか	SE039に切られる，鉄滓
SB018	掘立柱建物		2.7×2.7	東西棟（２間×２間），方位N25°W	
SB019	竪穴住居	長方形	5.0×3.6	カマド付	砥石
SB020	竪穴住居	方形	3.3×3.2	カマド付	SB021を切る，土錘，鉄滓
SB021	竪穴住居	方形	3.2×？		SB020に切られる，土錘
SB022	掘立柱建物		6.0×4.5	南北棟（３間×２間），方位N15°W	SB054と切り合う
SB023	掘立柱建物		5.4×3.9	南北棟（３間×２間），方位N13°W	SB014・SB015を切る
SB024	竪穴住居	長方形	4.2×3.6		
SB025	掘立柱建物		4.5×3.6	南北棟（３間×２間），方位N12°W	SB017を切る
SB026	掘立柱建物		2.8×2.7	南北棟（２間×１間），方位N62°E	
SK027	土壙	不整形	2.0×1.2		
SK029	土壙	長方形	1.8×1.5		
SD030	溝		幅約0.6	東西－南北に緩く屈曲	
SD031	溝		幅約1.4	東西－南北に屈曲	
SD032	溝		幅約0.6	東西－南北に屈曲	
SE033	井戸	円形	0.7×0.7		SE034を切る
SE034	井戸	円形	0.7×0.8		SE033に切られる
SE035	井戸	円形	0.7×0.7		
SK036	土壙	円形	1.8×1.5		
SK037	土壙	楕円形	1.9×1.7		
SE038	井戸	楕円形	1.1×0.9		
SE039	井戸	楕円形	2.3×1.5	SB017を切る	鉄滓
SE040	井戸	楕円形	1.5×1.1		
SD041	溝		0.5	南北直線溝	
SD042	溝		幅約0.8	南北直線溝	

遺構番号	種　別	形　態	法　量(m)	摘　　要	時　期
SD043	溝		幅約0.8	東西－南北に屈曲	
SD044	溝		幅約0.4	東西－南北に屈曲	
SD045	溝		幅約0.6	南北曲線溝	
SD046	溝		幅約0.4	南北曲線溝	
SB047	竪穴住居	方形	5.0×4.6	カマド付	
SB048	竪穴住居	方形	4.1×4.0	カマド付	
SB050	掘立柱建物		5.4×3.9	南北棟（3間×2間），方位N18°W	
SB051	掘立柱建物		4.2×3.3	南北棟（3間×2間），方位N17°W	
SB052	掘立柱建物		4.8×3.3	南北棟（3間×2間），方位N 5°W	
SB053	掘立柱建物		4.8×3.3	東西棟（3間×2間），方位N80°W	SB004を切る
SB054	掘立柱建物		4.8×3.3	東西棟（3間×2間），方位N66°W	SB022と切り合う
SB055	掘立柱建物		4.8×3.6	南北棟（3間×2間），方位N11°W	SB006を切る
SB056	掘立柱建物		5.4×3.9	東西棟（3間×2間），方位N85°W	SB008を切る
SB057	掘立柱建物		3.8×3.3	南北棟（3間×2間），方位N11°W	

III 遺　　構

1．奈良・平安時代の遺構

(1) 竪穴住居跡

SB001竪穴住居跡（Fig. 4）

調査区西北部に位置する。住居跡の南側約半分は削平されており，最も残りのよい北壁部分でも壁高は10cm程度しか残っていない。北壁と東西両壁下に部分的に周溝が巡っている。東壁側には炭化物混じりの焼土の拡がりが見られ，壁際の周溝がその辺りで途切れていることからも，カマドが存在していたことが推定できる。西北隅は一段高く削り出している。床面は全体に堅く締まっているが，柱穴は見つからなかった。出土遺物は，北東部床面上からほぼ完形の須恵器の蓋，中央部床面上から土師器の蓋が出土した。

SB002竪穴住居跡（Fig. 4）

SB001の東側に位置する。平面形は東西に長い歪んだ長方形を呈し，北壁の中央部と東壁のやや南寄りのところの2箇所にカマドが造られている。北側のカマドは明確な袖をもち，ほぼ同じレベルで煙道が伸びるが，東側では焼土のひろがりはあるが袖は確認できず，煙道は先に向かって深くなる。本遺跡では竪穴住居跡のカマドは殆どが北側に付設されていることから見て，東側のそれは本来的なものではなく，二次的なものと思われる。北側カマドの中からは土師器片のほか鉄鎌残欠が出土した。また，北壁のカマドの東側一部と東のカマドの北側及び西壁際には溝が巡っている。柱穴は不明である。住居跡中央西寄りに深さ30cmの土壙状の掘り込みがあり，須恵器坏の口縁部片とフイゴ羽口片が出土した。また，P. 1・P. 2はいずれにも焼土と土器片が詰まっていた。その他の遺物は，鉄滓，瓦片が出土した。

SB003竪穴住居跡（Fig. 5）

SB002の東側に位置する。平面形はほぼ正方形で，北壁の中央部に煙道をもつカマドを付設している。主柱穴は不明である。カマドからは1.5mの煙道が伸びてその先端に一段深い小穴があり，中位から甕が出土した。カマド本体は竪穴の北壁ら外側へ突出して築かれており，両脇の袖に当たる部分には板状の石を1個ずつ据え付けている。カマド内からは1個体分の甑のほか土師器片が出土した。土師器の中には焼土がこびり着いたものがあるなど，カマドの構築材に利用された可能性がある土器も見られる。周壁溝は北壁カマドの一部だけ巡る。ほぼ中央部には深さ約30cmの土壙状の堀込みがあり，土師器の坏2個体分が出土した。北東部の土壙状堀込

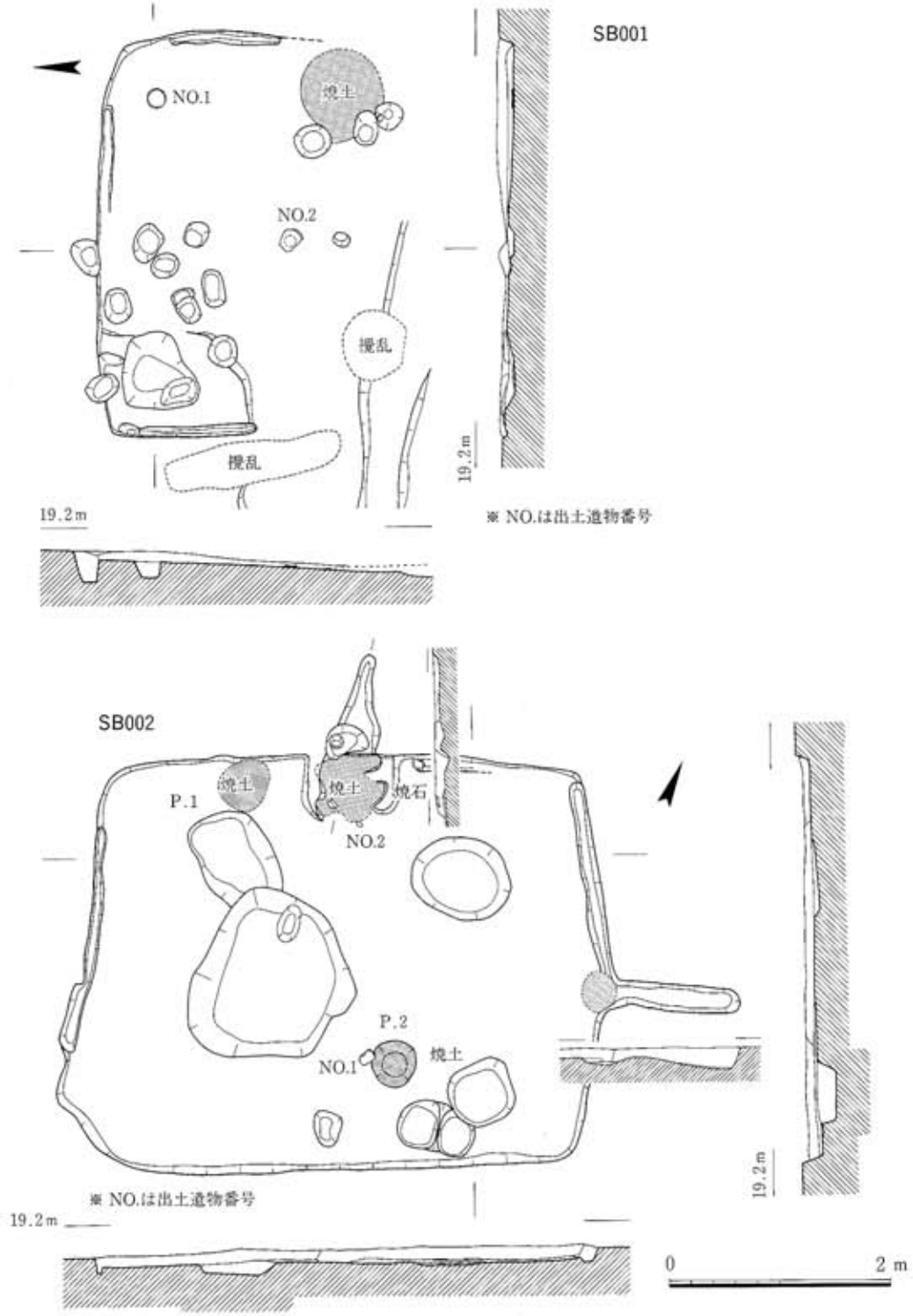


Fig. 4　ＳＢ001・ＳＢ002竪穴住居跡（1／60）

みには焼土が混じっており，カマドに関係した施設と考えられる。また，その北西隅から計3個体の手捏土器が出土しており，住居内祭祀が行なわれていたことを示している。

SB007竪穴住居跡（Fig. 5）

調査区の西側中央部に位置する。平面形は長方形かと推定するが，東端部を後世の溝に切られ，壁高もわずかに 5cmほどしか残っていない。床面は全体によく踏み固められているが，東側の溝に沿った床面だけは締まりを欠く。東側のやや南寄り床面上で赤く焼けた火床跡を確認した。主柱穴不明。土師器の甑把手部分が出土した。

SB008竪穴住居跡（Fig. 6）

SB007住居跡の西側に近接し，SB056掘立柱建物跡に上面を切られている。平面形は南北にやや長い長方形を呈し，各辺の中央部が内側に入り込んでいる。主軸はN 6°Eで，他の住居跡と違い東に傾いている。西壁と南壁下に部分的に溝が巡っている。北壁中央部寄りの小穴で炭と焼土を，その東脇の床面で焼土の拡がりを確認した。このことから，カマドは北壁側に設けられていたと考えられる。出土遺物は小量であるが，須恵器の高台付き坏片・甕底部，土師器の小形甕片，その他，砥石などが出土した。

SB010竪穴住居跡（Fig. 6）

調査区西南部に位置する。掘削によって住居跡の西半分を切られている。東壁の南隅寄りに壁よりも外側に突出したカマドを有する。袖は確認できなかったが，カマド内には焼土と灰が残っていた。また，カマドの南側には深さ30cm弱の掘り込みがある。主柱穴不明。出土遺物は須恵器及び土師器の小片のみである。

SB011竪穴住居跡（Fig. 7）

調査区の西南部，SB007住居跡の南側に位置する。平面形は正方形を呈する。西壁側は拡張による結果か，狭い段がある。住居跡の中央とその西側には，深さ約30cmの土壙状の堀込みがある。但し遺構内には，灰や焼土などの形跡がなく，炉に当たるものかどうかは確認できなかった。主柱穴は1辺2.6cmの方形に置かれ，床面から－50～60cm深く掘られている。出土遺物は小量で，須恵器の蓋片・甕口縁部片，土師器の甕口縁部片などの他に，鉄滓4点，不明鉄製品片1点がある。

SB013竪穴住居跡（Fig. 8）

調査区の東側南寄りに位置する。本遺跡の中では最も大形の竪穴住居跡で，1度建替えられその際に拡張されており，拡張後の貼床下で当初の柱穴及びカマド跡の焼土面を検出すること

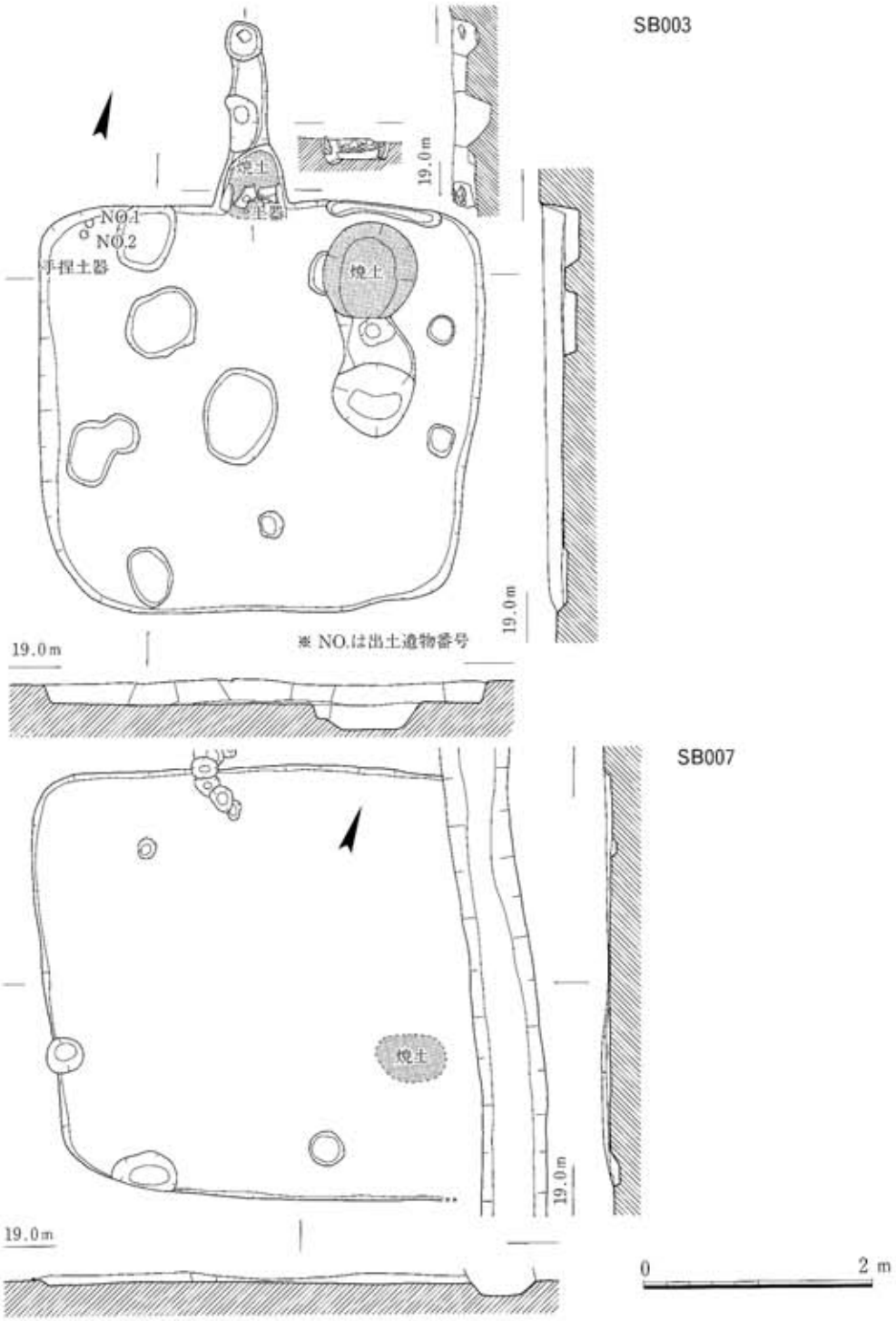


Fig. 5　ＳＢ003・ＳＢ007竪穴住居跡（1/60）

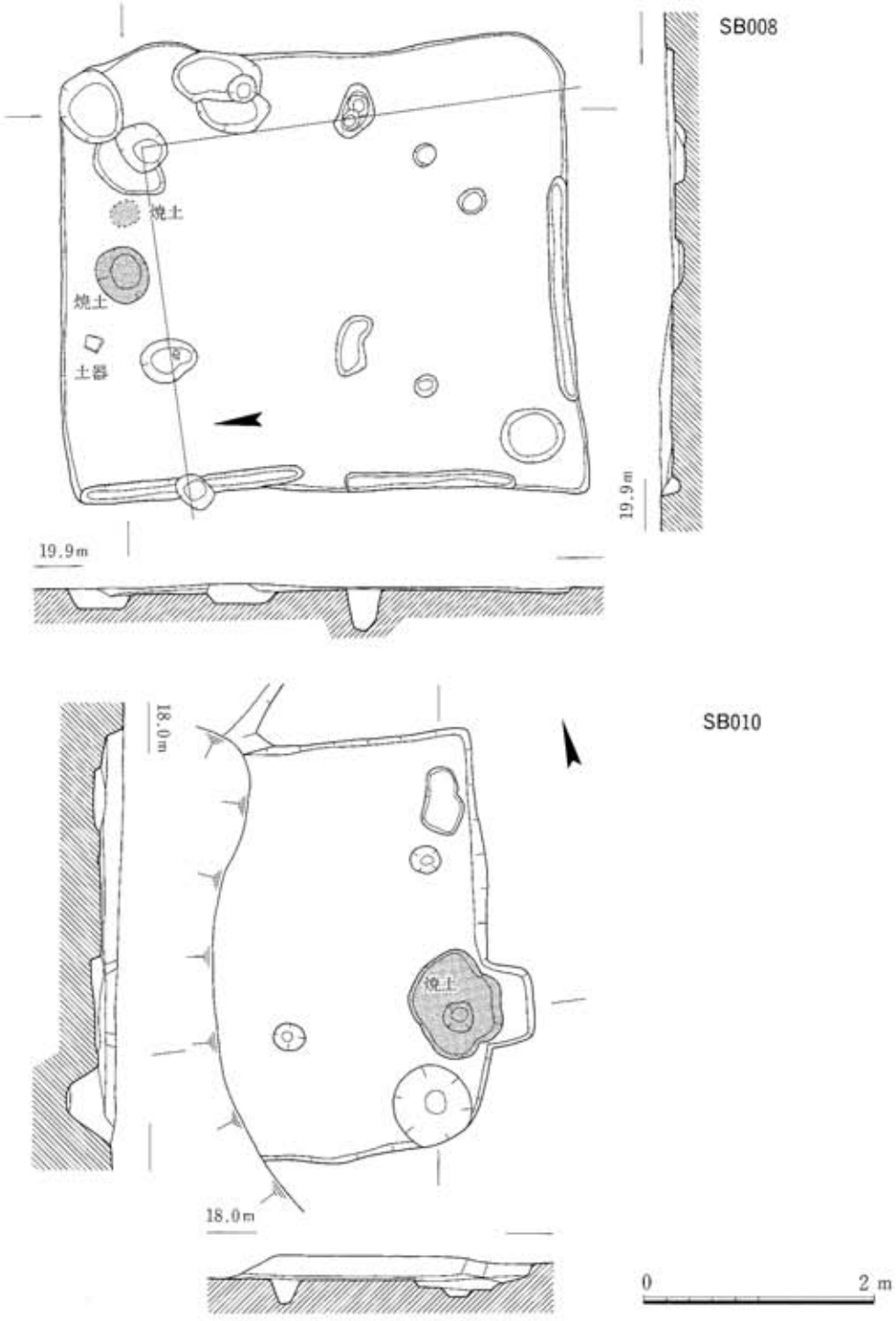


Fig. 6　SB008・SB010竪穴住居跡（1/60）

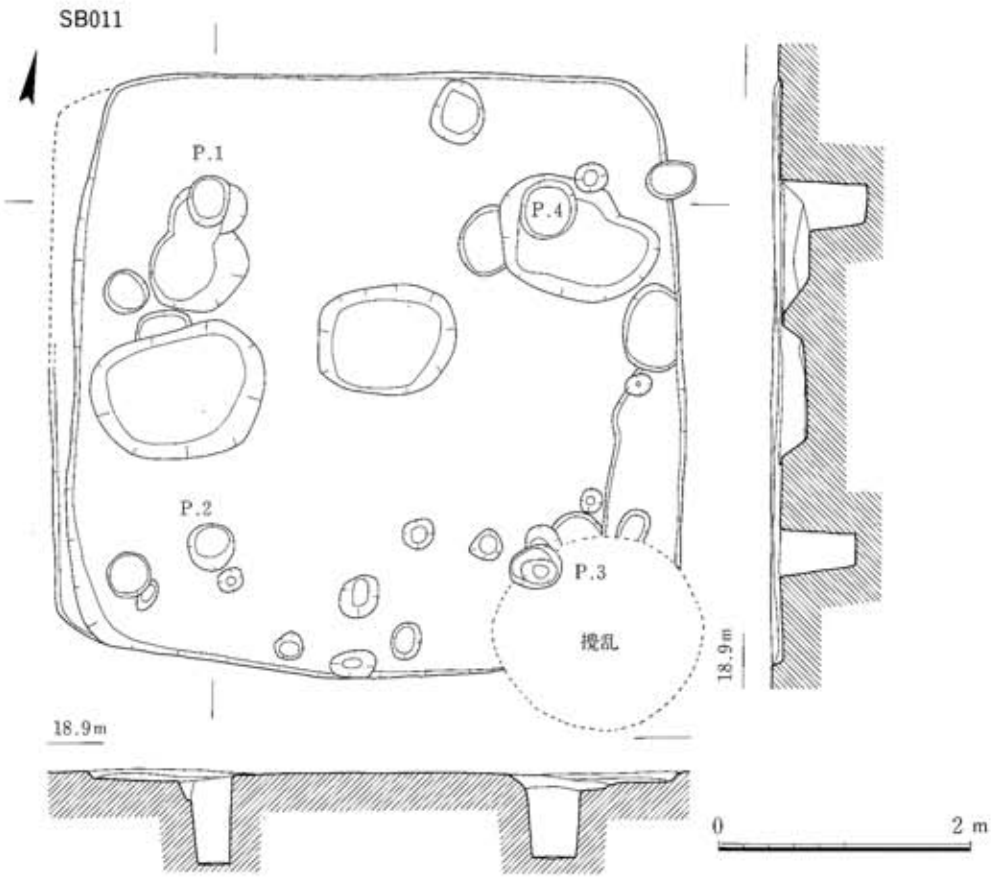


Fig. 7　SB011竪穴住居跡(1/60)

ができた。

拡張前の住居跡は，拡張の際に部分的に壊されているが，東西5.2m，南北4.8mで，北壁中央部に煙道をもつカマドが設けられている。煙道は少なくとも１m以上伸びていたと考えられ拡張後の住居跡の壁外側で検出した。焼床面と焼土の拡がりは北壁の延長線内に収まるようである。各壁下には，幅0.1～0.2mの浅い掘り込みが巡る。カマドの西側には深さ約0.4mの掘り込みがあり，また，南側にも深さ約0.3mの土壙状の掘り込みが見られた。主柱穴は拡張前の主柱穴より内側にやや歪んだ長方形に配置されている。この住居跡に伴う遺物は，床面から土師器の甕口縁片が１点だけ出土した。

拡張後の住居跡は，東西6.4m，南北6.0mの方形を呈し，北壁の東寄りに袖をもつカマドを付設している。カマドは袖が高さ0.2m程度残存し，焚口0.6m，奥行0.65mを測る。カマド内には甕を転用した支脚が完形で据え付けられたままの状態で残り，その周辺部からは，須恵器をはじめとする多くの遺物が出土し，中には瓦片も混じっていた。床面はほぼ水平で壁下に壁を抉るようにして幅約0.3m，深さ0.15～0.2mのしっかりした溝状の掘り込みが一周している。この溝状の堀込みは，住居跡東南隅から徐々に深さを増して住居外に伸び，さらに調査区外に続いていることから，排水を目的とした施設であったと考えられる。東南隅には，２段掘りになった深さ0.75mほどの大形の堀込みがある。主柱穴は１辺3.6mの方形に配置されている。

SB014竪穴住居跡（Fig. 9）

SB013住居跡の東隣に位置し，SB015住居跡を切り，SB023掘立柱建物跡に上面を切られる。東西3.4m，南北3.1mの方形プランで，東壁中央部にカマドを有する。北壁下には部分的に溝が巡っている。注意されるのは南壁にかかる小穴２個で，同様の小穴がSB016・SB017・SB019住居跡でも見られることから，住居の上屋構造と何らかの関連があると考えられる。東壁中央のカマドの両袖は灰白色粘土で築かれており，奥壁が外側にやや膨らむ。カマド内から土師器の甕片が出土した。

SB015竪穴住居跡（Fig. 9）

SB014及びSB023住居跡に切られる。東西の壁はほぼ平行して直線であるが，北壁が外側に膨らんだ形をしている。南壁は残っていない。東西2.9mで住居跡としては小形である。主柱穴は不明。カマドの存在を窺わせる焼土面や灰も検出できなかった。出土遺物としては須恵器の長頸壺片・蓋，土師器の甕口縁片のほか瓦片がある。SB013出土の土師器蓋片が当住居跡出土のものと接合した。

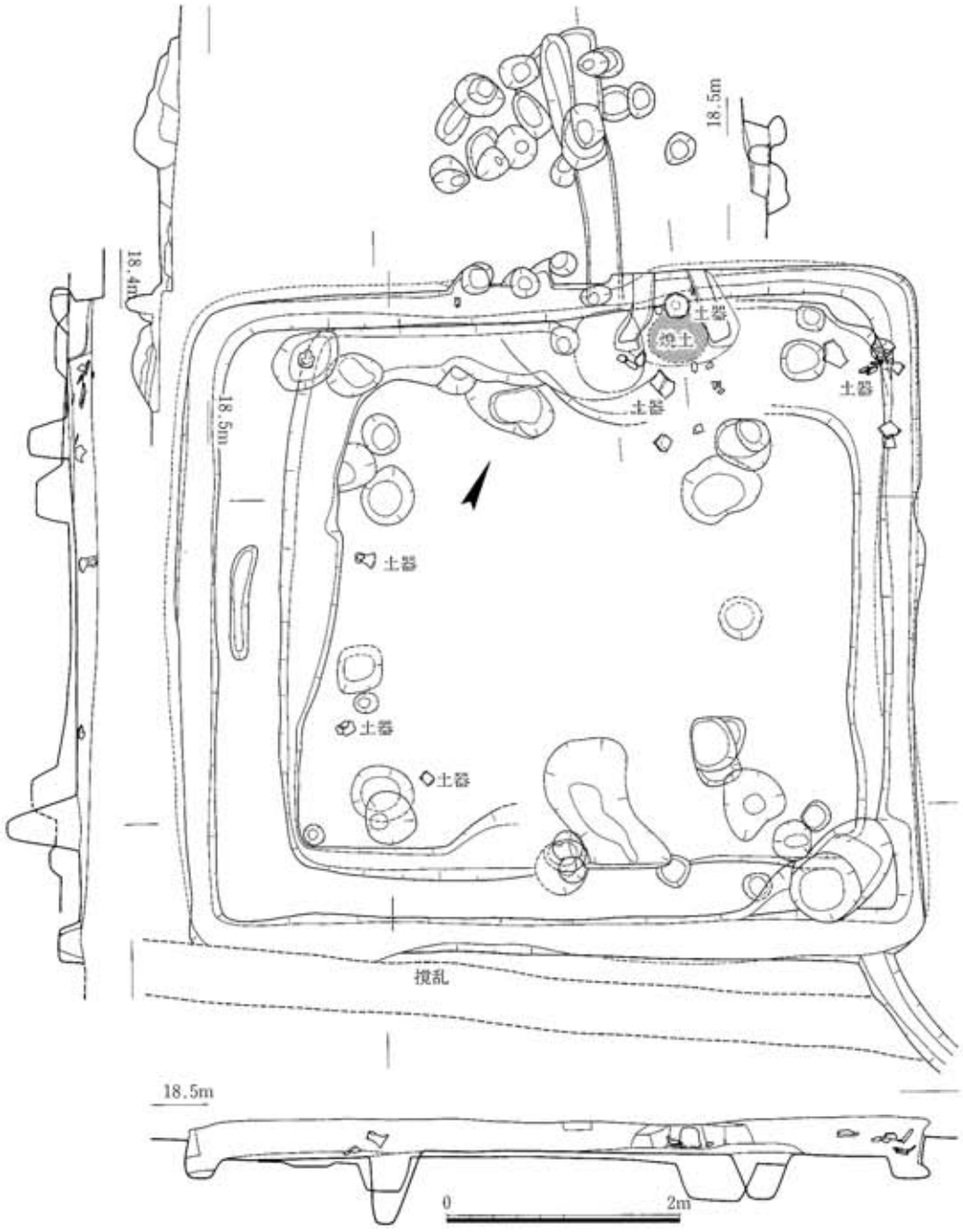


Fig. 8　ＳＢ013竪穴住居跡（１／60）

SB016竪穴住居跡（Fig. 9）

SB013住居跡の北側に隣接する。平面形は東西に長い長方形で，北壁の中央付近に煙道付きのカマドを付設する。カマドは北壁の中央部から長さ1.2mの煙道がわずかに下りながら伸び，先端部で一段深くなってから上に抜ける。壁の延長線上より0.4m奥のところで，住居跡側に傾いた状態で完形の土師器甕が出土した。カマドの西側の小穴には焼土が混入していた。また，住居跡中央部には深さ0.2mの浅い掘り込みがある。南壁にはSB014でも見られたような2個の小穴が並ぶ。主柱穴はP. 1～P. 4であろう。

SB017竪穴住居跡（Fig. 10）

調査区中央部に位置し，東側をSE039井戸跡に，また，上面をSB025掘立柱建物跡に切られている。平面形は1辺約3.4mの方形を呈する。SE039井戸跡に大きく切られているため全容は判らないが，拡張の結果によるものか，東壁の北隅に一部段が残る。中央部北寄りには深さ約20cmの方形の堀り込みがあり，粘土を貼って床をつくっていた。カマドに関しては，東壁の南側一帯に焼土と粘土の広がりが認められ，SE039井戸跡に切られている部分にカマドが存在していたと考えられる。また，南壁に沿ってやはり2個の小穴の存在が認められた。遺物としては，焼土と粘土に混じって須恵器の蓋片，土師器の甕片が出土した。

SB019竪穴住居跡（Fig. 10）

調査区南側に位置する。SB020・SB021住居跡と接近して存在するが，直接の切り合い関係はない。西側床面は後世の溝に切られる。東西に長い隅丸長方形を呈し，北壁の東寄りにカマドを付設する。カマドは地山を削り出して袖を造り，住居跡の外側に煙道が伸びる。煙道の先端部延長上には小穴がある。カマド正面の床面上ではカマドの構築材に使用されたと見られる赤く焼けた小礫が残っていた。また，住居跡北東の隅ではかなりの量の粘土の堆積が見られた。カマド東側のP. 1には焼土と土器が詰まっていた。住居跡南壁のところで大形の砥石が出土している。

SB020竪穴住居跡（Fig. 11）

SB019住居跡の東側に近接しており，SB021住居跡を切る。1辺約3.2mの方形を呈し，東壁の南寄りにカマドを設けている。カマドは壁の外側に突出し，袖の残存は認められなかった。突出部は2段になっており，住居内でさらに1段深くなっている。床面のあちらこちらに焼土や粘土が散在していた。主柱穴は検出できなかった。遺物としては，須恵器蓋，土師器坏・皿などが出土したほか，土錘6点がある。

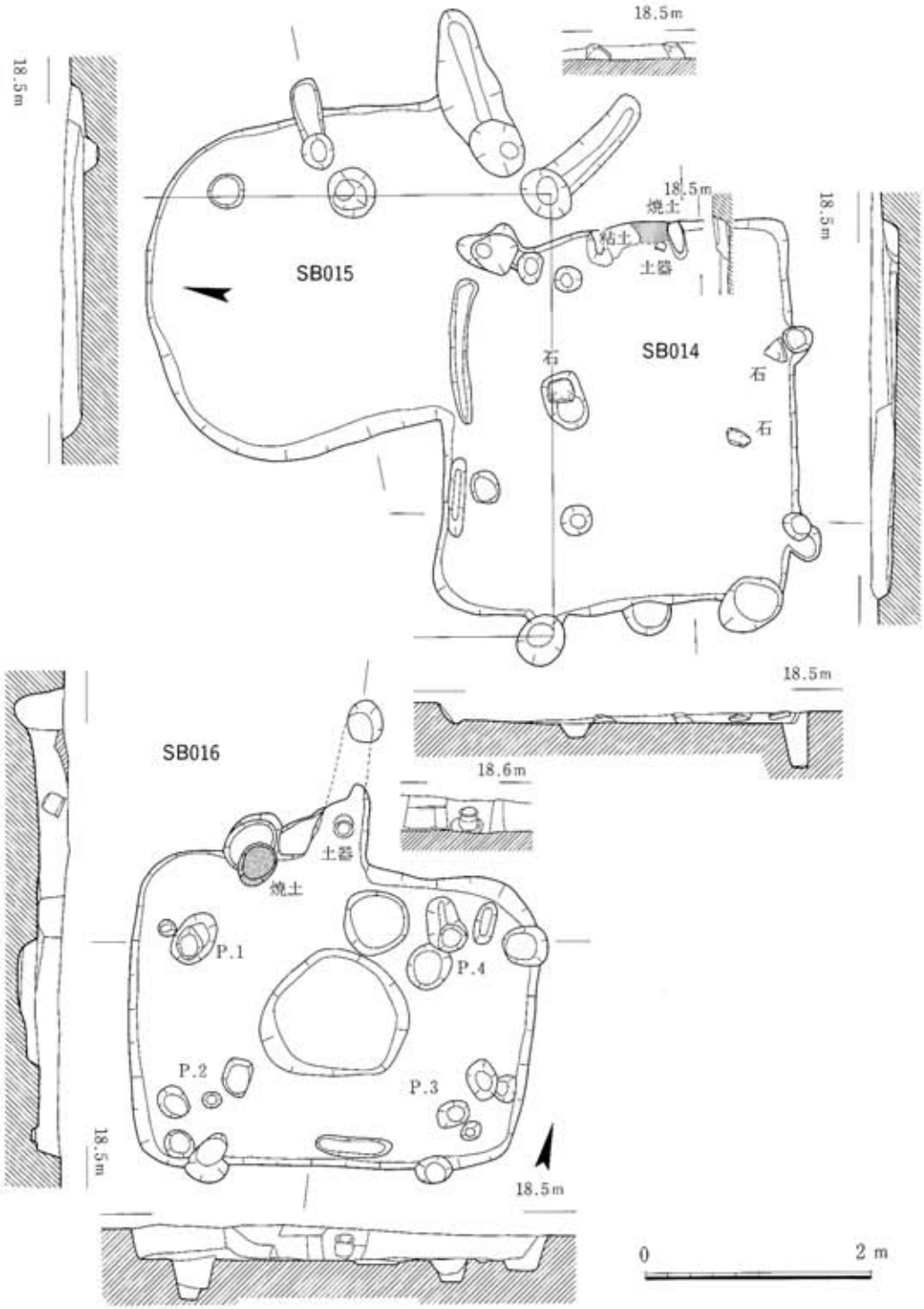


Fig. 9　SB014・SB015・SB016竪穴住居跡（1/60）

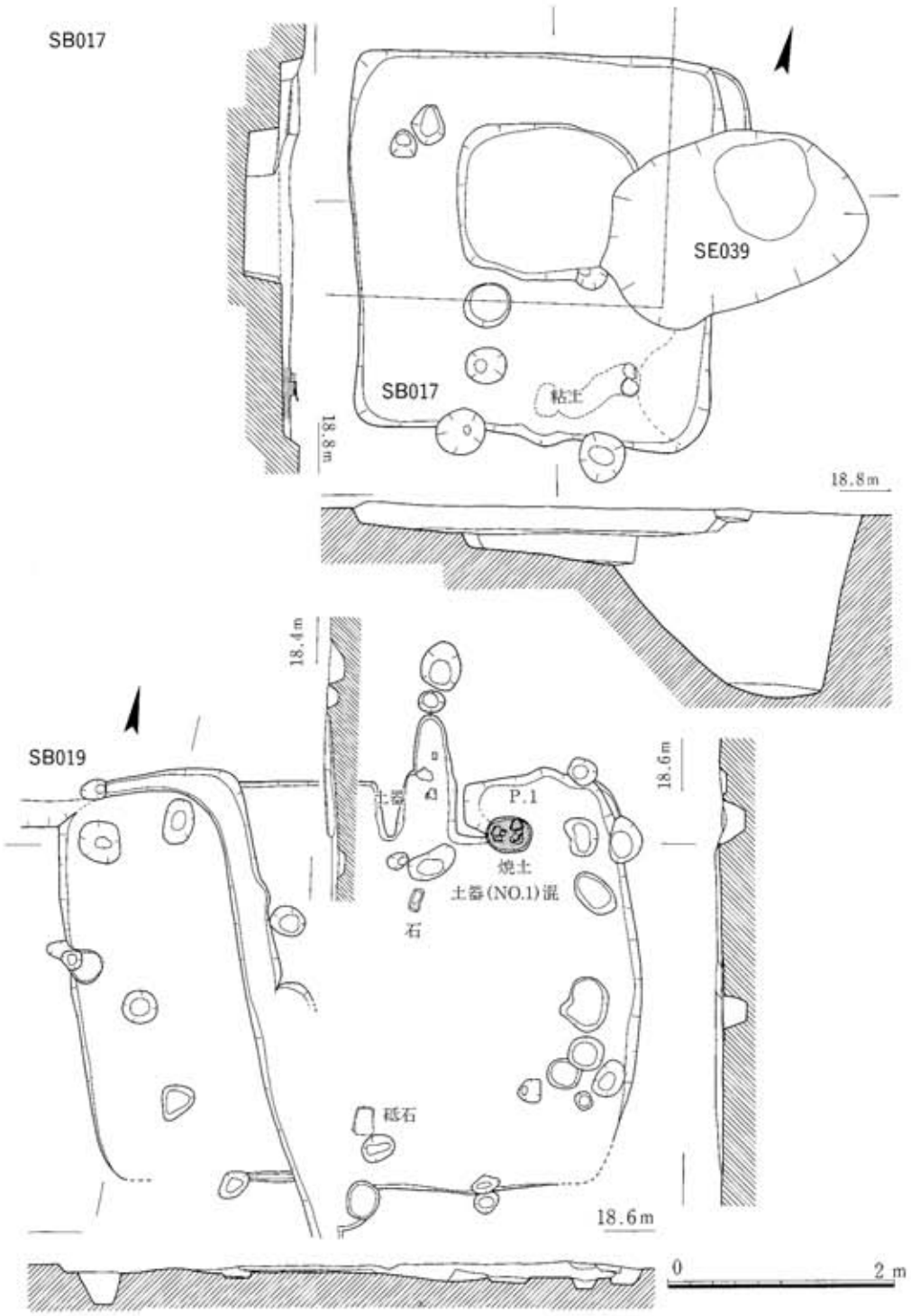


Fig. 10　SB017・SB019竪穴住居跡（1/60）

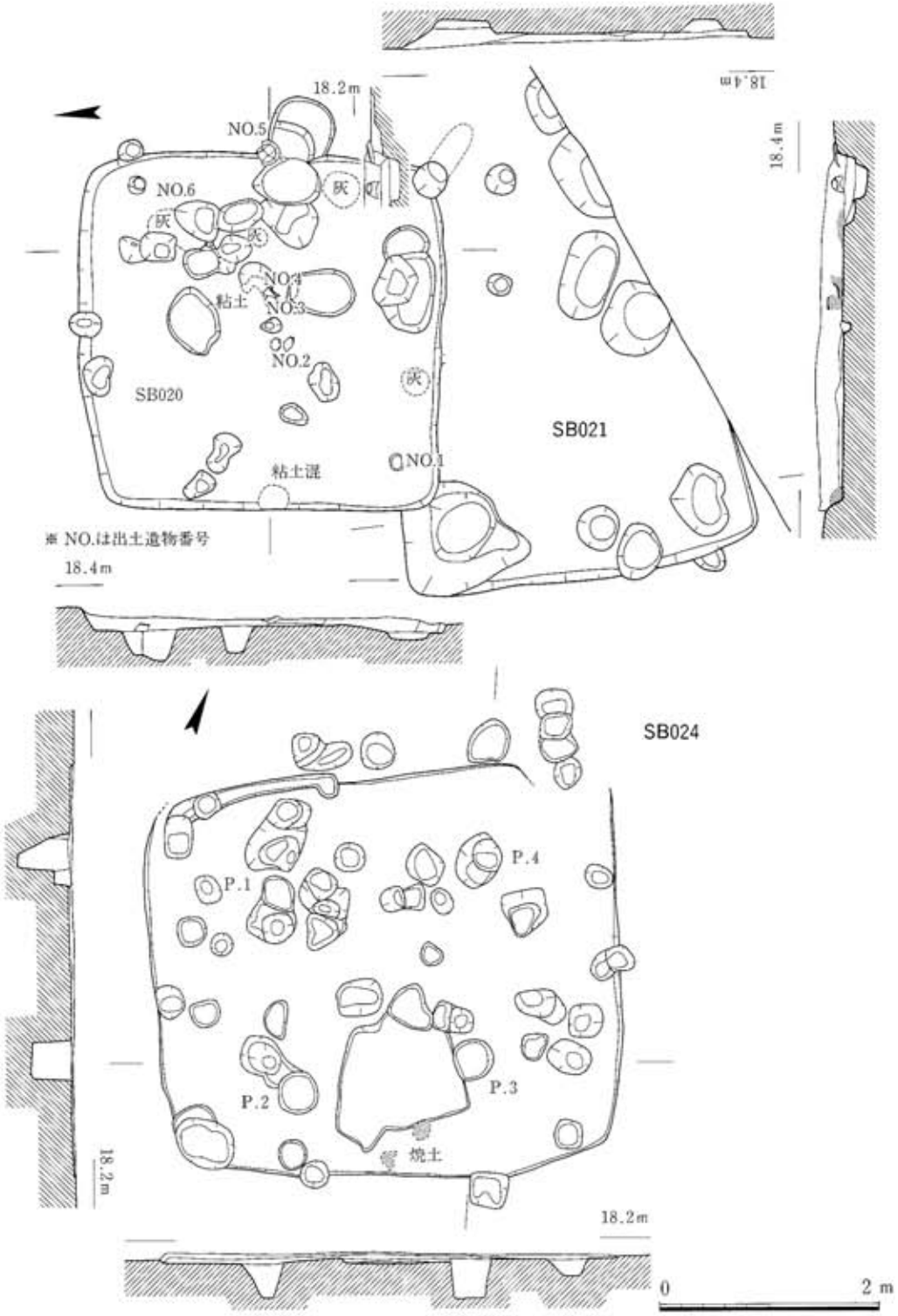


Fig. 11　SB020・SB021・SB024竪穴住居跡（1/60）

SB021竪穴住居跡（Fig. 11）

SB020住居跡に北側を切られ，南側は調査区外へと続く。東壁も削平されているため立ち上りが判らず，ほぼ西壁のみ残存する。西壁の長さは3.2mである。焼土面は認められず，主柱穴不明。土師器の坏及び土錘等が出土した。

SB024竪穴住居跡（Fig. 11）

調査区の東南部に位置する。東西4.2m，南北3.6mで，東西にやや長い隅丸長方形を呈する。壁高はわずかに数cmほどしか残っていない。また，床面は多くの小穴が後世に掘り込まれて荒らされていた。北壁の一部には溝が巡っている。主柱穴はP. 1～P. 4と見られるが，やや歪んだ位置関係にある。南壁際で炭化物を検出したが焼土面等は認められなかった。遺物は土師器の細片が小量出土した程度である。

SB047竪穴住居跡（Fig. 12）

調査区の西北部に位置する。西南部を溝SD031によって切られているが，全体に残りは良いほうである。平面形は方形を呈し，北壁の中央部にカマドを付設している。カマドは袖が黄褐色の粘質土で造られており，焚口幅0.6m，奥行0.5mを測る。カマド床は住居床面より若干窪んでおり，カマド内には焼土，炭化物が多く混入していた。カマドに向かって右側の袖上からは須恵器の高台付き坏が出土した。壁際には断続的に溝が巡るが，南東隅から住居の外方に細い溝が伸びているのは，SB013住居跡でも見られたような排水機能をもつものと考えられる。また，同じ南東隅には深さ0.2mの掘り込みがあり，土師器の皿が完形で出土した。主柱穴はP. 1～P. 4で，1辺2.4mの平行四辺形の形に配置されている。

SB048竪穴住居跡（Fig. 12）

SB047住居跡の東側に位置し，1辺が4.0mほどの方形を呈する。溝SD043・SD044が住居跡内を横切って荒らしている。カマドは北壁中央部に設けられている。住居の外側に突出しているように見えるのは後世の攪乱によるものであろう。カマドの袖は主に黄褐色粘質土で築かれ，焚口幅0.6m，奥行は推定で約0.4mを測る。焚口部分は若干窪んでいる。カマド東側に土器の集中が見られた。土師器の小形甕・鉢などが出土している。

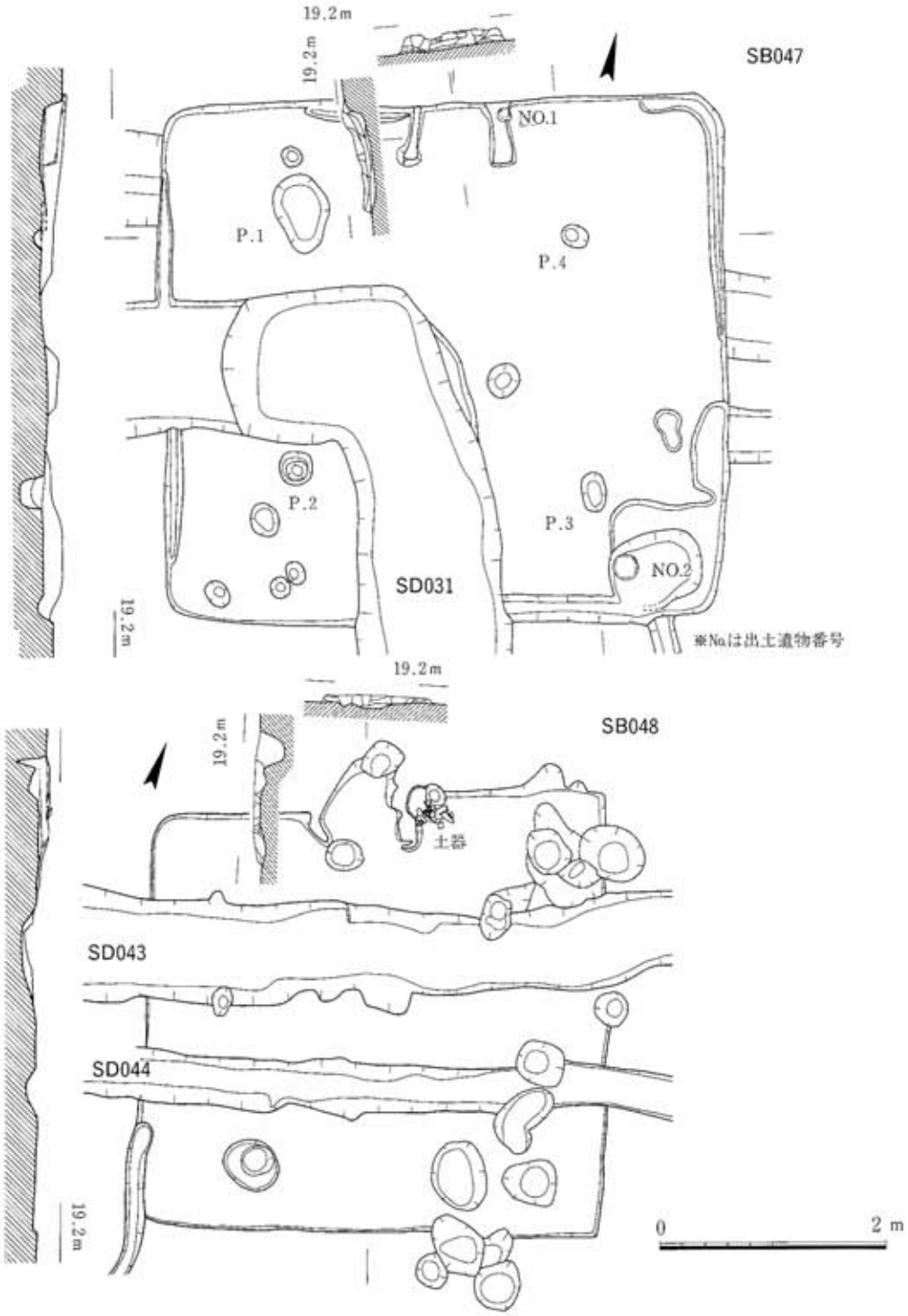


Fig. 12　SB047・SB048竪穴住居跡（1/60）

(2) 掘立柱建物跡

SB004掘立柱建物跡 (Fig. 13)

調査区中央部の西寄りに，3棟の掘立柱建物跡が西側の柱筋を通して並ぶ。SB006以外は建替えが行なわれている。SB004では3棟の最も北側に位置し，2間×2間の総柱建物である。柱穴の断面からは1回の建替えが認められ，P. 1～P. 9は最初の柱穴であり，桁行を縮めて大きな掘形のp. 1～p. 9柱穴に建替えが行なわれている。P. 10～P. 11の存在が気になるところであるが，西側にそれに対応する柱穴が見つかっていないため，さらに建替えが行なわれたとは判じがたい。建物の規模は当初が梁行3.0m×桁行4.6mで，建替え後は梁行3.0m×桁行3.6mとなる。桁行方位はいずれもN62°Eである。確認できた当初の建物の柱痕径はP. 4およびP. 5で径10cm弱，他で15cm～20cmであった。

SB005掘立柱建物跡 (Fig. 13)

SB004掘立柱建物跡の南側に位置し，西側の梁行を揃えた2間×2間の総柱建物で，建替えが1回行なわれている。P. 8に相当する柱穴は見当らない。当初の建物の規模は桁行3.6m×梁行3.3m，建替え後に梁行3.3m×桁行3.3mとなる。桁行方位は いずれの時期もN61°Eである。P. 4から土師器の皿底部が1点出土した。

SB006掘立柱建物跡 (Fig. 14)

SB005掘立柱建物跡の南側に位置し，西側の梁行を揃えた2間×2間の総柱建物である。柱穴には直掘りと2段掘りとが見られる。P. 5だけがごく浅い。建物の規模は桁行4.8m×梁行3.6m。桁行方位はいずれもN60°Eである。P. 2とP. 5を除く各柱穴で径15cm～20cmの柱痕を確認した。遺物はからP. 2から土師器片が2点出土した。

SB018掘立柱建物跡 (Fig. 15)

調査区中央部南寄りに位置する2間×2間の総柱建物である。南北に棟持ち柱を持つ。柱穴掘形は円形で，径0.5m前後，深さ0.35m～0.65m。規模は桁行2.7m×梁行2.7m，棟持ち柱間4.5m，桁行方位はN25°Wo。遺物はP. 10から土師器の甕口縁部片・坏片等が出土した。

SB022掘立柱建物跡 (Fig. 15)

調査区東側中央部に位置する。掘形，規模ともに本遺跡では最も大形でしっかりした掘立柱建物跡である。3間×2間の南北棟である。掘形は円形で素掘りのものと2段掘りのものとがあり，径は0.5m～0.9m，深さ0.45m～0.7m。全ての柱穴で径15cm～20cm南の柱痕を確認し

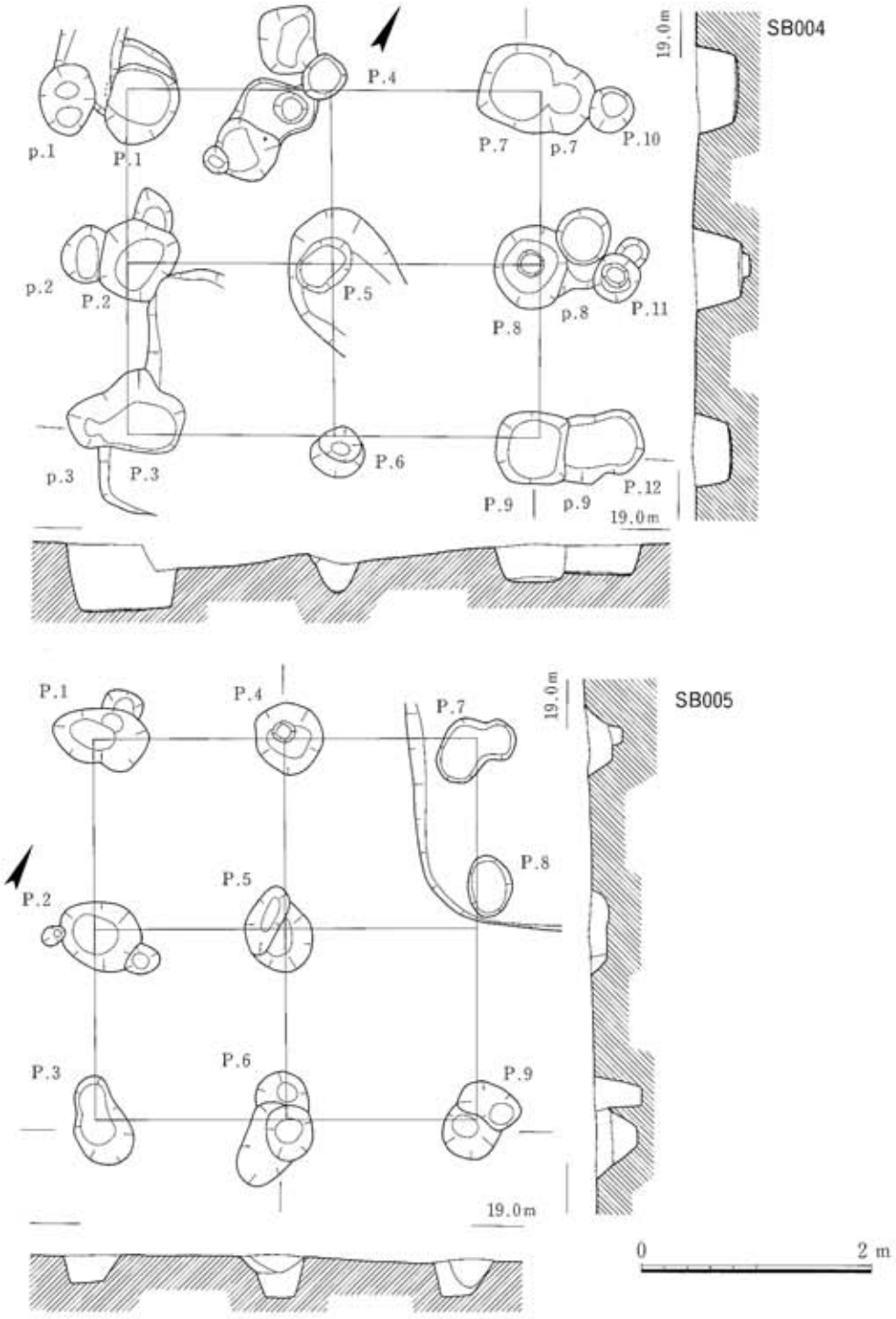


Fig. 13　SB004・SB005堀立柱建物跡（1/60）

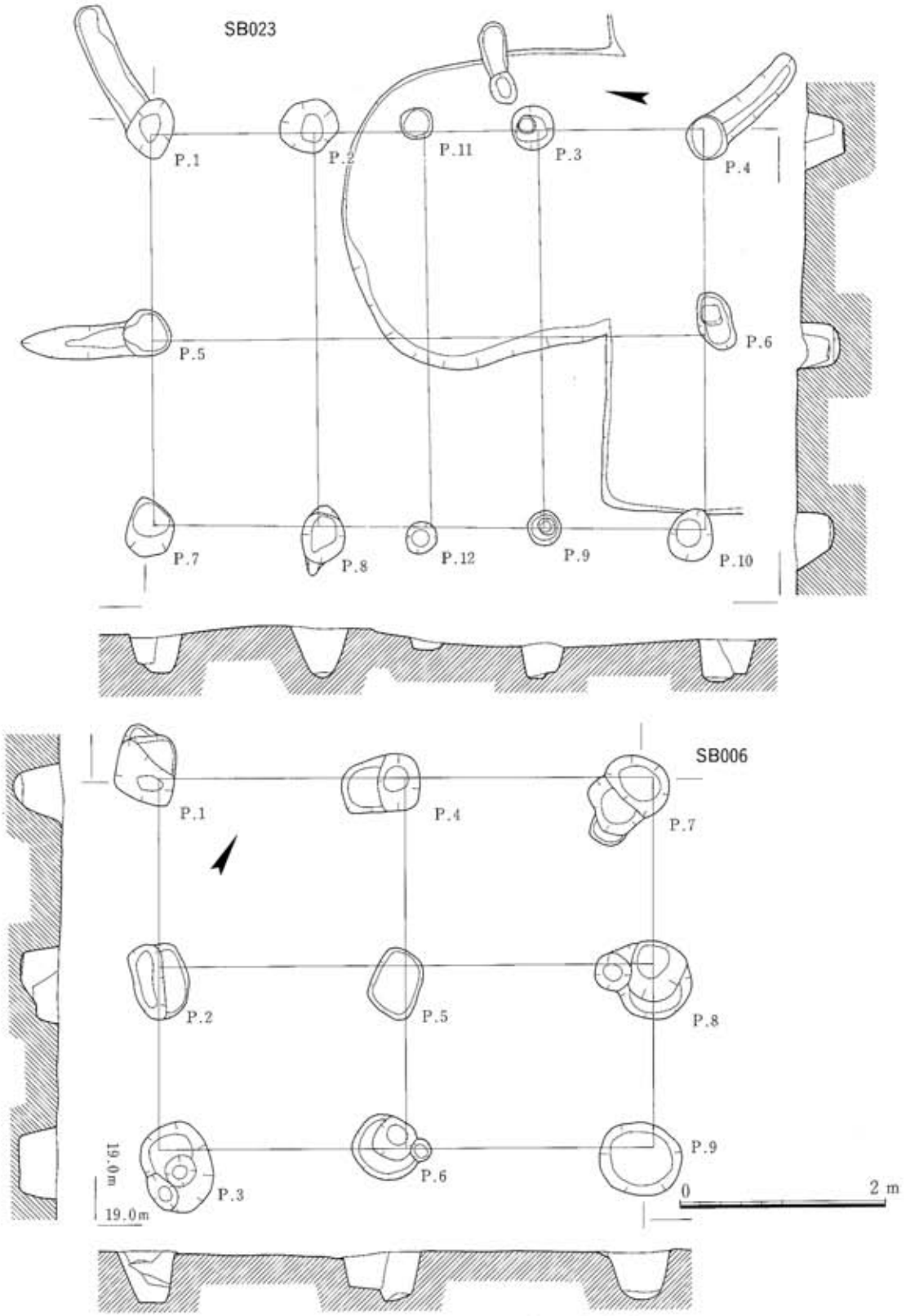


Fig. 14　SB023・SB006堀立柱建物跡（1/60）

た。P. 2・P. 3はP. 1・P. 4よりも20cm程外側へ，P. 8・P. 9はP. 7・P. 10よりも15cmほど外側へずれる。規模は梁行桁行6.0m×4.5m，桁行方位はN15°Wである。遺物はP. 1・P. 5・P. 9から土師器の坏及び甕の破片が出土している。

SB023掘立柱建物跡（Fig. 14）

SB023の南側に位置し，SB014・SB015住居跡を切る。3間×2間の南北棟であるが，P. 2とP. 3，P. 8とP. 9との柱間に他の柱穴より小形で浅いP. 11・P. 12が存在し，全部で12本の柱穴からなる。柱掘形はほぼ円形で，径0.3m～0.6m，深さ0.1m～0.5mの素掘りが殆どである。P. 1・P. 4・P. 5では柱穴に向かって徐々に深くなる堀込みが存在する。規模は桁行5.4m×梁行3.9m，桁行方位はN13°Wである。遺物はP. 1・P. 9から土師器の坏片等が出土している。

SB025掘立柱建物跡（Fig. 16）

調査区中央部に位置し，SB017住居跡を切り，SE039井戸跡に切られている。3間×2間の南北棟である。柱掘形はほぼ円形で，素掘りが殆どである。規模は桁行4.5m×梁行3.6m，桁行方位はN12° Wである。遺物はP. 8から土師器の甕口縁部片が出土している。

SB026掘立柱建物跡（Fig. 16）

調査区南側中央部に位置する2間×1間の建物で，柱掘形は楕円形で径0.6m～0.95m，深さ0.4m～0.7mで，素掘りと2段掘りとがある。規模は桁行2.8m×梁行2.7m，桁行方位N62° Eである。遺物は出土していない。

SB050掘立柱建物跡（Fig. 17）

調査区南西部に位置する。一部は近世の溝で削平されている。南側が調査区外になるが，3間×2間の10本柱建物と推定される。柱掘形は楕円形の素掘りである。規模は桁行5.4m×梁行3.9m，桁行方位はN18° Wである。P. 4・P. 6から出土した須恵器の高台付き坏が互いに接合した。また，P. 1から鉄滓が1点出土した。

SB051掘立柱建物跡（Fig. 17）

調査区中央部付近に位置する。3間×2間の南北棟で10本柱建物である。柱掘形は楕円形で径は0.3m～0.45m，深さ0.1m～0.45mである。規模は桁行4.2m×梁行3.3m，桁行方位はN17° Wである。P. 5・P. 7・P. 10から土師器の坏・甕片，須恵器の坏片が出土した。

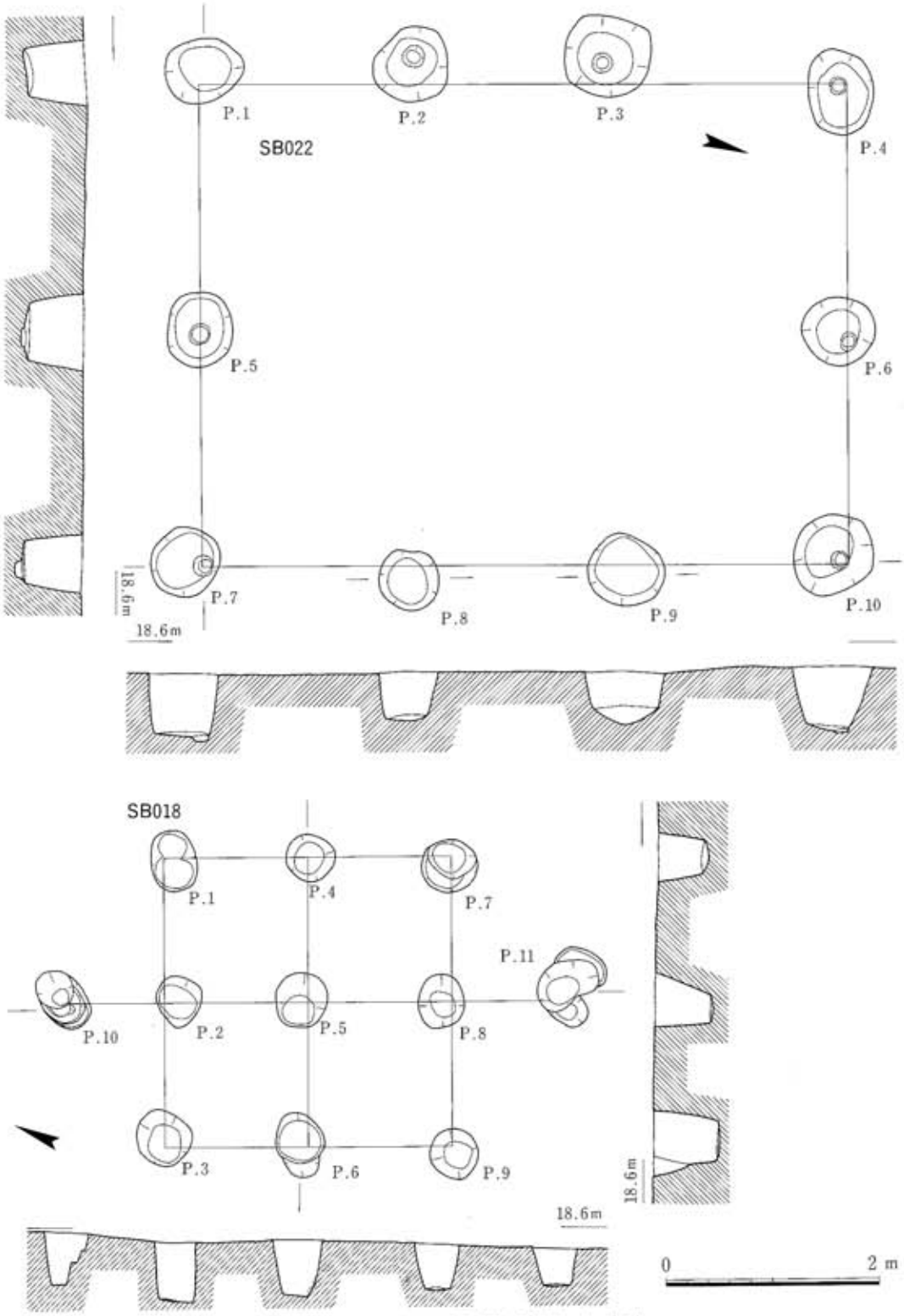


Fig.15　SB022・SB018掘立柱建物跡（1/60）

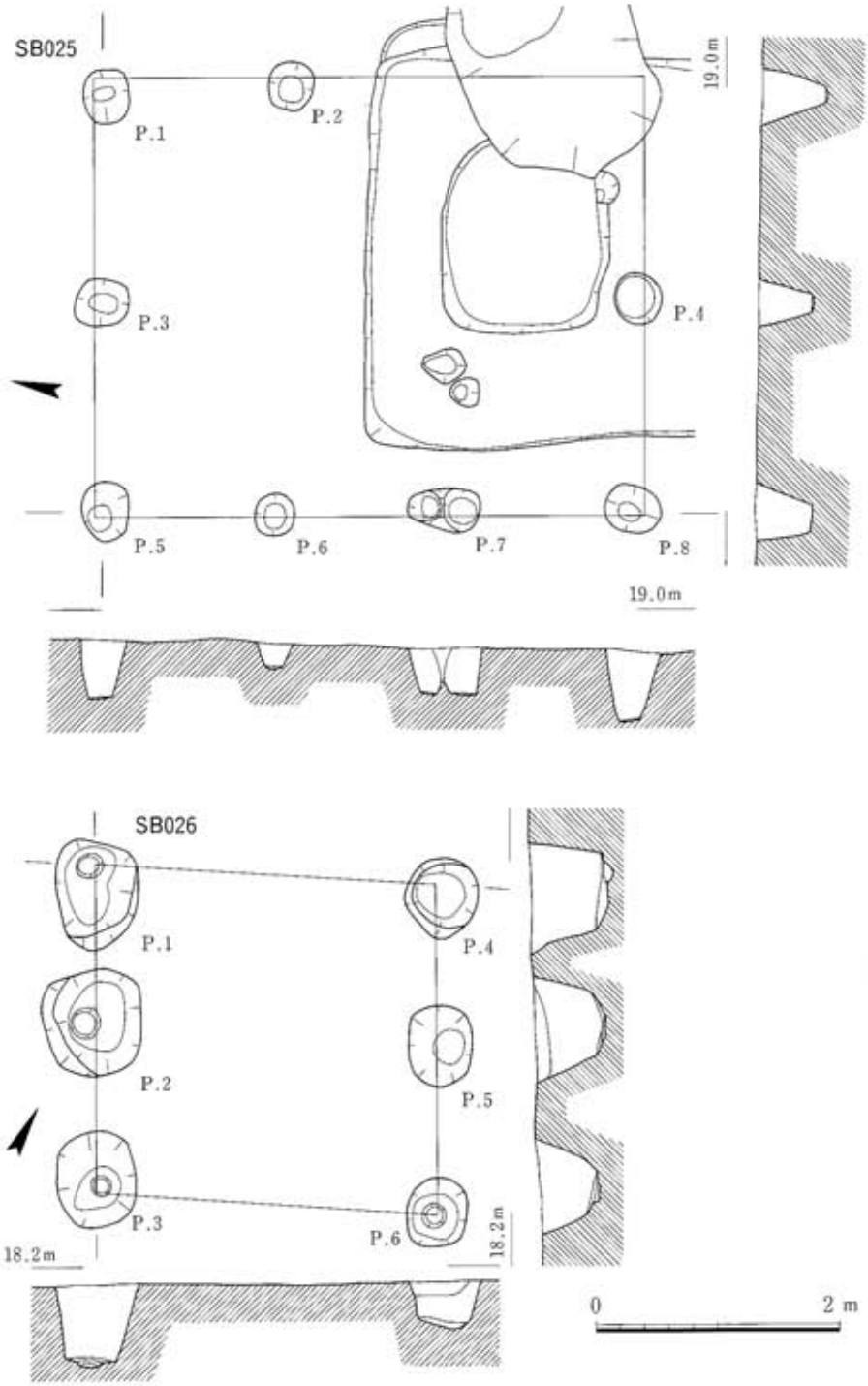


Fig. 16　SB025・SB026掘立柱建物跡（1/60）

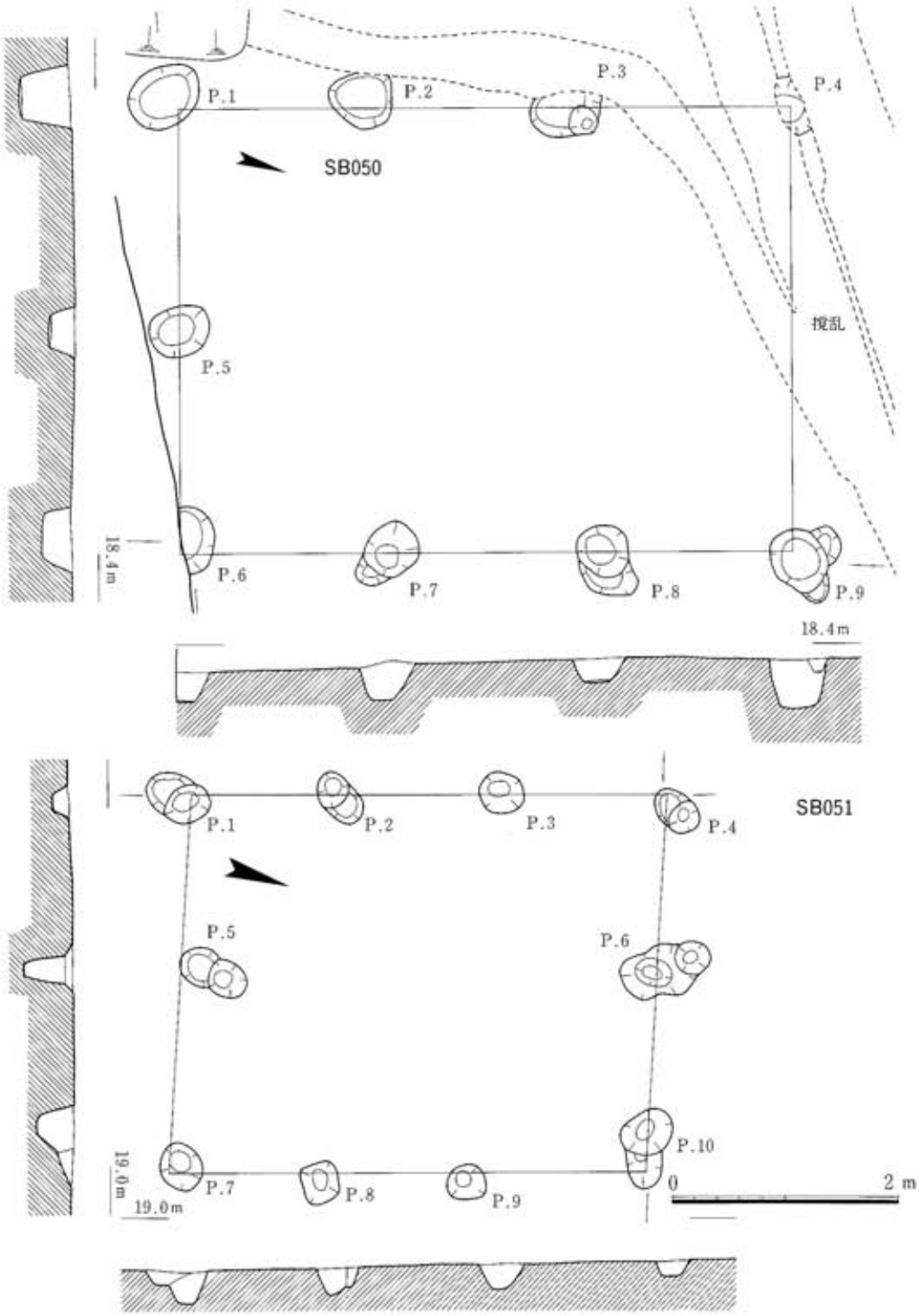


Fig. 17　SB050・SB051掘立柱建物跡（1/60）

SB052掘立柱建物跡（Fig. 18）

調査区中央部付近，SB052掘立柱建物跡の北側に隣接する。3間×2間の南北棟で10本柱建物である。柱掘形は楕円形で，径は0.3m～0.55m，深さ0.1m～0.3m。規模は桁行4.8m×梁行3.3m，桁行方位はN5°Wo P. 1・P. 3・P. 5・P. 10から土師器の坏・甕片が出土。

SB053掘立柱建物跡（Fig. 18）

調査区中央部からやや西寄りに位置し，SB004掘立柱建物跡と重複する。柱穴の切り合いから見て，SB004掘立柱建物跡よりも新しい。3間×2間の東西棟である。東北隅の柱穴は撹乱のため検出できなかった。柱掘形は円形もしくは楕円形で径は0.3m～0.6m，深さ0.2m～0.5mである。規模は桁行4.8m×梁行3.3m，桁行方位はN80°Eである。柱穴から遺物は出土しなかった。

SB054掘立柱建物跡（Fig. 19）

調査区東側に位置し，SB022掘立柱建物跡と重複するが，柱穴の切り合いはない。3間×2間の東西棟で10本柱の建物である。柱掘形は楕円形で，径0.3m～0.5m，深さ0.15m～0.35mである。規模は梁行3.3m×桁行4.8m，桁行方位はN66°Eである。遺物はP. 3・P. 4・P. 10から土師器の坏片，須恵器の坏片が出土した。

SB055掘立柱建物跡（Fig. 19）

調査区中央部やや西寄りに位置し，SB006掘立柱建物跡を切る。2間×3間の南北棟で，P. 2に相当する柱穴は撹乱のためか，検出できなかった。10本柱の建物である。柱掘形は楕円形でもしくは不整形を呈し，径0.3m～0.6m，深さ0.1m～0.4mである。規模は桁行4.8m×梁行3.6m，桁行方位はN11°Wである。遺物はP. 7から土師器の甕片が出土した。

SB056掘立柱建物跡（Fig. 20）

調査区西側に位置し，SB008住居跡を切る。3間×2間の東西棟である。柱掘形は楕円形で，径0.3m～0.5m，深さ0.1～0.5m。規模は桁行5.4m×梁行3.9m，桁行方位はN85°Eである。遺物はP. 1から土師器の甕片が出土した。

SB057掘立柱建物跡（Fig. 20）

調査区中央部付近に位置する。3間×2間の南北棟で，8本柱の建物である。柱掘形は楕円形で，径0.2m～0.5m，深さ0.25m～0.55mである。規模は桁行3.8m×梁行3.3m，桁行方位はN17°Wである。

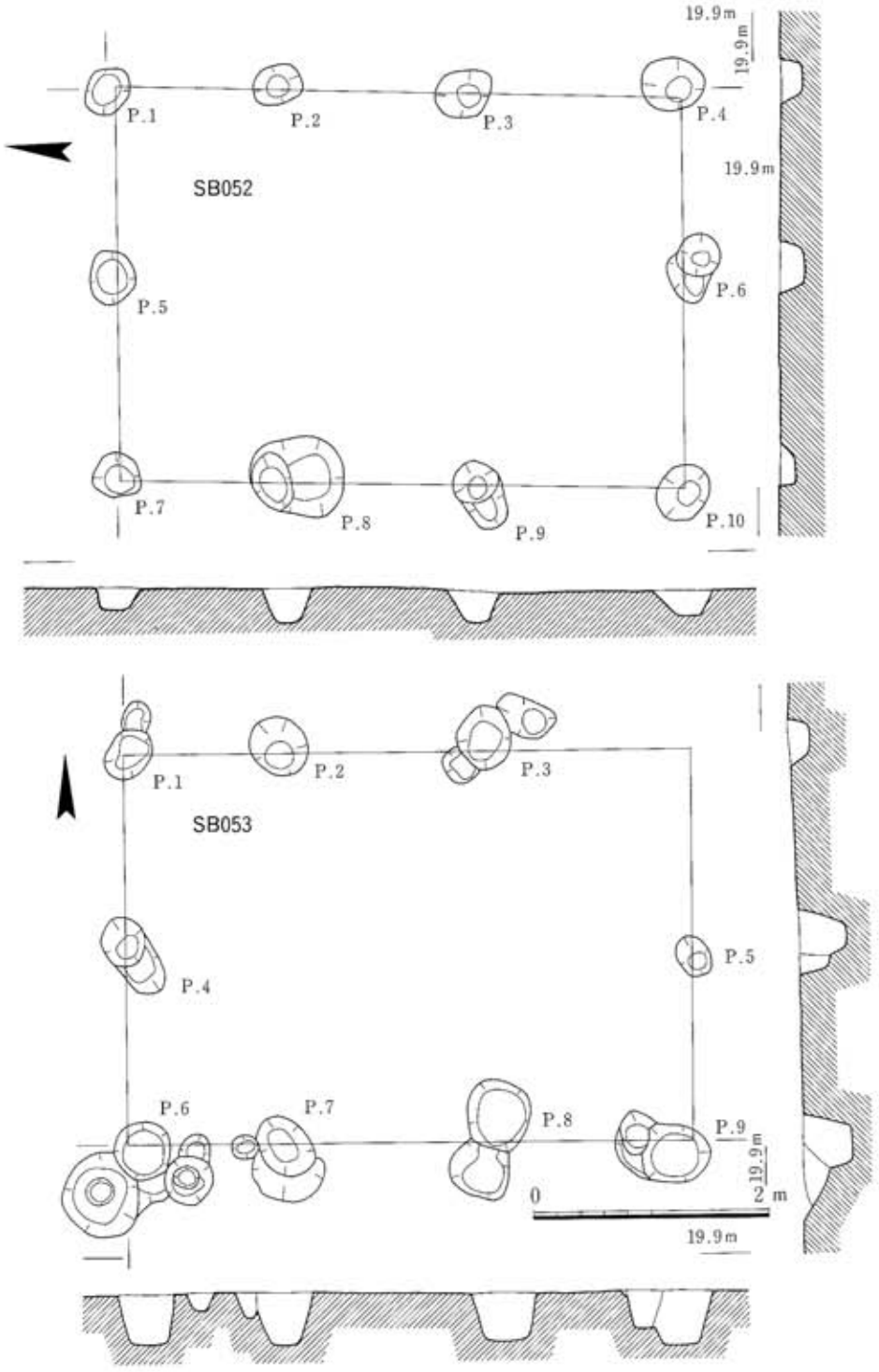


Fig. 18　SB052・SB053掘立柱建物跡（1/60）

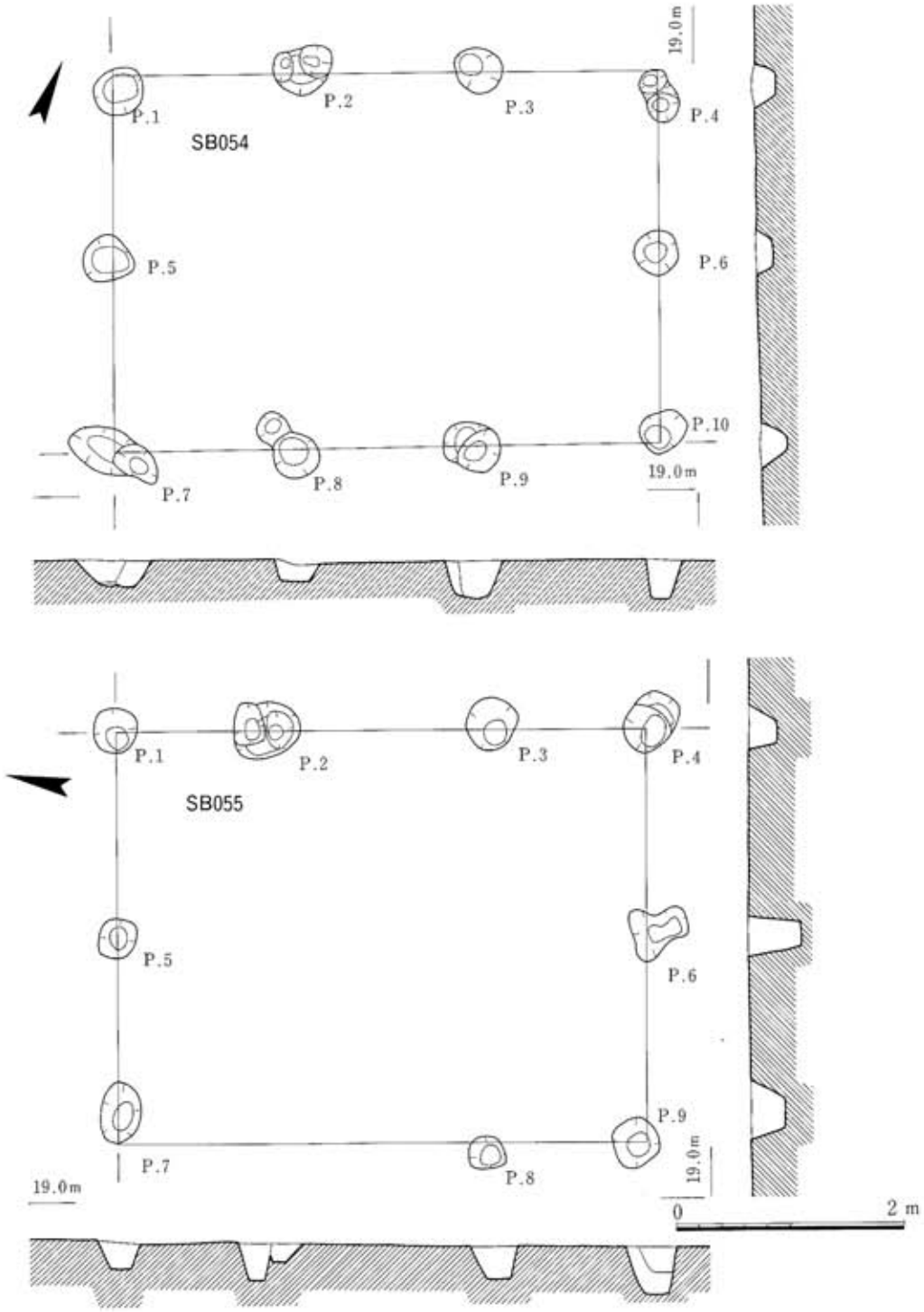


Fig. 19　SB054・SB055堀立柱建物跡（1/60）

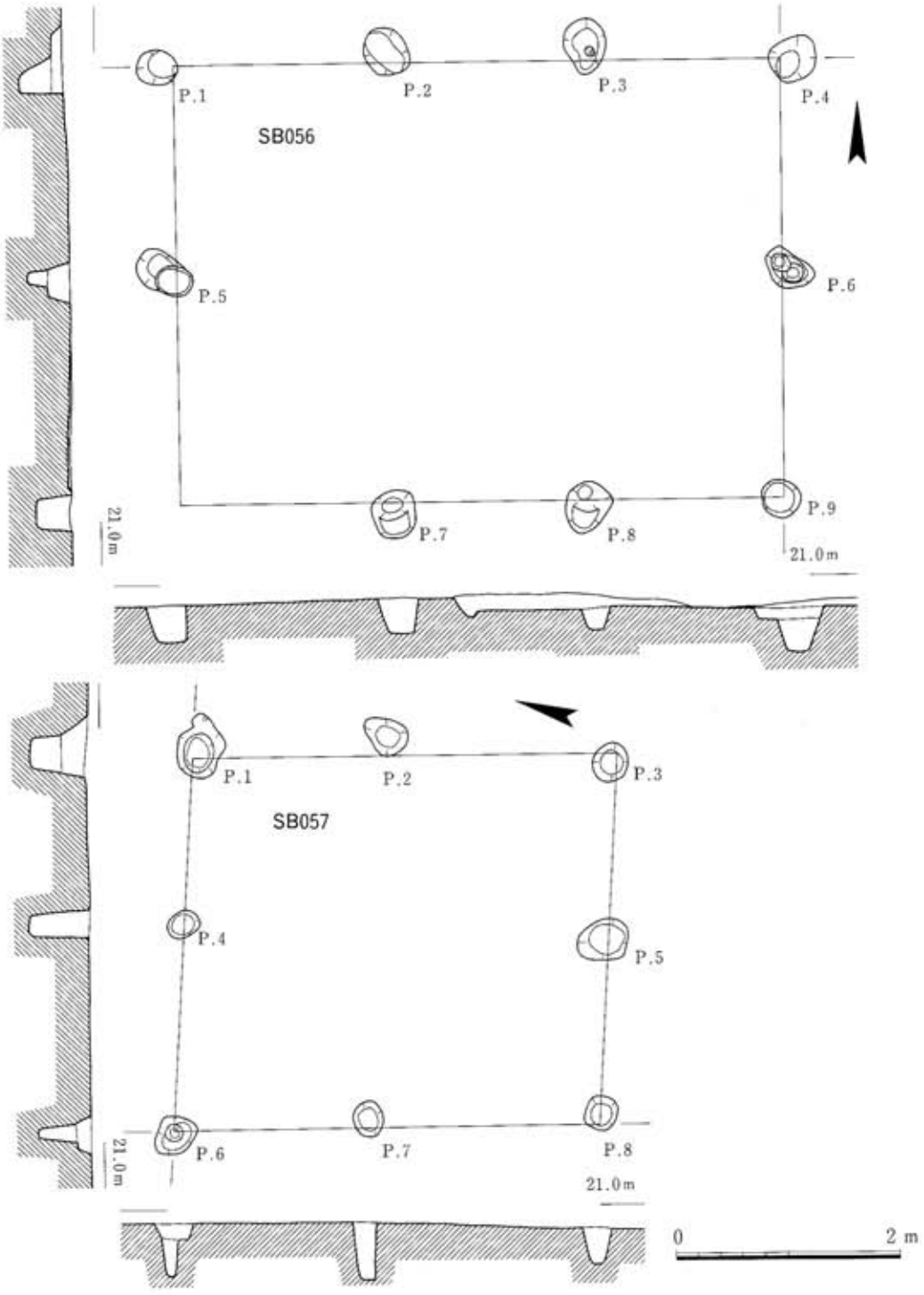


Fig. 20　SB056・SB057掘立柱建物跡（1/60）

(3) 土　　壙

SK027土壙 (Fig. 21)

調査区西北部に位置する。複数の堀込みからなる土壙状の遺構で，不整形を呈する。最深部で深さ0.45mを測る。底面から土師器の高坏1個体分，高台付き坏1個体分が出土している。

SK029土壙 (Fig. 21)

調査区北側中央部付近に位置する。隅丸長方形の複数の土壙である。長軸1.8m，短軸1.5m，深さ0.5mを測る。床面はほぼ水平で，断面逆台形を呈する。遺物は出土しなかった。

SK036土壙 (Fig. 21)

調査区の中央部やや東寄りに位置する円形の土壙である。掘形は丸味をもった碗形を呈する。規模は長軸1.9m，短軸1.7m，深さ0.55mを測る。遺物は出土しなかった。

(4) 井 戸 跡

SE033井戸跡 (Fig. 22)

調査区西側のラインに一部かかって位置し，SE034と切り合う。平面形は円形で，上面の掘形がやや外開きとなり，下段は徐々にすぼまりながら平坦な底ををつくる。規模は下段で直径0.7m，深さ1.0m程度である。井戸枠等の施設はもたない。

SE034井戸跡 (Fig. 22)

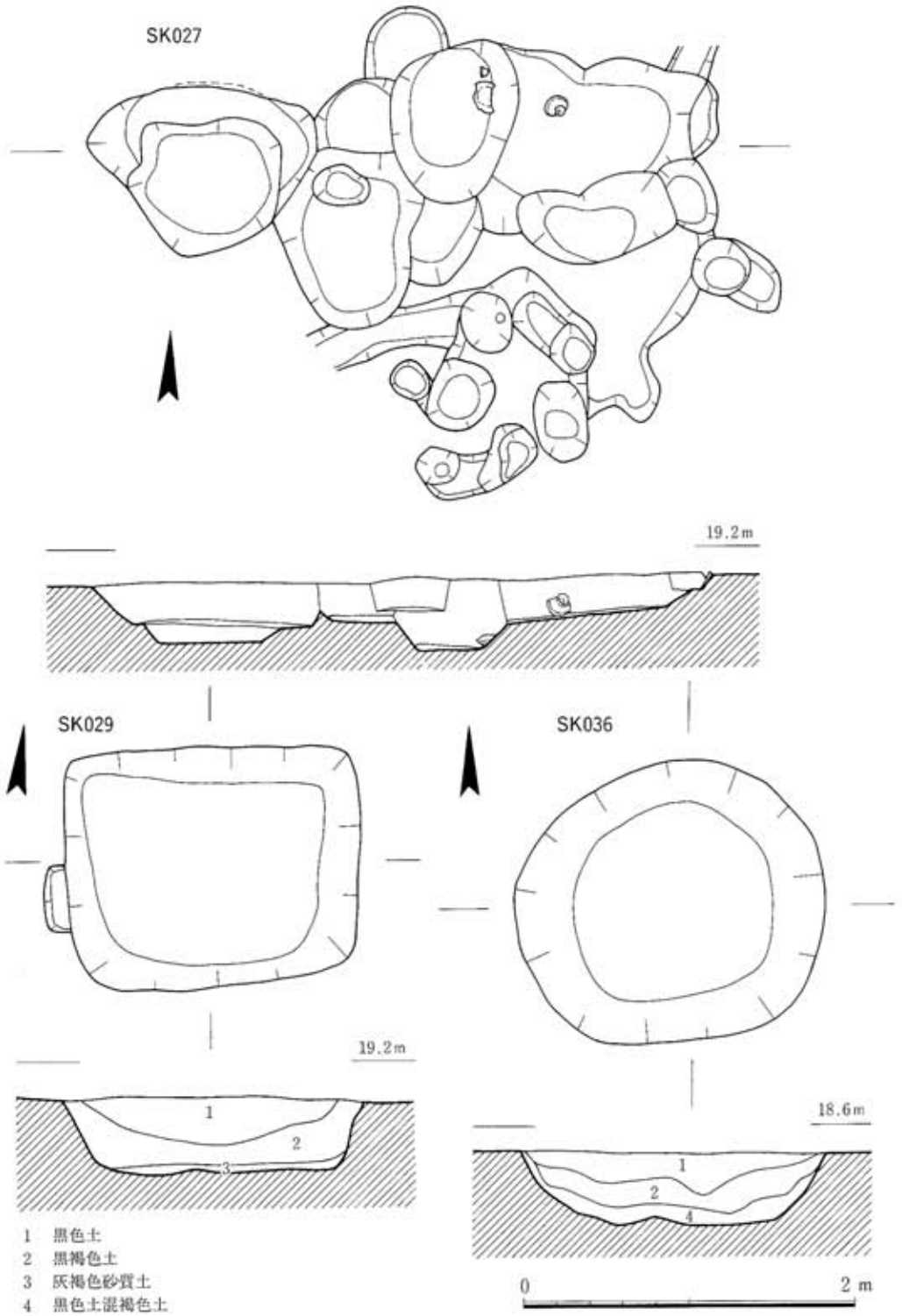
SE033井戸跡よりも一段浅く，平面形は円形を呈す。掘形はSE033と同様に徐々にすぼまり，底は平坦となっている。井戸枠等の施設はもたない。

SE035井戸跡 (Fig. 3)

調査区西側にあって，SE033・SE033井戸跡に近接する。平面形は円形を呈し素掘りの井戸跡で，直径は上面で0.7m，底面で0.5m，深さは斜めで，0.6m程である。

SE038井戸跡 (Fig. 22)

調査区南側の東寄りに位置する。平面形は楕円形で円柱状の掘形となる素掘りの井戸跡である。直径は0.9m×1.1m，深さ1.4m。井戸枠等の施設はもたない。



1　黒色土
2　黒褐色土
3　灰褐色砂質土
4　黒色土混褐色土

Fig. 21　SK027・SK029・SK036土壙（1/40）

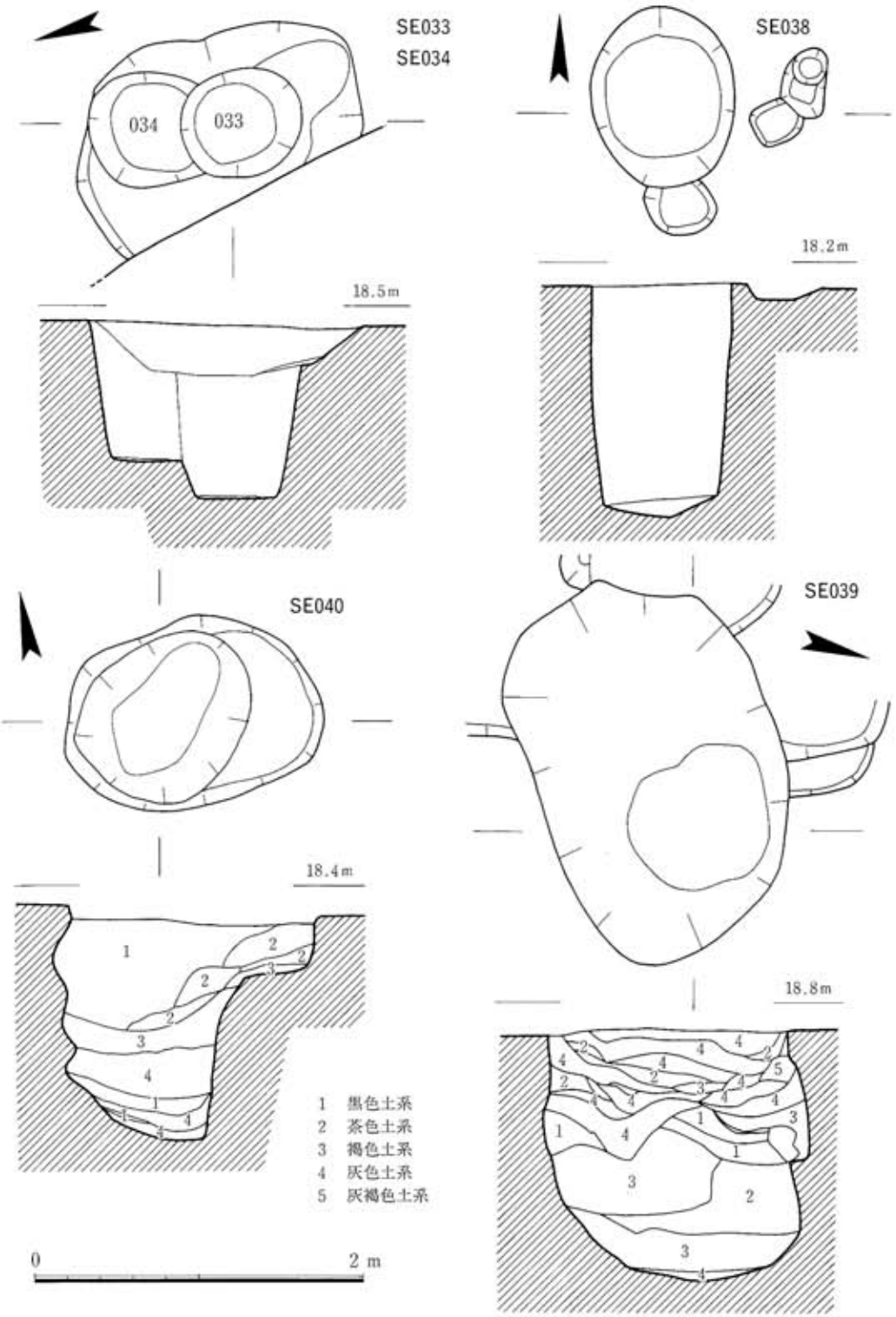


Fig. 22　SE033・SE034・SE038・SE040・SE039井戸跡（1/40）

SE039井戸跡（Fig. 22）

調査区中央部付近に位置し，SB017住居跡を切る。西側の立ち上がりは緩やかで大きく開いているため，当初は土壙と考えたが，深さから判断して井戸跡とする。径は上面で2.3m×1.5m，深さ1.4mを測る。土師器を主に多量の遺物が出土した。土師器は甕・坏・皿・内黒碗等，須恵器はごく小量ながら甕・蓋・壺がある。また，土器以外に瓦・鉄滓が出土している。

SE040井戸跡（Fig. 22）

調査区東側に位置する。片側だけが2段掘りとなる井戸跡で，平面形は楕円形である。規模は上面で1.5m×1.1m，下段で1.1m×0.9m，深さ1.4mを測る。井戸枠等の施設はない。

(5) 溝　　跡

SD031溝跡

調査区西北隅に位置する。調査区外から東に伸びてきたこの溝は，SB047住居跡を切り，そこで直角に折れ，南に10m程のところで途切れる。遺物は糸切り底の土師器坏片が出土している。

SD041溝跡

SB014・SB015住居跡の南に位置し，調査区外に伸びる。途中でSB013住居跡から伸びる溝と合流する。SB015住居跡から出土した須恵器の長頸壺と同一個体と思われる破片が本溝から出土しており，SD041溝はSB015住居跡の排水溝的な施設と考えられる。

SD042溝跡

調査区東側に位置する。南北方向に直線的に伸びる。北端は削平によって消滅し，南側は調査区外へ続いている。長さ37m。幅約0.8m，深さ約0.3mである。

その他の溝跡

SD031は幅が狭く蛇行しながらも方角部をつくり，北から南へ下る。北側ではSD043と並行しており，同時期の何らかの排水溝かと見られる。SD032も同様に方角部をもつ幅の狭い溝である。SD046は調査区北側で一部のみ検出した小溝で，SD041と近似した方向に走るようである。

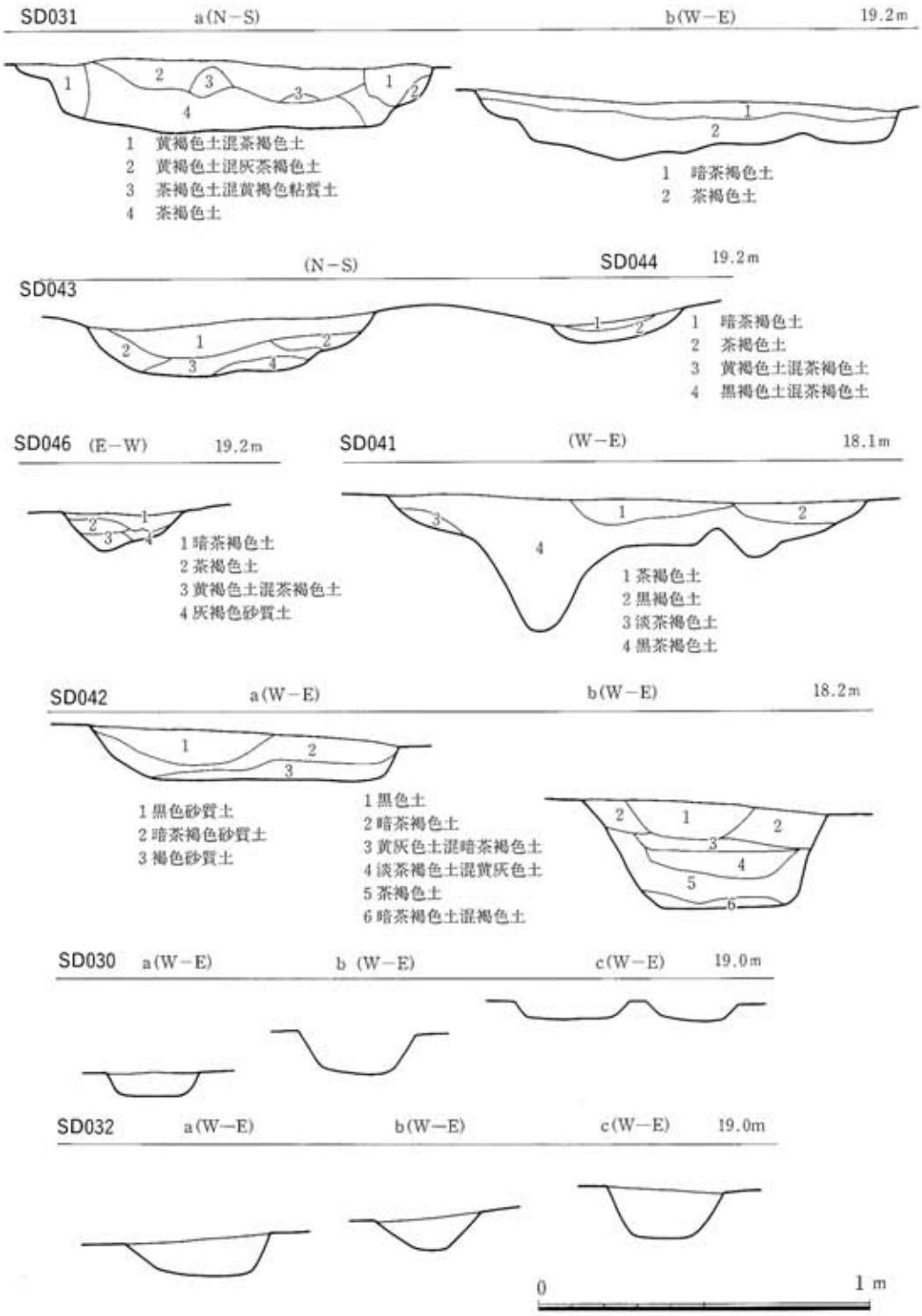


Fig. 23　溝跡断面図（1/20）

Ⅳ 遺　　物

〈概　要〉

縄文時代から平安時代にかけての遺物が出土した。そのうち主体を占めるのは奈良・平安時代である。縄文時代の遺物では早期・前期および中期の土器と石器が採集されたが，遺構が明確でなく，点数もわずかである。但し，1点のみではあるが，ほぼ器形の全体が復元できる前期曽畑式の甕が出土しており，佐賀平野では貴重な資料といえる。弥生時代の遺物では若干の土器・石器とガラス小玉数点と管玉1点，古墳時代では6世紀頃の須恵器および土師器の破片が若干採集された程度で，やはり明確な遺構は検出されなかった。

奈良・平安時代の遺物では，竪穴住居跡や土壙等から8世紀を中心とした須恵器，土師器の日常容器が豊富に出土した他，土錘数点，フイゴ羽口2点，鎌1点が見られ，東方の嘉瀬川近くに位置する肥前国府周辺の集落との関係が注目されるところである。

以下，時代順に説明するが，打製石器については時期を明確に分けがたいものの，多くは縄文時代の石器と考えられることから，縄文時代の内に一括して図示する。

1　縄文時代の遺物

(1) 縄文土器 (Fig. 24)

1～10は深鉢の破片。いずれも明確な遺構に伴うものではない。

1は外面一部を浅い条痕で飾り，他ナデ。2は外面につまみ出し突帯を数条巡らせて貝殻条痕を施し，内面も条痕で調整する。3～6は口縁部を外反させ，太い沈線と刺突文の組合せが口縁部では内面にも及ぶ。7は器面に沈線で楕円形を描き外側に刺突擬縄文を施す。8は外面に太い縄文，9は外面に細かい縄文を施す。10は平底の甕底部。

11は曽畑式の深鉢。体部は下膨らみで丸底，口縁部はやや外反気味に立つ。外面に粗い沈線文を施し，口縁部内面に2列連続刺突文，口唇部に押圧文を飾る。滑石粉粒が多く混入し，褐色で外面全体にに煤が付着する。底部をそっくり欠失しており，埋甕に利用されていた可能性がある。口径18.6cm，器高25.7cm。

時期は1・7が早期の塞ノ式・2が前期の轟式B，3～6及び11が前期の曽畑式でも新しい段階のもの，8・9は瀬戸内系の船元式とみられる。

(図番号－登録番号)

1-88001678　2-88001673　3-87006281　4-88001438　5-87006281　6-87006278

7-88001677　8-88001681　9-88001678　9-88001675　10-88001612　11-88001612

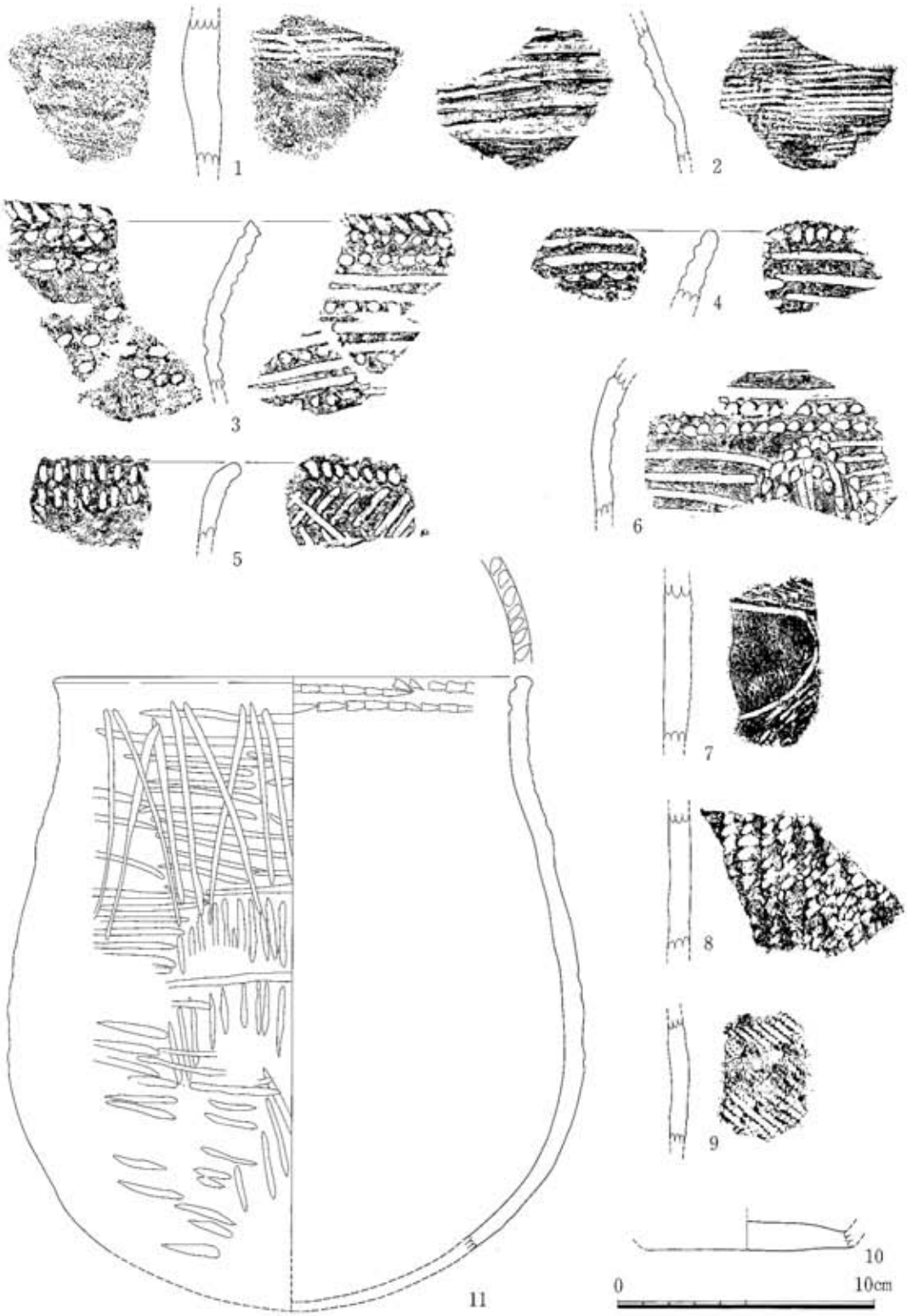


Fig. 24　縄文土器（2/5）

(2) 石　　器

a　打製石器 (Fig. 25・26)

石　鏃　12～25はいずれも遺構検出中に出土した。石材は12・14・15・21・24・25がサヌカイト，他は黒曜石である。12・13は抉りが深く，12は鍬形鏃。14・15は凹基式，16・17は小形で抉りが深くつくりは丁寧である。18～20は小形の凹基式で，19・20はとくに小型である。21～23は平基式あるいは平基式にちかく，23は小形剝片鏃。24・25は両面に刃部調整を施して分厚く，制作途中のものか。

(図番号－登録番号)

12-88001639 13-88001630 14-88001642 15-88001636 16-88001629 17-88001628
18-88001631 19-88001632 20-88001635 21-88001647 22-88001627 23-88001636
24-88001646 25-88001648

石匙・削器・掻器ほか　26～33はいずれも遺構検出中に出土したサヌカイトの剝片石器。

26は縦長剝片で，基部をつまみ状につくり，片側側縁のみ片面に鈍い刃部をつくりかけている。27石匙は横長剝片の両面から二次調整で弧状刃部をつくる。基部と側端片方をわずかに欠く。28石匙は薄い縦長剝片の片面のみに細かな刃部調整を施す。

29～31は削器。29は鋭利な先端をもつ縦長剝片の片面両側縁と反対面の一部に刃部調整を施し，30は一方の側縁片面に鋭利な刃部をつくり，図の肩部には鈍い刃を付けて図の上方肩部にノッチをもつ。31は剝片の弧状縁部の片面に細かな刃部をつくるが，打面調整痕を残し不整形である。32は掻器と見られ，図の下方斜縁の片面に鈍い刃部調整を施す。33は小形の楕円形掻器で，図の下の上下両端に片面のみ刃部調整を施す。

(図番号－登録番号)

26-88001657 27-88001651 28-88001665 29-88001656 30-88001649 31-88001663
32-88001654 33-88001650

b　磨製石器 (Fig. 27)

石　斧　34はバチ形の小形石斧。頂部に小さな平坦をつくり全面を丁寧に研磨して仕上げている。刃部には使用による細かな刃こぼれが見られる。石材は玄武岩か。全長11.7cm，刃幅5.8cm。遺構検出面出土。35はやや扁平な蛇文岩製の大形石斧。全体に不整形ながら両面は丁寧に研磨している。刃部には大小の刃こぼれがある。折損して半分以上を欠失する。刃幅8.0cm。遺

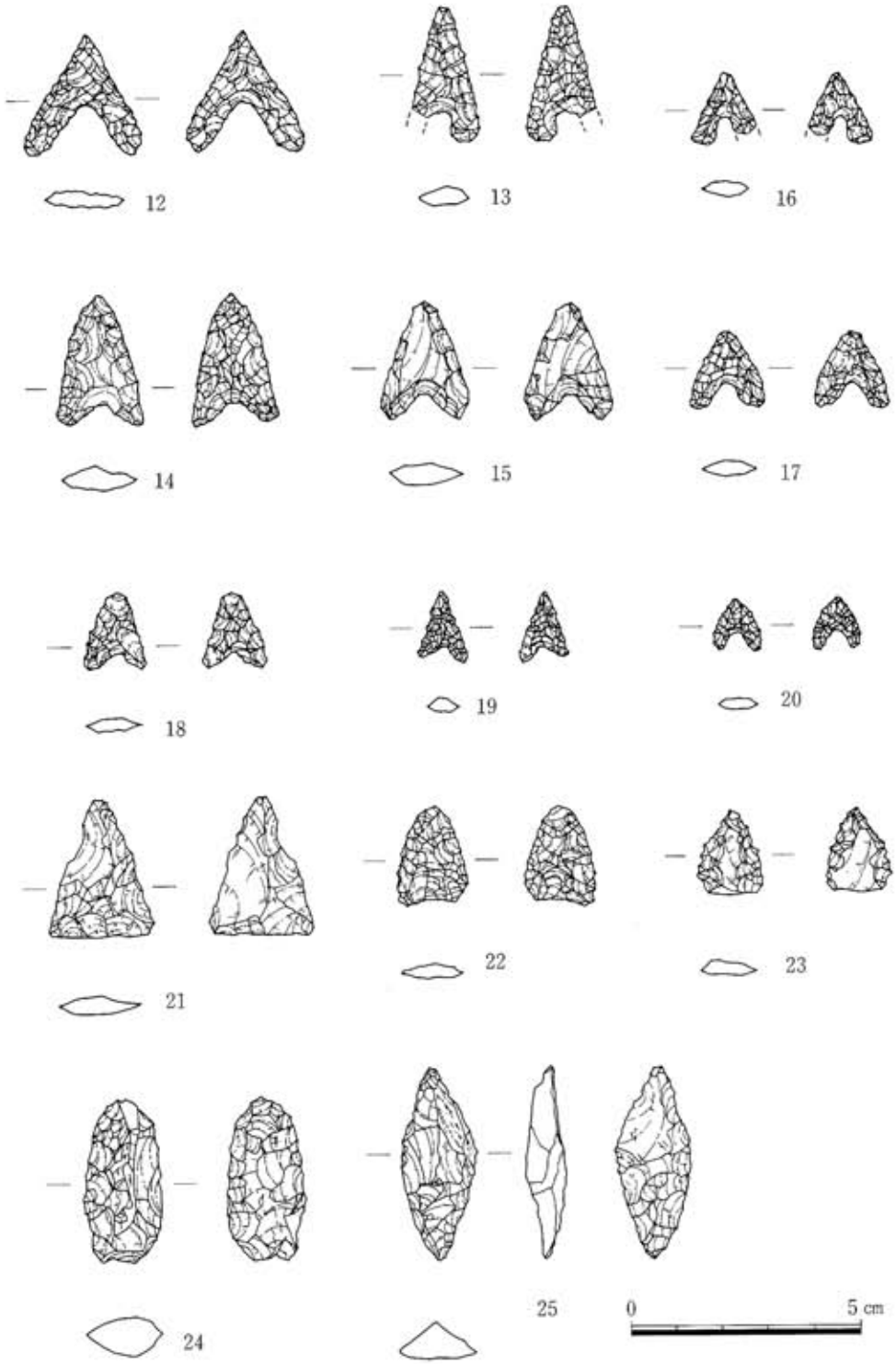


Fig. 25　石　鏃（2/3）

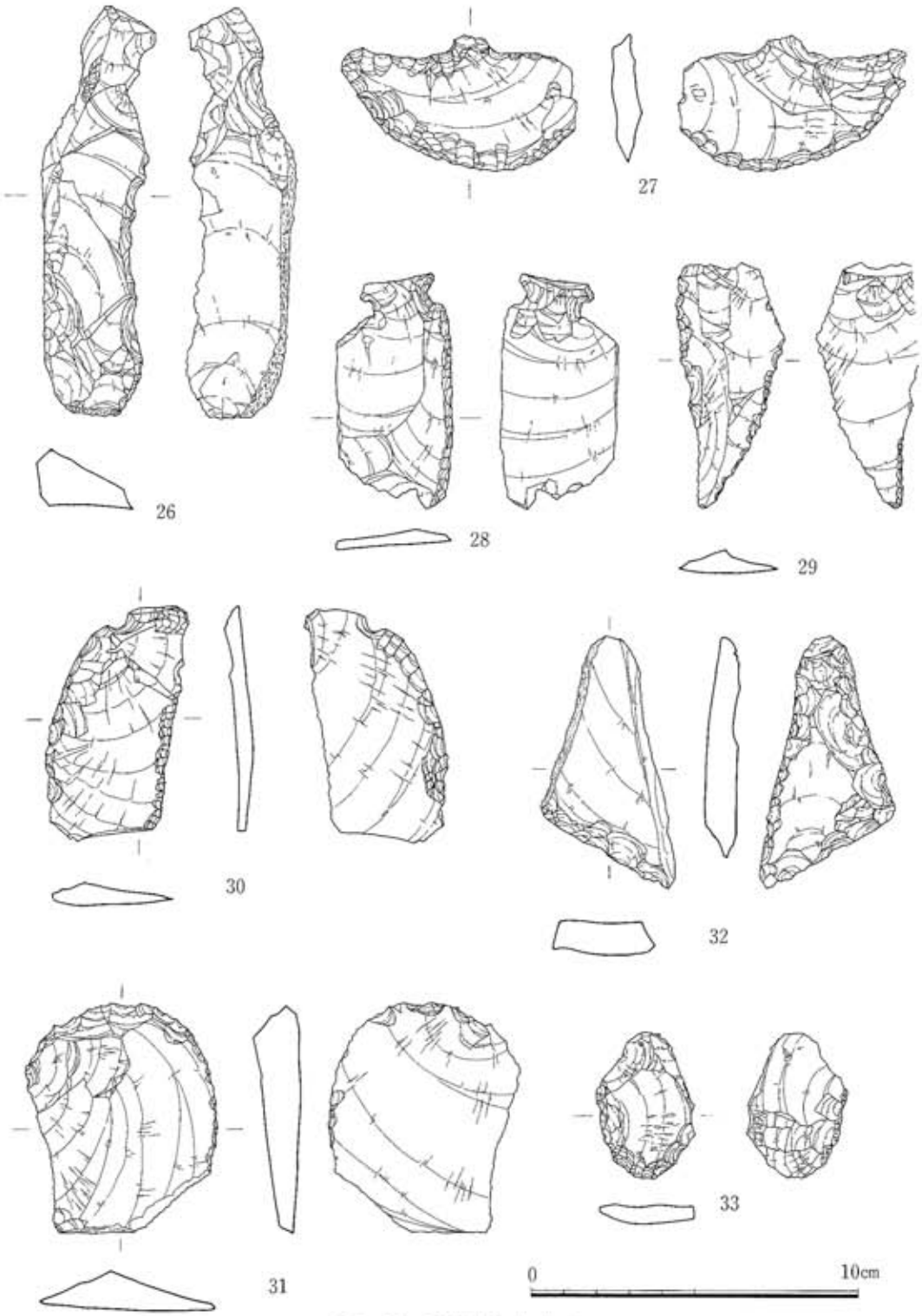


Fig. 26　打製石器（1/2）

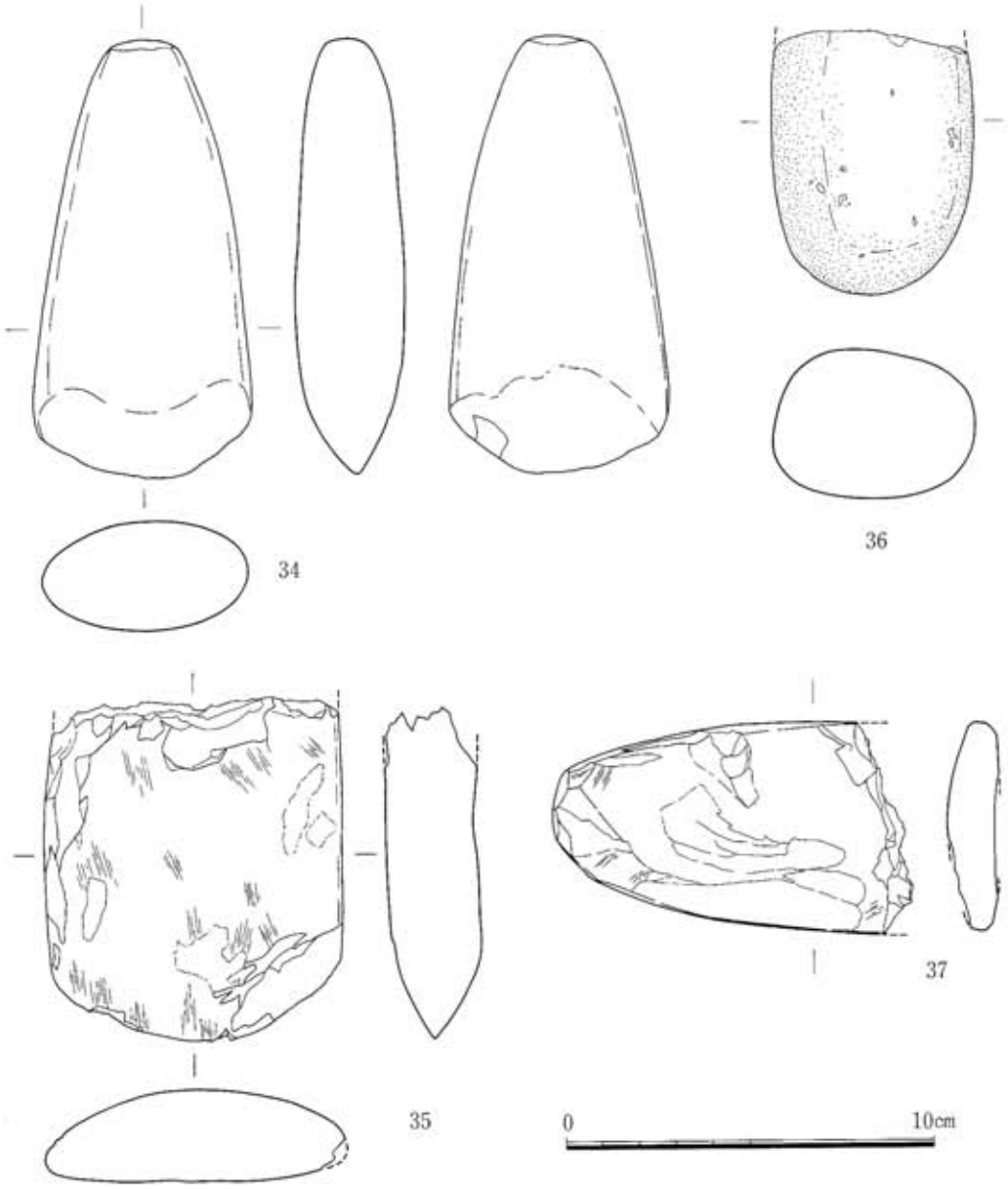


Fig. 27　磨製石器（1/2）

構検出面出土。　(図番号－登録番号)　34-88001653 35-88001652

磨　石　36は棒状磨石の残欠。石材は火成岩である。先部は使用により丸く磨り減っている。幅5.5cm。遺構検出面出土。　(図番号－登録番号)　36-88001653

石包丁　37は石包丁の未製品。周縁及び両面を粗く研磨して形を整えているが，刃部はまだつくられておらず，穿孔については不明である。制作途中で廃さされたものであろう。石材はは暗灰色の粘板岩である。残存最大幅5.7cm。遺構検出面出土。

(図番号－登録番号)　37-88002694

2．奈良・平安時代の遺物

(1)　須恵器・土師器

須恵器・土師器が比較的まとまって出土した遺構を中心に，概要を述べる。個々の資料の詳細はTab. 2に寄られたい。出土した遺構は竪穴住居跡を中心とするが，SB003，SB013，SE039で比較的多量に出土した以外は全体として点数が少ない。

SB001 (Fig. 28)

須恵器および土師器坏蓋が出土した。38・39は天井部が低くつぶれ，口縁端部が稜で立つ。

SB002 (Fig. 28)

須恵器坏および土師器の坏・碗・甕・甑が出土した。須恵器坏40は口縁部がやや急に立つことを思わせる。甕は丸底気味のやや不安定な平底。唯一全体の判る甑46は器長が比較的低く，把手は曲がりが少ない。

SB008 (Fig. 28)

須恵器坏・甕底部および土師器坏が出土した。須恵器坏47は体部が浅く急に立ち，高台がやや底部の内側に入る。49は大形土師器坏で，底体部間に高台が付く。

SB001 (Fig. 28)

須恵器坏の蓋・身および土師器の坏・甕・甑片が出土した。須恵器は，坏蓋50は天井部が扁平にちかくつぶれ，身51は底部やや内側に高台が付く。甕54は口縁部が「く」字形に折れ，体部は外面にハケメを残し，内面をヘラで削って薄く仕上げている。

SB003 (Fig. 29)

土師器の坏蓋・碗・鉢・甕・甑および手捏土器が出土した。57は須恵器を意識したつくりで一応蓋としておく。甕は口縁部が体部からやや急に外反して開くものが多く，底部は小形甕では丸底と平底とがある。甕67は底部が平底と思われ，内面ハケメ，外面ヘラナデで仕上げてい

る。カマド内から出土した。甑70は体部が緩く膨らみ口縁部が外反する。71～73は坏を模したいわゆる祭祀土器か，手捏の粗製品である。

SB013（Fig. 30・31）

土師器の坏蓋・身・甕・甑，および須恵器の坏蓋・坏身・皿・甕・壷が出土した。SB013は竪穴住居跡を拡張して2時期に分かれるが，これらの遺物は主に拡張後の時期に属す。土師器の坏蓋74は大形で天井部が丸味をもち，坏には体部が浅く丸底状の77～79が見られる。80は内外面へラミガキの大形坏である。甕には大形から小形まで各種が揃っており，中形・小形では丸底気味，口縁部は大きく外反するものと短く外反するものとがある。須恵器は坏身のうち大形の94は体部が外に大きく開いて底体間に低い高台をもち，小形96では体部が急に立ち上がって底部のやや内側に低い高台が付く。壷99は体部肩がつよく張り，小さな口縁部が短く立ち上がる。100～103は胴部が直線的に角張って肩が稜をなして底部との境に高台をもち，長頸が口縁部に向かって緩く開く。

SB014（Fig. 28）

カマド内から出土した甕54のみ図示しておく。

SB015（Fig. 31）

須恵器の坏蓋・身・壷・高坏，および土師器の坏蓋・坏・碗・甕・甑が出土した。須恵器坏蓋は天井部が平坦で，105は口縁部が短く立ち扁平なつまみをもつ。須恵器壷107は胴部が稜をなして張り，底胴間に高台が付く。須恵器高坏108は脚部が直線的に立ち上がり裾が短くはねる。土師器は，109が大形の坏蓋，坏110は底体間に高台が付く。111は丸底の碗，甕は口縁部が大きく外反して開く。115・116は甑の口縁部及び把手。

SB016（Fig. 32）

須恵器坏蓋・身および土師器の碗・甕が出土した。須恵器坏117は体部が浅くやや急に立ち，高台が底部内側に入る。土師器甕120は丸底ながら安定した底部で，外面にヘラケズリ施す。

SB017（Fig. 31）

須恵器坏および土師器の坏・甕が出土した。須恵器坏124は体部が急に立ち，土師器坏は125では体部が大きく直線的に外に開き，126は底体間にやや高く伸びる高台をもつ。土師器甕127は体部がよわく張り，口縁部が大きく外に開く。

SB019（Fig. 32）

須恵器坏及び土師器の坏・蓋・高坏・甕・甑が出土した。須恵器坏128は高台が底部のやや内側に入る。土師器は坏129は体部が内湾しながら立ち上がり，130は須恵器様で一応蓋としておく。土師器甕135は丸底気味ながら比較的した底部で，あまり締まりのない体部から口縁部が屈曲気味に開く。132は土師器の高坏脚部，136は甑か。

SB020（Fig. 32）

須恵器の坏蓋・坏身・甕，および土師器の坏・皿・甕が出土した。須恵器は坏蓋137が小さなつまみをもち口縁端部が稜で立つ。坏身138は体部が深く直線的に立ち上がる。土師器は，坏140は体部は直線的に伸び，大形坏141は体部がやや深く直線的に立ち上がり，底部のやや内側に低い高台が付く。皿143は体部が底部からよわく屈曲して直線的に開く。甕は体部の張りが少なく，口縁部が大きく外に開き，外面ハケメ，内面ヘラケズリ。

SB021（Fig. 33）

土師器の坏・甕・甑が出土した。坏148は体部がやや深く直線的に開いて立ち上がる。

SB047（Fig. 33）

須恵器坏，及び土師器の坏・盤・鉢が出土した。須恵器坏152は体部がやや急に直線的に立ち上がり，底体間ちかくに高台が付く。土師器は坏153が不安定な平底，盤154は体部が短く立ち上がり，内外面ナデ仕上げ。鉢155は丸底を思わせる体部から口縁部が緩く開く。

SB048（Fig. 34）

土師器の甕・甑が出土した。甕は156が口縁部を緩く大きく外反させ，小形の158は体部が直に立ち不安定な底部をもつ。甑160は底部が急にすぼまる。

SK027（Fig. 33）

土師器の坏・高坏が出土した。坏161は大形で体部が不明瞭に折れてやや内湾気味に立ち上がり，底部の内側に入って低い高台が付く。162は坏部に対して脚部が小さくやや不安定。

SD028・SD030・SD031・SD041（Fig. 34）

溝跡出土の須恵器・土師器には，須恵器坏166や甕169のように古墳時代に遡る遺物が混入する。163は体部が緩く折れて立ち上がり，高台が低く外に張る。新しい時期では高台が高く伸びて張る土師器坏170が混じる。

SE039（Fig. 35）

須恵器の坏蓋・壺，土師器の坏・皿・盤・甕が出土した。須恵器坏蓋173は口縁部が玉縁状をなして稜で立つ。土師器は，坏175は体部が深く直線的に立ち上がり，底体間の高台がやや外に張る。坏177～179は体部が内湾して深く，ヘラミガキを施し，高台が高く張る。坏180～183は体部がやや深く直線的に開く。皿は184が不安定な平底，185は体部が浅く大きく外に開き，186は脚台が外につよく張る。甕は外面にハケメを残し，体部の張り，口縁部の開きが多様である。

以上のこれら遺物の時期については，遺構別に見て幾分の混入はあるが，竪穴住居跡では，SB017・SB021のように8世紀後半に下るかと思われるものもあるが，他の多くは8世紀前半～中頃中心とすると考えられる。SK027土壙は8世紀前半，SE039井戸跡は9世紀前半。溝跡では古墳時代の須恵器が混入するなど遺物に幅があるが，9世紀を中心とすると思われる。

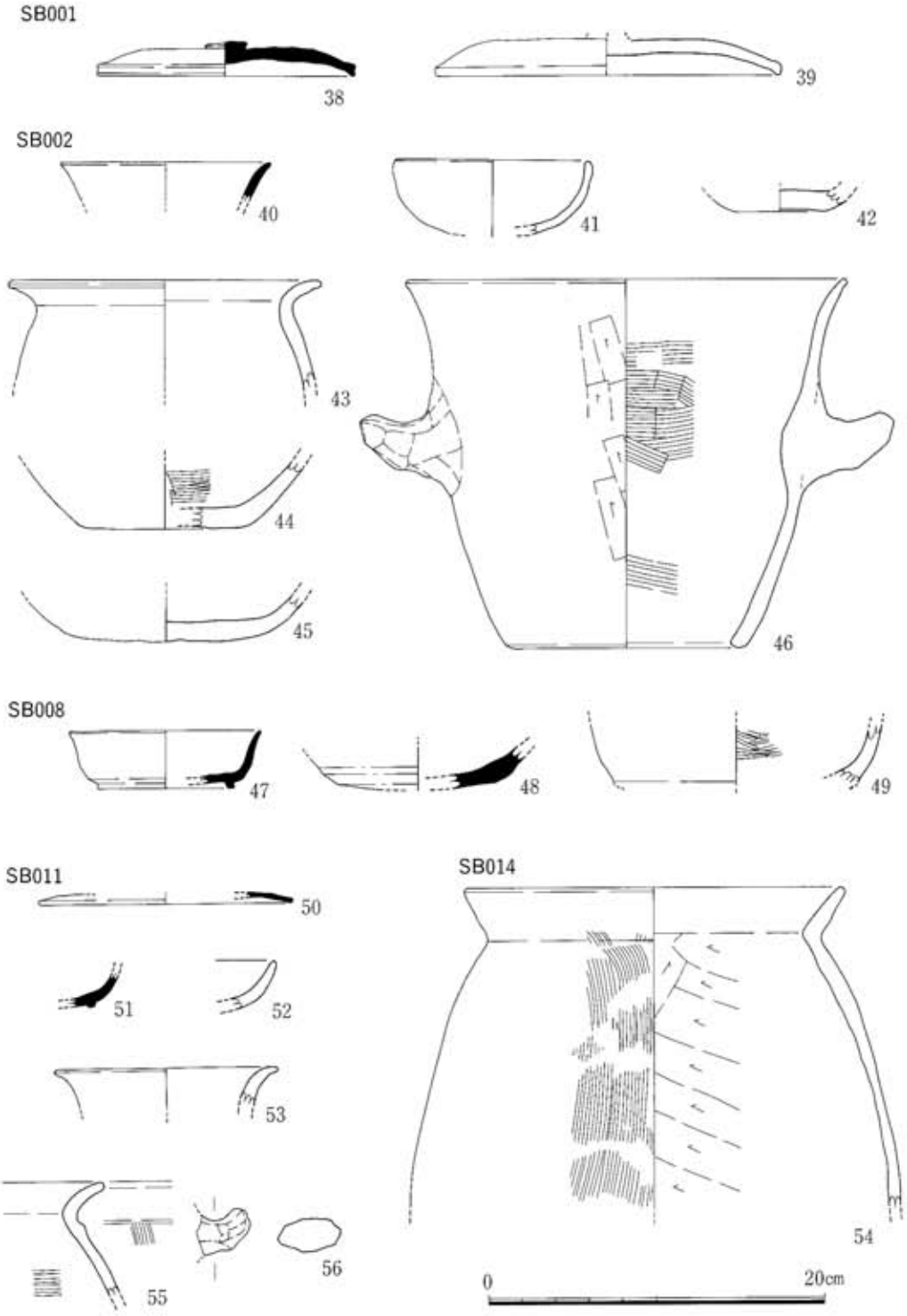


Fig. 28　須恵器・土師器〈1〉(1/2)

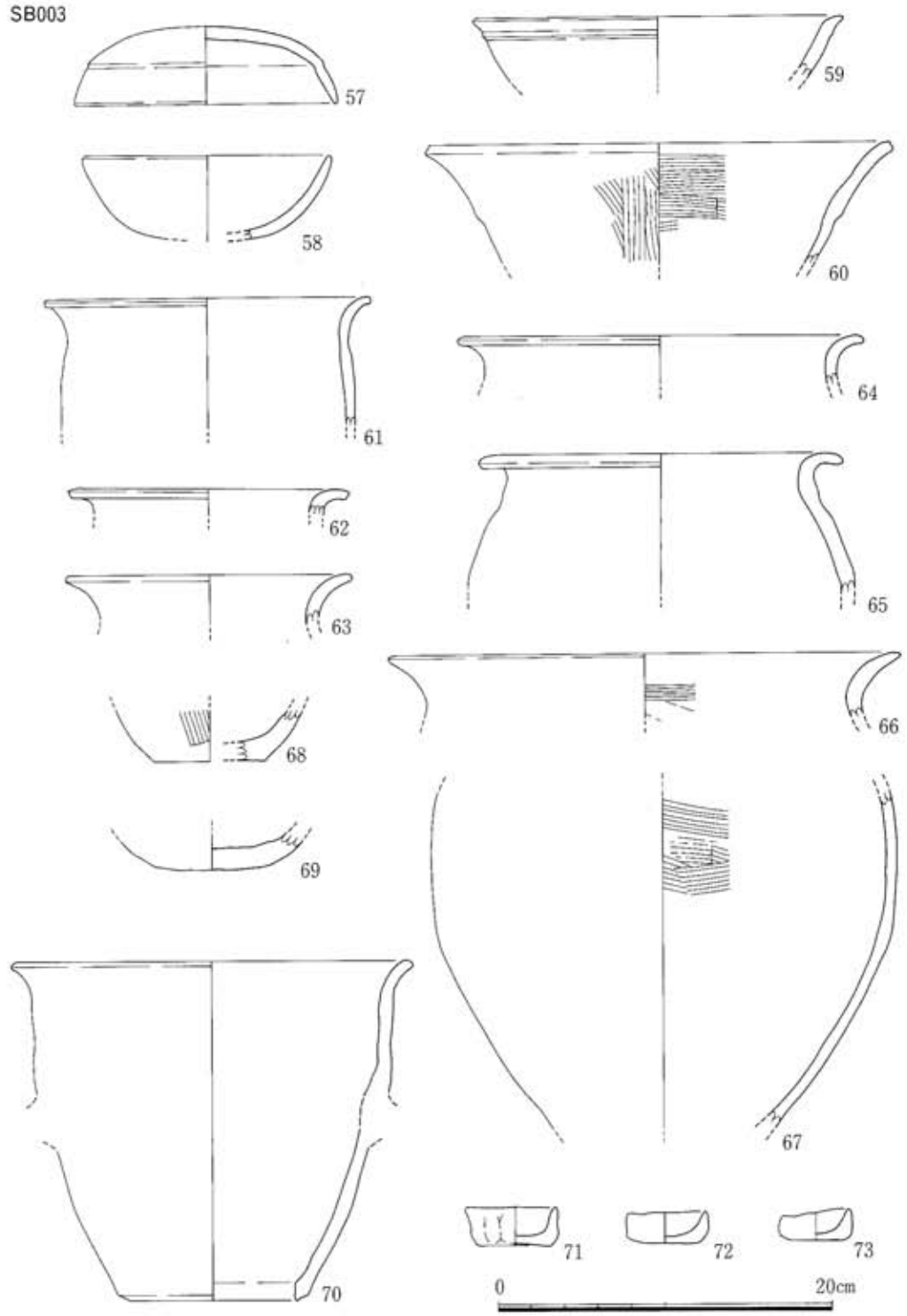


Fig. 29　須恵器・土師器〈2〉(1/2)

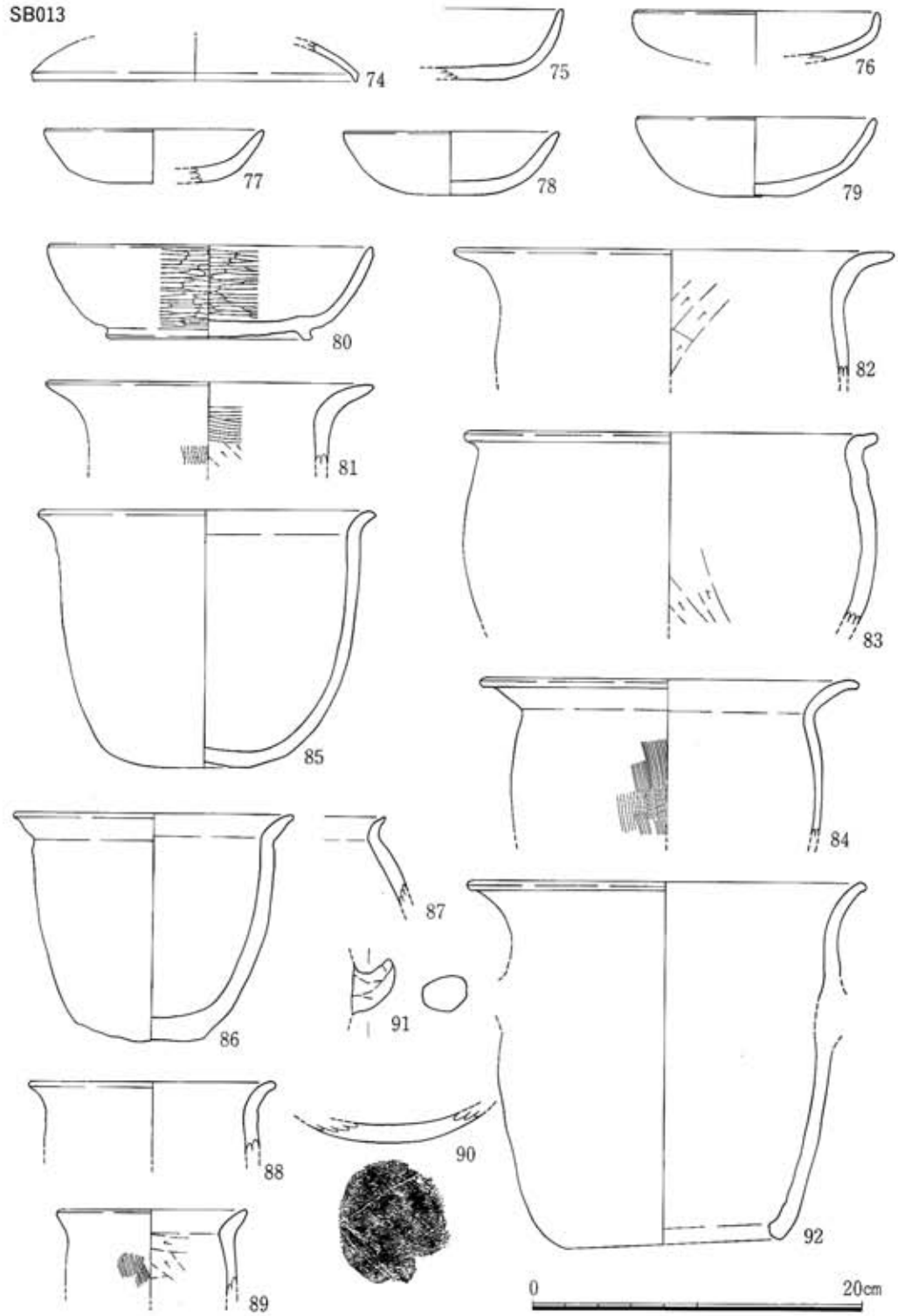


Fig. 30　須恵器・土師器〈3〉(1/2)

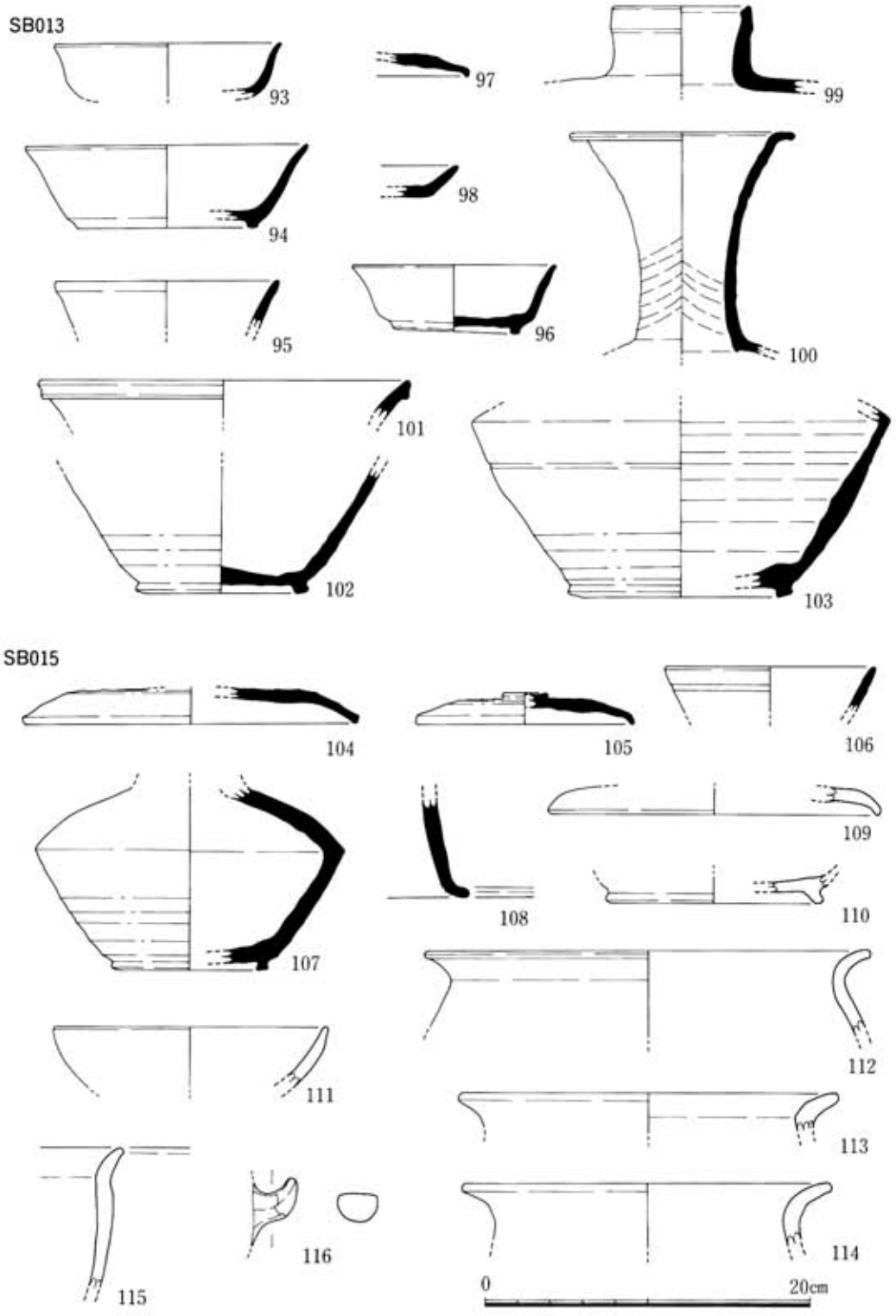


Fig. 31　須恵器・土師器〈4〉(1/2)

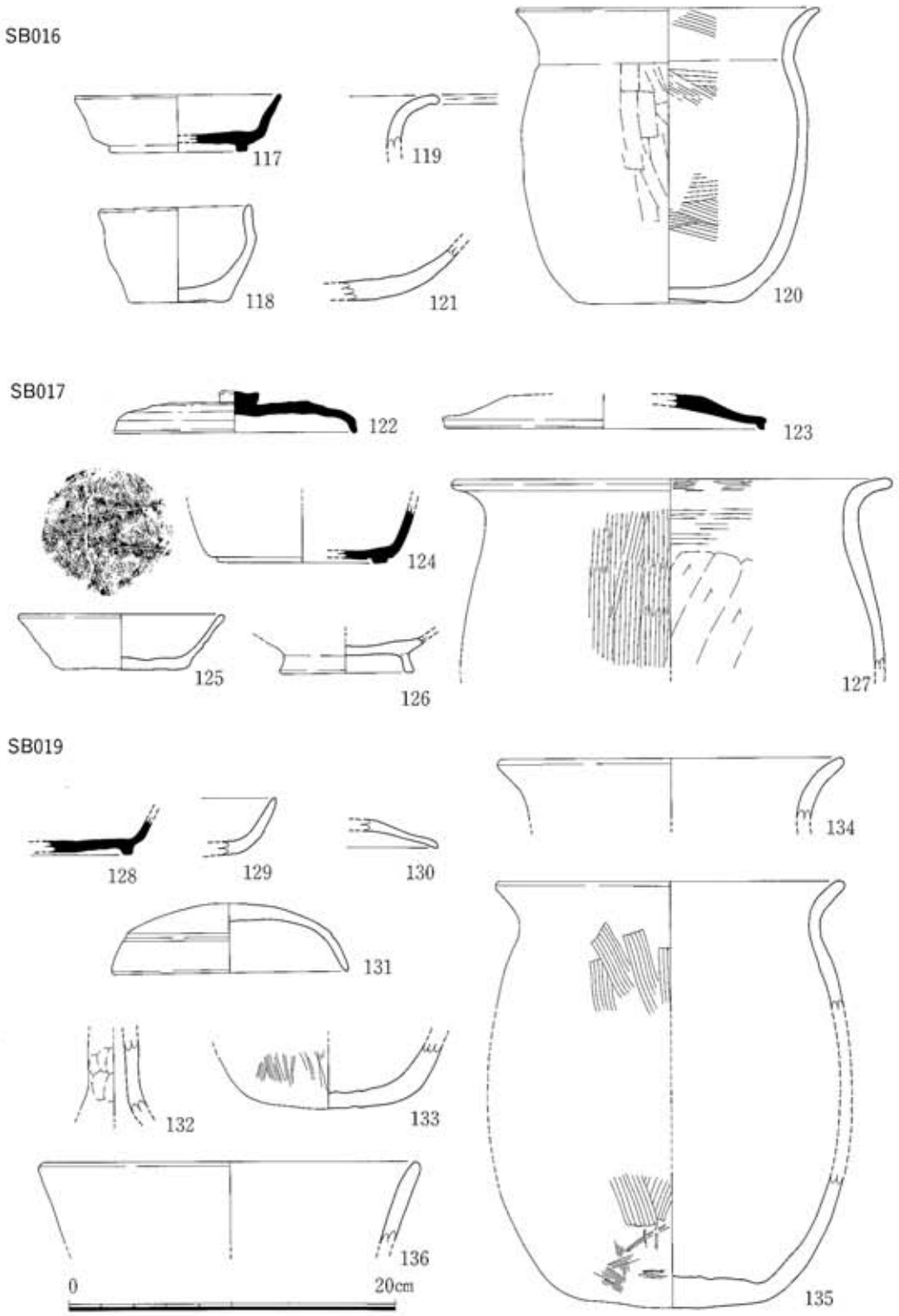


Fig. 32　須恵器・土師器〈5〉(1/2)

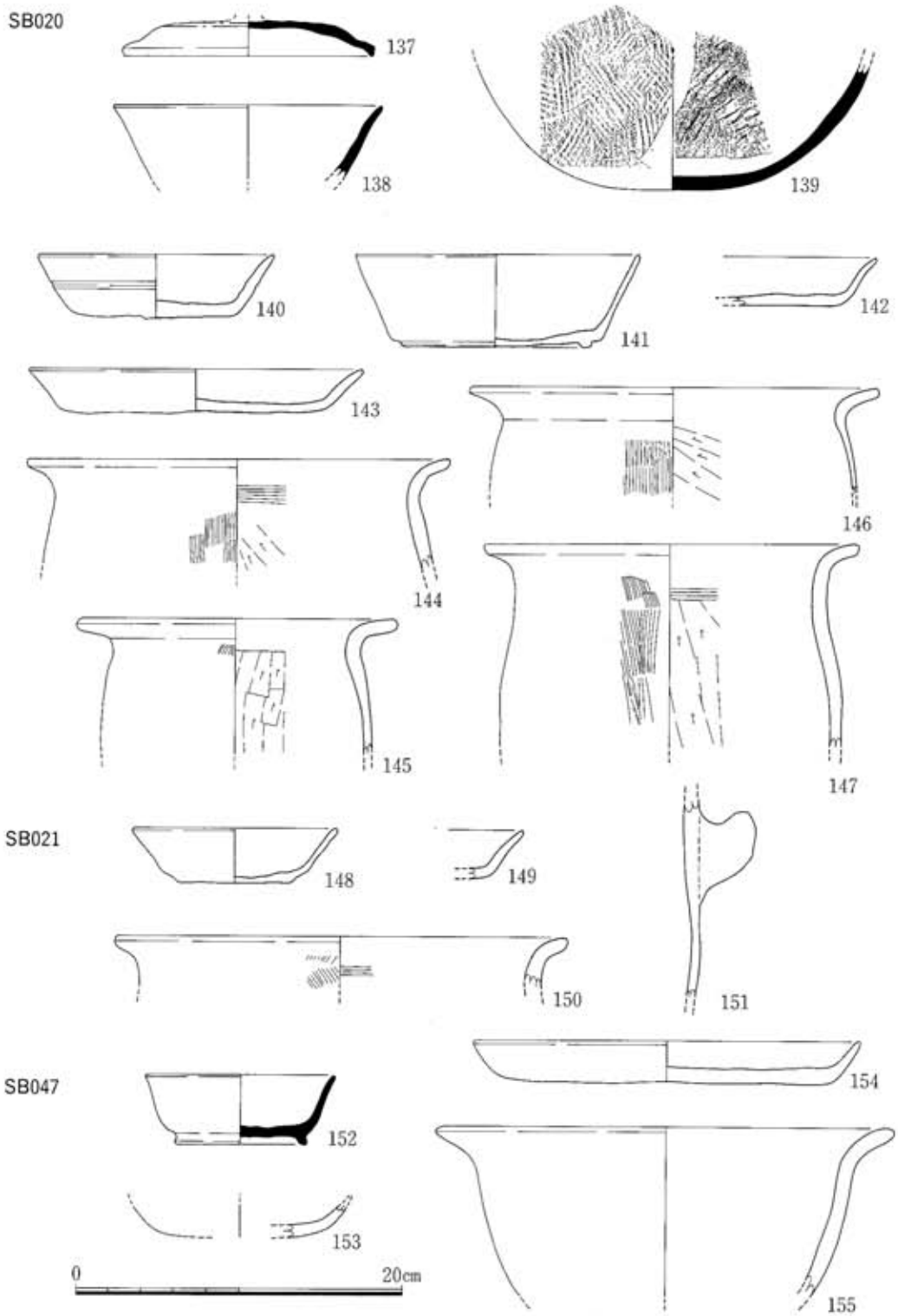


Fig. 33　須恵器・土師器〈6〉(1/2)

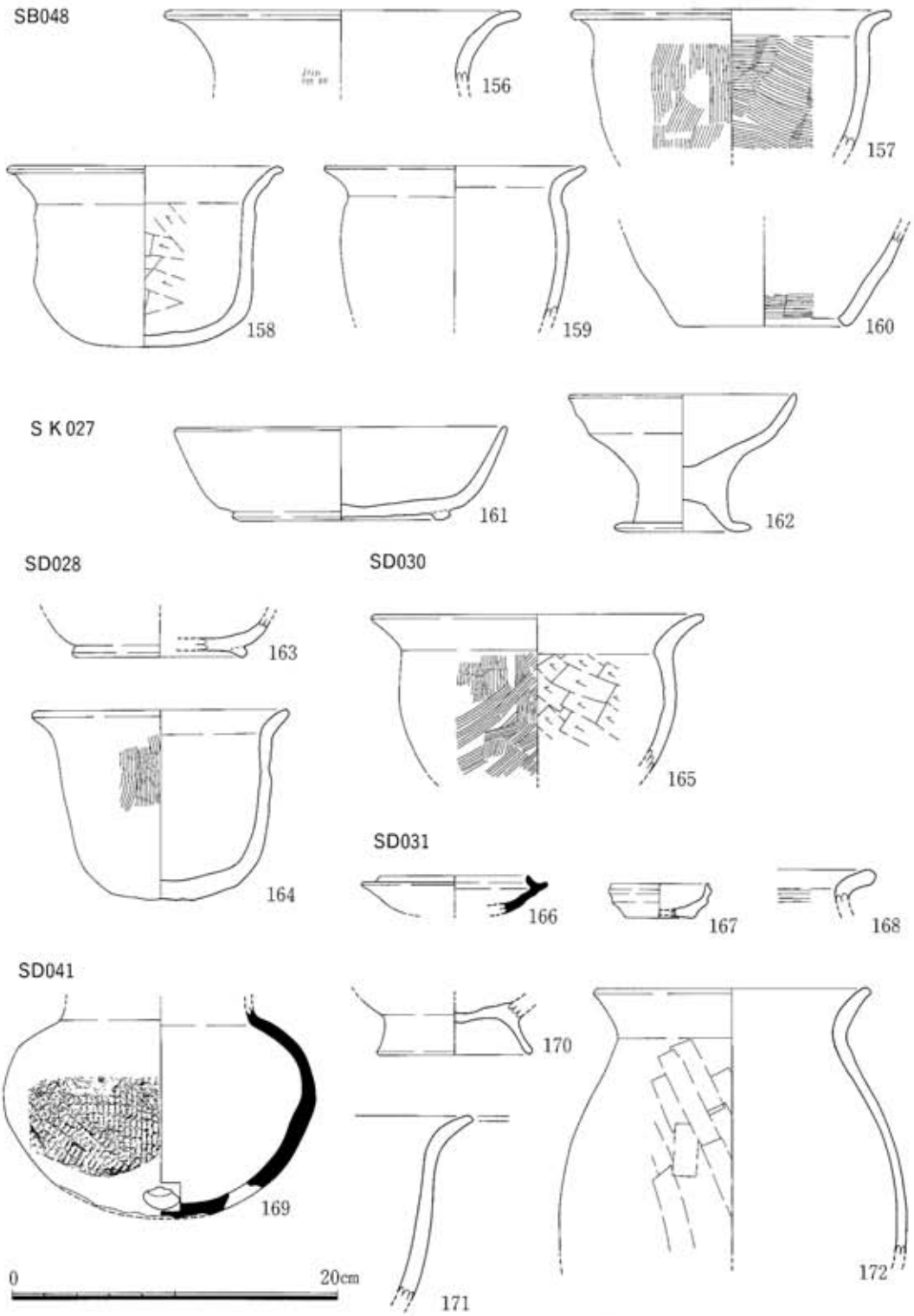


Fig. 34　須恵器・土師器〈7〉(1/2)

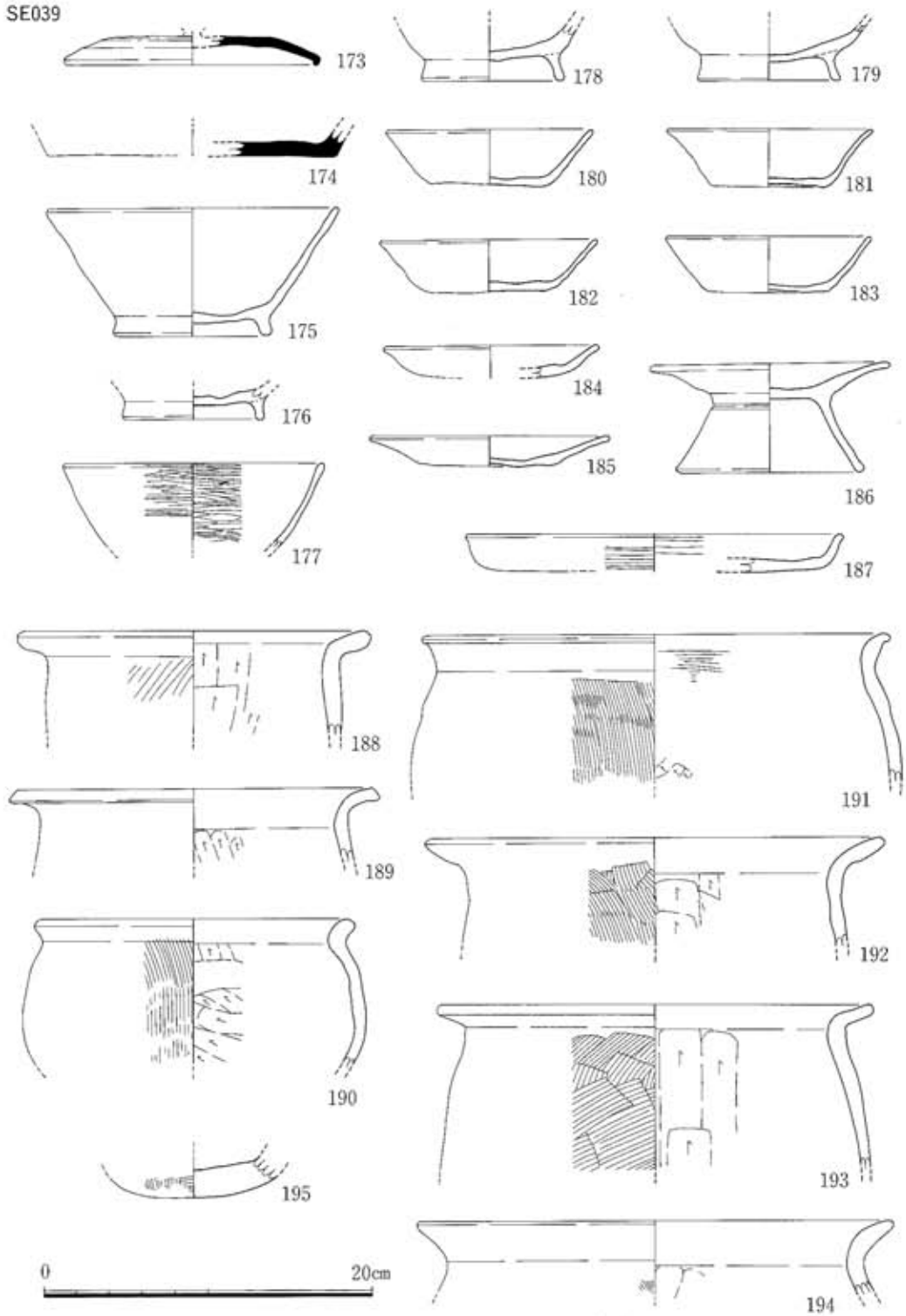


Fig. 35　須恵器・土師器〈8〉(1/2)

Tab. 2　須恵器・土師器観察表

図番号下段数字は遺物登録番号

図番号	出土地点	器種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
28-38 87006243	SB001 No.1	須恵器 坏	口径15.1 器高 2.1	天井高は低く，口唇部はナデて玉縁状をなす。低くつぶれた宝珠つまみをもつ。天井部ヘラケズリ。黄灰色。
39 87006244	SB001 No.2	須恵器 坏	口径20.2 器高 2.2	大形の蓋。天井部から体部がなだらかに下り，口縁部が小さな玉縁状をなす。つまみを欠失する。内外面ナデ。砂粒を含む。明るい橙褐色。
40 88001405	SB002	須恵器 坏蓋	口径12.6	体部は直線的に開いた後，口縁部がやや外反する。口縁部内外面ナデ。細砂粒を含む。灰褐色。
41 88001403	SB002 埋土中	土師器 碗	口径13.4 器高 4.4	体部は丸底から内湾しながら高く立ち上がる。外面ヘラケズリ，口縁部および内面ナデ。砂粒を含む。黒褐色。
42 88001404	SB002	土師器 碗	底径10.4	小形碗。底部は不安定な平底で厚い。底外面付近ヘラケズリ，底内面ナデ。細砂粒を含む。橙褐色。
43 88001401	SB002 カマド内	土師器 甕	口径18.6	体部はあまり形が張らず，口縁部は体部から緩く屈曲して外反しながら大きく開く。体部外面はヘラ状工具ナデ，他ナデ。砂粒を含む。褐色。
44 88001407	SB002	土師器 甕	底径 4.0	底部はやや不安定な平底。体部は外面ヘラケズリ，内面ハケメ。底部外面ナデ。底部付近に煤が付着する。砂粒を含む。褐色。
45 88001406	SB002	土師器 甕	残高 2.9	底部は不安定な平底。底部付近は外面ヘラケズリ，内面ヘラ状工具ナデ。砂粒を含む。外面暗褐色，内面褐色。
46 88001402	SB002 No.2	土師器 甑	口径25.7 器高21.9	底孔は広く開け，体部高は比較的低く，口縁部がわずかに外反。中位やや上に曲がりの少ない把手をもつ。体部外面ヘラケズリ，内面ハケメ。淡褐色。
47 88001423	SB008	須恵器 坏	口径11.2 器高 3.4	体部は急に立ち上がって口縁部がわずかに外反する。底部のやや内側に入って低い高台が付く。底体部とも内外面ナデ。外面茶灰色，内面茶褐色。
48 88001424	SB008	須恵器 坏	残高 2.5	底部は丸底気味で不安。外体部は底部付近ヘラケズリ，底外面および内面ナデ。灰色。
49 88001427	SB008 埋土中	土師器 坏	残高 3.6	不安定な平底をもつ大型坏。体部外面ナデ，内面は粗いヘラミガキ。砂粒を含む。外面褐色，内面暗褐色。
50 88001429	SB011	須恵器 坏蓋	口径15.2	器壁は薄く，天井部は低くつぶれる。口縁部付近ナデ。黄褐色。
51 88001434	SB011	須恵器 坏		体部は底部から不明瞭に折れて立ち上がり，低い高台が付く。内外面ナデ。灰色。
52 88001432	SB011	土師器 碗		体部は丸底からやや浅く立ち上がる。砂粒を含む。暗褐色。
53 88001430	SB011	土師器 甕	口径13.4	小形甕。口縁部外反。砂粒を含む。褐色。
54 88001483	SB014 カマド内	土師器 甕	口径22.1	体部は肩が張らず下膨み気味で，口縁部は「く」字形につよく屈曲。体部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。口縁部ナデ。体部外面に煤付着。明黄褐色。
55 88001433	SB011	土師器 甕		口縁部は「く」字にちかく屈曲して開く。体部は内外面ハケメ，口縁部はナデて外面の体部ちかくが突帯状に盛り上がる。外面黒褐色，内面褐色。
56 88001437	SB011	土師器 甑把手		粗いヘラケズリ調整。砂粒を含む。褐色。
57 88001421	SB003	土師器 蓋	口径15.8 器高 4.7	用途不明で大形。蓋としておく。天井部は丸みをもち，不明瞭な段をおいて口縁部が直線的に開く。天井部ヘラケズリ，他ナデ。砂粒を含む。褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
58 88001420	SB003	土師器 碗	口径14.7 器高 5.0	体部は不安定な底部と一体化して高く立ち上がる。外面はヘラ状工具ナデ，内面ナデ。細砂粒を含む。橙褐色。
59 88001411	SB003 埋土中	土師器 鉢	口径21.9	体部は内湾しながら立ち上がり，口縁部下にはナデによるかすかな突帯を巡らせる。口唇部は薄く外に反ねる。内外面ナデ。細砂粒を含む。橙褐色。
60 88001418	SB003	土師器 鉢	口径27.6	体部上位から口縁部は外反気味に大きく開く。内外面ハケメ。砂粒を含む。褐色。
61 88001410	SB003	土師器 甕	口径19.6	体部は張りがなく上位でやや締まり，口縁部が緩く外反する。内外面ナデ。砂粒を含む。褐色。
62 88001409	SB003 埋土中	土師器 甕	口径16.8	口縁部が反転するように大きく外反する。細砂粒を含む。褐色。
63 88001419	SB003	土師器 甕	口径16.8	口縁部が緩く外反し，体部の張りを思わせる。内外面ナデ。細砂粒を含む。褐色。
64 88001408	SB003 埋土中	土師器 甕	口径24.4	口縁部が大きく外反する。砂粒を含む。褐色。
65 88001415	SB003 カマド内	土師器 甕	口径11.8	口縁部が反転するように大きく外反し，体部は上位で丸く膨らむ。砂粒を含む。外面褐色，内面黒褐色。
66 88001446	SB003	土師器 甕	口径30.8	口縁部が緩く外反し，体部の張りを思わせる。内外面ナデ。砂粒を含む。褐色。
67 88001416	SB003 カマド内	土師器 甕	胴径27.9	体部は上位で張り，下位に向かって急にすぼまる。平底か。外面ヘラ状工具ナデ，内面ハケメ。砂粒を含む。淡褐色。
68 88001417	SB003	土師器 甕	底径 6.8	平底で，体部は内湾しながら立ち上がる。体部外面ハケメ，内面ナデ。外面暗褐色，内面明褐色。
69 88001414	SB003 埋土中	土師器 甕	残高 2.2	体部は不安定。底部外面ヘラケズリ，内面ナデ。細砂粒を含む。橙褐色。
70 87006240	SB003 カマド内	土師器 甑	口径23.2 器高20.2	底孔はヘラ切り，体部はわずかに内湾しながら立ち上がり口縁部やや外反。把手欠失。体部外面下半はヘラ状工具ナデ，他ナデ。砂粒を含む。橙褐色。
71 87006245	SB003 No.1	土師器 坏形	口径 5.3 器高 2.3	手捏土器。細砂粒を含む。褐色。
72 87006246	SB003 No.2	土師器 坏形	口径 4.6 器高 1.9	手捏土器。細砂粒を含む。褐色。
73 87006247	SB003 No.3	土師器 坏形	口径 3.9 器高 1.9	手捏土器。細砂粒を含む。褐色。
74 88001462	SB013	土師器 蓋	口径19.6	大形蓋。天井部から体部にかけて丸く，口縁部は短く稜をなして立つ。口縁部内外面ナデ。砂粒を含む。褐色。
75 88001463	SB013	土師器 坏	器高 4.3	体部は底部と明確な稜をなさず急に立ち上がる。外面は底部から体部下半ヘラケズリ，他ナデ。砂粒を含む。暗褐色。
76 88001458	SB013	土師器 坏	口径14.8 器高 3.2	底部は丸く不安定で，口縁部が短く立つ。内外面ナデ。砂粒を含む。褐色。
77 88001461	SB013	土師器 坏	口径13.2 器高 3.2	体部は底部と明確な稜をなさず直線的に開いて立ち上がる。外面は底部付近ヘラナデ，他ナデ。砂粒を多く含む。黒褐色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
78 88001459	SB013	土師器 坏	口径13.0 器高 3.8	底体部は一体化して丸味をもち，不安定な平底をつくる。内外面ナデ。砂粒を含む。黒褐色。
79 87006232	SB013 No.2	土師器 坏	口径14.3 器高 4.8	底体部は一体化して丸味をもち，不安定な平底をつくる。内外面ナデ。砂粒を含む。褐色。
80 87006250	SB013 No.1	土師器 坏	口径19.5 器高 5.7	大形坏。体部は内湾気味立ち上がり，底部のやや内側に入って外に開く高台が付く。底外面はヘラケズリ，他ヘラミガキ。砂粒を含む。橙褐色。
81 88001443	SB013	土師器 甕	口径20.0	体部は張りがなく，口縁部は厚く大きく外反する。体部は外面ハケメ，内面ヘラケズリで一部ハケメ。口縁部ナデ。砂粒を含む。褐色。
82 87006230	SB013	土師器 甕	口径26.2	体部は張りが少なく，口縁部は大きく外反する。体部内面ヘラケズリ，他ナデ。砂粒を含む。黄褐色。
83 87006234	SB013	土師器 甕	口径25.0	体部は上位で丸く張り，口縁部が短く屈曲する。体部外面は粗くナデ，内面ヘラケズリ。口縁部ナデ。砂粒を含む。褐色で黒斑あり。
84 87006229	SB013	土師器 甕	口径22.0	体部は張りが少なく，口縁部は屈曲して大きく開く。体部内面ヘラケズリ，他ナデ。砂粒を含む。褐色。
85 86004797	SB013 No.20	土師器 甕	口径20.0 器高15.6	不安定な平底で体部が張りをもたずに立ち上がり，口縁部がかすかに稜をなして短く外反。体部外面ヘラケズリ，内面ナデ。砂粒を多く含む。茶褐色。
86 87006256	SB013 No.18	土師器 甕	口径16.8 器高12.8	不安定な平底で体部が張りをもたずに立ち上がり，口縁部が屈曲して開く。底部外面ヘラケズリ，他ナデ。砂粒を含む。橙褐色。
87 87006233	SB013	土師器 甕		丸みをもつ体部から口縁部を薄くナデてが短く折れる。内外面ナデ。細砂粒を含む。褐色で黒斑あり。
88 87006231	SB013	土師器 甕	口径15.0	小形甕。口縁部が緩く外反する。内外面ナデ。砂粒を含む。黒褐色。
89 88001441	SB013	土師器 甕	口径11.6	小形甕。口縁部は内面に稜をなして緩く外反する。体部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。砂粒を含む。外面黒灰色，内面黄褐色。
90 87006238	SB013	土師器 甕		丸底で，内外面ナデ。外面にヘラ記号あり。砂粒を含む。褐色。
91 88001479	SB013	土師器 甑把手		ヘラケズリ調整。
92 87006241	SB013	土師器 甑	口径23.5 器高21.6	底孔はヘラ切り，体部はあまり開かず立ち上がり，口縁部が緩く外反する。把手欠失。内外面ナデ，砂粒を含む。橙褐色で黒斑あり。
93 88001468	SB013 No.15	須恵器 坏	口径14.0	体部は急に立ち上がって口縁部やや外反。体部内外面ナデ。外面黄褐色，内面灰色。
94 88001470	SB013	須恵器 坏	口径17.4 器高 5.0	大形坏。体部は直線的に開き，口縁部外反。底体屈曲部に低い高台が付く。体部ナデ。青灰色。
95 88001469	SB013	須恵器 坏	口径13.8	体部はかすかに外反味気味に立ち上がる。体部ナデ。青灰色。
96 87006249	SB013	須恵器 坏	口径12.4 器高 4.2	体部は急に立ち上がって口縁部やや外反。底部のやや内側に入って高台が立つ。体部内外面ナデ，底外面ヘラケズリ。灰褐色。
97 88001474	SB013	須恵器 坏蓋		天井部は低くつぶれ，口縁端部が稜をなして短く立つ。天井部ヘラケズリ，他ナデ。灰色。

図番号	出土地点	器種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
98 88001473	SB013	須恵器 皿	器高 1.9	体部は底部から稜をなして屈曲し，直線的に短く開く。内外面ナデ。灰色。
99 88001471	SB013 No.9	須恵器 壺	口径 8.4	胴部は肩がつよく張り，口頸部が短く直立。胴部は内面に同心円文残し，外面平行タタキ目，口縁部ナデ。外面黄灰色，内面暗灰色。
100 87006285	SB013 No.5	須恵器 壺	口径13.6	胴部は肩がつよく張り，口頸部が外反しながら長く伸びて口縁部が短く外に開く。口頸部ナデ。灰褐色で，頸部内面に自然釉がかかる。
101 88001435	SB013	須恵器 甕	口径22.5	口縁部は大きく開き，端部に突帯。口縁部内外面ナデ。アズキ色。
102 87006286	SB013 No.6	須恵器 壺	底径10.5	体部は直線的に立ち上がり，底体屈曲部で高台が外に張る。底外面から体部下位へラケズリ，他ナデ。灰褐色。
103 87006287	SB013 No.9	須恵器 壺	底径12.2 胴径25.8	体部はほぼ直線的に立ち上がり肩位でつよく屈曲し，底体屈曲部に高台がつく。底外面から体部下位へラケズリ，他ナデ。黒褐色。
104 88001498	SB015	須恵器 坏蓋	口径20.4	扁平な天井部から体部がやや急に下る。つまみを欠失する。天井部へラケズリ，他ナデ。黄灰色。
105 88001499	SB015	須恵器 坏蓋	口径13.3 器高 1.9	天井部は低くつぶれて体部はなだらかに下り，口縁部が短く折れて立つ。扁平なつまみが付く。天井部へラケズリ，他ナデ。灰褐色。
106 88001502	SB015	須恵器 坏	口径12.8	体部は直線的に開いて立ち上がる。体部内外面ナデ。灰褐色。
107 88001497	SB015	須恵器 壺	底径 9.5 胴径18.8	体部は肩がなだらかに下ってからつよく屈曲し，底体屈曲部に高台が立つ。底外面から体部下位へラケズリ，他ナデ。灰褐色。
108 88001501	SB015	須恵器 高坏	残径 6.1	脚裾部が短く折れて開く。内外面ナデ。灰褐色。
109 88001489	SB015	土師器 坏蓋	口径20.0	大形蓋。天井部は低くつぶれ，体部は短く急に下る。天井部へラケズリ，他ナデ。細砂粒を含む。橙褐色。
110 88001487	SB015	土師器 坏	底径13.5	底体屈曲部で高台がつよく外に張る。底外面から体部下位へラケズリ，他ナデ。細砂粒を含む。橙褐色。
111 88001488	SB015	土師器 碗	口径16.6	体部は丸く深く立ち上がる。体部内外面ナデ。砂粒を含む。橙褐色。
112 88001493	SB015	土師器 甕	口径27.2	体部は上位で丸味を持ち，口縁部屈曲せずに大きく外反する。口縁部付近内外面ナデ。砂粒を含む。褐色。
113 88001491	SB015	土師器 甕	口径22.8	口縁部は内面に稜をなして外反。口縁部内外面ナデ。砂粒を含む。外面橙褐色，内面褐色。
114 88001494	SB015	土師器 甕	口径22.4	体部は上位で丸味を持ち，口縁部屈曲せずに大きく外反する。口縁部付近内外面ナデ。砂粒を含む。褐色。
115 88001496	SB015	土師器 甑	残径 4.6	やや内湾気味に立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。体部外面へラケズリ，他ナデ。砂粒を含む。橙褐色。
116 88001490	SB015	土師器 甑把手		へラケズリ調整。細砂粒を含む。淡褐色。
117 87006257	SB016 埋土中	須恵器 坏	口径12.5 器高 3.5	体部は明瞭に屈曲して直線的に開き，底部の内側に入って高台が立つ。内外面ナデ仕上げ。灰褐色。

図番号	出土地点	器種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
118 87006251	SB016 No.1	土師器 皿	口径 9.1 器高 5.9	体部は中位で屈曲して口縁部が直立気味に立ち上がる。内外面ナデ仕上げ。器形やや歪む。砂粒を含む。明褐色。
119 88001506	SB016	土師器 甕		口縁部は大きく外反して開く。口縁部ナデ。細砂粒を含む。褐色。
120 87006242	SB016 カマド内	土師器 甕	口径18.3 器高18.1	底部は広く，体部は急に立ち上がって上位でやや締まり口縁部が緩く外反。体部外面ヘラケズリ，内面ハケメ後ナデ。底外面ナデ。砂粒を含む。褐色。
121 88001507	SB016	土師器 甕		不安定な平底。底外面ヘラケズリ，内面ナデ。砂粒を含む。橙褐色。
122 87006252	SB017	須恵器 坏蓋	口径14.8 器高 2.5	体部は低くつぶれ，口縁部が短く折れて立つ。天井部から体部にかけて外面ヘラケズリ，内面ナデ。灰褐色。
123 88001509	SB017 No.1	須恵器 坏蓋	口径19.3	体部は低く開き，口縁部が玉縁状に短く立つ。つまみを欠失する。体部内外面ナデ。淡灰色。
124 88001512	SB017	須恵器 坏	底径10.4	体部は明瞭に屈曲して直線的に立ち上がり，底部のやや内側に入って高台が立つ。底外面ヘラケズリ，他ナデ。灰褐色。
125 87006274	SB017 No.1	土師器 坏	口径12.4 器高 3.4	体部は明瞭に屈曲して直線的に開く。内外面ナデ仕上げ。立ち上がり，細砂粒を含む。橙褐色。
126 88001510	SB017	土師器 坏	底径 8.0	底体屈曲部で高台がやや高く開き気味に立つ。底外面に板目痕を残し内外面ナデ。砂粒を少し含む。内黒で，外面橙褐色。
127 88001511	SB017 No.3	土師器 甕	口径26.5	体部は上位でやや締まり，口縁部が大きく外反して開く。体部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。口縁部内面ハケメ後ナデ。砂粒を多く含む。黄褐色。
128 88001518	SB019	須恵器 坏		底体屈曲部で低い高台が付き，体部が直線的に立ち上がる。底外面ヘラ切り離し，内外面ナデ。灰色。
129 88001517	SB019 埋土中	土師器 坏	器高 3.4	体部は底部からやや不明瞭に屈曲して立ち上がる。体部内外面ナデ。砂粒を含む。褐色。
130 88001526	SB019 埋土中	土師器 坏蓋		体部は低く開く。体部内外面ナデ。砂粒を多く含む。褐色。
131 87006253	SB019 埋土中	土師器 坏蓋	口径14.4 器高 4.3	天井部は丸く，わずかに段をなして体部が内湾気味に立つ。天井部外面ヘラケズリか，他ナデ。砂粒を含む。橙褐色。
132 88001524	SB019	土師器 高坏	残高 4.6	脚部は筒状に伸び，裾がラッパ状に開く。筒部は外面指押さえ，内面ナデ。砂粒を含む。茶褐色。
133 88001515	SB019	土師器 甕	残高 3.5	不安定な平底。底部は内外面ヘラナデ，体部外面ハケメ。砂粒を含む。黄橙色。
134 88001522	SB019 埋土中	土師器 甕	口径20.8	口縁部は体部から緩く外反して開く。内外面ナデ。砂粒を含む。褐色。
135 88001514	SB019 カマド内	土師器 甕	口径21.4 器高26.0	不安定な平底で，体部は中位でやや張り口縁部が屈曲気味に開く。体部は外面粗いハケメ，内面ナデ，底部付近は外面ヘラナデ。砂粒を含む。黒褐色。
136 88001521	SB019 カマド内	土師器 甑か	口径12.8	口縁部は体部から直線的に開く。内外面ナデ。砂粒を含む。褐色。
137 88001429	SB020 埋土中	須恵器 坏蓋	口径15.2 残高 2.2	体部はなだらかに開き，口縁部に稜をもつ。つまみを欠失する。天井部ヘラケズリ，他ナデ。灰色。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
138 88001542	SB020 堆土中	須恵器 坏	口径16.4	体部は深く立ち上がり，口縁部でかすかに外反する。体部内外面ナデ。灰褐色。
139 88001527	SB020 N0.6	須恵器 甕		体部は不安定ながらわずかに平坦面をつくり，体部下半が丸く張る。内面に平行文当て板痕を残して外面は平行文タタキ目。外面暗灰色，内面背灰色。
140 87006254	SB020 N0.6	土師器 坏	口径14.4 器高 3.9	体部は底部から急に屈曲して直線的に立ち上がる。底外面ヘラ切り離し後ナデ，他ナデ。細砂粒を含む。橙褐色。
141 86004381	SB020 N0.6	土師器 坏	口径17.2 器高 5.6	体部は底部から急に屈曲して直線的に深く，底部のやや内側に入って低い高台が付く。底外面ヘラ切り離し後ナデ，他ナデ。細砂粒を含む。褐色。
142 88001533	SB020 堆土中	土師器 皿	器高 2.9	体部は底部から急に屈曲して立ち上がり，口縁部でやや外反する。底外面ヘラケ切り離し，他ナデ。砂粒を含む。外面黒褐色，内面褐色。
143 88004383	SB020 N0.5	土師器 皿	口径20.3 器高 2.8	体部は底部から屈曲して直線的に開いて立ち上がる。底外面ヘラ切り離し，他ナデ。砂粒を含む。茶褐色。
144 88001528	SB020	土師器 甕	口径24.4	体部は上位でやや締まり，口縁部が緩く外反する。体部は内面ヘラケズリ，内面の一部にハケ目を残して他ナデ。細砂粒を含む。橙褐色。
145 88001535	SB020	土師器 甕	口径19.2	口縁部はやや急に大きく外反。体部は内面ヘラケズリ，外面は一部にハケ目を残してナデ。砂粒を含む。暗褐色。
146 88001530	SB020 堆土中	土師器 甕	口径25.0	口縁部は急に大きく外反する。体部は内面ヘラケズリ，外面ハケ目。砂粒を含む。黄褐色。
147 88001536	SB020 N0.4	土師器 甕	口径23.2	体部は上位でやや締まり，口縁部が緩く外反する。体部は内面ヘラケズリ，内面の一部にハケ目を残して他ナデ。砂粒を含む。褐色。
148 87006275	SB021	土師器 坏	口径12.3 器高 3.4	体部は底部から屈曲してやや内湾気味に立ち上がる。底外面はヘラ切り離し後ヘラケズリ，他ナデ。細砂粒を含む。橙褐色。
149 88001543	SB021 堆土中	土師器 坏	器高 2.9	体部は底部から屈曲してやや外反湾気味に立ち上がる。内部内外面ナデ。細砂粒を含む。明褐色。
150 88001544	SB021 堆土中	土師器 甕	口径23.5	口縁部は短く外反。内外面とも口縁部付近にハケ目を残す。細砂粒を含む。橙褐色。
151 87006239	SB021	土師器 瓶		把手は短く上向。体部外面下半ヘラケズリ，他ナデ。砂粒を含む。褐色。
152 87006248	SB047 N0.1	須恵器 坏	口径11.3 器高 4.2	体部は底部から屈曲して急に直線的に立ち上がり，底体屈曲部に高台が付いてやや外に張る。底外面ヘラケズリ，他ナデ。灰褐色。
153 88001598	SB047 カマド付近	土師器 坏		体部は不安定な底部から不明瞭に屈曲して立ち上がる。器面が荒れており調整不明。砂粒を多く含む。明赤褐色。
154 87006255	SB047 N0.2	土師器 盤	口径23.6 器高 2.6	体部は底部から屈曲して短く立ち上がる。内外面ナデ。細砂粒を含む。橙褐色。
155 88001597	SB047 カマド付近	土師器 鉢	口径27.2	体部は丸みをもって立ち上がり，口縁部が緩く外反して開く。体部は外面ヘラケズリで一部にハケ目を残し，内面ナデ。砂粒を多く含む。茶褐色。
156 88001600	SB048	土師器 甕	口径21.8	口縁部は朝顔形に大きく外反する。体部外面にハケ目を残し，口縁部内外面ナデ。砂粒を多く含む。黄褐色。
157 88001599	SB048	土師器 甕	口径19.9	体部は底部で急にすぼまり，口縁部が緩く大きく外反する。体部内外面ハケ目，口縁部ナデ。砂粒を含む。茶褐色で黒斑あり。

図番号	出土地点	器 種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
158 87006284	SB048	土師器 甕	口径16.3 器高11.1	底部は不安定な平底で体部は箱形に直に立ち，口縁部が緩く外反する。体部内面ヘラケズリ，他ナデ。砂粒を含む。橙褐色。
159 87006283	SB048	土師器 甕	口径16.0	体部は上位でかすかに張り，口縁部が緩く外反する。体部，口縁部とも内外面ナデ。砂粒を含む。褐色。
160 88001426	SB048 埋土中	土師器 甑	底径10.0	底孔はヘラ切り，体部は下位で急にすぼまる。体部内面ハケ目，外面ナデ。砂粒を含む。明褐色。
161 87006273	SK027 N0.7	土師器 坏	口径20.1 器高 5.7	大形坏。体部は底部から不明瞭に屈曲して直線的に立ち上がり，体部やや内側に低い高台付き。底外面ヘラケズリ，他ナデ。砂粒を含む。明褐色。
162 87006259	SK027 N0.2	土師器 高坏	口径13.9 器高 8.4	坏部は体部が内湾しながら立ち上がり，低い筒状脚部から裾が短く開く。内外面ナデ。砂粒を含む。橙褐色で黒斑あり。
163 88001548	SD028 埋土中	土師器 坏	底径10.4	体部は底部から不明瞭に屈曲して立ち上がり，体部やや内側で低い高台が外につよく張る。底外面ヘラケズリ，他ナデ。砂粒を含む。茶褐色。
164 87006258	SD028 埋土中	土師器 甕	口径15.4 器高11.6	底部はほぼ丸底で体部が直に立ち，口縁部が緩く外反する。底外面ヘラケズリ，体部は外面ハケ目後ナデ，内面ナデ。砂粒を含む。橙褐色。
165 88001549	SD030	土師器 甕	口径20.4	体部は浅く下位で急にすぼまり，口縁部は内面に稜をなし屈曲して外反。体部は外面ハケ目，内面ヘラケズリ。砂粒を含む。茶褐色。
166 88001555	SD031	須恵器 坏	口径 9.0	体部は浅く，たちあがりがつよく内傾する。体部，口縁部内外面ナデ。灰褐色。
167 88001554	SD031	土師器 坏	底径 4.2	全体に不整形で，底部は糸切り離し。明褐色。
168 88001553	SD031	土師器 甕		口縁部は体部からやや急に屈曲して外反。体部内面の口縁部ちかくにハケ目残る。細砂粒を含む。黄褐色。
169 87006288	SD041	須恵器 瓶	胴径19.2	胴部は上位でつよく横に張って膨らみ，頸部直行。底部ちかくで焼成後に内側からの穿孔あり。外面タタキ目，内面ナデ。砂粒を含む。灰褐色。
170 88001592	SD041	土師器 坏	底径 9.3	底体屈曲部に高く外に開く高台が付く。底外面に板目痕を残し，他ナデ。細砂粒を含む。黄橙色。
171 88001596	SD041	土師器 甑		口縁部は体部から緩く外反する。体部外面ヘラ状工具ナデ，他ナデ。砂粒を含む。茶褐色。
172 88001594	SD041	土師器 甕	口径16.4	体部は上位でつよく締まり，口縁部は不明瞭に屈曲。体部は内外面ともヘラ状工具ナデ。砂粒を含む。茶褐色。
173 88001581	SE039	須恵器 坏蓋	口径15.3	平坦な天井部から体部がなだらかに下り，口縁部が短く折れて立つ。つまみ欠失。天井部ヘラケズリ，他ナデ。褐色。
174 88001582	SE039	須恵器 壺	底径17.6	底部は広く，体部が明瞭に屈曲して立ち上がる。底外面は磨滅のための調整不明，他ナデ。灰色。
175 87006264	SE039 埋土中	土師器 坏	口径17.5 器高 7.7	体部は直線的に深く立ち上がり，底体屈曲部で高台がやや外に張って立つ。底外面ヘラケズリ，他ナデ。細砂粒を含む。明褐色で黒斑あり。
176 88001588	SE039 埋土中	土師器 坏	底径 8.5	底体屈曲部で高台が直に立つ。底外面ヘラケズリ，他ナデ。砂粒を含む。茶橙色。
177 88001561	SE039	土師器 坏	口径15.7	体部は深く内湾気味に立ち上がる。高台付きか。体部内外面ヘラミガキ。砂粒を殆ど含まず。明茶褐色で内黒。

図番号	出土地点	器種	法量cm	形態・調整の特徴，その他
178 88001587	SE039	土師器 坏	底径 8.5	体部は底部から不明瞭に屈曲して立ち上がり，底体屈曲部で高い高台がやや外に張る。底外面ヘラケズリ，他ナデ。砂粒を含む。茶橙色。
179 88001586	SE039 埋土中	土師器 坏	底径 8.3	体部は底部から不明瞭に屈曲して立ち上がり，底体屈曲部で高い高台がやや外に張る。底外面ヘラケズリ，他ナデ。砂粒を含む。黄褐色で内黒。
180 87006260	SE039 埋土中	土師器 坏	口径12.6 器高 3.5	体部は底部から直線的に高く立ち上がる。底外面ヘラケズリ，他ナデ。細砂粒を含む。明橙色。
181 87006261	SE039	土師器 坏	口径12.5 器高 3.5	体部は底部から外反気味に高く立ち上がる。底外面ヘラケズリ，他ナデ。細砂粒を含む。橙褐色。
182 87006263	SE039 埋土中	土師器 坏	口径13.3 器高 3.2	体部は底部から直線的に立ち上がる。底外面ヘラケズリ，他ナデ。砂粒を含む。灰褐色。
183 87006262	SE039 埋土中	土師器 坏	口径12.4 器高 3.4	体部は底部から直線的に立ち上がる。底外面ヘラケズリ，他ナデ。砂粒を含む。橙褐色。
184 88001585	SE039	土師器 皿	口径12.7	底部は不安定な平底で，体部が明瞭な屈曲をなさずに開いて立ち上がる。体部内外面ナデ。砂粒を含む。明茶褐色。
185 87006265	SE039 埋土下層	土師器 皿	口径14.2 器高 1.9	体部は浅く直線的に大きく開く。内外面ナデ。細砂粒を含む。明褐色。
186 86004277	SE039 埋土下層	土師器 高台皿	口径14.7 器高 6.7	体部は外反しながら浅く大きく開き，脚状の高台が外につよく張って立つ。全面ナデ上げ。細砂粒を含む。淡茶褐色。
187 88001580	SE039	土師器 盤	口径22.6	やや不安定な平底から体部が短く急に立ち上がる。全面ナデ仕上げ。細砂粒を含む。明茶褐色。
188 88001570	SE039 埋土中	土師器 甕	口径20.7	体部は殆ど張りがなく，口縁部が不明瞭に屈曲して開く。体部外面ハケ目，内面ヘラケズリ。細砂粒を含む。褐色。
189 88001584	SE039 埋土中	土師器 甕	口径21.4	口縁部は体部から緩く外反して開く。体部内面ヘラケズリ。砂粒を含む。明茶褐色。
190 88001577	SE039	土師器 甕	口径18.5	体部は横につよく張り，口縁部が短く屈曲する。体部は外面ハケ目，内面ヘラケズリ。砂粒を多く含む。外面明褐色，内面茶褐色。
191 88001566	SE039	土師器 甕	口径27.7	体部は上位でややつよく張り，口縁部が短く緩く外反する。体部は外面ハケ目，内面ヘラケズリ。口縁部一部にハケ目残る。砂粒を多く含む。茶褐色。
192 88001571	SE039 埋土中	土師器 甕	口径27.2	口縁部は体部から緩く外反して大きく開く。体部は外面ハケ目，内面ヘラケズリ。砂粒を多く含む。褐色。
193 88001567	SE039 埋土中	土師器 甕	口径26.2	口縁部は体部から屈曲して開く。体部は外面ハケ目，内面ヘラケズリ。砂粒を多く含む。黒褐色。
194 88001583	SE039 埋土中	土師器 甕	口径28.5	口縁部は体部から不明瞭に折れて外反。体部外面ハケ目，内面ヘラケズリ。口縁部ナデ。砂粒を含む。茶褐色。
195 88001572	SE039 埋土中	土師器 甕		丸底にちかい厚手の底部。底部付近は外面ハケ目，内面ナデ。砂粒を含む。茶褐色。煤が付着する。

(2) 瓦 (Fig. 36)

平瓦と丸瓦が数点出土した。本遺跡の西方には大願寺廃寺，東方には肥前国府があり，いずれからか持ち込まれたものであろう。

196平瓦は両側縁をヘラで切り，さらに上方両角をわずかにヘラで切り落としている。表面にはわずかに布目を残してナデ，裏面は縄目をほぼ完全にナデ消している。焼成は須恵器質で硬く，灰褐色を呈す。幅20.6cm。SB013埋土中から出土した。197平瓦は両側縁をヘラで切り，表面にかすかには布目痕を残すが，両面ともほぼ完全にナデ消して仕上げられている。焼成不良で軟質，黄褐色を呈す。幅22.7cm。SB015埋土中から出土した。198平瓦は両側縁をヘラで切り，表面はかすかには布目痕を残しながらナデ，裏面には格子タタキ目をそのまま残す。焼成は普通で土師器質。黄褐色を呈す。SB015埋土中から出土した。

199丸瓦は1点のみ遺構検出面から出土した。裏面に格子タタキ目が一部残るが，焼成が軟質で調整は不明瞭である。淡褐色を呈す。

(図番号－登録番号)　196-87006291 197-88001613 198-88001614 199-87006293

(3) 土　　錘 (Fig. 37)

管状の土錘で，周りをナデて両端を細く仕上げている。長さは4.5～7.5cmと不揃いで，太さは1.8cm前後である。細砂粒を多く含み，色調は明褐色から暗褐色まで様々である。200～205はSB021からまとまって出土，206はSB021から出土した。

(図番号－登録番号)

200-88001619 201-88001620 202-88001621 203-88001622 204-88001623 205-88001624
206-88006276 207-88001618 208-88001625

(4) ふいご羽口

羽口は2点が出土した。

209は筒状で，外面はヘラで縦方向ナデ，内面は心棒を抜き取ってつくる。先端部は熱を受けて暗灰色に焼け，器面にスが見られるとともに，一部に自然釉がかかっている。砂粒をあまり含まず，黄褐色を呈す。残存部の最大外径6.5cm，通気孔径2.4cm。遺構検出面出土。210は羽口の細片で，SB002住居跡のカマド内から出土した。器厚1.7～2.0cm。火熱を受けて黒く焼けている。　(図番号－登録番号)　209-87006289 210-88001617

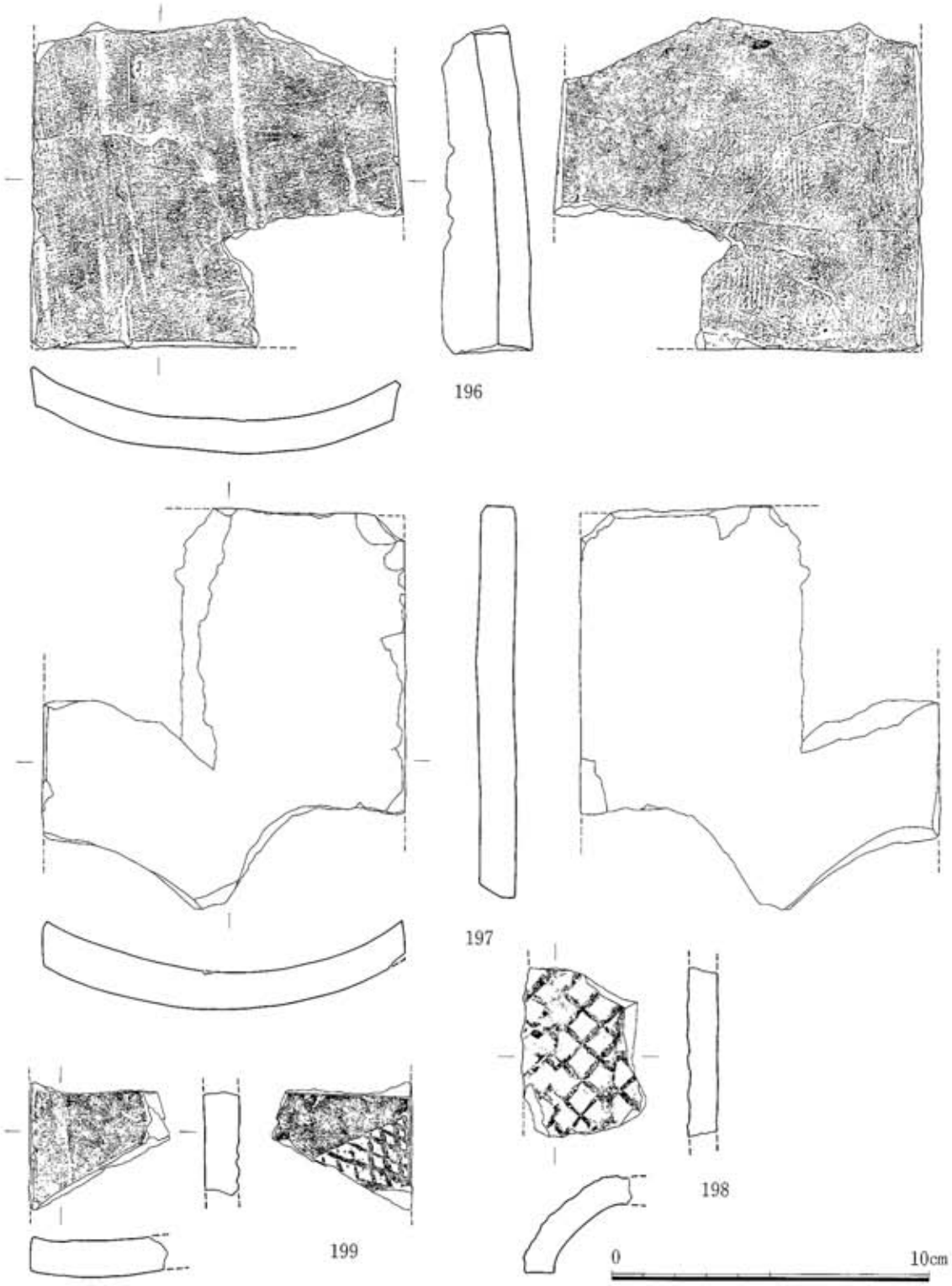


Fig. 36　瓦（1/2）

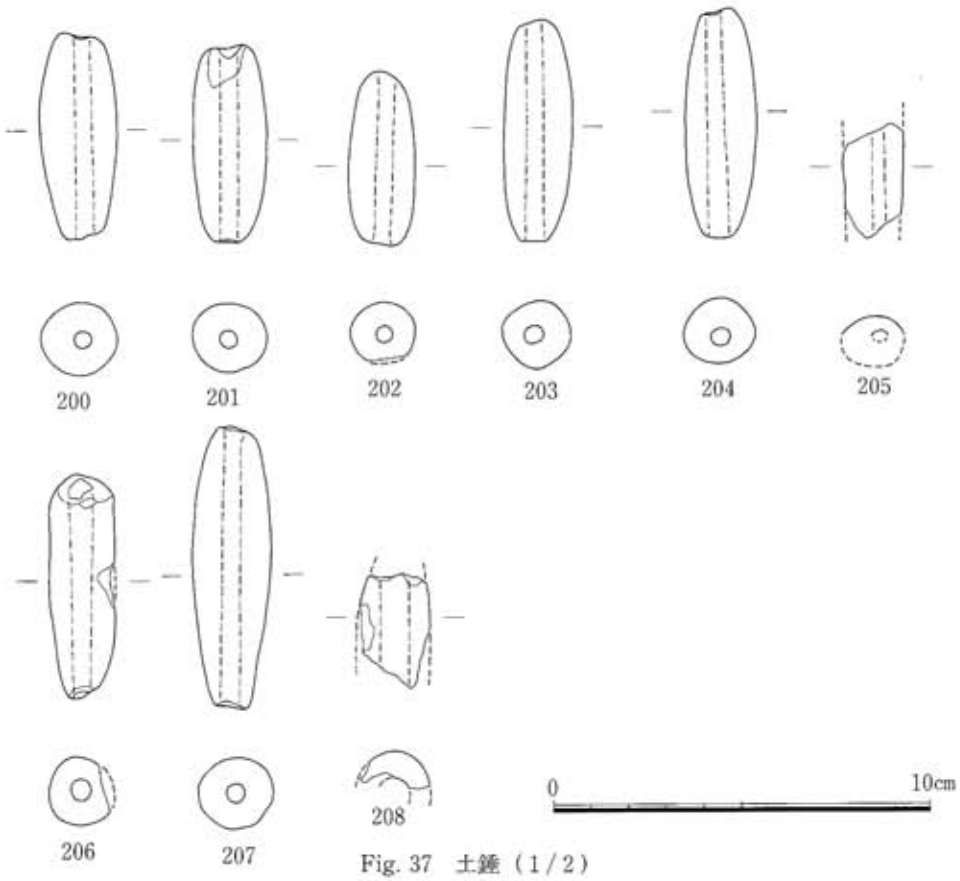


Fig. 37　土錘（1/2）

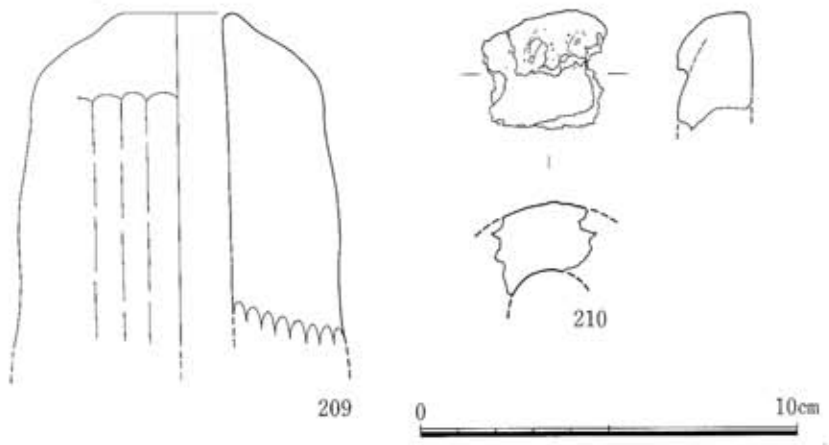


Fig. 38　ふいご羽口（1/2）

(5) 砥　　石 (Fig. 39)

211は図の表面と左側面が使用されている。ただし表面は平滑ではなく，不定方向に溝状の研磨痕が残る。石材は明るい赤褐色の火成岩を使用する。厚さ約6cm。SB008住居跡から出土した。212は板状の小形砥石で4面を使用。中央部は厚さ約1.3cmほどにすり減っている。砂岩製で，SB013住居跡出土。213は大形の砥石で，裏表両面と両側縁を使用している。図示した面では角度をわずかに替えて2つの研磨面をもち，一部に条痕が残る。砂岩製。最大長26.1cm，厚さ約5cm。SB019住居跡から出土した。

(図番号－登録番号)　211-87006295 212-87006296 213-87006297

Fig. 39　砥石 (2/5)

(6) 鉄　　器 (Fig. 40)

214は曲り鎌の残欠で，SB002住居跡のカマド内から出土した。刃部は直線的であるが，脊ず先端で急に曲がる。先部約２分の１が残存する。残存長5.4cm，刃幅2.4cm，背厚約0.2cm。
(図番号－登録番号)　214-88001626

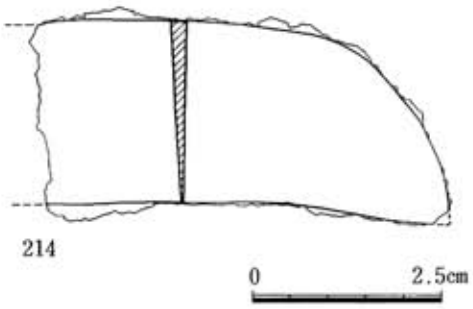


Fig. 40　鎌 (1/1)

図　　版

切畑遺跡

切畑遺跡　1．遺跡全景航空写真(東南から)
2．遺跡全景航空写真(西南から)

切畑遺跡

1．a区西北北側全景(南から)

2．SB031付近(東から)

3．SD140付近(東から)

切畑遺跡

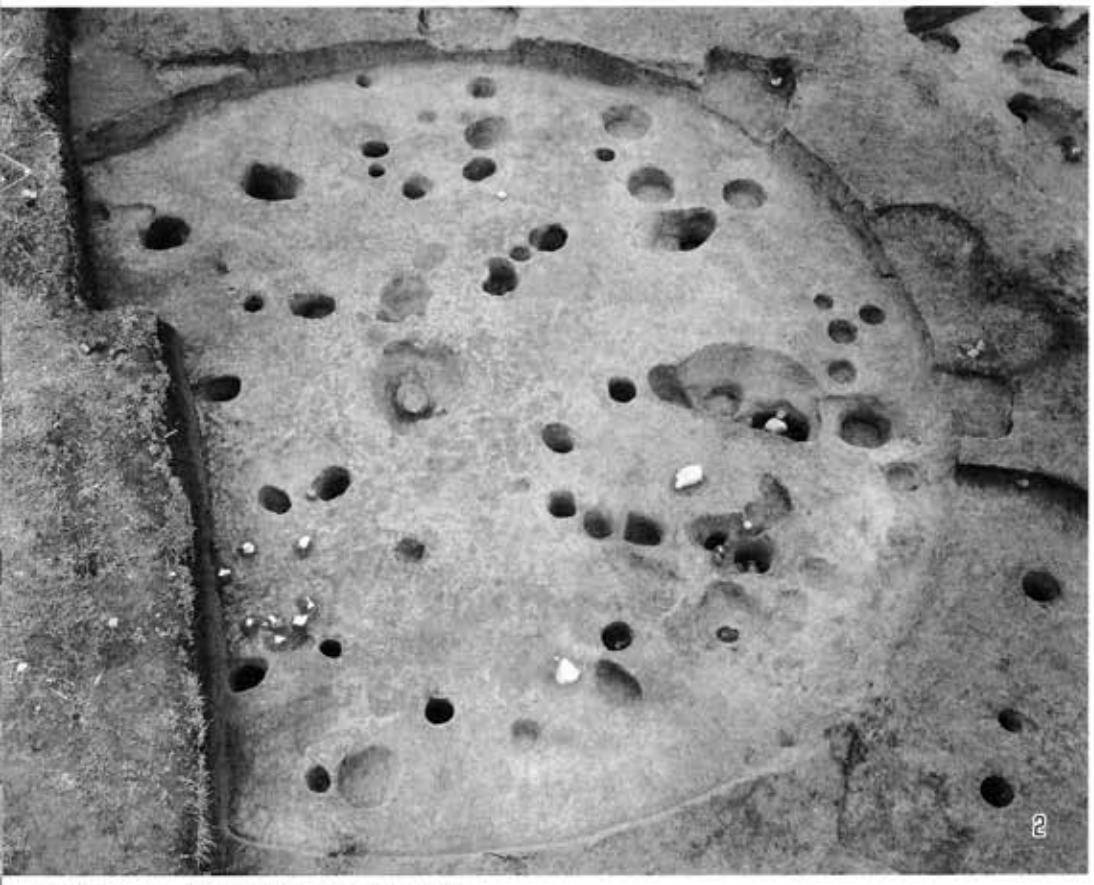
1．西側全景(北東から)

2．SB090竪穴住居跡付近(北東から)

3．東側全景(西から)

切畑遺跡　1．SB013竪穴住居跡(南東から)
2．SB019・SB023竪穴住居跡(北西から)

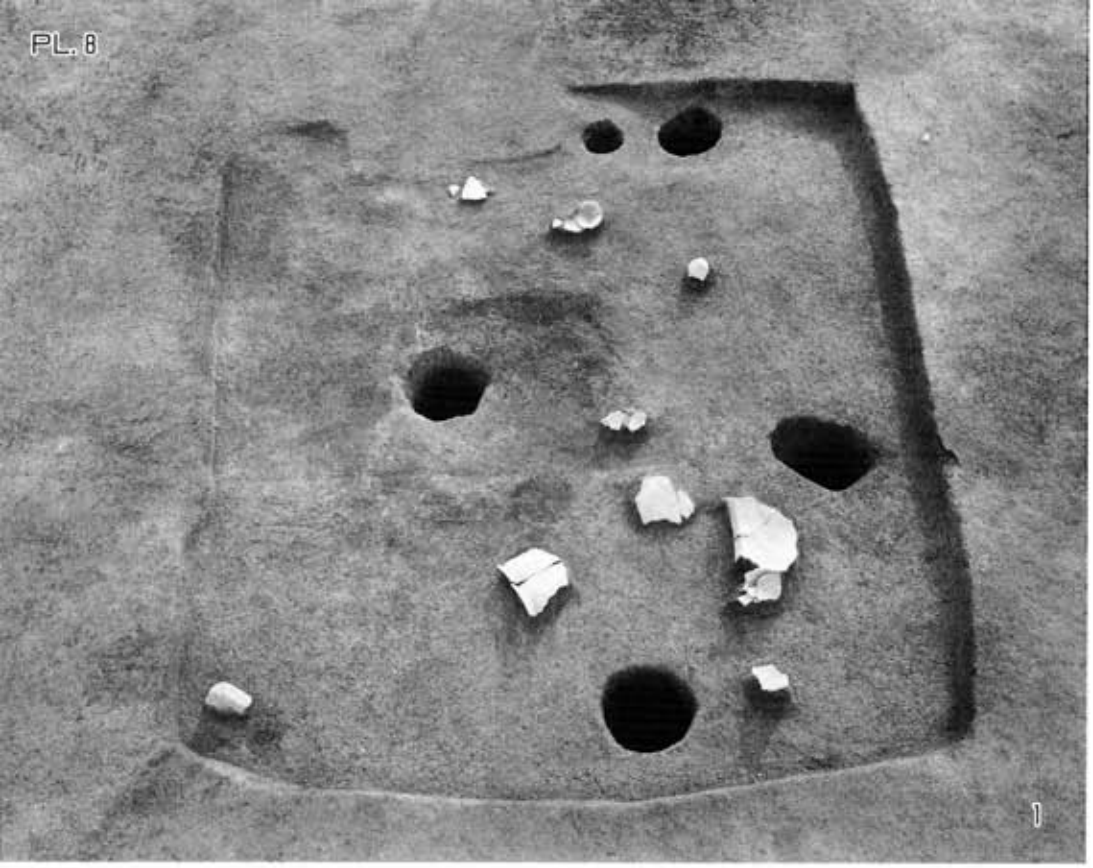
切畑遺跡　1．SB022竪穴住居跡(南東から)
2．SB024竪穴住居跡(北西から)



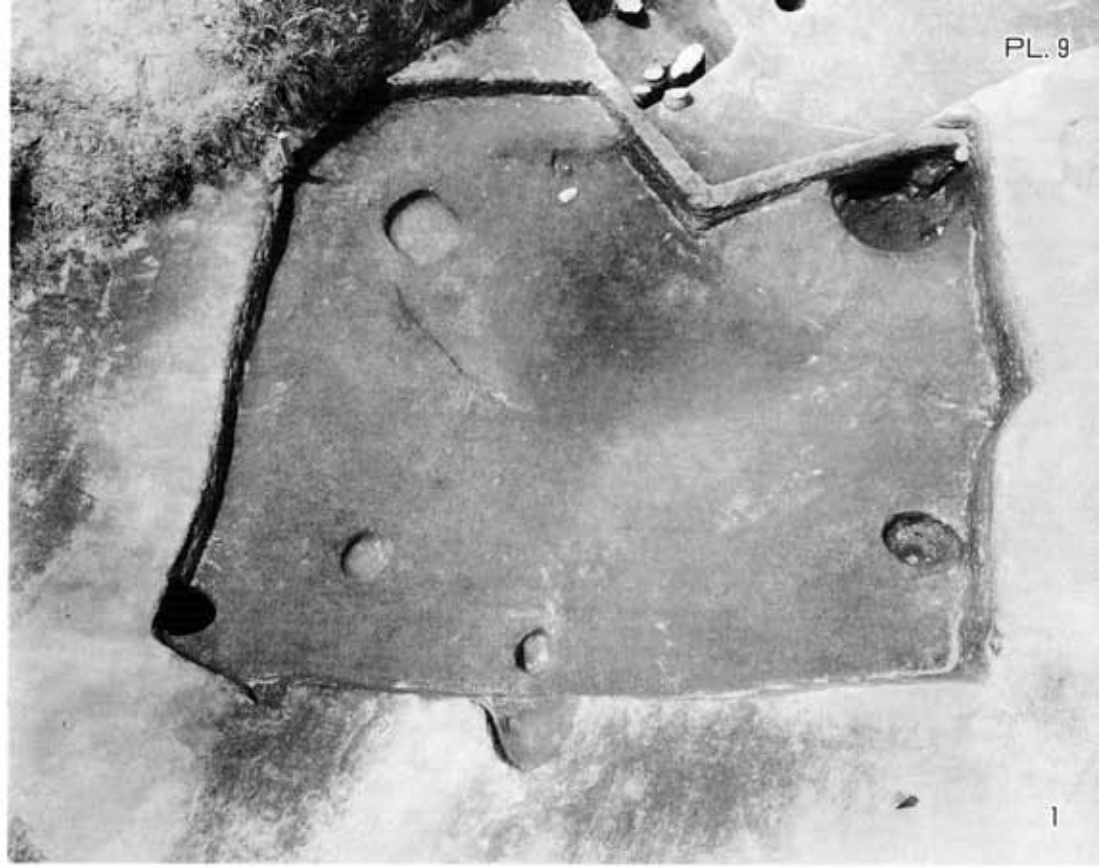
切畑遺跡　1．SB031竪穴住居跡(南東から)
2．SB051竪穴住居跡(北東から)

切畑遺跡

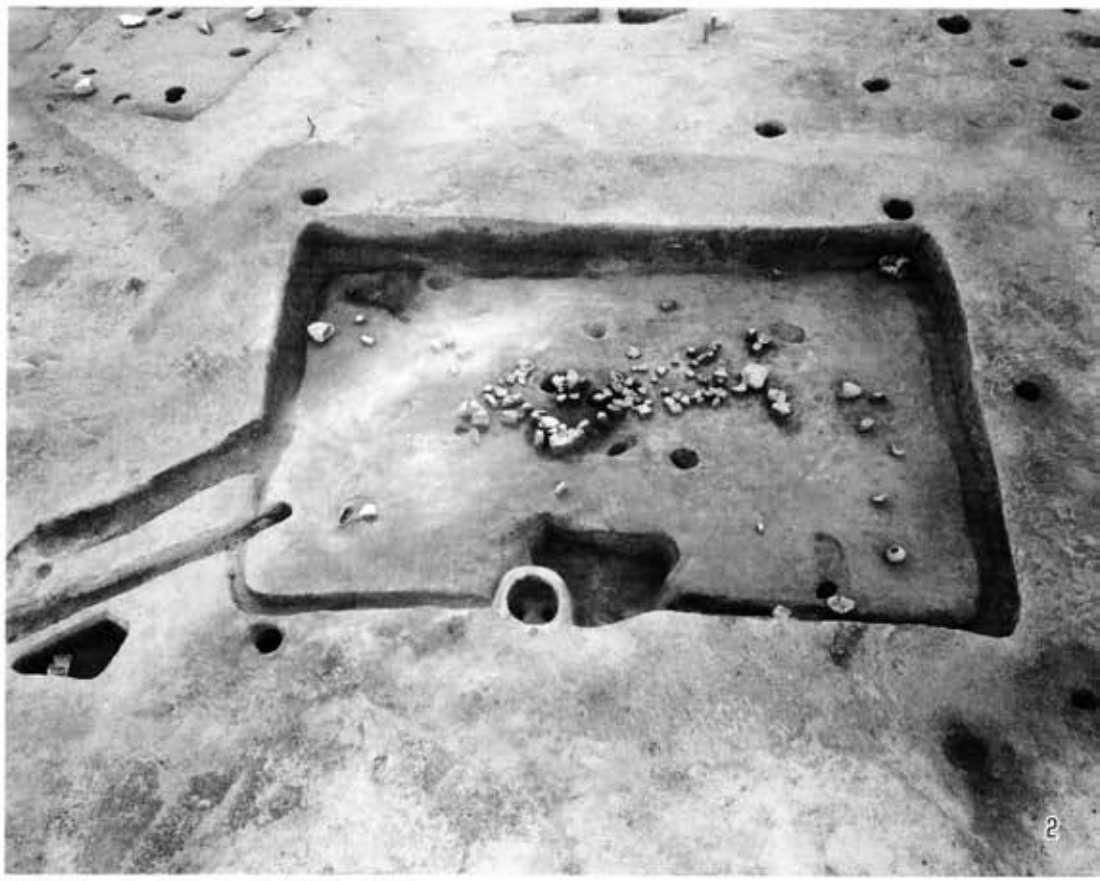
1．SB078・SB079竪穴住居跡(西から)
2．SB056竪穴住居跡(南東から)
3．SB056竪穴住居跡床面土器除去後
(南西から)



切畑遺跡　1．SB084竪穴住居跡(南から)
2．SB085竪穴住居跡(北東から)

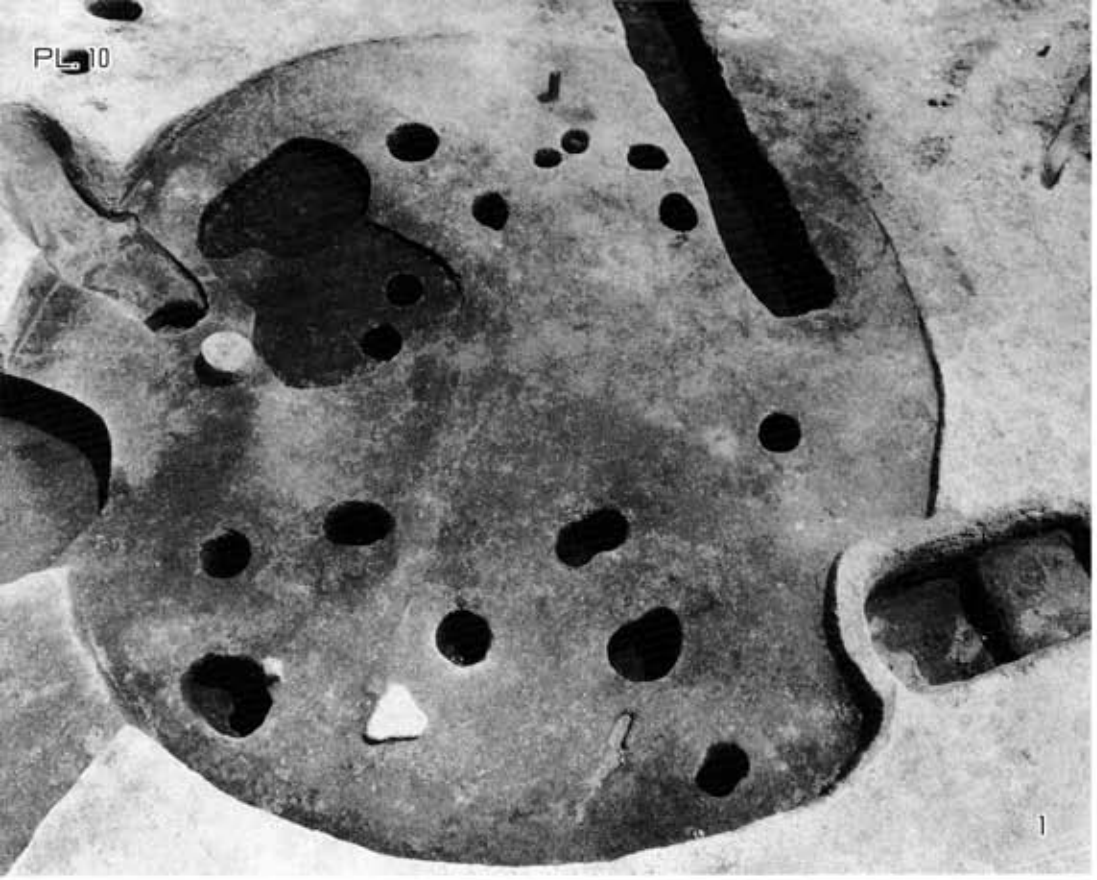


1

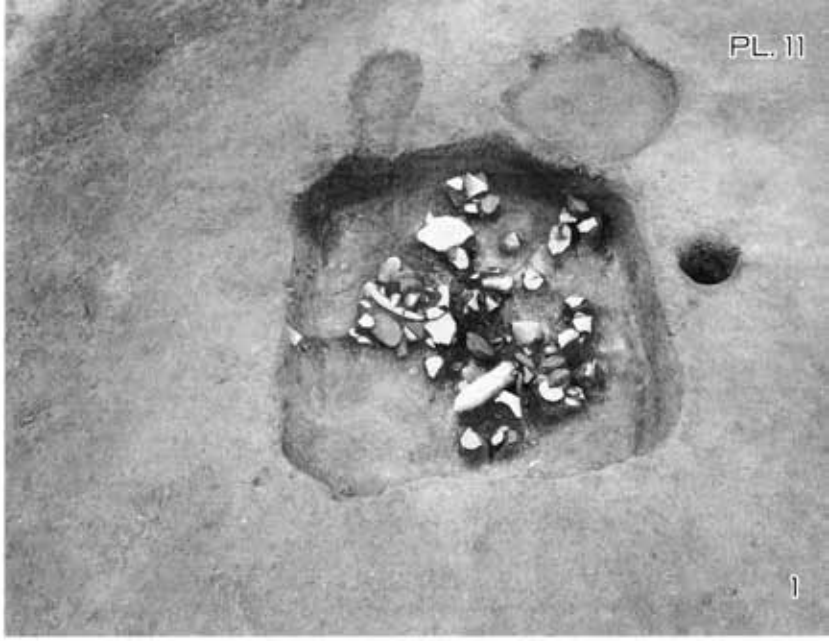


2

切畑遺跡　1．SB113竪穴住居跡(東から)
2．SB123竪穴住居跡(北東から)



切畑遺跡　1．SB143竪穴住居跡(北東から)
2．SB149・SB157竪穴住居跡(北から)

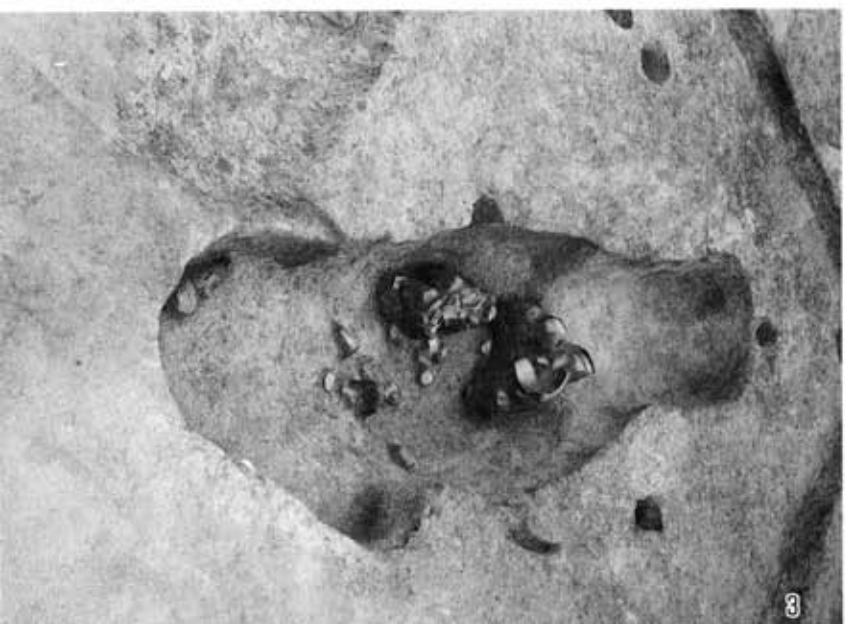


切畑遺跡

1．SK009土壙(北東から)

2．SK025土壙(北西から)

3．SK067・SK068土壙(北東から)

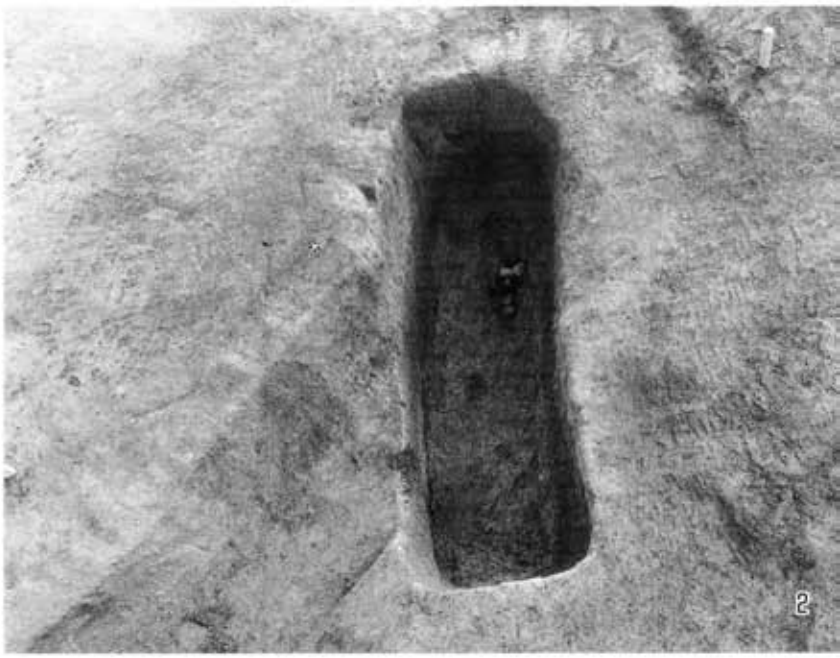


切畑遺跡

1．SK029土壙(南東から)

2．SK064土壙(北西から)

3．SK072・SK073・SK092土壙
(北西から)

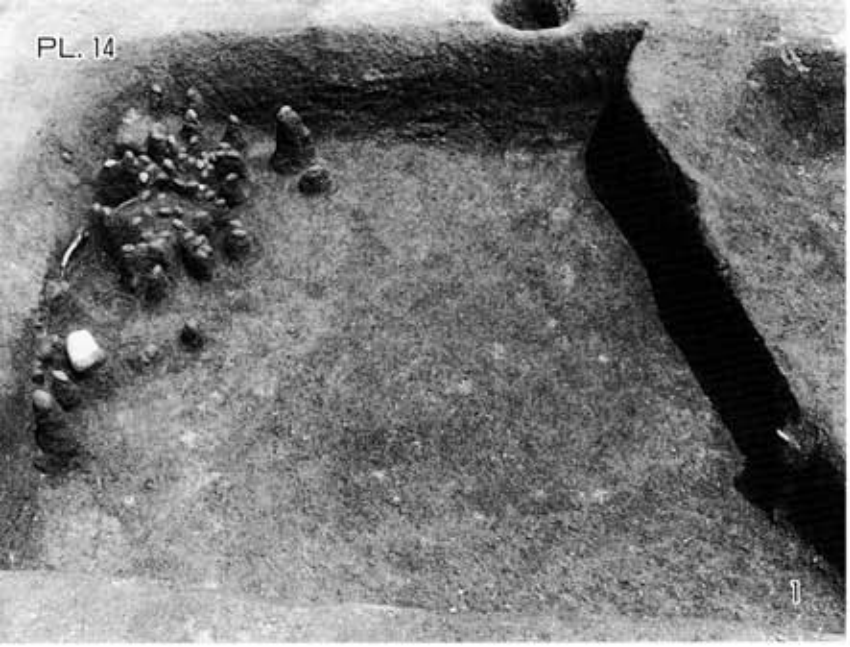


切畑遺跡

1．SK082土壙(北東から)

2．SK083土壙(北東から)

3．SK094・SK095・SK096土壙
(西から)

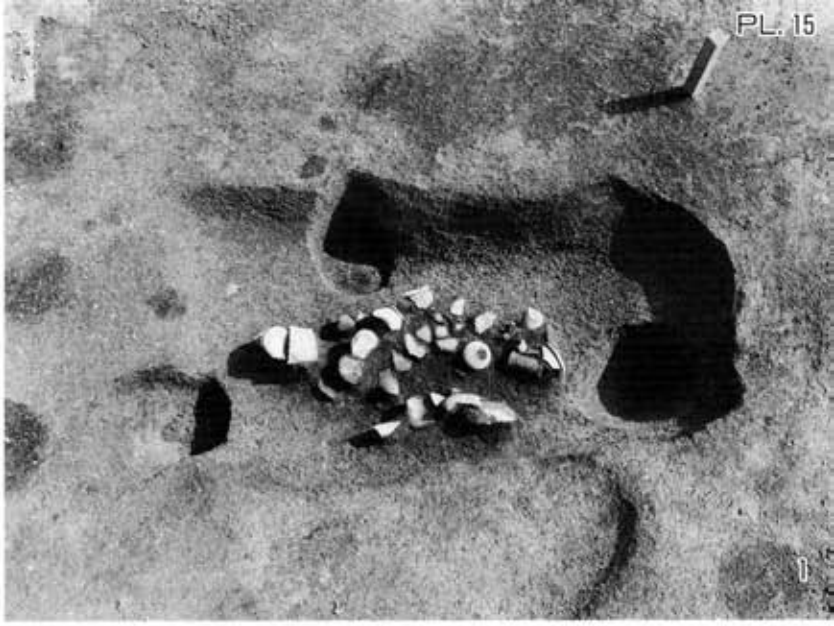


切畑遺跡

1．SK115土壙(南から)

2．SK115土壙投弾出土状況(南から)

3．SK117土壙(西南から)



切畑遺跡

1．SK099土壙(南西から)

2．SK118土壙(南東から)

3．SK142土壙(東から)

切畑遺跡

1．SK148土壙(北西から)

2．SK159土壙(南東から)

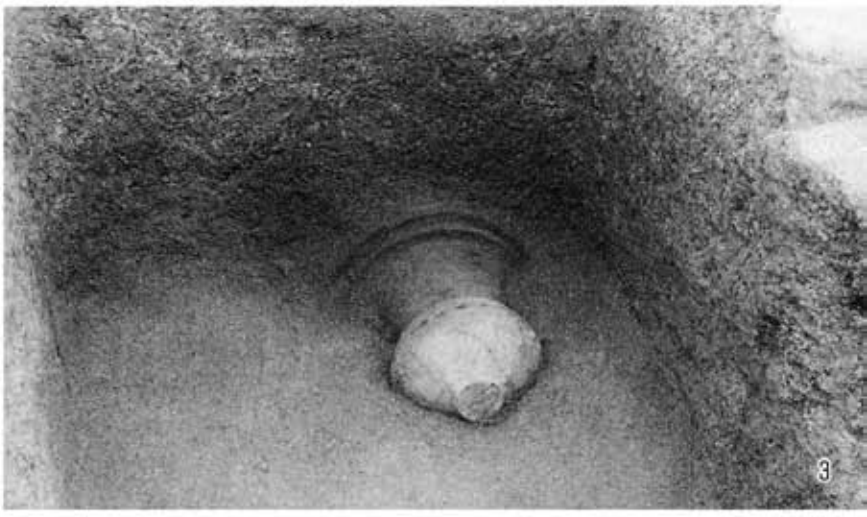
3．SK163土壙(北から)

切畑遺跡

1．SD014溝(南から)

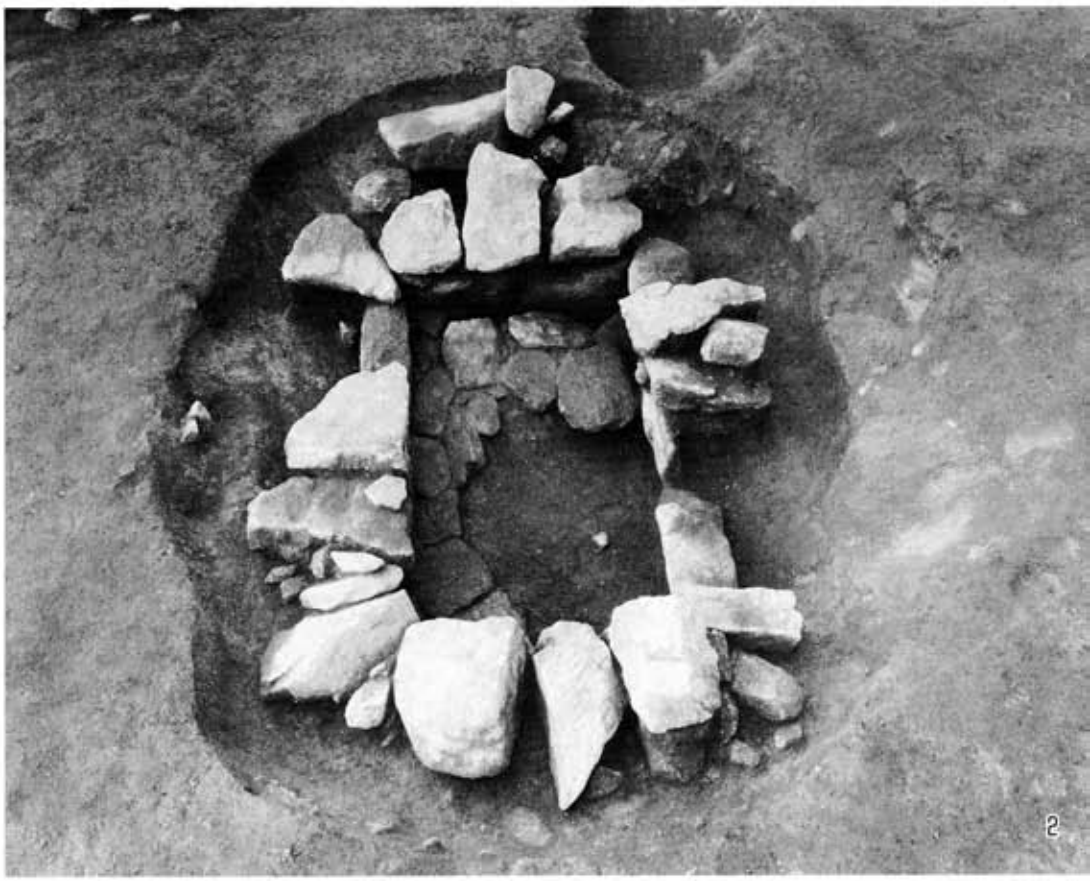
2．SD014溝土層断面(南東から)

3．SD014溝内土器出土状況



切畑遺跡　1．a区古墳群全景(南西から)
2．a区古墳群全景(東から)

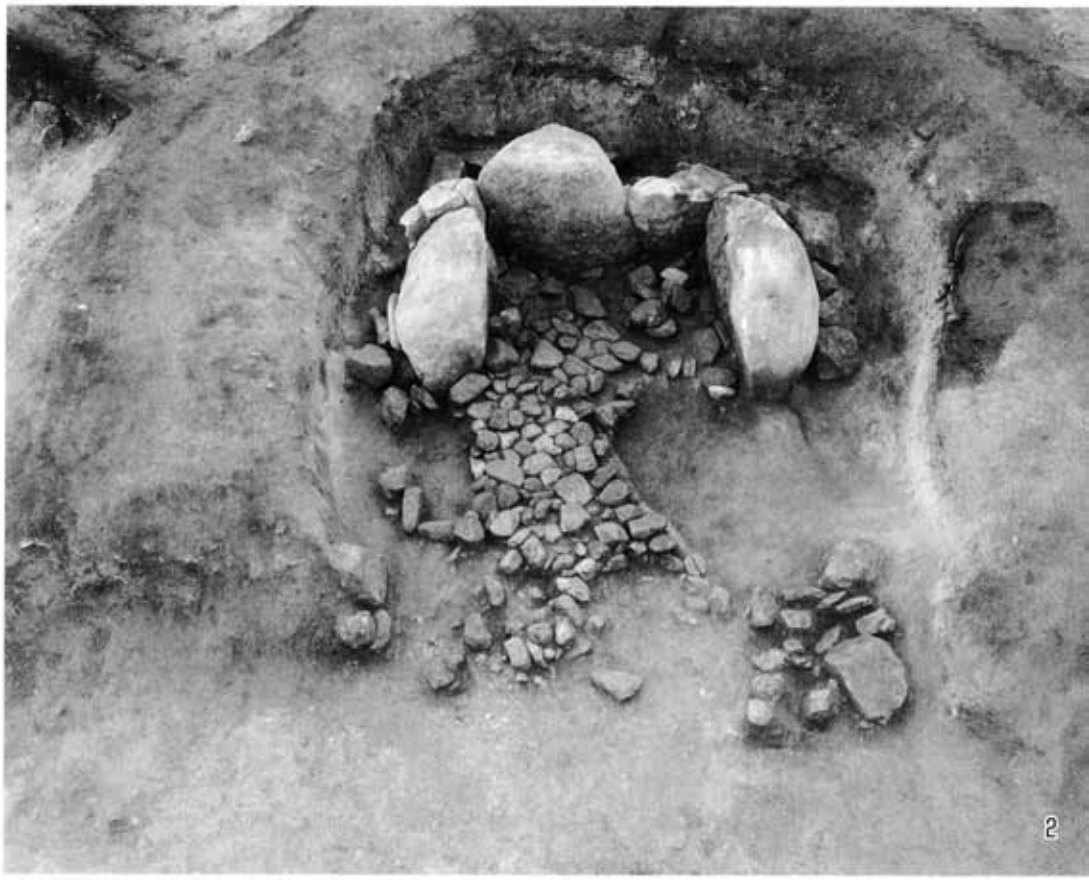
1



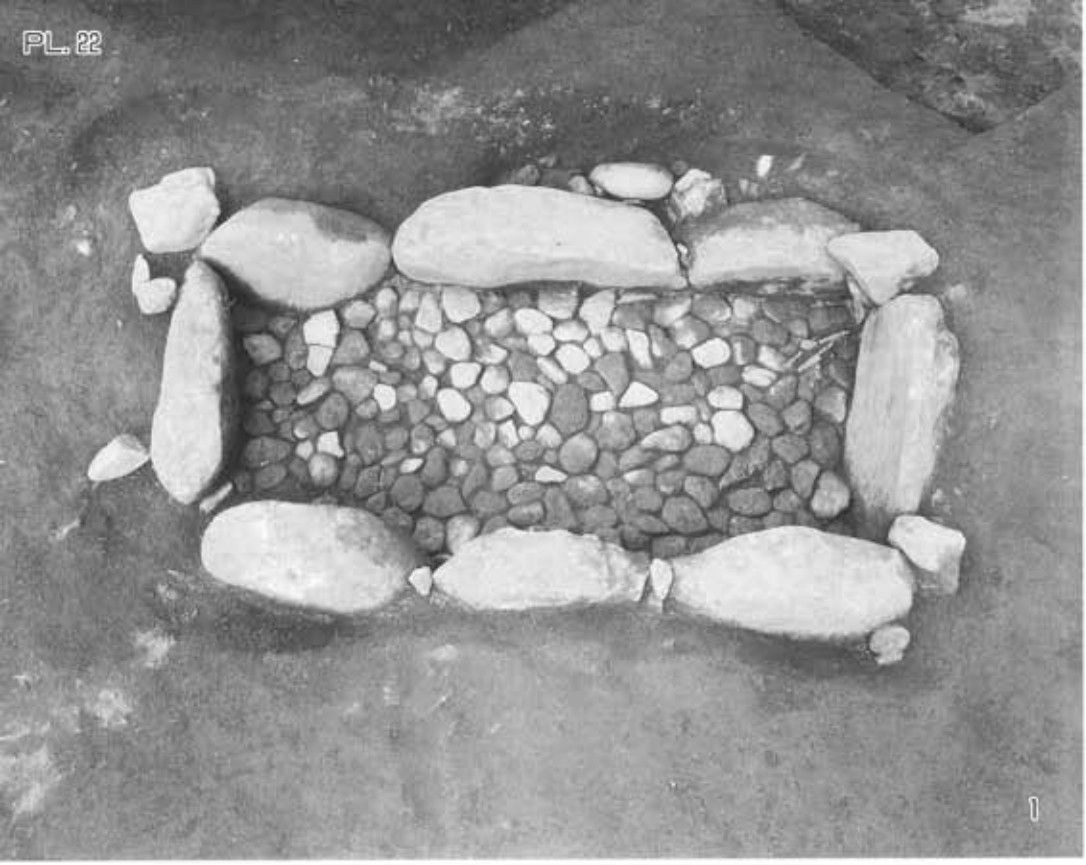
2

切畑遺跡　1．ST001古墳石室(南から)
2．ST001古墳石室(東から)

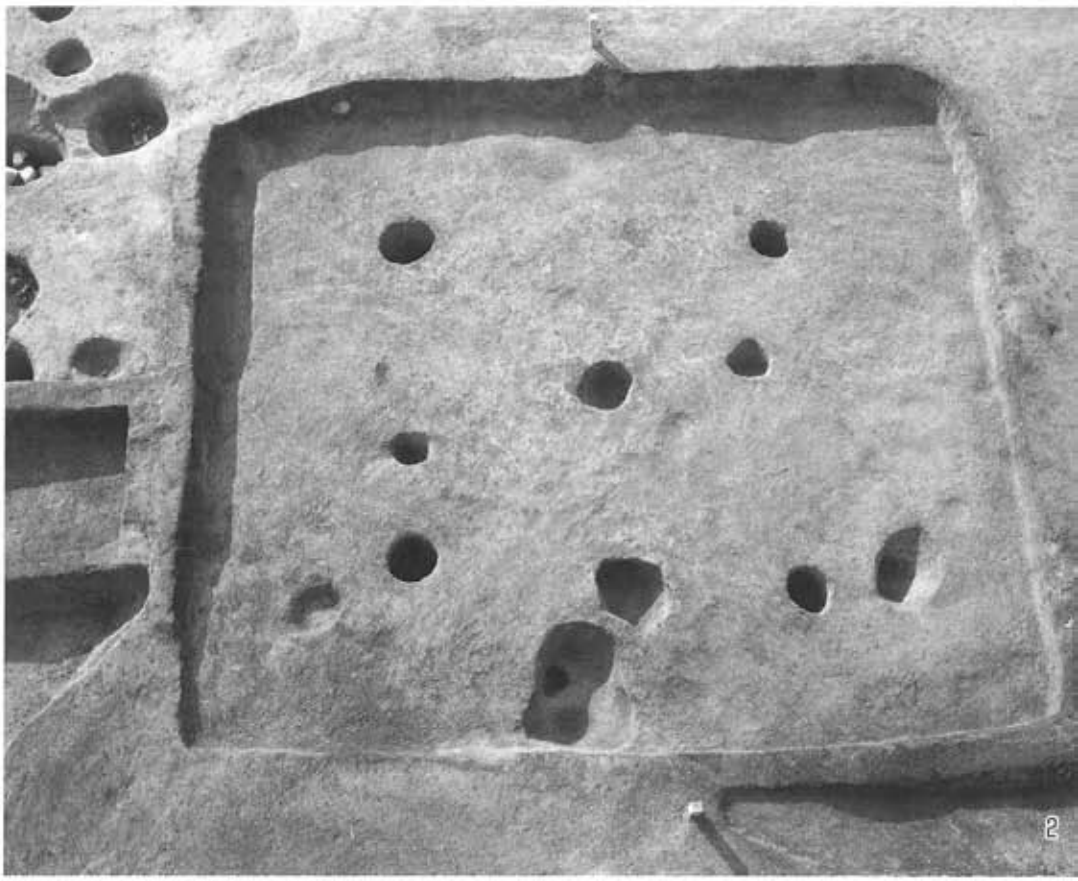
切畑遺跡　1．ST002古墳全景(南西から)
2．ST002古墳石室(南西から)



切畑遺跡　1．ST003古墳全景(南から)
　　2．ST003古墳全景(南から)



切畑遺跡　1．ST004古墳石室(南東から)
2．ST004古墳石室(南西から)



切畑遺跡　1．SB018竪穴住居跡(西から)

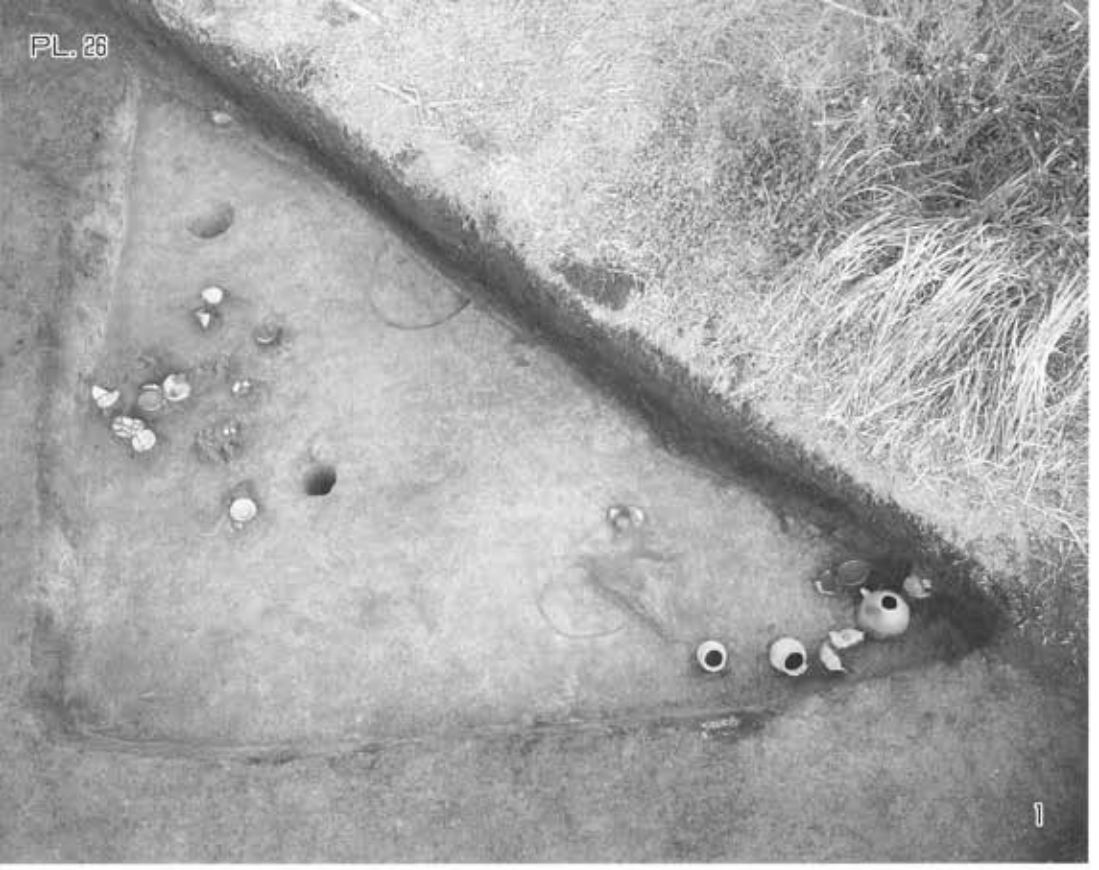
2．SB018竪穴住居跡床面遺物除去後(東から)

切畑遺跡　1．SB021竪穴住居跡(南東から)

2．SB021竪穴住居跡カマド(南東から)

切畑遺跡

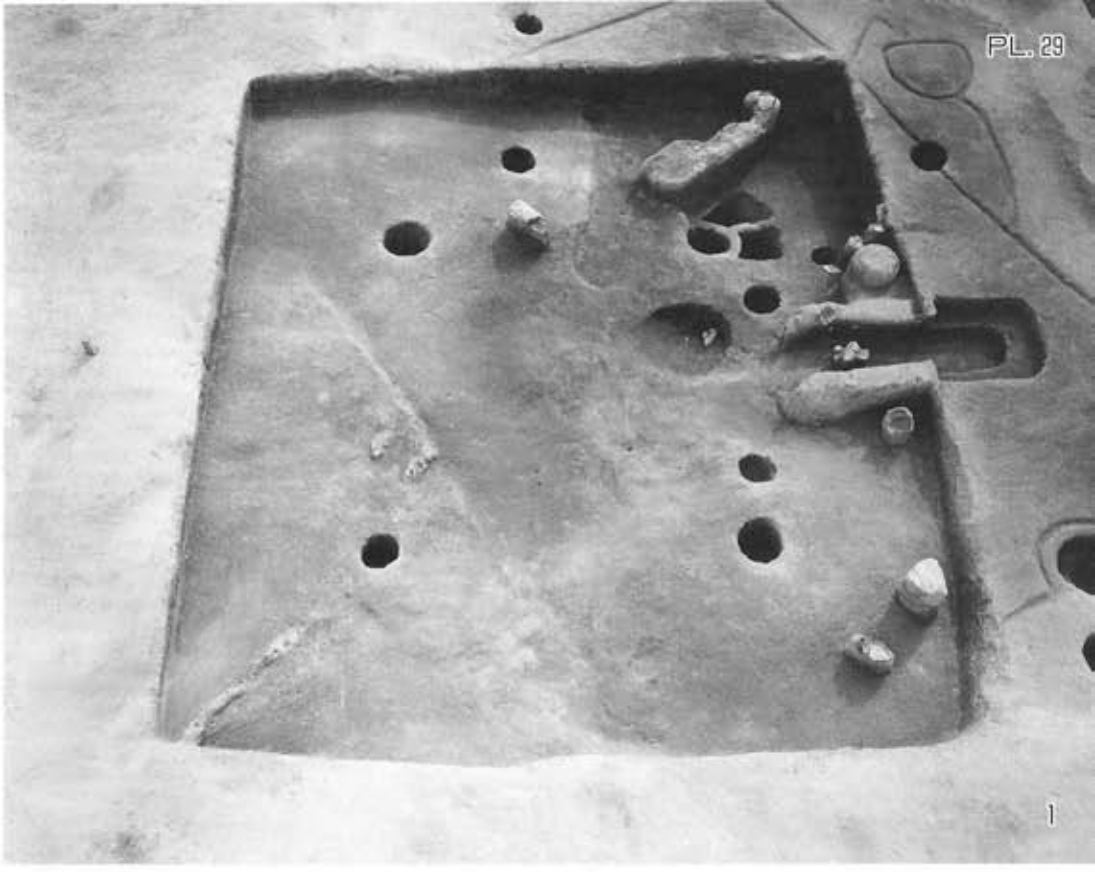
1．SB063竪穴住居跡(北から)
2．SB063竪穴住居跡(東から)
3．SB063竪穴住居跡カマド付近(東から)



切畑遺跡　1．SB075竪穴住居跡(西から)
2．SB075竪穴住居跡北辺土器群(西から)

切畑遺跡　1．SB078竪穴住居跡(南西から)
　　2．SB101竪穴住居跡(北から)

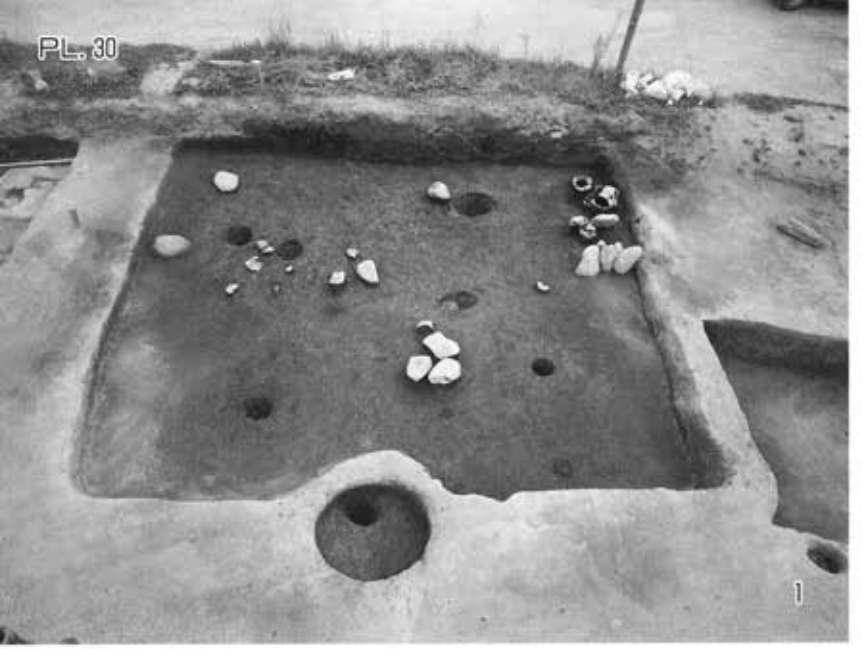
切畑遺跡　1．SB090竪穴住居跡(南東から)
2．SB090竪穴住居跡カマド(南西から)



1

2

切畑遺跡　1．SB103竪穴住居跡(北から)
2．SB103竪穴住居跡カマド(東から)



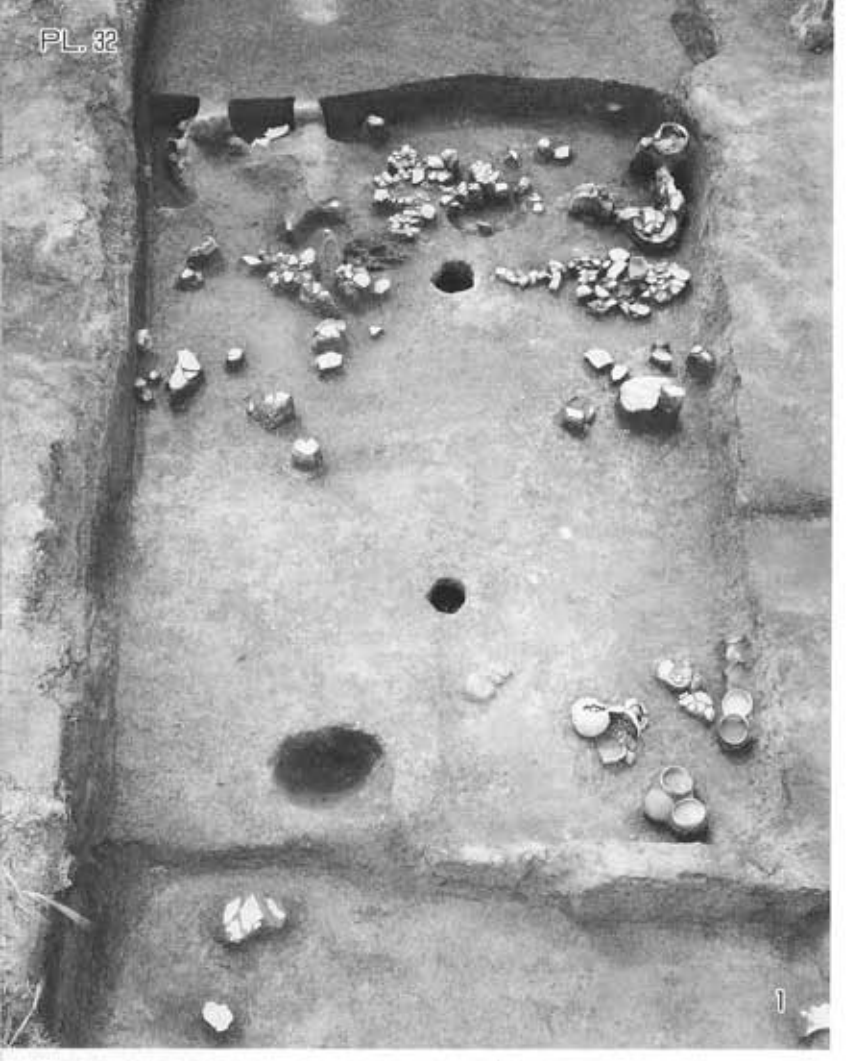
切畑遺跡

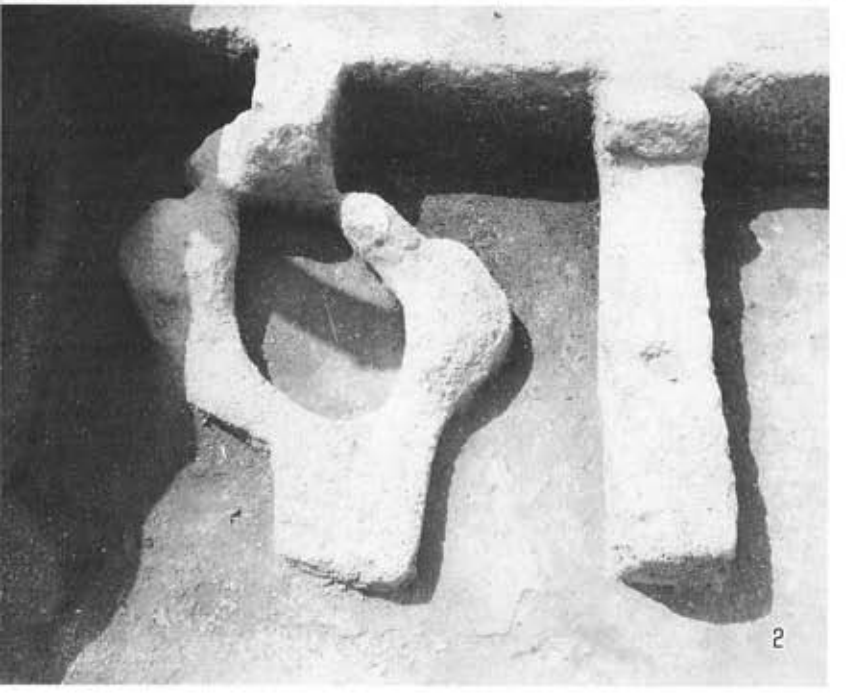
1．SB106竪穴住居跡(北から)

2．SB106竪穴住居跡カマド(東から)

3．SB106竪穴住居跡カマド(北から)

切畑遺跡　1．SB108竪穴住居跡(南から)
2．SB119竪穴住居跡(北から)



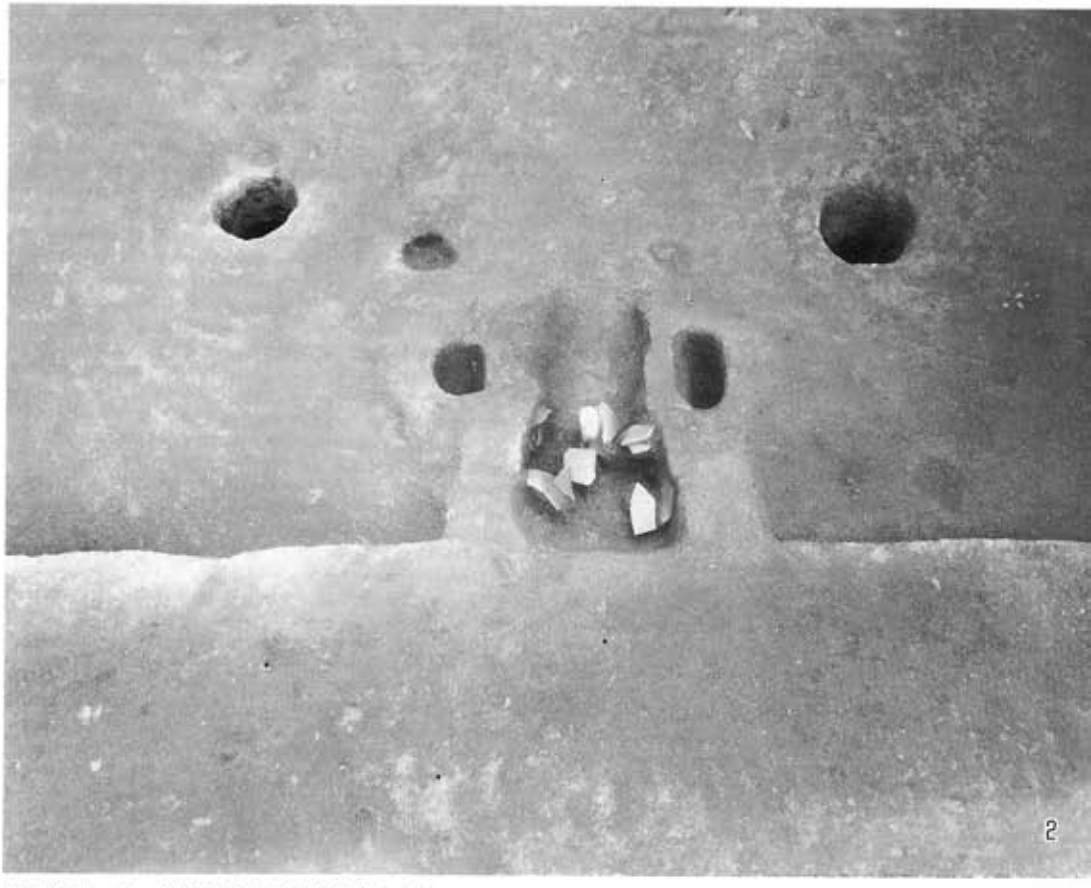


切畑遺跡

1．SB116竪穴住居跡(東から)

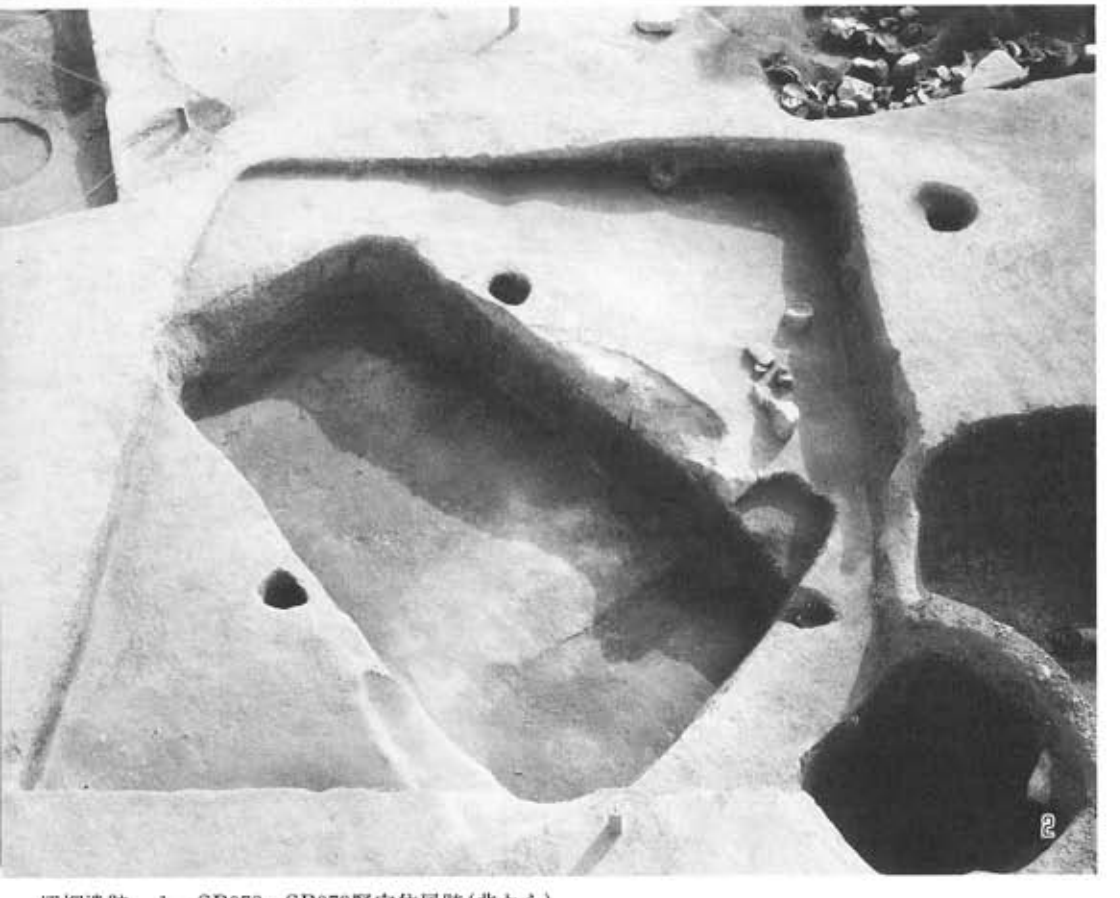
2．SB116竪穴住居跡カマド(東から)

1



2

切畑遺跡　1．SB124竪穴住居跡(北から)
2．SB124竪穴住居カマド(西から)



切畑遺跡　1．SB078・SB079竪穴住居跡(北から)
2．SB141竪穴住居跡(北東から)

切畑遺跡

1．SK026土壙(南東から)

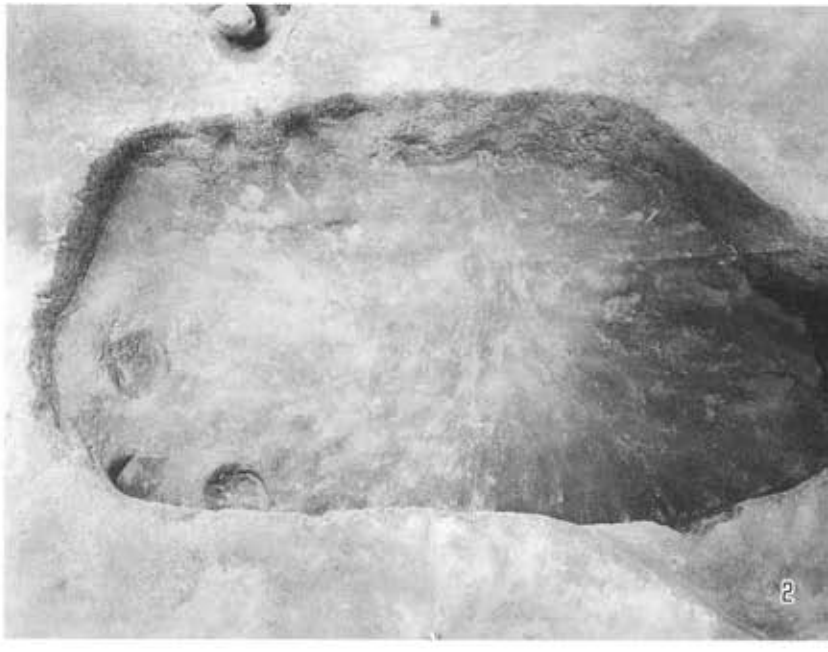
2．SK077土壙(東から)

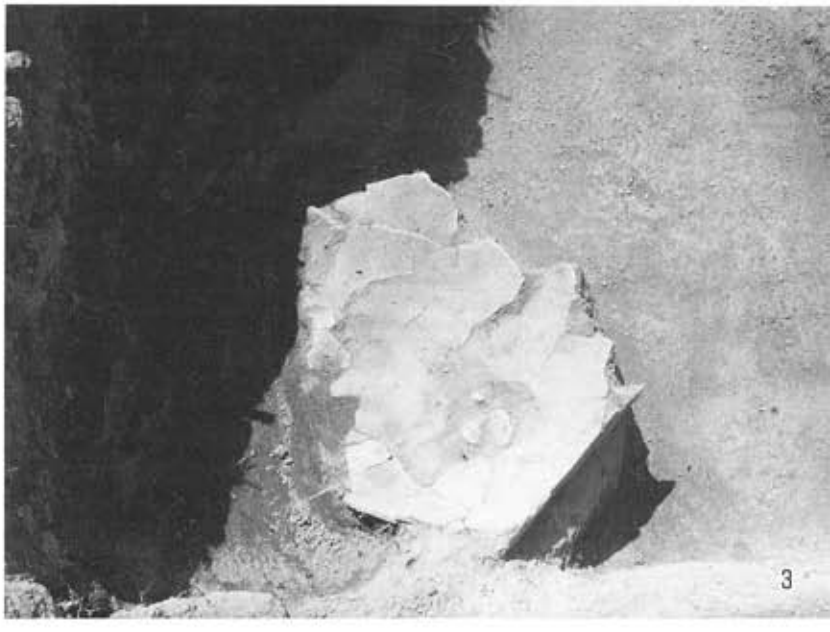
3．SK119土壙(北から)

切畑遺跡

1．SD126溝(北から)

2．SD126溝東側(西から)



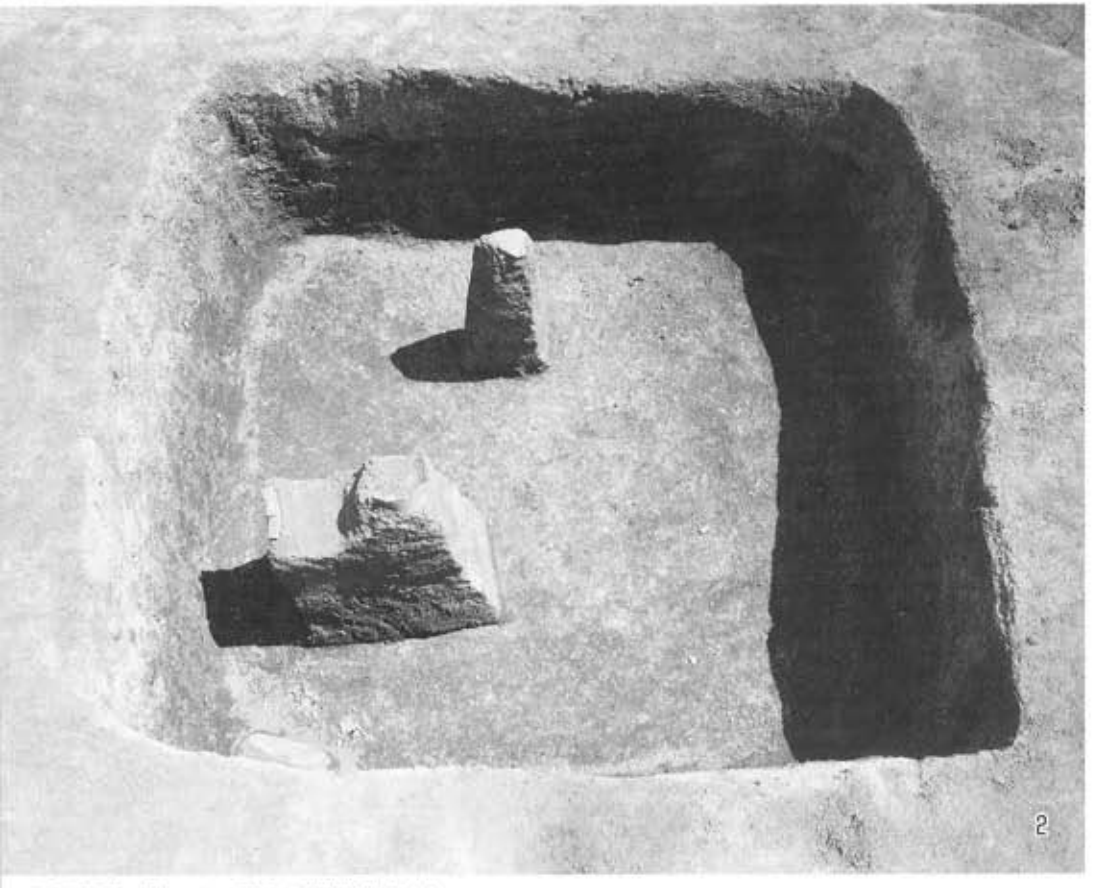


切畑遺跡c区

1．SK001土壙(北から)

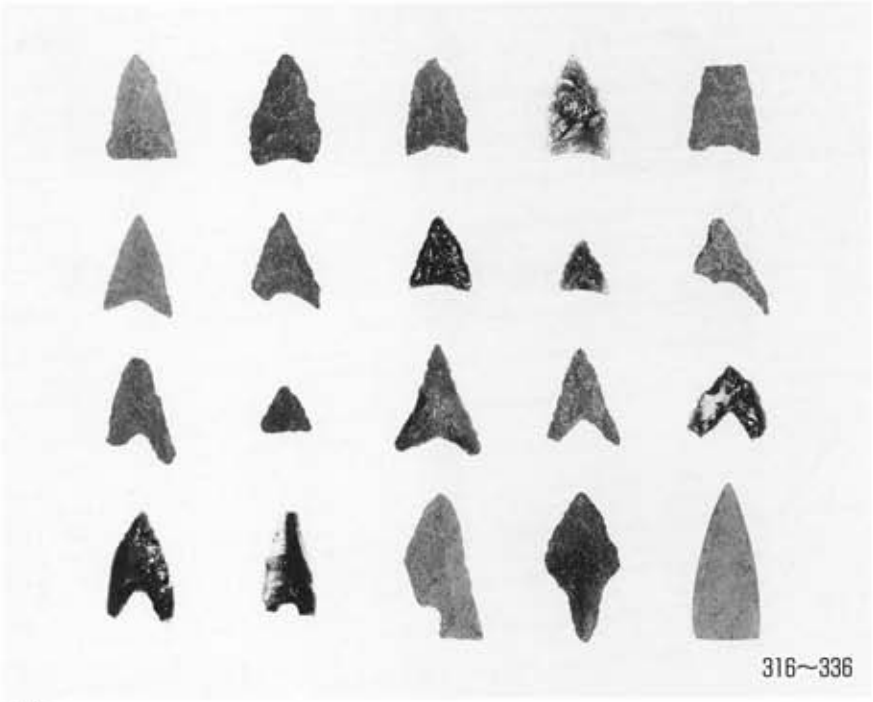
2．SK001土壙集石除去後(北から)

3．SJ004甕棺墓(北から)

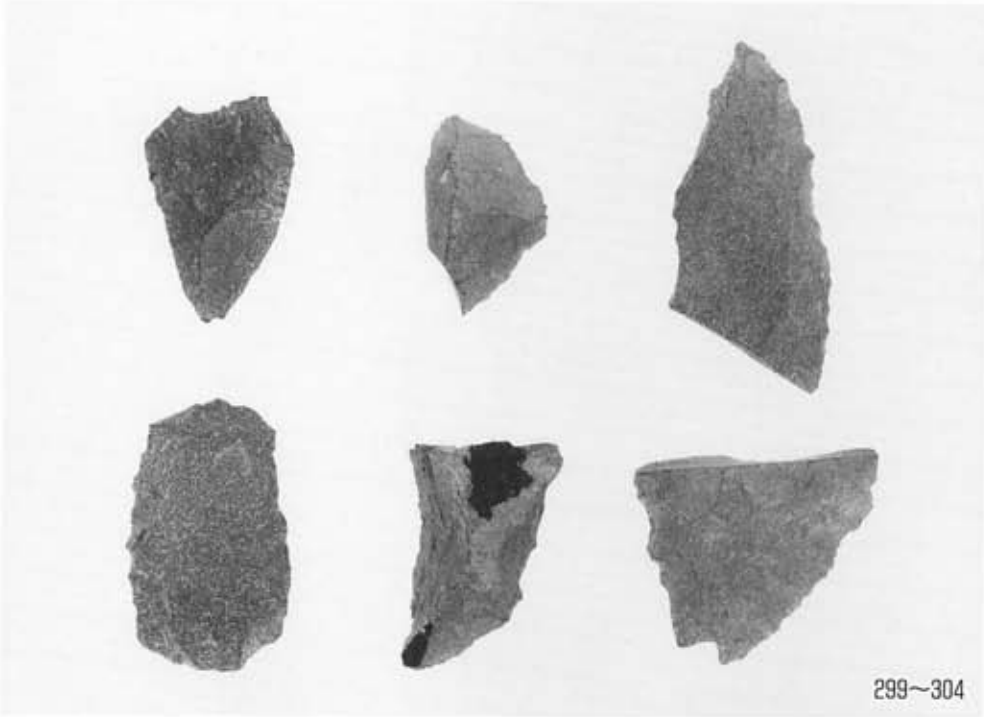


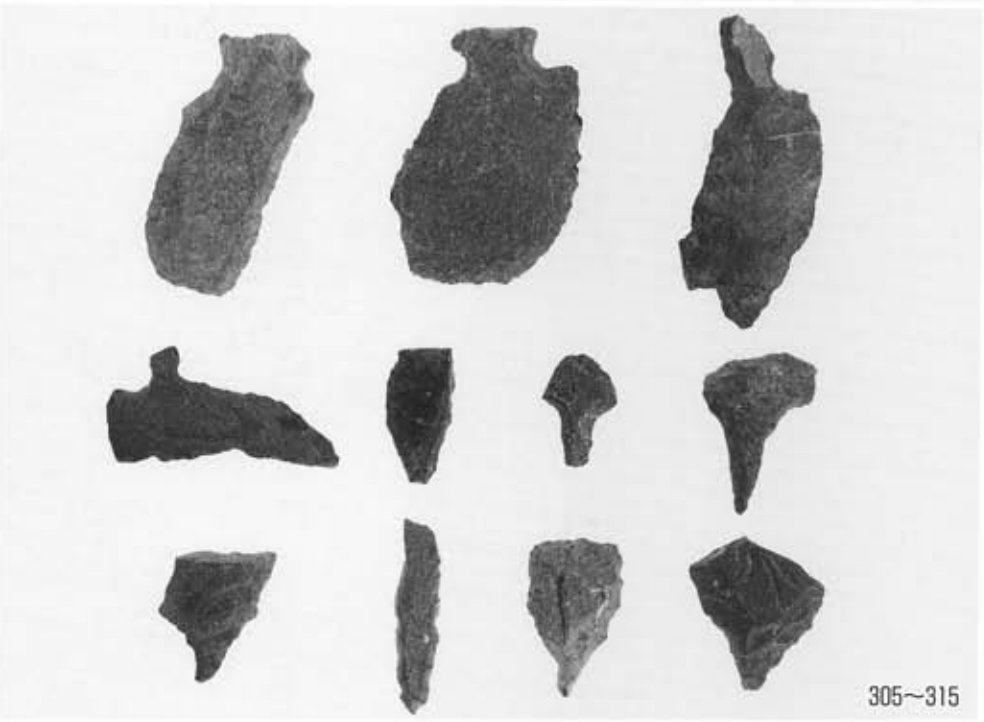
切畑遺跡c区　1．SK002土壙(北から)
2．SK003土壙(北から)

縄文土器



石鏃





切畑遺跡　打製石器

32

33

34

36

37

38

47

39

56

78

SB024 32～37
SB052 38, SB031 39
SB017 78, SB051 47・48

切畑遺跡　弥生土器 1

89

90

91

98

99

101

102

103

105

切畑遺跡　弥生土器 2　SB079 89～105

118

120

124

121

130

125

134

133

切畑遺跡　弥生土器 3　SB113 118～134

157

158

162

163

169

174

175

177

186

切畑遺跡　弥生土器 4　SK009 157～163, SK029 169～186

196

202

203

207

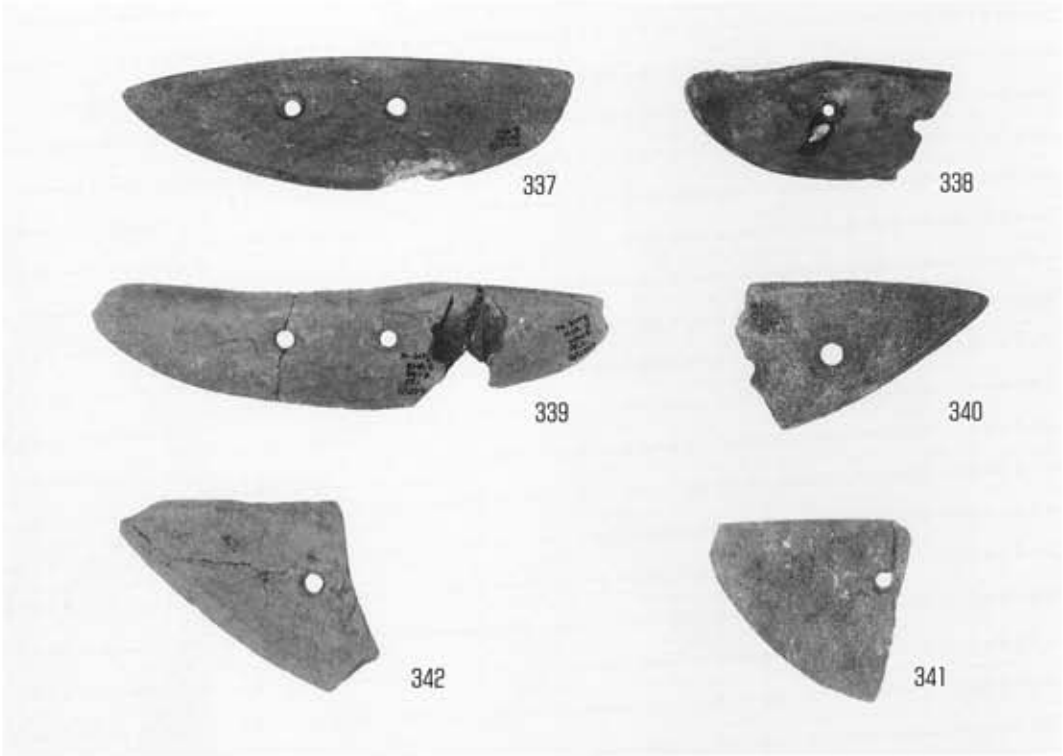
222

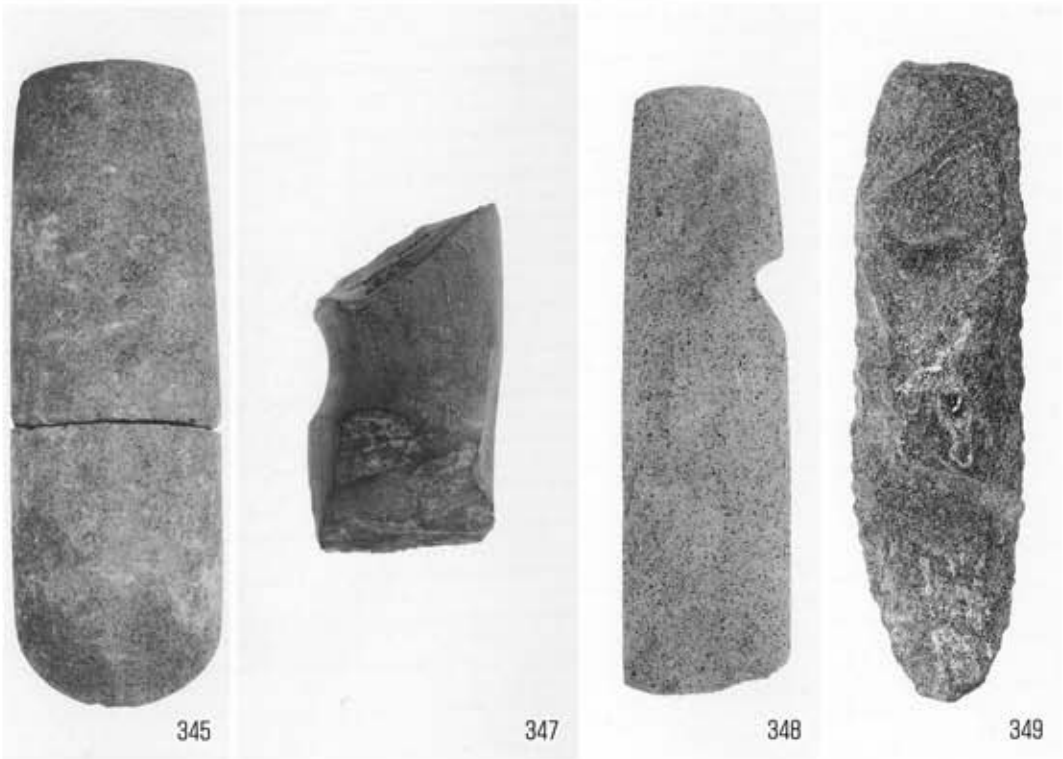
246

255

249

切畑遺跡　弥生土器 5　SK081 196, SK082 202～207
SK094 222, SK163 255
SK142 246・249





切畑遺跡　石器〔石包丁・磨製石斧・打製石斧〕

355

360

357

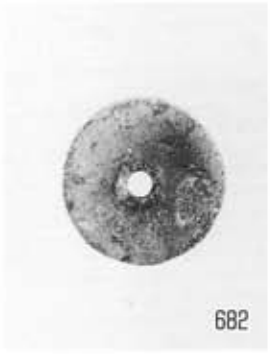
358

356

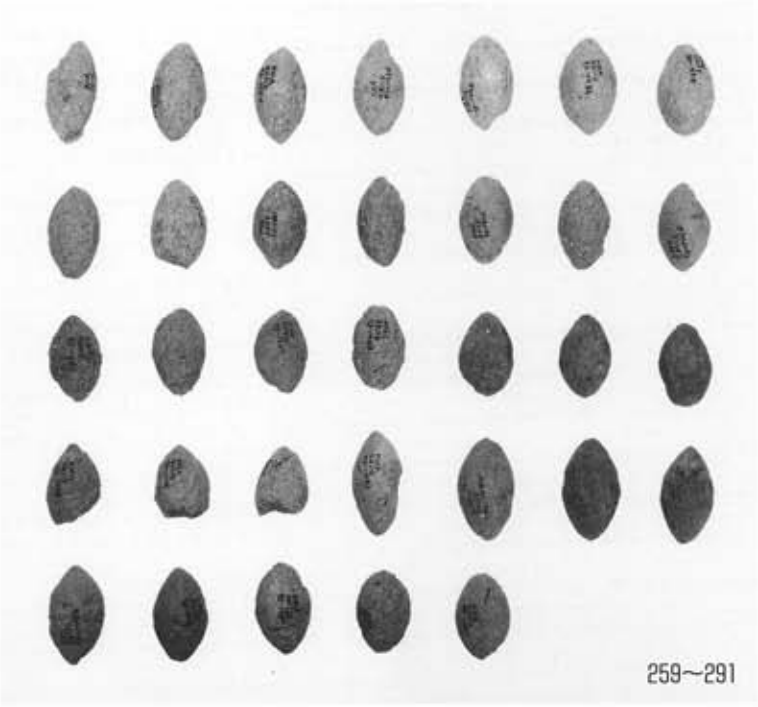
343

344

切畑遺跡　石器〔磨石・磨製石剣・磨製石戈〕


682

683


259～291

350

352

688

360

359

投　弾 259～291
紡錘車 682・683
砥　石 350～352・688
鉄　器 359・360

切畑遺跡　弥生・古墳時代　投弾・紡錘車・砥石・鉄器
(300番代は弥生，500番代は古墳時代)

365

370

371

372

373

369

375

切畑遺跡　古墳出土須恵器・土師器
ST004 365
ST005 370～375

376

383

379

387

390

388

392

391

395

394

399

397

切畑遺跡　土師器・須恵器 1　SB018 376～399

398

401

403

404

405

406

408

409

410

411

416

417

切畑遺跡　土師器・須恵器 2　SB018 398～417

423

424

425

426

427

435

437

438

428

429

430

433

切畑遺跡　土師器・須恵器 3　SB019 423～433

458

459

460

462

461

463

466

467

468

470

切畑遺跡　土師器・須恵器 4　SB063 458～470

464

471

472

465

473

474

477

476

478

475

切畑遺跡　土師器・須恵器 5　SB063 464～475

484

485

488

490

498

496

492

499

503

504

505

506

切畑遺跡　土師器・須恵器 6　SB075 484～506

508

509

510

512

513

514

440

444

445

SB075 508～514
SB021 440～445
SB032 451・453

451

453

519

520

521

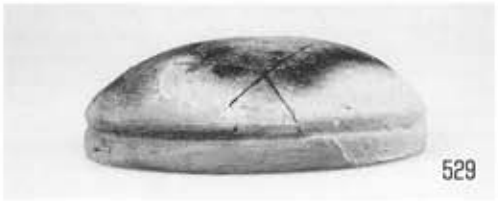
525

524

526

527

528


529

530

532

534

切畑遺跡　土師器・須恵器 8　SB078 519～534

540

543

544

545

548

549

549

550

551～532

切畑遺跡　土師器・須恵器 9　SB090 540～562

571

575

568

580

581

593

590

594

SB103 571～568
SB106 580～594

597

605

606

607

608

609

610

613

615

617

618

切畑遺跡　土師器・須恵器11　SB116 597～618

621

625

628

637

639

638

640

647

648

651

652

切畑遺跡　土師器・須恵器12　SB124 621～628，SK026 637～640，SK077 647～652

654

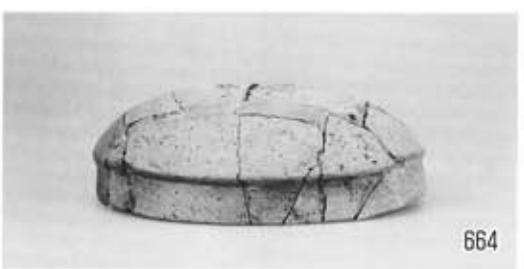
655

656

660

661

663


664

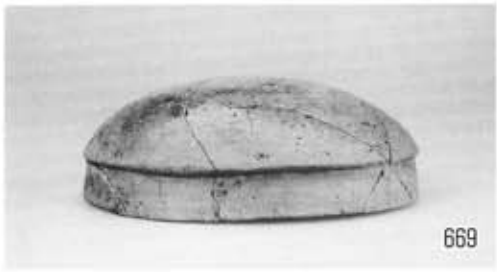
665

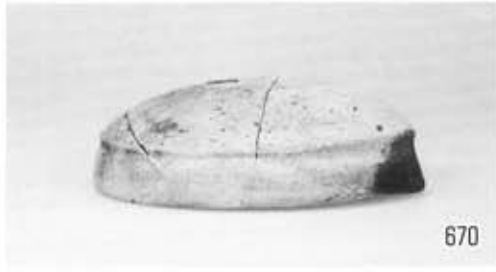
666

切畑遺跡　土師器・須恵器13　SB126 654～668

667

668


669


670

673

674

675

676

677表

677裏

切畑遺跡　土師器・須恵器14　SD126 667～667

695

696

697

702

703

704

705

706

切畑遺跡　土師器・須恵器15
SD028 695～697
SD087 702・703
SD111 704～705

711

712

713

714

715

716

717

718

720

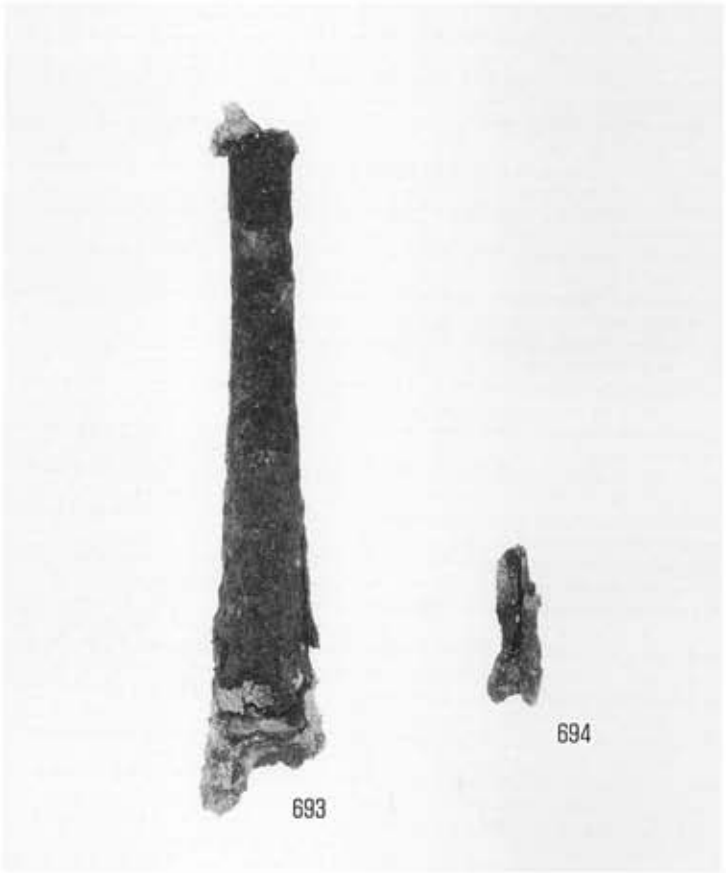
725

726

727

SD012 701～715
SD014 716～724

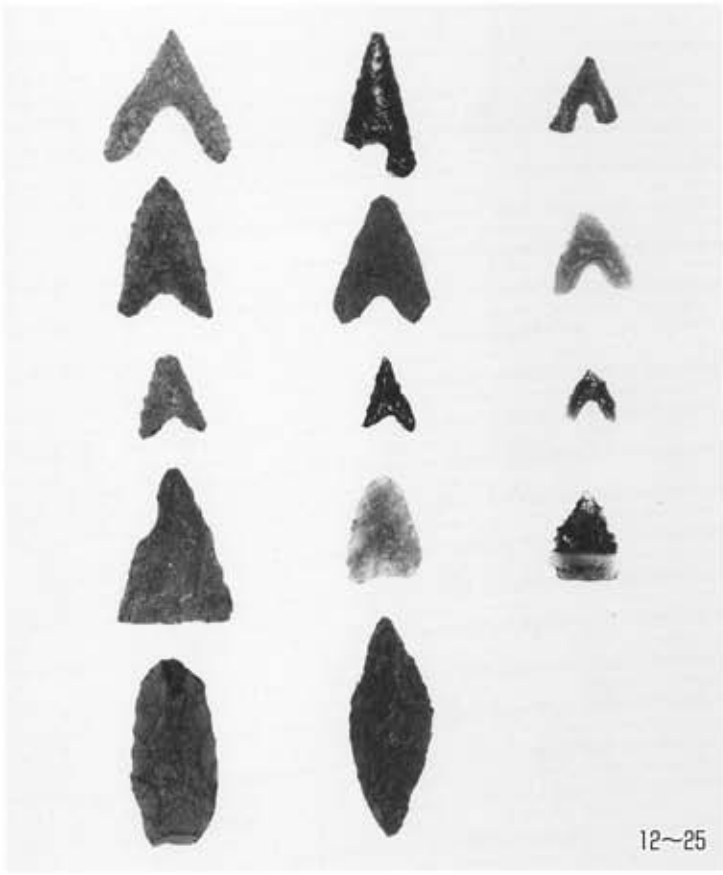
689～692

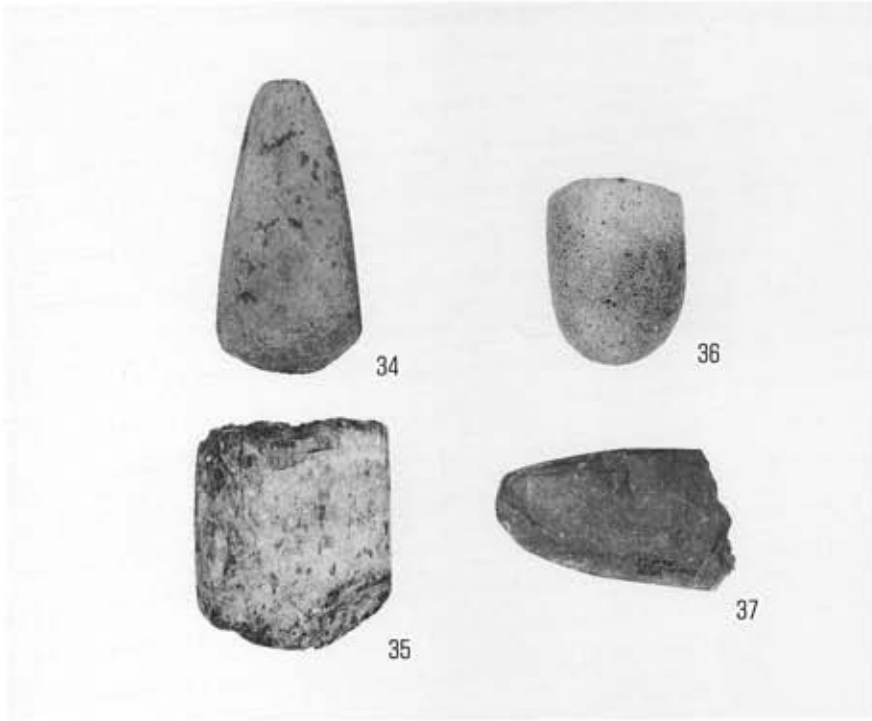


693

694

切畑遺跡　古墳出土　鉄器

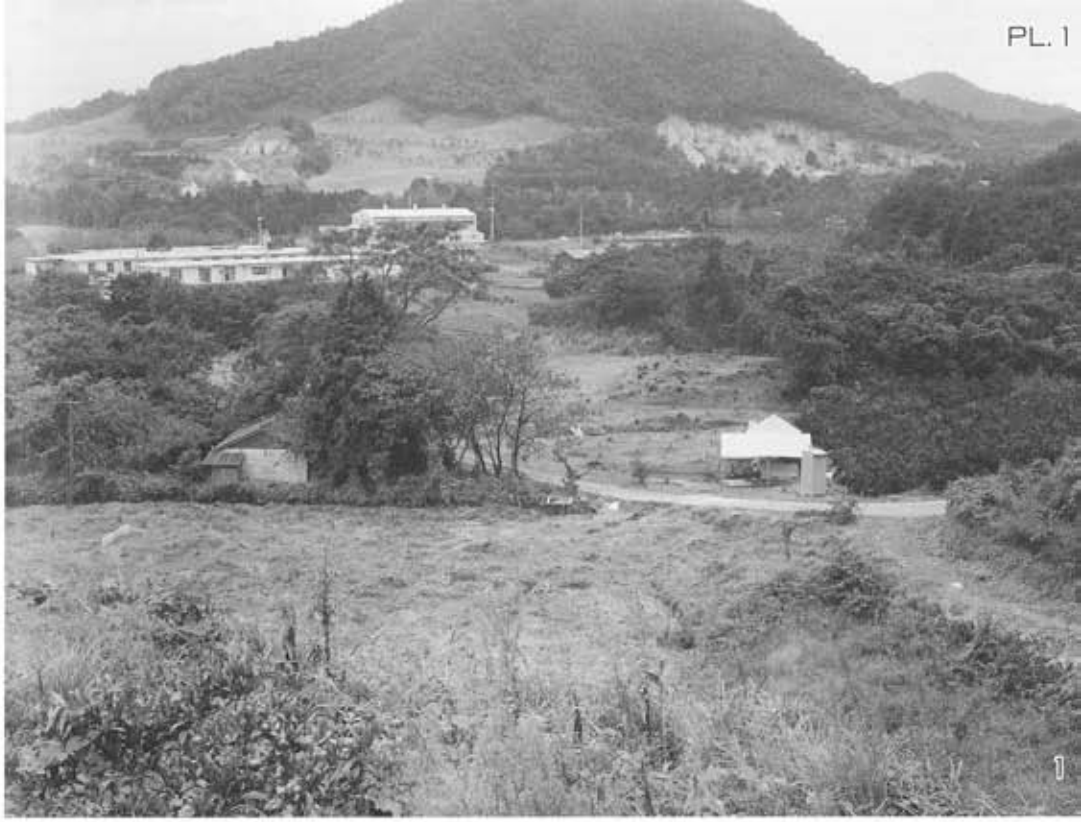


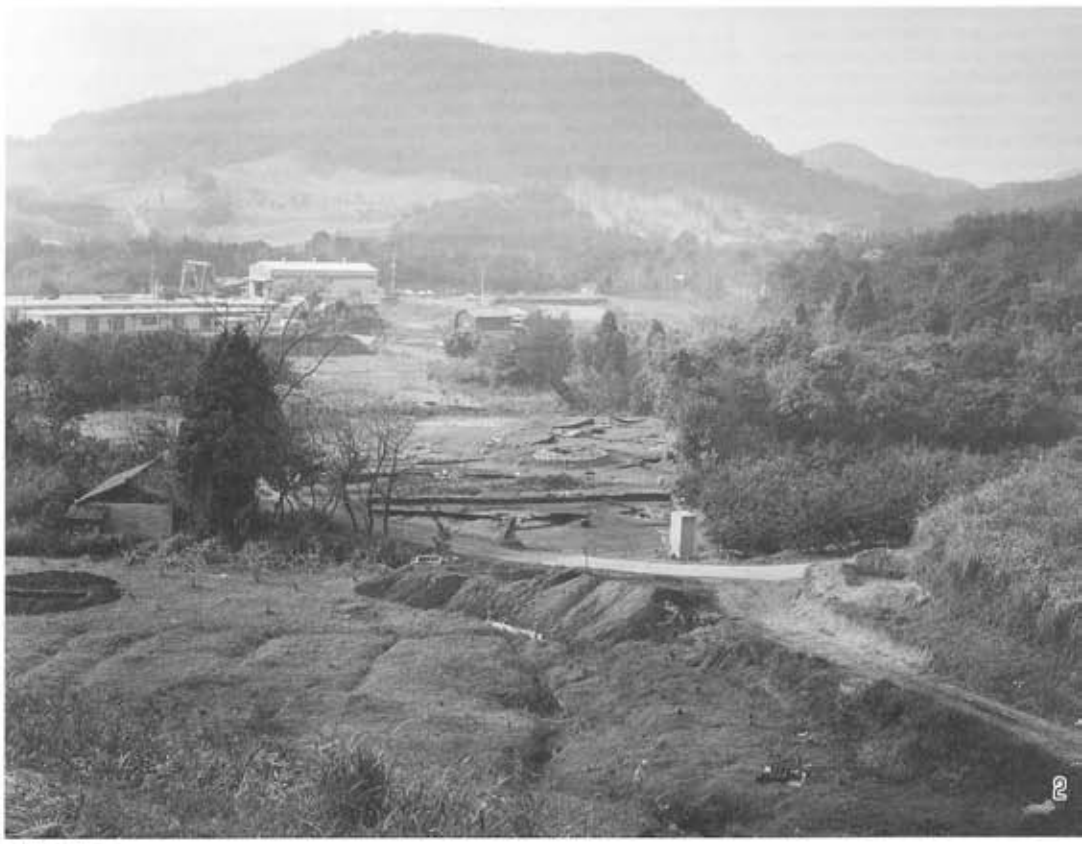


切畑遺跡　石器　12～25 石鏃，34～37 石斧，石包丁

切畑遺跡　SD140出土土師器角杯・碗

猿 嶽 A 遺 跡





猿嶽A遺跡

1．遺跡全景(調査前)(東から)

2．遺跡全景(調査後)(東から)

猿嶽A遺跡

1．調査区近景(東から)

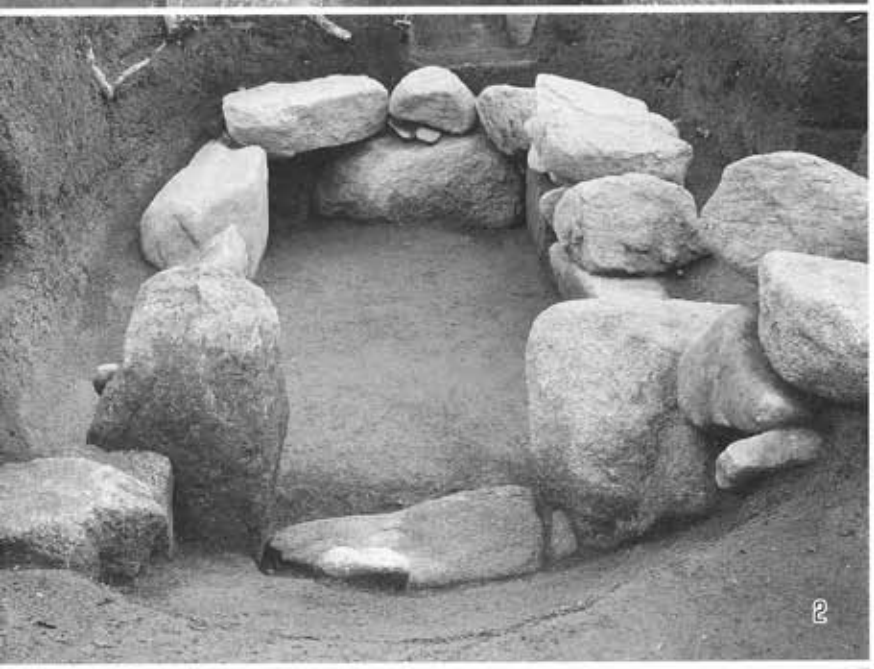
2．ST001～ST003古墳原景(南から)

猿嶽A遺跡

1．ST001古墳原景(南から)

2．ST001古墳全景(南西から)

3．ST001古墳墳丘土層(南西から)



猿嶽A遺跡

1．ST001古墳石室(北西から)

2．ST001古墳石室(南西から)

3．ST001古墳玄門部(北東から)

猿嶽A遺跡

1．ST002古墳原景(南から)

2．ST002古墳全景(南西から)

3．ST002古墳墳丘土層(南西から)

猿嶽A遺跡

1．ST002古墳石室楯石(南西から)

2．ST002古墳石室閉塞(南西から)

3．ST002古墳石室閉塞(北東から)

猿嶽A遺跡

1．ST002古墳石室(北西から)

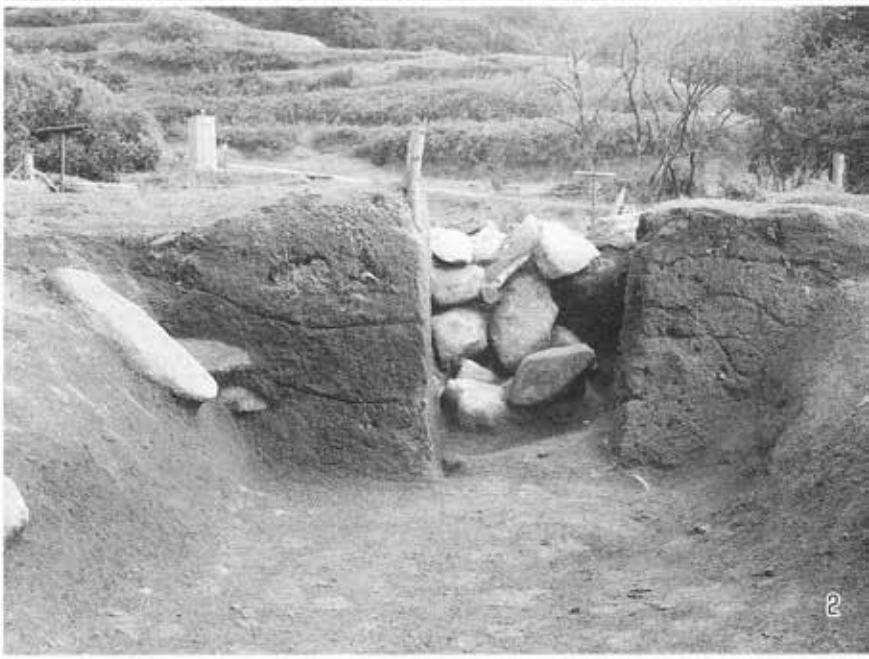
2．ST002古墳土器出土状況(南西から)

猿嶽A遺跡

1．ST003古墳原景(東から)

2．ST003古墳全景(西から)

3．ST003古墳全景(東から)



猿嶽A遺跡

1．ST003古墳葺石(南から)

2．ST003古墳閉塞部土層(西から)

3．ST003古墳閉塞(西から)

猿嶽A遺跡

1．ST003古墳石室(南から)

2．ST003古墳玄門部(東から)

猿嶽A遺跡

1．ST005古墳原景(南から)

2．ST005古墳周溝(南東から)

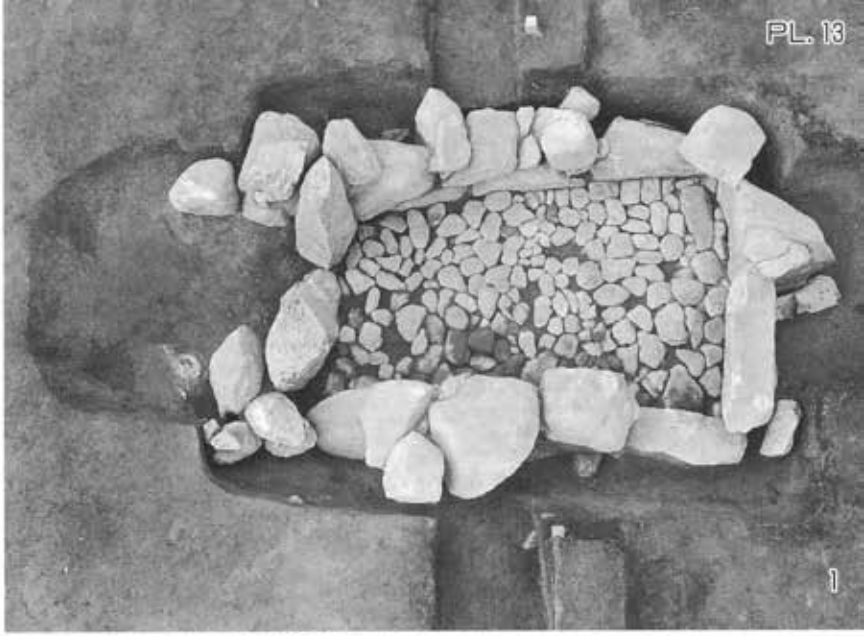
3．ST006古墳全景(西から)

猿嶽A遺跡

1．ST006古墳遺物出土状況

2．ST006古墳遺物出土状況

3．ST006古墳遺物出土状況



1

2

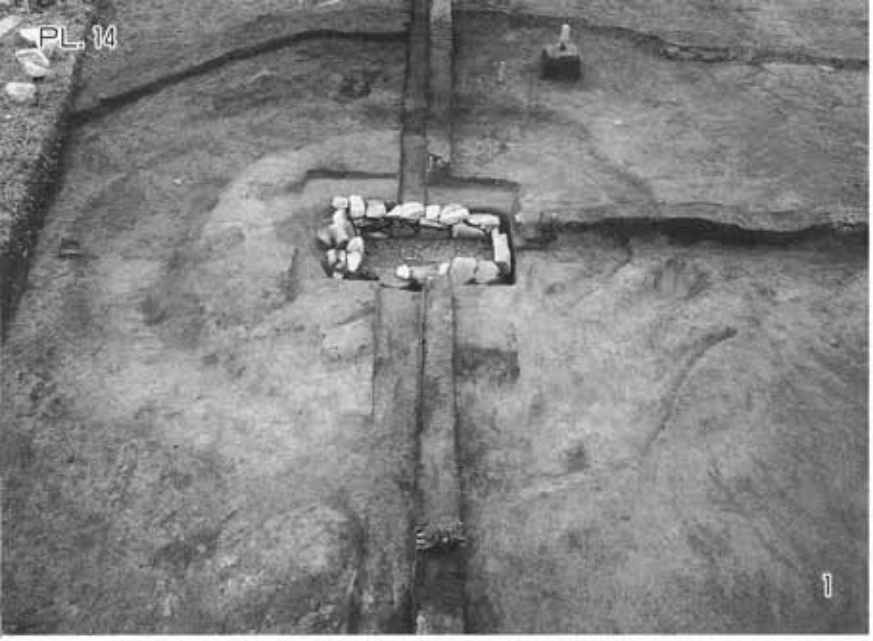
3

猿嶽A遺跡

1．ST006古墳石室(南から)

2．ST006古墳石室(西から)

3．ST006古墳玄門部(東から)

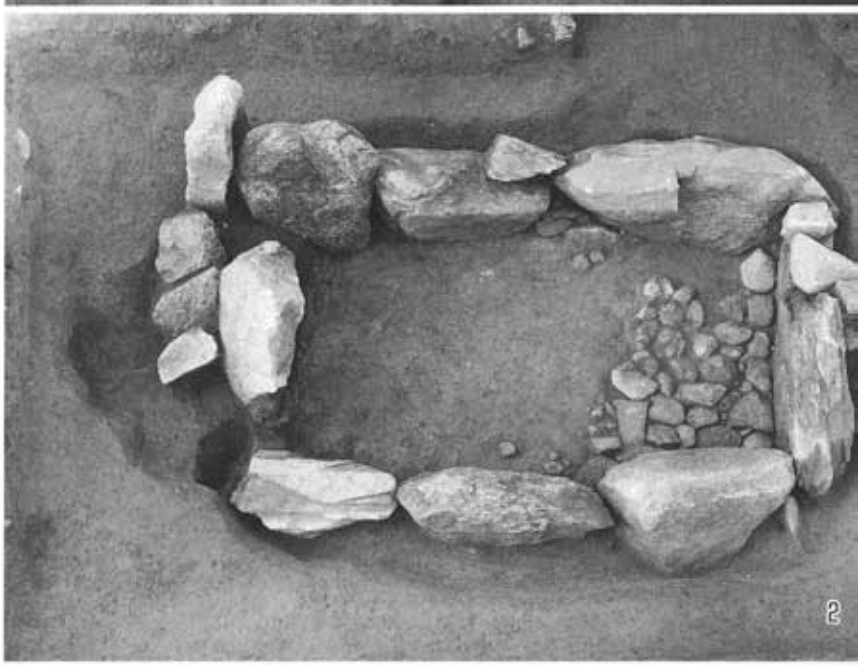


猿嶽A遺跡

1．ST007古墳全景(南から)

2．ST007古墳石室(南から)

3．ST007古墳閉塞(東から)

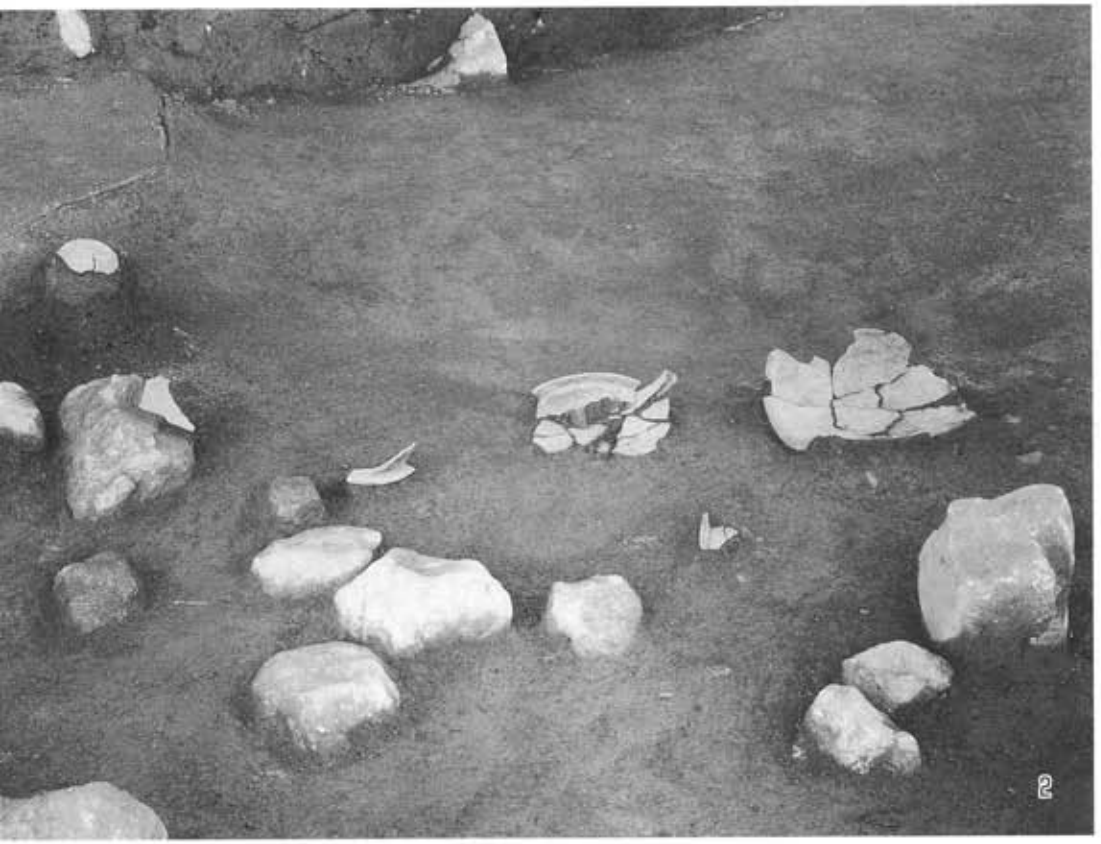


猿嶽A遺跡

1．ST008古墳全景(南東から)

2．ST008古墳石室(南東から)

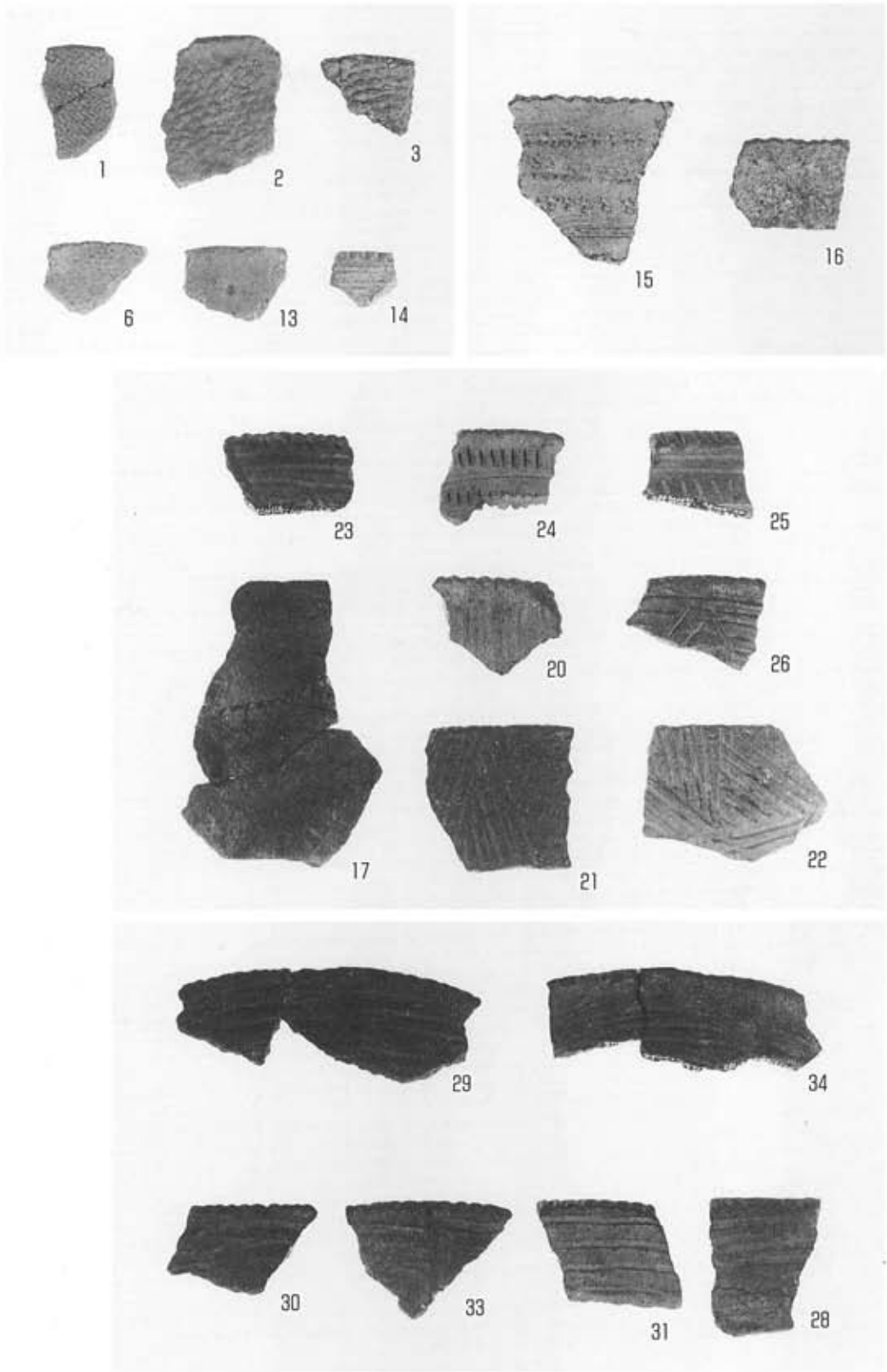
3．ST008古墳閉塞(北東から)



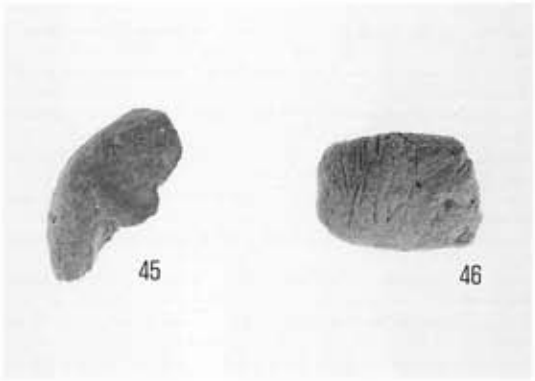
猿嶽A遺跡

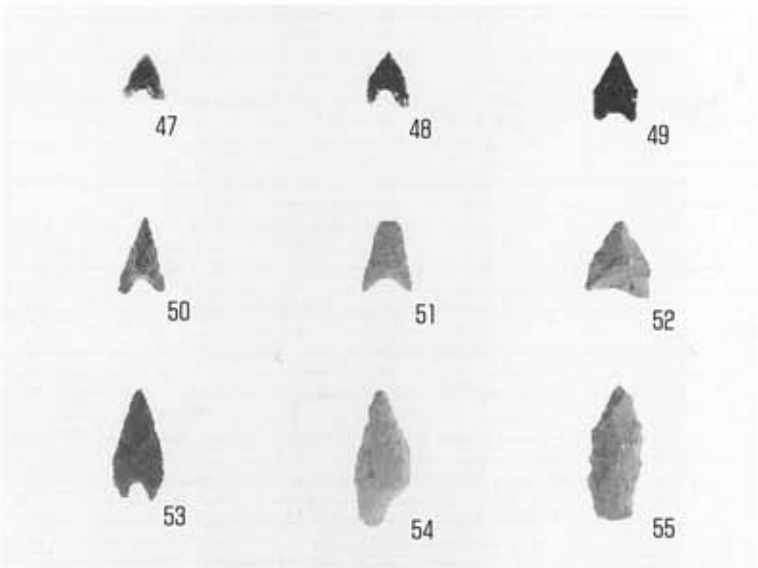
1．SK009土壙(南から)

2．SK009土壙遺物出土状況(南から)



猿嶽A遺跡　縄文早・前期の土器





猿嶽A遺跡　縄文土器 37
土製品 45・46
石器 47～55，65～70

猿嶽A遺跡　SK009出土弥生土器 72・74・75
ST001出土土師器 84・85，須恵器 86
ST002出土土師器 90，須恵器 94・96

91

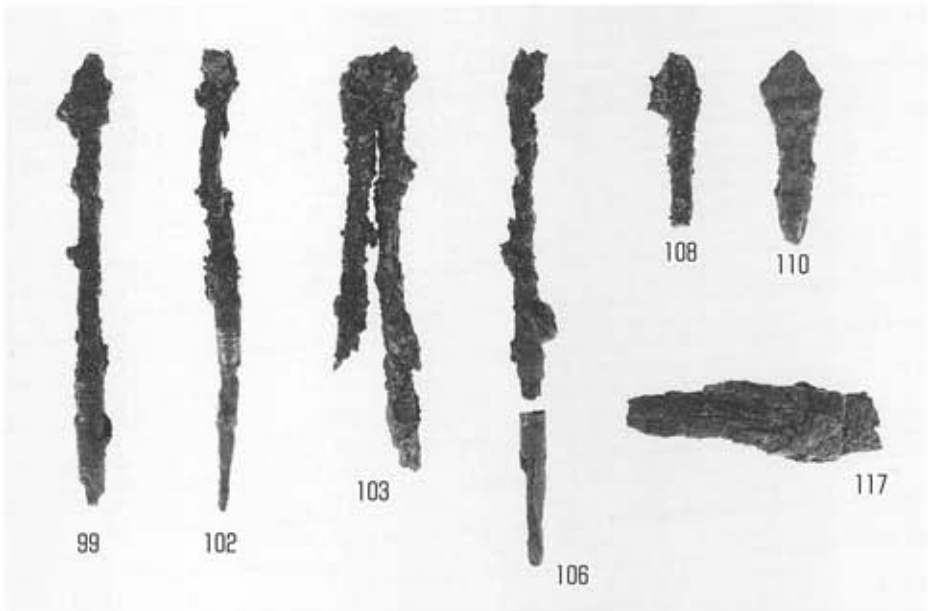
92

97

146

147

149


99

102

103

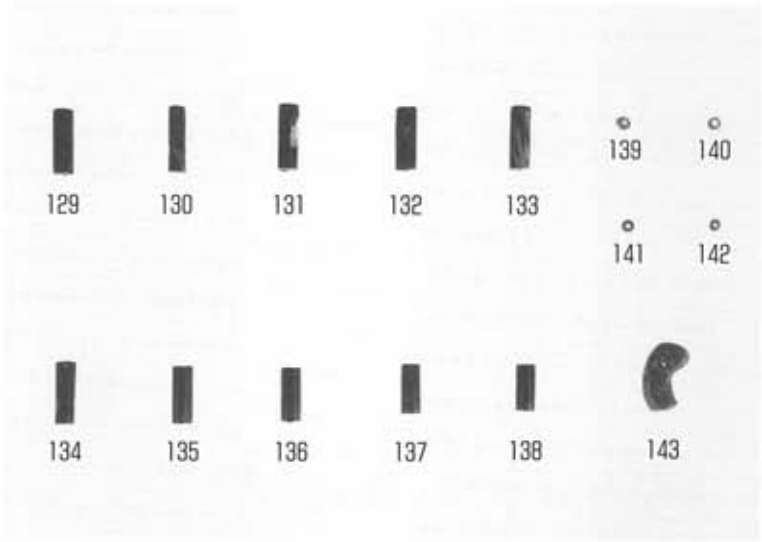
106

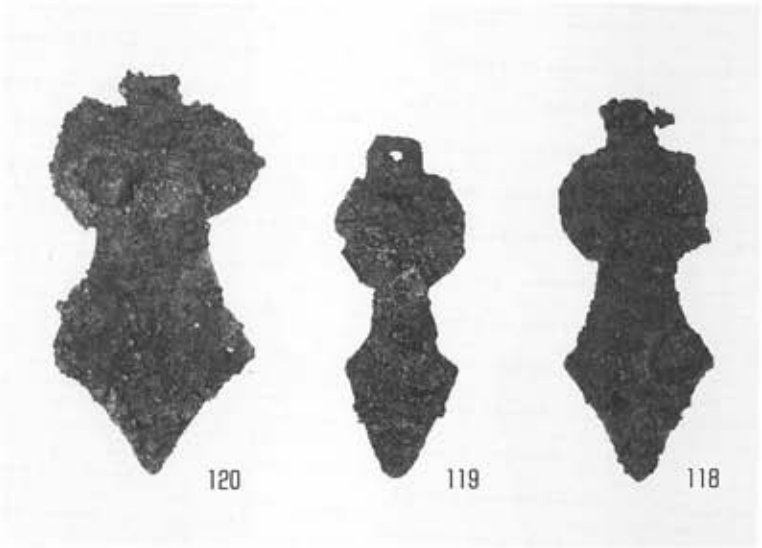
108

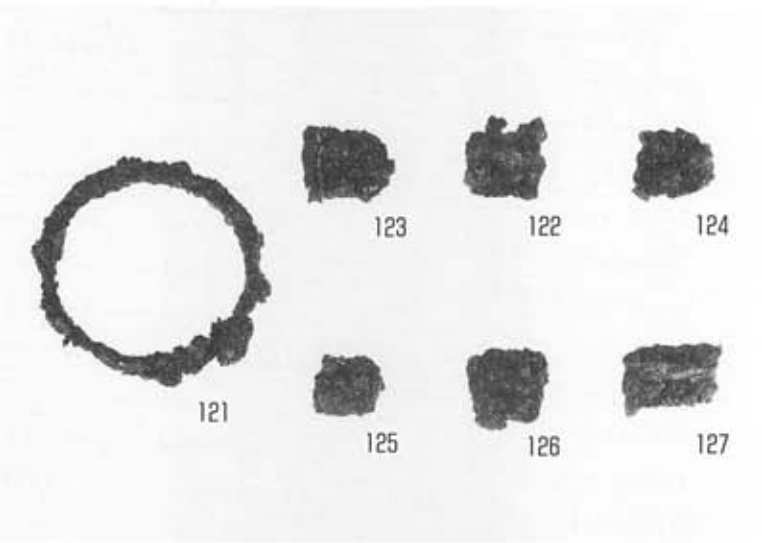
110

117

猿嶽A遺跡　ST002出土須恵器 91・92　　ST006出土須恵器 146
ST003出土須恵器 97　　ST007出土土師器 147・149
ST006出土鉄器鉄鏃 99・102・103・106・108・110，刀子 117







猿嶽A遺跡　ST006出土　玉類 129～143
馬具 118～127
鉄刀 98

猿嶽Ｃ・Ｄ遺跡

猿撫C・D遺跡

1．遺跡全景(西から)

2．C遺跡近景(南から)

猿嶽C・D遺跡

1．ST001古墳全景(南から)

2．ST001古墳近景(南から)

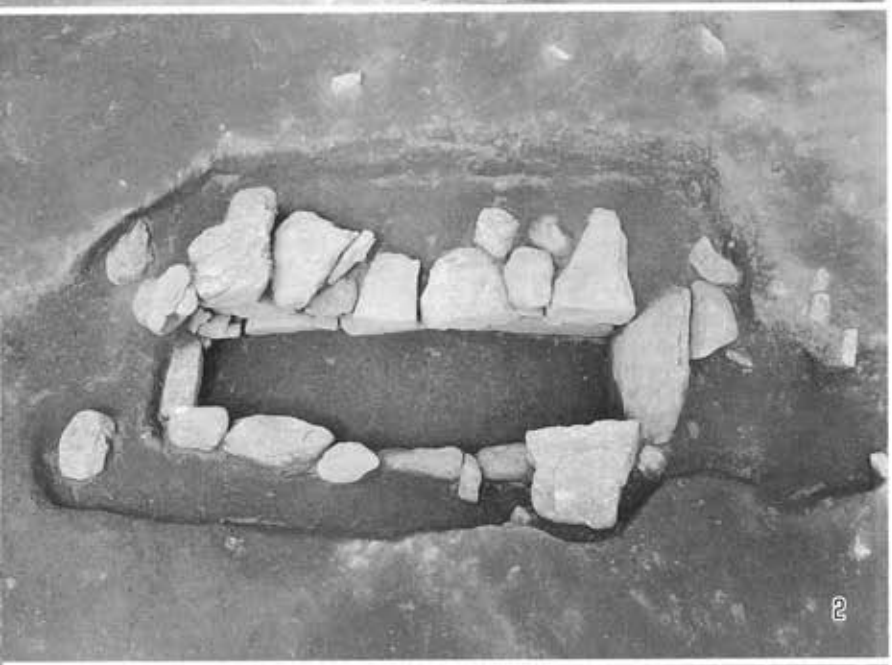
3．ST001古墳石室(南から)

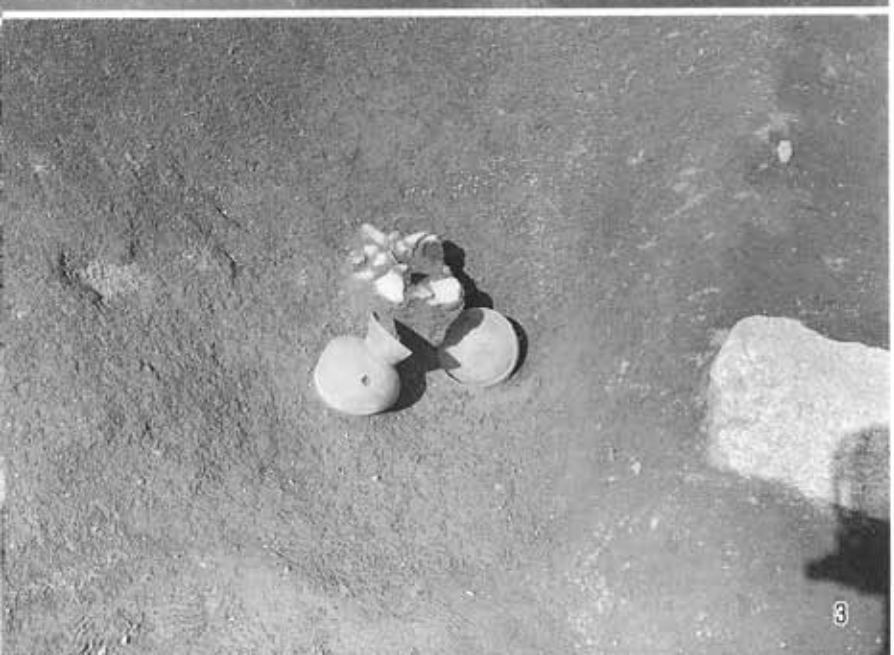
猿嶽C・D遺跡

1．ST001古墳土層(南から)

2．ST001古墳土層(南から)

3．ST002古墳全景(西から)





猿嶽C・D遺跡

1．ST003古墳全景(北から)

2．ST003古墳石室(南から)

3．ST003古墳西側周溝内
遺物出土状況(南から)

1

2

3

狼嶽C・D遺跡

1．ST004古墳全景(西から)

2．ST005古墳全景(南から)

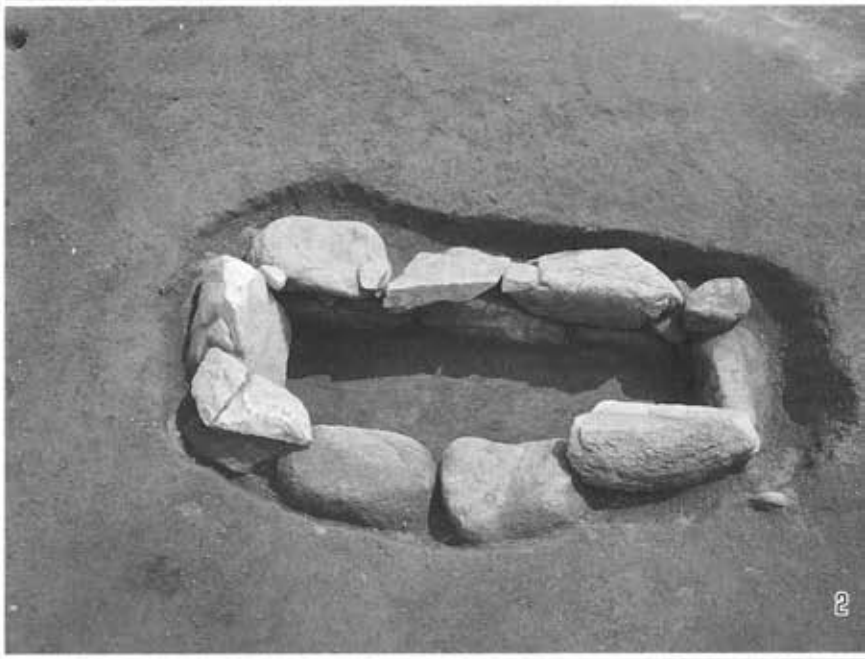
3．ST005古墳石室(南東から)

猿嶽C・D遺跡

1．ST006古墳石室(南から)

2．ST007古墳全景(東から)

3．ST007古墳石室(南から)

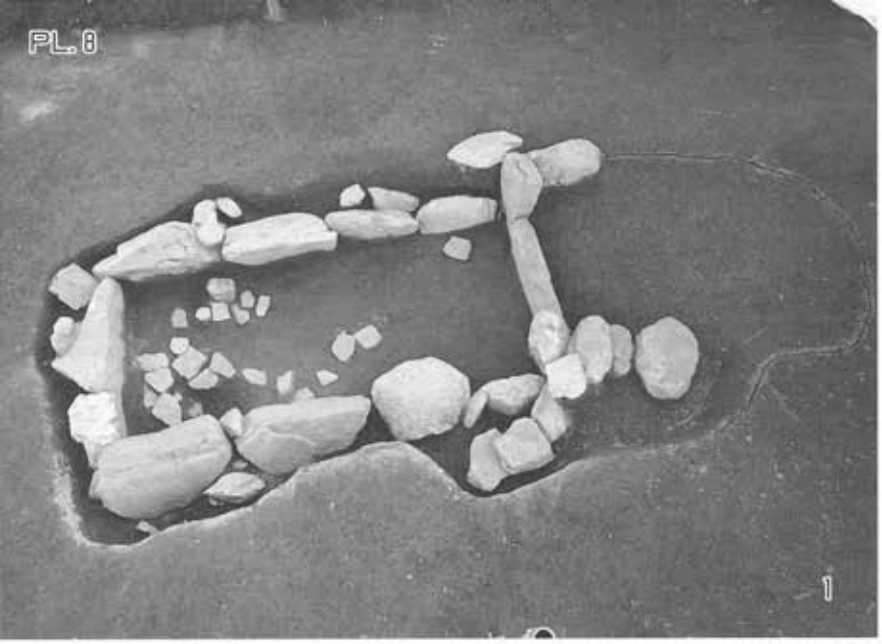


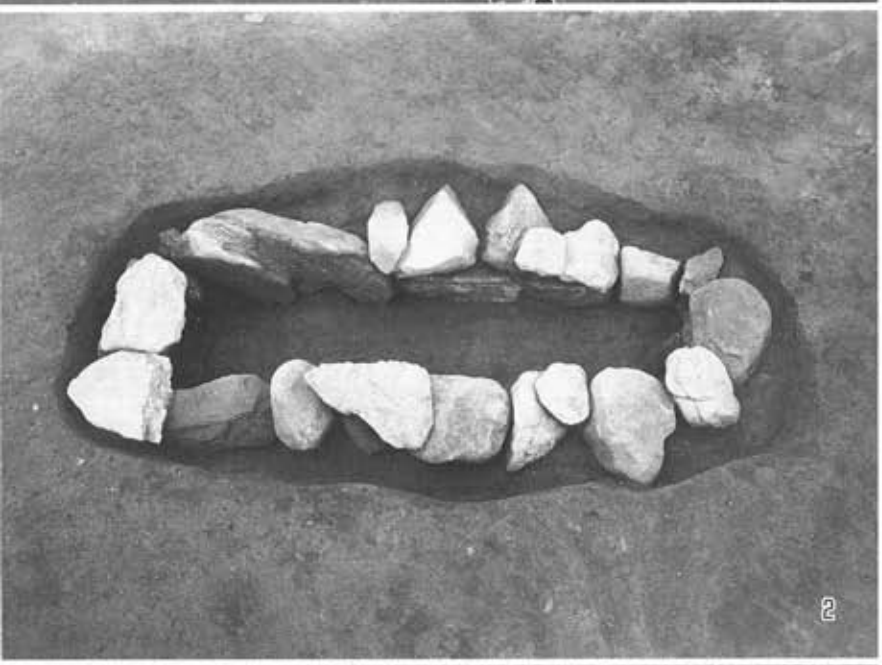
猿嶽C・D遺跡

1．ST008古墳全景(北西から)

2．ST008古墳石室(北西から)

3．ST009古墳全景(南から)





猿嶽C・D遺跡

1．ST009古墳石室(北から)

2．ST010古墳石室(北から)

3．ST011古墳全景(北から)

猿嶽C・D遺跡

1．ST012古墳石室(北から)

2．ST013古墳石室(西から)

3．ST014古墳石室(南から)

猿嶽C・D遺跡

1．ST015古墳石室(北から)

2．ST016古墳全景(西から)

3．ST020古墳全景(北東から)

猿嶽C・D遺跡

1．ST020古墳石室(東から)

2．ST024古墳石室(北から)

3．ST025古墳石室(西から)

猿嶽C・D遺跡

1．ST025古墳石室(北から)

2．ST026古墳遠景(西から)

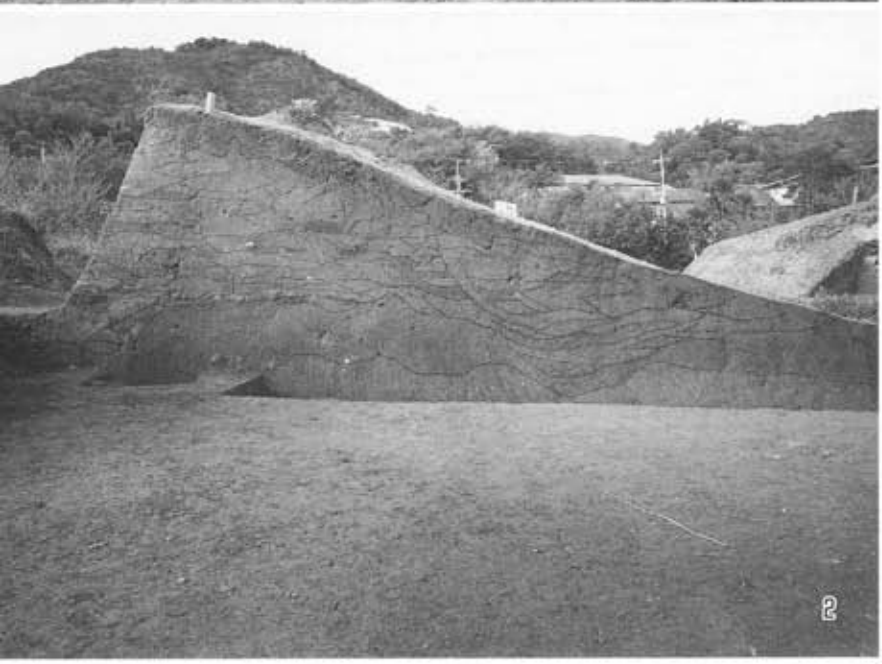
3．ST026古墳全景(北から)

猿嶽C・D遺跡

1．ST026古墳石室(東から)

2．ST026古墳墓道内遺物出土状況
(南から)

3．ST026古墳墳丘遺物出土状況
(南西から)



猿嶽C・D遺跡

1．ST026古墳西側墳丘土層
（南から）

2．ST026古墳東側墳丘土層近景
（南から）

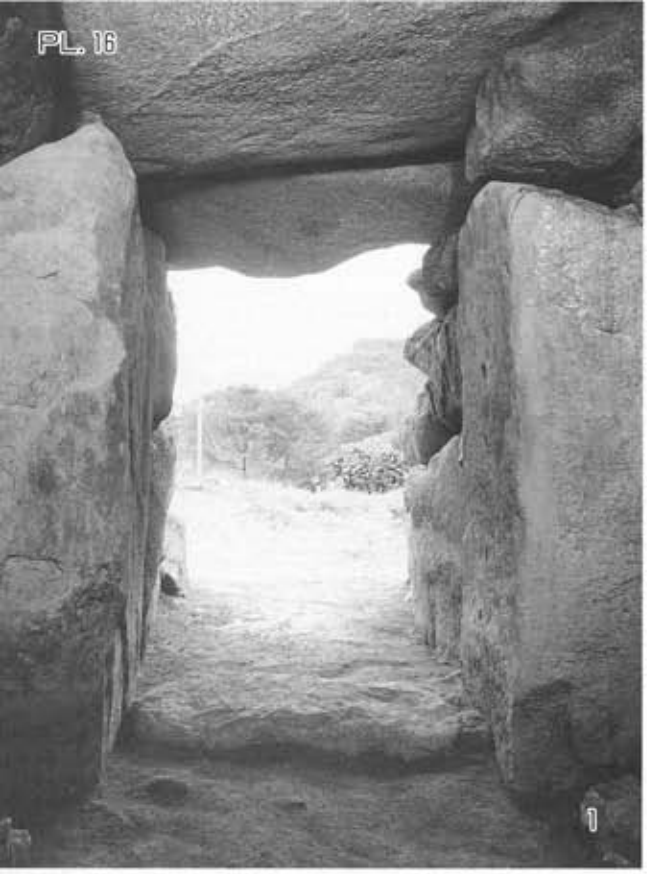
3．ST027古墳原景（南から）

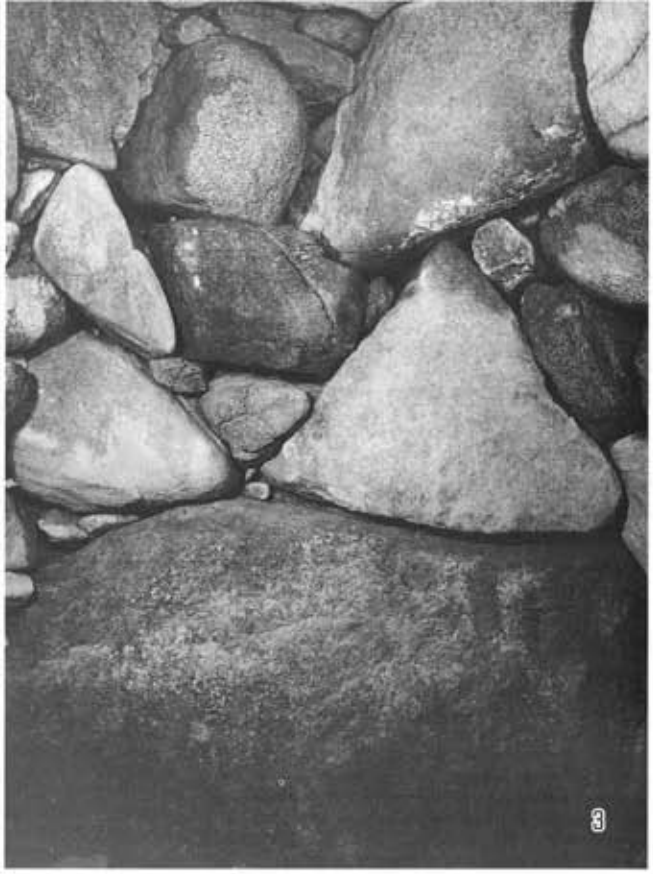
猿嶽C・D遺跡

1．ST027古墳全景(南西から)

2．ST027古墳全景(南から)

3．ST027古墳全景(東から)



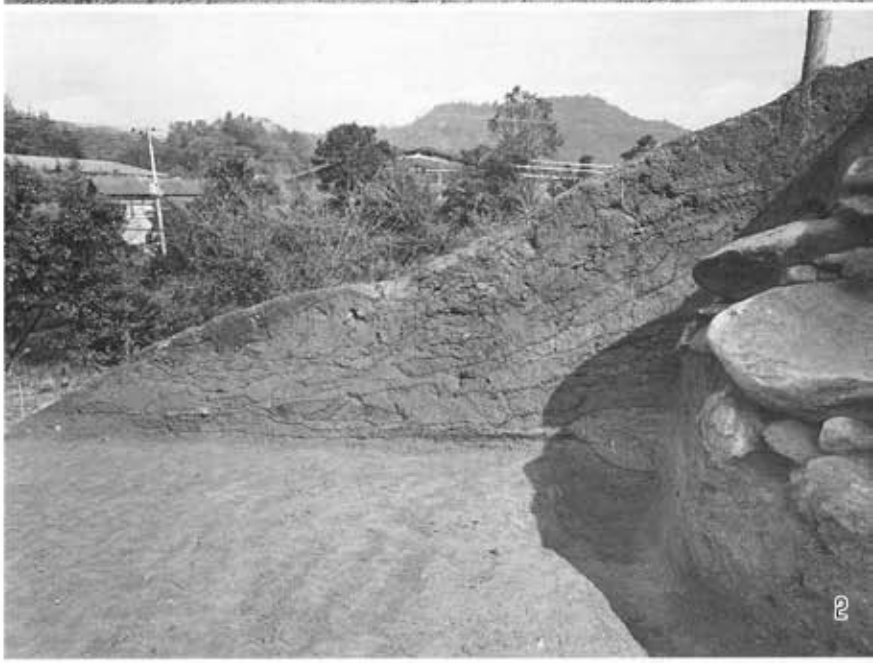


猿嶽C・D遺跡

1．ST027古墳羨道部(石室内から)

2．ST027古墳羨道部(東から)

3．ST027古墳奥壁



猿嶽C・D遺跡

1．ST027古墳墳丘南側土層（東から）

2．ST027古墳墳丘西側土層（南から）

3．ST027古墳墳丘北側土層（東から）

猿嶽C・D遺跡

1．SB023掘立柱建物(西から)

2．SD029溝(北から)

13

10

48

16

15

87

51

11

33

19

60

18

64

59

58

27

24

25

38

39

40

78

79

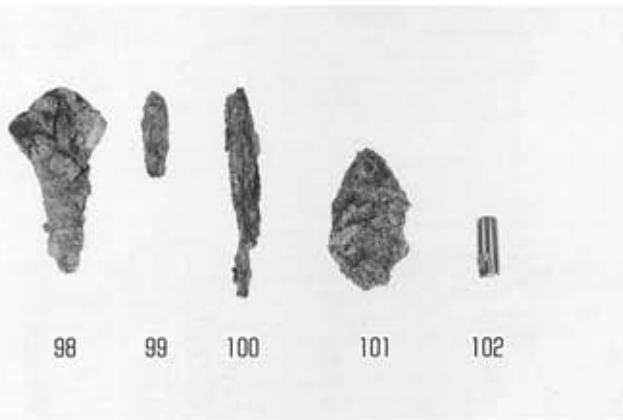
95

86

93

76

85


98　99　100　101　102

103

104

106

118

117

115

123

112

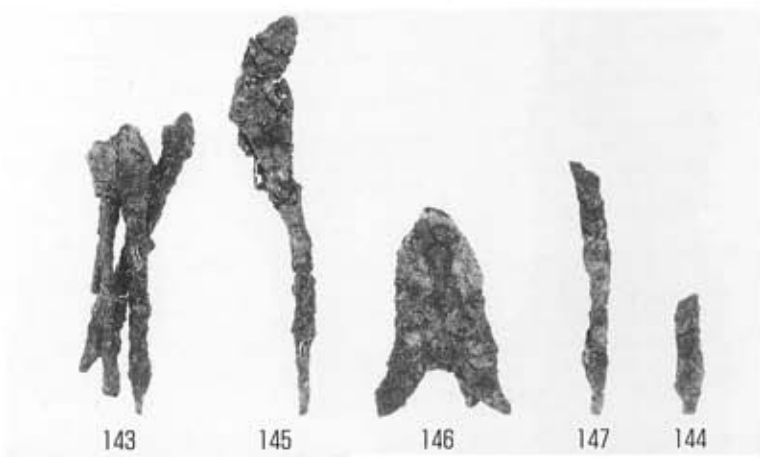
113

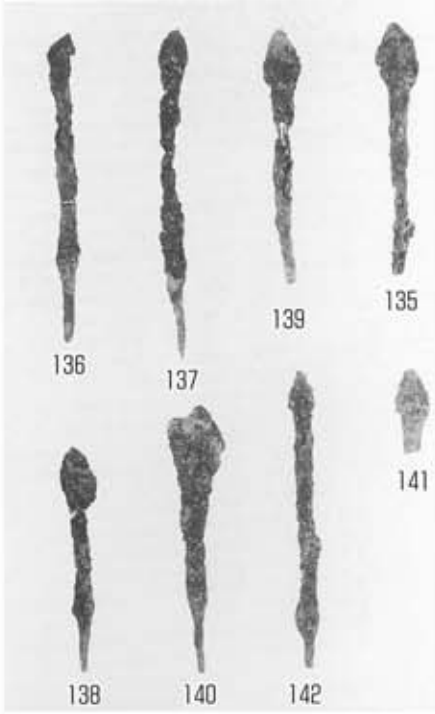
126

128

149

130


143
145
146
147
144


136
137
139
135
141
138
140
142

149

151

153

159

160

174

178

180

183

184

182

193

195

198

205

221

210

203

211

214

222

237

282

229

240

235

278

242

251

285

254

256

286

288

261

270

273

292

294

290

272

291

274

277

298

299

312

311

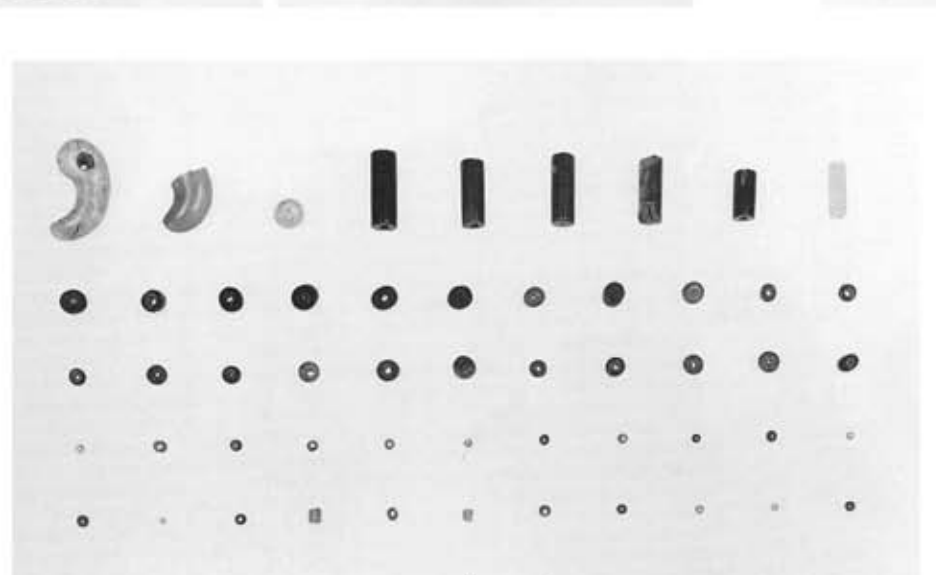
300

307

308

310

314


315～375

380

379

381

404

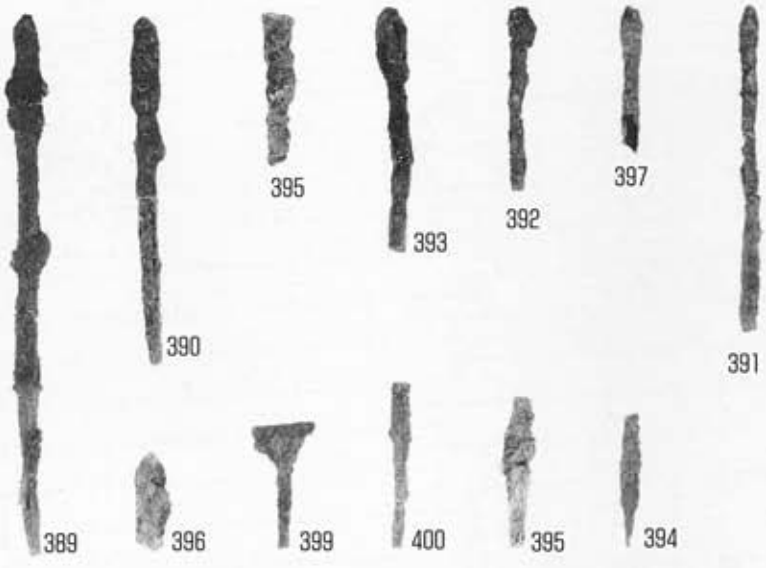
403

401

405

402

406



408

409

410

411

413

412

鈴熊遺跡

鈴熊遺跡

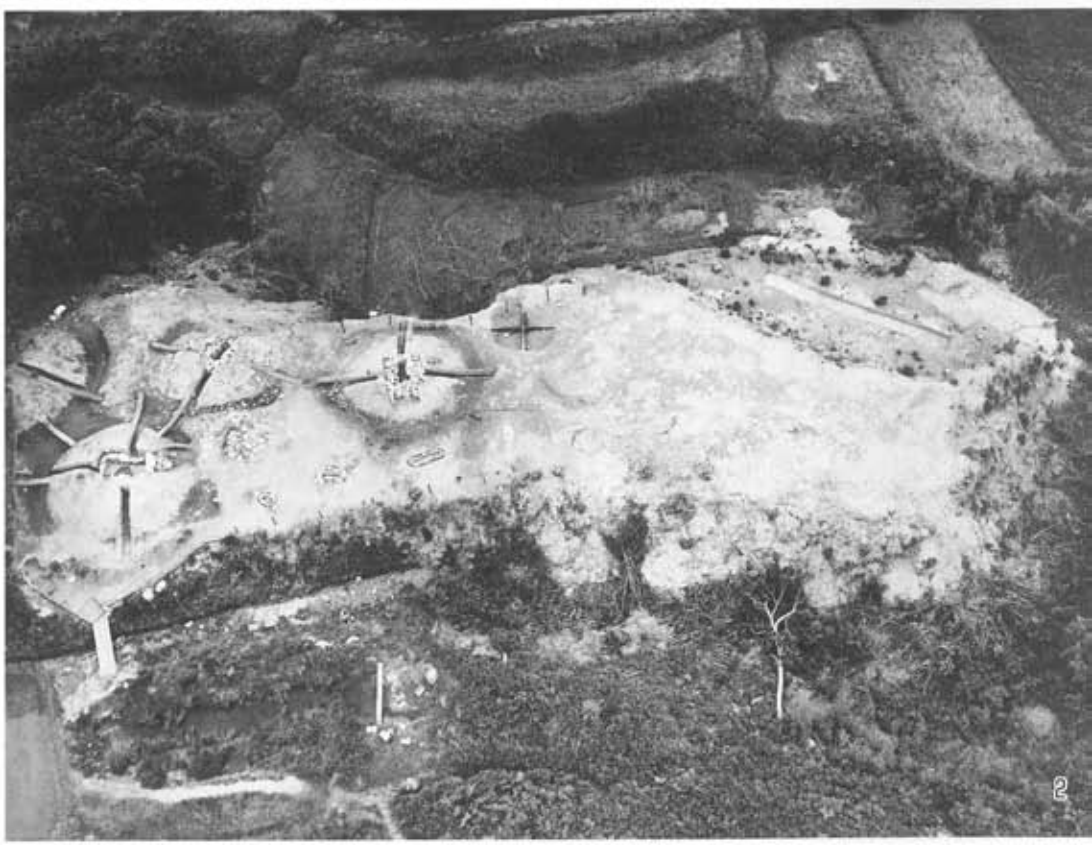
1．調査区遠景(西から)手前は西原遺跡

2．調査区遠景(南西から)

鈴熊遺跡

1．遺跡調査前全景(南西から)

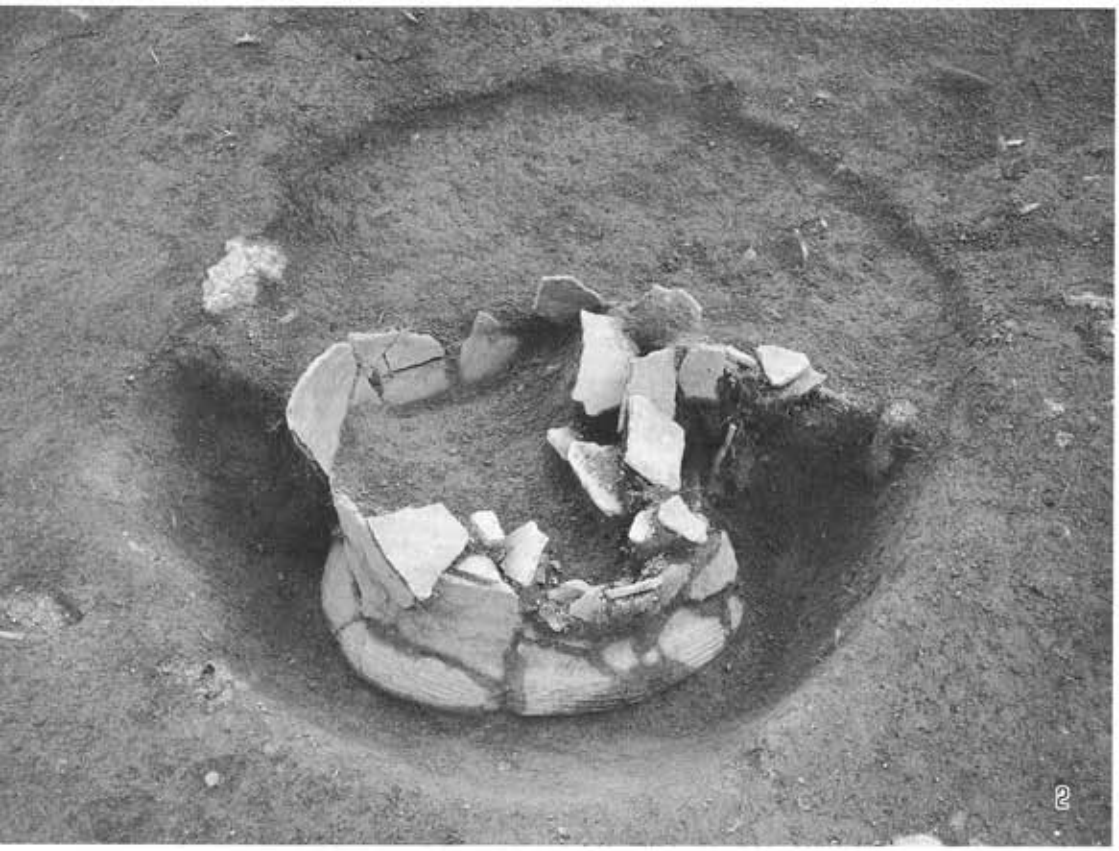
2．遺跡調査前全景(北東から)



鈴熊遺跡

1．遺跡全景(東から，さらに西の調査区は西原遺跡)

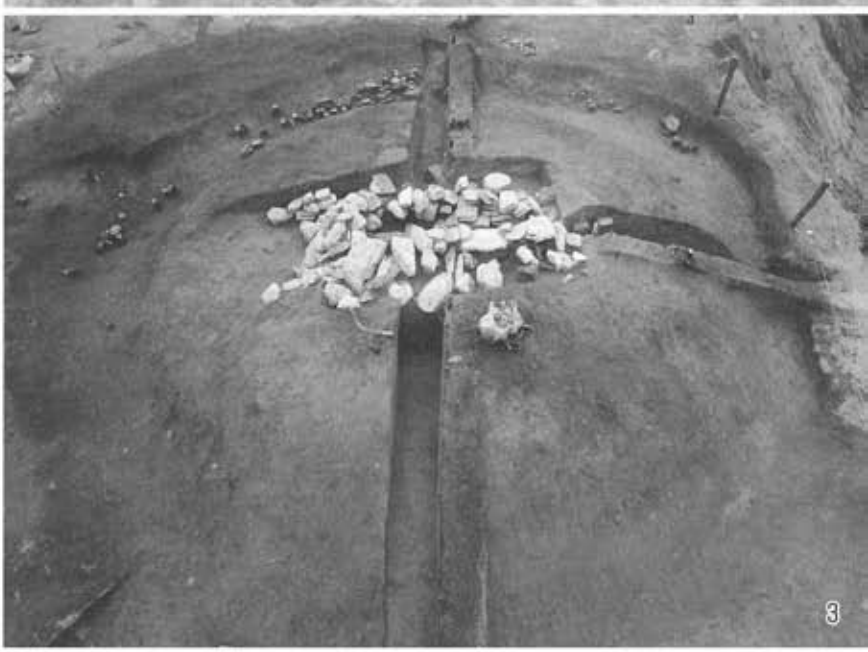
2．遺跡全景調査後(西上空から)



鈴熊遺跡

1．SJ013甕棺墓(北から)

2．SJ013甕棺墓(東から)

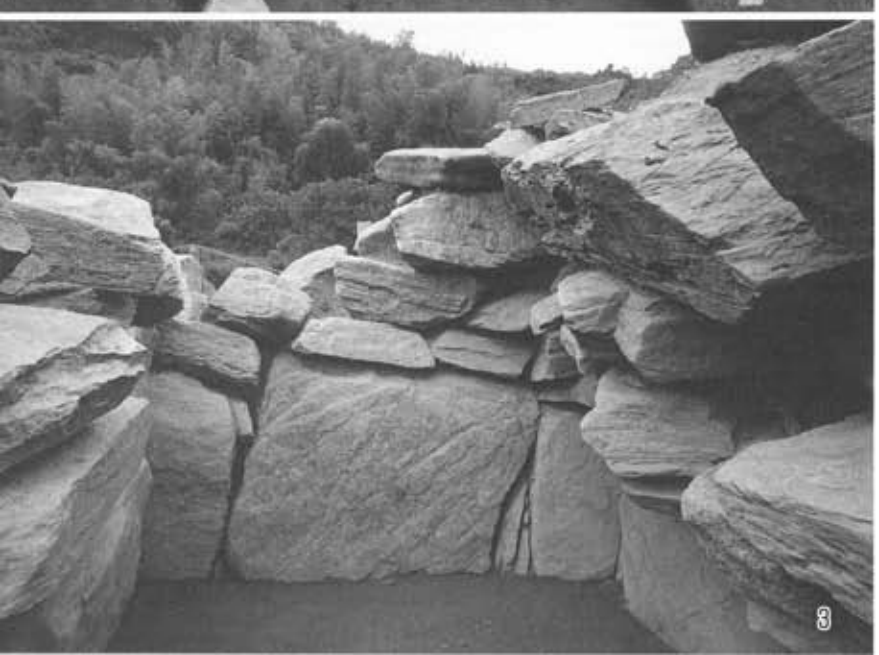


鈴熊遺跡

1．ST001古墳全景 調査前
(南東から)

2．ST001・002・003・004古墳
全景 盛土除去前(南から)

3．ST001古墳全景 盛土除去前
(南から)



鈴熊遺跡

1．ST001古墳全景 盛土除去後
(南から)

2．ST001古墳石室全景(西から)

3．ST001古墳玄室奥壁(西から)

鈴熊遺跡

1．ST001古墳玄門部(東から)

2．ST001古墳石室右側壁・奥壁
(西から)

3．ST001古墳玄室左側壁
(南から)

鈴熊遺跡

1．ST001古墳石室内遺物出土状況（北から）

2．ST001古墳周溝B区 土器出土状況（北北西から）

3．ST001古墳周溝B区 土器出土状況（北東から）

鈴熊遺跡

1．ST002古墳全景 調査前
（南から）

2．ST002古墳全景 盛土除去前
（南東から）

3．ST002古墳石室全景（南から）

鈴熊遺跡

1．ST002古墳石室全景(東から)

2．ST002古墳奥壁(東から)

3．ST002古墳玄室右側壁
及び鉄器出土状況(南から)

鈴熊遺跡

1．ST002古墳墳丘A区葺石状況
（南西から）

2．ST002古墳全景 盛土除去後
（南から）

3．ST003古墳全景 調査前
（南東から）

鈴熊遺跡

1．ST003古墳全景 盛土除去前
（南から）

2．ST003古墳石室全景（東から）

3．ST003古墳石室奥壁（南から）

鈴熊遺跡

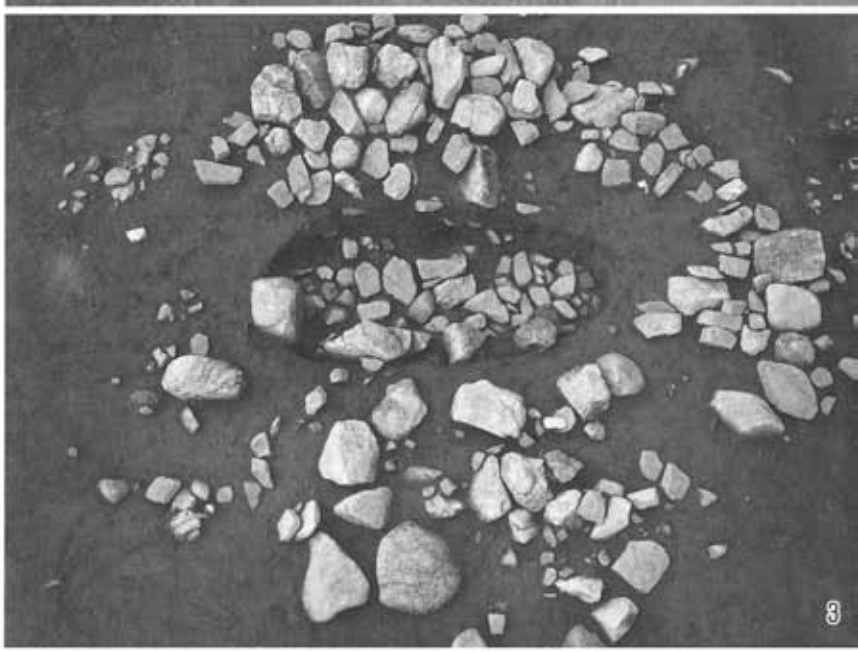
1．ST003古墳玄門部(北から)
2．ST003古墳周溝A区土器出土状況(南から)
3．ST003古墳全景 盛土除去後(南から)

鈴熊遺跡

1．ST004古墳全景 盛土除去前
（南から）

2．ST004古墳全景 盛土除去後
（南から）

3．ST004古墳 墳丘盛土状況
（南から）

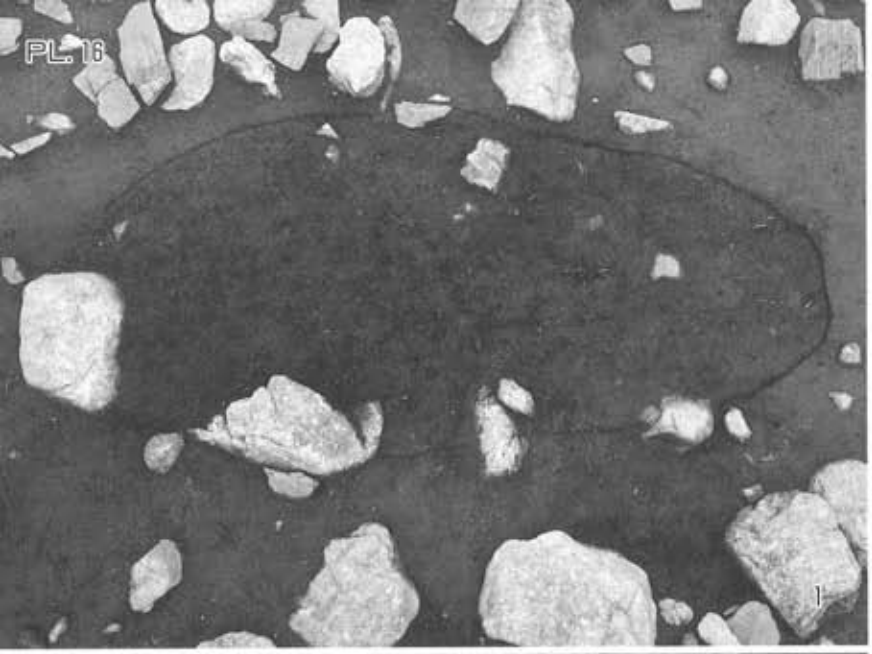


鈴熊遺跡

1．ST004古墳玄室内玄門側
（西から）

2．ST004古墳墳丘土層（東から）

3．ST006古墳全景（南から）

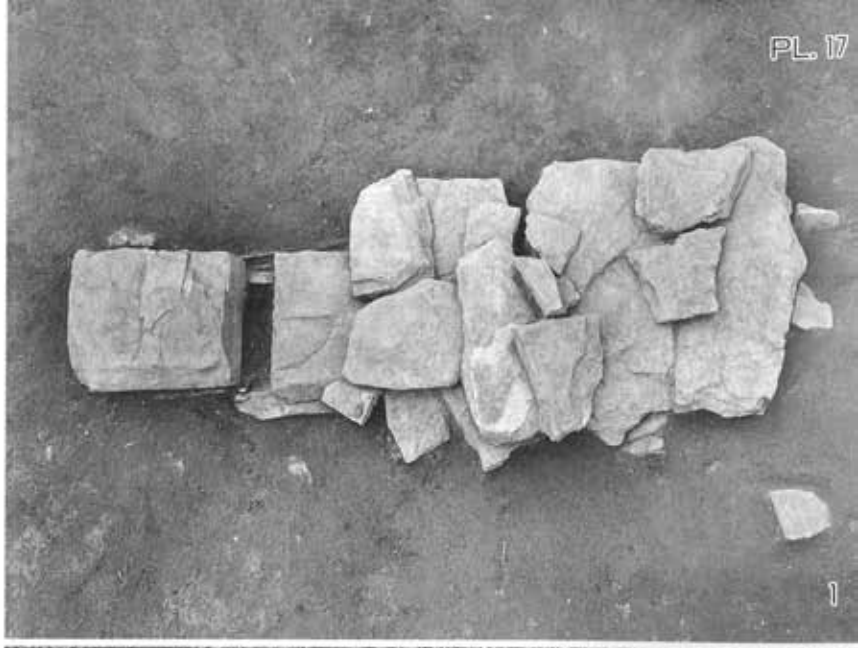


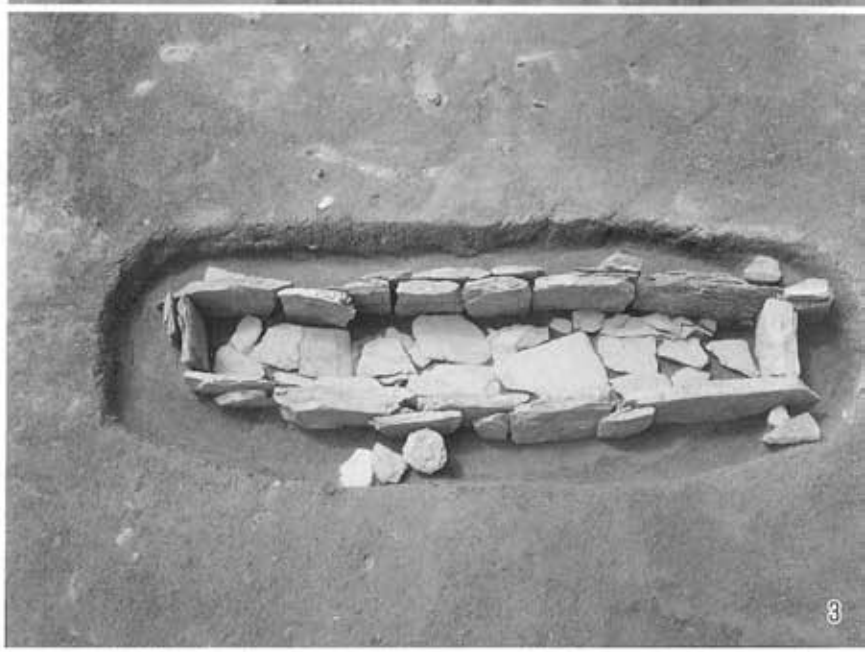
鈴熊遺跡

1．ST006古墳主体部 検出状況
（南から）

2．ST006古墳主体部 落石状況
（北から）

3．ST006古墳主体部（北から）



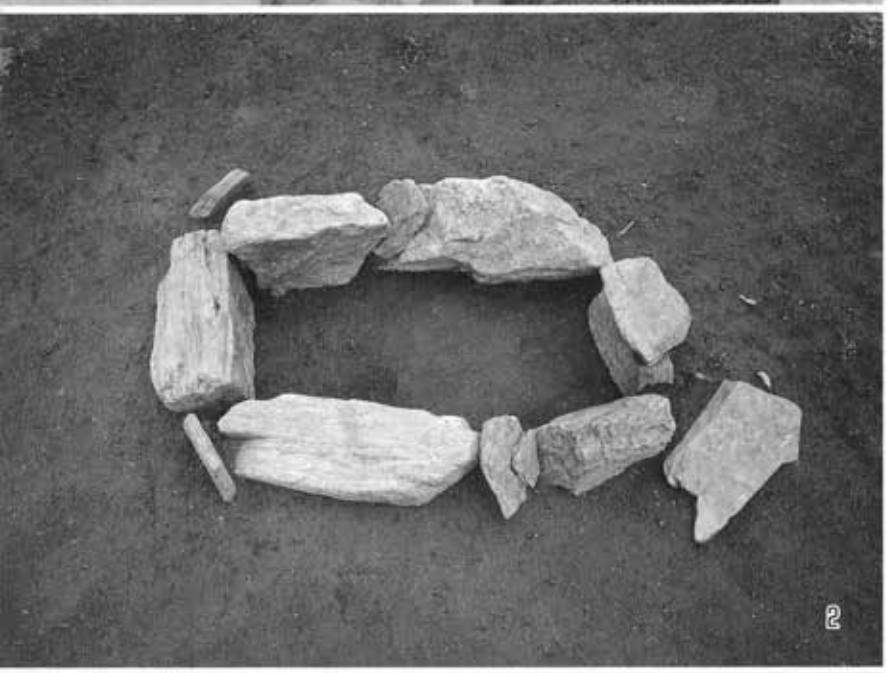


鈴熊遺跡

1．ST011古墳石棺(南から)

2．ST011古墳全景(東から)

3．ST011古墳石棺蓋石除去後
(南から)



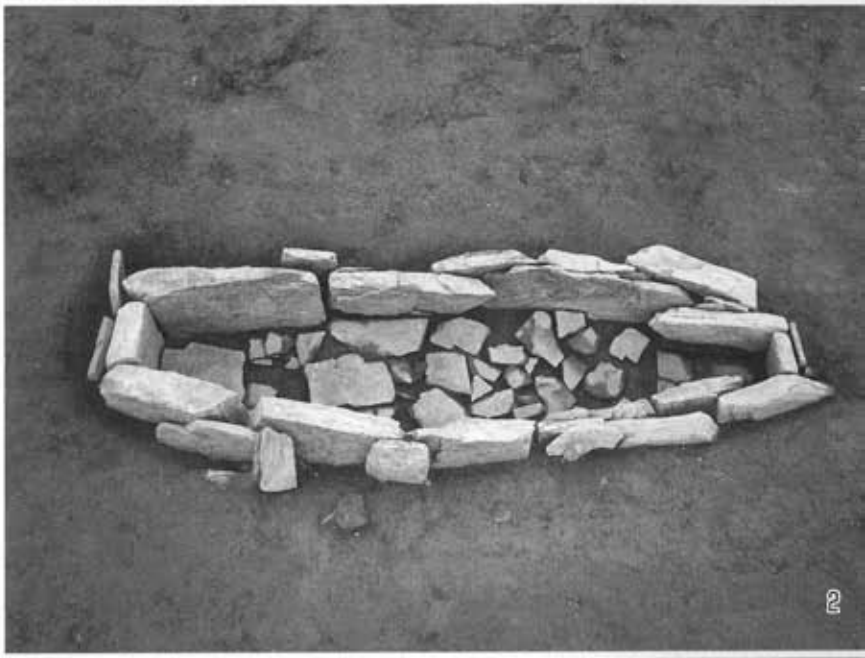
鈴熊遺跡

1．ST011古墳鉋出土状況
（南から）

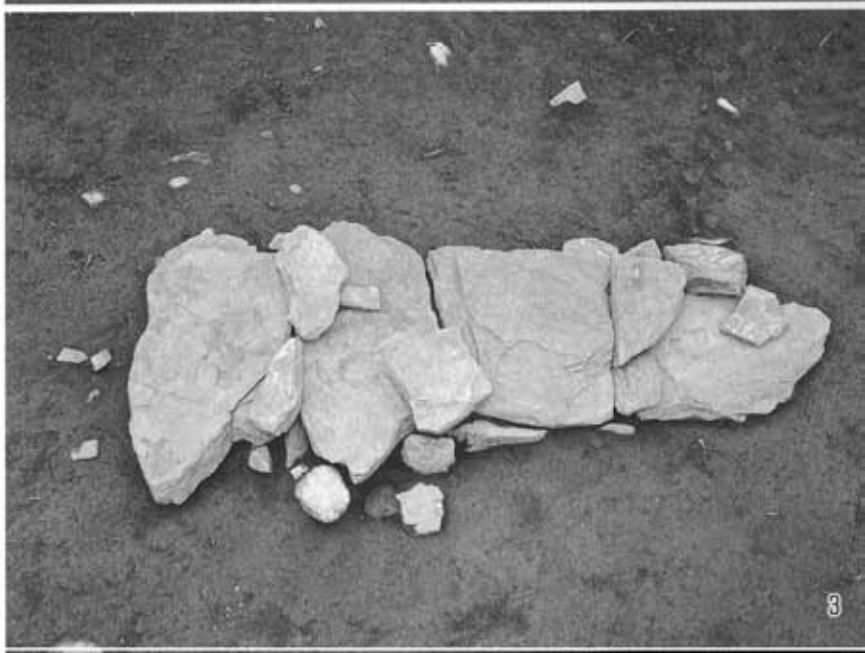
2．SC007箱式石棺墓（西から）

3．SC008箱式石棺墓（東から）

1



2



3

鈴熊遺跡

1．SC008箱式石棺墓(東から)

2．SC009箱式石棺墓 蓋石除去前(東から)

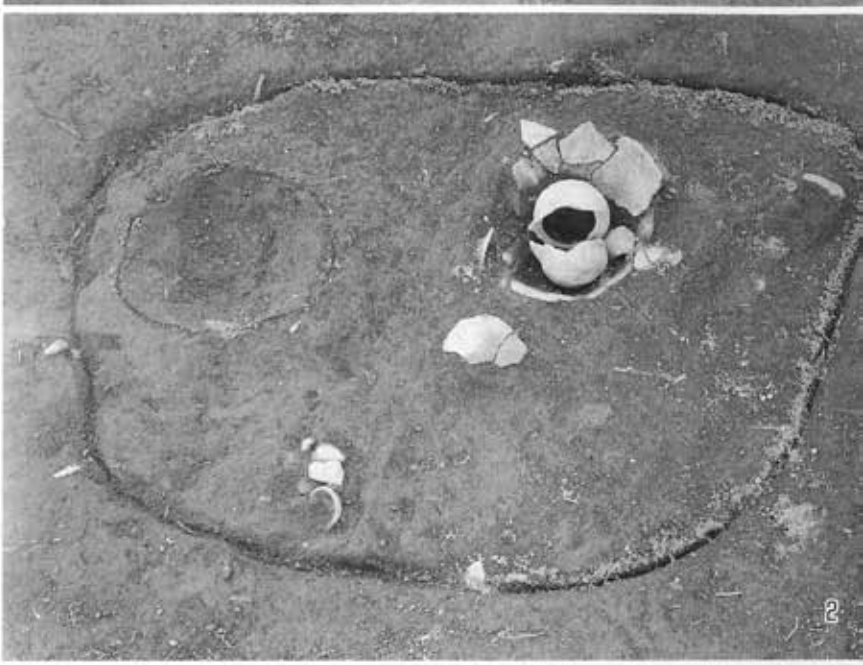
3．SC009箱式石棺墓 蓋石除去後(東から)

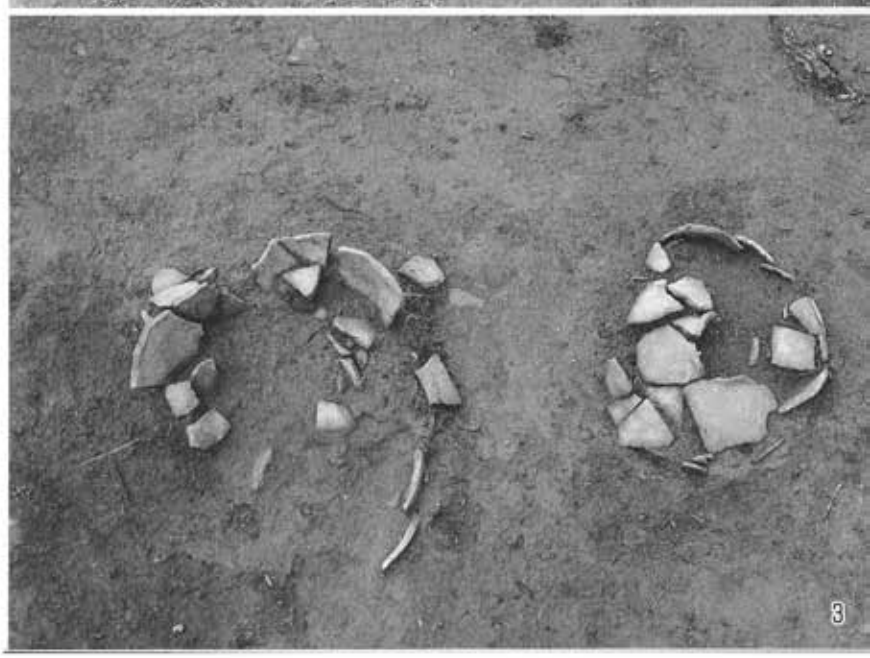
鈴熊遺跡

1．SC009箱式石棺墓施出土状況

2．SK010土壙土器出土状況
（西から）

3．SK010土壙（南から）





鈴熊遺跡

1．SK014土壙土器出土状況
（北から）

2．SK016土壙土器出土状況
（北から）

3．SK016土壙土器出土状況
（北から）

鈴熊遺跡

1．SD012溝状遺構(南東から)

2．SX015敷石遺構(北から)

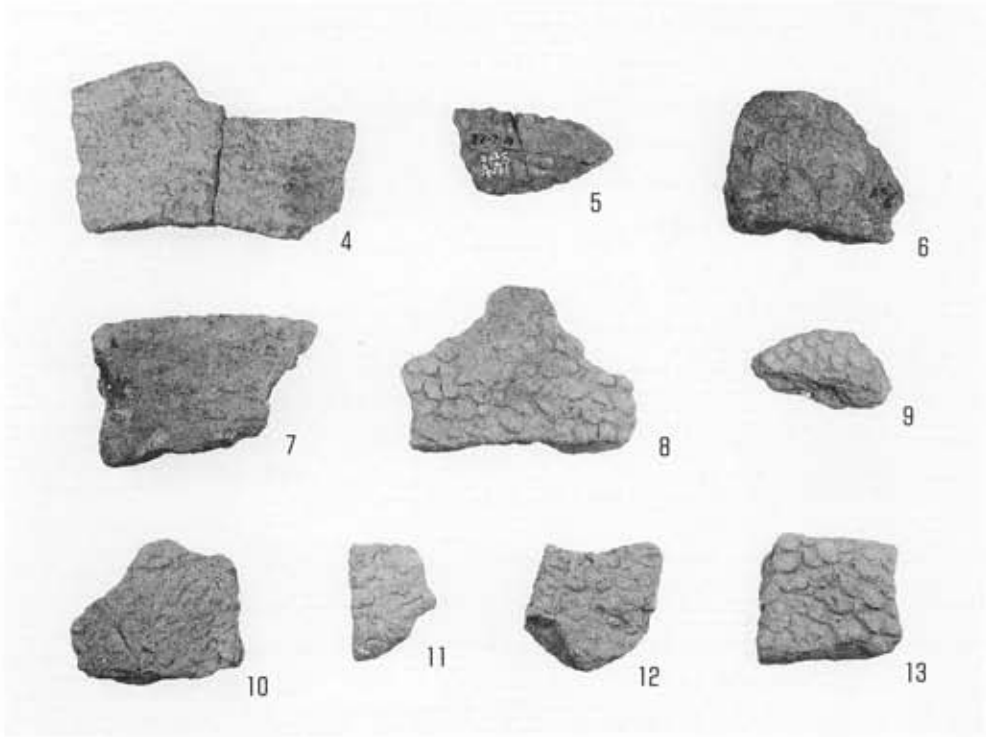
3．SX015敷石遺構(東から)

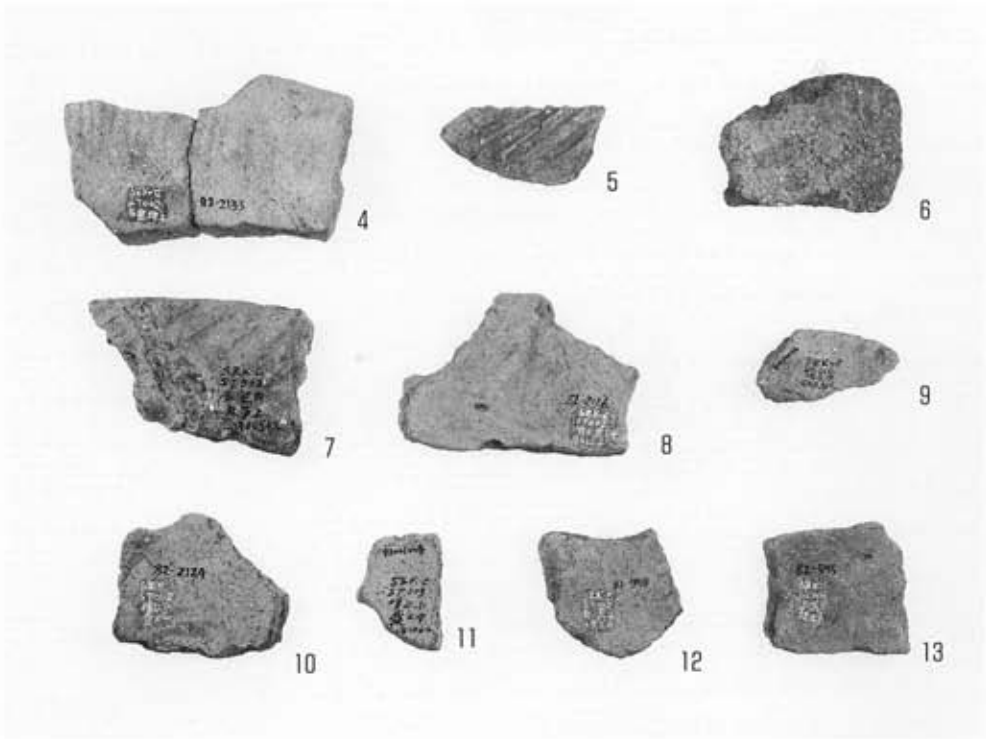
鈴熊遺跡

1．Aトレンチ全景(北東から)

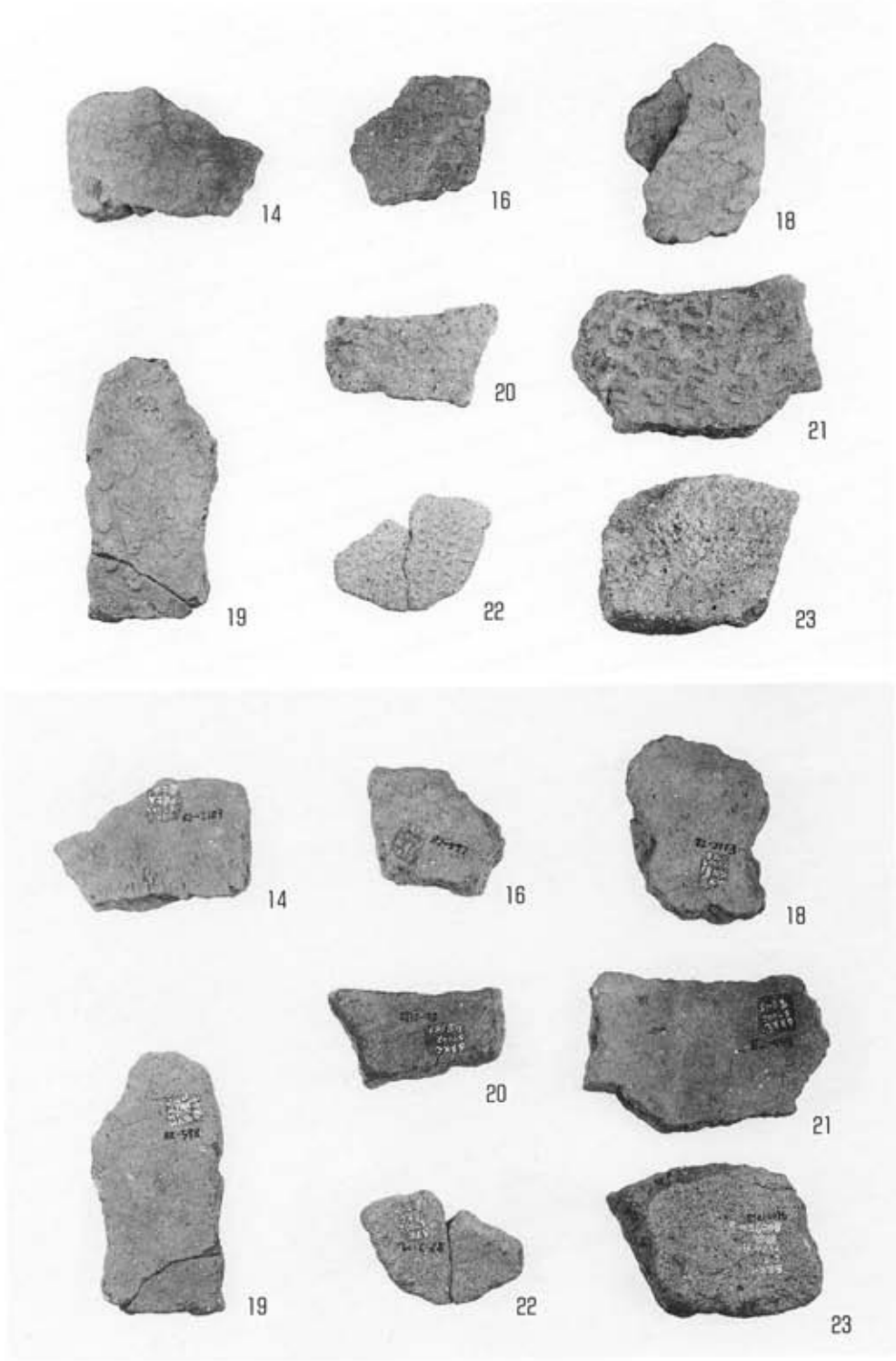
2．Bトレンチ全景(南から)

鈴熊遺跡　縄文土器　1．SJ013　3．3号集石

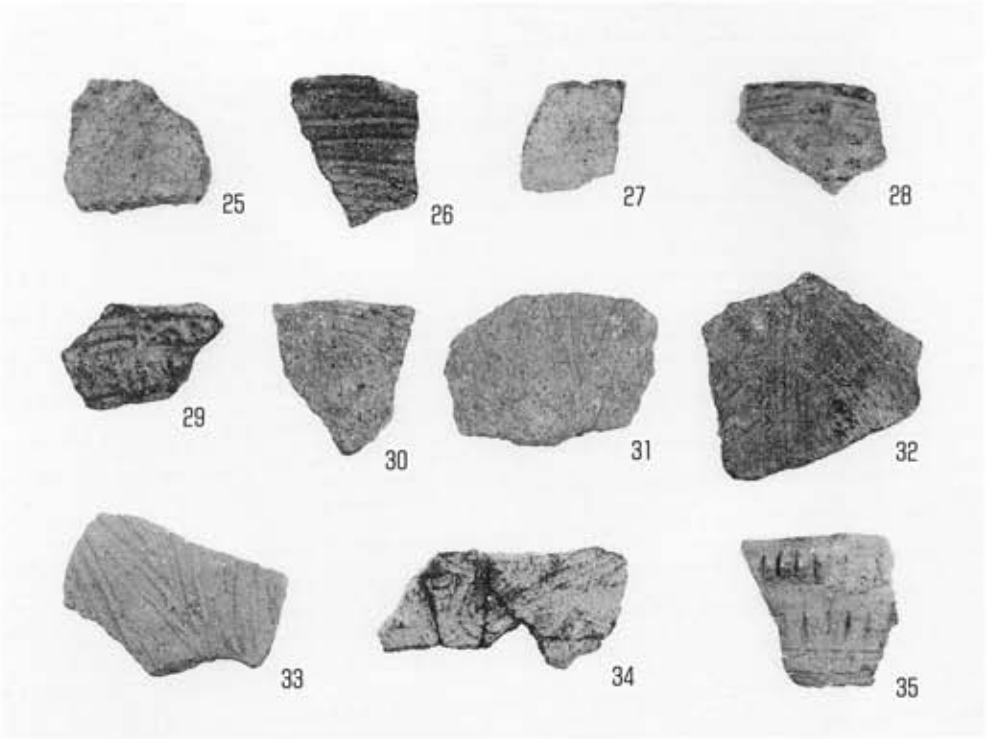


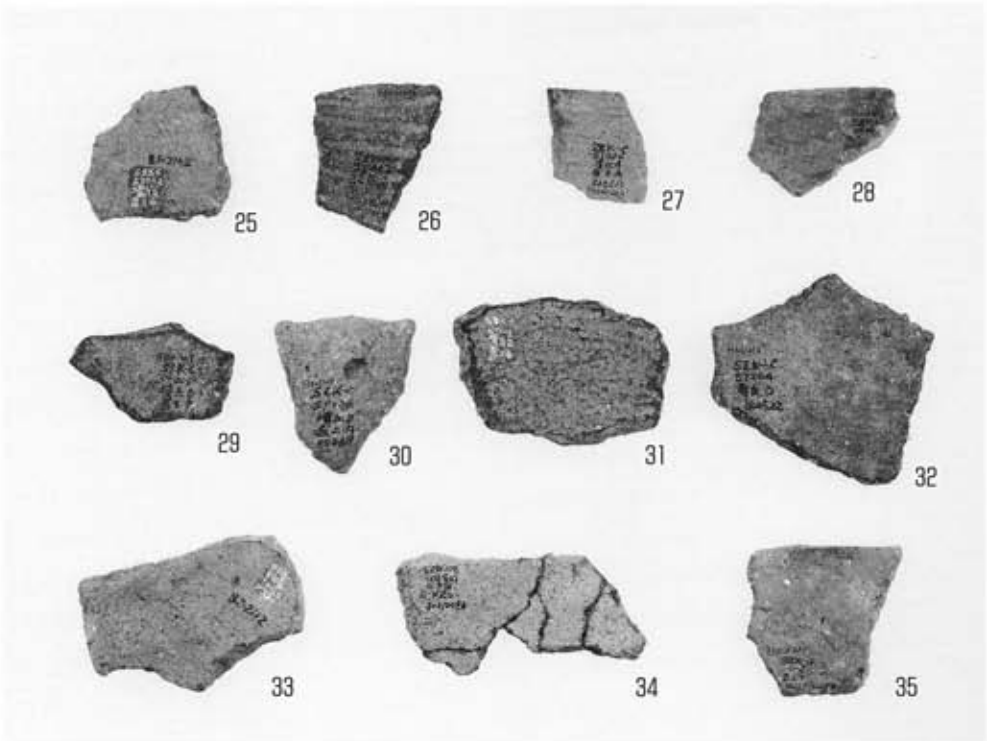


鈴熊遺跡　縄文早期の土器



鈴熊遺跡　縄文早期の土器



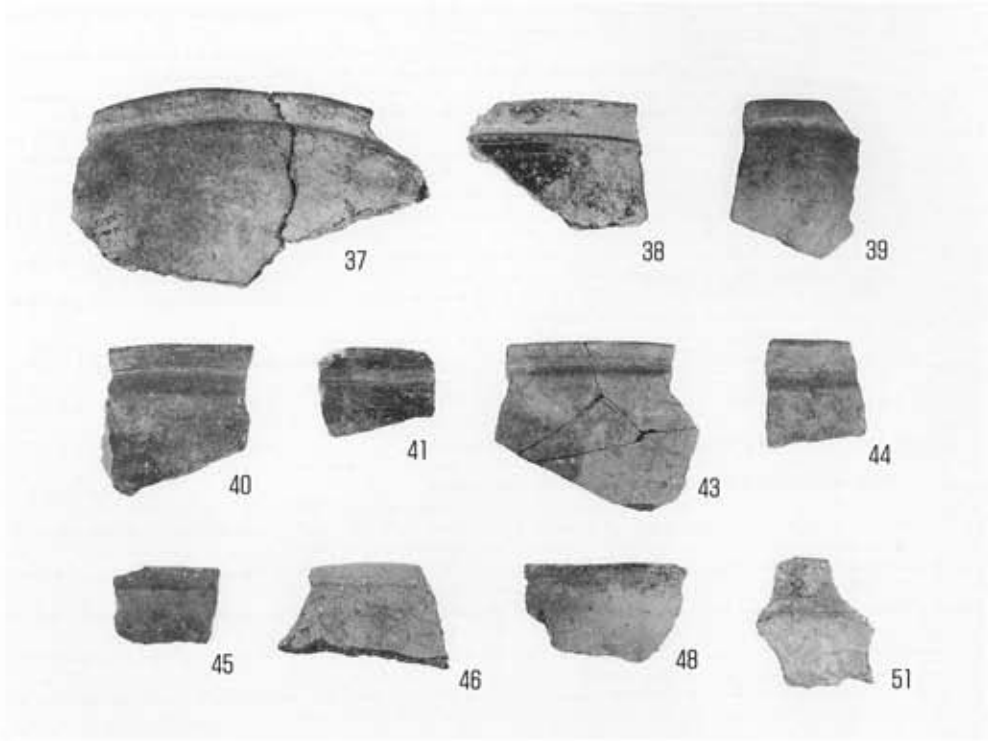


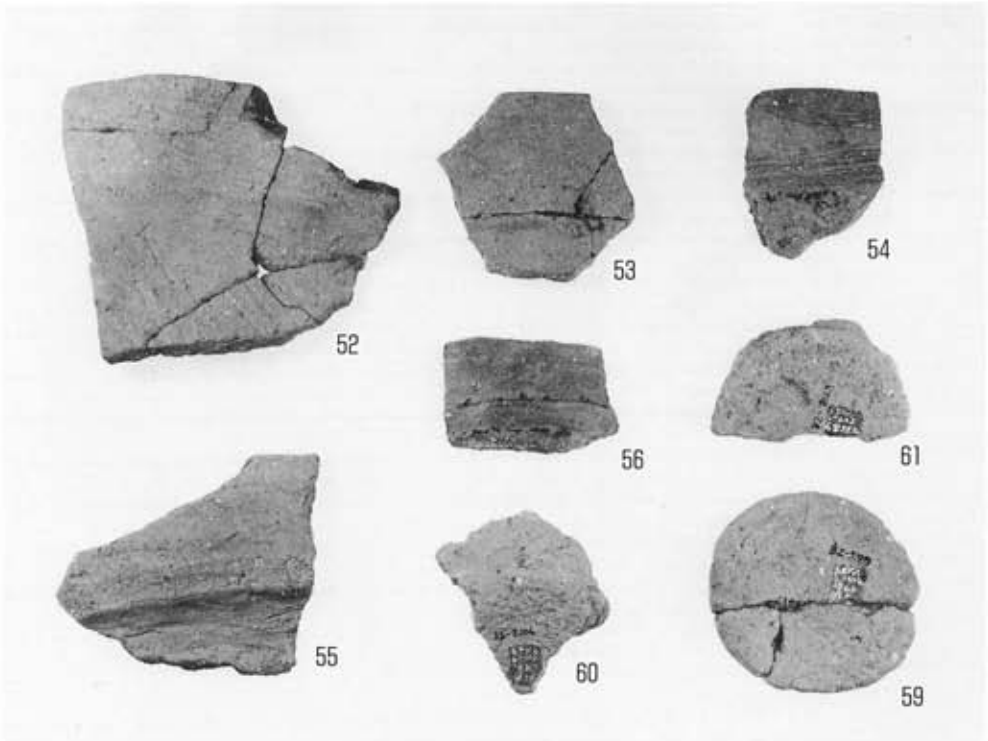
鈴熊遺跡　縄文前期の土器

36

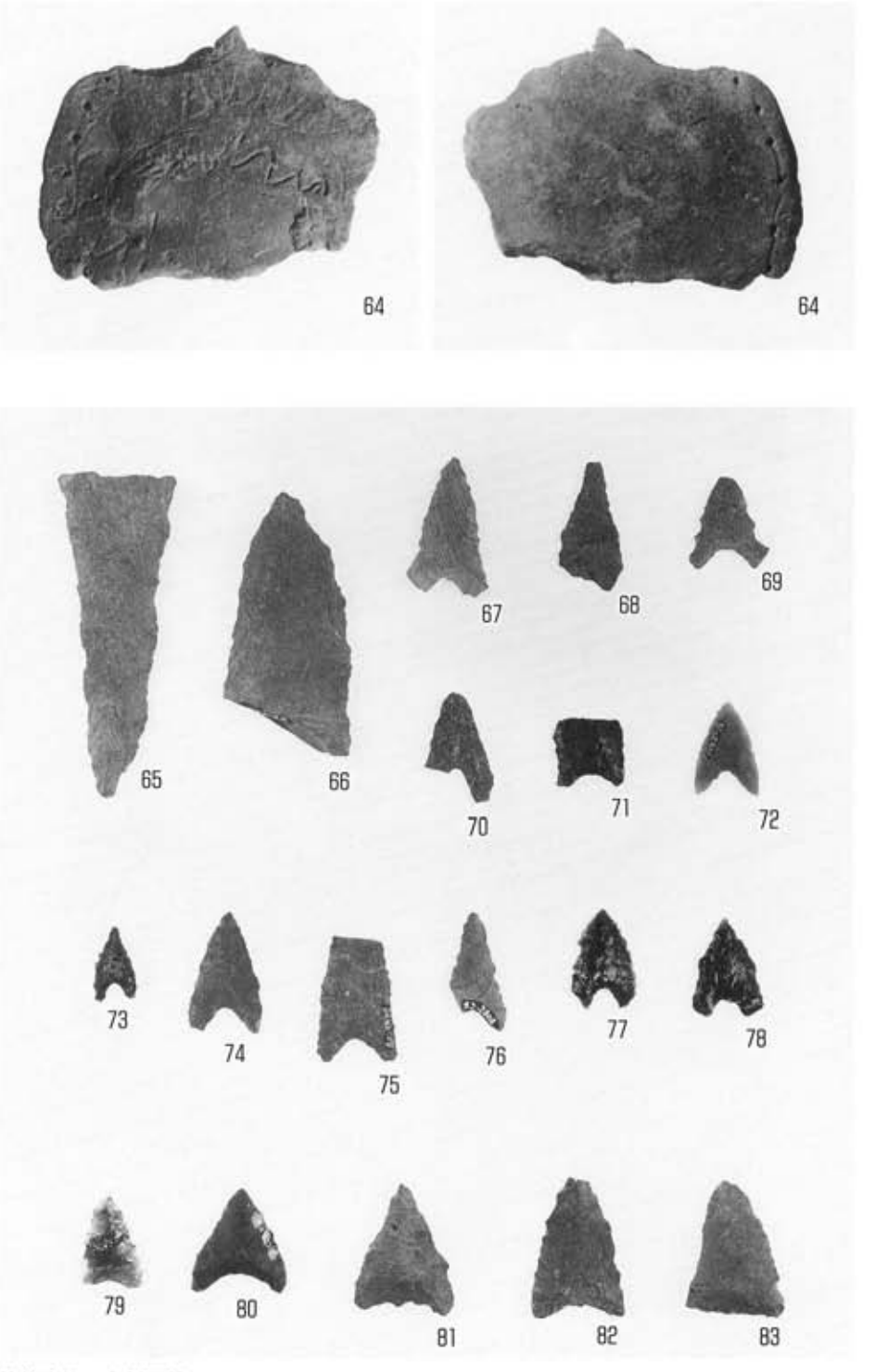
36

鈴熊遺跡　縄文晩期の土器

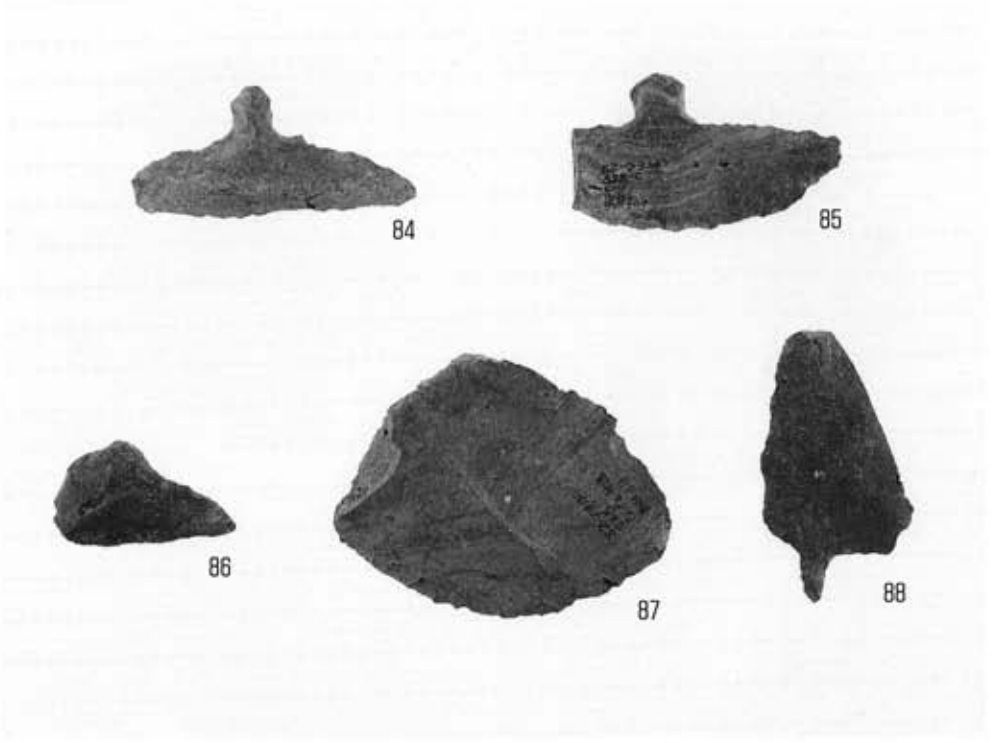


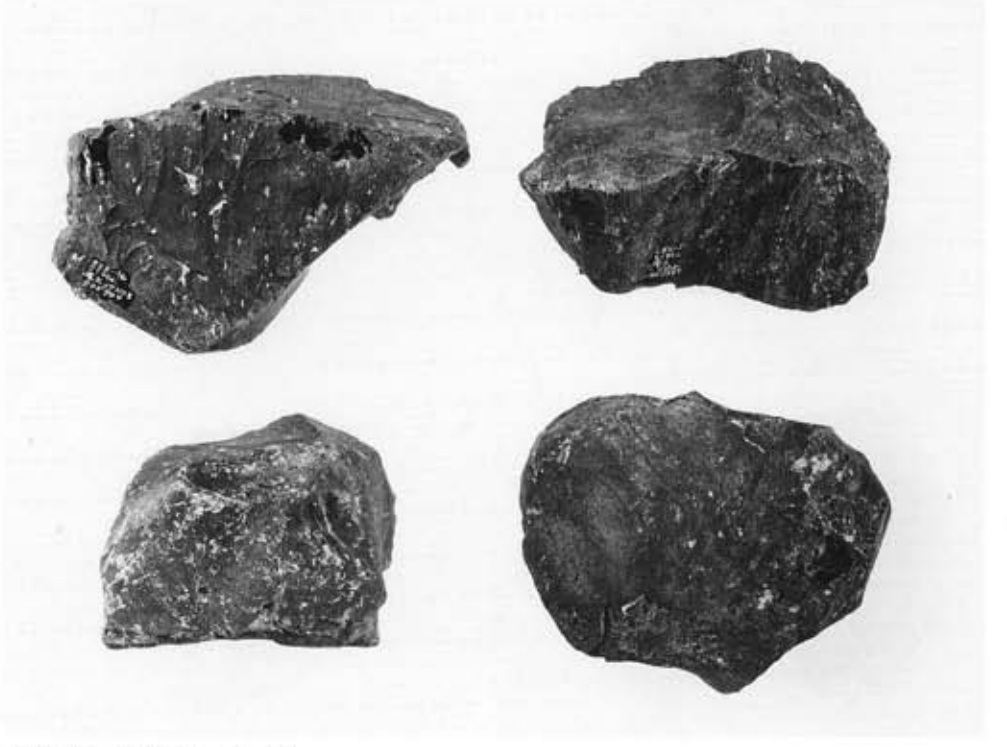


鈴熊遺跡　縄文晩期の土器

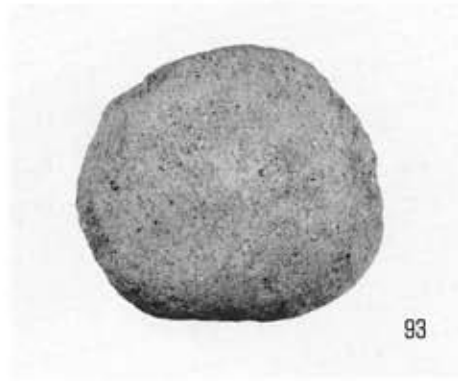


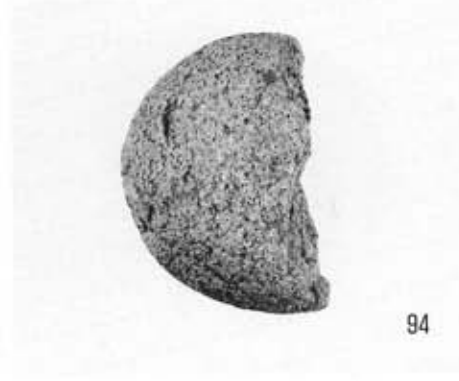
鈴熊遺跡　土製円盤　64
　　打製石器　65～83





鈴熊遺跡　打製石器　84～88
黒曜石原石(右下の原石の幅13.5cm)





鈴熊遺跡　磨製石器　磨製石斧　89－92
磨石　93・94

磨石　93・94

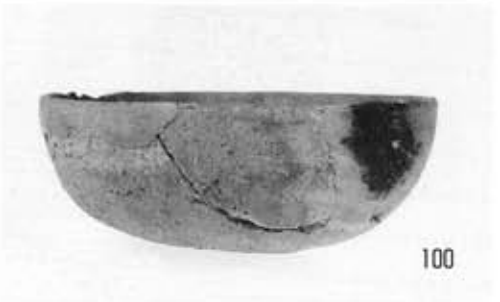
95

97

96

98

99


100

101

102

鈴熊遺跡　ST001古墳出土　須恵器　95～98
土師器　99～102

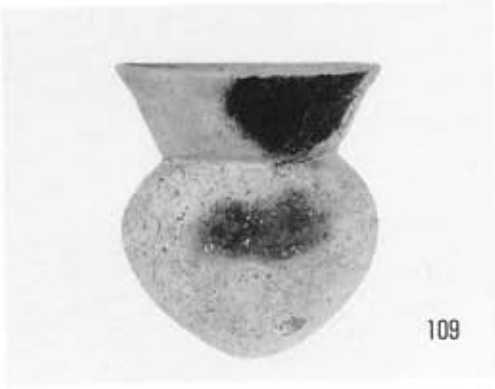
103

104

105

107

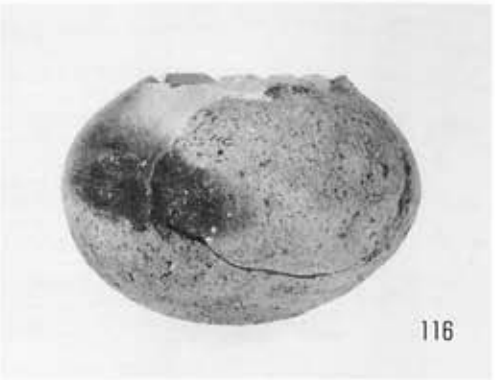
108


109

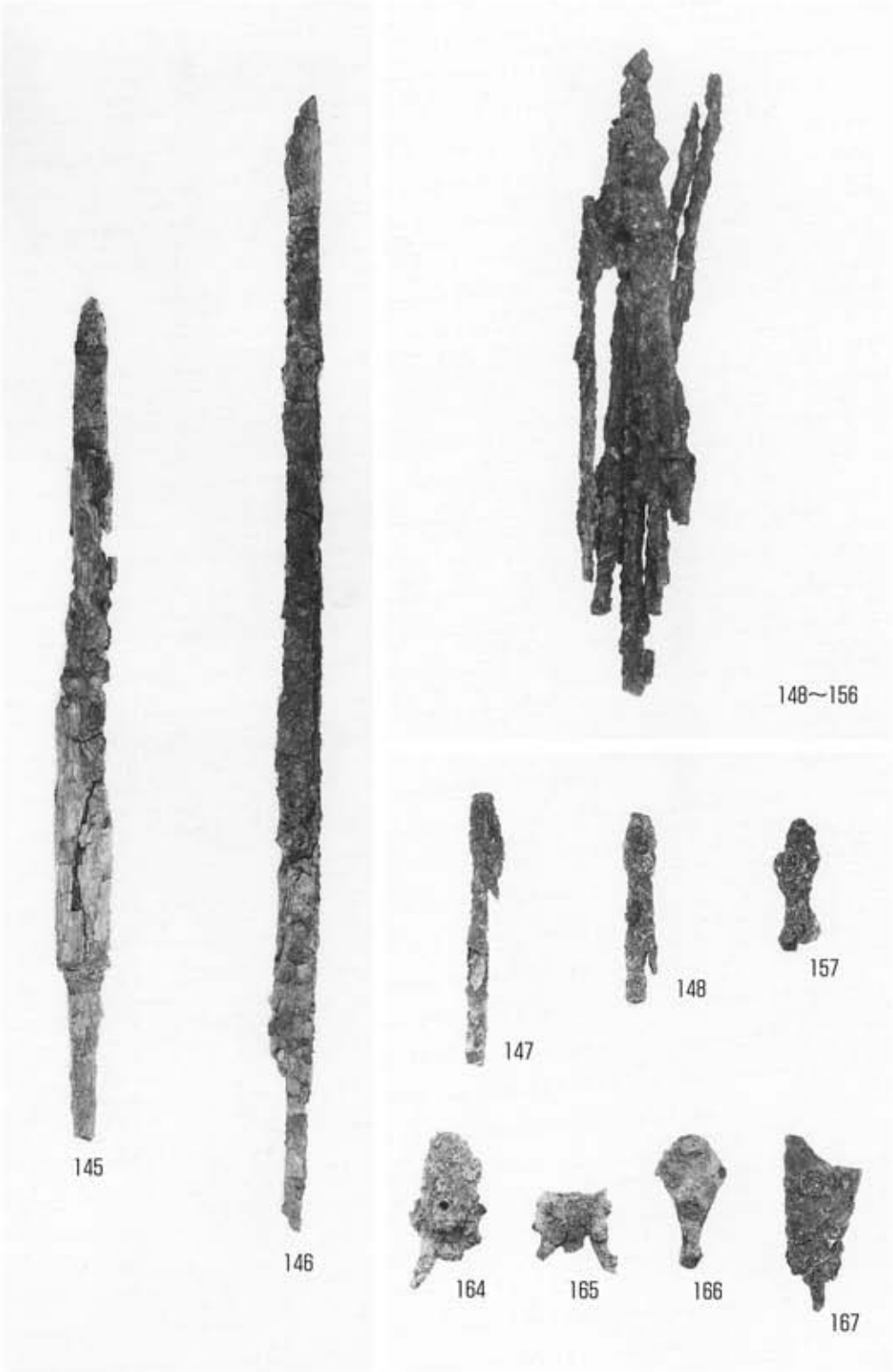
110

111

鈴熊遺跡　ST001古墳出土　土師器



鈴熊遺跡　ST001古墳出土　土師器



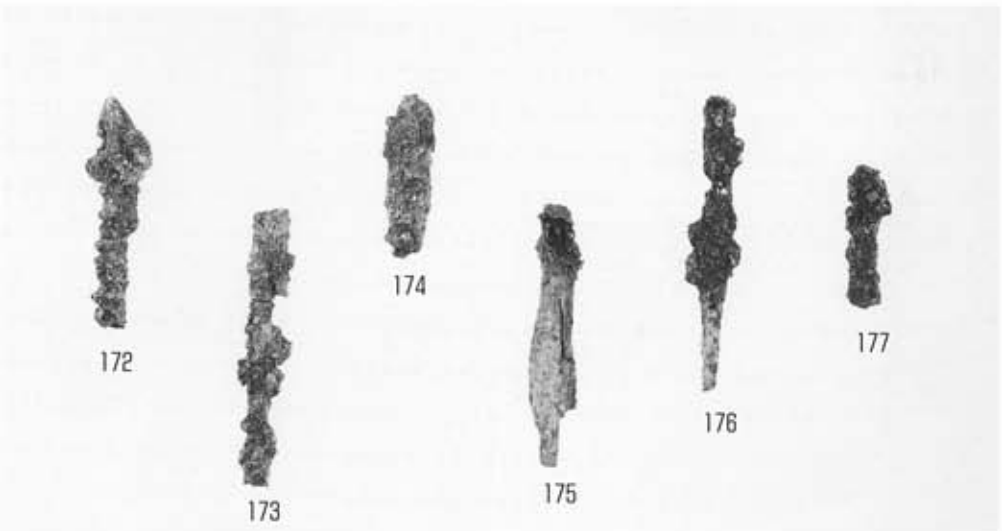
鈴熊遺跡　ST001古墳出土　鉄器

168

169

170

171



鈴熊遺跡　ST002古墳出土　須恵器　168～171
鉄器　172～177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

鈴熊遺跡　ST003古墳出土　須恵器

188

189

195

196

197

198

201

203

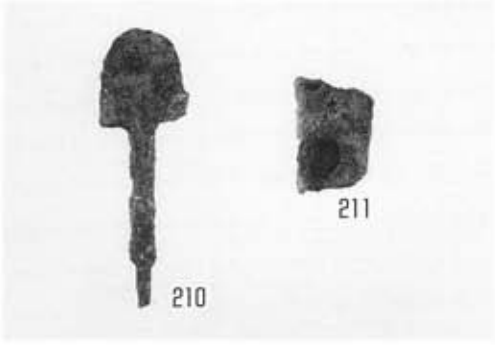
204

205

鈴熊遺跡　ST003古墳出土　須恵器　188・189
土師器　195～198・201
203～205

206

207


210

211

212

214

215

220

鈴熊遺跡　ST003古墳出土　土師器　206・207
　　鉄器　210・211
　　ST004古墳出土　土師器　212
　　ST006古墳出土　須恵器　214・215
　　SC009箱式石棺墓出土　鉄器　220

221

222

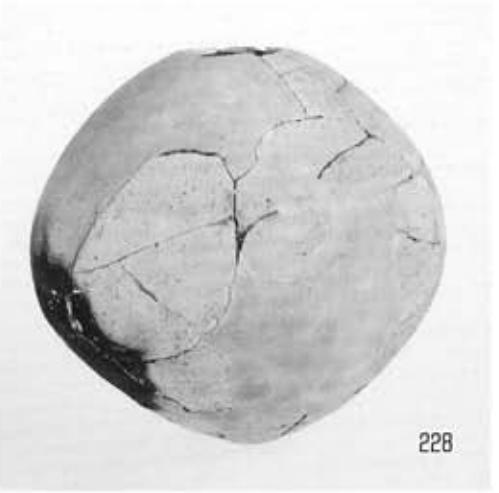
223

224

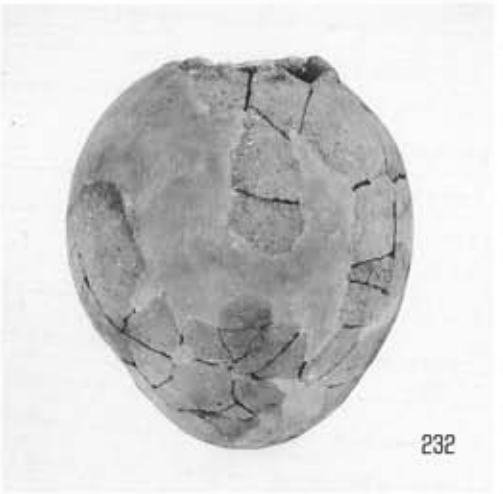
225

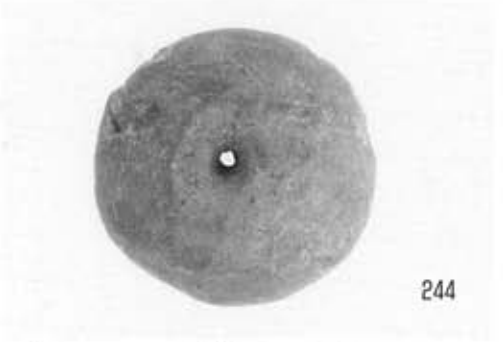
226

鈴熊遺跡　ST011古墳出土　鉄器　221
SK010土壙出土　土師器　222～226



鈴熊遺跡　SK014土壙出土　土師器　227・228・230・231
SK016土壙出土　土師器　236～238





鈴熊遺跡　SK016土壙出土　土師器　232
遺構に伴わない遺物　須恵器　239
土師器　234・240・241
土製品　244

土製品　244

大久保三本松遺跡

大久保三本松遺跡　遺跡から船塚方向(北西)を望む

大久保三本松遺跡　遺跡から東方を望む

大久保三本松遺跡

1．大久保三本松遺跡全景
（南から）

2．大久保三本松遺跡周辺地形
（南から）

大久保三本松遺跡

1．SB001住居跡(南から)

2．SB002住居跡(南から)

3．SB002住居跡北壁側カマド
(南から)

1

2

3

大久保三本松遺跡

1．SB002住居跡東壁側カマド
（西から）

2．SB003住居跡（南から）

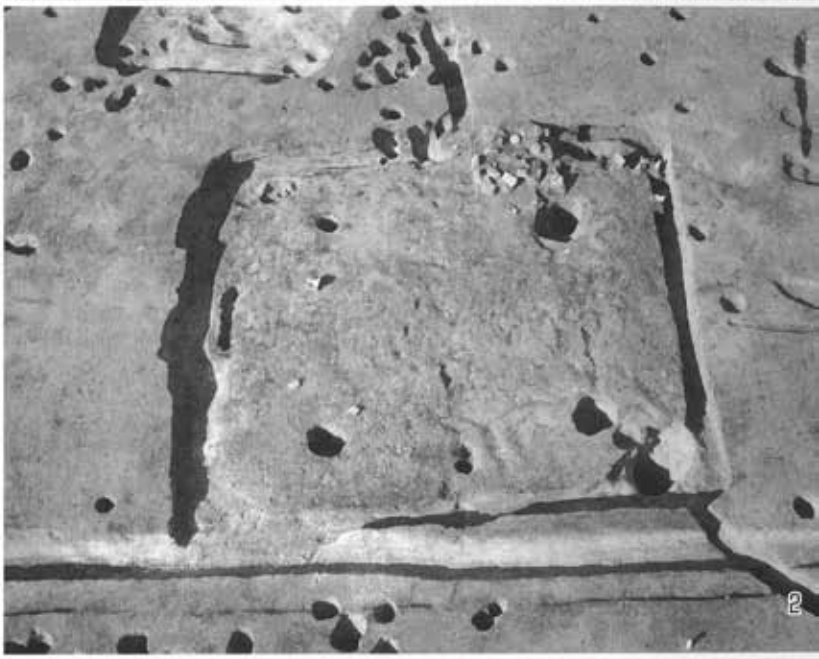
3．SB003住居跡カマド（南から）

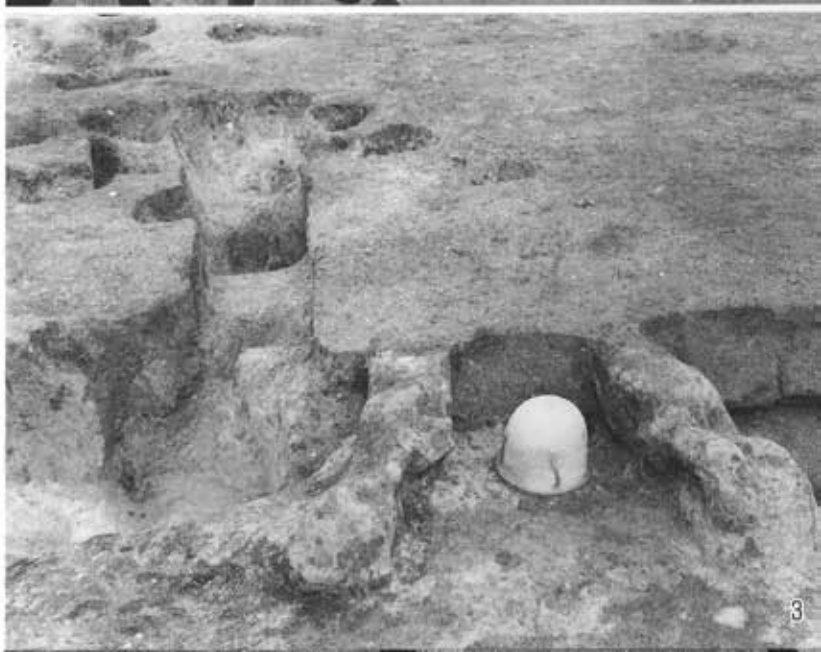
大久保三本松遺跡

1．SB007住居跡(北から)

2．SB008住居跡(南から)

3．SB010住居跡(東から)



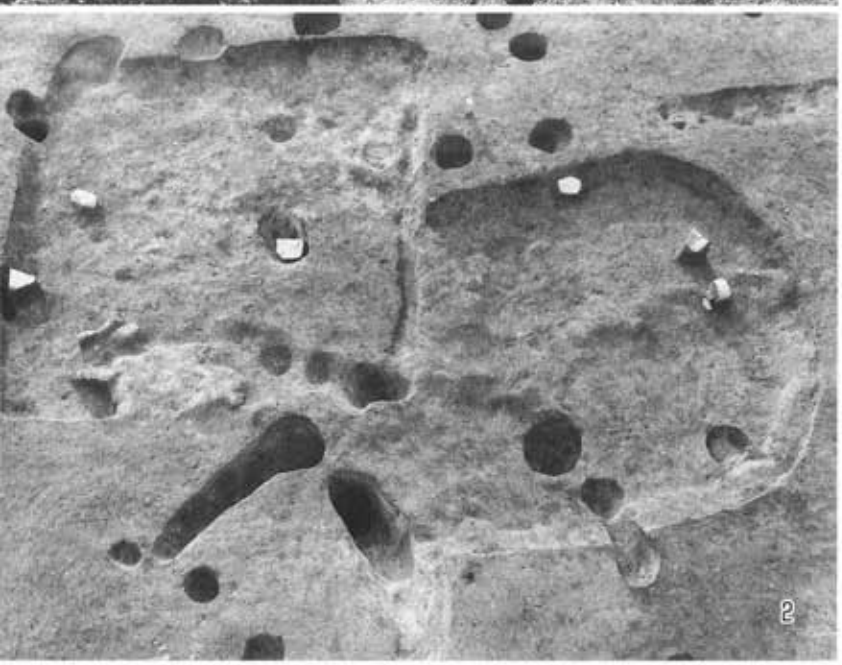


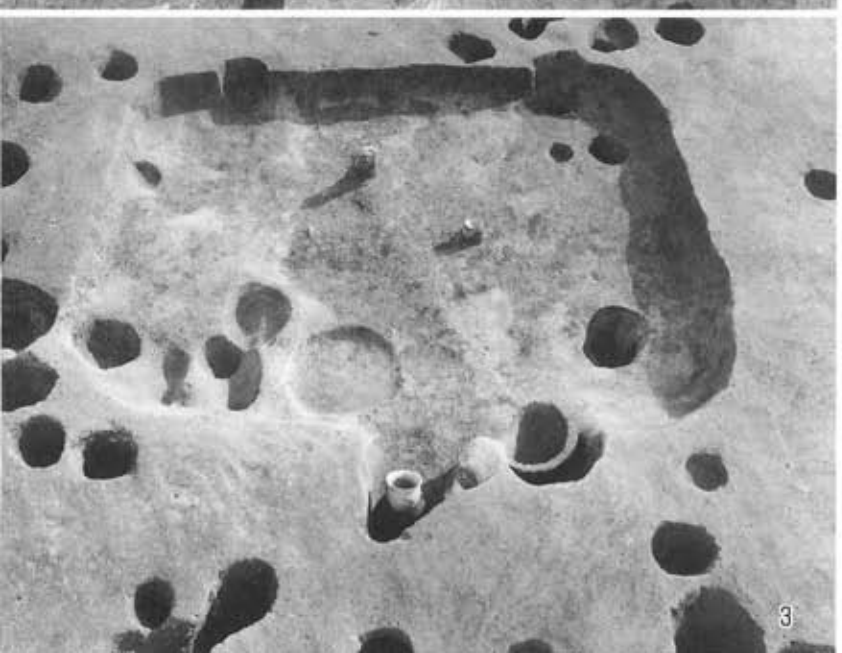
大久保三本松遺跡

1．SB011住居跡(北から)

2．SB013住居跡(南から)

3．SB013住居跡カマド(南から)





大久保三本松遺跡

1．SB013住居跡カマド(西から)

2．SB014・SB015住居跡(東から)

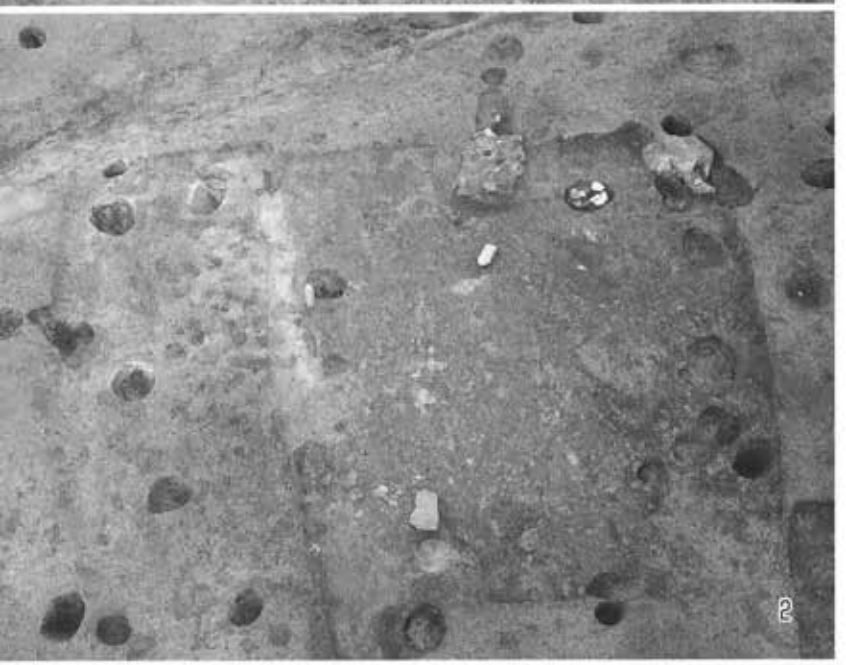
3．SB016住居跡(北から)

大久保三本松遺跡

1．SB016住居跡カマド(南から)

2．SB016住居跡カマド(西から)

3．SB017住居跡 SE039井戸跡
(南から)

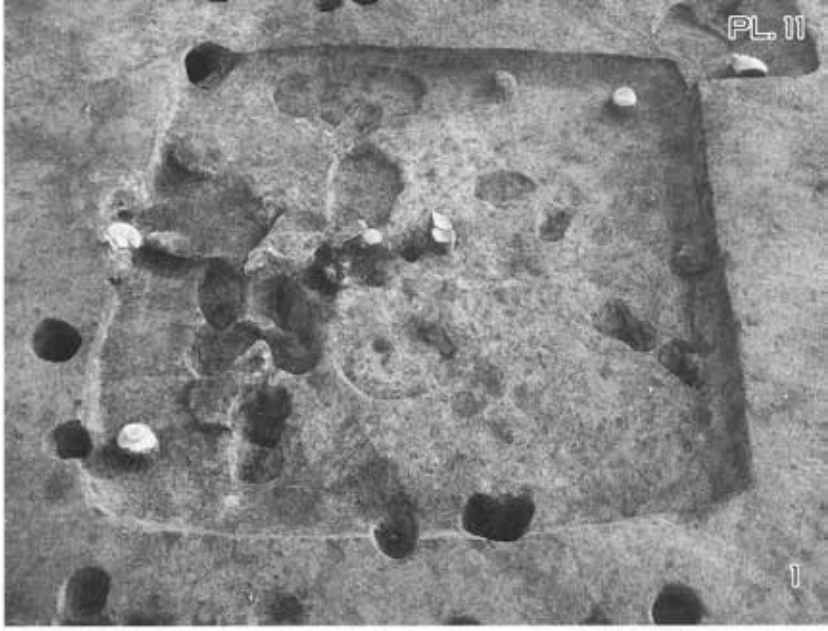


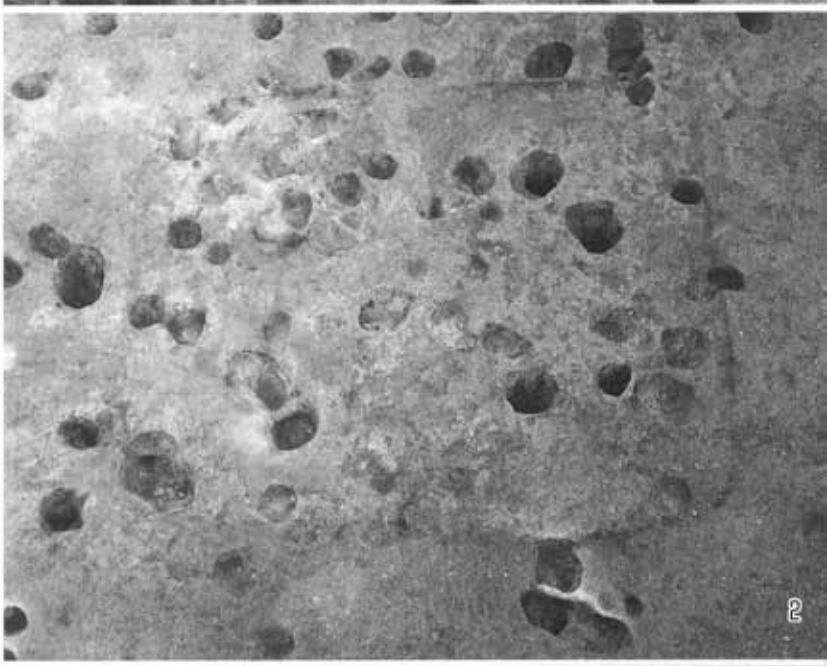
大久保三本松遺跡

1．SB019・SB020・SB021住居跡（南から）

2．SB019住居跡（南から）

3．SB019住居跡カマド（南から）





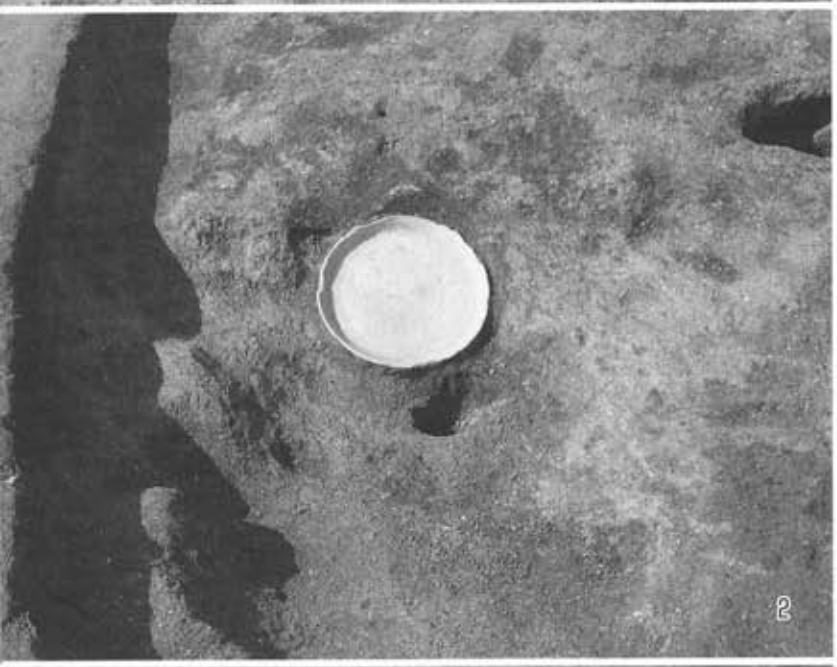
大久保三本松遺跡

1．SB020住居跡(北から)

2．SB024住居跡(南から)

3．SB047住居跡(南から)

4．SB047住居跡(東から)

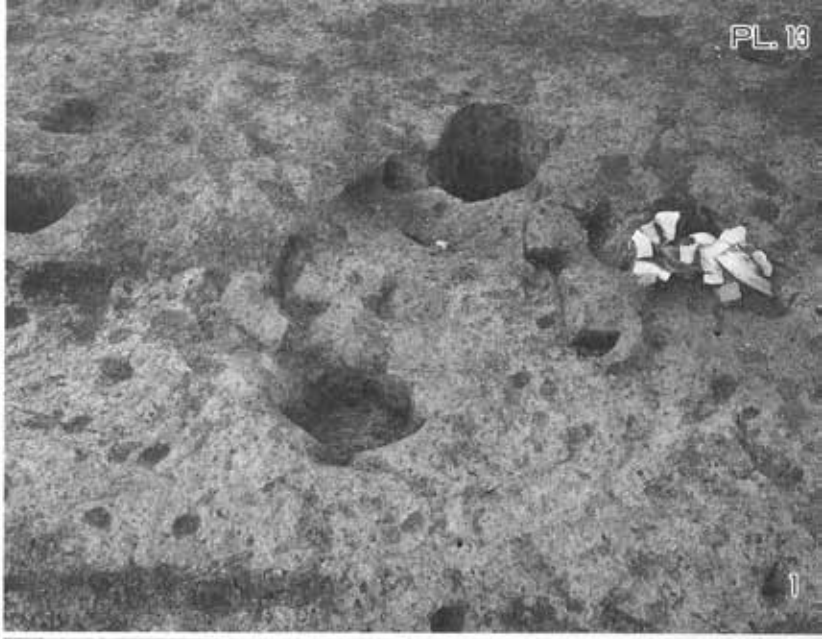


大久保三本松遺跡

1．SB047住居跡カマド(南から)

2．SB047住居跡土器出土状況
(東から)

3．SB048住居跡(南から)

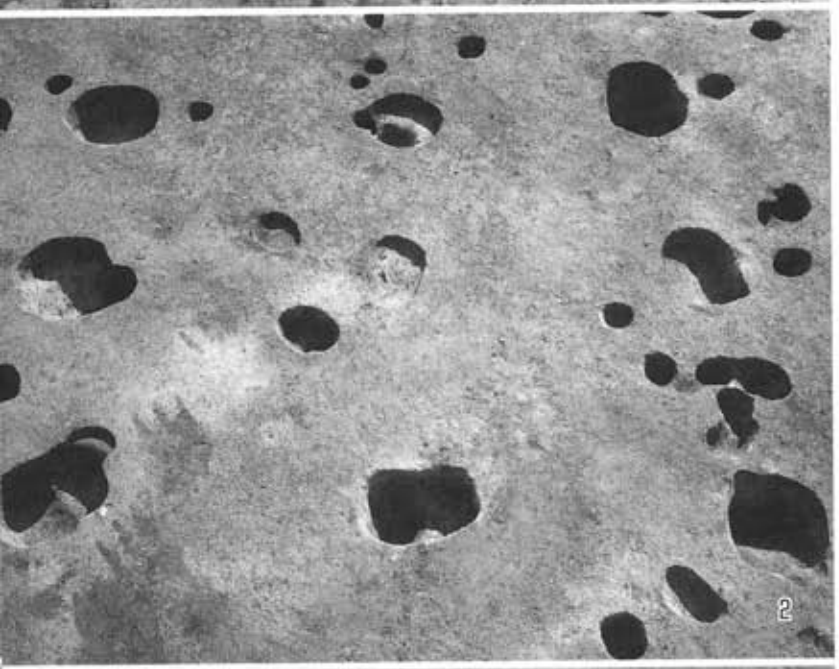


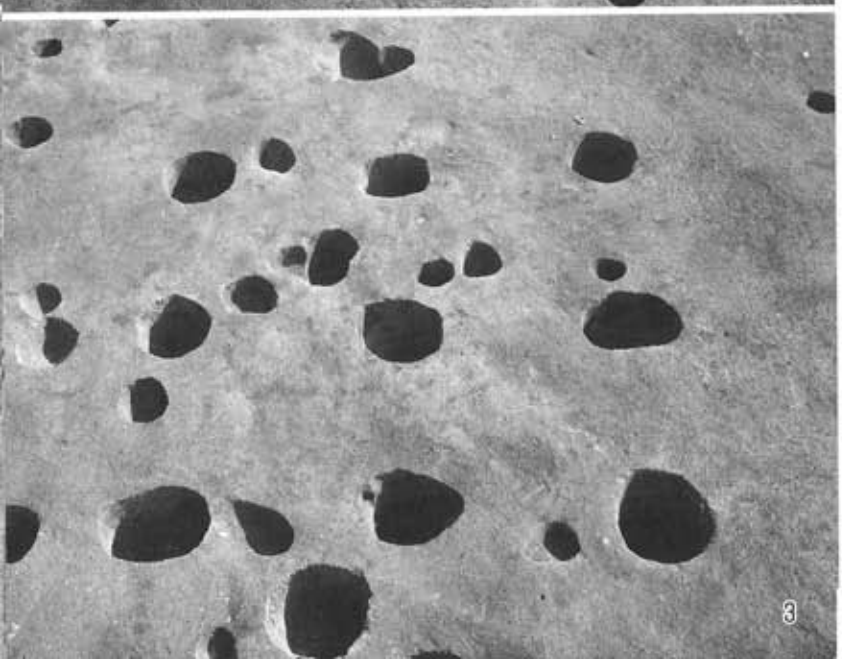
大久保三本松遺跡

1．SB048住居跡カマド(南から)

2．SB048住居跡カマド東側土器出土状況(南から)

3．SB004掘立柱建物跡(北から)



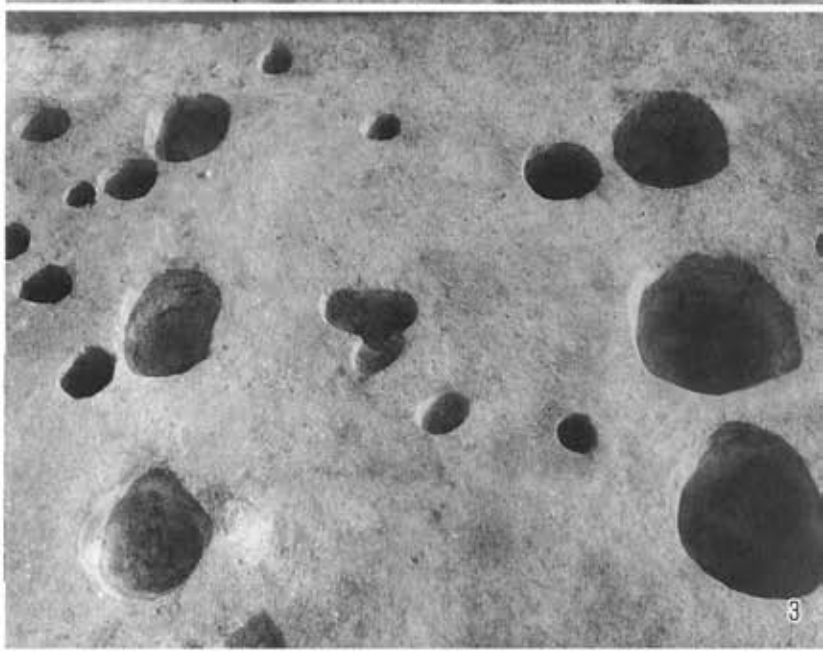


大久保三本松遺跡

1．SB005掘立柱建物跡(東から)

2．SB006掘立柱建物跡(北から)

3．SB018掘立柱建物跡(北から)



大久保三本松遺跡

1．SB022掘立柱建物跡(南から)

2．SB023掘立柱建物跡(北から)

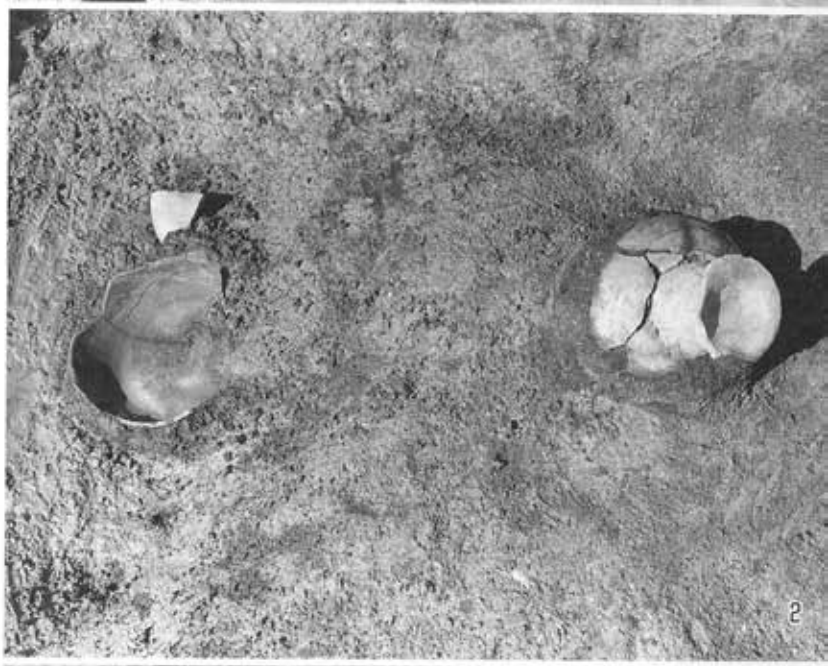
3．SB026掘立柱建物跡(北から)

大久保三本松遺跡

1．SB004掘立柱建物P-9土層断面
（南から）

2．SB022掘立柱建物P-7土層断面
（南から）

3．SB002掘立柱建物P-5土層断面
（南から）



大久保三本松遺跡

1．SK027土壙(南から)

2．SK027土壙土器出土状況
(南から)

3．SK029土壙(南から)

大久保三本松遺跡

1．SK037土壙(北から)

2．SE033・SE034井戸跡(東から)

3．SE035井戸跡(西から)

1

2

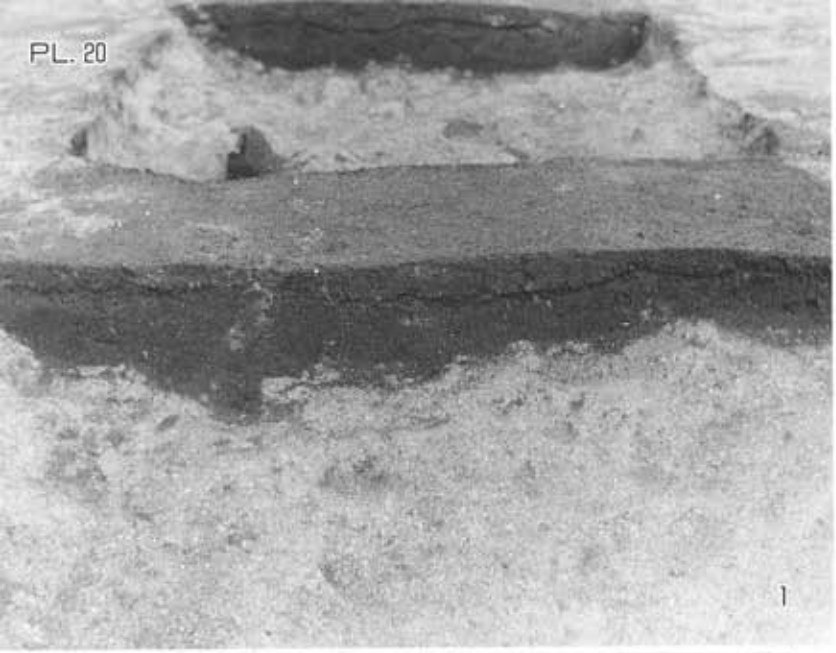
3

大久保三本松遺跡

1．SE038井戸跡(北から)

2．SE039井戸跡土層断面(東から)

3．SE040井戸跡(南から)

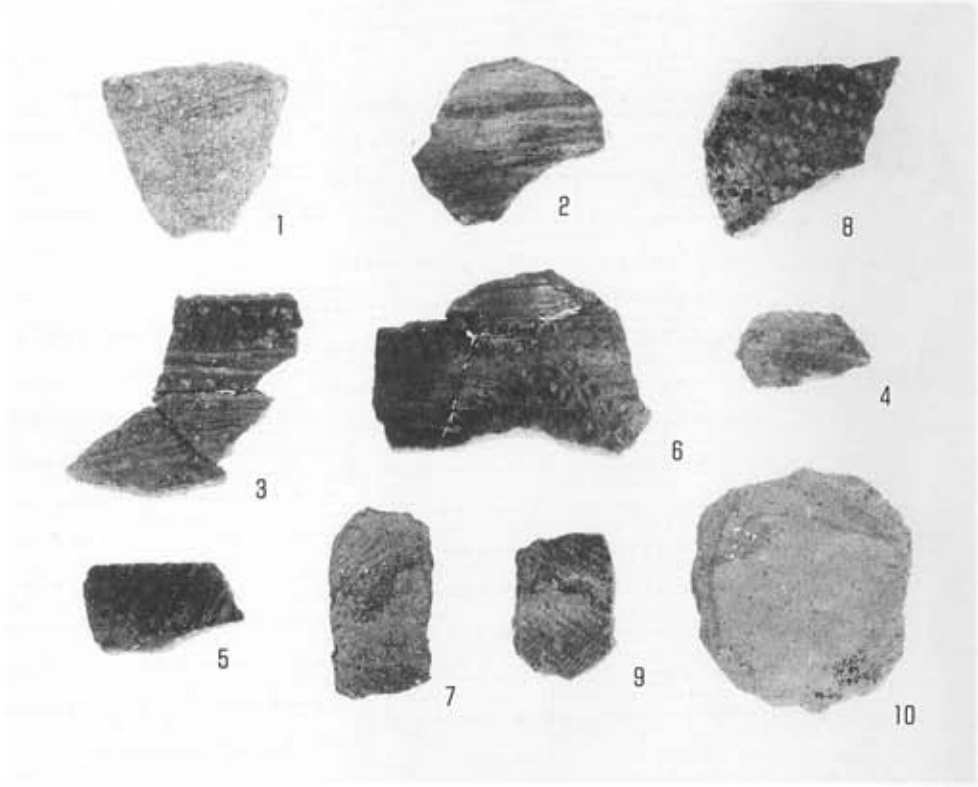


大久保三本松遺跡

1．SD031溝跡土層断面(南から)

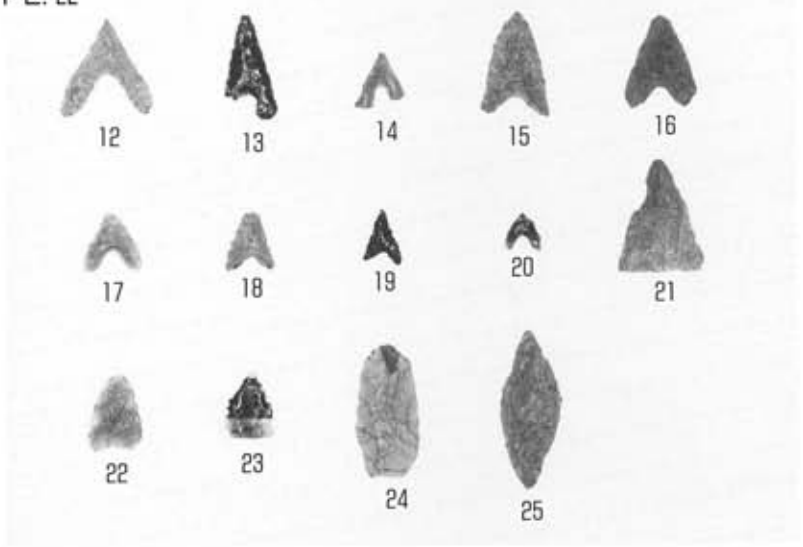
2．SD041溝跡土層断面(南から)

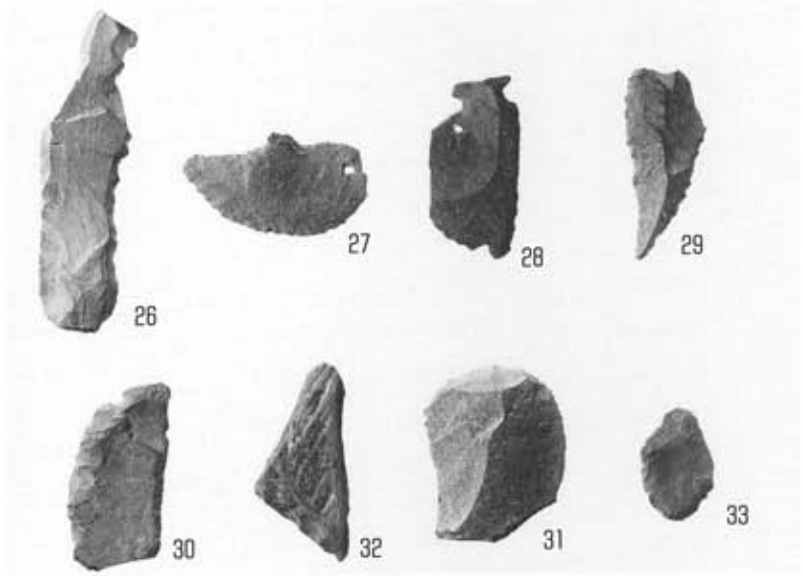
3．SD042溝跡土層断面(南から)

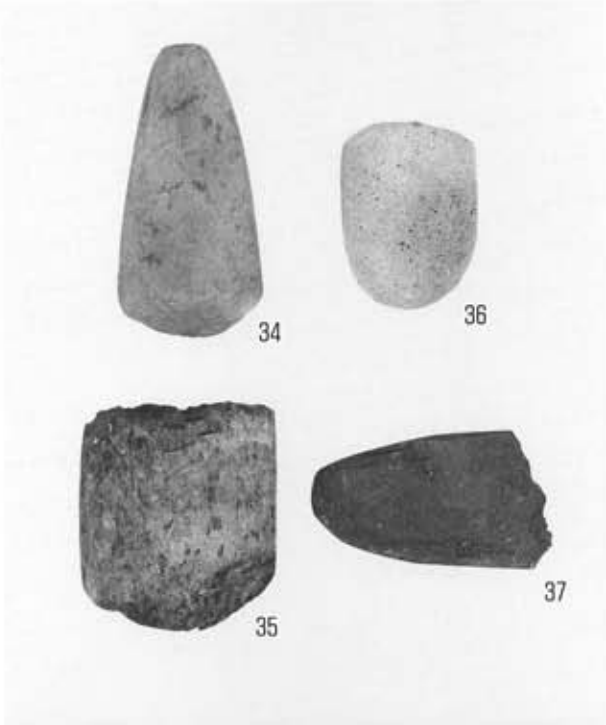


大久保三本松遺跡
縄文土器

PL. 22

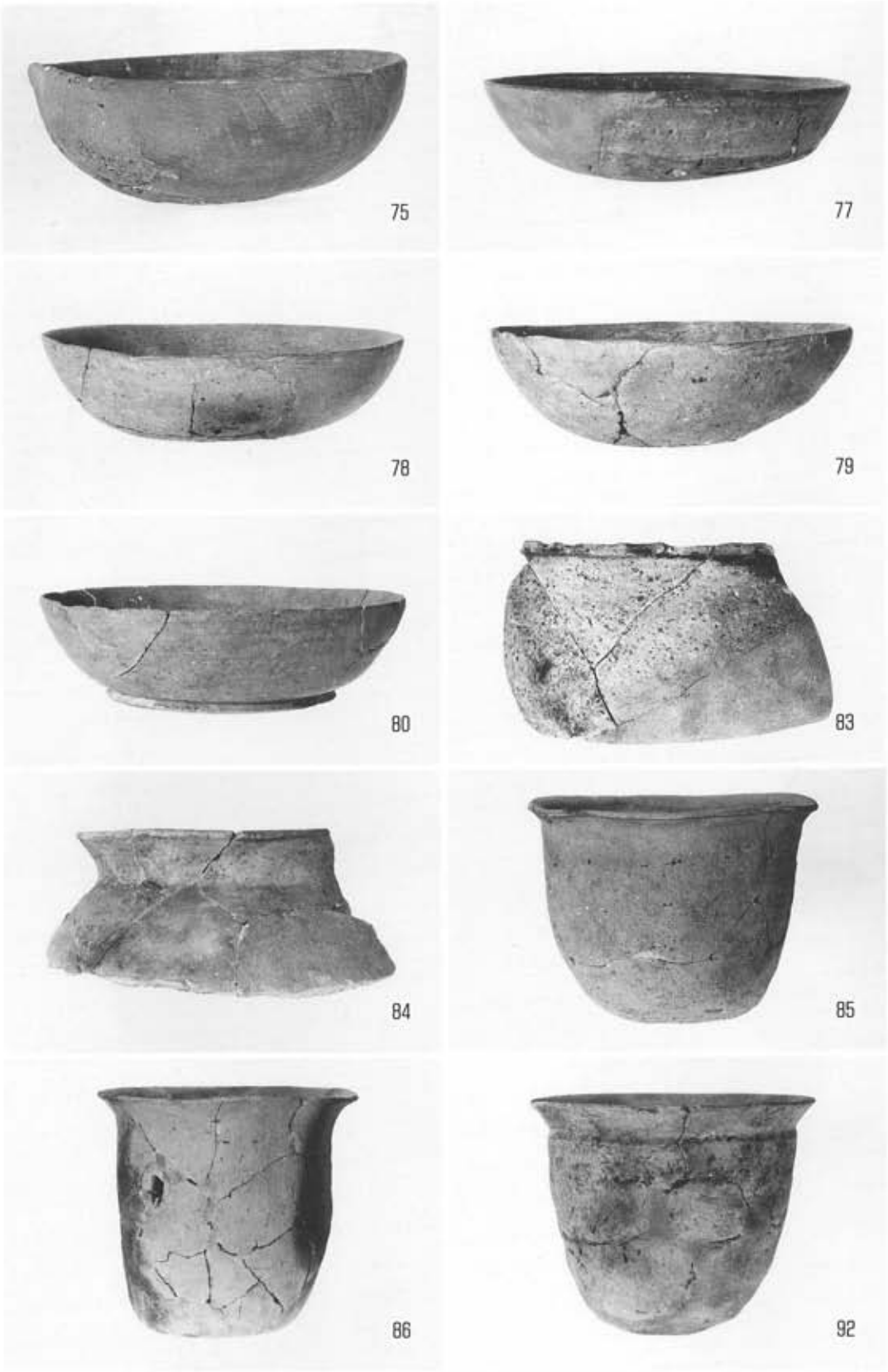






大久保三本松遺跡
石器　石鏃　12～25
　　石匙・削器・掻器ほか　26～33
　　磨製石斧　34・35
　　石包丁　37

大久保三本松遺跡　土師器・須恵器 1　　SB001　38・39
SB002　41～46
SB003　58～73



大久保三本松遺跡　土師器・須恵器 2　　SB013　75～92

100

96

102

103

117

108

120

122

123

125

大久保三本松遺跡
土師器・須恵器 3
SB013　100～103
SB016　117～120
SB017　122～125

135口縁

133

135底

137

139

140

141

143

142

144

148

大久保三本松遺跡
土師器・須恵器 4
SB019　133・135
SB020　137～144
SB021　148

175

176

178

179

180

181

182

183

185

186

193

大久保三本松遺跡
土師器・須恵器 5
SE039　175～193

161

162

169

172

170

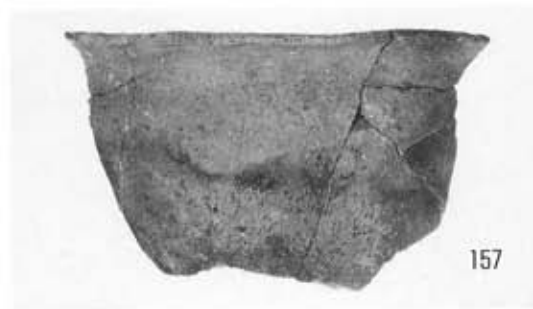
SX027　161・162
SD041　169～170

152

155

154

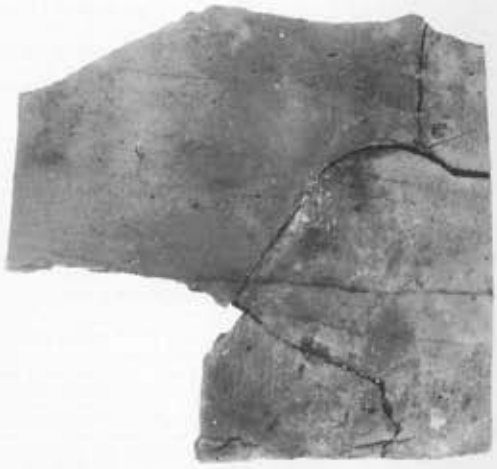
SB047　152～154
SB048　157・158


157

158

大久保三本松遺跡　土師器・須恵器 6

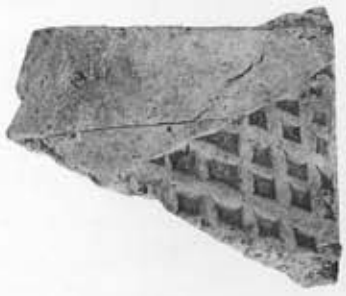
196表



196裏

197表

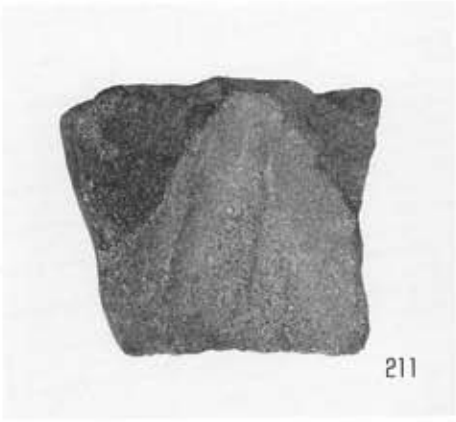
197裏



198

199

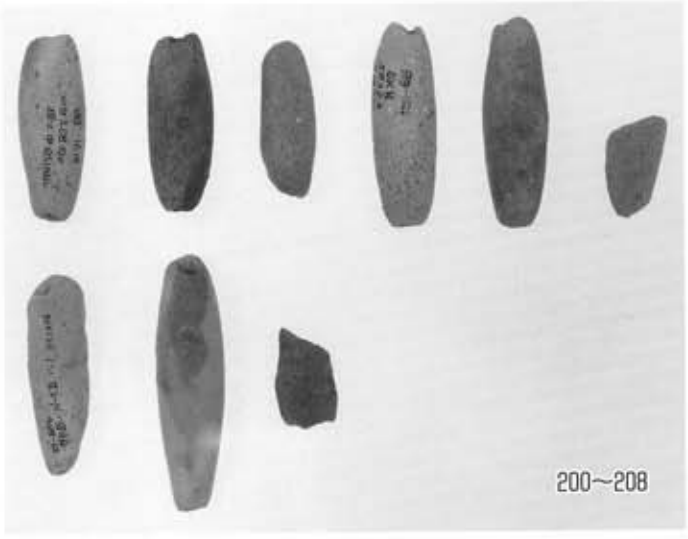
大久保三本松遺跡　瓦　表採　196～199


211

212

213

209


200～208

214

大久保三本松遺跡
その他の出土品
砥石　211～213
土錘　200～208
鉄鎌　214

佐賀県文化財調査報告書　第116集

切　畑　遺　跡

九州横断自動車道関係
埋蔵文化財発掘調査報告書(16)

平成５年３月28日　印刷
平成５年３月31日　発行

編集
発行　佐賀県教育委員会文化財課
佐賀市城内１丁目１－59

印刷　大同印刷株式会社
佐賀市天神１丁目１番32号